岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第635集

野場Ⅰ遺跡発掘調査報告書

2015

岩手県田野畑村
（公財）岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第635集

野場（のば）Ⅰ遺跡発掘調査報告書

災害公営住宅整備事業及び漁業集落防災機能強化事業関連遺跡発掘調査

2015

岩手県田野畑村
（公財）岩手県文化振興事業団

野場（のば）Ⅰ遺跡発掘調査報告書

災害公営住宅整備事業及び漁業集落防災機能強化事業関連遺跡発掘調査

野場Ⅰ遺跡遠景（東上空から）

野場Ⅰ遺跡遠景（西上空から）

東端部終了全景（平成 25 年度）

霜柱に覆われた石囲炉（平成 24 年 11 月中旬）

造成工事と併行しての調査（平成 25 年度）

復興大臣視察（平成 24 年度）

現地説明会 (平成 24 年度）

序

岩手県では旧石器時代をはじめとする一万箇所以上の遺跡の所在が知られ、地中には貴重な埋蔵文化財が豊富にのこされています。地域の風土が生み出したこれらの遺産は、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料であるとともに、岩手県民のみならず国民的な財産といえます。現代に生きる私たちが、これらの埋蔵文化財を将来にわたって大切に保存し、その活用に力を注ぐべきであることは言うまでもありません。

一方､豊かな地域づくりのためには社会資本の整備・充実が必要不可欠であることもまた事実です。故郷の大地と共にある埋蔵文化財の保護と開発行為との調和は、現代社会に暮らしを営む私たちに与えられた大きな課題といえましょう。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導のもとに、開発事業によってやむを得ず破壊・消滅の難を受ける遺跡の緊急発掘調査を実施し、調査成果を記録化して保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、東日本大震災による津波被害からの復興を目指す災害公営住宅整備事業及び漁業集落防災機能強化事業に伴い実施した、田野畑村野場Ⅰ遺跡の発掘調査成果を収録したものです。調査では、復興へ向け新たな生活拠点となる高台集団移転地が、縄文時代前期から晩期に至る数千年の長きにわたり、繰り返し集落を構える場とされてきた歴史が明らかとなりました。

本書が学術研究や教育活動などに広く活用されることにより、埋蔵文化財への理解と関心が一層深められ、ひいては埋蔵文化財保護思想の涵養に資するものとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました田野畑村をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成 27 年 3 月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長　菅　野　洋　樹

例　　言

1　本書は岩手県下閉伊郡田野畑村羅賀に所在する野場Ⅰ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2　収録遺跡の発掘調査は、災害公営住宅整備事業及び漁業集落防災機能強化事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、田野畑村の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施したものである。

3　岩手県遺跡台帳における遺跡の登録番号はKG22-0349、調査略号はNBⅠ-12（平成24年度）・NBⅠ-13（平成25年度）である。

4　平成24年度の野外調査期間は平成24年8月1日～同12月14日、調査面積は18,192㎡である。担当者は、村上拓・小林弘卓（開始～終了）、濱田宏（8月後半～終了）、須原拓（8月後半～9月前半）、田中祐有（8月後半～10月前半）、佐藤あゆみ（11月）、鈴木博之（12月前半）。室内整理は平成24年11月1日～同25年3月31日に行い、村上拓・小林弘卓が担当した。

5　平成25年度の野外調査期間は平成25年4月4日～同7月12日、調査面積は6,351㎡である。担当者は、村上拓・森裕樹（開始～終了）、小林弘卓・高橋麻依子（開始～6月後半）、濱田宏（6月前半～終了）、溜浩二郎・佐々木隆英・中島康佑（6月後半～終了）。室内整理は平成25年11月1日～同26年3月31日に行い、村上拓・森裕樹が担当した。

6　本文の執筆は、Ⅰを田野畑村復興対策課、Ⅱを村上・森、Ⅲ並びにⅣの1を村上、Ⅳの3を村上・佐藤、Ⅴを村上が担当した。Ⅳの2については、各遺構の精査・記録を担当した調査員がそれぞれ執筆し、文末に姓を付した。図版・写真図版の編集・校正は森が行った。

7　本書中の平面座標値には、平面直角座標第Ⅹ系（世界測地系）を用いた。

8　基準点測量業務は株式会社スズマ測量設計に委託した。平成24年8月及び同25年4月に実施し、これを元に設定した区画割付を使用した。

9　石質鑑定業務は花崗岩研究会に委託した。

10　放射性炭素年代測定業務は株式会社加速器分析研究所に委託した。

11　野外調査では下記の機関の協力を得た。（五十音順）

岩手県教育委員会生涯学習文化課、岩手県土地開発公社、田野畑村議会、田野畑村教育委員会、田野畑村復興対策課、復興庁岩手復興局。

12　出土遺物および諸記録類の一切は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

13　本書刊行以前に公表した調査概報および各種報告会等の内容との相違については、整理作業による再検討を経た本書の記載を正とする。

目　　次

序
例　　言
Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 1
1　遺跡の位置と地形的環境 …… 1
2　基　本　層　序 …… 5
3　周　辺　の　遺　跡 …… 5
Ⅲ　野外調査と室内整理 …… 9
1　野　外　調　査 …… 9
2　室　内　整　理 …… 13
Ⅳ　調　査　成　果 …… 15
1　概　　要 …… 15
2　遺　　構 …… 31
(1)　竪　穴　住　居　跡 …… 31
(2)　土　　坑 …… 172
(3)　溝　状　陥　し　穴 …… 215
(4)　焼　土　遺　構 …… 227
3　遺　　物 …… 233
(1)　縄　文　土　器 …… 233
(2)　その他の土器 …… 236
(3)　土　　製　　品 …… 237
(4)　石器・石製品 …… 291
(5)　鉄　関　連　遺　物 …… 294
Ⅴ　総　　括 …… 353
1　遺　　構 …… 353
2　遺　　物 …… 359
3　結　　語 …… 360
附編　自然科学分析 …… 361
報　告　書　抄　録 …… 543

表 目 次

第 1 表　周辺遺跡一覧…… 7
第 2 表　協議・調査の経過……14
第 3 表　遺構一覧……17
第 4 表　溝状陥し穴一覧…… 215
第 5 表　焼土遺構一覧…… 227
第 6 表　土器一覧 …… 308
第 7 表　土製品一覧 …… 331
第 8 表　石器・石製品一覧 …… 331
第 9 表　鉄関連遺物一覧 …… 352
第 10 表　放射性炭素年代測定値一覧 …… 355

図 版 目 次

第 1 図　遺跡位置図 …… 2
第 2 図　周辺地形図 …… 3
第 3 図　地形分類図 …… 4
第 4 図　周辺の遺跡 …… 6
第 5 図　調査区全体図・グリッド図示凡例 ……10
第 6 図　グリッド配置と基準点 ……11
第 7 図　遺構配置全体図 ……16
第 8 図　遺構配置分割図配置図 ……20
第 9 図　遺構配置分割図（1）……21
第 10 図　遺構配置分割図（2）……22
第 11 図　遺構配置分割図（3）……23
第 12 図　遺構配置分割図（4）……24
第 13 図　遺構配置分割図（5）……25
第 14 図　遺構配置分割図（6）……26
第 15 図　遺構配置分割図（7）……27
第 16 図　遺構配置分割図（8）……28
第 17 図　遺構配置分割図（9）……29
第 18 図　遺構配置分割図（10)……30
第 19 図　住居跡 1（1） ……77
第 20 図　住居跡 1（2） ……78
第 21 図　住居跡 2（1） ……79
第 22 図　住居跡 2（2） ……80
第 23 図　住居跡 3（1） ……81
第 24 図　住居跡 3（2）　住居跡 4……82
第 25 図　住居跡 5（1） ……83
第 26 図　住居跡 5（2） ……84
第 27 図　住居跡 6（1） ……85
第 28 図　住居跡 6（2） ……86
第 29 図　住居跡 7 ……87
第 30 図　住居跡 8 ……88
第 31 図　住居跡 9 ……89
第 32 図　住居跡 10 ……90
第 33 図　住居跡 11 ……91
第 34 図　住居跡 12（1）……92
第 35 図　住居跡 12（2）……93
第 36 図　住居跡 13 ……94
第 37 図　住居跡 14 ……95
第 38 図　住居跡 15 ……96
第 39 図　住居跡 16 ……97
第 40 図　住居跡 17 ……98
第 41 図　住居跡 18 ……99
第 42 図　住居跡 19　住居跡 20（1）…… 100
第 43 図　住居跡 20（2） …… 101
第 44 図　住居跡 21（1） …… 102
第 45 図　住居跡 21（2） …… 103
第 46 図　住居跡 22 …… 104
第 47 図　住居跡 23（1） …… 105
第 48 図　住居跡 23（2） …… 106
第 49 図　住居跡 24（1） …… 107
第 50 図　住居跡 24（2） …… 108
第 51 図　住居跡 25・26 …… 109
第 52 図　住居跡 27 …… 110
第 53 図　住居跡 28 …… 111
第 54 図　住居跡 29 …… 112
第 55 図　住居跡 30・31 …… 113
第 56 図　住居跡 32（1） …… 114
第 57 図　住居跡 32（2） …… 115
第 58 図　住居跡 33 …… 116
第 59 図　住居跡 34（1） …… 117
第 60 図　住居跡 34（2） …… 118
第 61 図　住居跡 35～42 …… 119
第 62 図　住居跡 35～40　住居跡 48　土坑 57 …120
第 63 図　住居跡 35 …… 121
第 64 図　住居跡 36・37 …… 122
第 65 図　住居跡 38・39 …… 123
第 66 図　住居跡 40・41 …… 124

第 67 図　住居跡 42 …… 125
第 68 図　住居跡 43～45 …… 126
第 69 図　住居跡 43 …… 127
第 70 図　住居跡 44・45 …… 128
第 71 図　住居跡 46～53 …… 129
第 72 図　住居跡 46～51・53　土坑 48・53・63 …… 130
第 73 図　住居跡 46 …… 131
第 74 図　住居跡 47～49 …… 132
第 75 図　住居跡 50～53 …… 133
第 76 図　住居跡 54～66 …… 134
第 77 図　住居跡 54・58～60・63・66　土坑 58 …… 135
第 78 図　住居跡 54・58・59・64・72 …… 136
第 79 図　住居跡 56・61・62・64・65　土坑 68　溝状陥し穴 28 …… 137
第 80 図　住居跡 54～57 …… 138
第 81 図　住居跡 58・59 …… 139
第 82 図　住居跡 60～62 …… 140
第 83 図　住居跡 63・64 …… 141
第 84 図　住居跡 65・66 …… 142
第 85 図　住居跡 67～70（1） …… 143
第 86 図　住居跡 67～70（2） …… 144
第 87 図　住居跡 67・68 …… 145
第 88 図　住居跡 69・70 …… 146
第 89 図　住居跡 71・72 …… 147
第 90 図　住居跡 71　住居跡 72（1） …… 148
第 91 図　住居跡 72（2） …… 149
第 92 図　住居跡 73～79　溝状陥し穴 25 …… 150
第 93 図　住居跡 73～75・77・78　溝状陥し穴 25 …… 151
第 94 図　住居跡 76～79 …… 152
第 95 図　住居跡 73・74 …… 153
第 96 図　住居跡 75 …… 154
第 97 図　住居跡 76・77 …… 155
第 98 図　住居跡 78・79 …… 156
第 99 図　住居跡 80～87 …… 157
第 100 図　住居跡 63・80～84 …… 158
第 101 図　住居跡 80・81 …… 159
第 102 図　住居跡 82・83 …… 160
第 103 図　住居跡 84～87 …… 161
第 104 図　住居跡 88・89 …… 162
第 105 図　住居跡 88 …… 163
第 106 図　住居跡 89 …… 164
第 107 図　住居跡 90～94 …… 165
第 108 図　住居跡 90 …… 166
第 109 図　住居跡 91（1） …… 167
第 110 図　住居跡 91（2） …… 168
第 111 図　住居跡 92 …… 169
第 112 図　住居跡 93 …… 170
第 113 図　住居跡 94 …… 171
第 114 図　土坑 1～4 …… 195
第 115 図　土坑 5～7 …… 196
第 116 図　土坑 8～10 …… 197
第 117 図　土坑 11～14 …… 198
第 118 図　土坑 15～17 …… 199
第 119 図　土坑 18～20 …… 200
第 120 図　土坑 21～24 …… 201
第 121 図　土坑 25～28 …… 202
第 122 図　土坑 29～32 …… 203
第 123 図　土坑 33～36 …… 204
第 124 図　土坑 37～40 …… 205
第 125 図　土坑 41～43・45 …… 206
第 126 図　土坑 44・46～48 …… 207
第 127 図　土坑 49～52 …… 208
第 128 図　土坑 53～56 …… 209
第 129 図　土坑 57～60 …… 210
第 130 図　土坑 61～63 …… 211
第 131 図　土坑 64～66 …… 212
第 132 図　土坑 67～69 …… 213
第 133 図　土坑 70～74 …… 214
第 134 図　溝状陥し穴 1～3・6 …… 216
第 135 図　溝状陥し穴 4・5・7 …… 217
第 136 図　溝状陥し穴 8～10 …… 218
第 137 図　溝状陥し穴 11～13 …… 219
第 138 図　溝状陥し穴 14・15 …… 220
第 139 図　溝状陥し穴 16・17 …… 221
第 140 図　溝状陥し穴 18・19 …… 222
第 141 図　溝状陥し穴 20・21 …… 223
第 142 図　溝状陥し穴 22・23 …… 224
第 143 図　溝状陥し穴 24～26 …… 225
第 144 図　溝状陥し穴 27～29 …… 226
第 145 図　焼土遺構 1～4 …… 228
第 146 図　焼土遺構 5～8 …… 229
第 147 図　焼土遺構 9～12 …… 230
第 148 図　焼土遺構 13～15 …… 231
第 149 図　焼土遺構 16～19 …… 232
第 150 図　遺構内出土土器（1） …… 238
第 151 図　遺構内出土土器（2） …… 239
第 152 図　遺構内出土土器（3） …… 240

第 153 図　遺構内出土土器（４）…… 241
第 154 図　遺構内出土土器（５）…… 242
第 155 図　遺構内出土土器（６）…… 243
第 156 図　遺構内出土土器（７）…… 244
第 157 図　遺構内出土土器（８）…… 245
第 158 図　遺構内出土土器（９）…… 246
第 159 図　遺構内出土土器（10）…… 247
第 160 図　遺構内出土土器（11）…… 248
第 161 図　遺構内出土土器（12）…… 249
第 162 図　遺構内出土土器（13）…… 250
第 163 図　遺構内出土土器（14）…… 251
第 164 図　遺構内出土土器（15）…… 252
第 165 図　遺構内出土土器（16）…… 253
第 166 図　遺構内出土土器（17）…… 254
第 167 図　遺構内出土土器（18）…… 255
第 168 図　遺構内出土土器（19）…… 256
第 169 図　遺構内出土土器（20）…… 257
第 170 図　遺構内出土土器（21）…… 258
第 171 図　遺構内出土土器（22）…… 259
第 172 図　遺構内出土土器（23）…… 260
第 173 図　遺構内出土土器（24）…… 261
第 174 図　遺構内出土土器（25）…… 262
第 175 図　遺構内出土土器（26）…… 263
第 176 図　遺構内出土土器（27）…… 264
第 177 図　遺構内出土土器（28）…… 265
第 178 図　遺構内出土土器（29）…… 266
第 179 図　遺構内出土土器（30）…… 267
第 180 図　遺構内出土土器（31）…… 268
第 181 図　遺構内出土土器（32）…… 269
第 182 図　遺構内出土土器（33）…… 270
第 183 図　遺構内出土土器（34）…… 271
第 184 図　遺構内出土土器（35）…… 272
第 185 図　遺構内出土土器（36）…… 273
第 186 図　遺構内出土土器（37）…… 274
第 187 図　遺構内出土土器（38）…… 275
第 188 図　遺構内出土土器（39）…… 276
第 189 図　遺構内出土土器（40）…… 277
第 190 図　遺構内出土土器（41）…… 278
第 191 図　遺構内出土土器（42）…… 279
第 192 図　遺構内出土土器（43）…… 280
第 193 図　遺構内出土土器（44）…… 281
第 194 図　遺構外出土土器（１）…… 282
第 195 図　遺構外出土土器（２）…… 283
第 196 図　遺構外出土土器（３）…… 284
第 197 図　遺構外出土土器（４）…… 285
第 198 図　遺構外出土土器（５）…… 286
第 199 図　遺構外出土土器（６）…… 287
第 200 図　遺構外出土土器（７）…… 288
第 201 図　遺構外出土土器（８）…… 289
第 202 図　遺構外出土土器（９）・土製品 …… 290
第 203 図　石器・石製品（１）…… 295
第 204 図　石器・石製品（２）…… 296
第 205 図　石器・石製品（３）…… 297
第 206 図　石器・石製品（４）…… 298
第 207 図　石器・石製品（５）…… 299
第 208 図　石器・石製品（６）…… 300
第 209 図　石器・石製品（７）…… 301
第 210 図　石器・石製品（８）…… 302
第 211 図　石器・石製品（９）…… 303
第 212 図　石器・石製品（10）…… 304
第 213 図　石器・石製品（11）…… 305
第 214 図　石器・石製品（12）…… 306
第 215 図　鉄関連遺物…… 307
第 216 図　周辺地形と遺構立地…… 354
第 217 図　縄文時代前期遺構　先後関係図…… 356
第 218 図　縄文時代前期住居の分布状況…… 357

写真図版目次

写真図版 1　空から見た遺跡周辺 …… 373
写真図版 2　調査前状況・調査の様子 …… 374
写真図版 3　住居跡 1 …… 375
写真図版 4　住居跡 2 …… 376
写真図版 5　住居跡 3 …… 377
写真図版 6　住居跡 4 …… 378
写真図版 7　住居跡 5 …… 379
写真図版 8　住居跡 6 …… 380
写真図版 9　住居跡 7 …… 381
写真図版 10　住居跡 8 …… 382
写真図版 11　住居跡 9 …… 383
写真図版 12　住居跡 10 …… 384
写真図版 13　住居跡 11 …… 385
写真図版 14　住居跡 12 …… 386
写真図版 15　住居跡 13 …… 387
写真図版 16　住居跡 14 …… 388
写真図版 17　住居跡 15 …… 389
写真図版 18　住居跡 16 …… 390
写真図版 19　住居跡 17 …… 391
写真図版 20　住居跡 18 …… 392
写真図版 21　住居跡 19・20 …… 393
写真図版 22　住居跡 21 …… 394
写真図版 23　住居跡 22 …… 395
写真図版 24　住居跡 23 …… 396
写真図版 25　住居跡 24 …… 397
写真図版 26　住居跡 25 …… 398
写真図版 27　住居跡 26 …… 399
写真図版 28　住居跡 27 …… 400
写真図版 29　住居跡 28 …… 401
写真図版 30　住居跡 29 …… 402
写真図版 31　住居跡 30 …… 403
写真図版 32　住居跡 31 …… 404
写真図版 33　住居跡 32（1） …… 405
写真図版 34　住居跡 32（2） …… 406
写真図版 35　住居跡 33 …… 407
写真図版 36　住居跡 34（1） …… 408
写真図版 37　住居跡 34（2） …… 409
写真図版 38　住居跡 35 …… 410
写真図版 39　住居跡 36・37・40・41 …… 411
写真図版 40　住居跡 38・39 …… 412
写真図版 41　住居跡 42 …… 413
写真図版 42　住居跡 43 …… 414
写真図版 43　住居跡 44 …… 415
写真図版 44　住居跡 45 …… 416
写真図版 45　住居跡 46 …… 417
写真図版 46　住居跡 46・47 …… 418
写真図版 47　住居跡 48・52 …… 419
写真図版 48　住居跡 49 …… 420
写真図版 49　住居跡 50・51・56 …… 421
写真図版 50　住居跡 53 …… 422
写真図版 51　住居跡 54・55・58・59・60（1） 423
写真図版 52　住居跡 54・55・58・59・60（2） 424
写真図版 53　住居跡 61・62 …… 425
写真図版 54　住居跡 63・82・83・84 …… 426
写真図版 55　住居跡 64 …… 427
写真図版 56　住居跡 65・66 …… 428
写真図版 57　住居跡 67～70（1） …… 429
写真図版 58　住居跡 67～70（2） …… 430
写真図版 59　住居跡 67～70（3） …… 431
写真図版 60　住居跡 71・72（1） …… 432
写真図版 61　住居跡 71・72（2） …… 433
写真図版 62　住居跡 73～79（1） …… 434
写真図版 63　住居跡 73～79（2） …… 435
写真図版 64　住居跡 73～79（3） …… 436
写真図版 65　住居跡 73～79（4） …… 437
写真図版 66　住居跡 73～79（5） …… 438
写真図版 67　住居跡 80 …… 439
写真図版 68　住居跡 81 …… 440
写真図版 69　住居跡 85～87 …… 441
写真図版 70　住居跡 88（1） …… 442
写真図版 71　住居跡 88（2） …… 443
写真図版 72　住居跡 89 …… 444
写真図版 73　住居跡 90 …… 445
写真図版 74　住居跡 91・92 …… 446
写真図版 75　住居跡 93・94（1） …… 447
写真図版 76　住居跡 93・94（2） …… 448
写真図版 77　土坑 1～4 …… 449
写真図版 78　土坑 5～8 …… 450
写真図版 79　土坑 9～12…… 451
写真図版 80　土坑 13・17～19 …… 452
写真図版 81　土坑 14～16 …… 453
写真図版 82　土坑 20～23 …… 454
写真図版 83　土坑 24～28 …… 455
写真図版 84　土坑 29～32 …… 456

写真図版 85　土坑 33～36…… 457
写真図版 86　土坑 37～40…… 458
写真図版 87　土坑 41～43・45…… 459
写真図版 88　土坑 44・46～48…… 460
写真図版 89　土坑 49～52…… 461
写真図版 90　土坑 53～55・57…… 462
写真図版 91　土坑 56・58～60…… 463
写真図版 92　土坑 61～64…… 464
写真図版 93　土坑 65～67・69…… 465
写真図版 94　土坑 68・70～74…… 466
写真図版 95　溝状陥し穴 1～3…… 467
写真図版 96　溝状陥し穴 4～6…… 468
写真図版 97　溝状陥し穴 7～9…… 469
写真図版 98　溝状陥し穴 10～12…… 470
写真図版 99　溝状陥し穴 13～15…… 471
写真図版 100　溝状陥し穴 16～18…… 472
写真図版 101　溝状陥し穴 19～21…… 473
写真図版 102　溝状陥し穴 22～24…… 474
写真図版 103　溝状陥し穴 25～27…… 475
写真図版 104　溝状陥し穴 28・29…… 476
写真図版 105　焼土遺構 1～4…… 477
写真図版 106　焼土遺構 5～9…… 478
写真図版 107　焼土遺構 10～13…… 479
写真図版 108　焼土遺構 14～18…… 480
写真図版 109　遺構内出土土器（1）…… 481
写真図版 110　遺構内出土土器（2）…… 482
写真図版 111　遺構内出土土器（3）…… 483
写真図版 112　遺構内出土土器（4）…… 484
写真図版 113　遺構内出土土器（5）…… 485
写真図版 114　遺構内出土土器（6）…… 486
写真図版 115　遺構内出土土器（7）…… 487
写真図版 116　遺構内出土土器（8）…… 488
写真図版 117　遺構内出土土器（9）…… 489
写真図版 118　遺構内出土土器（10）…… 490
写真図版 119　遺構内出土土器（11）…… 491
写真図版 120　遺構内出土土器（12）…… 492
写真図版 121　遺構内出土土器（13）…… 493
写真図版 122　遺構内出土土器（14）…… 494
写真図版 123　遺構内出土土器（15）…… 495
写真図版 124　遺構内出土土器（16）…… 496
写真図版 125　遺構内出土土器（17）…… 497
写真図版 126　遺構内出土土器（18）…… 498
写真図版 127　遺構内出土土器（19）…… 499
写真図版 128　遺構内出土土器（20）…… 500
写真図版 129　遺構内出土土器（21）…… 501
写真図版 130　遺構内出土土器（22）…… 502
写真図版 131　遺構内出土土器（23）…… 503
写真図版 132　遺構内出土土器（24）…… 504
写真図版 133　遺構内出土土器（25）…… 505
写真図版 134　遺構内出土土器（26）…… 506
写真図版 135　遺構内出土土器（27）…… 507
写真図版 136　遺構内出土土器（28）…… 508
写真図版 137　遺構内出土土器（29）…… 509
写真図版 138　遺構内出土土器（30）…… 510
写真図版 139　遺構内出土土器（31）…… 511
写真図版 140　遺構内出土土器（32）…… 512
写真図版 141　遺構内出土土器（33）…… 513
写真図版 142　遺構内出土土器（34）…… 514
写真図版 143　遺構内出土土器（35）…… 515
写真図版 144　遺構内出土土器（36）…… 516
写真図版 145　遺構内出土土器（37）…… 517
写真図版 146　遺構内出土土器（38）…… 518
写真図版 147　遺構外出土土器（1）…… 519
写真図版 148　遺構外出土土器（2）…… 520
写真図版 149　遺構外出土土器（3）…… 521
写真図版 150　遺構外出土土器（4）…… 522
写真図版 151　遺構外出土土器（5）…… 523
写真図版 152　遺構外出土土器（6）…… 524
写真図版 153　遺構外出土土器（7）…… 525
写真図版 154　遺構外出土土器（8）…… 526
写真図版 155　土製品…… 527
写真図版 156　石器・石製品（1）…… 528
写真図版 157　石器・石製品（2）…… 529
写真図版 158　石器・石製品（3）…… 530
写真図版 159　石器・石製品（4）…… 531
写真図版 160　石器・石製品（5）…… 532
写真図版 161　石器・石製品（6）…… 533
写真図版 162　石器・石製品（7）…… 534
写真図版 163　石器・石製品（8）…… 535
写真図版 164　石器・石製品（9）…… 536
写真図版 165　石器・石製品（10）…… 537
写真図版 166　石器・石製品（11）…… 538
写真図版 167　石器・石製品（12）…… 539
写真図版 168　石器・石製品（13）…… 540
写真図版 169　鉄関連遺物（1）…… 541
写真図版 170　鉄関連遺物（2）…… 542

Ⅰ　調査に至る経緯

野場Ⅰ遺跡は、「平井賀漁港地区漁業集落防災機能強化事業」及び「災害公営住宅整備事業（羅賀地区）」の宅地造成工事に伴い、その事業区域内に存在することから本発掘調査を実施することとなったものである。

両事業は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の大津波により被災した集落の集団的高台移転を促し、住民の生命と財産を守ることを目的としたものである。事業対象地域である「田野畑野場地区」については、被災住民の意向確認調査や土地所有者との交渉が重ねられ、その結果、集団移転団地造成地として合意形成がなされた。

この間、事業の対象地域に関わる埋蔵文化財の取扱いについても協議が重ねられた。岩手県においては、市町村主体の開発に関連する埋蔵文化財調査は、市町村教育委員会が実施することとなっているが、田野畑村教育委員会には埋蔵文化財調査の担当職員が不在であることから、岩手県教育委員会が協議・調整を行い、本調査を公益財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業とすることとなった。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、田野畑村復興対策課から平成24年4月9日付け田復第30号「埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により、村教育委員会経由で県教育委員会に対し試掘調査の依頼を行った。

これを受け県教育委員会は平成24年4月23日～25日に試掘調査を実施し、工事に着手するには野場Ⅰ遺跡の本発掘調査が必要となる旨を平成24年6月25日付け教生第463号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答した。

この結果を踏まえ、村復興対策課は県教育委員会及び村教育委員会と協議・調整ののち、平成24年7月25日付け（災害公営住宅整備事業分）及び平成24年9月14日付け（漁業集落防災機能強化事業分）で、公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

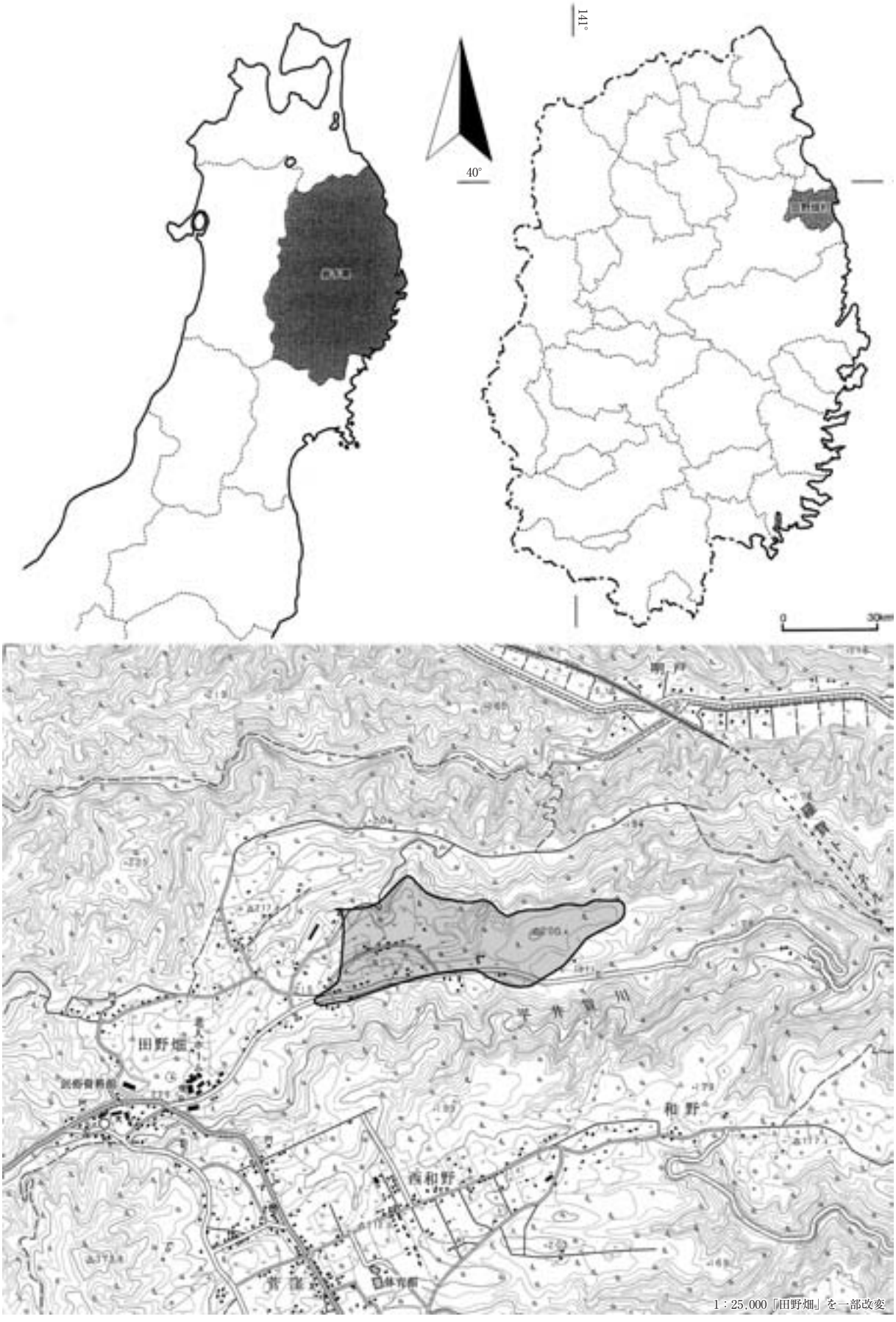
（田野畑村復興対策課）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の位置と地形的環境（第1～3図）

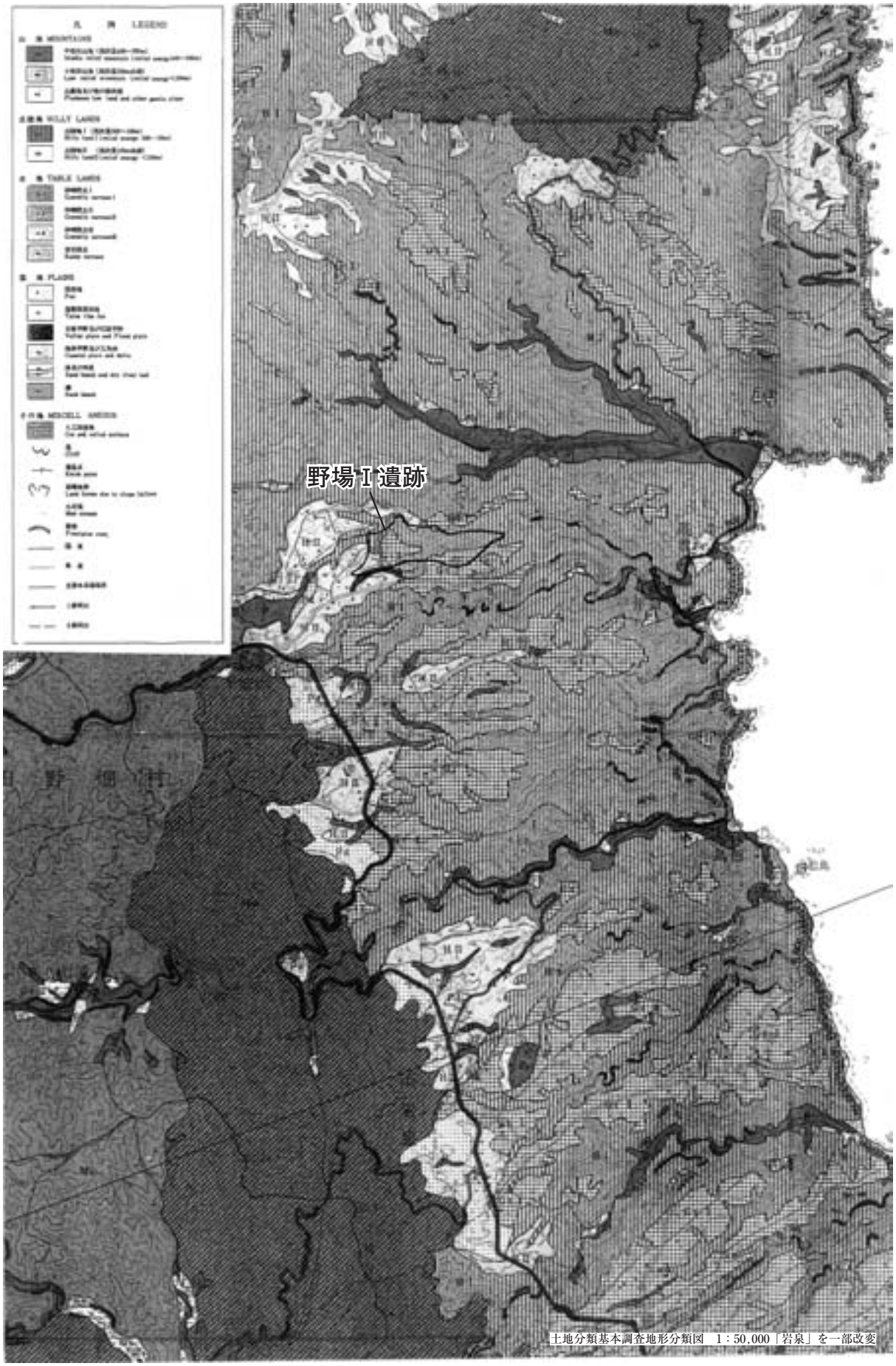
野場Ⅰ遺跡の所在する田野畑村は、岩手県の沿岸北部に位置し、北は普代村、南と西は岩泉町と接し、東は太平洋に面している。東西に約17㎞、南北に約15㎞で、面積約156.2㎢で、人口は3708人（平成25年4月現在）である。村の大半が山地で、自然に恵まれ、酪農業と水産業を主体とした産業が発達している。

田野畑村の地形は西側に北上高地が南北に連なり、その東縁が急崖をなして太平洋に張り出している。村内の海岸段丘は段丘面との比高が100ｍ以上ある明戸川・平井賀川・松前沢・真木沢など西から東へ向かって流れる非常に深い谷によりいくつかの段丘に分断されている。海岸部は北山崎や鵜の巣断崖に代表される標高200ｍにも及ぶ断崖絶壁が連なり、「海のアルプス」と呼ばれる景勝豊かな観光地としても知られている。しかし、このような地理的特徴から古くから交通の不便な地であったが、昭和40年の国道45号開通、昭和59年の思惟大橋架橋と三陸鉄道北リアス線の開通などのイ



第１図　遺跡位置図

第２図　周辺地形図



第３図　地形分類図

ンフラ整備が行われたおかげで、現在は交通の便が大幅に改善されている。

本遺跡は、下閉伊郡田野畑村羅賀 193-1 ほかに所在する。三陸鉄道北リアス線カンパネルラ田野畑駅の西側約 2.5km、田野畑村役場から北東約 1.8km に位置する。海岸線からの直線距離は 3km である。当遺跡は北緯 39 度 93 分 77 秒、東経 141 度 90 分 81 秒に位置し、国土地理院発行 5 万分の一地形図「田野畑」の図幅に属する。

（森）

微地形に目を向けると、調査区は中央を東西に横断する沢によって南北に分断されている。沢の南側は同方向の幾筋かの古い沢に開析されやや起伏の目立つ地形となっている。一方、沢の北岸には、これに沿った舌状の微高地が形成されている。調査区北縁部はその北側に展開する高位面の縁部から南側に向かって下るやや急な斜面となっており、前述微高地との間には谷頭凹地様のごく浅い低地が形成されている。調査区東部は北縁部から続く南下りの斜面地であり、斜面裾は上述の沢の北岸に形成された広がりのある緩斜面に連続している。

（村上）

2　基　本　層　序

本遺跡周辺に堆積する土層の層序は次の通りである。

Ⅰ層　黒褐色土（現表土）。
Ⅱ層　黒色土　（古代遺構の主体土。縄文晩期では埋土上部のみ）。
Ⅲ層　暗褐色土（縄文後晩期遺構埋土の主体土。同時期の遺物包含層）。
Ⅳ層　褐色土　（上面が後晩期遺構検出面。前～中期遺構の主体土。同時期遺物包含層。
　　下面または層中に To-Cu がブロック状に入る。層としては未確認）。
Ⅴ層　黄褐色土（以下地山）。
Ⅵ層　浅黄橙色。

Ⅱ・Ⅲ層は、調査区中央部を横断する沢の両側部および北縁部～東部の斜面下方の低地に発達が顕著である。一方、調査区北縁部～東部にかけての斜面地においては、Ⅱ・Ⅲ層の堆積は認められず、Ⅰ層相当の表土層も明るい褐色を呈し、その直下にⅤ層土が僅かに濁ったようなⅣ層が堆積している。

（村上）

3　周辺の遺跡（第 4 図・第 1 表）

平成 25 年までに岩手県遺跡台帳に登録された遺跡のうち、野場Ⅰ遺跡近隣の遺跡を抽出し、第 4 図・第 1 表に掲載した。

田野畑村では、平成 25 年 3 月の段階で 147 遺跡が確認されている。時代別に概観すると、現在のところ旧石器時代の遺跡は確認されておらず、最も古いもので縄文時代早期となる。そのほかにも弥生・古代・近世と各時代の遺跡が確認されているが、縄文時代の遺跡が大半を占めている。本図幅中は 96 箇所の遺跡が掲載されているが、このうち 88 箇所が縄文時代の遺跡である。田野畑村における縄文時代の遺跡の各時期の内訳については、時期が確認されているものでは、早期 11 箇所、前期 20 箇所、中期 23 箇所、後期 38 箇所、晩期 34 箇所と時期を経るごとに増加傾向を示し、地域も海岸段丘から様々な地形へ分布が拡大する傾向が見られる。

第4図　周辺の遺跡

第１表　周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	時代	出土遺物等	備考
1	野場Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（早前・中・後期）、後期耳飾、弥生土器	
2	羅賀Ⅱ	散布地	縄文・弥生・古代	弥生土器	
3	田野畑新田Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後期？）	
4	田野畑新田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	
5	田野畑Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晩期）	
6	野場Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（後期）、弥生土器、須恵器	
7	和野ソマナイ	集落跡	縄文	縄文土器（前～晩期）	
8	和野新墾神社	散布地	縄文	縄文土器（後期）	
9	平波沢Ⅰ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・後・晩期）、弥生土器	
10	和野Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（早・前・中・後・晩期）、土師器	
11	和野Ⅱ	集落跡	弥生・古代	弥生土器、土師器	
12	和野下屋敷	散布地	縄文	縄文土器十数点、石核	
13	西和野Ⅰ・Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（早・前・中・後・晩期）石斧・石匙・石鏃・首飾青石珠・弥生土器	
14	西和野Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器（後期）、剥片	
15	菅窪長屋構	散布地	縄文・古代	縄文土器（後・晩期）、須恵器	
16	川平	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	
17	菅窪	集落跡	縄文	縄文土器（晩期）、粘土、炭層、焼土、注口土器、香炉型土器、鉢、両頭石棒、石匙、石斧、石錐	
18	菅窪Ⅰ	集落跡	縄文	注口土器、香炉型土器、鉢、両頭石棒、石匙、石斧、石錐	
19	菅窪中山	散布地	縄文・弥生	縄文土器（後期）、弥生土器、土師器	
20	松前沢十文字	散布地	縄文	縄文土器	
21	浜岩泉Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器	
22	浜岩泉Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器	
23	島越ⅩⅢ	散布地	縄文	縄文土器	
24	島越Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器	
25	島越ⅩⅠ	散布地	縄文	縄文土器	
26	島越ⅩⅡ	散布地	縄文	縄文土器	
27	明戸	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）	
28	机	集落跡	弥生	縄文土器、弥生土器（中以降）	
29	机東	散布地	縄文	縄文土器、残核	
30	机中道	散布地	縄文・古代	縄文土器（中～後期）、土師器	
31	中机	集落跡	縄文・古代	縄文土器（早・前・中・後・晩 期）石斧、石匙、石鏃、石器、石神	
32	池名Ⅰ・Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・晩期）、弥生土器	
33	池名Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器、剥片	
34	池名Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器（早期～前期）、石刃、剥片	
35	北山Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（晩期他）、磨石、剥片	
36	北山Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（中期以降）	
37	北山Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後期～晩期）、石錐、三角形磨石、剥片	
38	北山	散布地	縄文	縄文土器（後期）、竪穴住居（縄文後期）、石斧、石鏃	
39	北山山王沢	散布地	縄文	縄文土器	
40	久春内Ⅰ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・後・晩期）弥生土器、石斧、石匙、石鏃	
41	久春内Ⅱ・Ⅲ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前期）、弥生土器、土師器	
42	館石野Ⅰ	祭祀跡・集落跡	縄文	縄文土器（前・中・後・晩期）、石斧、石匙、石槍、硬石製鰹節型大珠、	平成９年５月２日　県指定史跡
43	大芦野場	散布地	縄文	縄文土器、ピエス・エスキーユ（楔形石器）	
44	館石野Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	
45	館石野Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器（繊維）	
46	館石野Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（繊維）	
47	館石野Ⅱ	散布地	縄文	石器	
48	クヅノ崎	散布地	縄文	縄文土器	館石野Ⅲより名称変更
49	島越Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器	
50	島越Ⅸ	散布地	縄文	縄文土器	
51	島越Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器（繊維）	
52	島越Ⅴ	集落跡	縄文	縄文土器	
53	浜岩泉Ⅴ	散布地	縄文	（縄文土器）	
54	島越Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器、石器	
55	島越Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	
56	島越Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器	
57	浜岩泉Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	
58	島越Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中・後・晩期）、弥生土器、石器、石鏃	
59	島越Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	
60	大芦Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器	
61	島越ⅩⅣ		縄文		
62	大芦Ⅱ	散布地			
63	大芦Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（繊維）（前・中期）、石鏃、石槍	
64	浜岩泉フケノ沢南	散布地	縄文	縄文土器、石器	
65	浜岩泉Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器	
66	大芦赤空洞		縄文	縄文土器（晩期）、弥生土器、石斧、磨石他	
67	浜岩泉Ⅱ	集落跡	縄文	縄文土器（後・晩期）、遮光器土偶	
68	浜岩泉Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器、磨製石斧（中期）アスファルト塊、琥珀	
69	真木沢Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	
70	南大芦Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	
71	南大芦Ⅱ	散布地			
72	南大芦Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器（早期）	
73	南大芦Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（中～後期）	
74	大芦Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	
75	大芦Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器	
76	大芦Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器、石斧	
77	大芦Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器	
78	真木沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、石器	
79	真木沢Ⅰ	集落跡	縄文・弥生・古代	縄文土器（早・前・中・後・晩期）、弥生土器（後期）、土師器	
80	切牛Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	
81	切牛Ⅱ	集落跡	縄文・古代	土師器、石斧、縄文土器（早・前・後・晩期）	
82	切牛Ⅵ	散布地			
83	切牛Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	
84	切牛Ⅴ	散布地			
85	猿山三十石沢	散布地	縄文	土器（縄文？）	
86	七滝	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晩期）、石棒	
87	七滝Ⅲ	散布地	縄文	石棒（関係）、石鏃、石錐、剥片、加工痕ある剥片、残核、縄文土器	
88	大牛内Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器	
89	青鹿Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	
90	目名館	城館跡	中世	平場、空堀	
91	目名	散布地	縄文	縄文土器、剥片	
92	猿山ヨコシ沢	散布地	縄文、古墳時代？	須恵器、剥片、縄文土器	
93	羅賀弁天貝塚	貝塚	縄文	縄文土器（後期前葉）、自然遺物（コウダガアオガイ、アオガイ、カモガイ、レイシガイ、イガイ、ムラサキインコガイ、サメ椎骨、タマビキガイ、クボガイ、ヘソアキクボガイ、チヂミボラ）、石皿	
94	大芦館	城館跡	中世	縄文土器（早・前・中期）弥生土器（早期）石器	
95	板橋	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中・後・晩期）、弥生土器、石斧	
96	七滝Ⅱ	散布地	縄文	磨製石斧	

田野畑村の主な遺跡を概観すると、村の南西部浜岩泉地区においてほぼ完形の遮光器土偶が出土した浜岩泉Ⅱ遺跡（67）、岩手県埋蔵文化財センターが平成８年に調査し、縄文時代中期の大規模集落であったことが確認された浜岩泉Ⅰ遺跡（68）などがある。

またその隣接地の島越地区には館石野Ⅰ遺跡（42）がある。早稲田大学文学部考古学研究室によって昭和 62 年から平成５年にかけて８次にわたる調査おこなわれた遺跡で、列石を伴う大規模な遺構が確認された。なお、館石野Ⅰ遺跡は平成９年に県指定史跡となっている。また同地区では昨年度に島越Ⅱ遺跡・島越ⅩⅣ遺跡の調査が行われ、島越Ⅱ遺跡では縄文時代の陥し穴状遺構、島越ⅩⅣ遺跡では縄文時代中期と思われる竪穴住居跡が確認された。

村央部の田野畑地区では平成 19 年に田野畑村役場の北側に隣接する平波沢遺跡の調査が行われ、近世墓、縄文時代後・晩期の竪穴住居跡が多数確認された。

野場Ⅰ遺跡の南方、和野地区において岩手県埋蔵文化財センターが平成 13 年に調査した和野Ⅰ遺跡（10）がある。和野Ⅰ遺跡は縄文時代前～中期の遺構のほか、古代の竪穴住居跡９棟、近世墓１基などが確認されており、縄文時代から古代、近世にかけての複合遺跡であることが、明らかとなっている。また同地区では、平成 15 年に岩手県埋蔵文化財センターで調査した和野ソマナイ遺跡（7）と和野新墾神社遺跡（8）がある。和野ソマナイ遺跡では、縄文時代後期の竪穴住居跡、和野新墾神社遺跡では陥し穴状遺構が確認されている。

（森）

〈参考文献〉

田野畑村教育委員会　2001『館石野Ⅰ遺跡第９次発掘調査報告書』田野畑村文化財調査報告書第７集
田野畑村教育委員会　2002『館石野Ⅰ遺跡第 10 次発掘調査報告書』田野畑村文化財調査報告書第９集
田野畑村教育委員会　2006『和野Ⅰ遺跡第４次発掘調査報告書』田野畑村文化財調査報告書第 16 集
田野畑村教育委員会　2013『机遺跡発掘調査報告書』田野畑村文化財調査報告書第 19 集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1996『浜岩泉Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 276 集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2001『和野Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 452 集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2003『和野新墾神社遺跡発掘調査報告書』岩文振第 455 集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2003『和野ソマナイ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 466 号
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2012『尾肝要Ⅰ遺跡・姫松Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 592 集
早稲田大学文学部考古学研究室・田野畑村　1997『館石野Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
金子昭彦　1991『岩手県田野畑村出土の遮光器土偶について』岩手考古学第３号

※岩文振は「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書」の略。

Ⅲ　野外調査と室内整理

1　野　外　調　査

（1）調査区（第5図上）

登録されている野場Ⅰ遺跡の範囲は、東西約1,600ｍ・南北約400ｍ、面積にして約60万㎡と広大であり大半が山林となっている。調査原因である高台移転地造成事業地は遺跡範囲の東部に位置する。

県教育委員会は事業範囲の概要が提示された平成24年4月に当該予定地の試掘調査を実施。その結果、事業地全域約15,000㎡について本発掘調査が必要である旨を事業主体の田野畑村に回答した。

受託に備えていた当埋蔵文化財センターは平成24年8月1日に調査着手したが、その後まもなく事業地を大幅に拡大した新設計案（約3,9000㎡）が示された。これを受け、当初受託した範囲の本発掘調査と併行して、拡張部の樹木伐採や追加試掘調査が進められ、最終的な本発掘調査面積は2カ年合計で24,543㎡となった。

（2）グリッド設定と基準点（第5・6図）

検出される各種遺構・遺物の詳細な座標値を記録するため、調査区を覆う碁盤目状のグリッドを設定した。まず、調査対象区域の北西側に原点（世界測地系，平面直角座標第Ⅹ系，X=－6,300・Y=92,000）を設け、ここから南及び東に延びる軸線を等分して100×100ｍの大グリッドを設定した。さらに大グリッドの一辺を20等分して小グリッド（5×5ｍ）とした。

大グリッドは南北軸にローマ数字（北からⅠ～）、東西軸に英大文字（西からＡ～）を用い「IA」のように表し、さらに小グリッドも同様に北側から順に算用数字1～20、西側から順に英小文字a～tとして「1a」または「2b」のように表した。特定の小グリッドを指し示すのには、これらを組み合わせて「IA1a」のように表記した。

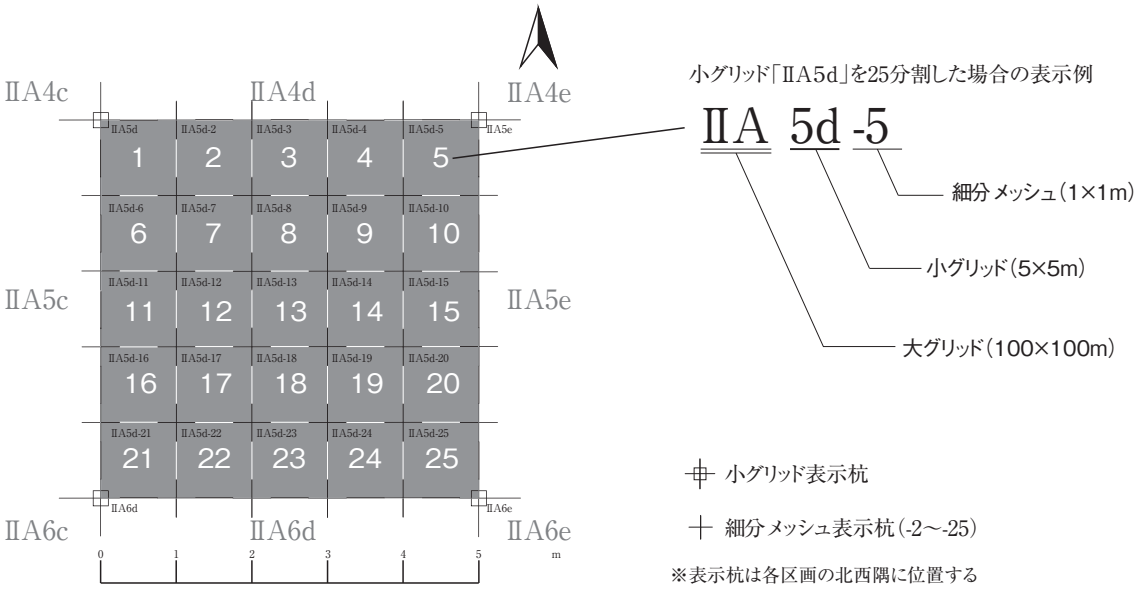
上記のグリッドを実際に調査区に割り付けるため、現地には基準杭及び区画割付杭を打設した。基準点測量業務は株式会社スズマ測量設計に委託した。基準杭及び区画割付杭の第Ⅹ系座標値・標高値、及び対応するグリッド杭名は第6図中表の通りである。この区画割付杭を基準に、各小グリッドの北西隅には名称を標記した杭を設置して調査に用いた。

（3）試掘・表土除去

本調査着手時、調査区中央部付近には県生涯学習文化課による試掘トレンチが開口状態で複数残されていた。生涯学習文化課より提供された試掘情報を参考にしながら、これらのトレンチを観察し調査区内の土層堆積状況の把握に努めた。南半部及び周辺部においては、新たにトレンチを設定し、重機・人力を併用して土層の堆積状況と遺構の存否を把握した。

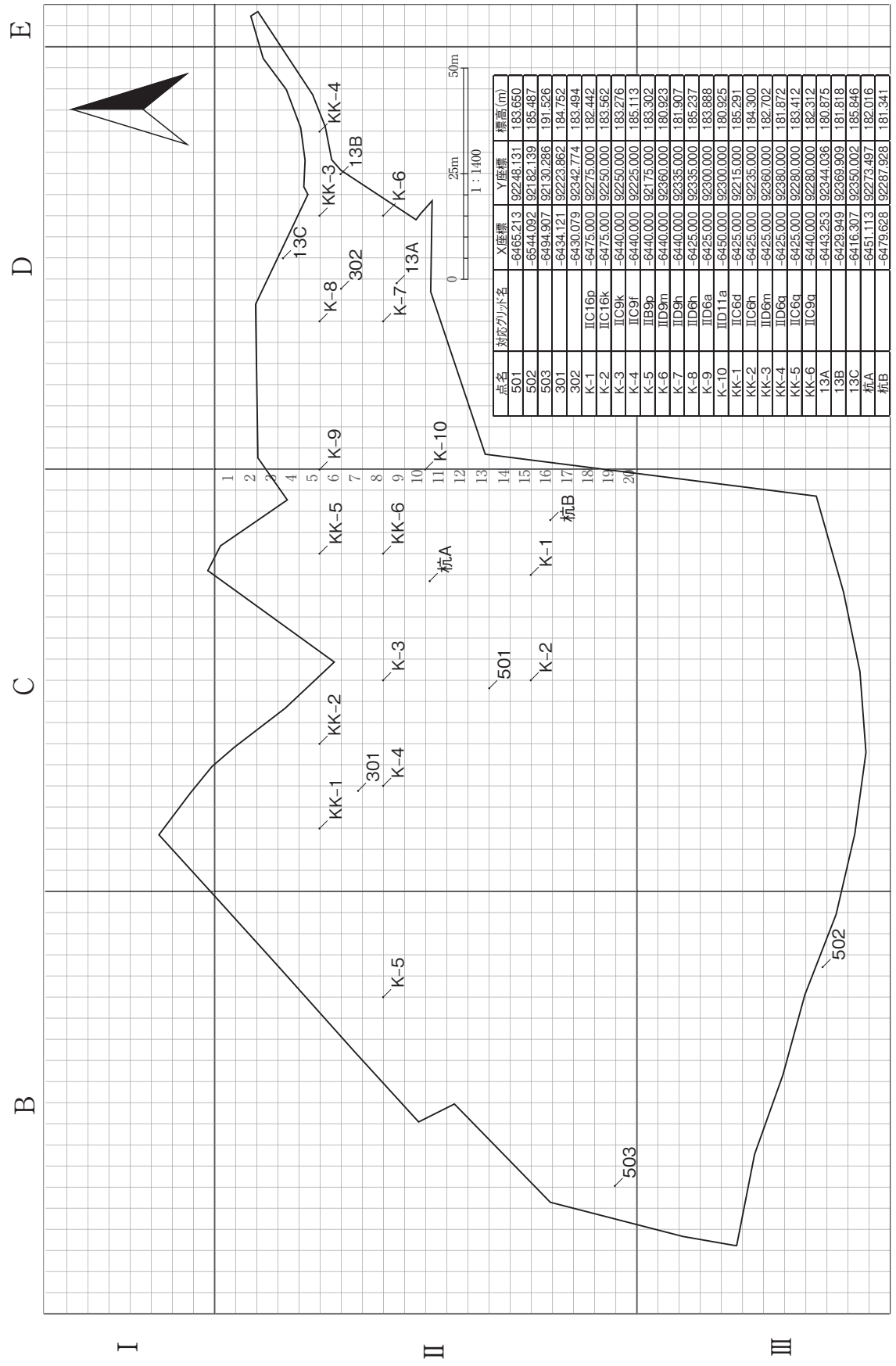
これらのトレンチの観察により遺構・遺物が存在しないことを確認した範囲についてはこれをもって調査終了とし、一方、遺物包含層および遺構が確認された区域については当該土層上面を面的に広げるように上位の土層を除去した。この際、バックホー・キャリアダンプ等の重機を積極的に用いたが、当該土層上面までの深度が浅い地点や遺物等の出土が集中する場合など、重機の使用が適当でないと判断した区域においては人力による掘削を行った。

調査区全体図



グリッド図示凡例

第５図　調査区全体図・グリッド図示凡例



点名	対応グリッド名	X座標	Y座標	標高(m)
501		-6465.213	92248.131	183.650
502		-6544.092	92182.139	185.487
503		-6494.907	92130.286	191.526
301		-6434.121	92223.862	184.752
302		-6430.079	92342.774	183.494
K-1	ⅡC16p	-6475.000	92275.000	182.442
K-2	ⅡC16k	-6475.000	92250.000	183.562
K-3	ⅡC9k	-6440.000	92250.000	183.276
K-4	ⅡC9f	-6440.000	92225.000	185.113
K-5	ⅡB9p	-6440.000	92175.000	183.302
K-6	ⅡD9m	-6440.000	92360.000	180.923
K-7	ⅡD9h	-6440.000	92335.000	181.907
K-8	ⅡD6h	-6425.000	92335.000	185.237
K-9	ⅡD6a	-6425.000	92300.000	183.888
K-10	ⅡD11a	-6450.000	92300.000	180.925
KK-1	ⅡC6d	-6425.000	92215.000	185.291
KK-2	ⅡC6h	-6425.000	92235.000	184.300
KK-3	ⅡD6m	-6425.000	92360.000	182.702
KK-4	ⅡD6q	-6425.000	92380.000	181.872
KK-5	ⅡC6q	-6425.000	92280.000	183.412
KK-6	ⅡC9q	-6440.000	92280.000	182.312
13A		-6443.253	92344.036	180.875
13B		-6429.949	92369.909	181.818
13C		-6416.307	92350.002	185.846
杭A		-6451.113	92273.497	182.016
杭B		-6479.628	92287.928	181.341

第6図　グリッド配置と基準点

（4）遺構の検出と精査

表土除去の後、鋤簾（じょれん）・両刃草削り・移植ベラを用いて遺構検出を行い、必要に応じてスプレー塗料による白線で遺構プランにマーキングを施した。

精査では遺構の規模や性質に応じて2分法・4分法を使い分け、土層断面を観察しながら埋土を除去した。検出時に遺構の重複が認められた場合、なるべく平面観察で先後関係を把握するように努め、原則として新期のものから順に埋土の掘削を行った。この場合、両者を縦断する断面を設定し土層の堆積状況からも併せて先後関係を検討した。また、平面プランの確定や埋土の解釈が困難な場合には、積極的にサブトレンチを活用してこれらの確認に努めた。これにより完掘段階には平面プランの一部がサブトレンチで壊された状態になったものも含まれる。遺物は、遺構名やグリッド名および出土層位を記録して取上げ、必要に応じて出土状況図の作成・写真撮影を行った。

（5）遺　構　名

①野外調査での仮名称

検出した遺構に対してはその都度固有の仮名称を与えた。住居跡にＳＩ、土坑にSK等、Ｓで始まる略号を用いている。また各遺構に付属する柱穴状ピット等については「ＳＩ○○Pit○」のように帰属元となる遺構名を冠した。このほか、精査の初段階で遺構種別が判然としない場合などは、「○○グリッド付近暗褐色土落ち込み」のように、特徴を端的に示した語を付して遺物の取り上げや諸記録に用いた。以上の仮名称は、室内整理段階でも作業用遺構名としてそのまま用いた。

②本書中の掲載名称

上の仮名称は本書掲載に際して改名を行い、「住居跡○」・「土坑○」・「溝状陥し穴○」のように表記した。種別名に後続する番号（○の部分）は掲載順に振り直しているため、略号に付したものとは異なっている。新旧遺構名の対応関係については第3表「遺構一覧」を参照されたい。

なお、図版中では一部、「住居跡○」を『住○』、「土坑○」を『坑○』、「溝状陥し穴○」を『陥○』のように略した表記も用いている。

（6）実　　測

遺構の平面実測は、主に株式会社ＣＵＢＩＣの遺構実測支援システムを使用し、3次元デジタルデータとして記録した。断面図は水平に設定した水糸を基準にして実測・作図した。縮尺は1/20を基本とし、細部表現を要する場合には1/10図も作成した。

（7）土層断面の分層と注記

遺構やトレンチなどの土層断面は慎重に観察し堆積状況を把握するよう努めた。分層は堆積過程を表現するのに必要と思われた場合は細部にも配慮したが、薄層が連続的に互層をなす部分や、偶然の結果と思われる混入物の偏りなどは徒らに細分せず、有意と思われるまとまりの境界を表現した。

この分層の根拠を示すため、各層の性状を記録した。土層は主体土と混入土（物）によって構成されるものと考えられることから、色調・土性・混入物・粘性・締まりの程度等を記載した。また、解釈可能な場合は、その層の持つ性格を想定し付記した。

遺構埋土等の堆積層の「主体土」には、認識可能な場合、その層が堆積した時点において周辺の表土を形成していたと思われる土(埋没開始時点における最新期の土)を充てた。例えば地山土のブロッ

クが大半を占める遺構の壁の崩落層であっても、当時の表土と思われる土壌が僅かに含まれている場合は、後者を主体土とし、「地山土が大量に混入している状態」と解釈している。主体土と基本土層の対比により、当該土層の堆積時期を推定することが可能と考えるからである。

土色の表記は新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局）に準じたが、調査員が受ける層間の印象の差が土色名の違いに反映されない場合も多くあった。このため、各層の記録には調査員個人の主観による相対的な層全体の印象（明暗や色味の差）も併記した。例えば、「○層よりも明るい」・「焼土含み全体に赤味」・「炭化物多く黒味強」・「地山土含み黄味がかる」などの表現がこれにあたる。また混入物の量について「極微」・「やや多」等の表記を行っているが、調査員の主観的基準を土色帖に示されているパーセント表記に置き換えれば、概ね、極微（1～2%）・微（3～5%）・少（5～10%）・やや多（15～20%）・多（30～50%）・大量（50% 以上）に相当する。

ただし、複数の調査員が併行して記録にあたったため、記述の形式や個々の所見に統一を欠く部分が部分が残る。堆積状況に関する本文記載を併せてご覧いただき、意図するところをお酌み願いたい。

（8）写　真　撮　影

野外調査では6×9㎝判カメラ（モノクロ）、デジタル一眼レフを用い、各種遺構の全景・土層断面・遺物出土状況等を撮影した。撮影に際しては、撮影状況を記したカードをその都度写し込み、これを元に整理した。なお、一部の遺構ではいずれかのカットを省略した場合がある。また、カメラの故障などで必要なカットを撮影できなかったものも含まれる。平成 24 年度の調査終盤には、小型飛行機による調査区全景写真の撮影を行った。

2　室　内　整　理

（1）作　業　手　順

出土遺物の洗浄と地点別の仕分け作業、土器を除く各遺物の分類は、野外調査と並行して現地で行った。野外調査終了の後、室内において土器の接合・復元作業を開始し、随時掲載資料の選別・登録を行った。その後、実測図作成・拓影作成・トレースの順に作業を進めた。調査員はこれらの作業を統括し、並行して図面合成・遺物観察表作成・原稿執筆を行った。

（2）遺　　構

デジタルデータ、手描き図面ともに必要な整理を行ったのち、Adobe 社 Illustrator CS4 を用いてトレース・編集を行った。図中には縮尺を示すスケールを付し、方位マークで座標北を示した。写真はデジタル一眼レフで撮影した RAW データを JPEG に変換し、パソコン上でレイアウトした。

（3）遺　　物

出土土器は、出土地点・遺構別に分けた後、掲載に適した個体を選抜し図化等作業の対象資料として登録した。石器類は器種ごとに仕分け、いわゆる定形石器は全点を登録し個別番号を与えた。各器種は形態を元にさらに細分し、各類を代表する個体を選抜し図化した。

これらの遺物について、掲載番号・仮（整理用）番号・出土地点・層位・計測値・その他観察事項等を記載した一覧表を作成した。実測図から読みとれる属性については、本文・表ともに記載を省略したものがある。各図版には掲載縮尺を示すスケールを付している。写真は、デジタル一眼レフで撮影した個別の JPEG データをパソコン上でレイアウトし、図版を作成した。

第2表　協議・調査の経過

年	月	日	内容	関係者	特記	面積（㎡）				
						試掘対象	要調査	追加	終了計	残
平成24年	4	9	試掘依頼	村復興対策課→県生涯学習文化課	田復第30号「埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」					
	4	23～25	試掘調査	県生涯学習文化課	この時点で設計図面なし。 支障（立木）の無い約5000㎡を対象に実施。	23,700				
	6	25	試掘回答	県生涯学習文化課→村復興対策課	教生第463号 「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」		約15,000			
	6	27	仮計画図提示	村復興対策課	設計は確定まで流動的。					
	6	29	発掘届提出	村復興対策課						
	8	1	本発掘調査開始		田野畑村役場・同教委へ挨拶。		約15,000		0	約15,000
	8	2	打合せ	村復興対策課	設計変更の申出。 県生涯学習文化課と協議するよう伝える。					
	8	3	指導	県生涯学習文化課						
	8	6	打合せ	村復興対策課	設計変更に伴う協議の申出。					
	8	7	視察	復興庁岩手復興局宮古支所長ほか						
	8	8	協議	県生涯学習文化課・村復興対策課 土地開発公社	設計変更により事業範囲拡大。追加試掘の要生じる。	約34,000				
	8	20	視察	復興庁岩手復興局長ほか						
	8	22	指導	文化庁調査官						
	8	23	視察	復興大臣政務官・岩手復興局長ほか						
	8	同	協議	村復興対策課・田野畑村森林組合	立木伐採と調査の工程調整。					
	8	25	視察	平野達男復興大臣・岩手復興局長 田野畑村長ほか						
	8	27	取材	岩手日報記者						
	8	28	視察	村議会議員						
	8	29	取材	朝日新聞宮古支局記者						
	8	30	視察	復興庁寺岡参事官						
	9	13	部分終了確認	県生涯学習文化課・村復興対策課・土地開発公社	南部区域（11,350㎡）調査終了・引渡。 遅れていた立木伐採が概ね終了。		15,800		11,350	4,450
	9	26	協議	県生涯学習文化課・村復興対策課・土地開発公社	要本調査面積追加。 造成工事と調査の工程調整。		24,443	8,643	11,350	13,093
	10	5	事務所移転		旧事務所地点の調査着手に伴う。					
	10	9	視察	村議会議員	調査の早期終了を強く求められる。					
	10	10	田野畑村 合同起工式		旧地権者より11月以降の調査区内林道の撤去承諾得る。					
	10	17	視察	村教育長・教育次長						
	10	24	視察	県生涯学習文化課総括課長						
	10	30	協議	県生涯学習文化課・村復興対策課・土地開発公社	造成工事と調査の工程調整。 ・優先区域を順位をつけて示される。 ・村より天候に左右されず作業実施して欲しい旨強く要望される。					
	10	31	打合せ	村復興対策課	・林道撤去可の確認。 ・作業休止しないよう改めて強く要望される。 ・民間調査組織の導入検討を示唆される。					
	11	6	視察	黄川田徹復興副大臣・岩手復興局長 田野畑村長ほか						
	11	8	取材	岩手日報記者	現地説明会事前取材。					
	11	17	現地説明会	地元住民約80名ほか						
	11	22	アワビ漁解禁日		震災後初解禁（口開け）。 作業員の約半数が欠勤。					
	11	27	悪天候		暴風雪の中、野外作業強行。 以降、低温・凍結・降雪の日多くなる。					
	12	3	空中写真撮影							
	12	4	視察	文化庁次長・生涯学習文化課						
	12	11	終了確認	生涯学習文化課・村復興対策課 村教育委員会・土地開発公社	6,842㎡追加終了。		24,443		18,192	6,251
	12	12	視察	大阪市埋蔵文化財センター	職員派遣検討のための事前視察。					
	12	14	調査終了		平成24年度調査終了。 平成25年度へ継続。		24,443		18,192	6,251
平成25年	4	4	調査再開				6,251			
	4	17	部分終了確認	県生涯学習文化課・村復興対策課・土地開発公社	造成工事と埋文調査の並進について協議。		6,251		1,128	5,123
	4	同	取材	読売新聞記者						
	5	7	部分終了確認	県生涯学習文化課・村復興対策課・土地開発公社	調査区一面に積雪。作業中止。		6,251		3,851	2,400
	5	同	悪天候		施工と調査の工程調整。					
	5	16	協議	県生涯学習文化課・村復興対策課・土地開発公社	集排水管設置範囲100㎡が追加される。		6,351	100	3,851	2,500
	6	4	視察	村教育長						
	6	21	指導	県生涯学習文化課						
	6	24	協議	県生涯学習文化課・村復興対策課						
	6	29	現地説明会	地元住民約70名ほか						
	7	10	終了確認	県生涯学習文化課・村復興対策課・土地開発公社			6,351		6,351	0
	7	12	調査終了		野場Ⅰ遺跡の調査を全て終了し撤収。					

Ⅳ 調 査 成 果

1 概　　要

（1） 平成 24 年度調査

検出遺構は縄文時代住居跡 21 棟、土坑 45 基、溝状陥し穴 7 基、焼土遺構 1 基。

出土遺物は縄文時代土器大コンテナ 8(後期・晩期主体)、縄文時代石器大コンテナ 2(石鏃・石斧・敲磨器類等)、土製耳飾、玦状耳飾、石棒等。

調査区内を横断する沢の北岸に縄文時代後～晩期の遺構の分布が確認され、後期（前～中葉）住居は微高地東縁斜面部に、晩期住居は微高地の中央部に集中重複して検出された。また、貯蔵穴とみられる径 2 m・深度 1 m 前後の土坑群が、微高地東部の一角に集中して検出され、住居群とは異なる選地傾向が看取された。このほか、調査区西部では、沢上流部北岸および北縁高位面崖下に沿って分布する溝状陥し穴を多数検出した。

以上から、縄文時代晩期においては、調査区中央部東半はいわゆる居住空間（集落中心部)、北部西半部は集落外の狩猟地として利用されていたと推察された。このほか前期～後期の遺構・遺物が一部に含まれていたことから、周辺部における当該期集落の存在が予想され、この点の解明について次年度の調査を待つこととなった。

（2） 平成 25 年度調査

検出遺構は縄文時代住居跡 69 棟（前期主体、その他中期～晩期)、弥生時代後期住居跡 1 棟、平安時代前期住居跡（鍛冶工房址）4 棟、土坑 29 基、溝状陥し穴 22 基、焼土遺構 17 基。

出土遺物は縄文土器 40 箱（前期主体、その他中期～晩期)、石器・石製品（石槍・石鏃・石匙・石斧・独鈷石・石剣石刀類・玦状耳飾・敲磨器類ほか）15 箱、弥生時代後期土器小コンテナ 1 箱、土師器甕片・石錘・鉄製紡錘車・刀子・釘・鞴羽口各数点、鍛冶滓 1 袋等。

今次調査は事業範囲の拡大に伴い前年度未了となっていた西部・北部・東端部を対象とした。

東部では、縄文時代前期を主体とする方形～長方形基調の住居跡が斜面上に多数密集重複して検出された。この分布は同様の地形面が広がる調査区外にも連続する可能性が高い。東端部の斜面下部では、このほかにも縄文時代後～晩期・弥生時代後期・平安時代前期の住居跡（鍛冶炉付属）等が確認されている。一方、西部では溝状陥し穴群、北部では縄文時代後晩期の住居跡等が検出された。前年度調査区に展開する遺構群に連続するものである。

（3）ま と め

二カ年に渡る調査で、縄文時代前期には住居群が東端部斜面に、同後期には住居跡が中央部東端～東端部斜面下部に、同晩期には住居群が中央部～北部斜面下部に、後期～晩期の貯蔵穴群が中央部東端に、それぞれ分布することが確認された。弥生時代後期の住居跡は東部斜面に単独で存在し、平安時代（10 世紀）には鍛冶工房の可能性をもつ住居が東端部斜面下部に近接して構築されていた。

出土土器の主体は縄文時代前期並びに後晩期で、出土区域・出土量ともに各期遺構の分布状況と相関したあり方を示す。弥生時代・平安時代の遺物はそれぞれ該期住居跡内及び付近から出土した。

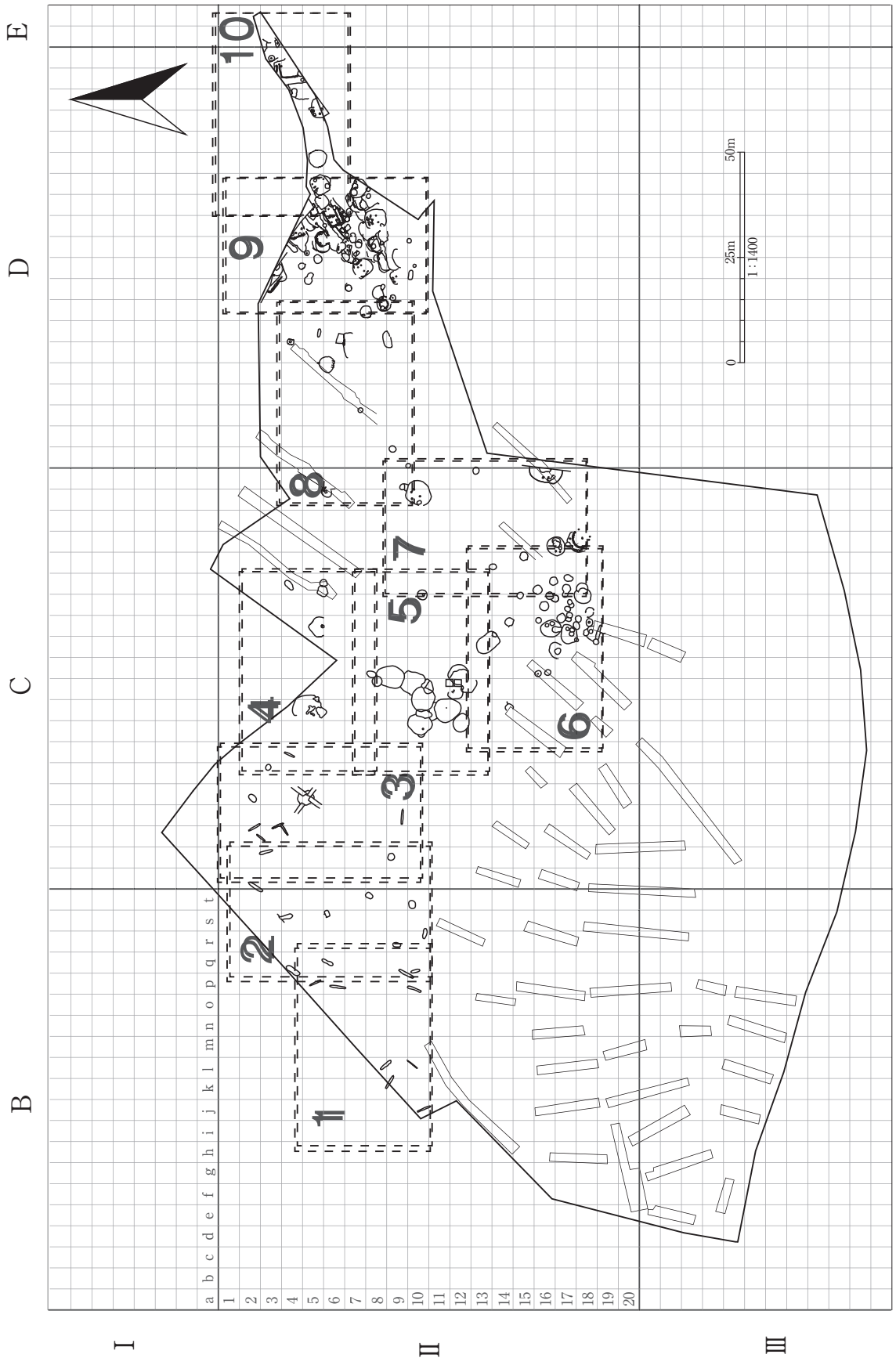
第 7 図　遺構配置全体図

第3表　遺構一覧

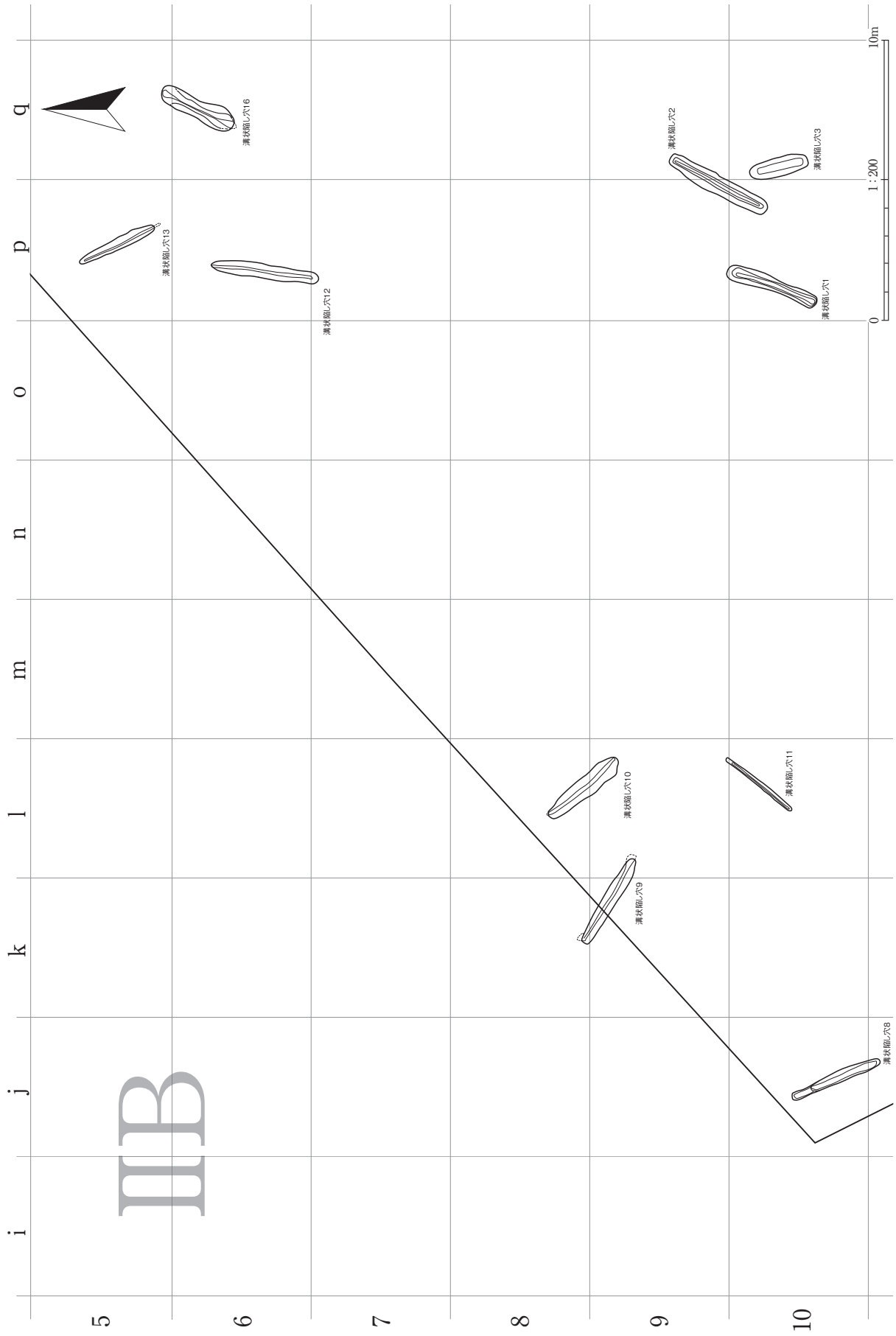
調査年度	遺構略号（野外調査）	掲載遺構名	地点	帰属時期	備考（〈〉は年代測定値）	図	写真
2012	SI01	住居跡 01	ⅡC11i	縄文時代　晩期中葉～後葉	〈2530±20〉	19・20	3
2012	SI02	住居跡 02	ⅡC10j	縄文時代　晩期中葉		21・22	4
2012	SI03	住居跡 03	ⅡC10h	縄文時代　晩期中葉		23・24	5
2012	SI04	住居跡 04	ⅡC14i	縄文時代　晩期中葉～後葉？		24	6
2012	SI05	住居跡 05	ⅡC10i	縄文時代　晩期中葉～後葉	〈2500±20〉	25・26	7
2012	SI06	住居跡 06	ⅡC10j	縄文時代　晩期中葉～後葉		27・28	8
2012	SI07	住居跡 07	ⅡC8j	縄文時代　晩期中葉～後葉？		29	9
2012	SI08	住居跡 08	ⅡC12k	縄文時代　晩期中葉～後葉		30	10
2012	SI09	住居跡 09	ⅡC12h	縄文時代　前期前葉？	〈5540±30〉	31	11
2012	SI11	住居跡 10	ⅡC16 l	縄文時代　晩期中葉？		32	12
2012	SI13	住居跡 11	ⅡC13 l	縄文時代　晩期中葉～後葉？		33	13
2012	SI14	住居跡 12	ⅡC10s	縄文時代　晩期後葉		34・35	14
2012	SI15	住居跡 13	ⅡC16 m	縄文時代　後期～晩期		36	15
2012	SI16	住居跡 14	ⅡC17 m	縄文時代　後期～晩期		37	16
2012	SI17	住居跡 15	ⅡC18 m	縄文時代　後期後半？		38	17
2012	SI18	住居跡 16	ⅡC12j	縄文時代　晩期中葉～後葉？		39	18
2012	SI19	住居跡 17	ⅡC12j	縄文時代　晩期中葉～後葉？		40	19
2012	SI21	住居跡 18	ⅡC16q	縄文時代　後期前葉～中葉？		41	20
2012	SI22A	住居跡 19	ⅡC17q	縄文時代　後期？		42	21
2012	SI22B	住居跡 20	ⅡC18q	縄文時代　後期？		42・43	21
2012	SI23	住居跡 21	ⅡC16t	縄文時代　後期？		44・45	22
2013	SI24	住居跡 22	ⅡC5 m	縄文時代　晩期中葉～後葉	〈2500±20〉	46	23
2013	SI25	住居跡 23	ⅡC5e	縄文時代　前期？		47・48	24
2013	SI26	住居跡 24	ⅡC5i	縄文時代　晩期中葉	〈2690±20〉	49・50	25
2013	SI27	住居跡 25	ⅡC6n	縄文時代　前期		51	26
2013	SI30	住居跡 26	ⅡD8 g	弥生時代　後期	〈1840±20〉	51	27
2013	SI28	住居跡 27	ⅡC5s	縄文時代　晩期		52	28
2013	SI29	住居跡 28	ⅡD7 g	縄文時代前期末葉		53	29
2013	SI31	住居跡 29	ⅡD8h	縄文時代　前期		54	30
2013	SI32	住居跡 30	ⅡD9j	縄文時代　後期以降？		55	31
2013	SI41	住居跡 31	ⅡD6f	縄文時代　前期後葉	〈4890±30〉	55	32
2013	SI34	住居跡 32	ⅡD8 l	平安時代　10 世紀	〈950±20〉	56・57	33・34
2013	SI48	住居跡 33	ⅡD5o	縄文時代　後期前葉？		58	35
2013	SI63	住居跡 34	ⅡD5q	平安時代　10 世紀		59・60	36・37
2013	SI33	住居跡 35	ⅡD8k	縄文時代　後期以降？		61～63	38
2013	SI44	住居跡 36	ⅡD9j	縄文時代　前期前葉		61・62・64	39
2013	SI45	住居跡 37	ⅡD9k	縄文時代　前期後葉		61・62・64	39
2013	SI54	住居跡 38	ⅡD9k	縄文時代　前期前半？		61・62・65	40
2013	SI55	住居跡 39	ⅡD9k	縄文時代　前期後半？		61・62・65	40
2013	SI56	住居跡 40	ⅡD9j	縄文時代　前期後半？		61・62・66	39
2013	SI64	住居跡 41	ⅡD9k	縄文時代　前期前半？		61・66	39
2013	SI70	住居跡 42	ⅡD8 l	縄文時代　後期？		61・67	41
2013	SI39	住居跡 43	ⅡD9h	縄文時代　前期後葉～中期初頭？		68・69	42
2013	SI40	住居跡 44	ⅡD9i	縄文時代　前期中葉～後葉		68・70	43
2013	SI52	住居跡 45	ⅡD9i	縄文時代　前期		68・70	44
2013	SI42	住居跡 46	ⅡD7j	縄文時代　前期		71～73	45・46
2013	SI43	住居跡 47	ⅡD8j	縄文時代　前期前半？		71・72・74	46
2013	SI53	住居跡 48	ⅡD8i	縄文時代　前期後葉		62・71・72・74	47
2013	SI47	住居跡 49	ⅡD7j	縄文時代　前期		71・72・74	48
2013	SI71	住居跡 50	ⅡD7j	縄文時代　前期前葉		71・72・75	49
2013	SI72	住居跡 51	ⅡD7j	縄文時代　前期前葉？		71・72・75	49
2013	SI49	住居跡 52	ⅡD7k	縄文時代　前期後葉		71・75	47
2013	SI50	住居跡 53	ⅡD7j	縄文時代　前期		71・72・75	50
2013	SI59	住居跡 54	ⅡD7 m	縄文時代　前期後葉		76～78・80	51・52
2013	SI78	住居跡 55	ⅡD6 m	縄文時代　前期前葉～中葉		76・80	51・52
2013	SI74	住居跡 56	ⅡD7k	縄文時代　前期前半？		76・79・80	49
2013	SI　x-4	住居跡 57	ⅡD5 m	縄文時代　前期前葉～中葉？		76・80	-
2013	SI60a	住居跡 58	ⅡD6 m	縄文時代　前期中葉～後葉	〈5070±30〉	76～78・81	51・52
2013	SI60b	住居跡 59	ⅡD6 m	縄文時代　前期後葉		76～78・81	51・52
2013	SI61	住居跡 60	ⅡD7 l	縄文時代　前期前葉～中葉		76・77・82	51・52
2013	SI66	住居跡 61	ⅡD6 l	縄文時代　前期前半？		76・79・82	53
2013	SI67	住居跡 62	ⅡD6 l	縄文時代　前期前半？		76・79・82	53
2013	SI62	住居跡 63	ⅡD7 m	縄文時代　前期前葉～中葉		76・77・83・100	54
2013	SI65	住居跡 64	ⅡD6k	縄文時代　前期後葉		76・78・79・83	55
2013	SI81	住居跡 65	ⅡD7 m	縄文時代　前期？		76・79・84	56
2013	SI82	住居跡 66	ⅡD6 l	縄文時代　前期中葉		76・77・84	56
2013	SI68a	住居跡 67	ⅡD5k	縄文時代　前期末葉	〈4740±30〉	85～87	57～59
2013	SI68d	住居跡 68	ⅡD5k	縄文時代　前期		85～87	57～59
2013	SI68b	住居跡 69	ⅡD5k	縄文時代　前期後葉	〈4970±30〉	85・86・88	57～59
2013	SI68c	住居跡 70	ⅡD5k	縄文時代　前期後葉～末葉		85・86・88	57～59
2013	SI57	住居跡 71	ⅡD5k	縄文時代　前期後葉		89・90	60・61
2013	SI58	住居跡 72	ⅡD5k	縄文時代　前期中葉～後葉	〈4960±30〉	78・89・90・91	60・61
2013	SI38a	住居跡 73	ⅡD4 l	縄文時代　前期後葉		92・93・95	62～66

調査年度	遺構略号（野外調査）	掲載遺構名	地点	帰属時期	備考（〈〉は年代測定値）	図	写真
2013	SI38c	住居跡 74	ⅡD5 l	縄文時代　前期前葉		92・93・95	62～66
2013	SI38b	住居跡 75	ⅡD4 l	縄文時代　前期末葉	〈4800±30〉	92・93・96	62～66
2013	SI38d	住居跡 76	ⅡD5k	縄文時代　前期前半？		92・94・97	62～66
2013	SI38e	住居跡 77	ⅡD5 l	縄文時代　前期後葉		92～94・97	62～66
2013	SI38f	住居跡 78	ⅡD5 l	縄文時代　前期後葉	〈4950±30〉	92～94・98	62～66
2013	SI38 g	住居跡 79	ⅡD5 m	縄文時代　前期前葉		92・94・98	62～66
2013	SI35	住居跡 80	ⅡD8 m	縄文時代　後期以降？		99～101	67
2013	SI36	住居跡 81	ⅡD7n	平安時代　10 世紀		99～101	68
2013	SI75	住居跡 82	ⅡD7 m	縄文時代　前期後葉		99・100・102	54
2013	SI76	住居跡 83	ⅡD8 m	縄文時代　前期？		99・100・102	54
2013	SI77	住居跡 84	ⅡD8 m	縄文時代　前期前半？		99・100・103	54
2013	SI　x-1	住居跡 85	ⅡD8 m	縄文時代　前期前半？		99・103	69
2013	SI　x-2	住居跡 86	ⅡD7 m	縄文時代　前期後葉以降？		99・103	69
2013	SI　x-3	住居跡 87	ⅡD7n	縄文時代　前期？		99・103	69
2013	SI46	住居跡 88	ⅡD5 m	平安時代　10 世紀		104・105	70・71
2013	SI51	住居跡 89	ⅡD5n	平安時代　10 世紀？		104・106	72
2013	SI69	住居跡 90	ⅡD5r	縄文時代　前期中葉～後葉		107・108	73
2013	SI73	住居跡 91	ⅡD4s	縄文時代　前期中葉～後葉	〈5030±30〉	107・109・110	74
2013	SI79	住居跡 92	ⅡD4s	縄文時代　前期中葉～後葉		107・111	74
2013	SI80	住居跡 93	ⅡD4t	縄文時代　前期中葉～後葉		107・112	75・76
2013	SI83	住居跡 94	ⅡE3a	縄文時代　前期後葉		107・113	75・76
2012	SK03	土坑 01	ⅡB9r			114	77
2012	SK04	土坑 02	ⅡB6s	近現代？		114	77
2012	SK08	土坑 03	ⅡB8t	近現代？		114	77
2012	SK09	土坑 04	ⅡB10t			114	77
2012	SK11	土坑 05	ⅡC9b			115	78
2012	SK12	土坑 06	ⅡC14i	縄文時代　後期～晩期？		115	78
2012	SK13	土坑 07	ⅡC18o	縄文時代　晩期中葉		115	78
2012	SK15	土坑 08	ⅡC17o	縄文時代　後期～晩期？		116	78
2012	SK16	土坑 09	ⅡC16o	縄文時代　後期～晩期？		116	79
2012	SK17	土坑 10	ⅡC16n	縄文時代　後期後葉～晩期前葉	〈2950±20〉	116	79
2012	SK18	土坑 11	ⅡC17o			117	79
2012	SK19	土坑 12	ⅡC17o			117	79
2012	SK20	土坑 13	ⅡC15p			117	80
2012	SK21	土坑 14	ⅡC15n			117	81
2012	SK22	土坑 15	ⅡC14p			118	81
2012	SK23	土坑 16	ⅡC16n	縄文時代　後期後葉～晩期前葉	〈3060±30〉	118	81
2012	SK24	土坑 17	ⅡC10n			118	80
2012	SK25	土坑 18	ⅡC11i	近現代？		119	80
2012	SK26	土坑 19	ⅡC17o			119	80
2012	SK27	土坑 20	ⅡC17n	縄文時代　前期？		119	82
2012	SK28	土坑 21	ⅡC16 m			120	82
2012	SK29	土坑 22	ⅡC17n			120	82
2012	SK30	土坑 23	ⅡC15 m	縄文時代　後期以降？		120	82
2012	SK31	土坑 24	ⅡC16k	縄文時代　後期～晩期？		120	83
2012	SK32	土坑 25	ⅡC16k			121	83
2012	SK33	土坑 26	ⅡC10j	縄文時代　晩期中葉		121	83
2012	SK34	土坑 27	ⅡC18n	縄文時代　後期～晩期？		121	83
2012	SK35	土坑 28	ⅡC18n	縄文時代　後期～晩期？		121	83
2012	SK36	土坑 29	ⅡC13t			122	84
2012	SK38	土坑 30	ⅡC17 m	縄文時代　後期～晩期？		122	84
2012	SK39	土坑 31	ⅡC18 m	縄文時代　前期～後期？		122	84
2012	SK40	土坑 32	ⅡC18n	縄文時代　後期～晩期？		122	84
2012	SK41	土坑 33	ⅡC10t	縄文時代　後期～晩期？		123	85
2012	SK42	土坑 34	ⅡC18 m	縄文時代　後期前葉		123	85
2012	SK43	土坑 35	ⅡC17n	縄文時代　後期後葉		123	85
2012	SK44	土坑 36	ⅡC18 l	縄文時代　後期～晩期？		123	85
2012	SK45	土坑 37	ⅡD9a	縄文時代　後期～晩期？		124	86
2012	SK46	土坑 38	ⅡC17 m	縄文時代		124	86
2012	SK48	土坑 39	ⅡC18 l	縄文時代　後期後半～晩期		124	86
2012	SK49	土坑 40	ⅡC18 m	縄文時代　後期		124	86
2012	SK50	土坑 41	ⅡC19 m	縄文時代		125	87
2012	SK52	土坑 42	ⅡC18 l	縄文時代　後期後葉～晩期前葉		125	87
2012	SK53	土坑 43	ⅡC17q	縄文時代　中期末葉～後期前葉		125	87
2012	SK54	土坑 44	ⅡC17q	縄文時代　後期		126	88
2012	SK55	土坑 45	ⅡC17q	縄文時代　後期		125	87
2013	SK64	土坑 46	ⅡC8k			126	88
2013	SK74	土坑 47	ⅡC3 g	縄文時代　後期～晩期？		126	88
2013	SK75	土坑 48	ⅡC2e			72・126	88
2013	SK77	土坑 49	ⅡD9b			127	89
2013	SK78	土坑 50	ⅡD7d	縄文時代　前期前葉	〈5730±30〉	127	89
2013	SK80	土坑 51	ⅡD4 g			127	89
2013	SK82	土坑 52	ⅡD7i			127	89
2013	SK83	土坑 53	ⅡD7k	縄文時代　前期後葉～中期前葉		72・128	90

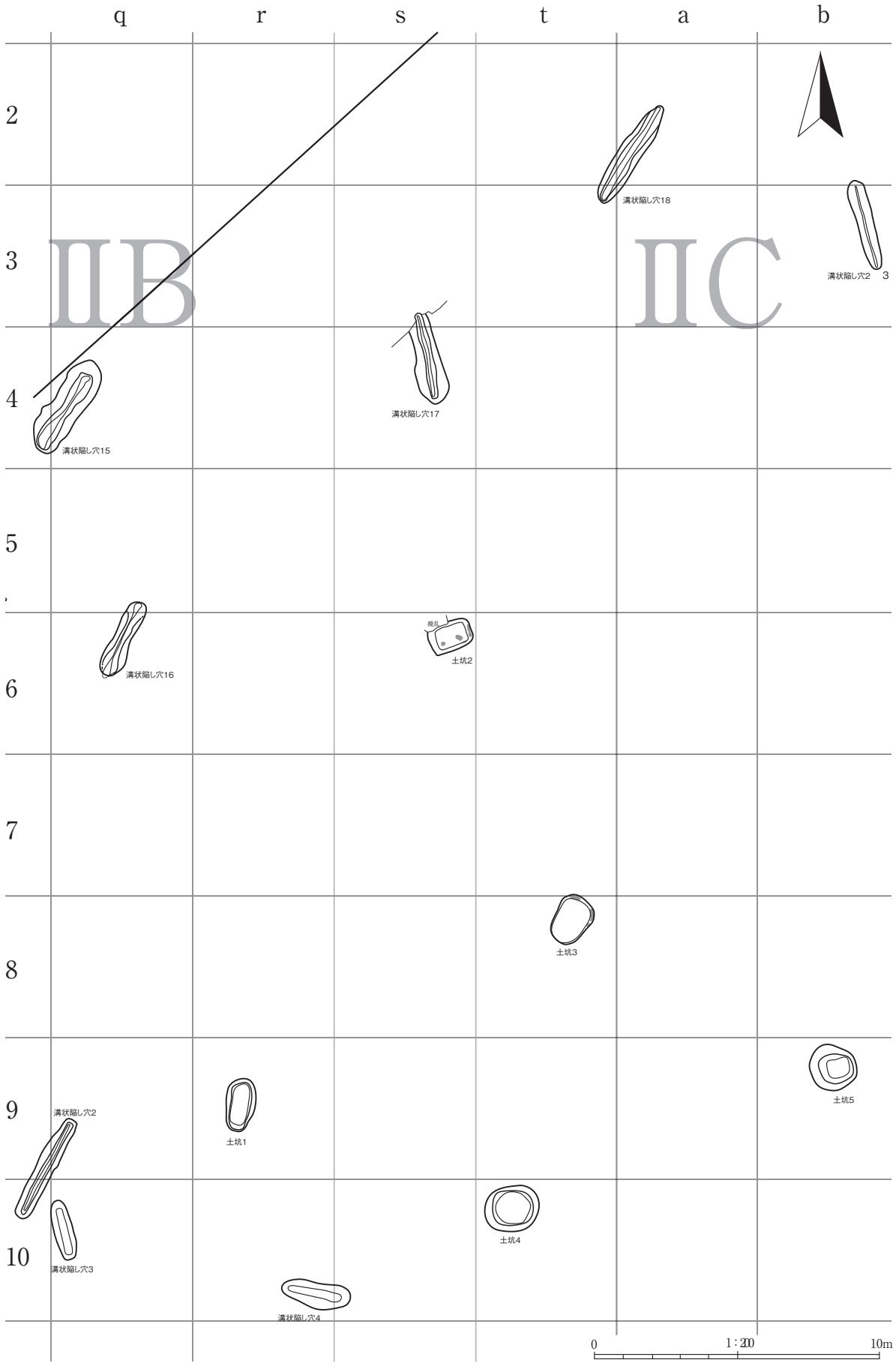
調査年度	遺構略号（野外調査）	掲載遺構名	地点	帰属時期	備考（〈〉は年代測定値）	図	写真
2013	SK85	土坑 54	ⅡD10k	縄文時代　晩期以降？		128	90
2013	SK86	土坑 55	ⅡD10j	縄文時代　前期前葉		128	90
2013	SK87	土坑 56	ⅡD5k	縄文時代		128	91
2013	SK88	土坑 57	ⅡD8k	縄文時代　前期前葉？		62・129	90
2013	SK89	土坑 58	ⅡD7 m	縄文時代　前期初頭～前葉		77・129	91
2013	SK90	土坑 59	ⅡD7k	縄文時代　前期中葉～後葉		129	91
2013	SK91	土坑 60	ⅡD8n			129	91
2013	SK93	土坑 61	ⅡD9i			130	92
2013	SK94	土坑 62	ⅡD7k			130	92
2013	SK95	土坑 63	ⅡD7k			72・130	92
2013	SK97	土坑 64	ⅡD5k			131	92
2013	SK98	土坑 65	ⅡD5j	縄文時代　後期前葉	〈3670±20〉	131	93
2013	SK100	土坑 66	ⅡD5j			131	93
2013	SK101	土坑 67	ⅡD5j			132	93
2013	SK102	土坑 68	ⅡD7k	縄文時代　前期中葉～後葉		79・132	94
2013	SK103	土坑 69	ⅡD7k	縄文時代　前期後半～後期		132	93
2013	SK104	土坑 70	ⅡD7 l	縄文時代　前期		133	94
2013	SK105	土坑 71	ⅡD3t	縄文時代　前期		133	94
2013	SK107	土坑 72	ⅡD6 l	縄文時代　前期後半以降？		133	94
2013	SK108	土坑 73	ⅡD7 l	縄文時代　前期後半以降？		133	94
2013	SK109	土坑 74	ⅡD7 l	縄文時代　前期後半以降？		133	94
2012	SK01	溝状陥し穴 01	ⅡB10p	縄文時代　後期～晩期？		134	95
2012	SK02	溝状陥し穴 02	ⅡB9q	縄文時代　後期～晩期？		134	95
2012	SK05	溝状陥し穴 03	ⅡB10q	縄文時代　後期～晩期？		134	95
2012	SK07	溝状陥し穴 04	ⅡB11s	縄文時代　後期～晩期？		135	96
2012	SK10	溝状陥し穴 05	ⅡB4 g	縄文時代　後期～晩期？		135	96
2012	SK14	溝状陥し穴 06	ⅡC10d	縄文時代　後期～晩期？		134	96
2012	SK47	溝状陥し穴 07	ⅡC18 m	縄文時代　後期～晩期？		135	97
2013	SK56	溝状陥し穴 08	ⅡB11j	縄文時代　後期～晩期？		136	97
2013	SK57	溝状陥し穴 09	ⅡB9 l	縄文時代　後期～晩期？		136	97
2013	SK58	溝状陥し穴 10	ⅡB9 l	縄文時代　後期～晩期？		136	98
2013	SK59	溝状陥し穴 11	ⅡB10 l	縄文時代　後期～晩期？		137	98
2013	SK60	溝状陥し穴 12	ⅡB7p	縄文時代　後期～晩期？		137	98
2013	SK61	溝状陥し穴 13	ⅡB6p	縄文時代　後期～晩期？		137	99
2013	SK63	溝状陥し穴 14	ⅡC4o	縄文時代　後期～晩期？		138	99
2013	SK65	溝状陥し穴 15	ⅡB4q	縄文時代　後期～晩期？		138	99
2013	SK66	溝状陥し穴 16	ⅡB6q	縄文時代　後期～晩期？		139	100
2013	SK67	溝状陥し穴 17	ⅡB4s	縄文時代　後期～晩期？		139	100
2013	SK68	溝状陥し穴 18	ⅡC2a	縄文時代　後期～晩期？		140	100
2013	SK69	溝状陥し穴 19	ⅡC2d	縄文時代　後期～晩期？		140	101
2013	SK70	溝状陥し穴 20	ⅡC3c	縄文時代　後期～晩期？		141	101
2013	SK71	溝状陥し穴 21	ⅡC4d	縄文時代　後期～晩期？		141	101
2013	SK72	溝状陥し穴 22	ⅡC4d	縄文時代　後期～晩期？		142	102
2013	SK73	溝状陥し穴 23	ⅡC3d	縄文時代　後期～晩期？		142	102
2013	SK79	溝状陥し穴 24	ⅡD6 g	縄文時代　後期～晩期？		143	102
2013	SK81	溝状陥し穴 25	ⅡD4k	縄文時代　前期以降		92・93・143	103
2013	SK84	溝状陥し穴 26	ⅡD10j	縄文時代　後期～晩期？		143	103
2013	SK96	溝状陥し穴 27	ⅡD7k	縄文時代　前期以降		144	103
2013	SK99	溝状陥し穴 28	ⅡD7k	縄文時代　後期～晩期？		79・144	104
2013	SK106	溝状陥し穴 29	ⅡE4a	縄文時代　後期～晩期？		144	104
2012	SN04	焼土遺構 01	ⅡC11 l	縄文時代　晩期		145	105
2012	SN05	焼土遺構 02	ⅡC16 m	縄文時代　前期中葉～後葉		145	105
2013	SN2013-1	焼土遺構 03	ⅡD6 l	縄文時代　前期中葉～後葉		145	105
2013	SN2013-2	焼土遺構 04	ⅡD7 l	縄文時代　前期		145	105
2013	SN2013-3	焼土遺構 05	ⅡD6 l	縄文時代　前期		146	106
2013	SN2013-4	焼土遺構 06	ⅡD7 l	縄文時代　前期		146	106
2013	SN2013-5	焼土遺構 07	ⅡD7 m	平安時代　10C ？		146	106
2013	SN2013-6	焼土遺構 08	ⅡD7n	平安時代　10C ？		146	106
2013	SN2013-7	焼土遺構 09	ⅡD7 m	平安時代　10C ？		147	106
2013	SN2013-8	焼土遺構 10	ⅡD7o	縄文時代後期以降（平安時代？）		147	107
2013	SN2013-9	焼土遺構 11	ⅡD7n	縄文時代後期以降（平安時代？）		147	107
2013	SN2013-10	焼土遺構 12	ⅡD5 m	縄文時代　前期		147	107
2013	SN2013-11	焼土遺構 13	ⅡD4t	縄文時代　前期後葉？		148	107
2013	SN2013-13	焼土遺構 14	ⅡE3b	縄文時代　前期後葉？		148	108
2013	SN2013-14	焼土遺構 15	ⅡE3b	縄文時代　前期後葉？		148	108
2013	SN2013-15	焼土遺構 16	ⅡE2b	縄文時代　前期後葉？		149	108
2013	SN2013-16	焼土遺構 17	ⅡE3a	縄文時代　前期後葉？		149	108
2013	SN2013-17	焼土遺構 18	ⅡE3a	縄文時代　前期後葉？		149	108
2013	SNX-1	焼土遺構 19	ⅡD6 m			149	-



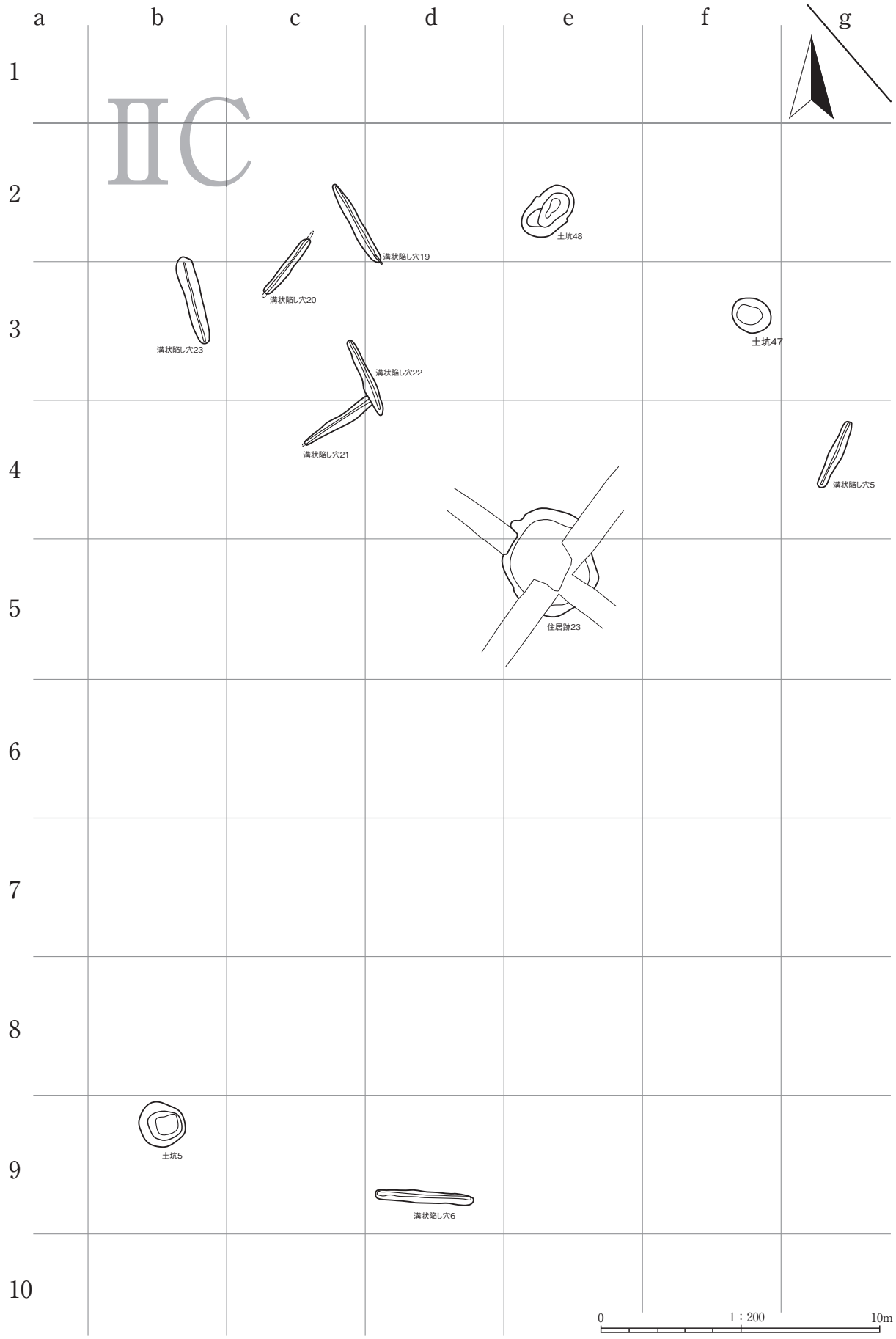
第 8 図　遺構配置分割図配置図



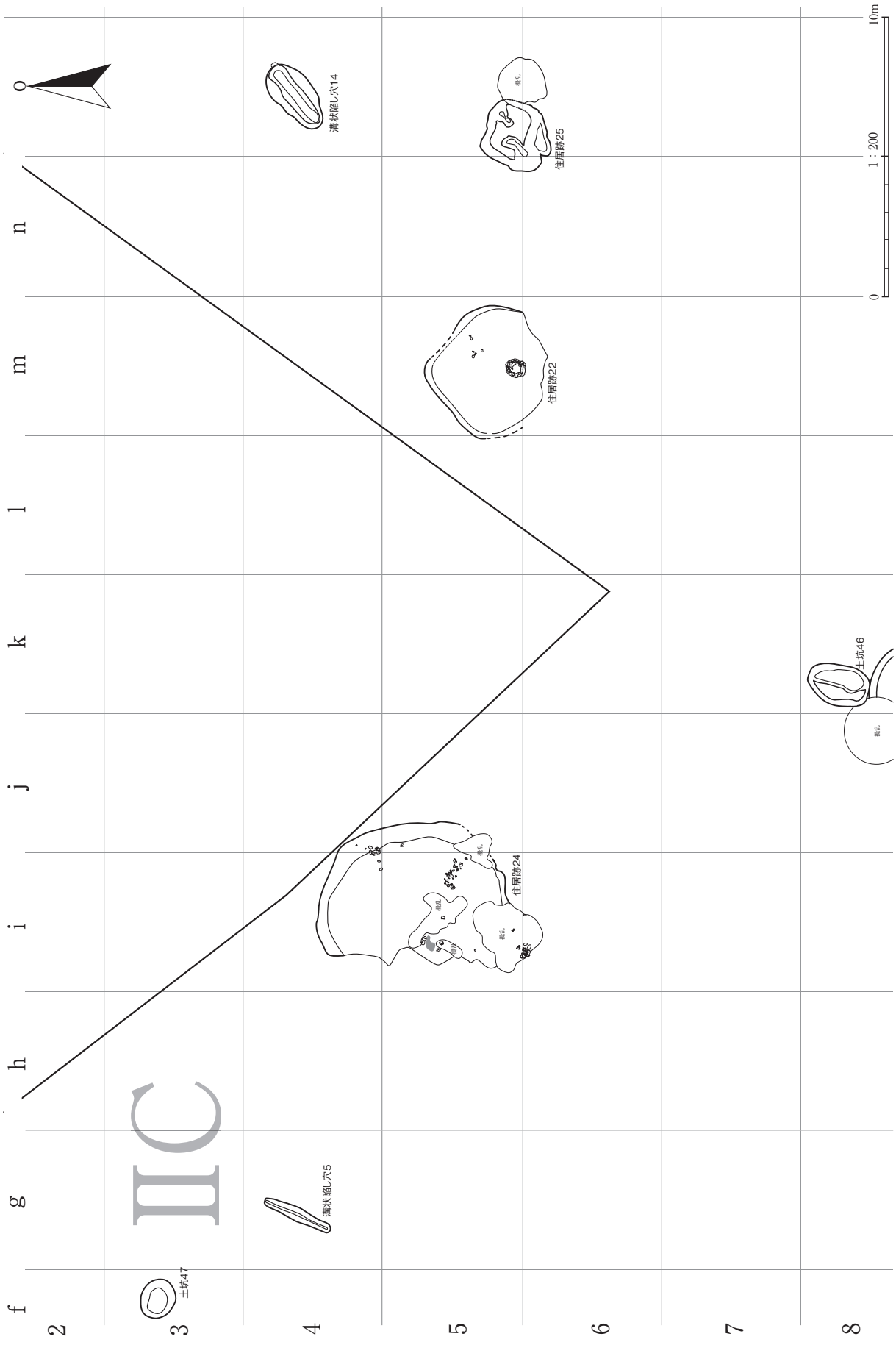
第 9 図　遺構配置分割図（1）



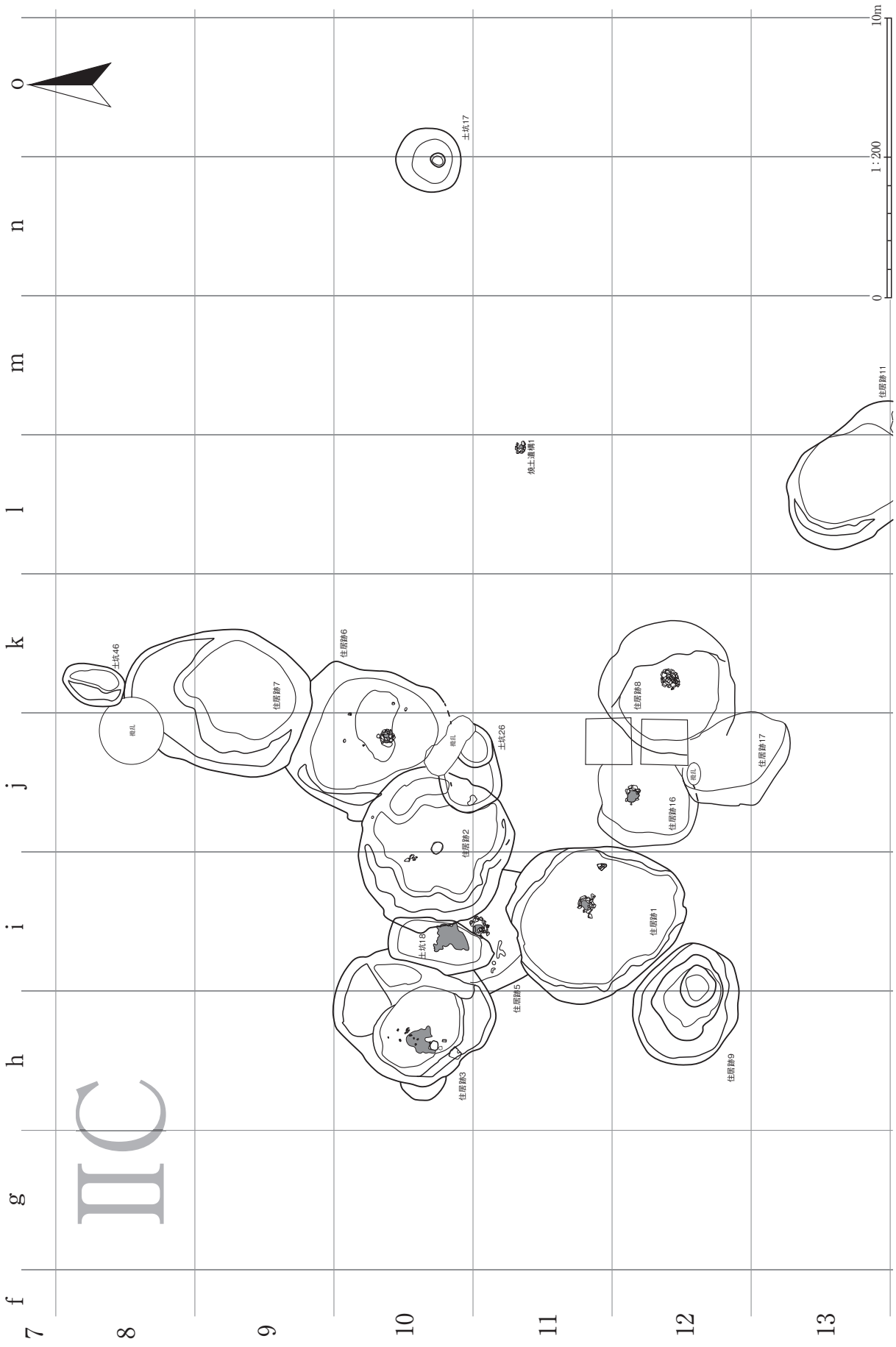
第 10 図　遺構配置分割図（2）



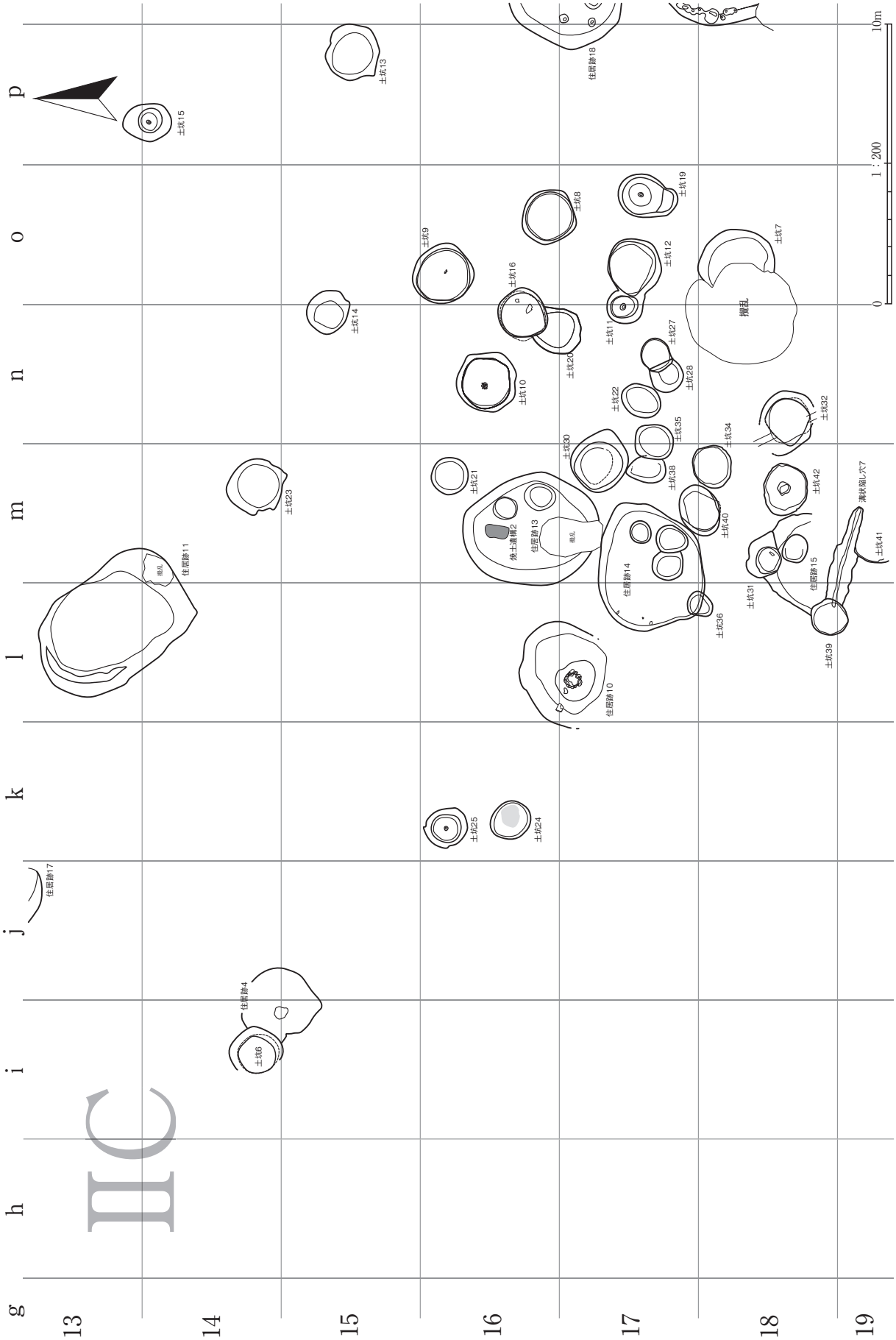
第 11 図　遺構配置分割図（3）



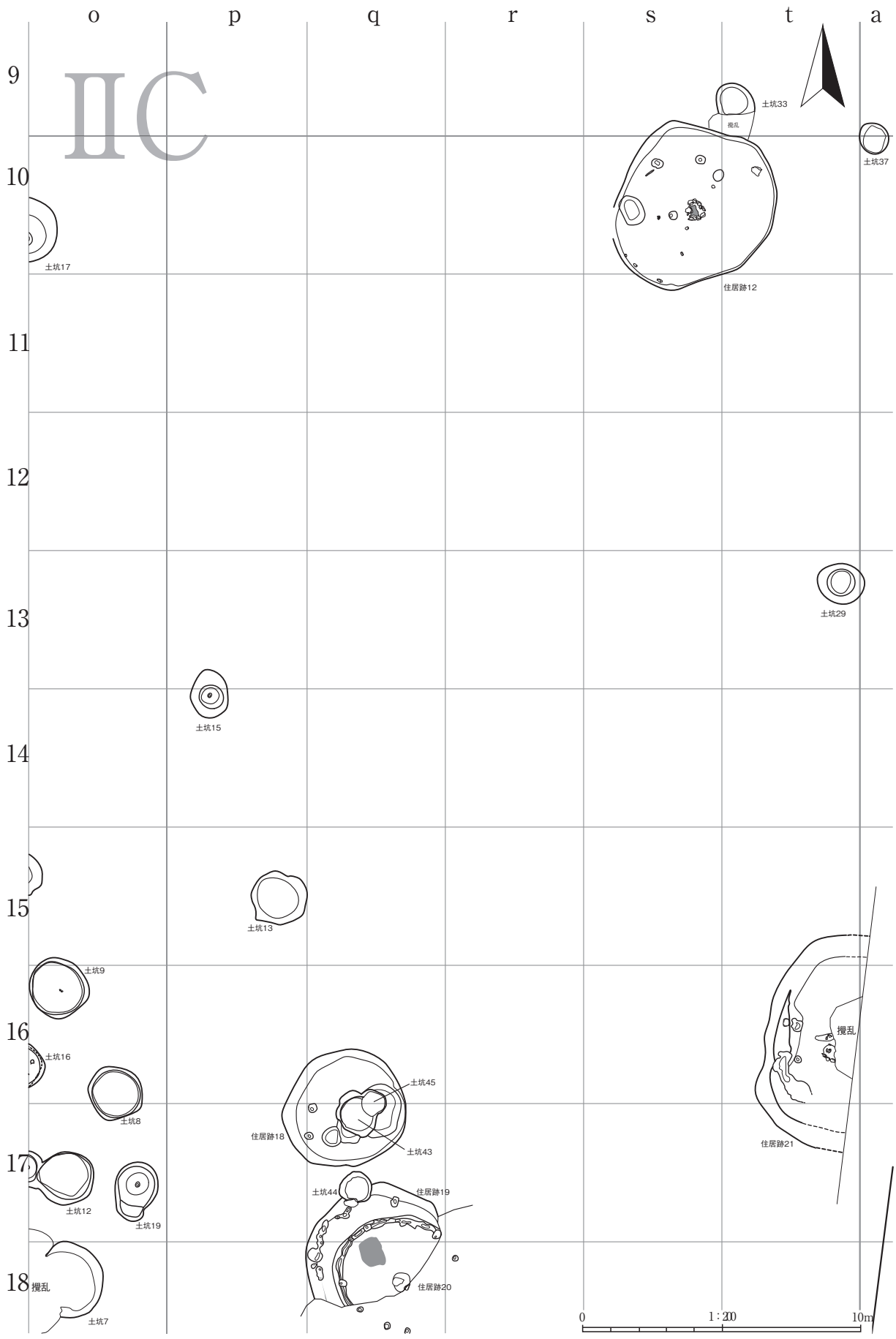
第 12 図　遺構配置分割図（4）



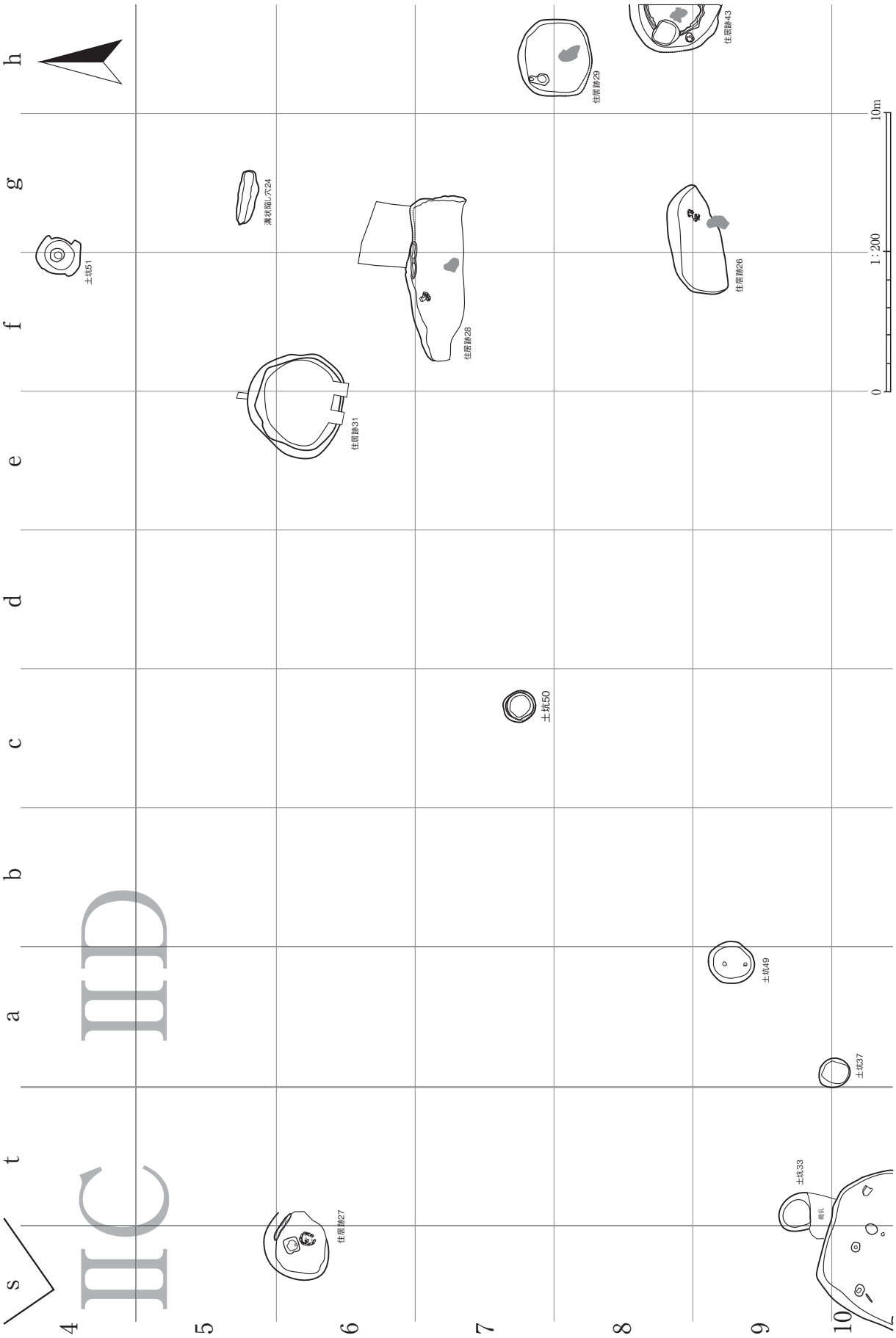
第 13 図　遺構配置分割図（5）



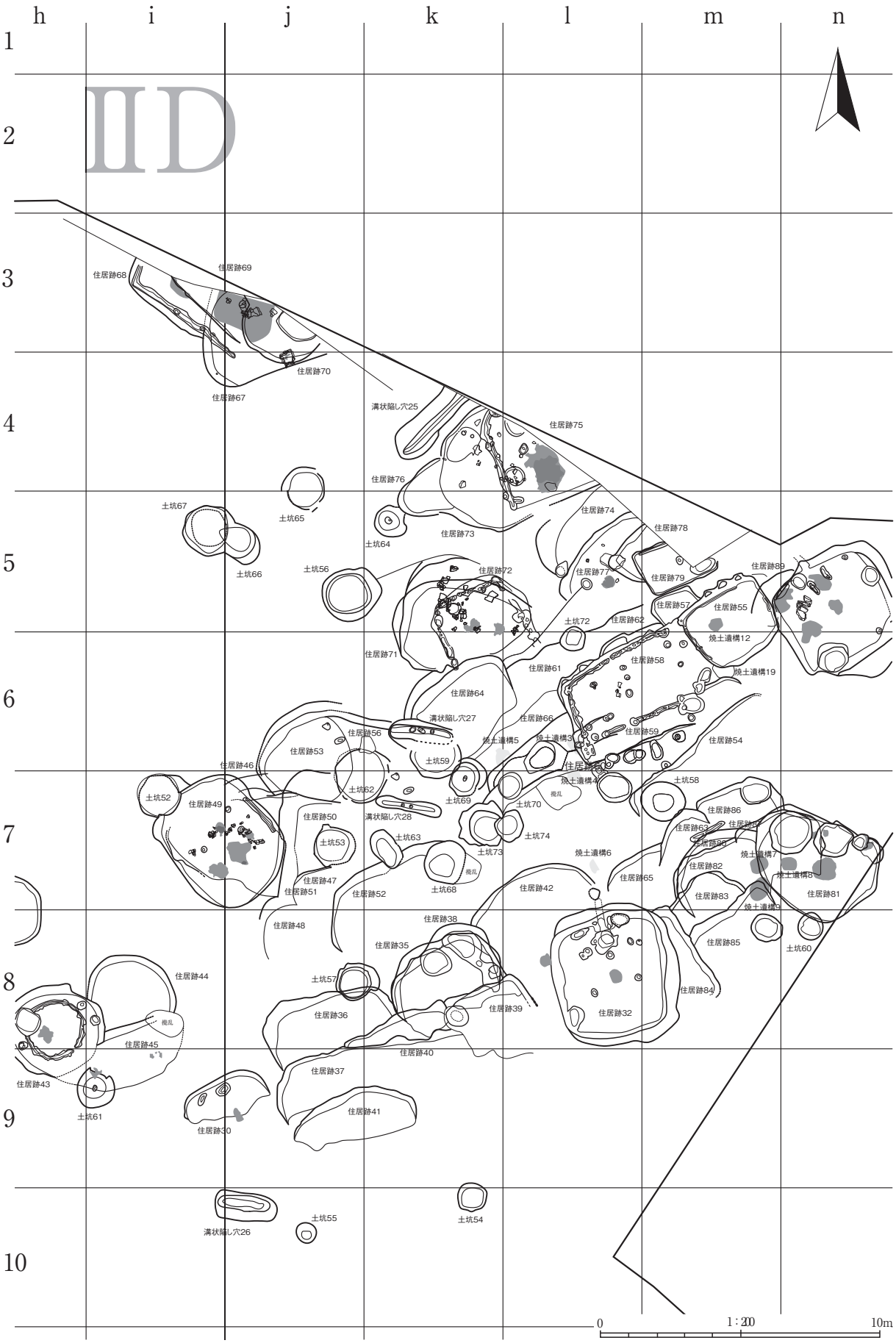
第 14 図　遺構配置分割図（6）



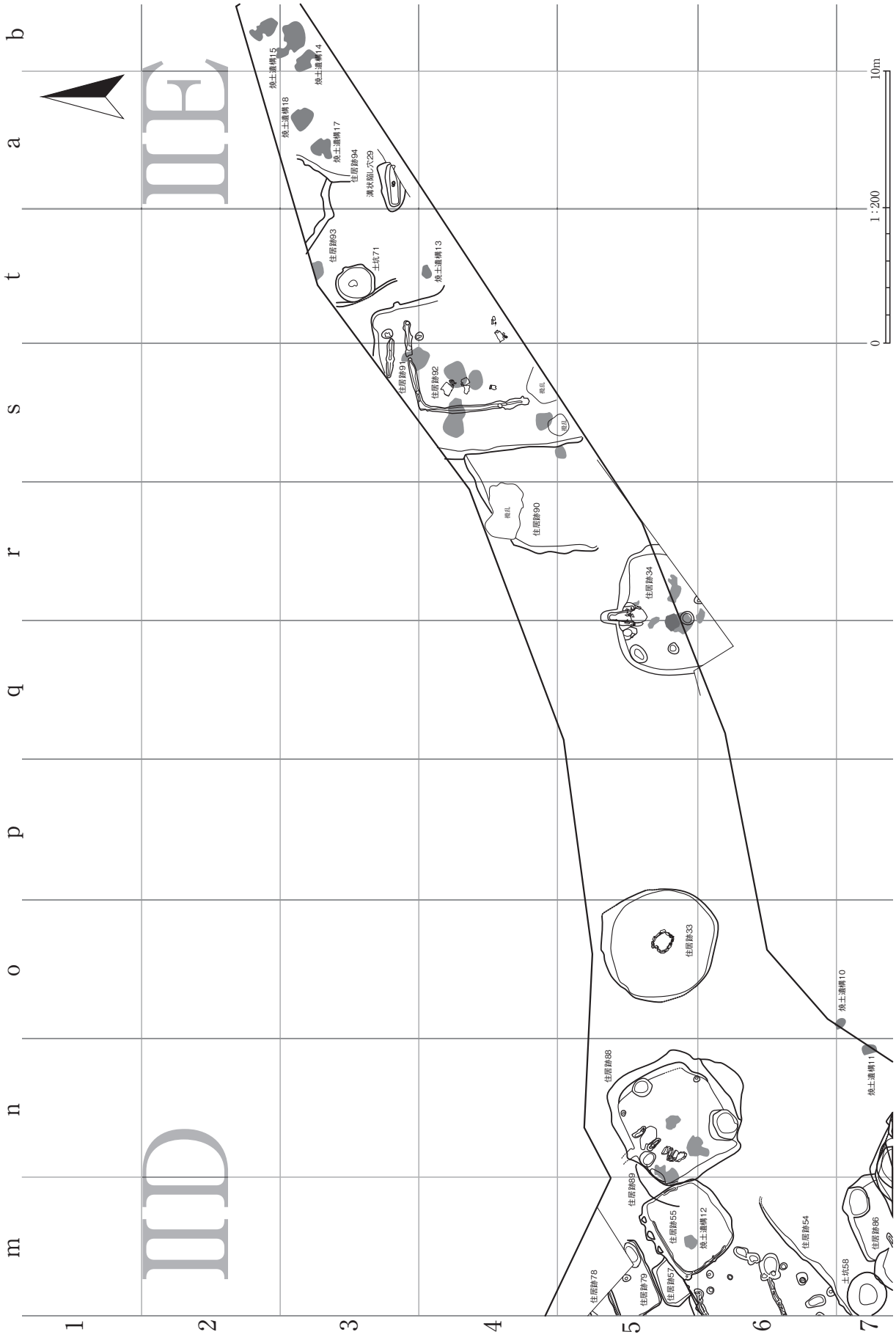
第 15 図　遺構配置分割図（7）



第 16 図　遺構配置分割図（8）



第 17 図　遺構配置分割図（9）



第 18 図　遺構配置分割図（10）

2　遺　　構

（1）竪穴住居跡

住居跡 1（第 19・20 図、写真図版 3）

〔位置・検出状況〕ⅡC11i グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、暗褐色土の不整円形範囲として認識された。

〔規模・形状〕開口部における平面形態は 6.5×5.7 m の円～楕円形を呈する。床面までの残存深度は 35cm 前後である。

〔埋土・堆積状況〕床面直上を覆っているのは炭化物を多く含む黒褐色土層（4 層）である。壁際では本層の上下に地山土再堆積層の堆積が認められる。壁崩落に伴うものであろう。埋土の中部から上部にかけては黒褐色土（Ⅱ～Ⅲ層相当）が流入し埋没を終えている。

〔壁・床面・柱穴など〕床面は 5.6×4.8 m の不整楕円形範囲で、概ね平坦に整っている。壁は、床面の縁部で短く直立気味に立ち上がったのち、大きく外傾し内弯しながら立ち上がる。床面全体から壁面下部にかけて明瞭な硬化面が認められる。柱穴は確認されなかった。

〔炉跡〕床面中央部のやや東寄りに設けられている。長径 20cm 内外の角礫を、60×55cm の環状に配した石囲炉である。皿状に凹んだ炉内部には明瞭な焼土が生成し、炉石の表面も内外に赤変が認められる。赤変深度は 8cm。焼土上面は一部に硬化部が残存するが、全体的に後世の根攪乱等の影響を受けている。

〔重複〕住居跡 5 に切られる。

〔放射性炭素年代測定〕炉内出土炭化物の測定値は 2,530±20yrBP（測定番号 IAAA-123391）。縄文時代晩期後葉頃に相当するとの結果を得ている。

〔遺構の時期〕出土遺物の年代観及び年代測定結果から、縄文時代晩期中葉～後葉と見られる。

〔出土遺物〕土器（1～5）。1 の深鉢形土器は東壁際床面上に横転した状態で出土した。

（村上）

住居跡 2（第 21・22 図、写真図版 4）

〔位置・検出状況〕ⅡC11j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、黒～暗褐色土の不整円形範囲として検出された。

〔規模・形状〕開口部における平面形態は 5.8×5.4 m の略円形を呈する。床面までの残存深度は 40 cm 前後である。

〔埋土・堆積状況〕床面を広く覆うのは炭化材と焼土粒を多く含む暗褐色土主体の 6 層である。壁際には壁崩落土と見られる褐色土層（7 層）が観察される。これらの上位には、周囲からの流入土とみられる黒褐色土層（3～5 層）が堆積している。なお、本住居跡を切っている住居跡 5 の埋土は、本住居跡の土層断面には明瞭に確認できなかった（本住居跡の精査時点においては、住居跡 5 の存在を把握していなかった）。住居跡 5 の埋土に顕著な炭化材と焼土塊の広がりが、本住居跡西半部の埋土上部に連続していた事実から、本住居跡は住居跡 5 に先行するものと判断した。

〔壁・床面・柱穴など〕床面は約 4.0 m 四方の隅丸方形の範囲とみられ、概ね平坦に整っているが、精査時に床面の識別が難しかった北東部壁際がやや低くなってしまった。この部分は住居跡 6 との重複部であり、床面に現れた住居跡 6 埋土を誤って掘り下げた可能性がある。南壁～西壁側では床面の縁部が短く立ち上がり、さらにその外側に向かって一段高いテラス状の段が張り出している。壁の上部が崩落した結果とも考えられるが、床面上の硬化面はこの張り出しの上面にも連続していることか

ら、元々存在した段差である可能性が高い。壁面は大きく外傾し内弯しながらだらだらと立ち上がっている。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕床面のほぼ中央に設けられている。礫埋置等の痕跡は認められないことから地床炉とみられる。焼土生成範囲は45×36cmの楕円形で赤変深度は7cm。炉内部は中央が皿状に凹み、焼土上面は周囲の床面と同等の硬化が認められる。
〔重複〕土坑26を切り、住居跡5・住居跡6・土坑18（炭窯）に切られている。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から縄文時代晩期中葉と見られる。
〔出土遺物〕土器（6～23）。22の深鉢は床面直上より出土。他は次の通り。石錐（1198）、石斧（1438・1439）、敲磨器類（1645・1780・1787）。石棒（1934）。

（村上）

住居跡3（第23・24図、写真図版5）
〔位置・検出状況〕ⅡC10hグリッド付近に位置する。黒～暗褐色土の不整円形範囲として検出された。
〔規模・形状〕5.4×5.0ｍの隅丸方形～円形を呈する。床面までの残存深度は40cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕地山Ⅴ層土を多く含む5層が壁際に堆積した後、床面は炭化物を多く含む黒褐色土層（4層）に広く覆われている。この上位には、同様に炭化物を含む暗褐色～黒褐色土（1～3層）が流入し埋没を終えている。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は3.5×2.4ｍの楕円形範囲で、概ね平坦に整い上面が硬化している。壁は床面縁部で短く立ち上がり、南壁～西壁側ではさらにその外側に向かって一段高いテラス状の段が張り出している。壁の上部が崩落した結果にも思われたが、床面上の硬化面はこの張出しの上面にも連続しており、元々存在した段差である可能性が高いと考えられる。炉に近い南西部の段の上面には大形の板状礫（40×40×10cm・凝灰岩）が伏せ置かれたような状態で出土している。同様の板状礫は住居跡10でも確認されている。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕床面中央から南西部に寄った位置に炉跡とみられる焼土範囲が検出されている。中央部が皿状に凹んだ120×104cmの不整楕円形範囲で、赤変深度は6cm、上面硬化が極めて顕著である。
〔重複〕住居跡5・土坑18に切られる。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から縄文時代晩期中葉と見られる。
〔出土遺物〕土器（24～28）。24～26は炉上面から周囲の床面にかけて出土したものである。

（村上）

住居跡4（第24図、写真図版6）
〔位置・検出状況〕ⅡC15jグリッド杭付近に位置する。炉跡とみられる焼土の周囲に広がる硬化面範囲として認識された。
〔規模・形状〕炉跡の周囲に広がる硬化面は径2.7ｍほどの不整円形を呈する。埋土は残存せず深度は計測不能。
〔埋土・堆積状況〕埋土が残存せず堆積状況は不明。硬化範囲は床面の一部とみられる。
〔壁・床面・柱穴など〕壁面は残存しない。上述の通り、床面は硬化範囲として認識された一部のみの残存で、平坦に整っている。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕硬化範囲のほぼ中央部に、地床炉とみられる50×45cmの焼土生成範囲を検出している。赤変深度は5cm。被熱硬化部は認められない。全体的に根攪乱の影響を受け燃焼面の上面は残存していないものと思われる。
〔重複〕土坑6と重複するが先後関係は不明である。

〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から縄文時代晩期中葉～後葉のものと推察される。
〔出土遺物〕土器（29～31）。石刀類（1936）。

（村上）

住居跡 5（第 25・26 図、写真図版 7）
〔位置・検出状況〕ⅡC11i グリッド付近に位置する。住居跡 1～住居跡 3 の間にある土坑 18 の精査時に、石囲炉の一部を検出。この炉が帰属する住居のプランを再検討したところ、褐色～暗褐色土の不整形範囲として認識された。
〔規模・形状〕本遺構の存在を認識する前に、重複する住居跡 1・住居跡 2・住居跡 3 及び土坑 18 を先行して掘り下げてしまったことから、南部及び北部を大きく失っている。対向して部分的に残存する東西の壁間長は 4.5 m、床面までの残存深度は 30㎝ 前後である。
〔埋土・堆積状況〕重複する土坑 18 や木根により、埋土は大きく乱されている。壁際には地山土の再堆積（崩落）層が見られるが、床面は暗褐色土に広く覆われている。全体に炭化物と焼土塊の混入が顕著である
〔壁・床面・柱穴など〕残存部及び土層断面（住居跡 1 断面 B–B'）にみる床面は概ね平坦に整っている。炉跡周辺の床上面は顕著な硬化が認められる。壁は床面縁部から自然に内弯外傾して立ち上がっている。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕床面の概ね中央に土器埋設石囲炉をもつ。炉石には長径 20㎝ 内外の角礫が用いられている。炉石は内外面ともに被熱痕跡が認められる。北縁から西縁にかけて炉石が失われているが、炉全体の平面形状は 70×65㎝ ほどの楕円形を呈すると思われる。残存部では炉石が二重に配されている状況が観察される。炉内部は周囲の床面よりわずかに低く、径 32㎝ ほどの略円形の焼土範囲が生成している。赤変深度は 7㎝。焼土上面には全体的に硬化部が認められるが根攪乱によって乱された部分も多い。焼土生成範囲の南縁には深鉢の胴下部が内傾するよう埋設されている。赤変深度は埋設土器の周囲で厚くなる傾向が看取される。埋設土器内部には住居床面を覆う黒褐色土が連続して堆積しており、埋没開始時点までは開口した状態が維持されていたものと推測される。
〔重複〕土坑 18 に切られ、住居跡 1・住居跡 2・住居跡 3 を切る。
〔放射性炭素年代測定〕炉内出土の土器内部から採取した炭化物の測定値は 2500±20yrBP（測定番号 IAAA–123392）。縄文時代晩期後葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観及び年代測定結果から、縄文時代晩期中葉～後葉と見られる。
〔出土遺物〕土器（32・33）。32 は炉内埋設の深鉢胴下部。

（村上）

住居跡 6（第 27・28 図、写真図版 8）
〔位置・検出状況〕ⅡC10k グリッド杭付近に位置する。住居跡 2 と住居跡 7 の間において焼土塊と炭化物が集中する不整形範囲が確認され、さらにその周囲に暗褐色土主体の不整円形範囲が認められたことから、竪穴住居跡の可能性が高いと判断し精査着手した。
〔規模・形状〕他遺構との重複により南西部及び北東部のプランが不明となっているが、完掘状況や土層断面の観察から、5.5×6.0 m ほどの円～隅丸方形を呈するものとみられる。床面までの残存深度は 30㎝ 前後である。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体は暗褐色土で、壁際では壁崩落に伴うとみられる地山ブロック層（4・5 層）が堆積する。この上位に堆積する 3a～3b 層は炭化材や焼土塊を多く含み、中央部で床面に接している。その後は周囲からの流入土（1～2 層）によって埋没したと考えられる。

〔壁・床面・柱穴など〕床面は全体に平坦に整っている。西側では床面の縁部で短く立ち上がったのち、外側に向かって一段高いテラス状の段が張り出している。壁面はごく緩く内弯しながら外傾して立ち上がっている。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕床面中央部に石囲炉をもつ。径15cm前後の角礫を外径50cmの環状に配し、内部は周囲の床面より15cmほど低く椀形に掘り凹められている。この凹みの内部からは深鉢の胴下部破片がまとまって出土した。正位の深鉢が垂直につぶれたようにも見えるが、胴下部破片の上位に底部がのる点や、隙間無く並べられている点をみれば、外側から順に瓦を重ねるように敷き置かれたと考えるのが妥当と思われる。なお、これらの土器片は炉内底面からはやや浮いた位置にあり、また土器自体の二次的被熱痕跡も常時火熱に晒されたとは思われない程度であることから、炉の廃絶に伴う儀礼等の行為によるものである可能性が高いと考えられる。
〔重複〕住居跡7を切る。また土坑26の北東部に連続する可能性のある立ち上がり（6層）に切られている。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から縄文時代晩期中葉～後葉と見られる。
〔出土遺物〕土器（34～42）。34・35は炉内から出土。このほか石斧（1440）、敲磨器類（1646～1648・1758・1781・1788・1789）が出土している。

（村上）

住居跡7（第29図、写真図版9）
〔位置・検出状況〕ⅡC9kグリッド杭付近に位置する。Ⅳ層下部～Ⅴ層上面において、暗褐色土の不整形範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部における平面形態は6.6×5.2ｍの楕円形を呈する。床面までの残存深度は35cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕褐色土を主体とする。下半部には地山（Ⅴ層）土ブロックを多く含み、さらに貼床土に似た硬化粘土塊を含んでいる。上半部には炭化物粒が散見される。周辺の住居跡に比して埋土が明るく、壁・床が不明瞭であった。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は3.7×3.2ｍの楕円～隅丸方形の範囲とみられる。概ね平坦に整うが壁際では低い部分も点在する。北壁～西壁側では床面の縁部が短く立ち上がり、さらにその外側に向かって一段高いテラス状の段が張り出している。壁面はやや内弯し外傾して立ち上がる。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕なし。
〔重複〕住居跡6に切られる。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から縄文時代晩期中葉～後葉のものと推察される。
〔出土遺物〕土器（43・44）。石斧（1441）。

（村上）

住居跡8（第30図、写真図版10）
〔位置・検出状況〕ⅡC12kグリッド付近に位置する。Ⅳ層上面において検出された石囲炉の周囲に分布する平坦な硬化面範囲として認識された。
〔規模・形状〕床面とみられる硬化面は、炉を中心として直径4.0ｍの円形の広がりを持つものとみられるが、斜面下方の北東側は流失しており全体形状は不明となっている。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅢ層相当の暗褐色土である。炉の検出をもって認識した住居跡であり、その時点で既に埋土の大半が失われていたことから、土層断面の記録は省略した。

〔壁・床面・柱穴など〕床面は根攪乱等により全体に著しく乱されている。炉の周囲のわずかな部分のみが幾分良好に残存していたことから、その周囲にブロック状に点在する硬化部を慎重に追跡することで、概ね円形を呈する範囲を把握した。壁面は明確には把握できない。斜面上方にあたる西側で床面縁部からだらだらと極緩い傾斜となって立ち上がる部分が認められるのみである。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕床面中央部に石囲炉をもつ。径 15cm 前後の角礫を外径 65cm ほどの環状に配し、内部は周囲の床面より 10cm ほど低く皿形に掘り凹められている。炉外縁の礫は一部で二重に配されており、内外面ともに被熱による赤変が顕著である。炉内部からは同一個体の鉢の大形破片が内部を塞ぐように重なって出土している。これらの土器片は炉底面から浮いた位置にあり、また土器自体の二次的被熱痕跡も常時火熱に晒されたとは思われない程度であることから、炉の廃絶に伴う儀礼等の行為による可能性が高いと考えられる。炉底面は被熱赤変が顕著な焼土が生成し上面は全体に硬化している。赤変深度は 4cm である。
〔重複〕なし。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観から縄文時代晩期中葉～後葉と見られる。
〔出土遺物〕土器（45～48）。46 は炉内出土の鉢形土器である。

（村上）

住居跡 9（第 31 図、写真図版 11）
〔位置・検出状況〕ⅡC12h グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、褐色土の不整形範囲としてとして検出された。
〔規模・形状〕4.4×3.7ｍの楕円形を呈する。床面までの残存深度は 30cm 前後である。長軸上の南東部床面には、径 130cm 前後・深さ 40cm の土坑を伴っている。
〔埋土・堆積状況〕埋土は褐色シルトを主体とする。北西部で床面を覆う 7 層の堆積に続き、内部において最も深い南東部の土坑に向かって順次埋没が進んだ状態が観察される。土坑内下部には炭化物の多い土層（4・5 層）が堆積している。
〔壁・床面・付属土坑など〕本遺構の底面は、壁際がテラス状に高く、南東部土坑開口部の周囲が一段低い楕円形の落ち込み（2.7×2.3ｍ）となっている。壁面は内弯しながら外傾して立ち上がる。斜面下方の東壁上部は流失しているものとみられる。
〔炉跡〕なし。
〔重複〕なし。
〔放射性炭素年代測定〕土坑最下部から採取した炭化物の測定値は 5,540±30yrBP（測定番号 IAAA-123393）。縄文時代前期前葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕埋土の様相と年代測定結果から縄文時代前期前葉頃のものと推察される。
〔出土遺物〕検出面付近から磨石（1649）1 点が出土。また、土器細片数点が出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡 10（第 32 図、写真図版 12）
〔位置・検出状況〕ⅡC17l グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、不明瞭な暗褐色土の広がりと、炉石と見られる石列の一部が確認された。
〔規模・形状〕南半部の掘り過ぎにより全体形が不明となったが、径 3.5ｍほどの円形を呈するものと思われる。床面までの残存深度は 10cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕後述する炉が 1 層下面に設置されていることから、本面が床面に相当するとみら

れる。1層は暗褐色土を主体としており、下位の褐色基調の土層とは明瞭に区別される。床面以下の堆積層はⅣ～Ⅴ層土の再堆積層であり掘方埋土と考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は炉周囲においては概ね平坦だが、外側に向かって緩やかに高まり、ごく緩く内弯して立ち上がる壁へと連続する。西壁際からは板状礫（28×22×8cm・凝灰岩）が伏せ置かれたような状態で出土した。同様の板状礫は住居跡3でも確認されている。柱穴は確認できなかった。なお、掘方は炉の下位のみ一段深く土坑状に掘り下げられている。
〔炉跡〕想定される床面範囲のほぼ中央に石囲炉をもつ。長径15～20cm前後の角礫が外径65cm程の環状（隅丸方形）に配されており、内外面ともに被熱による赤変が顕著である。炉内部は周囲の床面よりわずかに低く、赤変硬化が顕著な焼土の生成が認められる。赤変深度は5cm。全体に根攪乱等によって乱されており、焼土層の下位層（炉断面a-a'：2層）に含まれる焼土ブロックは根攪乱によって上方から押し込まれたものとみられる。
〔重複〕なし。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び上記板状礫の出土状況等、住居跡3との類似点から、縄文時代晩期中葉を想定したい。
〔出土遺物〕土器（49～51）。床面近くからの出土だが、いずれも小片である。

（村上）

住居跡11（第33図、写真図版13）
〔位置・検出状況〕ⅡC13lグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、不明瞭な暗褐色土の広がりとして検出された。
〔規模・形状〕5.9×3.8ｍの楕円～隅丸長方形を呈する。床面までの残存深度は25cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕壁際に地山土の再堆積層とみられる褐色土層(3層)が堆積した後、黒褐色土(2層)が流入し埋没を終えたものとみられる。なお埋土上部は木根等による攪乱が顕著である。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は概ね平坦に整い、硬化面が斑状に残存する。壁は床面縁部から短く立ち上がった後、上部はやや大きく外傾し内弯しながら上端へと至る。斜面上方の北～西部ではテラス状の段が形成されている。一方、斜面下方の東壁上部は流失している。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕なし。
〔遺構の時期〕埋土の様相が類似する他の住居跡との対比から､縄文時代晩期中葉～後葉を想定したい。
〔出土遺物〕なし。

（村上）

住居跡12（第34・35図、写真図版14）
〔位置・検出状況〕ⅡC10sグリッド付近に位置する。Ⅳ～Ⅴ層上面において、暗褐色土の不整円形範囲として認識された。
〔規模・形状〕開口部における平面形態は6.4×5.6ｍの円～楕円形を呈する。床面までの残存深度は35cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕斜面上方の北壁際では崩落土とみられる黄褐色土（4層）が厚く堆積している。その後、流入土とみられるⅢ層相当の暗褐色土によって埋没が進んだ様子が理解される。埋土中部の2層下面には焼土ブロックと炭化物の分布が認められる。埋没途上の凹地となった時点に発生した、焼土・炭化物が生ずる何らかの事象の痕跡と考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は6.1×5.2ｍの不整楕円形範囲で、概ね平坦に整い全体に硬化が認め

られる。壁は斜面上方側の北～西側で良好に残存しほぼ直立する壁面が確認できる。一方で斜面下方側では多くの部分が流失しており残存部は痕跡的である。内部からは小ピット 4 個を検出したが、本住居の主柱穴は特定できない。このほか西壁際床面からは径 110×80cm の楕円形土坑も検出されたが、Ⅳ層土主体の埋土を持つことから本住居跡に先行する落ち込みである可能性が高い。

〔炉跡〕床面中央に石囲炉をもつ。長径 20～30cm の角礫が外径 75cm 程の環状（隅丸方形）に配されており、礫は内外面ともに被熱による赤変が顕著である。炉内部は周囲の床面よりわずかに低く、赤変顕著な焼土の生成が認められる。赤変深度は 4cm。全体に根攪乱等によって乱されているが、焼土上面には硬化部が痕跡的に残存する。

〔重複〕なし。

〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から縄文時代晩期後葉と見られる。

〔出土遺物〕土器(52～57)。52 は南西部床面直上から出土した壺形土器である。このほか石匙(1202)、敲磨器類（1650～1655・1759・1790・1898）等が出土している。

（村上）

住居跡 13（第 36 図、写真図版 15）

〔位置・検出状況〕ⅡC16m グリッド付近に位置する。不整形で不明瞭な暗褐色シルトの広がりとして検出した。内部から同時に検出された焼土が帰属する住居跡を想定し精査に着手した。

〔規模・形状〕4.9×4.0ｍの不整楕円形を呈する。床面までの残存深度は 20～30cm である。北東部に 2 基の小土坑をもつ。南側の一部は木根痕と重複し攪乱を受けている。

〔埋土と堆積状況〕遺構内の堆積土は暗褐色土を主体とする。床面直上に堆積するのは、暗褐色土の 6 層である。上位の 3 層との層界は不明瞭である。北壁際には崩落土と思われる黄褐色土の堆積が確認できる（5 層）。3 層からは土器片等が集中的に出土し、南部では炭化物粒の混入が目立つ。人為的な土層は確認できなかった。

〔壁・床面〕緩やかに外傾する。床面の硬化は中心部にのみ確認できたが、南側は木根痕に破壊されており確認できなかった。

〔炉〕検出されなかった。

〔付属遺構〕内部からは土坑が 2 基検出されている（Pit1・2）。Pit1 は本住居跡に設定した断面観察用ベルトで存在を確認したものである。床面からの深さは 18cm 前後。堆積土の観察から開口していた状態から埋没が始まったと考えられる。Pit1 埋土の上部にのみⅡ層相当の黒色土の堆積が認められ、順次自然埋没が進んだものと考えられる。Pit2 は床面精査時に検出されたものである。床面からの深さは 40cm 前後。埋土には焼土粒・炭粒を含み、住居埋土とは様相が異なることから人為的埋土の可能性がある。

〔重複遺構〕検出時同時に確認した焼土は焼土遺構 2 として個別に記録した。本住居跡への帰属の有無は不明である。

〔帰属時期〕埋土の様相、遺構の形状、出土遺物から縄文時代後期～晩期とみられる。

〔出土遺物〕土器（58～62）。このほか石斧（1442）、敲磨器類（1507）、半割石（1899）等が出土した。

（佐藤）

住居跡 14（第 37 図、写真図版 16）

〔位置・検出状況〕ⅡC17m グリッド付近に位置する。不整形で不明瞭な暗褐色シルトの広がりとして検出した。

〔規模・形状〕4.8×4.2ｍの不整円形を呈する。床面までの残存深度は 18cm 前後である。南東部に

小土坑をもつ。
〔埋土と堆積状況〕堆積土は暗褐色土を主体とし、下部ほど地山土ブロックの混入が多い。床面全体を覆う3層土には炭粒が散在する。
〔壁・床面〕壁面は緩やかに外傾して立ち上がっている。床面は概ね平坦で中央にのみ若干の硬化部を確認できた。
〔炉〕検出されなかった。
〔付属遺構〕内部からは3つの土坑状の落込みが検出されている（Pit1～3）。Pit1は1.2×1.1mの略円形を呈し、床面からの深さは20cm前後である。土層断面によれば開口状態から埋没が進んだものとみられる。Pit2は82cm×78cmの円形で床面からの深さは28cm前後を測る。床面上において検出されたものである。埋土に焼土粒・炭粒を含み、住居埋土とは様相を異にすることから人為的に埋め戻されている可能性がある。Pit3は130cm×95cmの不整円形を呈する。Pit1を切っていることから本遺構に帰属しない可能性があるが、本住居跡の検出時に上面で認識されていなかったことから、本遺構に関連する土坑として、併せてここに報告している。
〔重複遺構〕土坑36と重複するが、新旧は不明である。
〔帰属時期〕遺構の形態や埋土の様相等、住居跡13との類似点から、縄文時代後期～晩期を想定したい。
〔出土遺物〕土器（63～70）。このほか半割石（1900・1901）が出土している。

（佐藤）

住居跡15（第38図、写真図版17）
〔位置・検出状況〕ⅡC18mグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において不明瞭な褐色土範囲として検出された。
〔規模・形状〕南壁側が流失している上、東壁南部がトレンチで壊されているため、全体形状は不明であるが、径3.5mほどの円～隅丸方形を呈するものと思われる。床面までの残存深度は25cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕褐色土を主体とする。床面直上から下半部を埋めている2層は、上位の1層に比して黒味を持ち、地山Ⅴ層土のブロックを含む。上半部の1層は炭化物粒をごく微量含む。
〔壁・床面・柱穴など〕残存部にみる床面は全体に平坦に整っている。壁は、床面縁部から内弯しながら外傾して立ち上がる。上述の通り、斜面下方の南壁側は流失している（削平の可能性あり）。柱穴は確認されなかったが、北東壁際に近い床面から径100cm・深さ25cmの土坑状の落ち込みが検出されている。
〔炉跡〕なし。
〔重複〕土坑31を切る。また、南縁部付近に土坑39・溝状陥し穴7が重複するが、先後関係は明らかでない（土層断面では本遺構埋土がこれらを切るように見えるが、3層が後世の土層である可能性を払拭できない）。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期後半を想定したい。
〔出土遺物〕土器（71～77）。このほか半割石（1902）が出土している。また、中央からやや東寄りの床面上で40×20×10cm程の板状の自然礫が出土している。

（村上）

住居跡16（第39図、写真図版18）
〔位置・検出状況〕ⅡC12jグリッドに位置する。Ⅱ～Ⅲ層相当の暗褐色土範囲において、石囲炉の一部とみられる被熱礫が検出されたことから、住居跡と判断し精査着手したものである。

〔規模・形状〕斜面下方の東半部が流失しているが、残存部から径約 4.0 m の円～楕円形を呈するものと推測される。床面までの残存深度は 15㎝ 前後である。
〔埋土・堆積状況〕壁際には再堆積（崩落）土とみられる 2 層が堆積する。この上位には黒褐色土（1 層）が流入しており、炉周辺（床面中央部）で床面直上を覆っている。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は概ね平坦に整い、炉を中心に半径 1.0 m 程の範囲に硬化が認められる。壁はごく緩く内弯しながら外傾して立ち上がる。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕想定される床面範囲の概ね中央に炉を持つ。50×35㎝ の楕円形範囲に赤変顕著な焼土が生成し、東側外縁に痕跡的に礫が残存することから、本来は全周に礫が配された石囲炉であったとみられる。炉内は皿状に凹み周囲の床面寄りも 8㎝ ほど低くなっている。焼土の赤変深度は 5㎝ である。
〔重複〕住居跡 17 と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から、縄文時代晩期中葉～後葉を想定したい。
〔出土遺物〕土器（78～80）。このほか敲磨器類（1656）が出土した。

（村上）

住居跡 17（第 40 図、写真図版 19）
〔位置・検出状況〕ⅡC12j グリッド付近に位置する。Ⅱ～Ⅲ層相当の暗褐色土範囲において石皿を含むやや大形の礫の点在が認められたことから、住居跡の可能性があるものと判断し精査に着手した。
〔規模・形状〕斜面下方の東半部が流失し、また西・北壁でも木根によって大きく乱されているため本来の形状は明らかでないが、残存部から径約 4.5 m の円～楕円形を呈するものと推測される。床面までの残存深度は 15㎝ 前後である。
〔埋土・堆積状況〕壁際には地山土の再堆積層とみられる褐色土（2 層）が堆積し、その上位に暗褐色土（1 層）が流入して中央部の床面を直接覆っている。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は概ね平坦に整っている。壁はごく緩く内弯しながら外傾して立ち上がる。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 16 と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び周辺類似遺構の年代観から、縄文時代晩期中葉～後葉を想定したい。
〔出土遺物〕なし。

（村上）

住居跡 18（第 41 図、写真図版 20）
〔位置・検出状況〕ⅡC17q グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、やや不明瞭な暗褐色土の広がりとして検出された。
〔規模・形状〕径約 4.3 m の略円形を呈する。床面までの残存深度は 30㎝ 前後である。
〔埋土・堆積状況〕壁際には暗褐色土（6 層）が堆積するが、床面は地山土ブロックを多量に含む 5 層に広く覆われている。5 層上面及び 3 層上面では焼土生成範囲が確認されており、埋没途上の遺構内部において燃焼を伴う何らかの行為がなされたとみられる。この上位は流入土とみられる暗褐色土に覆われ、埋没を終えている。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は概ね平坦に整うが、下位に土坑が重複する東半部はやや低く、硬化部が斑状に認められる。壁は内弯しながら外傾して立ち上がる。床面西部では径約 30㎝ の小ピット（PP1・PP2）や径約 70㎝ の土坑（PP3）が検出されたが、これらが本住居に帰属するか否かは明らかにできなかった。

〔炉跡〕床面のほぼ中央に地床炉をもつ。焼土生成範囲は 56×38cm の楕円形を呈し、上面は全体に硬化、赤変深度は 4cm である。
〔重複〕土坑 43・土坑 45 を切っている。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から、縄文時代後期前葉～中葉を想定したい。
〔出土遺物〕土器(81～85)。このほか南縁部床面から土製耳飾(1050)が出土。石器類は、石斧(1443)、敲磨器類（1657・1658・1760・1791）等。

（村上）

住居跡 19（第 42 図、写真図版 21）
〔位置・検出状況〕ⅡC18q グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面においてやや不明瞭な暗褐色土の広がりとして検出された。当初、後掲住居跡 20 と同時に精査し、その結果 2 棟に区別されたものである。
〔規模・形状〕南東部が流失しているため全体形状は不明となっているが、残存部から概ね径 5.5 m 程の円～楕円形を呈するものと推測される。床面までの残存深度は 25cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅢ層相当の暗褐色土である。斜面上方の北西側から流入した土壌によって埋没したものと考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕残存部に観察される床面は全体に平坦に整っている。上面には一部硬化がみられるが、住居跡 20 との重複部では硬化面はみられない。壁は内弯しやや外傾して立ち上がる。壁直下には断続的な周溝を持ち、この内部に杭穴状の小ピットを持つ。小ピットの間隔は不均一である。
〔炉跡〕住居跡 20 との重複部に炉跡である可能性を持つ焼土生成範囲が検出されている。114×84cm の楕円形を呈し、焼成深度は 8cm である。燃焼面は全体に硬化が認められる。断面 A–A' および B–B' のとおり、この焼土は本住居跡の床面（3 層下面）に生成しているように見える一方で、3 層を上方から切る 1 層下面での燃焼痕跡と考えることもできる。精査時に検討を重ねたが、結論は得られなかった。
〔重複〕住居跡 20 を切っている。また土坑 44 と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期を想定したい。
〔出土遺物〕土器（86～88）が、住居跡 20 との重複部から出土。

（村上）

住居跡 20（第 42・43 図、写真図版 21）
〔位置・検出状況〕ⅡC18q グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、やや不明瞭な暗褐色土の広がりとして検出された。
〔規模・形状〕南東部が流失しているため全体形状は不明となっているが、残存部から概ね径 4.3 m 程の円～楕円形を呈するものと推測される。床面までの残存深度は 32cm である。
〔埋土・堆積状況〕地山土を含む崩落土層（6 層）が壁側に厚く堆積し、その後凹地となった内部にⅢ層相当の暗褐色土（5 層）が流入し埋没したものとみられる。壁直下には周溝から連続して立ち上がる暗褐色土層（7 層）が観察できる。
〔壁・床面・柱穴など〕残存する床面範囲は全体に硬化がみられ、特に炉周辺において顕著である。残存する壁の直下には幅 20cm、深さ 10cm ほどの周溝が連続してみられることから、本来は全周していた可能性が高い。周溝内部には杭穴状の小ピットが点在し、流失した南東部にも同様の小ピットが巡る状況が確認されている。壁は周溝の外縁でほぼ垂直に立ち上がっている。
〔炉跡〕想定される床面範囲のほぼ中央に、径 68×62cm の焼土生成範囲が検出されている。燃焼面は全体に硬化が顕著である。赤変深度は 6cm。南東側縁部には被熱痕跡のある長径 25cm の角礫が埋置されていることから、本来は石囲炉であった可能性がある。

〔重複〕住居跡 19 に切られる。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期を想定したい。
〔出土遺物〕土器（86～88）が、住居跡 19 との重複部から出土。

（村上）

住居跡 21（第 44・45 図、写真図版 22）
〔位置・検出状況〕ⅡC16ｔグリッド付近に位置する。試掘トレンチ内において炉跡の可能性を持つ焼土と土器片集中部を確認したことから、住居跡と判断し精査着手したものである。遺構プランの確認面はⅣ～Ⅴ層上面で、不整形の暗褐色土範囲として認識された。
〔規模・形状〕東半部が調査区外にあり全体形状は確認できないが、長径 7.8ｍ程の楕円形を呈するものと思われる。後述のとおり 2 棟以上が重複している可能性がある。残存深度は 20㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕断面観察によれば本住居跡は2棟以上が重複している可能性が高い。北側横断面（B–B’）の 2 層は上面の硬化が顕著な焼土層であり、本層上面を床面とする住居跡が想定でき、またこの下位は 4・5 層下面を床面とする古期の住居跡と考えられる。いずれも周囲からの流入土によって埋没したものとみられる。
〔壁・床面・柱穴など〕上位（新期）住居跡は断面で見るかぎり概ね平坦な床面を持っていたと見られる。炉跡とみられる焼土の上面は硬化が顕著だが、その周囲の床面に硬化部は認められなかった。壁は床面縁部からごくなだらかな傾斜となって立ち上がっており、全体が皿状の凹みとなっている。下位（古期）の住居跡はⅤ層に達する掘り込みを持ち、床面は平坦、壁は床面の西側縁部で短く直立気味に立ち上がる部分が観察される。しかしながら後世の攪乱等により全体的に大きく破壊を受けており、単独でのプランを識別する事はできなかった。また検出された柱穴状ピットのうち主柱穴を特定することはできなかった。
〔炉跡〕上位（新期）住居跡に伴う炉跡と思われる焼土は、長径 80㎝ほどの不整楕円形範囲で、赤変深度は 10㎝前後、上面に顕著な硬化が認められる。燃焼面周辺には土器片および被熱礫等が点在する。全体に木根による攪乱が顕著である。下位（古期）住居跡に伴う炉跡は径 50㎝ほどの石囲炉である。燃焼部周縁に配された礫は南西部に部分的に残存するのみである。礫は全体に被熱による赤変が認められる。内部に生成の焼土層は木根による攪乱がひどいが、残存部では上面の硬化が認められる。赤変深度は 6㎝である。炉内中央からは土器胴下部が正立状態で出土した。
〔重複〕上述の通り、本遺構は 2 棟以上の住居跡が重複したものである可能性が高い。他の遺構との重複はない。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から、縄文時代後期を想定したい。
〔出土遺物〕土器（89～92）。89 が炉内出土。

（村上）

住居跡 22（第 46 図、写真図版 23）
〔位置・検出状況〕ⅡC5ｍグリッド付近に位置する。Ⅳ～Ⅴ層上面において、Ⅲ層相当の暗褐色土による不整形範囲として認識された。
〔規模・形状〕斜面下方の南側が流失しているが、平面形態は 4.2×4.0ｍほどの円形～隅丸方形と推定される。床面までの残存深度は 16㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕壁際に崩落土とみられる 2 層が堆積したのち、中央部にⅢ層相当土（1 層）が流入している。全体に根攪乱が顕著である。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は概ね平坦だが斜面下方にわずかに傾斜する部分がある。上面には硬化

部が点在する。全体に根攪乱の影響を受け小規模な凹凸が目立つ。残存部にみられる壁は内弯し外傾して立ち上がる。斜面下方は失なわれている。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕床面中央よりやや南寄りに石囲炉をもつ。長径 15～35㎝の角礫が外径 60×70㎝の環状に配されており、内外面ともに被熱による赤変が顕著である。炉内部は周囲の床面より 10㎝ほど低くなっており、赤変顕著な焼土の生成が認められる。赤変深度は 5㎝。全体に根攪乱等によって乱されているが、焼土上面には硬化部が痕跡的に残存する。
〔重複〕なし。
〔放射性炭素年代測定〕炉内出土炭化物の測定値は 2,500±20yrBP（測定番号 IAAA-132325）。縄文時代晩期後葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観及び年代測定結果から、縄文時代晩期中葉～後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（93～97）。このほか、敲磨器類（1792）、石皿（1914）等が出土した。

（村上）

住居跡 23（第 47・48 図、写真図版 24）
〔位置・検出状況〕ⅡC5e グリッド付近に位置する。トレンチ内においてⅤ層を切る褐色土の落ち込みとして認識された。
〔規模・形状〕開口部における平面形態は 3.9×3.2ｍの楕円形を呈する。床面までの残存深度は 30㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕床面直上を覆うのはⅣ層相当の褐色土（4 層）である。その後順次流入土によって埋没が進んだと考えられる。上位の土層ほど暗い色調を呈し、2 層には炭粒の混入が目立つ。
〔壁・床面・柱穴など〕床面は概ね平滑に整うが、中央部が最も低い浅皿状を呈する。壁は内弯しやや大きく外傾して立ち上がる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕なし。
〔重複〕なし。
〔遺構の時期〕層位的見地から、概ね縄文時代前期と考えられる。
〔出土遺物〕なし。

（村上）

住居跡 24（第 49・50 図、写真図版 25）
〔位置・検出状況〕ⅡC5i グリッド付近に位置する。Ⅲ～Ⅳ層上面において、遺物の分布を伴う黒褐色土の不整形範囲として認識された。
〔規模・形状〕後世の削平や根攪乱等により西半部が失われているため全体形状は不明となっている。残存部から推定される平面形態は径 6.8ｍほどの円～楕円形とみられるが、後述のとおり 2 棟が重複している可能性が高い。床面までの残存深度は 30㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕断面 A-A’ではセクションポイント A から 2.8ｍ付近に、断面 B-B’ではセクションポイント B から 5.5ｍ付近に、それぞれ 3 層または 4 層下面の立上がりが認められる。この立上がりは床面残存範囲の西端部に位置する炉跡から 2.3ｍ程の位置に当たり、その外側の 5 層以下の土層を切っていることから、炉跡の帰属する新期住居跡の壁であると理解できる。新期住居跡の埋土はⅢ層土を主体とする。最下部には掘方埋土とみられる地山ブロックを含む土層（A-A’・B-B’4 層）が堆積し、その上位が流入土によって覆われた様子が見てとれる。一方、古期住居跡の埋土は断面 A-A’および B-B’の 5・6 層である。新期と同様Ⅲ層土を埋土の主体とするが、新期住居跡のそれに比しやや明るい。埋土下部（6 層）には崩落土とみられる地山ブロックが目立つ一方、その上位には混

入物のほとんどみられない暗褐色土（5層）が流入・堆積している。
〔壁・床面・柱穴など〕壁が残存するのは古期住居跡の東半部のみである。床面縁部からやや内弯しながらなだらかに立ち上がっている。新期住居跡の壁面も断面にみる限り同様と思われる。床面は新期・古期に高低差が無く全体に平坦に整っている。根攪乱により乱されている部分も多いが、斑状に確認できる硬化部が残存している。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕石囲炉1基を検出した。上述のとおり新期住居跡に伴う可能性が高い。根攪乱により大きく乱されているが、炉内には長径60cmの不整形な焼土生成範囲が認められ、その周縁に径15cm程度の被熱角礫が一部残存している。古期住居跡に伴う炉跡は検出されていない。新期住居の構築時に失われた可能性が高い。
〔重複〕新期・古期の2棟が重複した状態となっている。その他の遺構の重複はない。
〔放射性炭素年代測定〕床面出土深鉢（98）付着炭化物の測定値は2,690±20yrBP（測定番号IAAA-132326）。縄文時代晩期中葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観及び年代測定結果から、縄文時代晩期中葉と見られる。
〔出土遺物〕土器（98～112）。深鉢・浅鉢・台付土器等、多様な器種が認められる。このほか、敲磨器類（1659～1661・1761）、半割石（1827・1828）。独鈷石（1933）、石鍬（1946）等が出土している。

（村上）

住居跡25（第51図、写真図版26）
〔位置・検出状況〕ⅡC6nグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、暗褐色土の不整形範囲として認識された。
〔規模・形状〕平面形態は2.5×2.4ｍの不整隅丸方形を呈する。より大きな方形（長方形）住居跡の北東隅が残存したものである可能性が高い。床面までの残存深度は28cmである。
〔埋土・堆積状況〕Ⅳ層土を主体とする。床面は崩落再堆積土とみられるⅤ層類似土に覆われており、その後順次流入土によって埋没したと考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕残存する斜面上方の壁面は内弯し外傾して立ち上がる。床面は中央部が平坦だが壁直下では凹凸が目立つ。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕有無不明（残存しない）。
〔重複〕なし。
〔遺構の時期〕層位的見地から、概ね縄文時代前期と考えられる。
〔出土遺物〕なし。

（村上）

住居跡26（第51図、写真図版27）
〔位置・検出状況〕東部、ⅡD8ｇグリッド付近に位置し、検出面はⅤ層である。焼土の広がりとその周辺の不明瞭な褐色土のプランとして確認した。
〔規模・形状〕傾斜地に構築されているため、斜面下方にあたる南側の大半は消失している。400×180cmが残存し、楕円形が推測される。残存する床面までの最大深度は16cmを測る。
〔埋土・堆積状況〕褐色土と暗褐色土の2層に分層した。層位状況から自然堆積の可能性が高い。
〔壁・床面・柱穴など〕残存する壁は床面から緩やかに立ち上がる。床面はやや凹凸が見られるものの、概ね平坦である。遺構北東側には土器（RP1・2）がまとまって出土した。
〔炉跡〕中央からやや南寄りに地床炉が検出された。撹乱が著しく、明瞭な被熱範囲として捉えるのが難しいが、暗赤褐色土が82×46cmに広がる。焼成が弱いせいか、締まりも認められず、焼成深度

は 3cm ほどである。
〔重複〕なし。

（小林）

〔放射性炭素年代測定〕床面出土土器（113）付着炭化物の測定値は 1,840±20yrBP（測定番号 IAAA-132327）。弥生時代後期に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕出土遺物の形態及び年代測定結果から、弥生時代後期とみられる。
〔出土遺物〕土器（113）。弥生時代後期の甕形土器である。所見の詳細は後述する（→ p.236）。

（村上）

住居跡 27（第 52 図、写真図版 28）
〔位置・検出状況〕中央部北側、ⅡC5s グリッドに位置し、Ⅴ層面で検出した。トレンチにより周辺全体を掘り下げたことにより、暗褐色土の混入する明瞭な円形プランとして認識した。
〔規模・形状〕南東側はトレンチにより消失するが、残存部から径約 250cm のやや歪な円形を呈するものと推測される。残存する床面までの深さは最深部で 26cm を測る。
〔埋土・堆積状況〕6 層に細分した。上位のにぶい黄褐色土は地山と近似するものである。全体的には暗褐～褐色土を主体とする土層で、最下部の 6 層には炭化物が多く含まれる。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は山側では床面から緩やかに立ち上がるが、その他では外傾する。床面は凹凸が認められ、中央から北寄りには皿状に窪むピット 1 が見られる。ピット 1 は 56×52cm の歪な方形状を呈し、6 層と同じ炭化物を多く含む暗褐色土で覆われる。底面には焼土が部分的に確認できる。上記の埋土の状況と併せ、焼失住居である可能性が考えられる。
〔炉跡〕中央からやや南寄りに 58×55cm の楕円状に礫が組まれる石囲炉が検出された。内部には暗赤褐色の焼土が見られるが、木根の浸食により部分的な広がりのみである。また、中央から西寄りには土器（RP1）が埋設されている。
〔重複〕なし。
〔遺構の時期〕出土遺物や炉の形態等から、縄文時代晩期に帰属するものと思われる。
〔出土遺物〕土器（114・115）。いずれも炉内から出土した。

（小林）

住居跡 28（第 53 図、写真図版 29）
〔位置・検出状況〕北東部、ⅡC6f グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。上部を覆う土層は検出面と近似しており、プランは不明瞭である。焼土の一部が確認されたことにより遺構として認識した。
〔規模・形状〕傾斜地に構築されているため、斜面下方にあたる南側の大半は消失している。残存部から長辺 590cm×短辺 210cm 以上の長方形が推測される。残存する床面までの最大深度は 50cm を測る。
〔埋土・堆積状況〕3 層に細分したが、Ⅴ層とほぼ同じ褐色土が主体となる。山側から一気に流入し埋没した自然堆積と判断した。
〔壁・床面・柱穴など〕残存する壁はほぼ直立する。床面にはやや凹凸が見られる。北側の中央には長さ 134×幅 18cm、深さ 20cm の壁溝が部分的に確認された。また、壁溝の西方には土器（RP1）がまとまって出土した。
〔炉跡〕中央からやや南寄りに 61×42cm の不整な楕円状に広がる地床炉が検出された。赤変し上面はやや堅く締まる。焼成深度は 5cm を測る。
〔重複〕なし。
〔遺構の時期〕出土遺物から、縄文時代前期末葉に帰属するものと思われる。

〔出土遺物〕土器（116）。壁際床面から出土した深鉢である。このほか石核（1405）が出土している。

（小林）

住居跡 29（第 54 図、写真図版 30）

〔位置・検出状況〕東部、ⅡD7h～8h グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。比較的明瞭なにぶい黄褐色土の円形プランとして検出した。

〔規模・形状〕276×269cm の円形～方形に近い形状を呈し、床面までの最大深度は 44cm を測る。

〔埋土・堆積状況〕7 層に細分した。中位の暗褐色土を除き、褐色土・黄褐色土を主体とした地山起源の土層と考えられ、山側から自然流入したものと判断される。

〔壁・床面・柱穴など〕壁はいずれも床面から緩やかに繋がり、直角に近い角度で立ち上がる。

床面は概ね平坦である。北西側において 2 基のピット状の掘り込みが確認された。当初は柱穴と考えられたが、別の箇所で見当たらないこと、土坑状のものと連結することから、その機能面については判然としない。

〔炉跡〕中央の南寄りに 89×43cm の楕円状に広範囲に広がる地床炉が確認された。上面は非常に硬く締まり、焼成深度は 5cm に及ぶ。

〔重複〕なし。

〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物から、縄文時代前期に帰属するものと思われる。

〔出土遺物〕土器（117～119）。このほか敲磨器類（1508）が出土している。

（小林）

住居跡 30（第 55 図、写真図版 31）

〔位置・検出状況〕ⅡD9j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、暗褐色土の半月形範囲として認識された。

〔規模・形状〕斜面下方の南半部は流失しており、全体形状は不明となっているが、対向する東西の壁間長は 3.1 m を測る。床面までの残存深度は 12cm である。

〔埋土・堆積状況〕壁際～床面直上を覆うのは崩落層とみられる 2 層である。その上位にやや暗い褐色土（1 層）が流入し埋没が進んだ状況が理解される。

〔壁・床面・柱穴など〕床面は概ね平坦に整い、全体に若干の硬化が認められる。残存する壁は内弯し外傾して立ち上がる。柱穴は確認されなかった。

〔炉跡〕想定される床面範囲の中央付近で径 24cm の焼土生成範囲が検出されている。床面残存範囲の南辺（残存部と流失部の境界）に位置しており、辛うじて一部が残存したものとみられる。上部の流失により燃焼面は失われているらしく硬化部は認められない。

〔重複〕なし。

〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物等から縄文時代後期以降と推察されるが詳細は不明である。

〔出土遺物〕土器（120）。

（村上）

住居跡 31（第 55 図、写真図版 32）

〔位置・検出状況〕中央部、ⅡD6f グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。大径の不明瞭なプランであったため、トレンチにて状況を確認した結果、硬化した平坦な床面が見られたため竪穴住居と判断した。

〔規模・形状〕391×380cm の円形を呈する。床面までの最大深度は 92cm を測る。

〔埋土・堆積状況〕3 層に細分した。褐色土を主体とし、層位状況から自然堆積と考えられる。

〔壁・床面・柱穴など〕壁は床面からほぼ直立し、上半部で外反する。床面には凹凸が見られる。
〔炉跡〕確認されなかった。
〔重複〕なし。
〔放射性炭素年代測定〕床面直上から採取した木炭の測定値は4,890±30yrBP（測定番号IAAA-132331）。縄文時代前期後葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕出土遺物及び年代測定結果から、縄文時代前期後葉に帰属するものと思われる。
〔出土遺物〕土器（121・122）。石核（1412）。カツオブシ形石製品（1932）。

（小林）

住居跡32（第56・57図、写真図版33・34）
〔位置・検出状況〕ⅡD8lグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面において黒褐色土の不整形範囲として認識された。
〔規模・形状〕開口部における平面形態は5.0×4.6mの隅丸方形を呈する。床面までの残存深度は45cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕床面直上は地山黄褐色土ブロックの混入が顕著な8層に覆われている。壁際では層厚を増す部分がみられるものの、内部は広く10cm程度の層厚を保ち、上面も概ね平坦に整っている状況を考慮すれば、人為的な埋め均しが行われた可能性が高いと考えられる。下部を埋め戻された住居跡凹地内では、中央～南部にかけて8層上面を燃焼面とする焼土（5層）の生成が広範囲に認められ、直上に木炭片や鉄滓、焼骨細片が集中して分布する。これより上位はⅡ層相当土の流入によって埋没を終えた状況が理解される。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は四辺で残存しており、下部は直立、上部は外反して立ち上がる。床面は平坦に整い、カマド周辺から中央部にかけて上面の硬化が顕著である。南東部は木根の攪乱によりやや大きく乱されている。床面からは、カマド両脇および南西隅付近の壁際で楕円形ピット（長径70cm前後・深さ20cm）が検出されたほか、柱穴状ピット（pp1～4：径25cm・深さ30～50cm）が確認されている。
〔カマド〕北壁のほぼ中央に設置されている。壁際にわずかに残存する袖部及び燃焼部焼土の範囲から概ね80cm四方の規模を持つと推測される。向かって右側の袖部には芯材とされた角礫が直立した状態で残存するが、他の芯材礫は周囲に散らばった状態で出土しており、構築土も大半が失われている。燃焼部は床面よりも約5cm低く皿状に凹んでおり、50×40cmの楕円形の焼土が生成している。赤変・上面硬化ともに顕著で、赤変深度は8cmである。燃焼部焼土の直上には灰層とみられる薄層が堆積し、焼骨細片がやや多量に含まれている。煙道は北壁から直交方向に約80cm水平に延びたところで、屈曲し外傾して65cm立ち上がり煙出口へと連続している。
〔炉・焼土〕カマド正面の床面中央部において50×42cmの焼土生成範囲が検出された。赤変・硬化ともに顕著、赤変深度は8cmである。また上述の通り、埋土8層の上面において径2.0m程の大きな焼土範囲が検出されている。断面観察によれば、同様の燃焼行為が数度繰り返された結果と思われるが、一単位ごとの平面形は把握できていない。焼土範囲の中央部には直径20cmほどの還元部が認められ、強力な火熱が生じる行為の痕跡と思われた。焼土の上面にはカマド燃焼部にみられたのと同様、焼骨細片をやや多量に含む灰層状の薄層が堆積していた。周辺からは羽口片・鉄滓・木炭片等の出土がみられることから、以上の焼土は鍛冶炉である可能性が高いと考えられる。
〔重複〕住居床面を用いた段階と、8層土敷き均し後の2段階がある。他の遺構の重複はない。
〔放射性炭素年代測定〕8層上面に生成された鍛冶炉状焼土範囲直上の炭化物の測定値は950±

20yrBP（測定番号 IAAA-132328）。古代～中世に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕遺構・遺物の形態及び年代測定結果等から、平安時代（10 世紀頃）と考えられる。
〔出土遺物〕土器（123～127）。123・124 は土師器甕口縁部破片である。このほか石鏃（1082～1086）、石匙（1204）、石斧（1444）、敲磨器類（1598）が出土。また鉄関連遺物として、鉄製紡錘車（1955）、刀子（1956）、鞴羽口（1964～1966）、鍛冶滓（1968～1970）が出土している。

（村上）

住居跡 33（第 58 図、写真図版 35）
〔位置・検出状況〕ⅡD5o グリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層上面において、黒褐色土の明瞭な円形プランとして検出された。
〔規模〕平面形は 4.3 m×4.0 m の略円形を呈する。残存深度は 12cm である。
〔埋土・堆積状況〕床面直上は褐色土層に覆われ、その後の凹地に黒色土が流入している。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は斜面下方の南側が一部流失しているが、やや内弯し外傾して立ち上がる様子が確認できる。床面は全体的に平滑に整っている。柱穴等の床面施設は確認されなかった。
〔炉跡〕床面のほぼ中央に、北西-南東方向に長軸をもつ楕円形の石囲炉が設けられている。炉内には厚さ 8～9cm ほどの焼土の生成が認められた。根攪乱等により残存状況は良くない。炉石は一部に被熱による赤変が認められる。
〔重複遺構〕なし
〔遺構時期〕埋土の状況及び出土遺物等から、縄文時代後期前葉を想定したい。
〔出土遺物〕土器（128～139）。石鏃（1115～1117・1197）、石匙（1224・1249・1262）、敲磨器類（1529・1531・1683・1684）、半割石（1852～1855）

（森）

住居跡 34（第 59・60 図、写真図版 36・37）
〔位置・検出状況〕ⅡD5q グリッド付近に位置する。Ⅲ～Ⅳ層上面において、黒褐色土の不整形範囲として認識された。
〔規模・形状〕南壁側が調査区外にあり全体形状は不明となっているが、平面形は隅丸方形を呈するものとみられる。対向する東西壁間長は 4.7 m を測る。床面までの残存深度は 45cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕床面中央部及び壁際には、崩落土とみられる地山土ブロックを含んだ暗褐色土層（7・8 層）が堆積している。その後凹地となった内部に周囲からの流入土が順次堆積した状況が理解される。なお、凹地となった後の 6 層上面において、焼土の生成をともなう燃焼行為の痕跡が認められた。これについては後述する。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は斜面上方側がやや外傾するほかは、ほぼ直立した状態で残存している。床面は概ね平坦に整い、カマド周辺から中央部にかけて上面の硬化が認められる。カマド脇の壁際と床面上からは複数のピットが検出されたが、主柱穴の特定には至らなかった。
〔カマド〕北壁の中央のやや西寄りに設置されている。壁側に残存する袖部と燃焼部焼土の範囲から概ね 80cm 四方の規模を持つと推測される。壁近くの両袖部には芯材の角礫が直立した状態で残存するが、他の芯材礫は周囲に散らばった状態で出土しており、構築土も多くが失われている。燃焼部は床面よりも約 5cm 低く皿状に凹んでおり、径 60cm の円形の焼土が生成している。赤変深度は 8cm、上面の硬化は顕著である。燃焼部焼土を覆う土層には焼骨細片がやや多量に含まれる。煙道は北壁と直交して外部に延びており、底面が内弯して立ち上がって壁から 1.0 m の煙出口へと連続している。煙出口の埋土上部からは径 20cm 前後の被熱痕ある角礫数個が内部に落ち込んだような状態で出土した。

〔炉・焼土〕住居内部からは計6箇所の焼土生成部が確認されている(焼土1～6)。このうち焼土1は、住居跡内に6層以下の土層が堆積した段階において、6層上面を燃焼面とする行為によって生成したものである。径80cmの円形で、縁部に比して中央が5cmほど低い皿状を呈する。赤変深度は10cm。上面の硬化が顕著で中心部が弱く還元し、同心円状の色調変化が認められる。この燃焼面の直上は径1～30mmの焼骨細片を多量含む土層に覆われている。また、焼土1の下位の床面からは同様の焼土生成範囲が検出されている（焼土6)。焼土6は径60cmの円形で、赤変深度は5cm。焼土1と同様、上面の硬化が顕著で浅皿状に凹み、中心に弱い還元部が認められる。以上の2基は鍛冶炉の可能性が高い。その他の4基(焼土2～5)は床面上に生成したものであるが、不整形で焼成深度も浅いことから、一時的な燃焼行為（あるいは上屋焼失等、廃絶後）によるものの可能性がある。
〔重複〕住居床面を用いた段階と、6層土堆積後の2段階がある。他の遺構の重複はない。
〔遺構の時期〕層位的見地及び遺構・遺物の形態等から、平安時代（10世紀）と考えられる。
〔出土遺物〕土器（140～145)。140～143はカマド周辺から出土した土師器甕片である。このほか敲磨器類（1768)、鉄釘（1960・1961）が出土している。

（村上）

住居跡35（第61～63図、写真図版38）
〔位置・検出状況〕ⅡD8kグリッド付近に位置する。Ⅳ～Ⅴ層上面において、暗褐色土の不整形範囲として認識された。
〔規模・形状〕斜面下方が流失しており全体形状は不明であるが、残存部から径4.2m程の円形または隅丸方形を呈するものと推測される。床面までの残存深度は18cmである。
〔埋土・堆積状況〕床面直上は壁崩落土とみられる地山土を含む土（第63図A–A'・B–B'の2層）に覆われ、その後周囲からの黒褐色土（同1層）の流入により埋没が進んだ状況が理解される。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は斜面上方側に痕跡的に残存しており、床面縁部から大きく外傾し極緩く内弯しながらだらだらと立ち上がっている。床面も同様に斜面上方側が半月形に残存する。上面は平坦に整い全体に硬化が認められる。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡38・住居跡39・住居跡40を切っている。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び埋土の様相等から縄文時代後期以降と考えられるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕土器（146～149)。石斧（1480)、敲磨器類（1509)、半割石（1829)。

（村上）

住居跡36（第61・62・64図、写真図版39）
〔位置・検出状況〕ⅡD9jグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。
〔規模・形状〕斜面下方を流失しており全体形状は不明であるが、残存部から隅丸方形を呈するものと推測される。対向して残存する東西壁間長は4.8m、床面までの残存深度は30cmである。
〔埋土・堆積状況〕第62図断面A–A'4～6層、同B–B'4～5層が本遺構の埋土である。斜面上方から流入したⅢ～Ⅳ層相当土により順次埋没した状況が理解される。
〔壁・床面・柱穴など〕斜面上方がやや大きく外傾するが、東西両壁は概ね直立に近い状態を保っている。床面は概ね平坦に整っており、全体に硬化が認められる。柱穴は確認されなかった。

〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 37・住居跡 48 に切られ、土坑 57 を切る。
〔遺構の時期〕層位的見地及び出土土器の年代観等から、縄文時代前期前葉と考えられる。
〔出土遺物〕土器（150～154）。鐸形土製品（1051）。石鏃（1107）、敲磨器類（1520）。

（村上）

住居跡 37（第 61・62・64 図、写真図版 39）
〔位置・検出状況〕ⅡD9k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。
〔規模・形状〕斜面下方が流失し、また他遺構との重複で失われた部分もあることから、全体形状は不明となっているが、残存部から隅丸長方形を呈するものと推測される。残存部の最大値は 7.3×1.6 m、床面までの残存深度は 30㎝ である。
〔埋土・堆積状況〕第 62 図断面 A–A’ 1～2 層、同 B–B’ 1～3 層、同 C–C’ 5 層が本遺構の埋土である。壁際から床面にかけて崩落土とみられる地山ブロックを含む土層が堆積したのち、斜面上方から流入したⅢ～Ⅳ層相当土により順次埋没した状況が理解される。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は内弯し外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦に整っており、全体に硬化が認められる。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 36・住居跡 41 を切り、住居跡 40 に切られる。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉と考えられる。
〔出土遺物〕土器（155～157）。石匙（1267）、敲磨器類（1521）。

（村上）

住居跡 38（第 61・62・65 図、写真図版 40）
〔位置・検出状況〕ⅡD9k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。
〔規模・形状〕斜面下方の流失や他遺構との重複により全体形状は不明となっているが、残存部から概ね隅丸方形を呈するものと推測される。対向して残存する東西壁間長は 4.1 m、床面までの残存深度は 20㎝ である。
〔埋土・堆積状況〕第 62 図断面 C–C’ 4 層、同 D–D’ 5～8 層が本遺構の埋土である。下部にはⅤ層土ブロックを含む崩落土層が堆積したのち、斜面上方から流入したⅣ層相当土により順次埋没した状況が理解される。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は内弯し外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦に整っており、全体に硬化が認められる。北壁及び東壁直下には土坑状と溝状の落込みを伴う。柱穴は確認できなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 35・住居跡 39・住居跡 40 に切られている。
〔遺構の時期〕層位的見地及び周辺類似遺構との対比から、縄文時代前期前半を想定したい。
〔出土遺物〕土器（158）。石鏃（1123）。

（村上）

住居跡 39（第 61・62・65 図、写真図版 40）

〔位置・検出状況〕ⅡD9k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。

〔規模・形状〕斜面下方の流失や他遺構との重複に加え、中央部から南部にかけて大きく攪乱を受けており全体形状は不明となっている。残存する北東部の形状から隅丸方形を呈するものと推測される。北東及び北西隅部から推測される北壁長は約 3.0 m、東壁の残存長は 1.2 m である。床面までの残存深度は 22㎝ である。

〔埋土・堆積状況〕第 62 図断面 D–D' 1～4 層が本遺構の埋土である。壁際から床面にかけてⅤ層土ブロックを多く含む崩落土層の堆積したのち、斜面上方から流入したⅢ～Ⅳ層相当土によって順次埋没した状況が理解される。

〔壁・床面・柱穴など〕残存する壁は内弯しながらやや外傾して立ち上がっている。床面は北壁際のごく一部が残存するのみだが、概ね平坦に整い部分的に弱い硬化が認められる。柱穴は確認されなかった。

〔炉跡〕検出されなかった。

〔重複〕住居跡 38 を切る。また住居跡 37・住居跡 40 と一部重複するが先後関係は把握できなかった。

〔遺構の時期〕層位的事実及び出土土器の年代観等から、縄文時代前期後半を想定したい。

〔出土遺物〕土器（159～162）。石鏃（1124）。

（村上）

住居跡 40（第 61・62・66 図、写真図版 39）

〔位置・検出状況〕ⅡD9j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。

〔規模・形状〕斜面下方が流失し、また他遺構との重複で失われた部分もあることから、全体形状は不明となっているが、残存部から隅丸長方形を呈するものと推測される。北東及び北西隅部から推測される北壁長は約 3.9 m、北壁上端から床面残存範囲南縁までの最大値は 1.3 m である。床面までの残存深度は 22㎝ である。

〔埋土・堆積状況〕第 62 図断面 B–B' 2～3 層が本遺構の埋土である。壁際から床面にかけてⅤ層土ブロックを多く含む崩落土層の堆積したのち、斜面上方から流入したⅢ～Ⅳ層相当土によって順次埋没した状況が理解される。

〔壁・床面・柱穴など〕残存する壁は内弯しながらやや外傾して立ち上がっている。床面は北壁際のごく一部が残存するのみだが、概ね平坦に整い部分的に弱い硬化が認められる。柱穴は確認されなかった。

〔炉跡〕検出されなかった。

〔重複〕住居跡 35 に切られ、住居跡 36・住居跡 37・住居跡 38 を切る。また住居跡 39 と重複するが先後関係は不明である。

〔遺構の時期〕層位的事実及び出土土器の年代観等から、縄文時代前期後半を想定したい。

〔出土遺物〕土器（163～167）。

（村上）

住居跡 41（第 61・66 図、写真図版 39）

〔位置・検出状況〕ⅡD9k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。

〔規模・形状〕斜面下方が流失しており全体形状は不明となっているが、残存部から楕円形または隅丸方形を呈するものと推測される。残存範囲の規模は 4.6×1.9 m である。床面までの残存深度は 22 cm である。

〔埋土・堆積状況〕第 62 図断面 A–A’ 7 層、同 B–B’ 6 層が本遺構の埋土である。斜面上方の北壁際から床面にかけて、Ⅴ層土ブロックの目立つ土層の堆積が認められる。

〔壁・床面・柱穴など〕残存する壁は内弯しながらやや外傾して立ち上がっている。床面は概ね平坦に整い、全体に弱い硬化が認められる。柱穴は確認されなかった。

〔炉跡〕検出されなかった。

〔重複〕住居跡 37 に切られる。

〔遺構の時期〕層位的事実及び周辺類似遺構の形態等から、縄文時代前期前半を想定したい。

〔出土遺物〕土器細片がごく少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡 42（第 61・67 図、写真図版 41）

〔位置・検出状況〕ⅡD8l グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、暗褐色土の不整形範囲として認識された。

〔規模・形状〕斜面下方の流失や他遺構との重複により全体形状は不明となっているが、残存部から概ね円形を呈するものと推測される。残存部の最大値は 4.7×3.5 m、床面までの残存深度は 20cm である。

〔埋土・堆積状況〕斜面上方の壁際にはⅤ層土ブロックの目立つ褐色土層（3 層）が堆積し、その後上方からの流入土（2 層）によって埋没した状況が理解される。

〔壁・床面・柱穴など〕壁は床面縁部に内弯して連続し、ほぼ直立して立ち上がる。床面は壁際では平坦に整い上面に弱い硬化も認められるが、中央部から斜面下方ではごく緩く傾斜し硬化もみられない。断面観察では把握できなかったが、中央部から南部にかけては床面の上部が流失している可能性が高い。柱穴は確認されなかった。

〔炉跡〕径 46cm の不整円形を呈する焼土生成部が確認されている。本住居跡に伴う可能性がある。

〔重複〕住居跡 32・住居跡 35 に切られる。また住居跡 38 と重複するが先後関係は不明である。

〔遺構の時期〕層位的見地及び埋土の様相から、概ね縄文時代後期を想定したい。

〔出土遺物〕土器（168～171）。石鏃（1162）、敲磨器類（1564）、半割石（1876～1878）。

（村上）

住居跡 43（第 68・69 図、写真図版 42）

〔位置・検出状況〕ⅡD9h グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。褐色土の中央に黒褐色土が混じる円形の明瞭なプランで検出した。

〔規模・形状〕斜面下方が地形により消失している。残存部から径 350cm の円形が推測され、床面までの深さは 84cm を測る。

〔埋土・堆積状況〕10 層に細分した。暗褐色土と褐色土を主体とする土層で、自然堆積と思われる。

〔壁・床面・柱穴など〕壁は上半で外反するがほぼ直立する。床面は一部凹凸が見られるが、概ね平

坦である。床面の壁際から内寄りには壁溝と考えられる溝が確認された。溝は南側で途切れる馬蹄形を呈するが、全周径 210cm を測る。この溝の北西部にピット 1 が確認できる。ピット 1 は 91×82cm の方形を呈し、深さは 54cm を測る。また、壁溝の外側には柱穴と思われるピットが 3 個確認された。いずれも径 25～30cm 程の円形のもので、深さは 26～42cm 前後である。これら個々の床面施設が確認されたが、これらの位置・状況から、本遺構には 2 時期あることが推察される。本遺構の壁周より一回り小さい壁溝は、柱穴より内側に巡り、ピット 1 によって北西側が切られていることから、これらより古いものと考えられる。よって、壁溝が巡る時期から、外周を拡幅した新段階が現状の確認できる外形と判断できる。

〔炉跡〕中央部からやや西寄りの位置に 71×50cm の不整形に広がる地床炉が確認された。上面は非常に硬く締まり、焼成深度は約 10cm に及ぶ。

〔重複〕住居跡 44・住居跡 45、土坑 61 と重複する。新旧関係は、これらを本遺構が切るものと考えられる。

〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉～中期初頭を想定したい。

〔出土遺物〕土器（172～176）。石鏃（1104）、石斧（1469）。

（小林）

住居跡 44（第 68・70 図、写真図版 43）

〔位置・検出状況〕ⅡD8i グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。褐色土の不明瞭なプランを確認した。

〔規模・形状〕斜面下方が地形により消失している。残存部から径約 320cm の円形が推測され、床面までの深さは 36cm を測る。

〔埋土・堆積状況〕4 層に細分した。一部中位に暗褐色土を含むが、地山と近似する褐色土が主体を占める土層で、山側からの自然流入土と考えられる。

〔壁・床面・柱穴など〕壁は床面から緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

〔炉跡〕確認されなかった。

〔重複〕住居跡 44・住居跡 45 と重複する。住居跡 44 に切られるが、住居跡 45 との新旧関係は不明である。

〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期中葉～後葉を想定したい。

〔出土遺物〕土器（177・178）。敲磨器類（1674）。

（小林）

住居跡 45（第 68・70 図、写真図版 44）

〔位置・検出状況〕ⅡD8i グリッドに位置する。検出面はⅤ層である。当初は全く認識できなかったが、住居跡 44 精査後に炭化物及び焼土粒を含む土層がこれより斜面下方に広がることから、同位置の断面ベルトを延長して、トレンチにより状況を確認することとした。結果、フラットな床面を確認することができた。

〔規模・形状〕斜面下方と西側は遺構重複により消失しており、残存するのは北壁のみである。

北壁は約 150cm が残存し、床面までの深さは 40cm を測る。

〔埋土・堆積状況〕3 層に細分した。地山と同様の褐色土が主体である。山側からの自然流入土と考えられる。

〔壁・床面・柱穴など〕壁は床面から緩やかに立ち上がる。床面は概ね平坦である。
〔炉跡〕大きく分けて2か所で地床炉が確認された。いずれも不整形に広がり、明赤褐色を帯びる。焼成深度は14cmでかなり強く被熱している。
〔重複〕住居跡43・44、土坑61と重複する。住居跡44に切られ、土坑61を切るが、住居跡43との新旧関係は不明である。状況的には本遺構が切られるか。
〔遺構の時期〕縄文時代前期に帰属するものと思われる。
〔出土遺物〕土器（179）。

（小林）

住居跡46（第71～73図、写真図版45・46）
〔位置・検出状況〕ⅡD7iグリッドに位置する。検出面はⅤ層である。当初はその存在を全く認識できず、下部にある住居跡49を目的に精査を行っていたが、住居跡49の床面より高い地点で焼土の広がりを複数箇所確認したこと、またこれに伴い多量の遺物が出土したことから、重複する別住居と判断した。
〔規模・形状〕斜面下方は遺存せず、上述の理由から北側の壁も失っている。そのため確認できるのは、西壁と北壁の一部のみである。残存部から490×250cm以上の長方形または楕円形が推測される。床面までの最大深度は約80cmである。
〔埋土・堆積状況〕2層に分別した。全体は褐色土で覆われ、中央付近にのみ黒褐色土が見られる。状況から自然堆積と考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は床面から明確な境なく、緩やかに立ち上がる。床面は斜面下方に向かって傾斜するが、概ね平坦と言える部類である。
〔炉跡〕大きく分け4か所で焼土の広がりを確認した。いずれも赤褐色を帯び焼成深度は10～15cmと比較的強く被熱している。広範囲に点在するため焼失時の赤変とも考えたが、周辺から炭化物があまり見られないことや強く焼成していることから地床炉と判断した。
〔重複〕住居跡49・50・51・53と重複するが、実際に調査で直接的な新旧関係を把握できたのは住居跡49のみで、これを切る。平面状況的に住居跡53より古いと推測されるが、住居跡50・51については判断できなかった。
〔遺構の時期〕出土土器の年代観から縄文時代前期に帰属するものと考えられる。
〔出土遺物〕土器（180～188）。石鏃1105・1106、石匙1216・1266、敲磨器類（1603）、石皿（1917）。

（小林）

住居跡47（第71・72・74図、写真図版46）
〔位置・検出状況〕ⅡD8jグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。
〔規模・形状〕遺構プランは痕跡的に残存するのみで、全体の形状は不明となっている。残存部の最大値は1.5×1.2ｍ、土層断面にみる床面までの深度は30cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕第72図断面E–E’9～10層が本遺構の埋土である。壁際と床面上の一部に崩落土とみられるⅤ層土ブロック層（10層）がみられ、その後斜面上方から流入したⅣ層相当土（9層）によって埋没したものと思われる。
〔壁・床面・柱穴など〕重複遺構と同時に掘り上げたため、平面記録時点での残存は全体に痕跡的となったが、断面観察によれば、斜面上方の北側では内弯外傾して立ち上がる壁面を有していたことが

確認できる。床面は概ね平坦に整い、全体に弱い硬化が認められる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 48・土坑 53 に切られる。また断面観察によれば、住居跡 50 の埋土と本住居跡の重複部に土層の断絶が認められることから、本住居跡が住居跡 50 を切っているものと考えられる。その他複数の周辺遺構に重複すると見られるが個別の先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕層位的事実及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期前半を想定したい。
〔出土遺物〕土器は埋土から 189～191 が、住居跡 52 との重複部から 192～198 が出土した。

（村上）

住居跡 48（第 62・71・72・74 図、写真図版 47）
〔位置・検出状況〕ⅡD8i グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。
〔規模・形状〕遺構プランは痕跡的に残存するのみで、全体の形状は不明となっているが、残存部から概ね隅丸方形を呈するものと推測される。残存範囲の最大値は 2.5×2.2 m、土層断面にみる床面までの深度は 30cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕第 72 図断面 E-E' 11 層及び同 10 層の一部が本遺構の埋土である。斜面上方から流入したⅢ～Ⅳ層相当土によって埋没したものと思われる。
〔壁・床面・柱穴など〕重複遺構と同時に掘り上げたため、平面記録時点での残存は全体に痕跡的となったが、断面観察によれば斜面上方の北側では外傾して立ち上がる壁面を有していたことが確認できる。床面は概ね平坦に整い、全体に弱い硬化が認められる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 47 を切っている。
〔遺構の時期〕層位的事実及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（199・200）。石鏃（1121・1122）、敲磨器類（1538・1539・1688・1689）

（村上）

住居跡 49（第 71・72・74 図、写真図版 48）
〔位置・検出状況〕ⅡD7i グリッドに位置する。検出面はⅤ層である。斜面上方においては褐色土のやや明瞭なプランを認識したが、下方側は複数の遺構の重複もあり、プランの把握は困難であった。
〔規模・形状〕北西側の壁の一部は土坑 52 に切られるため遺存しないが、約 460×370cm の楕円～長方形状を呈する。床面までの最大深度は約 70cm である。
〔埋土・堆積状況〕9 層に細分した。主体は中央を境に上方に堆積する暗褐色土と下方に堆積する褐色土である。混入状況等から人為堆積の可能性が高い。
〔壁・床面・柱穴など〕壁はほぼ直立し、床面は平坦で締まりが認められる。北東側の壁の一部に長さ約 160cm、幅約 20cm、深さ約 30cm の壁溝が見られる。柱穴は 3 個確認できる。いずれも径 20～25 cm の円形を呈し、深さは 20～45cm 前後を測る。配置的に中央にある 2 個は主柱穴か。
〔炉跡〕確認されなかった。
〔重複〕住居跡 46・50、土坑 52 と重複するが、新旧関係を把握できたのは住居跡 46・土坑 52 で、どちらも本遺構を切る。
〔遺構の時期〕出土遺物から、縄文時代前期に帰属するものと考えられる。
〔出土遺物〕土器（201～208）。石鏃（1113・1114）、敲磨器類（1527・1528・1682）。線状痕もつ礫（1950）。

（小林）

住居跡 50（第 71・72・75 図、写真図版 49）

〔位置・検出状況〕ⅡD7j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。

〔規模・形状〕遺構プランは痕跡的に残存するのみで、全体の形状は不明となっているが、残存部から概ね隅丸方形を呈するものと推測される。残存範囲の最大値は 2.4×2.2 m、土層断面にみる床面までの深度は 50cm 前後である。

〔埋土・堆積状況〕第 72 図断面 B–B’ 3 層、同 E–E’ 6・8 層が本遺構の埋土とみられる。Ⅳ層相当土の流入と壁崩落土によって埋没したものと推測される。

〔壁・床面・柱穴など〕北壁及び西壁の残存部をみると、やや大きく外傾しだらだらと立ち上がっている。床面は概ね平坦に整っているが斜面下方に僅かに傾斜している。上面の硬化は痕跡的である。柱穴は検出されなかった。

〔炉跡〕検出されなかった。

〔重複〕住居跡 47・住居跡 53・土坑 53・土坑 63 に切られ、住居跡 51 を切る。その他複数の隣接遺構と重複していると考えられるが、先後関係については不明である。

〔遺構の時期〕層位的事実及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期前葉と見られる。

〔出土遺物〕土器（209・210）。

（村上）

住居跡 51（第 71・72・75 図、写真図版 49）

〔位置・検出状況〕ⅡD7j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。

〔規模・形状〕遺構プランは痕跡的に残存するのみで、全体の形状は不明となっているが、残存部から概ね方形基調を呈するものと推測される。残存範囲の最大値は 2.0×1.5 m、土層断面にみる床面までの深度は 45cm 前後である。

〔埋土・堆積状況〕第 72 図断面 B–B’ 4～5 層が本遺構の埋土とみられる。Ⅳ層相当土の流入と壁崩落土によって埋没したものと推測される。

〔壁・床面・柱穴など〕北壁及び西壁の残存部をみると、やや大きく外傾しだらだらと立ち上がっている。床面は概ね平坦に整っているが斜面下方に僅かに傾斜している。上面の硬化は痕跡的である。柱穴は検出されなかった。

〔炉跡〕検出されなかった。

〔重複〕住居跡 50・土坑 53・土坑 63 に切られる。断面 B–B’ では住居跡 46 を切っているように図示しているが、両者の先後関係は明らかではない。また、その他複数の隣接遺構と重複していると考えられるが、先後関係については不明である。

〔遺構の時期〕層位的事実及び埋土の様相から、縄文時代前期前葉を想定したい。

〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡 52（第 71・75 図、写真図版 47）

〔位置・検出状況〕ⅡD7k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗

褐色土範囲として認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。
〔規模・形状〕斜面下方である南側が流失し、また重複遺構等によって東側も失われているため、全体形状は不明となっているが、残存部から概ね隅丸方形～楕円形を呈するものと推測される。残存部の最大値は5.2×2.5ｍである。床面までの残存深度は25㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅢ～Ⅳ層土相当の暗褐色～褐色土である。完掘後にプランを把握したものであり、土層断面の記録は行っていない。
〔壁・床面・柱穴など〕斜面上方がやや大きく外傾するが、西側の壁は概ね直立に近い状態を保っている。床面は概ね平坦に整っており、全体に弱い硬化が認められる。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕土坑63に切られ、土坑68を切る。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器は埋土から211・212、住居跡47との重複部から192～198が出土した。そのほか尖頭器（1056）、石鏃（1118）、石匙（1225）、敲磨器類（1532・1533・1686・1764）が出土している。

（村上）

住居跡53（第71・72・75図、写真図版50）
〔位置・検出状況〕ⅡD7jグリッドに位置し、検出面はⅤ層である。暗褐色土の不明瞭な範囲として検出した。
〔規模・形状〕斜面地にあるため下方の南側は遺存せず、東側は遺構重複により損失している。約470×350㎝が残存し、長軸が等高線に平行する楕円形を呈するものと推測される。床面までの深さは最深部で約90㎝である。
〔埋土・堆積状況〕4層に細分した。壁際の褐色土、下位のにぶい黄褐色土、上位の暗褐色土に大別でき、いずれも斜面上方からの自然流入土と判断される。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は直立気味に立ち上がり、半ばから上位にかけてやや外傾する。床面は概ね平坦である。柱穴規模のピットが2個確認された。いずれも不整形で、深さは北西側のものが約55㎝、もう一方が約25㎝を測る。
〔炉跡〕確認されなかった。
〔重複〕住居跡46・50、土坑60と重複し、これらすべてを本遺構が切る。
〔遺構の時期〕出土遺物から、縄文時代前期に帰属するものと考えられる。
〔出土遺物〕土器（213～221）。石匙（1226）、敲磨器類（1534）。玦状耳飾（1928）。

（小林）

住居跡54（第76～78・80図、写真図版51・52）
〔位置・検出状況〕ⅡD7mグリッド付近に位置する。住戸跡59・住戸跡60の底面であるⅤ層土の上面において、暗褐色土の不整形範囲として認識された。
〔規模・形状〕掘方残存部から住居跡と認識したものであり、また斜面下方及び埋土の上部を流失しているため、全体形状は不明となっている。北壁の両端に隅部とみられる屈曲があることから、方形基調の平面形を持つものと推測される。北壁長は6.2ｍ、床面までの残存深度は25㎝程である。
〔埋土・堆積状況〕第77図断面A–A’4層の一部、同C–C’6～7層、第78図D–D’18層が本遺構の埋土である。斜面上方から流入したⅢ～Ⅳ層相当土により順次埋没した状況が理解される。
〔壁・床面・柱穴など〕重複遺構と同時に掘り上げたため、平面記録時点での残存は全体に痕跡的と

なったが、断面観察によれば斜面上方の北側ではやや外傾して立ち上がる壁面を有していたことが確認できる。床面は概ね平坦に整い、全体に弱い硬化が認められる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 86 に切られ、住居跡 59・土坑 58 を切る。他にも複数の遺構と重複するが、先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕層位的事実及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（222～249）。石鏃（1128～1131）、石斧（1448・1449・1484）、敲磨器類（1542・1543・1609・1692～1697）、半割石（1863・1864）。石刀類（1941・1942）。

（村上）

住居跡 55（第 76・80 図、写真図版 51・52）
〔位置・検出状況〕ⅡD6m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。
〔規模・形状〕開口部における平面形態は 3.2×3.0ｍの隅丸方形を呈する。床面までの残存深度は 20cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕第 78 図断面 D–D’ 13～15 層が本遺構の埋土である。壁際から床面上には崩落土とみられるⅤ層土ブロックを含む層が堆積しており、その後その上位にⅢ～Ⅳ層相当の暗褐色土が流入し順次埋没した状況が理解される。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は四辺でほぼ直立あるいは僅かに外傾して立ち上がっている。床面は全体に平滑に整っており、壁際まで全面に顕著な硬化が認められる。西壁～北壁及び東壁の一部ではその直下に幅 10cm 深さ 5cm 程度の周溝が検出されている。周溝内部には数個の不規則な杭穴状の小ピットを伴うが、これら自体が上屋を支持する機能を担ったとは考えづらい。これらの他に内部から柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 54・住居跡 57・住居跡 58・住居跡 88・住居跡 89 に切られる。
〔遺構の時期〕層位的事実及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期前葉～中葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（250～257）。石鏃（1165）、石匙（1253）、敲磨器類（1771）。線状痕もつ礫（1954）。

（村上）

住居跡 56（第 76・79・80 図、写真図版 49）
〔位置・検出状況〕ⅡD7k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕流失や重複遺構の影響により残存状態は不良である。斜面上方の壁面の一部とそれに連続する床面の一部のみを認識したものであり、平面形状は不明である。
〔埋土・堆積状況〕第 79 図断面 G–G’ 3 層が本遺構の埋土である。Ⅳ層相当の褐色土の流入によって埋没したものとみられる。この上位は地山ブロックを全体に含む土層（2 層）に覆われている。本層は遺構のプランを越えて周辺に広く分布することから、廃棄土層または整地層とみられる。
〔壁・床面・柱穴など〕残存する斜面上方の壁は、床面縁部から内弯外傾して立ち上がっている。床面は平坦に整い、全体に硬化が認められる。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。

〔重複〕土坑59・溝状陥し穴28に切られる。他にも複数の遺構と重複するが、先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕層位的事実及び埋土の様相から、縄文時代前期前半を想定したい。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土（不掲載）。このほか石匙（1270）が出土している。

（村上）

住居跡 57（第 76・80 図）
〔位置・検出状況〕ⅡD5m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕南半部の埋土を重複遺構のそれと同時に掘り上げてしまったため、全体形状が不明となっているが、土層断面も考慮に入れると概ね 1.5 m 四方程の方形基調の平面形を呈すると推測される。床面までの残存深度は 15cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕第78図断面D–D’9～10層が本遺構の埋土である。壁際に壁崩落に伴うⅤ層土ブロック層（10層）が堆積したのち、斜面上方から流入したⅣ層相当土により埋没が進んだ状況が理解される。
〔壁・床面・柱穴など〕北壁と東西両壁の一部が残存し、ほぼ直立して立ち上がっている。床面は平坦に整い、上面は全体的に硬化が認められる。柱穴は確認されなかった。
〔炉跡〕上記土層断面図には、本住居跡埋土である 9 層の下面と同レベルに生成した焼土が確認できる（第 78 図断面 D–D’11 層）。しかしながら、この上位を覆う 5・6 層が本遺構を切る別遺構の埋土である可能性があり、当該焼土が本住居跡に伴うか否かは明らかでない。
〔重複〕住居跡 55 を切る。また住居跡 58・住居跡 62 とも重複するが、これらとの先後関係については明らかでない。
〔遺構の時期〕層位的事実及び埋土の様相から縄文時代前期前葉～中葉を想定したい。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡 58（第 76～78・81 図、写真図版 51・52）
〔位置・検出状況〕ⅡD6m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構の埋土と同時に掘り上げたため全体形状が不明確となっているが、土層断面も考慮に入れると、4.2×3.4 m 程度の長方形を呈するとみられる。床面までの残存深度は 65cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕第77図A–A’及びB–B’6～9層が本遺構の埋土である。壁直下に崩落土層（8・9層）が堆積したのち、Ⅲ～Ⅳ層土相当の流入土（6・7層）によって埋没した状況が理解される。また半埋没の凹地となった 6 層上面段階において、本遺構周辺が褐色土ブロック層（2・3 層）に覆われている状況が観察された。半埋没の遺構群による凹地を整地した行為とみられる。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は下部でほぼ直立し、上半は崩落によりやや外傾して立ち上がる。床面は全体に平滑で上面の硬化が顕著である。北壁及び西壁の直下には、幅 15～20cm・深さ 10cm 前後の周溝が連続してみられる。隣接する住居跡 59 との重複部においても北壁直下のそれと平行する周溝が確認されており、重複によって失われた本住居跡の南壁の位置を示していると考えられる。南北それぞれの周溝の内部には柱穴状ピットが概ね 100cm 程度の間隔を持って配置されている。これらに加え床面から検出された複数の柱穴状小ピットが上屋を支持したものと考えられるが、詳細は明らかでない。

〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 61・住居跡 62・住居跡 66 を切り、住居跡 59 に切られる。他にも複数の遺構と重複しているものと思われるが、それぞれの先後関係は明らかでない。
〔放射性炭素年代測定〕埋土下部から採取した木炭の測定値は 5,070±30yrBP（測定番号 IAAA-132333）。縄文時代前期中葉～後葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕年代測定結果及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期中葉～後葉とみられる。
〔出土遺物〕住居跡 59・同 62 との重複部から多量の土器（258～363）と、石鏃（1132～1151）・石匙（1207・1228～1232・1250・1263・1268・1269）・石核（1416～1418）・石斧（1450・1451・1473・1477）、敲磨器類（1544～1555・1610～1614・1698～1706・1765・1766）、半割石（1865～1871）等の石器が出土している。

（村上）

住居跡 59（第 76～78・81 図、写真図版 51・52）
〔位置・検出状況〕ⅡD6m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構の埋土と同時に掘り上げたため全体形状が不明確となっているが、Ⅴ層面に残った北壁の痕跡から長軸長（東西長）が 6.3 m 程の長方形を呈するものと推測される。土層断面にみる床面までの残存深度は 30cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕第 77 図 A-A' 4 層の一部及び 5 層が本遺構の埋土である。壁直下にⅤ層土ブロック層が堆積し、その後Ⅲ～Ⅳ層相当土の流入によって埋没が進んだと考えられる。同図にみられるとおり、隣接重複する各住居跡は床面レベルがほぼ同一であり、特にも住居跡 60 及び同 54 との関係については互いの埋土の境界を示す土層の断絶を見出すことができなかった。
〔壁・床面・柱穴など〕完掘時点においては壁は痕跡的に残存するのみだが、土層断面にはやや外傾して 40cm ほど直線的に立ち上がる北壁が観察できる。床面は平坦に整い上面の硬化も顕著だが、上述の通り、北側に重複する住居跡 58 の床面と本住居跡のそれに高低差がないため境界が見出せない。想定されるプランの内部からは複数の柱穴状ピットが検出されているが、上と同様に本住居跡に帰属するものを抽出することはできなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 58 を切る。他にも複数の遺構と重複しているものと思われるが、それぞれの先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕層位的事実及び埋土の様相、出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕遺物は住居跡 58・住居跡 62 との重複部から多量に出土した（住居跡 58 参照）。

（村上）

住居跡 60（第 76・77・82 図、写真図版 51・52）
〔位置・検出状況〕ⅡD7l グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構の埋土と同時に掘り上げたため全体形状が不明確となっているが、Ⅴ層面に残った北壁の痕跡から長方形を呈するものと推測される。残存部の東西長は 8.2 m だが、同様の住居複数が直列した状態で存在した可能性もあり、これをもって本住居跡の最小値とは言い得ない。土

層断面にみる床面までの残存深度は20㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕第77図断面A-A'4層の一部、同C-C'8～11層の一部、第78図E-E'16層が本遺構の埋土である。斜面上方から流入したⅢ～Ⅳ層相当土により順次埋没したものと考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕完掘時点において壁の残存は全体に痕跡的であるが、残存部の西半ではやや外傾し30㎝ほど立ち上がる様子が観察できる（断面E-E'付近）。床面は斜面下方を流失し、北壁際1.5ｍ幅程度が残存するに過ぎない。残存部は平坦に整っており、弱い硬化が認められる。東半部の壁際からは柱穴状ピットが複数検出されているが、住居跡58・住居跡59との重複部でもあり、本住居跡に帰属するものを抽出することはできなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡66に切られる。他にも複数の遺構と重複しているものと思われるが、それぞれの先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕層位的事実及び出土遺物の年代観等から縄文時代前期前葉～中葉と見られる。
〔出土遺物〕土器（364～376）。石鏃（1152・1153）、石核（1419）、敲磨器類（1556・1557・1707・1767）

（村上）

住居跡61（第76・79・82図、写真図版53）
〔位置・検出状況〕ⅡD6lグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構の埋土と同時に掘り上げたため全体形状が不明確となっているが、Ⅴ層面に残った北壁の痕跡から長方形を呈するものと推測される。住居跡64に切られる残存部西端から、断面F-F'の東側の立上がりまでの残存長は4.0ｍである。床面までの残存深度は55㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕第79図断面F-F'9～10層が本遺構の埋土である。斜面上方から流入したⅢ～Ⅳ層相当土により順次埋没が進んだものと考えられる。また、付近一帯に広く堆積が認められる褐色土ブロック層(2・3・8層)が埋土上部を覆っている様子が確認できる。凹地を埋めた整地層とみられる。
〔壁・床面・柱穴など〕全体に斜面下方を流失していることに加え、近接重複する他遺構の埋土と同時に完掘したため、斜面上方の壁とその直下の床面が痕跡的に残存するのみとなった。残存部にみる壁はやや大きく外傾し､床面は概ね平坦で弱い硬化部が部分的に認められる｡柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡62を切り、住居跡58・住居跡64・土坑72に切られる。
〔遺構の時期〕層位的事実及び埋土の様相から、縄文時代前期前半を想定したい。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡62（第76・79・82図、写真図版53）
〔位置・検出状況〕ⅡD6lグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構の埋土と同時に掘り上げたため全体形状が不明確となっているが、Ⅴ層面に残った北壁の痕跡から方形基調の平面形を呈するものと推測される。斜面上方に残存する北壁の残存長は1.9ｍである。床面までの残存深度は55㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕第79図断面F-F'12～14層が本遺構の埋土である。床面直上にはⅤ層土ブロック

を含む層（14 層）が堆積し、その後、斜面上方から流入したⅢ～Ⅳ層相当土により順次埋没が進んだものと考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕全体に斜面下方を流失していることに加え、近接重複する他遺構の埋土と同時に完掘したため、斜面上方の壁とその直下の床面が痕跡的に残存するのみとなった。残存部にみる壁はやや大きく外傾している。床面は残存部が少なく様相は不明である。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 57・住居跡 58・住居跡 61 に切られる。
〔遺構の時期〕層位的事実及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期前半を想定したい。
〔出土遺物〕埋土から土器（380～385）、敲磨器類（1712）が出土。また、住居跡 58・59 との重複部から土器（342～363）・石鏃 1149～1151・石匙 1207・1232 等が出土している。

（村上）

住居跡 63（第 76・77・83・100 図、写真図版 54）
〔位置・検出状況〕ⅡD7m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において、暗褐色土の不整形範囲として認識された。
〔規模・形状〕周辺遺構との重複や一帯の削平により全体形状は不明となっているが、残存部の形状から概ね隅丸方形あるいは楕円形を呈するものと推測される。残存部の規模は 2.4×1.5 m、床面までの深度は 2576・cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅢ～Ⅳ層相当の暗褐色土である。重複する他の遺構埋土と同時に完掘したため、断面記録はない。
〔壁・床面・柱穴など〕壁はやや大きく外傾し緩く内弯して立ち上がっている。残存部は斜面上方の壁際、方形プランだとすれば隅部にあたり、壁の屈曲部が浅い土坑状に低くなっているが、その他の床面は概ね平坦に整っている。上面の硬化はみられない。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕土坑 58 に切られる。その他周辺遺構との重複が多いが、個別の先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕縄文時代前期後葉の住居跡 54 に切られる土坑 58 より古く、また出土遺物の年代観等から、縄文時代前期前葉～中葉と見られる。
〔出土遺物〕土器（386～410）。石鏃（1154・1155）、石斧（1474）、敲磨器類（1708）

（村上）

住居跡 64（第 76・78・79・83 図、写真図版 55）
〔位置・検出状況〕ⅡD6k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕斜面下方を流失し南西部は重複遺構により大きく壊されているため全体形状は明らかでないが、残存部から方形基調の平面形を有すると推測される。斜面上方（北北西側）壁の残存長は 4.2 m、これと直交方向の残存値は 3.3 m である。床面までの深度は 50cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕第 78 図断面 E–E' 18～19 層が本遺構の埋土である。壁際にⅤ層土ブロックを含む崩落層が堆積し、その後は斜面上方からⅢ～Ⅳ層相当土の流入によって順次埋没が進んだものと理解される。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は下半がほぼ直立、上半がやや外傾して立ち上がっている。床面は全体に平坦に整い上面の硬化が顕著である。柱穴は内部から検出されなかった。

〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 58・住居跡 61 を切り、溝状陥し穴 27 に切られる。その他複数の重複遺構があるが個別の先後関係は不明である。
〔遺構の時期〕層位的事実及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（411～424）。このほか底面直上から尖頭器（1057）、埋土から石匙（1208）・石核（1420）・石斧（1453）、敲磨器類（1558・1615・1710・1769）、半割石（1872・1873）が出土している。

（村上）

住居跡 65（第 76・79・84 図、写真図版 56）
〔位置・検出状況〕ⅡD7m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕斜面下方を流失し東部は重複遺構により大きく壊されているため全体形状は明らかでないが、残存部から概ね方形基調の平面形を有すると推測される。斜面上方（北側）壁の残存長は 2.5 m、これと直交方向の残存値は 2.0 m である。床面までの深度は 10㎝ 前後である。
〔埋土・堆積状況〕第 79 図断面 H-H' 1～2 層が本遺構の埋土である。壁際から床面直上にかけてはⅤ層土の再堆積層が、その上位にはⅢ～Ⅳ層相当土の流入層が堆積している。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は内弯しやや大きく外傾して立ち上がっている。壁残存部の東側延長上には周溝状の小溝が検出されており、本遺構の壁がこの範囲にまで延伸していた可能性がある。床面は根攪乱が著しく全体に小規模な凹凸が目立つが、斑状の硬化部が同一面に残存している。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 32・住居跡 84 に切られる。このほか住居跡 63 等、周辺の複数の遺構と重複するが個別の先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕埋土の様相から縄文時代前期と推察されるが、詳細は明らかでない。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡 66（第 76・77・84 図、写真図版 56）
〔位置・検出状況〕ⅡD6l グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕斜面下方を流失し東部は重複遺構により大きく壊されているため全体形状は明らかでないが、残存部から概ね方形基調の平面形を有すると推測される。斜面上方（北東側）壁の残存長は 4.0 m、これと直交方向の残存値は 2.2 m である。床面までの深度は 20㎝ 前後である。
〔埋土・堆積状況〕第 78 図断面 E-E' 14～15 層が本遺構の埋土とみられる。壁際にⅤ層土ブロックを多く含む崩落層が、その上位にⅢ～Ⅳ層相当土の流入層が堆積している。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は斜面上方が大きく外傾しているが、床面縁部からほぼ直立して短く立ち上がる部分が観察される。床面は重複遺構や攪乱の狭間に平坦に広がる面として僅かに残存するのみであるが、残存部にあっては上面の硬化が顕著である。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 60 を切り、住居跡 58 に切られる。このほか周辺の複数の遺構と重複するが個別の先

後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び重複遺構との先後関係から、概ね縄文時代前期中葉とみられる。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡 67～70（第 85～88 図、写真図版 57～59）
〔位置・検出状況〕ⅡD5k グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。石囲炉の一部が既に突出しており確認していたが、住居本体のプランについては不明瞭であった。そのため、石囲炉を中心にベルトを設定し、これの北側を掘り進めることとした。この精査過程で、西側の壁が分岐することから、別遺構の重複を想定し、簡易な断面ベルトを設定し掘り進めた。その結果、西側に方形または長方形状をなす住居跡 69 が確認された。さらに住居跡 69 の床面において焼土を検出したが、これを切る褐色土のプランが広がっており、精査の結果、これより床面を一段低位とする住居跡 70 を確認した。これら 3 棟は同時に掘り進め、精査を一先ず終えたが、当初、住居跡 67 の貼床と床面施設と考えていた褐色土の範囲を掘削したところ、これより古い時期の重複する別遺構であることが判った。北側は調査区外に延びるため詳細は不明だが、形状から住居跡と推測し、住居跡 68 とした。
〔重複〕新しい順に、住居跡 67 ＞同 70 ＞同 68・69 となる。住居跡 68 と住居跡 69 については直接的な切り合いがないため新旧関係は不明である。
〔重複部における出土遺物〕土器（429～437）、石鏃（1156～1159）、石匙（1234～1236）、石斧（1454・1475）、敲磨器類（1770）。

住居跡 67
〔規模・形状〕残存する部分から、推定 400㎝ 以上の円形を呈するものと考えられる。床面までの深さは最深部で 68㎝ を測る。
〔埋土・堆積状況〕18 層に細分した。中位から下位にかけては、暗褐色・黒褐色土といった所謂黒ボク土が主体で、その後表層に地山起源の褐～黄褐色土が堆積した自然流入土と考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は床面から緩やかに立ち上がる。床面は概ね平坦で堅く締まりが認められる。
〔炉跡〕南側で石囲炉が確認された。一辺約 50㎝ の方形状に石が組まれている。炉面は平坦で、北側に半月状に広がる明赤褐の焼土が確認されたが、焼成は弱く厚さは 1～2㎝ 程である。
〔放射性炭素年代測定〕床面出土土器 RP2（427）内部から採取した炭化物の測定値は 4,740±30yrBP（測定番号 IAAA-132334）。縄文時代前期末葉～中期前葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕年代測定結果及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期末葉頃に帰属するものと考えられる。
〔出土遺物〕土器（425～428）。石鏃（1160）、石匙（1237）、石核（1422）、石斧（1455）、敲磨器類（1561・1562・1616）。

住居跡 68
〔規模・形状〕北東側は調査区外へ掛かるため全容は不明である。残存するのは約 280×180㎝ で、円形または楕円形が推測される。確認面から床面までの深さは最深部で 35㎝ を測る。
〔埋土・堆積状況〕最大 3 層に細分したが、基本的には褐色土を主体とする。地山起源の自然流入土の可能性が高い。
〔壁・床面・柱穴など〕壁はほぼ直立し、床面は概ね平坦である。調査区境側に約 150×70㎝ の土坑が確認できる。床面からの深度は約 35㎝ を測る。貯蔵施設か。
〔炉跡〕確認されなかった。

〔遺構の時期〕出土遺物から、縄文時代前期に帰属するものと考えられる。
〔出土遺物〕土器（438～442）。

住居跡 69

〔規模・形状〕住居跡 67 に東側を切られ、北側は調査区外へと延びるため全容は不明であるが、残存する部分及び壁溝の形状から、一辺約 500cm の方形または長方形状を呈するものと考えられる。主軸方位はおよそ北西―南東にある。床面までの深さは最深部で 66cm を測る。
〔埋土・堆積状況〕5 層に細分した。地山と同一色の褐色土が主体である。層位状況から山側からの自然流入土と考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は床面からほぼ直立し、上半部はやや外傾する。床面は概ね平坦で堅く締まる。確認できる範囲の北西・南西壁沿いに深さ 15cm 程の壁溝が巡る。
〔炉跡〕調査区境に近い中央部で地床炉が確認された。住居跡 70 に大半を切られるため詳細は不明だが、楕円形状に広がっていたものと推測される。確認できる範囲は 90×15cm 程で、明赤褐色を帯びている。焼成深度は 4～5cm を測る。
〔放射性炭素年代測定〕床面直上より採取した木炭の測定値は 4,800±30yrBP（測定番号 IAAA-132329）。同じく壁溝埋土から採取した木炭の測定値は 4,970±30yrBP（測定番号 IAAA-132335）。それぞれ、前者は縄文時代前期末葉頃、後者は縄文時代前期後葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕年代測定結果及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（443・444）。

住居跡 70

〔規模・形状〕北東側は調査区外へ掛かり、南東側は住居跡 67 に切られるため、確認できるのは南西側の壁のみである。約 350cm の直線的な辺が残存することから、方形または長方形状が推測される。主軸方位はおよそ北西―南東方向にあり、住居跡 69 とほぼ平行する。床面までの深さは最深部で 68 cm を測る。
〔埋土・堆積状況〕8 層に細分した。層位状況から、地山起源の褐色・黄褐色土を主体とする自然堆積層の可能性が高い。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は床面から緩やかに立ち上がる。床面は概ね平坦で堅く締まりが認められる。
〔炉跡〕南側で石囲炉が確認された。一辺約 50cm の方形状に石が組まれている。炉面は平坦で、北側に半月状に広がる明赤褐の焼土が確認されたが、焼成は弱く、厚さは 1～2cm 程である。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観から縄文時代前期後葉～末葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（445～447）。石鏃（1161）、石匙（1238）、敲磨器類（1563）。

（小林）

住居跡 71（第 89・90 図、写真図版 60・61）

〔位置・検出状況〕ⅡD5k・l・6k グリッドに位置する。褐色土層で検出された。
〔規模・形状〕自然傾斜における土壌流出により南東部を消失している。平面形は方形である。残存する南北方向の規模は、開口部約 4.6 m、底面約 2.9 m を測る。北壁は明確な立ち上がりがなく、緩やかな傾斜が続く。深さは最深部で約 51cm である。
〔埋土と堆積状況〕2 層に分層される。暗褐色シルト主体である。1 層は基本層序にあたる。自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕住居跡 72 を切る。
〔炉跡〕地床炉で中心からやや東に寄った位置に構築されている。焼土は不整形で 42×33cm を測る。

焼土生成深度は 7cm である。
〔床面施設〕なし。
〔帰属時期〕出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（448～470）。石鏃（1125）、石錐（1201）、石匙（1255）、敲磨器類（1540・1608・1690・1691）、半割石（1860・1861）、石皿（1919）。線状痕もつ礫（1951）。

（高橋）

住居跡 72（第 78・89～91 図、写真図版 60・61）
〔位置・検出状況〕ⅡD5k・l・6k グリッドに位置する。褐色土層で検出された。
〔規模・形状〕自然傾斜における土壌流出により南東部を消失している。平面形は方形基調である。壁は床面からほぼ垂直に立ち上る。深さは最深部で約 46cm である。
〔埋土と堆積状況〕6 層に分層される。暗褐色シルト主体である。自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕住居跡 71 に切られる。
〔炉跡〕地床炉で、中心からやや西に寄った位置に構築されている。焼土は不整形で 55×21cm を測る。焼土生成深度は 7cm である。
〔床面施設〕西・北・東壁際から壁溝が検出された。溝内にはいくつか柱穴が検出され、壁柱穴と考えられる。
〔放射性炭素年代測定〕床面直上より採取した木炭の測定値は 4,960±30yrBP（測定番号 IAAA-132332）。縄文時代前期後葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔帰属時期〕年代測定結果及び出土遺物の年代観から、縄文時代前期中葉～後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（475～493）。石鏃（1126・1127）、石匙（1227）、敲磨器類（1541）、半割石（1862）、石皿（1920）。

（高橋）

住居跡 73（第 92・93・95 図、写真図版 62～66）
〔位置・検出状況〕ⅡD4k・l グリッドに位置する。褐色土層で黒色土の円形範囲として検出された。
〔規模・形状〕東側が遺構重複により消失し不明であるが、平面形は楕円形基調である。残存する平面規模は 447×213cm、床面までの残存深度は最大 112cm である。
〔埋土と堆積状況〕2 層に分層される。暗褐色シルト主体である。自然堆積と考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は床面より直立するが、溝状陥し穴 25 と重複する北西部では崩落により外傾している。床面は全体的に平坦で硬化している。土坑（Pit）が 1 基床面から検出された。平面形は 141×82cm の楕円形を呈し、底面より土器底部片が 2 点出土した。調査員の判断ミスにより平面図下端の記録を欠いている。
〔炉跡〕炉跡は検出されなかった。
〔重複遺構〕住居跡 75 より古く、住居跡 76・溝状陥し穴 25 より新しい。
〔遺構の時期〕出土土器の年代観から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（494～504）。石核（1407・1408）、石斧（1445・1476）、敲磨器類（1512～1514・1600・1664）。玦状耳飾（1927）。

（高橋）

住居跡 74（第 92・93・95 図、写真図版 62～66）
〔位置・検出状況〕ⅡD4l グリッドに位置する。住居跡 73・住居跡 75 の精査中に検出された。
〔規模・形状〕南北は遺構重複により消失し、東側は調査区外へ続く。平面形は残存部より楕円形あ

るいは隅丸方形を呈する可能性が高い。残存する平面規模は、351×164㎝、床面までの残存深度は最大48㎝である。
〔埋土と堆積状況〕埋土は暗褐色シルト主体であり、自然堆積と考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕遺構重複のため壁はほとんど消失している。南西壁の残存部分は床面より外傾して立ち上る。床面には顕著な硬化面がなく、斜面に沿ってやや傾斜する。床面より柱穴が1個検出されたが、調査員の判断ミスにより半裁した際に地山を掘りすぎ、平面図下端の記録を欠いている。
〔炉跡〕炉跡は検出されなかった。
〔重複遺構〕住居跡75・住居跡77より古い。
〔遺構の時期〕出土土器の年代観等から縄文時代前期前葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（516～521）。尖頭器（1059）、石鏃（1097～1099）、石核（1409）、敲磨器類（1516・1668・1669）、半割石（1836）、石皿（1916）。

（髙橋）

住居跡75（第92・93・96図、写真図版62～66）
〔位置・検出状況〕ⅡD4k・1グリッドに位置する。当初褐色土層で検出した住居跡73のプランの一部と認識していたが精査の過程で住居跡73の床面より一段低い面で床面が検出された。さらに、平面形が楕円形基調である住居跡73の平面プランと異なる方向に壁溝が検出され、別の住居であることが明らかとなった。
〔規模・形状〕北東側が調査区外へ続く。平面形は隅丸方形基調である。残存する平面規模は370×303㎝、床面までの残存深度は最大70㎝である。
〔埋土と堆積状況〕3層に分層される。暗褐色～黒色シルト主体である。南床面およびP1埋土、P2埋土1層には焼土を多く含むことから、住居の上屋が焼失し崩落したものと考えられる。P1北西から屋根材の一部と考えられる炭化材が出土した。さらに、南東隅住居床面から約10㎝の高さにも焼失し崩落したと考えられる焼土が堆積しているほか、石器が数点出土している。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は本遺構床面から壁溝が検出されるまで住居跡73と同遺構として精査を進めていたため残っていない。床面はほぼ平坦で、住居中央部では硬化が認められた。壁溝および柱穴3個が検出された。壁溝は西壁沿いにのびる。溝内からはピットが5個検出され、壁柱穴と考えられる。P1、2は規模から主柱穴と考えられる。P1の埋土1～5層は被熱した土を埋め戻したかあるいは住居上屋が消失し、崩落した土と考えられる。P2の埋土は人為的に埋め戻したのち、焼失した住居上屋の崩落土が堆積し、壁溝と同時に埋まったと考えられる。
〔炉跡〕地床炉で、中心からやや南東に寄った位置に検出された。焼土は不整形で111×62㎝を測る。焼土の生成深度は8㎝であり、上面は硬化している。
〔重複遺構〕住居跡73・住居跡74より新しい。
〔放射性炭素年代測定〕床年直上炭化物の測定値は4,800±30yrBP（測定番号IAAA-132329）。縄文時代縄文時代前期末葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕年代測定結果及び出土土器の年代観から、縄文時代前期末葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（522～534）。石鏃（1095・1096）、石匙（1206）、石斧（1481）、敲磨器類（1515・1601・1665～1667）、半割石（1834・1835）、石皿（1915）。

（髙橋）

住居跡76（第92・94・97図、写真図版62～66）
〔位置・検出状況〕ⅡD4k・5kグリッドに位置する。住居跡73の精査中に検出された。竪穴住居と

して精査を進めたが、遺構の規模および形状より住居ではなく土坑と考えられる。
〔規模・形状〕東側が遺構重複により消失し不明である。平面形は楕円形基調である。残存する平面規模は 165×173cm、深さは最深部で約 77cm である。
〔埋土と堆積状況〕3 層に分層される。暗褐色シルト主体であり、壁際に地山起源の黄褐色シルトが混在する。自然堆積と考えられる。
〔壁・床面・柱穴など〕西壁は床面からやや外傾し立ち上る。
〔重複遺構〕住居跡 73 に切られる。
〔遺構の時期〕層位的見地から縄文時代前期前半と推察されるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕埋土から土器が出土した。

（髙橋）

住居跡 77（第 92～94・97 図、写真図版 62～66）
〔位置・検出状況〕ⅡD5l グリッドに位置する。褐色土層で検出された。
〔規模・形状〕南東側は遺構重複により消失し、西側は調査区外に続く。平面形は方形基調である。壁は床面よりやや外傾気味に立ち上る。深さは最深部で約 43cm である。自然堆積層に切られる。
〔埋土と堆積状況〕2 層に分層される。10YR5/6 シルト主体である。1 層は基本層序にあたり、本遺構を切る。自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕住居跡 74 を切り、住居跡 78 に切られる。
〔炉跡〕地床炉で、中心からやや東に寄った位置に構築されている。焼土は不整形で 43×29cm を測る（断面記録漏れ）。
〔床面施設〕北西壁際から柱穴が 1 個検出された。
〔帰属時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（535～539）。石鏃（1100～1103）、石核（1410）、敲磨器類（1670・1762）、半割石（1837）

（髙橋）

住居跡 78（第 92～94・98 図、写真図版 62～66）
〔位置・検出状況〕ⅡD5l・m グリッドに位置する。褐色土層で検出された。
〔規模・形状〕南東側が自然傾斜により消失している。平面形は方形基調である。壁は床面よりほぼ垂直に立ち上るが、崩落のため上部は外傾する。深さは最深部で約 47cm である。
〔埋土と堆積状況〕大きく 2 層に分層される。暗褐色シルト主体である。壁際には地山起源の 10YR6/8 シルトが多く混在する。自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕住居跡 77・住居跡 79 を切る。
〔炉跡〕炉跡は検出されなかった。
〔床面施設〕なし。
〔放射性炭素年代測定〕埋土下部より採取した木炭の測定値は 4,950±30yrBP（測定番号 IAAA-132330）。縄文時代前期後葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔帰属時期〕年代測定結果及び出土遺物の年代観から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕埋土から土器（540～543）。石匙 1221、敲磨器類（1517）が出土。このほか住居跡 79 との重複部から、土器（544～567）、尖頭器（1060）・石錐（1199）・石匙（1221・1222）・石核（1411）、敲磨器類（1602・1671・1672・1793・1794）、半割石（1838～1841）、石刀類（1938）が出土している。

（髙橋）

住居跡 79（第 92・94・98 図、写真図版 62～66）

〔位置・検出状況〕ⅡD5m グリッドに位置する。褐色土層で検出された。

〔規模・形状〕遺構重複により上部を消失している。また、北東側は調査区外のため不明である。平面形は長方形基調である。規模は、約 2.6×1.7 m を測る。壁は床面よりほぼ直角に立ち上る。深さは最深部で約 35cm である。

〔埋土と堆積状況〕5 層に分層される。暗褐色シルト主体である。埋土下位に炭化物が多く混在し、東側床直上に集中する。1～3 層は人為堆積と考えられる。

〔重複遺構〕住居跡 78 に切られる。

〔炉跡〕炉跡は検出されなかった。

〔床面施設〕壁溝および柱穴（P1）が 1 個、土坑（P2）が 1 基検出された。壁溝は南西―北東方向にのび、調査区外へと続く。柱穴、土坑はどちらも調査区外へ続くため詳細は不明である。

〔帰属時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観から、縄文時代前期前葉とみられる。

〔出土遺物〕土器（568～570）。敲磨器類（1673）。重複部からの出土遺物は住居跡 78 出土遺物を参照。

（髙橋）

住居跡 80（第 99～101 図、写真図版 67）

〔位置・検出状況〕ⅡD8m グリッド付近に位置する。Ⅳ～Ⅴ層上面において、黒褐色土の不整形範囲として認識された。

〔規模・形状〕斜面下方を流失し全体形状は不明となっているが、残存部から概ね径 3.5 m 程の円～楕円形を呈するものと推測される。床面までの残存深度は 15cm 前後である。

〔埋土・堆積状況〕第 100 図 A-A'・B-B' 5～6 層が本遺構の埋土である。Ⅱ～Ⅲ層相当土が流入し埋没したものとみられる。

〔壁・床面・柱穴など〕壁は内弯しながら外傾して立ち上がっている。床面は概ね平坦に整っており、上面は壁際よりも中央部で硬化が顕著である。柱穴は確認されなかった。

〔炉跡〕検出されなかった。

〔重複〕住居跡 81 に切られ、住居跡 82・住居跡 83 を切る。他にも複数の遺構と重複しているものと思われるが、それぞれの先後関係は明らかでない。

〔遺構の時期〕埋土の様相から、概ね縄文時代後期以降のものと推測されるが、詳細は明らかでない。

〔出土遺物〕土器（571～574）。石鏃 1087～1089、石匙 1205、敲磨器類（1662）、半割石（1830・1831）。

（村上）

住居跡 81（第 99～101 図、写真図版 68）

〔位置・検出状況〕ⅡD7n グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面において、黒褐色土の不整形範囲として認識された。

〔規模・形状〕平面形状は 4.8×3.5 m の不整な隅丸方形を呈する。床面までの残存深度は 20cm 前後である。

〔埋土・堆積状況〕第 100 図 A-A'・同 C-C' の 1～4 層が本遺構の埋土である。まず壁際に堆積するのは崩落土とみられる 4 層である。本層にはⅣ層下部に含まれる十和田中掫火山灰とみられるブロックを多く混入している。中央部で床面の直上を覆うのは、焼土・炭化物等を含む 3 層である。床面に生成した焼土とそれに伴う活動の痕跡とみられる。その後は周囲からのⅡ層相当土の流入によって埋没したものとみられる。

〔壁・床面・柱穴など〕壁は北東側で残りが良い反面、南東側は大きく失われている。残存部にみる

壁は、下半がほぼ直立し上半は崩落により内弯外傾した状態となっている。床面は概ね平坦に整い、上面の硬化は顕著である。柱穴は検出されなかった。
〔土坑・焼土〕本遺構の内部からは3箇所の土坑状の落ち込み（Pit1～3）と4つの焼土生成箇所が検出されている。Pit1は北西隅部に位置し、径約150㎝・深さ20㎝の円形を呈する。東縁部で焼土2を切っている。Pit2は北壁際中央付近に位置し、径約120㎝・深さ10㎝の不整円形を呈する。底面西部と西縁の壁上部にそれぞれ焼土生成箇所を伴っている（焼土2・焼土3）。Pit4は北東隅部に位置する。西側を攪乱によって失っているものの、Pit1・Pit2と同程度の規模を持つ円形を呈するものと考えられる。北縁部（Pit2と接する地点）には径50㎝ほどの一段深いピット（Pit3）を伴っている。Pit3の内壁上部ではPit4側の面に焼土の生成が認められ、焼土の周囲には人為的に配された可能性をもつ礫が出土している。またPit4の底面中央付近では径8㎝ほどの円形の還元部が確認されている。このほか本遺構の床面中央部には径90㎝の焼土生成範囲が検出されている（焼土1）。上面はやや多量の焼骨細片を含む土層に覆われている。周辺からは鉄滓（鍛冶滓とみられる）も出土しており、これらの焼土と土坑類は本遺構内部における鍛冶作業に伴うものである可能性が高い。
〔重複〕住居跡86・住居跡87を切る。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から、平安時代（10世紀）とみられる。
〔出土遺物〕土器（575～583）。石鏃（1090・1091）、石匙（1260・1261・1265）、石斧（1468・1472）、敲磨器類（1663）、半割石（1832）。石刀類（1937）。刀子（1957）。

（村上）

住居跡82（第99・100・102図、写真図版54）
〔位置・検出状況〕ⅡD7mグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構と同時に掘り上げたことから全体形状は不明確となったが、残存する壁から隅丸方形～楕円形を呈するものと推測される。残存部の規模は3.3×3.0ｍ、残存深度は25㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕第100図D–D’7～9層が本遺構の埋土である。壁際から床面直上にかけてはⅤ層土ブロック層が、その上位にはⅢ～Ⅳ層相当土の流入層が堆積している。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は内弯しやや外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦に整い、全体に弱い硬化がみとめられる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡63・住居跡85を切る。このほか複数の周辺遺構と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕層位的事実及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（584～586）。敲磨器類（1568・1727）、半割石（1882）、石皿（1922・1923）。線状痕もつ礫（1953）。

（村上）

住居跡83（第99・100・102図、写真図版54）
〔位置・検出状況〕ⅡD8mグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。

〔規模・形状〕重複遺構と同時に掘り上げたことから全体形状は不明確となったが、残存する壁から隅丸方形～楕円形を呈するものと推測される。残存部の規模は2.5×1.8m、残存深度は25cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅢ～Ⅳ層相当の暗褐色土である。周囲の遺構と同時に掘り上げたことから土層断面の記録はできなかった。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は内弯しやや外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦に整い、全体に弱い硬化が認められる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡80に切られる。その他複数の周辺遺構と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕埋土の様相から、概ね縄文時代前期と推測されるが、詳細は明らかでない。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡84（第99・100・103図、写真図版54）
〔位置・検出状況〕ⅡD8mグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構と同時に掘り上げたことから全体形状は不明確となったが、残存部から隅丸方形を呈するものと推測される。残存する東壁長は3.9m、これに直交する残存長は1.6mである。床面までの残存深度は15cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕第100図断面E-E'13～14層が本遺構の埋土の一部である。壁際から床面直上にかけてはⅤ層土ブロック層が、その上位にはⅢ～Ⅳ層相当土の流入層が堆積している。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は内弯しやや外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦に整い、全体に弱い硬化がみとめられる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡32・住居跡85に切られる。このほか複数の周辺遺構と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び埋土の様相から、縄文時代前期前半と推測されるが詳細は明らかでない。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡85（第99・103図、写真図版69）
〔位置・検出状況〕ⅡD8mグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構と同時に掘り上げたことから全体形状は不明確となったが、残存部から隅丸方形を呈するものと推測される。残存範囲の規模は3.5×3.0m、床面までの残存深度は25cm前後である。
〔埋土・堆積状況〕第100図断面E-E'8・10層が本遺構の埋土である。壁際から床面直上にかけてはⅤ層土ブロック層が、その上位にはⅢ～Ⅳ層相当土の流入層が堆積している。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は内弯しやや外傾して立ち上がる。床面は平坦に整い、全体に弱い硬化が

みとめられる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 82 に切られ、住居跡 84 を切る。このほかにも周辺遺構と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び埋土の様相等から、縄文時代前期前半と推測されるが詳細は明らかでない。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。このほか敲磨器類（1644）が出土している。

（村上）

住居跡 86（第 99・103 図、写真図版 69）
〔位置・検出状況〕ⅡD7m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構と同時に掘り上げたことから全体形状は不明確となったが、残存する壁から隅丸方形を呈するものと推測される。残存する北壁長は 2.8 m、これと直交する残存長は 1.5 m である。床面までの残存深度は 25cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅢ～Ⅳ層相当の暗褐色土である。周囲の遺構と同時に掘り上げたことから土層断面の記録はできなかった。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は下半がほぼ直立し上半がやや外傾して立ち上がる。床面は平坦に整い、全体に弱い硬化が認められる。床面の北東隅に 110×80cm の土坑状の落ち込みを伴っている。床面からの深さは 10cm 前後である。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕住居跡 54 を切っている。その他複数の周辺遺構と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係から、縄文時代前期後葉以降と推測されるが、詳細は明らかでない。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡 87（第 99・103 図、写真図版 69）
〔位置・検出状況〕ⅡD7n グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い暗褐色土範囲として隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状から存在を把握したものである。
〔規模・形状〕重複遺構と同時に掘り上げたことから全体形状は不明確となったが、残存する壁から方形基調の平面形を呈するものと推測される。残存する北壁長は 3.0 m、これと直交する残存長は 2.6 m である。床面までの残存深度は 20cm 前後である。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅢ～Ⅳ層相当の暗褐色土である。周囲の遺構と同時に掘り上げたことから土層断面の記録はできなかった。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は下半がほぼ直立し上半がやや外傾して立ち上がる。床面は平坦に整い、全体に弱い硬化が認められる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕検出されなかった。
〔重複〕複数の周辺遺構と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕埋土の様相から、縄文時代前期と推測されるが、詳細は明らかでない。
〔出土遺物〕土器細片が少量出土した（不掲載）。

（村上）

住居跡 88（第 104・105 図、写真図版 70・71）

〔位置・検出状況〕ⅡD5m グリッドに位置する。Ⅴ層上面において黒褐色土の不明瞭な不整方形範囲として検出された。

〔規模・形状〕平面形は 4.4×4.2 m の方形。残存深度は 68cm である。

〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅡ層相当の黒褐色土で、全体に周囲からの自然流入土及び崩落土によって埋没したものとみられる。

〔壁・床面・柱穴〕主軸がやや西偏しているが、以下、カマドの設置された壁を北壁として記述する。壁は重複部及び掘り過ぎた部分を除き四辺で概ね良好に残存しており、ほぼ直立して立ち上がっている。床面は平坦に整い特にカマドの手前から中央部にかけて明瞭な硬化が認められる。柱穴状の小ピットは北東及び南東隅部の壁直下で計 2 個検出された。このほか床面では、東壁中央直下（pit1）・南西隅部（pit2）・カマド左脇（pit3）において計 3 基の土坑が確認されている。pit1 は 72cm×65cm の円形を呈し、床面からの深さは 30cm。埋土は暗褐色土の単層で、被熱礫が数点出土した。pit2 は 124cm×110cm の円形を呈し、深さ 31cm。埋土は黒褐色土と地山土の再堆積層が交互に入り込んでいる。pit3 は 58cm×56cm の円形で、深さ 28cm。暗褐色土の単層で、pit1 と同様、被熱礫を含む。

〔カマド〕北壁中央に設置されている。上部構造は残存しないが、燃焼部の両脇に芯材礫の掘方とみられる凹部が確認できる。これらから平面規模は概ね 100×90cm 程度のカマドであったと推測される。燃焼部焼土は 90×50cm の不整楕円範囲に生成しており、上面には顕著な硬化が認められる。煙道は北壁に直交して屋外に 150cm 程水平に延び、ほぼ直角に立ち上がって煙出部へと連続している。なお煙出部は調査区外にあるため、開口部を平面的に確認することは出来なかった。

〔炉跡〕床面からは焼土生成部が 2 箇所検出された。カマド正面の床面中央部にある焼土（焼土 1）は 60×48cm の不整楕円形を呈し、赤変深度は 4cm である。西壁中央部手前の焼土（焼土 2）は径 85cm ほどの不整形範囲に広がるもので、10cm 程の厚い赤変が認められた。カマドと焼土 2 の間である北西部床面には、金床石の可能性をもつ大形の角礫（40×20cm 程度）が、平坦面をうわむきに揃えて並べ置かれていた。以上からこれらの焼土は、屋内における鍛冶作業の痕跡である可能性が高いと考えられる。

〔重複遺構〕住居跡 89 に切られる。

〔遺構の時期〕遺構・遺物の形態等から、平安時代（10 世紀）とみられる。

〔出土遺物〕土器（587～599）。595～599 は土師器とみられる。このほか石鏃（1108～1110）・石核（1413）・石斧（1470）・敲磨器類（1522・1523・1526・1604～1607・1675～1677・1681・1763）、半割石（1844・1845）等の石器類、有孔石製品（1929）・石棒（1935）・石刀類（1945）・石錘（1948）等の石製品、鉄釘（1958・1959）・鞴羽口（1967）等の鉄関連遺物が出土している。

（村上）

住居跡 89（第 104・106 図、写真図版 72）

〔位置・検出状況〕ⅡD5n グリッド付近に位置する。住居跡 88 の精査時に西壁側に重複する別遺構として認識された。

〔規模・形状〕住居跡 88 と同時に掘り上げたため、重複部の壁及び底面を大きく破壊してしまっている。残存するのは斜面上方北東側の壁と、住居跡 88 に設定した土層断面（第 104 図 A–A’）にみられる底面・壁であり、これらから径 3.0 m 程の円形または隅丸方形の平面形をもつものと推測される。床面までの残存深度は 20cm 前後である。

〔埋土・堆積状況〕第 104 図 A–A' a～e 層が本遺構の埋土である。床面直上を薄く覆っているのは焼土粒や炭化物を多く含む黒褐色土層（b 層）である。後述の床面焼土に関連する可能性が高い。この上位はⅡ層相当土の流入により埋没したものとみられる。
〔壁・床面・柱穴など〕残存部にみる壁面はごく緩く内弯し大きく外傾して立ち上がっている。床面は中央部が低く皿状を呈する。上面の明瞭な硬化面は見出せない。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕北西側壁直下から 1.0×0.6 m ほどの不整楕円形を呈する焼土生成範囲が検出されている。第 104 図断面 A–A' には生成範囲の南端部をかすめて通る断面が観察される（d 層）。中央部では 10 ㎝を超える赤変深度を持ち上面の硬化も著しいことから、強力な火熱を用いた行為の痕跡と考えられる。これに加え、西側壁面から一部壁外にまで延びる焼土層の分布が確認された。前述の焼土生成面の上位に堆積するものであり、分布範囲は 2.0×0.6 m の長楕円形を呈する。混入物を含まないものの締まりを欠き、また上面に燃焼面らしい硬化等の特徴が認められないことから、二次的に堆積したものと考えられる。
〔重複〕住居跡 55・住居跡 88 を切る。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び平安時代遺構（住居跡 88）との先後関係から、平安時代（10 世紀以降）のものとみられる。
〔出土遺物〕土器（600～614）。石鏃（1119・1120）、石匙（1217）、石斧（1447）、敲磨器類（1535～1537・1687）、半割石（1858・1859）、石皿（1918）。

（村上）

住居跡 90（第 107・108 図、写真図版 73）
〔位置・検出状況〕ⅡD5r グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い黒褐色～暗褐色土範囲として、隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。
〔規模・形状〕重複する住居跡 91 と同時に掘り上げたために東部を大きく失い、また斜面下方の南部も床面近くまで林道に削平されていることから全体形状は不明であるが、残存部の形状から方形基調の平面形を有するものと推測される。第 107 図断面 A–A' に観察される床面（2 層下面）は、西側の立ち上がりから東方へ約 5.5 m 連続する様子が確認できる。また、これに直交する断面（第 108 図 B–B'）では北側の立ち上がりから南に約 3.3 m 連続する床面が確認できることから、それぞれこの値を本住居跡の最小値と考えることができる。検出面から床面までの残存深度は 15㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕土層断面によれば床面のすぐ上まで林道による削平が及んでいる状況が見てとれる。この下位に残存する黒褐色土が本遺構の埋土であり、Ⅱ～Ⅲ層相当土の流入によって埋没したものと推測される。
〔壁・床面・柱穴など〕壁は内弯しやや外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦に整い、全体に弱い硬化がみとめられる。柱穴は検出されなかった。
〔炉跡〕床面上からは地床炉とみられる、径 40㎝の焼土生成範囲を検出している。上面中央部が僅かに凹む。赤変深度は 10㎝前後である。
〔重複〕住居跡 91 を切っている。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土土器の年代観等から、縄文時代前期中葉～後葉とみられる。
〔出土遺物〕住居跡 91 との重複部から土器（615～620）が出土している。

（村上）

住居跡 91（第 107・109・110 図、写真図版 74）

〔位置・検出状況〕ⅡD4s グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い黒褐色～暗褐色土範囲として、隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを把握したものである。

〔規模・形状〕北西部及び南東部が調査区外にあり全体形状が不明となっているが、観察可能な残存部の形状から方形を呈する可能性が高い。対向して残存する東西壁間長は 6.0 m、これと直交方向の床面範囲は 7.4 m を測る。床面までの残存深度は 20cm 前後である。

〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅣ層相当の褐色土である。埋土は全体に一様で層間の差異に乏しく、堆積状況の細かな理解は難しかった。

〔壁・床面・柱穴など〕壁はほぼ直立して立ち上がる。床面は概ね平坦に整い、全体に弱い硬化がみとめられる。北東隅付近の床面からは 2 基の柱穴状ピットが検出されている。また北壁際東部からは壁面に平行する小溝が確認された。周溝の一部とみられる。

〔炉跡〕北壁寄り及び西壁寄りの床面で、計 3 箇所の焼土生成範囲が確認されている（焼土 1～3）。焼土 1 は径 70cm ほどの円形、焼土 3 は 100×70cm の楕円形を呈する。焼土 2 は長径 140cm を測るが、焼土 1・3 と同規模の 2 基が一部重複したものと考えられる（上面が一段低い東半部は住居跡 92 に帰属する可能性がある）。3 基はいずれも 10cm 強の赤変深度を持つ。

〔重複〕住居跡 92 を切り、住居跡 90 に切られる。

〔放射性炭素年代測定〕埋土から採取した木炭の測定値は 5,030±30yrBP（測定番号 IAAA-132336）。縄文時代前期中葉～後葉頃に相当するとの結果を得ている。

〔遺構の時期〕年代測定結果及び出土土器の年代観から、縄文時代前期中葉～後葉とみられる。

〔出土遺物〕土器（621～666）、石鏃（1163）、石匙（1239～1241・1252・1257）、石核（1424～1426）、石斧（1456・1457・1471）、敲磨器類（1565・1566・1714～1723・1795・1796）、半割石（1879）等が出土している。また住居跡 90 との重複部から土器（615～620）、住居跡 92 との重複部から土器（667～686）、土偶（1049）、尖頭器（1063）・石匙（1210）・敲磨器類（1567・1724～1726）が出土している。

（村上）

住居跡 92（第 107・111 図、写真図版 74）

〔位置・検出状況〕ⅡD4s グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い黒褐色～暗褐色土範囲として、隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを想定したものである。

〔規模・形状〕住居跡 91 の底面において検出された、東西及び南北方向にそれぞれ延びる周溝状小溝から、4.0×3.3 m の方形範囲を最小値とする住居跡と考えられる。検出面から底面までの深度は 50 cm 前後だが、住居跡 91 底面の下位に部分的かつ極薄く埋土が残存する状態となっていた。

〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅣ層相当の褐色土である。埋土は全体に一様で層間の差異に乏しく、住居跡 91 埋土との境界も明瞭でない。

〔壁・床面・柱穴など〕壁面は残存せず、床面もまた住居跡 91 のそれと明確に区別できない。壁直下に存在したとみられる周溝状小溝は幅 20cm 前後、深さは 10～20cm で内部に杭穴状の小ピットを伴っている。

〔炉跡〕内部からは 2 箇所の焼土生成範囲が検出されている。焼土 1 は 70×50cm、焼土 2 は 90×70cm のそれぞれ楕円形を呈する。赤変深度はいずれも 8cm 前後である。

〔重複〕住居跡 91 に切られる。本住居跡の周溝状小溝は、住居跡 91 北壁及び西壁の内側に平行して

いることから、住居跡 91 は本住居跡を拡張したものである可能性がある。
〔遺構の時期〕層位的事実及び出土土器の年代観等から、縄文時代前期中葉～後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（687・688）、石核（1427）、石斧（1459）等が出土。このほか住居跡 91 との重複部から土器（667～686）、土偶（1049）・尖頭器（1063）・石匙（1210）が出土している。

（村上）

住居跡 93（第 107・112 図、写真図版 75・76）
〔位置・検出状況〕ⅡD4t グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い黒褐色～暗褐色土範囲として、隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを想定したものである。
〔規模・形状〕北東側及び南西側にそれぞれ 2.5ｍの長さを持つ壁面の立ち上がりが確認され、両者の間に展開する平坦面を床面と認識したものであるが、完掘形態からも本来の平面形状は把握できなかった。複数の住居跡が重複した結果である可能性が高い。床面までの残存深度は 30㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅣ層相当の褐色土である。土層断面には壁面の立ち上がりとみられる箇所が複数認められるが、埋土は全体に一様で層間の差異に乏しく、堆積状況の把握や個別の遺構に分解することは困難であった。
〔壁・床面・柱穴など〕確認された壁面は内弯しやや外傾して立ち上がっている。床面は平滑であるが斜面下方に僅かに傾斜している。柱穴等は検出されなかった。
〔炉跡〕北側の調査区境界に接する位置で焼土集中範囲が検出されたが、精査の結果、焼土ブロックを多量に含む小土坑であると判断した。
〔重複〕住居跡 94・土坑 71・溝状陥し穴 29 と重複するが先後関係は明らかでない。周辺は複数の住居跡が複雑に重複している可能性が高いと考えられる。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土土器の年代観等から、縄文時代前期中葉～後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（689～713）。石鏃（1166～1171）、半割石（1884）。

（村上）

住居跡 94（第 107・113 図、写真図版 75・76）
〔位置・検出状況〕ⅡE3a グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面において土器片を包含するやや広い黒褐色～暗褐色土範囲として、隣接遺構とともに認識された。当該土層の掘り下げに伴い、土層断面及び掘方形状からプランを想定したものである。
〔規模・形状〕西側に 2.2ｍの長さを持つ壁面の立ち上がりが確認され、その直下から東側に展開する平坦面を床面と認識したものであるが、完掘形態からも本来の平面形状は把握できなかった。複数の住居跡が重複した結果である可能性が高い。床面までの残存深度は 30㎝前後である。
〔埋土・堆積状況〕埋土の主体はⅣ層相当の褐色土である。土層断面には壁面の立ち上がりとみられる箇所が複数認められるが、埋土は全体に一様で層間の差異に乏しく、堆積状況の把握や個別の遺構に分解することは困難であった。
〔壁・床面・柱穴など〕確認された壁面は内弯しやや外傾して立ち上がっている。床面は概ね水平を保つが根攪乱等の影響で凹凸が目立つ。柱穴等は検出されなかった。
〔炉跡〕底面に直接生成した焼土範囲は検出されなかったが、底面の上位 10～20㎝の面において 5 箇所の焼土生成箇所を確認している（後掲、焼土遺構 14～18）。これらにはプランや床面を認識できなかった重複住居跡に帰属する炉跡が含まれる可能性が高い =1。
〔重複〕住居跡 93・溝状陥し穴 29 と重複するが先後関係は明らかでない。周辺は複数の住居跡が複

雑に重複している可能性が高い。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土土器の年代観等から、縄文時代前期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器(714～724)。尖頭器(1058)、石鏃(1172～1175)、石匙(1218・1242)、敲磨器類(1570・1617・1797)、半割石（1885)。

（村上）

（2）土　　坑

土坑 1（第 114 図、写真図版 77）

〔位置・検出状況〕南西部、ⅡB9r グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。比較的明瞭な黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔規模・形状〕開口部 190×105cm の楕円形を呈する。壁は底面からほぼ直立し、中位から上位にかけて外側に屈曲する。深さは最深部で 53cm を測る。底面は概ね平坦である。

〔埋土と堆積状況〕10 層に細分した。壁際に流入した黄褐色・褐色土、中央全体には黒褐～暗褐色土によって埋没した自然堆積と判断される。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 2〈炭窯〉（第 114 図、写真図版 77）

〔位置・検出状況〕北西部、ⅡB6s グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。炭化物を多量含む明瞭な暗褐色土のプランとして確認した。

〔規模・形状〕開口部 154×102cm の長方形を呈する。壁は底面からほぼ直立し、深さは最深部で 26cm を測る。底面は概ね平坦である。壁面及び底面には、明赤褐色の焼成の弱い焼土が部分的に確認できる。形状から炭窯と判断した。

〔埋土と堆積状況〕3 層に細分した。全体的に炭化物を多量に含む埋戻し土と考えられる。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕出土遺物はないが、形態から近現代の構築の可能性が高い。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 3〈炭窯〉（第 114 図、写真図版 77）

〔位置・検出状況〕南西部、ⅡB8t グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。明瞭な暗褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔規模・形状〕開口部 172×120cm の楕円形を呈する。壁は底面から緩やかな立ち上がりで、深さは最深部で 15cm を測る。底面には凹凸が認められる。壁面及び底面には焼成の弱い焼土が部分的に確認できる。

〔埋土と堆積状況〕6 層に細分した。下位から壁際にかけては炭化物を含む黒色・暗褐色土が堆積しており、操業後の残留土層と考えられる。これより上位の暗褐色土についても、埋戻し土と推察される。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕出土遺物はないが、形態から近現代の構築の可能性が高い。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 4（第 114 図、写真図版 77）

〔位置・検出状況〕南西部、ⅡB10t グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。不明瞭な褐色土のプランとして認識した。

〔規模・形状〕開口部 197×159cm の円形を呈する。壁は底面からほぼ直立し、中位から上位にかけて

外側に屈曲する。深さは最深部で 98cm を測る。岩盤層まで掘り込んでいるため、底面は礫面となっている。
〔埋土と堆積状況〕当初は上半のみで精査を完了としたが、後に掘り足らないことが判明し、再度掘削を行った。その際、調査員の連絡ミスにより上半部の土層注記を亡失した。土層としては 10 数層に細分した。層位状況から中位以下は人為的に埋め戻された様相を呈しており、その後の窪みに上位層が自然流入したものと推察される。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 5（第 115 図、写真図版 78）
〔位置・検出状況〕南西部、ⅡC9b グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。明黄褐色の火山灰ブロック（To-Cu か？）が集中する黄褐色土の不明瞭なプランとして認識した。
〔規模・形状〕開口部径 165cm の円形を呈する。壁は底面からほぼ直立し、中位から上位にかけて外側にやや屈曲するすり鉢状を呈する。深さは最深部で 88cm を測る。底面は概ね整っている。形態から陥し穴の可能性も示唆される。
〔埋土と堆積状況〕8 層に細分した。壁際に堆積する褐色土、上位から下位付近まで中心に堆積する暗褐色土に大別できる。自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 6（第 115 図、写真図版 78）
〔位置・検出状況〕南西部、ⅡC14i グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。試掘トレンチの断面上に本遺構の立ち上がりを確認したことにより認識した。平面上からは検出面層と差異はなく判別できない。
〔規模・形状〕トレンチにより西側開口部は欠いている。開口部径 190cm の円形を呈するフラスコ状土坑である。壁は底面から内湾して立ち上がり、中位から上位にかけて外側に屈曲する。深さは最深部で 95cm を測る。底面は概ね平坦である。
〔埋土と堆積状況〕8 層に細分した。壁際に堆積する褐色土、上位から下位付近まで中心に堆積する暗褐色土に大別できる自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観から縄文時代後期～晩期とみられるが、詳細は不明である。
〔出土遺物〕土器（725～729）。いずれも埋土上部～中部の出土である。

（小林）

土坑 7（第 115 図、写真図版 78）
〔位置・検出状況〕南側、ⅡC18o グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。本遺構の西側には炭窯を構築するための土取り穴が大きく開いており、これに切られる形で残存する暗褐色土のプランとして検出した。
〔規模・形状〕上記の理由で西側はほとんど遺存しない。残存部から開口部径約 220～230cm の円形を

呈するものと思われる。壁は底面から明確な境なく緩やかに立ち上がり、その後ほぼ直立する。深さは最深部で 90cm を測る。底面は南側が一段低くなっている。
〔埋土と堆積状況〕7 層に細分した。上位の暗褐色土と下位の褐色土に大別でき、層位状況から自然流入土と判断される。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観等から縄文時代晩期中葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（730～735）。敲磨器類（1772）。

（小林）

土坑 8（第 116 図、写真図版 78）
〔位置・検出状況〕南側、ⅡC17o グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。比較的明瞭な円形プランとして検出した。
〔規模・形状〕開口部径 190～200cm の円形を呈する袋状土坑である。壁は底面から内湾して立ち上がり、中位で一旦すぼみ、上位にかけては外反する。深さは最深部で 92cm を測る。底面はほぼ平坦である。
〔埋土と堆積状況〕10 層に細分した。上位に見られる暗褐色土を除き、褐色土と黄褐色土が主体となっており、混入状況から人為堆積と思われる。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕埋土の様相や周辺類似遺構との対比から、縄文時代後期～晩期と推察される。
〔出土遺物〕土器（736・737）。

（小林）

土坑 9（第 116 図、写真図版 79）
〔位置・検出状況〕南側、ⅡC16o グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。明瞭な暗褐色土の円形プランとして認識した。
〔規模・形状〕開口部径 210cm の円形を呈する。若干、下部が広がることから袋状土坑に分類される。壁は底面からやや内湾して立ち上がり、上位で外反する。深さは最深部で 92cm を測る。底面はほぼ平坦である。
〔埋土と堆積状況〕12 層に細分した。上位に見られる暗褐色土を除き、褐色土と黄褐色土が主体となっており、混入状況から人為堆積と思われる。特にも 1 層内には土器や礫を多く含まれている。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期～晩期と推察される。
〔出土遺物〕土器（738～745）。敲磨器類（1731）。

（小林）

土坑 10（第 116 図、写真図版 79）
〔位置・検出状況〕南側、ⅡC16n グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。明瞭な褐色土の円形プランとして認識した。
〔規模・形状〕開口部径 220cm の円形を呈する。下部がやや広がる袋状土坑である。壁は底面から内湾して立ち上がり、上位で外傾する。深さは最深部で 96cm を測る。底面はほぼ平坦である。
〔埋土と堆積状況〕8 層に細分した。下位には褐色土が薄く堆積し、その後壁際に黄褐色土、最終的に土層の大部分を占める褐色土が堆積する。1 層の上位からは土器がまとまって出土した。層位状況から人為堆積と思われる。
〔重複遺構〕なし。

〔放射性炭素年代測定〕底面直上層より採取した木炭の測定値は 2,950±20yrBP（測定番号 IAAA-123392）。縄文時代晩期初頭～前葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕出土遺物の年代観及び年代測定値から、縄文時代後期後葉～晩期前葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（746～752）。いずれも埋土上部からの出土である。

（小林）

土坑 11（第 117 図、写真図版 79）
〔位置・検出状況〕南側、ⅡC17o グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。8 の字状の褐色土のプランとして認識した。当初から重複する 2 つの土坑と考え、両者の新旧関係がわかるよう断面ベルトを設定した。
〔規模・形状〕開口部径 130cm の円形を呈する。壁は上部でやや外傾するがほぼ直立し、深さは最深部で 93cm を測る。底面はほぼ平坦である。底面中央には径 20cm、深さ 37cm の副穴が確認されており、陥し穴と判断した。
〔埋土と堆積状況〕6 層に細分した。下位及び壁際には黄褐色土、上位には褐色土が堆積する。層位状況から自然堆積と思われる。
〔重複遺構〕土坑 12 と重複し、これを切る。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕敲磨器類（1577）。

（小林）

土坑 12（第 117 図、写真図版 79）
〔位置・検出状況〕南側、ⅡC17o グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。8 の字状の褐色土のプランとして認識した。当初から重複する 2 つの土坑と考え、両者の新旧関係がわかるよう断面ベルトを設定した。
〔規模・形状〕開口部径 200cm の円形を呈する。壁は底面からやや内湾して立ち上がるが、上部に向かうに従い外側に開く。深さは最深部で 72cm を測る。底面はほぼ平坦である。
〔埋土と堆積状況〕8 層に細分した。下位の黄褐色土、中位の暗褐色土、上位の褐色土に大別される。自然堆積と思われる。
〔重複遺構〕土坑 11 と重複し、これに切られる。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 13（第 117 図、写真図版 80）
〔位置・検出状況〕南側、ⅡC15n グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。暗褐色土と黄褐色土の不明瞭な円形プランとして認識した。
〔規模・形状〕開口部径 190～200cm の円形を呈する。壁はほぼ直立し、開口部付近でやや外反する。深さは最深部で 48cm を測る。底面はほぼ平坦である。
〔埋土と堆積状況〕6 層に細分した。上位中央に堆積する暗褐色土以外はいずれも地山と近似する褐色・黄褐色土が主体である。下位の 6 層については、炭化物やブロック土が混入することから、人為的に一度に埋め戻された可能性がある。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕半割石（1886）。

（小林）

土坑 14（第 117 図、写真図版 81）

〔位置・検出状況〕南側、ⅡC15n グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。褐色土の不明瞭な円形プランとして検出した。

〔規模・形状〕開口部 156×147cm の円形を呈する。壁は底面から直立し、その後外側に開く。深さは最深部で 52cm を測る。底面はほぼ平坦である。

〔埋土と堆積状況〕3 層に細分した。いずれも褐色土からなる。層位状況や炭化物やブロック土が混入することから、人為的に埋め戻された可能性がある。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕土器（753）。

（小林）

土坑 15〈陥し穴〉（第 118 図、写真図版 81）

〔位置・検出状況〕南側、ⅡC14p グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。黒褐色土の明瞭な円形プランとして検出した。

〔規模・形状〕開口部は 175×152cm の楕円形を呈するが、崩落により開いたもので、実際は円形を呈するものと思われる。壁はほぼ直立し、開口部付近は崩落により大きく外傾する。深さは最深部で 70cm を測る。底面はほぼ平坦で、中央に径 12cm 前後、深さ 11cm の副穴が確認でき、陥し穴と判断した。

〔埋土と堆積状況〕7 層に細分した。最下層にはにぶい黄褐色土、壁際には崩落による褐色土、上～中位には黒褐色・暗褐色土が堆積する。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕土器（754）。

（小林）

土坑 16（第 118 図、写真図版 81）

〔位置・検出状況〕南側、ⅡC16n グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。比較的明瞭な暗褐色土の円形プランとして検出した。

〔規模・形状〕開口部 192×156cm の円形を呈する。底部が開口部より広いフラスコ状土坑である。壁は底面から直立またはやや内湾し、中位部分から上位に向かって外側に屈曲する。深さは最深部で 105cm を測る。底面はほぼ平坦である。

〔埋土と堆積状況〕10 層に細分した。下層及び壁際には褐色～黄褐色土の地山と同一のものが堆積し、中央には下層までが暗褐色土によって占められる。人為堆積の可能性が高い。

〔重複遺構〕土坑 20 と重複し、これを切る。

〔放射性炭素年代測定〕底面直上層より採取した炭化物の測定値は 3,060±30yrBP（測定番号 IAAA-123395）。縄文時代後期後葉～末葉頃に相当するとの結果を得ている。

〔遺構の時期〕年代測定値及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期後葉～晩期前葉とみられる。

〔出土遺物〕土器（755～759）。敲磨器類（1732）。

（小林）

土坑 17（第 118 図、写真図版 80）

〔位置・検出状況〕中央部、ⅡC10n グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。明瞭な黒褐色土の円形プランとして検出した。

〔規模・形状〕開口部径 230cm の円形を呈する。壁は底面から外傾して立ち上がり、深さは最深部で 60cm を測る。底面はほぼ平坦である。中央からやや南寄りには径 50cm、深さ 20cm のピットが確認された。

〔埋土と堆積状況〕5 層に細分した。レンズ上に堆積する自然流入土と判断される。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕土器（760）。

（小林）

土坑 18〈炭窯〉（第 119 図、写真図版 80）

〔位置・検出状況〕中央部、ⅡC10c グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。住居跡 2・住居跡 3・住居跡 5 の精査過程で炭化物が集中する範囲として認識した。当初は竪穴住居になるものと考えられたが、掘り上がりの形状から炭窯と判断した。

〔規模・形状〕開口部 385×170cm の歪な長方形状をする。壁は底面から緩やかに立ち上がり、深さは最深部で 42cm を測る。底面には凹凸が認められる。中央部の底面から壁面にかけて焼成の弱い焼土が確認された。

〔埋土と堆積状況〕上述のように重複が著しいため、層位状況を確認できるベルトを設定できなかったため詳細は不明。焼土ブロック・炭化物が多く混入する褐色土が主体で、下層から炭化物が多量確認できる。

〔重複遺構〕住居跡 2・住居跡 3・住居跡 5 と重複。本遺構がこれらを切るものと判断した。

〔遺構の時期〕出土遺物はないが、形態から近現代の構築の可能性が高い。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 19〈陥し穴〉（第 119 図、写真図版 80）

〔位置・検出状況〕中央部、ⅡC17o グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。暗褐色土の不明瞭な円形プランとして検出した。

〔規模・形状〕開口部径 215×155cm の楕円形を呈するが、本来は円形をするものと考えられる。壁は底面からほぼ直立し、上半部で崩落により外反する擂鉢状を呈する。深さは最深部で 90cm を測る。底面はほぼ平坦である。中央には径 20cm、深さ 30cm の円形の副穴が確認された。これにより陥し穴と判断した。

〔埋土と堆積状況〕当初は図示した断面図の点線部分までで精査を終えたが、後に掘り足りないことが判明したため、再度掘削したが、その際、断面ベルトは設定しなかったため、下位の状況についての詳細は不明である。下位層においても、地山と近似する黄褐色土が主体となっていたものと思われる。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 20（第 119 図、写真図版 82）

〔位置・検出状況〕中央部、ⅡC17n グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。検出段階では全く認識できなかったが、重複する土坑 16 の壁面精査時に確認した。

〔規模・形状〕北側は重複により遺存しないが、開口部約 180×160㎝の楕円形を呈するものと思われる。壁は底面から外傾して立ち上がり、深さは最深部で 50㎝を測る。底面はほぼ平坦である。

〔埋土と堆積状況〕5 層に細分した。層位状況から自然流入土と考えられる。

〔重複遺構〕土坑 16 と重複し、これに切られる。

〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び埋土の様相から、概ね縄文時代前期と推察される。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 21（第 120 図、写真図版 82）

〔位置・検出状況〕南側、ⅡC16m グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。炭化物の混じる不明瞭なにぶい黄褐色土の円形プランとして検出した。

〔規模・形状〕開口部径 125㎝の円形を呈する。壁は底面から緩やかに立ち上がり、深さは最深部で 32㎝を測る。底面は中央部がやや高いが概ね平坦である。

〔埋土と堆積状況〕3 層に細分した。黄褐色土を主体とする自然流入土と考えられる。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 22（第 120 図、写真図版 82）

〔位置・検出状況〕南側、ⅡC17n グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。暗褐色土の小径の円形として検出した。

〔規模・形状〕開口部 148×115㎝の楕円形を呈する。壁は底面からほぼ直立し、深さは最深部で 33㎝を測る。底面は概ね平坦である。

〔埋土と堆積状況〕5 層に細分した。大部分を 4 層褐色土が占め、この上位に暗褐色・黒褐色土が堆積する。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 23（第 120 図、写真図版 82）

〔位置・検出状況〕ⅡC14m グリッド付近に位置する。Ⅲ～Ⅳ層上面において、不整楕円形の黒褐色土範囲として検出した。

〔規模・形状〕203×191㎝の円形を呈する。検出面からの深さは 75㎝である。

〔埋土と堆積状況〕検出時、黒褐色土（1 層）のプランの外周に、Ⅲ層相当の暗褐色土（7 層）が分布していたことから、二つの遺構が「入れ子」になって重複している可能性を想定したが、精査の結果、Ⅲ層土の落ち込みに構築された単独の土坑であることが確認された。埋土の主体はⅢ～Ⅳ層土の再堆積土であり、これらによって下部が埋没した後、上部の凹地にⅡ層相当の黒褐色土が流入したものとみられる。

〔壁・底面〕壁は内弯しやや外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。
〔帰属時期〕埋土の様相から縄文時代後期以降と思われるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕縄文土器片。掲載可能な遺物は出土しなかった。

（佐藤）

土坑 24（第 120 図、写真図版 83）
〔位置・検出状況〕南側、ⅡC16k グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。重機によるトレンチ（ST5）掘削により焼土面が確認できたことから、当初は焼土遺構もしくは竪穴住居に伴う地床炉と考え精査を開始した。その後、クリーニング作業により、焼土の周囲に不明瞭ながら検出面とは異なる褐色土のプランが見えたことから半裁した。結果、焼土も厚く形成されているが、その下位に掘り込みを有することから土坑として報告する。
〔規模・形状〕開口部 148×130cm の楕円形を呈する。壁は底面から直立し、深さは最深部で 36cm を測る。上述したように、トレンチにより周囲より掘り下げた段階での記録のため、実際はこれより深度がある。底面は概ね平坦である。
〔埋土と堆積状況〕4 層に細分した。下位は褐色土が厚く堆積し、その上位を黄褐色・褐色土が覆う。1 層は検出上で確認した焼土であるが、ブロック状土の集合といった様相で、現地性ではない可能性が高い。人為堆積と考えられる。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期～晩期とみられるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕土器（761・762）。

（小林）

土坑 25〈陥し穴〉（第 121 図、写真図版 83）
〔位置・検出状況〕南側、ⅡC16k グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。土坑 24 と同様に試掘トレンチ（ST5）内にて検出した。
〔規模・形状〕開口部 155×140cm の円形を呈する。壁は底面から直立し、中位から上位に向かって外側に開く。深さは最深部で 105cm を測る。底面は概ね平坦で、中央に径 14cm、深さ 30cm の副穴が確認された。形状から陥し穴と判断した。
〔埋土と堆積状況〕6 層に細分した。大別すると、上位から褐色土、暗褐色土、褐色土とレンズ状に堆積する。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 26（第 121 図、写真図版 83）
〔位置・検出状況〕ⅡC10j グリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層上面において不整形で不明瞭な暗褐色土範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部は 300×220cm の楕円形～隅丸方形を呈する。底面は中央部がやや低い浅皿状を呈し、中央部～西部で上面の硬化が認められる。壁は内弯外傾して立ち上がる。南東部床面では径約 140cm の略円形範囲が土坑状に一段低くなっている。
〔埋土と堆積状況〕底面直上には木炭片及び焼土ブロックの散布が見られる。大半が周囲からの流入

土とみられるⅢ層相当の暗褐色土で埋まっており、最上部の凹みにⅡ層相当の黒褐色土が堆積して埋没を終えている。
〔重複遺構〕住居跡 2 に切られる。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観等から縄文時代晩期中葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（763～774）。敲磨器類（1578）。

（村上）

土坑 27（第 121 図、写真図版 83）
〔位置・検出状況〕ⅡC18n グリッド付近において、不整形の暗褐色土範囲として検出された。精査の結果、土坑 28 と重複していることが確認された。
〔規模・形状〕径 120cm 程の円形を呈すると思われるが、北東部が土坑 28 と重複し全体形状は明らかでない。検出面からの深さは 62cm である。
〔埋土と堆積状況〕Ⅲ層相当の暗褐色シルトを主体とする。全体にⅣ層土ブロックを含む。
〔壁・底面〕残存部に見る壁は概ね直立するが、底面は波打っている。
〔重複遺構〕土層断面では土坑 28 に切られるように示しているが、先後関係は明らかでない。土坑 28 よりも新しい木根跡等の攪乱である可能性も留保したい。
〔帰属時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期～晩期と推察されるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕土坑 28 との重複部から土器片（775）が出土している。

（佐藤）

土坑 28（第 121 図、写真図版 83）
〔位置・検出状況〕ⅡC18n グリッド付近において暗褐色土の不整形な広がりとして検出された。精査の結果、土坑 27 と重複していることが確認された。
〔規模・形状〕120×114cm の略円形を呈する。検出面からの深さは 50cm である。
〔埋土と堆積状況〕Ⅲ層相当の暗褐色土を主体とするが、Ⅳ層相当の褐色土を多量に含み明るい。全体に堆積土は全体に密に締まり、下部ほど地山Ⅴ層土ブロックが多く混入する。
〔壁・底面〕壁は下半が内弯して立ち上がり、開口部でやや窄む。底面は中央がやや沈んで皿状を呈する。
〔重複遺構〕土層断面では土坑 27 を切るように示しているが、先後関係は明らかでない。土坑 27 が本土坑より新しい木根跡等の攪乱である可能性も留保したい。
〔帰属時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期～晩期と推察されるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕土坑 27 との重複部から土器片（775）が出土している。

（佐藤）

土坑 29（第 122 図、写真図版 84）
〔位置・検出状況〕南東側、ⅡC13t グリッドに位置し、検出面はⅣ層である。黒褐色土の円形プランとして検出した。
〔規模・形状〕開口部 170×145cm の楕円形を呈する。壁は底面から外傾して立ち上がり、開口部付近では外側に開く。深さは最深部で 74cm を測る。底面は概ね平坦である。
〔埋土と堆積状況〕4 層に細分した。暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 30（第 122 図、写真図版 84）

〔位置・検出状況〕ⅡC17m グリッドに位置する。Ⅳ層上面において暗褐色土の不明瞭な円形範囲として検出された。

〔規模・形状〕開口部は 230×210cm の略円形、底面までの残存深度は 70cm である。底面は平坦に整い、壁は下部がほぼ直立するが上部はやや大きく外傾する。

〔埋土と堆積状況〕底面は全体が約 20cm ほどの厚さでⅤ層土の再堆積層（5 層）に覆われ、その上位にはⅢ層相当の暗褐色土（4 層）の流入がみられる。2・3 層は本遺構の東側壁上部を壊しており、後世の攪乱層（木根等）の可能性が高い。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕埋土の様相から縄文時代後期～晩期と推察されるが詳細は不明である。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（村上）

土坑 31（第 122 図、写真図版 84）

〔位置・検出状況〕ⅡC18m グリッドに位置する。住居跡 15 の精査時に北側壁面から検出された。当初、住居跡 15 の付属土坑を想定し精査着手した。

〔規模・形状〕175×141cm の不整円形を呈する。検出面からの深さは 84cm である。

〔埋土と堆積状況〕Ⅳ層相当の褐色土を主体とする。上部は住居跡 15 の埋土に切られている。

〔壁・底面〕壁はほぼ直立して立ち上がる。北側壁は中部に段のような張り出しをもつ。底面は概ね平坦に整っている。

〔重複遺構〕住居跡 15 に切られる。

〔帰属時期〕重複遺構との先後関係及び埋土の様相等から、縄文時代前期～後期と推察されるが、詳細は不明である。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（佐藤）

土坑 32（第 122 図、写真図版 84）

〔位置・検出状況〕ⅡC18n グリッドのⅣ～Ⅴ層上面において、Ⅲ層相当暗褐色土の不整形範囲として検出された。当初、隣接する土坑 42 と本遺構の埋土が識別出来ず、単独の大形遺構と誤認したまま断面観察箇所を設定したため、結果的に適切な位置での観察・記録が出来なかった。埋土の観察は辛うじて残った部分で行い、あわせて写真記録を行った。

〔規模・形状〕220×204cm の円形を呈する。検出面からの深さは 124cm である。

〔埋土と堆積状況〕Ⅲ層相当の暗褐色土を主体とする。上部は木根によって乱されている。床面直上を覆うのは地山ブロックを多量に含んだ崩落土層である。北側壁際からは大形の礫が出土している。人為的な投げ込みの可能性がある。

〔壁・底面〕底面から内弯して立ち上がった壁は、やや急にくびれて外反に転じ開口部へと連続している。

〔重複遺構〕なし。

〔帰属時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、概ね縄文時代後期～晩期と推察されるが、詳細は不明である。

〔出土遺物〕土器（776～778）。

（佐藤）

土坑 33（第 123 図、写真図版 85）

〔位置・検出状況〕ⅡC9t グリッドに位置する。Ⅴ層上面において暗褐色～褐色土の不明瞭な不整形範囲として認識された。

〔規模・形状〕開口部は 150×130㎝の楕円形を呈するものとみられるが、攪乱により南部を破壊されている。底面までの残存深度は 36㎝である。底面は平坦に整い硬化が認められる。壁はほぼ直立して立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕壁際に崩落土と見られる地山ブロックを含む層が堆積し、その上位はⅢ層相当の暗褐色土が流入して埋没が進んだ様子が理解される。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕埋土の様相から縄文時代後期～晩期と推察されるが詳細は不明である。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（村上）

土坑 34（第 123 図、写真図版 85）

〔位置・検出状況〕ⅡC18m グリッド付近において褐色～暗褐色土の不整形な広がりとして検出された。住居跡を想定して断面を設定し精査を進めた結果、土坑 34・35・38・40 が近接して存在することが判明した。

〔規模・形状〕開口部は 160×145㎝の略円形、底面までの残存深度は 66㎝である。底面は平坦に整い、全面に硬化が見られる。壁は下部がやや強く内弯した後、一旦くびれて外反に転じ開口部へと連続して立ち上がっている。

〔埋土と堆積状況〕埋土はⅢ層相当の暗褐色土を主体とするが、全体にⅣ・Ⅴ層土の再堆積土を多く含んでいる。底面直上には流入土とみられるやや暗い土層（5 層）が薄く堆積した後、壁側からの崩落土層（4・3 層）がこの上を覆い、その後はまた周囲からの流入土（2 層）によって大半が埋没している。埋土最上部の 1 層はⅣ層相当土の再堆積層であり、本来は上位に重複する落ち込みの堆積土かもしれない。

〔重複遺構〕なし。

〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期前葉とみられる。

〔出土遺物〕土器（779～781）。

（村上）

土坑 35（第 123 図、写真図版 85）

〔位置・検出状況〕ⅡC17n グリッド付近において褐色～暗褐色土の不整形な広がりとして検出された。住居跡を想定して断面を設定し精査を進めた結果、土坑 34・35・38・40 が近接して存在することが判明した。

〔規模・形状〕開口部は 138×122㎝の略円形、底面までの残存深度は 44㎝である。底面は平坦に整い、壁はほぼ直立して立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕崩落土あるいは人為的な投げ込みの可能性をもつ地山ブロック層と、流入土とみられる暗褐色土層が交互に堆積する様子が観察される。最上部の 1・2 層は本遺構埋土を切る新期の堆積層とみられる。

〔重複遺構〕土坑 38 と重複するが先後関係は明らかでない。

〔遺構の時期〕埋土の様相および出土土器の年代観から、縄文時代後期後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（782・783）。

（村上）

土坑 36（第 123 図、写真図版 85）
〔位置・検出状況〕ⅡC18l グリッドに位置する。Ⅴ層上面においてやや不明瞭な暗褐色土の不整形範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部は 96×86cm の不整円形、底面までの残存深度は 25cm である。底面は平坦に整い、壁は外傾して立ち上がる。
〔埋土と堆積状況〕埋土はⅢ層相当の暗褐色土を主体とする。全体にⅣ・Ⅴ層土ブロックと炭化物粒を含む。
〔重複遺構〕住居跡 14 と重複するが先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕埋土の様相から縄文時代後期～晩期と推察されるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（村上）

土坑 37（第 124 図、写真図版 86）
〔位置・検出状況〕ⅡD9a グリッドに位置する。トレンチ内のⅤ層上面において明瞭な円形範囲として検出された。土層断面の観察から壁はⅢ層中まで立ち上がることが確認された。
〔規模・形状〕開口部は 118×104cm の略円形を呈する。底面までの残存深度は 112cm である。底面は平坦に整っている。壁は下半がやや大きく内弯して窄まった後、緩やかに外反して開口部へと至る。
〔埋土と堆積状況〕下半部では壁崩落土と流入土が交互に堆積した様子が観察される。狭窄部付近まで埋まると、上半部にできた凹地には周囲からの流入土が順次堆積し埋没を終えたものとみられる。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕埋土の様相から縄文時代後期～晩期と推察されるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕敲磨器類（1733）。

（村上）

土坑 38（第 124 図、写真図版 86）
〔位置・検出状況〕ⅡC17m グリッド付近において褐色～暗褐色土の不整形な広がりとして検出された。住居跡を想定して断面を設定し精査を進めた結果、土坑 34・35・38・40 が近接して存在することが判明した。
〔規模・形状〕143×102cm の楕円形を呈する。 検出面からの深さは 29cm。東半部は掘り過ぎにより本来の形状が不明となった。
〔埋土と堆積状況〕褐色シルトの上部には、焼けの弱い焼土が堆積する。掘り込みを有する焼土遺構というよりは、土坑に投げ込まれた焼土という様相である。
〔壁・底面〕壁は、緩やかに外傾する。底面は、凹凸がある。
〔帰属時期〕出土遺物から縄文時代と思われるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（佐藤）

土坑 39（第 124 図、写真図版 86）
〔位置・検出状況〕東部、ⅡC18l グリッド付近で住居跡 15 精査時に暗褐色シルトの円形を検出した。
〔規模・形状〕137×129cm の円形を呈す。検出面からの深さは 83cm である。

〔埋土と堆積状況〕暗褐色土を主体とする。炭粒が混入するブロック状の明褐色シルトが、人為的な堆積土の様相を示している。
〔壁・底面〕壁は一部抉れるように立ち上がる。底面は平坦である。
〔重複遺構〕住居跡 15 を切る。溝状陥し穴 7 とも重複するが先後関係は明らかでない。
〔帰属時期〕重複遺構との先後関係及び埋土の様相から縄文時代後期後半～晩期とみられる。
〔出土遺物〕土器（784）。

（佐藤）

土坑 40（第 124 図、写真図版 86）
〔位置・検出状況〕ⅡC18m グリッド付近において褐色～暗褐色土の不整形な広がりとして検出された。当初、住居跡を想定して断面を設定し精査を進めた結果、土坑 34・35・38・40 が近接して存在することが判明した。
〔規模・形状〕185×147㎝の楕円形を呈する。 検出面からの深さは、97㎝である。
〔埋土と堆積状況〕壁際の 3 層は崩落土と思われるが、全体に人為的な堆積土の様相を呈する。
〔壁・底面〕壁は内弯して立ち上がり途中でくびれ、その後開口部に向け再び広がるフラスコ状を呈する。底面は平坦に整っている。
〔帰属時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期とみられる。
〔出土遺物〕土器（785）。敲磨器類（1734）。

（佐藤）

土坑 41（第 125 図、写真図版 87）
〔位置・検出状況〕ⅡC19m グリッドに位置する。試掘トレンチの断面において、Ⅴ層を上方から切る褐色土の落ち込みとして検出された。
〔規模・形状〕大半がトレンチにより失われ全体形状は不明だが、弧状を呈する西側壁が僅かに残存している。残存部の全長は 130㎝、検出面からの残存深度は 30㎝である。
〔埋土と堆積状況〕埋土の主体である褐色土はⅢ～Ⅳ層の再堆積層であろう。全体に締まりを欠いている。
〔重複遺構〕溝状陥し穴 7 と重複するが、先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕埋土の様相から縄文時代と推察されるが帰属時期の詳細は不明である。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（村上）

土坑 42（第 125 図、写真図版 87）
〔位置・検出状況〕東部、ⅡC18m グリッド付近で不整円形の広がりを検出した。
〔規模・形状〕182×157㎝の円形を呈す。検出面からの深さは 156㎝。副穴の深さは、底面より 7.9 ㎝を測る。
〔埋土と堆積状況〕堆積土下部は、人為的な様相を呈し、上部 1・2 層は、レンズ状の自然堆積を示す。副穴にはブロック状の黄褐色粘土質シルト（10 層）が堆積している。
〔壁・底面〕壁は、ほぼ直立して立ち上がる。底面は平坦で、中央に径 45㎝の副穴をもつ。
〔帰属時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期後葉～晩期前葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（786～791）。

（佐藤）

土坑 43（第 125 図、写真図版 87）

〔位置・検出状況〕ⅡC17q グリッドに位置する。住居跡 18 の床面中央～東部において、不整形の暗褐色土範囲として検出された。

〔規模・形状〕開口部は径約 150cm の略円形、底面までの残存深度は 82cm である。底面は平坦に整い、壁は概ね直立して立ち上がる。壁の下部ではオーバーハングする箇所も認められることから、本来はフラスコ状を呈する可能性がある。

〔埋土と堆積状況〕底面直上を覆う 7 層は埋没初段階に開口部から流入したものであろう。開口部が底面よりも狭いために、中央部に盛り上がるような堆積をしたと考えられる。その後は壁の崩落（6 層）と外部からの流入（4・5 層）によって埋没が進み、中央上部は凹地となっている。土器等の遺物出土が目立つのはこの凹地上面である。その後凹地は地山ブロック層（2・3 層）によって埋められている。上位に住居跡 18 が構築された際の人為的な整地行為である可能性が高い。

〔重複遺構〕住居跡 18 に切られる。また土坑 45 と重複するが先後関係は不明である。

〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び出土土器の年代観等から、縄文時代中期末葉～後期前葉とみられる。

〔出土遺物〕埋土から有孔礫（1949）が出土したほか、住居跡 18 及び土坑 45 との重複部から土器（793～796）が出土している。

（村上）

土坑 44（第 126 図、写真図版 88）

〔位置・検出状況〕ⅡC17q グリッドに位置する。住居跡 19 北側壁の上部に張り出す暗褐色土の略円形範囲として検出された。

〔規模・形状〕開口部は径 115cm の略円形、底面までの残存深度は 56cm である。底面は平坦に整い、壁はやや外傾し直線的に立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕埋土の主体はⅢ層類似の暗褐色土である。時間的制約から土層断面記録を省略した。

〔重複遺構〕住居跡 19 と重複するが先後関係は明らかでない。

〔遺構の時期〕埋土の様相等から縄文時代後期と推察されるが、詳細は不明である。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（村上）

土坑 45（第 125 図、写真図版 87）

〔位置・検出状況〕ⅡC17q グリッドに位置する。土坑 43 の精査の際に、壁～底面に現れた褐色土範囲として検出された。

〔規模・形状〕開口部は約 100cm の円形、底面までの残存深度は 82cm である。底面は平坦に整い、壁はやや内傾して立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕埋土の主体はⅣ層類似の褐色土である。時間的制約から土層断面記録を省略した。

〔重複遺構〕住居跡 18 に切られる。また土坑 43 と重複するが先後関係は不明である。

〔遺構の時期〕埋土の様相等及び出土遺物の年代観等から、縄文時代後期と推察されるが詳細は不明である。

〔出土遺物〕土器（795～798）。795・796 は土坑 43 との重複部からの出土である。

（村上）

土坑 46（第 126 図、写真図版 88）

〔位置・検出状況〕ⅡC8k グリッドに位置する。検出面はⅣ層である。比較的明瞭な褐色土のプラン

として検出した。
〔規模・形状〕開口部 224×148cm の楕円形を呈する。壁は底面から直立し、深さは最深部で 27cm を測る。中央を境に西側が一段テラス状に高くなっており、高低差は約 15cm である。底面は概ね平坦である。
〔埋土と堆積状況〕7 層に細分した。覆土の大半を占めるのは 3 層褐色土である。層位状況から人為的に埋め戻された可能性が高いと判断される。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 47（第 126 図、写真図版 88）
〔位置・検出状況〕ⅡC3g グリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層上面において暗褐色土の不整円形範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部は 146×124cm の楕円形、底面までの残存深度は 60cm である。椀形の断面形を呈する。
〔埋土と堆積状況〕埋土の主体はⅢ層相当の暗褐色土である。全体にⅣ・Ⅴ層土のブロックを含み、その多寡で分層すると概ねレンズ状を呈する堆積状況が観察されることから、崩落・流入を交互に繰り返し順次堆積が進んだものと理解される。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕埋土の様相から縄文時代後期～晩期と推察されるが、詳細は不明である。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（村上）

土坑 48（第 72・126 図、写真図版 88）
〔位置・検出状況〕ⅡC2e グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。暗褐色土の不明瞭なプランとして検出した。
〔規模・形状〕開口部 217×136cm の楕円形を呈する。壁は底面から緩やかに立ち上がり、深さは最深部で 64cm を測る。底面は凹凸が見られる。
〔埋土と堆積状況〕7 層に細分した。下位の黄褐色土、上位の暗褐～黒褐色土に大別できる。層位状況から自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 49〈炭窯〉（第 127 図、写真図版 89）
〔位置・検出状況〕ⅡD9b グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。炭化物を含む黒褐色土の円形プランとして検出した。
〔規模・形状〕開口部 168×152cm の円形を呈する。壁は底面から緩やかに立ち上がり、深さは最深部で 18cm を測る。底面は凹凸が見られ、斜面下方の南側に幾分傾斜している。底面には焼成の弱い焼土が点在する。これらの状況から、本遺構は炭窯である可能性が高い。
〔埋土と堆積状況〕5 層に細分した。大部分が 1 層の炭化物を多く含む黒褐色土が占め、下位の層位

は混合土となる。炭窯操業後に埋め戻されたものと思われる。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕敲磨器類（1580）。

（小林）

土坑 50（第 127 図、写真図版 89）
〔位置・検出状況〕ⅡD7d グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。明瞭な暗褐色土の円形プランとして検出した。
〔規模・形状〕開口部径 120cm の円形を呈する。下部が開口部より広がる袋状土坑である。壁は底面から緩やかに内湾し、中位から開口部にかけて外反する。深さは最深部で 80cm を測る。底面は中央部が低い。
〔埋土と堆積状況〕7 層に細分した。上位の暗褐色土以外は地山を起源とする褐色土と考えられ、自然堆積と判断した。
〔重複遺構〕なし。
〔放射性炭素年代測定〕底面直上から採取した木炭の測定値は 5,730±30yrBP（測定番号 IAAA-132338）。縄文時代前期前葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕年代測定値から縄文時代前期前葉とみられる。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 51（第 127 図、写真図版 89）
〔位置・検出状況〕ⅡD4g グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。不明瞭な褐色土の不整形プランとして検出した。
〔規模・形状〕斜面下方に開けたトレンチを延長し精査したため、開口部は歪な形状で図示したが、本来は円形を呈するものである。開口部約 160×130cm が推測される。壁は底面からほぼ直立し、深さは最深部で 85cm を測る。底面はほぼ平坦で、中央にピットが確認された。ピットは径 50cm、深さ 30cm を測る。
〔埋土と堆積状況〕5 層に細分した。底面ピット内から暗褐色土と褐色土が交互に堆積する。おそらく山側からの自然流入と思われる。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕土器（799・800）。石斧（1460）。

（小林）

土坑 52（第 127 図、写真図版 89）
〔位置・検出状況〕ⅡD7i グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。暗褐色土の比較的明瞭な円形プランとして検出した。
〔規模・形状〕重複する住居跡 49 と同時に精査を行ったため、東側は欠けているが、開口部径 155cm の円形を呈する。底面が開口部より広がるフラスコ状土坑である。壁は底面からほぼ直立した後、やや内湾し、深さは最深部で 135cm を測る。底面は平坦で整っている。
〔埋土と堆積状況〕11 層に細分した。下層の 10・11 層は締まりも認められず、投げ込まれた層と思われるが、これより上位は層位状況から自然堆積の可能性が高い。

〔重複遺構〕住居跡 49 と重複し、これを切る。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕土器（801～804）。石斧（1461）。

（小林）

土坑 53（第 72・128 図、写真図版 90）
〔位置・検出状況〕ⅡD7k グリッドに位置する。住居跡 47 及び住居跡 50 の土層断面において、これらの埋土を切って立ち上がる土坑状のプランとして認識された。
〔規模・形状〕開口部は径 150cm の略円形、底面までの残存深度は 80cm である。底面は平坦に整い、壁はほぼ直立して立ち上がる。
〔埋土と堆積状況〕埋土の主体はⅢ層相当の暗褐色土である。壁崩落土層と流入土層とが交互に堆積し順次埋没が進んだ状況が理解される。
〔重複遺構〕住居跡 47・住居跡 50 を切る。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観から、縄文時代前期後葉～中期前葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（805～808）。石核（1428）。

（村上）

土坑 54（第 128 図、写真図版 90）
〔位置・検出状況〕ⅡD10k グリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層上面において比較的明瞭な黒褐色土の円形範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部は 104cm の略円形、底面までの残存深度は 22cm である。底面は平坦に整い、壁は内弯しやや外傾して立ち上がる。
〔埋土と堆積状況〕埋土の主体はⅡ層相当の黒褐色土である。流入土により埋没が進んだと考えられる。全体に根攪乱に乱されている。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕層位的見地から縄文時代晩期以降とみられるが、詳細は不明である。
〔出土遺物〕土器（809・810）。

（村上）

土坑 55（第 128 図、写真図版 90）
〔位置・検出状況〕ⅡD10j グリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層上面において暗褐色土の明瞭な円形範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部は 76×70cm の略円形、底面までの残存深度は 18cm である。底面は椀形の断面形を呈する。
〔埋土と堆積状況〕埋土はⅣ層類似の褐色土を主体とし、最上部には十和田中掫火山灰のブロックを含んでいる。全体に根攪乱に乱され上方からのⅢ層土の混入も目立つ。
〔重複遺構〕なし。
〔遺構の時期〕埋土の様相及び出土遺物の年代観等から縄文時代前期前葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（811）。

（村上）

土坑 56（第 128 図、写真図版 91）
〔位置・検出状況〕ⅡD5j・k グリッドに位置する。褐色土層で炭化物を含む暗褐色土の円形範囲とし

て検出された。
〔規模・形状〕開口部は 224×193cm の円形で、底面までの残存深度は 117cm である。底面 138×126 cm を測る。壁面はほぼ直立し、開口部は壁の崩落により外傾する。底面は全体的に平坦である。
〔埋土と堆積状況〕8 層に分層される。暗褐色シルト主体で、壁面および底面近くに地山起源の黄褐色シルトが混在する。自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕なし。
〔帰属時期〕検出層位および遺構形態から、縄文時代と考えられる。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（髙橋）

土坑 57（第 62・129 図、写真図版 90）
〔位置・検出状況〕ⅡD8j グリッドに位置する。Ⅴ層上面において明瞭な暗褐色土の円形範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部は径 135cm の略円形、底面までの残存深度は 100cm である。底面は平坦に整い、壁はやや外傾して直線的に立ち上がる。
〔埋土と堆積状況〕第 62 図断面 B–B' の 8～12 層が本遺構の埋土である。埋土下部の 11・12 層は崩落土とみられる地山土ブロックを多量に含む。その上位は流入土よって覆われ埋没が進んだものと理解される。
〔重複遺構〕住居跡 36 に切られる。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び埋土の様相から、縄文時代前期前葉が想定されるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（村上）

土坑 58（第 77・129 図、写真図版 91）
〔位置・検出状況〕ⅡD7m グリッドに位置する。住居跡 54 精査の際、底面において比較的明瞭な暗褐色土の円形範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部は 160×140cm の楕円形、底面までの残存深度は 114cm である。底面は平坦に整い、壁はほぼ直立して立ち上がり、開口部付近で外反している。
〔埋土と堆積状況〕下半部は締まりを欠いたⅣ層相当の再堆積土によって埋められている。上半部は順次崩落と流入を繰り返し、埋没が進んだものと理解される。なお精査時の不手際により埋土下半部の断面記録がないことから、上半部断面図と下半部エレベーションの合成図を示している。
〔重複遺構〕住居跡 54 に切られている。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期初頭～前葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（812～814）。敲磨器類（1773）。

（村上）

土坑 59（第 129 図、写真図版 91）
〔位置・検出状況〕ⅡD7k グリッドに位置する。Ⅲ～Ⅳ層相当土が堆積する住居跡等の遺構精査中に存在を確認したものである。
〔規模・形状〕開口部は径 80cm の略円形、底面までの残存深度は 120cm である。底面は平坦に整い、壁は直立して立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕壁直下に崩落土とみられる黄褐色土ブロックを多く含む土層が堆積したのち、内部には黒褐色～暗褐色土が流入し埋没が進んだらしい。その後一旦凹地となった内部にⅤ層相当のきれいな黄褐色土が堆積している。周囲ではこれより高位に堆積する自然のⅤ層は存在しないことから、本層は人為的に投げ込まれたものと考えられる。この上位は再び周囲からの流入土が堆積し、埋没を終えたものと考えられる。
〔重複遺構〕住居跡 56 を切り、溝状陥し穴 27 に切られる。
〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期中葉～後葉とみられる。
〔出土遺物〕土器（815～819）。

（村上）

土坑 60（第 129 図、写真図版 91）
〔位置・検出状況〕ⅡD8n グリッドに位置する。暗褐色土層上面において、黒褐色土の不明瞭な円形のプランとして検出された。
〔規模・形状〕開口部は 100×90cm の略円形。底面までの残存深度は 40cm である。底面は概ね平坦に整い、壁は内弯しながら立ち上がり、上半部は開口部にかけて窄まっている。
〔埋土・堆積状況〕底面は地山ブロックを含む暗褐色土に覆われその上位に黒褐色土が堆積している。
〔重複遺構〕なし
〔遺構時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（森）

土坑 61〈陥し穴〉（第 130 図、写真図版 92）
〔位置・検出状況〕ⅡD9i グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。暗褐色土の円形プランとして検出した。
〔規模・形状〕開口部径 135cm の円形を呈する。壁は底面からほぼ直立し、深さは最深部で 82cm を測る。底面は平坦である。底面中央には 20×15cm、深さ 13cm の楕円形の副穴が確認された。これにより、陥し穴と判断した。
〔埋土と堆積状況〕8 層に細分したが、1 層は本遺構埋没後に形成された住居跡 45 の焼土である。これ以外は暗褐・褐色土を主体とする山側からの自然流入土と考えられる。
〔重複遺構〕住居跡 44・住居跡 45 と重複し、これらより古いものと判断される。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 62（第 130 図、写真図版 92）
〔位置・検出状況〕ⅡD7d グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。住居跡 53 の精査過程で確認した。黒褐・暗褐・黄褐色土が混在する不明瞭なプランであった。
〔規模・形状〕開口部径 190cm の円形を呈し、下部が開口部より広がる袋状土坑に分類されるものである。壁は底面から内湾して立ち上がり、中位から開口部にかけて外反する。深さは最深部で 107cm を測る。底面は概ね平坦に整っている。
〔埋土と堆積状況〕21 層に細分した。下部から暗褐色土、黄褐色土、黒褐色土が交互に堆積しており、人為的に埋め戻されたものと判断した。

〔重複遺構〕住居跡 53 と重複し、これより古いものと考えられる。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕土器（820～822）。石匙（1244）。半割石（1887・1888）。

（小林）

土坑 63（第 72・130 図、写真図版 92）
〔位置・検出状況〕ⅡD7k グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。褐色土の不明瞭なプランとして検出した。
〔規模・形状〕開口部 147×88cm の楕円形を呈する。壁は底面からほぼ直立し、上部に向かってやや外反する。深さは最深部で 98cm を測り、底面には凹凸が認められる。
〔埋土と堆積状況〕4 層に細分した。層位状況から自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕住居跡 52 と重複し、これを切る。また、住居跡 49 とも重複していたものと考えられるが、直接的な新旧関係を判断できるものがないため不明である。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕土器（823）。石匙（1245）。

（小林）

土坑 64〈陥し穴〉（第 131 図、写真図版 92）
〔位置・検出状況〕ⅡD5k グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。褐色土と暗褐色土が混在する円形のプランとして検出した。
〔規模・形状〕開口部径 120cm の円形を呈する。壁は底面からほぼ直立し、円筒形の断面形状をなす。深さは最深部で 114cm を測る。底面は概ね平坦で、中央部に深さ 30cm の副穴が確認された。これにより、陥し穴と判断した。
〔埋土と堆積状況〕7 層に細分した。下位の暗褐色土、中位の褐色土、上位も黄褐色土に大別される自然堆積と考えられる。
〔重複遺構〕住居跡 74 と重複するものと考えられるが、直接的な切り合いを判断できる箇所がなく、新旧関係は不明である。
〔遺構の時期〕詳細は不明。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（小林）

土坑 65（第 131 図、写真図版 93）
〔位置・検出状況〕ⅡD4j グリッドに位置し、検出面はⅢ層である。Ⅴ層と近似する褐色土の不整形なプランとして認識した。
〔規模・形状〕開口部径 165cm の円形を呈する。下部が中位より広がる形状をし、壁は底面から内湾して立ち上がり、中位から開口部にかけて外反する。深さは最深部で 124cm を測る。底面は概ね平坦である。
〔埋土と堆積状況〕10 層に細分した。褐色・黄褐色土が主体となっており、各層位の状況から人為的に埋め戻された可能性が考えられる。
〔重複遺構〕なし。
〔放射性炭素年代測定〕埋土最下部から採取した木炭の測定値は 3,670±20yrBP（測定番号 IAAA-132339）。縄文時代後期前葉頃に相当するとの結果を得ている。
〔遺構の時期〕年代測定値から縄文時代後期前葉とみられる。

〔出土遺物〕土器（824・825）。石鏃（1178）。

（小林）

土坑 66（第 131 図、写真図版 93）

〔位置・検出状況〕ⅡD5i グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。当初は土坑 67 を含めて一つの土坑として精査を進めていたが、断面状況及び南東方向へ一段浅い底面が広がることが確認されたことから、重複する別遺構と判断するに至った。

〔規模・形状〕開口部 180×120cm 程の楕円形を呈するものと推定される。壁は底面からほぼ直立し、上部で外傾する。深さは最深部で 90cm を測る。底面はやや凹凸が認められる。

〔埋土と堆積状況〕確認できる部分で 7 層に細分した。最下層には地山起源のにぶい黄褐色土、これより上位は暗褐色土が主体となるが、自然・人為堆積の判断は付かなかった。

〔重複遺構〕土坑 67 と重複する。断面状況から、これを切るものと判断できる。

〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕土器（826～831）。

（小林）

土坑 67（第 132 図、写真図版 93）

〔位置・検出状況〕ⅡD5i グリッドに位置し、検出面はⅤ層である。土坑 66 に記したように、本遺構を含めて一つの土坑として捉えていたが、精査過程で異なる二つの遺構であることが判った。そのため上部の一部は既に掘削している。

〔規模・形状〕開口部径 185cm の円形を呈する。中位が窄まり底部がこれより広いフラスコ状土坑に分類されるものである。壁は底面から直立するが中位で一旦内湾し、そこから上部に向かっては外傾する。深さは最深部で 176cm を測る。底面はほぼ平坦である。

〔埋土と堆積状況〕既に掘削していた箇所を除き、15 層に細分した。層位状況から中位以下は人為堆積と判断される。

〔重複遺構〕土坑 66 と重複する。断面状況から、これに切られるものと判断できる。

〔遺構の時期〕詳細は不明。

〔出土遺物〕土器（832～834）。

（小林）

土坑 68（第 79・132 図、写真図版 94）

〔位置・検出状況〕ⅡD7k グリッドに位置する。Ⅴ層上面において暗褐色～褐色土の不整形範囲として検出された。

〔規模・形状〕開口部は 156×142cm の略円形、底面までの残存深度は 48cm である。底面は中央がやや低い皿状を呈すると思われるが後世の根攪乱等の影響により波打っている。壁は下半がほぼ直立し、上部は僅かに外反する。

〔埋土と堆積状況〕第 79 図断面 G–G' の 6～10 層が本遺構の埋土である。Ⅳ層相当の褐色土を主体とし、地山土ブロックを含む。全体に根攪乱の影響が大きく堆積過程を推測することは難しい。

〔重複遺構〕住居跡 52 に切られる。

〔遺構の時期〕重複遺構との先後関係及び出土遺物の年代観等から、縄文時代前期中葉～後葉とみられる。

〔出土遺物〕土器（835・836）。

（村上）

土坑 69（第 132 図、写真図版 93）

〔位置・検出状況〕ⅡD7k グリッドに位置する。Ⅴ層上面において暗褐色土の不整円形範囲として検出された。

〔規模・形状〕開口部は 140×120cm の略円形、底面までの残存深度は 78cm である。底面は平坦に整い、壁はほぼ直立して立ち上がる。底面中央には副穴（径 15cm・深さ 10cm）を伴う。

〔埋土と堆積状況〕Ⅲ～Ⅳ層相当の暗褐色～褐色土を主体とする。壁際から下部にかけて壁崩落土を含んだやや黄味がかる土層（3 層）が堆積し、その後の凹地には周辺からの流入土（1 層）が堆積した状況が理解される。

〔重複遺構〕複数の周辺遺構と重複するものとみられるが、個別の先後関係は明らかでない。

〔遺構の時期〕層位的見地から縄文時代前期後半～後期とみられるが詳細は不明である。

〔出土遺物〕土器（837）。石匙（1271）。

（村上）

土坑 70（第 133 図、写真図版 94）

〔位置・検出状況〕ⅡD7l グリッドに位置する。Ⅴ層上面において不明瞭な暗褐色土の不整形範囲として検出された。

〔規模・形状〕開口部は 100cm の略円形、底面までの残存深度は 65cm である。底面は平坦に整い、壁はほぼ直立して立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕底面直上～下部にはⅣ・Ⅴ層相当の再堆積土（4 層）が密に充填されている。この上位は締まりのない焼土ブロック層（3 層）や黒褐色土層（1・2 層）に覆われる。

〔重複遺構〕住居跡 60 をはじめ、複数の周辺遺構と重複するものとみられるが、個別の先後関係は明らかでない。

〔遺構の時期〕層位的見地から縄文時代前期と推察されるが、詳細は不明である。

〔出土遺物〕敲磨器類（1574）。

（村上）

土坑 71（第 133 図、写真図版 94）

〔位置・検出状況〕ⅡD3t グリッドに位置する。住居跡 93 底面のⅤ層上面において比較的明瞭な褐色土の円形範囲として検出された。

〔規模・形状〕開口部は 140×120cm の略円形、底面までの残存深度は 30cm である。底面は平坦に整い、壁はほぼ直立して立ち上がる。底面中央に副穴状の小ピットが検出されたが、ごく新しい根攪乱である事を確認した。

〔埋土と堆積状況〕底面から検出面までⅣ層相当の褐色土が一様に堆積している。周囲からの流入土により自然に埋没したものと考えられる。

〔重複遺構〕住居跡 93 と重複するが先後関係は明らかでない。住居跡 93 自体、複数遺構（住居跡）が重複したものである可能性が高く、本遺構付近は複雑な重複関係にあるものと思われる。

〔遺構の時期〕層位的見地及び埋土の様相等から、縄文時代前期と推測されるが詳細は不明である。

〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（村上）

土坑 72（第 133 図、写真図版 94）

〔位置・検出状況〕ⅡD6l グリッドに位置する。Ⅴ層上面において褐色土の明瞭な円形プランとして検出された。

〔規模・形状〕開口部は 95㎝×88㎝ の略円形。底面までの残存深度は 30㎝ である。底面は平坦で、壁は開口部にかけてほぼ直立して立ち上がる。南側の壁が一部流失しているが、他は良好に残存している。
〔埋土・堆積状況〕北部の底面直上には流入土とみられる黒褐色土層が堆積し、その上位は褐色土に覆われている。
〔重複遺構〕住居跡 61・62 を切っている。
〔遺構時期〕重複遺構との先後関係及び埋土の様相から、縄文時代前期後半以降とみられるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

（森）

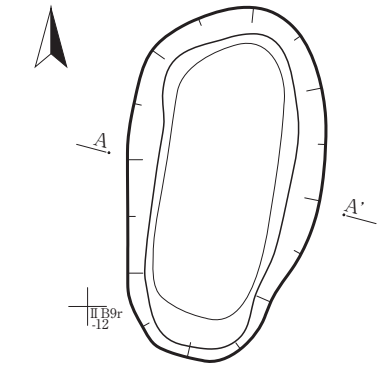
土坑 73（第 133 図、写真図版 94）
〔位置・検出状況〕ⅡD7l グリッドに位置する。Ⅴ層上面において暗褐色土の不整形範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部付近が木根によって乱されているが本来は径 130㎝ ほどの円形を呈するものとみられる。底面までの残存深度は 50㎝ である。底面は平坦に整い、壁は内弯しやや外傾して立ち上がる。
〔埋土と堆積状況〕周辺遺構の精査と同時に掘り上げたため、適切な土層断面の設定が行えなかった。このため土層断面記録はない。埋土の主体はⅢ層相当の暗褐色土である。
〔重複遺構〕土坑 74 と重複するが、先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕層位的見地から縄文時代前期後半以降とみられるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕土坑 74 との重複部から土器（838～840）・敲磨器類（1576）が出土している。

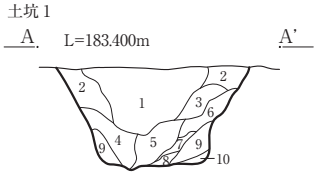
（村上）

土坑 74（第 133 図、写真図版 94）
〔位置・検出状況〕ⅡD7l グリッドに位置する。Ⅴ層上面において暗褐色土の不整形範囲として検出された。
〔規模・形状〕開口部は径 110㎝ の略円形、底面までの残存深度は 80㎝ である。底面は平坦に整い、壁は僅かに外傾して直線的に立ち上がる。
〔埋土と堆積状況〕周辺遺構の精査と同時に掘り上げたため、適切な土層断面の設定が行えなかった。このため土層断面記録はない。埋土の主体はⅢ層相当の暗褐色土である。
〔重複遺構〕土坑 73 と重複するが、先後関係は明らかでない。
〔遺構の時期〕層位的見地から縄文時代前期後半以降とみられるが詳細は不明である。
〔出土遺物〕土坑 73 との重複部から土器（838～840）・敲磨器類（1576）が出土している。

（村上）

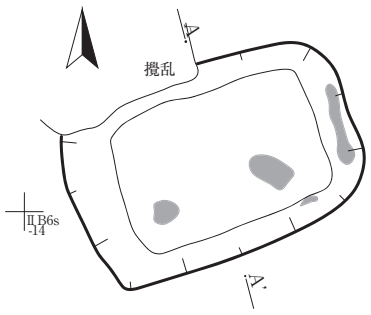
土坑１

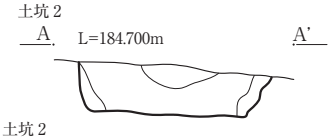




土坑１
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性有 締まり欠 黄褐色土粒微量、下位に一部焼土粒含む。
2. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有
3. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まりやや有
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まり有
5. 10YR2/3 黒褐色 粘性有 締まり有
6. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 黄褐色土ブロック混入。
7. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり欠
8. 10YR2/3 黒褐色 粘性有 締まり欠
9. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まりやや有
10. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり欠 炭化物粒微量含む。

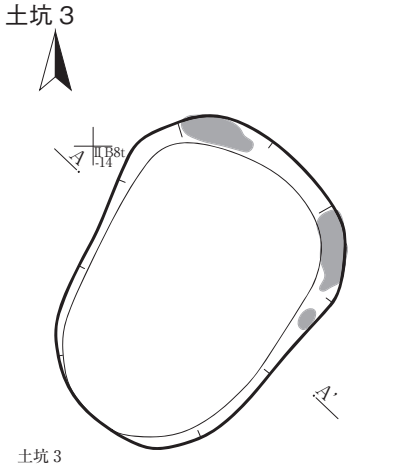
土坑２

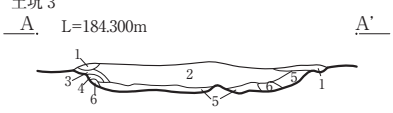




土坑２
注記の記録なし

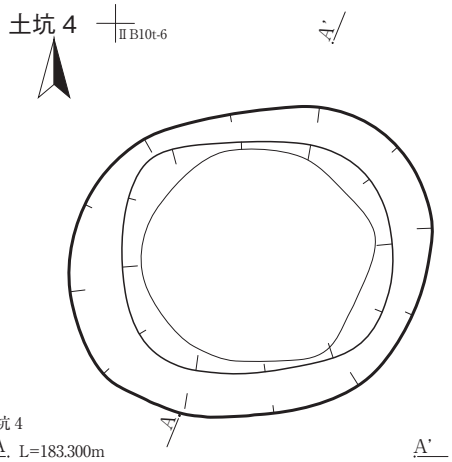
土坑３

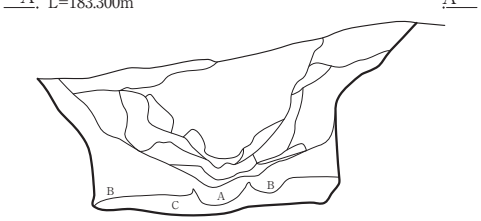




土坑３
1. 10YR3/4 暗褐色 粘性やや有 締まり欠 検出面上層。
2. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物微量含む。
3. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり欠
4. 10YR3/3 暗褐色 粘性やや有 締まり欠
5. 10YR2/1 黒色 粘性 - 締まり - 炭化物層含む。
6. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まりやや有 ブロック土。

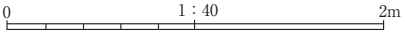
土坑４





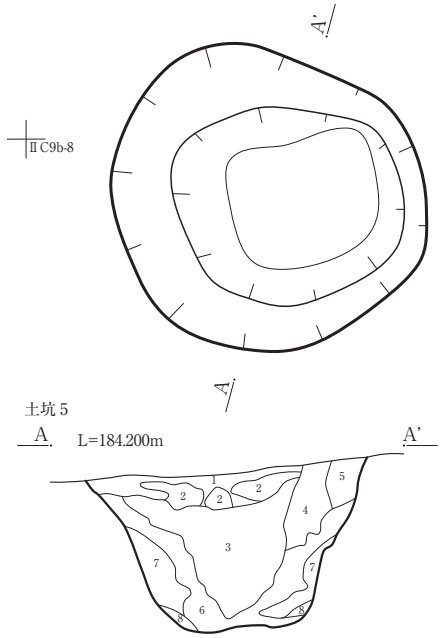
土坑４
埋土上位の注記なし

A. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 黒褐色土と黄褐色土の混合土。フカフカ柔らかい
B. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有 小礫混じりの地山崩落土。C を覆うように堆積する。
C. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 帯状に堆積。かたく締まる。
D. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 掘りすぎか　混入物無し。



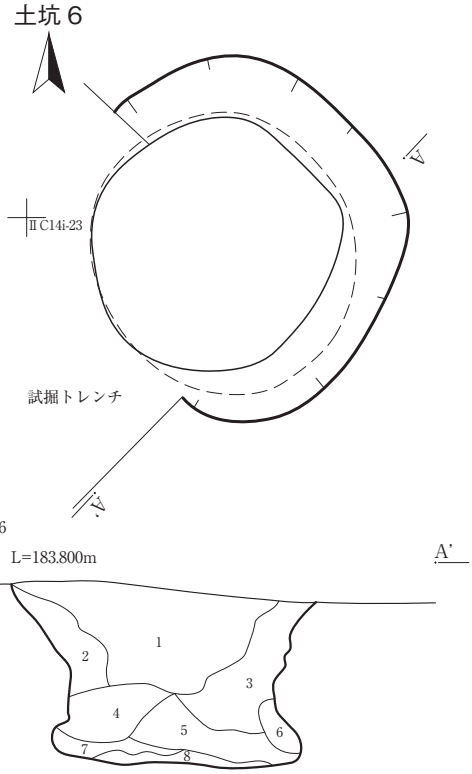
第 114 図　土坑 1～4

土坑５



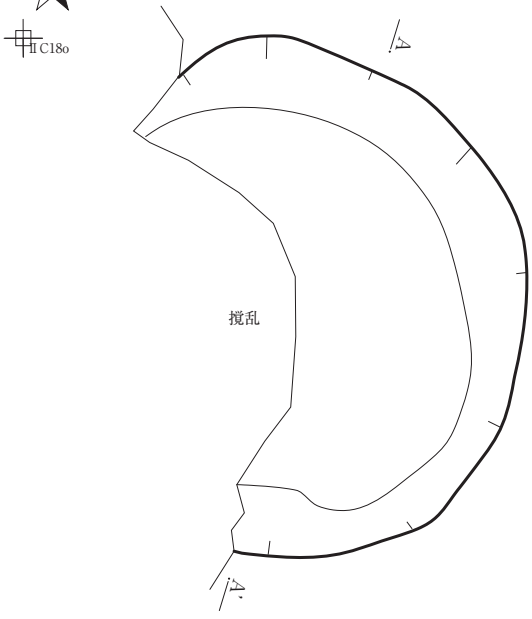
土坑５
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性あまりなし 締まり有 To-Cu ？をブロック状に含む、炭化物粒を全体に含む。
2. 10YR6/6 明黄褐色 To - Cu 粘性なし 締まり有 To-Cu か？土坑内には不規則に混入するが断面で見るとレンズ状に堆積する。
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まり有 褐色土粒および小ブロックを全体に含む　黒色土が流入する部分には炭化物粒が多い。
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性あまり無 締まり有 褐色土粒や炭化物をまばらに含む。
5. 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 4 層との違いは色味のみ。
6. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 全体に黒褐色（暗褐色）土粒が混入し、黒味を持つ。粘性がある。
7. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性強 締まり有 粘性がありベタベタする感じの地山崩落ブロック。
8. 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有 底面直上に入る黒味のある層。

土坑６

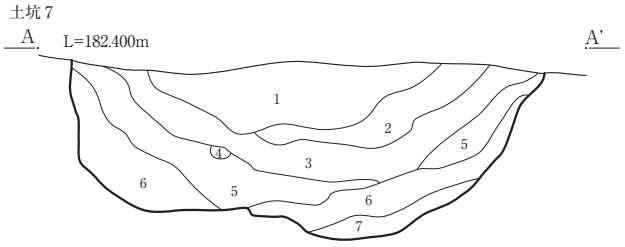


土坑６
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まり有 炭化物微量含む。
2. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 黄褐色土ブロック混入。
3. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有
4. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有 暗褐色土ブロック少量含む。
5. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物少量 含む。
6. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり極有
7. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり欠 炭化物少量含む。
8. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有 炭化物少量含む。

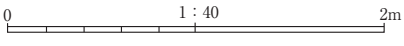
土坑７



土坑７

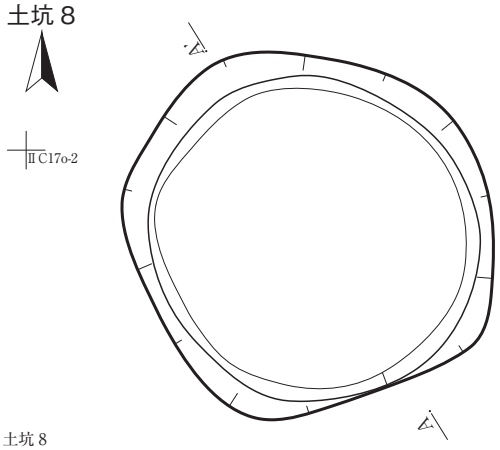


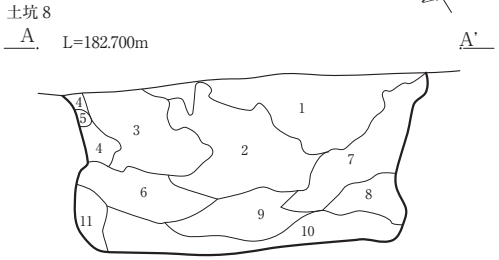
土坑７
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりなし 黄褐色土小ブロックを部分的に含む。フカフカ締まりがない。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりあまりなし 明黄褐色土のブロックを全体に含む。フカフカ締まりがない。
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 炭化物をわずかに含む。
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 黄褐色土粒との混合土。
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや有 炭化物粒を全体に含む。粘性強まる。
6. 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有 地山崩落土主体。粘性さらに強い。
7. 10YR4/6 褐色粘土 粘性有（強）締まり有（強）かたく締まる粘土質土で炭化物粒を全体に含む。



第 115 図　土坑 5～7

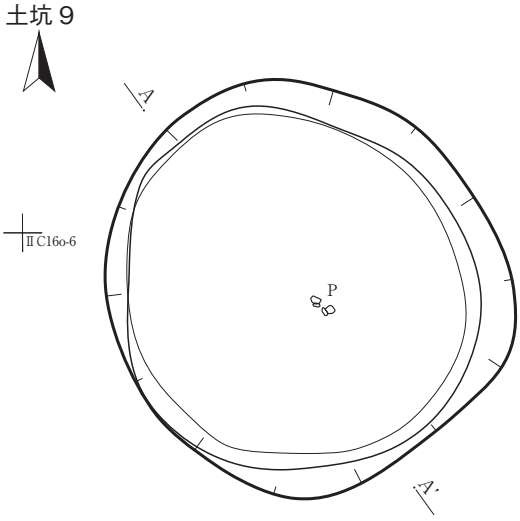
土坑 8

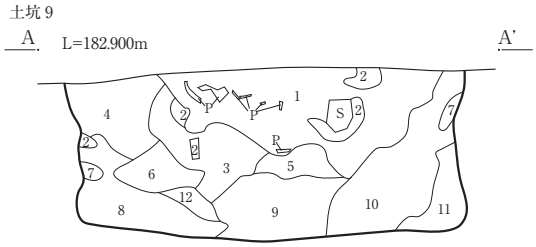




土坑 8
1. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物多く含む。
2. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物微量含む。埋戻土。
3. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物、黄褐色土粒少量含む。
4. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有 暗褐色土との混土。
5. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有 ブロック土。
6. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり欠
7. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まりやや有 黄褐色土ブロック少量含む。
8. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有
9. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり有 小礫多量 含む。
10. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有
11. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり欠 壁崩落土。

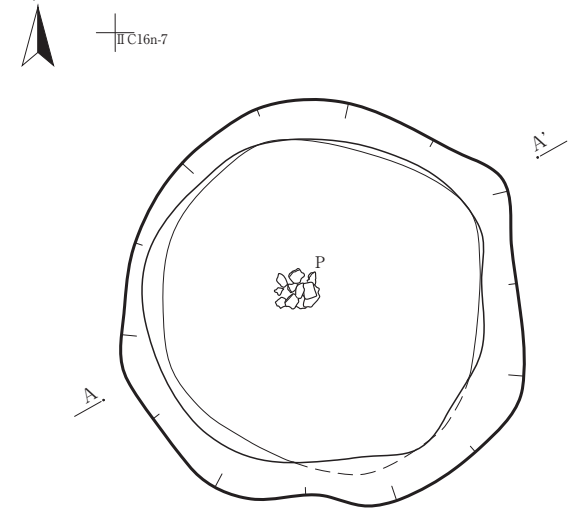
土坑 9

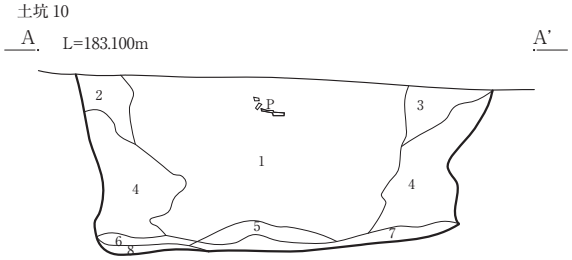




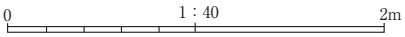
土坑 9
1. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有 炭化物多く含む。
2. 10YR6/8 明黄褐色 粘性有 締まり有 地山ブロック土。
3. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有 黄褐色土ブロック少量含む。
4. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有
5. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり有 炭化物少量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり有
7. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり欠 ブロック土。
8. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有
9. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有 炭化物微量含む。
10. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 炭化物微量含む。
11. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まりやや有 黄褐色土ブロック少量含む。
12. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり有

土坑 10



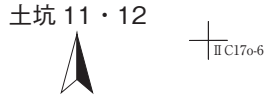


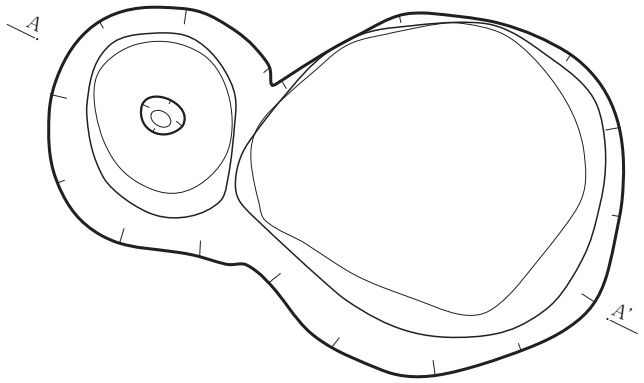
土坑 10
1. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 炭化物多量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まりやや有
3. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり有
4. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり欠
5. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり欠 炭化物多量含む。
6. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり欠 炭化物少量含む。
7. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物微量含む。
8. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 炭化物、焼土粒少量、暗褐色土ブロック混入。



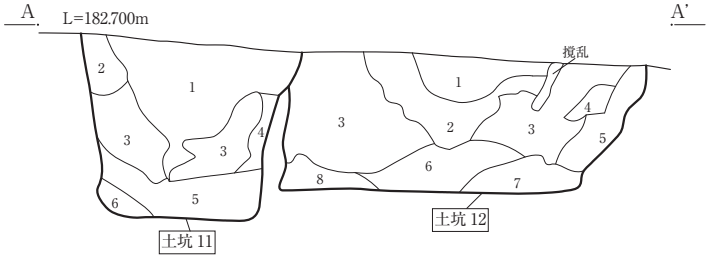
第 116 図　土坑 8～10

土坑 11・12





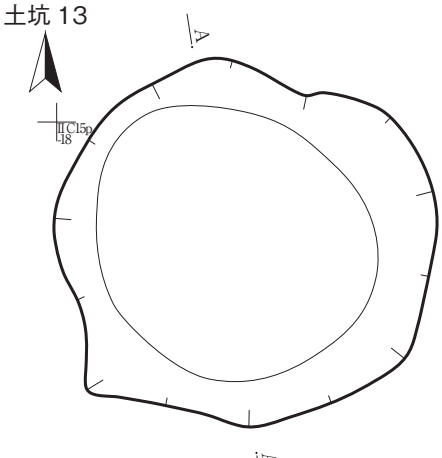
土坑 11・12



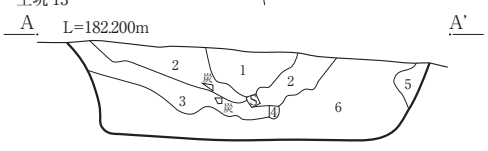
土坑 11
1. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 明黄褐色土粒少量含む。
2. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 明黄褐・暗褐土ブロック少量含む。
3. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まりやや有
4. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まりやや有
5. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり欠
6. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり欠 明黄褐色土ブロック土混入。

土坑 12
1. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 炭化物多量含む。
2. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有 炭化物微量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有　炭化物、黄褐色土ブロック少量含む。
4. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有
5. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり欠
6. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有
7. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり有
8. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まりやや有

土坑 13

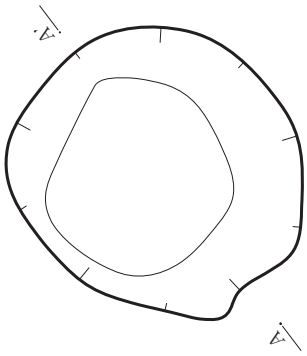


土坑 13

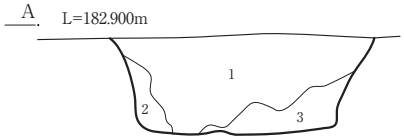


土坑 13
1. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物微量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物微量含む。
3. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有
4. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有 ブロック土。
5. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり有
6. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 炭化物少量、黄褐色土ブロック少量含む。

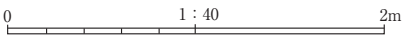
土坑 14



土坑 14

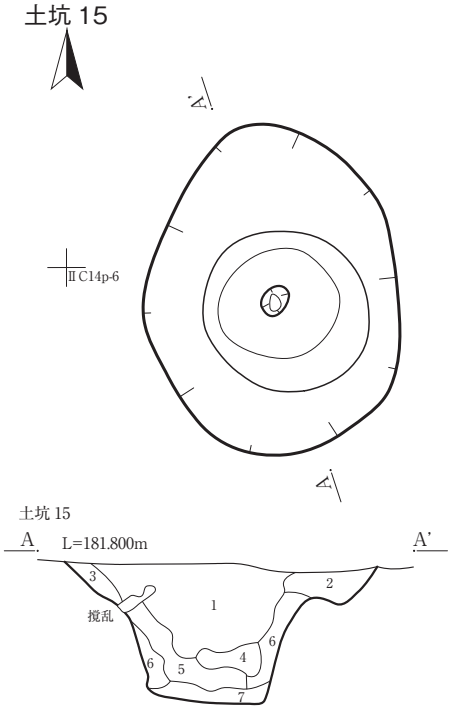


土坑 14
1. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 明黄褐色土粒少量、炭化物微量含む。
2. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 暗褐色土との混土。
3. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有 ブロック状土。



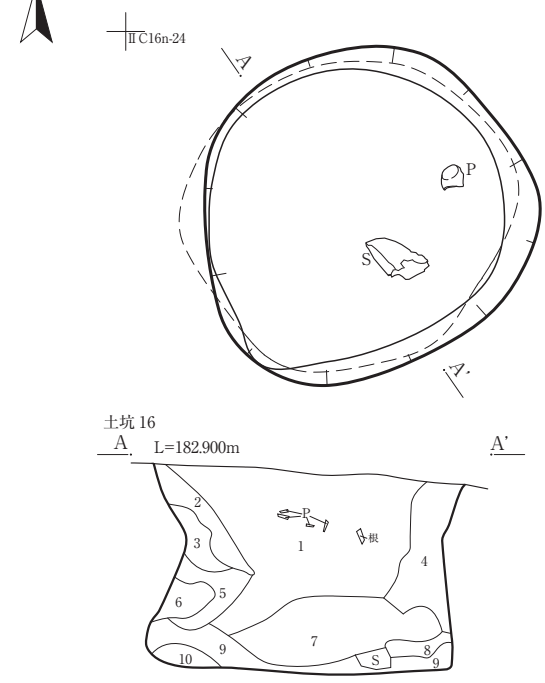
第 117 図　土坑 11～14

土坑 15



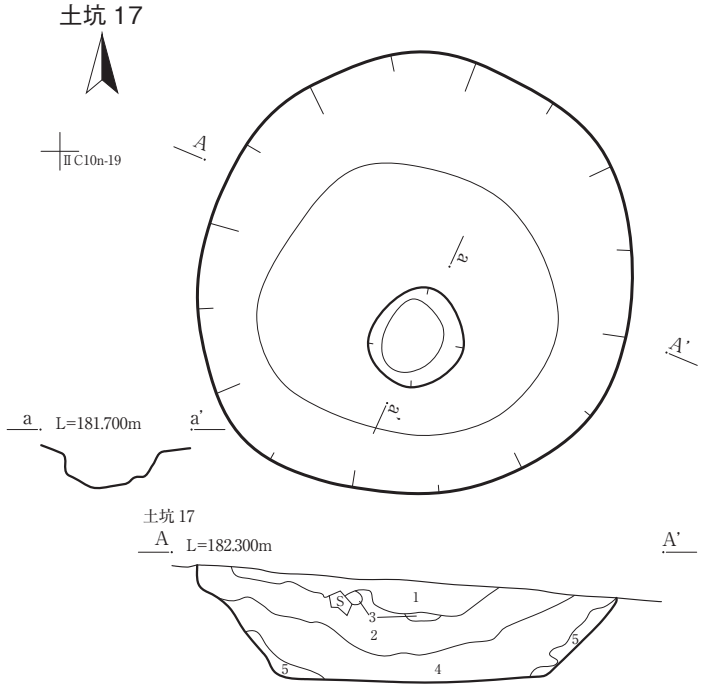
土坑 15
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性有 締まり有 明褐色土粒多く混入。
2. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり有 明褐色土粒少量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有 明褐色土ブロック混入。
4. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まりやや有 明褐色土ブロック少量含む。
5. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有
6. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 暗褐色土との混土。
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まり有

土坑 16



土坑 16
1. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有 炭化物多く含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物微量含む。
3. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物微量含む。
4. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まりやや有 黄褐色土ブロック微量含む。
5. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり欠 炭化物微量含む。
6. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり欠 ブロック状含む。
7. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物少量含む。
8. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まりやや有
9. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物少量含む。
10. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり欠

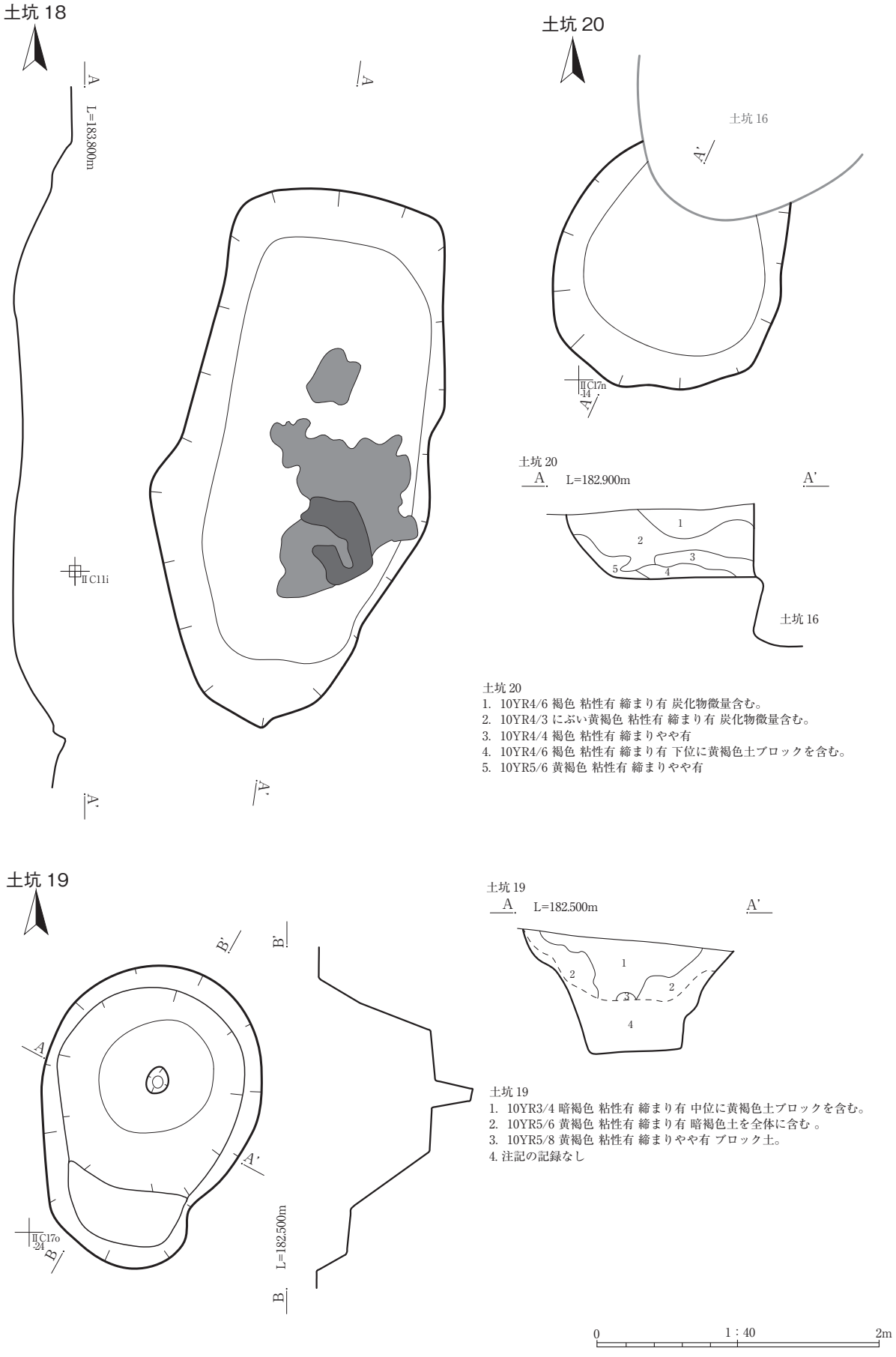
土坑 17



土坑 17
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有　炭化物（約φ5 - 10 ㎜）を全体に含む。
2. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有　1 層より少ないが炭化物粒をまばらに含む。
3. 7.5YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有 焼けの悪い焼土粒のブロック。部分的に橙色をなす。
4. 7.5YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 明褐色の焼土粒と炭化物粒をわずかに含む。
5. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有（強）締まりやや有 地山崩落ブロック。

0　1：40　2m

第 118 図　土坑 15～17

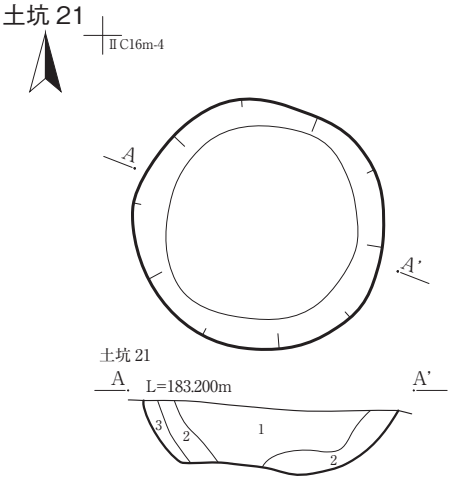


土坑 20
1. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 炭化物微量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まり有 炭化物微量含む。
3. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有
4. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 下位に黄褐色土ブロックを含む。
5. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まりやや有

土坑 19
1. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有 中位に黄褐色土ブロックを含む。
2. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり有 暗褐色土を全体に含む 。
3. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まりやや有 ブロック土。
4. 注記の記録なし

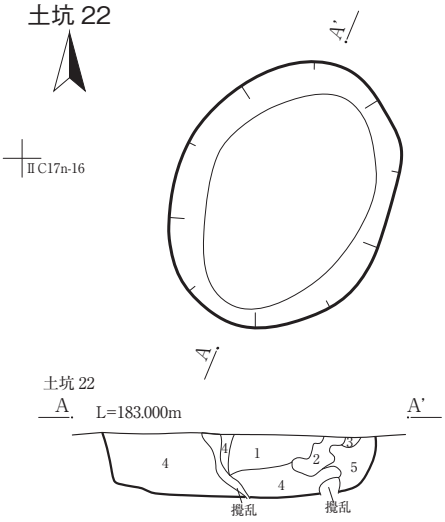
第 119 図　土坑 18～20

土坑 21



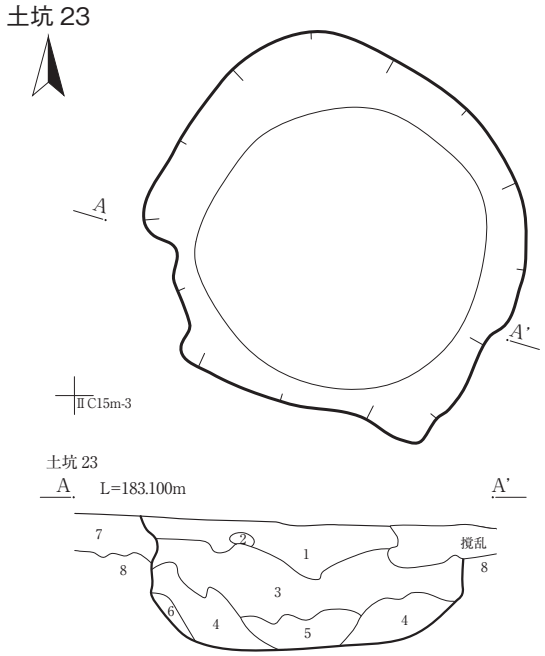
土坑 21
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粘性有　締まり有　炭化物、黄褐色ブロック少量含む。
2. 10YR5/6　黄褐色シルト　粘性有　締まりやや有　10YR4/4 褐色土との混土。
3. 10YR5/8　黄褐色シルト　粘性有　締まり有

土坑 22



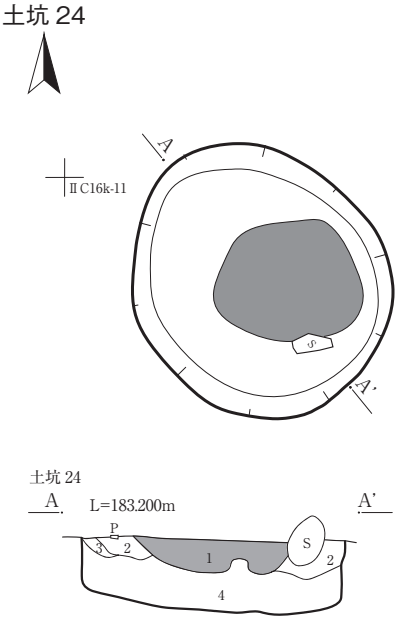
土坑 22
1. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有 炭化物少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色 粘性有 締まり有 炭化物微量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まり欠
4. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 黄褐色土ブロック、炭化物少量含む。
5. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まりやや有

土坑 23

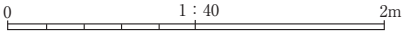


土坑 23
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性あまりなし 締まり有 褐色土粒および小ブロック。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性なし 締まりやや有 ブロック状。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり有 黄褐色土粒と炭化物粒を全体に含む。
4. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 炭化物粒まばらに含む。
5. 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 4 層より大きめの炭化物を含む。
6. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 粘性の強い地山崩落ブロック。
7. 10YR3/4 暗褐色シルト　粘性やや有　締まりなし　草木根多い（落ち込みか）。
8. 10YR4/4 褐色シルト　粘性やや有　締まりやや有　黄褐色土ブロックを部分的に含む（落ち込みか）。

土坑 24

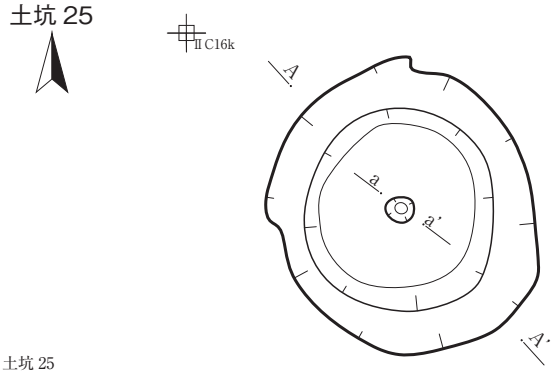


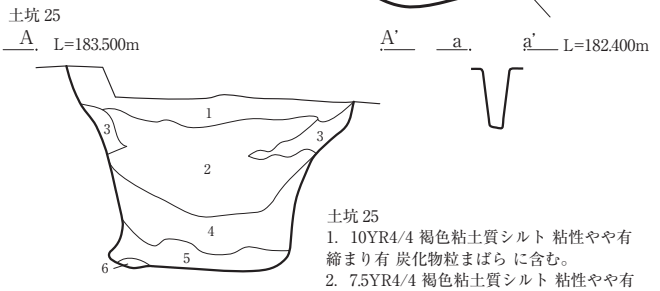
土坑 24
1. 5YR4/4 にぶい赤褐色シルト 粘性有 締まりやや有 橙色焼土ブロック含む。くすんだ色調の焼土。
2. 7.5YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有 炭化物粒まばらに含む。
3. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 地山崩落ブロック 含む。
4. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 炭化物をまばらに含む。部分的に黒褐色土粒が混入。



第 120 図　土坑 21～24

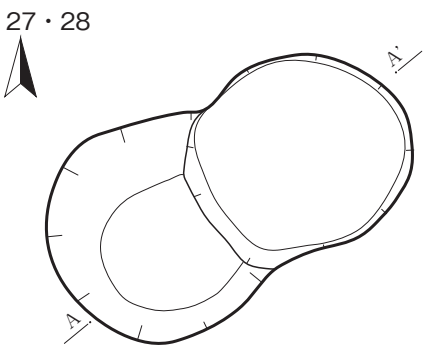
土坑 25

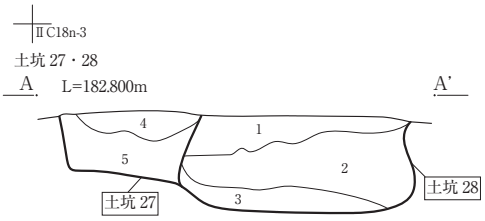




土坑 25
1. 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性やや有 締まり有 炭化物粒まばら に含む。
2. 7.5YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性やや有 締まり有 1 層より赤み強い 。炭化物粒含まず。
3. 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 地山崩落土
4. 7.5YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有 若干フカフカする　粘性は強い
5. 7.5YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有　混入物無し。
6. 7.5YR3/2 黒褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有黒褐色土小ブロック最下部に部分的にある。

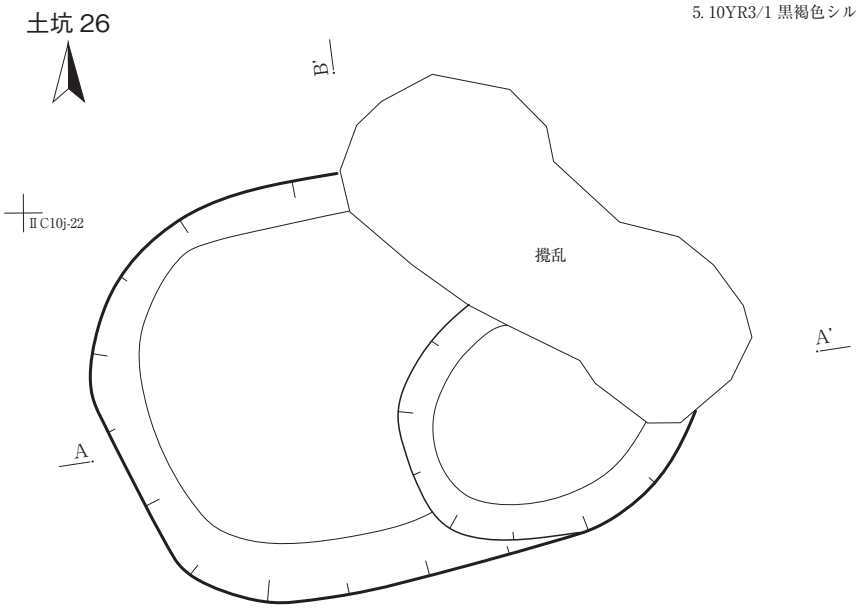
土坑 27・28

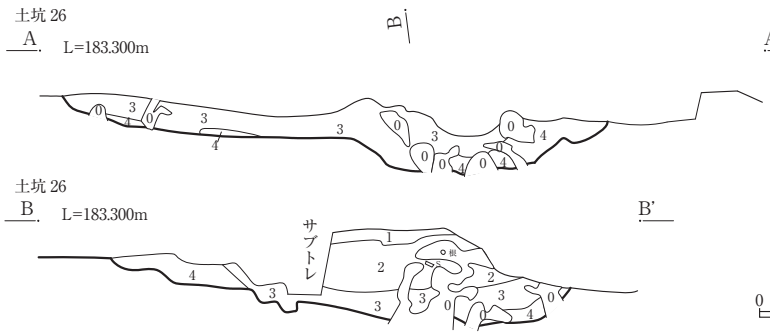




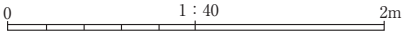
土坑 27・28
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや強 締まりやや強 炭粒少量（φ - 4 ㎜）地山ブロック中量含む。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや強 炭粒少量（φ - 4 ㎜）地山ブロック多量 含む。
3. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性やや弱 締まりやや強 地山ブロック多量含む。
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強 締まりやや強 炭粒少量（φ - 2 ㎜）地山ブロック含む。
5. 10YR3/1 黒褐色シルト　粘性やや強 締まりやや強

土坑 26



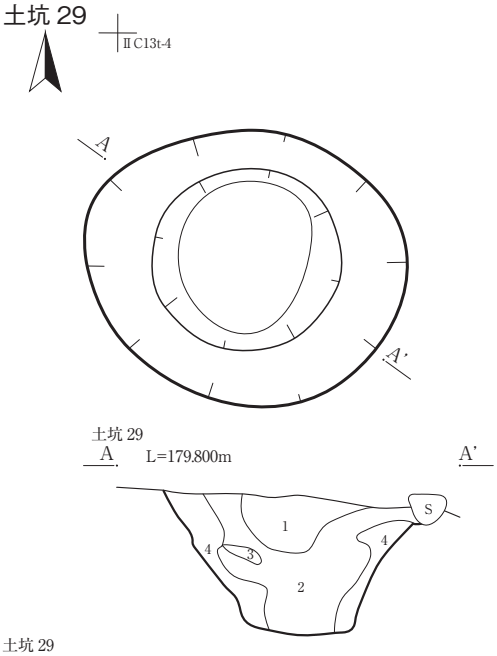


土坑 26
0　攪乱（根攪乱、トレンチ埋め戻し土）
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性有 締まり密 真っ黒い層 。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山土を全体に微量含み、わずかに黄味。
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まり密 2 層より暗い。
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロック少量含む。



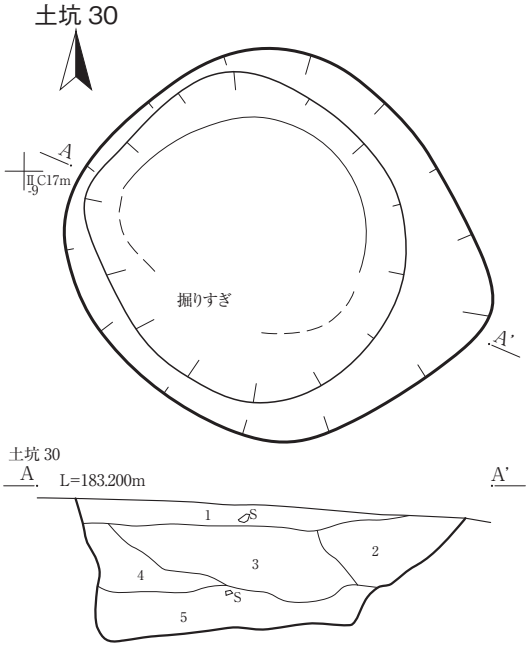
第 121 図　土坑 25～28

土坑 29



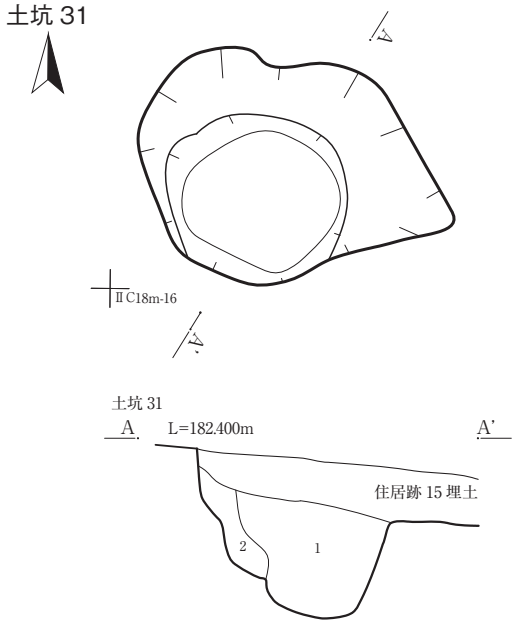
土坑 29
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性あまりなし 締まりやや有 粘性なくサラサラした感じ。炭化物粒まばらに含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まり有 褐色土粒を全体に含む。
3. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 地山崩落ブロック 。
4. 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性やや有 締まり有 黄褐色土粒およびその小ブロックを全体に含む。

土坑 30



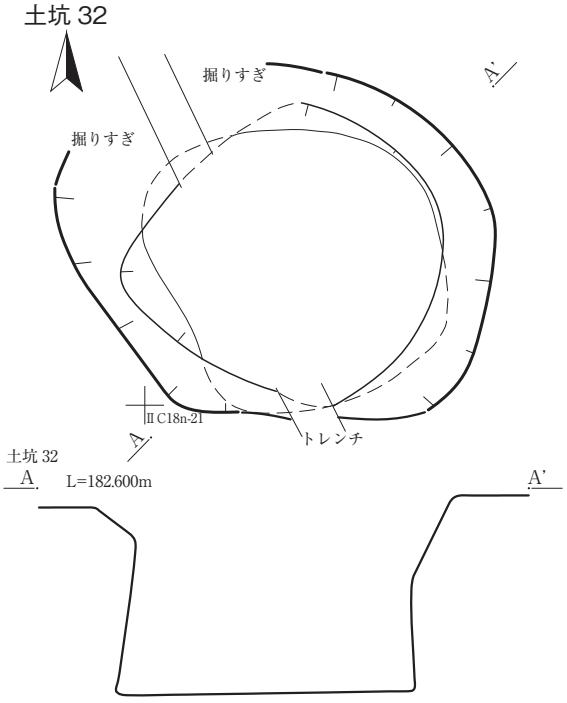
土坑 30
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まりやや強 炭粒（φ2㎜）1% 含む。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 炭粒（φ2㎜）2%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 10% 含む。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まりやや強 炭粒（φ2㎜）1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 2% 含む。
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まり中 炭粒（φ5㎜）2%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 10% 含む。
5. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性やや有 締まりやや強 炭粒（φ2㎜）1% 含む。

土坑 31



土坑 31
1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロック微量含む。

土坑 32

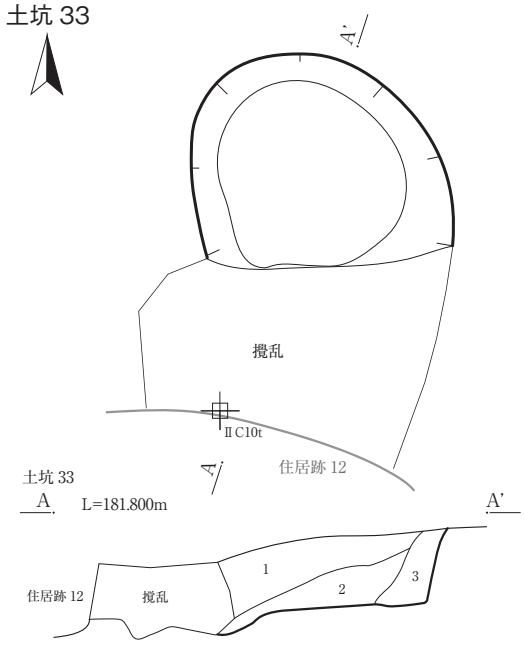


土坑 32
埋土状況
上位. 粘性やや弱　締まり弱　炭粒少量、草根含む。
中位. 粘性やや強　締まりやや強　炭粒少量、地山ブロック少量含む。
下位. 粘性やや強　締まりやや強　炭粒少量、地山ブロック多量含む。
※観察用ベルトを設定する際、隣接する土坑 43 と合わせ 1 つのプランと認識していた。その後、木根に乱された埋土から、上端の把握が困難になり、半分以上掘ってしまった。そのため残った 1/3 の部分で埋土状況を観察し、写真とメモ記録を行い、図は平面と空断面のみとした。

0　1：40　2m

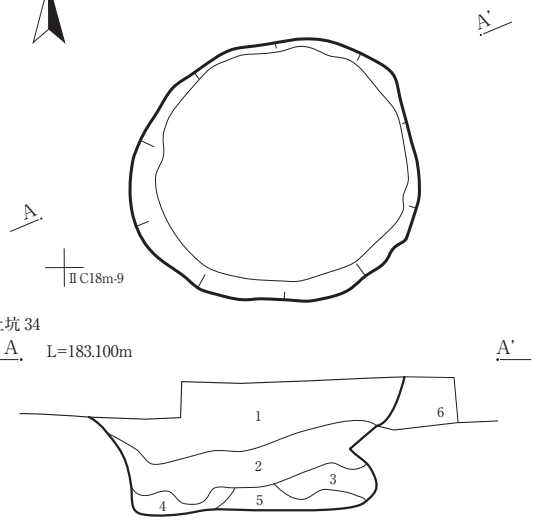
第 122 図　土坑 29～32

土坑 33



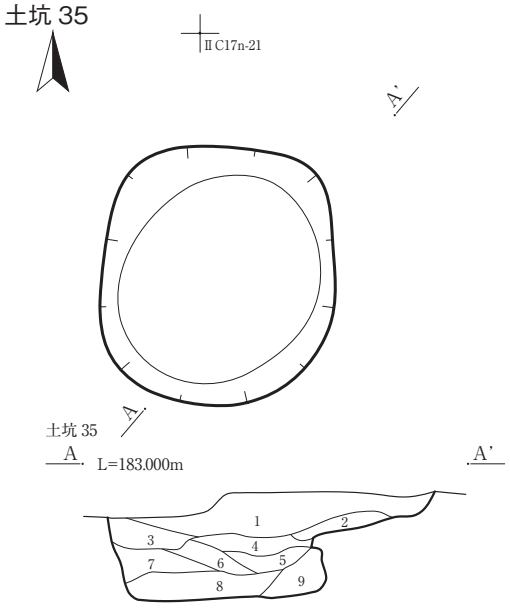
土坑 33
0. 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性やや有 締まりやや有 新期撹乱の一部。
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 炭化物粒をわずかに含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まり有　炭化物粒認められず。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性有 締まり黄褐色土小ブロック含む。

土坑 34



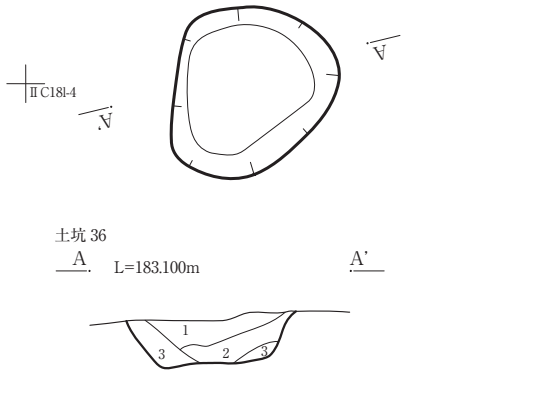
土坑 34
1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まり中 地山ブロック 5% 含む。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まり中 地山ブロック 5% 含む。
3. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性中 締まり中 炭化物 1% 含む。
4. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 締まりやや強 10YR4/4 暗褐色シルトブロックがシミ状に 3%含む。
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まり中 地山ブロック 1%含む。
6. 黄褐色～褐色シルト　Ⅳ層土落ち込みか。

土坑 35



土坑 35
1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 締まり中 炭化物（φ3㎜）1% 含む。
2. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性中 締まり中
7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 1% 含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 締まりやや強
炭化物（φ3㎜）1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 3% 含む。
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まりやや強
7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 3% 含む。
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まり中
炭化物（φ2㎜）1%、10YR5/8 黄褐色シルトブロック 1% 含む。
6. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まり中 炭化物（φ2㎜）1% 含む。
7. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 締まりやや弱
7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 3%　含む。
8. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 締まりやや弱
炭化物（φ5㎜）1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 3% 含む。
9. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや弱
7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 3% 含む。

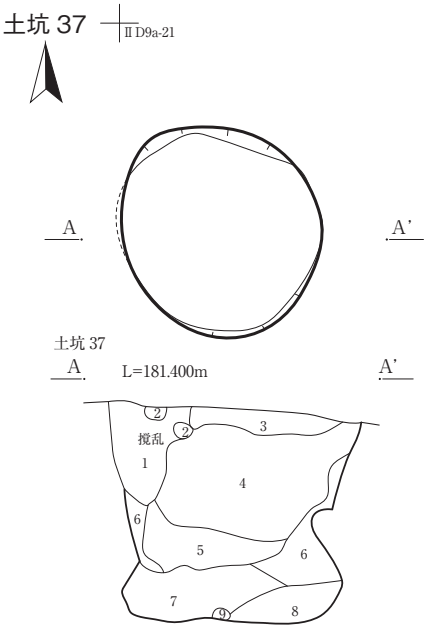
土坑 36



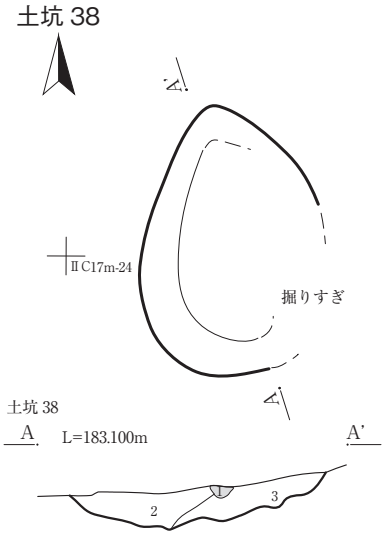
土坑 36
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強 締まり中 焼土ブロック 1%、炭化物粒（φ2㎜）1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 10% 含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強 締まり中 炭化物粒（φ2㎜）1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 2% 含む。
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強 締まりやや弱 7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 10% 含む。

0　1：40　2m

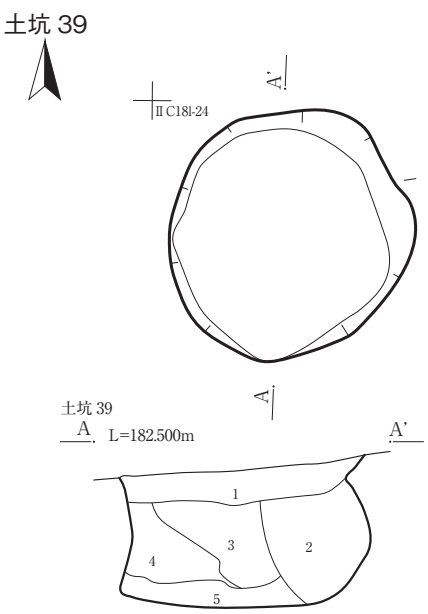
第 123 図　土坑 33～36



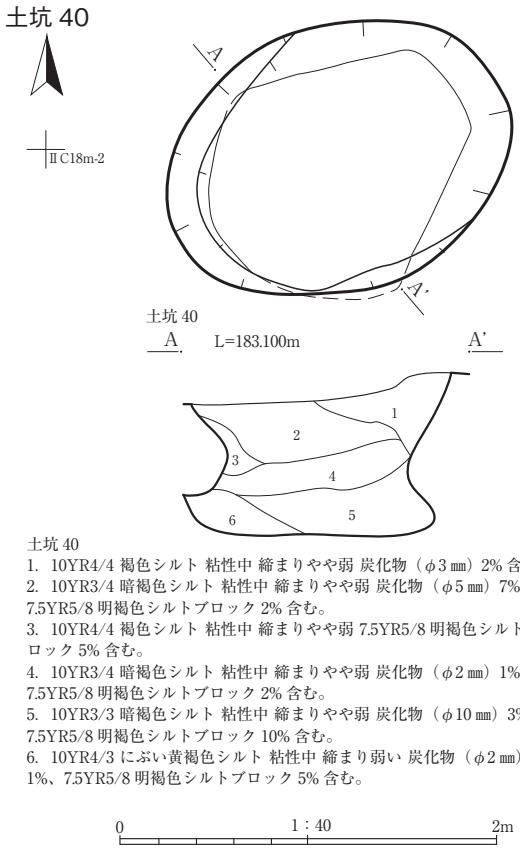
土坑 37
1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 焼土粒、炭化物を含む。撹乱。
2. 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 焼けの良くない焼土ブロック含む。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや有 締まり有 炭化物粒を全体に含む。
4. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性有 締まりやや有 炭化物粒、黄褐色土を全体に含む。
5. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや有 炭化物、黄褐色土をまばらに含む。
6. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 地山崩落ブロックと黒褐色土粒の混合。
7. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性有 締まり有 黄褐色土粒をまばらに含む。
8. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや有 7 層に似るが、少しフカフカする。
9. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性有 締まり有 地山崩落ブロック。



土坑 38
1. 2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性やや弱 締まり中
2. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まり中 焼土ブロック 1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 15% 含む。
3. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性中 締まりやや有 7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 20% 含む。

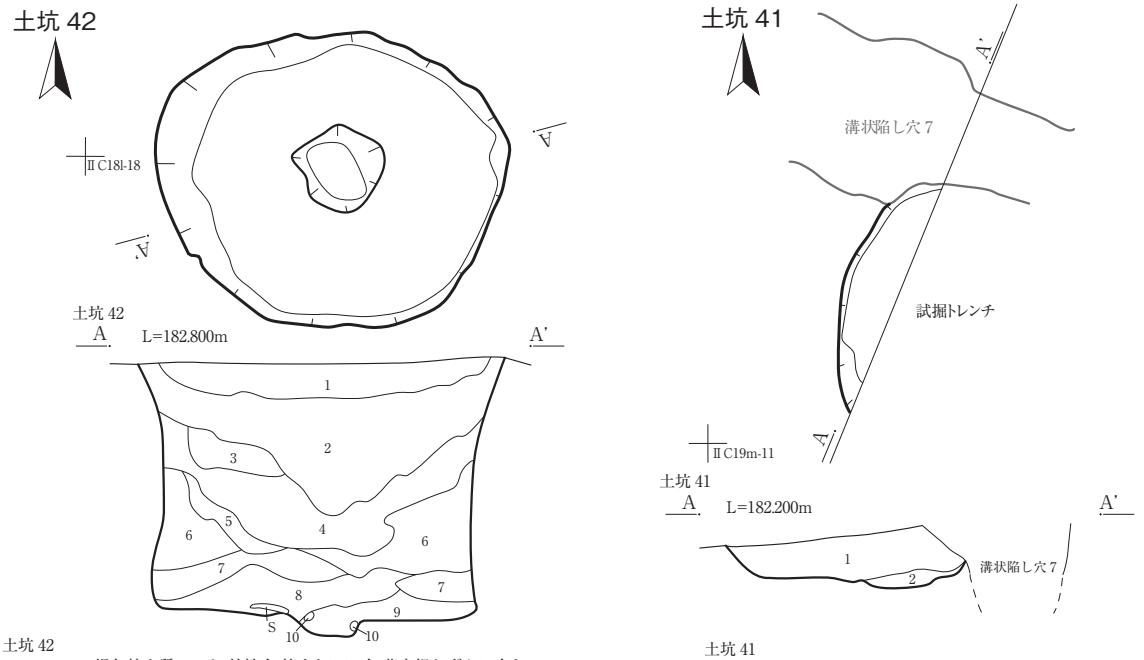


土坑 39
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まり中 炭化物（φ2 ㎜）1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック（粒状）5% 含む。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まり中 炭化物（φ10 ㎜）3%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 10% 含む。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まり中 7.5YR 5/8 明褐色シルトブロック 20% 含む。
4. 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや弱 炭化物（φ2 ㎜）1% 含む。
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まり中 7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 5% 含む。



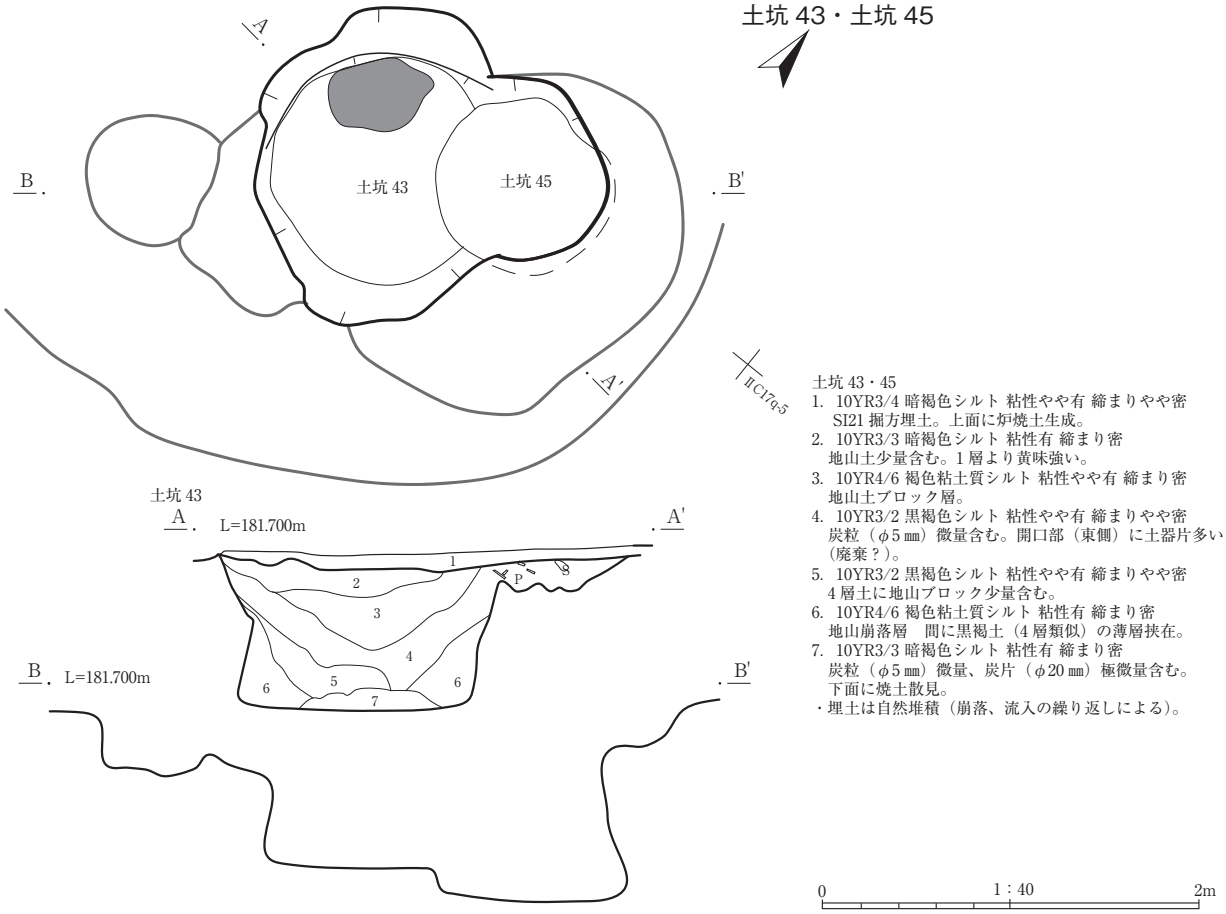
土坑 40
1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 炭化物（φ3 ㎜）2% 含む。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 炭化物（φ5 ㎜）7%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 2% 含む。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 5% 含む。
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 炭化物（φ2 ㎜）1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 2% 含む。
5. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 炭化物（φ10 ㎜）3%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 10% 含む。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 締まり弱い 炭化物（φ2 ㎜）1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 5% 含む。

第 124 図　土坑 37～40



土坑 42
1. 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有 草木根わずかに含む。
2. 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 炭化物粒をまばらに含む。
3. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 2 層のブロックを含む 。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有 炭化物粒をまばに含む。
5. 7.5YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有
　若干赤みを帯びる地山崩落ブロック、焼土ではない。
6. 7.5YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり有 地山崩落土主体。
7. 7.5YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや有
8. 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性有 締まりあまりなし
　北東側最下部の黒味を帯びる土、フカフカ柔らかい
9. 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性有 締まりあまりなし 北西側最下部の土、8 層に似る。
10. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性やや有 締まり有 ブロック状。凹部にのみ混入する

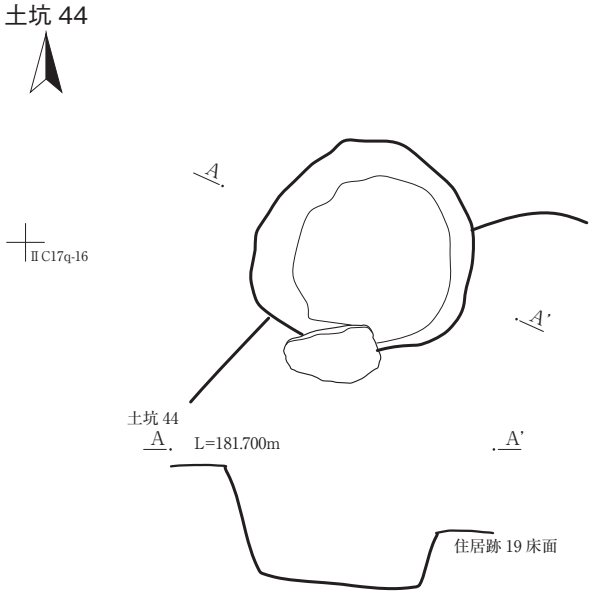
土坑 41
1. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 炭化物（φ 2 ㎜）1%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 5% 含む。
2. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性中 締まり中 7.5YR5/8 明褐色 シルトブロック 10% 含む。



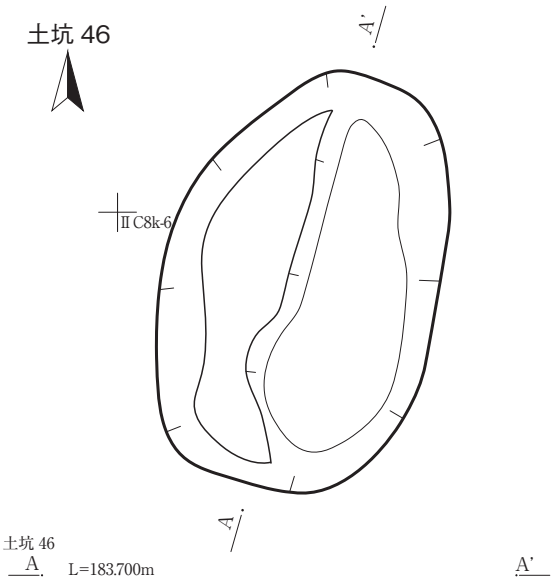
土坑 43・45
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密
　SI21 掘方埋土。上面に炉焼土生成。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有 締まり密
　地山土少量含む。1 層より黄味強い。
3. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性やや有 締まり密
　地山土ブロック層。
4. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密
　炭粒（φ5 ㎜）微量含む。開口部（東側）に土器片多い（廃棄？）。
5. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密
　4 層土に地山ブロック少量含む。
6. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まり密
　地山崩落層　間に黒褐土（4 層類似）の薄層挟在。
7. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有 締まり密
　炭粒（φ5 ㎜）微量、炭片（φ20 ㎜）極微量含む。
　下面に焼土散見。
・埋土は自然堆積（崩落、流入の繰り返しによる）。

第 125 図　土坑 41～43・45

土坑 44

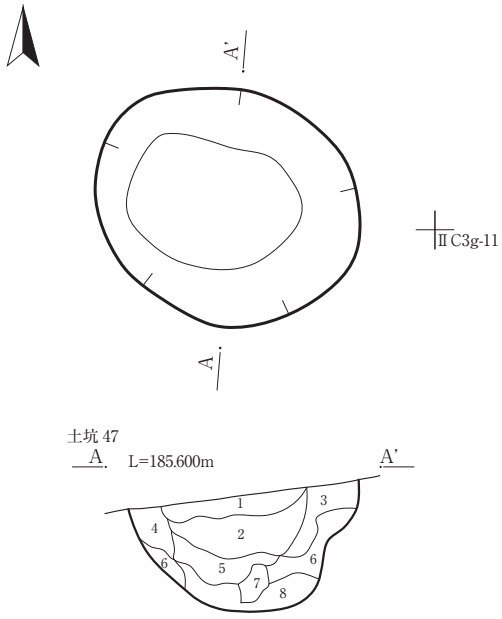


土坑 46



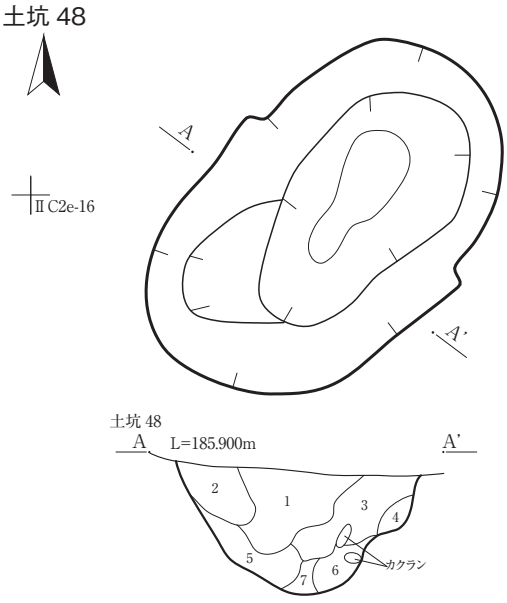
土坑 46
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物微量含む。
2. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　明黄褐土粒混入。
3. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
　炭化物微量。一部黄褐土が混入。
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　5/6 黄褐土との混土。
5. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック土。
6. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり欠　一部黄褐ブロック混入。
7. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック土。

土坑 47



土坑 47
1. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
2. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐土ブロック中位に混入。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
5. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
　暗褐土混入。
6. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
8. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
　地山と同じ流入土。

土坑 48

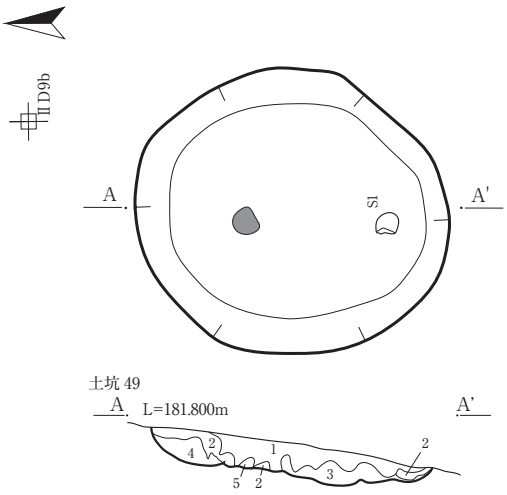


土坑 48
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭微。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭微。
3. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭少。
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山流入。
5. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　暗褐土混入。
6. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
7. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠　1 層との混土。

0　1：40　2m

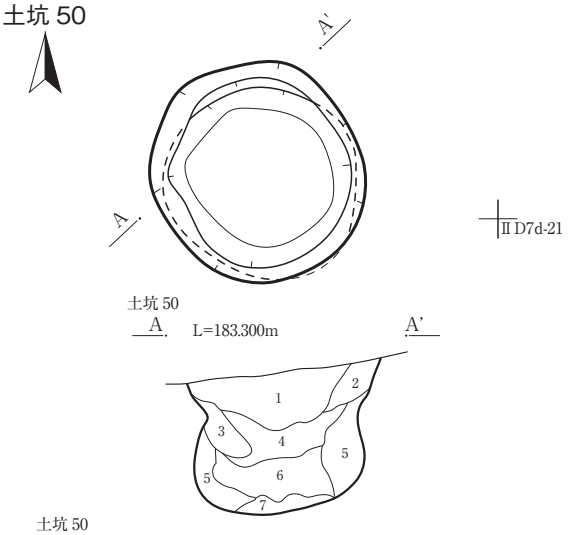
第 126 図　土坑 44・46～48

土坑 49



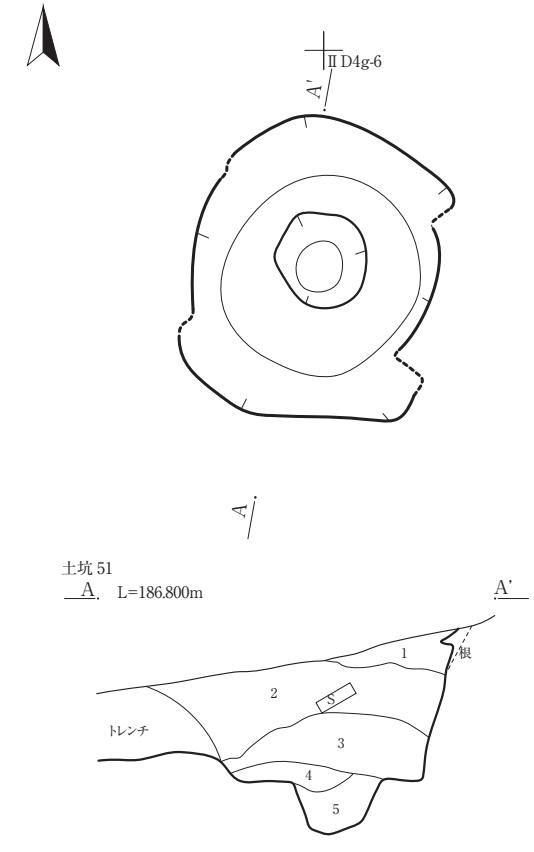
土坑 49
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物少量含む。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　暗褐土との混土。
3. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠　暗褐土との混土。
　炭化物を微量含む。
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　黄褐土粒微量含む。
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

土坑 50



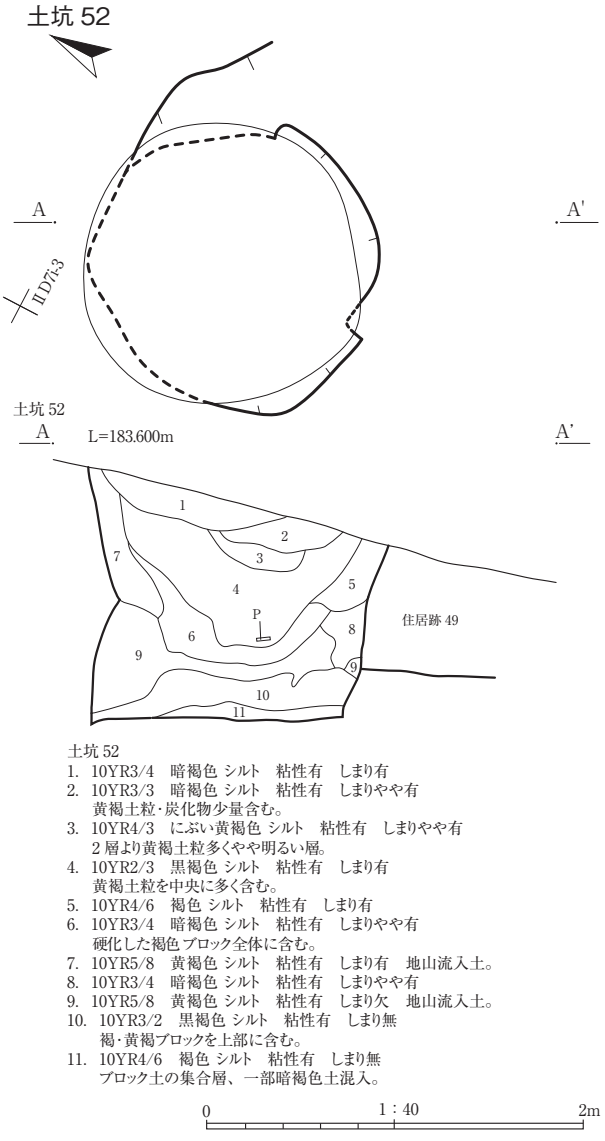
土坑 50
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物少量含む。
2. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐土粒微量含む。
3. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山起源。
4. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　大径の黄褐土ブロック含む。
5. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山土、壁崩落土か?
6. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　しまり劣る。
7. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山土。

土坑 51



土坑 51
1. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有
　大径黄褐ブロック混入（斜面上方からの流入）。
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐粒少量含む。
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐粒少量含む。
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠
　炭化物 を多く含む。ピット状。

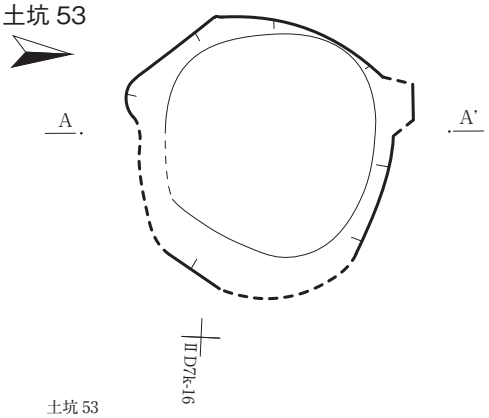
土坑 52

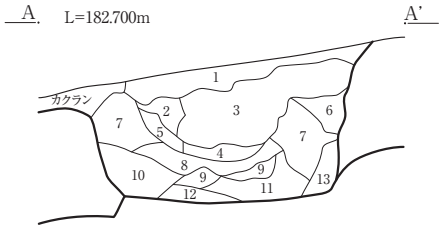


土坑 52
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
2. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　黄褐土粒･炭化物少量含む。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　2 層より黄褐土粒多くやや明るい層。
4. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐土粒を中央に多く含む。
5. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
6. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　硬化した褐色ブロック全体に含む。
7. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山流入土。
8. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
9. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠　地山流入土。
10. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性有　しまり無
　褐･黄褐ブロックを上部に含む。
11. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり無
　ブロック土の集合層、一部暗褐色土混入。

第 127 図　土坑 49～52

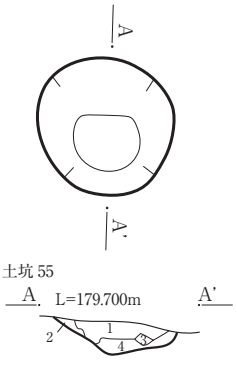
土坑 53





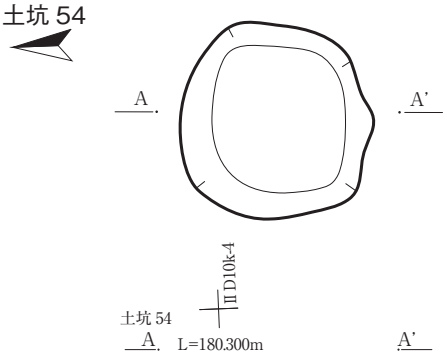
土坑 53
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物を微量含む。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐土粒･炭化物　微量含む。
4. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
5. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
6. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性やや有　しまり欠
7. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　黄褐土ブロック少量混入。
8. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐土粒を多く含む。
9. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐土との混土。
10. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
11. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐ブロック（小）･炭化物を少量含む。
12. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
13. 10YR4/6 褐色～ 5/6 黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
　ブロック土多い⇒地山の流入土。

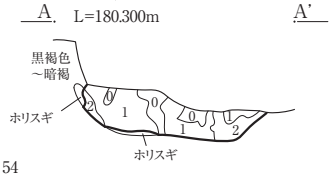
土坑 55



土坑 55
1. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
　To-cu の小ブロック含む。
2. 10YR3/3　暗褐色粘土質 シルト　粘性やや有　しまり有
　地山崩落ブロック。
3. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまりあまり無
　ブロック状。
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有
　サラサラしている。

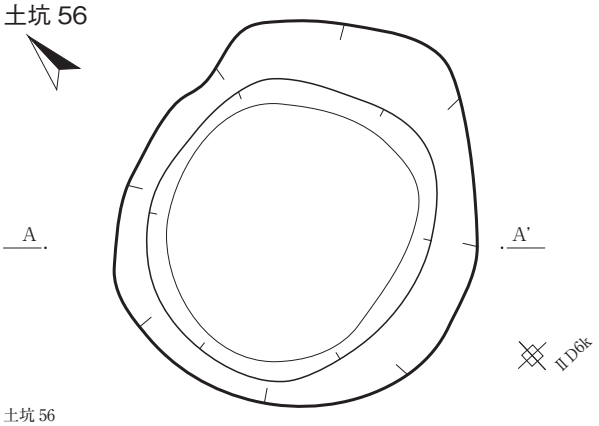
土坑 54

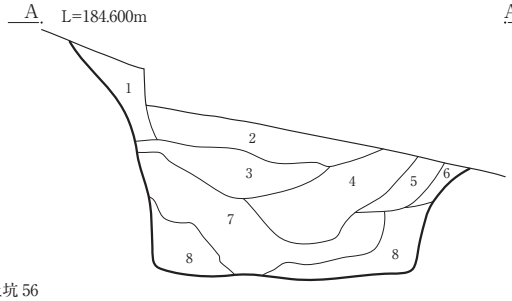




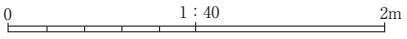
土坑 54
0. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有
　黄褐色土粒混入多い。木根攪乱。
1. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性なし　しまり有
　黄褐色土粒を全体に含む。
2. 10YR3/3　暗褐色粘土質 シルト　粘性やや有　しまり有
　褐色土小ブロック含む。

土坑 56



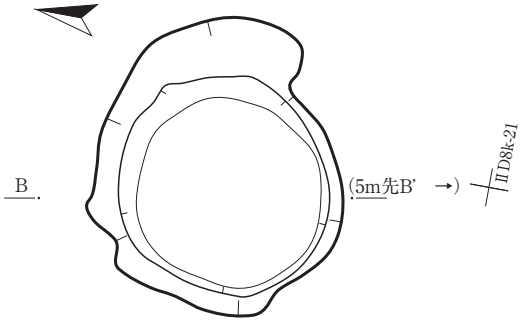


土坑 56
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性弱　しまり弱
　10YR4/6　褐色　地山　シルトとの混合土。壁の崩落土。
2. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性弱　しまり弱
　炭化物（径～2 ㎜） 1%　地山ブロック（径～5 ㎜） 1%（1 層との層界付近に多い）。
3. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性中　しまりやや弱
　炭化物（径～1 ㎜） 1%　10YR6/8　明黄褐色 シルト　粒（径～1 ㎜） 1%
　（1 層との層界付近に多い）。
4. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性中　しまりやや弱
　炭化物（径～5 ㎜） 2 ～ 3%　炭の割合が一番大きい。
　10YR6/8　明黄褐色 シルト　粒（径～2 ㎜） 2%　焼土（径～1 ㎜） 1%。
5. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　炭化物（～1 ㎜） 1%　10YR6/8　明黄褐色 シルト　粒（径～1 ㎜） 1%。
6. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性弱　しまり弱　地山との混合土。壁の崩落土。
7. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや弱　しまり弱
　炭化物（径～1 ㎜） 1%　10YR6/8　明黄褐色 シルト　粒（径～2 ㎜） 1～2%
　下部に地山が少量混ざる。
8. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性中　しまりやや弱
　炭化物（径～2 ㎜） 1～2%10YR6/8　明黄褐色 シルト　粒（径～2 ㎜） 1～2%
　10YR2/1　黒色 シルトを少量含む。地山を多く含む。



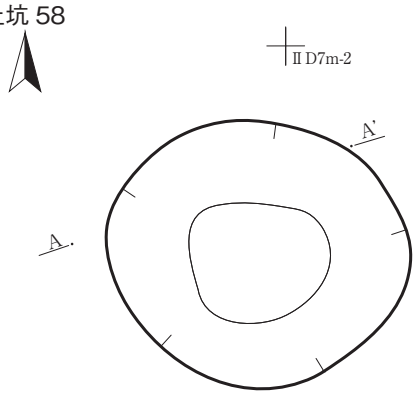
第 128 図　土坑 53～56

土坑 57

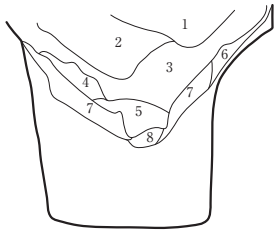


※断面図及び注記は第 62 図断面 B－B' 参照

土坑 58

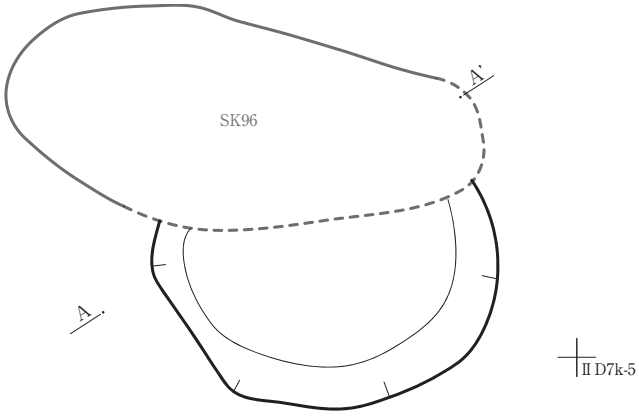


土坑 58　　※セクションポイントは写真及び断面図より復元

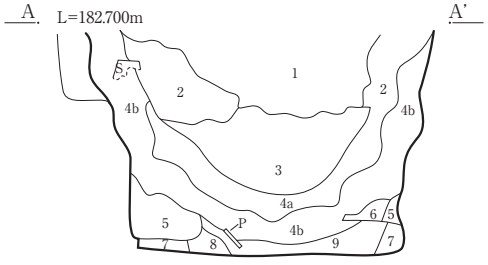


土坑 58
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有
　炭粒径 1 ㎜ 3% 未満　礫径 10 ㎜ 3% 未満。
2. 7.5YR3/2　黒褐色 粘質シルト　粘性有　しまり欠く
3. 10YR3/3　暗褐色 粘質シルト　粘性有　しまり有　炭粒径 1～5 ㎜ 5%
　10YR4/4　褐色シルト 5% と地山粒（径 2～3 ㎜）5% を含む。
4. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　10YR4/4 のシルト塊が 20% 混じる。
5. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり欠く　炭粒径 1 ㎜ 5% 未満。
6. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり欠く
　土器片と 10YR 4/6 褐色粘土 10% を含む。
7. 10YR3/4　暗褐色 粘土　粘性有　しまり欠く
　10YR4/4 地山混じりシルト 80%。
8. 7.5YR4/4 褐色 粘土　粘性有　しまり欠く

土坑 59

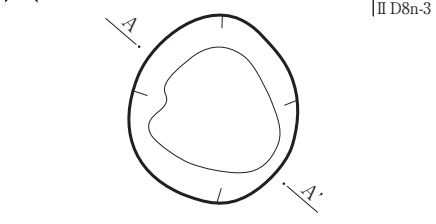


土坑 59

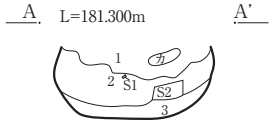


土坑 59
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
　炭化物粒･黄褐色土粒を全体に含む。
2. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
　黄褐色土小ブロックをまばらに含む。
3. 10YR4/6　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有
　基本層序（暗褐色土）の地山に似る。
　人為的に埋め戻している。上層ほど暗褐色のシミ多い。
4a. 2 層に同じ。
4b. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有
　褐色土粒をごくまばらに含む。
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性あまり無　しまり有
　硬く締まる地山崩落ブロック。
6. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性あまり無　しまりやや有
　褐色土小ブロック含む。
7. 10YR3/3　暗褐色粘土質 シルト　粘性やや有　しまりあまり無
　フカフカと締まりのない埋土。
8. 10YR3/2　黒褐色粘土質 シルト　粘性やや有　しまり有（強）
　褐色土粒をまばらに含む。
9. 10YR2/3　黒褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　硬く締まる黒褐色土。

土坑 60



土坑 60

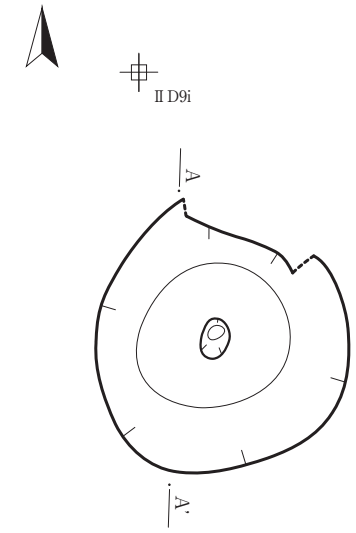


土坑 60
1. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性無　しまり疎
　黄褐色粒が微量に入、1 ㎜～3 ㎜の炭化物が微量にあり。土坑埋土。
2. 7.5TR3/1　黒褐色 シルト　粘性強　しまりやや密
　1 層より明るい埋土であるが、混入物は少なく微量に黄褐色粒が入る。
3. 7.5YR3/3　暗褐色 シルト　粘性強　しまりやや疎
　地山直上?底面付近には黄褐色粒が多量に入る。

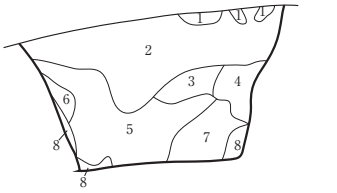
0　1：40　2m

第 129 図　土坑 57～60

土坑 61

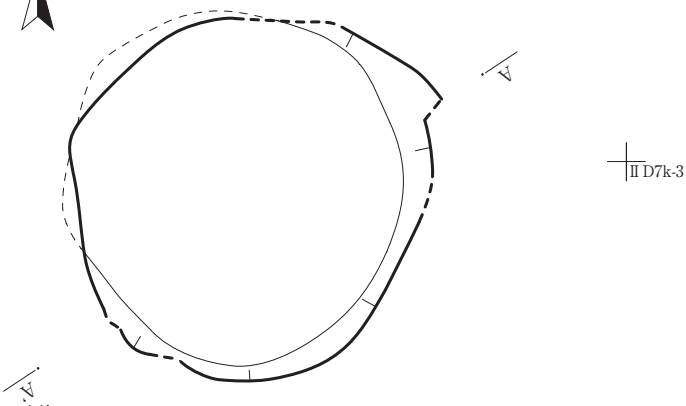


土坑 61
A　L=181.400m　A'

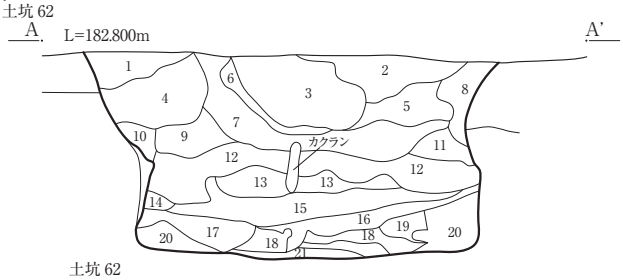


土坑 61
1. 5YR4/4　にぶい赤褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　SI52 炉の残焼土。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　中央に黄褐ブロック混入。
3. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　筋状に黄褐土ブロック混入。
4. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山起源。
5. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐土粒･炭化物を多く含む。
6. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック土。
7. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　5 層よりやや暗色。
8. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山起源。

土坑 62

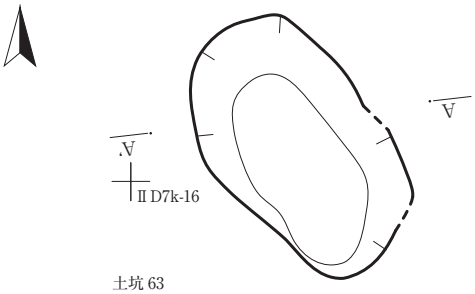


土坑 62
A　L=182.800m　A'

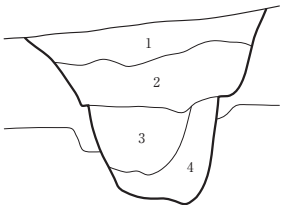


土坑 62
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物･黄褐土粒多い。
3. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり極有　ブロック状。
4. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
5. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物微量含む。
6. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠　黄褐ブロックを多く含む。
7. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
　炭化物（大）･黄褐土粒を全体に含む。
8. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック状。
9. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐土粒少量含む。
10. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまり有　やや砂質、パサつく。
11. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
12. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
　褐色ブロックと暗褐土との混土。
13. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐ブロックを上位に含む。
14. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり欠　ブロック状。
15. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
16. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性有　しまり欠
17. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　黄褐ブロックを下位に含む。
18. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　黄褐ブロックを含む。
19. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
20. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
　ブロック状の集合体。
21. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　黄褐ブロック少量含む。

土坑 63



土坑 63
A　L=182.500m　A'

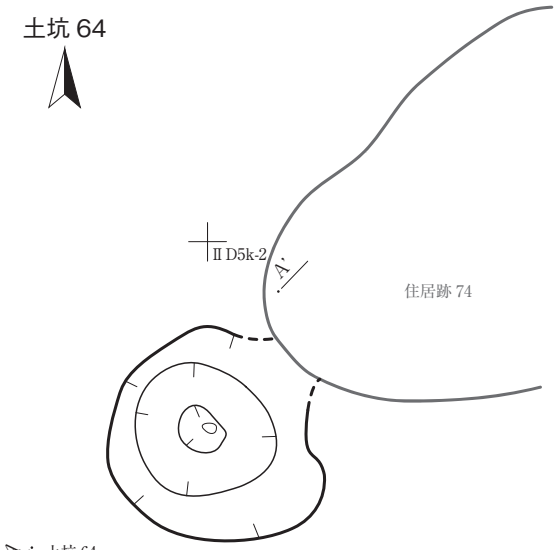


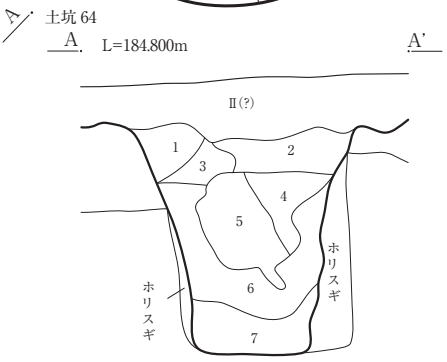
土坑 63
1. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　褐色土ブロックを全体に含む。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
　黄褐土粒～ブロックを中央に多く含む。
4. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐ブロック少量含む。

0　1：40　2m

第 130 図　土坑 61～63

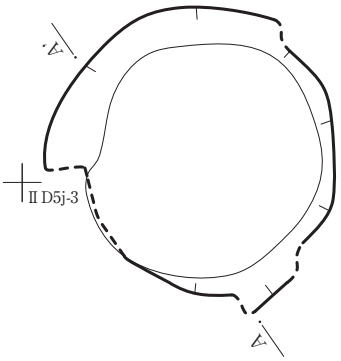
土坑 64

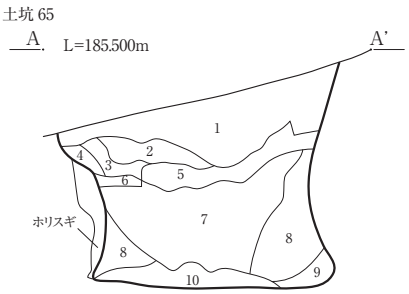




土坑 64
Ⅱ(?)　10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　基本層位か。
1.　10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロック微量含む。
2.　10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
3.　10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロックとの混土。
4.　10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
5.　10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
　中央に黄褐ブロック混入。
6.　10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり欠　炭化物少量含む。
7.　10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　褐色土との混土。

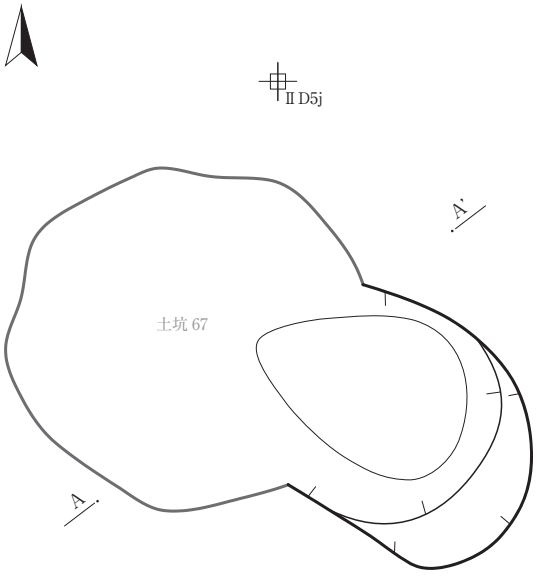
土坑 65

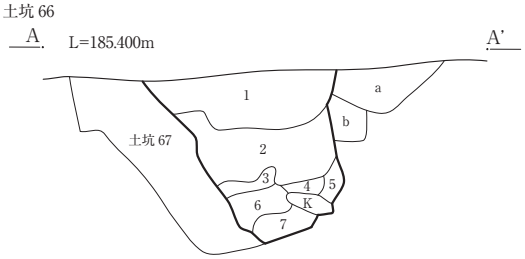




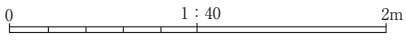
土坑 65
1.　10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物微量含む。
2.　10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　にぶい黄橙色ブロック微量。
3.　10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
4.　10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
5.　10YR5/8　黄褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり極有　地山と同じ。
6.　10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック土で構成。
7.　10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　下位に炭化物・材を多く含む。
8.　10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物微量。地山に似る。
9.　10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山と同じ壁崩落。
10.　10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロック・炭化物を少量含む。

土坑 66

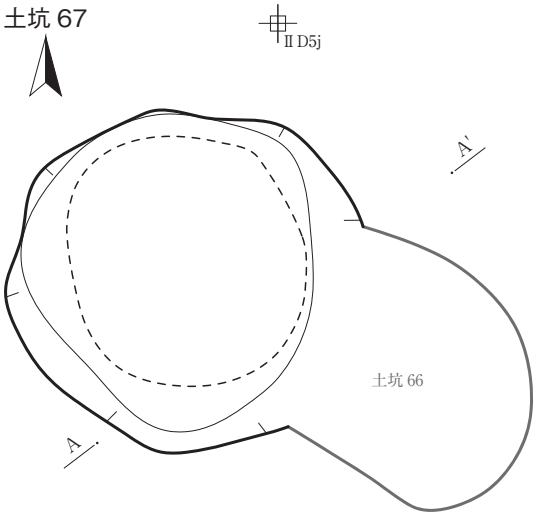




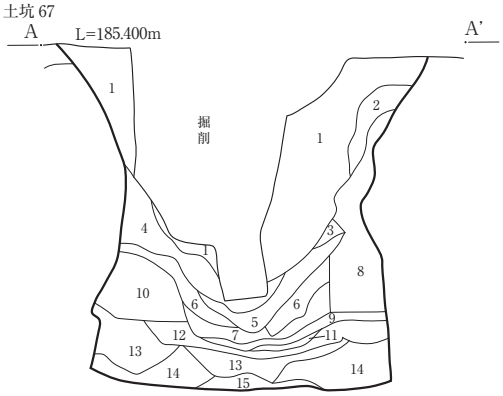
土坑 66
1.　10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭多い。
2.　10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭全体に。
3.　10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
4.　10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐土混入。
5.　10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロック混入。
6.　10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭少量。
7.　10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭少量
　黄褐ブロック少量。
a.　10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭全体に含む。
b.　10YR4/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有

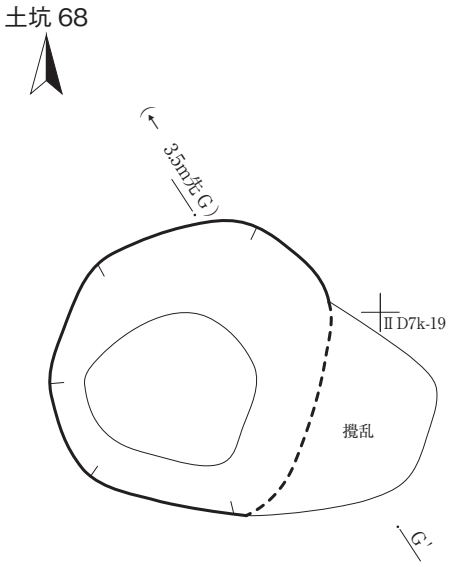


第 131 図　土坑 64～66

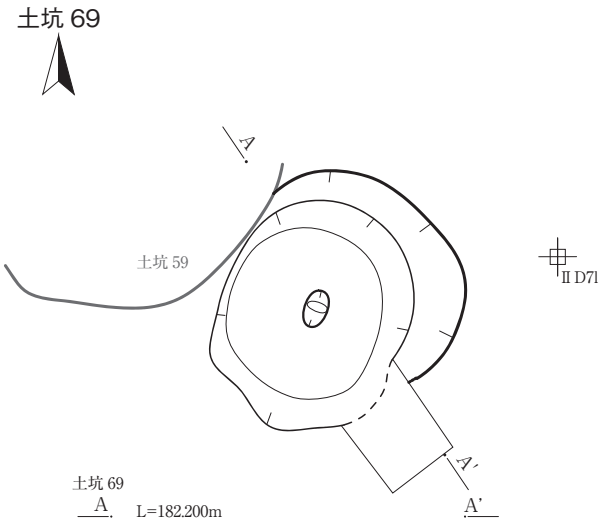


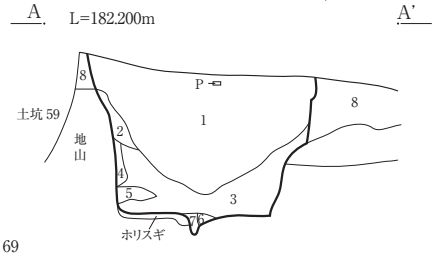
土坑 67
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土ブロックを含む。
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　暗褐土との混土。
3. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
4. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地 山と同じ。
5. 10YR4/2　灰黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物を少量含む。
6. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　褐色土粒を少量含む。
8. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土ブロックを混入。
9. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
10. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地 山と同じ。
11. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
12. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物を少量含む。
13. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　暗褐土ブロックを少量含む。
14. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　黄褐土との混土。炭化物を全体に含む。
15. 10YR4/2　灰黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠　黄褐土粒を多く含む。





※断面図は第 79 図断面 G－G' 参照



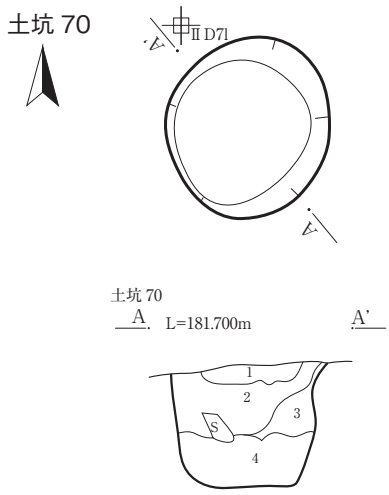


土坑 69
1. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性あまり無　しまり有
　黄褐色土粒を全体的に含む。サラサラしている。
2. 10YR4/4　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや有
　地山崩落土ブロックを含む。
3. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性あまり無　しまり有
　黄褐色土粒・炭化物粒を全体に含む。
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有
　黄褐色土粒をまばらに含む。
5. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有　地山崩落ブロック。
6. 10YR3/3　暗褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　黒褐色土粒を含む。
7. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり無
　副穴埋土。フカフカやわらかい。
8. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり有　他遺構の埋土と思われる。

0　1：40　2m

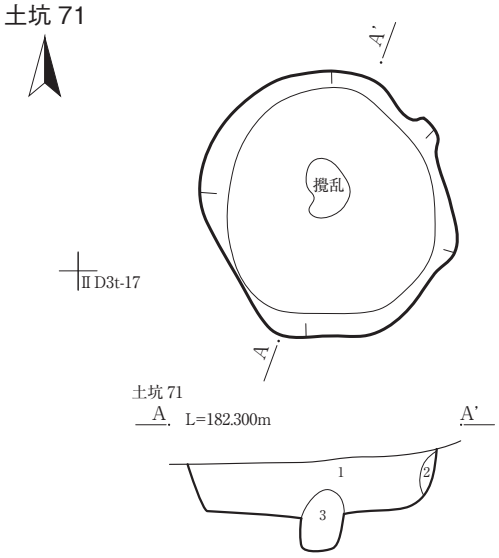
第 132 図　土坑 67～69

土坑 70



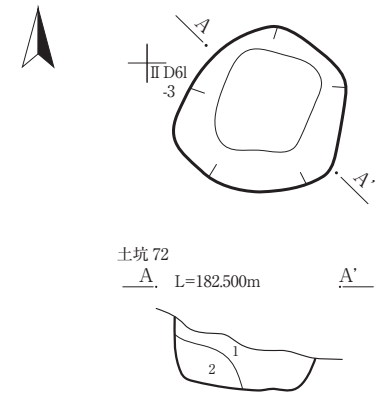
土坑 70
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性中　しまり中
　炭化物･焼土（径～1 ㎜）　1～2%
　10YR5/8　黄褐色 シルト　粒（径～ 2 ㎜）　3～5%。
2. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性中　しまり中
　炭化物（径～2 ㎜）　3～5%
　10YR5/8　黄褐色 シルトブロック（径～5 ㎜）　3～5%
　3 層上位にとくに多く 10YR5/8　黄褐色地山ブロックが混ざる。
3. 7.5YR5/8　明褐色焼土　粘性やや弱　しまりやや弱
　2 層の 10YR2/3　黒褐色 シルトと地山ブロック（径～ 5 ㎜）　1～2%を含む。
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性強　しまり強
　10YR6/6　明黄褐色 シルトブロック（径 5 ㎜）　3～5%
　炭化物･焼土（径～2 ㎜）　1～2%
　1･2 層の 10YR2/3　黒褐色 シルトをごく少量含む。

土坑 71



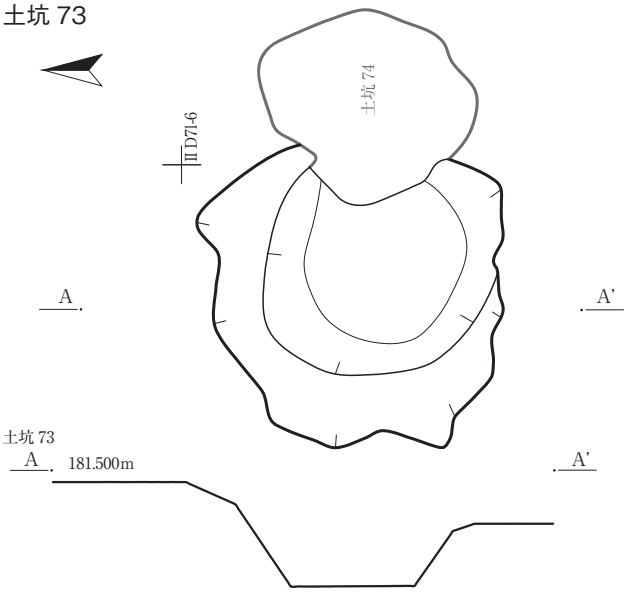
土坑 71
1. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　炭化物（径 1～5 ㎜）　10%　礫無　焼土粒（径 1 ㎜）を 5%含む。
2. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有
　炭化物無　礫無。
3. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性やや有　しまり無
　炭化物（径 1 ㎜）　5%　礫無　根攪乱か?（根っこあり）

土坑 72



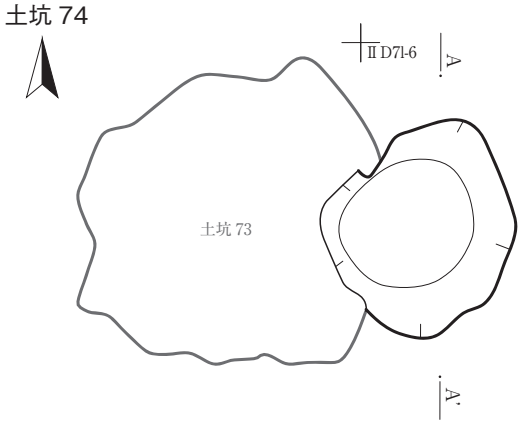
土坑 72
1. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性弱　しまりやや疎
　西側に黄褐色ブロックが多量に入る。
2. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性弱　しまり疎
　黄褐色ブロックが全体的に入る。

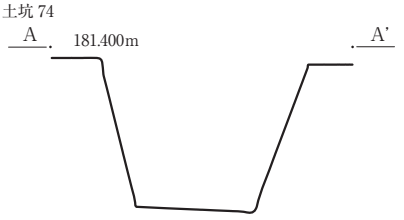
土坑 73



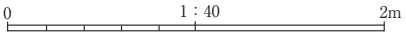
※平面図測点より作成

土坑 74





※平面図測点より作成



第 133 図　土坑 70～74

（3）溝 状 陥 し 穴（第 134～144 図、写真図版 95～104）

検出土坑のうち、平面形状の短軸幅が狭く長軸が長い陥し穴状遺構をまとめた。計 29 基である。

〔分布状況〕調査区西側、ⅡＢグリッド内に集中する。

〔平面形・規模〕短軸が狭いものは長軸が長い形状をとる傾向にあり、底部幅 10cm 以下で長さ 3～4 mの規模のものが最も多く確認された。一方、底部幅が広いものは長軸が短く、楕円形や長方形に近い形状を呈する（3・4・14・24・26・29）。また少数だが両端が膨らむアレイ状をするものも確認された（9・15・16）。

〔長軸方向〕一概に方向のみでの傾向は掴めないが、集中するⅡＢグリッド内では等高線に直交する方向をとるものが多い。

〔断面形・深さ〕形状としては上半部が外反する漏斗状を呈するもの、Ｕ字状を呈するものが多い。検出面からの深さは最浅 35cm、最深 160cm で、90±10cm の範疇に含まれるものが最も多い。分布が集中するⅡＢグリッド内においては 90±10cm のものがほとんどであるが、調査区東側において確認された 25・27・29 は 120～160cm と深い傾向にある。

〔底面〕長軸方向とも関連し、等高線に直交するものは、斜度は緩いが斜面と同じ傾斜をとり、等高線に平行するものは、概ね水平となるものが多い。底面に杭痕が確認されたものは少なく、調査区東側で確認された 3 基（27～29）のみである。

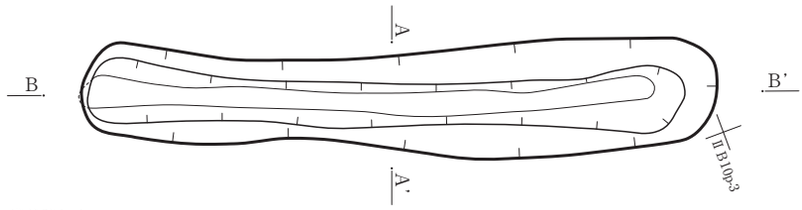
〔時期・小結〕帰属時期を直接的に示す判断材料が乏しいため詳細は不明であるが、周辺に居住施設がないことや陥し穴同士の重複が少ないこと、一定の部分にまとまって分布し、地形に沿った方向に構築されていることなどから、特定の時期に計画的に配置された可能性が推測される。調査区中央に縄文時代後～晩期の住居が広がることから、これらと同時期のものと考えられる。

（小林）

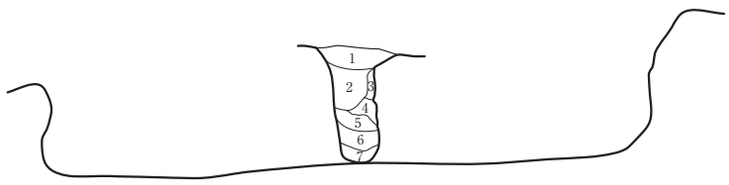
第 4 表　溝状陥し穴一覧

遺構略号（野外調査）	遺構名	位置（グリッド）	検出面	開口部（cm）		底面（cm）		残存深度	底面ピット	特記所見	帰属時期	図版	写真図版	出土遺物
				長	幅	長	幅							
SK01	溝状陥し穴 1	ⅡB10p	Ⅳ層上面	341	42～60	309	10～18	80	×		後～晩期？	134	95	
SK02	溝状陥し穴 2	ⅡB9q	Ⅳ層上面	396	50～70	345	6～10	95	×		後～晩期？	134	95	
SK05	溝状陥し穴 3	ⅡB10q	Ⅳ層上面	214	68	180	25	57	×	長方形	後～晩期？	134	95	
SK07	溝状陥し穴 4	ⅡB11r	Ⅳ層上面	245	70～90	191	22～32	98	×	長楕円形	後～晩期？	135	96	
SK10	溝状陥し穴 5	ⅡB4g	Ⅳ層上面	260	33～49	245	6～9	82	×		後～晩期？	135	96	
SK14	溝状陥し穴 6	ⅡC9d	Ⅳ層上面	354	42	337	11	66	×		後～晩期？	134	96	
SK47	溝状陥し穴 7	ⅡC19m	Ⅳ層上面	380 以上	45～85	373	5～13	117	×	土坑 11 に切られる	後～晩期？	135	97	841～843
SK56	溝状陥し穴 8	ⅢB3h	Ⅳ層上面	342	27～41	320	18	50	×	北側に段差をもつ	後～晩期？	136	97	
SK57	溝状陥し穴 9	ⅢB1h	Ⅳ層上面	352	49	370	10～30	90	×	両端部広がる	後～晩期？	136	97	
SK58	溝状陥し穴 10	ⅢB1i	Ⅳ層上面	320	46～72	318	8～15	84	×		後～晩期？	136	98	
SK59	溝状陥し穴 11	ⅢB2j	Ⅳ層上面	300	16～21	263	3～6	37	×		後～晩期？	137	98	
SK60	溝状陥し穴 12	ⅡB17k	Ⅳ層上面	390	40～55	366	8～13	82	×		後～晩期？	137	98	
SK61	溝状陥し穴 13	ⅡB16j	Ⅳ層上面	299	31～44	306	4～9	79	×		後～晩期？	137	99	
SK63	溝状陥し穴 14	ⅡC4o	Ⅳ層上面	270	95～141	236	30	91	×		後～晩期？	138	99	
SK65	溝状陥し穴 15	ⅡB14j	Ⅳ層上面	368	105～125	306	7～30	116	×	両端部やや広がる	後～晩期？	138	99	
SK66	溝状陥し穴 16	ⅡB15k	Ⅳ層上面	285	60～85	294	2～24	100	×	両端部広がる	後～晩期？	139	100	
SK67	溝状陥し穴 17	ⅡB13l	Ⅳ層上面	310	74～104	293	6～11	95	×		後～晩期？	139	100	
SK68	溝状陥し穴 18	ⅡB10l	Ⅳ層上面	400	80	382	13～22	104	×		後～晩期？	140	100	
SK69	溝状陥し穴 19	ⅡB9n	Ⅳ層上面	325	24～43	325	7～12	87	×		後～晩期？	140	101	
SK70	溝状陥し穴 20	ⅡB9n	Ⅳ層上面	249	33～38	300	4～9	103	×		後～晩期？	141	101	
SK71	溝状陥し穴 21	ⅡB10o	Ⅳ層上面	295	31～49	269	6～9	88	×	陥し穴 22 を切る	後～晩期？	141	101	
SK72	溝状陥し穴 22	ⅡB10o	Ⅳ層上面	284 以上	25～43	294 以上	6～10	100	×	陥し穴 21 に切られる	後～晩期？	142	102	
SK73	溝状陥し穴 23	ⅡB10n	Ⅳ層上面	325	52～62	299	6～9	99	×		後～晩期？	142	102	
SK79	溝状陥し穴 24	ⅡD5g	Ⅳ層上面	195	65	197	23～35	107	×	長方形	後～晩期？	143	102	
SK81	溝状陥し穴 25	ⅡD4k	Ⅳ層上面	320 以上	92	294	11	161	×	住居跡 73 を切る	前期以降	92・93・143	103	844
SK84	溝状陥し穴 26	ⅡD10j	Ⅳ層上面	227	100	149	22	62	×	楕円形	後～晩期？	143	103	
SK96	溝状陥し穴 27	ⅡD6k	Ⅳ層上面	252	114	216	21	160	○	土坑 59 を切る	前期以降	144	103	845～847
SK99	溝状陥し穴 28	ⅡD7k	Ⅳ層上面	242	34～47	193	16	94	○		後～晩期？	79・144	104	848
SK106	溝状陥し穴 29	ⅡE3a	Ⅳ層上面	190	88	141	24	118	○		後～晩期？	144	104	

溝状陥し穴１

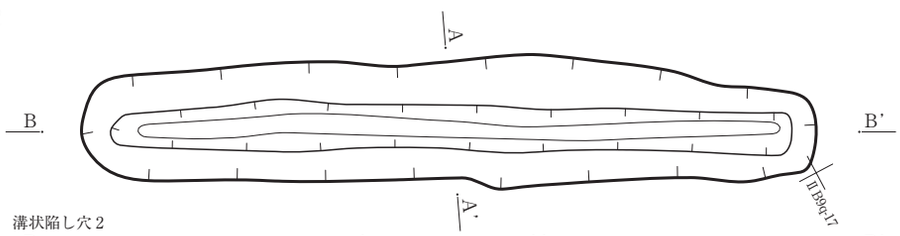


溝状陥し穴１
B　L=183.200m　　A　L=183.200m　A'　　B'

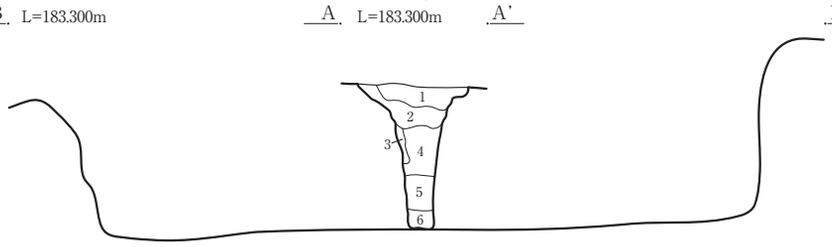


溝状陥し穴１
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性有 締まりやや有
2. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり有 炭化物粒微量。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まり有
4. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有 黄褐土粒少量。
5. 10YR2/3 黒褐色 粘性有 締まり有 炭化物少量。
6. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有
7. 10YR4/2 灰黄褐色 粘性有 締まりやや有

溝状陥し穴２

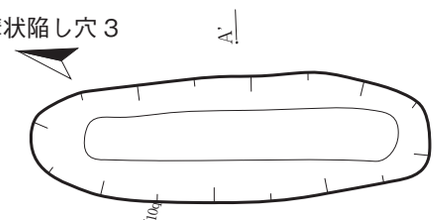


溝状陥し穴２
B　L=183.300m　　A　L=183.300m　A'　　B'

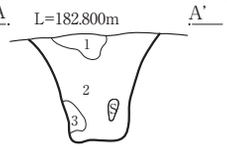


溝状陥し穴２
1. 10YR3/2 黒褐色 粘性有 締まりやや有
2. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有 一部黄褐ブロック。
3. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり欠
4. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり有
5. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まり有
6. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり欠

溝状陥し穴３

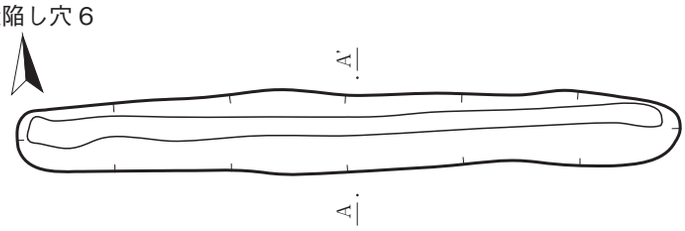


溝状陥し穴３
A　L=182.800m　A'

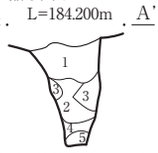


溝状陥し穴３
1. 10YR2/3　黒褐色　粘性有　締まりやや有　炭化物少量含む。
2. 10YR3/3　暗褐色　粘性有　締まり欠　にぶい黄褐色土粒少量含む。
3. 10YR6/6　明黄褐色　粘性有　締まり欠　混入ブロック土。

溝状陥し穴６



溝状陥し穴６
A　L=184.200m　A'

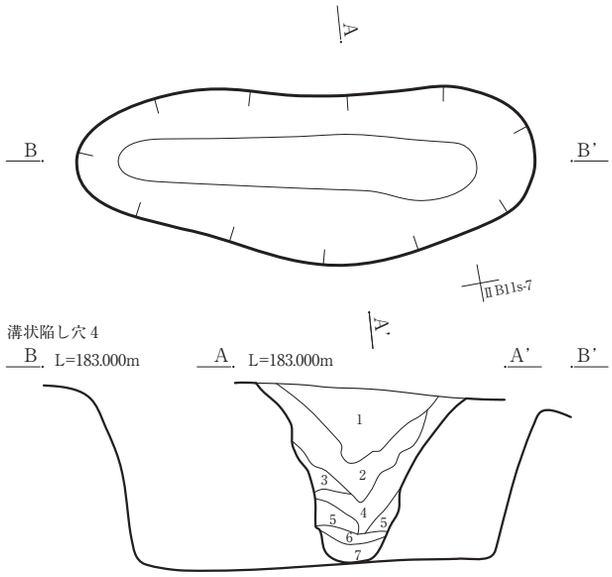


溝状陥し穴６
1. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有
2. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まりやや有 暗褐土ブロック少量
3. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有 壁崩落土
4. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物微量
5. 10YR3/4 暗褐色 粘性やや有 締まりやや有

0　1：40　2m

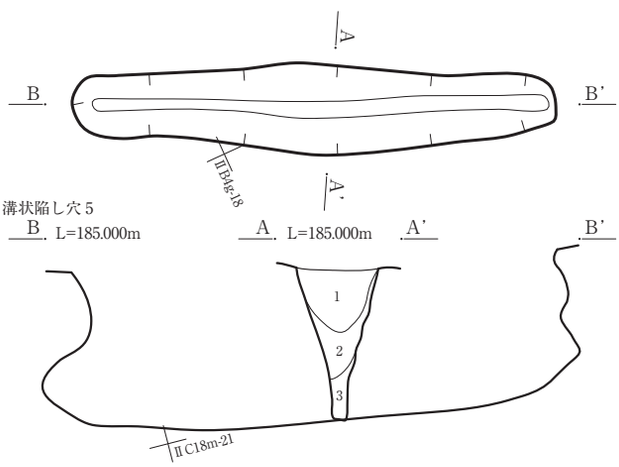
第 134 図　溝状陥し穴 1～3・6

溝状陥し穴４



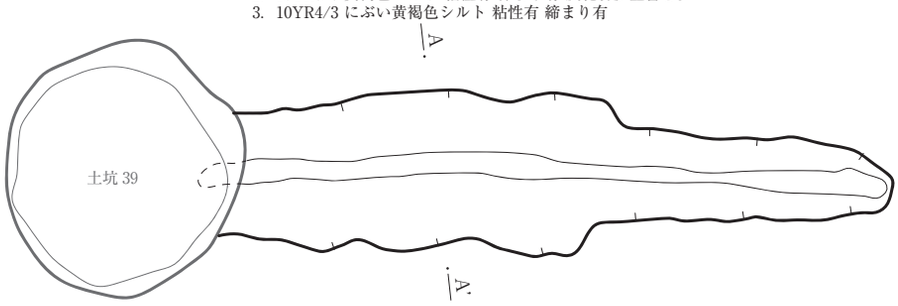
溝状陥し穴４
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや有 炭化物微量含む。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性有 締まり欠 黄褐色土粒多い。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まり欠
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや有 壁際に黄褐色土ブロック少量混入。
5. 10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性有 締まり欠
6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性有 締まり欠
7. 10YR6/6 明黄褐色粘質土 粘性有 締まりやや有 小礫多量含む。

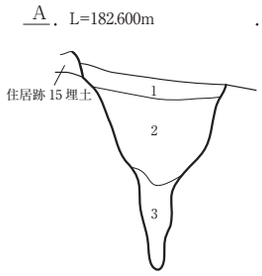
溝状陥し穴５



溝状陥し穴５
1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まり有
2. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性有 締まり有 炭化物少量含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性有 締まり有

溝状陥し穴７



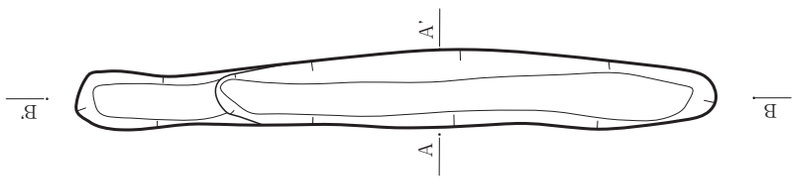


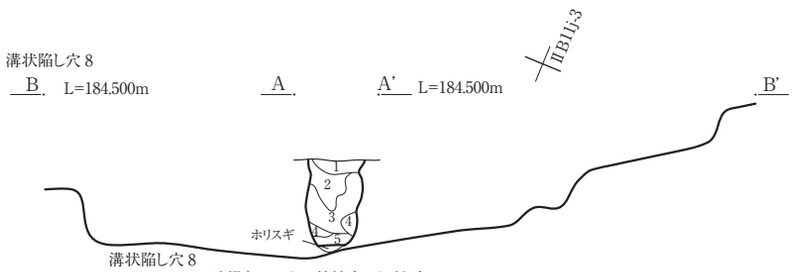
溝状陥し穴７
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性中 締まり中 炭化物（φ1㎜）1%
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 30%、炭化物（φ3㎜）1%
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 炭化物（φ1㎜）1%

0　1：40　2m

第 135 図　溝状陥し穴４・５・７

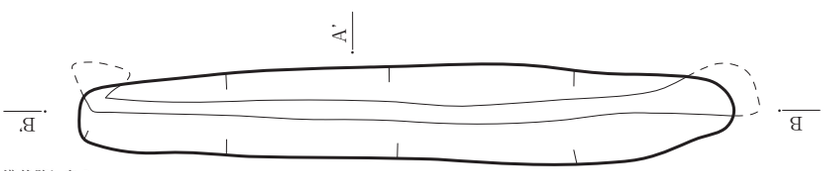
溝状陥し穴 8

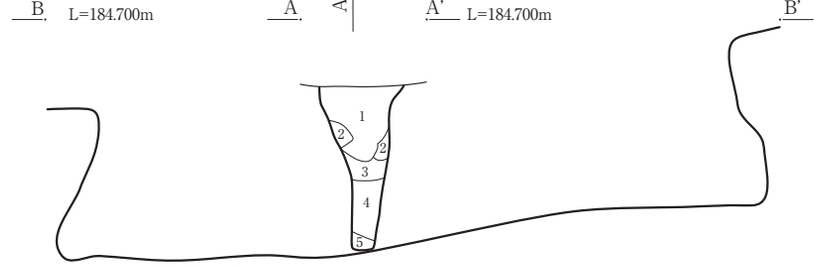




溝状陥し穴 8
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロック少量含む。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　縞状に暗褐土含む。
4. 10YR5/6　黄褐色 粘土質シルト　粘性有　しまり有
5. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　最下の黒色土層。

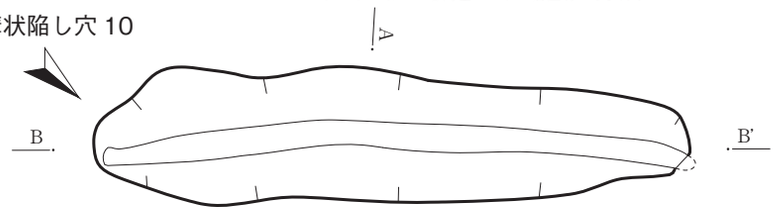
溝状陥し穴 9

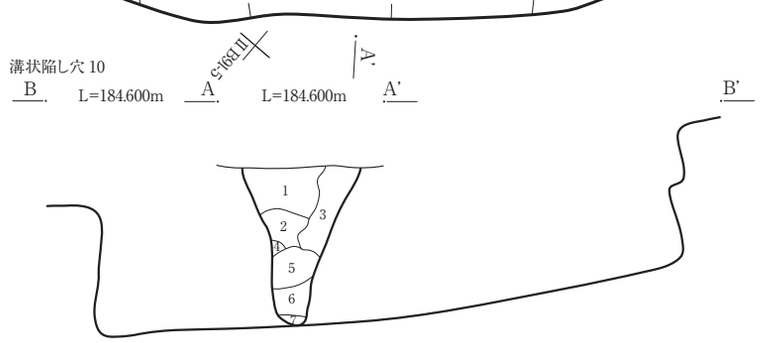




溝状陥し穴 9
1. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有　上部に黄褐土ブロック混入。
2. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠　ブロック土。
3. 10YR5/4　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
4. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠　地山流入土。
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

溝状陥し穴 10



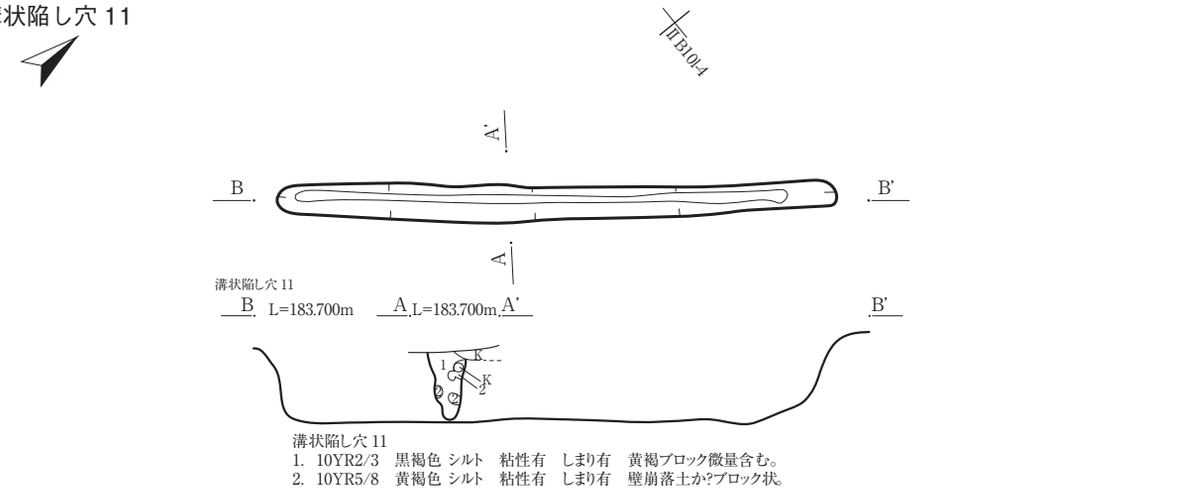


溝状陥し穴 10
1. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有
　黄褐ブロック疎らに混入。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
　暗褐土混入。
3. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　地山流入土。
4. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
　ブロック土。
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠
　黄褐土粒全体に含む。
6. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
　地山流入土。
7. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

0　1：40　2m

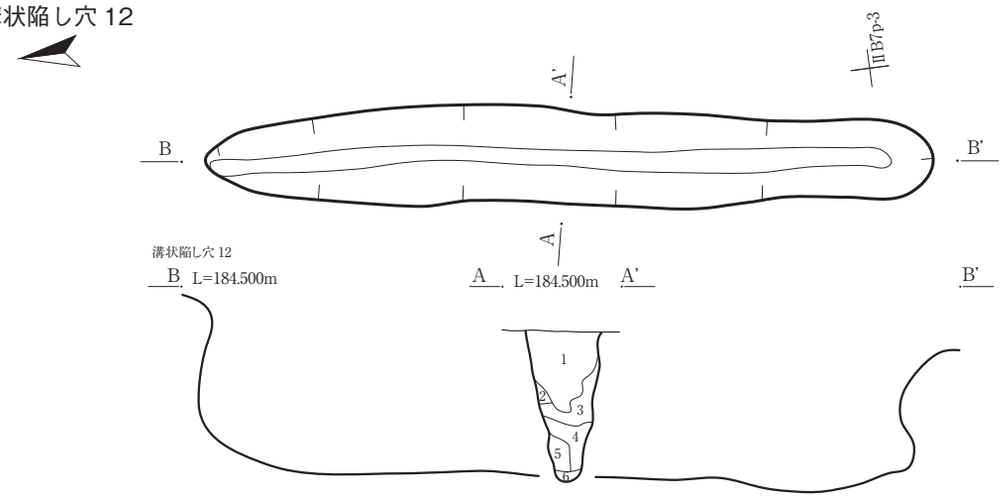
第 136 図　溝状陥し穴 8～10

溝状陥し穴 11



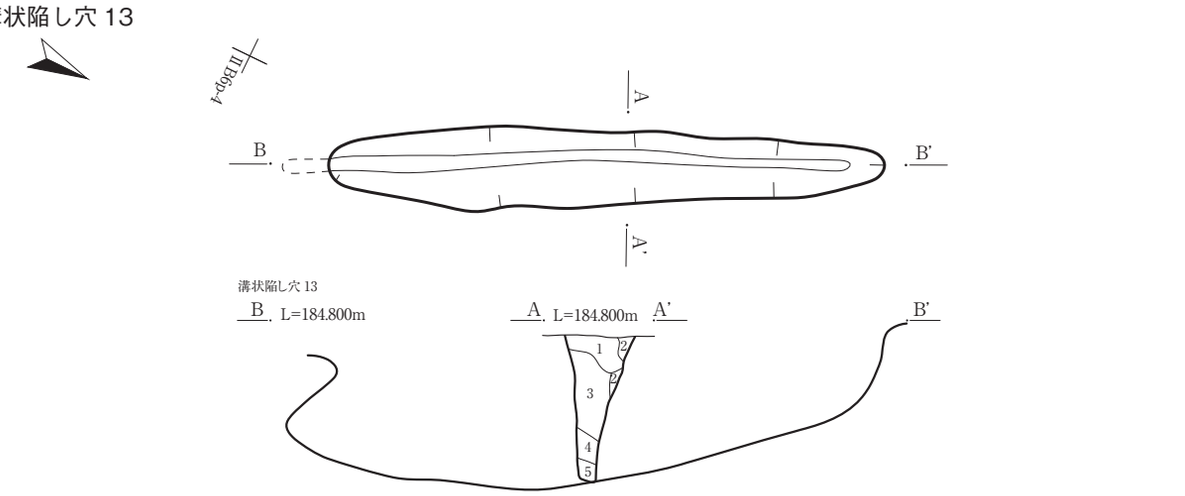
溝状陥し穴 11
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロック微量含む。
2. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　壁崩落土か?ブロック状。

溝状陥し穴 12



溝状陥し穴 12
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロック全体に含む。
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
3. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　一部暗褐土混入。
4. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠　10YR3/4　暗褐色 暗褐と混土。
5. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
6. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有

溝状陥し穴 13

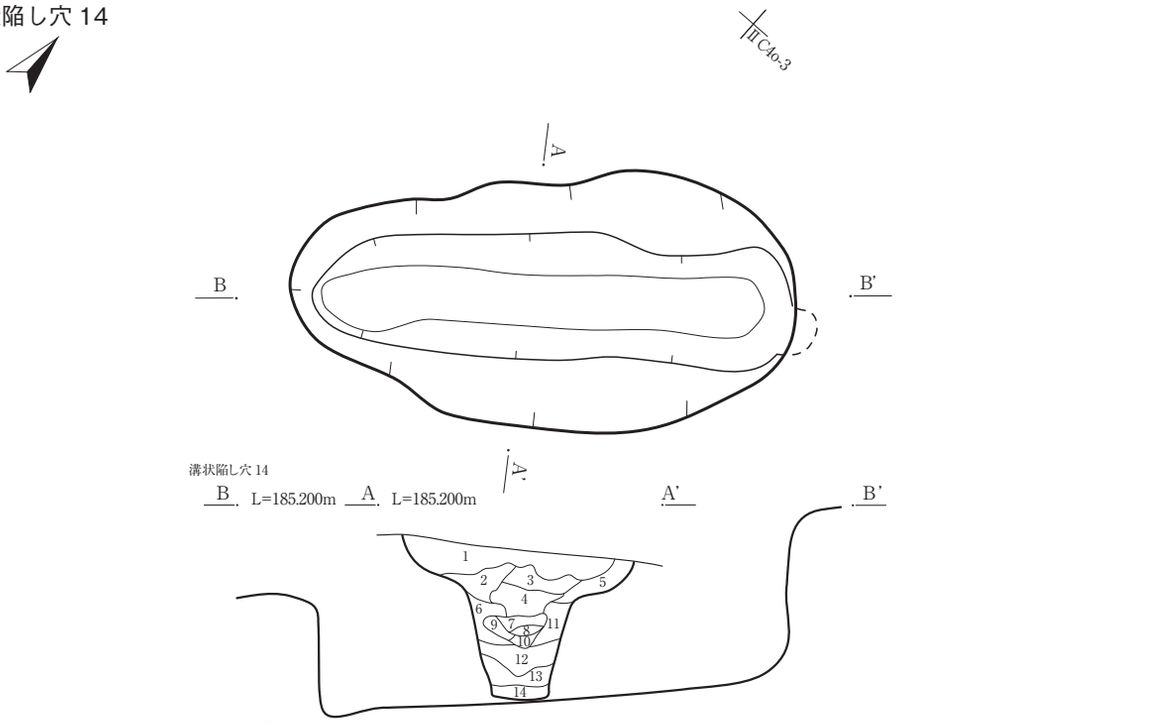


溝状陥し穴 13
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
2. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山流入土。
3. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐土粒微量含む。
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

0　1：40　2m

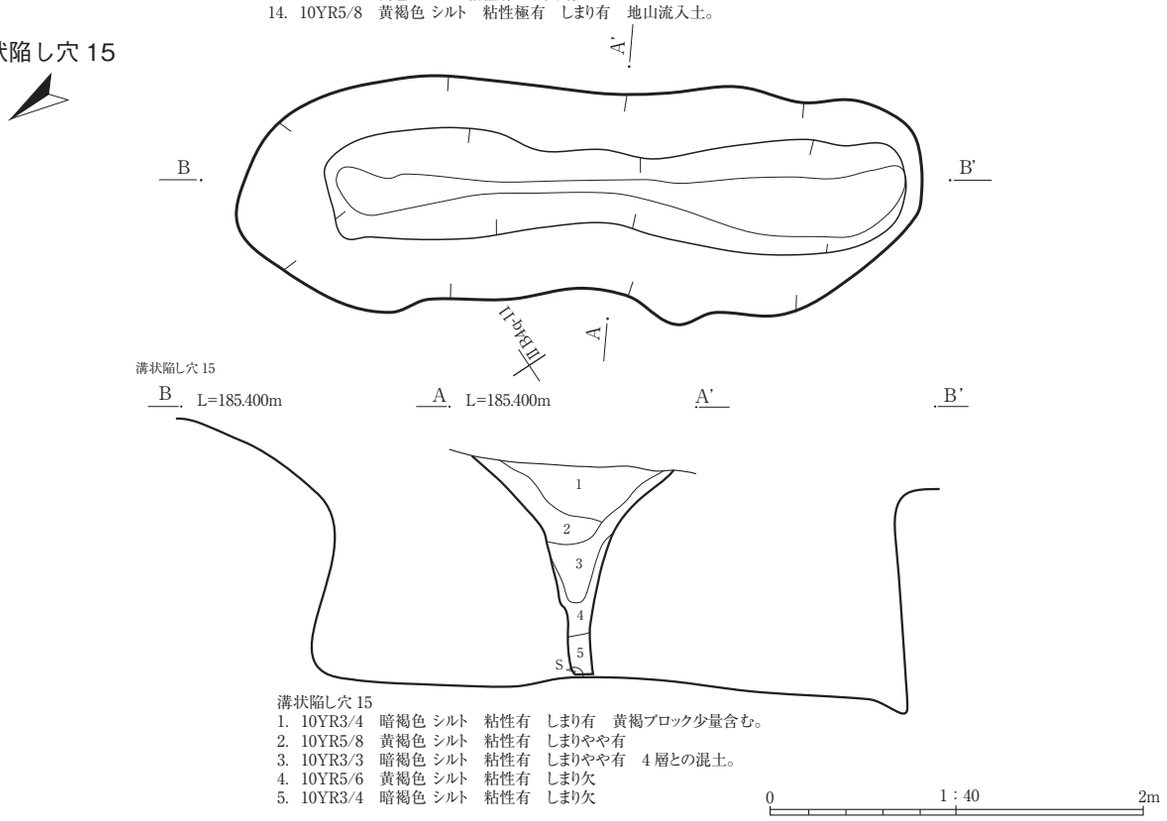
第 137 図　溝状陥し穴 11～13

溝状陥し穴 14



溝状陥し穴 14
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物微量。
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土粒微量。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　暗褐土との混土。
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　下部に焼土ブロック混入。
5. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山起源。
6. 10YR5/4　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロック・焼土粒・炭化物が混入。
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土粒微量。
8. 5YR4/8　赤褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土（ブロック?）。
9. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物微量。
10. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠
11. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐土との混土。
12. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　以下自然堆積。
13. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
14. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性極有　しまり有　地山流入土。

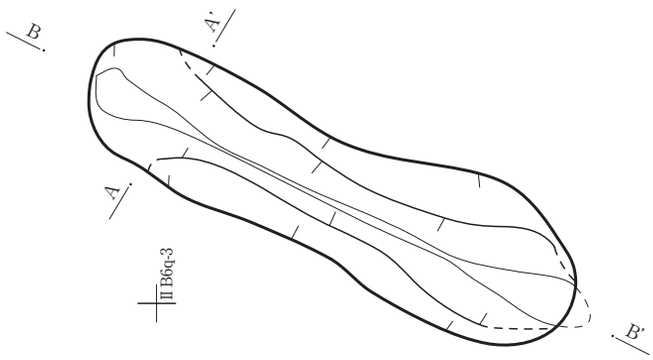
溝状陥し穴 15

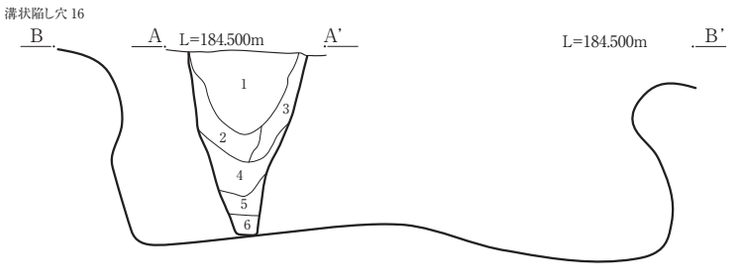


溝状陥し穴 15
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロック少量含む。
2. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
3. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　4 層との混土。
4. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

第 138 図　溝状陥し穴 14・15

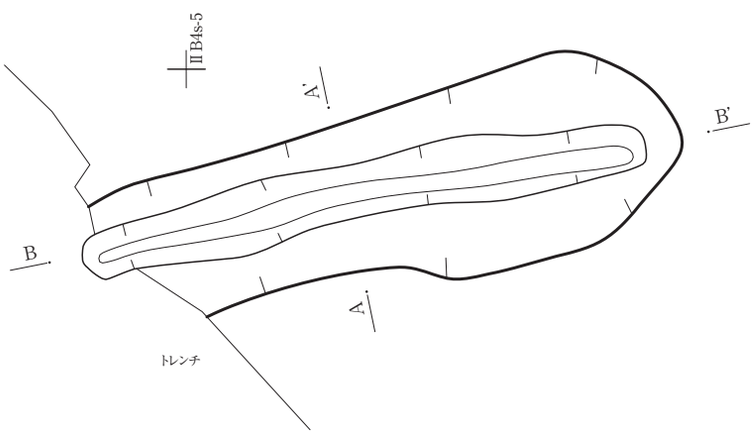
溝状陥し穴 16

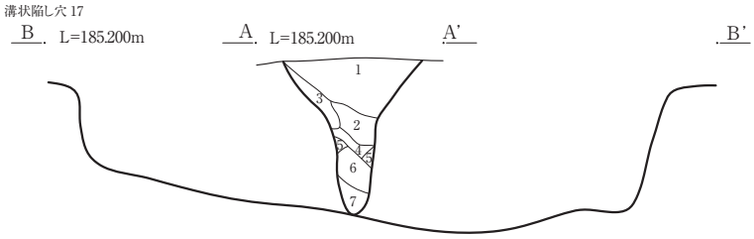




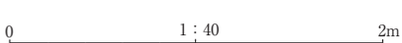
溝状陥し穴 16
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭、黄褐ブロック中央に含む。
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
3. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐粒少量。
4. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
5. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠　流入。
6. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

溝状陥し穴 17



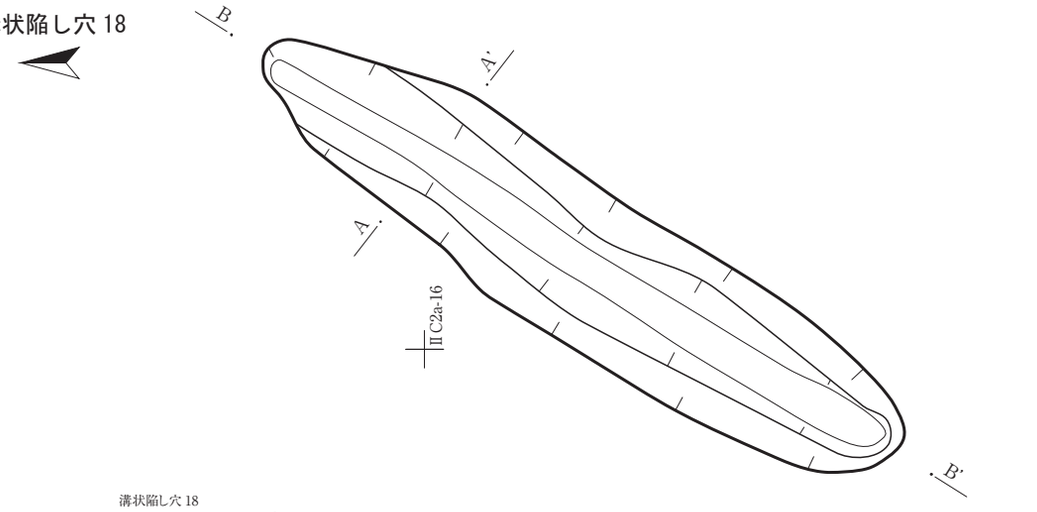


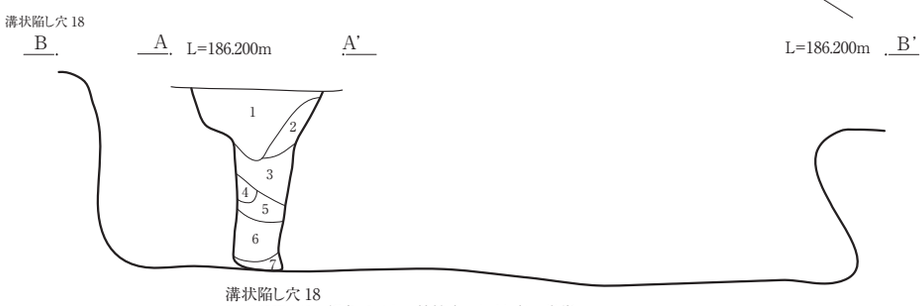
溝状陥し穴 17
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土粒少量。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭微。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　10YR5/6　黄褐色ブロックとの混土。
4. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
5. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック。
6. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠



第 139 図　溝状陥し穴 16・17

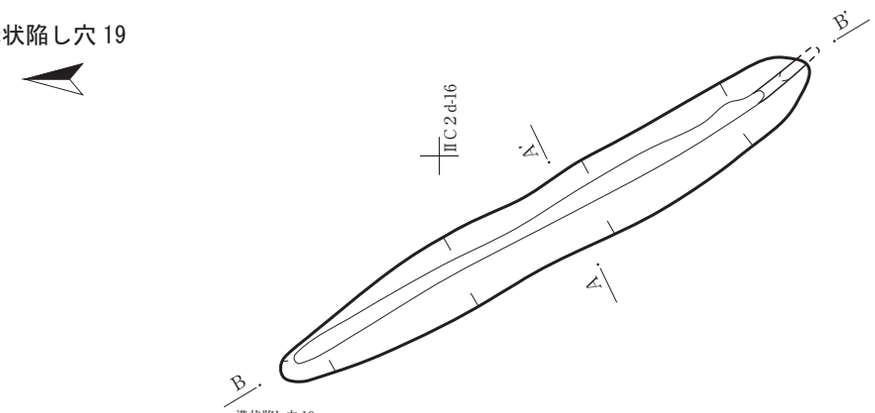
溝状陥し穴 18

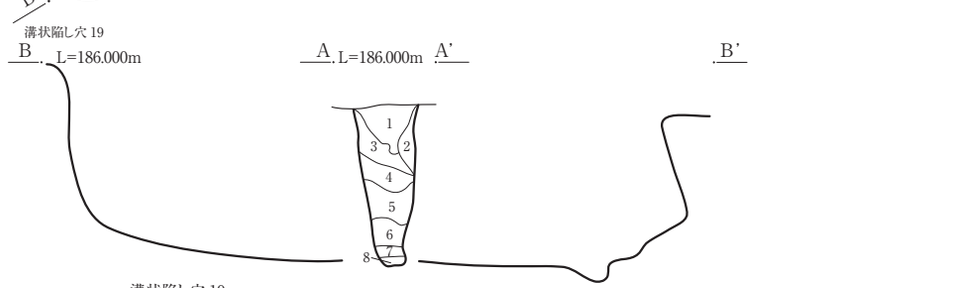




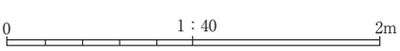
溝状陥し穴 18
1. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭微。
2. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山流入。
3. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
4. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック。
5. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　縞状に暗褐土。
6. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

溝状陥し穴 19



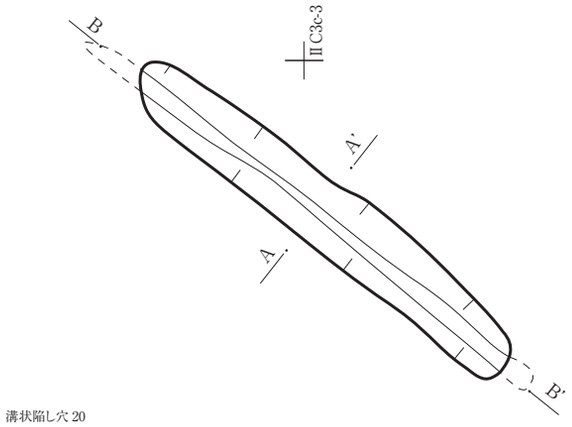


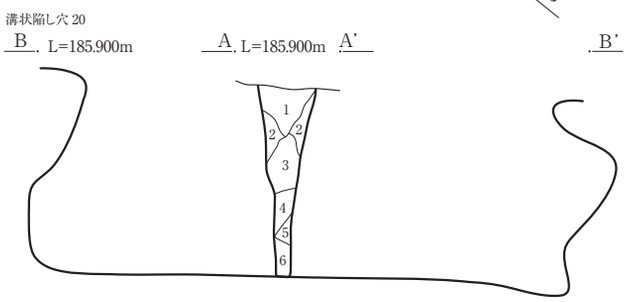
溝状陥し穴 19
1. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土ブロック全体に含む。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
3. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
5. 10YR5/4　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
7. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
8. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠



第 140 図　溝状陥し穴 18・19

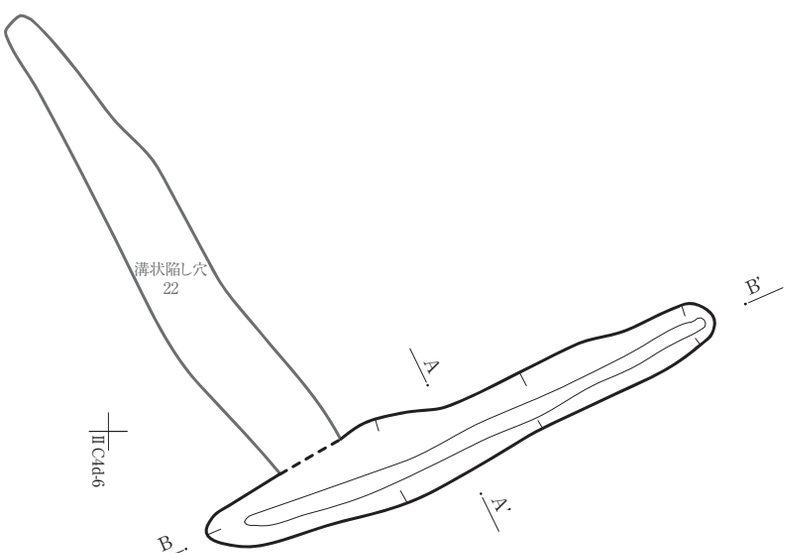
溝状陥し穴 20

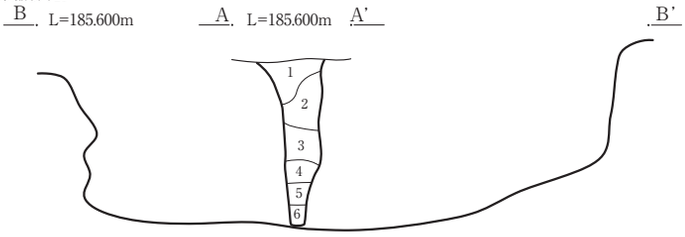




溝状陥し穴 20
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土粒全体に含む。
2. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山流入土。
3. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　縞状に暗褐土混入。
4. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠
5. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠
6. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

溝状陥し穴 21



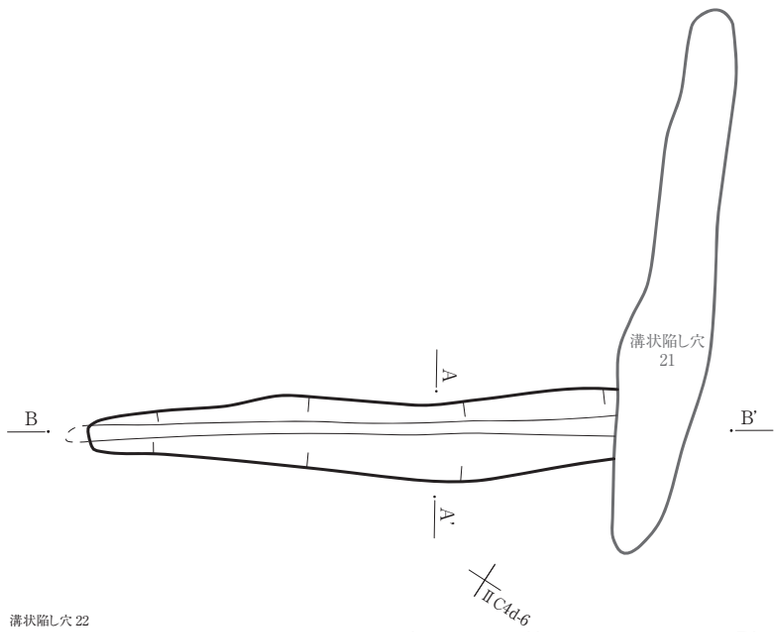


溝状陥し穴 21
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭微。
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　黒褐土一部含む。
3. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐ブロック少量。
4. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
5. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　崩落土か。ブロック状。
6. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

0　1：40　2m

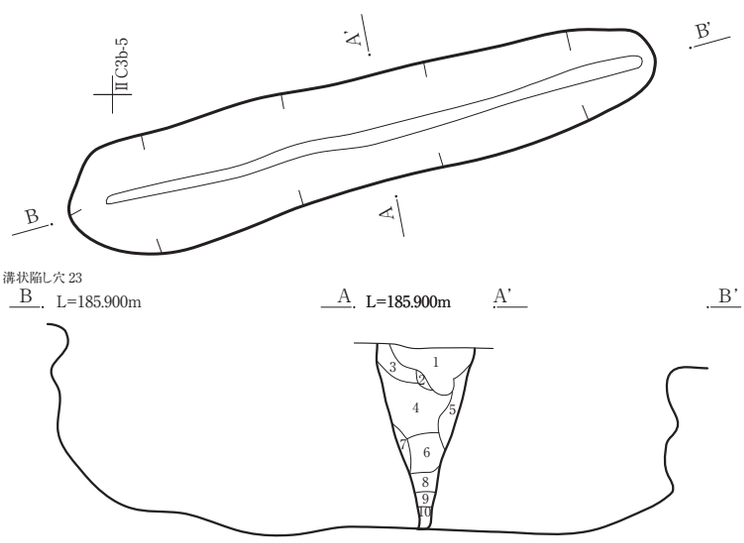
第 141 図　溝状陥し穴 20・21

溝状陥し穴 22



溝状陥し穴 22
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土粒全体に多く含む。
2. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
3. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠

溝状陥し穴 23

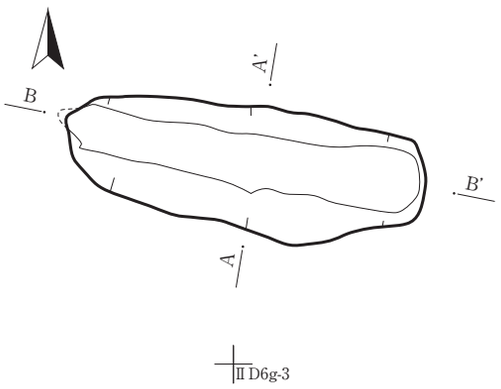


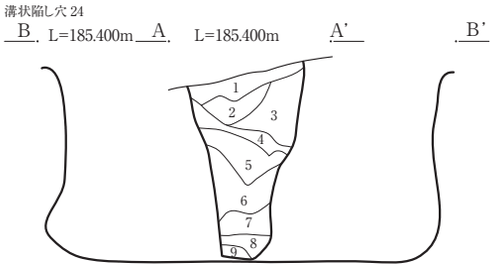
溝状陥し穴 23
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
2. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック土。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
4. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
5. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
6. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり欠　黒褐土との混土。
7. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
8. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
9. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
10. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり欠

0　1：40　2m

第 142 図　溝状陥し穴 22・23

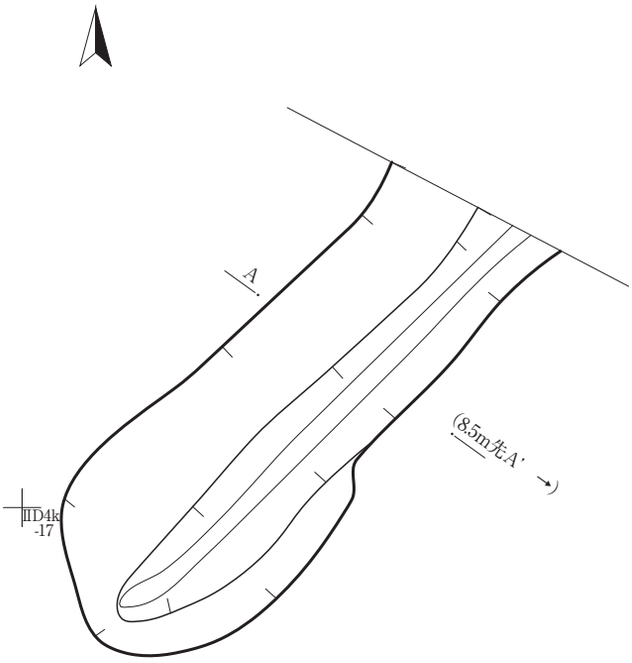
溝状陥し穴 24





溝状陥し穴 24
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
　一部焼土粒･炭化物混じる。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
　大径黄褐ブロック含む。
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
5. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
　上部に暗褐土含む。
6. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
　地山流入土。
7. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
　地山流入土。
8. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
9. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有

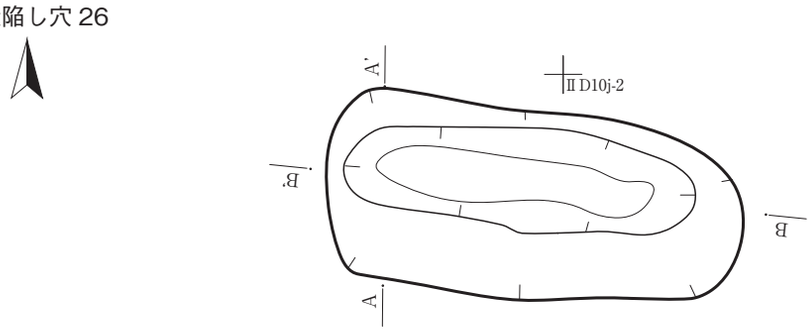
溝状陥し穴 25

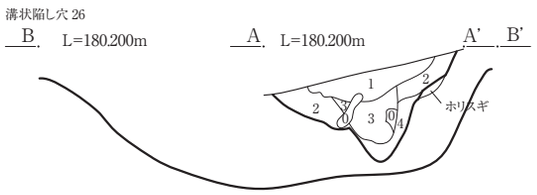


※断面図は第 93 図A-A' 参照

溝状陥し穴 25
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性弱　しまり弱
　地山 シルトとの混合土で、陥し穴上端の崩落土。
2. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまり弱
　10YR5/8　黄褐色地山ブロック（径～ 10㎜）を 3 ～ 5%含む。
　焼土･炭化物（径～ 1 ㎜）を 1 ～ 2%含む。1 層下位に地山ブロックが多い。
3. 10YR5/8　黄褐色 シルト　地山の再堆積　粘性やや強　しまりやや強
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　地山ブロック（径2 ～ 3 ㎜）を 1 ～ 2%含む。

溝状陥し穴 26



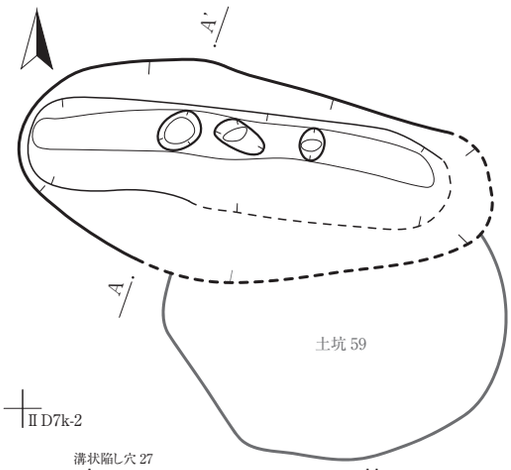


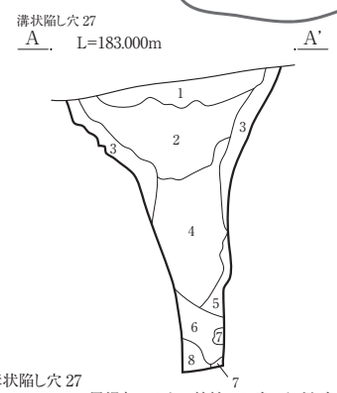
溝状陥し穴 26
0. 根攪乱
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性無　しまり有　炭化物粒と褐色土粒をまばらに含む。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性無　しまりやや有　黄褐色土粒をまばらに含む。
3. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり有　炭化物粒･黄褐色土粒をともにわずか含む。
4. 10YR4/6　褐色 粘土質シルト　粘性有　しまり有　粘性強く固く締まる。

0　1：40　2m

第 143 図　溝状陥し穴 24～26

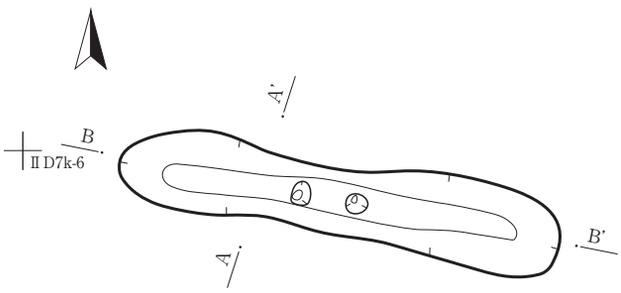
溝状陥し穴 27

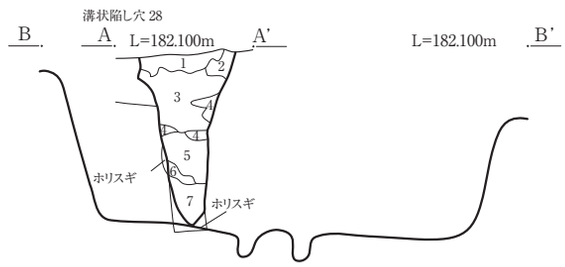




溝状陥し穴 27
1. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
   炭化物粒をわずかに含む。
2. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
   炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。
3. 10YR3/3　暗褐色 粘土質シルト　粘性無　しまりやや有
   褐色土粒及び小ブロック含む。
4. 10YR3/2　黒褐色 粘土質シルト　粘性無　しまりやや有
   炭化物粒、褐色土粒をまばらに含む。
5. 10YR4/4　褐色 粘土質シルト　粘性有　しまりあまり無
   地山崩落土（暗褐色土との混合）。
6. 10YR3/4　暗褐色 粘土質シルト　粘性やや有　しまり無
   フカフカやわらかい。
7. 10YR5/6　黄褐色 粘土質シルト　粘性有　しまりやや有
   地山崩落ブロック。
8. 10YR4/4　褐色 粘土質シルト　粘性有　しまり無
   黒褐色土と黄褐色土との混合。

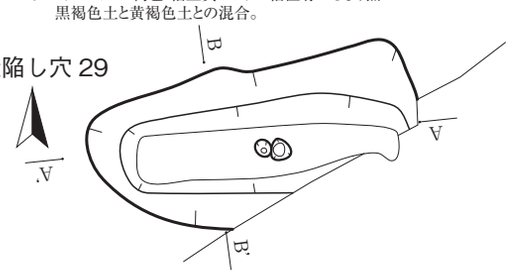
溝状陥し穴 28

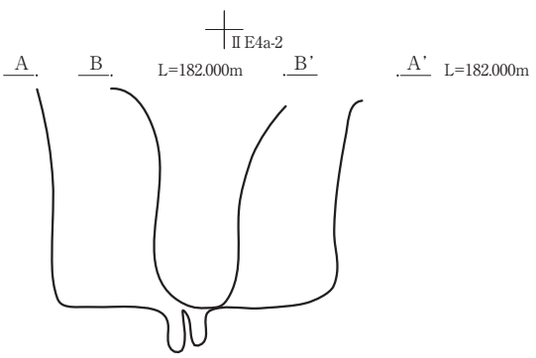




溝状陥し穴 28
1. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
   炭化物粒まばらに含む。
2. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
   ブロック状。
3. 10YR4/2　灰黄褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
   褐色土粒･炭化物粒をまばらに含む。
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
   褐色土と黒褐色土の混合。（地山崩落ブロック）
5. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有
   黄褐色土粒をまばらに含む。
6. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有
   少しフカフカする。
7. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
   黄褐色土粒をまばらに含む。

溝状陥し穴 29





0　1：40　2m

第 144 図　溝状陥し穴 27～29

（４）焼土遺構（第 145～149 図、写真図版 105～108）

ここには住居跡等への帰属が明らかなものを除く焼土生成箇所を個別に登録した。焼土塊の集積のような二次的な堆積箇所は含まず、焼土生成の事由が生じた地点に遺存する、所謂「現地性」のものである。各個の属性は下表に示した。以下、概要を記す。

焼土遺構 1 は単独の炉跡として検出されたが、本来は住居に伴うものとみられる。

焼土遺構 2～6・12・13 は縄文時代前期の住居跡が密集重複する区域からそれぞれ単独で検出されたものである。下位の住居跡埋土を切って構築された、新期住居の地床炉である可能性が高い。

焼土遺構 7～11 は鍛冶作業の痕跡を残す平安時代住居跡が分布する区域から検出された。層位的見地からも該期の生成とみられ鍛冶炉又はその操業に付随する焼土の可能性がある。

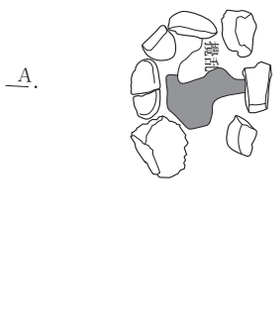
焼土遺構 14～18 は縄文時代前期後葉の住居跡 94 の内部から検出された。壁際に沿って分布する不整形の焼土であり、上屋の焼失等に伴うものとみられる。ただし住居跡 94 は調査では識別出来なかった複数の住居跡が重複しているとみられることから、これらのうちのいずれかを炉にもつ住居跡の存在を考慮する必要がある。

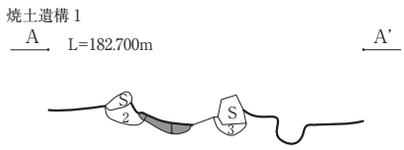
（村上）

第 5 表　焼土遺構一覧

調査年度	遺構略号（野外調査）	掲載遺構名	地点（グリッド）	平面規模（cm）	赤変深度（cm）	帰属時期	所見	図	写真
2012	SN04	焼土遺構 1	ⅡC11 l	40×38	3	縄文時代晩期	石囲炉	145	105
2012	SN05	焼土遺構 2	ⅡC16m	86×(45)	10	縄文時代前期中葉～後葉	地床炉	145	105
2013	SN2013-1	焼土遺構 3	ⅡD6 l	72×41	6	縄文時代前期中葉～後葉	地床炉	145	105
2013	SN2013-2	焼土遺構 4	ⅡD7 l	55×50	11	縄文時代前期	地床炉	145	105
2013	SN2013-3	焼土遺構 5	ⅡD6 l	66×50	7	縄文時代前期	地床炉	146	106
2013	SN2013-4	焼土遺構 6	ⅡD7 l	50×(26)	4	縄文時代前期	地床炉	146	106
2013	SN2013-5	焼土遺構 7	ⅡD7m	70×55	6	平安時代（10C）？	鍛冶炉又は それに付随するものか	146	106
2013	SN2013-6	焼土遺構 8	ⅡD7n	58×48	6	平安時代（10C）？	鍛冶炉又は それに付随するものか	146	106
2013	SN2013-7	焼土遺構 9	ⅡD7 m	90×68	6	平安時代（10C）？	鍛冶炉又は それに付随するものか	147	106
2013	SN2013-8	焼土遺構 10	ⅡD7o	47×34	8	縄文時代後期以降	平安時代の可能性有	147	107
2013	SN2013-9	焼土遺構 11	ⅡD7n	55×(36)	9	縄文時代後期以降	平安時代の可能性有	147	107
2013	SN2013-10	焼土遺構 12	ⅡD5m	54×48	6	縄文時代前期	地床炉 住居跡 55 を切る住居床面に生成したとものと考えられる。	147	107
2013	SN2013-11	焼土遺構 13	ⅡD4t	50×38	6	縄文時代前期後葉？	地床炉	148	107
2013	SN2013-13	焼土遺構 14	ⅡE3b	92×57	6	縄文時代前期後葉？	住居跡焼失時に生成か。	148	108
2013	SN2013-14	焼土遺構 15	ⅡE3b	135×104	11	縄文時代前期後葉？	住居跡焼失時に生成か。	148	108
2013	SN2013-15	焼土遺構 16	ⅡE2b	101×(60)	12	縄文時代前期後葉？	住居跡焼失時に生成か。	149	108
2013	SN2013-16	焼土遺構 17	ⅡE3a	82×78	7	縄文時代前期後葉？	住居跡焼失時に生成か。	149	108
2013	SN2013-17	焼土遺構 18	ⅡE3a	86×70	8	縄文時代前期後葉？	住居跡焼失時に生成か。	149	108
2013	SNX-1	焼土遺構 19	ⅡD6m	79×(50)	-		断面記録漏れ	149	-

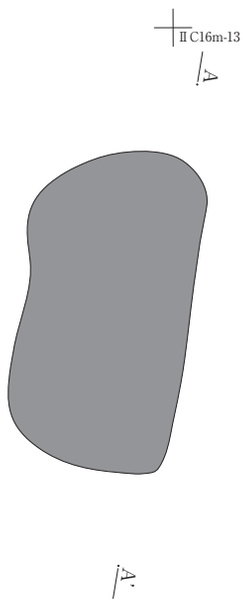
焼土遺構 1

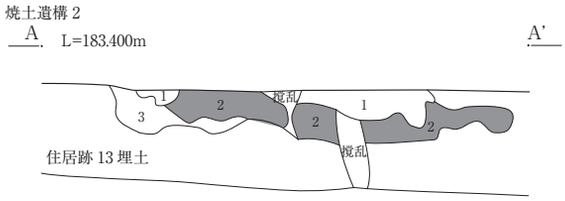




焼土遺構 1
1. 2.5YR4/6 赤褐色 粘性有 締まり有 焼土。
2. 10YR2/3 黒褐色 粘性有 締まり欠 炉石掘り方。
3. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有 炉石掘り方。

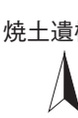
焼土遺構 2

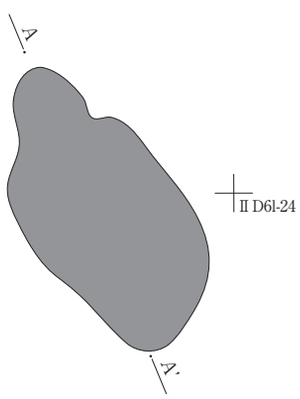


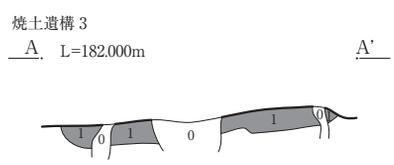


焼土遺構 2
1．7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強 締まりやや弱　炭粒少量、草根多量含む。
2．7.5YR4/4 褐色焼土 粘性やや弱 締まりやや強 焼土。
3．7.5YR4/6 褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや強 焼土粒中量、炭粒極少量含む。

焼土遺構 3

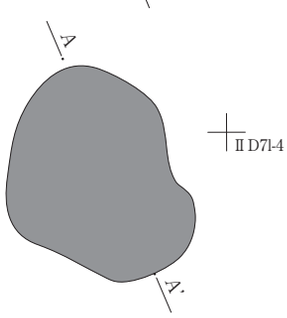


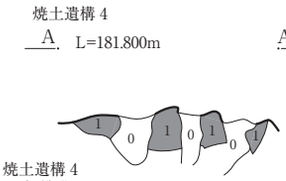




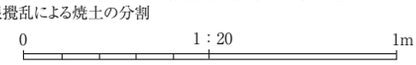
焼土遺構 3
0. 根撹乱
1. 5YR4/8　赤褐色 シルト　粘性無　しまり疎　焼土。
※根撹乱によって焼土分割。焼土遺構 4 とほぼ同じ土質。

焼土遺構 4



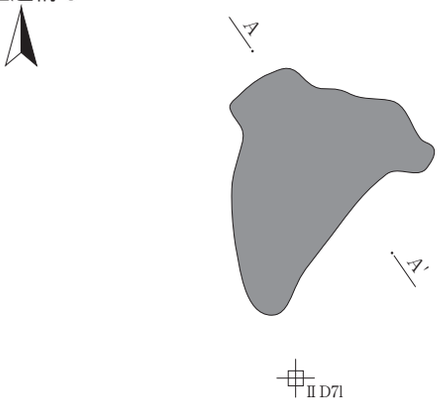


焼土遺構 4
0. 根撹乱
1. 5YR4/8　赤褐色 シルト　粘性弱　しまりやや疎　焼土。
※根撹乱による焼土の分割



第 145 図　焼土遺構 1～4

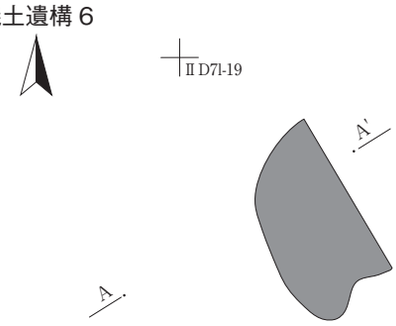
焼土遺構 5



焼土遺構 5
A　L=182.000m　A'

※層番及び注記記録なし

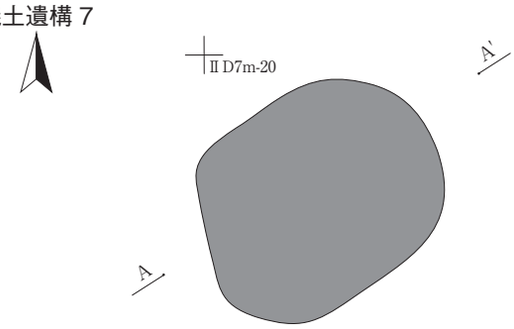
焼土遺構 6



焼土遺構 6
A　L=181.400m　A'

焼土遺構 6
0.　根攪乱
1.　5YR4/8　赤褐色 シルト　粘性弱（無）　しまり疎　焼土。
※根攪乱による焼土分断

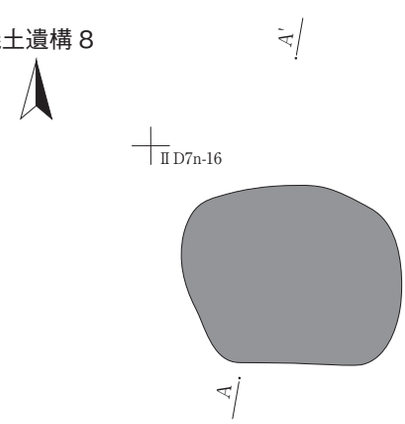
焼土遺構 7



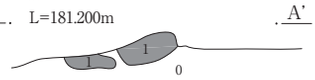
焼土遺構 7
A　L=181.200m　A'

焼土遺構 7
0.　根攪乱
1.　5YR3/6　暗赤褐色 シルト　粘性弱　しまりやや密　焼土。
2.　7.5YR3/4　暗褐色 シルト　粘性弱　しまりやや密　弱変部。
※根攪乱による損傷がはげしく、層の中にも焼土はまばら

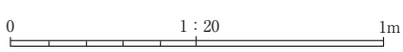
焼土遺構 8



焼土遺構 8
A　L=181.200m　A'

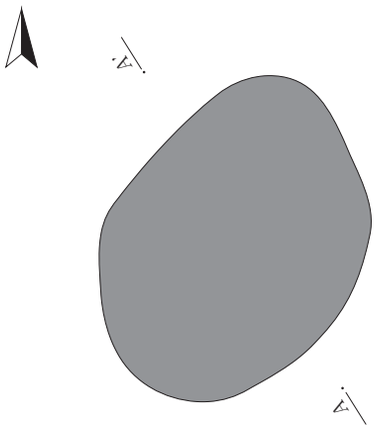


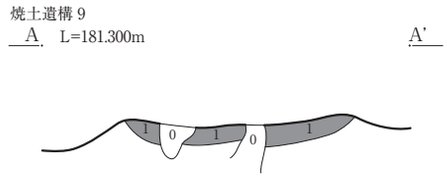
焼土遺構 8
0.　根攪乱
1.　5YR3/6　暗赤褐色 シルト　粘性弱　しまり疎　焼土。
　　根攪乱により焼土分断



第 146 図　焼土遺構 5～8

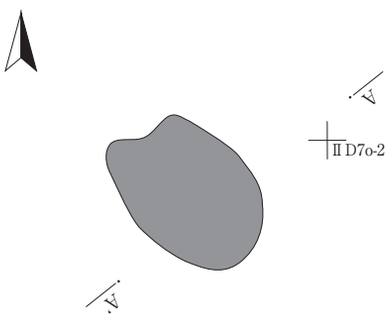
焼土遺構 9

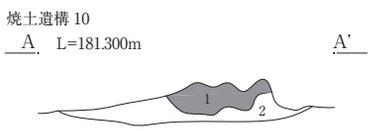




焼土遺構 9
0. 根攪乱
1. 5YR4/8　暗褐色 シルト　粘性やや強　しまり密　焼土。
※根攪乱による焼土分断

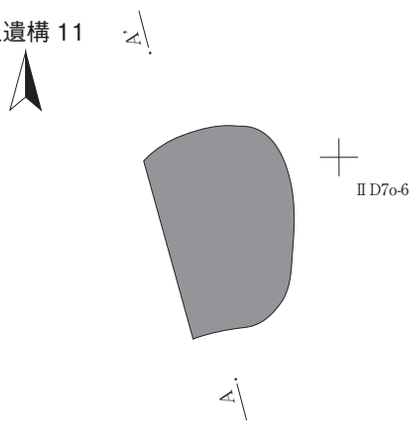
焼土遺構 10

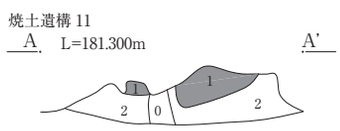




焼土遺構 10
1. 5YR5/8　明赤褐色 シルト　粘性やや弱　しまり疎　焼土。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性弱　しまりやや疎　1 層が焼ける前の層。

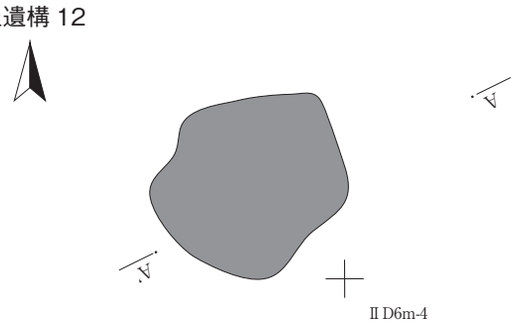
焼土遺構 11

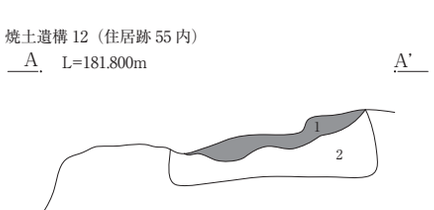




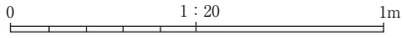
焼土遺構 11
0. 根攪乱
1. 5YR4/6　赤褐色 シルト　粘性弱　しまり疎　焼土。
2. 7.5YR4/4　褐色 シルト　粘性弱　しまりやや疎　1 層が焼ける前の層。

焼土遺構 12



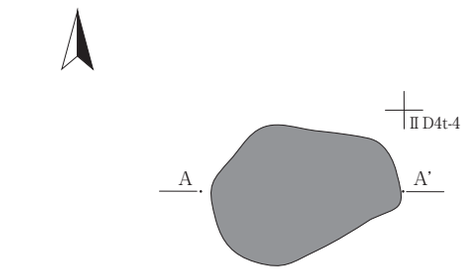


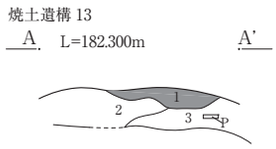
焼土遺構 12
1. 5YR4/8　赤褐色 シルト　粘性弱　しまり疎　焼土。
2. 7.5YR3/4　暗褐色 シルト　粘性弱　しまりやや密
※1 層の境目中央に炭化物が多量にあり→住居埋土下部。



第 147 図　焼土遺構 9～12

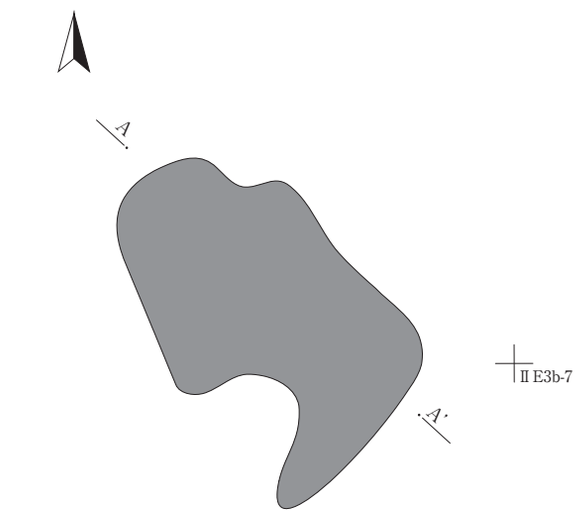
焼土遺構 13

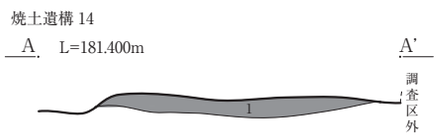




焼土遺構 13
W－E
1. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性有　しまり有
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性有　しまり有
　赤褐色焼土（5YR4/6）ブロックで5%含む。
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有　しまり有

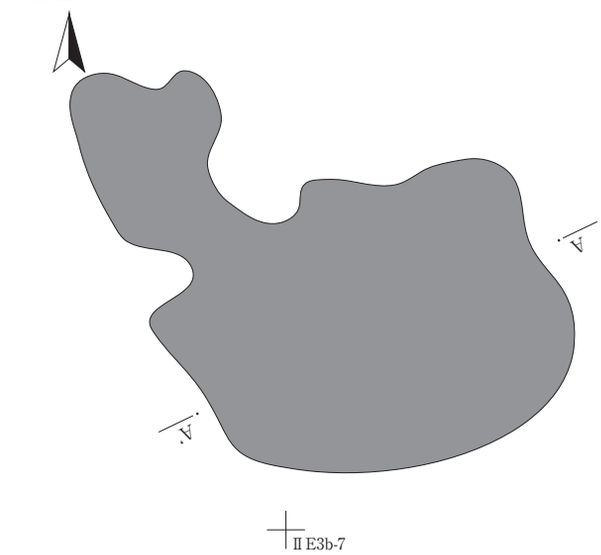
焼土遺構 14

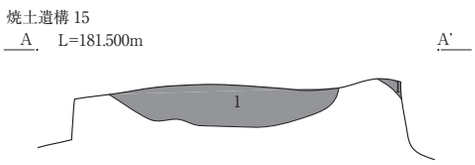




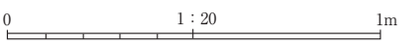
焼土遺構 14
1. 5YR5/8　明赤褐色焼土　粘性やや有　しまり有

焼土遺構 15



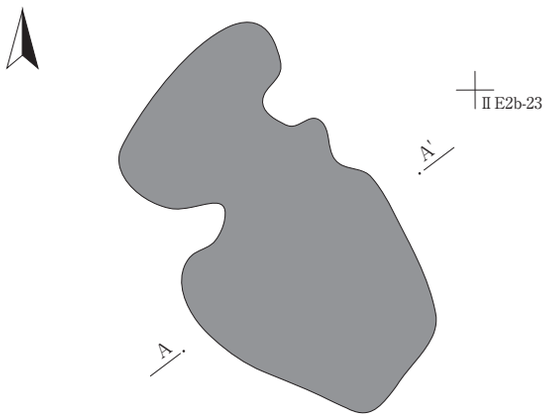


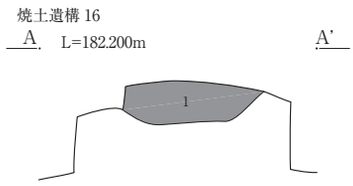
焼土遺構 15
1. 5YR5/8　明赤褐色焼土　粘性有　しまり有　炭粒　径2～10㎜ 2%。



第 148 図　焼土遺構 13～15

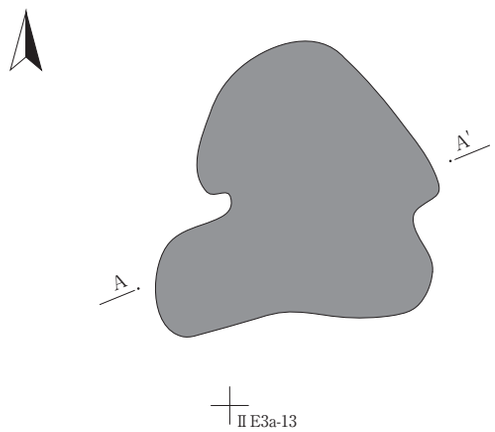
焼土遺構 16

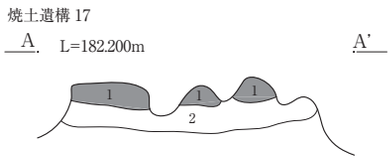




焼土遺構 16
1. 5YR5/8　明赤褐色焼土　粘性無　しまり有　炭粒 径 1～5 ㎜ 5%。

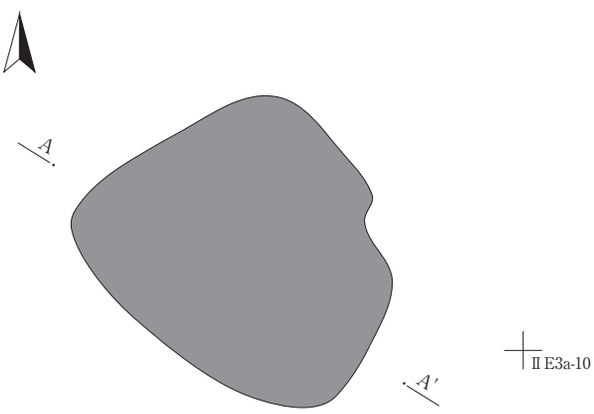
焼土遺構 17

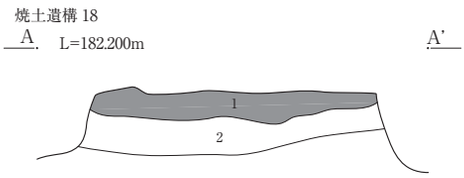




焼土遺構 17
1. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性有　しまり有
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有　しまり有

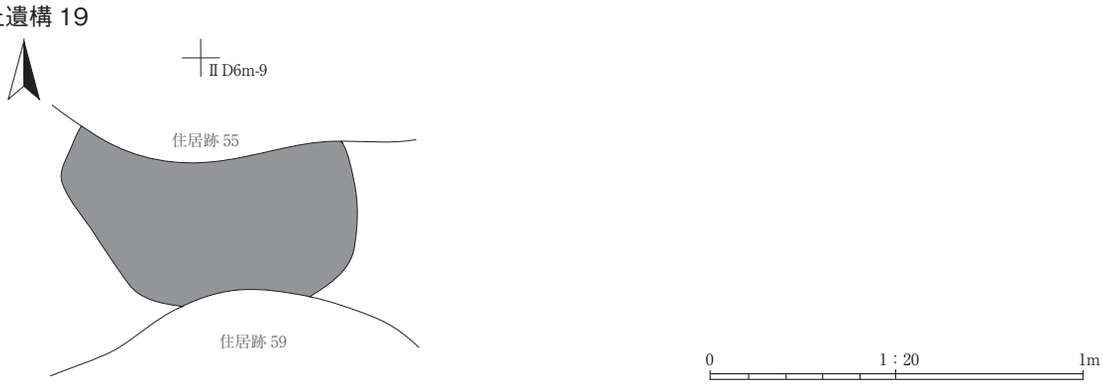
焼土遺構 18





焼土遺構 18
1. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性有　しまり有
　2 層注記なし

焼土遺構 19



第 149 図　焼土遺構 16～19

3　遺　　物（第 150～215 図、写真図版 109～170）

（1）縄　文　土　器

検出遺構の多寡に比例して、出土土器の量的なピークは縄文時代前期及び晩期に認められる。以下、この二つの時期を中心とする土器群に大別し、それぞれに概要を記述する。資料個別の諸属性及び所見については後掲「第 6 表　土器一覧」を参照されたい。

①縄文時代前期を中心とする土器

今次調査で出土した土器の大半が、ここに示す縄文時代前期及びその前後に位置づけられる。

まず前期初頭からさらに早期に遡るものとして尖底を有する資料を見てみたい。尖底部破片や胴下部から急激に窄まる形態を持つものは 13 点確認されている（171・209・221・248・249・452・813・865・866・888・983・1003・1034）。このうち 452 はコ字状の連続的な刺突文が施されており早期中葉～後葉に相当する資料とみられる。813・888 にも類似した連続刺突文が観察される。一方、早期末葉～前期初頭の資料とみられる 248・249 は地文に縄文が施文されている。221・1003・1034 も縄文を地文とする資料である。いずれも小片のため全容が不詳であるが、後述する前期土器のうちでも初頭に位置づけられる個体の底部である可能性がある。

前期の資料は、胎土中繊維の有無（あるいは多寡）や地文、隆帯・沈線・加飾体による装飾等の要素に着目することで大まかな分類を試みることが出来そうではある。しかしながら、やはり全体形の知れる個体はごく少なく、個々の破片資料を明確に分類することは難しい。諸属性もいずれかが単独で明瞭な指標とはなり得ないので、これらの組み合わせに着目して大づかみの傾向を示してみたい。

まず胎土への繊維の混和比率の差異に着目してみる。繊維を含むものは、その含有率が目立って高い（多量に含む）ものから、僅かに痕跡が認められる程度のものまでが切れ目なく存在する。

このうち多量の繊維を含む一群には、横位の羽状縄文が施文されるもの（150・244・387・407・814・860 他）と、横位の結節回転文を伴うものがあり、特に横位の多重結節回転文が口縁部文様帯を成す例が際だって多い（260・350・385・394・397・400・602・811・857・904 他）。この口縁部文様帯の下位には、地文として横回転による単節斜縄文（LR または RL）が施文されるのが一般的だが、400・904 のように横位の木目状撚糸文をもつものも見られる。602 は横位多重結節回転文が口縁部文様帯を成し、その下位に横位の羽状縄文が施文された例である。口縁は一般に平口縁で、これに小ぶりの山形突起を伴うものが少量認められる（385 他）。

（※結節回転文については、結節部の結びの向きを区別するため、第 6 表所見欄では「左結」および「右結」と便宜的に表記した。連結した S 字の条が、左のものの右端が右側のものの左端に乗り上げているものを「左結」とし、その逆を「右結」とした。後者は「S」字が“鏡写し”に表出されるものである。）

一方、繊維が少ないものまたは含まないものでも、横位の結節回転文が多層的に施文された例は少なくない。繊維多量の一群に比して結節部の間隔は広くなり（125・296・311・366・398・483・509 他）、口縁部だけでなく体部まで施文されるものを含んでいる（258・517・694 他）。一定程度乾燥が進んだ時点で施文されたためか、整った器面に条が明瞭に表出される傾向が認められる。口縁部下に刺突の施された横位隆帯を伴うもの（125）や、肥厚した口縁部の外側上縁に連続する刻目をもつもの（366・398・848）、小突起を伴うもの（237・381・456・1002）、弁状突起をもつもの（893）、低く幅広の山形突起を持って波状口縁様を呈するもの（241・321・398）等が含まれている。

前述の通り、繊維の混和比率は無段階に推移しており、この一点をもって明確に区分することは難しいが、繊維の量に反比例して胎土は硬質となる傾向が見られる。そして繊維を含まないものにあっては明るい橙色を呈し、胎土に細礫を含んだカッチリとした焼成の個体が目立つようになる。繊維混入がごく少量か含まないものの多くは、地文として器外面のほぼ全面に縦位の撚糸文（単軸絡条体第1類・同1A類・同第5類）が施文されている。また一部に丸組紐の回転施文例が含まれる。地文のみのものに加え、口縁部下に太い横位隆帯が巡るものも一定量存在し、隆帯上面には指頭状（442・453・590・1047他）や円形・竹管状（228・275・369・441・872他）の連続刺突、地文と同じ原体による回転施文（201・214・713・720・1016他）等が施される。457・536は刺突と地文施文の複合した例である。平口縁が多いが、665は2単位の幅広の突起を有し、口縁部下の隆帯が突起に沿って上方に持ち上げられている。全体的に装飾性は低いものの、一部にはこのような突起や、口縁部下に横走するのと同様の太い隆帯による簡素な装飾をもつもの（384・506・646・675・992・1013他）が少量含まれる。

これらに加え、繊維を含まないものには、やや暗い色調を呈し、細い粘土紐や沈線等による加飾をもつ一群が認められる。円形の沈文をもつもの（287・608・917・993・1007）、細い隆帯に飴を切ったように鋭く深い刻目を連続的に施したもの（281・492・701・905）、弧状の平行沈線文による意匠（299・560）、両端に刺突を伴う重層沈線文（303・410・839）、押引文による重層沈線文（580）、細い粘土紐による小波状貼付文や各種意匠文（246・264・274・322・325～328・588・896・916）、小波状または鋸歯状沈線文（341・356・370・371・376・514・676）等である。これらは大木3式～同5式の特徴を持つことから概ね前期中葉～後葉に位置づけられる。地文は単節縄文のほか、附加条縄文（322他）・反撚（896他）・丸組紐（247・328・378）等が認められる。上述の繊維を含まない簡素な土器のうちの多くがこれらに伴う可能性が高いと考えられ、刺突をもつ太い隆帯による胴上部への意匠文をもつもの（310・646・853・876・877・883・990・1022他）や口縁部に鋸歯状・円形等の加飾体をもつもの（38・310・498・552・609・625・675・720・724・877・883・1022他）、交互捻りによって口縁が花弁状を呈するもの（255・256・338・475・559・637・650・707他）なども、同じく同時期の所産と考えられる。

これらに後続する資料としては116・911・1005等があり、前期末葉～中期初頭のものとみられる。

以下、個別資料の特記。242・256は植物穂先とみられる原体（オオバコ等）の回転文を地文とする。349は底面（外面）に撚糸文とみられる同心円状の条痕もつ。439・623・801・907は口縁部内面に外面と同原体の回転文が施されている。

（村上）

②縄文時代晩期を中心とする土器

精製土器の華麗な装飾と多様な器種で知られる該期の土器群であるが、本遺跡にあっては出土資料のほとんどが全体像を把握できない破片資料であり、粗製土器が大半を占めている。従ってこの一群を細分し時期を特定することは困難な作業であるが、帰属が想定される時期別に以下の4群に分けて記述を試みたい。型式名称は山内清男が示した6区分（大洞B式・BC式・C1式・C2式・A式・A’式）に依った（山内1937）。

a.　後期末葉～晩期前葉に属する資料

8・23・44・62・739・779・782～784・789・924・925・937・954～956・958・961・974～978・982・1045等が該当する。口縁から体部にかけ単節斜縄文が施文された後に平行沈線や多重沈線が施された一群である。条の細い原体が用いられ、細かい節が密に表出される資料が多い。

782 は深鉢の口縁部破片である。山形の突起には幅広で深い刻みが 2 条施され正面観がW字状を呈する。縁部まで厚みがあるが緻密な胎土であり、非常に細かい節が表出された縄文を地文に沈線文が描かれる。783 も同様の資料である。これらは後期末葉から晩期初頭に帰属するものと考えられる。

大洞 B 式・BC 式に比定される 977・982 は、深鉢または浅鉢の口縁部とみられる。羊歯状文とみられる浮彫りの文様が施され、器面のミガキが顕著である。同様の資料は住居跡 13 から出土した 62 で、その形状と厚さから注口土器の体部と考えられる。摩滅が著しく外面の文様は不明瞭だが、赤色付着物の痕跡が認められる。

b. 晩期中葉～晩期後葉に属する資料

1・3～5・7・9～14・16～22・24・25・27・30・31・34・35・37～43・45～47・52～54・57・59・65・78・81・89・95・727～731・734・735・742・752・755・756・760・761・763・764・767～769・774・780・786・787・921・926～930・932～936・938・940・947・957・1031 等が該当する。

縄文時代晩期中心とした一群のうち、大半はこの時期のものとみられる。頂部もしくは内側に溝が巡り、頂部もしくは外側に刻みが入るものが目立つ。例えば 921 は A 字状の突起間の口唇面にも明瞭な沈線が掘られている。器種は浅鉢が多くなり、それらの体部には磨消縄文が施され、丁寧なミガキが確認できる。住居跡 22 から出土した 95 は口縁波頂部に小突起を持ち、口唇面に溝が巡る。内外面にはオコゲの付着が顕著であるが、外面の一部には赤色顔料の付着が認められる。

962 は体部に描かれた雲形文が立体的であり大洞 C1 式に比定されよう。一方、土坑 6 から出土した 728・729 のそれは平面化しつつあり C2 式への移行期の資料と考えられる。住居跡 8 から出土している 47 は平行沈線の間に 1 段の点刻列が確認できる。深鉢は住居跡 1 床面出土の 1 に該期の特徴をみることができる。いわゆる砲弾形をしており、口縁頂部に B 字状の突起をもつ。口縁は一部欠損しているが、突起はこの一カ所のみに表現されているものと考えられる。口縁部には、幅広の沈線が 3 条巡る。外面の上部にはふきこぼれによるオコゲが多量に付着している。

末葉（A式）に比定されるのは住居跡 12 の床面から出土した 52 の壺で、肩部に磨消縄文による工字文が規則的に描かれている。工字文の上位（欠損部際）にも文様が描かれているが全容は不明である。肩部は丸味を帯びずに張っており、同遺構から出土している 57 の壺もまた、地文のみであるが形態が類似している。住居跡 8 の炉から出土した 46 は、C2 式から A 式に属する鉢である。口唇部に細かな刻みが施され、口縁上部には上下を沈線で区画された無文帯がめぐる。浅鉢に比して装飾性に乏しく体部は地文のみとなる。浅鉢よりも大ぶりで厚みがあり、胎土に含まれる細礫が器面の内外に顕著に見られる。

98 は住居跡 24 の床面から出土した深鉢である。全体に施文された縄文を頸部付近のみ磨り消し無文化している。形状は砲弾形に近似するが、口頸部が直立に立ち上がる特徴を持つ。同住居跡からはこれらの他に末葉に帰属すると考えられる土器がまとまって出土している。100 は台付浅鉢で口縁部内面上縁に溝がめぐる。口縁部は直立し、体部には極小の貼り瘤が 2 個 1 対で施される。台の高さは A’式にはまだ低く、台部全体に入り組み工字文と思われる文様が描かれる。台部と体部の接合部には工具痕が明瞭に残り、底部内面中央に見られる円文は、台部の径の規模に伴って小さい。102 の小形深鉢は口縁部下の屈曲が緩やかな個体である。扁平化したB字突起が口縁部に認められ（A字が 2 分されたものか）、口縁部は無文、体部は地文のみが施文されている。99 の台付深鉢は体部の形態が 102 に似る。台部の外面には棒状工具による鋸歯状の沈線文が描かれている。これらの住居跡 24 出土土器はA式の新しい時期に属する資料と考えられる。

c. 後期に属すると思われる資料

49・58・63・64・67～77・79・82～88・91・92・732・740・743・746・747・758・759・762・766・775・781・785・790・922・952・963・965・973・979・1024・1025 等が該当する。

晩期の資料に比して厚手で、不規則な地文が施文されたものや沈線文をもつものが含まれる。概ね後期後葉～末葉に帰属するものと考えられる。

d. 晩期に属すると思われる資料

2・32・36・55・56・736・748・750・751・776・841・842・919・920・923・931・939・941～946・948・950・953・966～968・1044 等が該当する。

縄文時代晩期に帰属すると考えられるが型式細分が困難なものである。薄作りで横回転による整った単節斜縄文を地文とし口縁付近に横走沈線がめぐる資料である。32 は住居跡 5 の炉から出土した深鉢の下半部である。薄手で胎土には細礫が目立つ。

（佐藤）

（2）その他の土器

①弥生時代後期の土器

住居跡 26 の床面から出土した甕形土器（第 156 図、113）は、底部を欠くが大凡の器形を知ることができる個体である。該期の土器は県内でも出土例が増加しつつあるが、比較的良好に残存する本例について少しばかり丁寧に記述してみたい。

胴下部からやや外傾し緩やかに内弯しながら立ち上がる器壁は、胴上部で最も張り、この部位に最大径を持っている。その上位は内弯を強めてやや窄まり、再び上方に屈曲して直立気味に立ち上がる口縁へと連続している。頸部～口縁部はほぼ直立するか、わずかに内傾するものと思われる。

焼成は極めて良好で、器壁は全体に薄く焼き締まり橙色（7.5YR7/6）を呈する。特に、限りなく薄く引き上げられた口縁部は、厚さのむらに応じた不整な波打ちが見られるものの、最後に施されたナデによって、幅 1～2㎜ と極めて幅の狭い口唇面が明瞭に作り出されている。

器外面にはヘラまたは棒状工具の側面痕跡と思われる 2～3㎝ の直線的な条痕が全体に観察される。この調整痕は口縁部付近では口縁に平行するが、下部に向かって徐々に立ち始め、胴下部では大きく角度をもつ。条痕同士の間隔は 5㎜ 前後で、上方に食い込む状況が見られることから、底部付近から口縁部に向かって外面を徐々に削ぎ上げる入念な調整が行われたことがわかる。一方、内面は胴下部から口縁に至るまで一貫して横方向のナデ（篦状工具か）により整えられている。このように内外面とも丁寧な器面調整が行われており、器表面に輪積痕跡を見出すことはできない。

以上の成形・調整ののち、器外面には縄文の施文が行われている。まず、口縁部と最大径をもつ胴上部には、RL 原体横回転施文による横位縄文帯が設けられる。口縁部では施文単位がパッチ状を呈し、縄文帯の上下限が不明瞭であるが、胴上部のそれは明瞭な帯状に表出されている。いずれにおいても表出幅は 1.5～2.0㎝ 程度であり、使用された原体の長さもまたこれと同程度であったと考えられる。

横位縄文帯が施文された後、今度は胴上部～底部付近に縦位の縄文帯が並列して施文される。横位縄文帯と同様、RL 原体の縦回転によると思われるが、上述の横位縄文帯と異なり、3 条の L 側面圧痕を縦に長く表出する工夫がなされている。単軸絡条体第 1 類による撚糸文にも似るが、条の向きに対して直交方向に節が立っていることから、軸となるものとの間で相互に撚りが強まった状態であることが理解できる。これらのことから本個体における縦位縄文帯は、RL 原体を、一方の L の条がもう一方に巻き付く形、いわゆる「自縄自巻」原体に変形させて回転・表出したものと考えられる（註）。

該期の土器には、条の末端が毛筆の「はらい」のように屈折し流れた状態で表出される例も少なくない。このような表出は、本個体に用いられたとみられる自縄自巻原体の、撚りを緩めたものを回転施文することで再現が可能である（村上　2006）。異なった表出効果を得るために、途中で原体に簡易な変形を加えるのは、該期土器の施文に際し一般的な手法であったと考えられる。

なお、本遺跡では当個体のほかに、交互刺突文を有する土器小片（988）も出土している。同様に当該期に属する資料と考えられる。

註　続縄文土器の「帯縄文（縞縄文）」のように、表出させる特定の条に沿って指をずらしながら施文する方法も考えられるが、本個体の縦位縄文帯において条の本数は４条を超えることがなく、施文後に両脇をナデ消した痕跡も認められない（器面調整のうち縄文施文が最も新しい）。また上述のように、横位縄文帯の施文単位から推定される原体の長さは短いものであり、「指ずらし」によって表出するだけの条の長さは確保できないと判断した。

（村上）

②平安時代の土器

出土量はごく僅かだが、該期住居跡（住居跡 32・34・88）の内部及び周辺の堆積土から土師器片が出土している（123・124・138・139・140～143・596・599）。いずれも甕の一部とみられ、形態から 10 世紀前葉の所産と考えられる。124・140・143 は補修孔とみられる焼成後の穿孔を持つ。このほか縄文土器とは胎土の異なる土師質の土器片（595・597・598）が出土している。手捏ね成形で、外面は粗いヘラケズリ様の小面で覆われ、内面はナデ調整されている。土師器坏や須恵器は出土しなかった。

（村上）

（３）土　製　品（第 202 図、写真図版 155）

①土　　偶

１点出土した(1049)。中実の板状で、頭部と左腕部が角状に突出し、頭部の下に円形の凹文をもつ。表裏面と側面はそれぞれ丁寧なナデで仕上げられており、このため縁部に粘土が偏り周縁に沿った肥厚がみられる。胸部から下を欠損し全体形状は不明となっている。縄文時代前期後葉とみられる住居跡（住居跡 91・同 92）の埋土から出土したが、形態から前期前葉まで遡る資料の可能性が高い。

②耳　　飾

１点出土した（1050）。平面形状は円形で、表裏面は平坦、側面が凹んで滑車形を呈する。表裏面に渦巻状の沈線が刻まれ、片面では沈線間に一列の連続刺突が充填されている。縄文時代後期の所産とみられる。

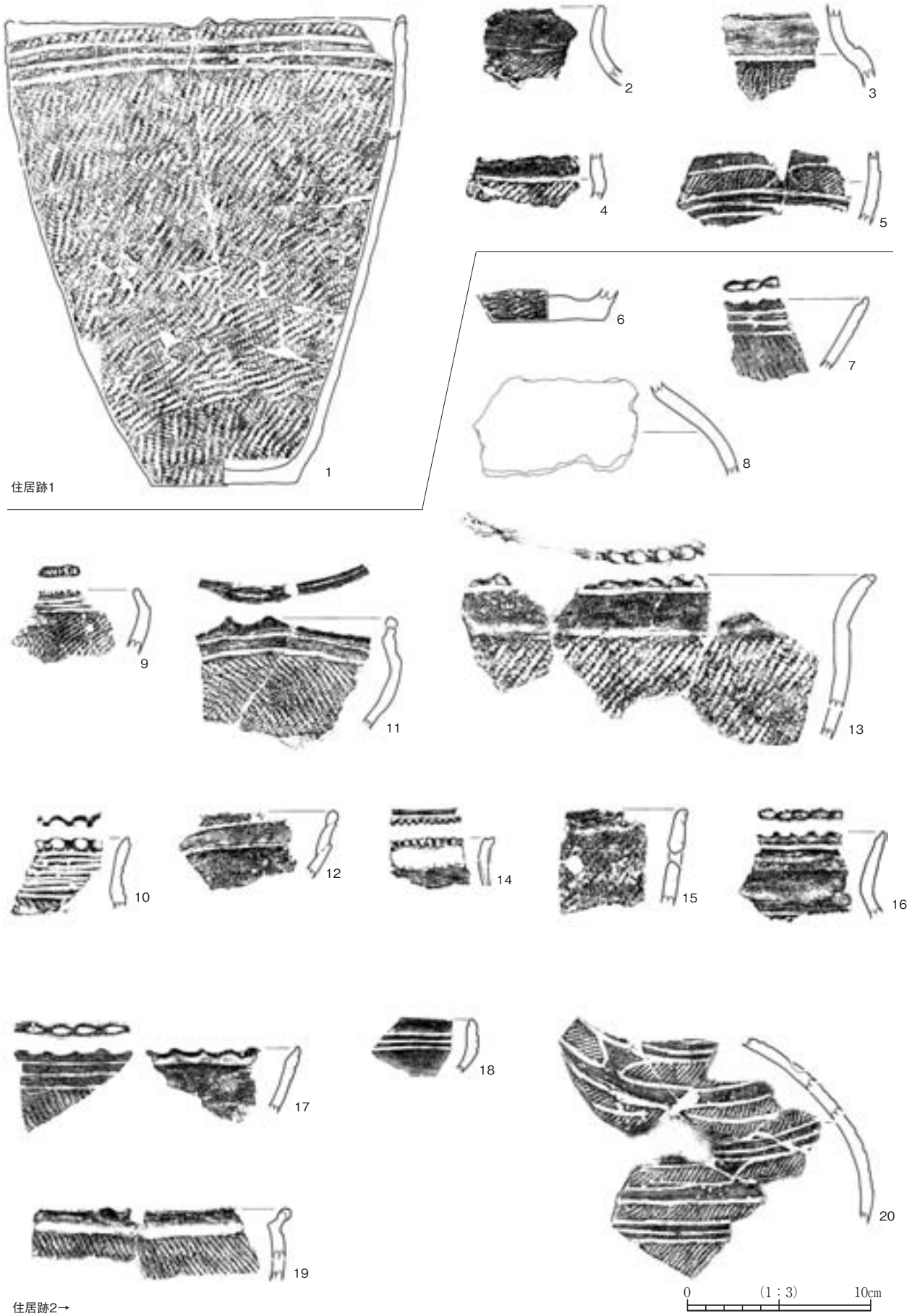
③鐸 形 土 製 品

１点出土した（1051）。釣鐘形を呈するとみられるが下部を欠損している。上端が乳頭状に突出し、これを起点とする２条一組の沈線文が５筋、体部に垂下している。縄文時代後期の所産とみられる。

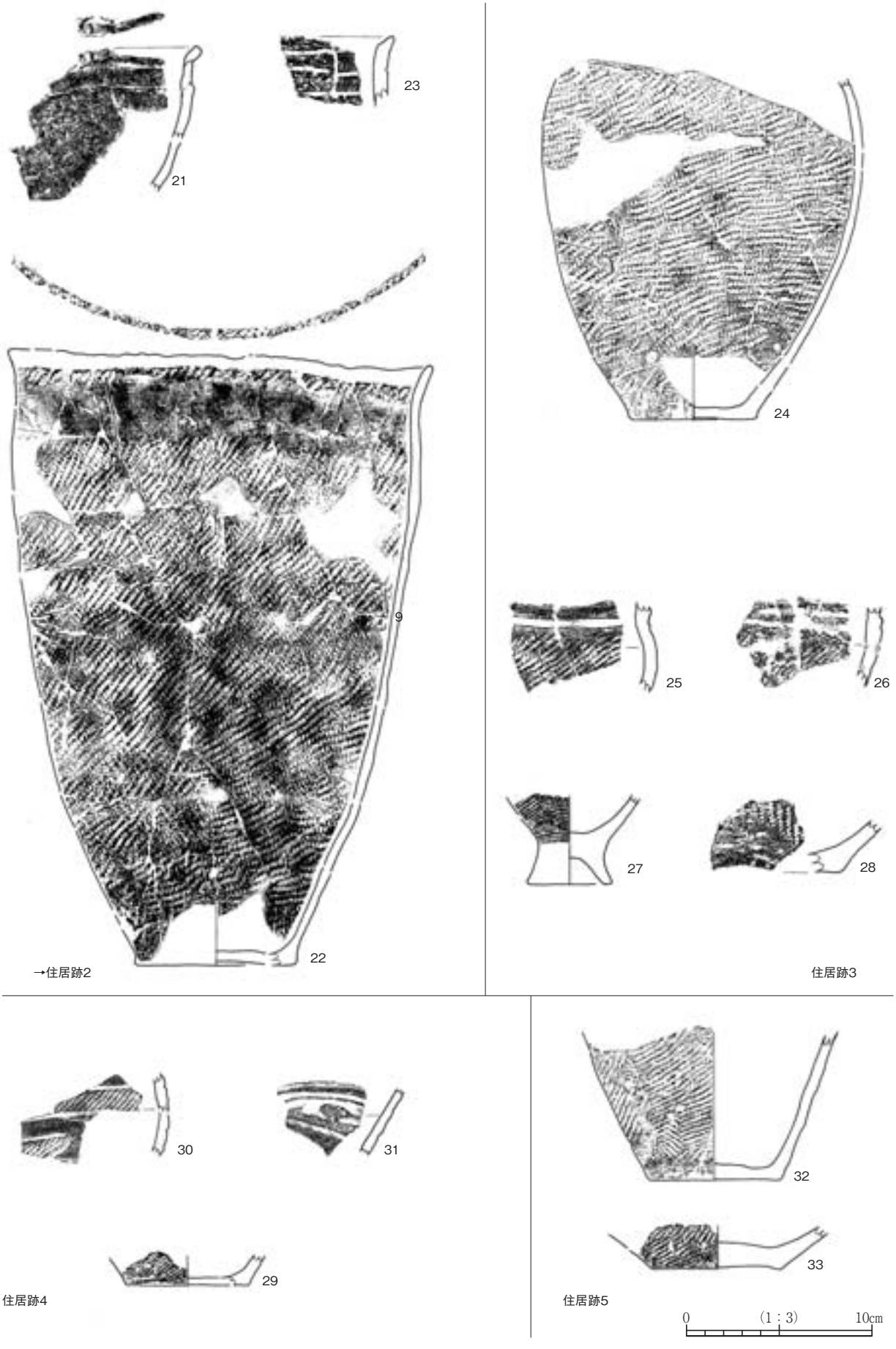
④円盤状土製品

４点出土した（1052～1055）。土器片の周縁を打ち欠き及び研磨することで円形に成形したものである。このうち 1052 は他に比して突出して大きく、裏面には外縁に沿ってスス状の付着物が認められる。

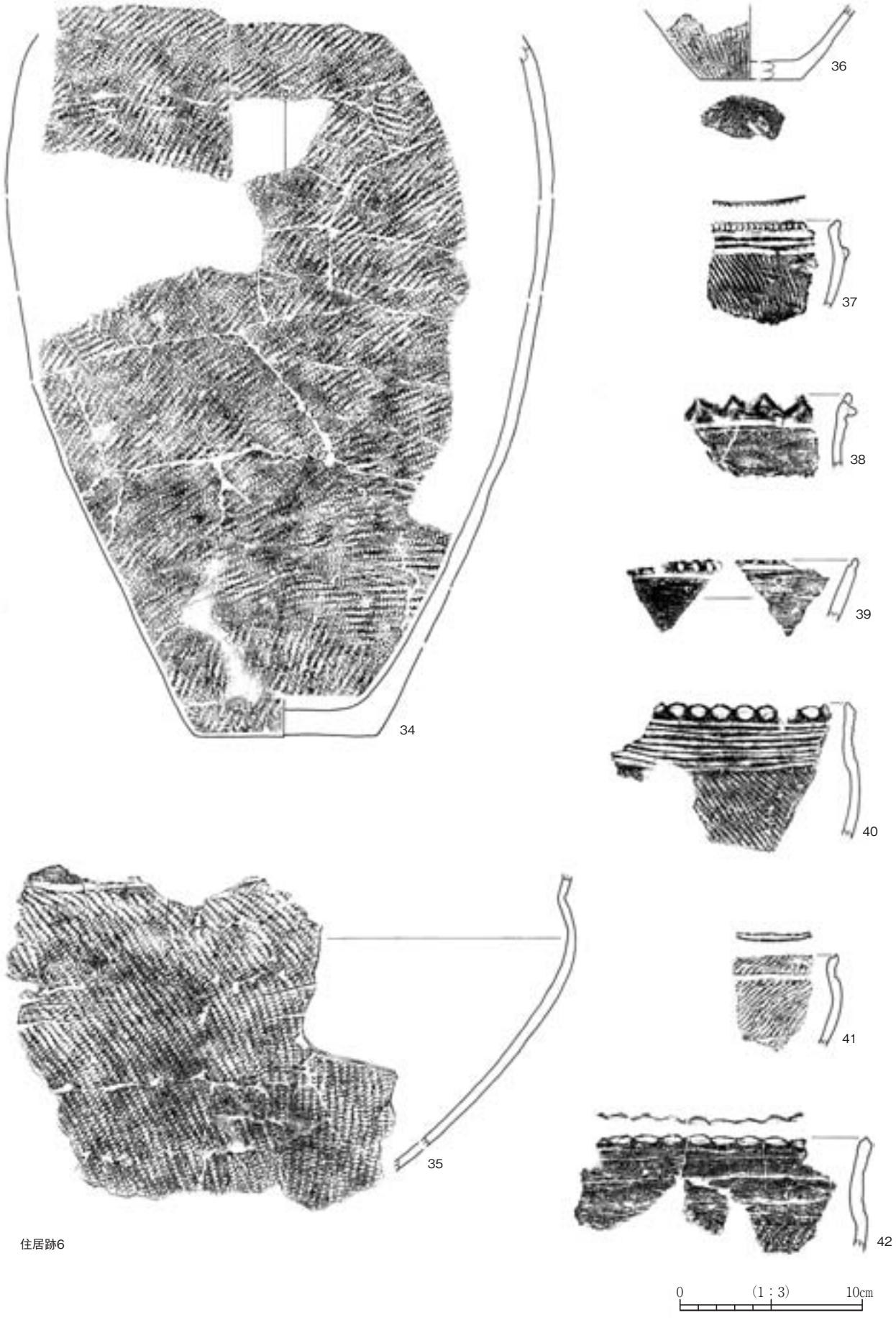
（村上）



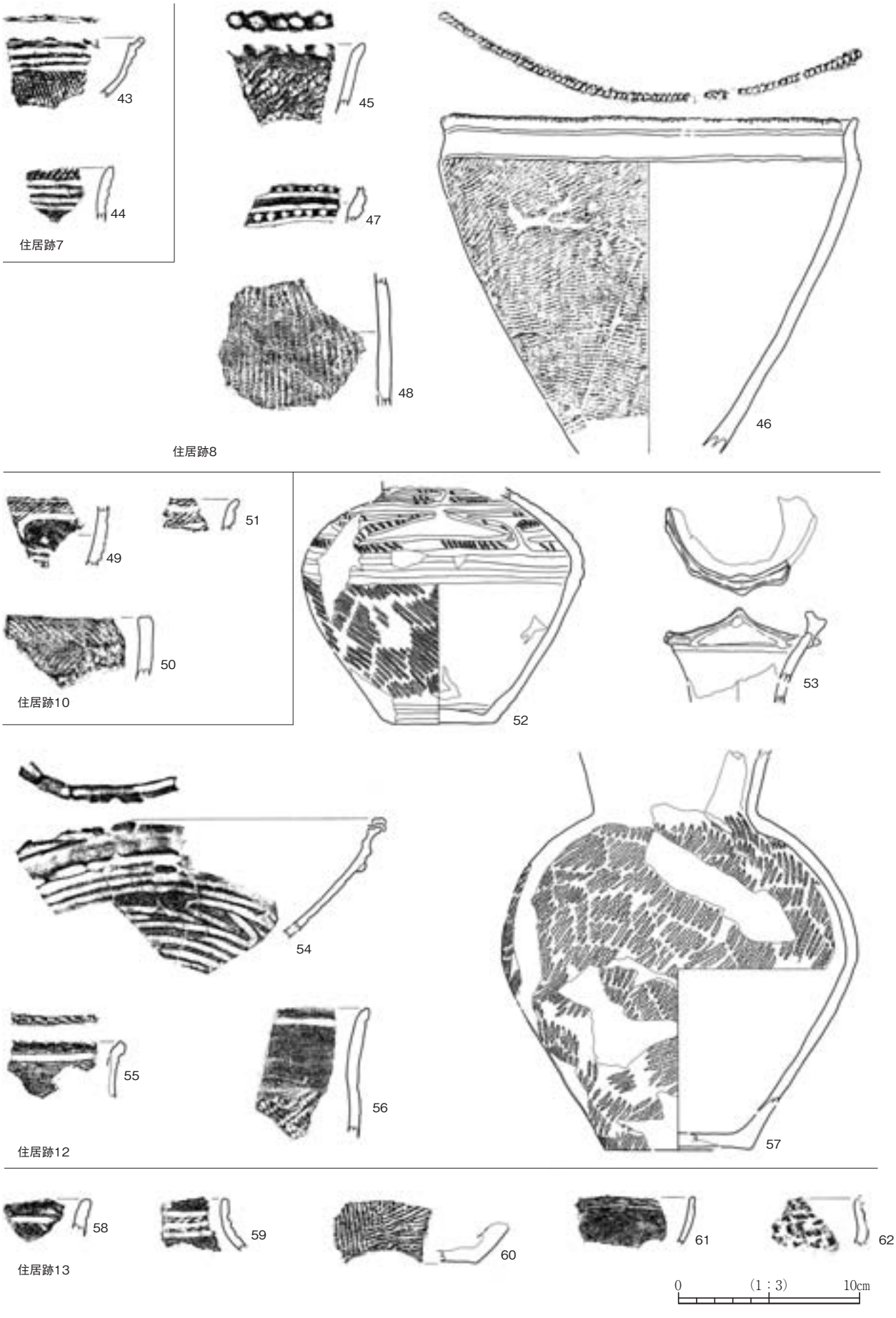
第 150 図　遺構内出土土器（1）



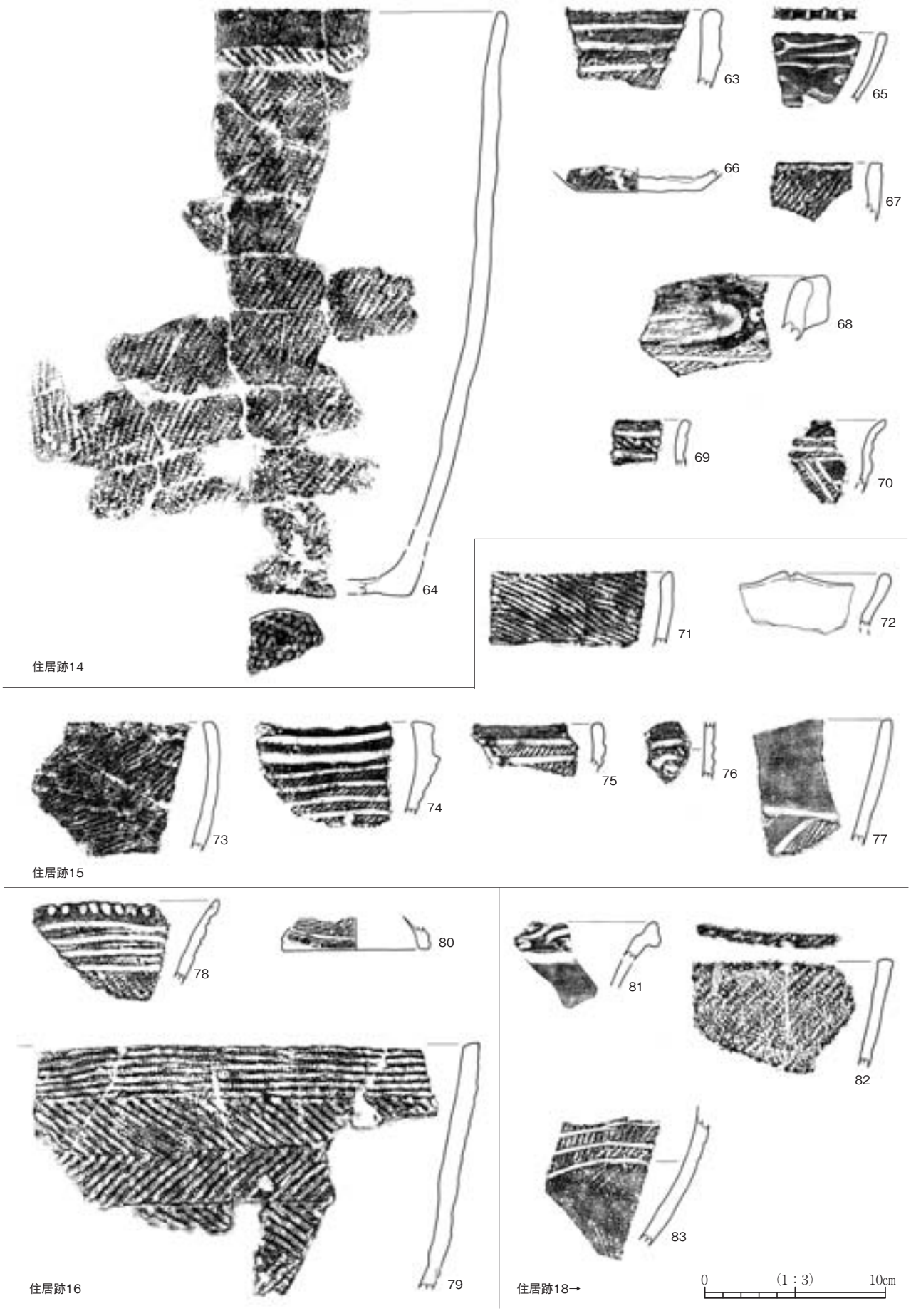
第 151 図　遺構内出土土器（2）



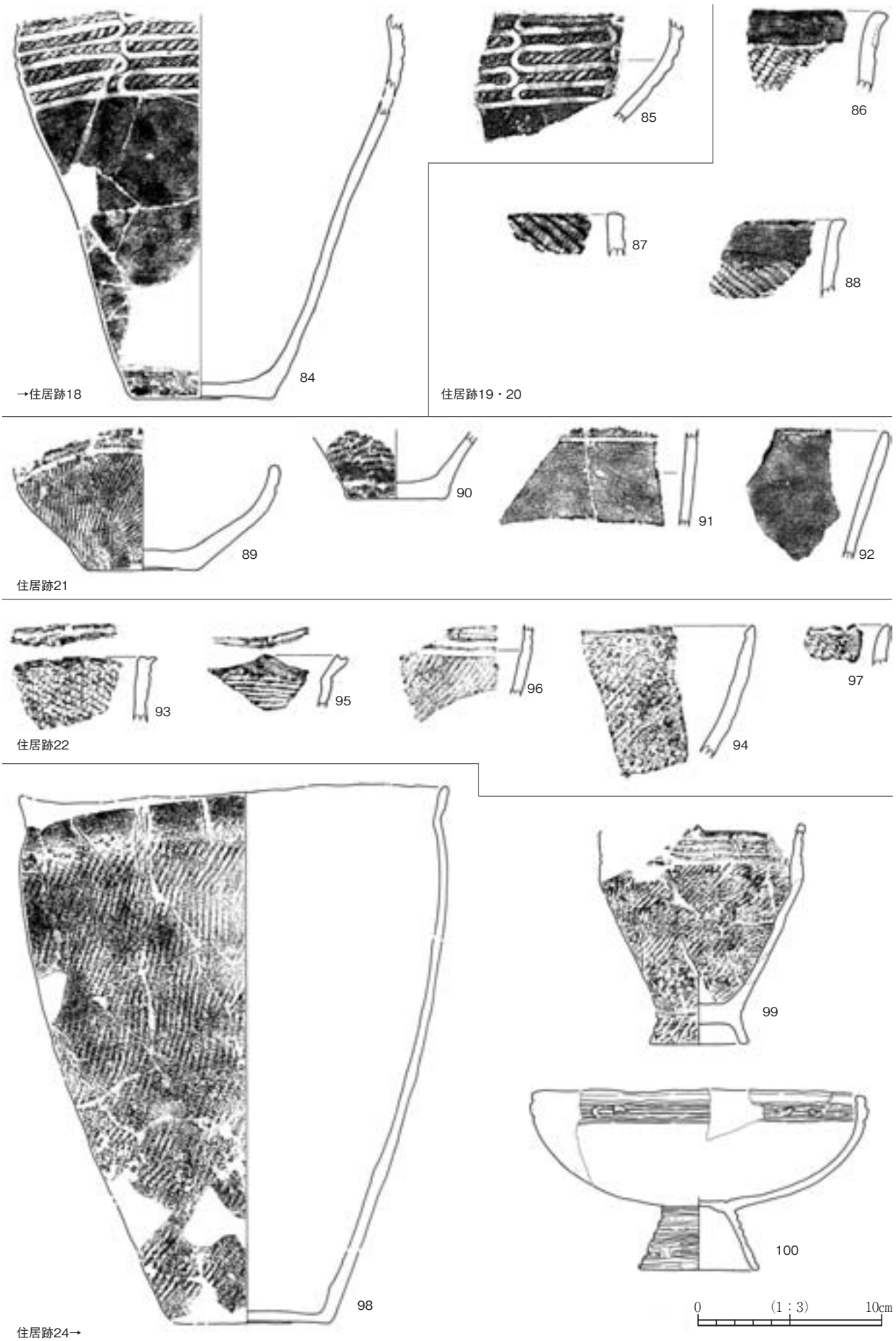
第 152 図　遺構内出土土器（3）



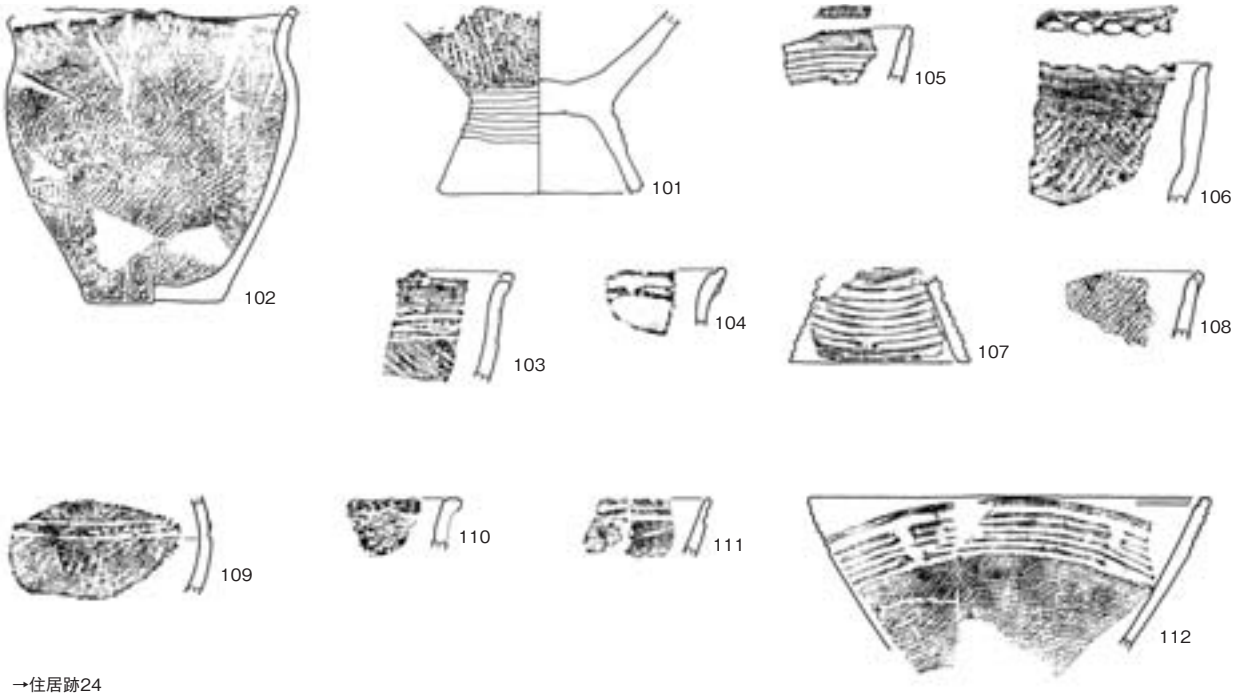
第 153 図　遺構内出土土器（4）



第 154 図　遺構内出土土器（5）

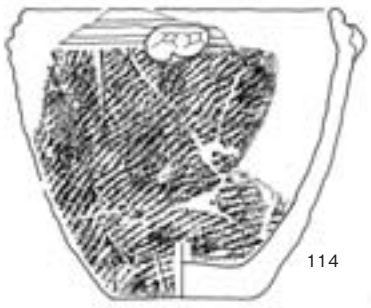


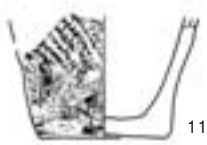
第 155 図　遺構内出土土器（6）



→住居跡24

住居跡26

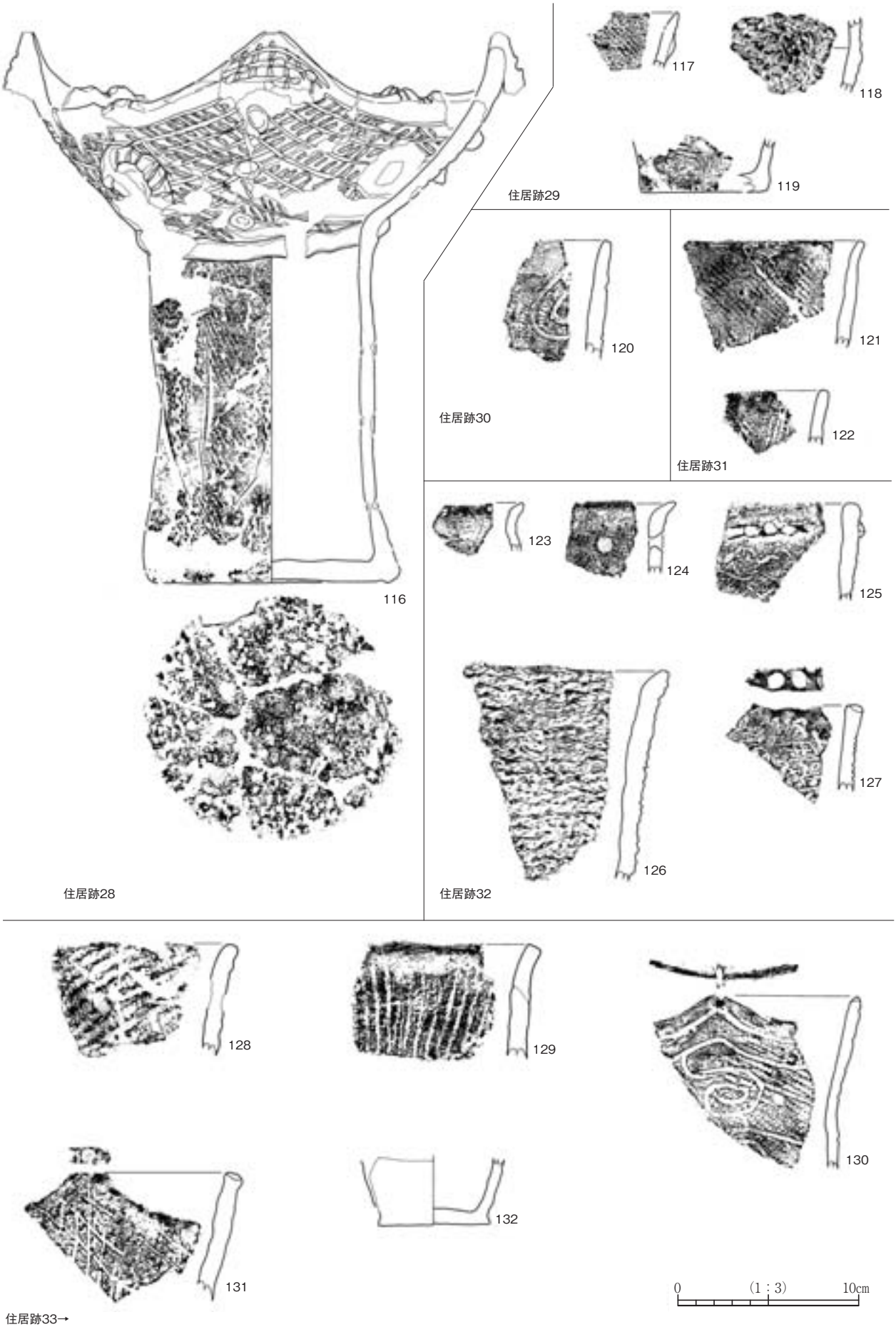




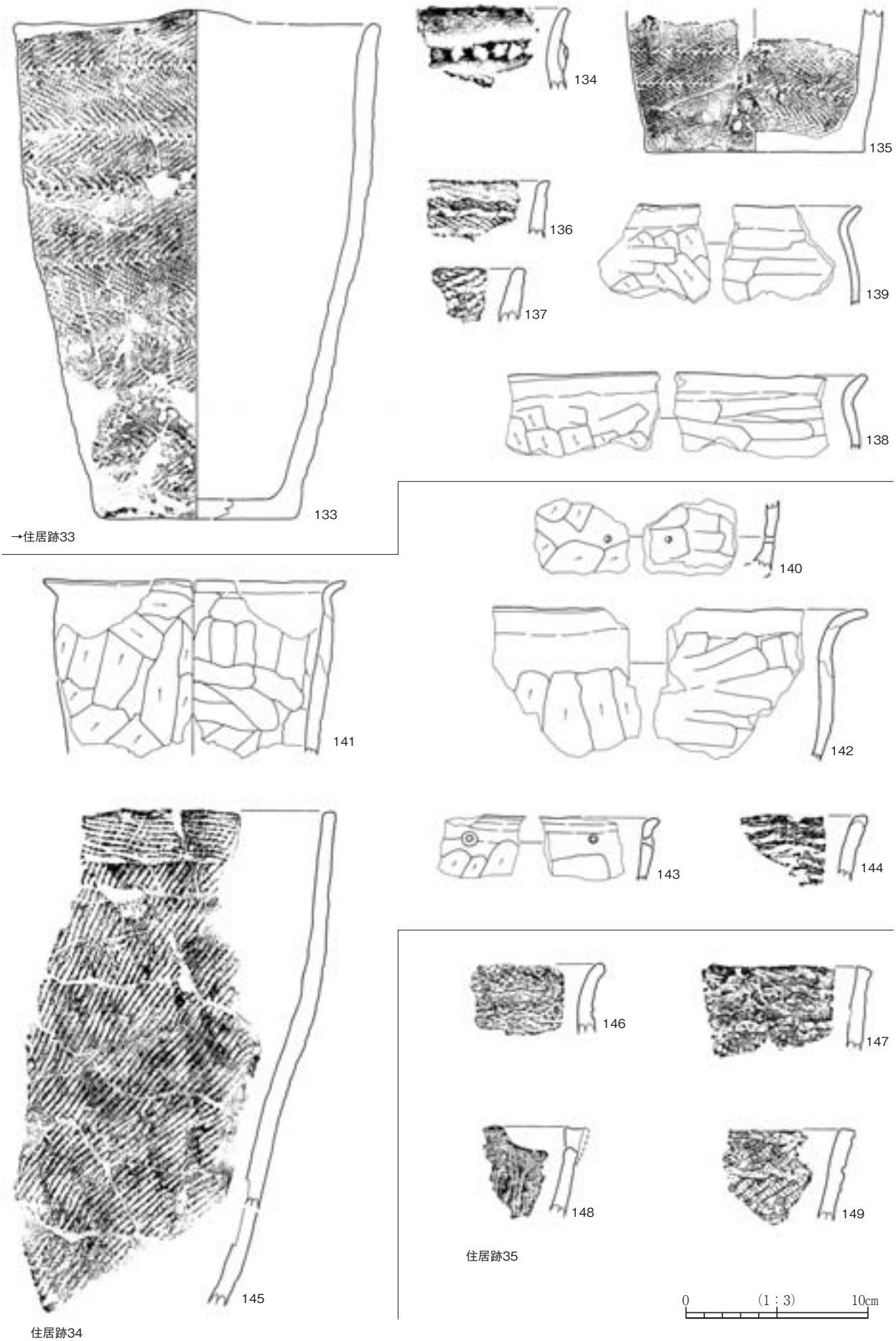
住居跡27

0　(1：3)　10cm

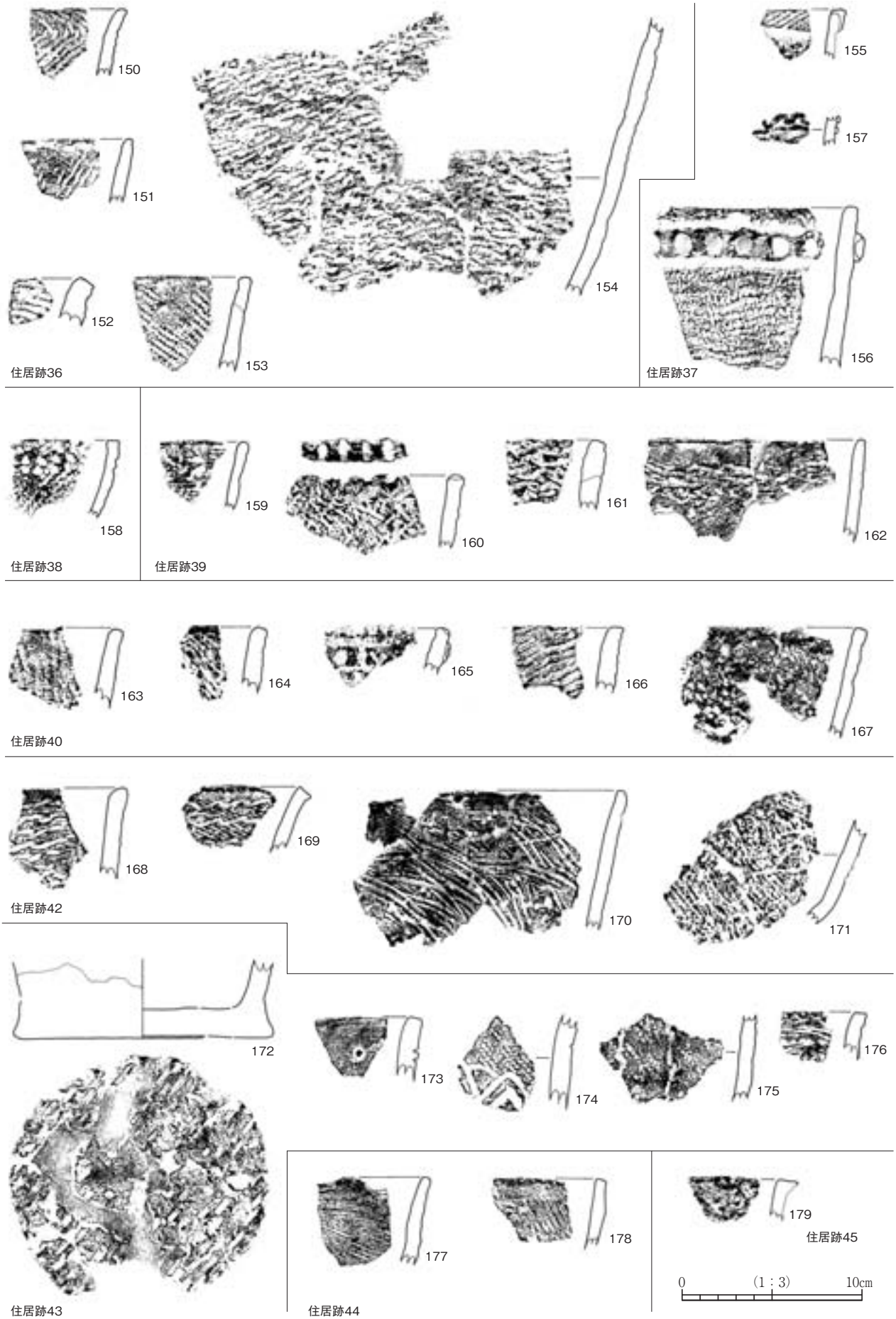
第 156 図　遺構内出土土器（7）



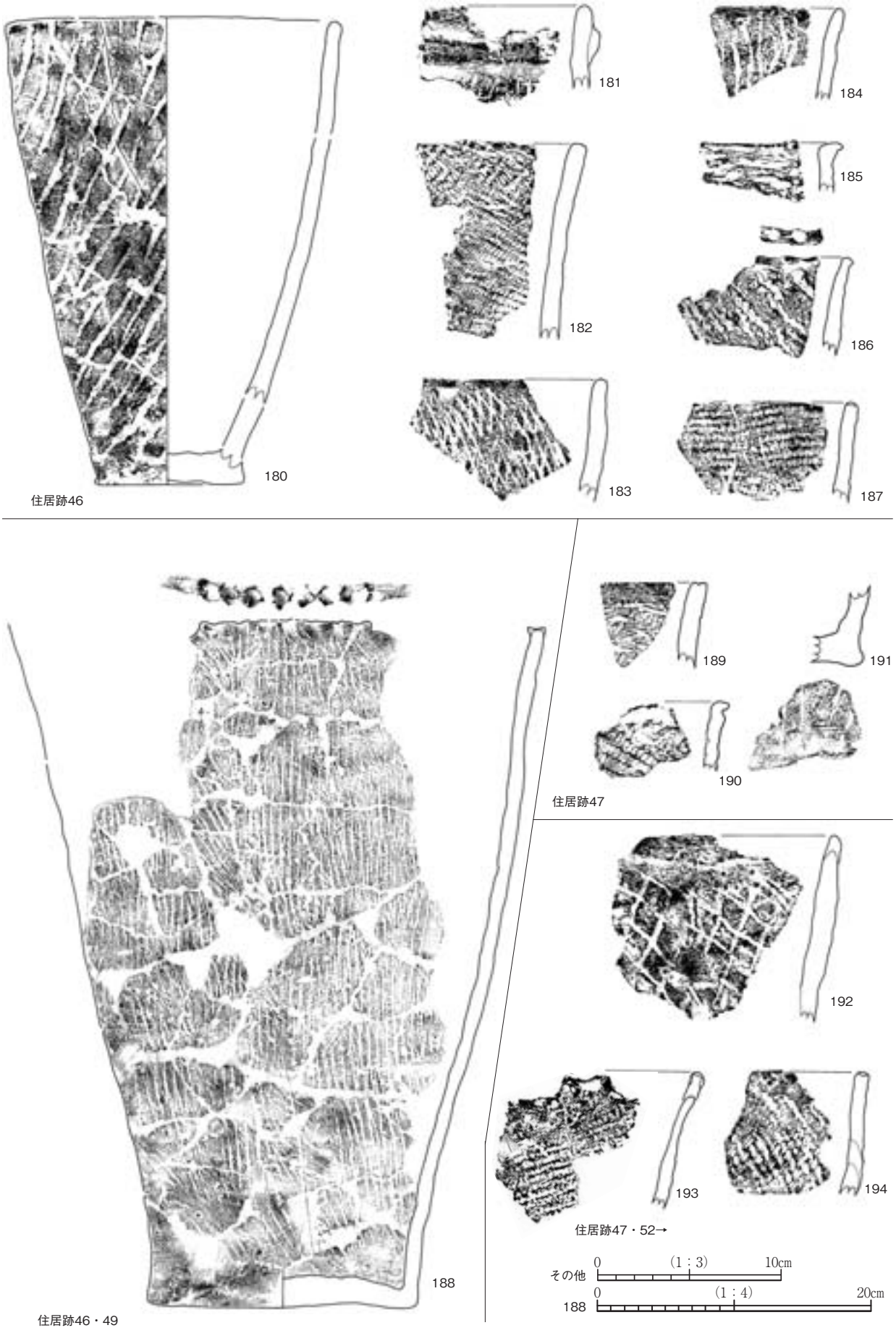
第 157 図　遺構内出土土器（8）



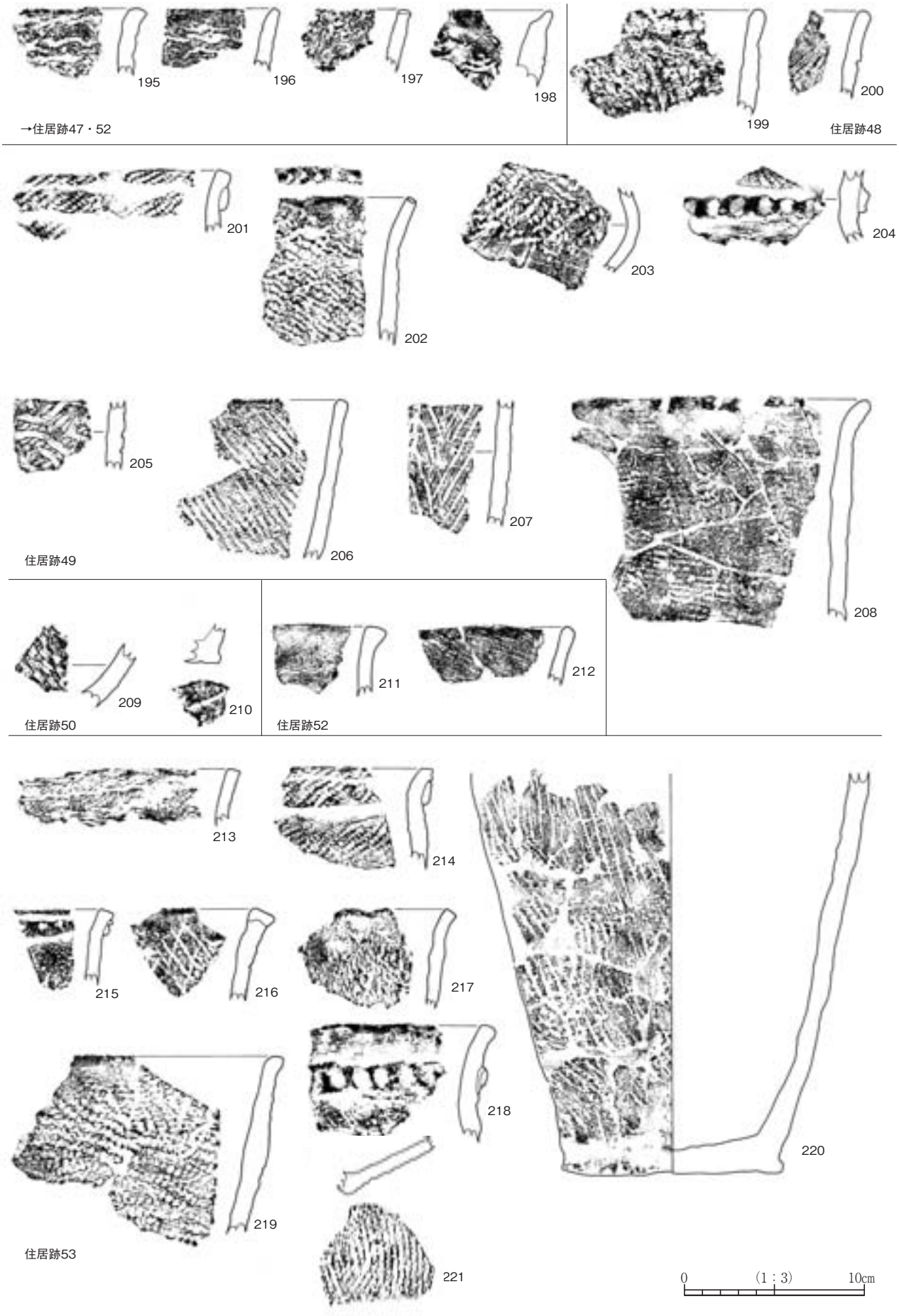
第 158 図　遺構内出土土器（9）



第 159 図　遺構内出土土器（10）

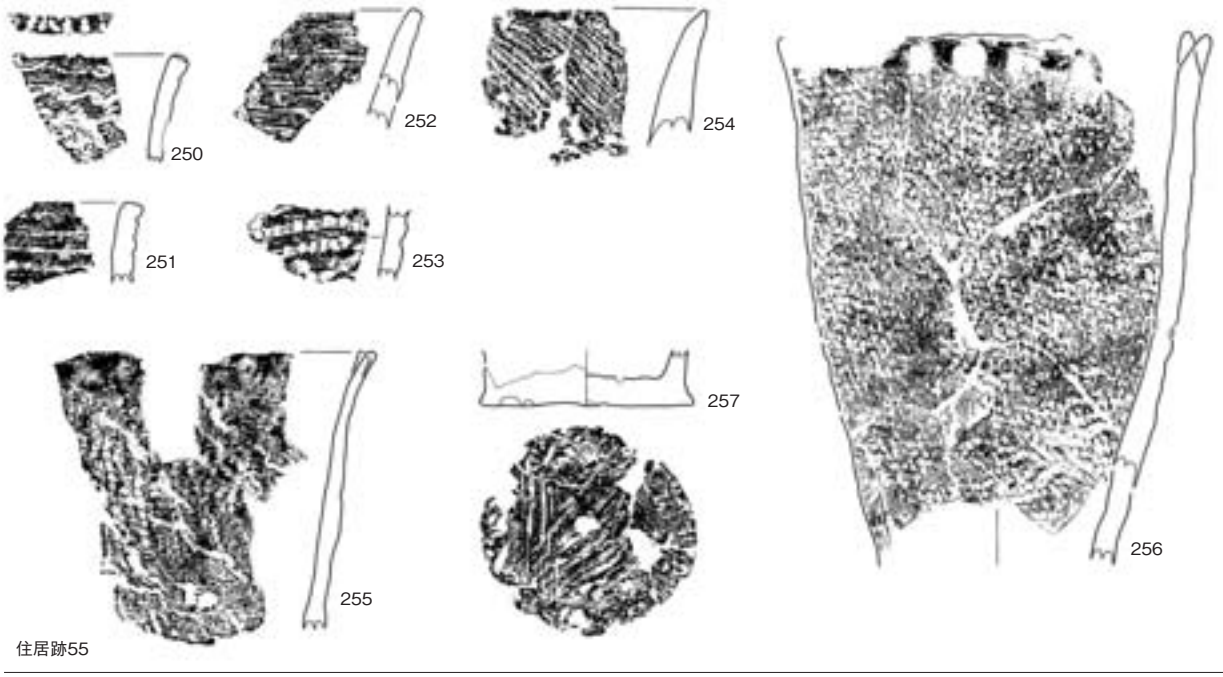


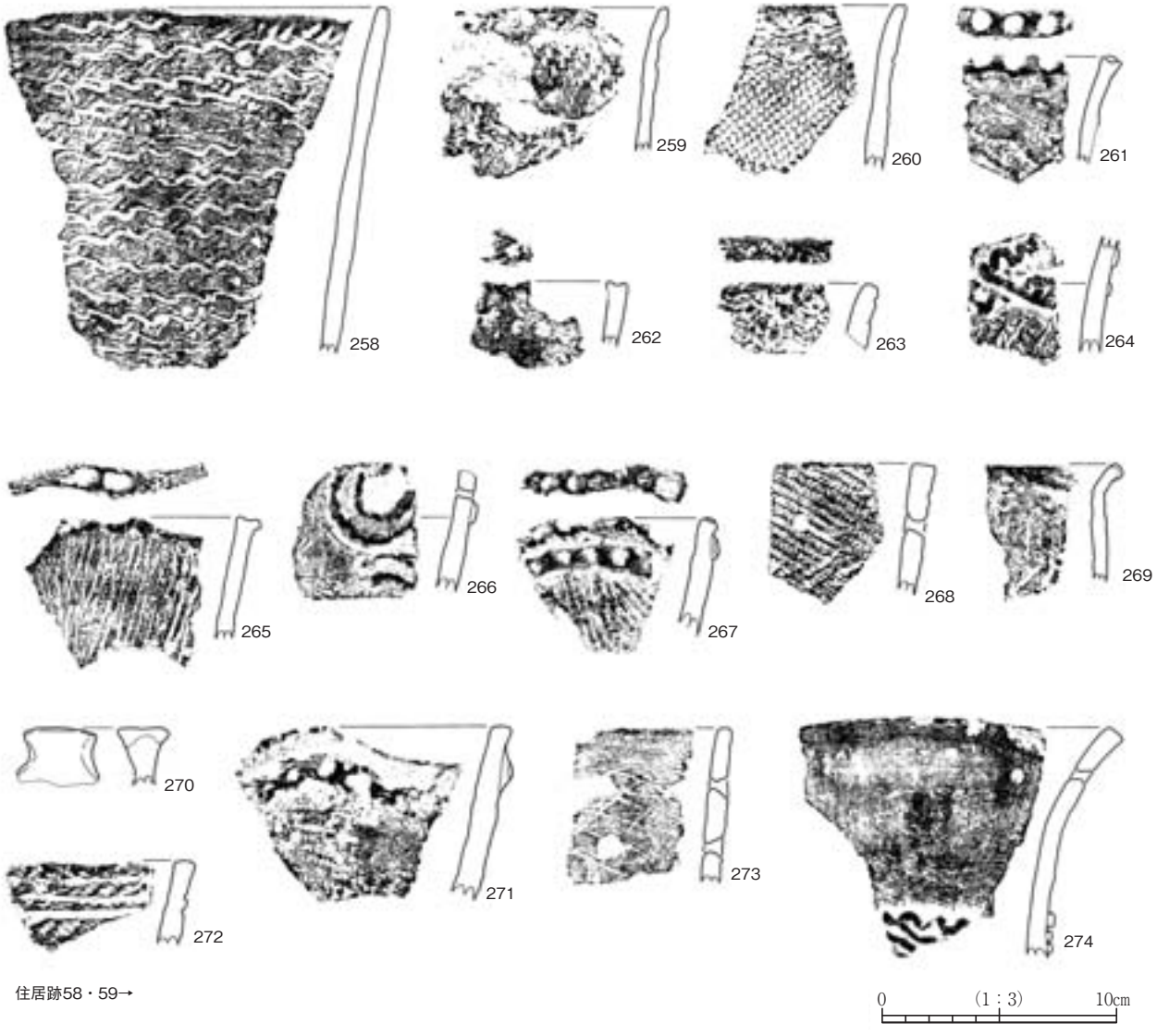
第 160 図　遺構内出土土器（11）



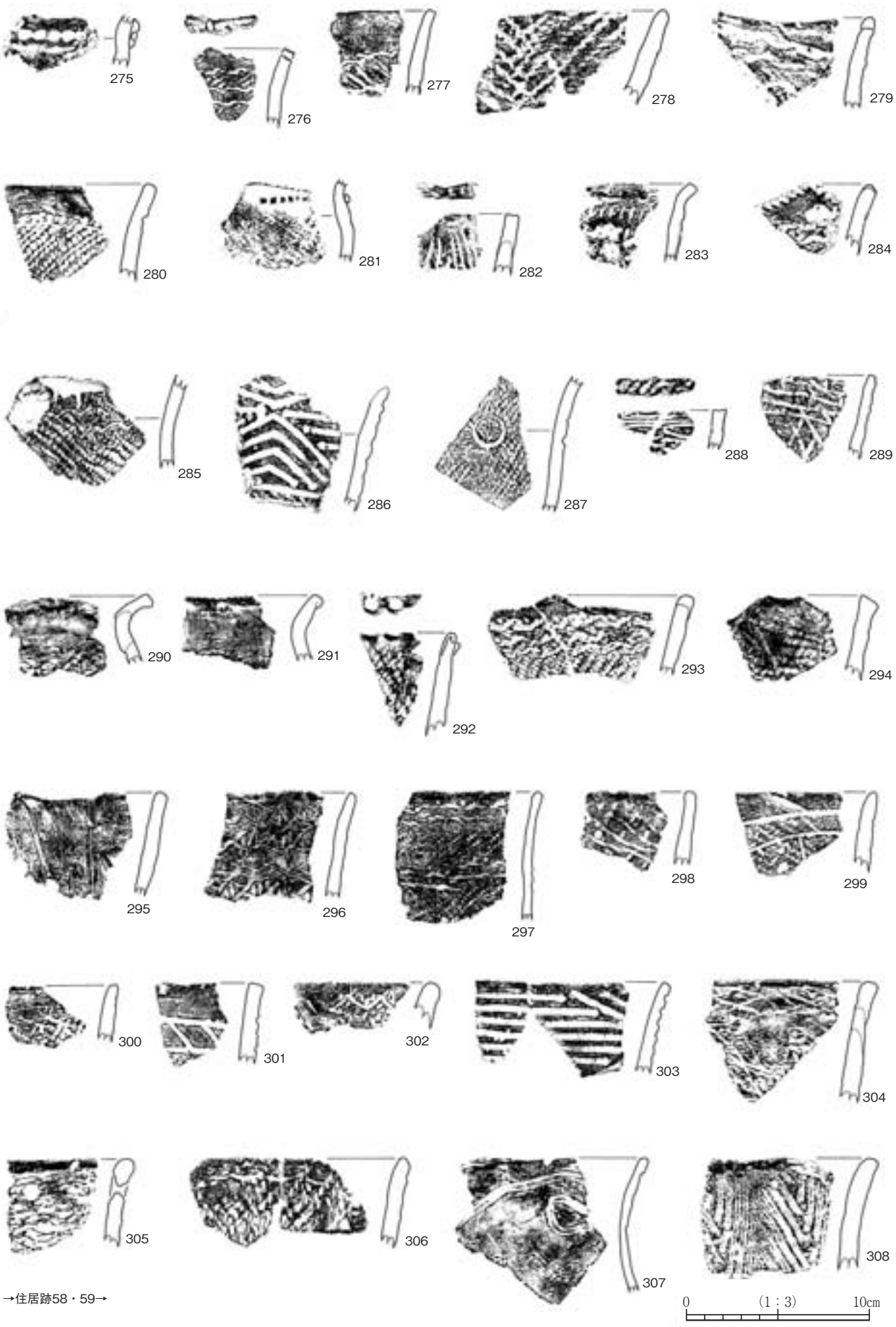
第 161 図　遺構内出土土器（12）

第 162 図　遺構内出土土器（13）





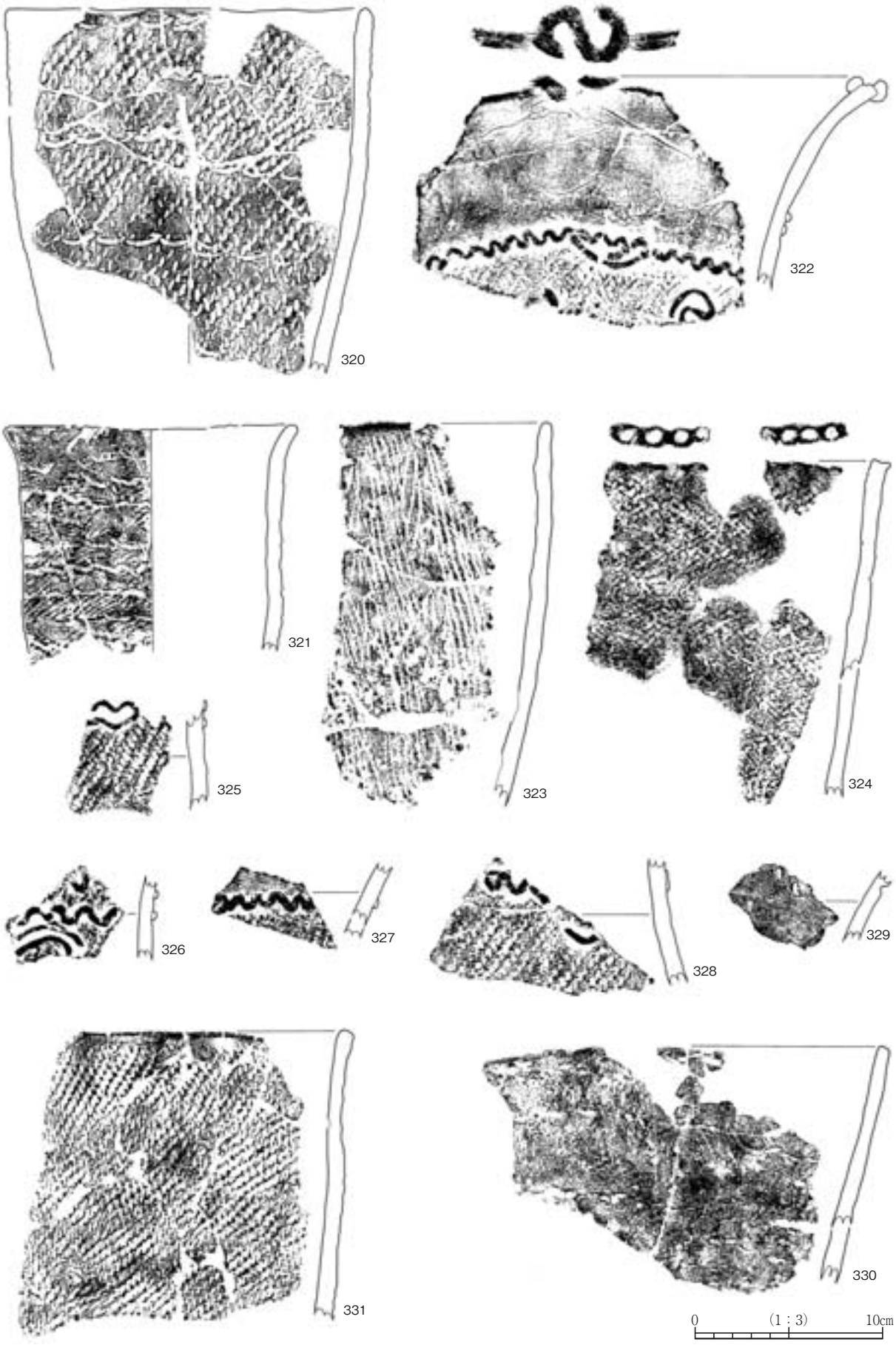
第 163 図　遺構内出土土器（14）



第 164 図　遺構内出土土器（15）

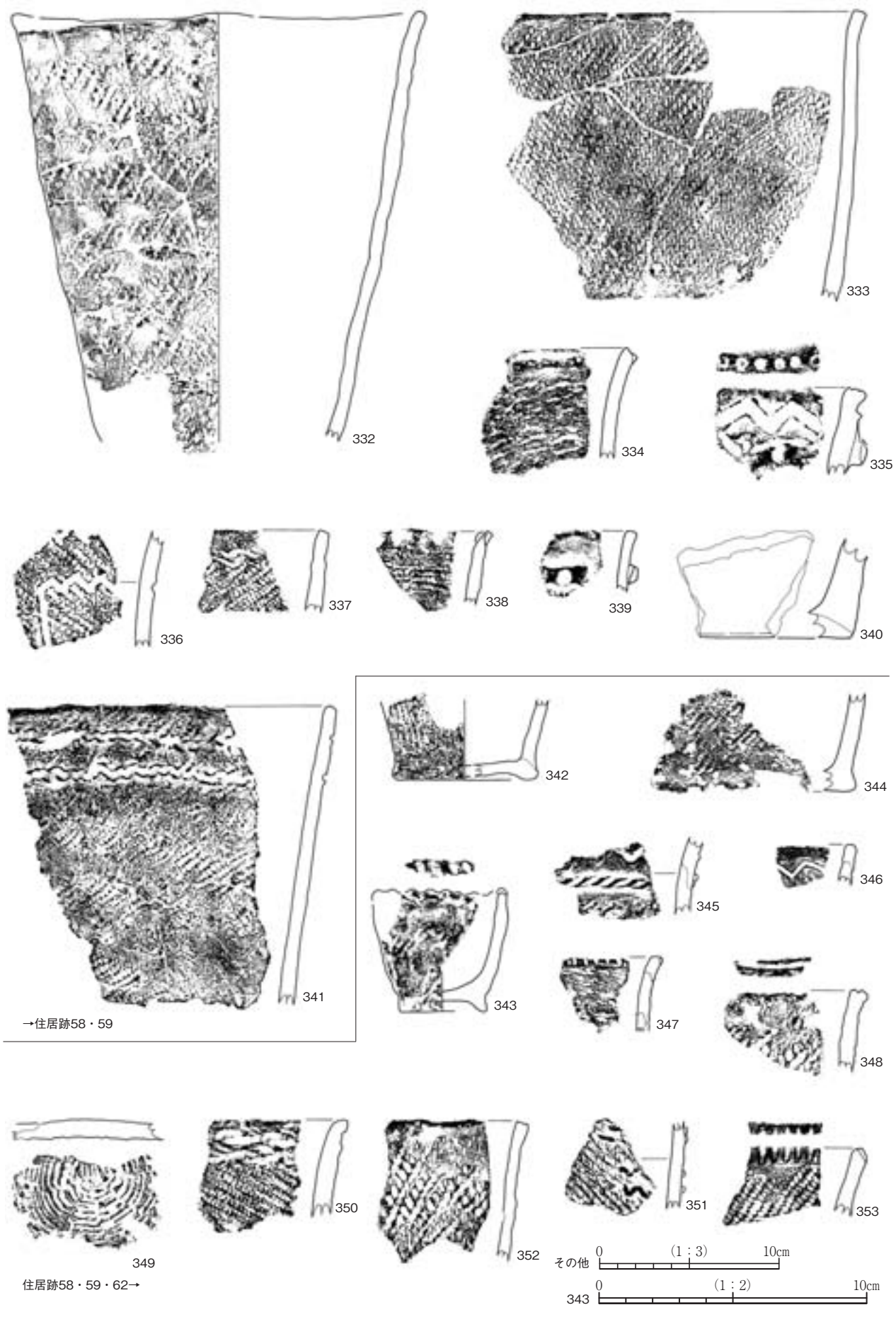
→住居跡58・59→

第 165 図　遺構内出土土器（16）



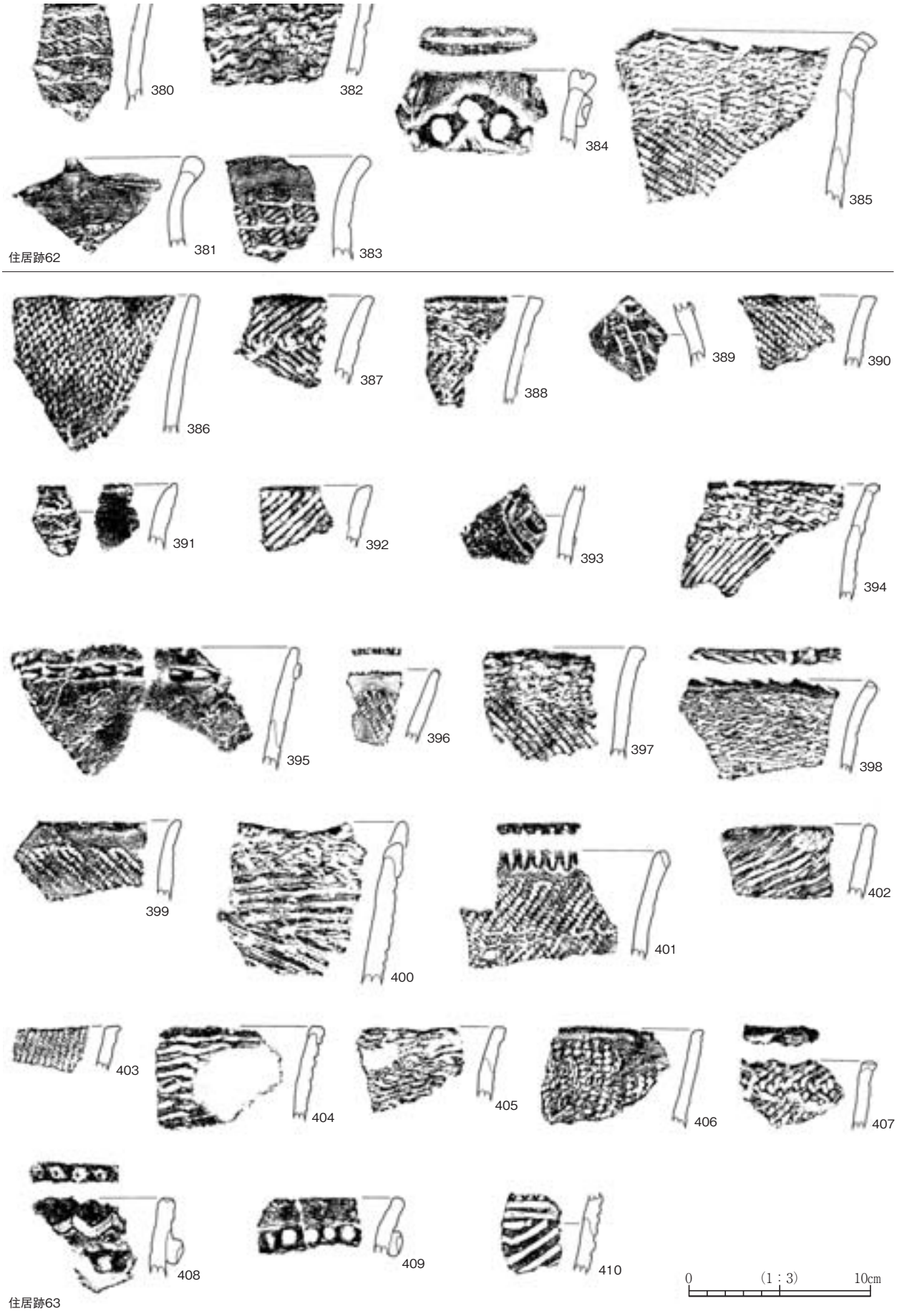
→住居跡58・59→

第 166 図　遺構内出土土器（17）

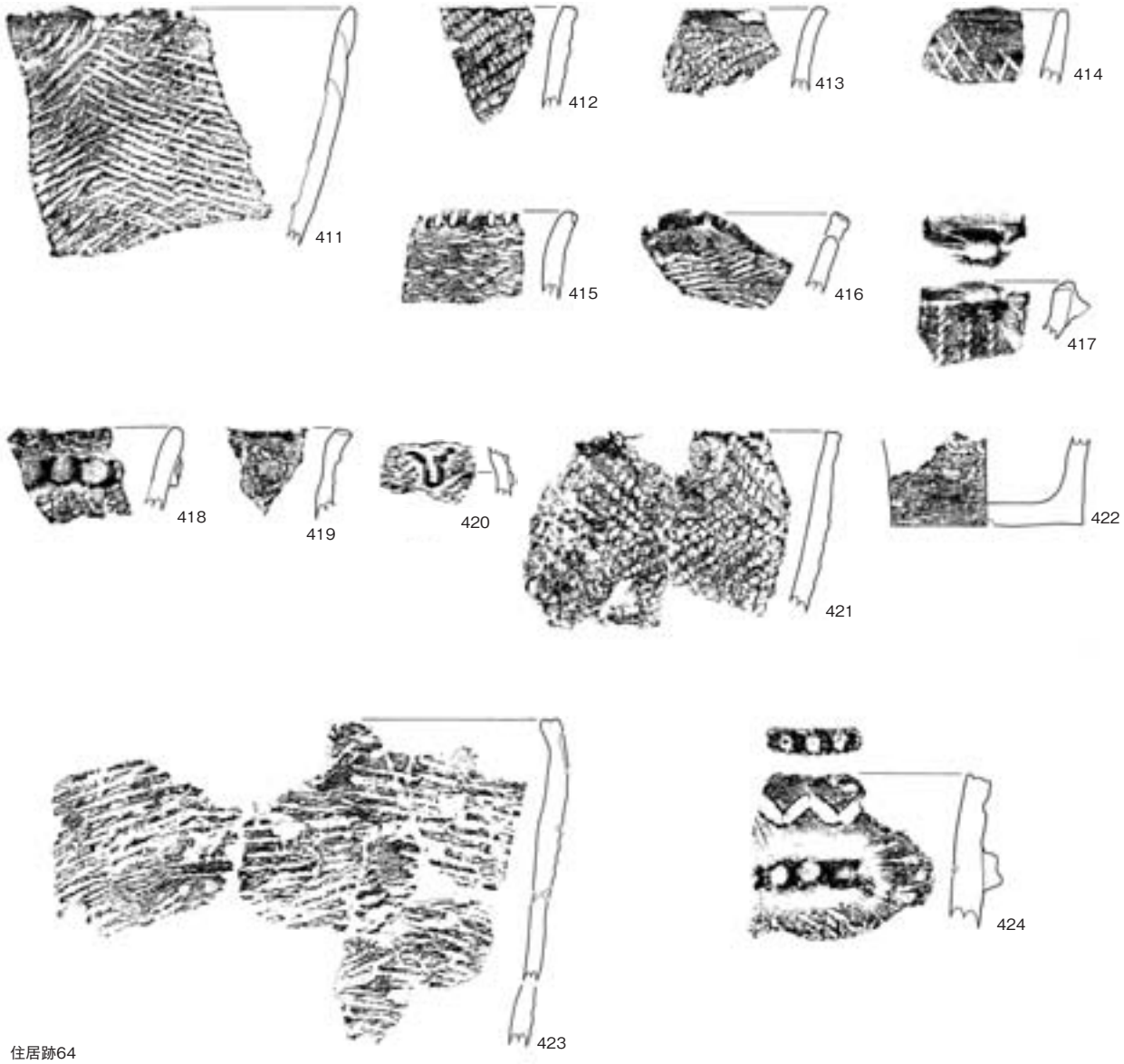


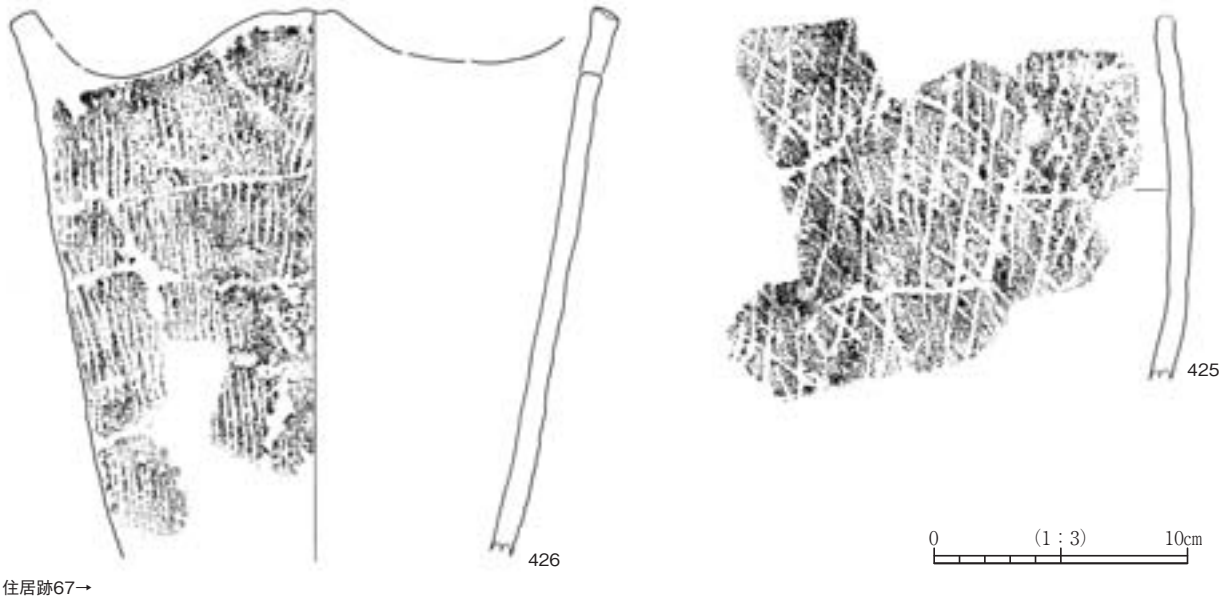
第 167 図　遺構内出土土器（18）

第 168 図　遺構内出土土器（19）

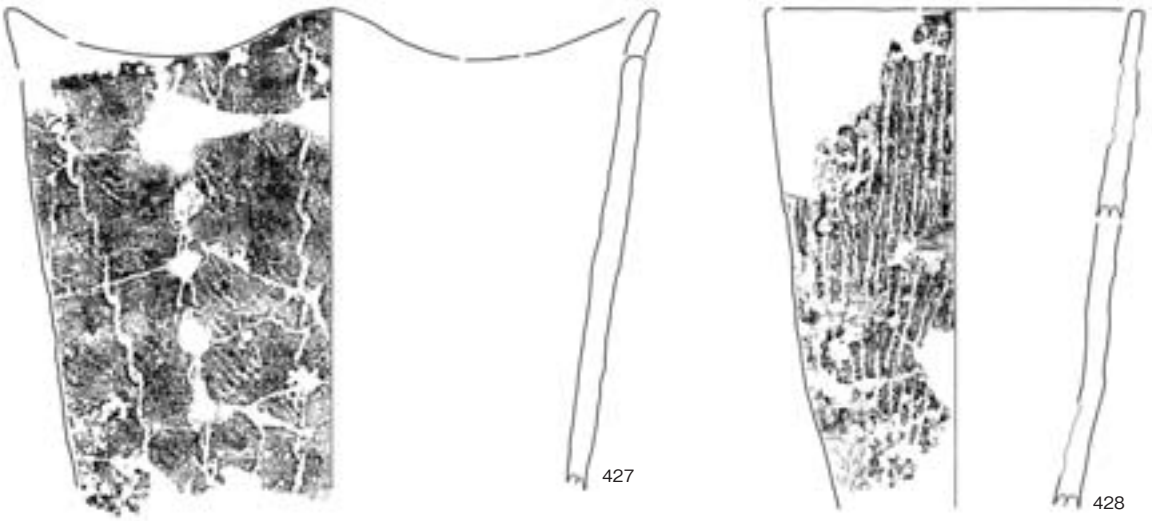


第 169 図　遺構内出土土器（20）

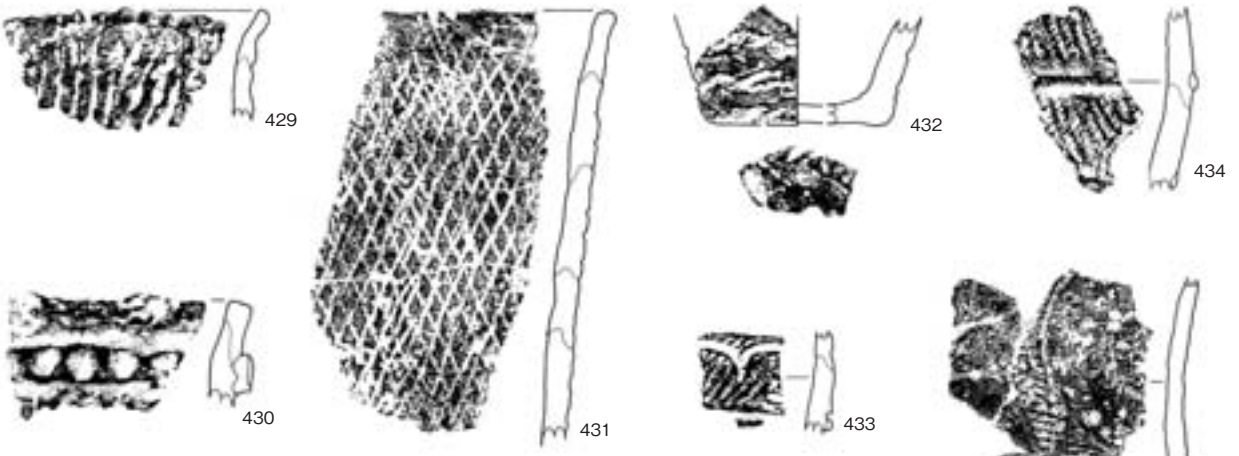


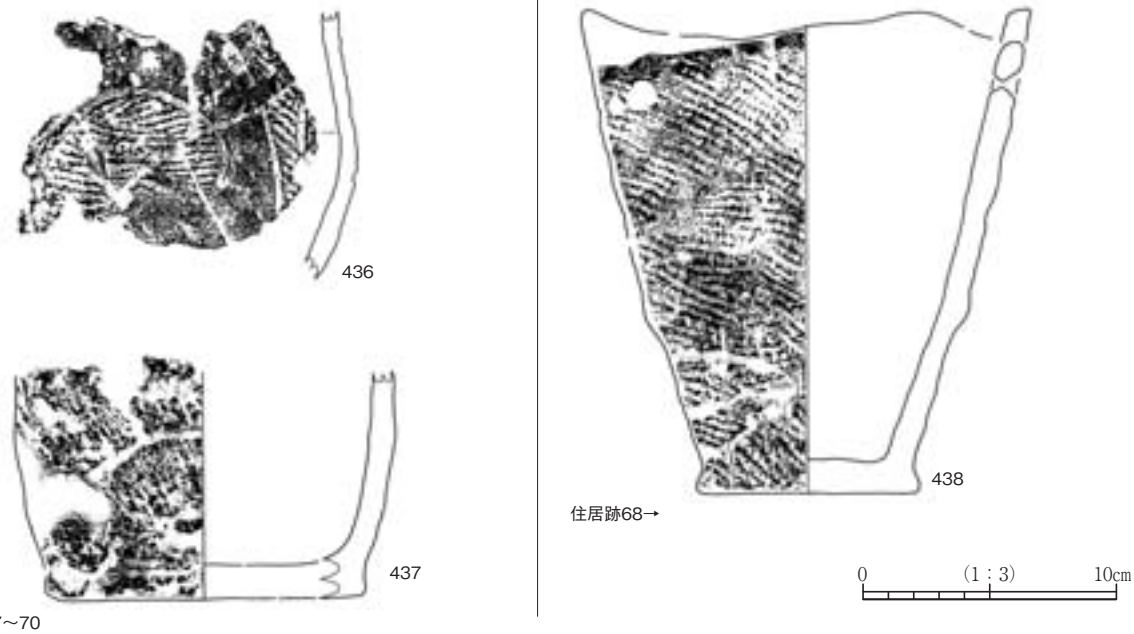


第 170 図　遺構内出土土器（21）



→住居跡67



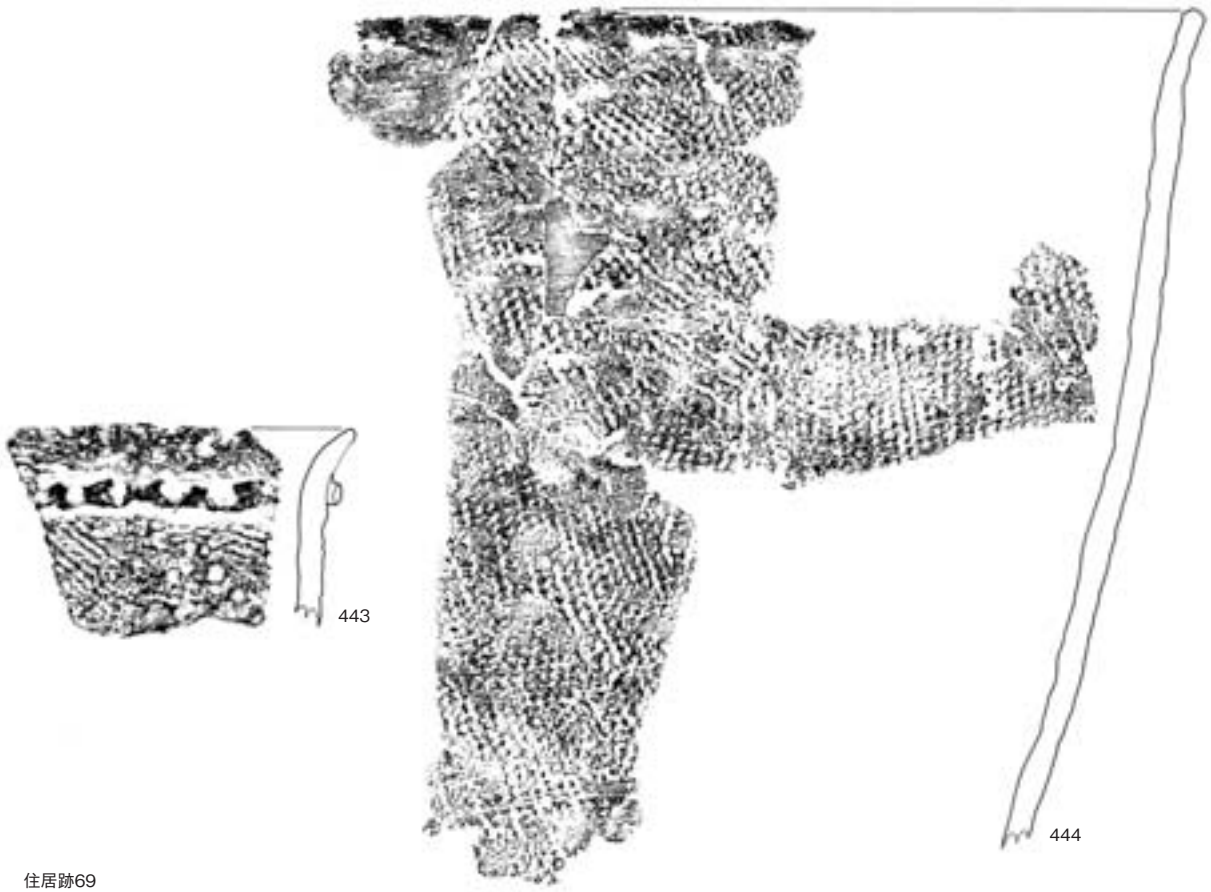


住居跡67～70

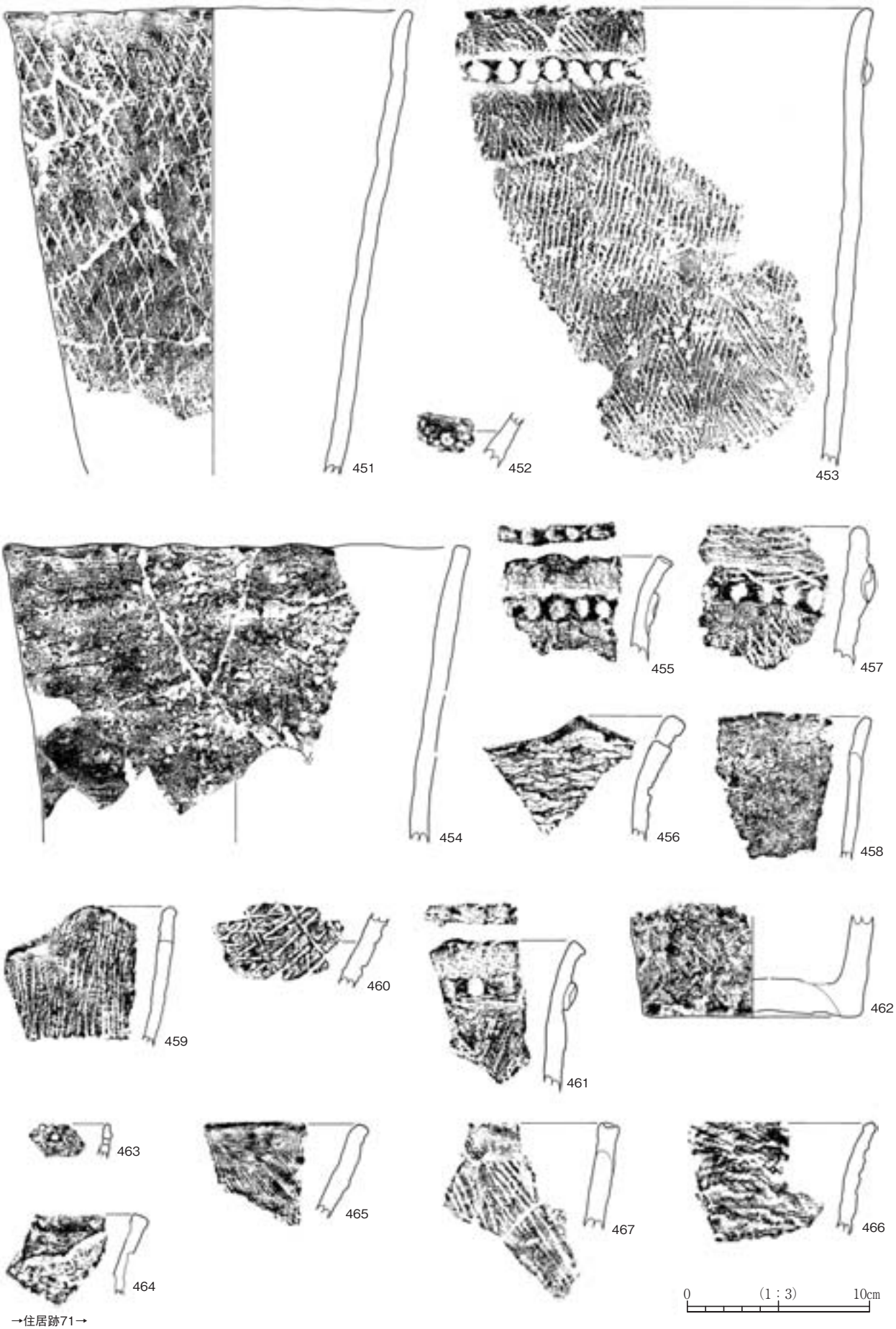
住居跡68→

第 171 図　遺構内出土土器（22）

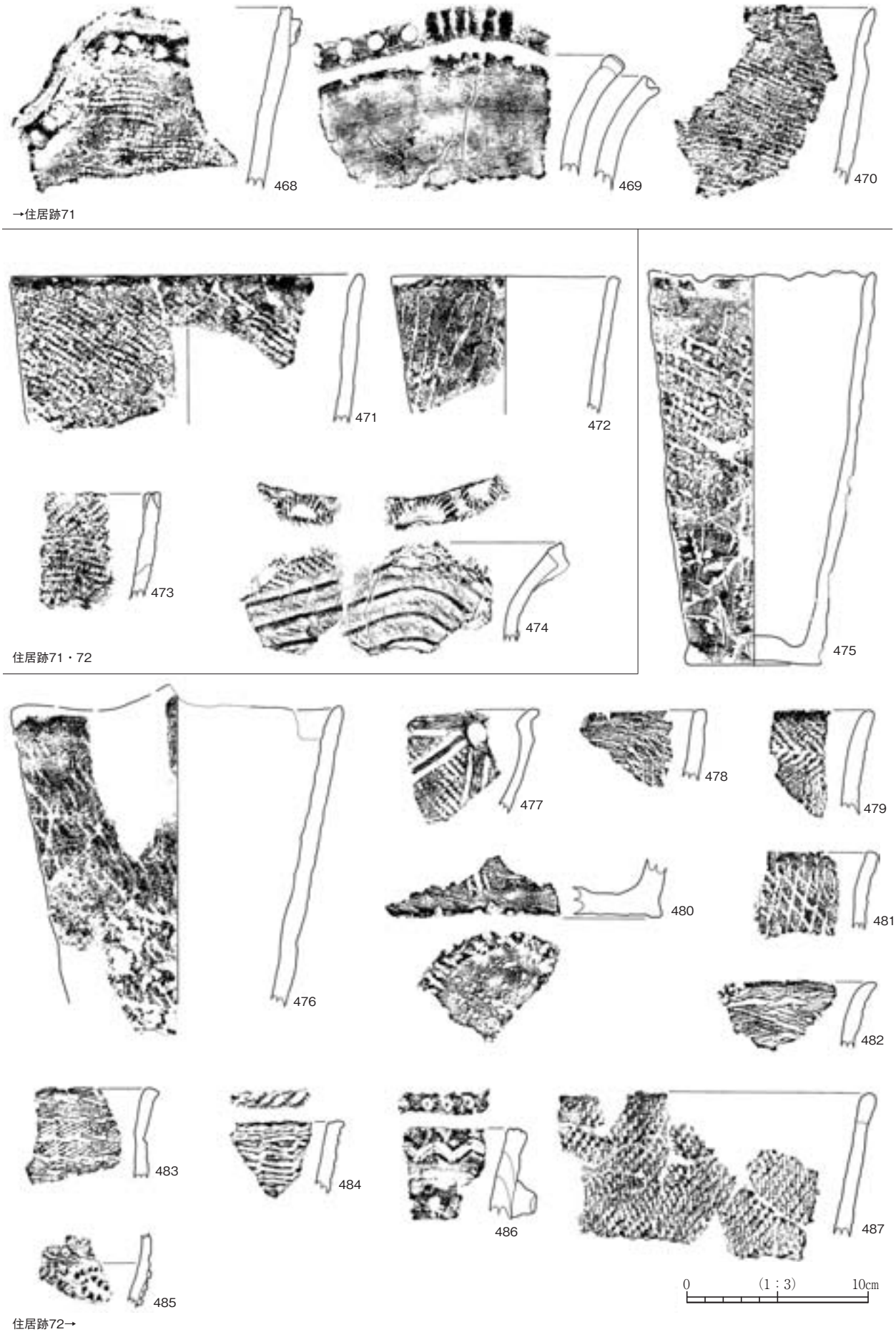
第 172 図　遺構内出土土器（23）



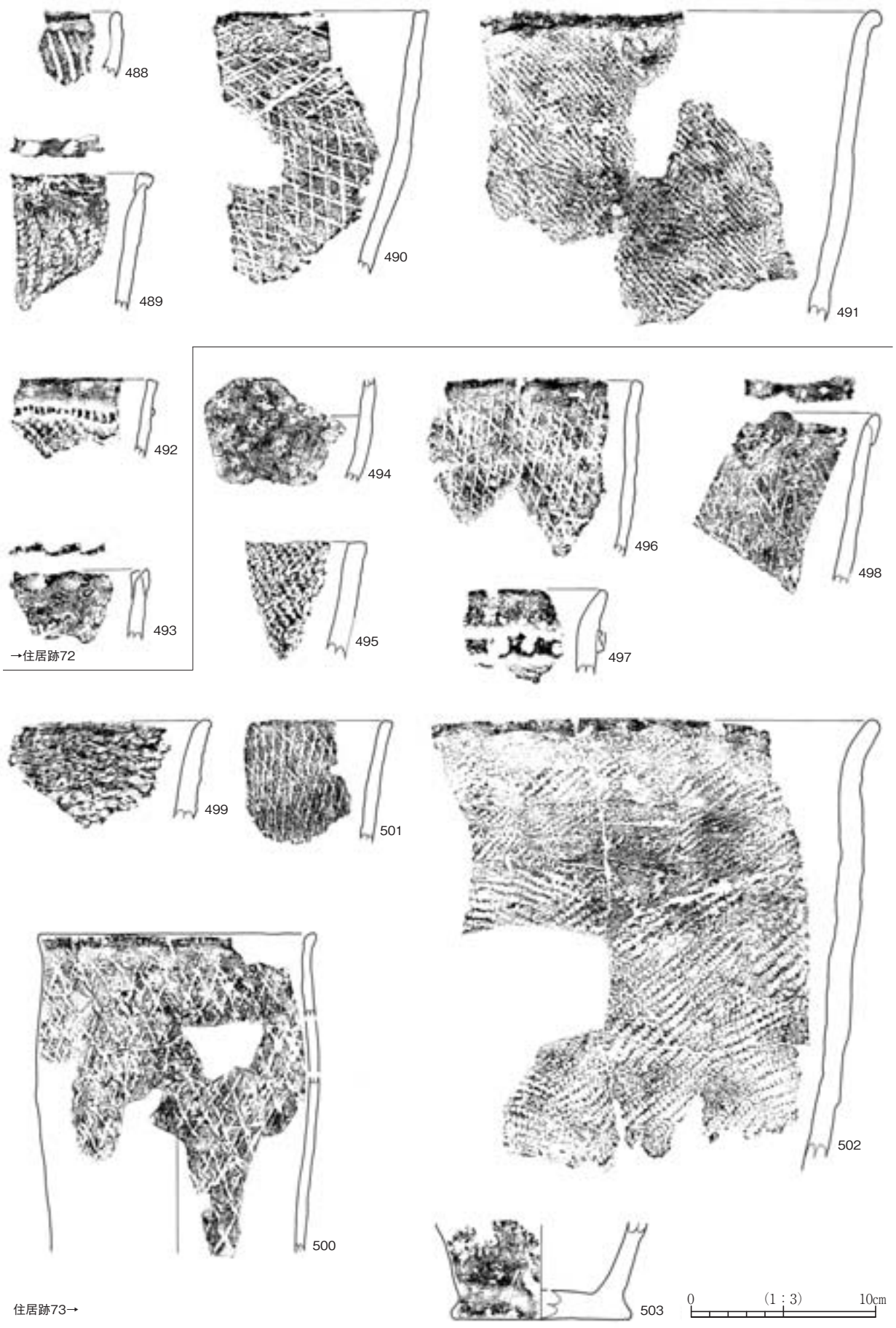
第 173 図　遺構内出土土器（24）



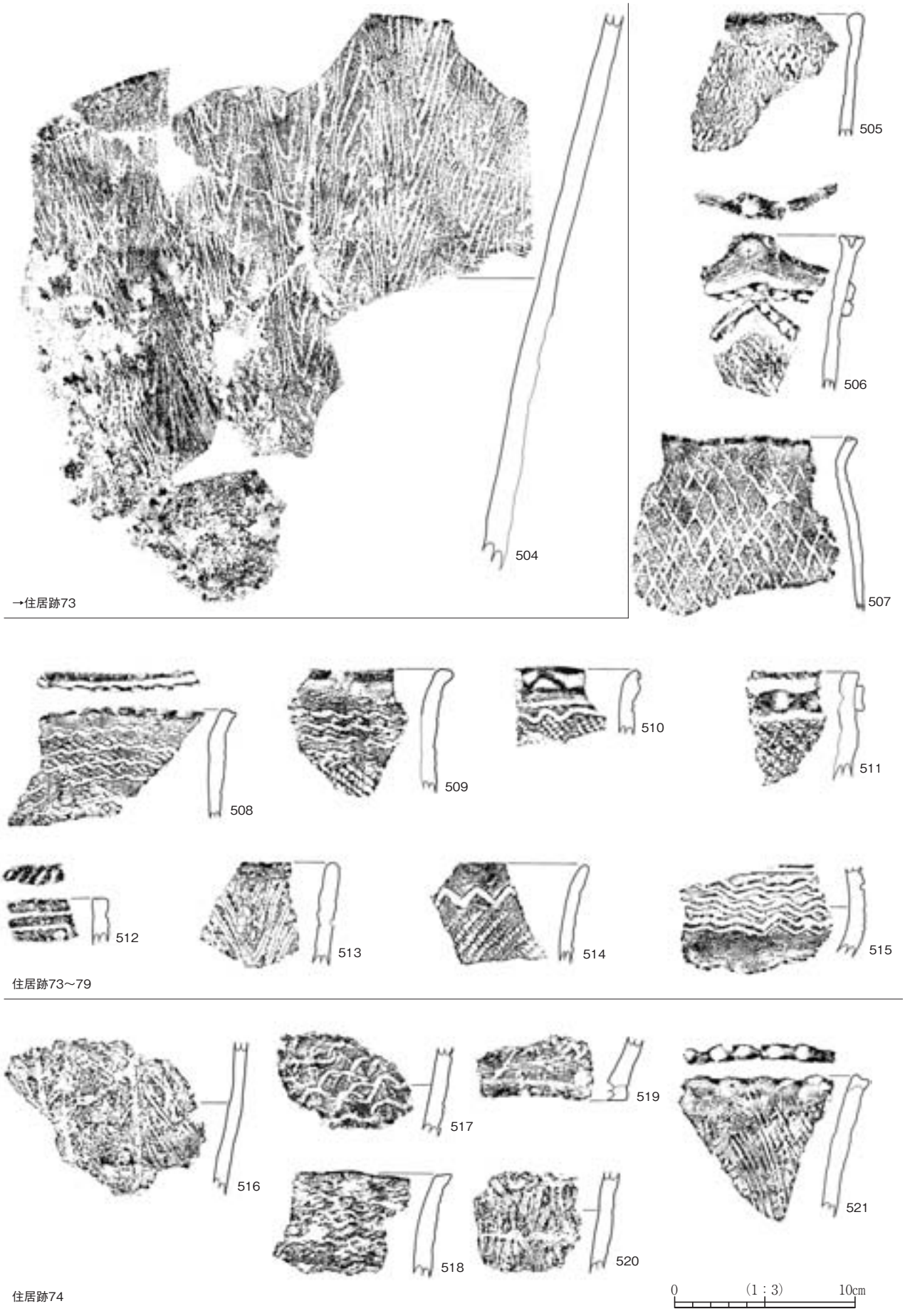
第 174 図　遺構内出土土器（25）



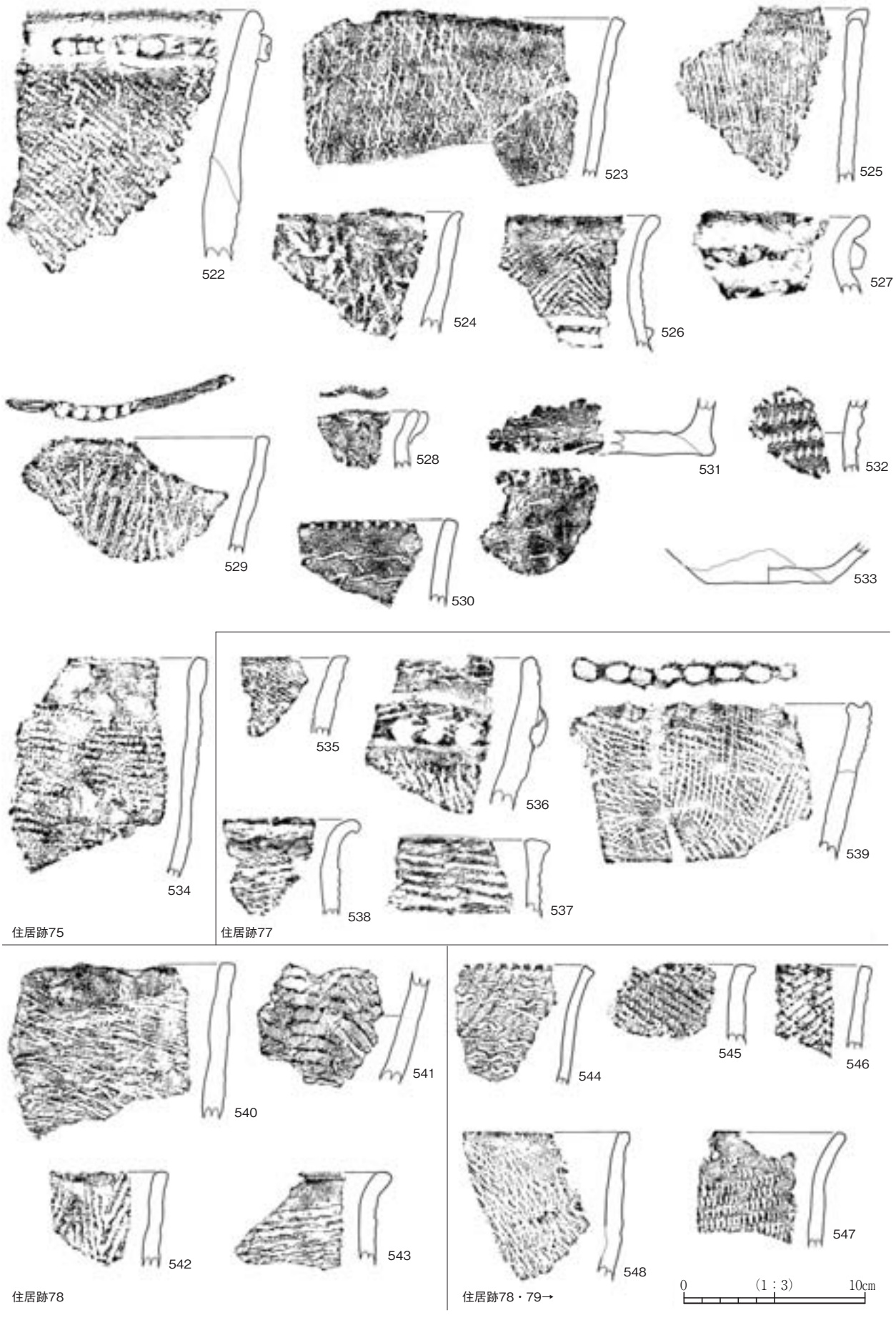
第 175 図　遺構内出土土器（26）



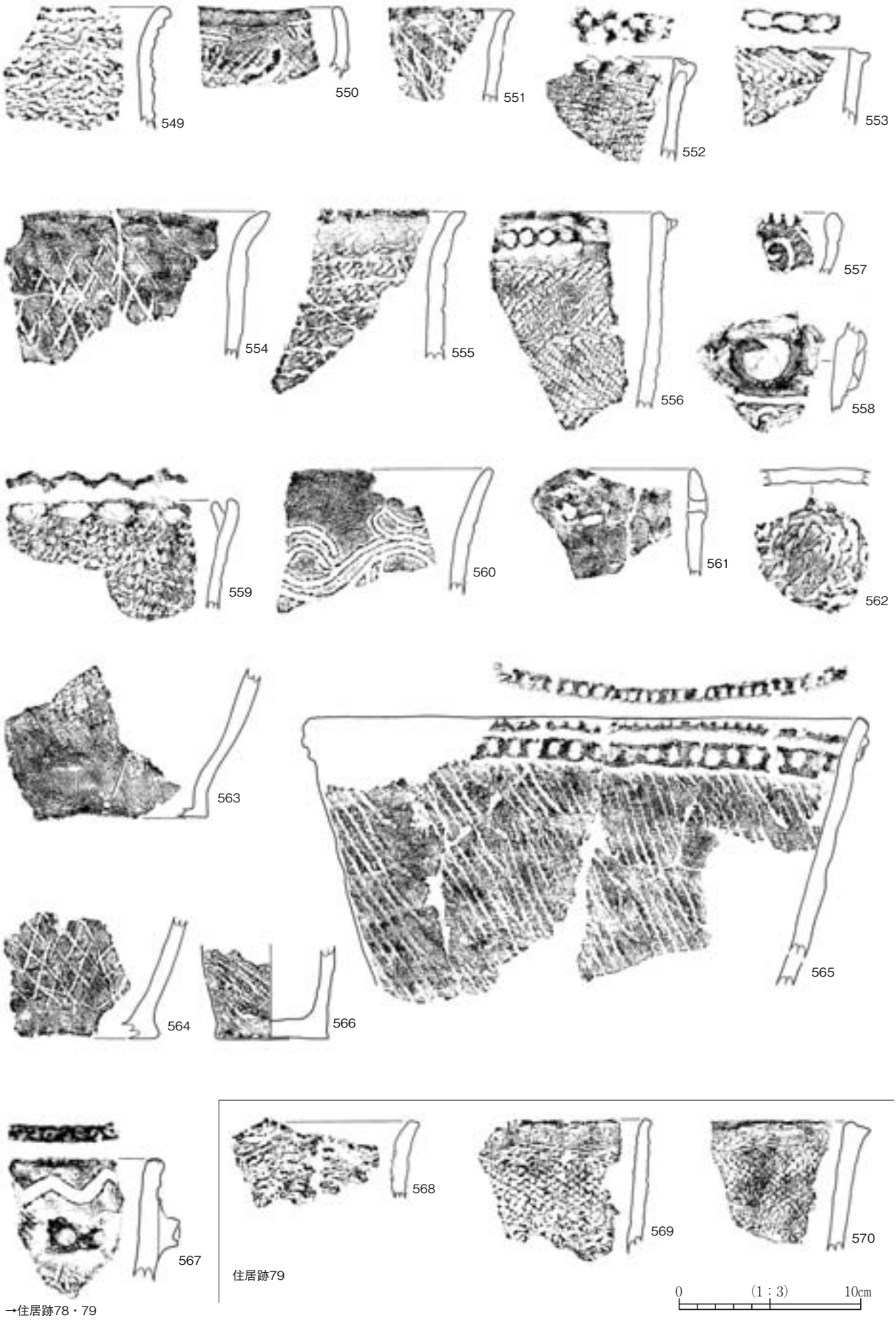
第 176 図　遺構内出土土器（27）



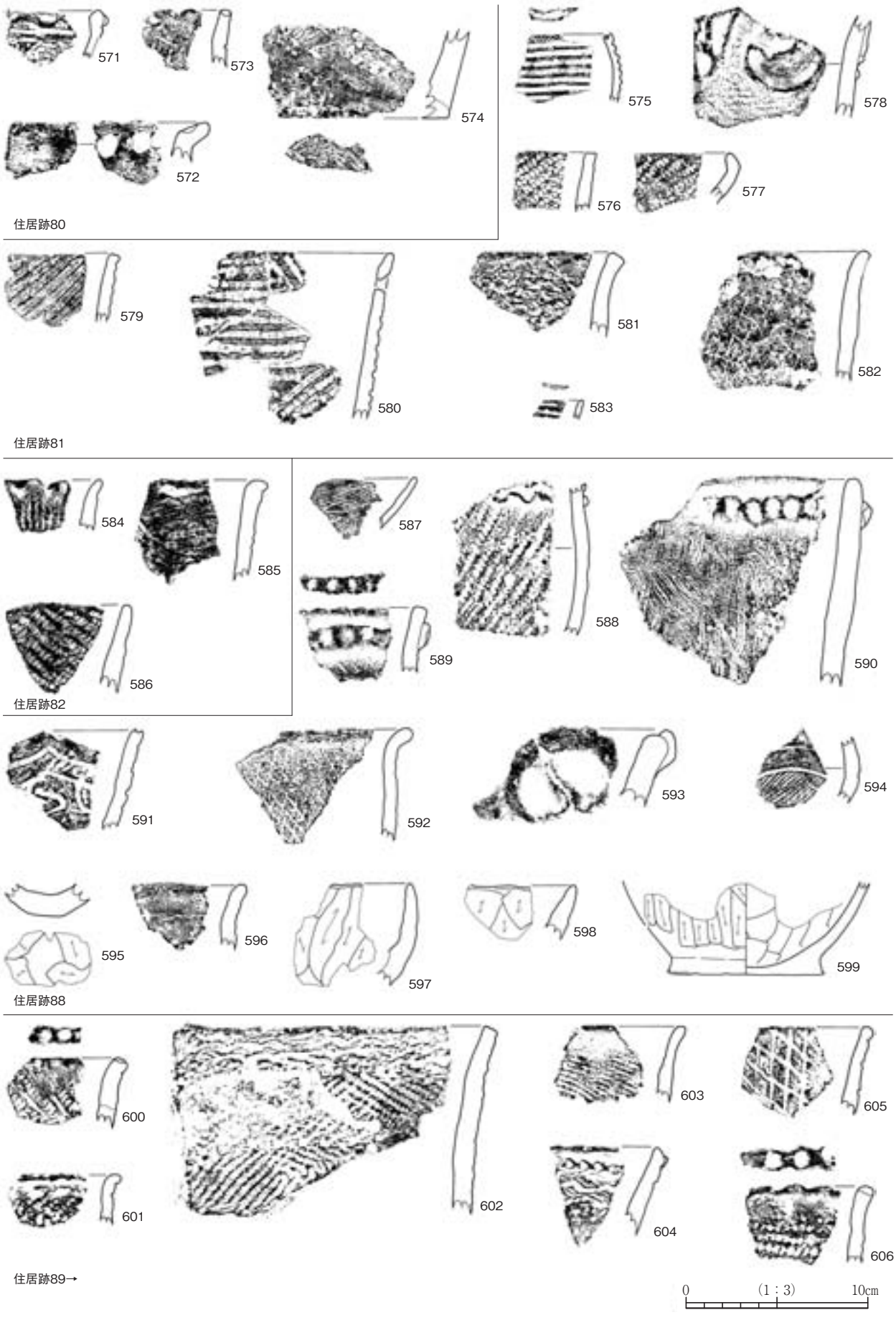
第 177 図　遺構内出土土器（28）



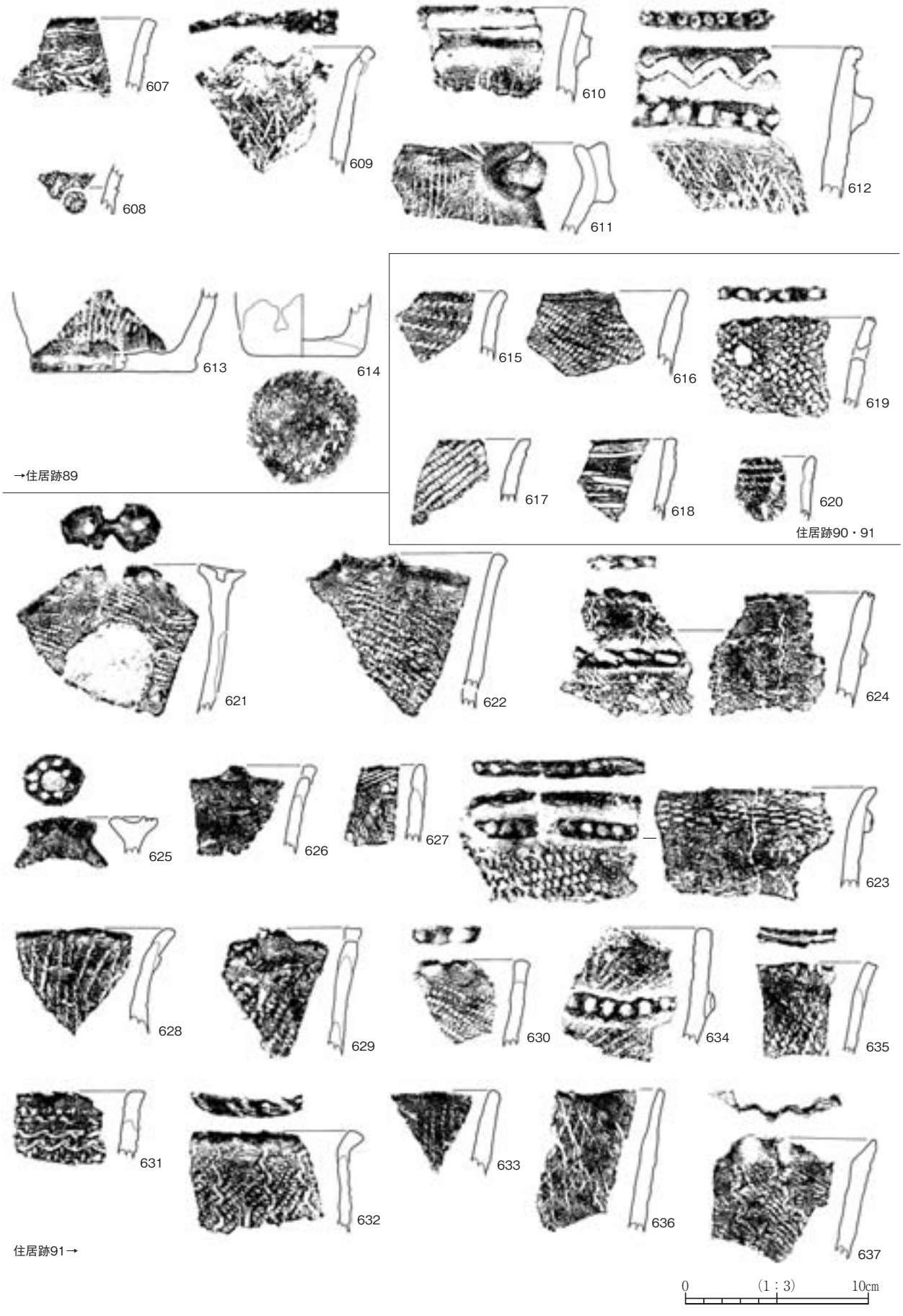
第 178 図　遺構内出土土器（29）



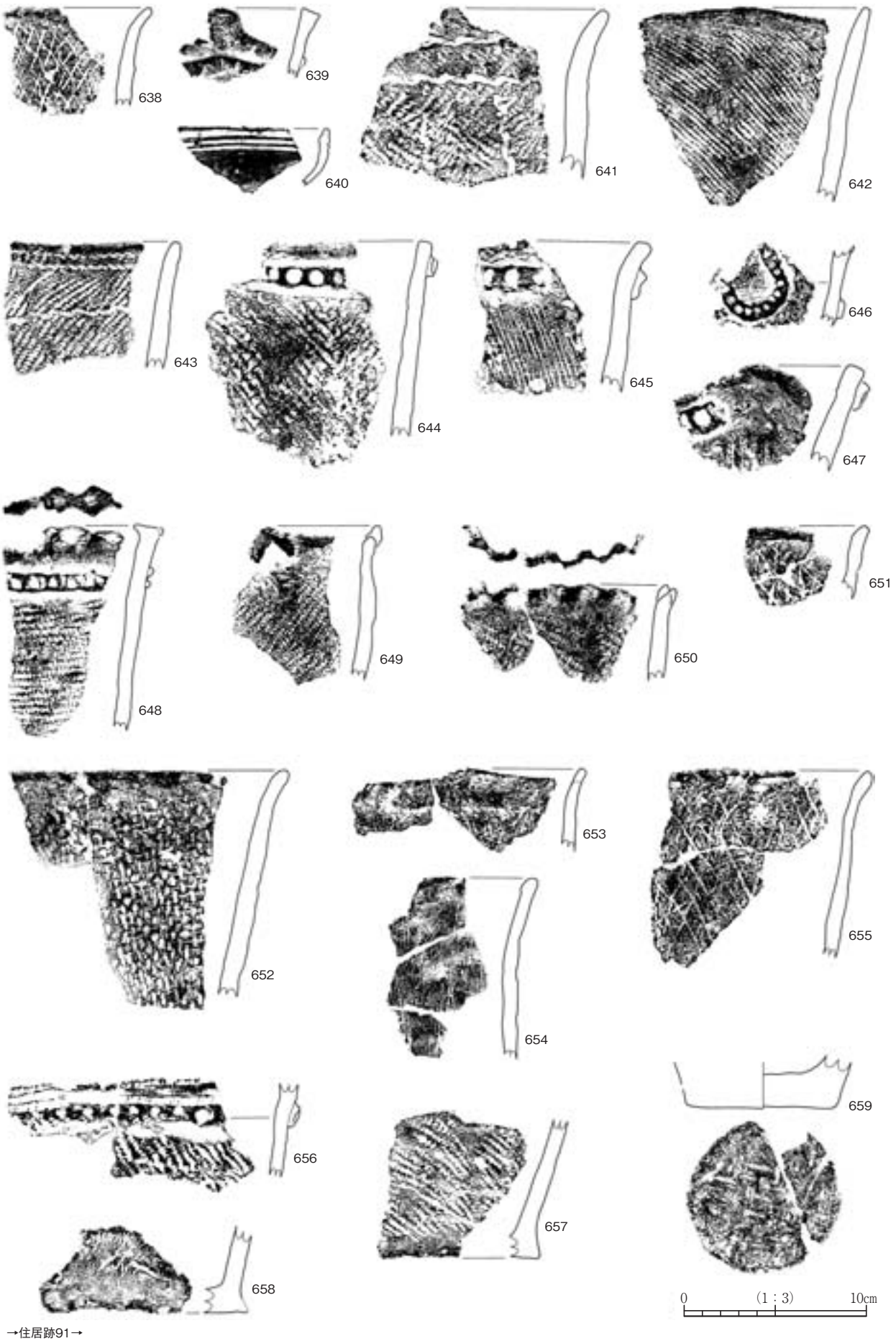
第 179 図　遺構内出土土器（30）



第 180 図　遺構内出土土器（31）

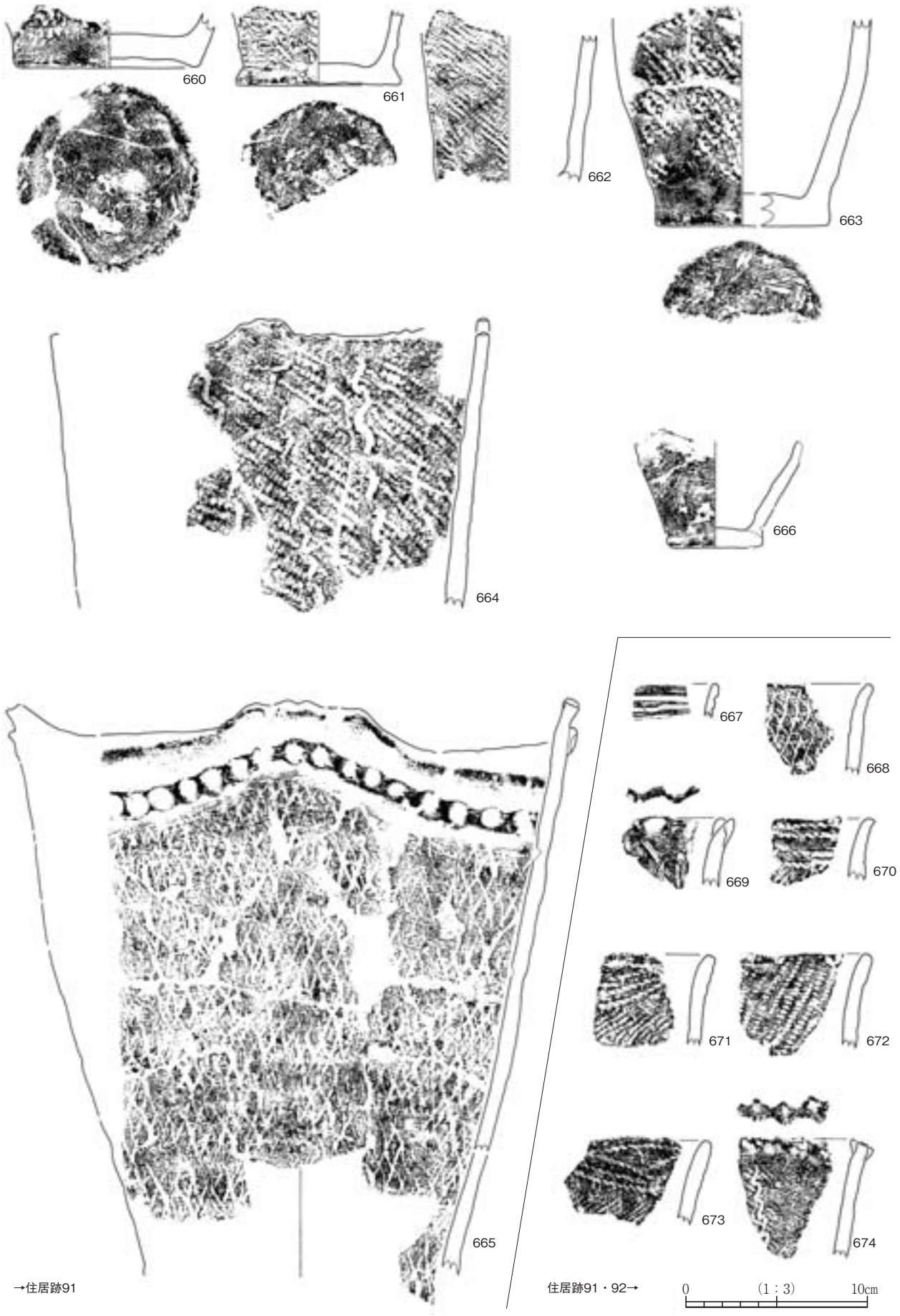


第 181 図　遺構内出土土器（32）

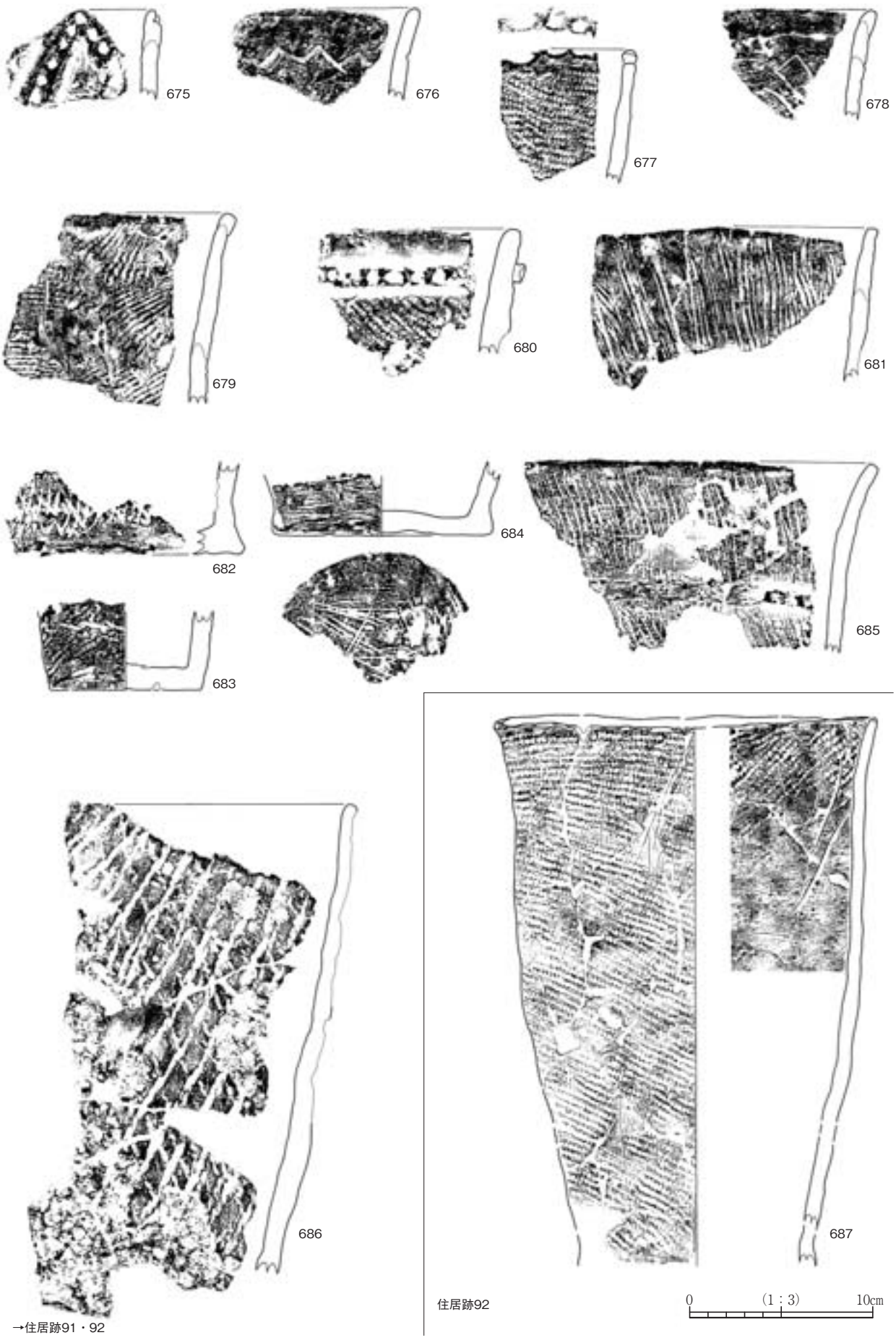


→住居跡91→

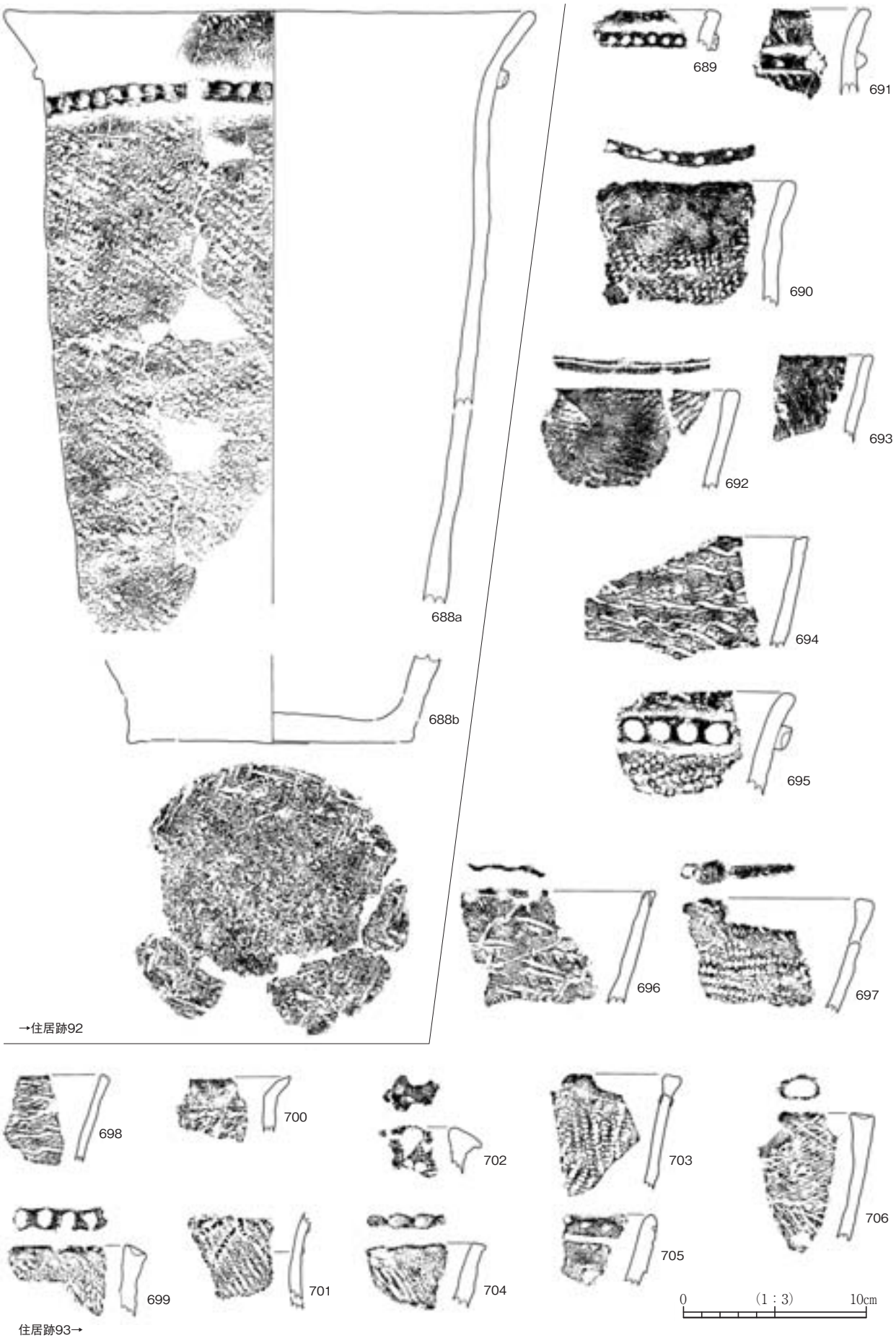
第 182 図　遺構内出土土器（33）



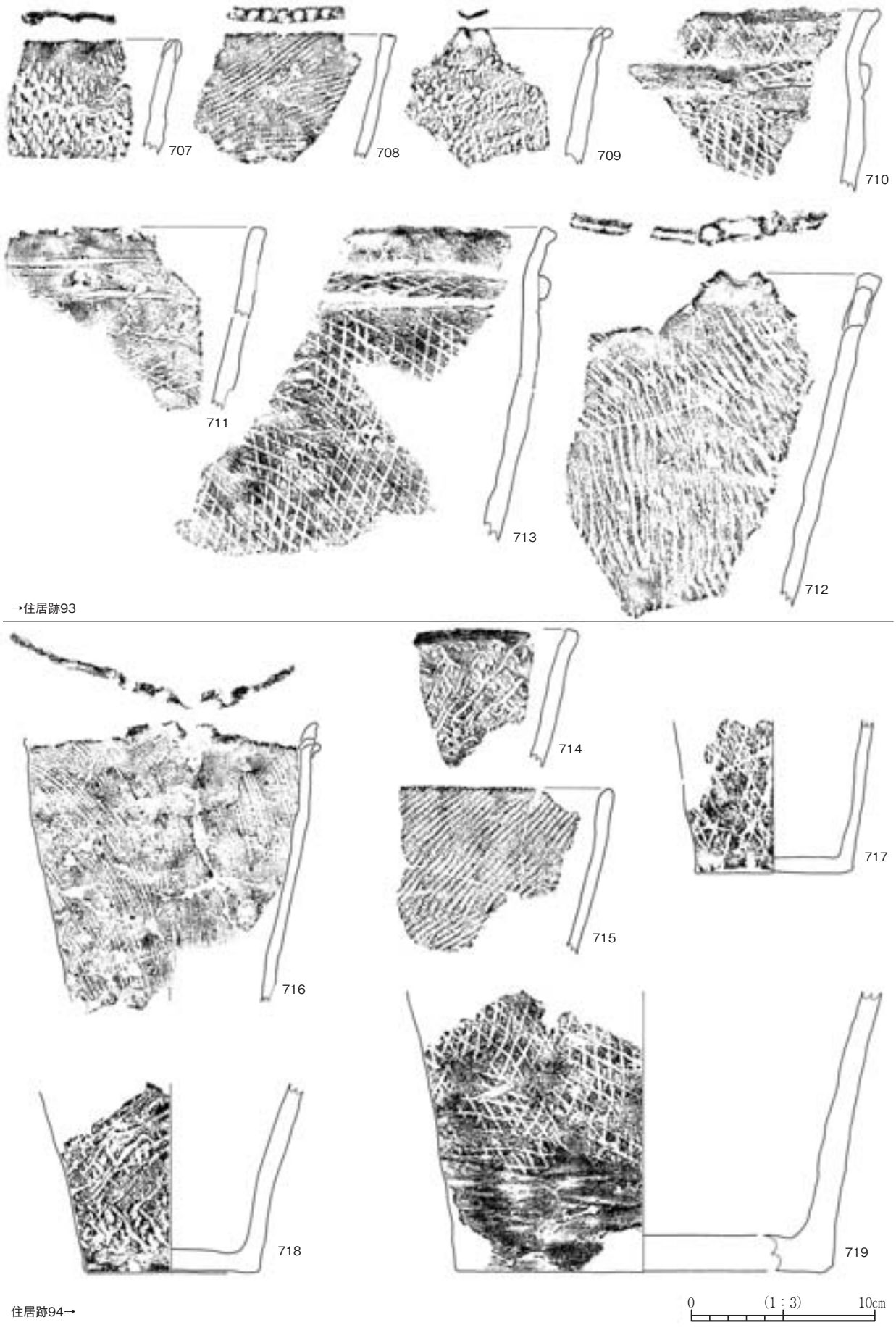
第 183 図　遺構内出土土器（34）



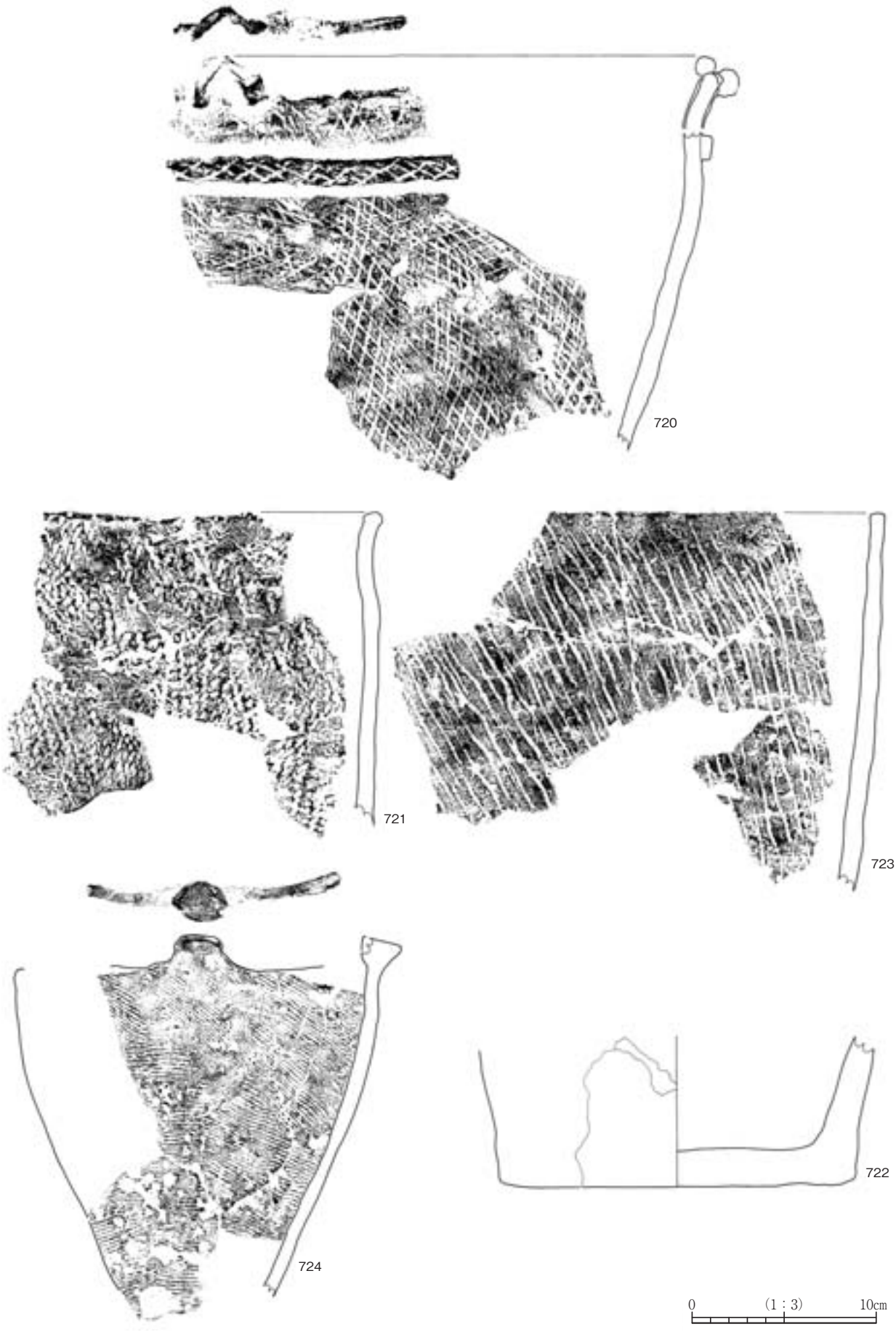
第 184 図　遺構内出土土器（35）



第 185 図　遺構内出土土器（36）

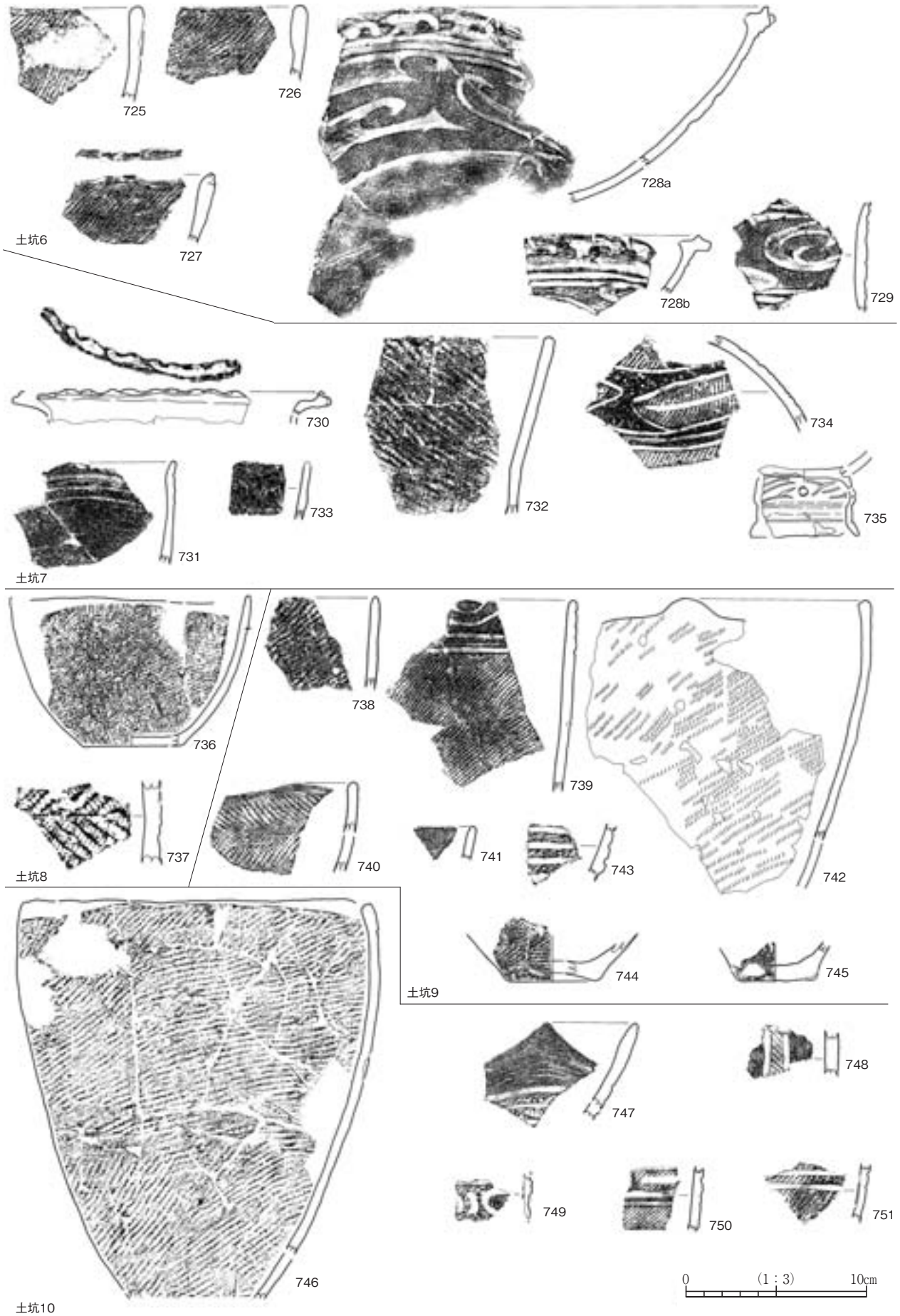


第 186 図　遺構内出土土器（37）

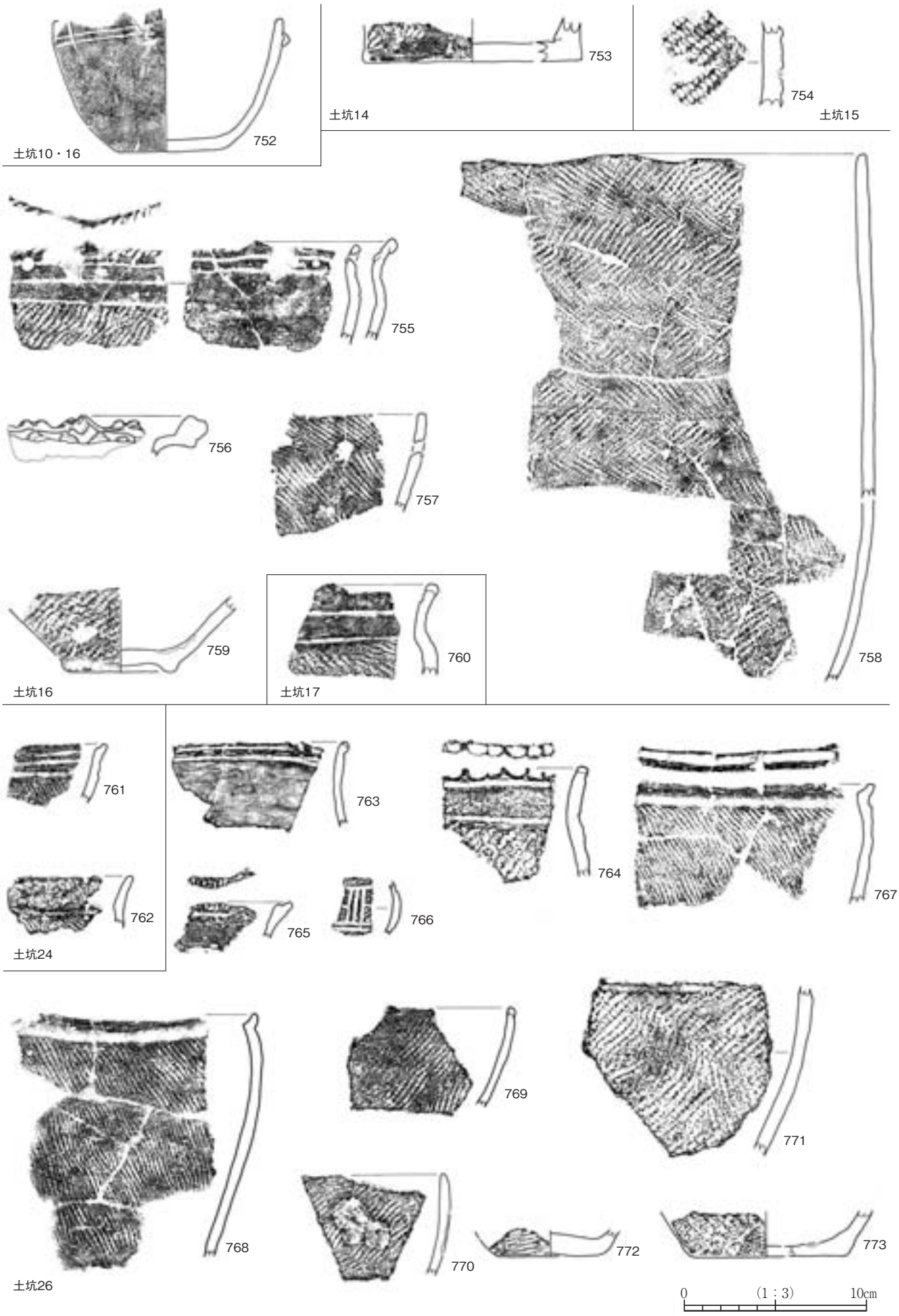


→住居跡94

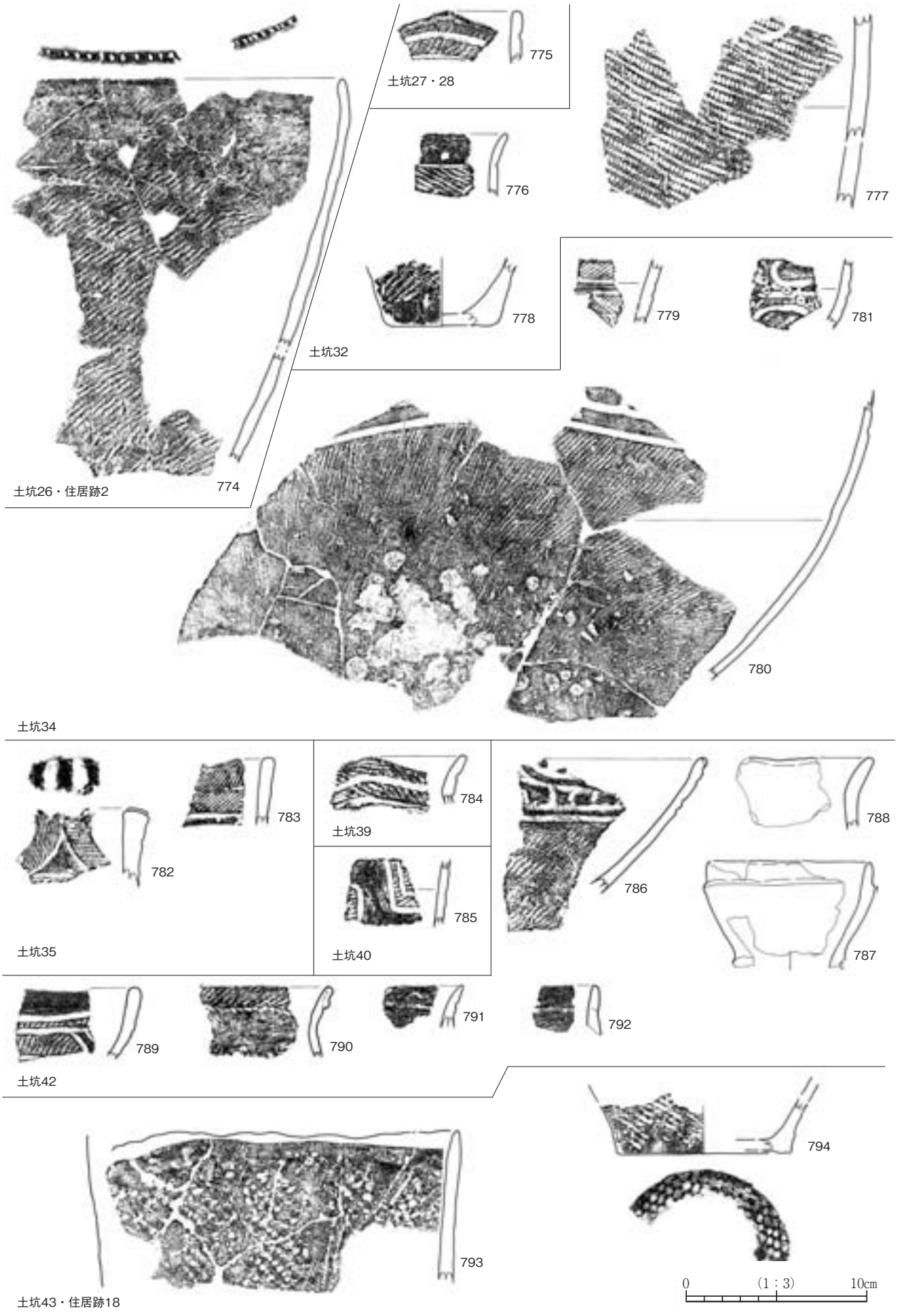
第 187 図　遺構内出土土器（38）



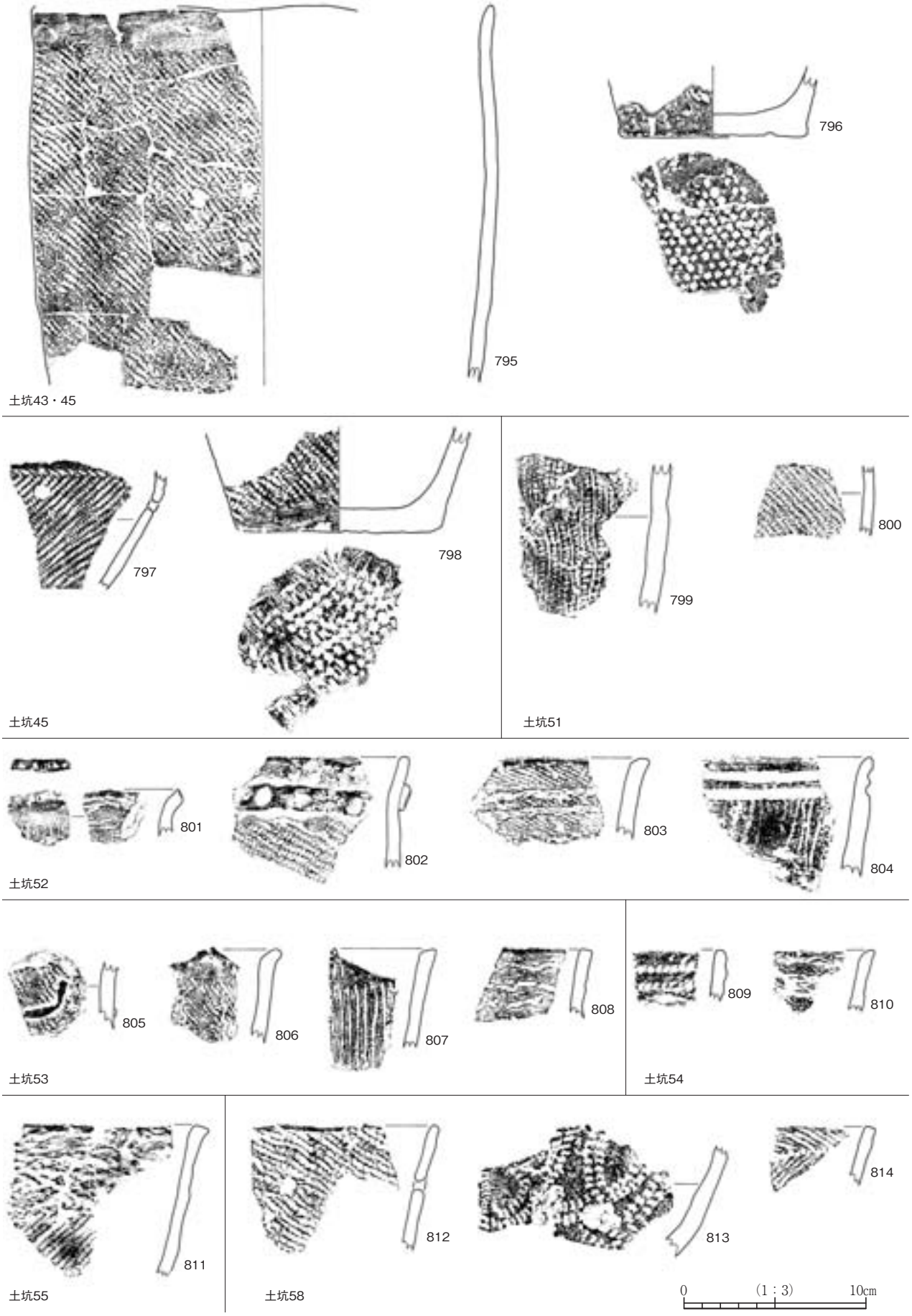
第 188 図　遺構内出土土器（39）



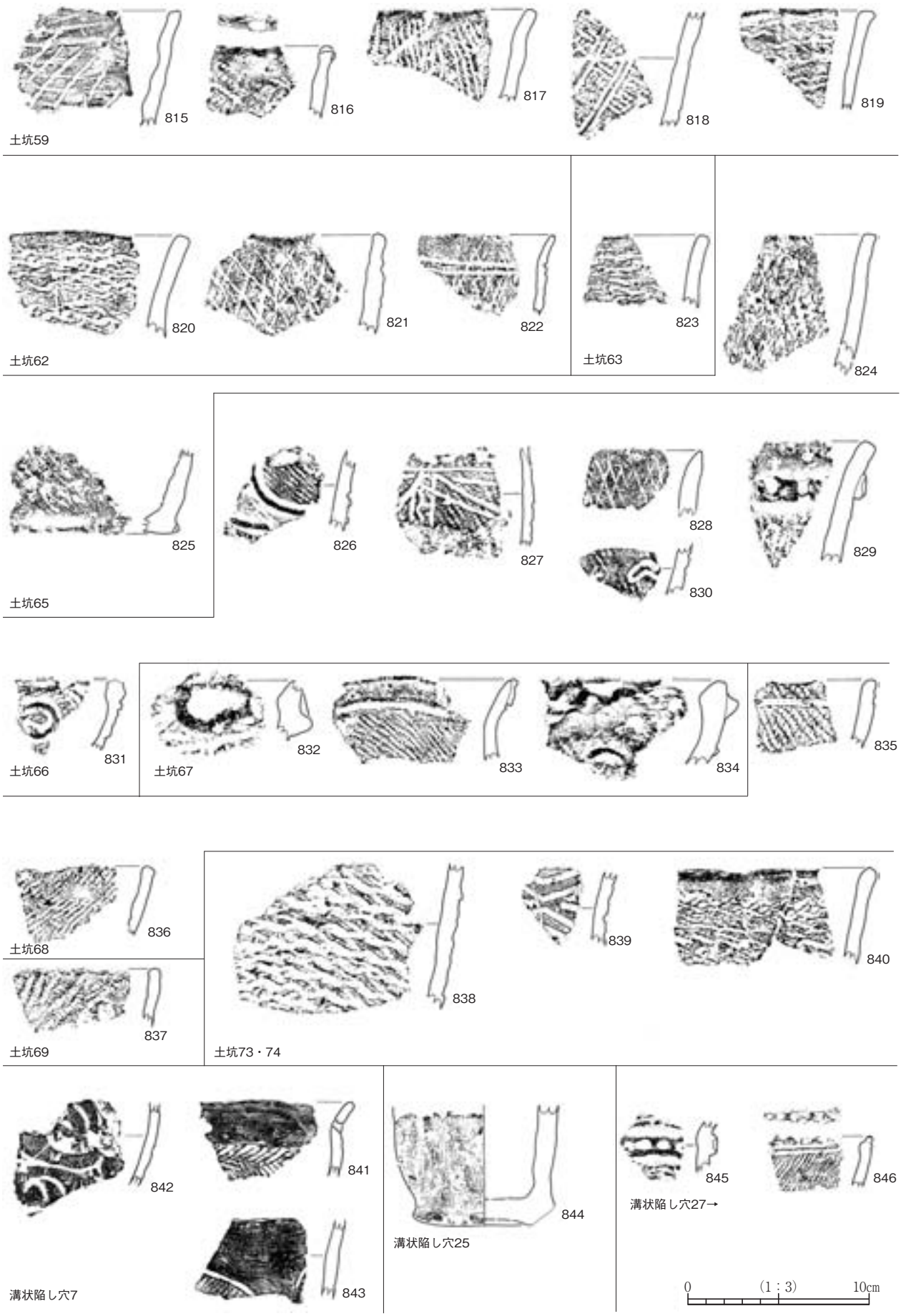
第 189 図　遺構内出土土器（40）



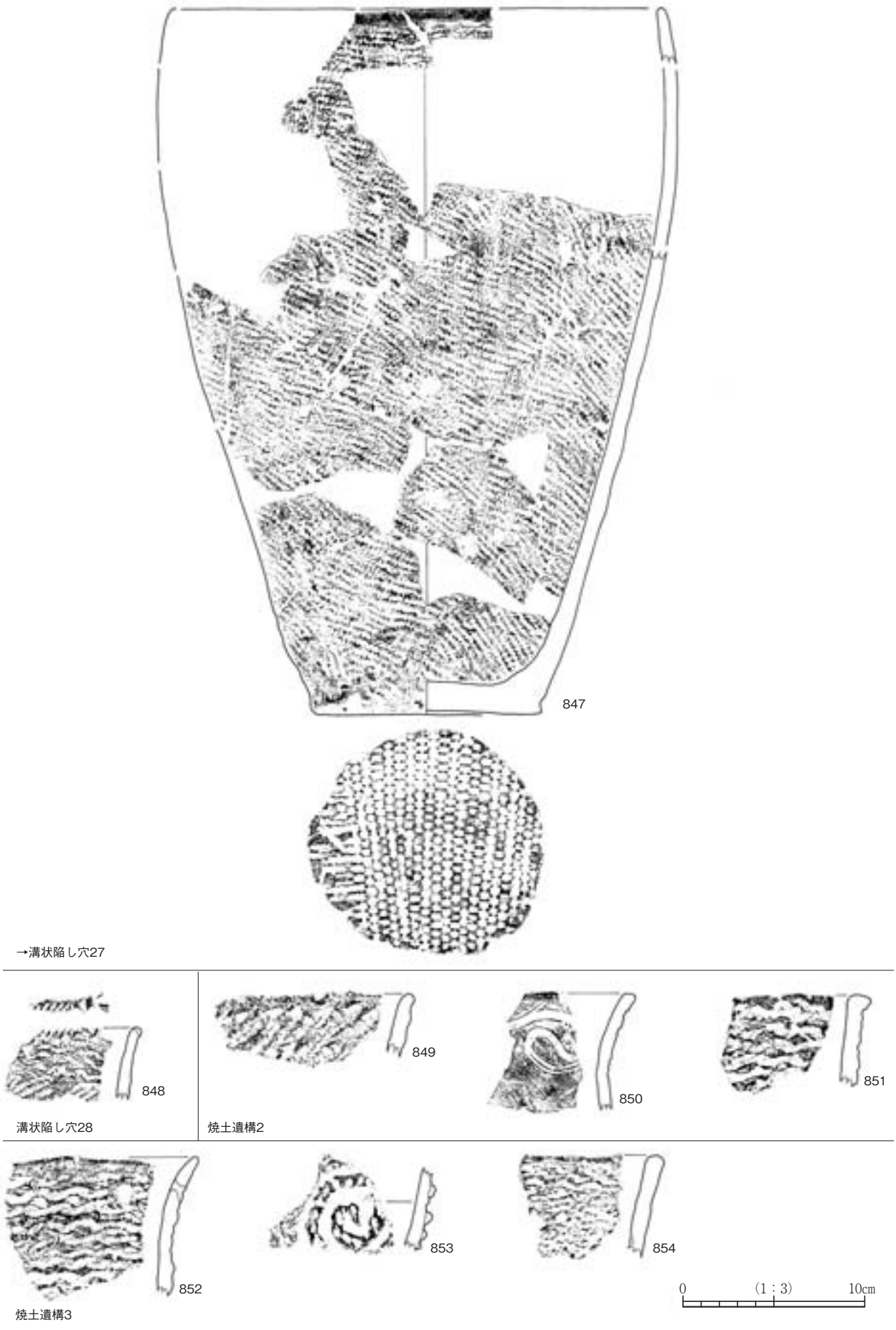
第 190 図　遺構内出土土器（41）



第 191 図　遺構内出土土器（42）

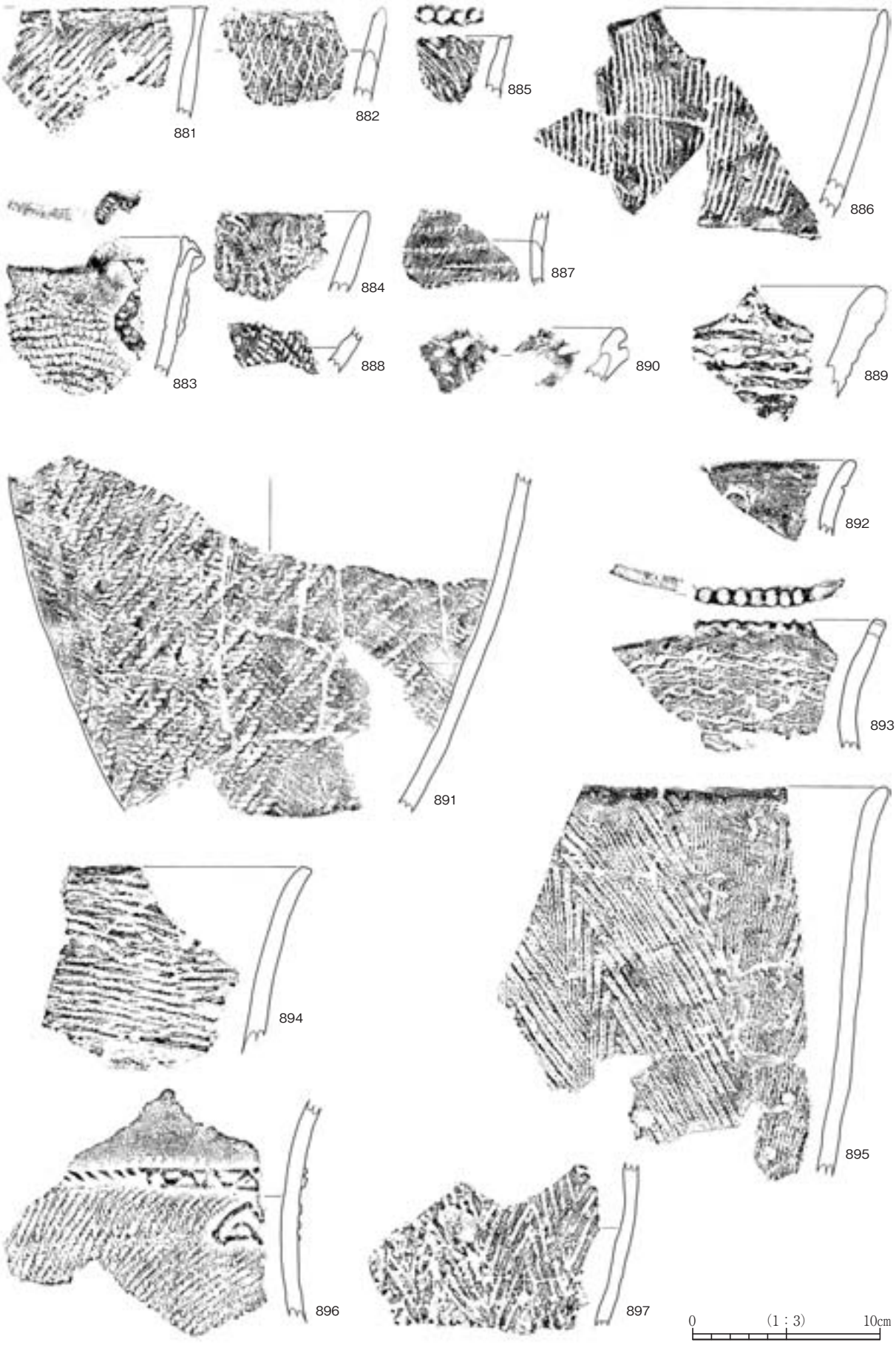


第 192 図　遺構内出土土器（43）

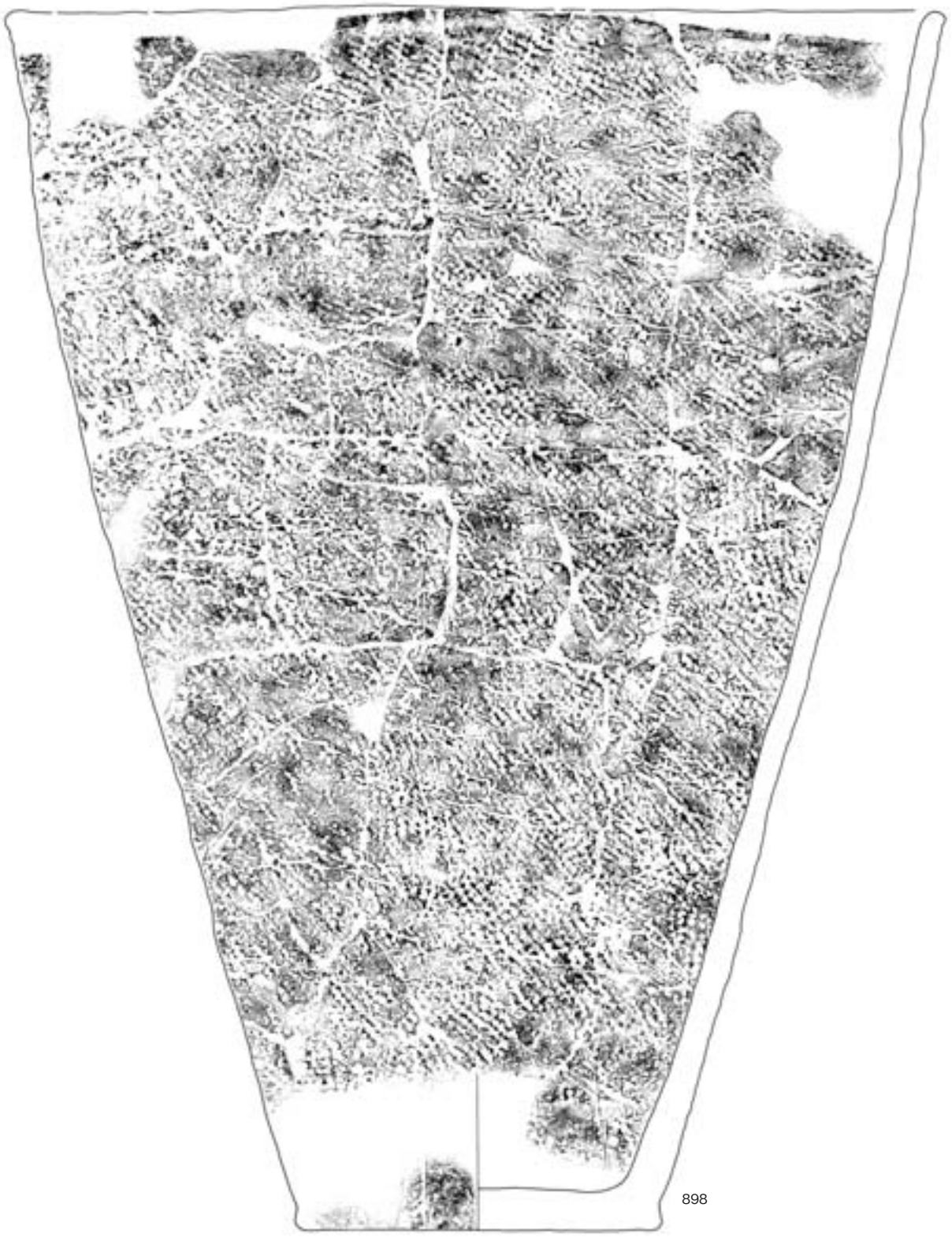


第 193 図　遺構内出土土器（44）

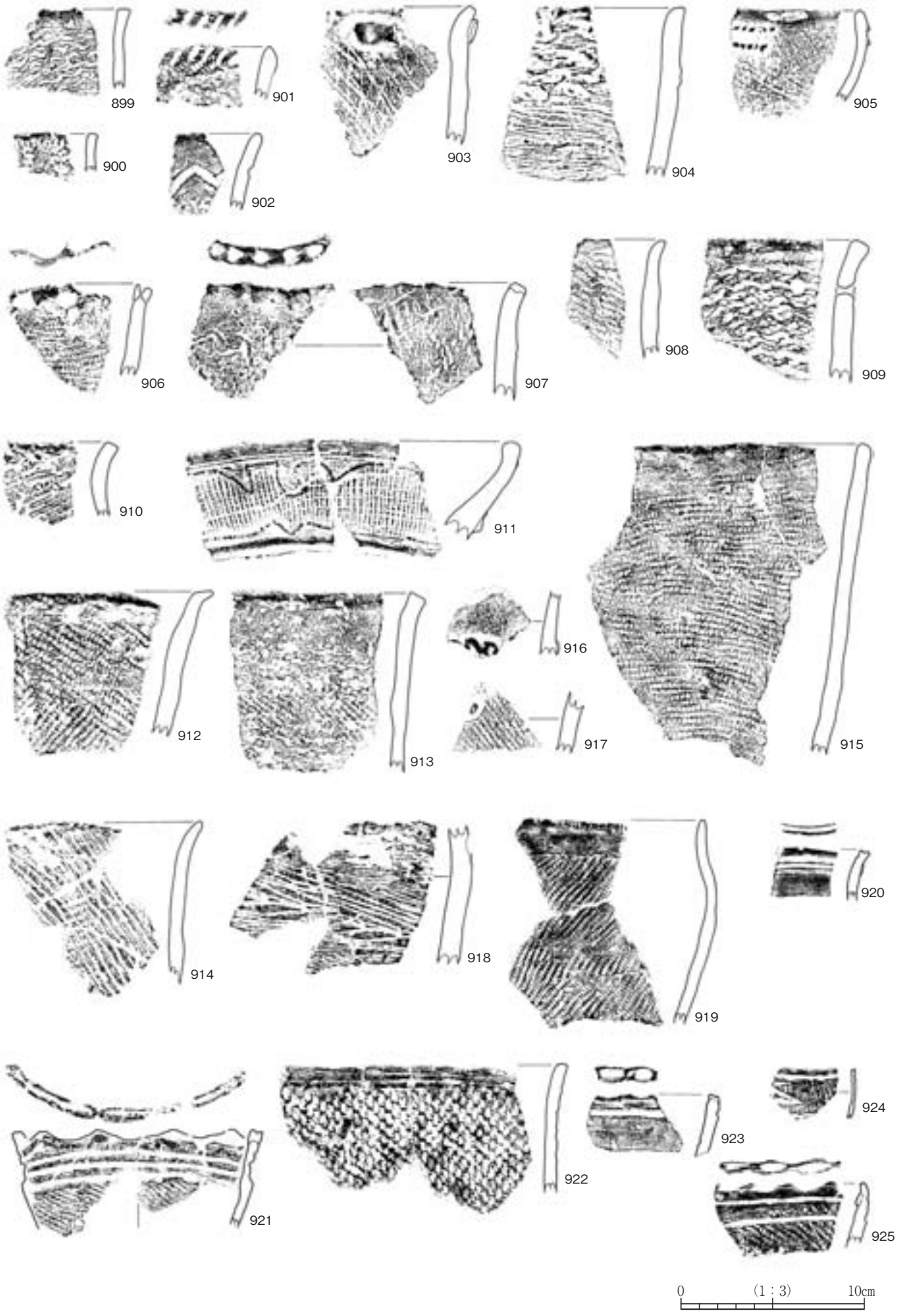
第 194 図　遺構外出土土器（1）



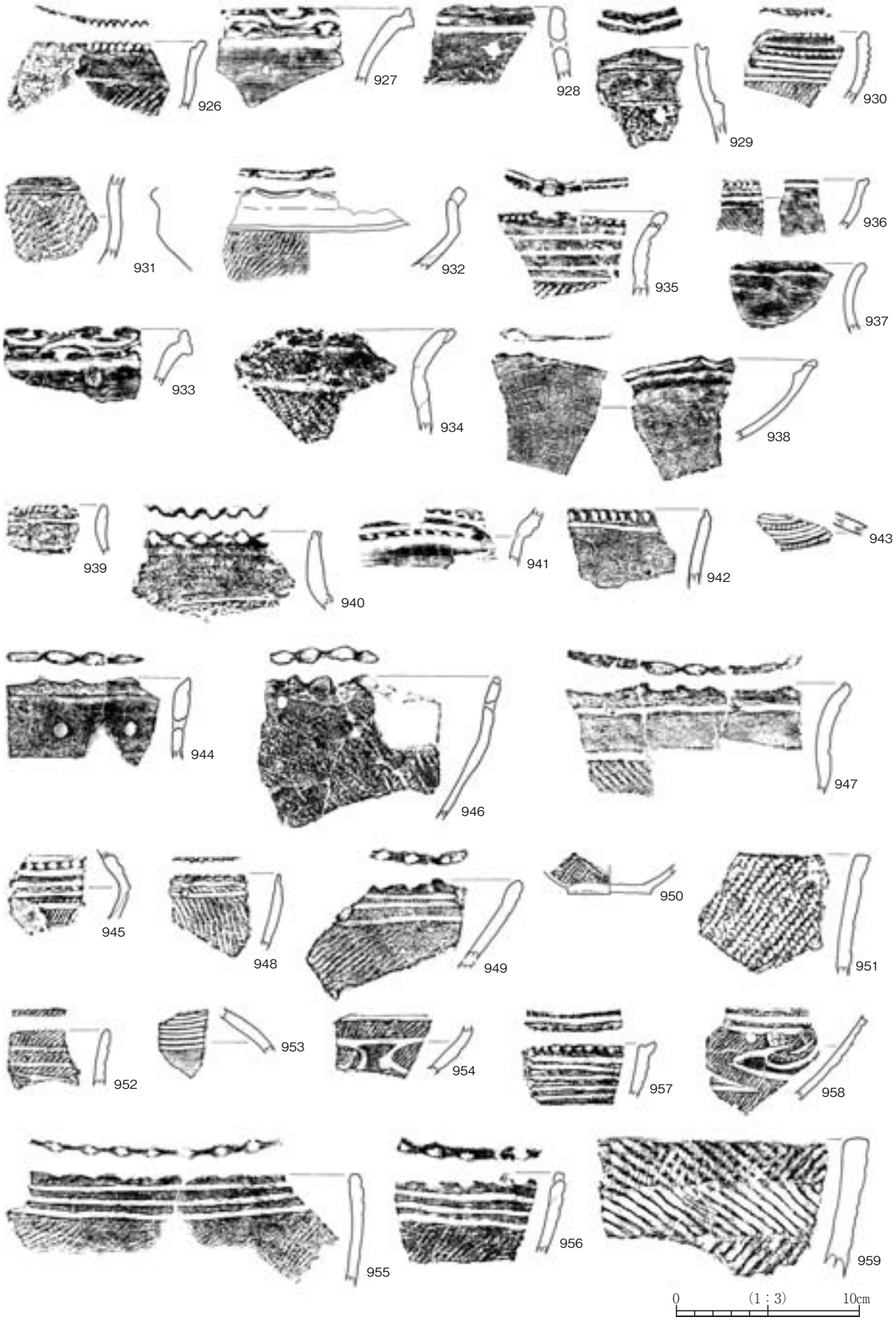
第 195 図　遺構外出土土器（2）



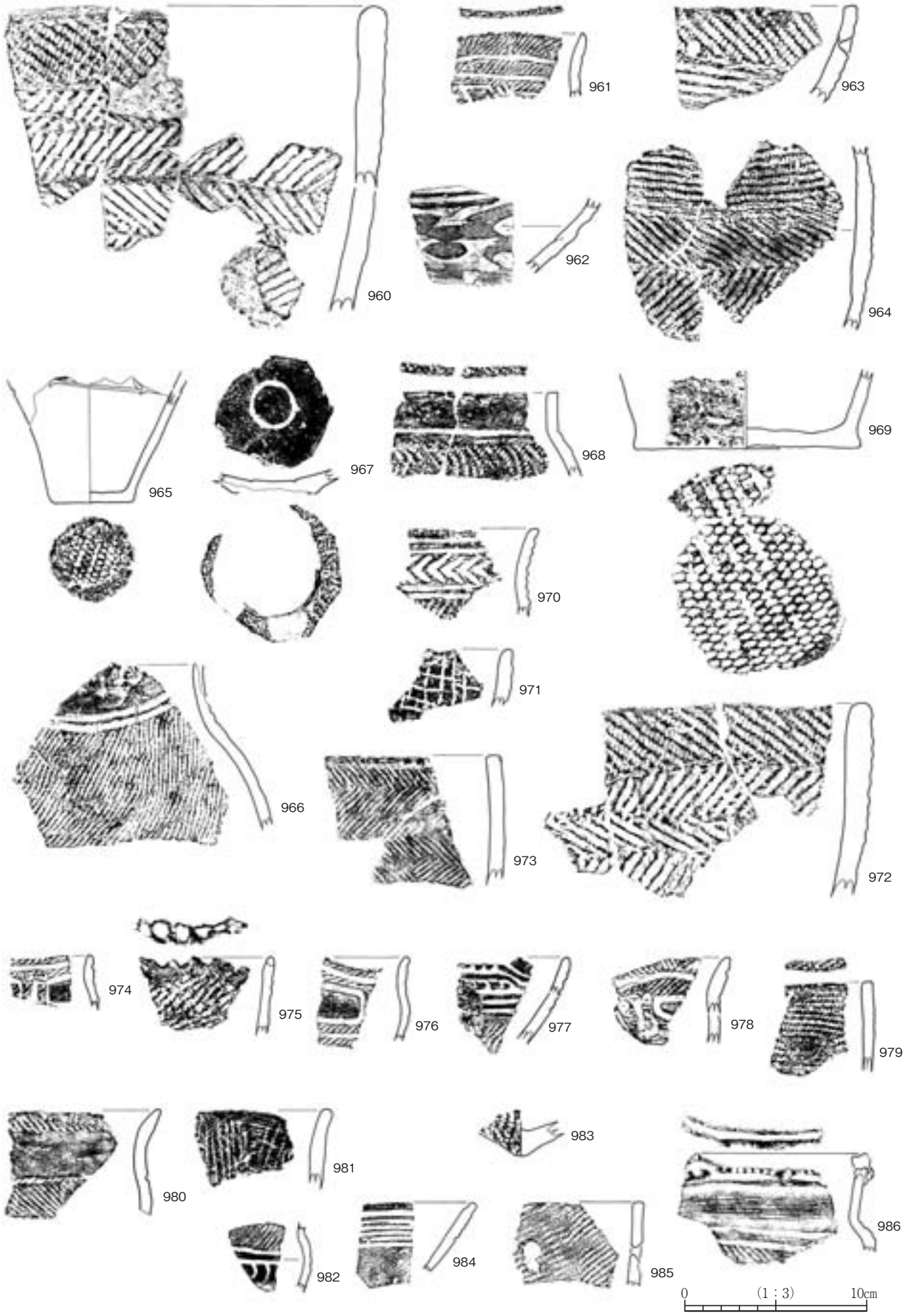
第 196 図　遺構外出土土器（3）



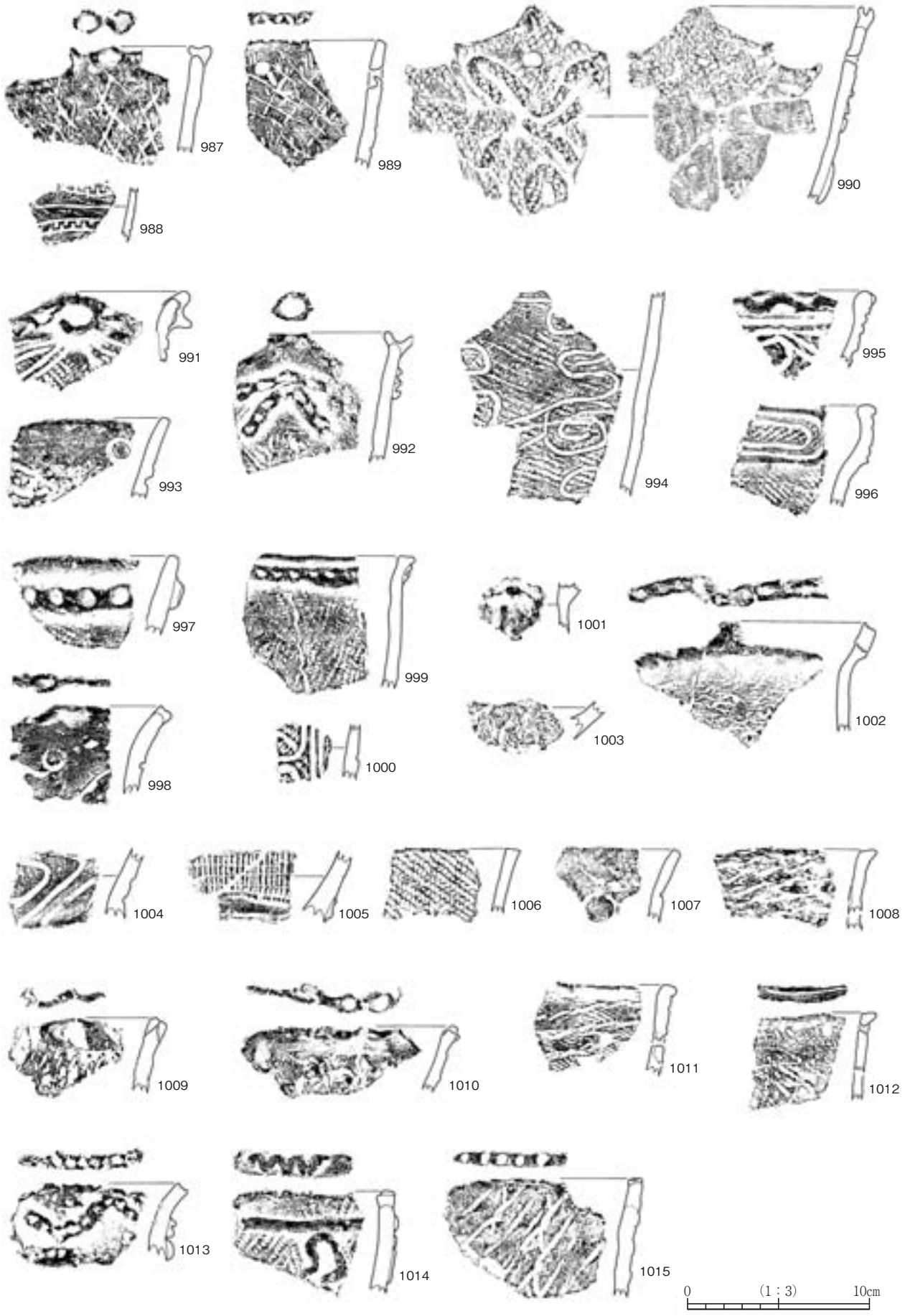
第 197 図　遺構外出土土器（4）



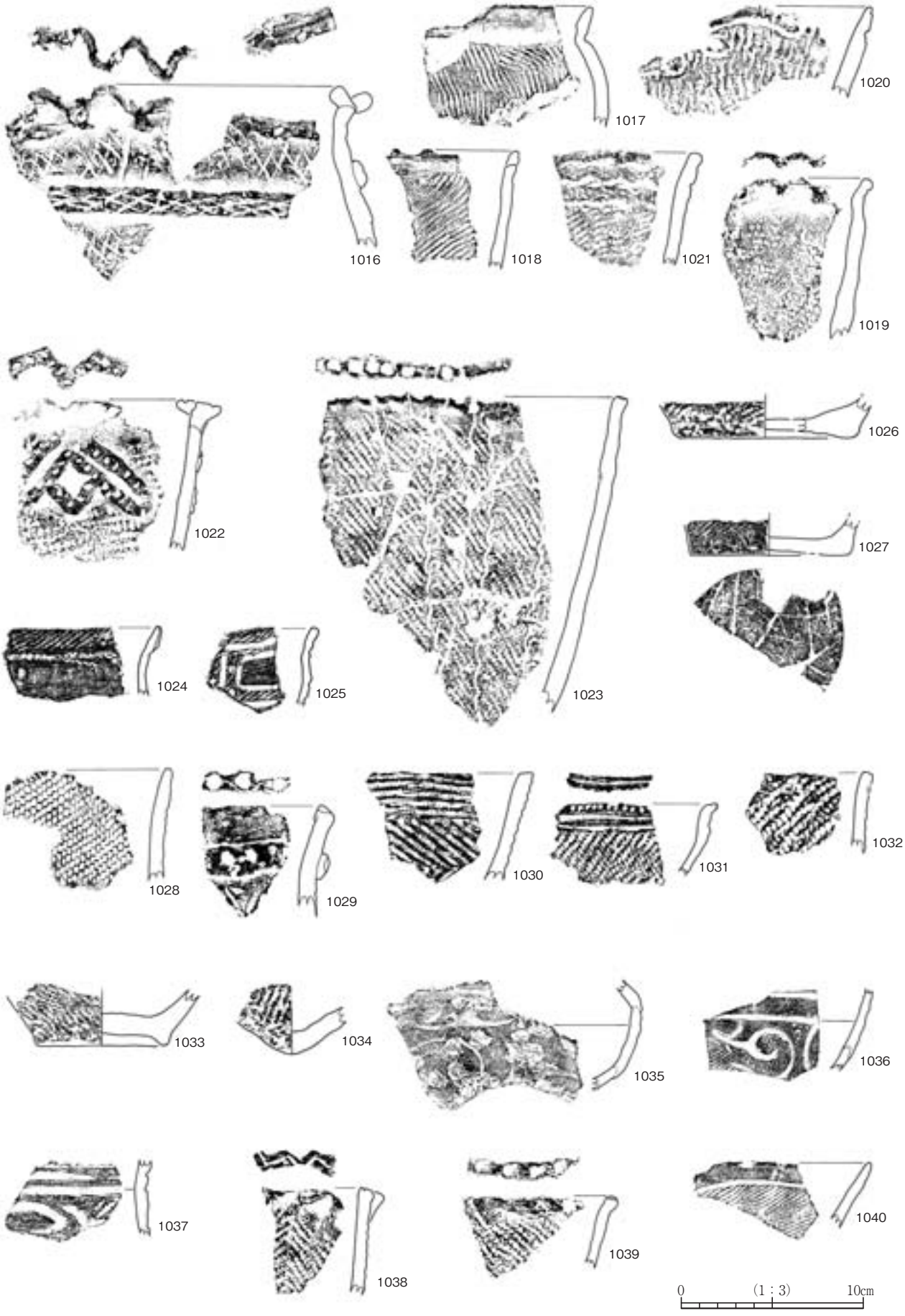
第 198 図　遺構外出土土器（5）



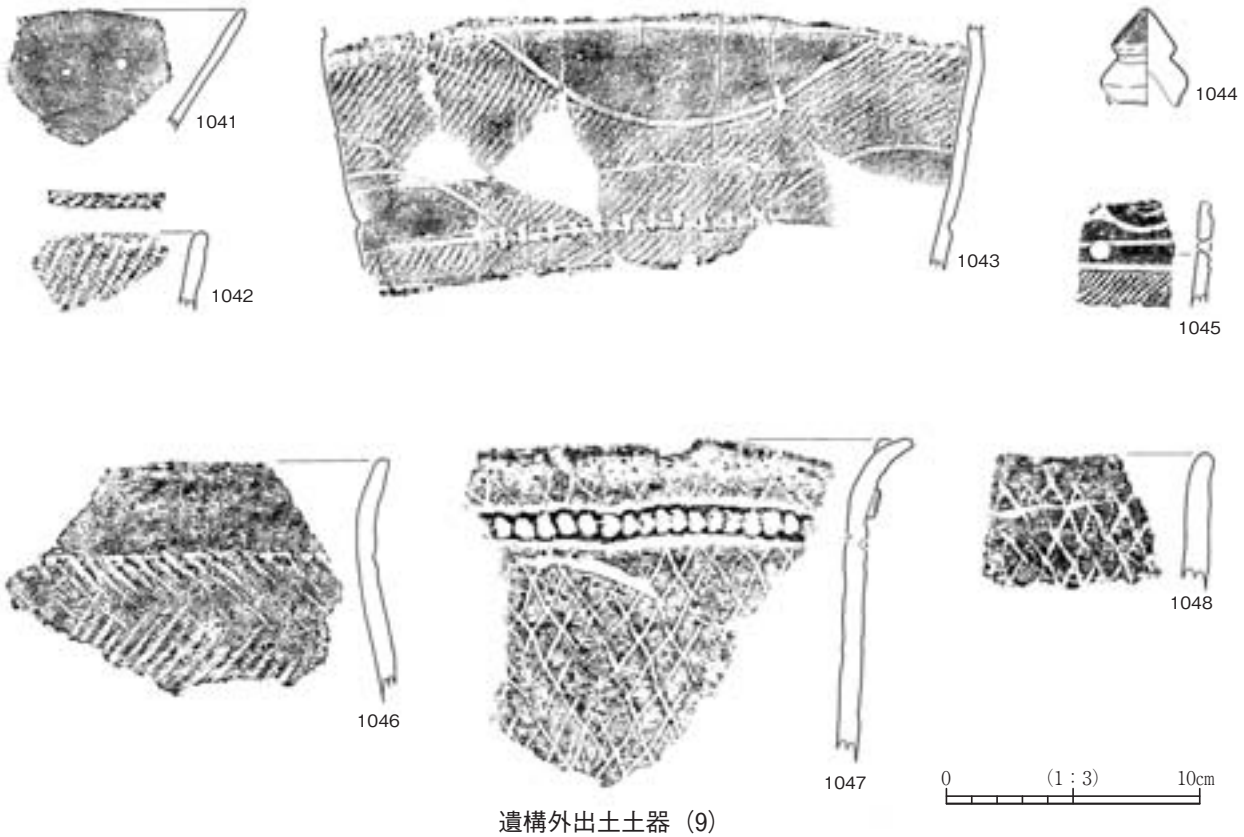
第 199 図　遺構外出土土器（6）



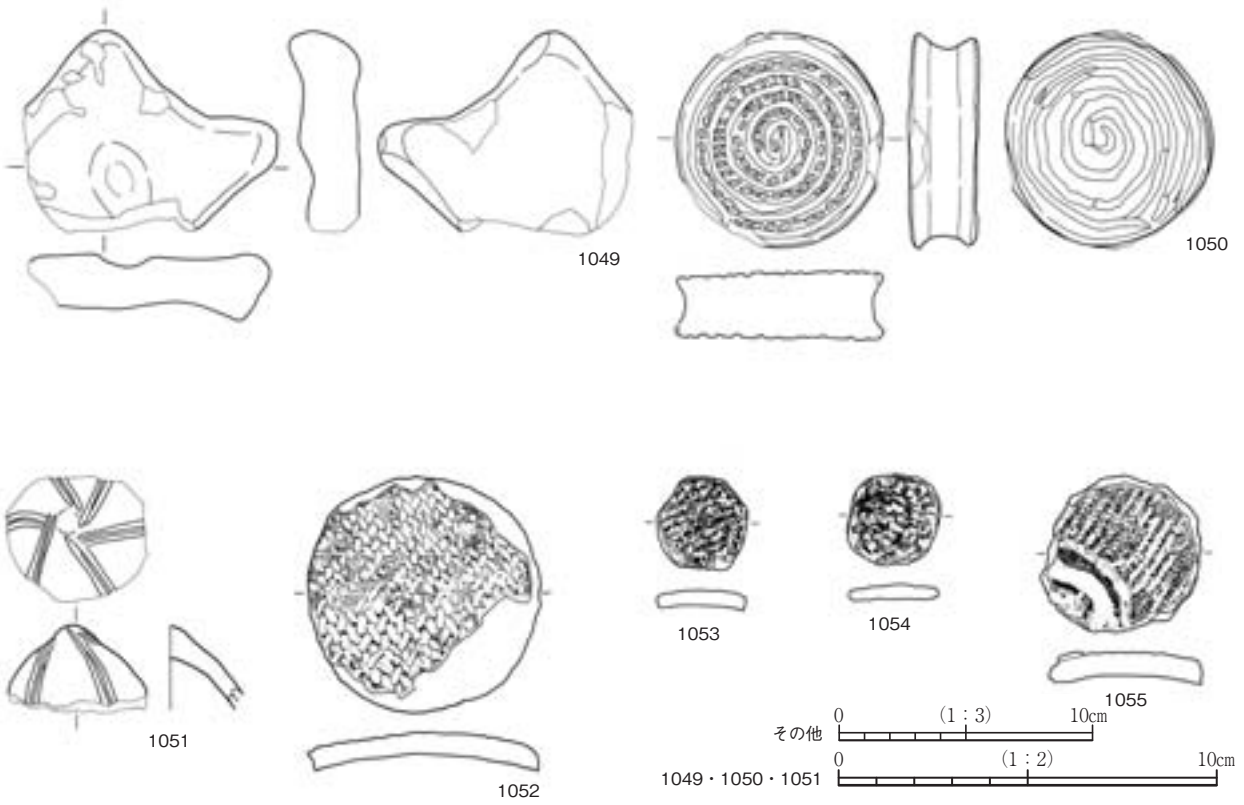
第 200 図　遺構外出土土器（7）



第 201 図　遺構外出土土器（8）



遺構外出土土器（9）



土製品

第 202 図　遺構外出土土器（9）・土製品

（4）石器・石製品（第203～214図、写真図版156～168）

①尖　頭　器（1056～1064）

9点出土し、うち4点を図・写真、1点を写真のみ掲載した。以下の通り細分した。

a　平面形は整った柳葉形を呈する。表裏ほぼ全面が細部加工剥離面に覆われる。厚さは幅の1/2を超えない（横断面が扁平）。

b　平面形は概ね柳葉形を呈する。細部加工は両面に見られるがやや粗い。厚さと幅の差が小さい（横断面が楕円～三角形呈する）。片面に素材剥片の面を大きく残すものもある。

c　その他。1063・1064は粗い剥離による両面加工が施されている。全体形状が不整であり未成品の可能性がある。1062は薄い素材剥片の周縁に細部加工を施し尖頭部を作出したもの。やや幅広で、両面に広く素材剥片の面を残している。

②石　　鏃（1065～1197）

133点出土し、うち35点を図・写真、7点を図のみ、10点を写真のみ掲載した。茎の有無で二分した。石材は頁岩が支配的で、ごく僅かに凝灰岩が含まれる。

a　無茎鏃（凹～平基）。ほぼ全てがこれに該当する（1065～1195）。

b　有茎鏃。2点のみ出土した（1196・1197）。

③石　　錐（1198～1201）

4点出土し、うち2点を図・写真、1点を図のみ掲載した。以下の通り細分した。

a　棒状の刃部を有するもの。1点出土した（1198）。刃部のみの残存である。

b　素材縁辺の一部に、短く突出する刃部が作出されたもの。

④石　　匙（1202～1274）

73点出土し、うち7点を図・写真、1点を図のみ、3点を写真のみ掲載した。

a　横型石匙。摘まみと対向する位置に主たる刃部を持つもの（1202～1219）。

b　縦型石匙。長軸の一端に摘まみを、両側縁に刃部を持つもの（1220～1258）。

c　鎌形に湾曲した体部を持つもの（1259～1264）。

d　その他。欠損によりａ～ｃに分類不能なもの含む（1265～1274）。

また、ａ～ｄはそれぞれ以下に細分される。

－1　細部加工剥離が片面主体のもの。断面形が三角形または台形を呈する。

－2　細部加工剥離が両面に及ぶもの。断面形が表裏対称（多くは凸レンズ状）となる。

⑤不定形剥片石器（1275～1402）

128点出土し、うち4点を図・写真、5点を図のみ掲載した。以下の通り細分した。

a　いわゆるエンドスクレイパー。素材剥片の下端部に急斜度の刃部持つもの。素材剥片には縦長のものとやや幅広のものとがある。いずれも素材剥片の長軸上の一端に刃部が設けられている（1275～1280）。

b　縦長剥片の側縁に連続的な細部加工による刃部が設けられるもの。刃部は急斜度・緩斜度の両者あり（1281～1285）。

c　その他。定形石器の一部または未成品の可能性あるもの（c1）と、縁部に連続的な剥離が認められるもののうち詳細不明なもの（c2）がある（1286～1402）。

⑥石　　核（1403～1430）

28点出土し、うち3点を図・写真掲載とした。

⑦石　　斧（1431～1484）

54点出土し、うち11点を図・写真、8点を図のみ、3点を写真のみ掲載した。以下の通り細分した。

a　弧状で表裏対称の両刃の刃部を有するもの。基本的に全面が研磨される。横断面は楕円～隅丸方形を呈する。一部に擦切技法による個体が含まれる可能性有。基端部は面を為すものと尖るものとがある。基部の端から5～7㎝のところで折損する例が目立つ。（1431～1471）

b　表裏非対称の片刃風の刃部を有するもの（刃部裏面にも研磨有）。基本的に全面が研磨される。擦切痕跡を残すものが含まれる。（1472～1479）

b1　幅と厚さの値が近く細長い、鑿様の形状を呈する。刃部の幅は体部と同じか、やや狭い。

b2　平面形はaに似るがより小形で、幅に比して薄く扁平である。

c　滑らかな自然面をもつ円礫の破片を素材とし、片面にはこの自然面をそのまま残す一方、反対面には周縁からの求心状の剥離によって全体を撥形に整形し、下端に刃部を作り出したものである（1480～1484）。刃部の加工で下の通り細分される。

c1　c2よりやや大きく、刃部の研磨がないもの。

c2　c1よりもやや小さく、整形剥離をもつ面側の刃部が研磨で仕上げられているもの。

⑧敲　磨　器　類（1485～1801）

429点出土し、うち20点を図・写真、26点を写真のみ掲載した。以下の通り分類・細分した。個別資料の帰属は第6表を参照されたい。

a　特殊擦石及び半円状扁平打製石器

a1　楕円・扁平・角柱・棒状等の自然礫の長軸に概ね平行する稜を使用面とすることによって、細長い摩滅部が形成されているもの。（1566・1568・1581・1656・1657他）

a2　半円形又は隅丸方形の扁平な礫を素材とし、周縁に成形・使用に伴う剥離面を持ち、側辺の稜に細長い磨滅部が生じているもの。（1600・1601他）

b　磨　　石

表面全体が極めて滑らかな、球状・卵形・長楕円形・扁平円形・扁平楕円形の自然礫。大半が硬質緻密な砂岩で、面を成す磨滅部や明瞭な敲打痕跡は認められないが、遺跡の立地から人為によって持ち込まれたことが明らかであるため、ここに登録したものである。

c　敲　　石

表面に敲打による潰れが認められるもの。bと同形状の自然礫が用いられている。表裏の広い面ではなく、端部に使用痕が集中する（1760・1763他）。1761は長楕円形礫の一端に形成された2つの敲打面が交差し、角錐状を呈する個体である。

d　凹　　石

表面に反復敲打によって生じた凹部が認められるもの。凹部は深い擂鉢形を呈するもの（1796他）から、敲打による浅い傷が集中する程度のもの（1787・1789他）がみられる。前者は軟質の凝灰岩を素材としたものに多く、後者は硬質の砂岩・花崗岩に多い。凹部の状態の差は使用頻度ではなく石質に起因するものとみられる。凹部は複数が連結して集中部をなすのが普通で、円形礫（1796他）では中心付近に形成されるが、長さのある礫では両端に偏り2箇所の集中部をもつ（1568・1787他）。長さがあるほど二つの集中部は離れており、言い換えれば、礫の端部から凹部集中部までの距離がほぼ一定する傾向が看取される。

e　半　割　礫

やや扁平な楕円形礫の片面中央に打撃を加え半割されたものである。この際の加撃面には先行

する敲打痕跡が認められないことから、上掲の敲石や凹石とは区別され、半割を目的とした打撃であることが理解される。また、分割面がヒンジ状に捲れた場合、この部分を削ぎ落とす新たな打撃が加えられた例も見られ、分割面が長軸に対し直交するように成形する意図を酌み取ることができる。半円状に成形されたのちの分割面には、その後の使用痕は認められず、製作目的や使用方法は不明である。1903 は半割礫に形状の類似した自然礫の平坦面に、擦痕が認められたものである。使用方法の推定のためここに示したが、分割に伴う剥離面は認められず、当該資料とは無縁の可能性が考えられる。

⑨石　　皿（1914～1925）

12 点出土し、うち 3 点を図・写真掲載とした。板状の大形礫の中央に広い摩滅面を持つものである。いずれも破片資料で、摩滅面が皿状の凹みとなるものと、擦痕が認められるのみのものがある。

⑩石　製　品（1926～1954）

29 点出土し、うち 16 点を図・写真、10 点を写真のみ掲載した。

玦状耳飾（1926～1928）は 3 点出土した。滑石及び頁岩を素材としている。いずれも欠損品で、1927 は表裏からの穿孔による貫通孔を持つ。

1929 は粘板岩の石片を用いた板状の石製品の一部とみられる。欠損により全体形状が不明であるが、三角形に成形された端部に表裏からの貫通孔をもつ。

1930 は連珠状の平面形を呈する石製品である。頁岩製で、研磨によって細長い板状にした後、側縁に切込みを入れて整形されている。

カツオブシ形石製品（1931・1932）は 2 点出土した。石材は粘板岩及びホルンフェルス。扁平で、側縁の研磨により平面形が細長い紡錘形に成形されている。

独鈷石（1933）は住居跡 24 から出土した。両端を欠損している。表面に被熱による赤変が認められる。

石棒・石剣・石刀類等、棒状の石製品は 12 点を登録した（1934～1945）。1934 はやや肥大した端部に線刻による加飾が施されている。頁岩製で、表面は入念な研磨で仕上げられているが、成形段階の敲打痕が僅かに残っている。1935 は砂岩製で円柱状を呈し、先細りとなる端部に段を持つ。その他は全て扁平な棒状を呈する個体の一部で、粘板岩・ホルンフェルスを素材としている。

1946・1947 は石鍬の一部の可能性をもつ粘板岩製の板状の石製品である。周縁の打ち欠きで成形されており、1946 は端部が蝶ネジ形を呈している。

1948 は有溝石錘である。砂岩の円礫を一周する 1 条の溝が刻まれている。

1949 は土坑 43 から出土した有孔礫である。孔付近に加工痕跡は認められないことから自然礫と考えられるが、人為により持ち込まれた可能性が高い。

1950～1954 は線状痕をもつ礫である。1954 には平行・直交する明瞭な線刻が認められる。

（村上）

（5）鉄 関 連 遺 物（第215図、写真図版169）

鉄関連遺物の出土は、調査区東端部に分布する平安時代住居跡内及びその周辺に集中する。

①鉄　製　品（1955～1963）

1955は住居跡32カマド手前の床面から出土した紡錘車である。直径約5cmの紡輪部のみ残存する。1956・1957は刀子の一部、1958～1961は角釘と見られる。1962・1963は不明である。

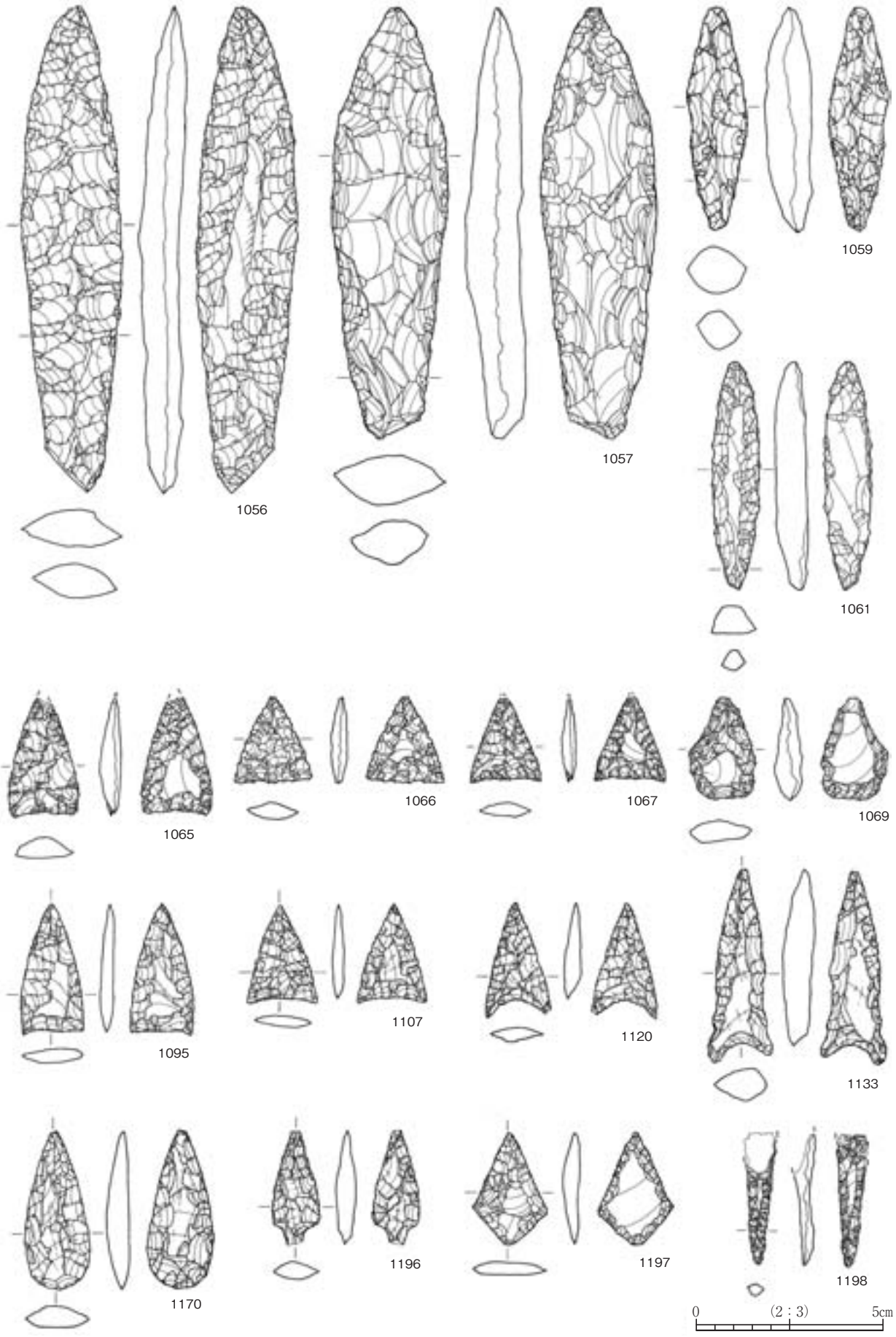
②鞴　羽　口（1964～1967）

他に小片が複数出土しているが、掲載可能な4点を登録した。

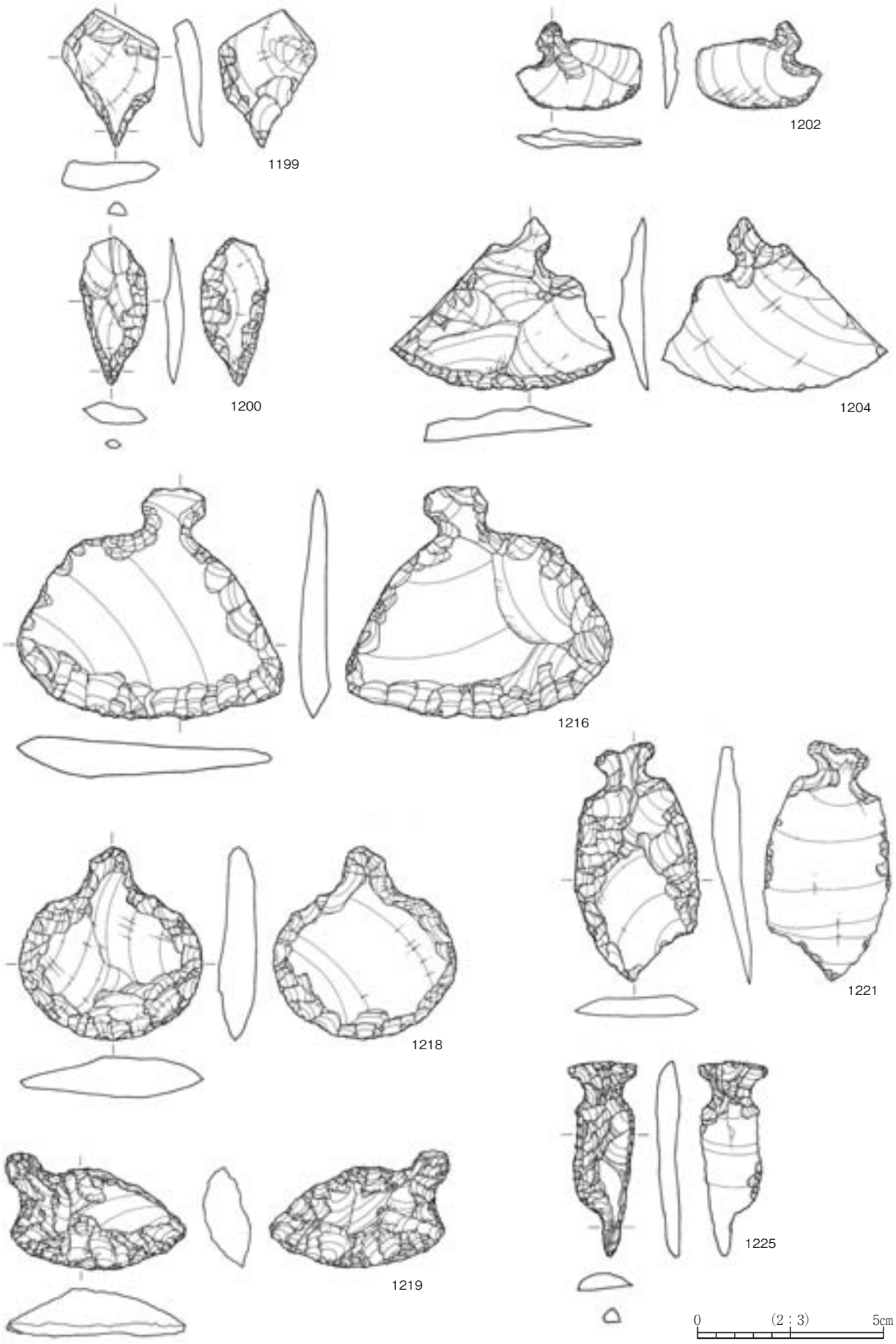
③鉄　　滓（1968～1971）

他に細片が多数出土しているが、このうち椀形滓4点を登録・掲載した。

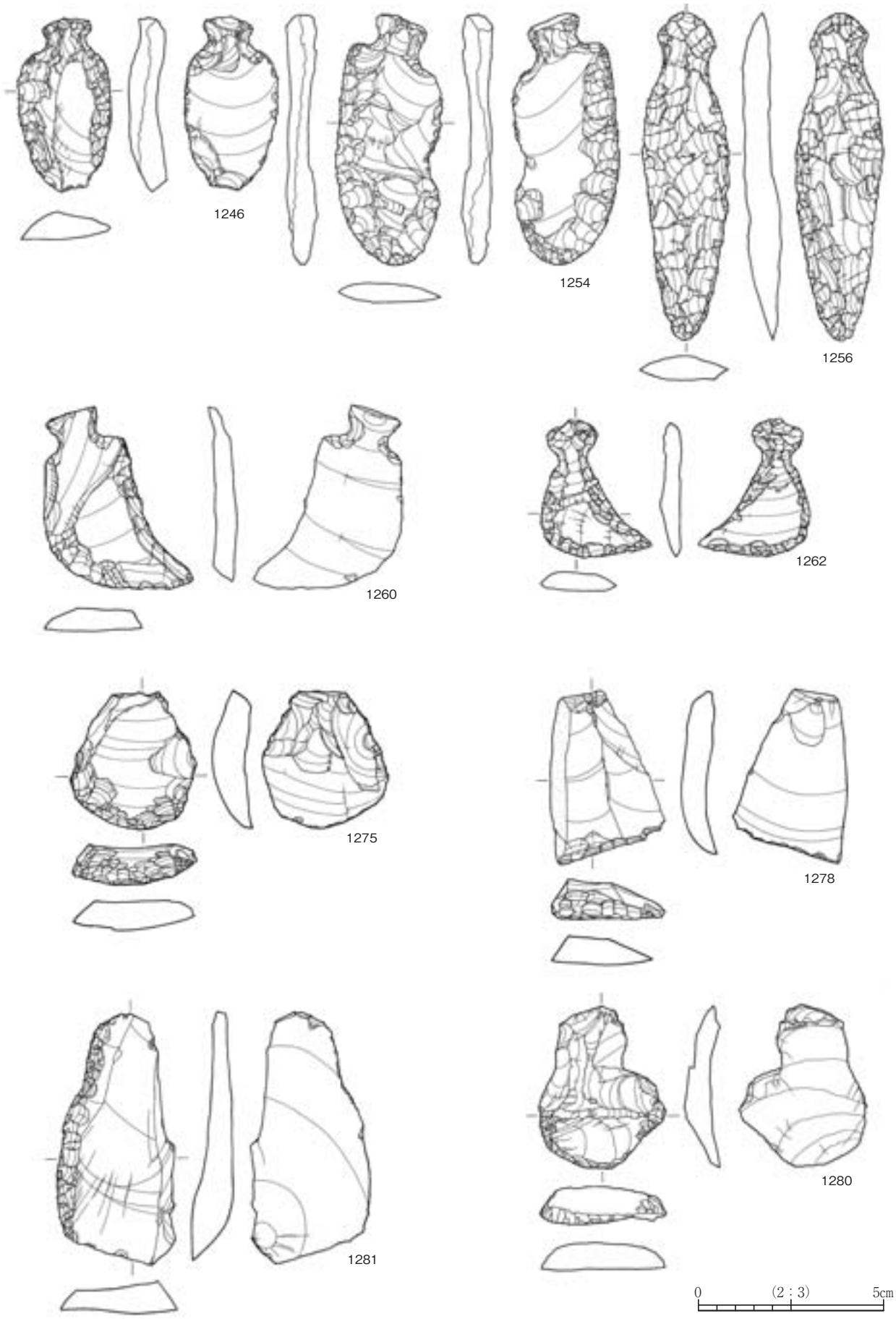
（村上）



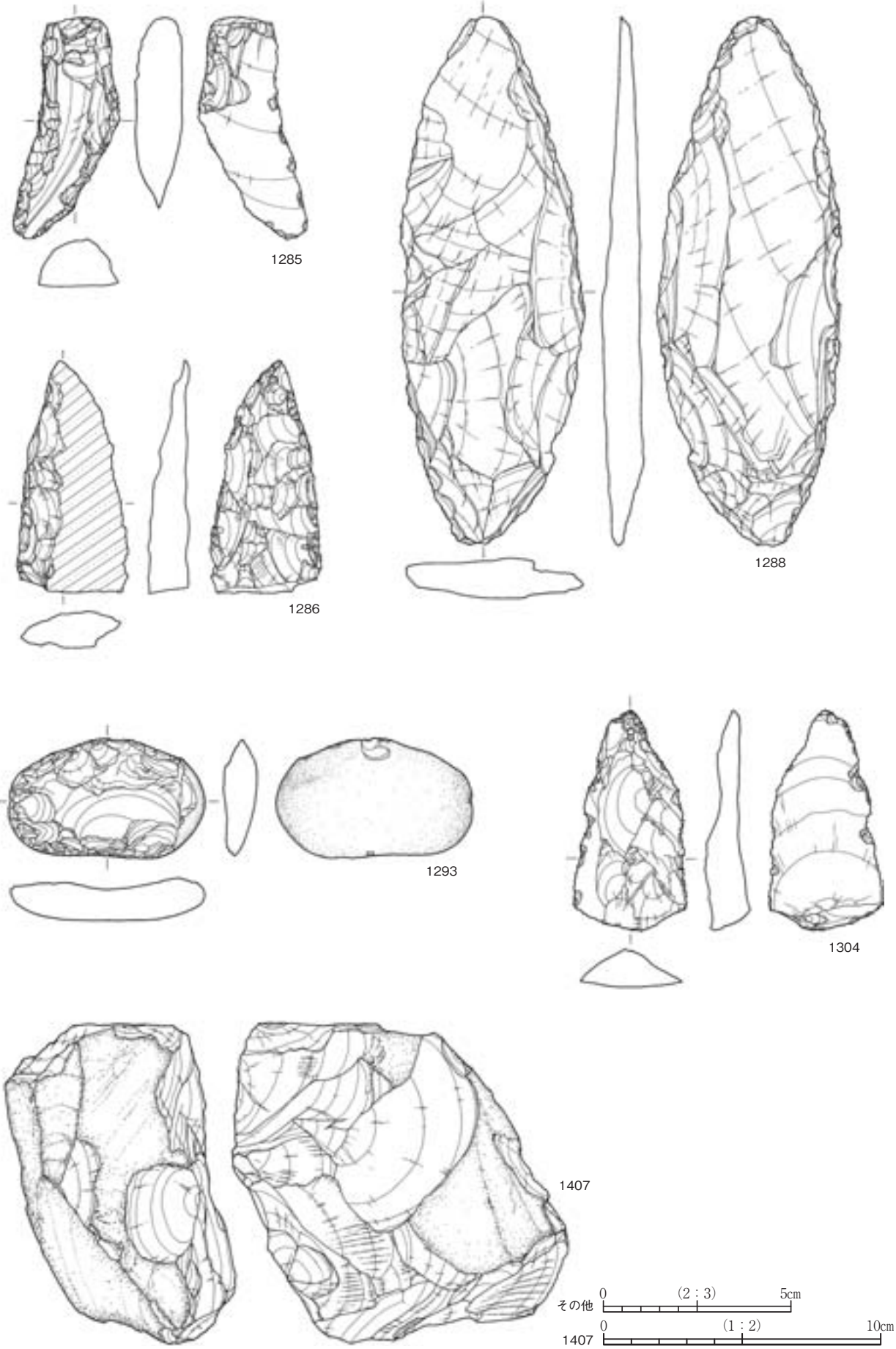
第 203 図　石器・石製品（1）



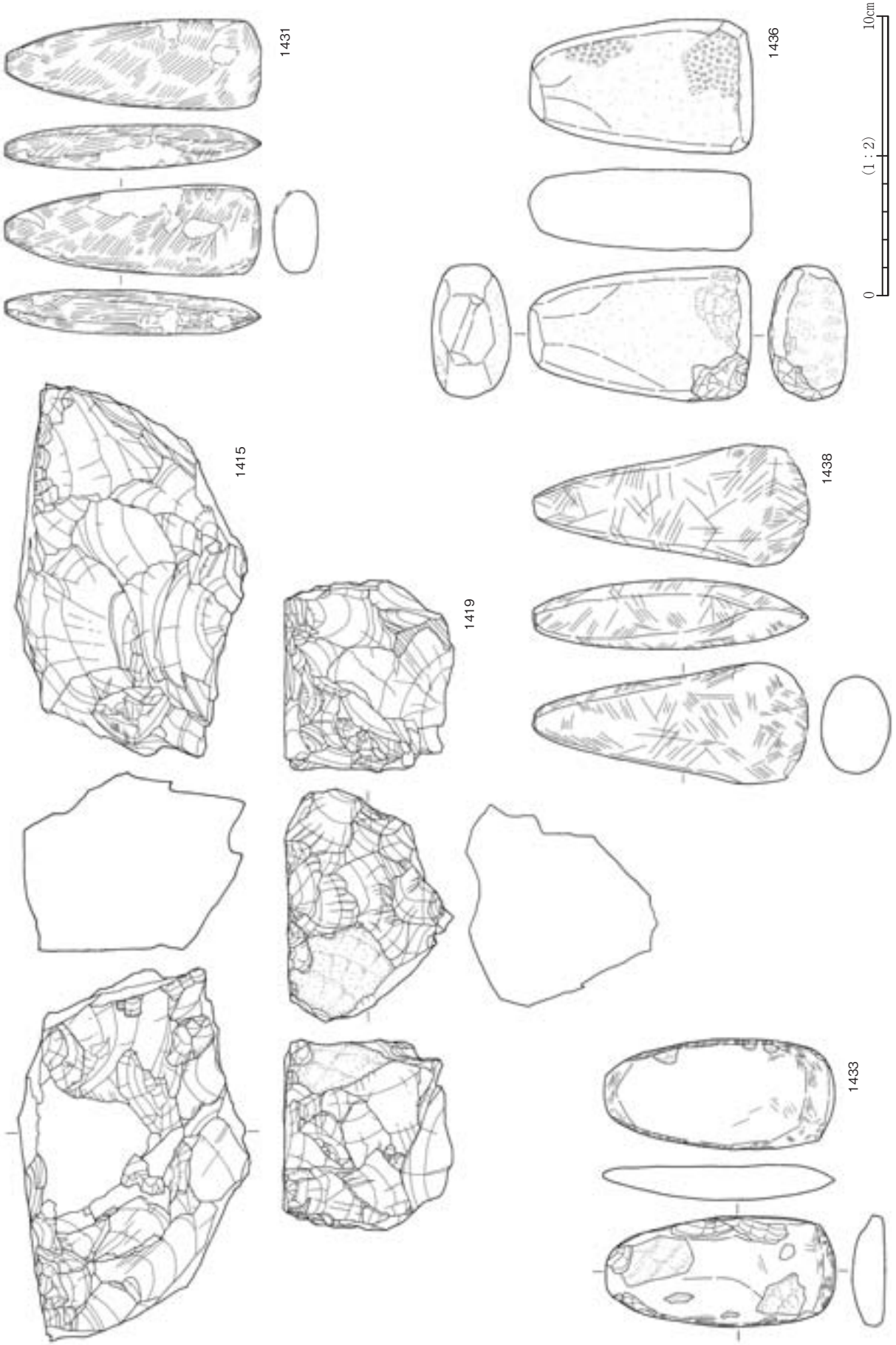
第 204 図　石器・石製品（2）



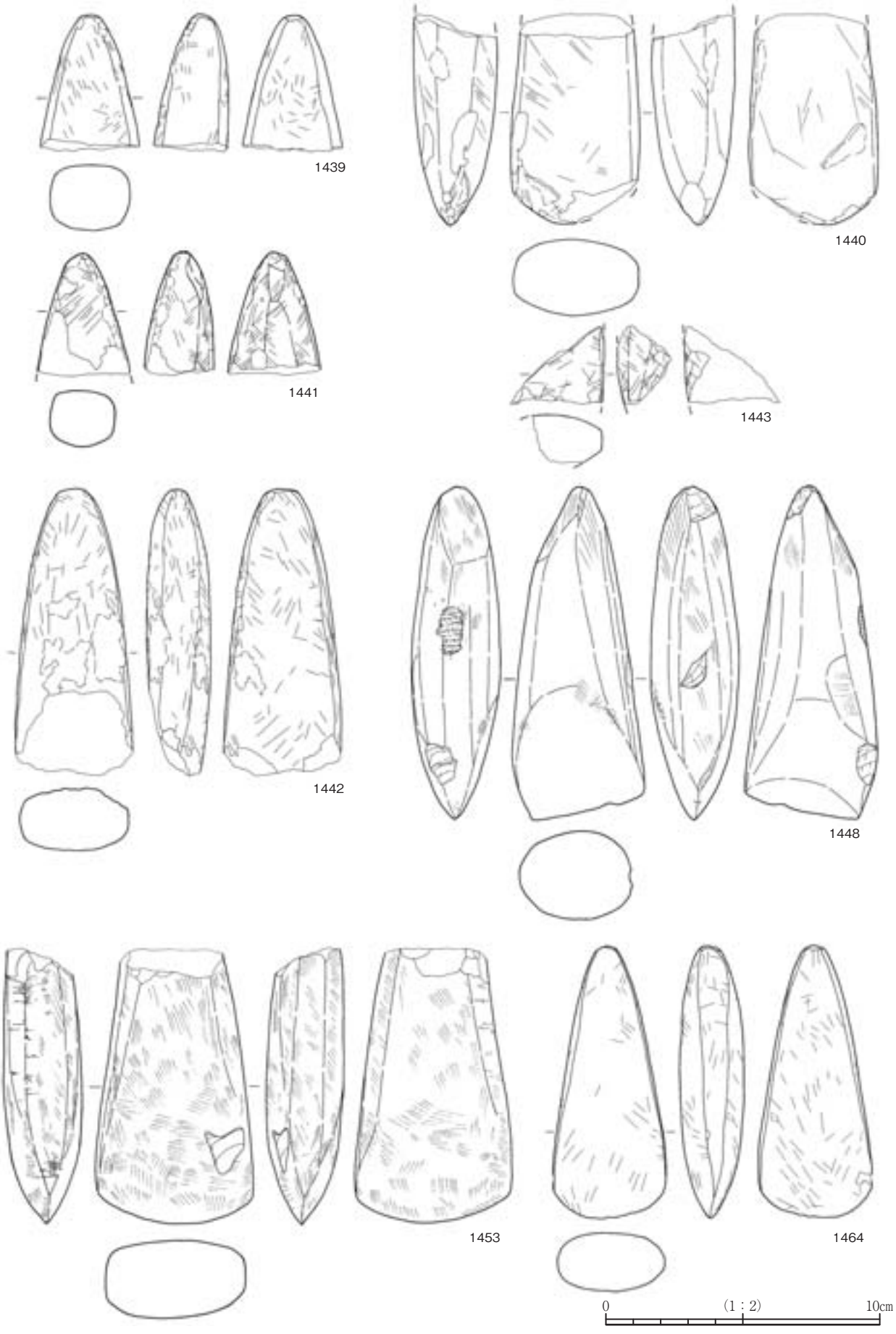
第 205 図　石器・石製品（3）



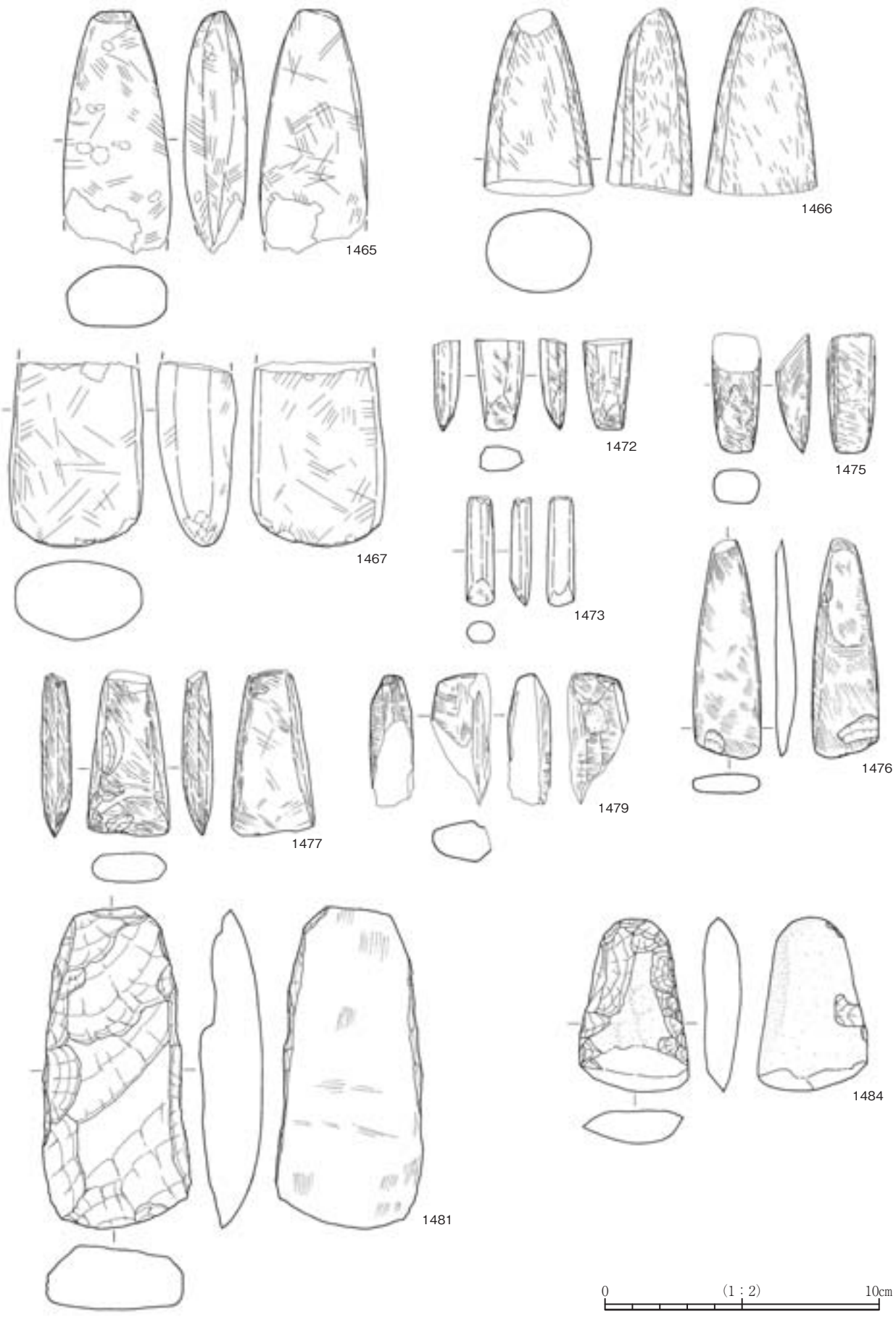
第 206 図　石器・石製品（4）



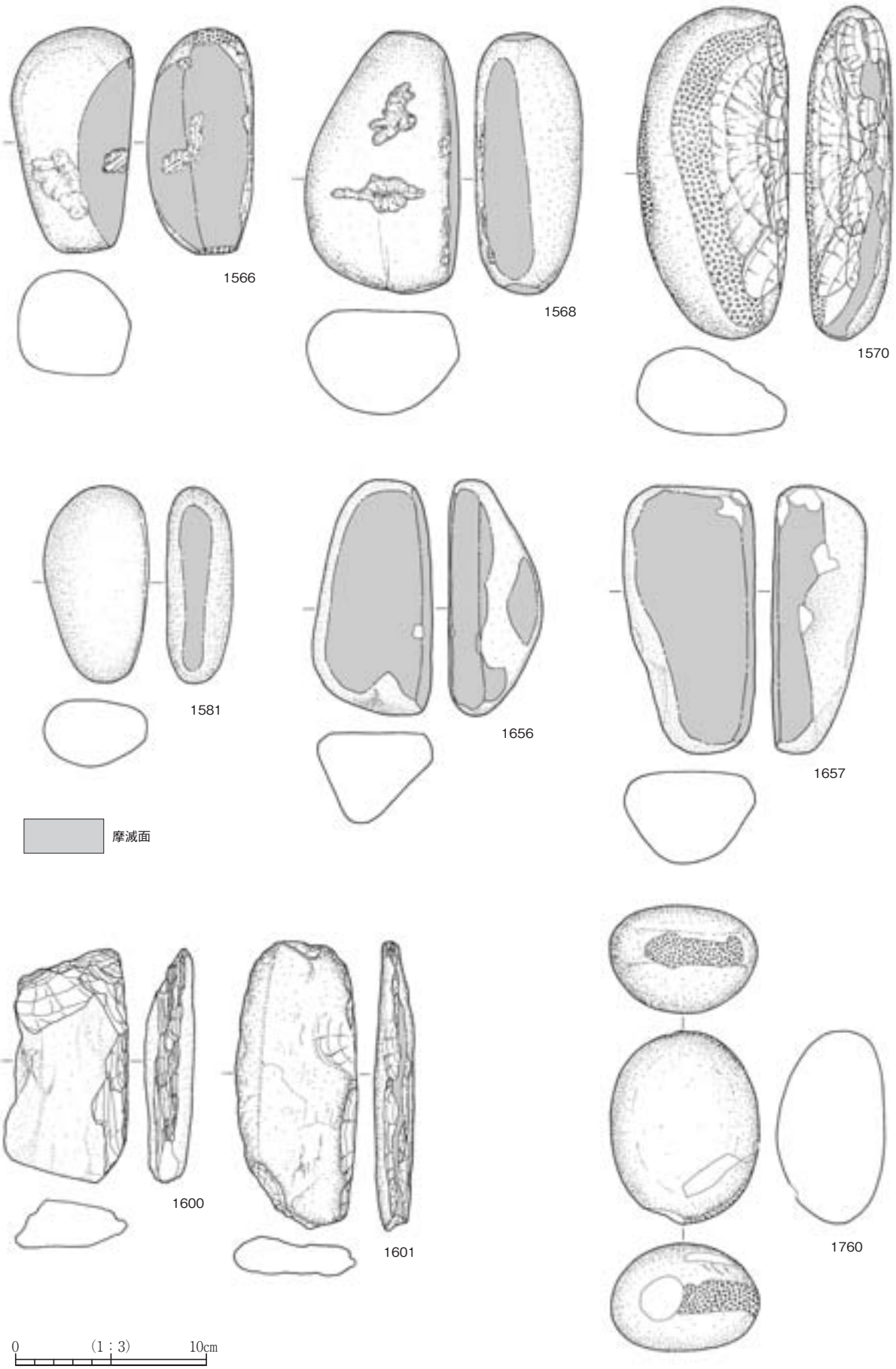
第 207 図　石器・石製品（5）



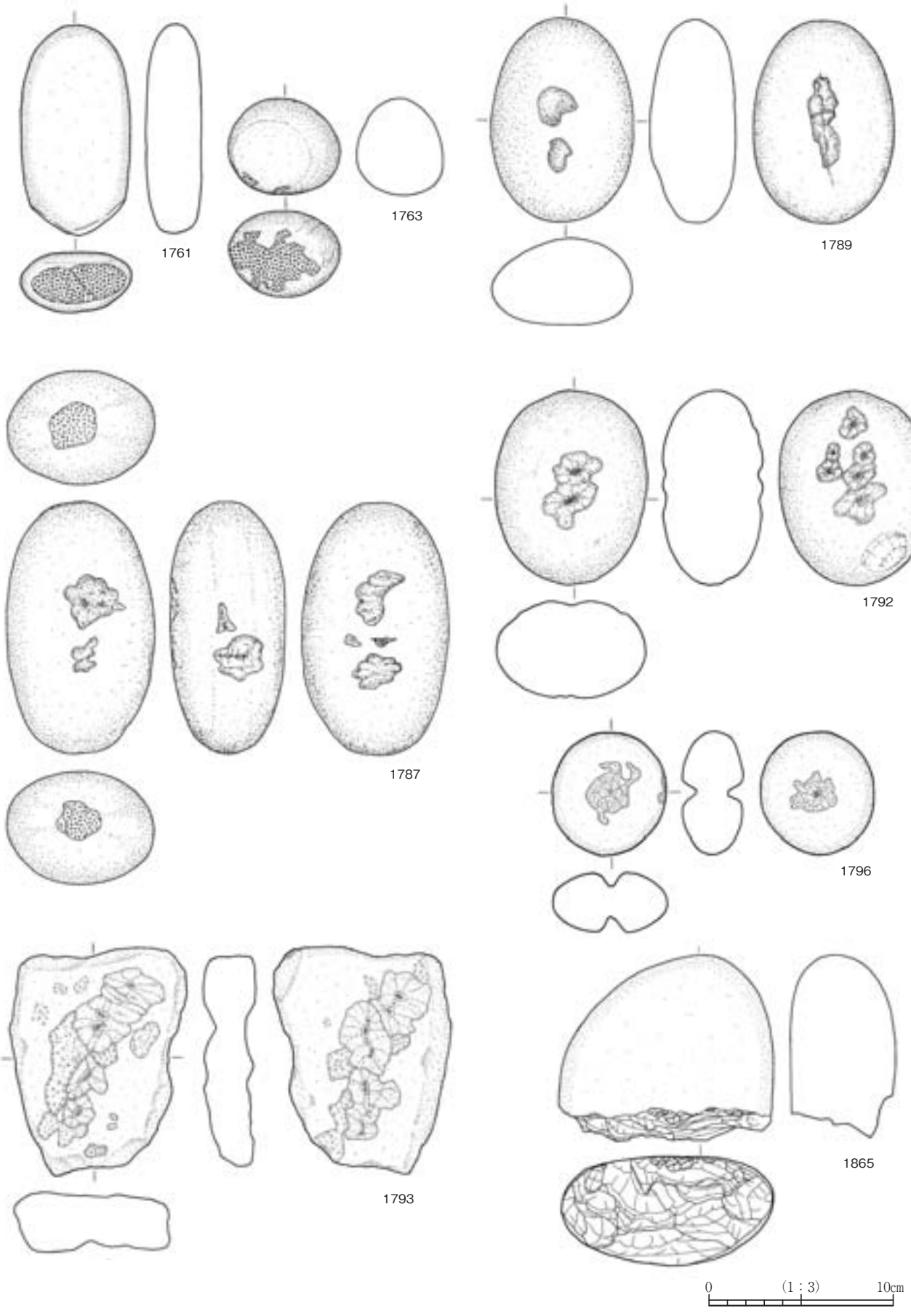
第 208 図　石器・石製品（6）



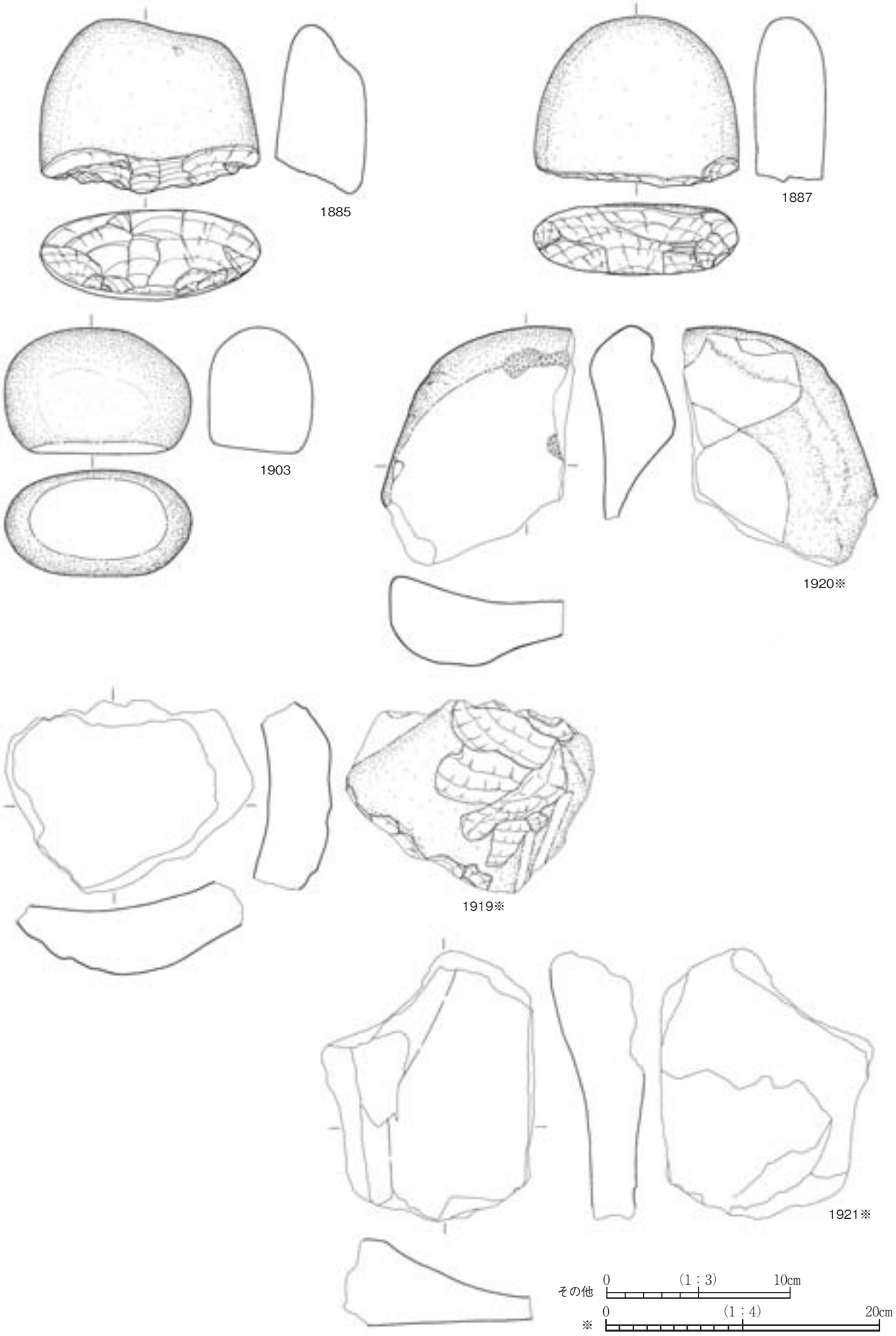
第 209 図　石器・石製品（7）



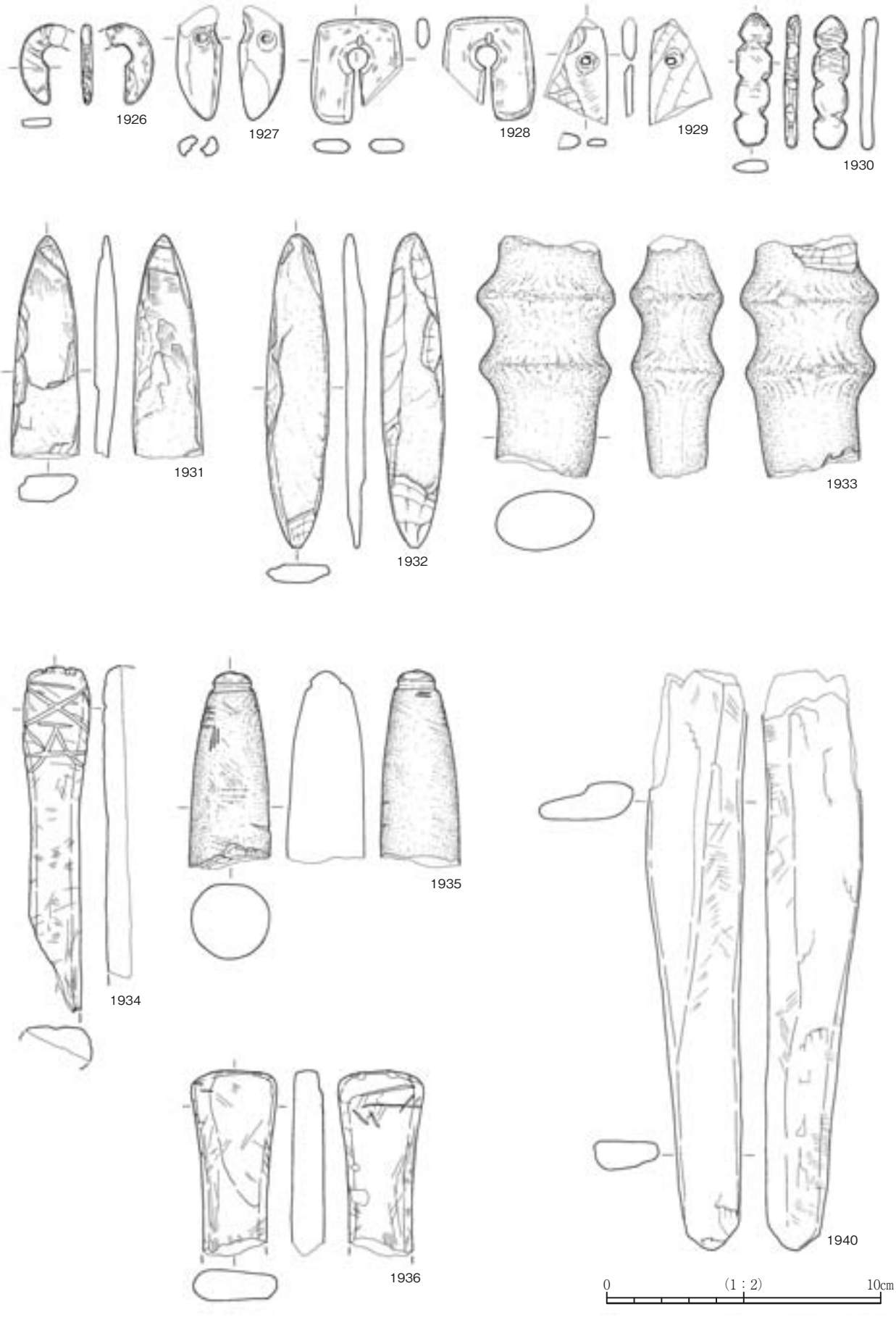
第 210 図　石器・石製品（8）



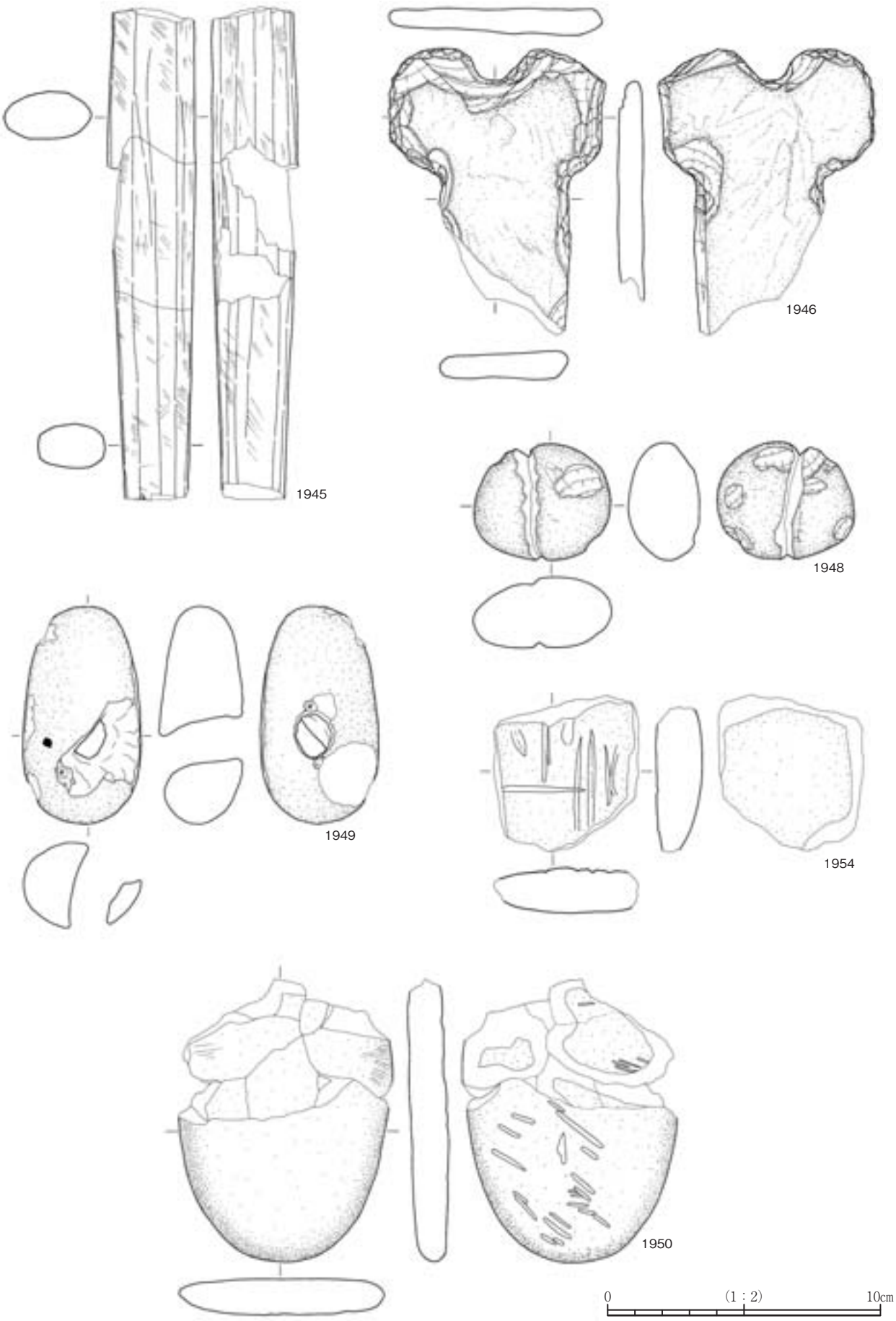
第 211 図　石器・石製品（9）



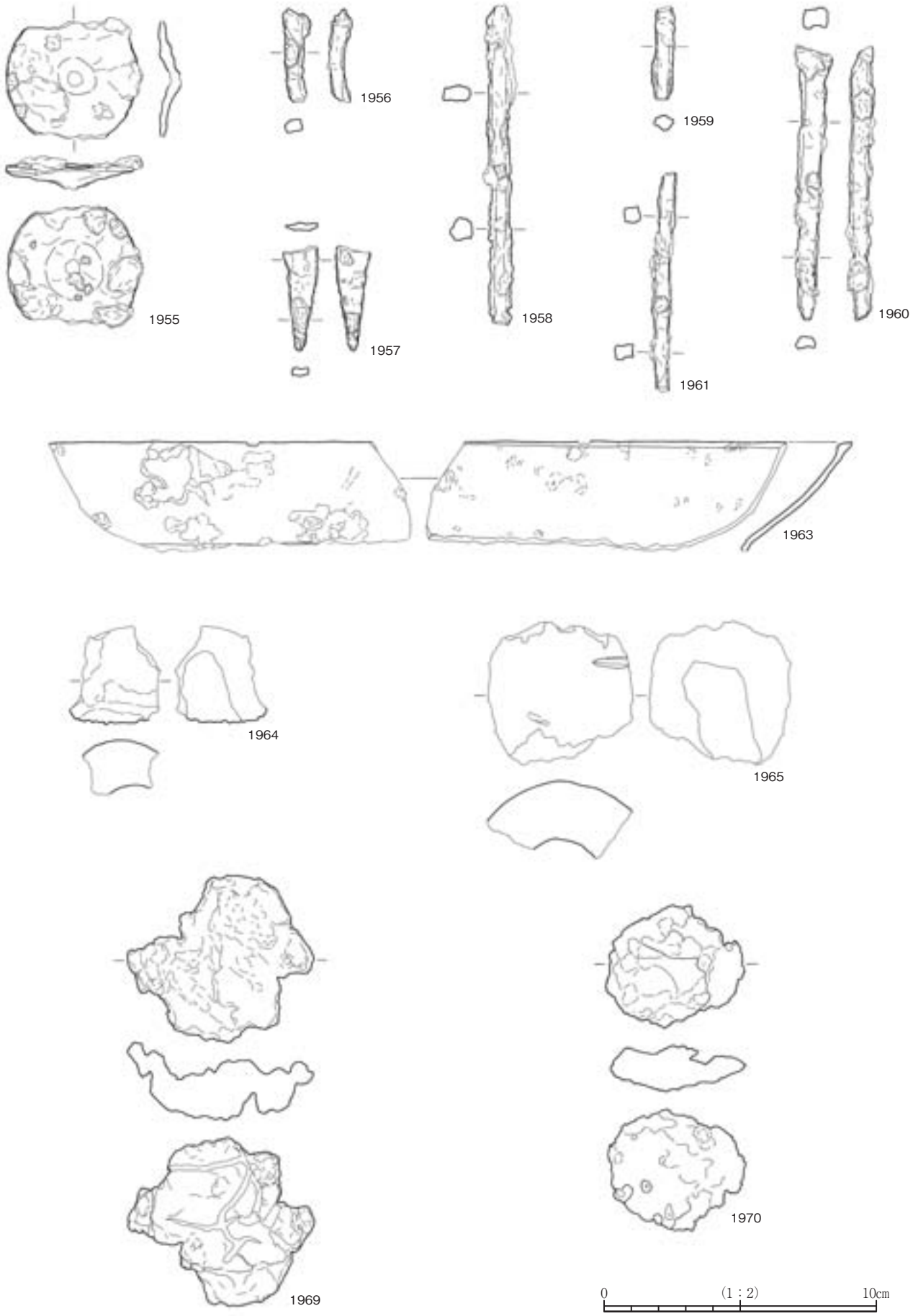
第 212 図　石器・石製品（10）



第 213 図　石器・石製品（11）



第 214 図　石器・石製品（12）


1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1963
1964
1965
1969
1970
0
(1：2)
10cm

第 215 図　鉄関連遺物

第6表　土器一覧

調査年度	仮NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上No.等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2012	A001	1	住居跡1	東壁際・床直		口縁部～底部	深鉢	口縁B字突起、多重沈線、外面上部オコゲ多量、LRヨコ		150	109
2012	A002	2	住居跡1	埋土		口縁部	深鉢	LRヨコ		150	109
2012	A003	3	住居跡1	埋土		体部（口縁近）	深鉢	沈線、内面オコゲ多、LRヨコ	4と同一個体	150	109
2012	A004	4	住居跡1	埋土		体部	深鉢	沈線、内面オコゲ多、LRヨコ	3と同一個体	150	109
2012	A092	5	住居跡1	埋土・調査区一括		口縁部	深鉢	入組工字文、磨消縄文		150	-
2012	A016	6	住居跡2	床面（P2）		底部	深鉢	LRヨコ		150	109
2012	A011	7	住居跡2	南西部埋土		口縁部	浅鉢？	口縁頂部幅広刻み、平行沈線、RLナナメ～ヨコ		150	109
2012	A010	8	住居跡2	南東部埋土		体部	壺	沈線		150	109
2012	A012	9	住居跡2	南東部埋土		口縁部	浅鉢？	口縁頂部刻み、平行沈線、LRヨコ		150	109
2012	A015	10	住居跡2	南東部埋土		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み、平行沈線、RLヨコ		150	109
2012	A013	11	住居跡2	東側土坑埋土上部		口縁部	浅鉢？	口縁A字突起2個（突起間に溝）・頂部溝、平行沈線、RLヨコ		150	109
2012	A014	12	住居跡2	東側土坑埋土上部		口縁部	深鉢	平行沈線、輪積み痕顕著	21と同一個体	150	109
2012	A007	13	住居跡2	東ベルト石棒周辺埋土		口縁部	深鉢	口縁頂部外側に幅広刻み、沈線、LRヨコ		150	109
2012	A008	14	住居跡2	東ベルト石棒周辺埋土		口縁部	深鉢？	口縁頂部溝・外側刻み		150	109
2012	A018	15	住居跡2	埋土		口縁部	深鉢	口縁折返、孔1個		150	109
2012	A019	16	住居跡2	埋土		口縁部	深鉢	口縁小波状、沈線		150	109
2012	A021	17	住居跡2	埋土		口縁部	深鉢	口縁小波状、平行沈線、RLヨコ		150	109
2012	A022	18	住居跡2	埋土		口縁部	深鉢？	口縁頂部溝、平行沈線		150	109
2012	A006	19	住居跡2	埋土		口縁部	深鉢	口縁小突起、RLヨコ		150	109
2012	A017	20	住居跡2	埋土		体部	壺	磨消縄文、工字文、区画された沈線、LRヨコ		150	109
2012	A020	21	住居跡2	埋土		口縁部	深鉢	口縁小突起、平行沈線	12と同一個体	151	109
2012	A005	22	住居跡2	床面直上		口縁部～底部	深鉢	頸部磨消による無文帯、内面ミガキ顕著、LRヨコ		151	109
2012	A009	23	住居跡2	撹乱埋土		口縁部	深鉢	多重沈線、内面オコゲ多量		151	109
2012	A023	24	住居跡3	P1・P3・P4・P7		口縁部（？）～底部	深鉢	口縁付近沈線、頸部内湾気味、LRヨコ～ナナメ	小形の深鉢	151	110
2012	A026	25	住居跡3	床直（P1）		体部	深鉢	沈線、LRヨコ		151	110
2012	A027	26	住居跡3	地床炉周辺床面		体部	深鉢	平行沈線、LRヨコ、摩滅激しい		151	110
2012	A024	27	住居跡3	南西埋土下位～床直		底部	台付鉢	台の内面ナデ・外面ミガキ、LRヨコ		151	110
2012	A025	28	住居跡3	埋土		底部	深鉢	RLヨコ		151	110
2012	A030	29	住居跡4	南西部埋土		底部	深鉢	外面摩滅激しく原体不明、内面ミガキ		151	110
2012	A028	30	住居跡4	床面		体部	壺？	LRヨコ、磨消縄文、入組工字文		151	110
2012	A029	31	住居跡4	床面		体部	皿？	LRヨコ？、磨消縄文、雲形文		151	110
2012	A031	32	住居跡5	炉内(P1)		体部～底部	深鉢	LRヨコ～ナナメ		151	110
2012	A032	33	住居跡5	炉周辺床面		底部	深鉢	上げ底気味		151	110
2012	A033	34	住居跡6	炉内（P1・P2）		体部～底部	深鉢	口縁付近沈線、頸部内湾気味、LRヨコ～ナナメ		152	110
2012	A040	35	住居跡6	炉内		口縁部	深鉢	沈線、内面焼けはじけ、RLヨコ		152	110
2012	A034	36	住居跡6	埋土		口縁部	深鉢	内面ミガキ、RLナナメ		152	110
2012	A036	37	住居跡6	埋土		口縁部	浅鉢？	口縁頂部刻み・溝、体部に瘤、平行沈線、RLヨコ		152	110
2012	A037	38	住居跡6	埋土		口縁部	深鉢	口縁山形状突起連続、沈線		152	110
2012	A038	39	住居跡6	埋土		口縁部	深鉢？	口縁頂部幅広刻み・溝、沈線		152	110
2012	A039	40	住居跡6	埋土		口縁部	深鉢	口縁外側幅広刻み、平行沈線、外面オコゲ多量、RLヨコ	厚みが違うが42に類似	152	110
2012	A035	41	住居跡6	埋土		口縁部	深鉢	口縁頂部溝、太め沈線、LRヨコ		152	111
2012	A041	42	住居跡6	埋土		口縁部	深鉢	口縁頂部外側に大刻み、繊維質な工具によるグニャグニャの多重沈線、LRヨコ	厚みが違うが40に類似	152	111
2012	A042	43	住居跡7	埋土		口縁部	深鉢？	口縁山形突起貼付（突起間に溝）・頂部溝、平行沈線、LRヨコ		153	111
2012	A043	44	住居跡7	埋土		口縁部	深鉢	平行沈線、外面オコゲ多量、LRヨコ		153	111
2012	A044	45	住居跡8	炉内（P1）		口縁部	深鉢	口縁頂部外側に幅広刻み、外面オコゲ多量、LRヨコ		153	111
2012	A045	46	住居跡8	炉内（P1）		口縁部～体部	鉢	口縁頂部刻み、平行沈線、胎土細礫の混入顕著、LRヨコ～ナナメ		153	111
2012	A170	47	住居跡8	黒褐色土		口縁部	浅鉢	平行沈線、点刻列		153	111

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2012	A171	48	住居跡 8	黒褐色土		体部	深鉢	摩滅激しい、RL タテ？		153	111
2012	A046	49	住居跡 10	埋土下～床面		体部	不明	磨消縄文、区画された沈線、LR ヨコ		153	111
2012	A047	50	住居跡 10	埋土下～床面		口縁部	深鉢	節小さい羽状文？胎土細礫の混入多い		153	111
2012	A048	51	住居跡 10	埋土下～床面		口縁部	不明	沈線、LR ヨコ？		153	111
2012	A049	52	住居跡 12	南西部床面（P1）		体部～底部	壺	上半部―磨消縄文による工字文（4 単位）、欠損部際（頸部付近）は匹字文？、下半部―RL ヨコ、多重沈線		153	111
2012	A050	53	住居跡 12	埋土		口縁部	壺	A 字突起、口縁頂部溝		153	111
2012	A051	54	住居跡 12	埋土		体部	浅鉢	口縁 A 字突起 2 個・彫り込みによる連続突起、体部雲形文？・瘤 1 個		153	111
2012	A052	55	住居跡 12	埋土		口縁部	不明	口縁頂部縄文 RL、沈線、外面オコゲ多量		153	111
2012	A053	56	住居跡 12	埋土		口縁部	深鉢	沈線、LR ヨコ？		153	111
2012	A172	57	住居跡 12	埋土		口縁部（？）～底部	壺	LR ヨコ	52 と形が類似	153	111
2012	A055	58	住居跡 13	3 層		口縁部	深鉢	口縁波状、沈線、LR ヨコ		153	111
2012	A056	59	住居跡 13	埋土下部		口縁部	壺	平行沈線		153	111
2012	A054	60	住居跡 13	埋土		底部	深鉢	内面剥離激しい、LR ナナメ～ヨコ		153	111
2012	A057	61	住居跡 13	埋土		口縁部	不明	沈線、外面ケズリ		153	111
2012	A058	62	住居跡 13	埋土		口縁部	注口？	沈線、ベンガラ？付着、摩滅激しい		153	-
2012	A060	63	住居跡 14	2 層		口縁部	深鉢	沈線、LR ヨコ		154	111
2012	A093	64	住居跡 14	埋土下部・検出面		口縁部～底部	深鉢	RL ヨコ（上部）タテ（下部）、底部網代痕		154	111
2012	A061	65	住居跡 14	埋土		口縁部	皿？	口縁小波状、雲形文、沈線、内面ミガキ		154	112
2012	A059	66	住居跡 14	検出面		底部	深鉢	底部網代痕、摩滅激しい		154	112
2012	A062	67	住居跡 14	検出面		口縁部	深鉢	LR ヨコ		154	112
2012	A063	68	住居跡 14	検出面		口縁部	深鉢	隆帯貼付、沈線、LR ヨコ		154	112
2012	A064	69	住居跡 14　Pit1	埋土		口縁部	深鉢	平行沈線		154	112
2012	A065	70	住居跡 14　Pit1	埋土		口縁部	壺	沈線文、LR ヨコ？		154	112
2012	A066	71	住居跡 15	1 層		口縁部	深鉢	口縁波状気味、RL ヨコ		154	112
2012	A067	72	住居跡 15	2・3 層		口縁部	深鉢？	口縁山形状突起（中央に刻み）、外面オコゲ多量		154	112
2012	A068	73	住居跡 15	2・3 層		口縁部	深鉢	外面オコゲ多量、原体不明		154	112
2012	A069	74	住居跡 15	埋土		口縁部	深鉢	平行沈線、LR ヨコ		154	112
2012	A071	75	住居跡 15	埋土		口縁部	深鉢	平行沈線、竹管文 2 個		154	112
2012	A072	76	住居跡 15	埋土		口縁部	深鉢？	沈線文		154	112
2012	A070	77	住居跡 15	埋土		口縁部	深鉢	沈線、無節 L		154	112
2012	A074	78	住居跡 16	埋土		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み、平行沈線、LR ヨコ		154	112
2012	A075	79	住居跡 16	埋土		口縁部	深鉢	羽状文、平行沈線、外側オコゲ多量		154	112
2012	A073	80	住居跡 16	埋土		底部	台付			154	112
2012	A081	81	住居跡 18	埋土		口縁部	浅鉢	彫り込みによる突起、内・外面ミガキ研磨顕著		154	112
2012	A082	82	住居跡 18	埋土		口縁部	深鉢	LR ヨコ		154	112
2012	A083	83	住居跡 18	埋土		体部	深鉢	LR ヨコ？		154	112
2012	A080	84	住居跡 18	埋土	下位土坑：埋土	体部～底部	深鉢	多重沈線、LR ヨコ		155	112
2012	A084	85	住居跡 18	埋土	下位土坑：埋土	体部	深鉢	多重沈線、RL タテ		155	112
2012	A085	86	住居跡 19・20	埋土		口縁部	深鉢	LR ヨコ		155	112
2012	A086	87	住居跡 19・20	埋土		口縁部	深鉢	RL ヨコ		155	112
2012	A087	88	住居跡 19・20	埋土		口縁部	深鉢	RL ヨコ		155	112
2012	A088	89	住居跡 21	炉内（埋設）		口縁部～底部	浅鉢	多重沈線、LR ヨコ		155	112
2012	A089	90	住居跡 21	埋土		底部	深鉢	LR ナナメ～タテ		155	112
2012	A090	91	住居跡 21	埋土		体部	深鉢	沈線、外面ミガキ、内面オコゲ多量		155	112
2012	A091	92	住居跡 21	埋土		口縁部	深鉢	外面・内面ミガキ		155	112
2013	A205	93	住居跡 22	埋土		口縁		口唇面沈線。地文：縄文 RL 横。		155	112
2013	A201	94	住居跡 22	埋土上部		口縁		地文：縄文 LR。外面オコゲ付着顕著		155	112

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A202	95	住居跡 22	埋土上部		口縁		山形突起。口唇面沈線。多重横走沈線。外面赤彩痕跡。		155	112
2013	A203	96	住居跡 22	埋土上部		胴部		平行沈線。地文：縄文 LR 横。		155	112
2013	A204	97	住居跡 22	埋土上部		口縁		小波状口縁。		155	112
2013	A206	98	住居跡 24　南東部	RP1 群　床面直上		口縁～底部	深鉢	口縁部外面オコゲ顕著。地文：縄文 LR 横。	AMS　2,690±20	155	113
2013	A207	99	住居跡 24　南東部	RP2 群　床面直上		口縁～台部	小形台付深鉢	口縁部突起（欠損不詳）。口縁下 4 条の平行沈線。胴部～台部地文：縄文 LR 横。台部斜行する平行沈線による加飾（鋸歯状？）。		155	113
2013	A208	100	住居跡 24　南東部	RP3 群　床面直上		口縁～底部	台付浅鉢	口縁部下及び台部に多重隆沈線による文様帯。2 個一対の小突起。口縁内面横位沈線。底部内面中央沈線による円文。胴部無文。内外とも全体に入念なミガキ調整。		155	113
2013	A209	101	住居跡 24　南東部	RP6　埋土中部		胴部～台部	台付鉢	胴部地文：縄文 RL。台上部に 4 条の平行沈線。		156	113
2013	A210	102	住居跡 24　南部	埋土		口縁～底部	小形深鉢	口縁部 2 個一対の小突起。地文：縄文 LR 横。口縁内外に吹きこぼれ状のオコゲ。		156	113
2013	A211	103	住居跡 24　東部	埋土		口縁		突起。多重横走沈線。地文：縄文 RL 横。		156	113
2013	A212	104	住居跡 24　東部	埋土		口縁	壺	口縁部下変形工字文。口縁内面上端沈線。		156	113
2013	A213	105	住居跡 24　東部	埋土		口縁		口縁部上端に多重沈線（変形工字文）。口唇外縁に連続刻目。		156	113
2013	A214	106	住居跡 24　東部	埋土		口縁		口唇部指頭状連続刻目により口縁小波状呈す。地文：縄文 LR 横。		156	113
2013	A215	107	住居跡 24　北部	埋土		台部	台付鉢	変形工字文。外面赤彩痕跡。		156	113
2013	A216	108	住居跡 24　西部	埋土		口縁		山形の小突起。口唇内面に沈線。地文：縄文 LR 横。		156	113
2013	A217	109	住居跡 24　西部	埋土		胴部		横位平行沈線の間に刺突による列点文。地文：縄文 LR 横。		156	113
2013	A218	110	住居跡 24　西部	埋土		口縁	深鉢	器外面剥落？　胎土に繊維含む。		156	113
2013	A219	111	住居跡 24　西部	埋土		口縁	鉢？	口縁部上端平行沈線。地文なし。		156	113
2013	A220	112	住居跡 24	埋土		口縁～胴部	鉢	変形工字文。口縁部内面上端に沈線。地文：縄文 LR。		156	113
2013	A381	113	住居跡 26	RP1,2		口縁～胴部	甕形土器	（本文に記載）	a･b 有。弥生時代後期。 AMS　1,840±20	156	113
2013	A221	114	住居跡 27	炉内（RP1）		口縁～底部	鉢	口縁部平行沈線。2 個一対の小突起。地文：縄文 LR 横。		156	113
2013	A222	115	住居跡 27	炉内（RP1）		胴部～底部	深鉢	縄文 RL 横。		156	113
2013	A223	116	住居跡 28	床面直上（RP1）		口縁～底部	深鉢	口縁：波状（4 単位）。波頂部直下：横位橋状（?）貼付加飾体（上面に小円形刺突）。波頂下部：円形凹文（3 個縦列）。波底部：2 個一対の山形小突起（L 側面圧痕による連続刻目状施文）。波底部下：環状貼付文（L 側面圧痕による連続刻目状施文）。口縁部文様帯：口縁波形に沿った多重弧状沈線文。沈線間に短沈線状の刻目列充填。文様帯下縁：横位太隆帯貼付により肥厚させ以下と区画。胴～底部：縦位結節回転文（無節条・右結）。撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。底面：網代痕。		157	114
2013	A224	117	住居跡 29	埋土		口縁	深鉢	口縁部肥厚。縄文 LR 縦？		157	114
2013	A225	118	住居跡 29	埋土		胴部	深鉢	R による撚糸文または結節回転文？		157	114
2013	A226	119	住居跡 29	埋土		胴部～底部	深鉢？	r の圧痕（無節縄文 L か？）		157	114
2013	A227	120	住居跡 30	埋土		口縁	深鉢	沈線による曲線文。地文：縄文 LR 斜。		157	114
2013	A332	121	住居跡 31	埋土		口縁	深鉢	縦位結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR 縦。		157	114
2013	A333	122	住居跡 31	埋土		口縁	深鉢	縦位撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		157	114
2013	A235	123	住居跡 32	埋土		口縁	土師器甕	口縁部内外面ヨコナデ。		157	114
2013	A232	124	住居跡 32	床面炉跡被覆層		口縁	土師器甕	焼成後穿孔（補修孔）。		157	114
2013	A233	125	住居跡 32	埋土		口縁	深鉢	横走有刺突隆帯（竹管状）。横位多重結節回転文（無節条・左右結？）※ S 字状連鎖沈文		157	114
2013	A234	126	住居跡 32	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・左結）。胎土に繊維多。		157	114
2013	A236	127	住居跡 32	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突（指頭状）。結節回転文？（無節条・結び不明）。		157	114
2013	A376	128	住居跡 33	床面直上（RP1）		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		157	114
2013	A377	129	住居跡 33	床面直上（RP2）		口縁	深鉢	縦位撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		157	114
2013	A378	130	住居跡 33	埋土		口縁	深鉢	波状口縁。波頂部に刻目。曲線沈線文。地文：無節縄文 L。		157	114
2013	A379	131	住居跡 33	埋土		口縁	深鉢	口縁部弁状突起。突起上面連続刺突。地文：木目状撚糸文 R（単軸絡条体第 1A 類）。		157	114
2013	A380	132	住居跡 33	埋土		胴部～底部		（残存部無文。）		157	114
2013	A385-1	133	住居跡 33　北部	埋土		口縁～底部	深鉢	山形突起。横位羽状縄文（LR＋RL・結束第 1 種）。胎土に細礫多。		158	114
2013	A385-2	134	住居跡 33	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位有刺突（指頭状）太隆帯。		158	115
2013	A386	135	住居跡 33	埋土		胴部～底部	深鉢	横位羽状縄文（結束第 1 種）LR＋RL。		158	115
2013	A387	136	住居跡 33　南東部	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文（r ？・左結）。地文：無節縄文 R 横。		158	115
2013	A388	137	住居跡 33　北東部	埋土		口縁	深鉢	縄文 LR 横？結節回転？胎土に繊維多量。		158	115

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A389	138	住居跡 33	埋土		口縁	土師器甕	口縁部内外ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。		158	115
2013	A390	139	住居跡 33	埋土		口縁	土師器甕	口縁部内外ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面ヘラナデ。		158	115
2013	A654	140	住居跡 34	カマド被覆崩落土		胴部～底部	土師器甕	胴下部ケズリ（縦）。胴下端ケズリ（横）。内面ヘラナデ（横）。焼成後穿孔１個。		158	115
2013	A653	141	住居跡 34	焼土４上面		口縁～胴部	土師器甕	口縁部内外面ナデ（横）。胴部ケズリ（縦）。内面ヘラナデ（縦→横）。		158	115
2013	A655	142	住居跡 34　Pit3	埋土		口縁～胴部	土師器甕	口縁部内外面ナデ（横）。胴部ケズリ（縦）。内面ヘラナデ（横）。		158	115
2013	A657	143	住居跡 34	埋土		口縁	土師器甕	口縁部内外ヨコナデ。胴部ケズリ（縦）。内面ヘラナデ（横）。		158	115
2013	A656	144	住居跡 34　Pit3	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・左結）。胎土に繊維多量。		158	115
2013	A658	145	住居跡 34	埋土	住居跡 90・91 付近	口縁～胴部	深鉢	口縁部横位撚糸文 R（単軸絡条体第１類）。地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		158	115
2013	A228	146	住居跡 35	埋土		口縁	深鉢	口縁部下に無文帯。その上下に横位結節回転文（L・左結）。地文：縄文 RL 横。		158	115
2013	A229	147	住居跡 35	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位結節回転文（L・左結）。地文：縄文 RL 横。胎土に繊維多。		158	115
2013	A230	148	住居跡 35	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。		158	115
2013	A231	149	住居跡 35	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR 横。胎土に繊維やや多。		158	115
2013	A346	150	住居跡 36	埋土		口縁	深鉢	横位羽状縄文（結束第１種・RL＋LR（0 段多条））。胎土に繊維含む。		159	115
2013	A347	151	住居跡 36	埋土		口縁	深鉢	撚糸文（無節の条）。単軸絡条体第１類？		159	115
2013	A348	152	住居跡 36	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR ？		159	115
2013	A349	153	住居跡 36	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 縦。		159	115
2013	A351	154	住居跡 36	埋土		胴部	深鉢	横位多重不整撚糸文（結節回転文？）胎土に繊維多量。		159	115
2013	A352	155	住居跡 37	埋土		口縁	深鉢	口縁部縄文 LR 横。		159	115
2013	A353	156	住居跡 37	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：横位多重の R 圧痕（縄文 LR ？）。		159	115
2013	A354	157	住居跡 37	埋土		胴部		小波状隆帯。		159	115
2013	A428	158	住居跡 38	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端多重列点刺突文。地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		159	115
2013	A429	159	住居跡 39	埋土		口縁	深鉢	横位不詳条痕。胎土に繊維多量。		159	115
2013	A430	160	住居跡 39	埋土		口縁	深鉢	口唇面丸棒状工具側面押圧による連続刻目。地文：不詳撚糸文。		159	115
2013	A431	161	住居跡 39	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節文（R・左結）。胎土に繊維多。		159	115
2013	A432	162	住居跡 39	北側攪乱部		口縁	深鉢	口縁部上端無文帯。口縁下横位多重結節回転文（不詳無節条・右結）。		159	116
2013	A433	163	住居跡 40	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR。		159	116
2013	A434	164	住居跡 40	埋土		口縁	深鉢	地文：撚糸文 L（単軸絡条体第１類？）		159	116
2013	A435	165	住居跡 40	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端横位有刺突（指頭状）隆帯。口唇面連続刻目。全体磨滅著しい。		159	116
2013	A436	166	住居跡 40	埋土		口縁	深鉢	縄文 LR（0 段多条？）横。胎土に繊維多量。		159	116
2013	A437	167	住居跡 40	埋土		口縁	深鉢	器外面不整な小凹凸、粗雑なナデ。内面は相対的に丁寧なナデ。胎土に繊維多量。		159	116
2013	A690	168	住居跡 42	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・左結）。		159	116
2013	A691	169	住居跡 42	埋土		口縁	深鉢	口唇面外下がりで外縁張り出す。横位結節回転文（L・左結）。胎土に繊維多量。		159	116
2013	A693	170	住居跡 42	埋土		口縁	深鉢	平行する数条を一単位とする多重弧状沈線文。胎土に繊維多量。		159	116
2013	A692	171	住居跡 42	埋土		胴部～底部	尖底深鉢？	撚糸文 L（単軸絡条体第１類？）。胎土に繊維多量。		159	116
2013	A329	172	住居跡 43　Pit1	埋土（RP2）		底部	深鉢	底面網代痕。胎土に細礫多量。		159	116
2013	A327	173	住居跡 43	埋土		口縁	深鉢	口縁部下円形竹管刺突文。		159	116
2013	A328	174	住居跡 43	埋土		胴部		太い沈線文。地文：丸組紐？		159	116
2013	A383	175	住居跡 43	埋土		胴部		縦位結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR 縦。		159	116
2013	A384	176	住居跡 43	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重条圧痕（R または r）。		159	116
2013	A330	177	住居跡 44	埋土		口縁	深鉢	地文：多重不明条痕。		159	116
2013	A331	178	住居跡 44	埋土		口縁	深鉢	木目状撚糸文（R・R の２本一組）（単軸絡条体第 1A 類）。		159	116
2013	A424	179	住居跡 45	埋土		口縁	深鉢	（器外面剥落顕著）。胎土に繊維多量。		159	116
2013	A334	180	住居跡 46	床面直上（RP2,6,8,9）		口縁～底部	深鉢	地文：撚糸文 L（単軸絡条体第１類）。底面網代痕。胎土に細礫目立つ。		160	116
2013	A335	181	住居跡 46	床面直上		口縁	深鉢	口縁部下横位太隆帯。地文：撚糸文？		160	116
2013	A336	182	住居跡 46	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 縦（口縁付近の一部は横回転）。		160	116
2013	A337	183	住居跡 46	埋土		口縁	深鉢	地文：撚糸文 R（単軸絡条体第１類）。		160	116
2013	A338	184	住居跡 46	埋土		口縁	深鉢	地文：撚糸文 R（単軸絡条体第１類）。		160	116
2013	A339	185	住居跡 46	埋土		口縁	深鉢	横位 R 圧痕（結節回転文？）。胎土に繊維含む。		160	116

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A340	186	住居跡 46	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 斜回転（条方向横位）。		160	116
2013	A341	187	住居跡 46	埋土		口縁		口唇連続刺突。横位 L 圧痕（平たく角張った条・結節回転文か？）。		160	117
2013	A342	188	住居跡 46・49	埋土		口縁～底部	深鉢	口縁部臼歯列状の突起（波状口縁または弁状突起頂部か）。地文：縦位撚糸文 R（単軸絡条体第１類）。		160	117
2013	A344	189	住居跡 47	埋土		口縁	深鉢	口唇面沈線。口縁部下横位結節回転文（？）R。		160	117
2013	A345	190	住居跡 47	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁外反。地文：縄文 LR 縦？胎土に繊維多量。		160	117
2013	A343	191	住居跡 47	埋土		胴部～底部		撚糸文 R。		160	117
2013	A393	192	住居跡 47・52	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。		160	117
2013	A394	193	住居跡 47・52	埋土		口縁	深鉢	両端が角状に高まる弁状突起。地文：丸組紐？		160	117
2013	A395	194	住居跡 47・52	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突。地文：丸組紐。		160	117
2013	A396	195	住居跡 47・52	埋土		口縁	深鉢	口縁部多重結節回転文（R・左結）。胎土に繊維多量。		161	117
2013	A397	196	住居跡 47・52	埋土		口縁	深鉢	口縁部多重結節回転文（R・右結）。		161	117
2013	A398	197	住居跡 47・52	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突（刻目状）。弁状突起？		161	117
2013	A399	198	住居跡 47・52	埋土		口縁		口唇の一部を摘まみ出したような様な装飾（突起？）。平行沈線による曲線文。沈線途切れる箇所は貼付の剥落か。		161	117
2013	A425	199	住居跡 48	埋土		口縁	深鉢	口唇面刻目？結節回転文？（有節の条圧痕認められるが不明瞭）。口縁部下内面に条圧痕有。		161	117
2013	A427	200	住居跡 48	埋土		口縁	深鉢	木目状撚糸文 R（単軸絡条体第 1A 類）。		161	117
2013	A370	201	住居跡 49	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端横位隆帯。地文：縄文 LR 横（隆帯上も同時施文）。		161	117
2013	A371	202	住居跡 49	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突（円形竹管状）。地文：丸組紐？		161	117
2013	A372	203	住居跡 49	埋土		胴部		地文：丸組紐。		161	117
2013	A373	204	住居跡 49	埋土		胴部		横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：縄文 RL 横。		161	117
2013	A374	205	住居跡 49	埋土		胴部		半截竹管状工具による曲線沈線文。地文：縄文 RL ？		161	117
2013	A375	206	住居跡 49	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 縦。		161	117
2013	A368	207	住居跡 49	北側上端周辺		胴部		木目状撚糸文 R（単軸絡条体第 1A 類）。		161	117
2013	A369	208	住居跡 49	北側上端周辺		口縁～胴部	深鉢	縄文 LR ？		161	117
2013	A694	209	住居跡 50	埋土		胴部	尖底深鉢？	地文：多軸絡条体？（R3 本の束）。		161	118
2013	A695	210	住居跡 50	埋土		胴部～底部		底面網代痕。		161	118
2013	A391	211	住居跡 52	埋土		口縁	深鉢	（残存部無文。）		161	118
2013	A392	212	住居跡 52	埋土		口縁	深鉢	地文：ｒの多重圧痕（無節縄文？附加条？）		161	118
2013	A402	213	住居跡 53	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位結節回転文（r・右結）。地文：無節縄文 L 横。		161	118
2013	A403	214	住居跡 53	埋土		口縁	深鉢	口縁直下横位太隆帯。口縁上端外反して隆帯と一体化し口縁部肥厚。地文：縄文 LR 横（隆帯上も同時施文）。		161	118
2013	A404	215	住居跡 53	埋土		口縁	深鉢	口縁部直下横位有刺突（円形）隆帯。		161	118
2013	A405	216	住居跡 53	埋土		口縁	深鉢	弁状突起の頂部肥厚し楕円形加飾体。網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。		161	118
2013	A406	217	住居跡 53	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続押圧により口縁緩い小波状呈す。地文：丸組紐？		161	118
2013	A407	218	住居跡 53	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：縄文 LR ？器外面剥落顕著。		161	118
2013	A408	219	住居跡 53	埋土		口縁	深鉢	縦位結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR ？		161	118
2013	A400	220	住居跡 53	埋土		胴部～底部	深鉢	地文：撚糸文 R（単軸絡条体第１類）。底部下端張り出す。		161	118
2013	A401	221	住居跡 53	埋土		（尖底）底部	尖底深鉢	地文：縄文 RL。		161	118
2013	A479	222	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突（円形竹管）。口縁部鋸歯状太沈線。口縁部下有刺突隆帯。磨滅顕著。		162	118
2013	A480	223	住居跡 54	埋土		口縁～胴部	深鉢	地文：無節縄文（撚り不詳）。		162	118
2013	A481	224	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	山形突起。網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。		162	118
2013	A482	225	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。		162	118
2013	A483	226	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	撚糸文 L（単軸絡条体第１類）。		162	118
2013	A484	227	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	地文：組縄縄文。		162	118
2013	A487	228	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位有刺突（小円形）隆帯。木目状撚糸文（R・L2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。		162	118
2013	A488	229	住居跡 54	埋土		口縁		口縁上端沈線。口縁部沈線による曲線文。地文：無節条圧痕（縄文？撚糸文？）。		162	118
2013	A489	230	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	口唇面撚糸文 R（単軸絡条体第１種）。地文：同左。		162	118
2013	A490	231	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	口縁部無文帯。地文：縄文 LR 横。		162	118
2013	A491	232	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：無節縄文 L 縦。		162	118

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A492	233	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	縄文 LR 横。胎土に繊維目立つ。		162	118
2013	A493	234	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	低い弁状突起の上面に擂鉢状の円形刺突列（4 個）。口唇面円形竹管刺突。突起下に細粘土紐による羊頭状（3 字状）の崩れた貼付文。地文：縄文 LR 横？。内外面オコゲ付着顕著。		162	118
2013	A494	235	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。胎土に繊維やや多量。		162	118
2013	A495	236	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	横位平行沈線文（やや鋭く深い）。地文：縄文 RL 横。	大木 3～4 ？	162	118
2013	A496	237	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	小山形突起。横位多重結節回転文（ｒ？・左結）。		162	118
2013	A497	238	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	玉縁状の口縁。横位木目状撚糸文（R2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）？。胎土に繊維多量。		162	118
2013	A498	239	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	口縁部刺突文。		162	118
2013	A500	240	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 縦？（角張って深く細長い節）。胎土に繊維多量。		162	118
2013	A501	241	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	山形突起。突起上面～口唇面に中央を凹線状に凹ませるナデ。口唇外縁に連続刻目。横位多重結節回転文（R・左結）。		162	118
2013	A502	242	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	地文：オオバコ回転文か。口縁部下焼成後穿孔（1 個）。		162	118
2013	A503	243	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	口縁部鋸歯状加飾体（上面に沈線文）。口縁部下横位隆帯（上面指頭状連続押圧）。		162	118
2013	A505	244	住居跡 54	埋土		口縁～胴部	深鉢	横位羽状縄文（LR＋RL・結束第 1 種）。胎土に繊維やや多。		162	119
2013	A506	245	住居跡 54	埋土		口縁	深鉢	口縁部無文帯。口縁下横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：縄文 LR 縦。胎土に細礫多量。器面内外剥落顕著。		162	119
2013	A485	246	住居跡 54	埋土		胴部		細隆帯による曲線意匠（梯子状文等）。		162	119
2013	A499	247	住居跡 54	埋土		胴部	深鉢	口縁部大きく開く器形（朝顔形）か。内外面極めて丁寧なナデ調整。地文：丸組紐。		162	119
2013	A504	248	住居跡 54	埋土		底部（尖底）	尖底深鉢	地文：縄文 LR。早期末葉～前期初頭。		162	119
2013	A486	249	住居跡 54	埋土		底部（尖底）	尖底深鉢	地文：縄文 RL。早期末葉～前期初頭。		162	119
2013	A768	250	住居跡 55	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刻目。横位結節回転文（L・左結）。		163	119
2013	A769	251	住居跡 55	埋土		口縁	深鉢	口縁部 R 側面圧痕による横位展開文様。		163	119
2013	A770	252	住居跡 55	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重条痕（工具調整痕様）。		163	119
2013	A771	253	住居跡 55	埋土		口縁	深鉢	竹管状工具外面による押引状凹線文。		163	119
2013	A772	254	住居跡 55	埋土		口縁	深鉢	地文：附加条縄文（RL・R）。		163	119
2013	A765	255	住居跡 55	埋土下部		口縁～胴部	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状呈す。斜行結節回転文（L・左結）。胎土に細礫多量。		163	119
2013	A767	256	住居跡 55	埋土下部		口縁～胴部	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状呈す。地文：植物穂先回転文か。		163	119
2013	A766	257	住居跡 55	埋土下部		底部		底部下端張り出す。底面篦状工具調整状の条痕。胎土に細礫多量。		163	119
2013	A574	258	住居跡 58・59	RP1		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・右結）。		163	119
2013	A516	259	住居跡 58・59	埋土		口縁～胴部	深鉢	横位結節回転文 R ？。器外面剥落顕著。		163	119
2013	A517	260	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（L・左結）。地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		163	119
2013	A518	261	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突（指頭状）により口縁小波状呈す。		163	119
2013	A519	262	住居跡 58・59	埋土		口縁		口唇面及び口縁部円形刺突。残存状況不良。		163	119
2013	A520	263	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位回転文（結節または撚糸文か）。口唇面に同種施文。		163	119
2013	A521	264	住居跡 58・59	埋土		胴部		細隆帯による曲線意匠（小波状・梯子状文等）。地文：不詳（縄文？）。	大木 4 ？	163	119
2013	A522	265	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	波状口縁。波頂部に 2 個の押圧加え弁状突起様。地文：縦位撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		163	119
2013	A523	266	住居跡 58・59	埋土		胴上部	深鉢	口縁部付近輪積面で欠損。口縁部加飾体（几字状？）。加飾帯上面凹線文。地文：不詳撚糸文。		163	119
2013	A524	267	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起（上面刺突列）。突起頂部下～口縁上端に沿って、有刺突（指頭状）隆帯。地文：撚糸文R（単軸絡条体第 1 類）。		163	119
2013	A525	268	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部焼成後穿孔（補修孔か）。地文：横位羽状縄文（RL＋LR・非結束）。		163	119
2013	A526	269	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部玉縁状。撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類？）。		163	119
2013	A527	270	住居跡 58・59	埋土		口縁部突起		上面観楕円形の突起。		163	119
2013	A528	271	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起（頂部指頭状刻目）。口縁下有刺突（指頭状？）太隆帯。地文：縄文 LR ？		163	119
2013	A529	272	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部平行沈線。地文：不詳斜縄文。胎土に繊維多量。		163	119
2013	A530	273	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文（無撚条・単軸絡条体第 5 類）。上下一対の焼成後穿孔（補修孔か）。		163	120
2013	A531	274	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部朝顔形に開く器形。口縁部下（頸部）横位小波状細隆帯貼付文。ハート形意匠。内外面非常に丁寧なナデ。口縁上端に焼成後穿孔（1 個）。		163	120
2013	A532	275	住居跡 58・59	埋土		胴部		有刺突（円形竹管状）隆帯。		164	120
2013	A533	276	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	小山形突起（頂部刻目）。口唇面凹線。横位結節回転文（R・右結）。縄文 LR 横。		164	120

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A534	277	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文（無撚条・左結？）。		164	120
2013	A535	278	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	撚糸文 LR（単軸絡条体第 1 類）。		164	120
2013	A536	279	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	山形突起。横位多重結節回転文（R・左結）。胎土に繊維多量。		164	120
2013	A537	280	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	附加条縄文 LR＋R 横。附加条末端部の結節回転文。		164	120
2013	A538	281	住居跡 58・59	埋土		胴部		頸部有刻目横位細隆帯（器面に達する鋭い連続刻目）。同左隆帯による曲線貼付文。地文：直前段合撚 R{L・R} ？。		164	120
2013	A539	282	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	弁状突起（頂部爪形刺突）。地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		164	120
2013	A540	283	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	R の側面押圧による縦位短沈線状の列点文。胎土に繊維多量。		164	120
2013	A541	284	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	波状口縁。口唇外縁及び波頂部に刻目。口縁部横位結節回転文（L・左結）。		164	120
2013	A542	285	住居跡 58・59	埋土		胴部	深鉢	口縁開く器形か。2 個一対の縦位短沈線。横位結節回転文（無撚条・左結）。地文：縄文 RL 横。内外面丁寧なナデ調整。		164	120
2013	A543	286	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁上部欠損。棒状工具による押引文・刺突文による、横位展開の文様帯。	大木 3 ？	164	120
2013	A544	287	住居跡 58・59	埋土		胴部		竹管刺突による円文。沈線文。地文：縄文 LR 横。		164	120
2013	A545	288	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文。口唇面 LR 回転施文。胎土に繊維多量。		164	120
2013	A546	289	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部横走条痕による文様帯？地文：網目状撚糸文？（ごく浅い表出）。		164	120
2013	A547	290	住居跡 58・59	埋土		口縁		口縁部下屈曲して大きく外反。胴部張る器形か。地文：丸組紐。		164	120
2013	A548	291	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部下屈曲して大きく外反。胴部張る器形か。		164	120
2013	A549	292	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁連続刺突。地文：多軸絡条体。		164	120
2013	A550	293	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	山形突起。突起片側側面に刺突。口縁部横位多重結節回転文（R・左結）。地文：縄文 LR 横。		164	120
2013	A551	294	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	山形突起（波状口縁波頂部か）。頂部に凹み。地文：縄文 LR。		164	120
2013	A552	295	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	波状口縁。数条が平行する細く鋭い縦位沈線（条痕）。		164	120
2013	A553	296	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（無撚条・右結）。堅く張りの強い条か。		164	120
2013	A554	297	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文（R・右結）。		164	120
2013	A555	298	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文（無撚条）？。		164	120
2013	A556	299	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部横走平行沈線。縦位沈線。地文：不詳単節縄文。		164	120
2013	A557	300	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	結節回転文（無撚条）。単軸絡条体末端部の回転文か。		164	120
2013	A558	301	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部下平行沈線とこれを区画する沈線文。		164	120
2013	A559	302	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位回転文（結節または撚糸文？）。口唇面同種圧痕。		164	120
2013	A560	303	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁波状または突起持つか。口縁部棒状工具による押引文・刺突文による横位展開の文様帯。	286 と同一か。	164	120
2013	A561	304	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文（無節条・単軸絡条体第 5 類）？。		164	120
2013	A562	305	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・不明）。焼成後穿孔。胎土に繊維やや多量。		164	120
2013	A563	306	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	地文：丸組紐。末端部横位結節回転文。		164	120
2013	A564	307	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部半裁竹管状工具内面による沈線文。内外面丁寧なナデ調整。器壁薄く堅緻。		164	120
2013	A565	308	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	木目状撚糸文（R2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。		164	120
2013	A566	309	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部無文帯。地文：丸組紐。胎土に細礫多量。		165	120
2013	A567	310	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	口縁部鋸歯状加飾体（上面に半裁竹管状工具による連続刺突）。加飾体下に菱形（楕円形）貼付文（同左刺突伴う）。地文：縄文 LR 横。結節回転文 R（原体末端表出か）。		165	120
2013	A568	311	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（L・左結）。		165	121
2013	A569	312	住居跡 58・59	埋土		胴部～底部	深鉢	横位多重結節回転文（R・左結）。		165	121
2013	A570	313	住居跡 58・59	埋土		胴部～底部		無文。		165	121
2013	A571	314	住居跡 58・59	埋土		口縁～胴部	深鉢	地文：丸組紐。		165	121
2013	A572	315	住居跡 58・59	埋土		口縁	深鉢	地文：不詳平行条痕（撚糸文？）。胎土に白色細礫（砂）多量。		165	121
2013	A575	316	住居跡 58・59	埋土		口縁～胴部	深鉢	横位結節回転文（ｒ・右結）。無節縄文 L 横。胎土に細礫多量。		165	121
2013	A576	317	住居跡 58・59	埋土		口縁～底部	深鉢	無文。外面は入念なケズリ様の横ナデ。内面は横ナデ（丁寧だが凹凸ある）。		165	121
2013	A577	318	住居跡 58・59	埋土		口縁～胴部	深鉢	地文：丸組紐。原体末端部の横位結節回転文。		165	121
2013	A578	319	住居跡 58・59	埋土		胴部～底部	深鉢	器外面無文。上げ底。		165	121
2013	A579	320	住居跡 58・59	埋土		口縁～胴部	深鉢	地文：丸組紐？。原体末端部の横位結節回転文。		166	122
2013	A581	321	住居跡 58・59	埋土		口縁～胴部	深鉢	口縁部突起持つか。横位多重結節回転文（R・右結）。縄文 LR 横。		166	122

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A582	322	住居跡 58・59	埋土		口縁～胴部	深鉢	朝顔形に口縁開く器形。口唇面にＳ字状貼付文。口縁部無文。口縁下、細粘土紐による横位小波状貼付文。ハート形ほか貼付文。地文：附加条縄文？。内外面丁寧なナデ調整。		166	122
2013	A584	323	住居跡 58・59	埋土		口縁～胴部	深鉢	木目状撚糸文Ｌ（単軸絡条体第 1A 類）。胎土に細礫多量。		166	122
2013	A585	324	住居跡 58・59	埋土		口縁～胴部	深鉢	口唇面連続指頭状押圧により口縁小波状呈す。地文：丸組紐。胎土に細礫目立つ。		166	122
2013	A586	325	住居跡 58・59	埋土		胴部		細粘土紐によるハート形貼付文。地文：縄文 LR ？。内面丁寧なナデ調整。		166	122
2013	A587	326	住居跡 58・59	埋土		胴部		細粘土紐による小波状ほか曲線貼付文。地文：丸組紐？。内面丁寧なナデ調整。		166	122
2013	A588	327	住居跡 58・59	埋土		胴部		朝顔形に口縁開く器形か。口縁部無文帯の下縁を区画する小波状隆帯。地文：不詳縄文。内面丁寧なナデ調整。		166	122
2013	A589	328	住居跡 58・59	埋土		胴部		細粘土紐による小波状ほか曲線貼付文。地文：丸組紐。内面丁寧なナデ調整。		166	122
2013	A590	329	住居跡 58・59	埋土		胴部		刺突文。内外面丁寧なナデ調整。		166	122
2013	A515	330	住居跡 58・59	埋土中部		口縁～胴部	深鉢	横位結節回転文（不詳条）。ごく弱い施文。		166	122
2013	A573	331	住居跡 58・59	床直		口縁～胴部	深鉢	地文：縄文 LR 横？（角張って細長い節が深く表出されている）。		166	122
2013	A580	332	住居跡 58・59	床面直上（RP2,3,4,6,9）		口縁～胴部	深鉢	地文：前々段反撚 LRR 横。末端部結節回転文。		167	123
2013	A514	333	住居跡 58・59	埋土下部		口縁～胴部	深鉢	地文：縄文 LR 横。		167	123
2013	A507	334	住居跡 58・59	埋土上部		口縁	深鉢	口縁部上端隆帯により肥厚。横位多重結節回転文（不詳無節条・左結）。		167	123
2013	A508	335	住居跡 58・59	埋土上部		口縁	深鉢	口唇面円形竹管刺突。口縁部鋸歯状太沈線。口縁下有刻目太隆帯。		167	123
2013	A509	336	住居跡 58・59	埋土上部		胴部		鋸歯状ほか沈線文。地文：縄文 RL 横。		167	123
2013	A510	337	住居跡 58・59	埋土上部		口縁	深鉢	横位結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR 横。		167	123
2013	A511	338	住居跡 58・59	埋土上部		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状。地文：縄文 LR ？		167	123
2013	A512	339	住居跡 58・59	埋土上部		口縁	深鉢	口縁部横位有刺突隆帯。地文：撚糸文？。		167	123
2013	A513	340	住居跡 58・59	埋土上部		胴部～底部	深鉢	無文。外面・底面ともに極めて丁寧なミガキ様の調整。		167	123
2013	A583	341	住居跡 58・59	北西隅検出面		口縁～胴部	深鉢	口縁部２重の小波状沈線文。横位結節回転文（無節条・右結）。地文：縄文 LR 横。胎土に細礫やや多量。		167	123
2013	A591	342	住居跡 58・59・62	埋土		胴部～底部		地文：撚糸文Ｒ（単軸絡条体第１類？）。上げ底。		167	123
2013	A592	343	住居跡 58・59・62	埋土		口縁～底部	袖珍土器（深鉢形）	口唇部連続刻目で口縁小波状呈す。上げ底。地文：縄文 LR または無節縄文Ｌ。		167	123
2013	A593	344	住居跡 58・59・62	埋土		胴部～底部		地文：縄文 RL 縦？。		167	123
2013	A594	345	住居跡 58・59・62	埋土		胴部		横位隆帯（斜めの連続刻目）。波状（鋸歯状）沈線文の一部。地文：縄文？。内外面丁寧なナデ調整。		167	123
2013	A595	346	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	口縁部鋸歯状沈線文。		167	123
2013	A596	347	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁連続刻目。口縁部横位多重結節回転文（L・右結）。		167	123
2013	A598	348	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	口唇面凹線。地文：縄文 LR ？横（太い R と細い R によるか）。	352 と同一個体	167	123
2013	A599	349	住居跡 58・59・62	埋土		底部		底面同心円状の条痕（無撚条による単軸絡条体第１類か）。胎土に繊維多量。		167	123
2013	A600	350	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（R・左結）。地文：縄文 RL 横。胎土に繊維多量。		167	123
2013	A601	351	住居跡 58・59・62	埋土		胴部		細粘土紐による小波状ほか貼付文。地文：無節縄文 R。内面丁寧なナデ調整。		167	123
2013	A602	352	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	口唇面凹線。地文：縄文 LR ？横（太い R と細い R によるか）。	348 と同一個体	167	123
2013	A603	353	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁連続刻目。地文：縄文 LR 横。内面丁寧なナデ調整。	401 と同一個体	167	123
2013	A604	354	住居跡 58・59・62	埋土		胴部		刺突列点文。貼付文の痕跡有。地文：縄文 LR 横（末端部結節回転文）。内面丁寧なナデ調整。		168	124
2013	A605	355	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	口縁部太沈線による曲線文。地文：縄文 LR 横？（一方の条が表出されないか）。		168	124
2013	A606	356	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	口縁部２重小波状沈線文（ヘラ状工具先端の連続刺突による施文）。地文：縄文 LR 横？。		168	124
2013	A607	357	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	口縁部焼成後穿孔（１個）。地文：撚糸文Ｒ（単軸絡条体第１類）。		168	124
2013	A608	358	住居跡 58・59・62	埋土		胴部		R と L2 本一組の撚糸文。横位木目状撚糸文（単軸絡条体第 1A 類）の一部か。		168	124
2013	A609	359	住居跡 58・59・62	埋土		口縁～胴部	小形深鉢	口縁部波状沈線文。横位結節回転文（無節条・右結）。		168	124
2013	A610	360	住居跡 58・59・62	埋土		口縁～胴部	深鉢	横位結節回転文（R・右結）。縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		168	124
2013	A611	361	住居跡 58・59・62	埋土		口縁～胴部	深鉢	口縁部突起。口唇面連続刺突。地文：縄文 RL ？。胎土に細礫多量。		168	124
2013	A612	362	住居跡 58・59・62	埋土		口縁		口縁部上端横位沈線・円形沈線文・列点刺突文。地文：撚糸文R(単軸絡条体第1類または第1A類)。		168	124
2013	A613	363	住居跡 58・59・62	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文Ｒ乚・刂か。		168	124
2013	A614	364	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	撚糸文Ｒ（単軸絡条体第１類？）。胎土に細礫多量。		168	124
2013	A615	365	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁連続指頭状押圧により口縁小波状。口縁部横位羽状縄文（LR＋RL・結束第１種）。		168	124
2013	A616	366	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁連続刻目。口縁部横位多重結節回転文（L・右結）。胴部地文：丸組紐。		168	124
2013	A617	367	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位有刺突隆帯。地文：撚糸文？。		168	124

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A618	368	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		168	124
2013	A619	369	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位有刺突（細円形）隆帯。地文：木目状撚糸文（R・L2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。		168	124
2013	A620	370	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位鋸歯状沈線文。		168	124
2013	A621	371	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位結節回転文（無節条・左結）。		168	124
2013	A622	372	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。胎土に繊維やや多量。		168	124
2013	A623	373	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・不明）。焼成後穿孔。胎土に繊維多量。		168	124
2013	A624	374	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	口唇面に小波状粘土紐貼付。地文：縄文 LR 横？。		168	124
2013	A625	375	住居跡 60	埋土		口縁	深鉢	口唇面 LR 回転施文。口唇外縁張出。横位結節回転文（l?・左結）。無節縄文 R 横。		168	124
2013	A626	376	住居跡 60	埋土		口縁		波状または突起持つ口縁。口縁部短沈線状列点文。小波状沈線文。地文：縄文 RL 横。内外面にオコゲ付着。		168	124
2013	A891	377	住居跡 60・66	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横？。器面磨滅顕著。内面丁寧なナデ調整。		168	124
2013	A893	378	住居跡 60・66	埋土		口縁	深鉢	口縁部半裁竹管状工具内面による沈線文。地文：丸組紐。		168	124
2013	A892	379	住居跡 60・66	埋土		胴部		地文：縄文 LR（0 段多条）。焼成後穿孔。胎土に繊維多量。		168	125
2013	A775	380	住居跡 62	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文（1・左結）。無節縄文 R 横。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A776	381	住居跡 62	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。口縁部横位多重結節回転文（R・左結？）。		169	125
2013	A777	382	住居跡 62	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（R・左結）。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A778	383	住居跡 62	埋土		口縁	深鉢	口縁部無文帯。横位結節回転文（R・右結）。		169	125
2013	A779	384	住居跡 62	埋土		口縁	深鉢	口縁部弁状突起（上面に鋭く深い沈文）。突起下～口縁部、有刺突（指頭状）隆帯による貼付文。木目状撚糸文（L2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。		169	125
2013	A780	385	住居跡 62	埋土		口縁	深鉢	山形突起。口縁部横位多重結節回転文（R・左結）。地文：縄文 LR 縦。		169	125
2013	A642	386	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	地文：組縄縄文。		169	125
2013	A643	387	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	横位羽状縄文（LR＋RL・結束第 1 種）。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A644	388	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（不詳条・右結）。地文：縄文 LR 横。口唇及び器内面のナデ丁寧。胎土に繊維やや多量。		169	125
2013	A645	389	住居跡 63	埋土		胴部		鋭い連続刻目施した細隆帯による貼付文。地文：不詳回転文（結節または撚糸文か）。		169	125
2013	A646	390	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 RL 横。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A648	391	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位結節回転文（L・左結）。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A649	392	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR（0 段多条）横。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A650	393	住居跡 63	埋土		口縁		細粘土紐による曲線貼付文。地文：不詳縄文。		169	125
2013	A651	394	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（無節条・右結）。地文：縄文 LR 横。胎土に繊維やや多量。口唇及び器内面ナデ丁寧。		169	125
2013	A652	395	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口縁部有刺突隆帯。横位結節回転文（無撚条・右結）。		169	125
2013	A627	396	住居跡 63	埋土		口縁		口唇面連続刻目。地文：縄文 RL 横。		169	125
2013	A628	397	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（R・左結）。地文：縄文 RL 横。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A629	398	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起（頂部刻目）。口唇外縁連続刻目。口縁部横位多重結節回転文（L・右結）。		169	125
2013	A630	399	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口縁部無文帯。地文：縄文 RL 横。		169	125
2013	A631	400	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	山形突起。口縁部横位多重結節回転文（R・右結）。地文：横位木目状撚糸文（L2 本一組及び R2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A632	401	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁連続刻目。地文：縄文 LR 横（末端部結節回転文）。内面丁寧なナデ調整。	353 と同一個体	169	125
2013	A633	402	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	地文：無節縄文 L ？		169	125
2013	A634	403	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。		169	125
2013	A635	404	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・左結）。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A636	405	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・左結）。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A637	406	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 RL ？		169	125
2013	A638	407	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口唇面指頭状連続押圧により口縁小波状呈す。横位羽状縄文（LR＋RL・結束第 1 種）。胎土に繊維多量。		169	125
2013	A639	408	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口唇面円形竹管状連続刺突。口縁部太沈線による鋸歯文。口縁部有刺突（指頭状）太隆帯。		169	125
2013	A640	409	住居跡 63	埋土		口縁	深鉢	口縁部下有刺突（指頭状）太隆帯。		169	126
2013	A641	410	住居跡 63	埋土		胴部	深鉢	棒状工具による刺突文・押引文。		169	126

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A665	411	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	地文：無節縄文 L。胎土に砂・細礫多量。		170	126
2013	A666	412	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		170	126
2013	A667	413	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。		170	126
2013	A668	414	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		170	126
2013	A669	415	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁連続刻目。口縁部横位多重結節回転文（無節条・右結）。		170	126
2013	A670	416	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起（頂部刻目）。地文：無節縄文 L 横。		170	126
2013	A671	417	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端に突起。縦位撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		170	126
2013	A672	418	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	口縁部有刺突（指頭状）隆帯。地文：縄文 LR 横？		170	126
2013	A673	419	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	口唇面指頭状連続押圧。地文：不詳回転文（撚糸文か）。		170	126
2013	A674	420	住居跡 64	埋土		胴部		細粘土紐による曲線貼付文。地文：縄文 LR 横？二次被熱で器面荒れている。		170	126
2013	A675	421	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	口唇面不詳回転施文（RL?）。地文：縄文 RL または組紐？。		170	126
2013	A676-1	422	住居跡 64	埋土		胴部～底部		胴下部～底部の器外面、極めて丁寧な調整。		170	126
2013	A773	423	住居跡 64	埋土		口縁？～胴部	深鉢	口唇面残存不良（疑似口縁？）。横位撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。内外面に各 1 個の盲孔（未貫通補修孔）。		170	126
2013	A774	424	住居跡 64	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続竹管状円形刺突。口縁部太沈線による鋸歯状文。口縁部下有刺突（指頭状）太隆帯。地文：撚糸文 R。		170	126
2013	A676-2	425	住居跡 67	RP1　床面直上（RP1）		口縁～胴部	深鉢	地文：網目状撚糸文 L（単軸絡条体第 5 類）。		170	126
2013	A677	426	住居跡 67	RP1　床面直上（RP1）		口縁～胴部	深鉢	口縁部突起（4 単位・頂部刺突）。地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		170	126・127
2013	A678	427	住居跡 67	RP1　床面直上（RP2）		口縁～胴部胴部	深鉢	山形突起（4 単位）。縦位結節回転文（R・右結）。胎土に細礫多量。		171	127
2013	A781	428	住居跡 67	床面直上（RP4）		口縁～胴部	深鉢	撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。胎土に細礫多量。二次被熱により内外面荒れている。		171	127
2013	A686	429	住居跡 67～70	埋土		口縁	深鉢	地文：撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		171	127
2013	A687	430	住居跡 67～70	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位有刺突（指頭状）隆帯。胎土に細礫多量。		171	127
2013	A688	431	住居跡 67～70	埋土		口縁	深鉢	地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。胎土に細礫多量。		171	127
2013	A689	432	住居跡 67～70	埋土		胴部～底部		横位結節回転文（R・左結）。底面外縁に網代痕。		171	127
2013	A785	433	住居跡 67～70	埋土下部～床面		胴部		沈線文。隆帯。縄文 LR 横。	縄文時代中期	171	127
2013	A786	434	住居跡 67～70	埋土下部～床面		胴部		隆帯。縄文 RL。	縄文時代中期	171	127
2013	A787	435	住居跡 67～70	埋土下部～床面		胴部		磨消縄文。	大木 10 式	171	127
2013	A788	436	住居跡 67～70	埋土下部～床面		胴部		磨消縄文。	大木 10 式	171	127
2013	A789	437	住居跡 67～70	埋土下部～床面		胴部～底部		撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		171	128
2013	A681	438	住居跡 68　Pit1	埋土		口縁～底部	深鉢	波状口縁（山形突起）。地文：縄文 LR 縦。焼成後穿孔 2 個（うち 1 個は盲孔）。		171	128
2013	A682	439	住居跡 68　Pit1	埋土		口縁～胴部	深鉢	口縁部有刺突（指頭状）隆帯。地文：縄文 LR 横。口縁部内面にも RL 回転施文帯持つ。胎土に細礫多量。		172	128
2013	A683	440	住居跡 68	埋土		胴部～底部		地文：縄文 LR 横。		172	128
2013	A684	441	住居跡 68	埋土		口縁～胴部	深鉢	弁状突起（頂部連続刺突）。口唇面連続刺突。口縁部横位有刺突隆帯。斜行結節回転文（R・右結）。地文 LR。		172	128
2013	A685	442	住居跡 68　Pit1	埋土		口縁～胴部	深鉢	口唇面連続指頭状押圧により口縁小波状呈す。口縁部上端有刺突（指頭状）隆帯。地文：網目状撚糸文 L（単軸絡条体第 5 類）。		172	129
2013	A679	443	住居跡 69	埋土		口縁	深鉢	口縁部有刺突隆帯。地文：無節縄文 L。		173	129
2013	A680	444	住居跡 69　Pit1	埋土		口縁～胴部	深鉢	地文：縄文 RL 横。胎土に細礫多量。		173	129
2013	A782	445	住居跡 70	埋土		口縁	深鉢	口縁部有刺突隆帯（剥落部多い）。隆帯両側縁に沈線？。地文：縄文？。		173	129
2013	A783	446	住居跡 70	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 縦。		173	129
2013	A784	447	住居跡 70	埋土		胴部～底部		撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類または第 5 類）。二次被熱により器外面荒れている。		173	129
2013	A440-1	448	住居跡 71	埋土下部（RP2）		口縁～胴部	深鉢	地文：縄文 LR 縦。胎土に細礫やや多量。		173	129
2013	A449	449	住居跡 71	埋土下部（RP3）		底部		地文：縄文 LR 縦。		173	130
2013	A450-2	450	住居跡 71	埋土下部（RP4）		底部		地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。胎土に細礫目立つ。		173	130
2013	A439-1	451	住居跡 71	埋土下部（RP5・6）		口縁～胴部	深鉢	地文：網目状撚糸文 L（単軸絡条体第 5 類）。胎土に細礫目立つ。		174	130
2013	A439-2	452	住居跡 71	埋土下部（RP5・6）		胴部	尖底深鉢	コ字状の連続（押し引き？）刺突文。縄文早期中葉～後葉相当（常世式？）。		174	130
2013	A448	453	住居跡 71	埋土		口縁～胴部	深鉢	口縁部下横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：縦位木目状撚糸文 R（単軸絡条体第 1A 類）。胎土に細礫多量。		174	130

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A450-1	454	住居跡 71	埋土		口縁～胴部	深鉢	無文。内外面ナデ調整。胎土に細礫目立つ。		174	130
2013	A454	455	住居跡 71	埋土		口縁	深鉢	口唇面指頭状刻目。口縁部有刺突（指頭状）隆帯。地文：R 圧痕（撚糸文？）。		174	130
2013	A455	456	住居跡 71	埋土		口縁	深鉢	山形突起（波状口縁？）。横位多重結節回転文（L・左結）。		174	130
2013	A456	457	住居跡 71	埋土		口縁	深鉢	口縁部下有刺突（指頭状）隆帯。地文：撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類または第 5 類？。隆帯上と口縁部を同時に施文。）		174	130
2013	A457	458	住居跡 71	埋土		口部～胴部	深鉢	（残存部無文。）		174	130
2013	A458	459	住居跡 71	埋土		口縁	深鉢	山形突起。地文：撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		174	130
2013	A459	460	住居跡 71	埋土		胴部		格子（網目）状の沈線文。		174	130
2013	A460	461	住居跡 71	埋土		口縁	深鉢	口唇面指頭状押圧により口縁小波状。口縁部下有刺突（指頭状）隆帯。地文：木目状撚糸文（R2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。		174	130
2013	A461	462	住居跡 71	埋土		胴部～底部		網目状撚糸文（条不詳・単軸絡条体第 5 類？）。外面磨滅顕著。		174	131
2013	A440-2	463	住居跡 71	埋土下部		口縁		口縁部焼成前穿孔。		174	131
2013	A441	464	住居跡 71	埋土下部		口縁	深鉢	口縁部突起（山形）。		174	131
2013	A442	465	住居跡 71	埋土下部		口縁		撚糸文 R または r（単軸絡条体第 1 類）。		174	131
2013	A443	466	住居跡 71	埋土下部		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（無節の条）。		174	131
2013	A444	467	住居跡 71	埋土下部		口縁	深鉢	口唇面連続刺突（指頭状）。※残存部突起頂部の可能性有。地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		174	131
2013	A445	468	住居跡 71	埋土下部		口縁	深鉢	弁状突起（頂部指頭状連続刺突）。口縁部上端有刺突（指頭状）隆帯（突起部も上縁に沿って貼付けられる）。地文：縄文 LR 横。		175	131
2013	A446	469	住居跡 71	埋土下部		口縁		口縁部突起（口唇幅に合わせて短く切った粘土紐を並列させたもの）。口唇面擂鉢状円形連続刺突文。内外面ともにミガキのような丁寧なヨコナデ。		175	131
2013	A447	470	住居跡 71	埋土下部		口縁		地文：縄文 LR。胎土に細礫多量。		175	131
2013	A451	471	住居跡 71・72	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 縦。胎土に細礫多量。		175	131
2013	A452	472	住居跡 71・72	埋土		口縁～胴部	深鉢	地文：撚糸文 L 縦。		175	131
2013	A453	473	住居跡 71・72	埋土		口縁	深鉢	口縁部捻りで花弁状？（上面観小波状）。口縁部縄文 LR 横（下位は斜回転）。		175	131
2013	B186	474	住居跡 71・72			口縁	深鉢	口縁上端肥厚。口縁外縁、蛇行貼付文（上面に R 側面圧痕による連続刻目）。口縁部下、隆帯による横位波状文（地文ナデ消し）。地文：縄文 LR。		175	131
2013	A466	475	住居跡 72	床面直上（RP1）	住居跡 71 南側埋土	口縁～底部	深鉢	円筒状の器形。口縁部捻りまたは指頭状押圧により細かい花弁状。地文：撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		175	131
2013	A438-1	476	住居跡 72	埋土		口縁～胴部	深鉢	波状口縁（大形突起？）。地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類？）。二次被熱のためか器外面荒れている。		175	131
2013	A462	477	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。沈線文。地文：縄文 LR 縦。		175	131
2013	A463	478	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		175	131
2013	A464	479	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位羽状縄文（RL＋LR・結束第 1 種）。地文：撚糸文 R。		175	131
2013	A465	480	住居跡 72	埋土		胴部～底部		底面網代痕。		175	131
2013	A467	481	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		175	131
2013	A468	482	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位結節回転文（無節不詳の条・左結）。地文無節縄文 R ？		175	131
2013	A469	483	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（r・右結）。地文：無節縄文 L 横。		175	131
2013	A470	484	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	口唇面縄文 LR 回転施文。口縁部横位多重結節回転文（単軸絡条体第 4 類？）。胎土に繊維多量。		175	131
2013	A471	485	住居跡 72	埋土		胴部		有刻目の細隆帯による曲線貼付文（鋭く深い刻目。飴を切ったよう）。ごく細い沈線文。器外面剥落顕著。	大木 3 式	175	131
2013	A472	486	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	口唇面円形竹管連続刺突。口縁部太沈線による鋸歯文。口縁部下有刻目（指頭状）太隆帯。		175	132
2013	A473	487	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR ？または撚糸文 R ？（角張って深く細長い節）。		175	132
2013	A475	488	住居跡 72	埋土		口縁		地文：撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		176	132
2013	A476	489	住居跡 72	埋土		口縁	深鉢	口唇面指頭状刺突。地文：L の圧痕（不整不詳条。撚糸文 L?）。		176	132
2013	A477	490	住居跡 72	埋土		口縁～胴部	深鉢	網目状撚糸文（不詳条。単軸絡条体第 5 類）。		176	132
2013	A478	491	住居跡 72	埋土		口縁～胴部	深鉢	地文：縄文 LR 縦？（節の不明瞭な部分有）。胎土に細礫やや多。		176	132
2013	A438-2	492	住居跡 72	埋土下部		口縁	深鉢	口縁上端無文帯。口縁部下横位有刻目隆帯（隆帯は細く扁平な粘土紐、刻目は細く鋭く器面に達し縦位短沈線が連続するようである）。		176	132
2013	A474	493	住居跡 72	埋土下部		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状。		176	132
2013	A257	494	住居跡 73	埋土		胴部		上面観が隅丸方形？		176	132
2013	A258	495	住居跡 73	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位結節回転文（無撚りの条・左結？）。地文：縄文 RL 横。		176	132

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A259	496	住居跡 73	埋土		口縁～胴部	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。		176	132
2013	A260	497	住居跡 73	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位有刺突隆帯（円形刺突）。		176	132
2013	A261	498	住居跡 73	埋土		口縁	深鉢	鋸歯状加飾体。口縁部下及び加飾体上に篦状工具による刺突。口唇面に細竹管刺突。木目状撚糸文 R・L（単軸絡条体第 1A 類）。		176	132
2013	A255	499	住居跡 73	埋土上部		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・左結）。地文：無節縄文 R。		176	132
2013	A256	500	住居跡 73	埋土上部		口縁～胴部	深鉢	網目状撚糸文 L（単軸絡条体第５類）。		176	132
2013	A254	501	住居跡 73	埋土上部～中部		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。		176	132
2013	A252	502	住居跡 73	埋土中部		口縁～胴部	深鉢	地文：縄文 LR 横。		176	132
2013	A253	503	住居跡 73	埋土中部		胴部～底部	深鉢	底部下端が張り出す。		176	133
2013	A251	504	住居跡 73	床面直上（RP3）		胴部	深鉢	木目状撚糸文 R（単軸絡条体第 1A 類）。		177	133
2013	A316	505	住居跡 73～79	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端に連弧状の条痕跡。地文：丸組紐。		177	133
2013	A317	506	住居跡 73～79	埋土		口縁	深鉢	波状口縁。波頂下に焼成前穿孔。波頂部弁状突起（頂部刺突）。口縁部下横位有刺突隆帯。縦位結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR 縦。		177	133
2013	A318	507	住居跡 73～79	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刻目。網目状撚糸文 L（単軸絡条体第５類）。		177	133
2013	A319	508	住居跡 73～79	埋土		口縁	深鉢	口唇面沈線。口唇外縁連続押圧により小波状。口縁部下横位多重結節回転文（L・左結）。地文：縄文 RL 横。		177	133
2013	A320	509	住居跡 73～79	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（R・右結）。下位は縄文 RLR 横。		177	133
2013	A321	510	住居跡 73～79	埋土		口縁	深鉢	口縁部肥厚。口縁下横位小波状隆帯。沈線。小波状沈線文。地文：縄文 LR 縦。		177	133
2013	A322	511	住居跡 73～79	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位有刺突（指頭圧痕状）隆帯。地文：縄文 LR 縦。胎土に繊維やや多。		177	133
2013	A323	512	住居跡 73～79	埋土		口縁		口唇面篦状工具による連続刻目。口縁部下 LR 原体による平行圧痕文。		177	133
2013	A324	513	住居跡 73～79	埋土		口縁	深鉢	木目状撚糸文（L・R の２本一組）（単軸絡条体第 1A 類）。		177	133
2013	A325	514	住居跡 73～79	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位鋸歯状沈線。地文：縄文 LR 横。		177	133
2013	A326	515	住居跡 73～79	埋土		胴部		横位多重波状沈線（２本一組で平行）。		177	133
2013	A275	516	住居跡 74	埋土		胴部	深鉢	縦位結節回転文（L・軸巻留め部？）。撚糸文 R（単軸絡条体 1A ？）。		177	133
2013	A276	517	住居跡 74	埋土		胴部	深鉢	横位多重結節回転文（無節の条・左右結？）。		177	133
2013	A277	518	住居跡 74	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・右結）。		177	133
2013	A278	519	住居跡 74	埋土		胴部～底部		不明撚糸文（無節の条）。		177	133
2013	A279	520	住居跡 74	埋土		胴部		縦位結節回転文（r ？・軸巻留部）。木目状撚糸文 L（単軸絡条体第 1A 類）。		177	133
2013	A280	521	住居跡 74	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突（指頭状）。地文：縦位多重不明条痕。		177	133
2013	A263	522	住居跡 75	壁溝埋土		口縁～胴部	深鉢	口縁部下横位有刺突隆帯。縦位結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR 縦。		178	133
2013	A264	523	住居跡 75	埋土		口縁～胴部	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。		178	134
2013	A265	524	住居跡 75	埋土		口縁	深鉢	弁状突起。不詳条圧痕。胎土繊維含む。		178	134
2013	A266	525	住居跡 75	埋土		口縁	深鉢	突起（形状不明）。地文：縦位撚糸文 R（単軸絡条体第１類）。		178	134
2013	A267	526	住居跡 75	埋土		口縁	深鉢	口縁部下縦位羽状縄文（結束第１種）RL・LR。頸部横走隆帯。		178	134
2013	A268	527	住居跡 75	埋土		口縁	深鉢	横位有刺突隆帯。胎土繊維含む。		178	134
2013	A269	528	住居跡 75	埋土		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状。		178	134
2013	A270	529	住居跡 75	埋土		口縁	深鉢	口縁部弁状突起。頂部に刻目状の連続刺突。地文：撚糸文 L。		178	134
2013	A271	530	住居跡 75	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁刻目。口縁部下横位結節回転文（R・左結）。		178	134
2013	A272	531	住居跡 75	埋土		胴部～底部	深鉢	底面網代痕。		178	134
2013	A273	532	住居跡 75	埋土		胴部		重層刻目状列点文。		178	134
2013	A274	533	住居跡 75	埋土		胴部～底部		外面ミガキのようなナデ。		178	134
2013	A262	534	住居跡 75	埋土下部～床直		口縁	深鉢	地文：縄文 LR。		178	134
2013	A281	535	住居跡 77	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位結節回転文（ｌ ？）。地文：無節縄文 R 横。胎土に繊維やや多量。		178	134
2013	A282	536	住居跡 77	埋土		口縁	深鉢	口縁下横位有刺突隆帯（指頭状）。地文：撚糸文 L（単軸絡条体第１類・口縁部横回転・胴部縦回転）。		178	134
2013	A283	537	住居跡 77	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（R・右結）。		178	134
2013	A284	538	住居跡 77	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（R・左結？）。地文：無節縄文 R。		178	134
2013	A285	539	住居跡 77	埋土		口縁～胴部	深鉢	口唇面連続刺突（指頭状）。地文：撚糸文 R（単軸絡条体第１類）		178	134
2013	A286	540	住居跡 78	埋土		口縁	深鉢	不整波状口縁。地文：横位撚糸文 R（単軸絡条体第１類）。		178	134
2013	A287	541	住居跡 78	埋土		胴部		地文：不明圧痕。		178	134

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A288	542	住居跡 78	埋土		口縁	深鉢	木目状撚糸文 L（単軸絡条体第 1A 類）。		178	134
2013	A289	543	住居跡 78	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・左結）。		178	134
2013	A290	544	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁連続刻目。口縁部下横位多重結節回転文（L・左結）。		178	134
2013	A291	545	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	地文：LRL 横。胎土に繊維多量。		178	134
2013	A292	546	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	地文：LR（0 段多条）横。胎土に繊維多量。		178	134
2013	A293	547	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	多軸絡条体 R。		178	134
2013	A294	548	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	地文：撚糸文 R。胎土に繊維多量。		178	134
2013	A295	549	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文？（不詳。RL 及び r 圧痕みられる）。胎土に繊維含む。		179	134
2013	A296	550	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	口縁部下円形～「の」字状の加飾体（剥落顕著）。篦状工具による沈線・刺突。地文：縄文 LR 横？		179	134
2013	A297	551	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		179	134
2013	A298	552	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	臼歯列状の突起。地文：縄文 LR 斜回転（条は横走）。		179	134
2013	A299	553	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続指頭状押圧により小波状口縁を呈す。横位羽状縄文（結束第 1 種・LR＋RL）。		179	134
2013	A300	554	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		179	135
2013	A301	555	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文（R・右結）。地文：無節縄文 L 横または R 縦？		179	135
2013	A302	556	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁有刻目（指頭状）隆帯。横位羽状縄文（結束第 2 種・LR＋RL）。		179	135
2013	A303	557	住居跡 78・79	埋土		口縁		口縁部やや肥厚し外縁に刻目。沈線による曲線（渦巻）文。		179	135
2013	A304	558	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起（波頂？）。外面 C 字状の加飾体（内面は凹線表現）。		179	135
2013	A305	559	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状呈す（上面観は鋸歯状）。地文：不詳（丸組紐？）		179	135
2013	A306	560	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	口縁部下平行沈線による曲線意匠。		179	135
2013	A307	561	住居跡 78・79	埋土		口縁～胴部	深鉢	波状口縁。波頂下に焼成前穿孔。		179	135
2013	A308	562	住居跡 78・79	埋土		底部		底面縄 R 圧痕（結節回転？）。		179	135
2013	A309	563	住居跡 78・79	埋土		胴部～底部		地文：縄文 RL 縦。		179	135
2013	A310	564	住居跡 78・79	埋土		胴部～底部		網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		179	135
2013	A311	565	住居跡 78・79	埋土		口縁～胴部	深鉢	口唇外縁連続刻目。口縁部横位有刺突（指頭状）隆帯。撚糸文 L。		179	135
2013	A312	566	住居跡 78・79	埋土		胴部～底部		撚糸文 L。		179	135
2013	A382	567	住居跡 78・79	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突(円形竹管状)。口縁部上端横位波状沈線。口縁下横位有刺突(指頭状)隆帯。地文：不詳撚糸文。		179	135
2013	A313	568	住居跡 79	埋土		口縁	深鉢	弁状（山形？）突起。横位多重結節回転文（R?）。胎土に繊維多。		179	135
2013	A314	569	住居跡 79	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文（丸組紐末端？）。地文：丸組紐。		179	135
2013	A315	570	住居跡 79	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文（丸組紐末端？）。地文：丸組紐。		179	135
2013	A237	571	住居跡 80	埋土		口縁	深鉢？	口縁部上端波状隆帯。横位平行沈線。地文有るが詳細不明。		180	135
2013	A238	572	住居跡 80	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端外反。口縁部内面上端に連続刺突。		180	135
2013	A239	573	住居跡 80	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突。撚糸文 R（網目状撚糸文？）。		180	135
2013	A240	574	住居跡 80	埋土		胴部～底部	深鉢？	地文：撚糸文（?）R。底面に網代痕。		180	135
2013	A242	575	住居跡 81	埋土		口縁		口唇面沈線。口縁部上端縄文 LR 横。多重横走沈線。		180	135
2013	A243	576	住居跡 81	埋土		口縁	深鉢	口縁部下 LR 横。下位は丸組紐？		180	135
2013	A244	577	住居跡 81	埋土		口縁		口縁部下縄文 LR 横。		180	135
2013	A245	578	住居跡 81	埋土		胴部	深鉢	平行隆帯による曲線（渦巻）文。円形貼付。地文：縄文 RL ？		180	135
2013	A246	579	住居跡 81	埋土		口縁	深鉢	縄文 LR 横（0 段多条）。		180	135
2013	A247	580	住居跡 81	埋土		口縁	深鉢	横走・斜行の多重押引文。焼成後穿孔（補修孔）。		180	135
2013	A248	581	住居跡 81	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR 横。		180	135
2013	A249	582	住居跡 81	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		180	135
2013	A250	583	住居跡 81	埋土		口縁		口唇面縄文 RL。口縁部上端平行縄圧痕（RL）。		180	135
2013	A762	584	住居跡 82	埋土		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで小波状呈す。撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		180	135
2013	A763	585	住居跡 82	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（R・左結？）。胎土に繊維やや多量。		180	136
2013	A764	586	住居跡 82	埋土		口縁	深鉢	縄文 RL 横。		180	136
2013	A355	587	住居跡 88　Pit2	埋土		口縁		ごく細い沈線と縄文 RL による不完全な磨消縄文。蓋？		180	136
2013	A356	588	住居跡 88	埋土		胴部	深鉢	小波状隆帯。地文：縄文 LR。		180	136

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A357	589	住居跡 88	埋土		口縁	深鉢	口唇面刻目（指頭状）。口縁部横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：無節条（不詳）圧痕。		180	136
2013	A358	590	住居跡 88	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位有刺突隆帯。縦位木目状撚糸文（R の 2 本一組・単軸絡条体第 1A 類。）		180	136
2013	A359	591	住居跡 88	埋土		口縁	深鉢	波状口縁。波頂部に刺突。口縁部に沈線による曲線文。地文：縄文 RL。		180	136
2013	A360	592	住居跡 88	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 r （単軸絡条体第 5 類）。		180	136
2013	A361	593	住居跡 88	埋土		口縁	深鉢	波状口縁波頂部突起。		180	136
2013	A362	594	住居跡 88	埋土		胴部		鋭い沈線と縄文 LR による磨消縄文。		180	136
2013	A363	595	住居跡 88	埋土		胴部	不明	597・598 によく似る。	平安時代？	180	136
2013	A364	596	住居跡 88	埋土		口縁	土師器甕？	無文。内外面ヨコナデ。	平安時代	180	136
2013	A365	597	住居跡 88	埋土		口縁～胴部	不明	小壺状の器形か？全体に厚作りで口唇部で急激に薄くなる。内面調整はナデ、外面はケズリ調整様の小面が切合っている。595・598 によく似る。	平安時代？	180	136
2013	A366	598	住居跡 88	埋土		口縁	不明	595・597 によく似る。	平安時代？	180	136
2013	A367	599	住居跡 88	埋土		底部	土師器甕	外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	平安時代	180	136
2013	A409	600	住居跡 89	1 層（焼土層）		口縁	深鉢	口唇面連続刺突により口縁小波状呈す。撚り戻しの R 圧痕と縄文 LR（結節回転文？附加条？）。		180	136
2013	A410	601	住居跡 89	1 層（焼土層）		口縁	深鉢	口唇外縁外反。口縁部上端連続刺突列（半截竹管状工具による 2 個一対の刺突）。		180	136
2013	A411	602	住居跡 89	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（L）。羽状縄文（結束第 1 種・LR＋RL）のように見える部分有。胎土に繊維多量。		180	136
2013	A412	603	住居跡 89	埋土		口縁		地文：縄文 LR。		180	136
2013	A413	604	住居跡 89	埋土		口縁	深鉢	口縁上端有刻目隆帯。口縁部横位多重結節回転文（R・左結）。		180	136
2013	A414	605	住居跡 89	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 L（単軸絡条体第 5 類）。		180	136
2013	A415	606	住居跡 89	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続指頭状押圧により口縁小波状呈す。地文：縄文 LR 縦。		180	136
2013	A416	607	住居跡 89	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位結節回転文（R・右結？）。		181	136
2013	A417	608	住居跡 89	埋土		胴部		円形竹管刺突文。地文：縄文？（規則的に並ぶ細長い節が認められる）。		181	136
2013	A418	609	住居跡 89	埋土		口縁	深鉢	口縁部鋸歯状加飾体（表面剥落）。加飾体波底部上面に垂直の小円形刺突。木目状撚糸文 L（単軸絡条体第 1A 類）。		181	136
2013	A419	610	住居跡 89	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位太隆帯。縦位撚糸文 L ？（単軸絡条体第 1 類）。		181	136
2013	A420	611	住居跡 89	埋土		口縁	深鉢	波状口縁波頂部に円形加飾体。口縁部上端折りかえって内傾。撚糸文(無撚？・単軸絡条体第 1 類)。		181	136
2013	A421	612	住居跡 89	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突(円形竹管状)。口縁部横位鋸歯状太沈線。口縁部下横位有刺突(指頭状)隆帯。地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類または同第 5 類か）。		181	136
2013	A422	613	住居跡 89	埋土		胴部～底部		胴下部地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		181	136
2013	A423	614	住居跡 89	埋土		胴部～底部		(残存部無文。)		181	136
2013	A659	615	住居跡 90・91	埋土		口縁	深鉢	口縁部半截竹管状工具による多重押引刺突列点文。		181	136
2013	A660	616	住居跡 90・91	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 縦。		181	136
2013	A661	617	住居跡 90・91	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		181	136
2013	A662	618	住居跡 90・91	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位沈線文。		181	136
2013	A663	619	住居跡 90・91	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刻目。地文：丸組紐。焼成後穿孔（1 個）。		181	136
2013	A664	620	住居跡 90・91	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位 L 圧痕。		181	136
2013	A696	621	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起(上面観 8 字状の加飾体)。地文：縄文 LR 縦。胎土密で明るい褐色呈す。他に比して異質。		181	136
2013	A697	622	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部低い弁状突起。地文：縄文 LR 縦。		181	137
2013	A698	623	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：多軸絡条体（R）。口縁部内面にも同原体の回転施文帯。		181	137
2013	A699	624	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続刺突文。口縁部下横位有刺突(篦状)隆帯。縦位結節回転文(R・右結)。地文：縄文 LR 縦。		181	137
2013	A700	625	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。頂部有刺突環状加飾体。		181	137
2013	A701	626	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。		181	137
2013	A702	627	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	地文：撚糸文 L（口縁部横回転・胴部縦回転・単軸絡条体第 1 類）。		181	137
2013	A703	628	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		181	137
2013	A704	629	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。地文：縄文 LR ？。		181	137
2013	A705	630	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。地文：縄文 LR 縦。		181	137
2013	A706	631	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	半截竹管状工具による刺突列点文。同、小波状沈線文。		181	137
2013	A707	632	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口唇面 L 結節部側面圧痕による連続刻目。縦位結節回転文（L・左結）。縄文 RL 縦。		181	137
2013	A708	633	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		181	137

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A709	634	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部有刺突（指頭状）隆帯。木目状撚糸文（L2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。		181	137
2013	A710	635	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口唇面凹線。地文：丸組紐？。		181	137
2013	A711	636	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部波状（突起？）。網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		181	137
2013	A712	637	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状呈す。縦位結節回転文（L・左結）。		181	137
2013	A713	638	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		182	137
2013	A714	639	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。口縁部横位隆帯。胎土に細礫多量。		182	137
2013	A715	640	住居跡 91	埋土		口縁	浅鉢？	口縁部平行沈線。粘土粒貼付。口縁部上端内面に沈線。内外面丁寧なミガキ。	縄文時代晩期末	182	137
2013	A716	641	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位結節回転文（R・左結）。胴部縦位結節回転文。縄文 LR 縦。		182	137
2013	A717	642	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 縦。		182	137
2013	A718	643	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端横位平行 LR 側面圧痕（2 条）。口縁部下横位結節回転文（R・右結）。縄文 LR 横。胎土に繊維やや多量。		182	137
2013	A719	644	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：縄文 LR 縦。胎土に細礫多量。		182	137
2013	A720	645	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		182	137
2013	A721	646	住居跡 91	埋土		胴部		有刺突（小円形）隆帯による貼付文。地文：縄文 RL?		182	137
2013	A722	647	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁波頂部（突起？）。上縁に沿う有刺突太隆帯。縄文 LR ？。		182	137
2013	A723	648	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部弁状突起。口縁部横位有刺突隆帯。地文：縄文 LR。		182	137
2013	A724	649	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部鋸歯状加飾体。地文：縄文 LR 横。		182	137
2013	A725	650	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状呈す。地文：縄文 LR 縦。		182	137
2013	A726	651	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 L（単軸絡条体第 5 類）。		182	137
2013	A727	652	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	多軸絡条体。		182	137
2013	A728	653	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起（弁状？）。地文：縄文？。		182	137
2013	A729	654	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	2～3 条を一単位とする縦位沈線文。		182	138
2013	A730	655	住居跡 91	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 L（単軸絡条体第 5 類）。		182	138
2013	A731	656	住居跡 91	埋土		胴部	深鉢	横位有刺突隆帯。地文縄文 RL 横。		182	138
2013	A732	657	住居跡 91	埋土		胴部～底部		縄文 LR 縦。底部下端張り出す。		182	138
2013	A733	658	住居跡 91	埋土		胴部～底部		撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類または第 5 類）。底部下端張り出す。		182	138
2013	A734	659	住居跡 91	埋土		底部		底面網代痕か。		182	138
2013	A735	660	住居跡 91	埋土		底部		地文：縄文？。		183	138
2013	A736	661	住居跡 91	埋土		胴部～底部		地文：縄文 LR。底部下端張り出す。		183	138
2013	A737	662	住居跡 91	埋土		胴部		地文：縄文 LR 縦。		183	138
2013	A738	663	住居跡 91	埋土		胴部～底部		地文：縄文 LR 縦。底面網代痕？。		183	138
2013	A740	664	住居跡 91	埋土		口縁～胴部	深鉢	口縁部不整弁状突起。突起頂部～口唇面連続刺突。縦位結節回転文（R・右結）。縄文 LR 縦。		183	138
2013	A741	665	住居跡 91	埋土		口縁～胴部	深鉢	弁状突起（4 単位・上面に棒状工具側面押圧による刻目）。口縁部有刺突（指頭状）隆帯。地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。胎土に細礫多量。		183	138
2013	A739	666	住居跡 91	埋土下部		口縁？～底部	鉢？	残存部上縁擬似口縁（剥落面）か。		183	-
2013	A742	667	住居跡 91・92	埋土		口縁		口縁部平行沈線文。		183	138
2013	A743	668	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。胎土に細礫多量。		183	138
2013	A744	669	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状呈す。木目状撚糸文（R2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。		183	138
2013	A745	670	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位 LR 側面圧痕。縄文 LR 横。		183	138
2013	A746	671	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	口縁部 LR 側面圧痕による横位展開文様。地文：縄文 LR 横。胎土に繊維やや多量。	673 と同一個体	183	138
2013	A747	672	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	縄文 RL 縦。		183	138
2013	A748	673	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	口縁部 LR 側面圧痕による横位展開文様。地文：縄文 LR 横。胎土に繊維やや多量。	671 と同一個体	183	138
2013	A749	674	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	菱形が連結したような口唇面形成（鋸歯状装飾に類するか）。縦位結節回転文（R・右結）。縄文 LR 縦。		183	138
2013	A750	675	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	口縁部有刺突（小円形）加飾体。口縁部上方に突起状に突出する。		184	138
2013	A751	676	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	口縁部鋸歯状沈線文。		184	138
2013	A752	677	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	低い弁状突起（上面刻目）。縄文 LR。		184	139
2013	A753	678	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	沈線文？		184	139
2013	A754	679	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	地文：無節縄文 L。		184	139
2013	A755	680	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	口縁部有刺突隆帯。地文：縄文 LR 縦。		184	139

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A756	681	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	ハケメ状の縦位多重条痕。		184	139
2013	A757	682	住居跡 91・92	埋土		胴部～底部		地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。底部下端張り出す。底面網代痕。		184	139
2013	A758	683	住居跡 91・92	埋土		胴部～底部		横位結節回転文（R・右結）。縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		184	139
2013	A759	684	住居跡 91・92	埋土		胴部～底部		胴部下端及び底外面にヘラナデ状の平行条痕。		184	139
2013	A760	685	住居跡 91・92	埋土		口縁	深鉢	口縁部下有刺突（指頭状）隆帯。撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		184	139
2013	A761	686	住居跡 91・92	埋土		口縁～胴部	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。R の条太く表出浅い。		184	139
2013	A791	687	住居跡 92	RP1・2		口縁～胴部	深鉢	口唇面連続刺突。地文：縄文 LR 縦。口縁内面に LR 横の施文帯。		184	139
2013	A790	688	住居跡 92	RP5		口縁～底部	深鉢	口縁部下有刺突（指頭状）隆帯。地文：縄文 LR 縦？。底面網代痕。胎土に細礫多量。	a・b 有。	185	140
2013	A792	689	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部下有刺突（小円形）隆帯。		185	140
2013	A793	690	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口唇面不整連続刺突。地文：丸組紐。		185	140
2013	A794	691	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部下横位隆帯。地文：撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		185	140
2013	A795	692	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口唇面沈線。地文：無節縄文 L。		185	140
2013	A796	693	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	縦位結節回転文（R・右結）。		185	140
2013	A797	694	住居跡 93	埋土		胴部	深鉢	口唇面沈線。横位多重結節回転文（R・右結）。		185	140
2013	A798	695	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部有刺突（指頭状）隆帯。地文：縄文 LR 横。		185	140
2013	A799	696	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状。地文：不詳撚糸文（無節条）。		185	140
2013	A800	697	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。地文：縄文 RL ？。		185	140
2013	A801	698	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（r・右結）。		185	140
2013	A802	699	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁張出。口唇面連続指頭状刺突。地文：丸組紐。		185	140
2013	A803	700	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部捻りによって片口状の突出部もつ（花弁状口縁の一部か）。地文：不詳（縄文？）。		185	140
2013	A804	701	住居跡 93	埋土		胴部		細粘土紐に鋭い刻目加えた貼付文。地文：LLR ？。	大木 3 式	185	140
2013	A805	702	住居跡 93	埋土		口縁		口縁部突起（上面観連結菱形加飾体）。		185	140
2013	A806	703	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。地文：縄文 RL 縦。		185	140
2013	A807	704	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口唇面指頭状連続押圧。地文：撚糸文 R 縦（単軸絡条体第 1 類）。		185	140
2013	A808	705	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端列点刺突文。口縁部下、太沈線文。		185	140
2013	A809	706	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部突起。突起上面押圧により楕円形呈す。網目状撚糸文R（単軸絡条体第5類、撚り緩んでいる）。		185	140
2013	A810	707	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状呈す。地文：丸組紐。原体末端部結節回転文（無節条・左結）。		186	140
2013	A811	708	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口唇面連続指頭状押圧。地文：縄文 LR 横。胎土に細礫やや多・繊維やや多。		186	140
2013	A812	709	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部交互捻り（花弁状？）。地文：丸組紐。		186	140
2013	A813	710	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口唇面凹線。口縁部太隆帯。地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		186	140
2013	A814	711	住居跡 93	埋土		口縁	深鉢	口縁部太隆帯（剥落）。地文：網目状撚糸文（無節条・単軸絡条体第 5 類）。胎土 No.710 に酷似。		186	140
2013	A815	712	住居跡 93	埋土		口縁～胴部	深鉢	山形突起（頂部 2 つの小突起に分岐）。地文：撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。胎土に細礫やや多量。		186	141
2013	A816	713	住居跡 93	埋土		口縁～胴部	深鉢	口縁部下、横位太隆帯。地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		186	141
2013	A817	714	住居跡 94	埋土		口縁	深鉢	地文：不詳撚糸文。		186	141
2013	A818	715	住居跡 94	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。		186	141
2013	A819	716	住居跡 94	埋土		口縁～胴部	深鉢	口縁部低い弁状突起（上面不整刻目）。器外面ヘラナデ様縦位条痕。胎土に細礫多量。		186	141
2013	A820	717	住居跡 94	埋土		胴部～底部		地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		186	141
2013	A821	718	住居跡 94	埋土		胴部～底部		地文：不詳撚糸文。		186	141
2013	A822	719	住居跡 94	埋土		胴部～底部		地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		186	141
2013	A823	720	住居跡 94	埋土		口縁	深鉢	口縁部鋸歯状加飾体。口縁部下隆帯（上面地文施文）。地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		187	141
2013	A824	721	住居跡 94	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 RL か（右下り L 条認められる）。末端結節部の回転文。		187	141
2013	A825	722	住居跡 94	埋土		胴部～底部		底外面ヘラ状工具の調整痕。		187	141
2013	A826	723	住居跡 94	埋土		口縁～胴部	深鉢	撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		187	142
2013	A827	724	住居跡 94	埋土		口縁～胴部	深鉢	口縁部突起（円形加飾体）。地文：無節縄文 L。口縁～胴下部内面オコゲ付着。		187	142
2012	A095	725	土坑 6	埋土上部		口縁部	深鉢	LR ヨコ	726 と同一個体	188	142
2012	A096	726	土坑 6	埋土上部		口縁部	深鉢	LR ヨコ	725 と同一個体	188	142
2012	A097	727	土坑 6	埋土上部		口縁部	深鉢	口縁突起、LR ヨコ		188	142
2012	A094a,b	728	土坑 6	埋土中部		口縁部～体部	浅鉢	彫り込みによる連続突起、平行沈線、雲形文、磨り消し縄文、LR ヨコ	a・b 有。	188	142

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2012	A094c	729	土坑 6	埋土中部		体部	浅鉢	雲形文、磨り消し縄文、LR ヨコ		188	142
2012	A099	730	土坑 7	埋土		口縁部	浅鉢	彫り込みによる連続突起		188	142
2012	A100	731	土坑 7	埋土		口縁部	壺	平行沈線、摩滅激しい		188	142
2012	A101	732	土坑 7	埋土		口縁部	深鉢	摩滅激しい、RL ヨコ		188	142
2012	A102	733	土坑 7	埋土		口縁部	深鉢？	無紋		188	142
2012	A103	734	土坑 7	埋土		口縁部	壺	入組工字文、LR ヨコ		188	142
2012	A098	735	土坑 7	埋土		底部	台付鉢	沈線文（細い工具）、孔 1 個、台内面ミガキ		188	142
2012	A104	736	土坑 8	埋土上部		口縁部～底部	浅鉢	摩滅激しい、原体不明	器壁薄い	188	142
2012	A105	737	土坑 8	埋土上部		体部	深鉢	羽状文、LR		188	142
2012	A107	738	土坑 9	埋土上部		口縁部	深鉢	摩滅激しい、原体不明		188	142
2012	A109	739	土坑 9	埋土上部		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み、平行沈線、LR ヨコ		188	142
2012	A110	740	土坑 9	埋土上部		口縁部	深鉢	口縁部 LR ヨコ、体部 LR タテ		188	142
2012	A112	741	土坑 9	埋土上部		口縁部	不明			188	142
2012	A113	742	土坑 9	埋土上部		口縁～体部	深鉢	口縁カマボコ形突起、無節 L		188	142
2012	A111	743	土坑 9	埋土上部		体部	深鉢	平行沈線		188	142
2012	A106	744	土坑 9	埋土上部		底部	深鉢	RL タテ・ヨコ		188	142
2012	A108	745	土坑 9	埋土上部		底部	深鉢	摩滅激しい、原体不明		188	142
2012	A114	746	土坑 10	埋土上部		口縁部～底部	深鉢	LR ヨコ		188	142
2012	A115	747	土坑 10	埋土上部		口縁部	深鉢	平行沈線、原体不明		188	143
2012	A116	748	土坑 10	埋土上部		？	深鉢？	平行沈線		188	143
2012	A117	749	土坑 10	埋土上部		体部	不明	摩滅激しい、沈線文？		188	143
2012	A118	750	土坑 10	埋土上部		体部	深鉢	平行沈線、LR		188	143
2012	A119	751	土坑 10	埋土上部		体部	深鉢	平行沈線、LR		188	143
2012	A123	752	土坑 10・16	埋土上部		口縁部～底部	浅鉢	体部瘤貼付、多重沈線、体部下部～底部・内面のミガキ顕著、LR ヨコ～ナナメ		189	143
2012	A120	753	土坑 14	埋土		底部	深鉢	RL タテ		189	143
2012	A121	754	土坑 15	埋土		体部	深鉢	RL タテ		189	143
2012	A125	755	土坑 16	埋土上部		口縁部	浅鉢	口縁頂部刻み、孔 1 個、平行沈線、LR ヨコ		189	143
2012	A126	756	土坑 16	埋土上部		口縁部	浅鉢	彫り込みによる連続突起		189	143
2012	A127	757	土坑 16	埋土上部		口縁部	深鉢	孔 1 個、RL ヨコ		189	143
2012	A122	758	土坑 16	埋土		口縁部	深鉢	口縁波状、LR タテ～ヨコ		189	143
2012	A124	759	土坑 16	埋土		底部	深鉢	台付き上げ底、LR ヨコ		189	143
2012	A128	760	土坑 17	埋土		口縁部	深鉢	口縁内側に溝、平行沈線、LR ヨコ		189	143
2012	A129	761	土坑 24	埋土		口縁部	深鉢	口縁内側に溝、平行沈線、LR ヨコ		189	143
2012	A130	762	土坑 24	埋土		口縁部	深鉢	縄文圧痕、LR ヨコ		189	143
2012	A134	763	土坑 26	埋土		口縁部	壺	口縁頂部溝、突起、平行沈線		189	143
2012	A135	764	土坑 26	埋土		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み、平行沈線、LR ヨコ		189	143
2012	A136	765	土坑 26	埋土		口縁部	浅鉢？	口縁頂部溝・外側刻み、沈線		189	143
2012	A137	766	土坑 26	埋土		口縁部	浅鉢？	沈線文、LR?		189	143
2012	A138	767	土坑 26	埋土		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広溝、幅広沈線、RL ヨコ	768 と同一個体	189	143
2012	A139	768	土坑 26	埋土		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広溝、幅広沈線、RL ヨコ	767 と同一個体	189	143
2012	A140	769	土坑 26	埋土		口縁部	深鉢	口縁突起、LR ヨコ		189	143
2012	A142	770	土坑 26	埋土		口縁部	深鉢	LR ヨコ？		189	143
2012	A141	771	土坑 26	埋土		体部	深鉢	沈線、LR ヨコ～ナナメ		189	143
2012	A132	772	土坑 26	埋土		底部	深鉢	摩滅激しい、底部植物の炭化痕？付着、LR ヨコ		189	143
2012	A133	773	土坑 26	埋土		底部	深鉢	底部ミガキ、RL ヨコ？		189	143
2012	A131	774	土坑 26・住居跡 02	埋土		口縁部	深鉢	口縁頂部刻み		190	143
2012	A143	775	土坑 27・28	埋土		口縁部	深鉢	平行沈線、LR ヨコ		190	143
2012	A145	776	土坑 32	埋土		口縁部	深鉢？	沈線、RL ヨコ		190	143

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2012	A146	777	土坑 32	埋土		体部	深鉢	RL ヨコ		190	143
2012	A144	778	土坑 32	埋土		底部	深鉢	底部網代痕？ RL タテ		190	144
2012	A148	779	土坑 34	埋土上部		口縁部	深鉢	平行沈線、RL タテ		190	144
2012	A147	780	土坑 34	埋土上部		体部	鉢	平行沈線、内面ミガキ工具痕顕著、LR ヨコ・タテ		190	144
2012	A149	781	土坑 34	埋土上部		体部	深鉢？	竹管文、沈線文		190	144
2012	A150	782	土坑 35	埋土		口縁部	深鉢	口縁山形突起、LR ヨコ、タテ		190	144
2012	A151	783	土坑 35	埋土		口縁部	深鉢	LR ヨコ		190	144
2012	A155	784	土坑 39	埋土		口縁部	深鉢	口縁波状、沈線、RL ヨコ		190	144
2012	A156	785	土坑 40	埋土		体部	深鉢	沈線文、LR?		190	144
2012	A160	786	土坑 42	埋土		口縁部	浅鉢	摩滅激しい、口縁玉状突起２個、RL?		190	144
2012	A157	787	土坑 42	埋土		口縁部	壺	沈線、体部の括れに工具痕、内面ミガキ		190	144
2012	A159	788	土坑 42	埋土		口縁部	壺？			190	144
2012	A162	789	土坑 42	埋土		口縁部	深鉢	平行沈線、LR ヨコ		190	144
2012	A163	790	土坑 42	埋土		口縁部	深鉢	縄文圧痕、口縁部 LR ヨコ		190	144
2012	A158	791	土坑 42	埋土		口縁部	深鉢？	LR タテ圧痕気味に若干回転		190	144
2012	A161	792	土坑 42	埋土		口縁部	深鉢？	口縁折返し、胎土きめ細かい		190	144
2012	A165	793	土坑 43・住居跡 18	埋土		口縁部	深鉢	口縁波状、条大きめの RL ヨコ		190	144
2012	A168	794	土坑 43・住居跡 18	埋土		底部	深鉢	底部網代痕、LR タテ？		190	144
2012	A166	795	土坑 43・45	埋土		口縁部	深鉢	LR タテ		191	144
2012	A164	796	土坑 43・45	埋土		底部	深鉢	底部網代痕、RL タテ？		191	144
2012	A169	797	土坑 45	埋土		体部	深鉢	孔１個、括れ部 LR タテに若干回転、体部 LR ヨコ		191	144
2012	A167	798	土坑 45	埋土		底部	深鉢	底部網代痕、LR タテ		191	144
2013	A849	799	土坑 51	埋土		胴部		縦位結節回転文（R・右結）。地文：LR＋附加条 R（縦回転）。胎土に細礫多量。		191	144
2013	A848	800	土坑 51	埋土		胴部		地文：縄文 LR 縦。		191	144
2013	A851	801	土坑 52	埋土		口縁	深鉢	口唇外縁連続刺突。地文：撚糸文 R（単軸絡条体第１類）縦。口縁部内面、同原体の横回転施文。		191	144
2013	A852	802	土坑 52	埋土		口縁	深鉢	口縁部有刺突（指頭状）太隆帯。地文：縄文 LR 縦。		191	144
2013	A853	803	土坑 52	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位結節回転文（ｌ・左結）。胎土に繊維多量。		191	144
2013	A854	804	土坑 52	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位太隆帯。地文：撚糸文 R（単軸絡条体第１類）。		191	144
2013	A855	805	土坑 53	埋土		胴部		細粘土紐による貼付文。地文：縄文 LR 縦。		191	144
2013	A856	806	土坑 53	埋土		口縁	深鉢	山形突起。縦位結節回転文（R・右結）。縄文 LR 縦。		191	144
2013	A857	807	土坑 53	埋土		口縁	深鉢	波状口縁（山形突起？）。撚糸文 L（単軸絡条体第１類）。		191	144
2013	A858	808	土坑 53	埋土		口縁	深鉢	横位結節回転文（R・右結）。胎土に細礫やや多量。		191	144
2013	A859	809	土坑 54	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位押引文。胎土に繊維多量。		191	145
2013	A860	810	土坑 54	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位結節回転文（不詳）。胎土に繊維多量。		191	145
2013	A861	811	土坑 55	埋土		口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（不詳）。地文縄文 RL 縦？。胎土に繊維多量。		191	145
2013	A862	812	土坑 58	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 RLR 横。胎土に繊維多量。焼成後穿孔。		191	145
2013	A863	813	土坑 58	埋土		胴部	尖底深鉢？	半裁竹管状工具による連続爪形文（工具内面の押引状施文）。胎土に繊維やや多量。		191	145
2013	A864	814	土坑 58	埋土		口縁	深鉢	横位羽状縄文（RL＋LR・結束第１種）。胎土に繊維やや多量。		191	145
2013	A865	815	土坑 59	埋土		胴部	深鉢	成形やや粗雑。網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。		192	145
2013	A866	816	土坑 59	埋土		口縁	深鉢	口唇面、棒状工具側面押圧による刻目。地文：縄文 LR 縦。胎土に繊維多量。		192	145
2013	A867	817	土坑 59	埋土		口縁	深鉢	地文：撚糸文 L（単軸絡条体第１類）。		192	145
2013	A868	818	土坑 59	埋土		胴部		半裁竹管状工具による平行沈線文。地文：縄文 LR ？。		192	145
2013	A870	819	土坑 59	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（L・左）。胎土に繊維多量。		192	145
2013	A869	820	土坑 62	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・右結）。胎土に細礫多量。		192	145
2013	A871	821	土坑 62	埋土		口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。胎土に細礫多量。		192	145
2013	A872	822	土坑 62	埋土		口縁	深鉢	口唇面の一部に刻目。口縁部下、横位平行沈線。地文：網目状撚糸文 L（単軸絡条体第５類）。		192	145
2013	A873	823	土坑 63	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・右結）。胎土に細礫多量。		192	145
2013	A876	824	土坑 65	埋土		口縁	深鉢	地文：丸組紐？。胎土に細礫多量。		192	145

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A877	825	土坑 65	埋土		胴部～底部		不詳撚糸文。胎土に細礫多量。		192	145
2013	A879	826	土坑 66	埋土		胴部		隆帯・沈線による曲線意匠。地文：縄文 LR。		192	145
2013	A880	827	土坑 66	埋土		胴部		平行沈線文。小波状文。地文：縄文 LR。内面ミガキ状の丁寧な調整。	大木 6 式？	192	145
2013	A881	828	土坑 66	埋土		口縁	深鉢	撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。胎土に繊維多量。		192	145
2013	A882	829	土坑 66	埋土		口縁	深鉢	口縁部下、有刺突太隆帯。地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。胎土に細礫多量。		192	145
2013	A883	830	土坑 66	埋土		胴部		沈線による曲線文。地文：不詳縄文。		192	145
2013	A884	831	土坑 66	埋土		口縁	深鉢	隆沈線による曲線文。地文：縄文 LR ？。		192	145
2013	A885	832	土坑 67	埋土		口縁	深鉢	口縁部「の」字状装飾。		192	145
2013	A886	833	土坑 67	埋土		口縁	深鉢	二重口縁。地文：縄文 LR 縦。		192	145
2013	A887	834	土坑 67	埋土		口縁	深鉢	口縁部上端肥厚。貼付文。		192	145
2013	A888	835	土坑 68	埋土及び周辺堆積層		口縁	深鉢	口縁部横位沈線。地文：丸組紐？。		192	145
2013	A889	836	土坑 68	埋土及び周辺堆積層		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		192	145
2013	A890	837	土坑 69	埋土		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		192	145
2013	A894	838	土坑 73・74	埋土		胴部	深鉢	横位多重結節回転文（R・右結）。胎土に繊維多量。		192	145
2013	A895	839	土坑 73・74	埋土		胴部		竹管状工具外面による押引沈線文。		192	145
2013	A896	840	土坑 73・74	埋土		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（L・右結）。胎土に繊維多量。		192	145
2012	A153	841	溝状陥し穴 7	埋土		口縁部	浅鉢	LR ヨコ～ナナメ		192	145
2012	A152	842	溝状陥し穴 7	埋土上部		体部	浅鉢？	摩滅激しい、雲形文？		192	145
2012	A154	843	溝状陥し穴 7	埋土上部		体部	深鉢	区画された沈線、LR ヨコ？		192	145
2013	A850	844	溝状陥し穴 25	埋土		胴部～底部		無文。成形粗雑。胎土に細礫多量。		192	145
2013	A874	845	溝状陥し穴 27	埋土		胴部		有刺突（小円形）隆帯。胎土に繊維多量。		192	145
2013	A875	846	溝状陥し穴 27	埋土		口縁		口唇面連続刻目。口縁上端平行沈線。口縁内面上端沈線。地文：縄文 RL 横。		192	145
2013	A898	847	溝状陥し穴 27	埋土	Ⅱ D6k：Ⅱ層	口縁～底部	深鉢	地文：縄文 LR。底面網代痕。		193	146
2013	A878	848	溝状陥し穴 28	埋土		口縁	深鉢	小突起。口唇外縁連続刻目。口縁部横位多重結節回転文（L・右）。地文：縄文 RL ？。		193	146
2013	A899	849	焼土遺構 2	焼土下部～床面		口縁	深鉢	地文：不詳回転文。胎土に繊維多量。		193	146
2013	A900	850	焼土遺構 2	焼土下部～床面		口縁	深鉢	半裁竹管状工具内面による曲線沈線文。		193	146
2013	A901	851	焼土遺構 2	焼土下部～床面		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・右結）。胎土に繊維多量。		193	146
2013	A902	852	焼土遺構 3	焼土生成面と同面		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・右結）。胎土に繊維多量。焼成後穿孔。		193	146
2013	A903	853	焼土遺構 3	焼土生成面と同面		胴部		有刺突隆帯による貼付文。		193	146
2013	A904	854	焼土遺構 3	焼土生成面と同面		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（R・左結）。胎土に繊維多量。		193	146
2013	B105	855	住居跡 88 以南	黒褐色土		口縁	深鉢	口縁部、LR 側面圧痕による文様。胎土に繊維やや多量。		194	147
2013	B106	856	住居跡 88 以南	黒褐色土		口縁	深鉢	地文：縄文 LRL。胎土に繊維多量。		194	147
2013	B107	857	住居跡 88 以南	黒褐色土		口縁	深鉢	口縁部、横位多重結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR 横？。胎土に繊維多量。		194	147
2013	B108	858	住居跡 88 以南包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	口縁部、横位多重結節回転文（R・右結）。地文：縄文 RL 横。		194	147
2013	B109	859	住居跡 88 以南包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	口縁部、横位多重結節回転文（L・左結？）。地文：縄文 RL 横。		194	147
2013	B110	860	住居跡 88 以南包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	横位羽状縄文（RL＋LR・結束第 1 種）。胎土の繊維多量。		194	147
2013	B111	861	住居跡 88 以南包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	多軸絡条体（R）。胎土に細礫やや多量。		194	147
2013	B112	862	住居跡 88 以南包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	地文：縄文 LRL 横？。外面オコゲ付着顕著。胎土に繊維多量。		194	147
2013	B101	863	住居跡 88 以南包含層	黒褐色土		口縁付近～底部	深鉢	胴部上半、重層弧状隆沈線文による横位展開文様帯。胴部下半、4 単位の垂下文。地文：縄文 LR 縦。		194	147
2013	B104	864	住居跡 88 以南包含層	黒褐色土		胴部		細粘土紐による貼付文。地文：不詳縄文（反撚？）。		194	147
2013	B102	865	住居跡 88 以南包含層	黒褐色土		底部	尖底深鉢？	刺突文。		194	147
2013	B103	866	住居跡 88 以南包含層	黒褐色土		胴部～底部	尖底深鉢？	縄文 LR ？		194	147
2013	B114	867	住居跡 33 周辺包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	口縁部、横位多重 R 原体側面圧痕。地文：縄文 LR 横。胎土に繊維多量。		194	147
2013	B115	868	住居跡 33 周辺包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	竹管状工具外面による横位多重押引状凹線文。		194	147
2013	B116	869	住居跡 33 周辺包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	波状口縁（突起？）。撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類または第 5 類）。		194	147
2013	B117	870	住居跡 33 周辺包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	口縁部、横位有刺突（指頭状）隆帯。地文：縄文 LR 横。		194	147
2013	B118	871	住居跡 33 周辺包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	横位 R 原体側面圧痕（R2 本一組、撚糸文か）。		194	147
2013	B119	872	住居跡 33 周辺包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	口縁部突起。口縁部、横位有刺突（小円形）隆帯。地文：縄文 LR ？。		194	147

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	B120	873	住居跡 33 周辺包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	横位木目状撚糸文（L2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。胎土に繊維多量。		194	147
2013	B121	874	住居跡 33 周辺包含層	黒褐色土		口縁	深鉢	波状口縁。口縁部やや肥厚。多重横位沈線。		194	147
2013	B113	875	住居跡 33 周辺包含層	黒褐色土		胴部	深鉢	横位結節回転文（R・右）。		194	147
2013	A241	876	住居跡 63 西側包含層	暗褐色土	住居跡 81: 埋土	口縁	深鉢	口唇面連続指頭状押圧。口縁部下有刺突隆帯による意匠。縦位結節回転文（R・右結）。地文：縄文 LR 縦。		194	147
2013	B122	877	住居跡 41 周辺	暗褐色土		口縁～胴部	深鉢	口唇面、上面観連結菱形の加飾体。口縁～胴上部、太隆帯による連結菱形の貼付文（上面に沈文）。地文：縦位羽状縄文（LR＋RL・結束第 1 種）。		194	147
2013	B123	878	住居跡 64 以南一括			口縁	深鉢	口唇面刻目。地文：縄文 LR 縦。		194	147
2013	B124	879	住居跡 64 以南一括			口縁	深鉢	口縁部突起（波状口縁？）。地文：縄文 RL 縦。胎土に繊維多量。		194	147
2013	B125	880	住居跡 64 以南一括			口縁	深鉢	口唇面刻目。		194	147
2013	B126	881	住居跡 64 以南一括			口縁	深鉢	縄文 LR（0 段多条）横。胎土に繊維多量。		195	147
2013	B128	882	住居跡 64 以南一括			口縁	深鉢	網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 6 類？）。		195	147
2013	B129	883	住居跡 64 以南一括			口縁	深鉢	口縁部鋸歯状加飾体（有刺突）。口縁部～胴上部有刺突太隆帯による貼付文。地文：縄文 LR。		195	147
2013	B130	884	住居跡 64 以南一括			口縁	深鉢	不詳撚糸文。		195	147
2013	B132	885	住居跡 64 以南一括			口縁	深鉢	口唇面連続刻目。地文：撚糸文 1 （単軸絡条体第 1 類）。		195	147
2013	B127	886	住居跡 64 以南一括			口縁～胴部	深鉢	撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。		195	148
2013	B131	887	住居跡 64 以南一括			胴部		単軸絡条体第 1 類側面圧痕か。		195	148
2013	B133	888	住居跡 64 以南一括			胴部～底部	尖底深鉢？	連続爪形刺突文。		195	148
2013	B140	889	住居跡 83 周辺	黒褐色土		口縁	深鉢	口縁部突起。横位多重結節回転文（R・左結）。胎土に繊維多量。		195	148
2013	B141	890	住居跡 83 周辺	黒褐色土		口縁		口縁部突起（波頂部？）。刺突文。		195	148
2013	B142	891	住居跡 55 以南一括	黒褐色土		胴部	深鉢	地文：縄文 RL 縦？（節大きく、一方の条が表出されない）。		195	148
2013	B134	892	土坑 48 以南一括			口縁	深鉢	鋭く深い円形沈文。		195	148
2013	B135	893	土坑 48 以南一括			口縁	深鉢	弁状突起（頂部連続刺突）。横位多重結節回転文（R・右結）。		195	148
2013	B136	894	土坑 48 以南一括			口縁	深鉢	横位撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。胎土に繊維多量。		195	148
2013	B139	895	土坑 48 以南一括			口縁～胴部	深鉢	撚糸文 R（単軸絡条体第 1 類）。胎土に細礫やや多量。		195	148
2013	B137	896	土坑 48 以南一括			胴部	深鉢	細粘土紐による貼付文。篦状工具先端による列点刺突文。有刻目隆帯。地文：前々段反撚 LRR 横？。		195	148
2013	B138	897	土坑 48 以南一括			胴部		縦位木目状撚糸文（L2 本一組・単軸絡条体第 1A 類）。		195	148
2013	A897	898	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁～底部	深鉢			196	149
2013	A828	899	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	横位多重結節回転文（L・右結）。胎土に繊維やや多量。		197	150
2013	A830	900	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	半截竹管状工具による連続爪形刺突文。胎土に繊維やや多量。		197	150
2013	A831	901	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	口唇外縁連続刻目。地文：縄文 LR 横。		197	150
2013	A833	902	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	口縁部太隆帯による鋸歯状文。地文：丸組紐。		197	150
2013	A834	903	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	口縁部有刺突太隆帯。網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。胎土に細礫多量。		197	150
2013	A835	904	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（R・右結）。地文：横位木目状撚糸文 R（単軸絡条体第 1A 類）。胎土に繊維多量。		197	150
2013	A836	905	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	鉢？	口縁部鋭い連続刻目持つ細隆帯。地文：縄文 RL ？。器面磨滅顕著。	大木 3 式	197	150
2013	A837	906	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状。地文：縄文 LR。		197	150
2013	A839	907	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	口唇面連続刺突。地文：不詳回転圧痕（L 圧痕・無節条結節回転文）。口縁部内面にも同原体の施文部有。胎土に細礫多量。		197	150
2013	A840	908	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	地文：縄文 LR（0 段多条）縦。胎土に繊維多量。		197	150
2013	A841	909	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	横位多重結節回転文（L・右結）。焼成後穿孔。胎土に繊維やや多量。		197	150
2013	A842	910	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	口縁部横位多重結節回転文（L・左結）。地文：撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。胎土に繊維多量。		197	150
2013	A843	911	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	口唇肥厚し玉縁状呈す。口縁部半截竹管状工具内面の押引隆帯による貼付文。同工具による格子状文。	大木 7 a 式	197	150
2013	A845	912	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	地文：縄文 RL 横（一部に縦回転施文有）。胎土に繊維多量。		197	150
2013	A846	913	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁	深鉢	口縁部無文帯。口縁部下、横位多重結節回転文（不詳）。地文：縄文 RL 横。胎土に繊維やや多量。		197	150
2013	A838	914	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁～胴部	深鉢	撚糸文 L（単軸絡条体第 1 類）。		197	150
2013	A847	915	Ⅱ D7 l 遺物集中部			口縁～胴部	深鉢	地文：縄文 LR 横。		197	150
2013	A829	916	Ⅱ D7 l 遺物集中部			胴部		細粘土紐による小波状貼付文。		197	150
2013	A832	917	Ⅱ D7 l 遺物集中部			胴部		鋭く深い円形沈文。地文：RLL ？。		197	150

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	A844	918	Ⅱ D7 l 遺物集中部			胴部		地文：横位木目状撚糸文 R（単軸絡条体第 1A 類）。胎土に繊維多量。		197	150
2012	B003	919	Ⅱ C09j	検出面		口縁部	深鉢	LR ヨコ		197	150
2012	B004	920	Ⅱ C09j	黒褐～暗褐色土		口縁部	壺？	口縁頂部溝・内側溝、平行隆帯（細い）、内外面ミガキ顕著		197	150
2012	B002	921	Ⅱ C09j～12j	黒褐～暗褐色土		口縁部	深鉢	口縁頂部溝、A 字突起（10 単位）、多重沈線、RL ヨコ		197	150
2012	B005	922	Ⅱ C09 m	暗褐色土		口縁部	深鉢	複節		197	150
2012	B024	923	Ⅱ C10j	検出面		口縁部	深鉢？	口縁頂部幅広刻み、沈線		197	150
2012	B006	924	Ⅱ C10 l	黒褐～暗褐色土		体部	浅鉢	沈線文、雲形？ RL ナナメ		197	150
2012	B007	925	Ⅱ C10 m	黒褐～暗褐色土		口縁部	深鉢	口縁内面に折返し、頂部幅広刻み、平行沈線、RL ヨコ		197	150
2012	B008	926	Ⅱ C10n	黒褐～暗褐色土		口縁部	深鉢	口縁外側に刻み・内側溝、RL タテ？		198	150
2012	B019	927	Ⅱ C11i	検出面		口縁部	浅鉢	口縁彫り込み・内側溝、内外面ミガキ顕著	933 と類似	198	150
2012	B020	928	Ⅱ C11i	検出面		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み・内側溝、沈線、孔 1 個、外面オコゲ多量		198	150
2012	B021	929	Ⅱ C11j	検出面		口縁部	深鉢	口縁突起・頂部溝・内側溝、平行沈線、原体不明	沈線深い	198	150
2012	B022	930	Ⅱ C11j	検出面		口縁部	浅鉢	口縁突起？・内側溝、連続刺突文、平行沈線、LR ヨコ？		198	150
2012	B023	931	Ⅱ C11j	検出面		体部	深鉢	沈線、LR ヨコ		198	150
2012	B016	932	Ⅱ C11 l	検出面		口縁部	浅鉢	口縁突起・頂部溝・内側溝、平行沈線、LR ヨコ		198	150
2012	B018	933	Ⅱ C11 l	検出面		口縁部	浅鉢	口縁彫り込み・内側溝、内外面ミガキ顕著	927 と類似	198	151
2012	B017	934	Ⅱ C11 l	検出面		体部	深鉢	摩滅激しい、口縁頂部刻み？・内側溝、LR タテ？		198	151
2012	B009	935	Ⅱ C11 l	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁突起・頂部溝、平行沈線、LR ヨコ		198	151
2012	B010	936	Ⅱ C11 l	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁頂部溝、平行沈線、RL ヨコ		198	151
2012	B011	937	Ⅱ C11 l	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢？	沈線		198	151
2012	B012	938	Ⅱ C11 l	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	浅鉢	口縁突起・突起間溝・内側溝、		198	151
2012	B014	939	Ⅱ C11 l	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁頂部刻み、沈線		198	151
2012	B015	940	Ⅱ C11 l	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み、沈線、LR ヨコ		198	151
2012	B013	941	Ⅱ C11 l	Ⅱ～Ⅲ		体部	浅鉢	平行沈線、原体不明		198	151
2012	B025	942	Ⅱ C11 m	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁外側に幅広刻み・内側溝、沈線		198	151
2012	B026	943	Ⅱ C12i	検出面		口縁部	壺？	連続刺突文、多重沈線		198	151
2012	B027	944	Ⅱ C12j	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み、孔 2 個、沈線		198	151
2012	B028	945	Ⅱ C12j	Ⅱ～Ⅲ		体部	注口？	多重沈線、幅広刻み、LR ヨコ？		198	151
2012	B029	946	Ⅱ C12k	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	摩滅激しい、口縁頂部幅広刻み、孔 1 個、原体不明、内面オコゲ多量		198	151
2012	B030	947	Ⅱ C12k	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み・内面溝、沈線、RL ヨコ		198	151
2012	B031	948	Ⅱ C12k	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢？	口縁頂部刻み、沈線、RL ヨコ		198	151
2012	B033	949	Ⅱ C12 l	検出面		口縁部	深鉢	口縁突起・幅広で深い刻み、平行沈線、LR ヨコ	955・956 と類似	198	151
2012	B032	950	Ⅱ C12 l	検出面		底部	壺？	深い溝により底部が台状となる、LR ヨコ		198	151
2012	B034	951	Ⅱ C12 l	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	LR ヨコ		198	151
2012	B036	952	Ⅱ C13j	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁頂部～体部 LR ヨコ、平行沈線		198	151
2012	B035	953	Ⅱ C13j	Ⅱ～Ⅲ		体部	壺？	多重沈線、外面ミガキ顕著		198	151
2012	B038	954	Ⅱ C13j	Ⅱ～Ⅲ		体部	浅鉢	雲形文？ LR ヨコ		198	151
2012	B039	955	Ⅱ C13k	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁突起・幅広で深い刻み、平行沈線、LR ヨコ	949・956 と類似	198	151
2012	B040	956	Ⅱ C13k	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁突起・幅広で深い刻み、平行沈線、LR ヨコ	949・955 と類似	198	151
2012	B041	957	Ⅱ C13 l	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	口縁頂部溝・外側刻み、多重沈線		198	151
2012	B042	958	Ⅱ C13 l	Ⅱ～Ⅲ		体部	浅鉢？	雲形文、LR ヨコ		198	151
2012	B043	959	Ⅱ C13 m	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	羽状文 RL、胎土粗い		198	151
2012	B044	960	Ⅱ C13 m	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	羽状文 RL		199	151
2012	B046	961	Ⅱ C14k	検出面		口縁部	深鉢	沈線文、口縁頂部～体部 LR ヨコ		199	151
2012	B045	962	Ⅱ C14k	検出面		体部	浅鉢	雲形文？ LR ヨコ		199	151
2012	B047	963	Ⅱ C14 l	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	内外面から未貫通の穿孔痕、RL ヨコ		199	151
2012	B048	964	Ⅱ C14 l	Ⅱ～Ⅲ		体部	深鉢	上部 LR ナナメ？、下部羽状 RL		199	151
2012	B049	965	Ⅱ C14n	Ⅱ～Ⅲ		底部～体部	深鉢？	沈線、LR?、底部網代痕、内外面焼け弾け顕著		199	151

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2012	B051	966	Ⅱ C15j 付近			体部	深鉢	平行沈線、LR ヨコ		199	152
2012	B050	967	Ⅱ C15j 付近			底部	浅鉢？	底部内面に円形沈線		199	152
2012	B053	968	Ⅱ C15k	Ⅲ		口縁部	深鉢	沈線、RL ヨコ		199	152
2012	B052	969	Ⅱ C15k	Ⅲ		底部	深鉢	底部網代痕		199	152
2012	B054	970	Ⅱ C15l	Ⅲ		口縁部	深鉢	大きい連続刺突文、多重沈線、LR タテ		199	152
2012	B055	971	Ⅱ C15l	Ⅲ		口縁部	深鉢	網目状撚糸文 RL		199	152
2012	B056	972	Ⅱ C15l	Ⅲ		口縁部	深鉢	羽状文 RL		199	152
2012	B057	973	Ⅱ C15l	検出面		口縁部	深鉢	RL タテ・ヨコ交互に施文		199	152
2012	B058	974	Ⅱ C16 m	Ⅲ		口縁部	深鉢	沈線文、竹管文、LR ヨコ		199	152
2012	B059	975	Ⅱ C16 m	検出面		口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み		199	152
2012	B060	976	Ⅱ C16 m	検出面		口縁部	深鉢	口縁波状？多重沈線、竹管文、LR ヨコ		199	152
2012	B061	977	Ⅱ C16n	検出面		口縁部	浅鉢	口縁突起、羊歯状文？、沈線文、RL タテ		199	152
2012	B062	978	Ⅱ C18 l	検出面		口縁部	深鉢	口縁波状？多重沈線、竹管文、LR タテ・ヨコ		199	152
2012	B063	979	Ⅱ C18 l	検出面		口縁部	深鉢	口縁頂部～体部 LR タテ～ヨコ		199	152
2012	B064	980	Ⅱ C18 m	Ⅲ		口縁部	深鉢	RL ヨコ－無紋－ RL 圧痕－ RL ヨコ		199	152
2012	B066	981	Ⅱ C18 t	Ⅱ～Ⅲ		口縁部	深鉢	RL 連続圧痕		199	152
2012	B065	982	Ⅱ C18 t	Ⅱ～Ⅲ		体部	浅鉢	沈線、羊歯状文？、LR ヨコ		199	152
2012	B001	983	Ⅱ C1 g 付近	Ⅲ以下		底部	深鉢	尖底		199	152
2013	B143	984	Ⅱ C8 l	Ⅱ		口縁	鉢？	口縁部、横位重層沈線。口縁内面沈線。	縄文時代晩期末葉	199	152
2013	B144	985	Ⅱ C8 l	Ⅱ		口縁	深鉢	地文：縄文 LR 横。焼成後穿孔。		199	152
2013	B145	986	Ⅱ C8o	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部突起。口唇面沈線。口縁部下無文部（横方向の入念なミガキ状のナデ）。胴上部沈線文。内面入念なヨコナデ。地文：縄文 LR 横。		199	152
2013	B146	987	Ⅱ C8r	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部、臼歯列状の突起。地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第 5 類）。		200	152
2013	B170	988	Ⅱ D10 g	Ⅱ		胴部		沈線文。沈線間に交互刺突文。地文：不明瞭な L 圧痕。	弥生時代後期	200	152
2013	B171	989	Ⅱ D10j	Ⅲ		口縁	深鉢	網目状撚糸文（無節条・単軸絡条体第 5 類）。原体末端圧痕表出。口唇面、同原体圧痕施文。焼成後穿孔（内・外面それぞれで穿孔位置にずれが生じている）。		200	152
2013	B172	990	Ⅱ D10j	Ⅲ		口縁	深鉢	山形突起（波状口縁？）、頂部突出し上面に刺突持つ。波頂下に楕円形の窓。胴上部、粘土紐による貼付文。地文：丸組紐。		200	152
2013	B147	991	Ⅱ D4j	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部突起。口縁上縁、小波状隆帯。突起起点の横位弧状沈線文。縄文 LR 縦。		200	152
2013	B148	992	Ⅱ D5 l	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部突起（頂部刺突）。有刺突太隆帯による貼付文。地文：縄文 LR 縦（末端結節回転文？）。		200	152
2013	B149	993	Ⅱ D5 m	Ⅱ		口縁	深鉢	円形沈文。	大木 3 式	200	152
2013	B150	994	Ⅱ D5o	Ⅱ		胴部	深鉢	曲線沈線文。地文：縄文 LR（または無節縄文 L）縦。		200	152
2013	B151	995	Ⅱ D6k	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部上縁肥厚。波状隆帯。口縁部、沈線による横位展開の文様帯。		200	153
2013	B152	996	Ⅱ D6 l	Ⅱ		口縁	深鉢	口唇部肥厚。口縁部文様帯（隆沈線による）。地文：縄文 LR。		200	153
2013	B153	997	Ⅱ D6 m	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部有刺突（指頭状）太隆帯。地文：縄文 RL?。		200	153
2013	B154	998	Ⅱ D6 m	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部突起（頂部刺突）。口縁部、円形刺突文。弧状沈線文。	大木 3 式	200	153
2013	B155	999	Ⅱ D6 m	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部上縁、有刺突隆帯。縦位結節回転文（無節条・左結）。		200	153
2013	B156	1000	Ⅱ D6 m	Ⅱ		口縁		沈線区画による文様。地文：縄文 LR。		200	153
2013	B157	1001	Ⅱ D7j	Ⅱ		胴部		頸部把手（欠損）。		200	153
2013	B158	1002	Ⅱ D7k	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部突起。突起頂部～口唇面に連続刺突（細竹管）。横位多重結節回転文（R・右結？）。		200	153
2013	B160	1003	Ⅱ D8 l	Ⅱ		底部（尖底）	尖底深鉢	地文：無節縄文？。	早期末葉～前期初頭	200	153
2013	B159	1004	Ⅱ D8 l	Ⅱ		胴部		沈線による文様帯。		200	153
2013	B161	1005	Ⅱ D9i（住居跡 43 周辺）	Ⅱ		口縁部	深鉢	半截竹管状工具内面による押引隆帯。格子状沈線文（縦位沈線間が蒲鉾状呈す。半裁竹管状工具内面によるか）。	大木 7 a 式	200	153
2013	B162	1006	Ⅱ D9k	Ⅱ		口縁	深鉢	縄文 RLR 横。胎土に繊維多量。		200	153
2013	B163	1007	Ⅱ D9k	Ⅱ		口縁	深鉢	深く鋭い円形沈文。	大木 3 式	200	153
2013	B164	1008	Ⅱ D9k	Ⅱ		口縁	深鉢	横位多重結節回転文（ｌ？・左結）。胎土に繊維多量。		200	153
2013	B165	1009	Ⅱ D9 l	Ⅱ		口縁	深鉢	口唇部交互捻りで口縁花弁状呈す。地文：丸組紐？		200	153
2013	B166	1010	Ⅱ D9 l	Ⅱ		口縁	深鉢	口唇面押圧による刻目。縦位結節回転文？。		200	153

調査年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	異地点接合	口縁～底部	器種	所見	その他	図版	写真図版
2013	B167	1011	Ⅱ D9 l	Ⅱ		口縁	深鉢	口唇部外縁張出す。斜位結節回転文（1・左結）。焼成後穿孔。胎土に繊維多量。		200	153
2013	B168	1012	Ⅱ D9 l	Ⅱ		口縁	深鉢	口唇部外縁張出す。口唇面沈線。地文：縄文 RL 横？。焼成後穿孔。内面、横方向の調整痕。		200	153
2013	B169	1013	Ⅱ D9 m	Ⅱ		口縁	深鉢	口唇面、竹管状工具による小円形連続刺突。口縁部、同工具刺突隆帯による貼付文。		200	153
2013	B173	1014	Ⅱ E2 a	Ⅱ		口縁	深鉢	口唇面、小波状貼付文。口縁部、粘土紐による貼付文。地文：縄文 LR。		200	153
2013	B174	1015	Ⅱ E2b	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部、弁状突起。突起上面～口唇面、連続刺突。撚糸文 R（単軸絡条体第１類）。		200	153
2013	B175	1016	Ⅱ E2b	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部（口唇面）、上面観鋸歯状加飾体。口縁部下太隆帯。地文：網目状撚糸文 R（単軸絡条体第５類）。		201	153
2013	B176	1017	調査区	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部無文帯。頸部沈線により区画。地文：縄文 RL。		201	153
2013	B177	1018	調査区	Ⅱ		口縁	深鉢	口縁部突起（小山形）。地文：縄文 LR 横。		201	153
2013	A906	1019	調査区			口縁	深鉢	口縁部交互捻りで花弁状呈す。地文：不詳縄文。		201	153
2013	A907	1020	調査区			口縁	深鉢	口縁部曲線沈線文。無節縄文？。胎土に繊維多量。		201	153
2013	A905	1021	調査区			口縁	深鉢	横位結節回転文（R・左結）。地文：縄文 LR（0 段多条）。		201	153
2013	B187	1022	調査区			口縁	深鉢	口縁部、上面観３字状の有刺突加飾体。加飾体下位に有刺突貼付文。		201	153
2013	A908	1023	調査区			口縁～胴部	深鉢	口唇面連続刻目。縦位結節回転文（1・右結）。地文：縄文 LR 縦。胎土に繊維やや多量。		201	153
2012	A078	1024	調査区			口縁部	深鉢	口縁太隆帯貼付、LR 圧痕、LR ヨコ		201	153
2012	A079	1025	調査区			口縁部	深鉢？	竹管文２個、沈線文		201	153
2012	A076	1026	調査区			底部	深鉢	LR ヨコ		201	153
2012	A077	1027	調査区			底部	深鉢	底部木葉痕、RL タテ？		201	154
2012	B075	1028	調査区			口縁部	深鉢	LR ヨコ		201	154
2012	B076	1029	調査区			口縁部	深鉢	口縁頂部幅広刻み、隆帯に連続刺突文		201	154
2012	B077	1030	調査区			口縁部	深鉢	上部 RL ナナメ、RL ヨコ		201	154
2012	B078	1031	調査区			口縁部	深鉢	口縁頂部溝・外側刻み、平行沈線、LR ヨコ		201	154
2012	B079	1032	調査区			口縁部	深鉢	LR ヨコ		201	154
2012	B073	1033	調査区			底部	深鉢	底部上げ底、RL ヨコ・タテ		201	154
2012	B074	1034	調査区			底部	深鉢	尖底、RL タテ		201	154
2013	B178	1035	調査区西部	Ⅳ～Ⅴ上面		胴部	鉢？	雲形文。地文：微細な縄文（RL?）。化粧土剥落顕著。	縄文時代晩期	201	154
2013	B179	1036	調査区西部	Ⅳ～Ⅴ上面		胴部	鉢？	雲形文。地文：微細な縄文（不詳）。	縄文時代晩期	201	154
2013	B180	1037	調査区西部	Ⅳ～Ⅴ上面		胴部		雲形文。地文：縄文 LR ？。	縄文時代晩期	201	154
2012	B069	1038	調査区東端部	Ⅱ下面		口縁部	深鉢	口縁頂部連続捻り・ジグザグ溝、円形の孔？ LR タテ・ヨコ		201	154
2013	B182	1039	導水管施工区（2013 追加分 100㎡）	Ⅱ～Ⅲ		口縁	深鉢	口唇面連続刺突。地文：縄文 LR 縦。		201	154
2013	B183	1040	導水管施工区（2013 追加分 100㎡）	Ⅱ～Ⅲ		口縁	深鉢？	蓋？。口縁部無文帯（沈線区画）。地文：縄文 LR。		201	154
2013	B184	1041	導水管施工区（2013 追加分 100㎡）	Ⅱ～Ⅲ		口縁		無文。内外面丁寧なナデ。		202	154
2013	B181	1042	導水管施工区（2013 追加分 100㎡）	Ⅱ～Ⅲ		胴部	深鉢	口唇面、LR 回転施文。地文：縄文 LR 横。		202	154
2013	B185	1043	導水管施工区（2013 追加分 100㎡）	Ⅱ～Ⅲ		胴部	深鉢	磨消縄文による横位展開文様帯。列点刺突文。地文：縄文 LR 横。		202	154
2012	B067	1044	試掘トレンチ（T1）	検出面		口縁部？装飾？	深鉢？	口縁の突起？沈線、RL ヨコ・ナナメ		202	154
2012	B068	1045	試掘トレンチ（T2）	検出面		口縁部	深鉢	孔１個、沈線文、LR ヨコ		202	154
2012	B070	1046	生文課トレンチ	検出面		口縁部	深鉢	上部 RL ヨコ、下部 RL タテ		202	154
2012	B071	1047	生文課トレンチ	検出面		口縁部	深鉢	口縁連続捻り、隆帯に連続刺突文、網目状撚糸文 RL		202	154
2012	B072	1048	生文課トレンチ	検出面		口縁部	深鉢	網目状撚糸文 LR		202	154

第７表　土製品一覧

年度	仮 NO.	掲載番号	出土地点	層位・取上 No. 等	器種	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	所見	その他	図版	写真図版
2013	C101	1049	住居跡 91・92	埋土	土偶	(6.6)	(5.2)	1.8	角状の頭部・腕部か。頭部下（胸部？）に円形凹文。	縄文時代前期（前葉か）	202	155
2012	C001	1050	住居跡 18	南縁部床面直上	土製耳飾	5.7	5.4	1.8			202	155
2014	C104	1051	住居跡 36	埋土	鐸形土製品	(2.3)	(3.7)	(3.2)	２条一組の沈線文。胴下部から尖端部に収斂。		202	155
2013	C102	1052	住居跡 79	埋土	円盤状	9.1	9.1	0.8	表面地文：丸組紐。裏面外縁に沿ってスス状付着物。		202	155
2012	C002	1053	Ⅱ C17q	Ⅱ～Ⅲ	円盤状	3.6	3.5	0.6			202	155
2012	C003	1054	Ⅱ C17q	Ⅱ～Ⅲ	円盤状	3.5	3.6	0.6			202	155
2012	C004	1055	Ⅱ C3j	Ⅱ～Ⅲ	円盤状	6.2	6.2	1.1			202	155

第８表ａ　石鏃・石錐・石匙・不定形石器・石核

仮 No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
a101	1056	尖頭器	1	a	住居跡 52（48）	埋土	13.2	2.8	1.3	10.6	頁岩	北上山地　中生代前期		203	156
a102	1057	尖頭器	1	a	住居跡 64・61	床面	11.7	3.1	1.6	51.3	凝灰岩	北上山地　中生代前期		203	156
a104	1058	尖頭器	1	a?	住居跡 94	埋土	(5.4)	(2.1)	(1.0)	(7.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	156
a103	1059	尖頭器	1	b	住居跡 74	埋土	6.1	1.6	1.3	11.8	頁岩	北上山地　中生代前期		203	156
a106	1060	尖頭器	1	b	住居跡 78・79	埋土	(4.6)	(1.4)	(0.7)	(3.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a105	1061	尖頭器	1	b	住居跡 47 以南	層位不明	6.2	1.3	0.8	7.5	頁岩	北上山地　中生代前期		203	156
a107	1062	尖頭器	1	c	ⅡD5b	Ⅱ層	(3.6)	(2.6)	(0.4)	(3.8)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a109	1063	尖頭器	1	c	住居跡 91・92	埋土	(5.3)	(2.9)	(1.7)	(26.8)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a108	1064	尖頭器	1	c	調査区		7.4	2.6	1.8	32.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a002	1065	石鏃	2	a	ⅡC10ｍ	黒褐～暗褐色土	(3.2)	1.9	0.5	(2.8)	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期		203	156
a003	1066	石鏃	2	a	ⅡC12k	黒褐～暗褐色土	2.3	2.0	0.4	1.6	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期		203	156
a004	1067	石鏃	2	a	ⅡC14i	Ⅱ層	(2.2)	1.8	0.4	(1.1)	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期		203	156
a224	1068	石鏃	2	a	ⅡC5s	Ⅱ層相当	2.6	1.7	0.4	1.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a001	1069	石鏃	2	a	ⅡC8i	検出面	2.8	1.8	0.7	3.3	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期		203	156
a227	1070	石鏃	2	a	ⅡD10j	暗褐色土	2.7	1.4	0.5	2.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a220	1071	石鏃	2	a	ⅡD10u	黒色土	3.5	(1.5)	0.5	(2.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a215	1072	石鏃	2	a	ⅡD3i	Ⅱ層	3.0	1.7	0.5	2.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a219	1073	石鏃	2	a	ⅡD4c	Ⅱ層	(2.2)	1.9	0.5	(2.0)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a229	1074	石鏃	2	a	ⅡD4c	Ⅱ層	3.1	2.3	0.6	3.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a222	1075	石鏃	2	a	ⅡD4k	Ⅱ層	3.2	1.9	0.5	2.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a223	1076	石鏃	2	a	ⅡD5i	Ⅱ層	2.2	1.7	0.4	1.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a230	1077	石鏃	2	a	ⅡD5i	Ⅱ層	(3.1)	2.0	0.4	(2.7)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a228	1078	石鏃	2	a	ⅡD5l		2.9	1.8	0.4	2.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a226	1079	石鏃	2	a	ⅡD6h	Ⅱ層	2.4	1.8	0.4	1.4	珪質頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a225	1080	石鏃	2	a	ⅡD7j	Ⅱ層	2.6	1.6	0.7	2.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a217	1081	石鏃	2	a	ⅡD9ｍ	黒色土	(2.6)	1.3	0.3	(1.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a122	1082	石鏃	2	a	住居跡 32	鍛冶炉内	2.0	(1.3)	0.4	(0.8)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a123	1083	石鏃	2	a	住居跡 32	埋土	2.3	1.5	0.3	1.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a124	1084	石鏃	2	a	住居跡 32	埋土	2.3	1.3	0.3	0.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a125	1085	石鏃	2	a	住居跡 32	埋土	2.3	1.4	0.5	1.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a126	1086	石鏃	2	a	住居跡 32	埋土	(2.5)	(2.1)	0.5	(1.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a127	1087	石鏃	2	a	住居跡 80	埋土	2.6	1.6	0.4	1.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a128	1088	石鏃	2	a	住居跡 80	埋土	2.7	(1.6)	0.4	(1.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
a129	1089	石鏃	2	a	住居跡 80	埋土	2.5	1.2	0.3	0.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	156
a130	1090	石鏃	2	a	住居跡 81	埋土	2.1	1.4	0.2	0.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a131	1091	石鏃	2	a	住居跡 81	埋土	3.4	1.8	0.6	4.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	156
a119	1092	石鏃	2	a	住居跡 73・74・75・76・77・78・79	埋土	3.0	1.9	0.6	2.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a120	1093	石鏃	2	a	住居跡 73・74・75・76・77・78・79	埋土	2.1	1.0	0.3	0.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a121	1094	石鏃	2	a	住居跡 73・74・75・76・77・78・79	埋土	(2.2)	1.5	0.2	(0.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a110	1095	石鏃	2	a	住居跡 75	焼土中	3.5	1.7	0.4	2.1	頁岩	北上山地　中生代前期		203	156
a111	1096	石鏃	2	a	住居跡 75 東トレンチ内	暗褐色土	4.2	1.6	0.6	3.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a112	1097	石鏃	2	a	住居跡 74	埋土	4.2	1.9	0.6	4.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	156
a113	1098	石鏃	2	a	住居跡 74	埋土	2.5	1.6	0.6	1.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a114	1099	石鏃	2	a	住居跡 74	埋土	1.8	1.4	0.4	0.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a116	1100	石鏃	2	a	住居跡 77	埋土	1.8	1.3	0.3	0.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a118	1101	石鏃	2	a	住居跡 77	埋土	2.3	(1.5)	0.4	(1.2)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a117	1102	石鏃	2	a	住居跡 77	埋土下位	2.3	1.8	0.5	2.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a115	1103	石鏃	2	a	住居跡 77	床面	1.9	1.5	0.4	0.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	156
a132	1104	石鏃	2	a	住居跡 43	埋土	(2.3)	2.0	0.5	(1.8)	珪質頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a133	1105	石鏃	2	a	住居跡 46	埋土	2.7	1.5	0.3	1.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a134	1106	石鏃	2	a	住居跡 46	埋土	1.3	1.8	0.6	2.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a135	1107	石鏃	2	a	住居跡 36	埋土	2.7	1.9	0.3	1.2	頁岩	北上山地　中生代前期		203	156
a136	1108	石鏃	2	a	住居跡 88	埋土	3.0	2.2	0.4	2.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	156
a137	1109	石鏃	2	a	住居跡 88	埋土	(2.7)	1.9	0.5	(2.3)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a138	1110	石鏃	2	a	住居跡 88	埋土	(2.4)	1.0	0.5	(1.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a140	1111	石鏃	2	a	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	(2.7)	(2.1)	0.6	(2.8)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a139	1112	石鏃	2	a	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	(3.0)	2.0	0.5	(2.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a141	1113	石鏃	2	a	住居跡 49	埋土	2.4	1.5	0.5	1.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a142	1114	石鏃	2	a	住居跡 49	埋土	2.8	1.6	0.5	1.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a143	1115	石鏃	2	a	住居跡 33（SE）	埋土	2.6	1.4	0.3	0.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a144	1116	石鏃	2	a	住居跡 33 周辺	黒褐色土	4.0	2.8	0.7	7.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a146	1117	石鏃	2	a	住居跡 33 周辺	黒褐色土	(1.9)	2.0	0.4	(1.3)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a147	1118	石鏃	2	a	住居跡 52	埋土	2.7	1.4	0.4	1.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a148	1119	石鏃	2	a	住居跡 89	埋土	(3.4)	1.7	0.5	(2.8)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a149	1120	石鏃	2	a	住居跡 89	埋土	3.1	(1.8)	0.5	(1.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		203	156
a150	1121	石鏃	2	a	住居跡 48	埋土	1.6	1.3	0.2	0.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a151	1122	石鏃	2	a	住居跡 48	埋土	2.6	(2.0)	0.5	(2.8)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a152	1123	石鏃	2	a	住居跡 38	埋土	2.8	1.8	0.6	2.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a153	1124	石鏃	2	a	住居跡 39	埋土	2.5	1.6	0.3	1.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a154	1125	石鏃	2	a	住居跡 71	埋土	3.1	1.3	0.4	1.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a155	1126	石鏃	2	a	住居跡 72	埋土	(2.8)	1.8	0.5	(1.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a156	1127	石鏃	2	a	住居跡 72	埋土	2.6	1.5	0.5	1.6	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a157	1128	石鏃	2	a	住居跡 54		2.8	1.6	0.6	2.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a158	1129	石鏃	2	a	住居跡 54		(3.2)	(2.2)	0.6	(3.4)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a159	1130	石鏃	2	a	住居跡 54		(2.0)	1.5	0.4	(1.2)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	156
a160	1131	石鏃	2	a	住居跡 54		3.3	(1.8)	0.4	(2.2)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a161	1132	石鏃	2	a	住居跡 58・59		4.1	1.6	0.7	3.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a164	1133	石鏃	2	a	住居跡 58・59		5.4	1.8	0.8	6.3	頁岩	北上山地　中生代前期	基部脚状	203	156
a165	1134	石鏃	2	a	住居跡 58・59		(3.8)	1.8	0.5	(3.5)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a166	1135	石鏃	2	a	住居跡 58・59		3.5	1.6	0.6	2.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	156

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
a167	1136	石鏃	2	a	住居跡 58・59		3.5	1.6	0.4	1.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	156
a168	1137	石鏃	2	a	住居跡 58・59		(3.1)	1.7	0.5	(2.8)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a169	1138	石鏃	2	a	住居跡 58・59		(3.1)	1.9	0.6	(3.3)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a170	1139	石鏃	2	a	住居跡 58・59		3.6	2.3	0.8	5.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a171	1140	石鏃	2	a	住居跡 58・59		2.9	1.5	0.3	1.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a173	1141	石鏃	2	a	住居跡 58・59		(2.1)	2.0	0.4	(1.5)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a174	1142	石鏃	2	a	住居跡 58・59		(1.9)	1.8	0.4	(1.4)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a175	1143	石鏃	2	a	住居跡 58・59		(1.9)	(1.4)	(0.3)	(1.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a176	1144	石鏃	2	a	住居跡 58・59		2.0	(1.3)	0.4	(0.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a177	1145	石鏃	2	a	住居跡 58・59		(2.5)	(1.5)	0.6	(2.1)	珪質頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a162	1146	石鏃	2	a	住居跡 58・59		2.2	1.8	0.4	1.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a163	1147	石鏃	2	a	住居跡 58・59		(2.9)	1.7	0.4	(1.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a172	1148	石鏃	2	a	住居跡 58・59		2.3	2.0	0.5	1.5	珪質頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a178	1149	石鏃	2	a	住居跡 58・59・62		(3.3)	(2.1)	0.5	(2.7)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a179	1150	石鏃	2	a	住居跡 58・59・62		1.9	1.5	0.4	1.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a180	1151	石鏃	2	a	住居跡 58・59・62		(1.8)	(1.7)	0.3	(0.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a181	1152	石鏃	2	a	住居跡 60		3.5	2.2	0.7	5.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a182	1153	石鏃	2	a	住居跡 60		2.8	1.5	0.4	1.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a183	1154	石鏃	2	a	住居跡 63		2.6	1.9	0.3	1.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a184	1155	石鏃	2	a	住居跡 63		2.0	1.4	0.4	1.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a190	1156	石鏃	2	a	住居跡 67・68・69・70		(2.6)	1.9	0.4	(2.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a187	1157	石鏃	2	a	住居跡 67・68・69・70		2.1	1.2	0.3	0.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a188	1158	石鏃	2	a	住居跡 67・68・69・70		(3.1)	(1.5)	(0.3)	(1.3)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a189	1159	石鏃	2	a	住居跡 67・68・69・70		(2.5)	2.2	0.5	(2.8)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a185	1160	石鏃	2	a	住居跡 67		(3.8)	2.5	0.6	(4.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a186	1161	石鏃	2	a	住居跡 70		(3.0)	(1.5)	0.6	(2.7)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a191	1162	石鏃	2	a	住居跡 42		2.1	(1.7)	0.3	(1.0)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a192	1163	石鏃	2	a	住居跡 91	埋土	3.0	1.7	0.3	1.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a193	1164	石鏃	2	a	住居跡 83 周辺	Ⅱ～Ⅲ	2.6	1.7	0.6	1.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a194	1165	石鏃	2	a	住居跡 55	埋土下部	2.4	1.5	0.5	1.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a195	1166	石鏃	2	a	住居跡 93	埋土	4.0	2.0	0.6	3.7	珪質頁岩	北上山地　中生代前期		-	156
a196	1167	石鏃	2	a	住居跡 93	埋土	3.1	1.9	0.5	2.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a197	1168	石鏃	2	a	住居跡 93	埋土	(2.1)	1.7	0.6	(2.2)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a198	1169	石鏃	2	a	住居跡 93	埋土	(2.3)	1.5	0.5	(1.2)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a199	1170	石鏃	2	a	住居跡 93	埋土	4.3	1.8	0.6	4.0	凝灰岩	北上山地　中生代前期		203	156
a200	1171	石鏃	2	a	住居跡 93	埋土	3.5	1.7	0.4	1.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a201	1172	石鏃	2	a	住居跡 94	埋土	(3.6)	2.1	0.5	(3.5)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	157
a202	1173	石鏃	2	a	住居跡 94	埋土	3.3	1.5	0.5	2.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a203	1174	石鏃	2	a	住居跡 94	埋土	(2.9)	1.6	0.5	(2.0)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a204	1175	石鏃	2	a	住居跡 94	埋土	2.7	(1.5)	0.5	(1.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a207	1176	石鏃	2	a	土坑 70 周辺住居	埋土	2.4	1.7	0.5	1.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a205	1177	石鏃	2	a	土坑 48 以南		(3.9)	2.3	0.6	(4.4)	珪質頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a206	1178	石鏃	2	a	土坑 65		2.1	1.4	0.5	1.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a210	1179	石鏃	2	a		焼土生成面と同面	2.8	2.6	0.7	3.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a209	1180	石鏃	2	a		焼土生成面と同面	(3.1)	1.8	0.5	(2.4)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a208	1181	石鏃	2	a	焼土遺構 4 周辺	焼土生成面と同面	3.0	1.6	0.5	2.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a212	1182	石鏃	2	a	ⅡD71	一括	(3.0)	1.6	0.4	(1.4)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
a213	1183	石鏃	2	a	ⅡD7l	一括	(3.1)	1.8	0.6	(3.2)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a211	1184	石鏃	2	a	ⅡD7l	一括	2.3	1.9	0.4	1.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a216	1185	石鏃	2	a	調査区一括		(2.6)	1.6	0.6	(1.8)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a218	1186	石鏃	2	a	調査区一括		2.8	1.8	0.5	1.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a221	1187	石鏃	2	a	調査区一括		2.9	1.9	0.4	2.0	珪質頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a231	1188	石鏃	2	a	調査区一括		(4.6)	2.1	0.5	(3.6)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a232	1189	石鏃	2	a	調査区一括		2.8	2.0	0.5	2.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a233	1190	石鏃	2	a	調査区一括		3.0	1.8	0.5	2.3	珪質頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a234	1191	石鏃	2	a	調査区一括		2.5	1.7	0.5	1.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a235	1192	石鏃	2	a	調査区一括		3.6	1.6	0.6	2.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a236	1193	石鏃	2	a	調査区一括		3.8	2.2	0.8	5.8	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a237	1194	石鏃	2	a	調査区一括		1.6	1.3	0.2	0.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a238	1195	石鏃	2	a	調査区一括		(3.2)	(2.6)	(0.8)	(5.4)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a214	1196	石鏃	2	b	ⅡD5i	Ⅱ層	(3.1)	1.3	0.6	(1.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		203	157
a145	1197	石鏃	2	b?	住居跡 33 周辺	Ⅱ～Ⅲ	3.1	2.0	0.4	2.0	頁岩	北上山地　中生代前期	凸基（菱形に近い）	203	157
a009	1198	石錐	3	a	住居跡 2 炉周辺	床面	(3.5)	(0.8)	(0.5)	(0.9)	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期	刃部のみ残存	203	-
a239	1199	石錐	3	b	住居跡 78・79	埋土	3.8	2.7	0.8	6.6	頁岩	北上山地　中生代前期		204	157
a241	1200	石錐	3	b	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	4.1	1.9	0.6	3.5	頁岩	北上山地　中生代前期		204	157
a240	1201	石錐	3	b	住居跡 71	埋土	(3.5)	1.8	0.8	(6.0)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a005	1202	石匙	4	a	住居跡 12	埋土	2.4	3.3	0.4	1.8	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期	素材剥片縁辺を刃部とする（加工無く微細剥離のみ）	204	157
a300	1203	石匙	4	a1	ⅡD9n	Ⅱ	4.1	2.9	0.6	7.3	赤色頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a242	1204	石匙	4	a1	住居跡 32	埋土	4.8	6.0	1.0	15.4	頁岩	北上山地　中生代前期		204	157
a243	1205	石匙	4	a1	住居跡 80	埋土	3.2	3.5	0.7	6.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a247	1206	石匙	4	a1	住居跡 75	埋土	3.3	4.6	0.7	11.2	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a271	1207	石匙	4	a1	住居跡 58・59・62	埋土	6.6	5.5	0.9	21.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a272	1208	石匙	4	a1	住居跡 64	埋土	3.8	4.1	0.9	7.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a299	1209	石匙	4	a1	住居跡 42・32 西側	検出面	2.7	(3.6)	0.7	(5.5)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a287	1210	石匙	4	a1	住居跡 91・92	埋土	5.3	4.0	1.2	18.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a297	1211	石匙	4	a1	焼土遺構 3	焼土下～床面	3.4	(4.2)	0.5	(7.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a305	1212	石匙	4	a1	調査区一括		2.9	4.4	0.7	7.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a307	1213	石匙	4	a1	調査区一括		4.4	4.6	0.6	9.8	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a310	1214	石匙	4	a1	調査区一括		3.5	(4.2)	1.1	(11.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a290	1215	石匙	4	a1?	住居跡 55 以南包含層	Ⅱ～Ⅲ	(3.8)	(3.1)	(0.9)	(5.6)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a251	1216	石匙	4	a2	住居跡 46S2	埋土	6.4	7.3	0.9	39.7	頁岩	北上山地　中生代前期		204	157
a260	1217	石匙	4	a2	住居跡 89	埋土	3.2	3.2	0.8	7.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a291	1218	石匙	4	a2	住居跡 94	埋土	5.2	5.0	1.2	27.6	頁岩	北上山地　中生代前期		204	-
a008	1219	石匙	4	a2	調査区一括		4.7	3.7	1.3	15.8	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期		204	157
a301	1220	石匙	4	b1	ⅡD6l付近	Ⅲ層？	(4.0)	(4.1)	(1.3)	(20.9)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a248	1221	石匙	4	b1	住居跡 78	埋土上位	6.3	3.5	1.1	15.6	頁岩	北上山地　中生代前期		204	157
a249	1222	石匙	4	b1	住居跡 78・79	埋土	6.4	2.0	0.9	9.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a254	1223	石匙	4	b1	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	5.1	6.0	0.8	17.6	凝灰岩	北上山地　中生代前期	火ハネ	-	-
a256	1224	石匙	4	b1	住居跡 33 周辺	Ⅱ～Ⅲ	5.5	3.6	1.2	14.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a258	1225	石匙	4	b1	住居跡 52	埋土	5.3	1.8	0.6	4.8	頁岩	北上山地　中生代前期		204	157
a259	1226	石匙	4	b1	住居跡 53	埋土	4.0	3.5	0.7	6.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a262	1227	石匙	4	b1	住居跡 72 壁溝内 Pit	埋土	3.3	1.8	0.7	3.1	頁岩	北上山地　中生代前期	錐様の細長い刃部作出	-	-
a265	1228	石匙	4	b1	住居跡 58・59	埋土	5.3	2.2	0.7	8.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a266	1229	石匙	4	b1	住居跡 58・59	埋土	6.0	2.6	1.0	11.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
a267	1230	石匙	4	b1	住居跡 58・59	埋土	4.6	1.3	0.8	3.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a263	1231	石匙	4	b1	住居跡 58・59	埋土上部	6.4	1.9	0.7	5.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a274	1232	石匙	4	b1	住居跡 58・59・62	埋土	9.1	3.9	1.2	27.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	157
a273	1233	石匙	4	b1	住居跡 64 以南		4.9	1.7	0.6	3.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a278	1234	石匙	4	b1	住居跡 67・68・69・70	埋土下部～床面	6.3	2.9	0.8	12.2	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a279	1235	石匙	4	b1	住居跡 67・68・69・70	埋土下部～床面	7.1	2.4	1.4	20.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a280	1236	石匙	4	b1	住居跡 67・68・69・70	埋土下部～床面	5.9	3.1	1.1	11.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a276	1237	石匙	4	b1	住居跡 67	埋土	6.9	3.1	1.5	22.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a277	1238	石匙	4	b1	住居跡 70	埋土	6.3	3.6	1.1	20.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a283	1239	石匙	4	b1	住居跡 91	埋土	6.3	2.7	0.8	9.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a284	1240	石匙	4	b1	住居跡 91	埋土	6.6	2.1	1.1	12.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a285	1241	石匙	4	b1	住居跡 91pit1	埋土	5.9	2.7	1.1	14.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	157
a292	1242	石匙	4	b1	住居跡 94	埋土	6.8	2.9	0.9	16.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a293	1243	石匙	4	b1	土坑 70 周辺		4.4	2.0	0.6	5.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a295	1244	石匙	4	b1	土坑 62	埋土	(5.6)	2.5	0.9	(8.4)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a294	1245	石匙	4	b1	土坑 63	埋土	6.4	3.1	0.9	5.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a006	1246	石匙	4	b1	調査区一括		4.8	2.5	1.0	10.0	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期		205	157
a306	1247	石匙	4	b1	調査区一括		(5.9)	3.1	1.2	(16.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a309	1248	石匙	4	b1	調査区一括		5.3	2.0	0.7	5.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a257	1249	石匙	4	b1?	住居跡 33 周辺	Ⅱ～Ⅲ	(4.0)	(2.7)	(1.0)	(10.5)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a268	1250	石匙	4	b1?	住居跡 58・59	埋土	(4.9)	(2.7)	0.7	(6.7)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a281	1251	石匙	4	b1?	住居跡 67・68・69・70	埋土	(3.2)	(1.9)	(0.6)	(2.9)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a286	1252	石匙	4	b1?	住居跡 91	埋土	3.9	2.4	0.9	8.3	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a289	1253	石匙	4	b1?	住居跡 55	埋土	(4.5)	(2.0)	(0.8)	(6.0)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a007	1254	石匙	4	b2	ⅡC131	検出面	6.9	3.0	0.9	15.2	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期		205	158
a261	1255	石匙	4	b2	住居跡 71	埋土	4.7	1.5	0.6	3.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a275	1256	石匙	4	b2	住居跡 67S4	床面	9.2	2.5	1.1	21.1	頁岩	北上山地　中生代前期		205	158
a282	1257	石匙	4	b2	住居跡 91	埋土	7.5	4.1	1.1	31.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a250	1258	石匙	4	b2?	住居跡 73・74・75・76・77・78・79	埋土	5.5	2.2	0.9	11.5	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a302	1259	石匙	4	c	ⅡD9k	Ⅱ層？	3.1	1.9	0.7	2.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a244	1260	石匙	4	c	住居跡 81	埋土	5.5	3.5	0.6	11.5	頁岩	北上山地　中生代前期		205	158
a245	1261	石匙	4	c	住居跡 81	埋土	4.7	2.3	0.8	6.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	158
a255	1262	石匙	4	c	住居跡 33 周辺	Ⅱ～Ⅲ	3.9	3.0	0.6	5.0	頁岩	北上山地　中生代前期		205	158
a264	1263	石匙	4	c	住居跡 58・59	埋土	5.8	2.2	1.1	7.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a298	1264	石匙	4	c	焼土遺構 4 周辺		(5.9)	(3.3)	1.1	(16.8)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a246	1265	石匙	4	d	住居跡 81	埋土	(3.2)	(2.7)	(0.6)	(4.8)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a252	1266	石匙	4	d	住居跡 46	埋土	3.4	2.1	0.5	3.4	頁岩	北上山地　中生代前期	小形	-	-
a253	1267	石匙	4	d	住居跡 37	埋土	(2.8)	(2.5)	(0.5)	(3.0)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a269	1268	石匙	4	d	住居跡 58・59	埋土	(5.0)	(3.8)	1.0	(11.9)	凝灰岩	北上山地　中生代前期	未成品？	-	-
a270	1269	石匙	4	d	住居跡 58・59	埋土	2.3	(2.2)	0.4	(2.2)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a288	1270	石匙	4	d	住居跡 56	埋土	(2.3)	(2.7)	(0.5)	(4.2)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a296	1271	石匙	4	d	土坑 69	埋土	(2.0)	(2.6)	(0.7)	(3.1)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a304	1272	石匙	4	d	調査区一括		3.1	(3.5)	0.7	(5.5)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a308	1273	石匙	4	d	調査区一括		(4.5)	(3.0)	(0.9)	(8.5)	頁岩	北上山地　中生代前期	折損	-	-
a303	1274	石匙	4	d1	ⅡD10j		4.0	2.0	0.7	6.2	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a400	1275	不定形	5	a	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	3.8	1.0	1.0	14.6	頁岩	北上山地　中生代前期		205	158
a342	1276	不定形	5	a	住居跡 49	埋土	5.7	3.2	0.8	13.8	頁岩	北上山地　中生代前期	削掻器（刃部下端）	-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
a352	1277	不定形	5	a	住居跡 54	埋土	3.2	4.6	1.0	16.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a368	1278	不定形	5	a	住居跡 58・59	埋土上部	4.4	1.0	1.0	12.9	チャート	北上山地　中生代前期		205	-
a382	1279	不定形	5	a	住居跡 90 内攪乱	攪乱層	4.8	1.0	1.0	13.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a013	1280	不定形	5	a	調査区一括		4.4	3.5	1.0	11.4	凝灰岩	北上山地？　中生代三畳～ジュラ紀		205	-
a426	1281	不定形	5	b	ⅡD10j	Ⅲ層？	3.5	6.9	1.1	20.3	頁岩	北上山地　中生代前期		205	158
a420	1282	不定形	5	b	ⅡD6o	Ⅱ層	8.6	3.0	1.0	34.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a423	1283	不定形	5	b	ⅡD9 l	Ⅱ層	7.3	4.1	2.2	37.1	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a424	1284	不定形	5	b	ⅡD9 m	Ⅱ	5.3	3.1	1.0	15.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a399	1285	不定形	5	b	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	6.1	1.5	1.5	18.8	頁岩	北上山地　中生代前期		206	158
a011	1286	不定形	5	c1	ⅡC14k	Ⅱ～Ⅲ	6.3	3.0	1.1	18.6	凝灰岩	北上山地？　中生代三畳～ジュラ紀	尖頭器未成品？	206	-
a416	1287	不定形	5	c1	ⅡD5j	Ⅱ	4.1	4.3	1.1	21.4	頁岩	北上山地　中生代前期	石鏃未成品？	-	-
a430	1288	不定形	5	c1	ⅡE3 a		14.3	5.1	1.0	76.8	粘板岩	北上山地　中生代前期	尖頭器未成品？	206	158
a402	1289	不定形	5	c1	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	3.0	0.8	0.8	5.1	頁岩	北上山地　中生代前期	石鏃未成品？	-	-
a394	1290	不定形	5	c1	土坑 53	埋土	2.9	0.8	0.8	4.9	頁岩	北上山地　中生代前期	石鏃未成品？	-	-
a431	1291	不定形	5	c1	調査区一括		6.4	2.3	1.2	13.9	頁岩	北上山地　中生代前期	尖頭器未成品？	-	-
a434	1292	不定形	5	c1	調査区一括		6.5	3.8	1.1	25.2	頁岩	北上山地　中生代前期	尖頭器未成品？	-	-
a012	1293	不定形	5	c2	ⅡC14k	Ⅱ～Ⅲ	5.3	3.2	1.1	23.1	凝灰岩	北上山地？　中生代三畳～ジュラ紀		206	-
a415	1294	不定形	5	c2	ⅡC7 m		4.4	2.5	0.8	6.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a425	1295	不定形	5	c2	ⅡD10i	Ⅲ層？	4.8	2.2	0.7	8.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a427	1296	不定形	5	c2	ⅡD10j	Ⅲ層？	2.4	1.5	0.6	2.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a428	1297	不定形	5	c2	ⅡD10k	Ⅱ層？	7.7	4.5	2.0	48.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a417	1298	不定形	5	c2	ⅡD5k	Ⅱ層	7.8	4.9	1.4	58.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a418	1299	不定形	5	c2	ⅡD5p	Ⅱ層	7.0	5.6	1.8	56.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a419	1300	不定形	5	c2	ⅡD6j	Ⅱ層	7.9	5.7	1.1	10.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a421	1301	不定形	5	c2	ⅡD8j	Ⅱ層？	4.3	6.8	1.5	31.5	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a422	1302	不定形	5	c2	ⅡD8 l	Ⅱ層	4.7	3.2	0.7	7.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a429	1303	不定形	5	c2	ⅡE2 a～b	Ⅱ層	2.9	4.4	0.8	10.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a010	1304	不定形	5	c2	住居跡 18	埋土	5.9	3.0	1.2	15.5	頁岩	奥羽山脈　新生代新第三期		206	-
a311	1305	不定形	5	c2	住居跡 32	埋土	7.1	4.3	1.2	39.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a312	1306	不定形	5	c2	住居跡 80	埋土	9.1	4.8	2.0	86.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a313	1307	不定形	5	c2	住居跡 81	埋土	5.9	4.7	1.2	27.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a314	1308	不定形	5	c2	住居跡 81	埋土	3.0	1.9	0.7	3.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a315	1309	不定形	5	c2	住居跡 81	埋土	4.0	2.9	1.2	10.5	珪質頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a316	1310	不定形	5	c2	住居跡 81	埋土	2.1	2.3	0.4	1.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a317	1311	不定形	5	c2	住居跡 81	埋土	2.2	2.3	0.5	2.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a330	1312	不定形	5	c2	住居跡 73・74・75・76・77・78・79	埋土	5.1	3.1	1.6	25.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a331	1313	不定形	5	c2	住居跡 73・74・75・76・77・78・79	埋土	5.5	2.1	1.0	9.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a332	1314	不定形	5	c2	住居跡 73・74・75・76・77・78・79	埋土	5.4	2.8	0.7	5.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a319	1315	不定形	5	c2	住居跡 75	埋土	5.5	3.6	1.1	20.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a318	1316	不定形	5	c2	住居跡 73	埋土	6.6	4.9	1.3	25.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a320	1317	不定形	5	c2	住居跡 75	埋土	5.4	4.0	1.1	20.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a321	1318	不定形	5	c2	住居跡 77	埋土	7.2	2.2	1.1	9.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a323	1319	不定形	5	c2	住居跡 77	埋土	4.4	3.3	1.1	13.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a322	1320	不定形	5	c2	住居跡 77	埋土下部	4.6	5.6	1.5	36.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a324	1321	不定形	5	c2	住居跡 78・79	埋土	3.3	4.6	0.7	6.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a325	1322	不定形	5	c2	住居跡 78・79	埋土	4.8	5.7	1.2	24.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a326	1323	不定形	5	c2	住居跡 78・79	埋土	3.2	2.0	0.7	3.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
a327	1324	不定形	5	c2	住居跡 78・79	埋土	3.9	3.3	1.3	15.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a328	1325	不定形	5	c2	住居跡 78・79	埋土	6.3	1.9	0.7	9.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a329	1326	不定形	5	c2	住居跡 78・79	埋土	4.4	1.8	0.5	3.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a333	1327	不定形	5	c2	住居跡 43	埋土	5.9	6.3	1.2	58.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a334	1328	不定形	5	c2	住居跡 43	埋土	3.6	2.9	0.7	4.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a335	1329	不定形	5	c2	住居跡 46	埋土	2.8	4.2	0.7	8.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a336	1330	不定形	5	c2	住居跡 46	埋土	3.5	1.2	0.4	1.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a337	1331	不定形	5	c2	住居跡 37	床面	4.1	4.1	1.0	10.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a338	1332	不定形	5	c2	住居跡 37	床面	3.7	2.4	0.8	6.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a339	1333	不定形	5	c2	住居跡 88	埋土	3.9	3.3	1.0	11.8	チャート	北上山地　中生代前期		-	-
a340	1334	不定形	5	c2	住居跡 88	埋土	1.8	1.7	0.5	1.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a341	1335	不定形	5	c2	住居跡 88	埋土	2.8	1.8	0.5	2.3	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a401	1336	不定形	5	c2	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	3.2	1.1	1.1	5.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a403	1337	不定形	5	c2	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	3.6	3.5	1.3	12.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a406	1338	不定形	5	c2	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	1.4	2.6	1.3	5.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a398	1339	不定形	5	c2	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	7.2	2.5	2.5	80.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a404	1340	不定形	5	c2	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	3.5	2.9	0.9	8.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a405	1341	不定形	5	c2	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	2.1	4.3	1.4	10.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a407	1342	不定形	5	c2	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	4.6	3.1	1.0	12.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a343	1343	不定形	5	c2	住居跡 33	埋土	2.8	6.1	0.9	12.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a344	1344	不定形	5	c2	住居跡 33 周辺	Ⅱ～Ⅲ	2.8	2.4	0.6	3.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a345	1345	不定形	5	c2	住居跡 33 周辺	Ⅱ～Ⅲ	3.5	3.2	0.8	10.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a346	1346	不定形	5	c2	住居跡 89	埋土	7.3	4.0	1.2	41.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a347	1347	不定形	5	c2	住居跡 48	埋土	4.2	3.1	0.8	10.0	チャート	北上山地　中生代前期		-	-
a348	1348	不定形	5	c2	住居跡 71	埋土	4.9	3.8	1.0	11.6	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a349	1349	不定形	5	c2	住居跡 71	埋土	3.7	3.4	0.7	9.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a350	1350	不定形	5	c2	住居跡 71	埋土	4.0	2.5	0.8	7.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a351	1351	不定形	5	c2	住居跡 71	埋土下部	4.3	3.6	0.6	6.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a353	1352	不定形	5	c2	住居跡 54	埋土	5.5	2.8	0.5	7.7	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a354	1353	不定形	5	c2	住居跡 54	埋土	6.6	2.5	1.4	21.4	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a355	1354	不定形	5	c2	住居跡 54	埋土	3.3	1.8	0.6	2.4	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a356	1355	不定形	5	c2	住居跡 54	埋土	3.5	1.7	0.5	3.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a358	1356	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土下部	2.7	0.6	0.6	4.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a357	1357	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土	5.3	3.1	1.4	21.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a359	1358	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土	3.2	1.1	1.1	22.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a360	1359	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土	3.0	0.9	0.9	6.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a361	1360	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土	3.1	1.0	1.0	6.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a362	1361	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土	5.0	0.7	0.7	2.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a363	1362	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土	6.6	1.2	1.2	9.9	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a364	1363	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土	4.8	1.0	1.0	12.8	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a365	1364	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土	5.5	1.3	1.3	32.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a366	1365	不定形	5	c2	住居跡 58・59	埋土	2.5	0.6	0.6	3.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a367	1366	不定形	5	c2	住居跡 58・59・62	埋土	8.4	1.1	1.1	39.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a369	1367	不定形	5	c2	住居跡 60	埋土	6.0	1.1	1.1	26.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a370	1368	不定形	5	c2	住居跡 63 西側	Ⅲ層？	8.2	1.6	1.6	98.0	ホルンフェルス	北上山地　中生代前期の頁岩が中生代白亜紀に熱変成		-	-
a371	1369	不定形	5	c2	住居跡 64	埋土	2.8	0.5	0.5	3.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a408	1370	不定形	5	c2	住居跡 64 以南		2.3	2.2	0.8	3.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
a409	1371	不定形	5	c2	住居跡64以南		2.3	2.5	0.7	4.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a410	1372	不定形	5	c2	住居跡64以南		4.3	2.6	1.1	15.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a372	1373	不定形	5	c2	住居跡62	埋土	4.2	1.2	1.2	12.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a373	1374	不定形	5	c2	住居跡62	埋土	1.9	0.7	0.7	2.8	頁岩	北上山地　中生代前期	黒色付着物	-	-
a378	1375	不定形	5	c2	住居跡67・68・69・70	埋土下部～床面	5.1	1.2	1.2	23.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a379	1376	不定形	5	c2	住居跡67・68・69・70	埋土下部～床面	5.0	1.4	1.4	26.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a380	1377	不定形	5	c2	住居跡67・68・69・70	埋土下部～床面	2.2	0.7	0.7	2.6	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a381	1378	不定形	5	c2	住居跡67・68・69・70	埋土下部～床面	2.6	0.7	0.7	2.1	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a374	1379	不定形	5	c2	住居跡67	埋土	4.8	1.5	1.5	48.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a375	1380	不定形	5	c2	住居跡69	埋土	3.0	0.4	0.4	3.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a376	1381	不定形	5	c2	住居跡70	埋土	6.7	1.2	1.2	40.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a377	1382	不定形	5	c2	住居跡70	埋土	5.6	1.1	1.1	20.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a383	1383	不定形	5	c2	住居跡91	埋土	3.6	0.8	0.8	10.0	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a384	1384	不定形	5	c2	住居跡91	埋土	4.1	0.8	0.8	4.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a385	1385	不定形	5	c2	住居跡91	埋土	5.8	1.0	1.0	17.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a386	1386	不定形	5	c2	住居跡91	埋土	6.0	1.4	1.4	40.5	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a387	1387	不定形	5	c2	住居跡91	埋土	3.9	0.9	0.9	10.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a388	1388	不定形	5	c2	住居跡91・92	埋土	6.4	1.2	1.2	15.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a389	1389	不定形	5	c2	住居跡82	埋土	7.0	1.4	1.4	24.2	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a390	1390	不定形	5	c2	住居跡82	埋土	3.1	0.8	0.8	11.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a391	1391	不定形	5	c2	住居跡82	埋土	4.2	0.7	0.7	7.3	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a392	1392	不定形	5	c2	住居跡93	埋土	3.8	1.0	1.0	10.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a393	1393	不定形	5	c2	住居跡94	埋土	5.5	1.3	1.3	24.1	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a411	1394	不定形	5	c2	調査区一括	一括	3.5	2.2	0.4	1.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a396	1395	不定形	5	c2	土坑66	埋土	6.5	1.0	1.0	20.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a397	1396	不定形	5	c2	土坑66	埋土	2.9	1.2	1.2	9.3	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a395	1397	不定形	5	c2	土坑58	埋土	3.9	1.1	1.1	17.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a412	1398	不定形	5	c2	ⅡD71		2.4	1.5	0.7	2.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a413	1399	不定形	5	c2	ⅡD71		6.6	2.8	1.9	21.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a414	1400	不定形	5	c2	ⅡD71		3.6	2.6	0.6	6.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a432	1401	不定形	5	c2	調査区一括		7.8	3.2	1.3	31.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a433	1402	不定形	5	c2	調査区一括		6.0	3.4	1.5	26.6	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a462	1403	石核	6		ⅡD10c		7.8	5.4	6.3	234.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a461	1404	石核	6		ⅡD8i	Ⅱ層	7.1	5.0	3.8	117.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a435	1405	石核	6		住居跡28	埋土	10.5	6.7	6.4	526.0	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a441	1406	石核	6		住居跡73・74・75・76・77・78・79	埋土	6.2	3.9	3.8	100.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a436	1407	石核	6		住居跡73	埋土	13.1	9.5	8.0	1064.9	頁岩	北上山地　中生代前期		206	159
a437	1408	石核	6		住居跡73	埋土	8.5	8.0	3.5	228.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a438	1409	石核	6		住居跡74S3	埋土下部	11.0	9.0	7.9	952.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a439	1410	石核	6		住居跡77	埋土	7.2	7.3	4.5	305.7	チャート	北上山地　中生代前期		-	-
a440	1411	石核	6		住居跡78・79	埋土	5.7	6.9	5.0	233.8	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a442	1412	石核	6		住居跡31	埋土	6.2	6.7	5.4	186.3	チャート	北上山地　中生代前期		-	-
a443	1413	石核	6		住居跡88	埋土	7.2	5.7	3.6	217.1	チャート	北上山地　中生代前期		-	-
a458	1414	石核	6		住居跡88以南	Ⅱ～Ⅲ	7.2	6.0	3.8	158.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a455	1415	石核	6		住居跡88付近	Ⅲ	13.7	8.2	7.7	990.5	頁岩	北上山地　中生代前期		207	159
a444	1416	石核	6		住居跡58・59	埋土	7.3	5.2	3.5	144.7	チャート	北上山地　中生代前期		-	-
a445	1417	石核	6		住居跡58・59	埋土	6.3	5.5	4.1	152.4	チャート	北上山地　中生代前期		-	-

仮 No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
a446	1418	石核	6		住居跡 58・59	埋土	8.2	5.0	3.1	112.9	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a447	1419	石核	6		住居跡 60	埋土	7.0	8.3	6.0	399.8	頁岩	北上山地　中生代前期		207	159
a448	1420	石核	6		住居跡 64	埋土	8.3	6.1	5.9	319.1	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a459	1421	石核	6		住居跡 64 以南		7.4	5.2	4.5	173.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a449	1422	石核	6		住居跡 67	埋土	6.1	5.3	3.3	98.6	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a450	1423	石核	6		住居跡 91	埋土	9.4	7.2	3.5	247.0	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a451	1424	石核	6		住居跡 91	埋土	8.0	4.9	2.7	102.0	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a452	1425	石核	6		住居跡 91	埋土	6.0	3.8	3.0	76.4	チャート	北上山地　中生代前期		-	-
a453	1426	石核	6		住居跡 91	埋土	9.2	5.1	4.1	252.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a454	1427	石核	6		住居跡 92	埋土	11.7	8.7	7.0	866.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a456	1428	石核	6		土坑 53	埋土	7.9	6.9	6.9	407.2	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
a457	1429	石核	6				9.2	5.9	5.9	350.0	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
a460	1430	石核	6		ⅡD71	遺物集積 1 付近	9.2	7.3	5.7	426.3	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-

第 8 表 b　石斧

仮 No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	残存部位	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
b007	1431	石斧	7	a	全	Ⅱ C17q	Ⅱ～Ⅲ	9.3	3.3	1.6	77.9	蛇紋岩	早池峰山周辺　古生代オルドビス紀		207	159
b134	1432	石斧	7	a	基部	Ⅱ C6f	Ⅱ層相当	(6.2)	(3.6)	(2.8)	(79.2)	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
b135	1433	石斧	7	a	全	Ⅱ C8n	Ⅱ層相当	8.3	4.0	1.2	56.5	凝灰岩	北上山地　中生代前期	a のうちでも小形で薄い。	207	159
b138	1434	石斧	7	a	基部	Ⅱ D10j	Ⅲ	(5.5)	(3.8)	(2.5)	(69.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
b140	1435	石斧	7	a	基部	Ⅱ D10k	Ⅲ	(9.5)	(5.1)	(3.4)	(247.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b136	1436	石斧	7	a	基部	Ⅱ D6k	Ⅱ	7.9	4.7	3.0	201.0	砂岩	北上山地　中生代前期	両端部に敲打部（敲打具に転用）	207	159
b137	1437	石斧	7	a	刃部	Ⅱ D7n	Ⅱ	(5.9)	5.3	(2.7)	(155.4)	蛇紋岩	早池峰山周辺　古生代オルドビス紀		-	-
b001	1438	石斧	7	a	全	住居跡 2	埋土上部	10.0	4.5	2.4	141.9	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		207	159
b002	1439	石斧	7	a	基部	住居跡 2		(5.1)	(3.6)	(2.7)	(64.6)	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		208	-
b004	1440	石斧	7	a	刃部	住居跡 6	埋土	(7.8)	4.6	(3.1)	(172.7)	蛇紋岩	早池峰山周辺　古生代オルドビス紀		208	-
b003	1441	石斧	7	a	基部	住居跡 7	埋土	(4.6)	(3.4)	(2.5)	(44.3)	蛇紋岩	早池峰山周辺　古生代オルドビス紀		208	-
b005	1442	石斧	7	a	全	住居跡 13	埋土中～下部	(10.4)	(4.2)	(2.3)	(157.6)	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		208	-
b006	1443	石斧	7	a	破片	住居跡 18	埋土	(3.0)	(3.3)	(1.8)	(16.0)	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		208	-
b101	1444	石斧	7	a	基部	住居跡 32	埋土	(3.8)	(2.9)	(0.8)	(9.7)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b105	1445	石斧	7	a	全	住居跡 73　東トレンチ内	Ⅲ	(11.7)	(5.0)	(1.8)	(189.0)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	160
b109	1446	石斧	7	a	刃部	住居跡 33 周辺	Ⅱ～Ⅲ	(6.7)	4.3	(2.4)	(112.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
b110	1447	石斧	7	a	基部	住居跡 89	埋土	(6.0)	(4.2)	(3.0)	(114.3)	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
b112	1448	石斧	7	a	全	住居跡 54	床面直上	12.2	4.8	3.2	251.4	頁岩	北上山地　中生代前期	斜刃。側面にツブレ（着柄によるか）。	208	160
b111	1449	石斧	7	a	基部	住居跡 54		(8.0)	(3.2)	(1.9)	(46.8)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
b116	1450	石斧	7	a	全	住居跡 58･59	埋土上部	11.0	(4.3)	1.8	(171.0)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b114	1451	石斧	7	a	基部	住居跡 58･59	埋土	(4.0)	(3.0)	(2.1)	(45.5)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b118	1452	石斧	7	a	刃部	住居跡 34･90 付近		(8.6)	(4.9)	(2.8)	(179.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
b121	1453	石斧	7	a	刃部	住居跡 64･61	床面直上	(9.8)	5.7	2.8	(264.3)	頁岩	北上山地　中生代前期		208	160
b124	1454	石斧	7	a	刃部	住居跡 67･68･69･70	埋土	(8.6)	5.1	(2.5)	(164.5)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	160
b122	1455	石斧	7	a	刃部	住居跡 67	床面直上（S2）	(4.6)	4.4	(1.8)	(56.1)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
b125	1456	石斧	7	a	全	住居跡 91	埋土	(9.9)	4.8	2.5	(212.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
b127	1457	石斧	7	a	基部	住居跡 91	埋土	(3.2)	(2.7)	(1.1)	(12.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b128	1458	石斧	7	a	基部	住居跡 83 周辺	Ⅱ～Ⅲ	(6.7)	(4.9)	(3.9)	(137.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮 No.	掲載番号	器種	器種分類	細分	残存部位	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
b129	1459	石斧	7	a	基部	住居跡 92	土器 5 付近	(5.3)	(4.3)	(2.9)	(102.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b130	1460	石斧	7	a	刃部	土坑 51	埋土	(3.6)	(4.1)	(0.8)	(11.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b131	1461	石斧	7	a	刃部	土坑 52	埋土	(4.0)	(5.3)	(1.2)	(22.3)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b133	1462	石斧	7	a	基部	Ⅱ D71		(3.0)	(3.8)	(2.2)	(24.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b141	1463	石斧	7	a	基部	調査区一括		(6.3)	(4.6)	(2.0)	(96.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b008	1464	石斧	7	a	全	調査区一括		9.9	4.1	2.4	129.7	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		208	160
b009	1465	石斧	7	a	全	調査区一括		(8.9)	3.9	2.2	(125.8)	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		209	-
b010	1466	石斧	7	a	基部	調査区一括		(6.7)	(4.0)	(3.2)	(119.3)	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		209	-
b011	1467	石斧	7	a	刃部	調査区一括		(7.0)	4.9	(2.9)	(162.1)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		209	-
b103	1468	石斧	7	a?	破片	住居跡 81	埋土	(3.0)	(3.9)	(2.2)	(32.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b107	1469	石斧	7	a?	破片	住居跡 43	埋土	(5.1)	(4.3)	(1.2)	(41.3)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b108	1470	石斧	7	a?	破片	住居跡 88	埋土	(4.4)	(3.1)	(0.8)	(15.4)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b126	1471	石斧	7	a?	刃部	住居跡 91	埋土	(5.5)	(1.6)	(2.6)	(19.8)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b102	1472	石斧	7	b1	刃部	住居跡 81	埋土	(3.4)	(1.7)	(0.9)	(9.4)	頁岩	北上山地　中生代前期	擦切痕跡。	209	160
b115	1473	石斧	7	b1	刃部	住居跡 58･59	埋土	(4.0)	1.0	0.8	(5.5)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		209	160
b119	1474	石斧	7	b1	基部	住居跡 63	埋土	(5.5)	(1.8)	(0.8)	(13.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b123	1475	石斧	7	b1	刃部	住居跡 67･68･69･70	埋土	(4.3)	(1.7)	(1.3)	(14.2)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		209	160
b104	1476	石斧	7	b2	全	住居跡 73	埋土	(8.1)	2.5	0.7	(20.3)	頁岩	北上山地　中生代前期		209	160
b117	1477	石斧	7	b2	全	住居跡 58･59･62	埋土	6.0	3.0	1.1	33.1	頁岩	北上山地　中生代前期		209	160
b106	1478	石斧	7	b?	基部？	住居跡 78･79		(4.6)	(2.5)	(1.4)	(14.2)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
b132	1479	石斧	7	b?	基部	Ⅱ D71		(4.9)	(2.1)	(1.6)	(20.9)	頁岩	北上山地　中生代前期	擦切痕跡。	209	160
b142	1480	石斧	7	c1	全	住居跡 35	埋土	10.9	5.3	3.4	249.7	凝灰岩	北上山地　中生代白亜紀		-	160
b143	1481	石斧	7	c1	全	住居跡 75	埋土	11.8	5.4	2.4	206.1	砂岩	北上山地　中生代前期		209	160
b120	1482	石斧	7	c1	全	住居跡 63 西側	Ⅲ	(11.4)	(6.2)	2.9	(253.2)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
b139	1483	石斧	7	c2	全	Ⅱ D10k	Ⅱ	(5.5)	(3.1)	0.9	(25.3)	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
b113	1484	石斧	7	c2	全	住居跡 54	埋土	6.3	4.0	1.5	49.7	砂岩	北上山地　中生代白亜紀		209	160

第８表ｃ　敲磨器類・半割礫・石皿

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
c012	1485	敲磨器類	8	a1	ⅡC10h	木根攪乱部	(8.3)	(5.6)	(3.0)	(215.4)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c007	1486	敲磨器類	8	a1	ⅡC10l	Ⅱ～Ⅲ	(8.0)	(7.3)	(5.8)	(482.3)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c004	1487	敲磨器類	8	a1	ⅡC11e	木根攪乱部	13.9	7.1	5.1	645.3	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c011	1488	敲磨器類	8	a1	ⅡC13l	木根攪乱部	(8.3)	(6.8)	(3.7)	(304.5)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c006	1489	敲磨器類	8	a1	ⅡC14j	Ⅱ～Ⅲ	(8.6)	(7.0)	(5.9)	(348.9)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c005	1490	敲磨器類	8	a1	ⅡC19s	Ⅱ～Ⅲ	14.8	6.9	4.6	706.6	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c163	1491	敲磨器類	8	a1	ⅡD10i	Ⅲ	13.0	8.9	5.4	838.7	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c149	1492	敲磨器類	8	a1	ⅡD10k	Ⅱ	14.8	6.0	2.2	244.5	ホルンフェルス	北上山地　中生代前期の頁岩が中生代白亜紀に熱変成		-	-
13c151	1493	敲磨器類	8	a1	ⅡD10k	Ⅱ	(7.1)	(6.8)	6.1	(302.9)	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c159	1494	敲磨器類	8	a1	ⅡD10k	Ⅱ	(12.6)	(5.9)	6.1	(449.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c166	1495	敲磨器類	8	a1	ⅡD10k	Ⅲ	(5.9)	(4.1)	(5.2)	(170.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c152	1496	敲磨器類	8	a1	ⅡD10l	Ⅱ	(5.7)	(5.0)	(4.5)	(120.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c167	1497	敲磨器類	8	a1	ⅡD10l	Ⅱ	(7.1)	(6.1)	(5.1)	(268.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c162	1498	敲磨器類	8	a1	ⅡD10l	Ⅲ	(10.5)	(7.5)	6.3	(641.5)	斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c147	1499	敲磨器類	8	a1	ⅡD5k		(13.6)	7.9	7.6	(917.7)	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c251	1500	敲磨器類	8	a1	ⅡD5k（集積周辺）	Ⅱ	(8.7)	(6.4)	3.4	(211.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c161	1501	敲磨器類	8	a1	ⅡD5m	Ⅱ	(5.9)	(5.6)	2.5	(108.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c172	1502	敲磨器類	8	a1	ⅡD7j	Ⅱ	(5.3)	(6.2)	(4.8)	(205.0)	安山岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c170	1503	敲磨器類	8	a1	ⅡD8k	Ⅱ	(8.3)	6.4	4.3	(331.9)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c153	1504	敲磨器類	8	a1	ⅡD9j	Ⅱ	15.1	5.5	5.1	644.9	花崗閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c171	1505	敲磨器類	8	a1	ⅡD9l	Ⅱ	(9.8)	(7.5)	4.8	(506.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c160	1506	敲磨器類	8	a1	ⅡD9n	Ⅱ	(6.6)	(5.9)	(4.3)	(150.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
c029	1507	敲磨器類	8	a1	住居跡13	埋土	(4.5)	(3.9)	(2.1)	(27.9)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c260	1508	敲磨器類	8	a1	住居跡29	埋土	12.6	7.2	5.2	597.9	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	161
13c265	1509	敲磨器類	8	a1	住居跡35一括		(9.1)	(5.9)	5.2	(312.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c268	1510	敲磨器類	8	a1	住居跡73・74・75・76・77・78・79	埋土	(8.8)	(7.2)	3.3	(183.6)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c255	1511	敲磨器類	8	a1	住居跡73・74・75・76・77・78・79		(5.8)	(5.1)	6.1	(151.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c262	1512	敲磨器類	8	a1	住居跡73	埋土中部	(12.1)	(7.4)	4.8	(470.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c266	1513	敲磨器類	8	a1	住居跡73東トレンチ内	Ⅲ	(7.8)	(4.1)	4.7	(134.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c267	1514	敲磨器類	8	a1	住居跡73東トレンチ内	Ⅲ	(7.2)	(5.6)	(6.4)	(181.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c261	1515	敲磨器類	8	a1	住居跡75S9	床面直上	(6.2)	(5.9)	(4.5)	(208.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c257	1516	敲磨器類	8	a1	住居跡74	埋土下部	11.2	6.8	3.5	374.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c254	1517	敲磨器類	8	a1	住居跡78	埋土	14.6	7.7	6.5	927.2	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c263	1518	敲磨器類	8	a1	住居跡73・74・75・76・77・78・79	埋土	(6.5)	(5.2)	4.5	(123.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c154	1519	敲磨器類	8	a1	住居跡73・74・75・76・77・78・79付近	Ⅱ	11.9	7.5	6.8	621.0	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c010	1520	敲磨器類	8	a1	住居跡36	埋土	(8.0)	8.6	5.8	(531.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c015	1521	敲磨器類	8	a1	住居跡37	埋土	(5.8)	(6.5)	4.0	(190.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c042	1522	敲磨器類	8	a1	住居跡88	埋土	(8.9)	(6.4)	3.4	(250.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c033	1523	敲磨器類	8	a1	住居跡88pit2	埋土	(8.2)	7.8	3.2	(291.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c150	1524	敲磨器類	8	a1	住居跡88以南	Ⅱ～Ⅲ	(10.1)	5.9	5.7	(501.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c155	1525	敲磨器類	8	a1	住居跡88以南	Ⅱ～Ⅲ	(12.1)	7.0	5.9	(522.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c013	1526	敲磨器類	8	a1	住居跡88	埋土	(12.2)	(7.7)	3.4	(431.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c043	1527	敲磨器類	8	a1	住居跡49S2	床面直上	13.9	6.8	4.7	706.9	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c005	1528	敲磨器類	8	a1	住居跡49	埋土	11.8	6.1	6.4	469.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c020	1529	敲磨器類	8	a1	住居跡33NW	埋土	14.4	7.7	3.4	579.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
13c157	1530	敲磨器類	8	a1	住居跡33周辺		(4.1)	(2.5)	(3.5)	(27.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c008	1531	敲磨器類	8	a1	住居跡33	埋土	(8.2)	6.8	2.9	(146.8)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	-
13c003	1532	敲磨器類	8	a1	住居跡52	埋土	14.0	7.2	4.5	541.9	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c027	1533	敲磨器類	8	a1	住居跡52	埋土	11.7	7.4	4.0	509.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c012	1534	敲磨器類	8	a1	住居跡53	埋土	(10.3)	8.3	1.8	(229.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c002	1535	敲磨器類	8	a1	住居跡89	埋土	(9.6)	6.9	5.0	(411.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c030	1536	敲磨器類	8	a1	住居跡89	埋土	(10.8)	(9.4)	4.7	(557.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c040	1537	敲磨器類	8	a1	住居跡89	埋土	(14.2)	(7.5)	(6.3)	(561.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c041	1538	敲磨器類	8	a1	住居跡48	埋土	(15.7)	(7.6)	7.1	(1,104.9)	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c051	1539	敲磨器類	8	a1	住居跡48	埋土	12.8	8.6	6.6	965.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c047	1540	敲磨器類	8	a1	住居跡71	埋土	(12.3)	6.9	6.9	(741.8)	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c039	1541	敲磨器類	8	a1	住居跡72	埋土	(7.1)	7.2	5.0	(377.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c053	1542	敲磨器類	8	a1	住居跡54	埋土	(7.8)	6.3	5.7	(325.2)	花崗閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c031	1543	敲磨器類	8	a1	住居跡54		(7.1)	(7.7)	(5.5)	(333.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c011	1544	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59	埋土	(5.9)	8.8	5.7	(302.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c016	1545	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59	埋土	13.7	6.7	4.0	637.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c018	1546	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59	埋土	(5.6)	(6.3)	(4.8)	(177.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c024	1547	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59	埋土	(4.7)	(4.9)	(3.6)	(106.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c028	1548	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59	埋土	(7.0)	(5.8)	(3.7)	(140.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c029	1549	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59	埋土	(10.9)	(8.5)	(4.0)	(490.4)	斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c034	1550	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59	埋土	(5.5)	(5.0)	(4.6)	(141.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c038	1551	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59	埋土	(7.0)	(6.2)	6.5	(283.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c037	1552	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59	埋土（焼土上）	(12.5)	5.8	(3.7)	(405.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c045	1553	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59・62	埋土	(9.4)	(7.8)	6.1	(463.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c048	1554	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59・62	埋土	11.2	6.6	4.6	541.0	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c050	1555	敲磨器類	8	a1	住居跡58・59・62	埋土	13.8	5.7	2.5	237.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c006	1556	敲磨器類	8	a1	住居跡60	埋土	(6.4)	7.3	5.7	(320.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c035	1557	敲磨器類	8	a1	住居跡60	埋土	12.3	6.2	4.9	502.6	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c021	1558	敲磨器類	8	a1	住居跡64	埋土	(7.0)	(7.8)	(4.9)	(328.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c148	1559	敲磨器類	8	a1	住居跡64以南		8.1	6.5	6.0	432.7	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c158	1560	敲磨器類	8	a1	住居跡64以南		(15.1)	(8.3)	5.7	(998.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c049	1561	敲磨器類	8	a1	住居跡67	埋土	(9.2)	7.9	6.5	(498.1)	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c036	1562	敲磨器類	8	a1	住居跡67S7	埋土下部	13.6	7.2	3.6	551.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c044	1563	敲磨器類	8	a1	住居跡70	埋土	(8.8)	(4.9)	(3.0)	(165.2)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c264	1564	敲磨器類	8	a1	住居跡42	埋土	(7.6)	5.7	6.1	(320.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c256	1565	敲磨器類	8	a1	住居跡91	埋土	(9.7)	6.7	6.9	(543.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c258	1566	敲磨器類	8	a1	住居跡91	埋土	11.8	6.3	5.7	650.8	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		210	161
13c253	1567	敲磨器類	8	a1	住居跡91・92	埋土	13.3	7.6	4.6	670.1	砂岩	北上山地　中生代前期		-	161
13c259	1568	敲磨器類	8	a1	住居跡82		13.6	7.8	5.9	924.5	砂岩	北上山地　中生代前期		210	161
13c168	1569	敲磨器類	8	a1	住居跡83周辺	Ⅱ～Ⅲ	10.2	5.1	2.1	164.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c252	1570	敲磨器類	8	a1	住居跡94	埋土	17.9	8.0	4.4	982.0	凝灰岩	北上山地　中生代前期		210	161
13c156	1571	敲磨器類	8	a1	土坑69・溝状陥し穴28間	Ⅲ	(11.1)	7.3	5.6	(599.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c164	1572	敲磨器類	8	a1	土坑69・溝状陥し穴28間	Ⅲ	(13.4)	(7.4)	5.4	(758.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c173	1573	敲磨器類	8	a1	土坑69・溝状陥し穴28間	Ⅲ	(12.1)	6.9	5.9	(751.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c019	1574	敲磨器類	8	a1	土坑70		(14.3)	6.8	7.2	(791.5)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c023	1575	敲磨器類	8	a1	土坑70周辺住居	埋土	(7.6)	6.1	5.7	(394.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c052	1576	敲磨器類	8	a1	土坑73・74	埋土	13.2	8.1	5.2	687.3	デイサイト	北上山地　中生代白亜紀		-	161

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
c001	1577	敲磨器類	8	a1	土坑 11	埋土	14.0	8.7	5.0	962.1	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	161
c002	1578	敲磨器類	8	a1	土坑 26	埋土	(13.3)	(7.3)	(5.1)	(593.2)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	161
13c025	1579	敲磨器類	8	a1	土坑 48 以南		15.1	7.8	5.7	1,028.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c001	1580	敲磨器類	8	a1	土坑 49	底面 S1	(10.8)	11.1	4.2	(776.1)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c009	1581	敲磨器類	8	a1	調査区一括		10.5	5.5	3.5	300.3	砂岩	北上山地　中生代前期		210	161
13c014	1582	敲磨器類	8	a1	調査区一括		12.6	8.1	5.7	887.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	161
13c017	1583	敲磨器類	8	a1	調査区一括		(7.3)	(6.1)	(3.3)	(140.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
c003	1584	敲磨器類	8	a1	焼土遺構 1 周辺	Ⅱ～Ⅲ	11.9	7.2	4.9	558.5	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	161
13c004	1585	敲磨器類	8	a1	遺物集積 1 付近	Ⅱ～Ⅲ	12.3	7.1	5.6	785.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c007	1586	敲磨器類	8	a1	遺物集積 1 付近	Ⅱ～Ⅲ	12.7	7.4	(3.5)	(321.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c022	1587	敲磨器類	8	a1	遺物集積 1 付近	Ⅱ～Ⅲ	(8.3)	(8.8)	(3.8)	(371.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c026	1588	敲磨器類	8	a1	遺物集積 1 付近	Ⅱ～Ⅲ	14.8	8.3	4.6	838.5	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c032	1589	敲磨器類	8	a1	遺物集積 1 付近	Ⅱ～Ⅲ	13.8	9.9	7.3	1,288.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c046	1590	敲磨器類	8	a1	遺物集積 1	S3	(13.0)	7.2	4.6	(479.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c169	1591	敲磨器類	8	a1	調査区一括		13.9	6.9	4.8	480.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
c008	1592	敲磨器類	8	a1	調査区一括		(9.4)	(7.5)	(4.7)	(478.9)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c009	1593	敲磨器類	8	a1	調査区一括		(5.4)	(4.7)	(4.1)	(96.1)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c010	1594	敲磨器類	8	a1	調査区一括		(5.0)	(5.7)	(3.6)	(111.6)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c097	1595	敲磨器類	8	a1	調査区一括		14.3	8.8	7.0	1,170.0	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c106	1596	敲磨器類	8	a1	調査区一括		14.1	9.1	5.5	1,048.5	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c174	1597	敲磨器類	8	a2	ⅡD6m	Ⅱ	(9.5)	4.6	1.8	(87.9)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c273	1598	敲磨器類	8	a2	住居跡 32	埋土	(10.7)	8.5	2.2	(259.7)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c272	1599	敲磨器類	8	a2	住居跡 73・74・75・76・77・78・79	埋土	(13.2)	(6.1)	(2.4)	(255.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c274	1600	敲磨器類	8	a2	住居跡 73	埋土	(12.4)	6.4	2.6	(282.0)	頁岩	北上山地　中生代前期		210	162
13c269	1601	敲磨器類	8	a2	住居跡 75	埋土	(15.1)	6.4	2.1	(219.7)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		210	162
13c270	1602	敲磨器類	8	a2	住居跡 78・79	埋土	(8.4)	(7.8)	1.5	(141.6)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c054	1603	敲磨器類	8	a2	住居跡 46	埋土	(7.3)	5.5	2.0	(145.7)	斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	162
13c064	1604	敲磨器類	8	a2	住居跡 88	埋土	(7.9)	(5.2)	2.1	(102.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	162
13c065	1605	敲磨器類	8	a2	住居跡 88	埋土	(11.5)	6.5	1.3	(128.9)	ホルンフェルス	北上山地　中生代前期の頁岩が中生代白亜紀に熱変成		-	-
13c055	1606	敲磨器類	8	a2	住居跡 88pit2	埋土	(6.7)	(6.7)	1.9	(126.5)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c059	1607	敲磨器類	8	a2	住居跡 88	埋土	(10.1)	5.9	2.4	(204.8)	ホルンフェルス	北上山地　中生代前期の頁岩が中生代白亜紀に熱変成		-	-
13c057	1608	敲磨器類	8	a2	住居跡 71	埋土	17.2	7.8	2.6	482.8	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c062	1609	敲磨器類	8	a2	住居跡 54	埋土	15.8	5.2	2.9	249.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c058	1610	敲磨器類	8	a2	住居跡 58・59	埋土	(9.8)	(4.7)	2.6	(137.5)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c061	1611	敲磨器類	8	a2	住居跡 58・59	埋土	14.5	5.8	1.9	298.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c063	1612	敲磨器類	8	a2	住居跡 58・59	埋土	(10.1)	(4.8)	1.2	(93.3)	ホルンフェルス	北上山地　中生代前期の頁岩が中生代白亜紀に熱変成		-	-
13c066	1613	敲磨器類	8	a2	住居跡 58・59・62	埋土	(13.4)	(6.5)	2.4	(284.7)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c067	1614	敲磨器類	8	a2	住居跡 58・59・62	埋土	(10.5)	8.5	2.5	(321.5)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c060	1615	敲磨器類	8	a2	住居跡 64	埋土	(12.6)	4.3	1.2	(100.4)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c056	1616	敲磨器類	8	a2	住居跡 67	埋土	12.8	8.0	1.4	173.5	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c271	1617	敲磨器類	8	a2	住居跡 94	埋土	(11.4)	(6.7)	(2.9)	(264.0)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c175	1618	敲磨器類	8	a2	調査区一括		(10.9)	7.8	2.8	(278.5)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	-
c078	1619	敲磨器類	8	b	ⅡC11m	検出面	(8.7)	(7.4)	(5.3)	(339.0)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c064	1620	敲磨器類	8	b	ⅡC12l	木根攪乱部	11.5	7.7	5.4	698.1	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c067	1621	敲磨器類	8	b	ⅡC12l	木根攪乱部	10.1	6.1	5.1	451.1	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
c069	1622	敲磨器類	8	b	ⅡC12l	木根攪乱部	10.2	7.6	4.8	530.6	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c073	1623	敲磨器類	8	b	ⅡC12m	Ⅱ～Ⅲ	7.2	4.1	3.4	146.1	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c072	1624	敲磨器類	8	b	ⅡC13j	Ⅱ～Ⅲ	12.1	5.9	4.0	313.4	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c075	1625	敲磨器類	8	b	ⅡC13l	木根攪乱部	6.4	5.8	3.9	244.1	磁鉄鉱	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c081	1626	敲磨器類	8	b	ⅡC13l	木根攪乱部	5.8	5.5	5.1	303.9	蛇紋岩？	北上山地　古生代オルドビス紀？		-	-
c076	1627	敲磨器類	8	b	ⅡC13l	Ⅱ～Ⅲ	7.4	6.1	5.5	346.5	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c077	1628	敲磨器類	8	b	ⅡC13l	Ⅱ～Ⅲ	7.3	6.5	3.0	214.6	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c074	1629	敲磨器類	8	b	ⅡC16l	Ⅲ	10.7	8.0	3.4	421.5	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c068	1630	敲磨器類	8	b	ⅡC16m	検出面	10.6	6.6	3.6	372.2	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c070	1631	敲磨器類	8	b	ⅡC16n	検出面	8.4	5.4	2.6	176.6	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c062	1632	敲磨器類	8	b	ⅡC16q	Ⅱ～Ⅲ	11.9	7.1	3.1	395.4	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c071	1633	敲磨器類	8	b	ⅡC18n	木根攪乱部	10.5	4.3	2.2	165.2	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c065	1634	敲磨器類	8	b	ⅡC19m	木根攪乱部	11.7	9.6	5.4	875.6	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c066	1635	敲磨器類	8	b	ⅡC20o	木根攪乱部	11.5	9.0	4.2	628.9	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c177	1636	敲磨器類	8	b	ⅡD2t	Ⅱ	9.7	4.8	2.9	219.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c195	1637	敲磨器類	8	b	ⅡD5j	Ⅱ	8.6	5.4	4.1	271.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c197	1638	敲磨器類	8	b	ⅡD5j	Ⅱ	8.1	4.5	4.7	232.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c182	1639	敲磨器類	8	b	ⅡD5m	Ⅱ	9.9	6.3	3.5	309.1	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c184	1640	敲磨器類	8	b	ⅡD5n	Ⅱ	10.3	6.1	3.4	306.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c183	1641	敲磨器類	8	b	ⅡD6m	Ⅱ	10.8	8.6	5.5	733.5	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c176	1642	敲磨器類	8	b	ⅡD7a		9.9	5.3	3.0	220.5	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c178	1643	敲磨器類	8	b	ⅡE2a-2b	Ⅱ	9.9	6.6	5.1	447.1	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c295	1644	敲磨器類	8	b	住居跡 85	床面直上	15.5	9.1	4.8	1,029.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	162
c025	1645	敲磨器類	8	b	住居跡 2	埋土	6.2	5.2	5.1	229.2	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c023	1646	敲磨器類	8	b	住居跡 6	床面直上（S1）	15.9	9.8	8.8	1,935.7	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c037	1647	敲磨器類	8	b	住居跡 6	床面直上（S2）	14.3	9.8	7.3	1,361.2	凝灰岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c039	1648	敲磨器類	8	b	住居跡 6	埋土	10.2	6.1	5.4	464.7	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c027	1649	敲磨器類	8	b	住居跡 9	埋土	13.9	6.8	5.0	546.7	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c022	1650	敲磨器類	8	b	住居跡 12	床面直上（S1）	10.4	8.5	5.4	677.8	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	162
c016	1651	敲磨器類	8	b	住居跡 12	埋土	8.4	7.6	2.5	236.2	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c021	1652	敲磨器類	8	b	住居跡 12	埋土	10.1	8.4	3.8	482.9	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	162
c019	1653	敲磨器類	8	a1	住居跡 12	北壁際床面直上	10.1	6.7	3.7	365.5	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	162
c041	1654	敲磨器類	8	b	住居跡 12	床面直上（S2）	14.5	(7.3)	5.0	(818.6)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c020	1655	敲磨器類	8	b	住居跡 12 炉	炉内	8.8	5.8	4.4	332.0	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c035	1656	敲磨器類	8	a1	住居跡 16	埋土	13.2	6.7	4.5	580.8	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		210	162
c043	1657	敲磨器類	8	a1	住居跡 18	床面直上	12.8	(10.0)	5.3	(961.4)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		210	162
c036	1658	敲磨器類	8	b	住居跡 18	床面直上	12.6	7.9	5.1	733.9	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c297	1659	敲磨器類	8	b	住居跡 24S26	埋土中部	11.4	7.3	3.4	421.6	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c304	1660	敲磨器類	8	b	住居跡 24	床面直上（S1）	18.4	9.6	4.9	813.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c185	1661	敲磨器類	8	b	住居跡 24	床面直上（S2）	12.8	7.3	2.9	413.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	162
13c302	1662	敲磨器類	8	b	住居跡 80	埋土	12.9	7.5	3.1	482.7	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c301	1663	敲磨器類	8	b	住居跡 81	埋土	10.1	7.9	6.6	761.6	ハンレイ岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c282	1664	敲磨器類	8	b	住居跡 73 東トレンチ内	Ⅲ	10.2	5.4	3.5	279.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c285	1665	敲磨器類	8	b	住居跡 75	埋土	9.3	7.8	4.0	408.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c300	1666	敲磨器類	8	b	住居跡 75	埋土	18.2	7.6	6.4	1,458.5	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c288	1667	敲磨器類	8	b	住居跡 75S4	埋土	9.7	6.8	3.6	367.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c280	1668	敲磨器類	8	b	住居跡 74	埋土	9.8	6.2	4.5	412.6	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
13c286	1669	敲磨器類	8	b	住居跡 74	埋土下部（S2）	9.0	5.3	2.3	168.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c292	1670	敲磨器類	8	b	住居跡 77	床面直上	11.1	11.7	4.7	877.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	163
13c289	1671	敲磨器類	8	b	住居跡 78・79		9.0	5.2	2.1	146.6	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c294	1672	敲磨器類	8	b	住居跡 78・79		9.8	7.2	2.6	288.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c277	1673	敲磨器類	8	b	住居跡 79	埋土	10.8	7.6	4.4	553.5	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c084	1674	敲磨器類	8	b	住居跡 44	床面直上	7.9	7.2	2.9	238.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c086	1675	敲磨器類	8	b	住居跡 88	埋土	8.6	7.5	2.1	221.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c098	1676	敲磨器類	8	b	住居跡 88	埋土	6.3	4.8	4.1	200.7	ハンレイ岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c102	1677	敲磨器類	8	b	住居跡 88	埋土	8.9	5.0	4.4	270.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c192	1678	敲磨器類	8	b	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	10.2	8.1	4.0	461.8	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c196	1679	敲磨器類	8	b	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	9.5	8.2	5.2	596.4	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c187	1680	敲磨器類	8	b	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ	10.4	5.0	3.1	248.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c077	1681	敲磨器類	8	b	住居跡 88 カマド煙道部		12.3	7.6	3.1	436.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c082	1682	敲磨器類	8	b	住居跡 49	埋土	8.7	6.7	2.9	277.5	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c071	1683	敲磨器類	8	b	住居跡 33	埋土	6.6	5.8	2.7	145.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c075	1684	敲磨器類	8	b	住居跡 33（NW）	埋土	10.0	5.9	2.7	234.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c194	1685	敲磨器類	8	b	住居跡 33 周辺	Ⅱ～Ⅲ	8.9	7.1	2.7	259.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c069	1686	敲磨器類	8	b	住居跡 52	埋土	9.1	6.2	3.1	259.5	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c092	1687	敲磨器類	8	b	住居跡 89	埋土	13.9	6.5	3.9	562.6	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c088	1688	敲磨器類	8	b	住居跡 48	埋土	14.8	7.2	5.1	798.4	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c091	1689	敲磨器類	8	b	住居跡 48	埋土	8.1	6.7	4.6	344.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c087	1690	敲磨器類	8	b	住居跡 71	埋土	11.5	7.8	2.9	392.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c100	1691	敲磨器類	8	b	住居跡 71	埋土	9.1	5.2	3.1	209.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c072	1692	敲磨器類	8	b	住居跡 54	埋土	(7.8)	(7.3)	3.9	(263.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c074	1693	敲磨器類	8	b	住居跡 54	埋土	8.8	5.1	2.0	138.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c079	1694	敲磨器類	8	b	住居跡 54	埋土	10.0	6.4	3.7	344.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c081	1695	敲磨器類	8	b	住居跡 54	埋土	5.7	5.1	1.9	84.8	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c085	1696	敲磨器類	8	b	住居跡 54	埋土	8.9	7.9	2.8	306.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c083	1697	敲磨器類	8	b	住居跡 54		6.9	6.8	2.9	191.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c070	1698	敲磨器類	8	b	住居跡 58・59	埋土	9.3	6.6	3.3	302.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c076	1699	敲磨器類	8	b	住居跡 58・59	埋土	(7.3)	8.1	2.9	(305.0)	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c089	1700	敲磨器類	8	b	住居跡 58・59	埋土	8.0	5.4	3.9	248.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c097	1701	敲磨器類	8	b	住居跡 58・59	埋土	(5.0)	5.6	3.8	(147.7)	デイサイト	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c099	1702	敲磨器類	8	b	住居跡 58・59	埋土	10.5	5.4	4.0	317.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c090	1703	敲磨器類	8	b	住居跡 58・59	埋土（焼土上）	8.5	4.5	4.0	216.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c068	1704	敲磨器類	8	b	住居跡 58・59・62	埋土	14.6	8.1	4.1	734.8	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c078	1705	敲磨器類	8	b	住居跡 58・59・62	埋土	12.9	8.7	3.0	505.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c095	1706	敲磨器類	8	b	住居跡 58・59・62	埋土	8.1	4.1	3.3	157.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c101	1707	敲磨器類	8	b	住居跡 60	埋土	10.1	5.7	3.7	321.7	デイサイト	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c094	1708	敲磨器類	8	b	住居跡 63	埋土	8.3	5.3	3.1	201.5	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c181	1709	敲磨器類	8	b	住居跡 64 以南一括		12.1	6.8	3.3	407.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c191	1710	敲磨器類	8	b	住居跡 64		10.2	7.0	2.3	254.8	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c190	1711	敲磨器類	8	b	住居跡 64 周辺	Ⅲ	8.3	6.5	2.8	230.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c103	1712	敲磨器類	8	b	住居跡 62	埋土	5.8	4.8	4.4	164.0	チャート	北上山地　中生代前期		-	-
13c093	1713	敲磨器類	8	b	住居跡 90	攪乱層	11.3	5.4	3.2	289.1	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c275	1714	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	5.7	4.7	4.5	170.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c278	1715	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	13.3	7.5	5.3	736.1	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
13c279	1716	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	8.7	6.4	4.5	360.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c281	1717	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	6.7	4.9	3.6	170.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c283	1718	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	7.7	6.5	3.7	269.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c287	1719	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	9.1	6.1	3.4	292.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c290	1720	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	10.5	6.4	2.6	270.4	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c293	1721	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	8.5	6.3	2.6	207.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c296	1722	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	15.2	8.5	4.7	882.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c298	1723	敲磨器類	8	b	住居跡 91	埋土	9.2	5.6	3.7	265.2	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c276	1724	敲磨器類	8	b	住居跡 91・92	埋土	6.9	6.8	5.6	362.4	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c284	1725	敲磨器類	8	b	住居跡 91・92	埋土	10.8	6.3	6.4	622.8	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c291	1726	敲磨器類	8	b	住居跡 91・92	埋土	13.8	7.1	3.5	499.6	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c303	1727	敲磨器類	8	b	住居跡 82	埋土	16.6	9.9	5.3	1,265.5	花崗斑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c193	1728	敲磨器類	8	b	住居跡 83 周辺	Ⅱ～Ⅲ	8.1	6.9	2.8	191.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c186	1729	敲磨器類	8	b	住居跡 55 以南	Ⅱ～Ⅲ	10.5	7.7	3.2	398.4	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c096	1730	敲磨器類	8	b	土坑 70 周辺住居	埋土	7.8	5.4	4.3	258.9	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
c033	1731	敲磨器類	8	b	土坑 9	検出面	9.7	9.0	5.6	702.3	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	163
c059	1732	敲磨器類	8	b	土坑 16	埋土上部	(10.1)	(5.5)	(2.9)	(219.6)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c058	1733	敲磨器類	8	b	土坑 37	埋土	8.0	3.6	2.4	111.3	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c054	1734	敲磨器類	8	a1	土坑 40	埋土上部	8.4	6.8	3.4	285.5	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c180	1735	敲磨器類	8	b	調査区一括		10.6	6.6	3.4	346.1	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c179	1736	敲磨器類	8	b	焼土遺構 3 周辺		11.8	6.4	3.6	449.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
c052	1737	敲磨器類	8	b	調査区一括		11.1	6.2	4.1	419.0	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c080	1738	敲磨器類	8	b	ⅡD7l		7.8	7.1	3.1	254.8	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c073	1739	敲磨器類	8	b	ⅡD7l		(9.2)	6.0	3.8	(287.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
c061	1740	敲磨器類	8	b	調査区一括		10.0	6.7	3.3	321.5	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c085	1741	敲磨器類	8	b	調査区一括	Ⅲ	10.3	9.5	4.5	622.9	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c188	1742	敲磨器類	8	b	調査区一括		7.2	5.5	2.6	149.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c189	1743	敲磨器類	8	b	調査区一括		8.9	8.4	4.1	440.4	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
c087	1744	敲磨器類	8	b	調査区一括		9.4	6.3	3.3	282.6	アプライト	北上山地　中生白亜紀		-	-
c088	1745	敲磨器類	8	b	調査区一括		11.6	7.8	6.0	796.0	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c089	1746	敲磨器類	8	b	調査区一括		13.2	10.0	5.7	1,060.3	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c090	1747	敲磨器類	8	b	調査区一括		10.4	5.6	3.0	265.8	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c091	1748	敲磨器類	8	b	調査区一括		8.7	6.0	3.7	288.5	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c092	1749	敲磨器類	8	b	調査区一括		12.6	7.2	4.2	564.3	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c095	1750	敲磨器類	8	b	調査区一括		(10.9)	(6.7)	(3.7)	(356.8)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c102	1751	敲磨器類	8	b	調査区一括		14.0	8.5	2.9	541.4	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c103	1752	敲磨器類	8	b	調査区一括		14.3	9.4	4.9	959.6	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c105	1753	敲磨器類	8	c	調査区一括		(11.3)	(7.5)	(4.1)	(493.7)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c083	1754	敲磨器類	8	b	調査区東端部	排土	9.4	7.5	4.5	442.2	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c101	1755	敲磨器類	8	c	ⅡC8i 付近		7.3	7.0	5.2	398.2	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c198	1756	敲磨器類	8	c	ⅡD10j	Ⅲ	11.3	6.2	3.2	327.7	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c200	1757	敲磨器類	8	c	ⅡD9l	Ⅱ	9.6	6.5	5.4	527.6	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
c014	1758	敲磨器類	8	c	住居跡 6	埋土	12.7	5.3	4.3	440.6	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c015	1759	敲磨器類	8	c	住居跡 12S3	埋土下部	14.0	(8.0)	(4.9)	(789.7)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	163
c042	1760	敲磨器類	8	c	住居跡 18	床面直上	10.1	7.7	5.6	613.4	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		210	163
13c199	1761	敲磨器類	8	c	住居跡 24 南縁部（S3）	床面直上	11.4	6.0	3.1	339.3	砂岩	北上山地　中生代前期		211	163
13c305	1762	敲磨器類	8	c	住居跡 77	埋土	7.5	(5.1)	2.7	(161.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	163

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
13c112	1763	敲磨器類	8	c	住居跡 88	埋土	6.0	5.2	4.8	204.6	砂岩	北上山地　中生代前期		211	163
13c110	1764	敲磨器類	8	c	住居跡 52	埋土	10.4	9.7	5.0	704.2	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c104	1765	敲磨器類	8	c	住居跡 58・59	埋土	8.7	7.3	4.8	445.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c108	1766	敲磨器類	8	c	住居跡 58・59	埋土	(5.2)	(3.4)	(1.3)	(30.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c106	1767	敲磨器類	8	c	住居跡 60	埋土	11.2	7.1	3.7	438.6	砂岩	北上山地　中生代前期		-	163
13c109	1768	敲磨器類	8	c	住居跡 34	埋土	9.7	8.5	4.0	468.1	砂岩	北上山地　中生代前期		-	163
13c105	1769	敲磨器類	8	c	住居跡 64	埋土	11.2	6.0	4.4	448.1	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c107	1770	敲磨器類	8	c	住居跡 67・68・69・70	埋土下～床面	9.7	6.3	3.0	289.3	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c337	1771	敲磨器類	8	c	住居跡 55	埋土下部	25.1	6.3	5.5	1,332.7	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-
c030	1772	敲磨器類	8	c	土坑 7	埋土	(7.2)	(4.7)	(2.5)	(118.4)	閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c111	1773	敲磨器類	8	c	土坑 58	埋土	6.9	6.6	3.5	237.1	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c113	1774	敲磨器類	8	c	ⅡD7l		5.3	5.3	5.0	199.4	チャート	北上山地　中生代前期		-	-
c093	1775	敲磨器類	8	c	調査区一括		8.4	6.8	4.5	378.8	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c094	1776	敲磨器類	8	c	調査区一括		11.1	8.8	7.4	1,025.5	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	163
c096	1777	敲磨器類	8	c	調査区一括		9.5	9.3	8.5	1,390.3	ハンレイ岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c099	1778	敲磨器類	8	c	調査区一括		7.7	7.5	3.1	282.9	凝灰岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c100	1779	敲磨器類	8	c	調査区一括		10.8	6.2	4.6	466.7	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c026	1780	敲磨器類	8	c?	住居跡 2（SE）	埋土	7.7	5.7	3.5	226.1	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	163
c024	1781	敲磨器類	8	c?	住居跡 6	埋土	6.3	5.1	3.9	172.7	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	163
c080	1782	敲磨器類	8	d	ⅡC13l	Ⅱ～Ⅲ	8.7	5.5	3.1	156.0	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c248	1783	敲磨器類	8	d	ⅡD6m	Ⅱ	9.3	6.5	3.7	340.7	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c247	1784	敲磨器類	8	d	ⅡD6n	Ⅱ	(5.3)	(7.3)	3.9	(166.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c249	1785	敲磨器類	8	d	ⅡD6o	Ⅱ	12.7	11.2	7.1	673.5	凝灰岩	奥羽山脈　新生代新第三紀		-	163
13c250	1786	敲磨器類	8	d	ⅡD7i	Ⅱ	(5.8)	(3.4)	3.1	(40.9)	凝灰岩	奥羽山脈　新生代新第三紀		-	-
c013	1787	敲磨器類	8	d	住居跡 2	埋土	13.8	8.0	6.2	1,011.5	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		211	164
c038	1788	敲磨器類	8	d	住居跡 6	埋土	10.4	8.6	5.2	712.8	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c040	1789	敲磨器類	8	d	住居跡 6	埋土上部（S3）	11.0	7.6	4.7	572.8	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		211	164
c045	1790	敲磨器類	8	d	住居跡 12	北壁際床面直上	(10.3)	9.5	6.9	(914.8)	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c044	1791	敲磨器類	8	d	住居跡 18	埋土	(8.1)	(7.7)	(2.6)	(165.7)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c334	1792	敲磨器類	8	d	住居跡 22	埋土下部（S17）	10.5	8.3	5.5	713.8	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		211	164
13c332	1793	敲磨器類	8	d	住居跡 78・79		(13.0)	(9.2)	3.4	(418.4)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		211	164
13c333	1794	敲磨器類	8	d	住居跡 78・79		11.7	6.9	2.5	185.1	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	164
13c299	1795	敲磨器類	8	d	住居跡 91	埋土	13.1	5.8	3.7	433.0	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c335	1796	敲磨器類	8	d	住居跡 91	埋土	6.3	6.8	3.3	161.1	凝灰岩	奥羽山脈　新生代新第三紀		211	164
13c336	1797	敲磨器類	8	d	住居跡 94	埋土	(10.2)	8.1	(4.6)	(321.3)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
c086	1798	敲磨器類	8	d	調査区一括		9.2	6.8	4.3	309.8	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c098	1799	敲磨器類	8	d	調査区一括		11.0	8.0	5.2	665.7	花崗閃緑岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c104	1800	敲磨器類	8	d	調査区一括		(9.8)	(8.3)	(6.2)	(756.1)	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
c107	1801	敲磨器類	8	d	調査区一括		8.8	7.1	4.8	366.8	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c063	1802	半割礫	8	e	ⅡC20p	Ⅱ～Ⅲ	(9.2)	(8.1)	(4.3)	(492.8)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c234	1803	半割礫	8	e	ⅡC8p		(8.4)	(6.9)	(3.9)	(245.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c224	1804	半割礫	8	e	ⅡC9q		(7.9)	(8.2)	(4.1)	(300.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c201	1805	半割礫	8	e	ⅡD10i	Ⅲ	(9.8)	7.4	4.1	(410.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c238	1806	半割礫	8	e	ⅡD10j	Ⅲ	(8.2)	(9.1)	(4.1)	(401.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c240	1807	半割礫	8	e	ⅡD10j	Ⅲ	(6.2)	10.2	4.8	(429.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c211	1808	半割礫	8	e	ⅡD10k	Ⅱ	(5.7)	(8.7)	(4.0)	(255.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c225	1809	半割礫	8	e	ⅡD10k	Ⅱ	(7.3)	(8.3)	(4.4)	(282.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
13c202	1810	半割礫	8	e	ⅡD10k	Ⅲ	(11.3)	11.5	(6.2)	(941.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c207	1811	半割礫	8	e	ⅡD10k	Ⅲ	(6.7)	(9.5)	(4.3)	(359.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c208	1812	半割礫	8	e	ⅡD10k	Ⅲ	(7.8)	(6.7)	(3.6)	(167.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c214	1813	半割礫	8	e	ⅡD10k	Ⅲ	(7.6)	8.4	4.0	(344.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c244	1814	半割礫	8	e	ⅡD10k	Ⅲ	(7.7)	(9.2)	4.5	(384.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c219	1815	半割礫	8	e	ⅡD10l	Ⅱ	(10.7)	9.1	(4.4)	(559.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c206	1816	半割礫	8	e	ⅡD10m	Ⅱ	(4.9)	(5.4)	(2.7)	(87.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c239	1817	半割礫	8	e	ⅡD10m	Ⅱ	(5.4)	8.6	2.3	(193.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c231	1818	半割礫	8	e	ⅡD4b	Ⅱ	(8.7)	(9.5)	4.8	(494.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c245	1819	半割礫	8	e	ⅡD4f	Ⅱ	(10.6)	11.1	4.8	(877.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	164
13c222	1820	半割礫	8	e	ⅡD5k	Ⅱ	(10.4)	8.2	2.9	(410.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c216	1821	半割礫	8	e	ⅡD6m	Ⅱ	(8.2)	(9.2)	(3.6)	(364.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c220	1822	半割礫	8	e	ⅡD6o	Ⅱ	(7.0)	(9.4)	(3.8)	(330.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c237	1823	半割礫	8	e	ⅡD8k	Ⅱ	(12.0)	9.1	3.3	(548.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c204	1824	半割礫	8	e	ⅡD8l	Ⅱ	7.7	(11.3)	(4.6)	(441.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c218	1825	半割礫	8	e	ⅡD8m	Ⅱ	(6.1)	8.6	5.0	(356.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c209	1826	半割礫	8	e	ⅡD9k	Ⅱ	(8.5)	7.4	3.6	(340.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c308	1827	半割礫	8	e	住居跡24（NW）		(8.2)	6.2	2.1	(113.5)	凝灰岩	奥羽山脈　新生代新第三紀		-	-
13c321	1828	半割礫	8	e	住居跡24	埋土中部（S12）	7.3	(6.6)	2.2	(147.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c310	1829	半割礫	8	e	住居跡35	埋土	(10.3)	9.8	5.2	(726.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c314	1830	半割礫	8	e	住居跡80	埋土	(3.0)	(6.0)	(4.6)	(103.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c320	1831	半割礫	8	e	住居跡80	埋土	(5.6)	(6.5)	(3.1)	(167.9)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c313	1832	半割礫	8	e	住居跡81	埋土	(7.3)	(9.2)	(5.1)	(489.8)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c312	1833	半割礫	8	e	住居跡73・74・75・76・77・78・79	埋土	(6.6)	(6.3)	(3.6)	(162.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c318	1834	半割礫	8	e	住居跡75	埋土	(7.3)	9.4	(3.9)	(370.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	164
13c316	1835	半割礫	8	e	住居跡75	埋土	(6.6)	(11.7)	(5.4)	(519.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c319	1836	半割礫	8	e	住居跡74	埋土	(3.8)	(5.0)	(3.7)	(76.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c323	1837	半割礫	8	e	住居跡77	埋土	(6.3)	(6.6)	(4.5)	(202.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c306	1838	半割礫	8	e	住居跡78・79		(5.3)	(7.6)	5.9	(296.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c317	1839	半割礫	8	e	住居跡78・79		(7.0)	(4.6)	(5.0)	(140.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c322	1840	半割礫	8	e	住居跡78・79		(5.4)	(3.8)	(4.6)	(83.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c205	1841	半割礫	8	e	住居跡78・79		(9.3)	(8.4)	5.1	(570.0)	玢岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c221	1842	半割礫	8	e	住居跡47以南		(8.6)	(12.0)	(4.9)	(594.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c128	1843	半割礫	8	e	住居跡88	埋土	(7.6)	(10.1)	4.6	(465.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c135	1844	半割礫	8	e	住居跡88	埋土	(4.9)	(5.6)	(2.7)	(73.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c124	1845	半割礫	8	e	住居跡88pit	埋土	(8.4)	(7.7)	(6.0)	(452.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c235	1846	半割礫	8	e	住居跡88以南	Ⅱ～Ⅲ	(6.5)	(4.6)	3.8	(137.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c217	1847	半割礫	8	e	住居跡88以南	Ⅱ～Ⅲ	(8.2)	(10.9)	(6.2)	(620.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c215	1848	半割礫	8	e	住居跡88以南	Ⅱ～Ⅲ	(9.4)	(7.5)	4.3	(295.9)	凝灰岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c226	1849	半割礫	8	e	住居跡88以南	Ⅱ～Ⅲ	(6.8)	5.9	3.1	(176.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c233	1850	半割礫	8	e	住居跡88以南	Ⅱ～Ⅲ	(5.7)	8.7	(5.8)	(437.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c242	1851	半割礫	8	e	住居跡88以南	Ⅱ～Ⅲ	(8.1)	(9.7)	(4.6)	(480.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c212	1852	半割礫	8	e	住居跡33	Ⅱ～Ⅲ	(4.6)	(6.7)	2.2	(100.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c241	1853	半割礫	8	e	住居跡33	Ⅱ～Ⅲ	(9.1)	7.1	2.6	(134.2)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	-
13c125	1854	半割礫	8	e	住居跡33		(7.0)	(6.8)	5.9	(264.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c232	1855	半割礫	8	e	住居跡33		(11.4)	(8.7)	(4.2)	(520.7)	花崗岩	北上山地　中生代白亜紀		-	-
13c120	1856	半割礫	8	e	住居跡52・47	埋土	(9.6)	(8.0)	(4.6)	(474.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
13c134	1857	半割礫	8	e	住居跡 52・47	埋土	(7.7)	(4.8)	(4.3)	(230.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c117	1858	半割礫	8	e	住居跡 89	埋土	(8.9)	(10.7)	(4.5)	(470.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c121	1859	半割礫	8	e	住居跡 89	埋土	(10.0)	(9.5)	(3.4)	(453.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c114	1860	半割礫	8	e	住居跡 71	埋土	(4.1)	(7.3)	4.3	(155.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c118	1861	半割礫	8	e	住居跡 71	埋土	(10.4)	(9.4)	(4.4)	(557.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c139	1862	半割礫	8	e	住居跡 72	埋土	(6.8)	(6.6)	(2.7)	(160.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c130	1863	半割礫	8	e	住居跡 54	埋土	(6.3)	(6.6)	3.5	(186.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c140	1864	半割礫	8	e	住居跡 54	埋土	(7.1)	(10.0)	(5.0)	(360.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c136	1865	半割礫	8	e	住居跡 58・59	埋土	(10.5)	(11.5)	6.0	(1,004.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		211	164
13c138	1866	半割礫	8	e	住居跡 58・59	埋土	(3.0)	(6.7)	(1.9)	(45.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c116	1867	半割礫	8	e	住居跡 58・59	埋土（焼土上）	(9.8)	(8.2)	(4.0)	(373.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c115	1868	半割礫	8	e	住居跡 58・59・62	埋土	(14.4)	9.6	5.3	(832.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c122	1869	半割礫	8	e	住居跡 58・59・62	埋土	(8.3)	(9.8)	4.9	(472.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c129	1870	半割礫	8	e	住居跡 58・59・62	埋土	(6.3)	(6.5)	(5.3)	(179.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c137	1871	半割礫	8	e	住居跡 58・59・62	埋土	(6.9)	(6.7)	(4.1)	(139.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c126	1872	半割礫	8	e	住居跡 64	埋土	(8.2)	(7.9)	(3.6)	(300.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c127	1873	半割礫	8	e	住居跡 64	埋土	(13.2)	10.7	4.8	(946.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	164
13c243	1874	半割礫	8	e	住居跡 64 以南		(7.4)	(8.7)	4.0	(402.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c203	1875	半割礫	8	e	住居跡 64 周辺	Ⅲ	(10.2)	8.8	5.1	(601.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c307	1876	半割礫	8	e	住居跡 42	埋土	(12.4)	12.0	5.1	(921.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c324	1877	半割礫	8	e	住居跡 42	埋土	(12.5)	(11.2)	(5.7)	(1,043.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	165
13c210	1878	半割礫	8	e	住居跡 42・32 以西		(10.0)	6.1	3.1	(275.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c325	1879	半割礫	8	e	住居跡 91	埋土	(11.4)	(10.1)	5.0	(802.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c223	1880	半割礫	8	e	住居跡 56～土坑 68 周辺		(12.0)	(9.4)	6.3	(911.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c229	1881	半割礫	8	e	住居跡 56～土坑 68 周辺		(4.9)	(6.7)	(5.0)	(201.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c309	1882	半割礫	8	e	住居跡 82		(7.7)	(9.5)	3.4	(325.0)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c230	1883	半割礫	8	e	住居跡 83 周辺	Ⅱ～Ⅲ	(8.0)	(8.9)	(3.6)	(297.7)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c311	1884	半割礫	8	e	住居跡 93	埋土	(9.2)	(9.6)	(4.0)	(430.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c315	1885	半割礫	8	e	住居跡 94	埋土	(9.2)	(11.9)	(4.9)	(756.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		212	165
c060	1886	半割礫	8	e	土坑 13	埋土	12.7	11.8	4.3	916.4	ホルンフェルス	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀中生代白亜紀に変成		-	-
13c131	1887	半割礫	8	e	土坑 62	埋土	(9.1)	(11.1)	3.9	(629.2)	砂岩	北上山地　中生代前期		212	165
13c133	1888	半割礫	8	e	土坑 62	埋土	(11.0)	(10.5)	(6.0)	(837.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c326	1889	半割礫	8	e	焼土遺構 3	焼土下～床面	(4.0)	(8.7)	(4.1)	(175.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c228	1890	半割礫	8	e	調査区一括		(8.7)	(8.3)	(4.4)	(321.6)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c213	1891	半割礫	8	e	焼土遺構 3 周辺		(4.2)	(7.3)	(2.9)	(105.4)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c227	1892	半割礫	8	e	焼土遺構 3 周辺		(7.0)	9.4	(3.4)	(300.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c236	1893	半割礫	8	e	焼土遺構 3 周辺		(6.3)	7.1	3.7	(191.5)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c119	1894	半割礫	8	e	ⅡD71		(8.2)	(9.3)	(4.8)	(379.9)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c132	1895	半割礫	8	e	ⅡD71		(7.3)	(8.0)	(3.2)	(250.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c123	1896	半割礫	8	e	ⅡD71		(7.7)	(10.6)	(6.4)	(562.1)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
c079	1897	半割礫	8	e	調査区一括		(9.4)	(10.6)	(4.5)	(636.1)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c017	1898	半割礫？	8	e?	住居跡 12	埋土	(11.1)	(7.2)	(3.5)	(279.8)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c028	1899	半割礫？	8	e?	住居跡 13	埋土	(4.1)	(3.2)	(3.4)	(42.2)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c031	1900	半割礫？	8	e?	住居跡 14	埋土	(6.2)	(9.4)	(4.2)	(288.2)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c032	1901	半割礫？	8	e?	住居跡 14	埋土	(4.1)	(7.0)	(4.3)	(130.8)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c034	1902	半割礫？	8	e?	住居跡 15	埋土	7.1	5.3	3.8	98.0	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
13c165	1903	半割礫？	8	e?	住居跡34・90付近		10.1	6.8	5.8	646.8	砂岩	北上山地　中生代前期		212	165
c046	1904	半割礫？	8	e?	土坑12	埋土上部	(4.2)	(4.6)	(3.3)	(64.3)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c047	1905	半割礫？	8	e?	土坑16	埋土上部	(6.0)	(5.3)	(4.4)	(157.6)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c048	1906	半割礫？	8	e?	土坑16	埋土上部	(4.7)	(4.9)	(4.0)	(111.9)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c049	1907	半割礫？	8	e?	土坑19	埋土	(3.9)	(8.6)	(3.7)	(131.7)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c056	1908	半割礫？	8	e?	土坑27・28	埋土	(5.2)	(3.9)	(0.9)	(13.9)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c057	1909	半割礫？	8	e?	土坑27・28	埋土	(7.1)	(4.2)	(1.0)	(25.8)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c055	1910	半割礫？	8	e?	溝状陥し穴7	埋土上部	(5.9)	(6.4)	(4.0)	(140.4)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c050	1911	半割礫？	8	e?	T4拡張部		(9.8)	(4.5)	(4.0)	(189.9)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c051	1912	半割礫？	8	e?	T4拡張部		(6.2)	(6.9)	(3.5)	(170.8)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
c053	1913	半割礫？	8	e?	住居跡94付近	検出面	(8.4)	(4.4)	(2.6)	(108.0)	砂岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		-	-
13c331	1914	石皿	9		住居跡22炉	炉内（S7）	(15.4)	(20.0)	6.4	(1,895.6)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	-
13c328	1915	石皿	9		住居跡75	埋土下部（S6）	(15.1)	(21.7)	(8.2)	(3,957.8)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c329	1916	石皿	9		住居跡74	埋土	(11.2)	(11.2)	(3.9)	(352.5)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	-
13c146	1917	石皿	9		住居跡46	埋土	(11.3)	(11.0)	(7.9)	(1,612.3)	砂岩	北上山地　中生代前期		-	-
13c144	1918	石皿	9		住居跡89	埋土	(22.4)	(25.1)	(5.9)	(2,012.2)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	-
13c145	1919	石皿	9		住居跡71	埋土下部（S2）	(14.4)	(17.6)	(6.3)	(1,322.6)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		212	165
13c142	1920	石皿	9		住居跡72	埋土下部	(14.3)	(16.8)	7.1	(1,407.9)	凝灰岩	奥羽山脈　新生代新第三紀		212	165
13c246	1921	石皿	9		住居跡64以南		(15.4)	(19.8)	7.1	(1,709.0)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		212	165
13c327	1922	石皿	9		住居跡82		21.6	10.5	3.5	909.0	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	-
13c330	1923	石皿	9		住居跡82		(13.6)	(15.4)	(6.5)	(1,261.6)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	-
13c141	1924	石皿	9		ⅡD71		(9.6)	(9.5)	3.6	(530.2)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	-
13c143	1925	石皿	9		ⅡD71		(18.6)	(30.2)	3.4	(2,708.1)	頁岩	北上山地　中生代前期		-	-

第８表ｄ　石製品・自然礫

仮No.	掲載番号	器種	器種分類	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石質	産地	備考	図版	写真図版
d004	1926	玦状耳飾	10	Ⅱ C15n	検出面	2.9	(1.6)	0.4	(2.0)	滑石	北上山地　早池峰山周辺？　古生代オルドビス紀		213	166
d102	1927	玦状耳飾	10	住居跡 73	埋土	(4.2)	(1.7)	0.7	(6.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		213	166
d101	1928	玦状耳飾	10	住居跡 53	埋土下部（S1）	3.8	(3.4)	0.5	(10.6)	頁岩	北上山地　中生代前期		213	166
d103	1929	有孔石製品	10	住居跡 88	埋土	(3.5)	(2.5)	(0.6)	(4.5)	粘板岩	北上山地　中生代前期		213	166
d002	1930	不明石製品	10	Ⅱ C17 m	Ⅱ～Ⅲ層	4.9	1.2	0.5	4.9	頁岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		213	166
d107	1931	カツオブシ形石製品	10	Ⅱ D9n	Ⅱ層	(8.2)	(2.5)	(0.9)	(26.8)	粘板岩	北上山地　中生代前期		213	166
d106	1932	カツオブシ形石製品	10	住居跡 31	埋土	11.5	2.4	0.8	29.0	ホルンフェルス	北上山地　中生代前期の頁岩が中生代白亜紀に熱変成		213	166
d104	1933	独鈷石	10	住居跡 24	埋土中部（S23）	5.0	(10.0)	3.4	(164.9)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		213	166
d001	1934	石棒	10	住居跡 2（SW）	埋土	(12.7)	(2.6)	(1.0)	(40.8)	頁岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		213	166
d110	1935	石棒	10	住居跡 88	埋土	(7.3)	(3.0)	(2.8)	(71.6)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		213	166
d003	1936	石剣・石刀類	10	住居跡 4	床面	(6.9)	3.1	(1.2)	(38.6)	頁岩	北上山地　中生代三畳～ジュラ紀		213	-
d117	1937	石剣・石刀類	10	住居跡 81	埋土	(3.5)	(3.6)	(1.5)	(22.9)	粘板岩	北上山地　中生代前期		-	166
d114	1938	石剣・石刀類	10	住居跡 78～79	埋土	(20.4)	(4.6)	(1.5)	(182.4)	ホルンフェルス	北上山地　中生代前期の頁岩が中生代白亜紀に熱変成		-	166
d116	1939	石剣・石刀類	10	住居跡 88 以南	Ⅱ～Ⅲ層	(6.4)	(3.8)	(1.2)	(58.9)	粘板岩	北上山地　中生代前期		-	166
d112	1940	石剣・石刀類	10	住居跡 33 周辺		(21.3)	(3.8)	(1.5)	(156.4)	粘板岩	北上山地　中生代前期		213	167
d115	1941	石剣・石刀類	10	住居跡 54	埋土	(14.9)	(4.3)	(1.5)	(130.0)	ホルンフェルス	北上山地　中生代前期の頁岩が中生代白亜紀に熱変成		-	167
d118	1942	石剣・石刀類	10	住居跡 54	埋土	(5.8)	(2.3)	(1.2)	(22.6)	粘板岩	北上山地　中生代前期		-	167
d113	1943	石剣・石刀類	10	住居跡 58・59	埋土	(26.5)	(4.9)	(1.7)	(253.9)	粘板岩	北上山地　中生代前期		-	167
d119	1944	石剣・石刀類	10	住居跡 58・59	埋土	(6.2)	(3.4)	(1.3)	(48.0)	粘板岩	北上山地　中生代前期		-	167
d111	1945	石剣・石刀類	10	住居跡 88	埋土上部（S6）	(17.9)	(3.2)	(1.7)	(161.4)	粘板岩	北上山地　中生代前期		214	167
d108	1946	石鍬？	10	住居跡 24	埋土中部（S4）	(10.4)	(7.9)	(1.1)	(104.7)	粘板岩	北上山地　中生代前期		214	167
d109	1947	石鍬？	10	住居跡 58・59	埋土	(7.0)	(9.8)	(1.1)	(98.2)	粘板岩	北上山地　中生代前期		-	-
d105	1948	石錘	10	住居跡 88	埋土中部	4.2	5.1	2.6	60.8	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		214	168
d005	1949	有孔礫	10	土坑 43	埋土	11.9	6.4	4.7	236.6	凝灰岩	北上山地野田周辺？　中生代白亜紀～新生代古第三期		214	-
d120	1950	線状痕もつ礫	10	住居跡 49	床面直上（S1）	(10.5)	(8.1)	(1.2)	(63.8)	凝灰岩	奥羽山脈　新生代新第三期		214	168
d121	1951	線状痕もつ礫	10	住居跡 71	埋土	(3.7)	(3.5)	(1.0)	(11.9)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	168
d122	1952	線状痕もつ礫	10	住居跡 58・59	埋土	6.5	(5.4)	1.4	(51.3)	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	168
d123	1953	線状痕もつ礫	10	住居跡 82	埋土	5.6	5.1	1.9	64.5	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		-	168
d124	1954	線状痕もつ礫	10	住居跡 55	埋土下部	5.7	5.3	1.8	43.0	砂岩	北上山地　宮古層群　中生代白亜紀		214	168

第 9 表　鉄関連遺物一覧

仮 No.	掲載番号	器種	出土地点	層位	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	所見	備考	図版	写真図版
D001	1955	紡錘車	住居跡 32 カマド手前	床面直上	5.2	4.9	(1.3)	(14.8)		長・幅は紡輪部の径。	215	169
D002	1956	刀子？	住居跡 32	埋土	(3.4)	(0.5)	(0.7)	(1.9)			215	169
D003	1957	刀子	住居跡 81 焼土 1	焼土上面	(3.7)	(1.3)	(0.4)	(1.9)			215	169
D004	1958	釘	住居跡 88	床上 10cm	(11.7)	(1.1)	(1.0)	(12.8)			215	169
D005	1959	釘	住居跡 88	埋土下部	(3.5)	(0.8)	(0.8)	(2.8)			215	169
D006	1960	釘	住居跡 34	埋土	(10.0)	(1.4)	(0.9)	(13.3)			215	169
D007	1961	釘	住居跡 34	埋土	(8.1)	(0.9)	(0.6)	(5.4)			215	169
D008	1962	不明鉄製品	Ⅱ D5o	Ⅱ	(2.7)	(2.4)	(1.2)	(8.0)			－	169
D009	1963	不明鉄製品	導水管部追加調査区	黒褐～暗褐色土層	(9.2)	(19.7)	0.4	(298.8)		長・幅は破片の大きさ。厚は体部器壁厚。	215	169
D010	1964	羽口	住居跡 32	南西部床面直上	(3.9)	(3.5)	(2.0)	(16.5)			215	169
D011	1965	羽口	住居跡 32	南西部床面直上	(5.4)	(5.4)	(2.9)	(60.0)			215	169
D012	1966	羽口	住居跡 32	埋土	(4.1)	(3.2)	(1.9)	(14.0)			－	169
D013	1967	羽口	住居跡 88	埋土	(2.7)	(2.3)	(1.5)	(6.1)			－	169
D014	1968	鍛冶滓	住居跡 32 鍛冶炉	炉内	8.1	5.9	1.9	45.6	椀形滓		－	169
D015	1969	鍛冶滓	住居跡 32 鍛冶炉	炉内	9.4	7.7	4.4	253.9	椀形滓		215	170
D016	1970	鍛冶滓	住居跡 32	埋土	7.6	6.3	2.7	117.2	椀形滓		215	170
D017	1971	鍛冶滓	住居跡 88 以南	Ⅱ	8.0	5.1	1.9	48.8	椀形滓		－	170

Ⅴ 総　　括

1 遺　　構

第216図は現況地形図に遺構分布を重ねて示したものである。遺構は調査区中央付近を東流する沢の北側に分布している。また第10表には放射性炭素年代測定結果から実年代を想定し得る遺構を新しい順に並べて示した。これらをもとに各期の遺構群の概要をまとめる。

①縄文時代前期遺構群（第217・218図）

縄文時代前期遺構の主たる分布域は、調査区北東部に突出した区域（「東端部」）である。調査区北縁から沢に向かって南東方向に下る斜面地に、住居跡が濃密に分布する。

複雑な重複に加え、斜面地ゆえの流失・再堆積が著しく、個々の遺構の形態把握や堆積土の解釈、出土遺物の帰属遺構の判断等には、相当の困難が伴う状況であった。特に、各遺構の帰属時期については、僅かな土器片や堆積土の性状等、いずれかの限定的な根拠に拠らざるを得ない場合が多く、帰属時期を明確に示せる遺構は稀であった。

そこで第217図には、まず直接的な切り合いによって相対的な先後関係が把握された遺構（主に住居跡）を抜き出し、個々を年代測定結果及び出土遺物の年代観等から想定される帰属時期に配置して示してみた。この作業の結果、層位的事実に拠る相互の先後関係と、年代測定や出土遺物から得られた想定時期とが全体に矛盾なく整合したことから、少なくともこれらに関しては概ね妥当な位置づけが出来たものと考えられる。同図によれば、前期「前葉～中葉」の一群と「中葉～後葉」の一群に大別できそうである。以下では、前者を前期前半期、後者を前期後半期の住居群とする。

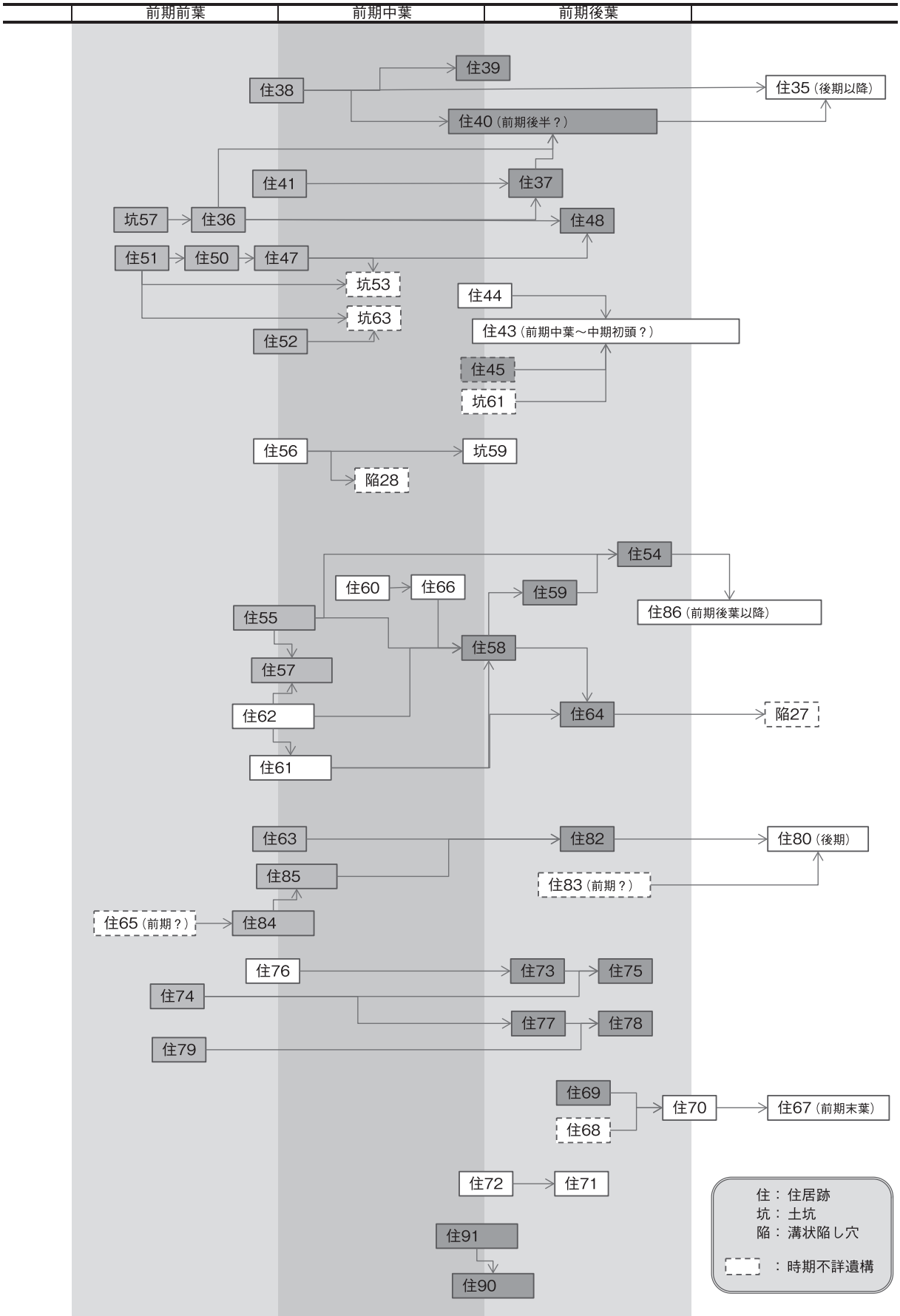
第218図は、調査区東端部の遺構分布図に、上の両群を色分けして示したものである。平面形態は両群ともに方形～長方形を基調とし、多くの場合、山側の壁（長辺）を等高線に平行させた配置がなされている。前半期の住居跡は一辺3～4ｍ程度の方形のものが多く、さらに小形のもの（住居跡57・同79等）も含む。一方、後半期の一群はより規模が大きく、長辺が5ｍを超えるものが主体となっている。後半期の住居跡では、床面の多くの部分を先行遺構（前半期住居跡）の堆積土中に構築した事例も少なくない。これらについては、時間的な制約から下位遺構の堆積土と連続して掘り上げた部分が多く、記録・検討を尽くせない要因となったことが大いに悔やまれるが、遺物の出土状況や土層断面の観察によれば、等高線に沿った長さのある床面が想定されることから、後半期の住居はやや大形の長方形を呈するものであったと考えられる。また、前半期・後半期それぞれに、周溝及び壁柱穴が明瞭に伴うものが含まれている。このことは両群がさらに細別されることを示唆するが、今回は検討を尽くせなかった。

なお、両群の住居跡は、標高182ｍ及び183ｍの等高線上に沿って、軒を連ねるように連続して並ぶ様子が認められる。斜面下部に近いこの一帯では、縄文時代後期以降に相当するⅡ～Ⅲ層土が、遺構の上部に残った凹地を埋めるように堆積する状況が観察されている。前半期の住居が集中して構築されたライン上は、その廃絶後には同様に段状の凹地となっていたと推測され、後半期住居の構築に際しては、前半期住居「跡」である凹地が積極的に利用されたとも考えられる。繰り返し住居が構築されたこの斜面は、あたかも階段状に造成された住宅団地のような様相を呈していたのかも知れない。調査区東端部の周囲には同じ地形面（東端部の東側、標高180～190ｍ付近の南東向き緩斜面）が広

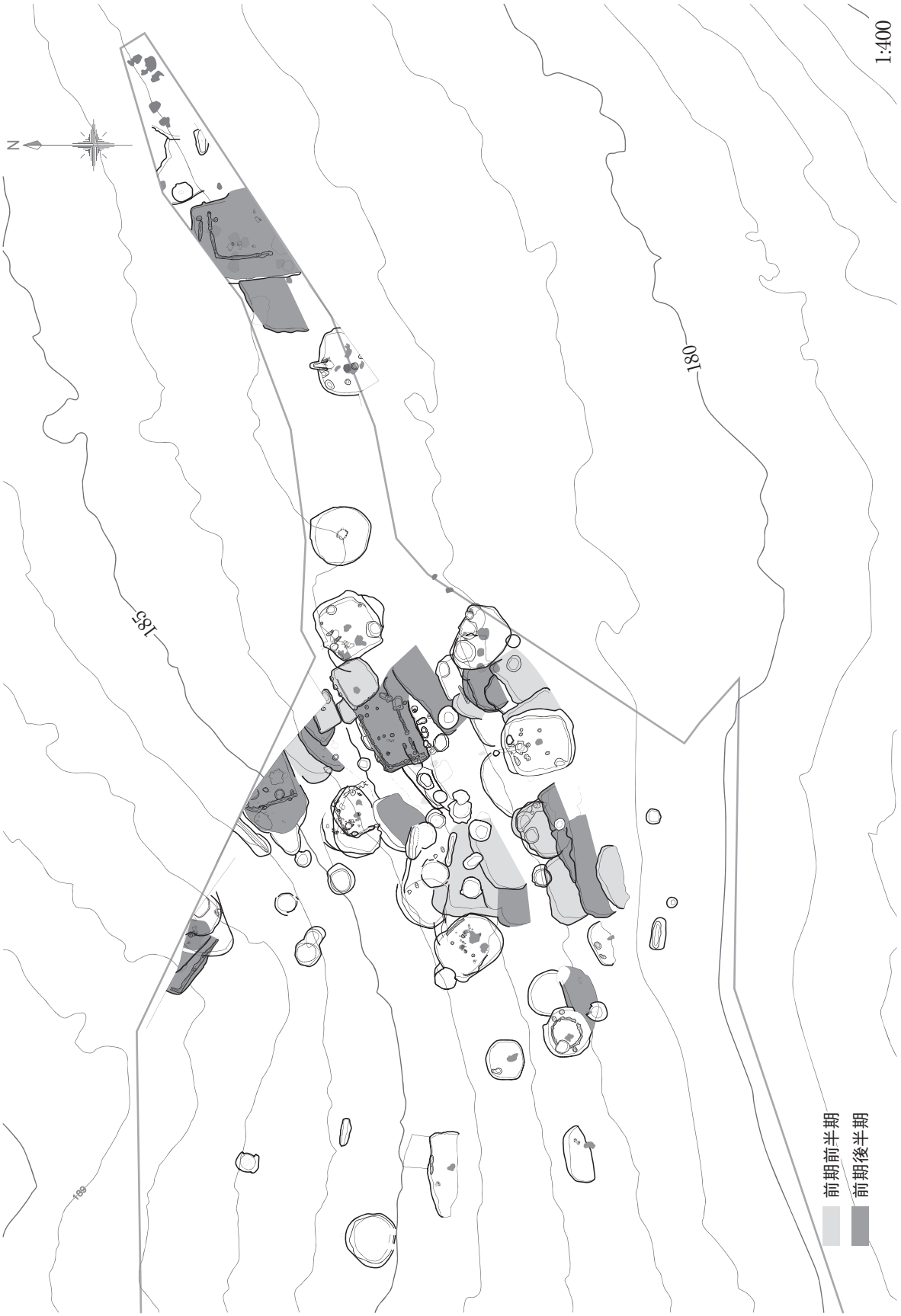
第 216 図　周辺地形と遺構立地

第 10 表　放射性炭素年代測定値一覧（測定値 新→古順）

測定番号	調査年度	試料名	遺構名（旧）	遺構名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}C$ （‰）（AMS）	$\delta^{13}C$補正あり		時期
									Libby Age（yrBP）	pMC （%）	
IAAA-132328	2013	4	SI34	住居跡 32	住居跡 32　付属鍛冶炉　炉直上	木炭	AAA	-23.92 ± 0.27	950 ± 20	88.89 ± 0.24	古代～中世
IAAA-132327	2013	3	SI30	住居跡 26	住居跡 26　床面出土土器（113）	土器付着炭化物	AAA	-22.18 ± 0.29	1,840 ± 20	79.56 ± 0.22	弥生時代後期
IAAA-123392	2012	No.2	SI05	住居跡 5	住居跡 5　炉内土器（P1：32）内	炭化物	AAA	-25.98 ± 0.48	2,500 ± 20	73.27 ± 0.21	縄文時代晩期後葉
IAAA-132325	2013	1	SI24	住居跡 22	住居跡 22　付属炉跡　炉内埋土	木炭	AAA	-23.46 ± 0.29	2,500 ± 20	73.24 ± 0.21	縄文時代晩期後葉
IAAA-123391	2012	No.1	SI01	住居跡 1	住居跡 1　炉内	炭化物	AAA	-23.33 ± 0.42	2,530 ± 20	73.02 ± 0.21	縄文時代晩期後葉
IAAA-132326	2013	2	SI26	住居跡 24	住居跡 24　床面出土土器（98）	土器付着炭化物	AAA	-21.72 ± 0.29	2,690 ± 20	71.58 ± 0.21	縄文時代晩期中葉
IAAA-123394	2012	No.4	SK17	土坑 10	土坑 10　底面直上層	炭化物	AAA	-26.32 ± 0.33	2,950 ± 20	69.28 ± 0.21	縄文時代晩期初頭～前葉
IAAA-123395	2012	No.5	SK23	土坑 16	土坑 16　底面直上層	炭化物	AaA	-26.31 ± 0.44	3,060 ± 30	68.29 ± 0.21	縄文時代後期後葉～末葉
IAAA-132339	2013	15	SK98	土坑 65	土坑 65　埋土最下部	木炭	AAA	-23.98 ± 0.27	3,670 ± 20	63.31 ± 0.19	縄文時代後期前葉
IAAA-132334	2013	10	SI68 a	住居跡 67	住居跡 67　土器（RP2：427）内埋土	木炭	AAA	-24.28 ± 0.25	4,740 ± 30	55.45 ± 0.18	縄文時代前期末～中期前葉
IAAA-132329	2013	5	SI38b	住居跡 75	住居跡 69　床面直上	木炭	AaA	-24.54 ± 0.26	4,800 ± 30	55.05 ± 0.18	縄文時代前期末葉
IAAA-132331	2013	7	SI41	住居跡 31	住居跡 31　床面直上	木炭	AAA	-22.82 ± 0.3	4,890 ± 30	54.4 ± 0.18	縄文時代前期後葉
IAAA-132330	2013	6	SI38f	住居跡 78	住居跡 78　埋土下部	木炭	AaA	-25.11 ± 0.28	4,950 ± 30	54.02 ± 0.17	縄文時代前期後葉
IAAA-132332	2013	8	SI58	住居跡 72	住居跡 72　床面直上	木炭	AAA	-22.29 ± 0.3	4,960 ± 30	53.92 ± 0.17	縄文時代前期後葉
IAAA-132335	2013	11	SI68b	住居跡 69	住居跡 69　壁溝埋土	木炭	AaA	-23.59 ± 0.32	4,970 ± 30	53.89 ± 0.18	縄文時代前期後葉
IAAA-132336	2013	12	SI73	住居跡 91	住居跡 91　埋土	木炭	AAA	-22.46 ± 0.29	5,030 ± 30	53.49 ± 0.17	縄文時代前期中葉～後葉
IAAA-132333	2013	9	SI60	住居跡 58・59	焼土面の下位層	木炭	AAA	-22.99 ± 0.3	5,070 ± 30	53.21 ± 0.17	縄文時代前期中葉～後葉
IAAA-123393	2012	No.3	SI09	住居跡 9	住居跡 9　付属土坑　埋土最下部	炭化物	AaA	-27.45 ± 0.42	5,540 ± 30	50.17 ± 0.17	縄文時代前期前葉
IAAA-132338	2013	14	SK78	土坑 50	土坑 50　底面直上	木炭	AAA	-24.62 ± 0.26	5,730 ± 30	48.98 ± 0.16	縄文時代前期前葉
IAAA-132337	2013	13	SK60	溝状陥し穴 12	溝状陥し穴 12　埋土	木炭	AAA	-26.03 ± 0.21	43,170 ± 340	0.46 ± 0.02	（試料採取に問題あり）



第 217 図　縄文時代前期遺構　先後関係図



第 218 図　縄文時代前期住居の分布状況

く連続していることから、遺構群の分布はさらに広域に展開している可能性が極めて高いと言える。今回の調査は、該期集落の縁辺部を覗き見たに過ぎない。

②縄文時代晩期遺構群

縄文時代晩期の遺構は、調査区中央部の舌状の微高地周辺にまとまって分布する。

住居跡は、舌状微高地の基部において重複を伴う集中が認められるほか、北部斜面と舌状微高地の間に形成された谷頭凹地様の低位部の縁に点在している。壁面の識別が難しく平面形態が判然としない場合が多かったが、概ね径５ｍ前後の円形～隅丸方形を呈するものとみられる。壁の残存が良好な微高地基部の一群には、壁に段状の張り出しをもつ例が多い（住居跡２・３・６・７・11）。住居跡２・３では床面の硬化部が張出しの上面に連続することが確認されており、廃絶以前から住居内部に存在した施設である可能性が高いと考えられる。住居跡３では張出部上面に板状の礫が伏せ置かれており、同様の礫は住居跡10の壁際からも出土している。この施設と行為の意味するところは不明だが注意すべき事例である。炉は石囲炉が多く、住居跡６・８では炉上面を土器破片で封じる行為がみられた。廃絶に伴う儀礼の可能性が考えられる。

また、舌状微高地が沢に向かって南東側に張り出す先端部では、貯蔵穴とみられる土坑群が形成されていた。帰属時期の詳細は不明だが、晩期主体で一部に後期のものを含むとみられる。微高地先端部は沢の屈曲部に面しており、正面が「淵」、そのすぐ上流は「瀬」になっていたと考えられる。植物質食物の処理・加工に適した選地であり、本集落における土坑群の性格を考える上で示唆的である。

このほか、沢の上流側に当たる調査区西部の斜面では、溝状陥し穴群が検出された。これらの帰属時期についても詳細は不明だが、Ⅱ～Ⅲ層土を埋土の主体とすることから、後期～晩期のものである可能性が高い。晩期の居住域や後期住居跡とは選地を異にする点からも、集落周辺における土地利用の明確な計画性を見て取ることが出来る。

③平安時代の遺構

該期の住居跡は５棟確認されている（住居跡32・34・81・88・89）。いずれも調査区東端部の斜面下部（標高182ｍ付近）に近接して分布する。

このうち残存状況が良好な３棟（住居跡32・34・88）に着目すると、平面形態は一辺4.5ｍ前後の方形を呈し、カマドは斜面上方側の北壁中央に設置され、カマド正面の床面中央部に炉跡をもつという共通点が見出せる。また、床面が堆積土に覆われ凹地となった時点において、内部底面の中央に再び炉跡とみられる焼土が生成する点も共通している。これらの炉跡は、鉄製品・鍛冶滓・羽口等の鉄関連遺物を伴うことから、鍛冶炉の可能性が高い。付属施設として鍛冶炉をもつ住居が、その廃絶後も繰り返し鍛冶作業の場として利用されたことが理解され、居住目的よりもむしろ鍛冶工房としての性格が色濃く見てとれる。

なお、炉跡およびカマド燃焼部からは多量の焼骨細片が出土した。濃淡なく均一に散布されたかのように、粉砕された粒状の細片が焼土上面に密着した状態で検出されている。細粒のため種別は明確に出来ないが小動物（鳥類含むか）のそれと考えられる。行為の意味は不明だが、廃絶に伴う儀礼の可能性を指摘しておきたい。

2　遺　　物

①縄文時代土器

古くは早期中葉～後葉に位置づけられる尖底土器が含まれているが、主体となるのは前期並びに後晩期で、出土区域・出土量ともに各期遺構の分布状況と相関したあり方を示している。

前期の土器については、胎土中の繊維の多寡（有無）や地文、そして僅かな装飾を手がかりに分類を試みたが、その目的は必ずしも完遂できていない。「苦し紛れ」に、繊維を一定程度以上に含む一群と繊維を含まない一群に大別するとするならば、前者は大木２ｂ式以前、後者は大木５式に主体があると思われる。これらの間をつなぐ大木３式～4式相当の資料もごく少量出土しているが、前期前半と後半にそれぞれピークが見出せる点は、該期遺構のあり方と調和的である。

中期～後期の土器の出土は散発的で、その後晩期に至って再び出土量が増加している。しかしながら、前期土器と同様、晩期資料の大半は装飾性に乏しく分類や時期特定には困難が伴った。文様・装飾の特徴を見出せる少量の資料から、概ね晩期中葉～後葉に主体があることがわかっている。

②縄文時代石器・石製品

通常、縄文時代の石器類を個別に時期特定することは難しいが、これまで述べたとおり、本遺跡の主体は前期と晩期にあり、両期は遺構・遺物の分布域を異にしている。従って本遺跡においては、調査区東端部の出土遺物は前期集落に、調査区中央部のそれは晩期集落に伴うものとして大過なかろう。

まず東端部出土石器類、すなわち前期の所産とみられるものについて。所謂、剥片石器の大半（ほぼ全てと言って良い）は東端部から出土した。石槍・無茎石鏃・石匙等、前期集落に一般的な器種を備えている。これに敲磨器類・石斧他が加わる。石製品としては玦状耳飾・カツオブシ形石製品等の出土があった。

一方、調査区中央部の晩期集落においては、剥片石器はほぼ皆無と言って良い。出土石器の主体は敲磨器類で、特に住居内の床面や壁際に数点の円礫（磨石）をもつ事例が目立った。石棒類や独鈷石、石鍬等の出土も見られた。

なお、剥片石器に適した石材が乏しい状況は両期に共通するらしい。前期においても剥片や石核等の出土量はごく少なく、出土した製品のうちの相当程度は外部から持ち込まれた可能性がある。なお、野外調査や遺物登録の段階で大半を対象から除外してしまったが、本遺跡からは粘板岩の不定形破片が比較的多く出土している。粘板岩が石材の不足を補完していた可能性があり、より注意を払うべきであった。また、本書中に「半割礫」と称して掲載した礫石器は、当初敲磨器類の破損品と区別出来ず、相当数を取りこぼした可能性が高い。類例の検索も不十分なまま今回は資料の提示に止まっているが、今後注意が必要な遺物と思われる。

③その他の遺物

縄文時代以外の遺物としては、まず、弥生時代後期の甕が挙げられる。ほぼ全形のわかる状態で出土した。復興調査の進展に伴い、沿岸部でも該期の資料が増加中であることから、今後の比較検討に良い資料となろう。平安時代の土器は、土師器甕の破片がごく少量出土したのみである。いずれも東端部に分布する該期住居跡の内部及び周辺から出土した。補修孔とみられる穿孔をもつものもみられる。完形個体は人の移転に伴って持ち出されたのだろうか。土師器の他器種や須恵器は出土しなかった。また、平安時代の鉄関連遺物は種類・量こそ豊富とは言えないが、住居分布域における鍛冶等の

操業を示唆するものである。縄文時代前期の集落と同様、該期の住居（工房）群が調査区を越えて東部に展開している可能性は高い。

3　結　　語

この発掘調査は「千年に一度」とも言われる東日本大震災の津波により、生活の基盤を大きく損なうこととなった方々の新たな生活の場を切り拓く、高台移転造成工事に伴って実施されたものである。

調査着手時にはいまだ津波の爪痕も生々しく、その被害の甚大さに慄然とさせられた。当然、復興を急ぐ声は大いにこだまし、調査そのものの意義を根本から問い質されることもしばしばであった。

そのような環境にあって、我々を勇気づけてくれたのは地元住民の皆さんであった。直接被害の有無にかかわらず、ここでは誰もが被災者でありそして開拓者だった。温かい励ましも叱咤激励も、復興の二文字にかける思いの発露であった。なにより厳しい条件下でご尽力頂いた地元作業員の皆様には心から感謝申し上げたい。

周囲に見守られながら進めた調査により、縄文時代前期・同晩期そして平安時代の人々が当地に集落を構え、日々の暮らしを営んでいたことが明らかとなった。先人達はかつて幾度もこの場所を、リスタートの舞台に選んでいたのである。「拓洋台」と名付けられた新たなステージを得て、およそ千年ぶりに当地の主役となる皆様の、将来にわたるご発展とご多幸を祈念してやまない。そしてそれは確かに成されるであろう。歴史が証明しているのだから。

（村上）

引用・参考文献

山内清男　1937「縄紋土器型式の細別と大別」『先史考古学』1-1
岩手県埋文セ　1986『駒板遺跡発掘調査報告書』岩文振埋文報告書第 98 集
滝沢村教育委員会　1986『湯舟沢遺跡（第 1 分冊）』滝沢村教育委員会文化財調査報告書 2
小田野哲憲　1987「岩手の弥生式土器編年試論」『岩手県立博物館研究報告』5
弥生時代研究会編　1990『「天王山式期をめぐって」の検討会　記録集』
斎藤邦雄　1993「岩手県にみられる後北式土器と在地弥生土器について」『岩手考古学』5
岩手県埋蔵文化財センター　1995『上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 227
岩手県埋蔵文化財センター　1996『牧田貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 241
早稲田大学考古学研究室　1997『館石野Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
藤村東男　1996「大洞式土器」『日本土器事典』　雄山閣
東北大学文学部考古学研究室　1997『中神遺跡の調査』　岩手県花泉町教育委員会
茅野嘉雄　2002「いわゆる結節回転文から見た円筒下層 a 式について」『専修考古学』9　専修大学考古学会
品川欣也　2003「器種と文様、そして機能の相関関係にみる大洞 A 式土器の変遷過程」『駿台史学　第 119 号』明治大学駿台史学会
岩手県埋蔵文化財センター　2004『和野Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 402
石川日出志　2004「弥生後期天王山式土器成立期における地域間関係」『駿台史学』120
石川日出志　2005「岩手の弥生文化研究の諸問題」『第 34 回岩手考古学会研究大会発表資料』岩手考古学会
村上　拓　2006「Ⅴ.2.（1）下位面出土の弥生土器について」『大西遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 479
岩手県埋蔵文化財センター　2006『大清水上遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 475
今村啓爾　2006「縄文前期末における北陸集団の北上と土器系統の動き（上）」『考古學雑誌』90-3
藤沼邦彦・関根達人　2008「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）」『総覧縄文土器』　株式会社アム・プロモーション

附編　自然科学分析

野場Ⅰ遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

〈平成 24 年度実施分〉

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

野場Ⅰ遺跡は、岩手県下閉伊郡田野畑村羅賀 193-1（北緯 39°56′12″、東経 141°54′45″）に所在する。測定対象試料は、住居跡 1 炉内出土炭化物（No.1：IAAA-123391）、住居跡 5 炉内土器（P1：32）内出土炭化物（No.2：IAAA-123392）、住居跡 9 付属土坑埋土最下部出土炭化物（No.3：IAAA-123393）、土坑 10 底面直上層出土炭化物（No.4：IAAA-123394）、土坑 16 底面直上層出土炭化物（No.5：IAAA-123395）の合計 5 点である（表 1）。

2　測定の意義

遺跡内における竪穴住居や土坑群の時期を特定する。

3　化学処理工程

（1）　メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
（2）　酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
（3）　試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
（4）　真空ラインで二酸化炭素を精製する。
（5）　精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
（6）　グラファイトを内径 1㎜ のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算 出 方 法

（1） $\delta^{13}C$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2） ^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（$\pm 1\sigma$）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

（3） pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

（4） 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1σ = 68.2%）あるいは 2 標準偏差（2σ = 95.4%）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6 測 定 結 果

試料の ^{14}C 年代は、住居跡 1 炉内出土炭化物 No.1 が 2530 ± 20yrBP、住居跡 5 炉内土器（P1:32）内出土炭化物 No.2 が 2500 ± 20yrBP、住居跡 9 付属土坑埋土最下部出土炭化物 No.3 が 5540 ± 30yrBP、土坑 10 底面直上層出土炭化物 No.4 が 2950 ± 20yrBP、土坑 16 底面直上層出土炭化物 No.5 が 3060 ± 30yrBP である。

暦年較正年代（1σ）は、No.1 が 783～593 cal BC の間に 3 つの範囲、No.2 が 761～550 cal BC の間に 4 つの範囲、No.3 が 4445～4346 cal BC の間に 3 つの範囲、No.4 が 1251～1125 cal BC の間に 2 つの範囲、No.5 が 1389～1311 cal BC の範囲で示される。No.1、2 が縄文時代晩期後葉頃、No.3 が縄文時代前期前葉頃、No.4 が縄文時代晩期初頭から前葉頃、No.5 が縄文時代後期後葉から末葉頃に相当する（小林 2009、小林編 2008）。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51（1），337-360

小林謙一　2009　近畿地方以東の地域への拡散，西本豊弘編，新弥生時代のはじまり　第4巻　弥生農耕のはじまりとその年代，雄山閣，55-82

小林達雄編　2008　総覧縄文土器，総覧縄文土器刊行委員会，アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51（4），1111-1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19（3），355-363

表1

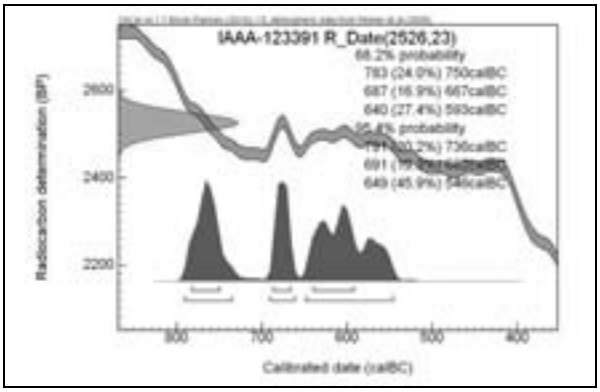
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}C$（‰）（AMS）	$\delta^{13}C$ 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-123391	No.1	住居跡1　炉内	炭化物	AAA	-23.33 ± 0.42	2,530 ± 20	73.02 ± 0.21
IAAA-123392	No.2	住居跡5　炉内土器（P1:32）内	炭化物	AAA	-25.98 ± 0.48	2,500 ± 20	73.27 ± 0.21
IAAA-123393	No.3	住居跡9付属土坑　埋土最下部	炭化物	AaA	-27.45 ± 0.42	5,540 ± 30	50.17 ± 0.17
IAAA-123394	No.4	土坑10　底面直上層	炭化物	AAA	-26.32 ± 0.33	2,950 ± 20	69.28 ± 0.21
IAAA-123395	No.5	土坑16　底面直上層	炭化物	AaA	-26.31 ± 0.44	3,060 ± 30	68.29 ± 0.21

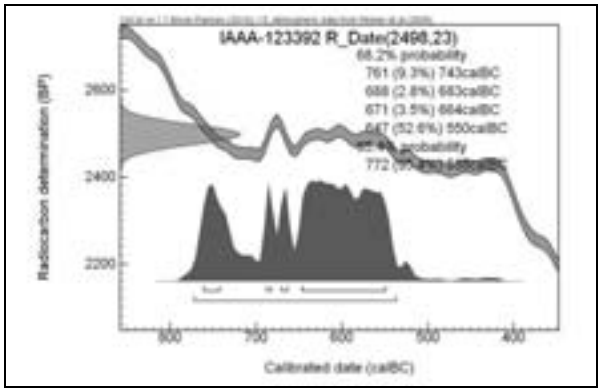
［#5638］

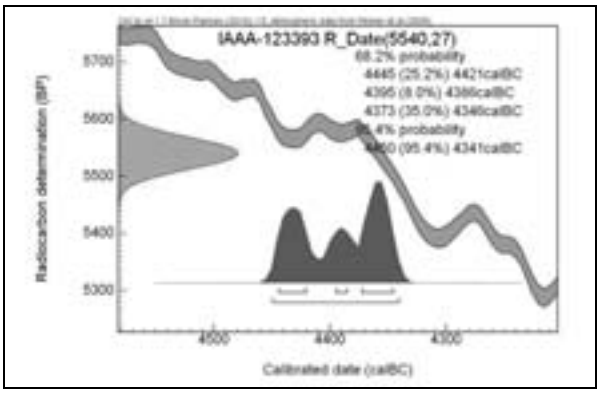
表2

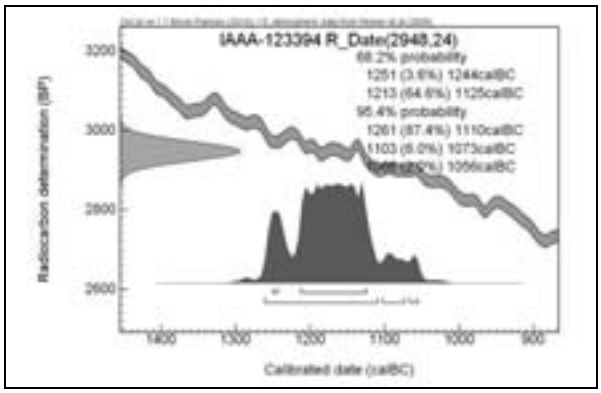
測定番号	$\delta^{13}C$補正なし		暦年較正用（yrBP）	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-123391	2,500 ± 20	73.27 ± 0.20	2,526 ± 23	783 calBC - 750 calBC（24.0%） 687 calBC - 667 calBC（16.9%） 640 calBC - 593 calBC（27.4%）	791 calBC - 736 calBC（30.2%） 691 calBC - 662 calBC（19.3%） 649 calBC - 546 calBC（45.9%）
IAAA-123392	2,510 ± 20	73.13 ± 0.20	2,498 ± 23	761 calBC - 743 calBC（ 9.3%） 688 calBC - 683 calBC（ 2.8%） 671 calBC - 664 calBC（ 3.5%） 647 calBC - 550 calBC（52.6%）	772 calBC - 538 calBC（95.4%）
IAAA-123393	5,580 ± 30	49.92 ± 0.17	5,540 ± 27	4445 calBC - 4421 calBC（25.2%） 4395 calBC - 4386 calBC（ 8.0%） 4373 calBC - 4346 calBC（35.0%）	4450 calBC - 4341 calBC（95.4%）
IAAA-123394	2,970 ± 20	69.09 ± 0.21	2,948 ± 24	1251 calBC - 1244 calBC（ 3.6%） 1213 calBC - 1125 calBC（64.6%）	1261 calBC - 1110 calBC（87.4%） 1103 calBC - 1073 calBC（ 6.0%） 1066 calBC - 1056 calBC（ 2.0%）
IAAA-123395	3,090 ± 20	68.10 ± 0.20	3,064 ± 25	1389 calBC - 1311 calBC（68.2%）	1408 calBC - 1268 calBC（95.4%）

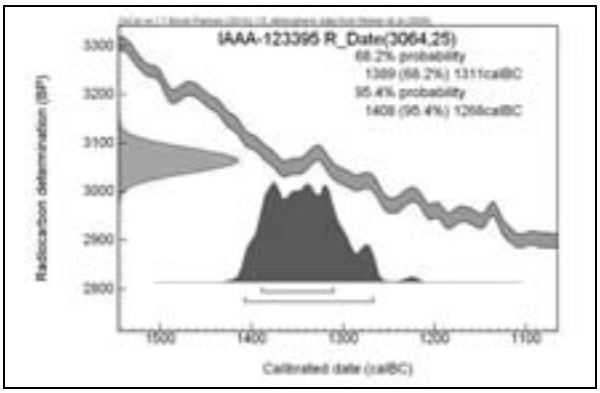
［参考値］











[参考図版]　暦年較正年代グラフ

野場Ⅰ遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

〈平成 25 年度実施分〉

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

野場Ⅰ遺跡は、岩手県下閉伊郡田野畑村羅賀 193-1 ほかに所在する。測定対象試料は、住居跡や土坑等の遺構から出土した木炭と土器付着炭化物の合計 15 点である（表 1）。土器付着炭化物 2、3 は、いずれも土器の外面から採取された。

2　化学処理工程

（1）　メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
（2）　酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
（3）　試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
（4）　真空ラインで二酸化炭素を精製する。
（5）　精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
（6）　グラファイトを内径 1㎜ のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3　測　定　方　法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4　算　出　方　法

（1）　$\delta^{13}C$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
（2）　^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（$\pm 1\sigma$）は、試料の ^{14}C 年代が

その誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

（3） pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

（4） 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1σ = 68.2%）あるいは 2 標準偏差（2σ = 95.4%）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

5 測 定 結 果

測定結果を表 1、2 に示す。

試料 15 点の ^{14}C 年代は、43170 ± 340yrBP（試料 13）から 950 ± 20yrBP（試料 4）まで、大きな幅がある。暦年較正年代（1σ）は、極端に古い 13 を除き、古い方から順に 14 が縄文時代前期前葉頃、9、12 が前期中葉から後葉頃、6〜8、11 が前期後葉頃、5 が前期末葉頃、10 が前期末葉から中期前葉頃、15 が後期前葉頃、2 が晩期中葉頃、1 が晩期後葉頃、3 が弥生時代後期頃、4 が古代から中世頃に相当する（小林 2009、小林編 2008、佐原 2005）。13 については、後期旧石器時代を遡る古い年代値となっている。この試料の観察所見で、通常の木炭と異なる点は特に見られない。

なお、試料 3 が含まれる 1〜3 世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線 IntCal に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある（尾嵜 2009、坂本 2010 など）。その日本版較正曲線を用いて試料 3 の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51（1）, 337–360

小林謙一　2009　近畿地方以東の地域への拡散，西本豊弘編，新弥生時代のはじまり　第 4 巻　弥生農耕のはじまりとその年代，雄山閣，55–82

小林達雄編　2008　総覧縄文土器，総覧縄文土器刊行委員会，アム・プロモーション

尾嵜大真　2009　日本産樹木年輪試料の炭素 14 年代からみた弥生時代の実年代，設楽博己，藤尾慎一郎，松木武彦編　弥生時代の考古学 1　弥生文化の輪郭，同成社，225-235

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55（4），1869-1887

佐原眞　2005　日本考古学・日本歴史学の時代区分，ウェルナー・シュタインハウス監修，奈良文化財研究所編集，日本の考古学　上　ドイツ展記念概説，学生社，14-19

坂本稔　2010　較正曲線と日本産樹木―弥生から古墳へ―，第 5 回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集，（株）加速器分析研究所，85-90

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19（3），355-363

表 1　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C（‰）（AMS）	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-132325	1	住居跡 22 付属炉跡　炉内埋土	木炭	AAA	-23.46 ± 0.29	2,500 ± 20	73.24 ± 0.21
IAAA-132326	2	住居跡 24　床面出土土器（98）	土器付着炭化物	AAA	-21.72 ± 0.29	2,690 ± 20	71.58 ± 0.21
IAAA-132327	3	住居跡 26　床面出土土器（113）	土器付着炭化物	AAA	-22.18 ± 0.29	1,840 ± 20	79.56 ± 0.22
IAAA-132328	4	住居跡 32 付属鍛冶炉　炉直上	木炭	AAA	-23.92 ± 0.27	950 ± 20	88.89 ± 0.24
IAAA-132329	5	住居跡 75　床面直上	木炭	AaA	-24.54 ± 0.26	4,800 ± 30	55.05 ± 0.18
IAAA-132330	6	住居跡 78　埋土下部	木炭	AaA	-25.11 ± 0.28	4,950 ± 30	54.02 ± 0.17
IAAA-132331	7	住居跡 31　床面直上	木炭	AAA	-22.82 ± 0.30	4,890 ± 30	54.40 ± 0.18
IAAA-132332	8	住居跡 72　床面直上	木炭	AAA	-22.29 ± 0.30	4,960 ± 30	53.92 ± 0.17
IAAA-132333	9	住居跡 58・59　焼土面の下位層	木炭	AAA	-22.99 ± 0.30	5,070 ± 30	53.21 ± 0.17
IAAA-132334	10	住居跡 67　土器（RP2:427）内埋土	木炭	AAA	-24.28 ± 0.25	4,740 ± 30	55.45 ± 0.18
IAAA-132335	11	住居跡 69　壁溝埋土	木炭	AaA	-23.59 ± 0.32	4,970 ± 30	53.89 ± 0.18
IAAA-132336	12	住居跡 91　埋土	木炭	AAA	-22.46 ± 0.29	5,030 ± 30	53.49 ± 0.17
IAAA-132337	13	溝状陥し穴 12　埋土	木炭	AAA	-26.03 ± 0.21	43,170 ± 340	0.46 ± 0.02
IAAA-132338	14	土坑 50　底面直上	木炭	AAA	-24.62 ± 0.26	5,730 ± 30	48.98 ± 0.16
IAAA-132339	15	土坑 65　埋土最下部	木炭	AAA	-23.98 ± 0.27	3,670 ± 20	63.31 ± 0.19

［#6232］

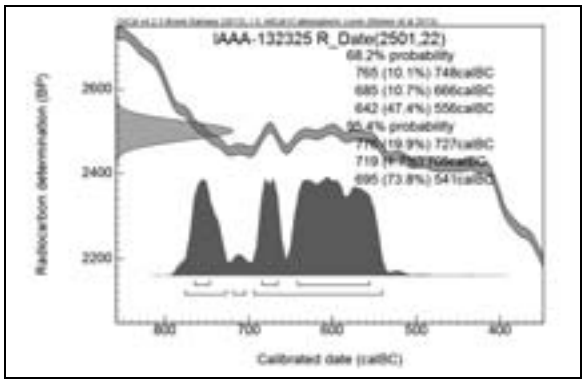
表 2-1　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）（1）

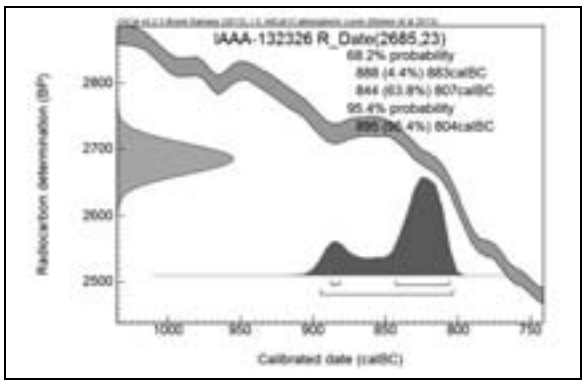
測定番号	δ^{13}C補正なし		暦年較正用（yrBP）	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-132325	2,480 ± 20	73.47 ± 0.20	2,501 ± 22	765 calBC - 748 calBC（10.1%） 685 calBC - 666 calBC（10.7%） 642 calBC - 556 calBC（47.4%）	776 calBC - 727 calBC（19.9%） 719 calBC - 705 calBC（ 1.7%） 695 calBC - 541 calBC（73.8%）
IAAA-132326	2,630 ± 20	72.06 ± 0.20	2,685 ± 23	888 calBC - 883 calBC（ 4.4%） 844 calBC - 807 calBC（63.8%）	895 calBC - 804 calBC（95.4%）
IAAA-132327	1,790 ± 20	80.02 ± 0.21	1,836 ± 21	135 calAD - 180 calAD（42.0%） 186 calAD - 214 calAD（26.2%）	126 calAD - 239 calAD（95.4%）

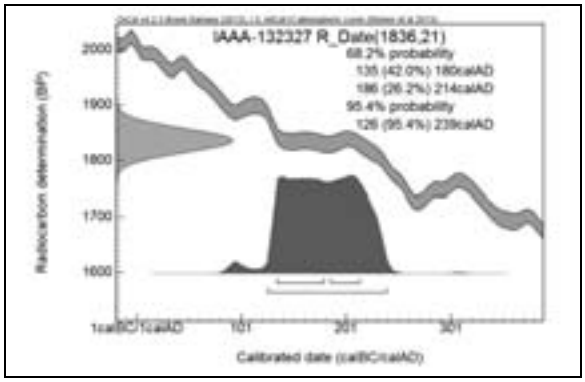
表 2-2　放射性炭素年代測定結果（δ13C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）(2)

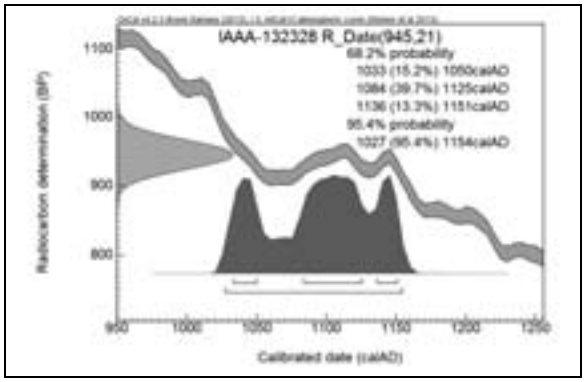
測定番号	$\delta^{13}C$補正なし		暦年較正用（yrBP）	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-132328	930 ± 20	89.09 ± 0.24	945 ± 21	1033 calAD - 1050 calAD（15.2%） 1084 calAD - 1125 calAD（39.7%） 1136 calAD - 1151 calAD（13.3%）	1027 calAD - 1154 calAD（95.4%）
IAAA-132329	4,790 ± 30	55.10 ± 0.18	4,795 ± 26	3638 calBC - 3631 calBC（10.1%） 3579 calBC - 3535 calBC（58.1%）	3644 calBC - 3623 calBC（17.2%） 3602 calBC - 3524 calBC（78.2%）
IAAA-132330	4,950 ± 30	54.01 ± 0.17	4,946 ± 25	3763 calBC - 3724 calBC（34.2%） 3716 calBC - 3694 calBC（23.8%） 3679 calBC - 3666 calBC（10.2%）	3777 calBC - 3657 calBC（95.4%）
IAAA-132331	4,850 ± 30	54.64 ± 0.17	4,890 ± 25	3695 calBC - 3648 calBC（68.2%）	3706 calBC - 3641 calBC（95.4%）
IAAA-132332	4,920 ± 30	54.22 ± 0.17	4,961 ± 25	3766 calBC - 3706 calBC（68.2%）	3791 calBC - 3691 calBC（88.3%） 3686 calBC - 3662 calBC（ 7.1%）
IAAA-132333	5,030 ± 30	53.43 ± 0.17	5,067 ± 25	3943 calBC - 3912 calBC（20.3%） 3878 calBC - 3853 calBC（18.2%） 3848 calBC - 3804 calBC（29.7%）	3952 calBC - 3797 calBC（95.4%）
IAAA-132334	4,730 ± 30	55.53 ± 0.17	4,737 ± 25	3631 calBC - 3566 calBC（46.7%） 3536 calBC - 3516 calBC（14.2%） 3398 calBC - 3385 calBC（ 7.3%）	3635 calBC - 3553 calBC（54.7%） 3541 calBC - 3501 calBC（20.1%） 3429 calBC - 3380 calBC（20.6%）
IAAA-132335	4,940 ± 30	54.05 ± 0.18	4,965 ± 26	3771 calBC - 3707 calBC（68.2%）	3795 calBC - 3662 calBC（95.4%）
IAAA-132336	4,980 ± 20	53.77 ± 0.17	5,026 ± 25	3932 calBC - 3876 calBC（43.7%） 3806 calBC - 3775 calBC（24.5%）	3943 calBC - 3856 calBC（53.1%） 3846 calBC - 3831 calBC（ 2.3%） 3824 calBC - 3759 calBC（33.8%） 3744 calBC - 3713 calBC（ 6.1%）
IAAA-132337	43,180 ± 340	0.46 ± 0.02	43,166 ± 343	44749 calBC - 43982 calBC（68.2%）	45234 calBC - 43665 calBC（95.4%）
IAAA-132338	5,730 ± 30	49.01 ± 0.16	5,734 ± 26	4648 calBC - 4645 calBC（ 1.3%） 4615 calBC - 4532 calBC（66.9%）	4682 calBC - 4633 calBC（16.4%） 4622 calBC - 4501 calBC（79.0%）
IAAA-132339	3,660 ± 20	63.44 ± 0.18	3,672 ± 23	2131 calBC - 2086 calBC（39.6%） 2051 calBC - 2021 calBC（24.1%） 1992 calBC - 1984 calBC（ 4.5%）	2138 calBC - 1976 calBC（95.4%）

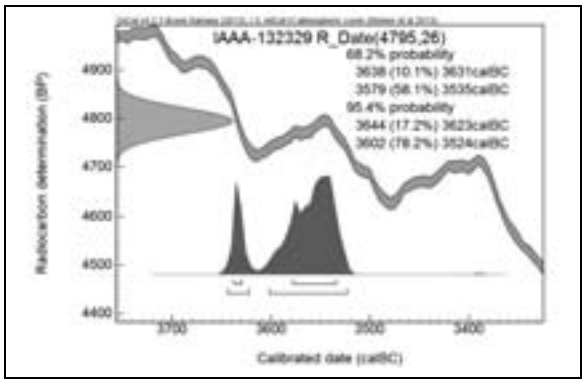
［参考値］

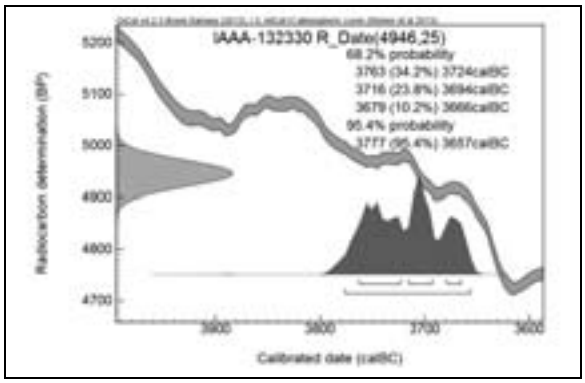


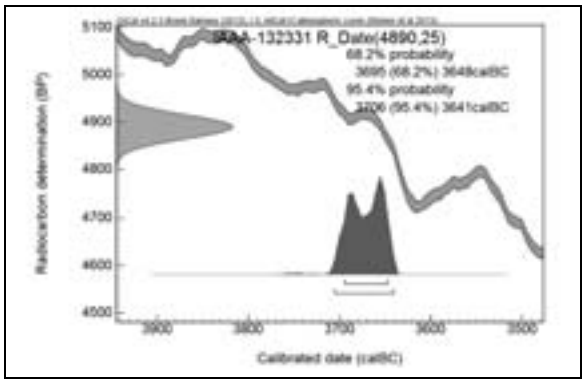


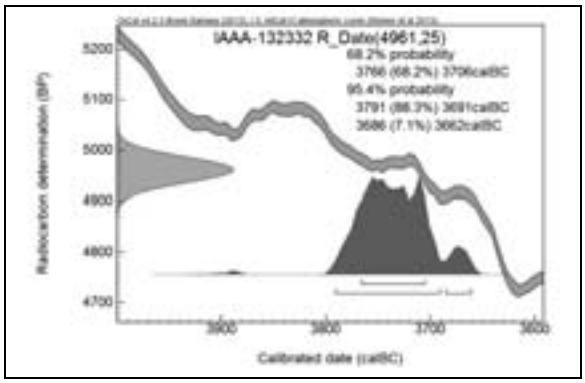




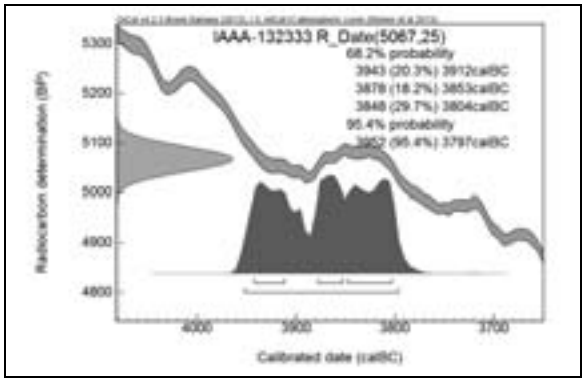


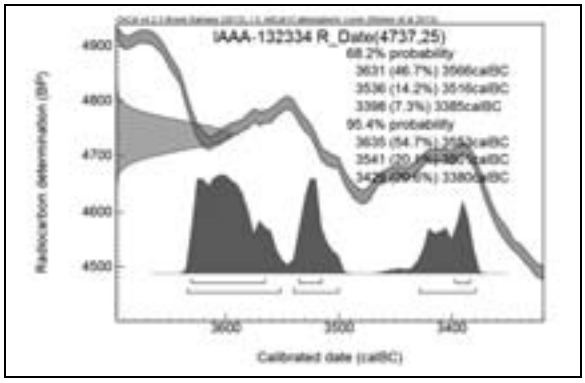


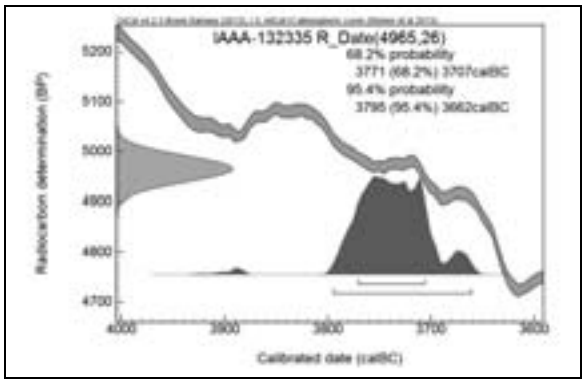


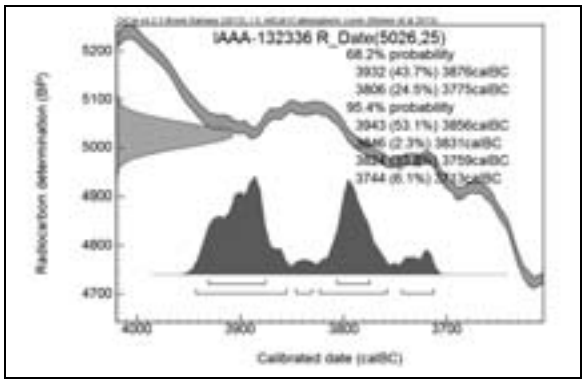


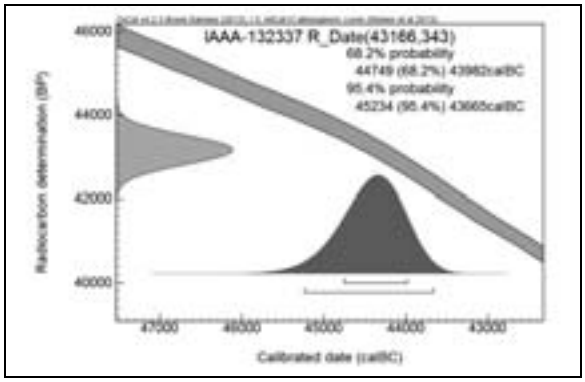
［参考図版］　暦年較正年代グラフ（1）

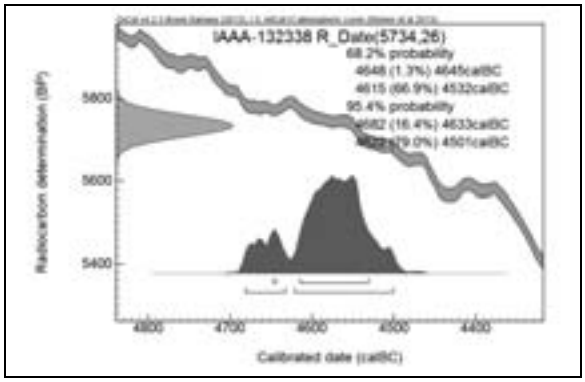


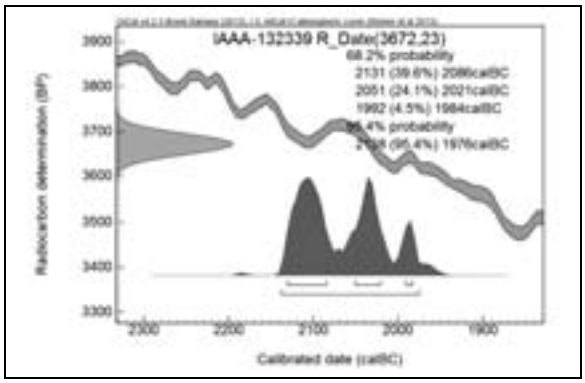




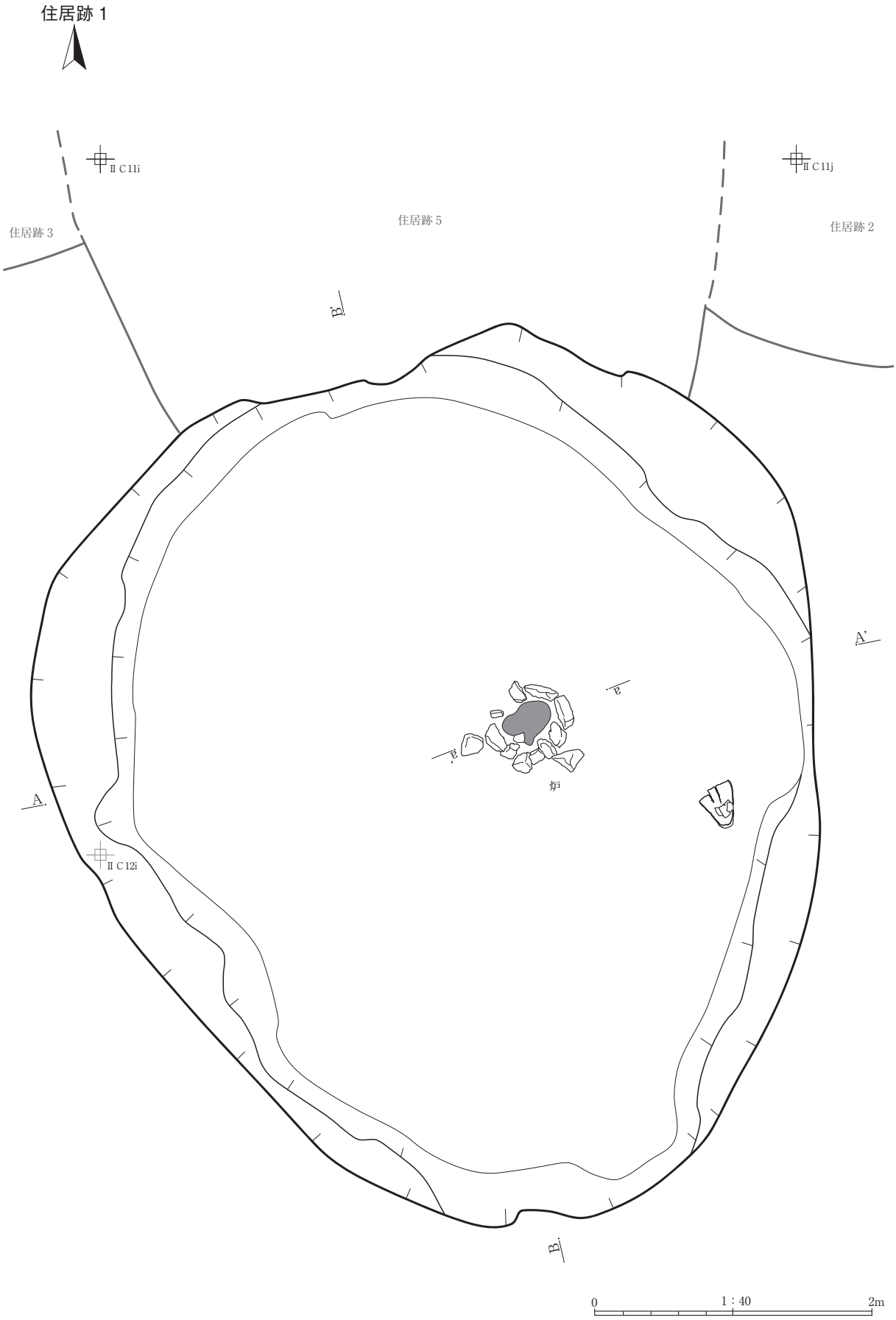




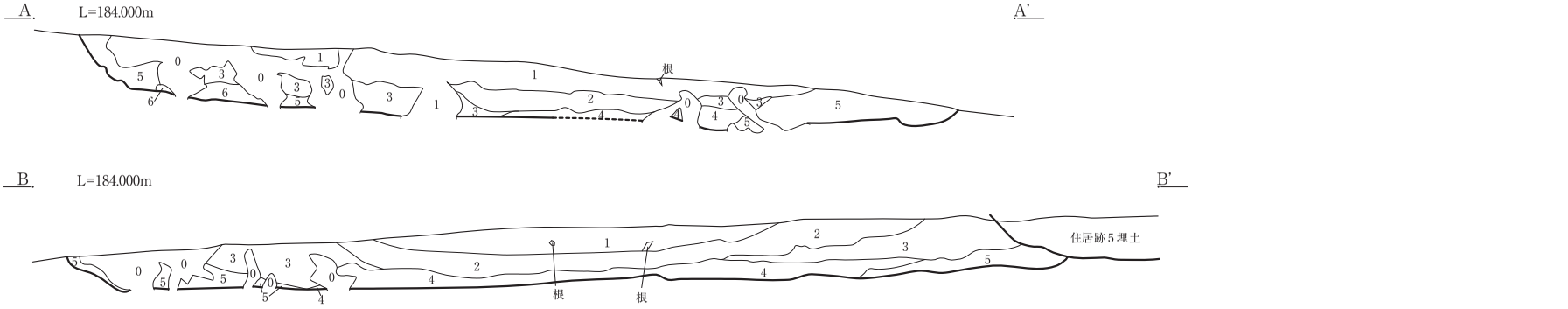




［参考図版］　暦年較正年代グラフ（2）



第 19 図　住居跡 1（1）

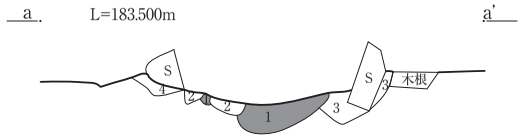


A－A'、B－B'
0. 根撹乱
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒（φ5㎜）極微量含む。壁際ほど黄褐色土（地山）ブロック含む。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒（φ5㎜）微量含む。1層より炭多く黒味強い。まっ黒な層。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まりやや密 地山ブロック多くなる。全体黄味。
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒（φ5㎜）少量含む。（他層に比して著しく多い）炉を中心にやや床面中央に分布、床面直上を広く覆う。
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒（φ2－5㎜）極微量含む。4層に地山土を含んだ層。壁寄りに厚く堆積。
6. 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性有 締まりやや密 地山ブロック層。床直に点在する。

住居跡１ 0 1：40 2m

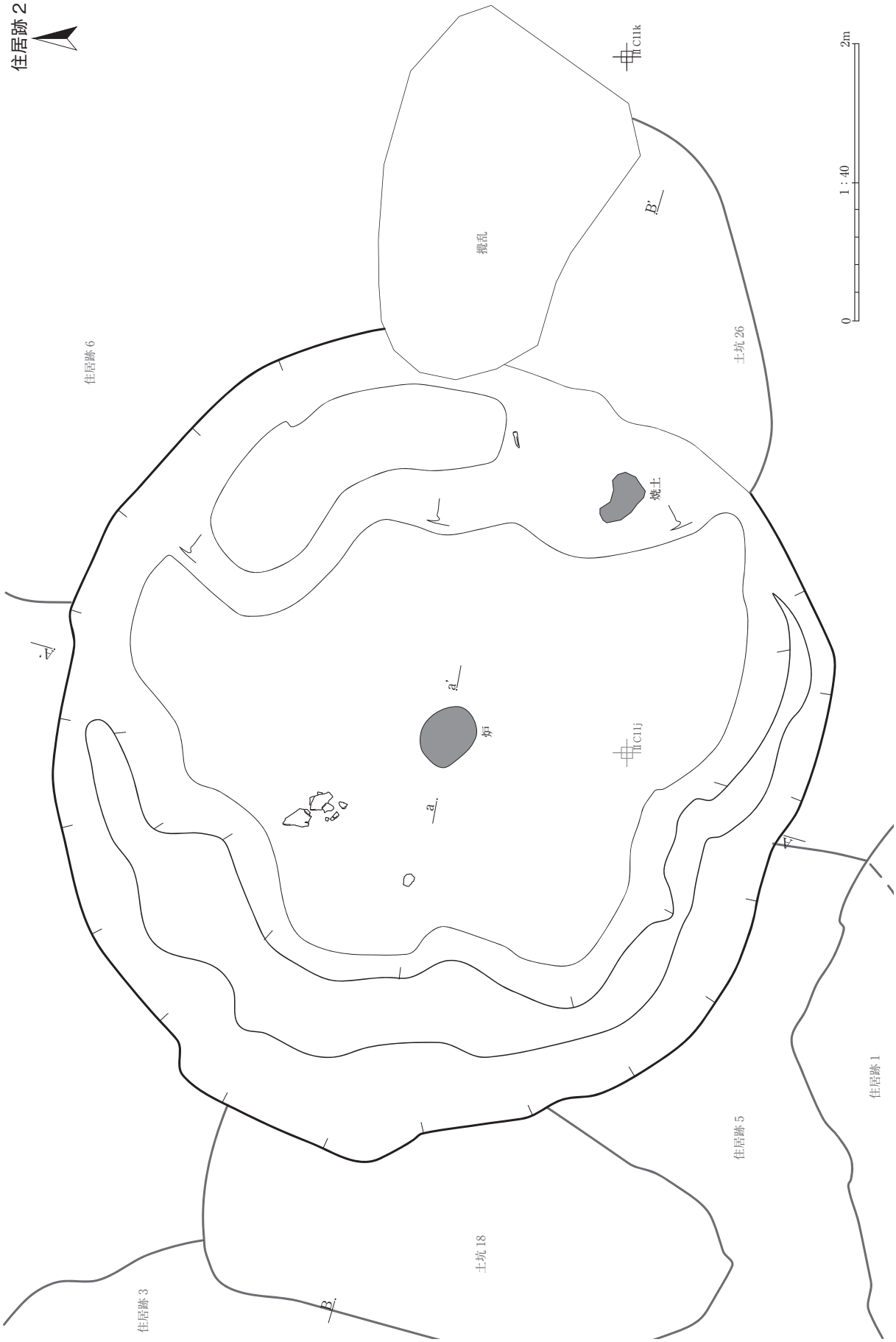
・検出面は地山黄褐色土上面。暗褐色土の不整円形範囲として認識された。平面系は円～楕円、床面は概ね平坦、全面的に硬化が認められる。
・壁は内弯外傾、床面縁部から立ち上がった後、屈曲してさらに外側に広がっている。（壁上部がテラス状に広がる）壁面上部の崩壊によるものか←しかし、テラス状の表面にも硬化部が連続することに注意！
・炉は床面中央からやや東寄りに位置する。φ10cm 前後の角礫を円形または方形に配した石囲炉。
・東壁際床面から横倒の深鉢出土（略完形）。

住居跡１炉

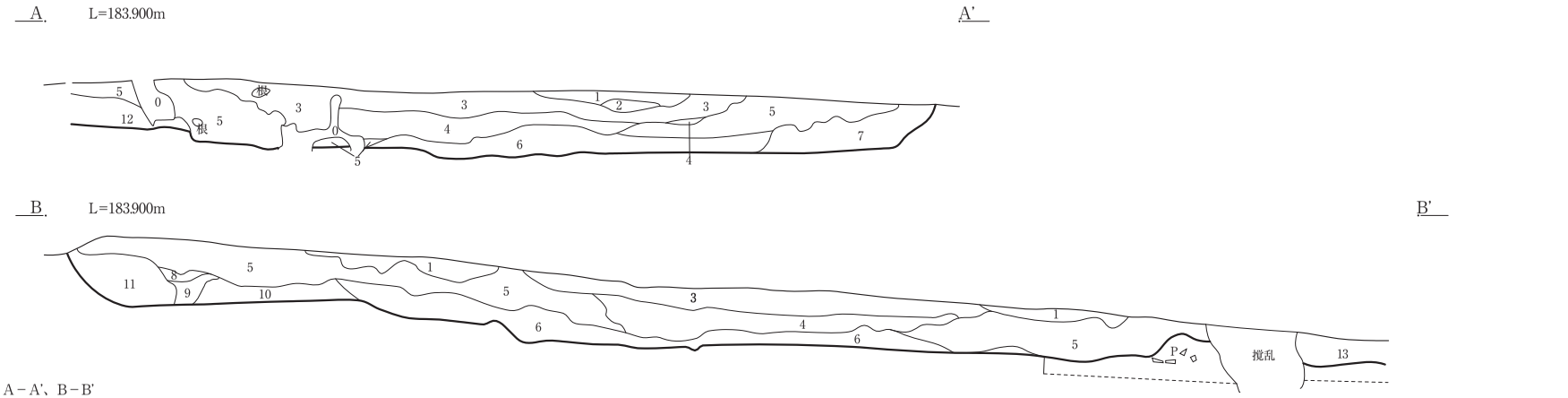


a－a'
1. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性有 締まり有 焼土。
2. 10YR2/3 黒褐色 粘性有 締まり欠 炭化物少量含む。撹乱か。
3. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有 炉石掘り方。
4. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり欠く 炉石掘り方。

住居跡１炉 0 1：20 1m

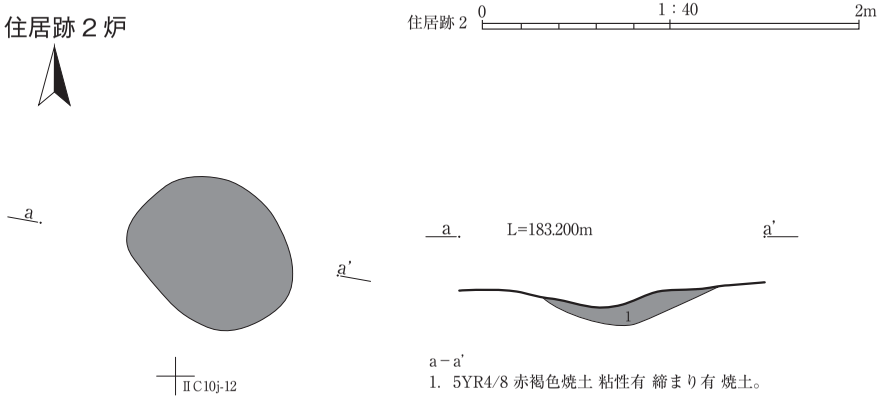

住居跡２
C11k
2m
1：40
0
撹乱
B'
住居跡６
土坑 26
焼土
A'
a'
炉
C11j
a
A
住居跡１
住居跡５
土坑 18
住居跡３
B

第 21 図　住居跡２（1）



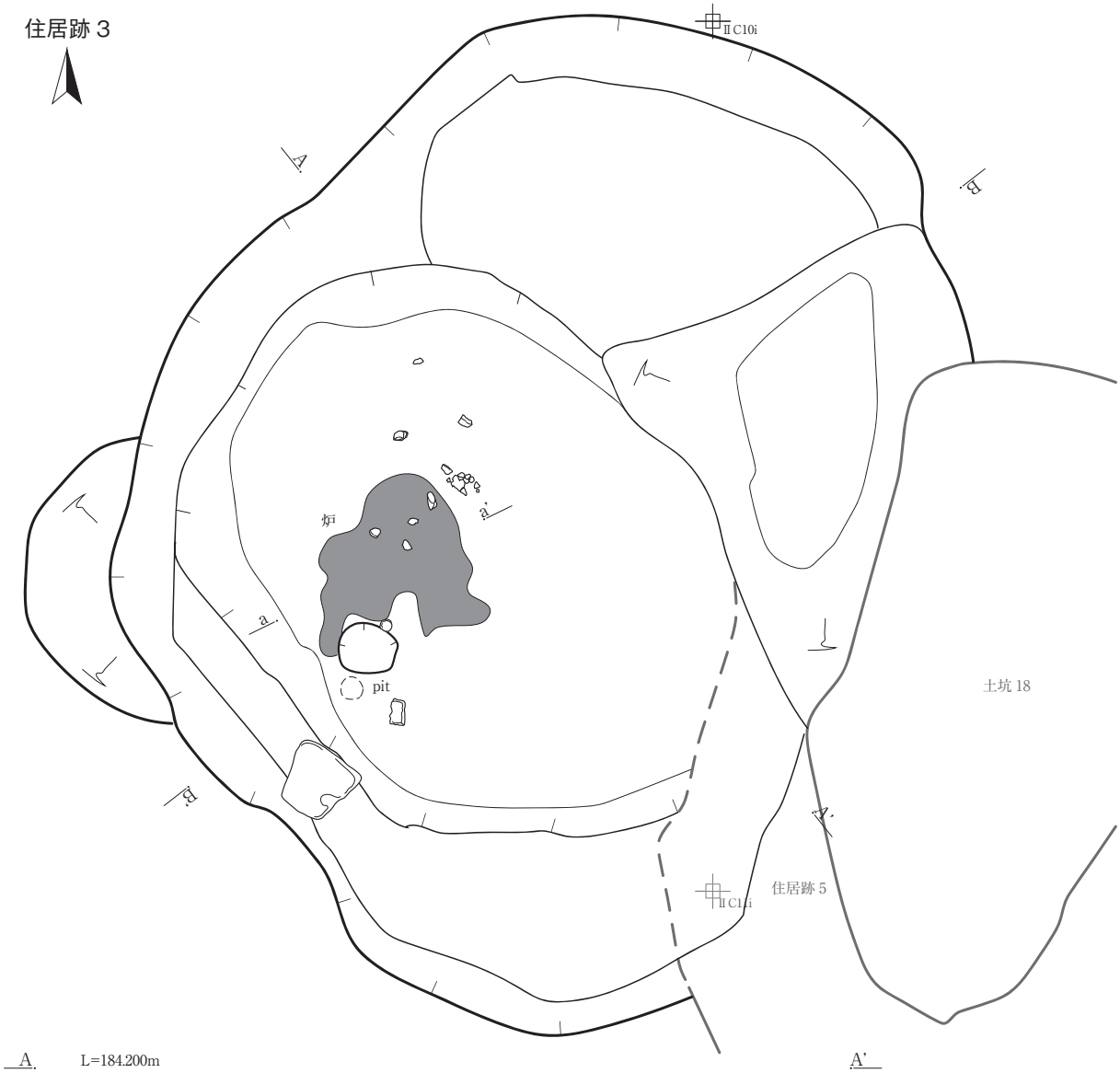
A－A'、B－B'
0. 根撹乱
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや密 木根多い。
2. 1 層土に焼土ブロック多く含む。
3. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや有 締まり密 炭粒（φ2 - 5㎜）極微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒（φ5㎜）少量含む。全体に黒味強。
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒（φ2 - 5㎜）極微量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有 締まり中 炭化材目立つ。床直広く覆う層。
7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まり密 壁際に厚く堆積。地山黄褐土を大量に含む層。崩落土？
(8). 7.5YR5/8 明褐色シルト焼土 粘性－ 締まり－ 5 層下面に生成の焼土。住居跡 5 床面北半に広く生成する焼土の一部か。
(9). 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まりやや疎 焼土粒､地山土粒を微量含む。pit 掘方埋土か。
(10). 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山黄褐色土の再堆積層とみられる。住居跡 5 の掘方埋土？固く締まっており、上面が床面の可能性有。
(11). 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロック少量含む。住居跡 5 の壁際埋土？
(12). 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロック少量含む。下面に住居跡状の硬化面。南側に重複する別住居の埋土か。
(13). 5 層によく似る

・地山黄褐色土面で黒～暗褐土の不整円形範囲として検出。
・平面形概ね円形。
・床面平滑、全体的に硬化。壁面は内弯外傾。西側では床面より 10 - 15cm ほど高くなるテラス状の張出をもつ。張出部の上面から立ち上がる壁面にかけて硬化広がる。
・炉は概ね中央部にありそう（ベルト下）焼土と礫が一部見えている。
・重複遺構多い。東壁の土坑を切る。北東部の住居状は先後不明。おそらく切られている。南西壁の住居跡 5 に切られているとみられるが断面では明瞭に確認できない。断面 W-E の西半、5 層下面が住居跡 5 の床だろう。←住居跡 5 床面北部に面的に分布する焼土・炭のレベルと同じ。
・東壁際での遺物出土が多い（石棒含む）。埋没途中の流入（投棄？）の可能性高く、同面に焼土の生成も認められる。



a－a'
1. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性有 締まり有 焼土。

第 22 図 住居跡 2 (2)



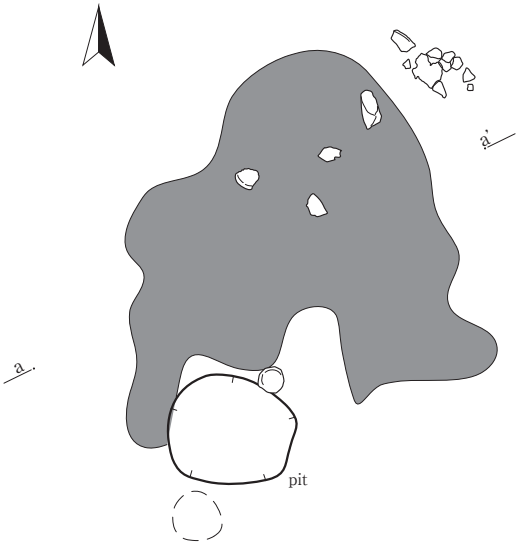
A－A'、B－B'
0 根撹乱
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒（φ2 - 5㎜）極微量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 木根やや多い。
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒（φ5㎜）微量含む。1 層より炭の混入多く黒味強。
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒（φ5㎜）少量含む。床面中央を主に床面を広く覆う層。
4b. 10YR2/2 黒褐色シルト　pit?
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒（φ2 - 5㎜）極微量含む。4 層に地山黄褐色土を含んだ層、壁際に分布。
(6). 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 重複する別遺構（住居）か。
(7). 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 重複する別住居（住居跡５）の埋土か。

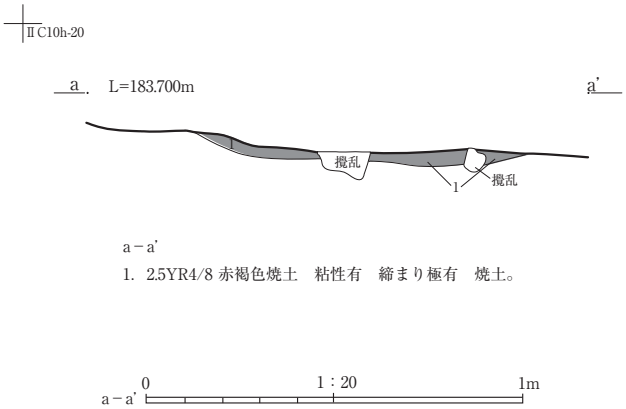
・平面形は隅丸方～円形、床面は平坦滑らか、全面にわたり硬化顕著。
・壁面はほぼ直線的、外傾して立ち上がる。途中屈曲して外反、再び内弯して立ち上がる。（壁上部がテラス状に広がっている）
床面西部（ほぼ壁際）に焼土生成、この付近に土器などの遺物出土多い。

0　1：40　2m

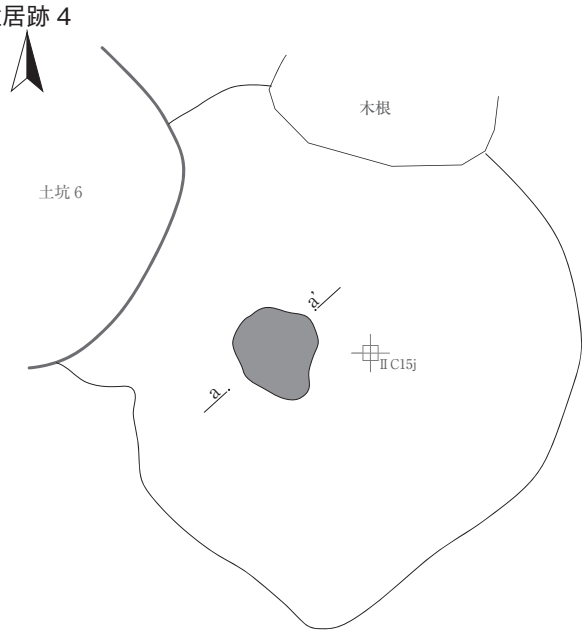
第 23 図　住居跡３（1）

住居跡３炉





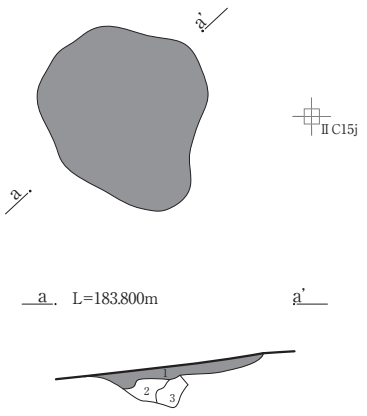
住居跡４



※住居埋土は確認できず､床面の硬化範囲を平面図化した。

住居跡４
0
1：40
2m

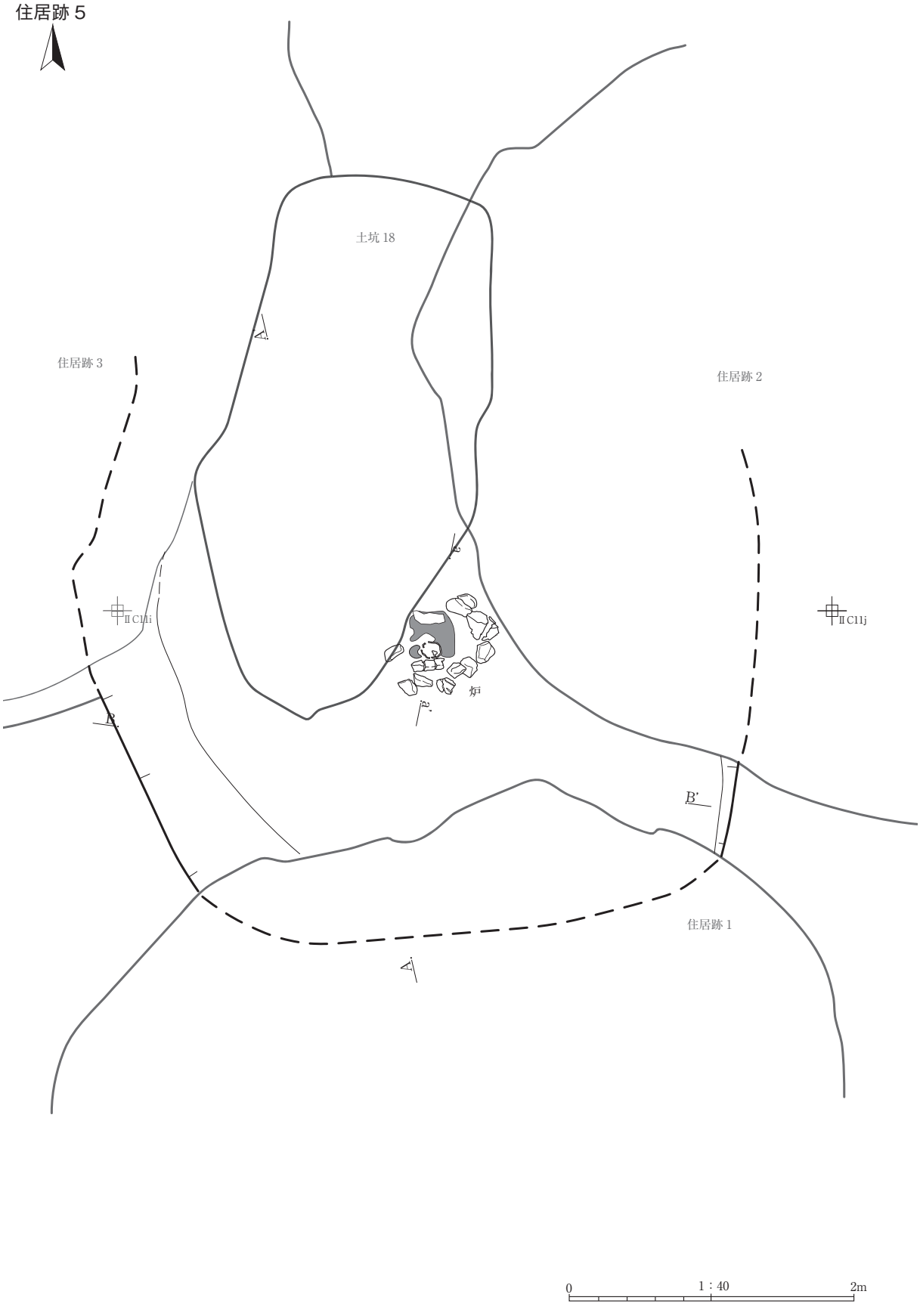
住居跡４炉



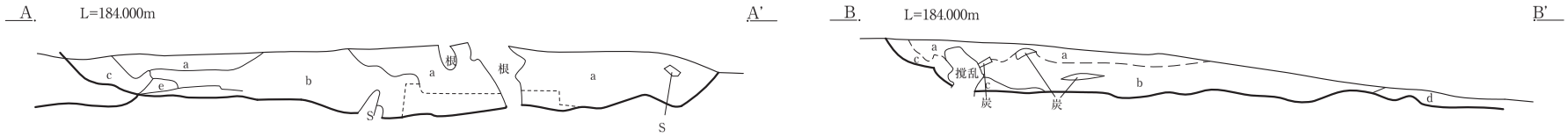
a－a'
1. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まりやや有 焼土ブロック多量含む。
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性有 締まりやや有 焼土粒、炭化物微量含む。
3. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性有 締まりやや有。

a－a'
0
1：20
1m

第 24 図　住居跡３（2）　住居跡４



第 25 図　住居跡 5（1）

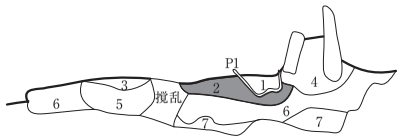


A－A'、B－B'
a. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒（φ2 - 5㎜）極微量含む。（土坑 18）
b. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まり中 焼土、炭化材多い。
c. 10YR4/4 褐色シルト 密 地山を含み黄味。
（d）. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 住居跡 15 埋土に切られる、下面が硬化。別の遺構の床面か
e. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒（φ2 - 5㎜）極微量含む。4 層に地山土を含んだ層。壁寄りに厚く堆積。

・住居跡 1・2・3 の間に広がる炭化物の目立つ暗褐土範囲として認識された。住居跡 1～3 の壁面が不明瞭だったため、この暗褐土を掘り拡げたところ住居と判明。
・住居跡 1 を切っており、住居跡 2・3 をも切っていると考えられるが、土層断面ではっきりとは確認できなかった。
・床面は、凹凸があるがしっかりした硬化。
・石囲炉とみられる石配置と焼土を持つ。この付近ではやや広く炭化材、焼土が分布。
・壁は西側の一部のみ残存（住居跡 1～3 の精査でほかの部分を破壊した可能性高い）。
・直線的に短く立ち上がったのち、屈曲外傾し、上部が広がりテラス状の段を生じている。
・住居内炉に大きな木根があり、著しく撹乱を受けている。

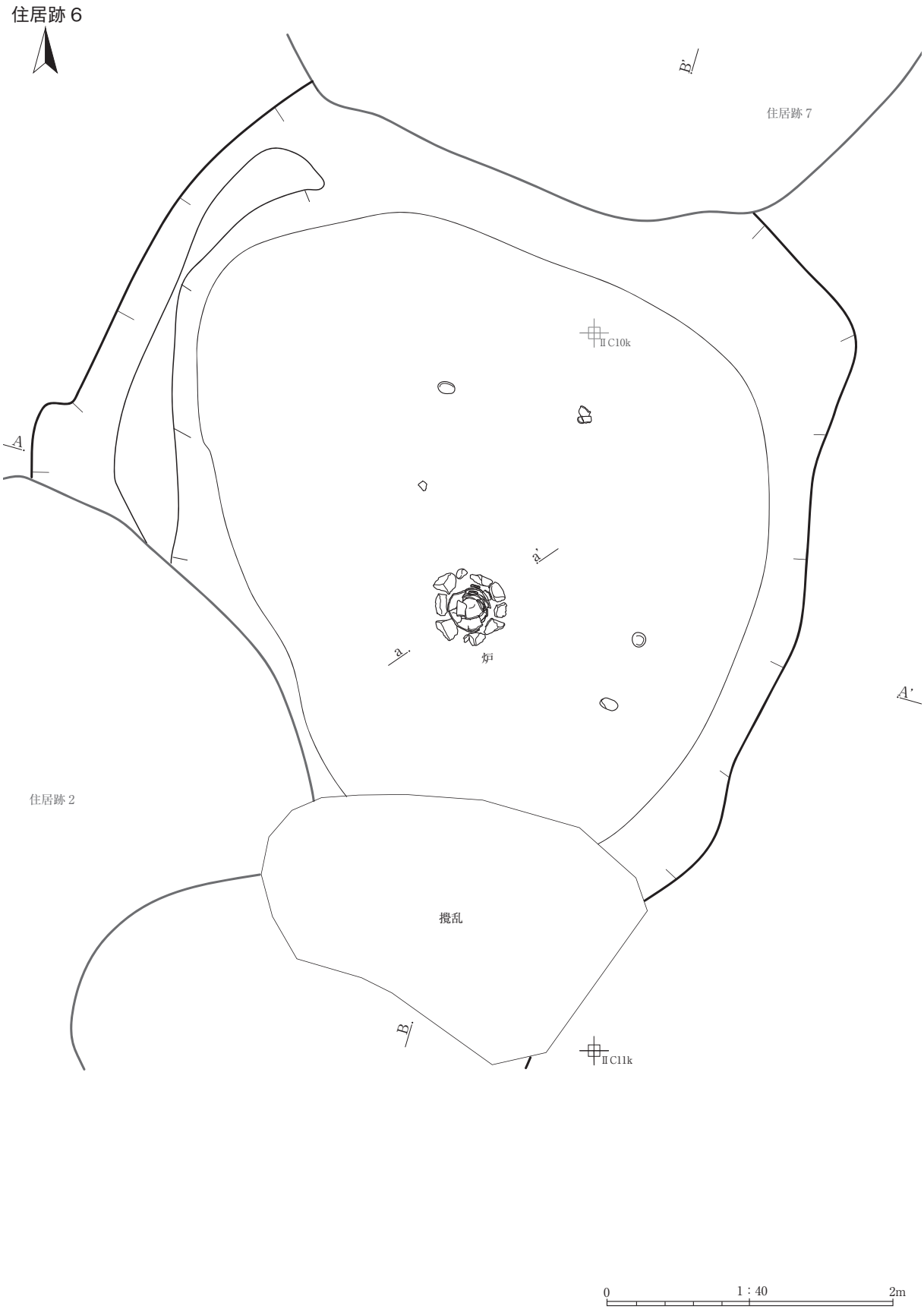
0　1：40　2m

住居跡５炉

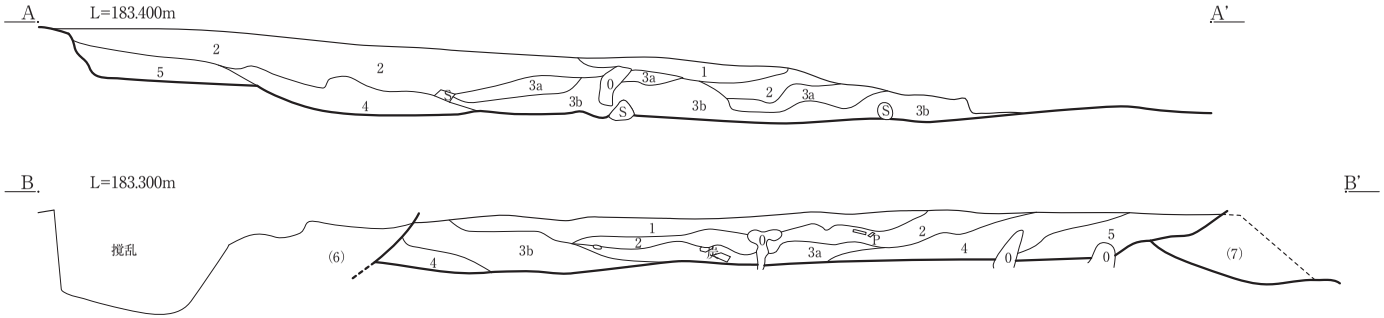


a－a'
1. 10YR2/2 黒褐色 粘性有 締まり欠 埋没土器内覆土。
2. 2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性有 締まり有 焼土。
3. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり欠
4. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有 炉石掘り方 。
5. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有 炭化物微量含む。掘り方。
6. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 炭化物少量含む。
7. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まり有

0　1：20　1m



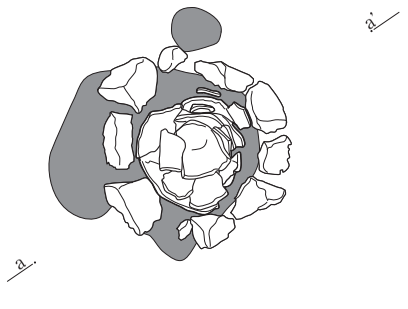
第 27 図　住居跡 6（1）



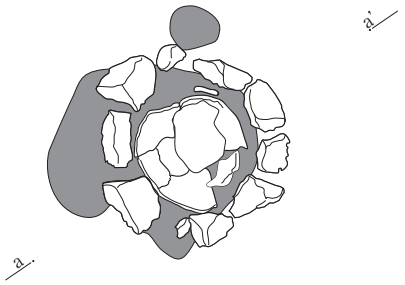
A－A'、B－B'
0. 根撹乱
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや有 締まり密 炭（φ5 - 10 ㎜）極微量含む。黒っぽく混入物少ない層。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや欠 締まりやや疎　炭（φ5 - 10 ㎜）極微量含む。締まりを欠き乾きやすい。ボソボソした層。
3a. 5YR5/6-5/8　明赤褐色焼土　一部ブロック化。埋土中に面的に広がっていた。下位（3b 層）に木炭片・材の一部多く含む。
3b. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭化材、大きめの木炭片（φ10 - 20 ㎜）を多く含む。
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 地山ブロック少量含む。
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロックやや多 い。
(6). 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・締まりは 2 層によく似る、埋土を上から切っている。別遺構または撹乱。
(7). 住居跡 7（本住居に切られる）の埋土（3 層）。

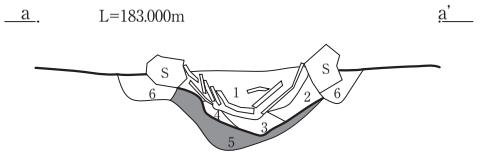
0　1：40　2m

住居跡 6 炉（土器出土状況）



住居跡 6 炉

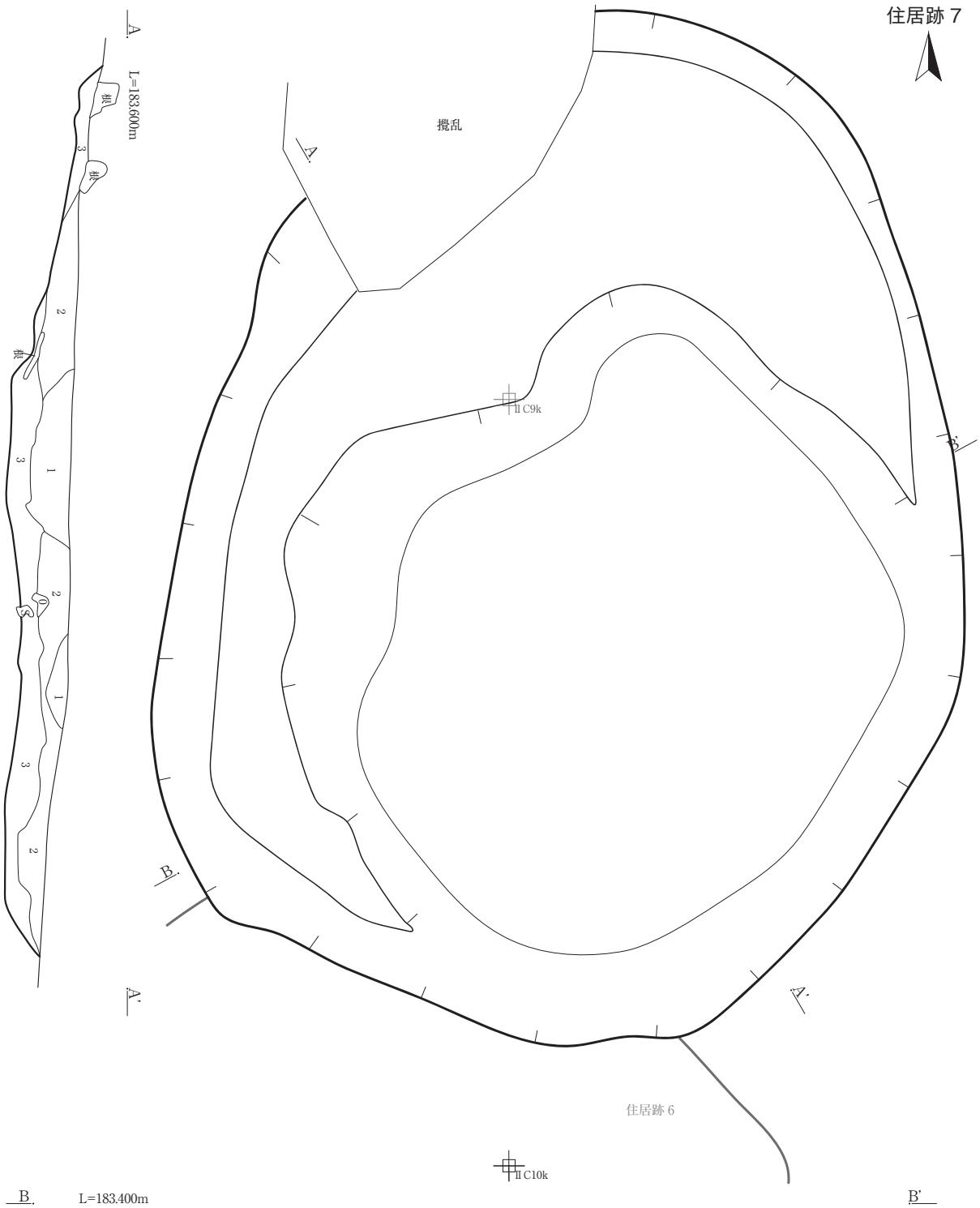




a－a'
1. 10YR2/3 黒褐色 粘性有 締まりやや有 焼土粒微量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり欠
3. 5YR4/6 赤褐色 粘性有 締まり有 焼土ブロック、炭少量含む。
4. 10YR5/8 黄褐色 粘性有 締まり有
5. 2.5YR4/8 赤褐色焼土 粘性有 締まり極有 焼土。
6. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有 掘り方。

0　1：20　1m

第 28 図　住居跡 6（2）



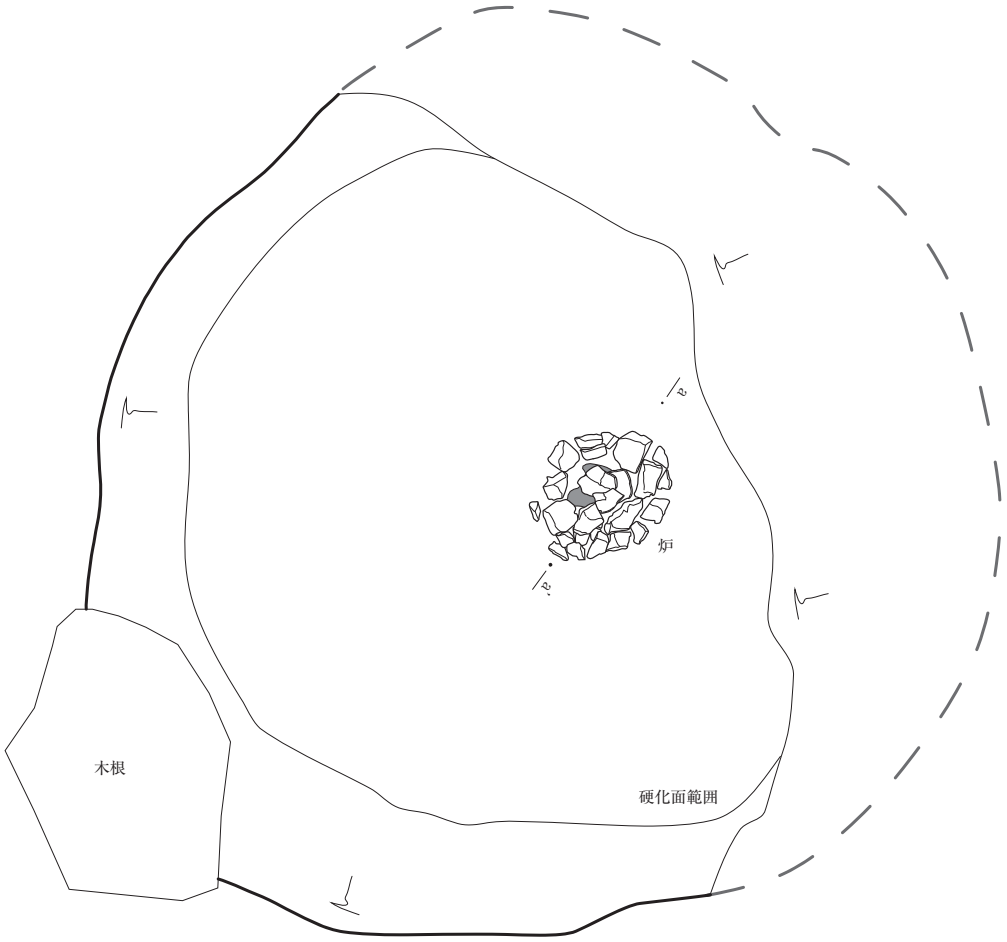
A－A'、B－B'
0 根撹乱
1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや有 締まり密 炭粒（φ2 - 5 ㎜）極微量含む。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒（φ5 ㎜）微量含む。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロックやや多い。ガリガリした硬化部をブロック状に含む。
4. 10YR3/4 暗褐色シルト　粘性やや有　締まりやや密　根撹乱か。

住居跡 7
・底面はおおむね平坦だが、壁際で低くなる部分がみられる。壁は床面縁部でやや急に短く立ち上がり、その上位は大きく開いて緩い傾斜で外側に広がる。
・平面形は概ね楕円形を呈するものとみられるが（短い立ち上がりの範囲）、検出面における開口部の形状は不整形である。

0　1：40　2m

第 29 図　住居跡 7

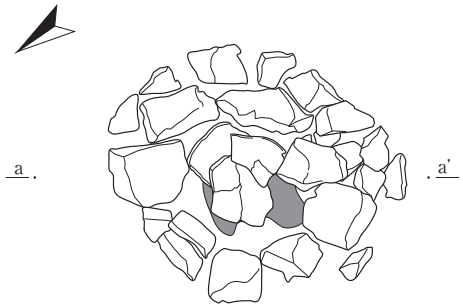
住居跡 8

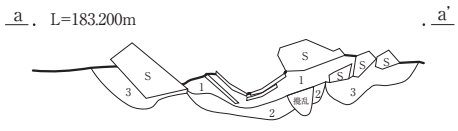


ⅡC13k

0　1：40　2m

住居跡 8 炉



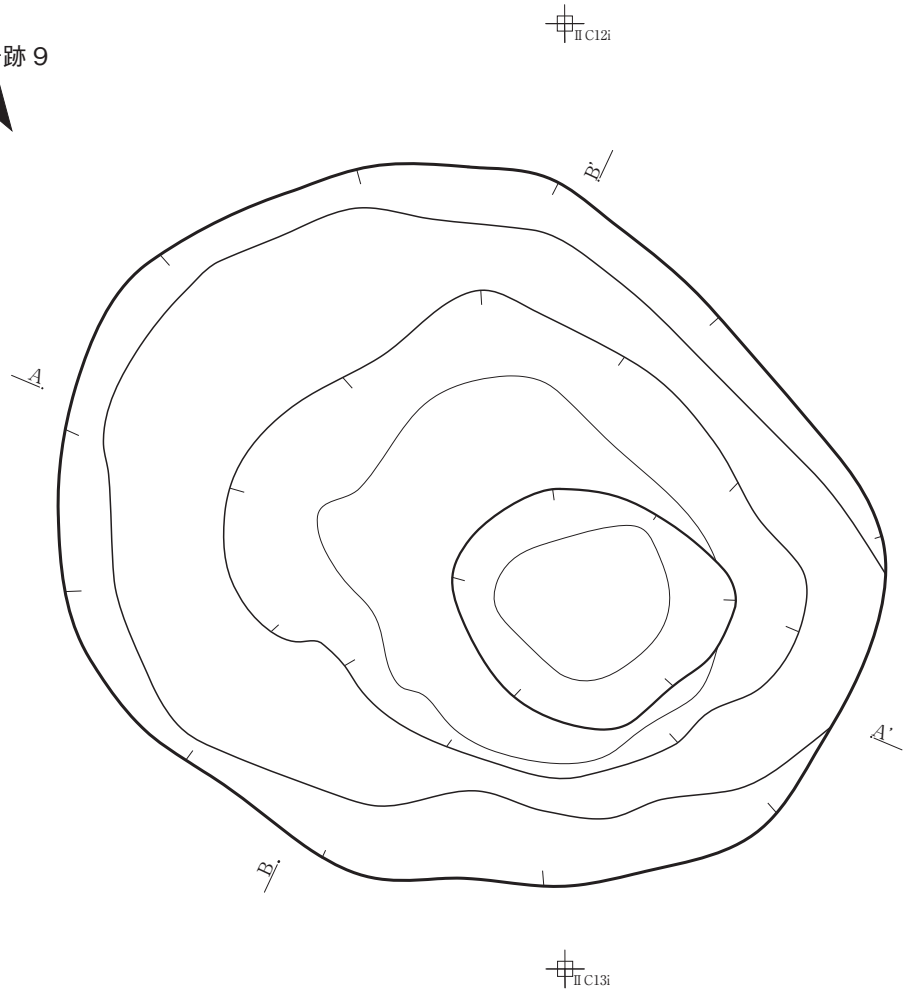


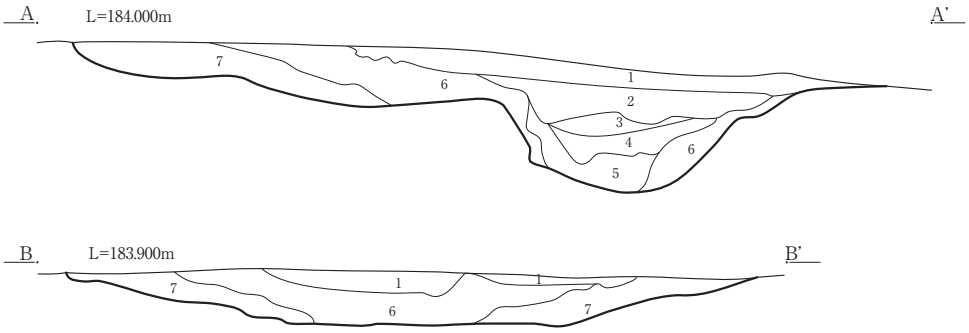
a−a'
1. 10YR3/3 暗褐色 粘性有 締まり欠 炭化物微量含む。
2. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性有 締まり極有 焼土。
3. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有 炉石掘り方。

0　1：20　1m

第 30 図　住居跡 8

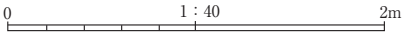
住居跡 9





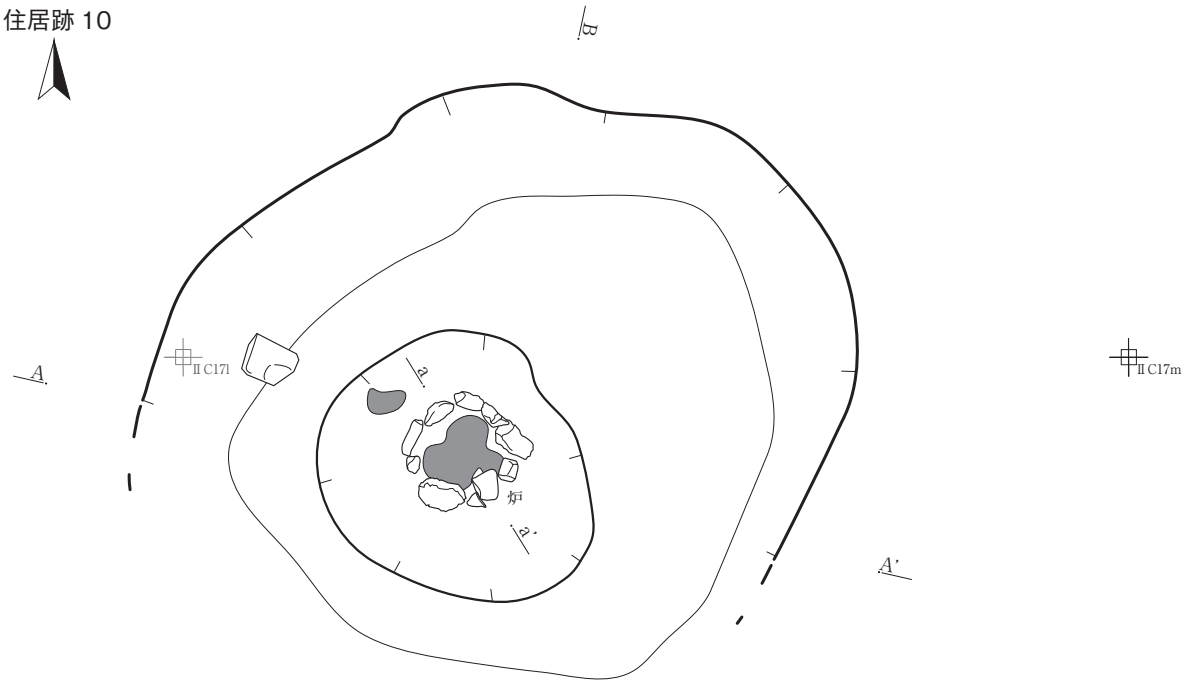
A－A'、B－B'
1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや欠 締まり中 白く乾きやすい。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まりやや密　焼土ブロックを上部に多く含む。地山ブロック微量含む。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まりやや密 地山ブロックやや多い。
4. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密　炭粒（φ2 - 5㎜）微量、地山粒極微量含む。上部層に比べ黒味強い。
5. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密　炭粒（φ5㎜）微量、地山ブロック微量（4 層より多い）含む。
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロックやや多い。
7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まり密炭粒（φ5㎜）極微量含む。地山土多く含み明るい。地山との区別は難しいが、地山よりやや暗くしまり弱い 。

住居跡 9
・床面は中央部が概ね平坦で、東縁部に土坑を持つ（埋土が連続することから付属と見てよい）。
・床面の縁部が一旦短く立ち上がり，その外側がテラス状に広がって内弯外傾して検出面へと至る。
・斜面下方の東側は上部が一部流失しているようだ。

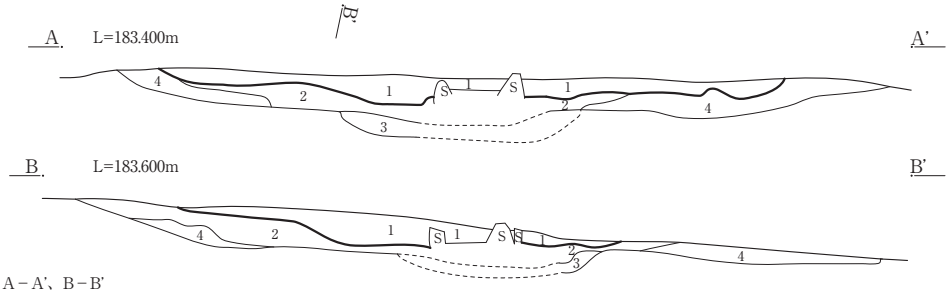


第 31 図　住居跡 9

住居跡 10



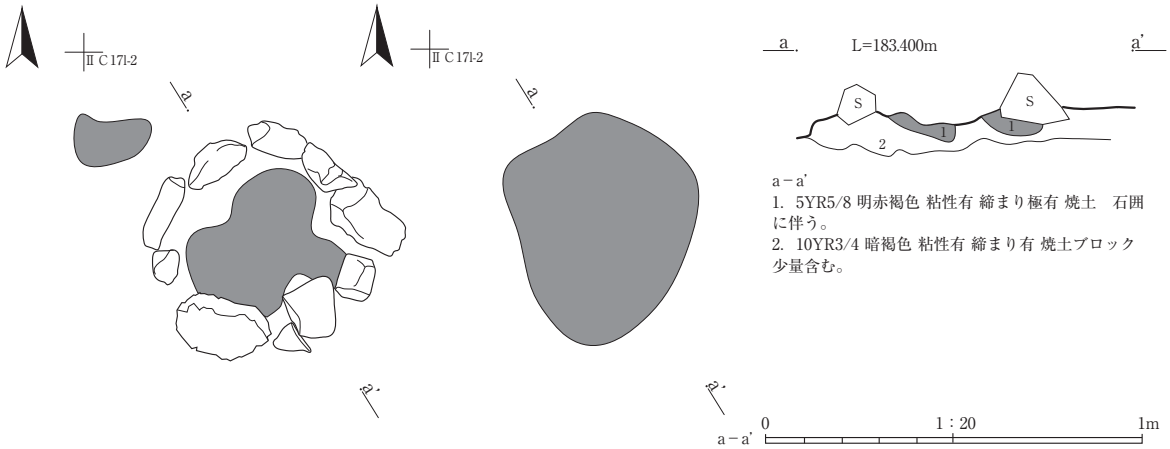
A－A'、B－B'　0　1：40　2m



A－A'、B－B'
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒微量含む。埋土のうちもっとも黒味もつ。下面が床面か（炉燃焼面に対応している）。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まり密 地山土微量含む。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まり密 地山ブロックやや多い。
4. 10YR4/6 褐色シルト 粘性有 締まり密

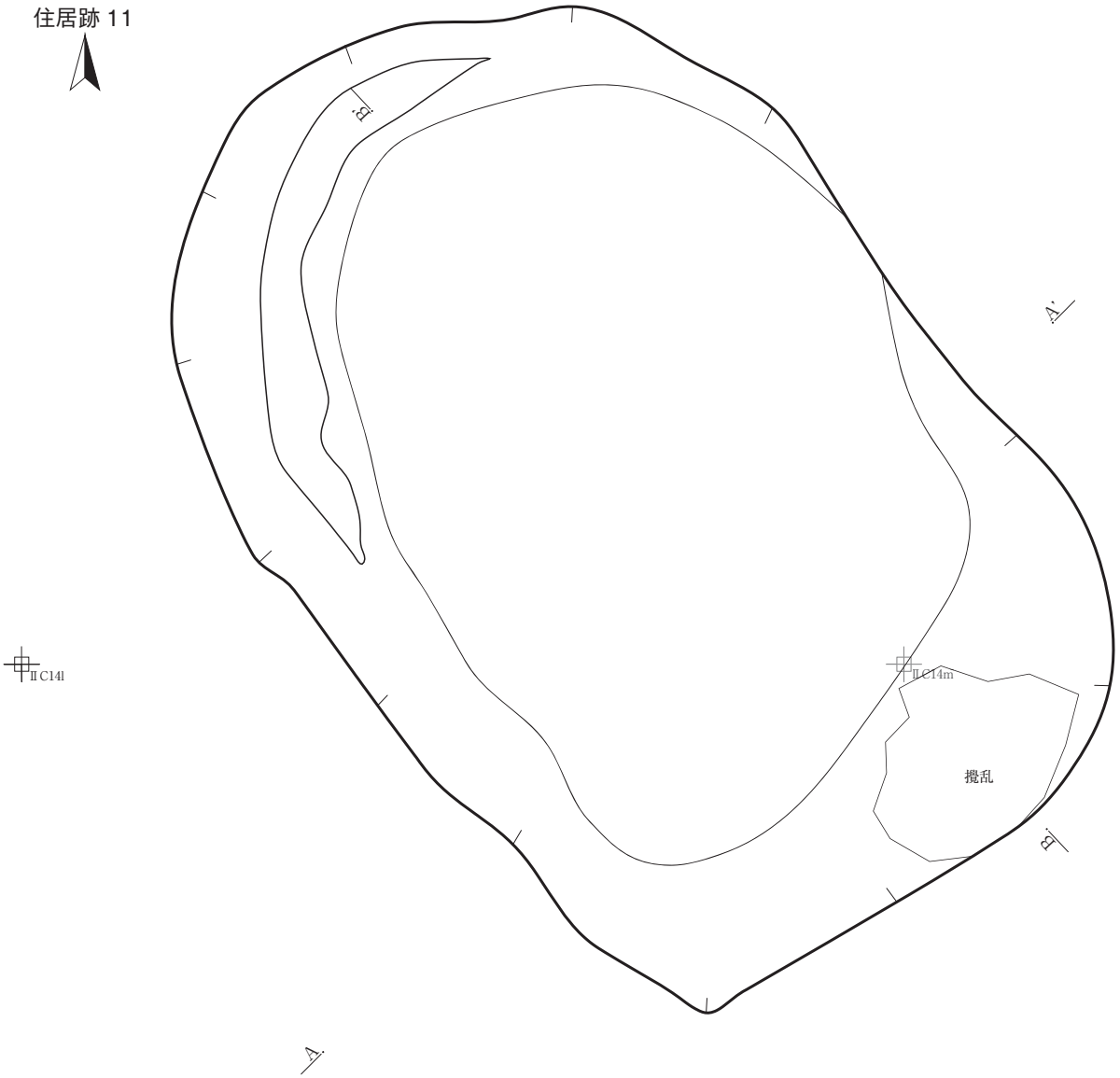
・平面形は隅丸形～楕円形。壁は内弯外傾、斜面下方の南側流出、床面は炉周辺のみ平坦、壁に向かって高くなる。
・西壁際に板状の大型礫が据えられている。他の住居にも類例あり。
・炉は石囲炉。炉の下位が土坑状に下がる。掘り方？

住居跡 10 炉（1 面目）　　住居跡 10 炉（2 面目）



a－a'
1. 5YR5/8 明赤褐色 粘性有 締まり極有 焼土　石囲に伴う。
2. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり有 焼土ブロック少量含む。

第 32 図　住居跡 10

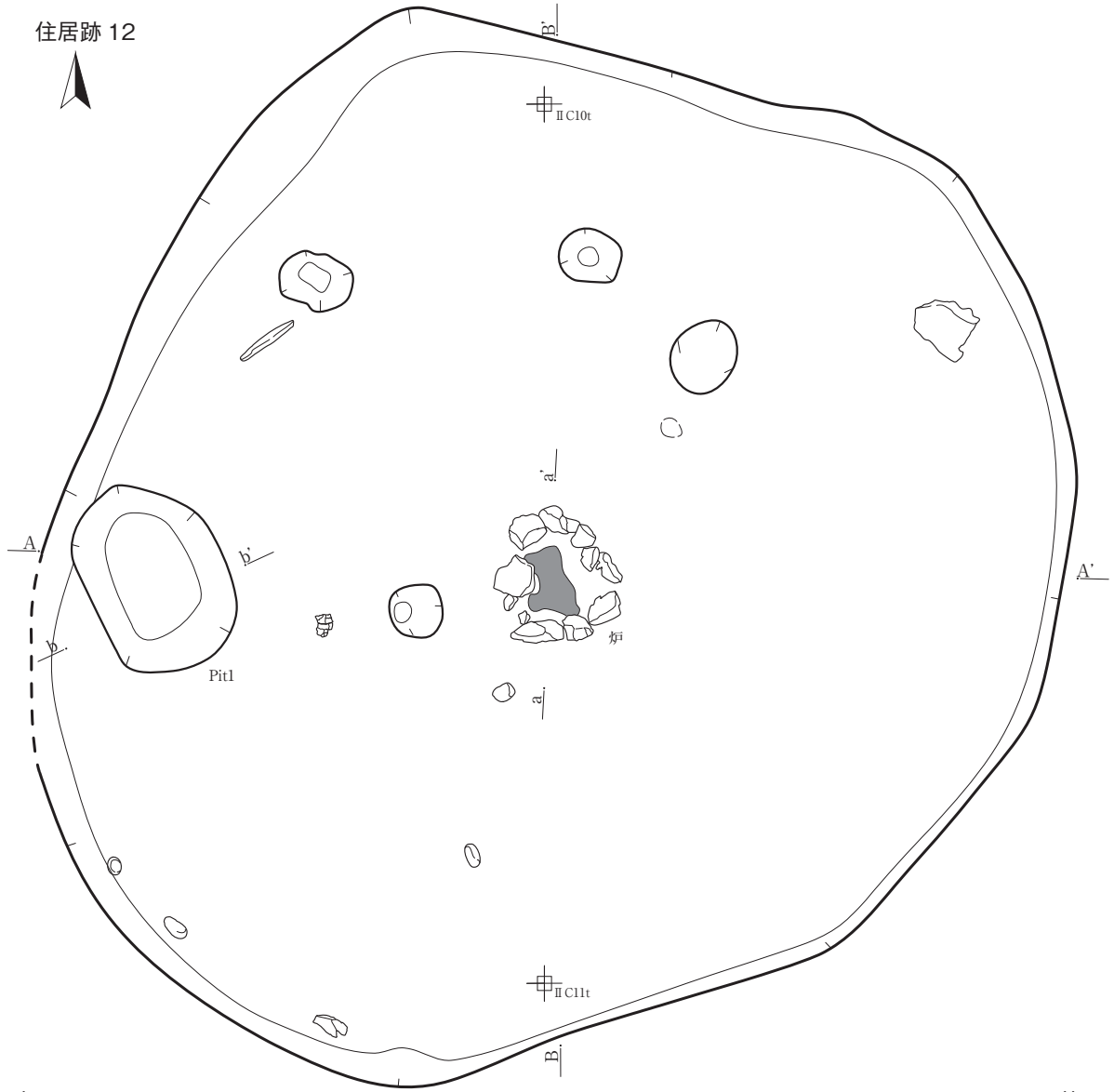


A－A'、B－B'
0. 撹乱
1a. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 1b に似るがやや明るく草根多い。
1b. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや有 締まり密 炭粒極微量含む。柱穴に連続するか。
2. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや有 締まり密 パリパリした硬化ブロックが集積したような層。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 地山ブロック少量含む（壁際に厚い。崩落土か）。

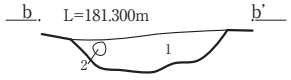
・平面形は楕円か、床面縁部が短く立ち上がったのち、その外周が棚状の平坦面となって張り出す。
・斜面上方の両壁がよく残存するが、反対の東壁側は流失している。

0　1：40　2m

第 33 図　住居跡 11



A－A'、B－B'
1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性無 締まりやや有 草根含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締まりやや有 6 層の焼土ブロック含む。炭化物粒をまばらに含む。
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 黒褐色土ブロックとの混合土 。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 混入物無し。
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性あまりなし 締まりやや有 4 層との差は不明瞭。3･4 層と 5 層の境が住居の立ち上がりではないことが判明 。
6. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有 焼けの悪い焼土ブロック。上に炭化物を含んでいる。

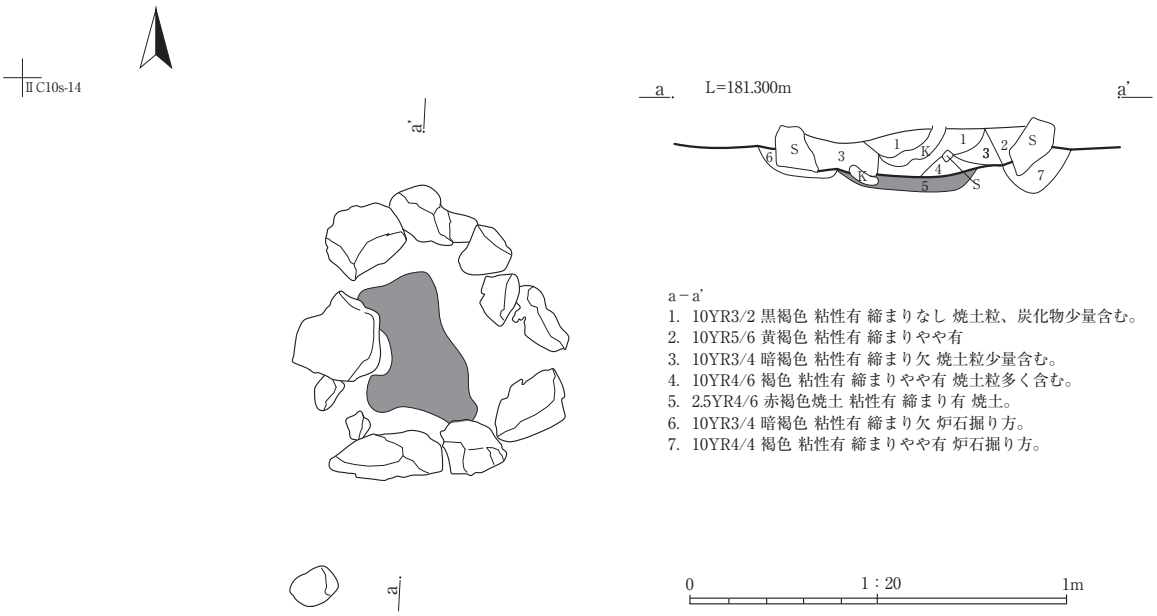


住居跡 12 pit1
1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや有炭化物、草木根わずかに含む。
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性あまりなし 締まり有 かたく締まる　地山崩落ブロック。

0　1：40　2m

第 34 図　住居跡 12（1）

住居跡 12 炉

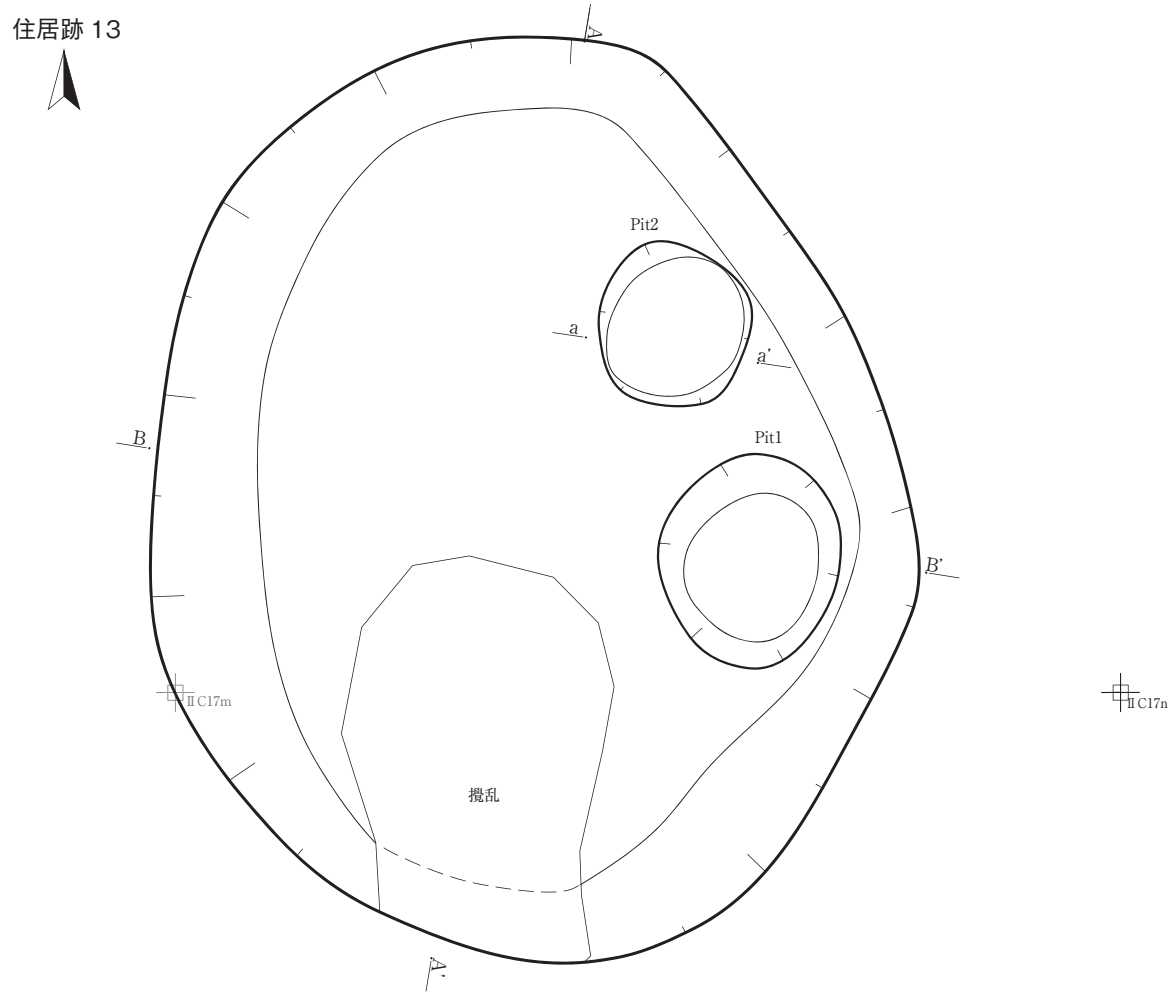


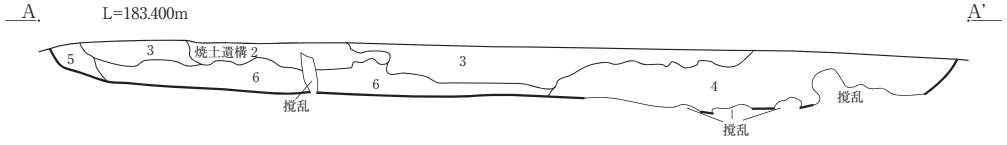
a－a'
1. 10YR3/2 黒褐色 粘性有 締まりなし 焼土粒、炭化物少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色 粘性有 締まりやや有
3. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり欠 焼土粒少量含む。
4. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まりやや有 焼土粒多く含む。
5. 2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性有 締まり有 焼土。
6. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり欠 炉石掘り方。
7. 10YR4/4 褐色 粘性有 締まりやや有 炉石掘り方。

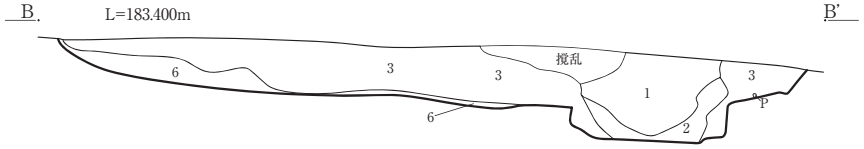
0　1：20　1m

第 35 図　住居跡 12（2）

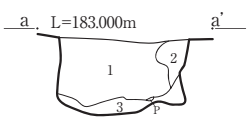
住居跡 13



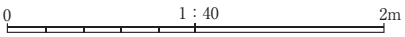




A−A'、B−B'
1. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや強 締まりやや弱 炭粒、かたい黒色土ブロック少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強 締まりやや強 炭粒少量、地山ブロック中量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや弱　地山ブロック少量、土器片、草根多量含む。6 層との境不明瞭。
4. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや強炭粒極少量地山ブロック少量含む。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 地山ブロック少量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや強 地山ブロック少量含む。

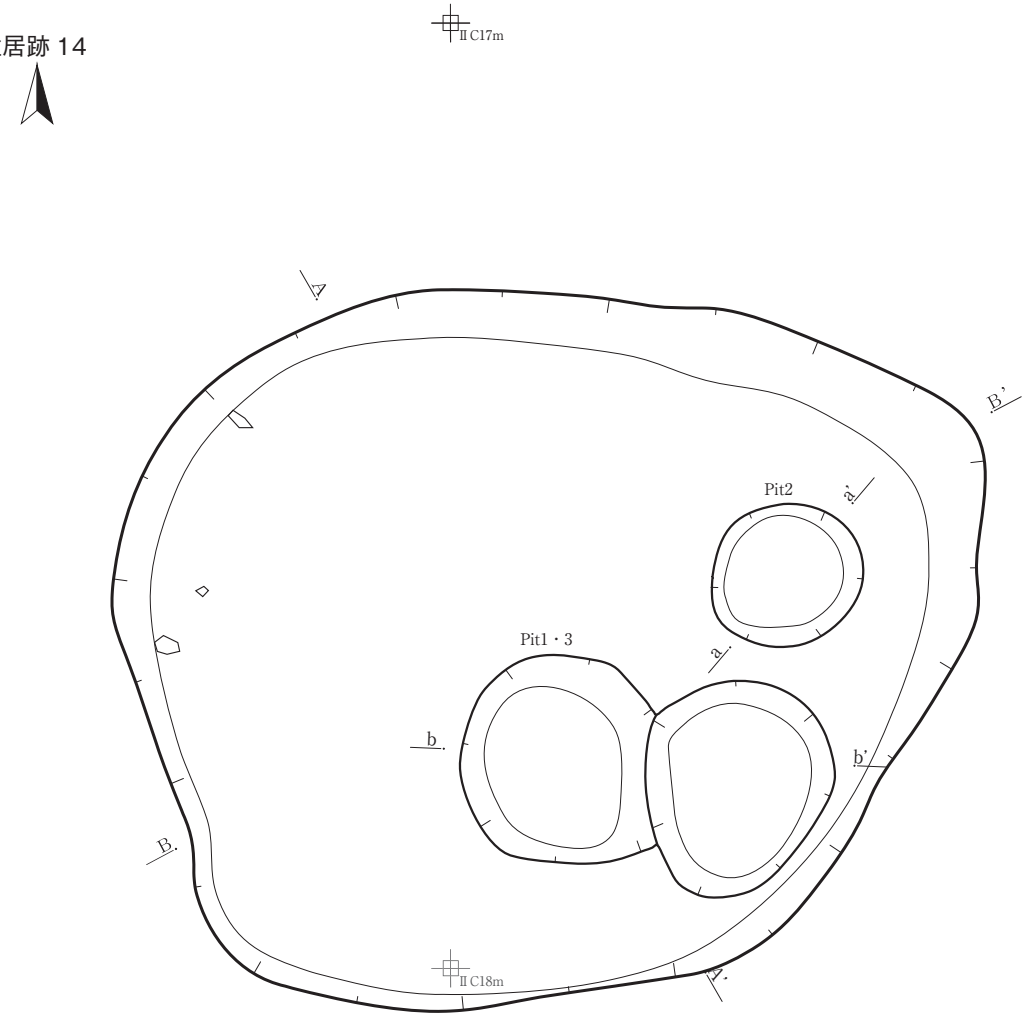


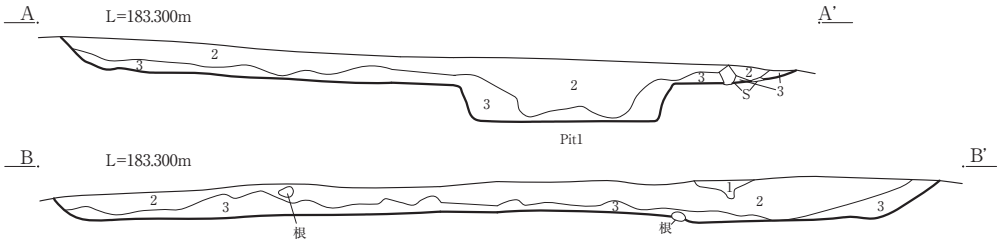
a−a'
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強 締まりやや強　焼土粒少量、炭粒、土器片含む。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 締まりやや弱 地山ブロック中量含む。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 締まりやや強 地山ブロック中量含む。



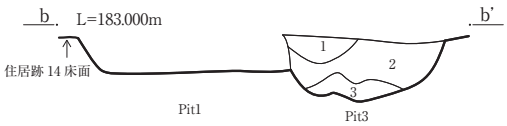
第 36 図　住居跡 13

住居跡 14



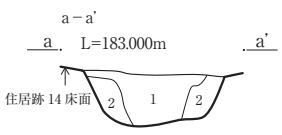


A－A'、B－B'
1. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強 締まりやや弱 柔らかい焼土ブロック少量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強 締まりやや強 炭粒少量、地山ブロック少量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強 締まりやや強 炭粒少量、地山ブロック中量含む。

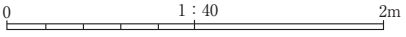


b－b'
1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや強 締まりやや弱 焼土粒極少量、炭粒中量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや強 炭粒、地山ブロック少量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや強 地山ブロック多量含む。

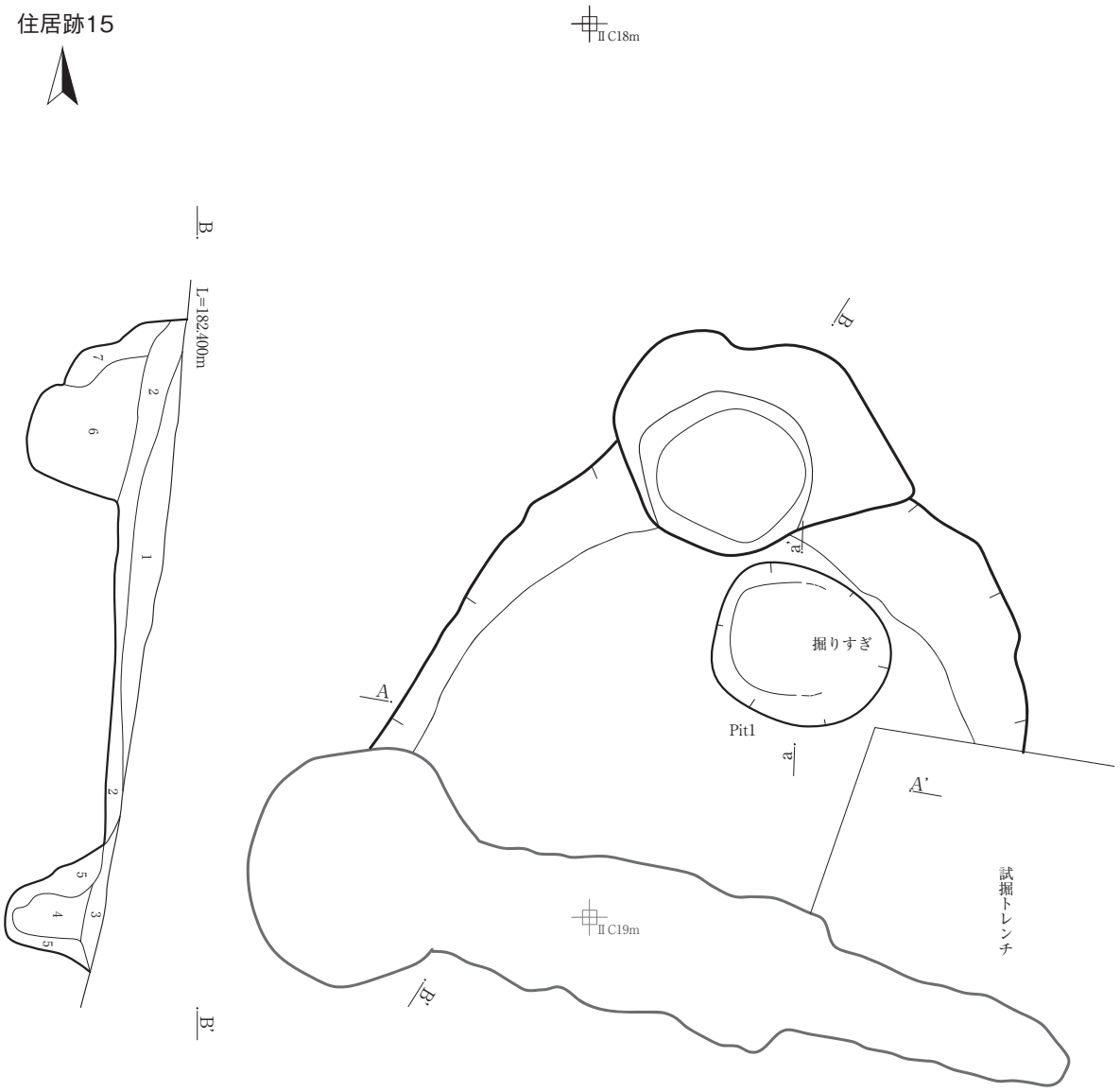
Pit3 は Pit1 を切る。住居精査時に木根かと思った（切り株があったため）。Pit2 とくらべ Pit3 のほうが炭粒の散在を全体に確認できた。



a－a'
1. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性やや強 締まりやや強 炭粒多量含む。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや弱 締まりやや強 炭粒、地山ブロック少量含む。



第 37 図　住居跡 14

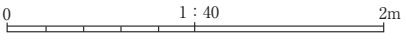


A　L=182.400m　A'

A－A'、B－B'
1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒（φ5㎜）極微量含む。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 地山ブロック微量含む。1層より黒い。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密　1層に似るがやや暗い。
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや疎（ボソボソ）。
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロック少量含む。
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密
7. 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロック微量含む。
・平面形は隅丸方形か？
・床面平坦、壁は内弯外傾。南～東部が流失（削平）
・北隅に大きめの pit を持つ（B－B' 断面の左端 6～7 層）
・南東部床面に礫集中

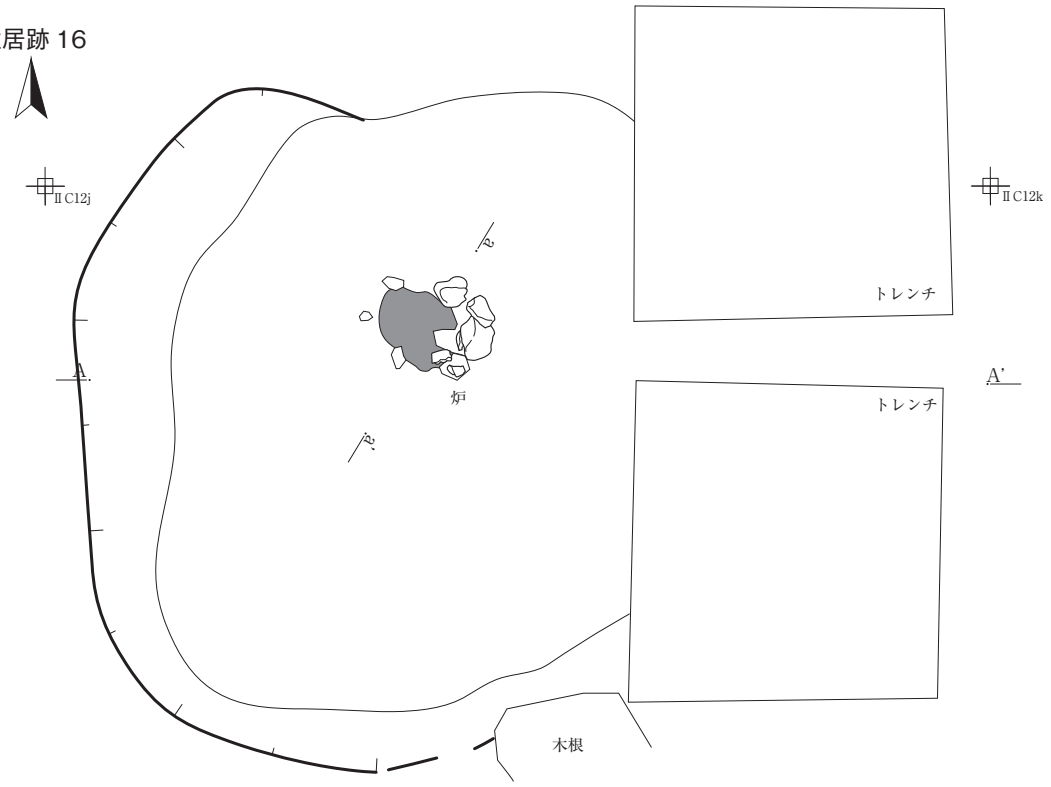
a　L=182.700m　a'

a－a'
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まり中 炭化物（φ2㎜）1％含む。
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 炭化物（φ2㎜）2%、7.5YR5/8 明褐色シルトブロック 10% 含む。



第 38 図　住居跡 15

住居跡 16

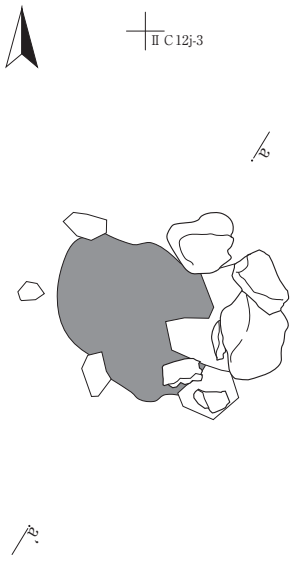


A－A'
0. 根撹乱
1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや強 締まりやや密 焼土粒・焼土ブロック微量、炭粒・炭小片微量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締まりやや密 地山を含み 1 層より黄味（明るい）。

・東側壁が流失、床面平坦、中央に石囲炉、炉の周辺半径 1m 強の範囲が硬化。
・壁は内弯外傾、ごく緩くたちあがっている（上部の崩落によるか）。

A－A' 0　1：40　2m

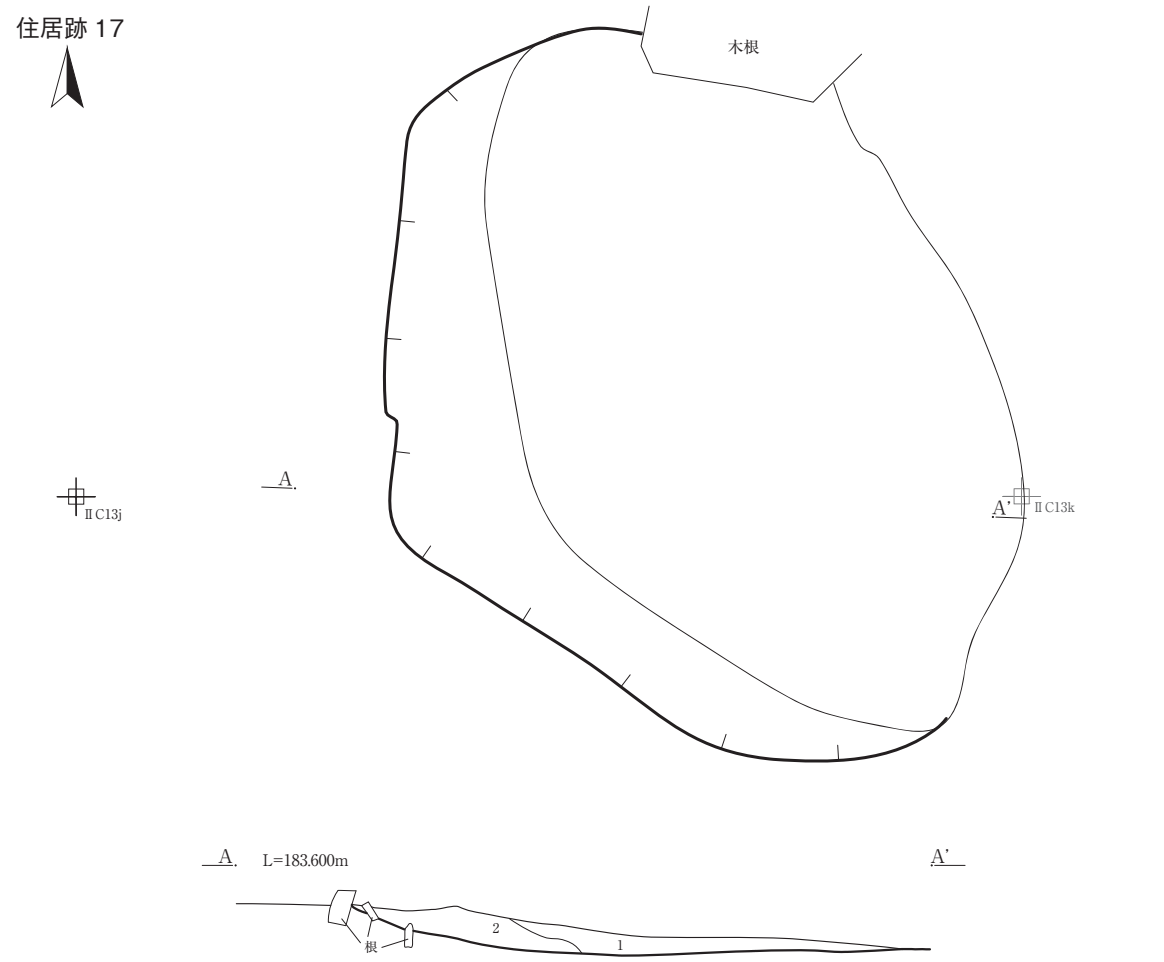
住居跡 16 炉



a－a'
1. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性有 締まり極有 焼土。
2. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まりやや有 炭化物少量含む。掘り方。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性有 締まり欠 掘り方。

a－a' 0　1：20　1m

第 39 図　住居跡 16



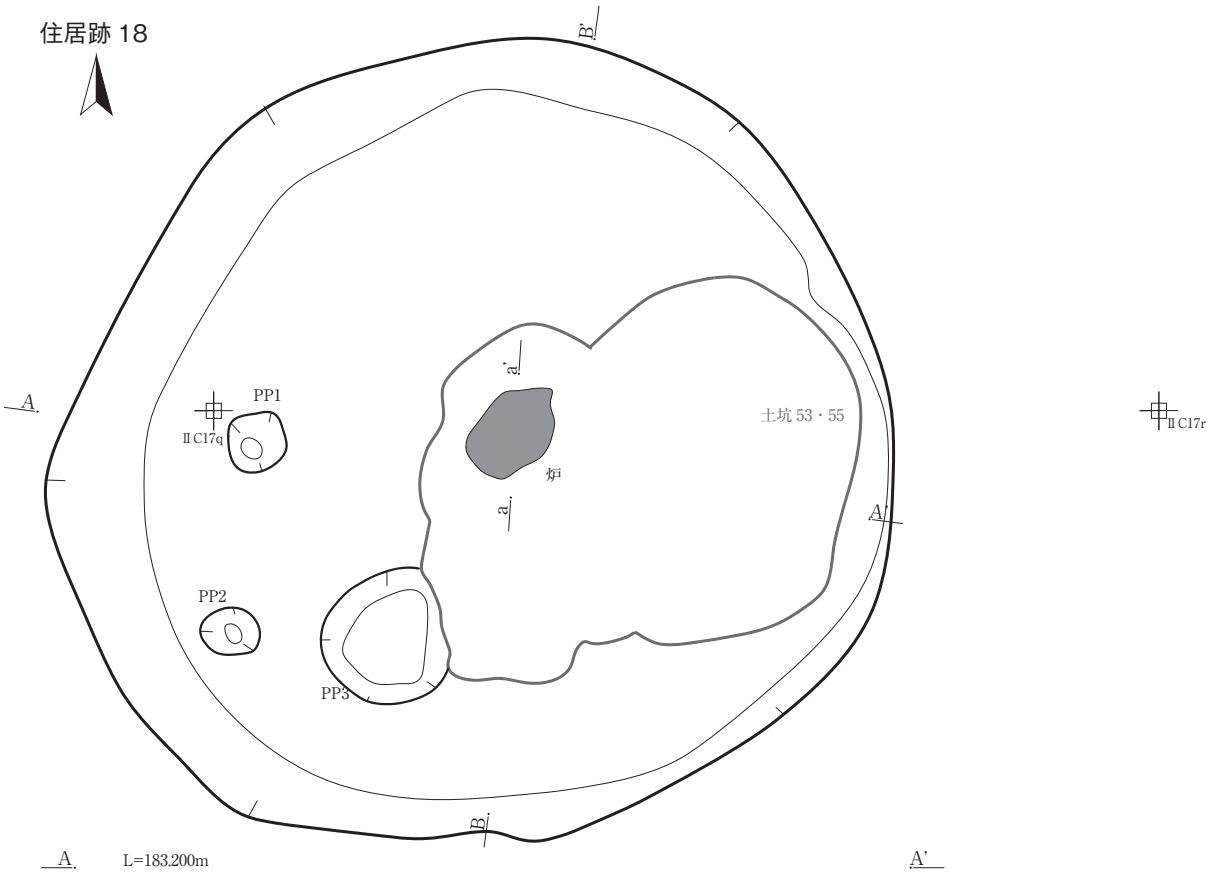
A－A'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強 締まりやや密 炭粒極微量含む。
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締まりやや密

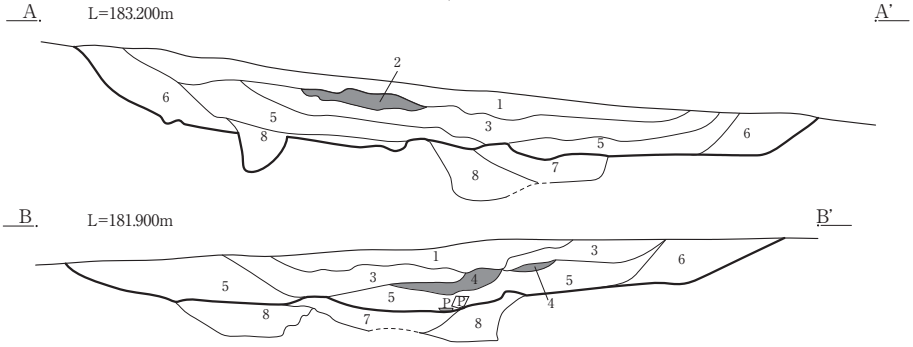
・東側壁が流失、床面平坦。
・西壁、北壁側も木根により大きく壊されている。
・南東壁際埋土上部に石皿出土。

0　1：40　2m

第 40 図　住居跡 17

住居跡 18

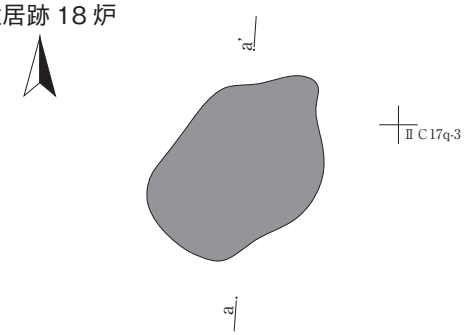


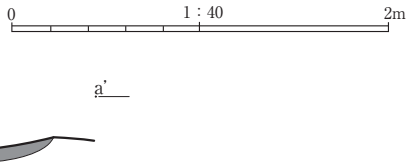


A－A'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性やや有 締まりやや密
2. 5YR4/8 ～ 5/8 赤褐色～黄褐色シルト、焼土 粘性やや有 締まり密 上部硬化顕著、現地性。
3. 10YR2/3 黒褐色シルト、粘性有 締まりやや密 １０YR3/3 シルトブロックやや多　全体に黒味強。
4. 5YR4/8 赤褐色シルト、焼土 粘性やや有 締まり密 硬化顕著、現地性。
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 地山ブロック微量含む。
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まり密 地山を多く含み黄味。
7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まりやや密 地山ブロック多量含む。
8. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 地山小ブロック少量含む。

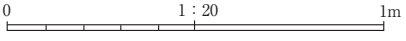
・平面形は円形～楕円形。
・床面平滑、壁は外傾（一部内湾）。埋土中に焼成面有（1 層下面、3 層下面）。それぞれ床面らしい面はみとめられない。凹地での燃焼行為の痕跡だろう。

住居跡 18 炉

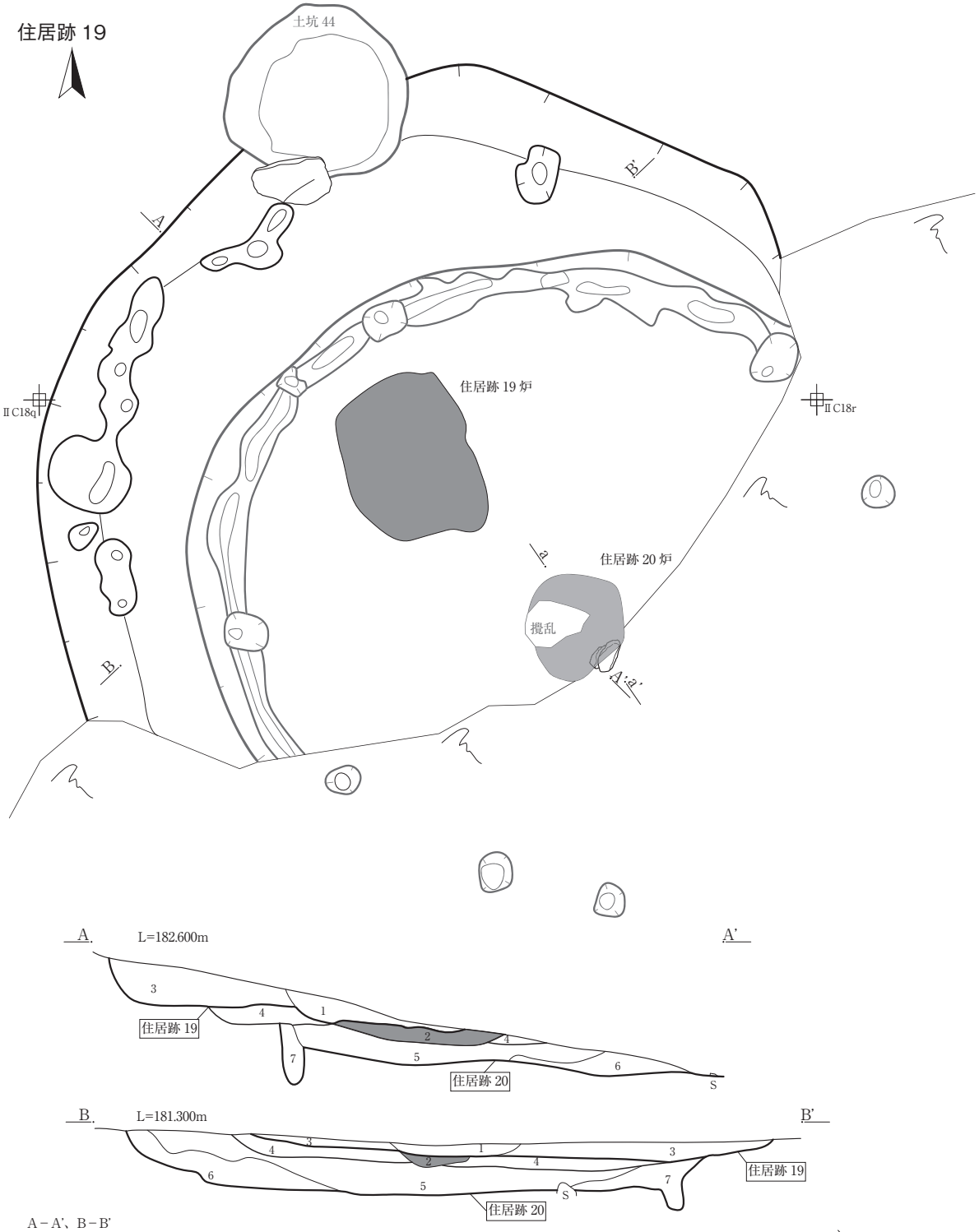




a－a'
1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性－ 締まり－（根撹乱？）
2. 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性やや有 締まり密 焼土　上部硬化。
※礫無し、痕跡不明。地床炉か。



第 41 図　住居跡 18



A－A'、B－B'

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性有 締まりやや弱 炭粒（φ5 - 10 ㎜）少量含む（かなり目立つ）。全体に黒味強い、2 層（焼土層）を覆う。
2. 5YR5/8 明赤褐色シルト、焼土 粘性やや有 締まり強　上部にはガッチリと硬化。上面が燃焼面の現地性焼土。
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒（φ5 ㎜）極微量含む。
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 地山ブロック少量含む。（住居跡 19 の掘方）

1～4 層－住居跡 19

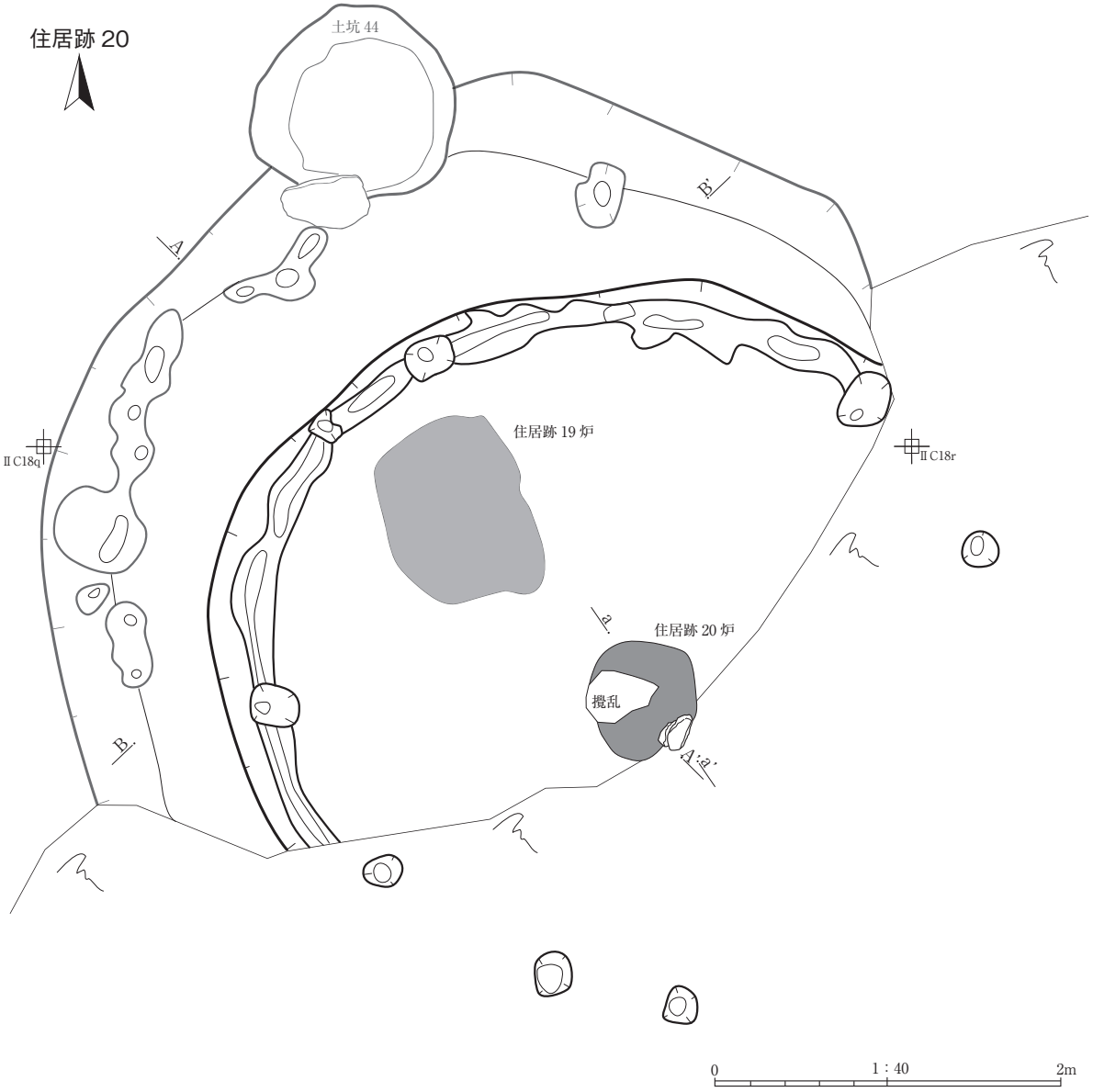
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒（φ5 ㎜）極微量含む。
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山土含み、やや黄味。
7. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや疎 壁溝埋土。

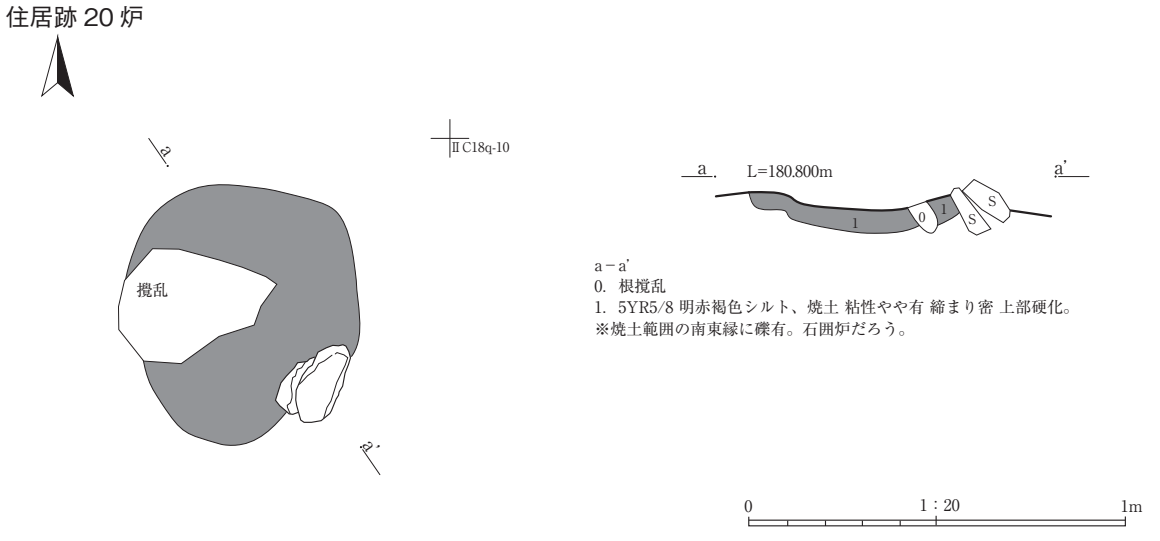
5～7 層－住居跡 20

・2 棟重複（1～4、及び 5～6 層）
・1～4 層の住居は円～楕円形、4 層上面が床面とみられるが硬化面は認められない。
・2 層の焼土が炉か？ただし焼土の平面範囲が大きすぎ。埋土中に生成した焼土の可能性もある。北西壁に土坑重複するが新旧不明。埋土が 3 層によく似る。
・5～6 層住居は方形基調の平面を持つか？ほぼ直立する壁面下に深い小溝を持つ。東壁流失、石囲炉を持つ。

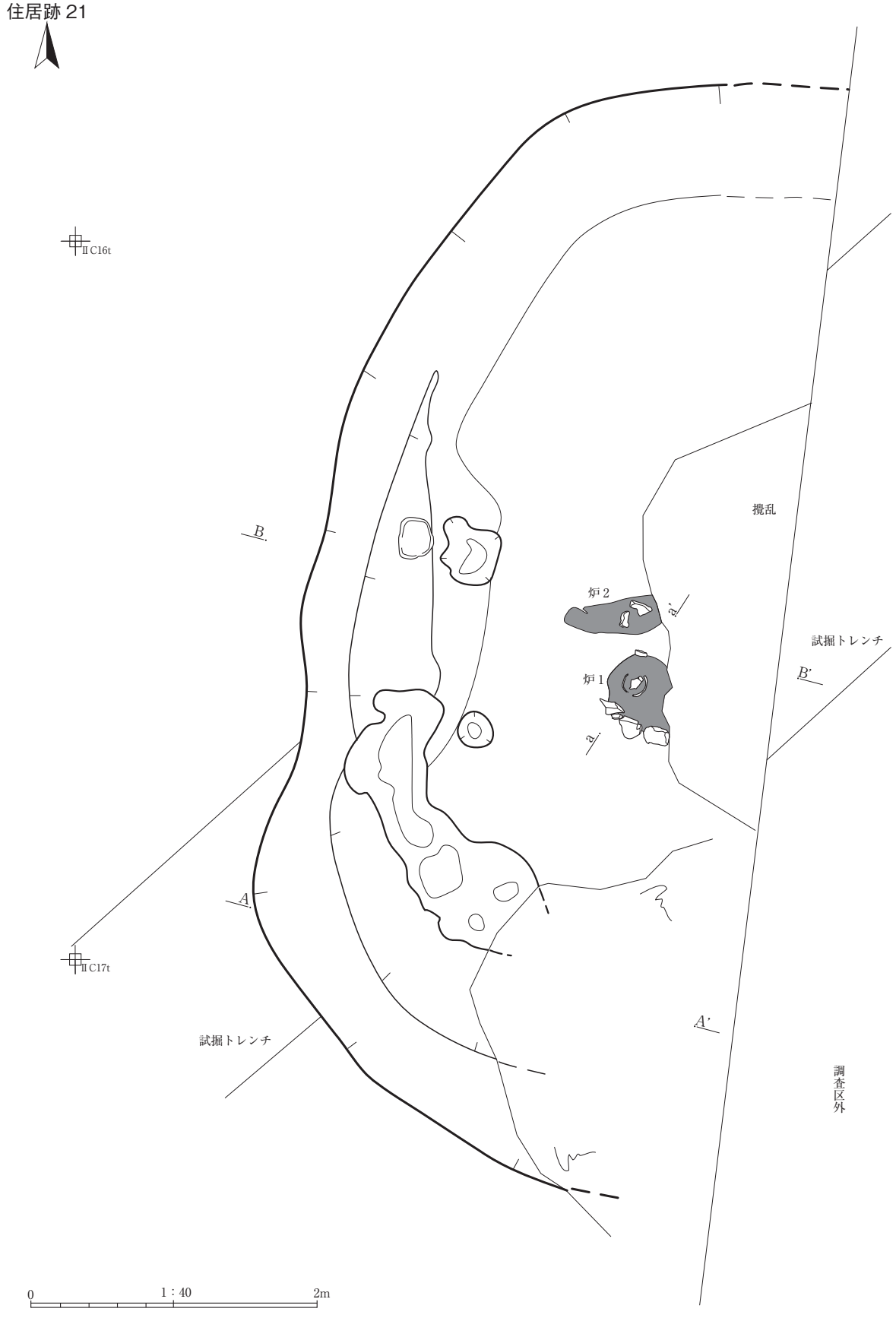
0　1：40　2m

第 42 図　住居跡 19　住居跡 20（1）

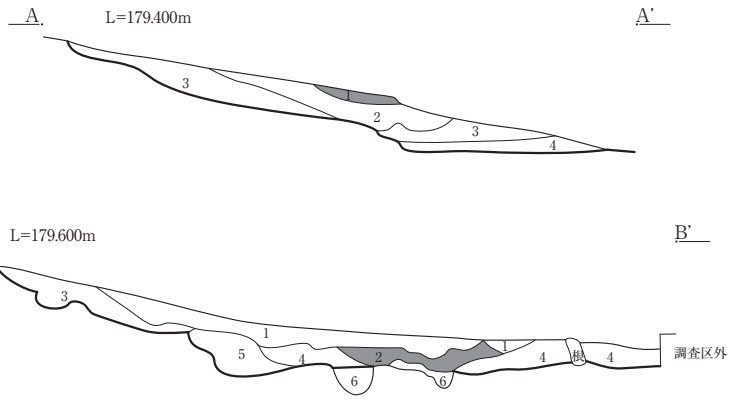

住居跡 20
土坑 44
A
A'
B
B'
住居跡 19 炉
住居跡 20 炉
撹乱
Ⅱ C18q
Ⅱ C18r
a
a'
0
1：40
2m


住居跡 20 炉
Ⅱ C18q-10
a
a'
撹乱
a
L=180.800m
a'
1
0
1
S
S
a－a'
0. 根撹乱
1. 5YR5/8 明赤褐色シルト、焼土 粘性やや有 締まり密 上部硬化。
※焼土範囲の南東縁に礫有。石囲炉だろう。
0
1：20
1m

第 43 図　住居跡 20（2）



第 44 図　住居跡 21（1）



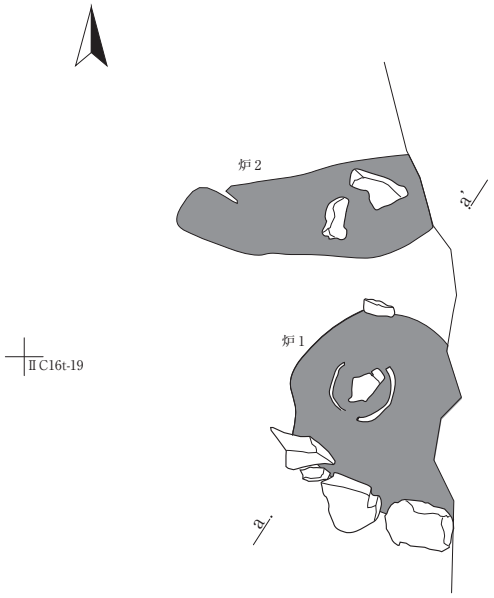
A－A'
1. 5YR4/8 赤褐色シルト 焼土　粘性やや有 締まりやや密 上面硬化。現地性。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒極微量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロック少量含む。
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山土多量含む。

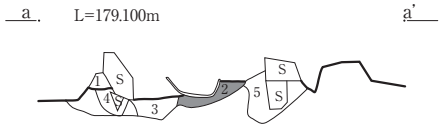
B－B'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや密
2. 5YR4/8 赤褐色シルト、焼土 粘性やや有 締まり密 上部著しく硬化。現地性。
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや有 締まり密 地山ブロックやや多い。
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性有 締まりやや密 炭粒極微量含む。
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性有 締まりやや密 地山土含み黄味。
6. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや有 締まりやや密 炭粒微量、地山粒極微量含む。

0　1：40　2m

・住居跡 21 は北側と南側にそれぞれ 1 棟ずつの 2 棟重複の可能性高い。
・また、北側では上下に 2 棟重複している可能性あるので計 3 棟かもしれない。
・北側 B－B' 1～3 層が上位（新）、4～5 層が下位（旧）
・B－B' 埋土 2 層の焼土は上面がガッチリ硬化した現地性焼土であり、上位住居の炉の可能性高い。しかし、床面と考えられる 1 層下面には、明瞭な硬化は認められず、2 層が埋土中に生成したものである可能性も考慮しなければならない。
・下位住居床面には土器の埋設を伴う石囲炉が検出された。炉周辺には硬化面の広がりが認められるが、木根の撹乱が著しく、残存状態は不良である。

住居跡 21 炉



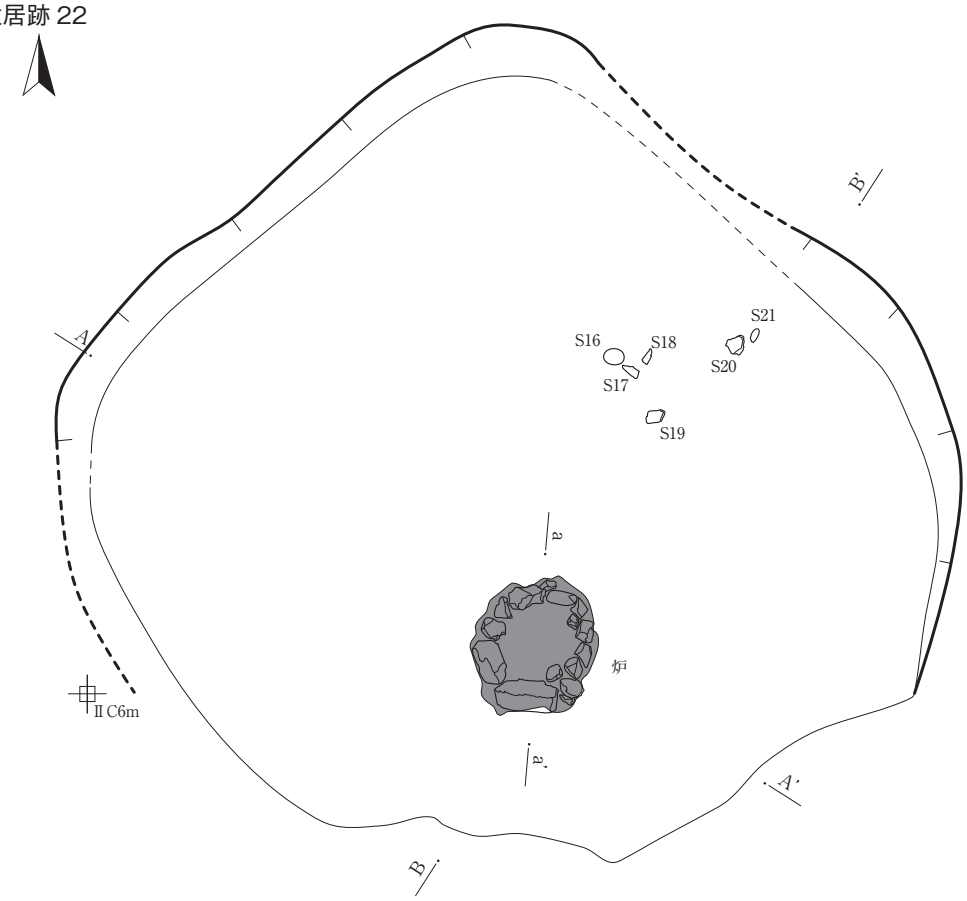


a－a'
1. 10YR2/3 黒褐色 粘性有 締まりなし。
2. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性有 締まり有 焼土。
3. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり欠 撹乱か。
4. 10YR4/6 褐色 粘性有 締まり有 掘り方。
5. 10YR3/4 暗褐色 粘性有 締まり欠 掘り方。

0　1：20　1m

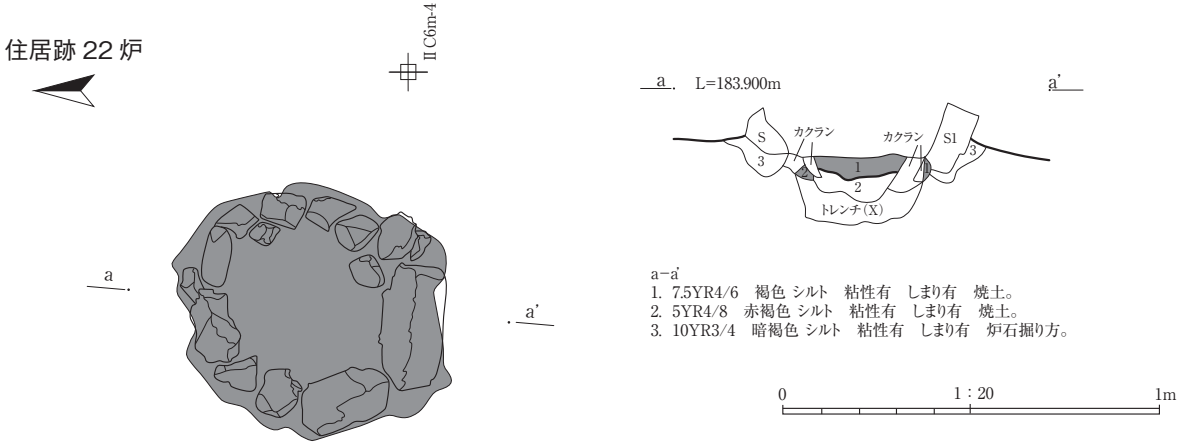
第 45 図　住居跡 21（2）

住居跡 22



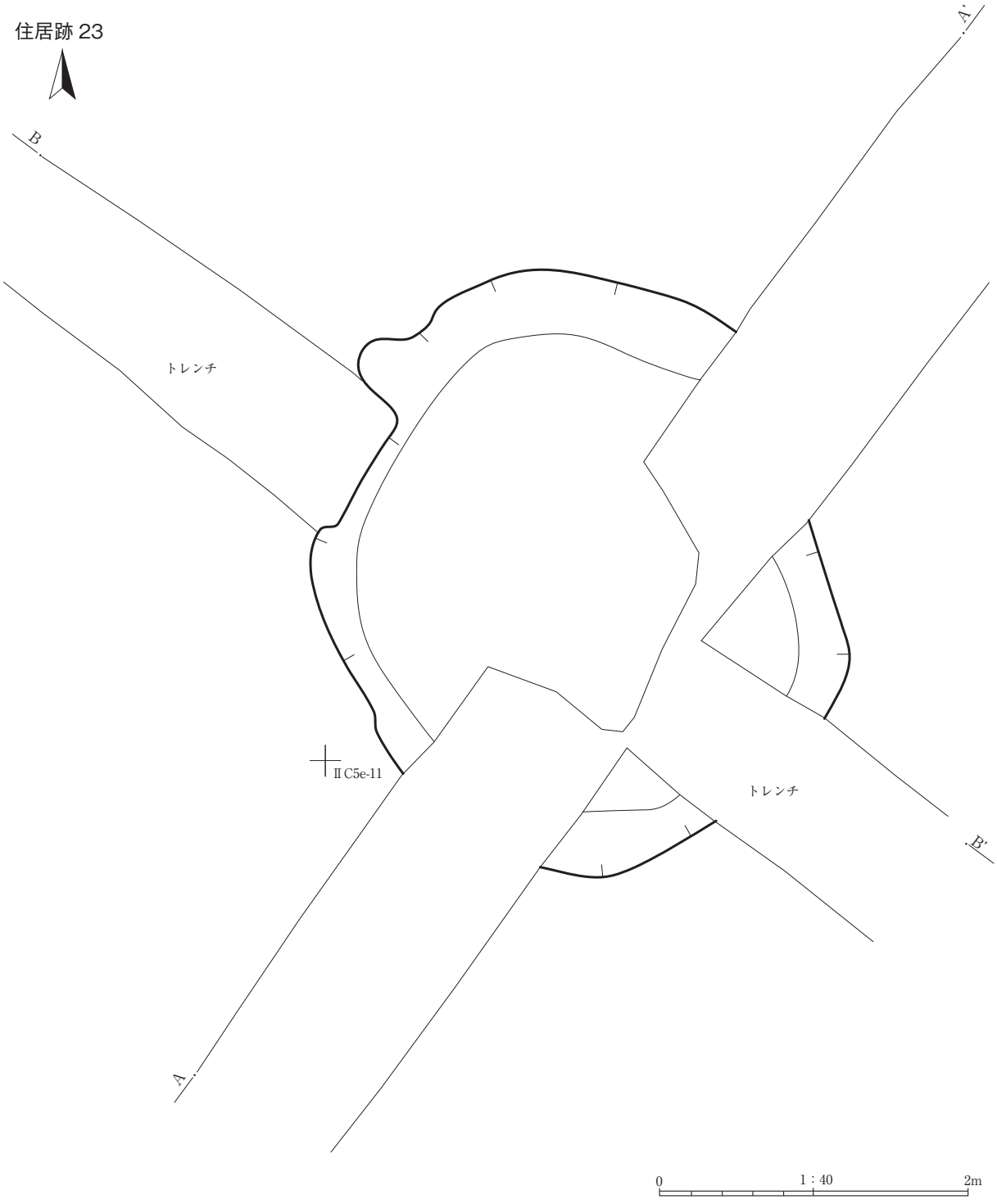
A－A'、B －B'
0. 根攪乱
1. 10YR3/3～3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや密　炭粒径 5 ㎜　微。
2. 10YR4/4～4/6　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり密　地山再堆積層。
※地山黄褐土上面で検出。略円形の暗褐土範囲。
　平面形は略円形と推定。斜面下方（南東側）流失。壁は内弯外傾。床面概ね平坦だが、根攪乱による小規模な凹凸目立ち、南東側に緩く傾斜。
　床面中央付近に径 10～20cm 角レキによる円形石囲炉、レキ内面側の赤変顕著。
　北東部壁際に敲磨器及び粘板岩片出土。いわゆる剥片石器（刃器）の用途で使用されたか…?

住居跡 22 炉

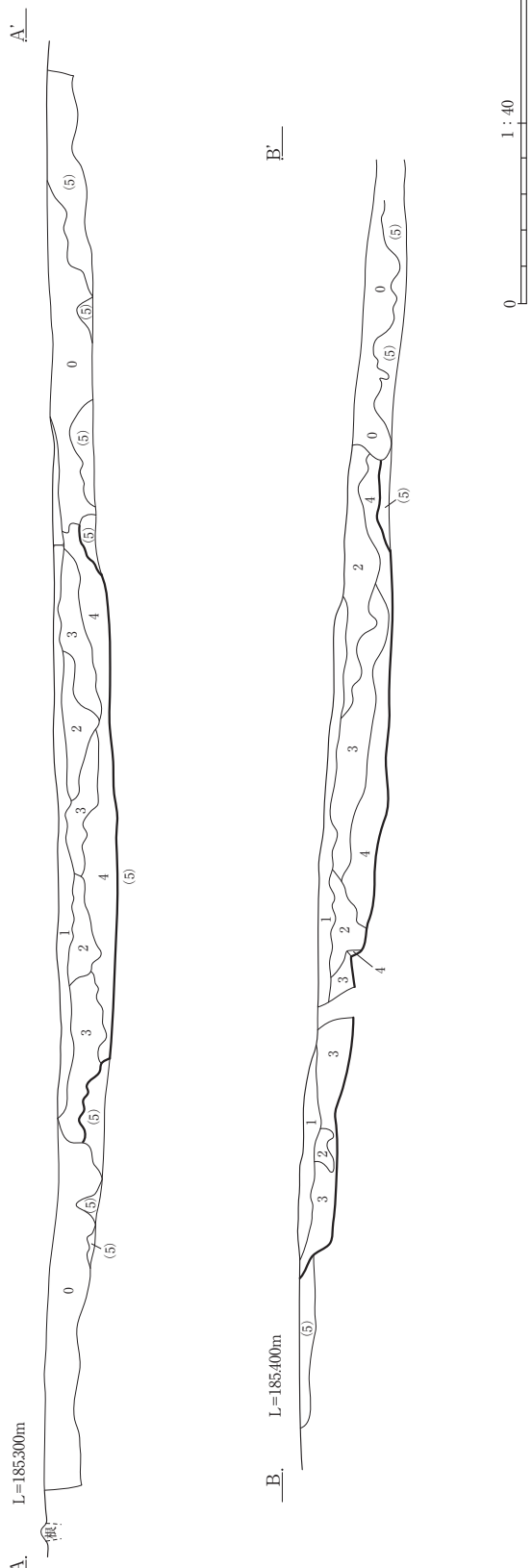


a－a'
1. 7.5YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土。
2. 5YR4/8　赤褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土。
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　炉石掘り方。

第 46 図　住居跡 22

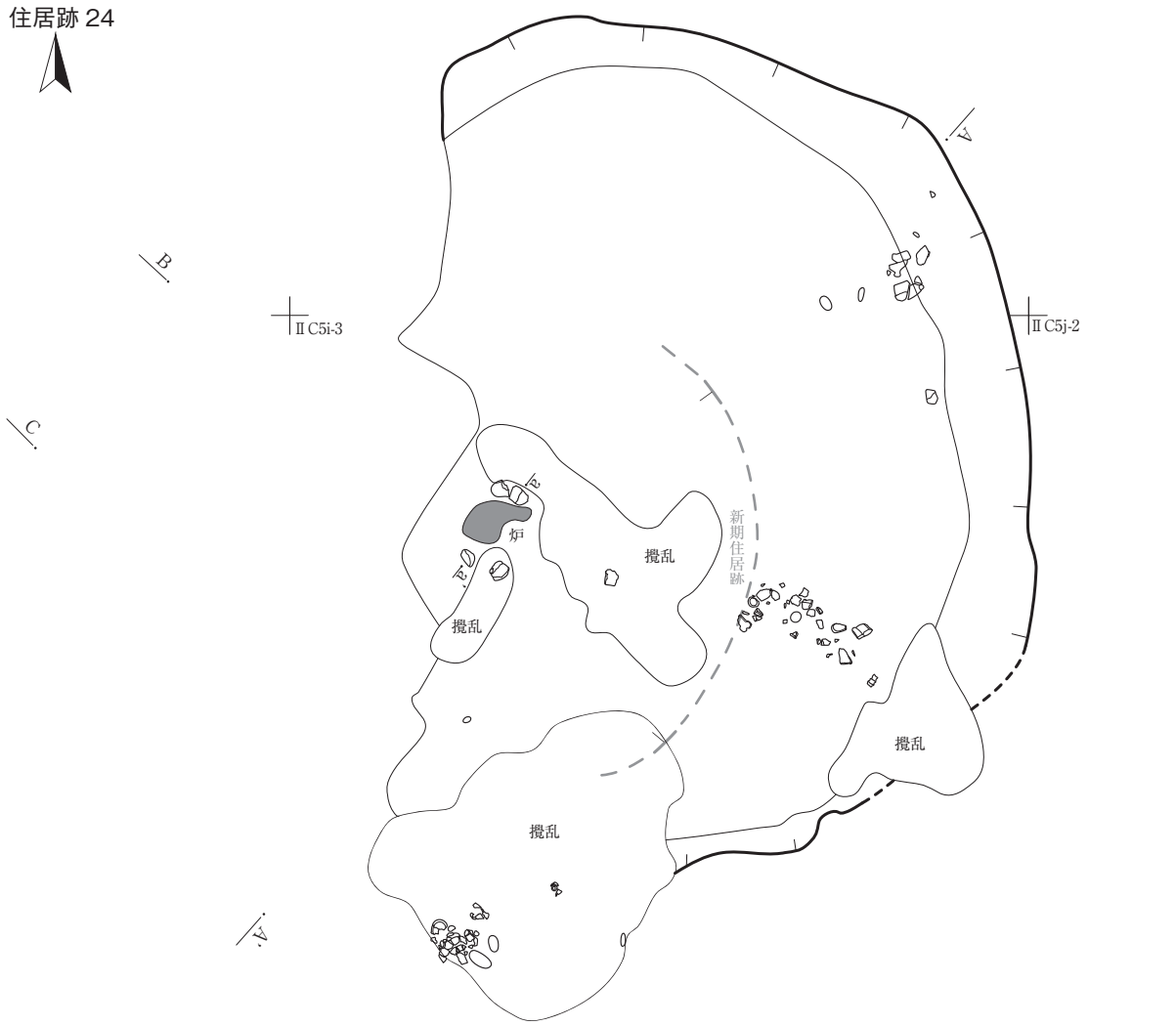


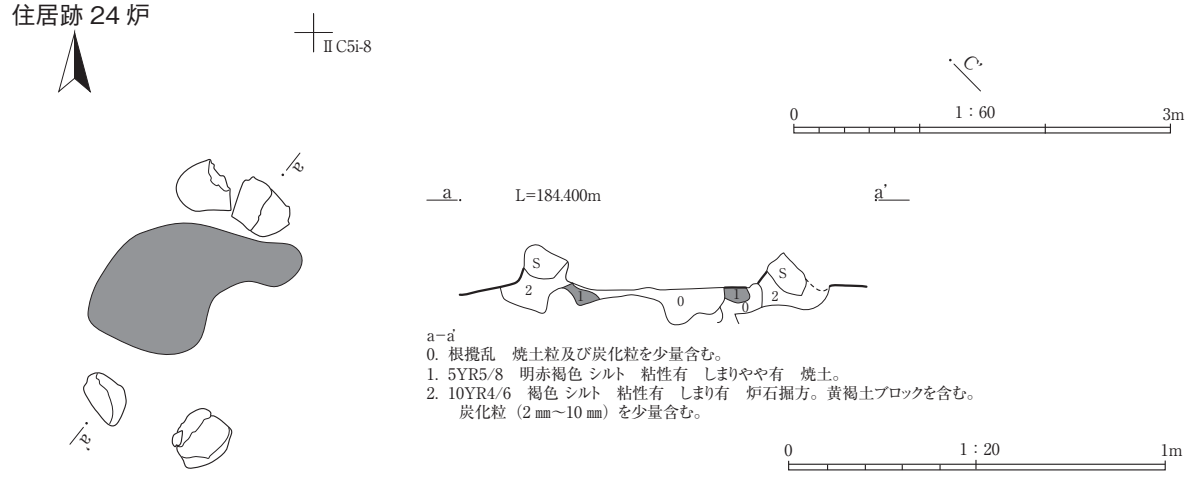
第 47 図　住居跡 23（1）



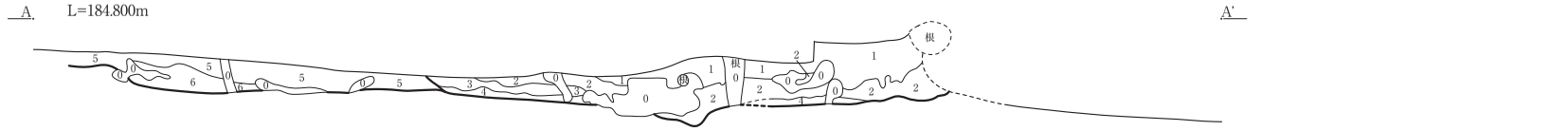
A–A'、B–B'
0. 根攪乱
1. 10YR4/4 ～ 4/6　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや疎　混入物なく一様。付近に広く分布する土層。
2. 10YR3/3 ～ 3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや密　黄褐土（地山土）ブロック微。径 2.5 mmの炭粒　微（目立つ）。埋土中において最も黒味もつ層。
3. 10YR4/4 褐色～ 3/4 暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり中　2に地山土ブロック少量含む。（2より明るく 4 より暗い）
4. 10YR4/6 褐色～ 5/8 黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや密　地山土（5）に似るが、しまりを欠き、やや暗い。地山土の再堆積層か。
(5)　10YR5/6 ～ 5/8　黄褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり密　4 層下面に接する部分ではやや白っぽい。地山構成層。
※地山土層上面で検出。範囲不明瞭な褐色土の広がり。埋土最下層は地山再堆積層とみられる黄褐土。地山に比してしまり欠き暗い。
1 層と 3 層間に挟在する 2 層土は炭粒目立つ黒味ある土層。本遺構周辺にやや広く分布（遺構外にも…）。
・底面は概ね平坦で滑らかだが、中央が最も低くなる。壁は内弯外傾でゲラゲラ。
・壁外にはテラス状の一段高い面が広がるが、後世の自然作用の可能性。

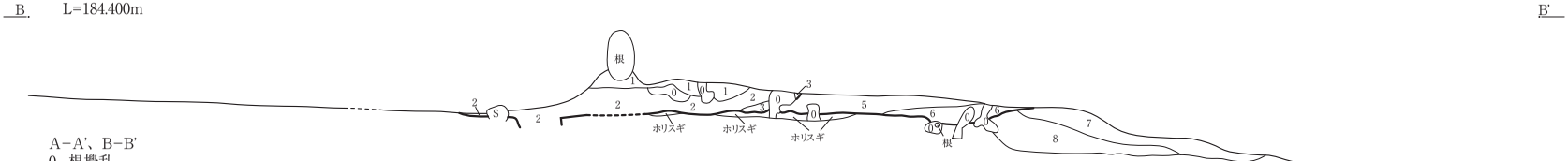
第 48 図　住居跡 23（2）


住居跡 24
ⅡC5i-3
ⅡC5j-2
A
A'
B
B'
C
C'
P
P'
炉
攪乱
攪乱
新期住居跡
攪乱
攪乱


住居跡 24 炉
ⅡC5i-8
P
P'
C
C'
0
1：60
3m
a
a'
L=184.400m
S
2
1
0
1
0
S
2
a−a'
0. 根攪乱　焼土粒及び炭化粒を少量含む。
1. 5YR5/8　明赤褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　焼土。
2. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炉石掘方。黄褐土ブロックを含む。
炭化粒（2 ㎜〜10 ㎜）を少量含む。
0
1：20
1m

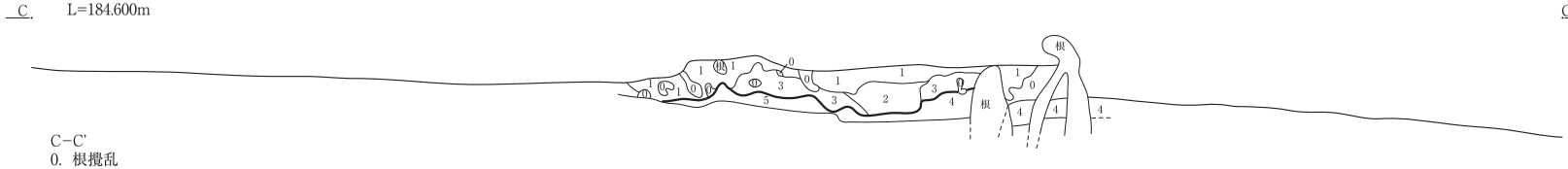
第 49 図　住居跡 24（1）



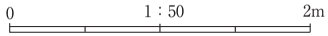


A−A'、B−B'
0. 根攪乱
1. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや疎　木根目立つ。まっ黒な層。
2. 10YR2/3 黒褐色〜3/3 暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　1 に比して明るい。炭粒径 2〜5 ㎜　ごく微。
3. 10YR2/2〜2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　2 より黒味。炭粒 2〜5 ㎜　ごく微。
4. 10YR3/3〜3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　地山黄褐土ブロックやや多。掘方埋土?

5. 10YR3/3〜3/4　暗褐色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや密　混入物目立たず一様の層。
6. 10YR3/4　暗褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり密　5 に黄褐土ブロック少。壁際に堆積。
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　5 に似る。
8. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり密　7 より黄味強。上・下面層界不明瞭。漸移層様。
※1〜4：新期、5・6：古期。
暗褐土上面で遺物を多く含む黒色土範囲として認識。
プラン不明瞭のため、任意のベルトを残し掘り下げたところ、床面・炉を検出。住居と認定した。
土層断面から 2 棟以上の重複とみられる。西側が新しい。石囲炉は新期住居に伴うとみられる。
新・古の両住居の床面がほぼ同レベル。平坦に整っている。遺物は南東部に多い。
新期・古期の重複部に相当し、どちらに帰属するか不明なもの多い。南東部の不整形な落ち込みは風倒木痕。

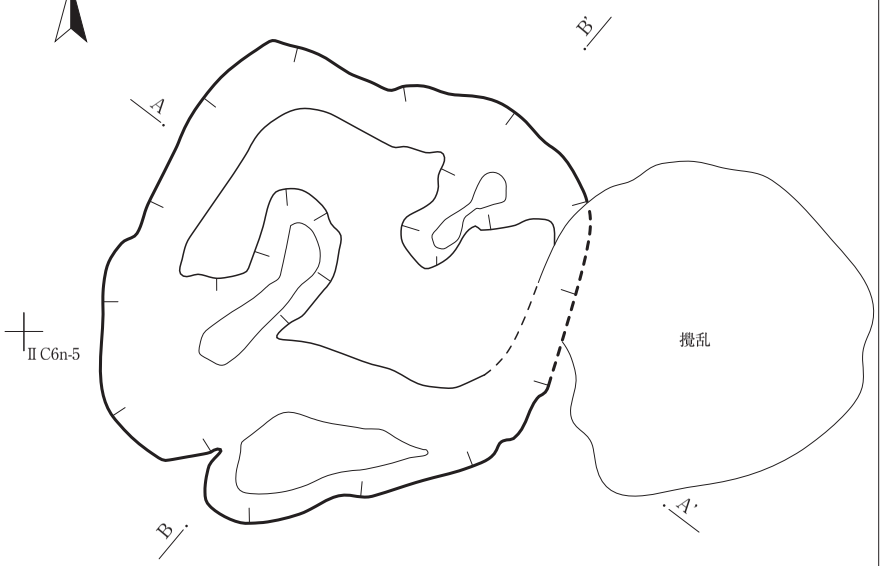


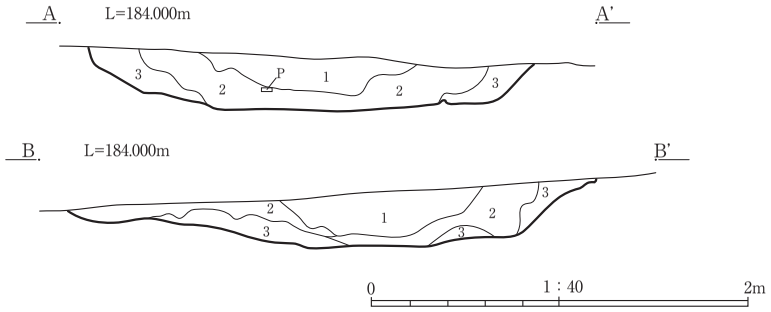
C−C'
0. 根攪乱
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや疎　木根多。
2. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒径 5 ㎜　微 (目立つ)。
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　2 層に地山ブロックやや多。
4. A−A'・B−B' の 7 層に同じ。
5. A−A'・B−B' の 8 層に同じ。



第 50 図　住居跡 24 (2)

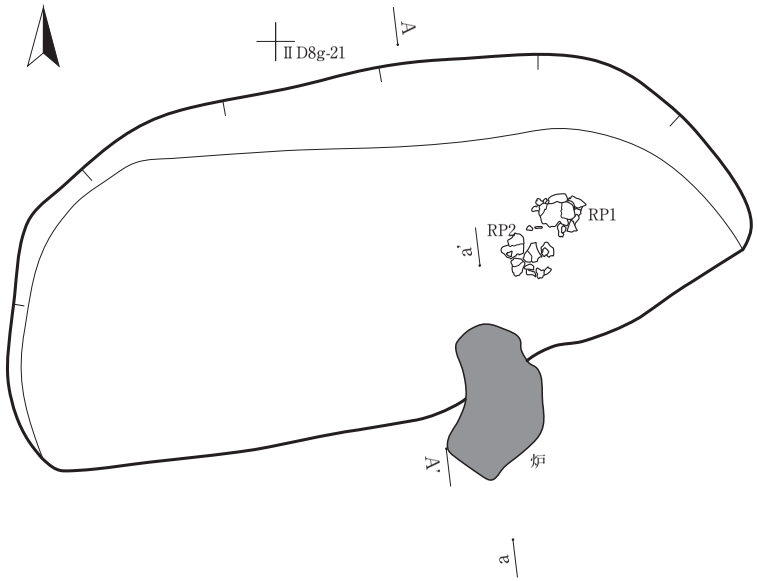
住居跡 25

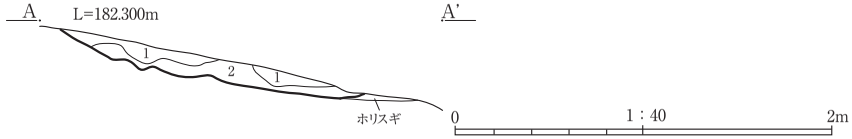




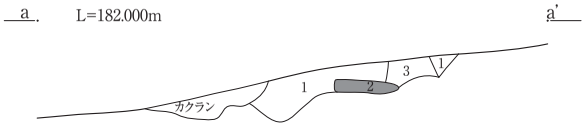
A−A'、B−B'
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり密　炭粒径 2〜5 ㎜　ごく微。
2. 10YR3/4　暗褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり密　地山ブロック径 20 ㎜　少。
3. 10YR4/6 褐色〜5/6 黄褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり密　地山土再堆積層。
※地山黄褐色土上面で検出。暗褐土の不整形範囲。
　平面形は不整楕円形、壁は内弯外傾、底面は中央部が平坦。壁下は凹凸目立つ。炉・柱穴なし。
　南東部壁際に大形レキ（本来地山基盤岩）。東部に風倒木痕重複。

住居跡 26

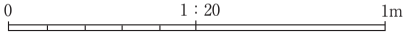




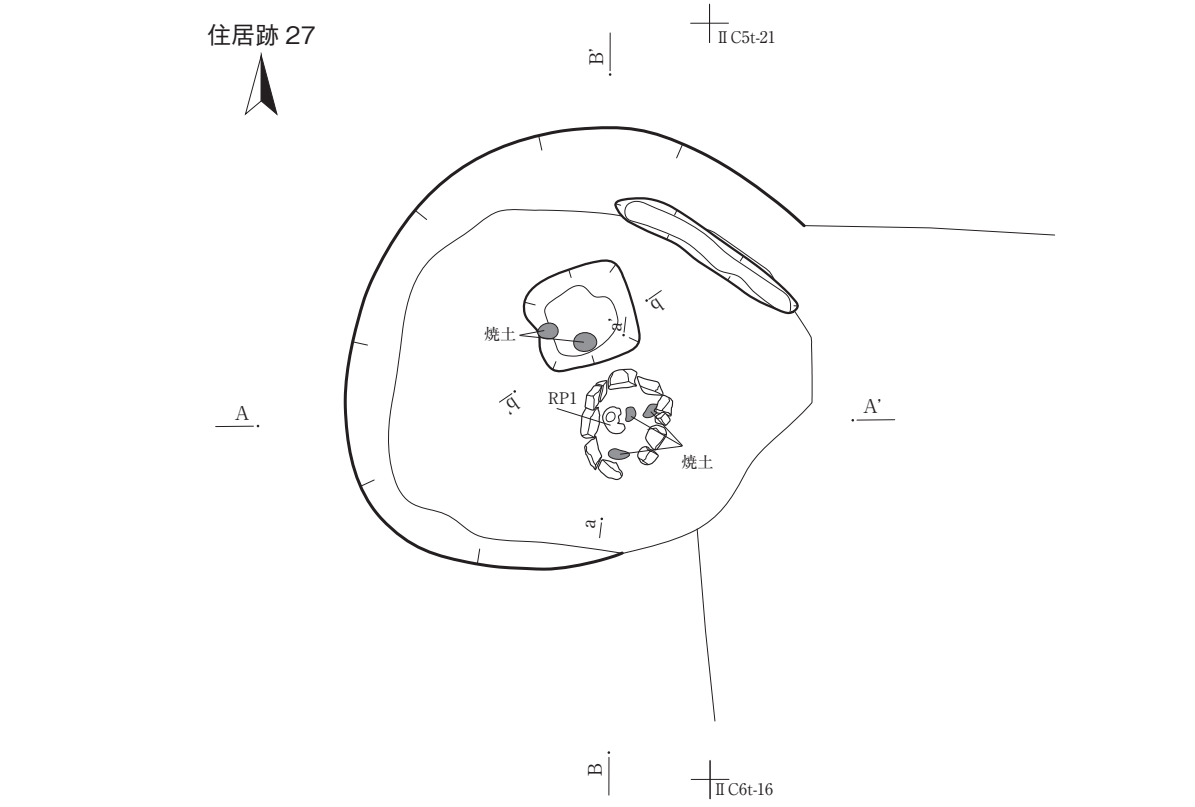
A−A'
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土粒（径 1〜2 ㎜）を少量含む。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　一部上位に黄褐土を縞状に含む。黄褐土粒微量。



a−a'
1. 7.5YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土がブロック状に散見。
2. 5YR4/8　赤褐色 シルト　粘性有　しまり有　被熱強。
3. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　焼土粒を含む。



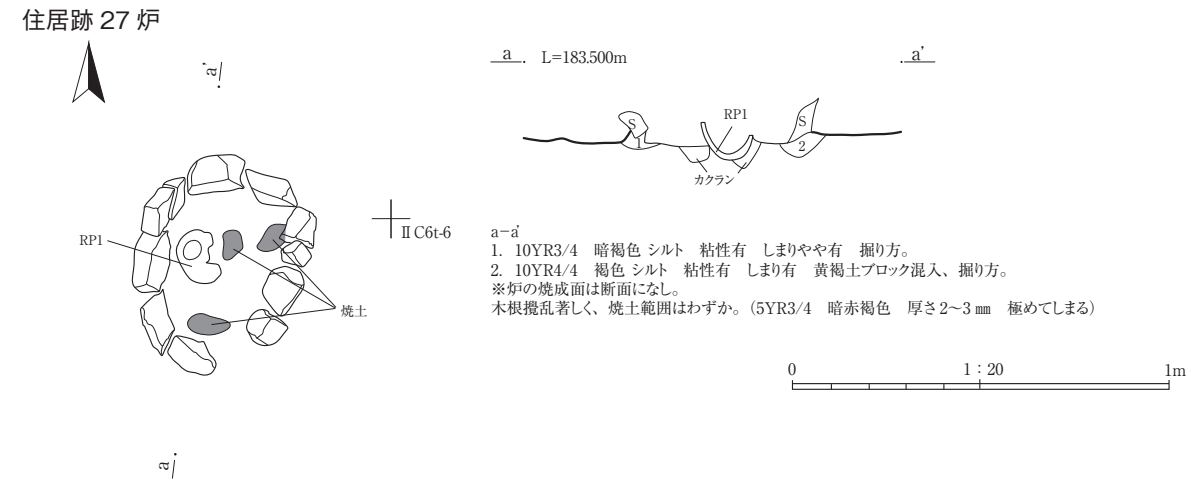
第 51 図　住居跡 25・26



A−A'、B −B'
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色　粘性有　しまりやや有
　検出面に焼土ブロック存在。炭化物を上部に多く含む。
2. 10YR3/4　暗褐色　粘性有　しまり有　一部褐色土含む　炭微。
3. 10YR3/3　暗褐色　粘性有　しまり有　下位に黄褐色土を含む。
4. 10YR2/3　黒褐色　粘性有　しまり欠　炉内付近に存在。
5. 10YR4/6　褐色　粘性有　しまり有　地山流入土。
6. 10YR3/4　暗褐色　黄褐色ブロックを混入。炭を上位に多く含む。

b−b'
1. 10YR4/4　褐色　粘性有　しまり有
2. 10YR3/4　暗褐色　粘性有　しまりやや有
3. 10YR2/3　黒褐色　粘性有　しまり有
4. 10YR3/4　暗褐色　粘性有　しまり有
　焼土ブロック・炭化物を多量含む。
5. 10YR5/6　黄褐色　粘性有　しまり欠　ブロック土。

0　1：40　2m

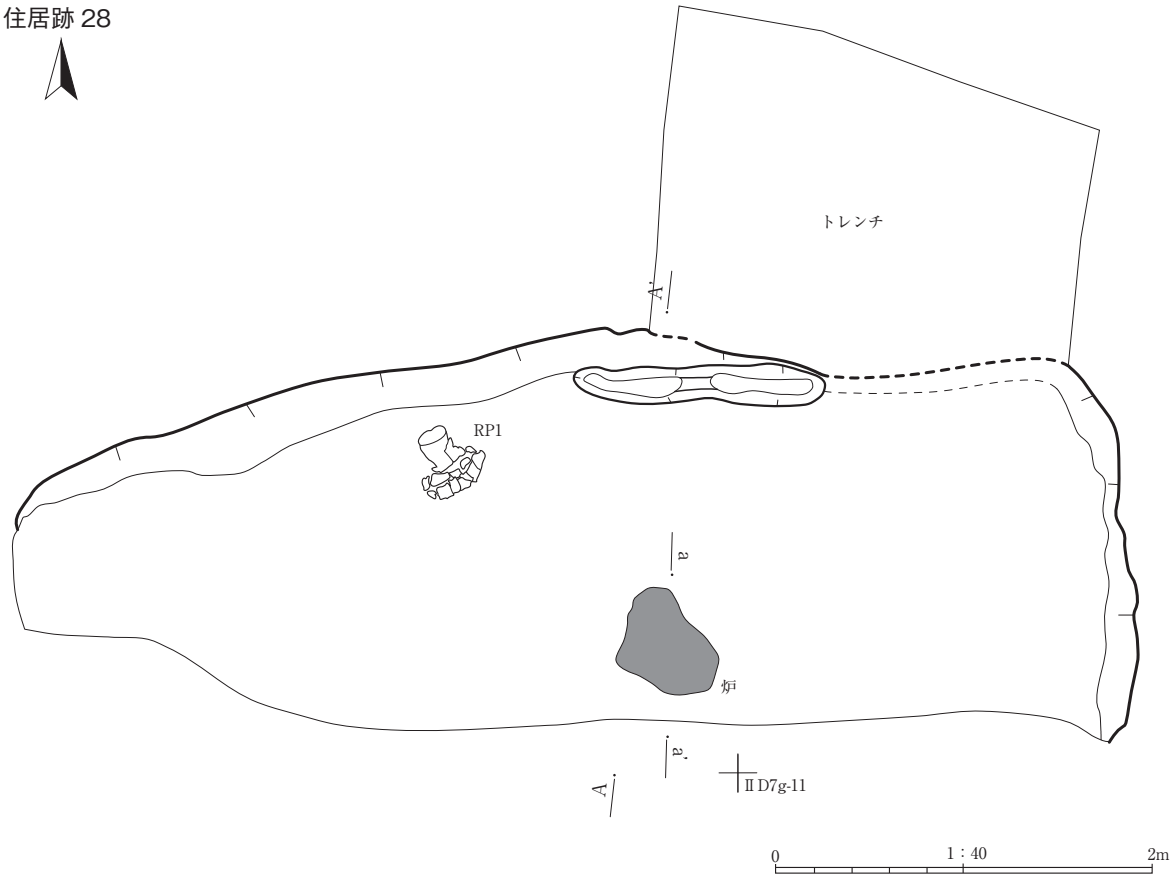


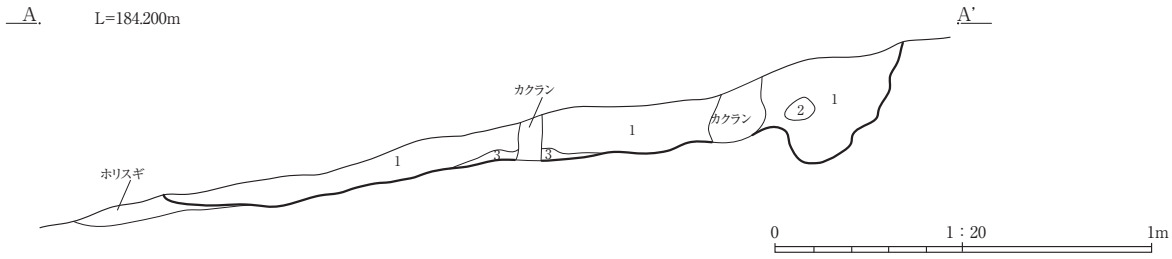
a−a'
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　掘り方。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土ブロック混入、掘り方。
※炉の焼成面は断面になし。
木根攪乱著しく、焼土範囲はわずか。（5YR3/4　暗赤褐色　厚さ2〜3㎜　極めてしまる）

0　1：20　1m

第 52 図　住居跡 27

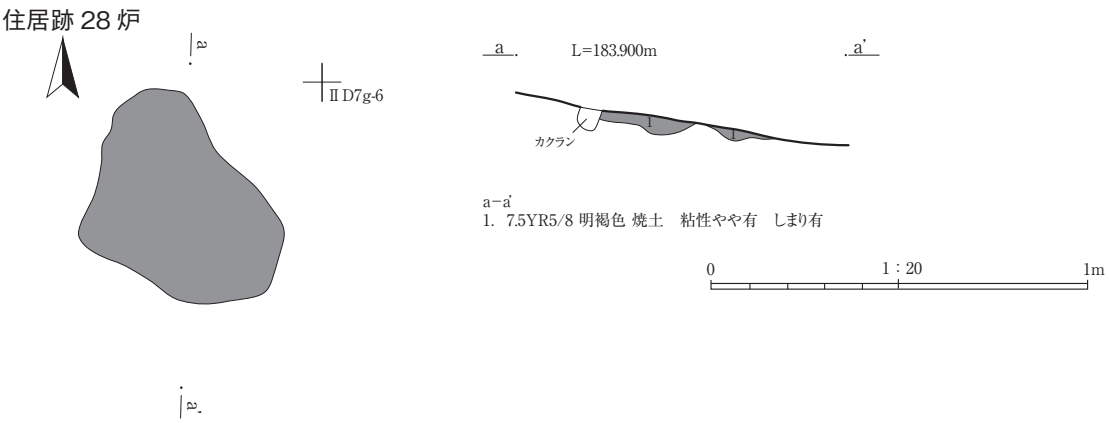
住居跡 28





A−A'
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　部分的に黄褐土ブロックを含む。
2. 7.5YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土（異地性）　粒状に散見。撹乱的。
3. 黄褐色土

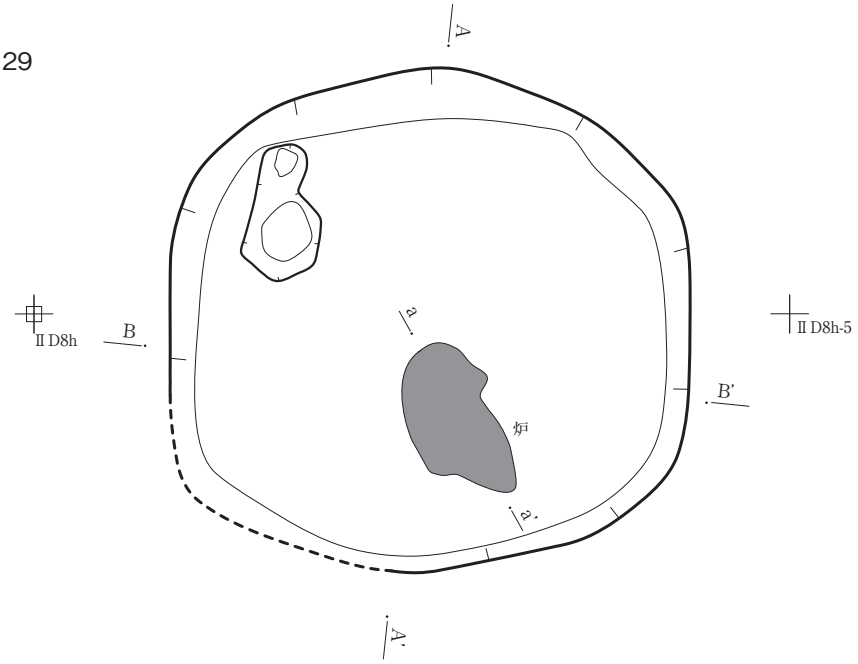
住居跡 28 炉

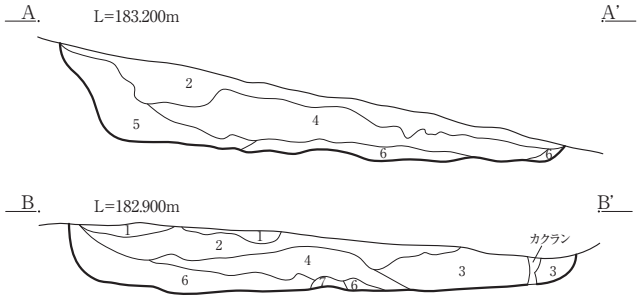


a−a'
1. 7.5YR5/8 明褐色 焼土　粘性やや有　しまり有

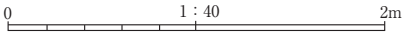
第 53 図　住居跡 28

住居跡 29

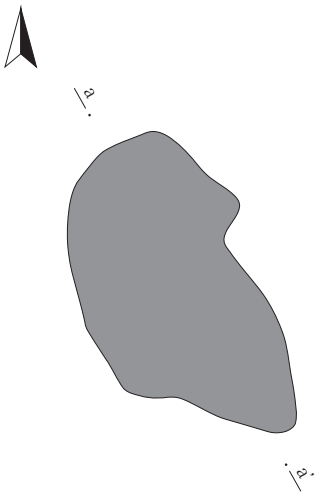


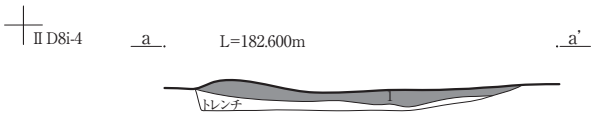


A－A'、B－B'
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり有
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物微量含む。
3. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物を多く含む。
5. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山流入土。
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　部分的に黄褐土ブロックが混入。
7. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠　焼土粒・炭化物を含む⇒炉直上層。

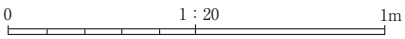


住居跡 29 炉

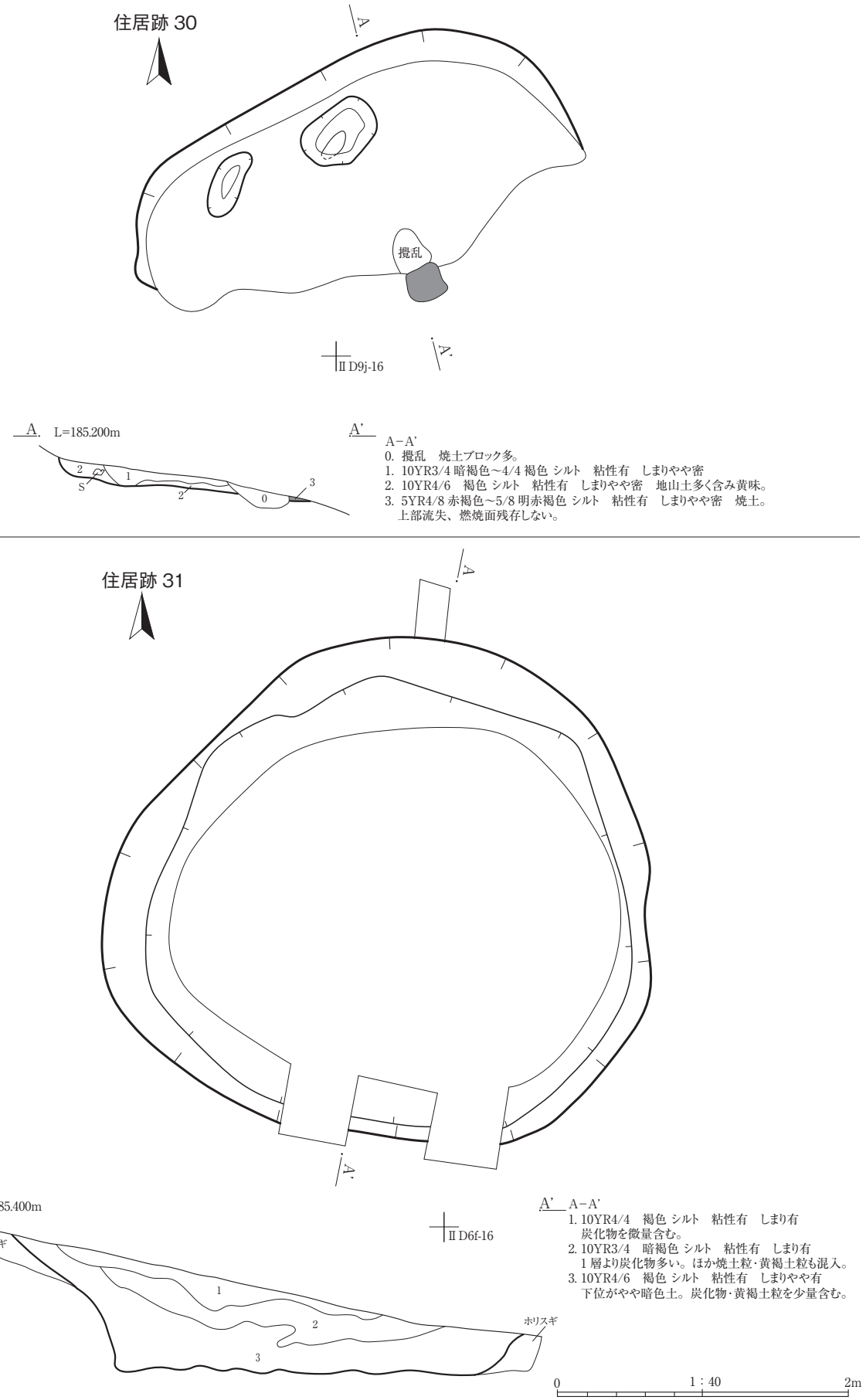




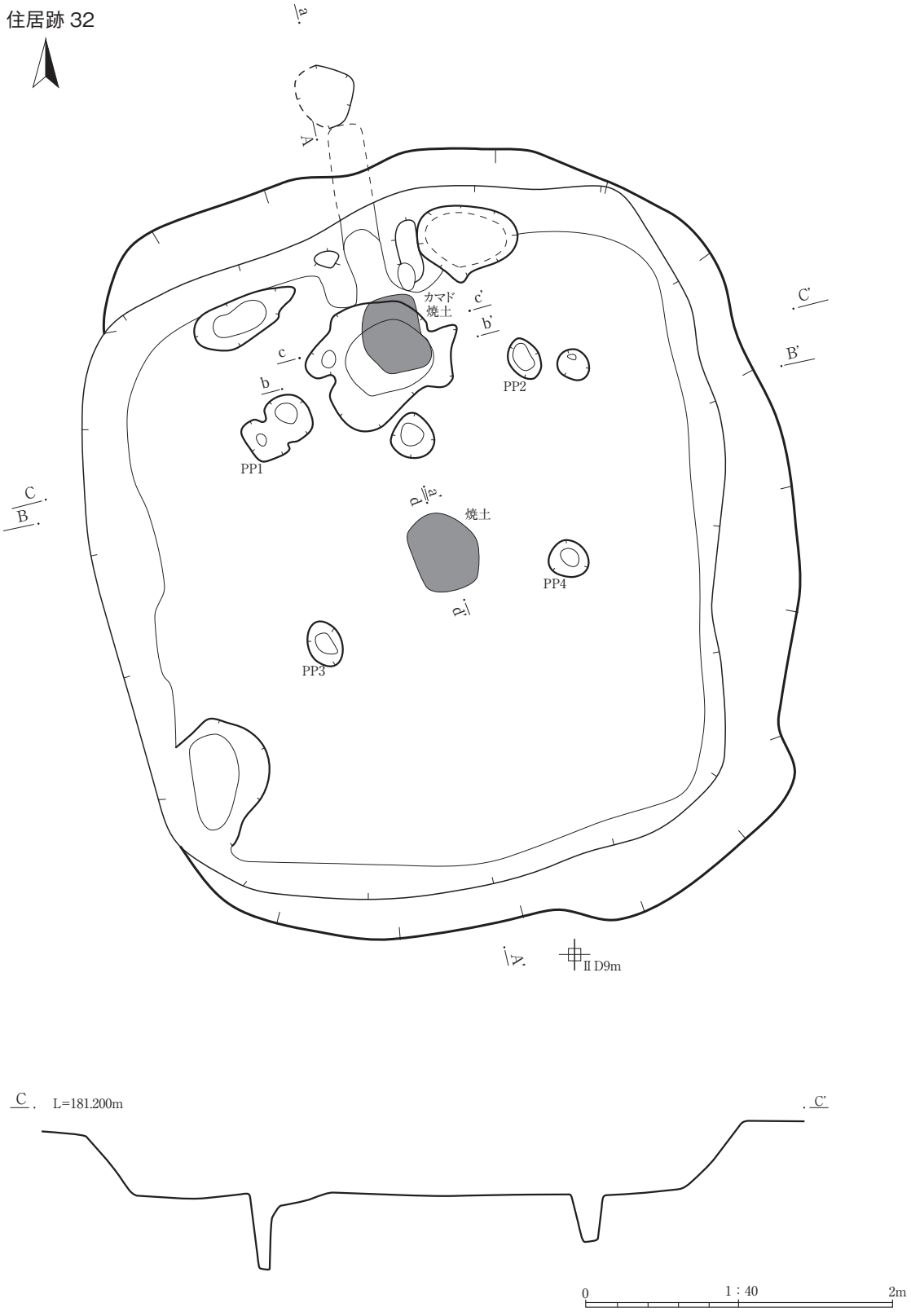
a－a'
1. 5YR4/8　赤褐色　粘性有　しまり極有　ブロック状に被熱。焼成良好。



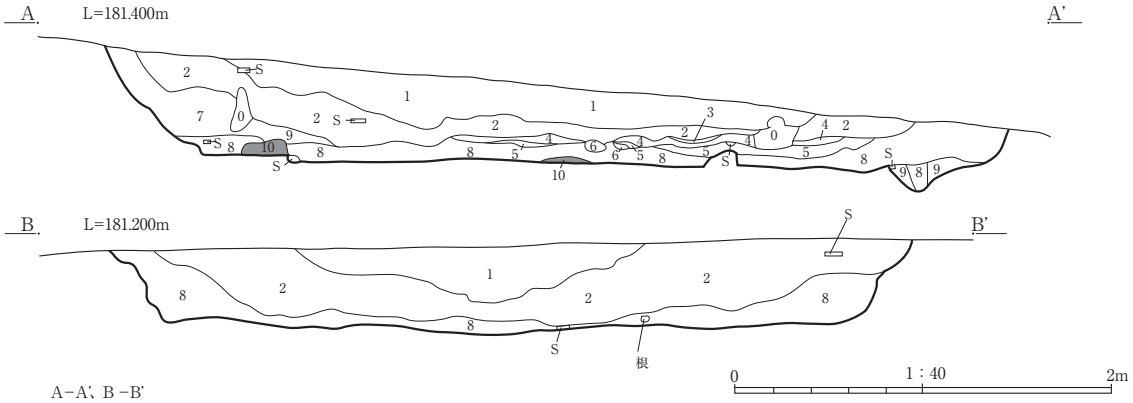
第 54 図　住居跡 29



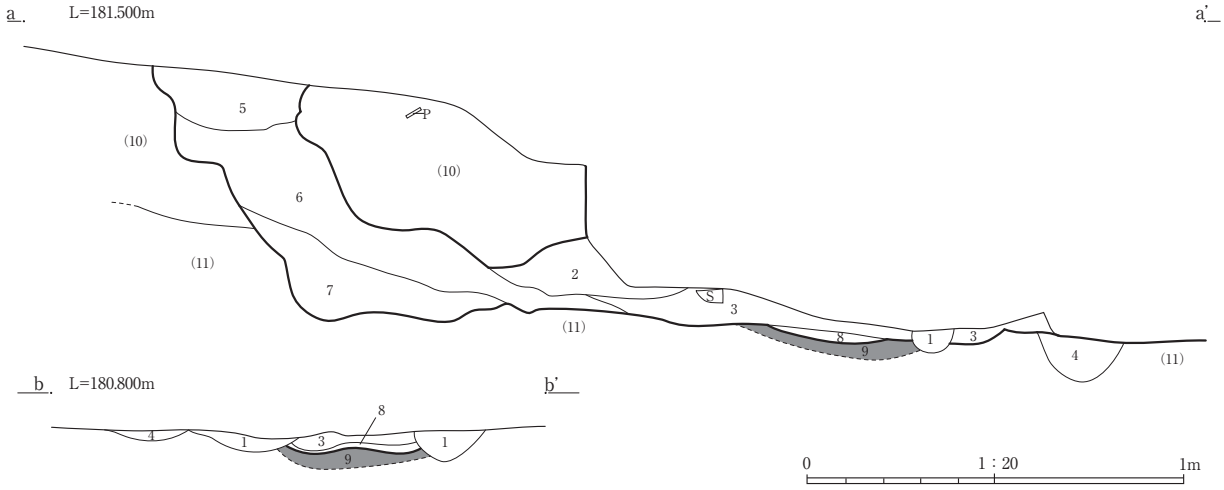
第 55 図　住居跡 30・31


住居跡 32
a
A
カマド
焼土
c'
b'
c
b
PP2
C'
B'
PP1
C
B
a'
焼土
PP4
PP3
A'
Ⅱ D9m
C
L=181.200m
C'
0
1：40
2m

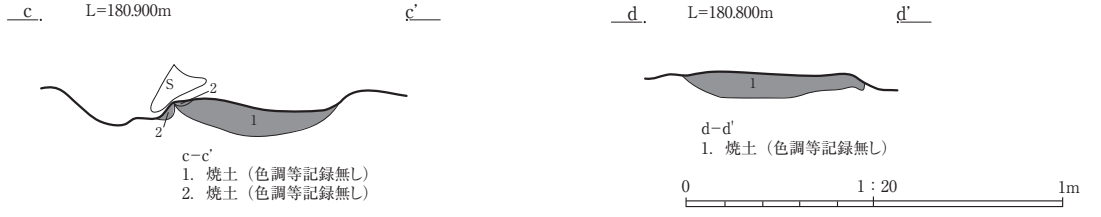
第 56 図　住居跡 32（1）



A−A'、B −B'
0. 根攪乱
1. 10YR2/2～2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密
2. 10YR2/3 黒褐色～3/4 暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐地山粒子　径 2.5 ㎜　ごく微量含む。1 よりやや明るい。
3. 10YR4/4～4/6　褐色 シルトブロック層　粘性やや有　しまり密　わずかに赤味。
4. 7.5YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや密　焼土粒　径 2.5 ㎜少。炭片　径 5～10 ㎜微。焼骨片・鉄滓様小塊含む。（特に 3 層下面付近に多）
5. 5YR4/6～4/8　赤褐色土 シルト　焼土　粘性有　しまり密　上面硬化し炭片の広がり認められる。
6. 10YR2/1 黒色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや密　炭化材が土壌化したものか。真っ黒。
7. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土含み、全体黄味。壁崩落層?
8. 10YR2/3 黒褐色～3/3 暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　下部ほど地山小ブロック多く含む。炭粒ごく微。床面直上層。
9. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　地山ブロック　径 20～30 ㎜やや多。
10. 5YR4/6　赤褐色 シルト　焼土　粘性やや有　しまり密　床面に生成の焼土。
※壁は中部までほぼ直立。上部が外反。壁際に地山土ブロックを多く含む土層。
・内部中央～南半にかけて、鉄滓・骨片・炭を含むやや大きな焼土が生成。埋没途中のものとみられるが要再検討。
・検出面は暗褐土上面　黒色土・隅丸方形プランとして。
・平面形は隅丸方形。



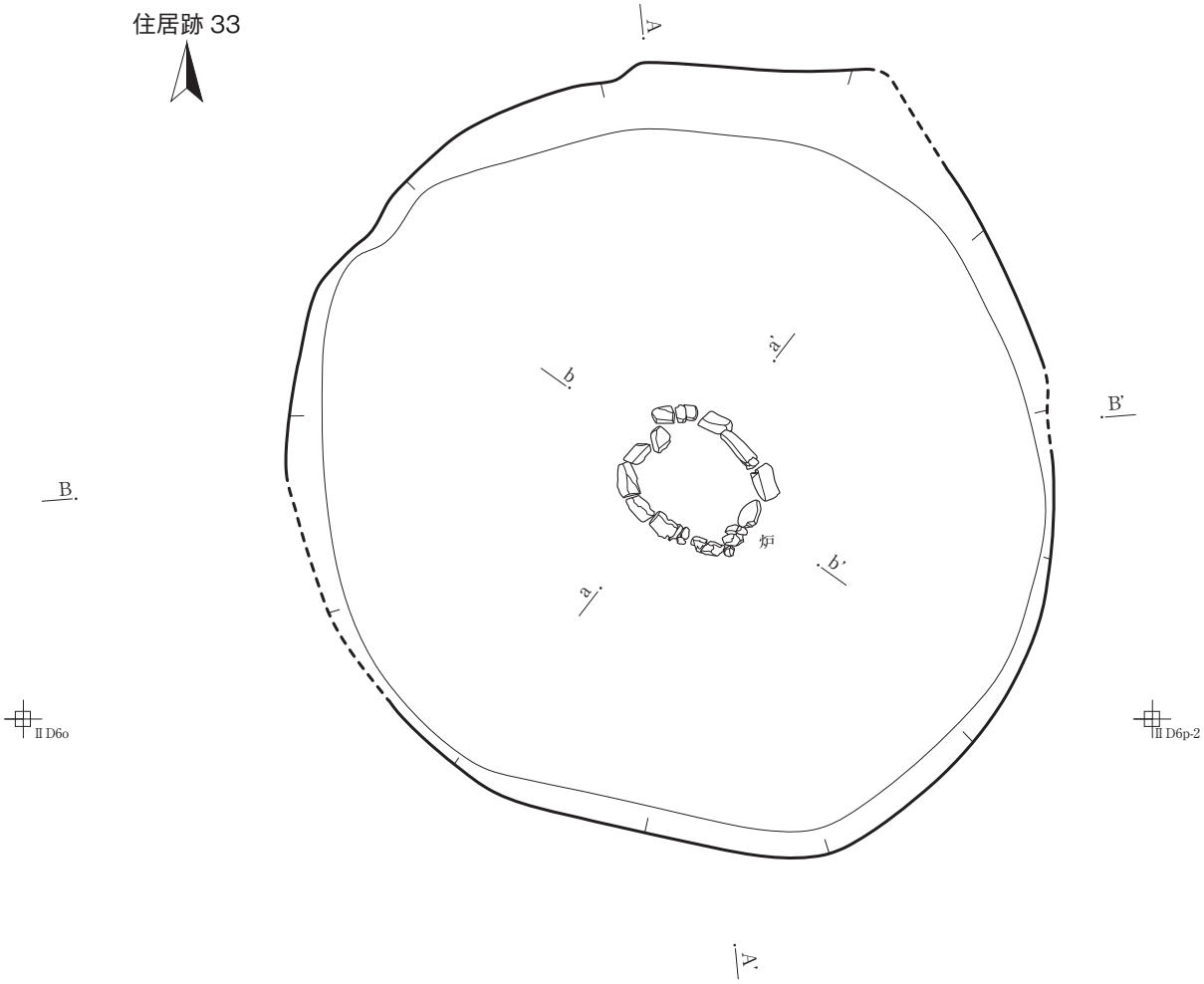
a−a'、b −b'
1. 10YR3/3～3/4　暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまり密
2. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや疎　黄褐土ブロック径 5～10 ㎜　少。焼土ブロック径 5～10 ㎜　微。　カマド～煙道部の天井崩落土。
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまり密　黄褐土粒径 2～5 ㎜　ごく微。カマド構築土の崩落層か（ソデ土に似る）。
4. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土ブロック径 5～10 ㎜　少。カマドの周囲をとりかこむようにある小さい凹みの埋土。
5. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや疎　黄褐土粒径 2～5 ㎜　微。
6. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや疎　黄褐土粒径 2～5 ㎜　少。5 に似るが黄褐ブロック多くやや明るい。
7. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや疎　黄褐土粒径 5～20 ㎜　少。炭粒　ごく微。焼土粒ごく微。
8. 7.5 YR3/4～4/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり密　焼骨細片やや多。燃焼面の直上層。灰層か?
9. 5YR5/8　明赤褐色 シルト　粘性やや有　しまり極密　カマド燃焼部　焼土層。上面がガリガリに硬化。
(10) 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　基本土層の暗褐土～褐色土に似るが、しまり欠くことから、縄文遺構埋土の可能性高い。
(11) 地山黄褐粘土層

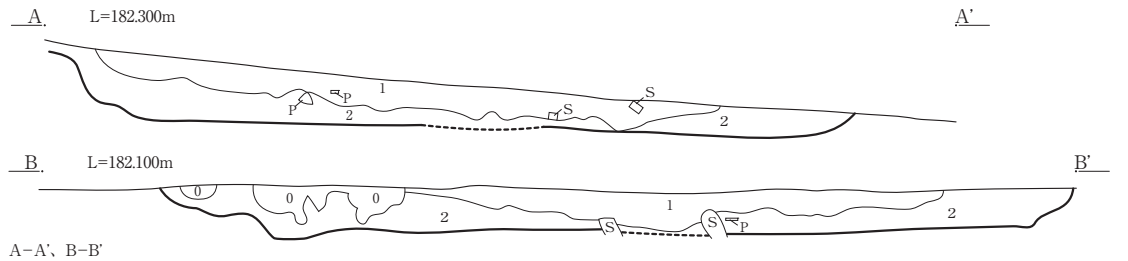


c−c'
1. 焼土（色調等記録無し）
2. 焼土（色調等記録無し）

d−d'
1. 焼土（色調等記録無し）

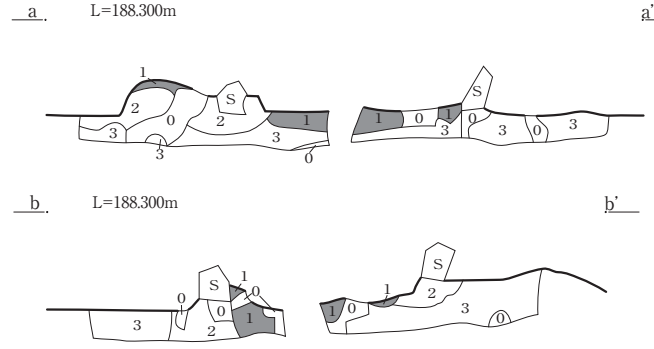
第 57 図　住居跡 32（2）





A−A'、B−B'
0. 根攪乱
1. 10YR2/3〜3/3　黒褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや密　やや砂質。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　1より明るい。

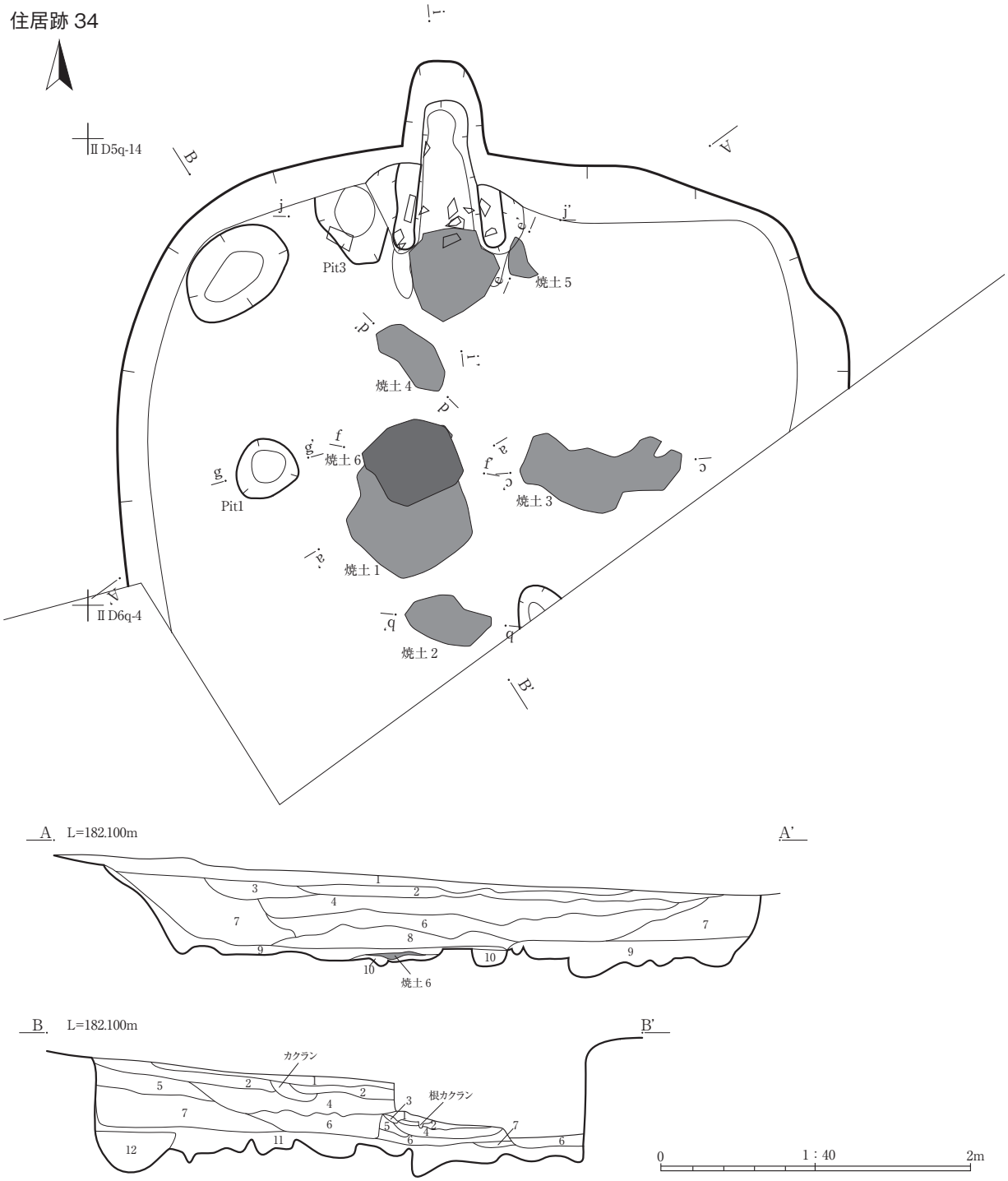
A−A'、B−B'　0　1：40　2m



a−a'、b−b'
0. 根攪乱
1. 7.5YR4/4　褐色 シルト　粘性無　しまり密（3より密）
焼土（7.5YR4/6　褐色）　焼土となっている層は1層中でもまばらである。下面において（2及び3層の境目）は黄褐色粒が入る。
2. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性弱　しまりやや疎（3より疎である）　3より暗い。炭粒が微量あり（1㎜）。　黄褐色粒が少量入る。
3. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性弱　しまり有（密）　2よりも明るい。炭粒が微量あり。（1㎜〜2㎜）

a−a'、b−b'　0　1：20　1m

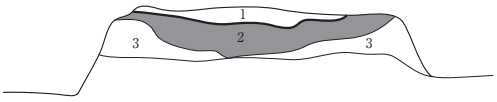
第 58 図　住居跡 33



A−A'、B −B'
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや有　しまり有 10YR5/6（黄褐色シルト粒 径 3〜5 ㎜）1%未満含む。
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性有　しまり有 10YR5/6（黄褐色シルト粒 径 3 ㎜）1%未満含む。
3. 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性有 しまりやや有 径 5〜7 ㎜の炭化物粒 1%未満含む。
4. 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性有　しまり有 10YR5/6（黄褐色シルト粒 径 2〜3 ㎜）1%未満含む。径 7 ㎜の炭化物粒 1〜2%含む。
5. 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性有　しまり有 10YR5/6（黄褐色シルト）1〜2%含む。
6. 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性有　しまり有 10YR5/6（黄褐色シルト粒 径 2〜5 ㎜）1〜2%、径 3〜5 ㎜の炭化物粒 1%含む。
7. 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性有　しまり有 10YR6/6（黄褐色シルト粒）10〜15%混合。
8. 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性有　しまり有 10YR6/6（黄褐色シルト）20〜30%混合。明赤褐色焼土粒（5YR5/8 径 5〜7 ㎜）1%含む。
9. 10YR 5/6 褐色粘土　粘性有　締まり有
10. 10YR 3/4 暗褐色粘土　粘性有　締まり有
11. 10YR 5/6 褐色粘土　粘性有　締まり有　炭粒径 10 ㎜ 3% 未満
12. 10YR 5/6 褐色粘土　粘性有　締まりやや欠く　炭粒径 10〜20 ㎜ 5% 未満　礫径 50 ㎜ 1%

第 59 図　住居跡 34（1）

a　L=181.700m　a'



a−a'
1. 10YR 2/3 黒褐色シルト　粘性やや有　締まりやや有　骨径 1〜30 ㎜ 75% 含む
2. 10YR 4/8 赤褐色シルト　焼土　粘性やや有　締まり有
3. 10YR 3/4 暗褐色シルト　粘性有　締まりやや有　焼土粒径 1 ㎜ 10% 含む

b　L=181.500m　b'

b−b'
1. 5YR 4/8 赤褐色焼土（シルト）　粘性有　締まりやや有

c　L=181.500m　c'

c−c'
1. 5YR 4/8 赤褐色焼土（シルト）　粘性無　締まり有

d　L=181.500m　d'

d−d'
1. 2.5YR 4/6 赤褐色焼土（シルト）　粘性やや有　締まり有

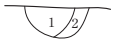
e　L=181.500m　e'

e−e'
1. 2.5YR 4/6 赤褐色焼土（シルト）　粘性無　締まりやや有

f　L=181.500m　f'

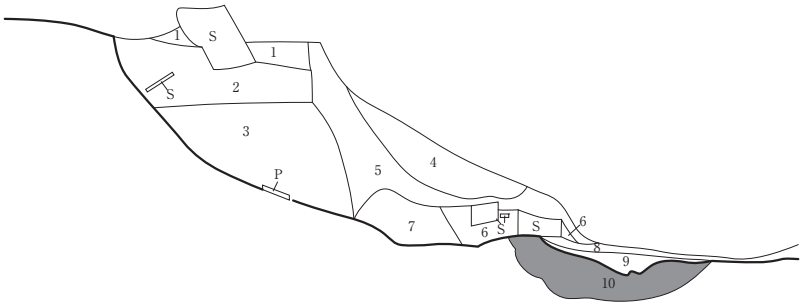
f−f'
1. 2.5YR 4/6 赤褐色焼土（シルト）　粘性有　締まり有

g　L=181.500m　g'

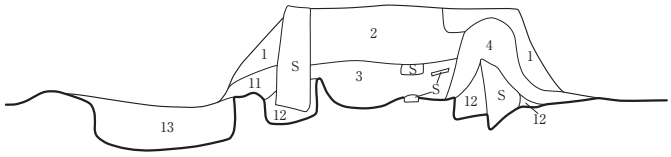


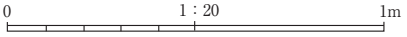
g−g'
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性あり・しまりややあり
　炭化物2〜3%含む。
2. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・しまりあり
　黒褐色シルト（10YR3/2）3%含む。

i　L=182.100m　i'



j　L=181.900m　j'

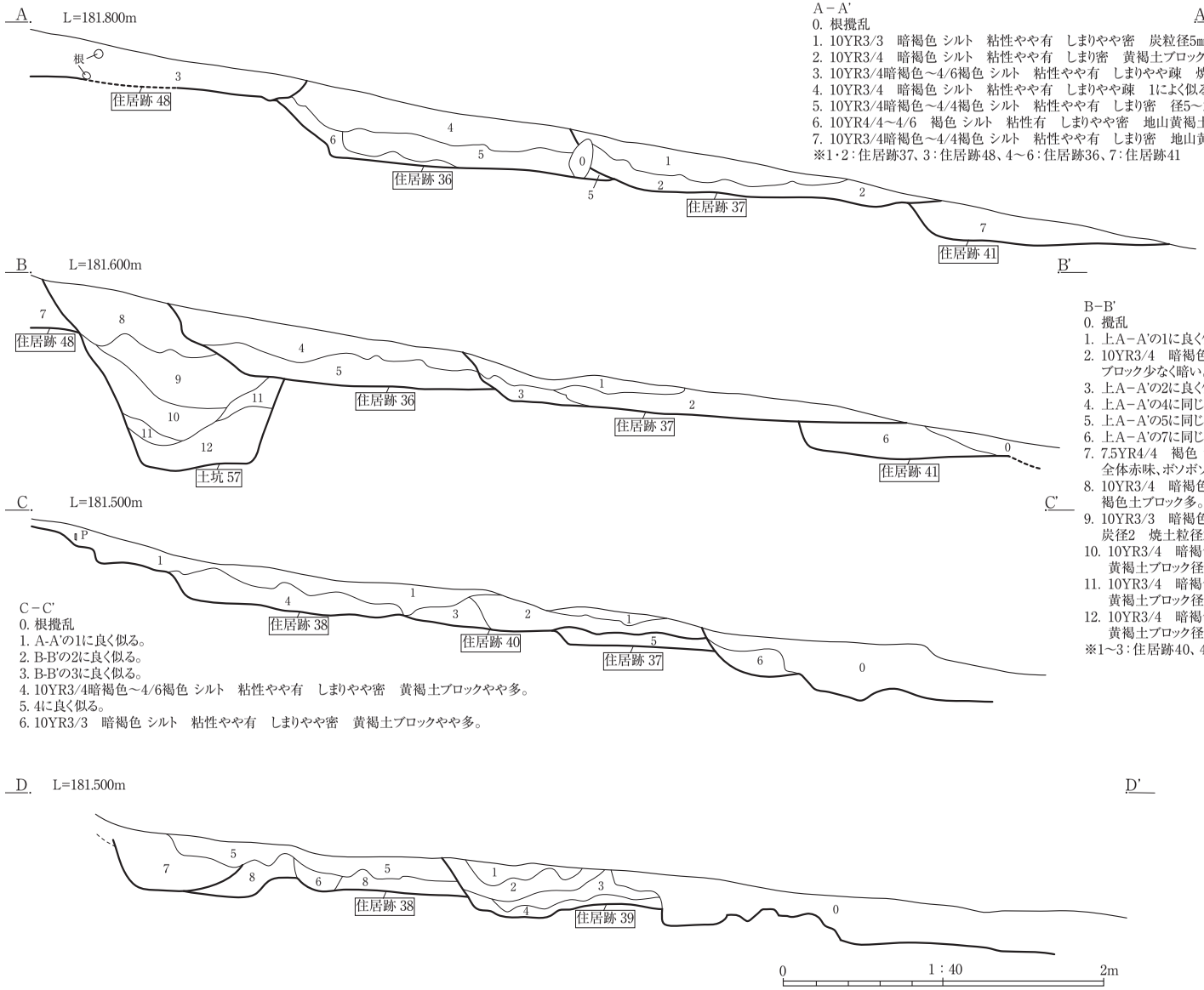




i−i'、j−j'
1. 10YR 2/3 黒褐色シルト　粘性やや有　締まりやや有
2. 10YR 3/3 暗褐色シルト　粘性やや有　締まりなし　褐色シルト粒（10YR4/4 径 3 ㎜）1〜2%含む。
3. 10YR 3/3 暗褐色シルト　粘性有　締まりやや有　　褐色シルト粒（10YR4/4）15〜20% ブロックで含む。
4. 10YR 4/4 褐色シルト 60%、10YR 3/2 黒褐色シルト 40%の混合土層。粘性有　締まりなし　赤褐色焼土粒（5YR5/6 径 7〜10 ㎜）1% 含む。
5. 10YR 3/3 暗褐色シルト　粘性有　締まりやや有り　褐色 シルト粒（10YR4/4）3% 含む。
6. 10YR 3/3 暗褐色シルト　粘性有　締まりやや有り　赤褐色焼土粒（5YR5/6）10〜15% 含む。
7. 10YR 4/4 褐色粘土質シルト　粘性有　締まり有　暗褐色シルト（10YR3/3）10〜15% 混合。
8. 7.5YR4/6 褐色シルト　粘性有　締まりやや有　炭粒径 1 ㎜ 5% 未満　焼土粒径 1〜3 ㎜ 5%
9. 7.5YR4/6 褐色シルト　粘性有　締まり有　焼土粒径 1〜20 ㎜ 10% 未満　径 1〜3 ㎜ 10%
10. 2.5YR 4/6 赤褐色焼土（シルト）　粘性やや有　締まり有
11. 10YR 3/4 暗褐色シルト　粘性有　締まりやや有
12. 10YR 4/4 褐色シルト　粘性有　締まり有　炭粒　　径 1〜5 ㎜ 5% 未満　焼土粒径 5〜10 ㎜ 10%
13. 10YR4/3　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物（径 1〜5 ㎜）　10%　レキ（径 10〜30 ㎜）　20%

第 60 図　住居跡 34（2）

第 61 図　住居跡 35～42



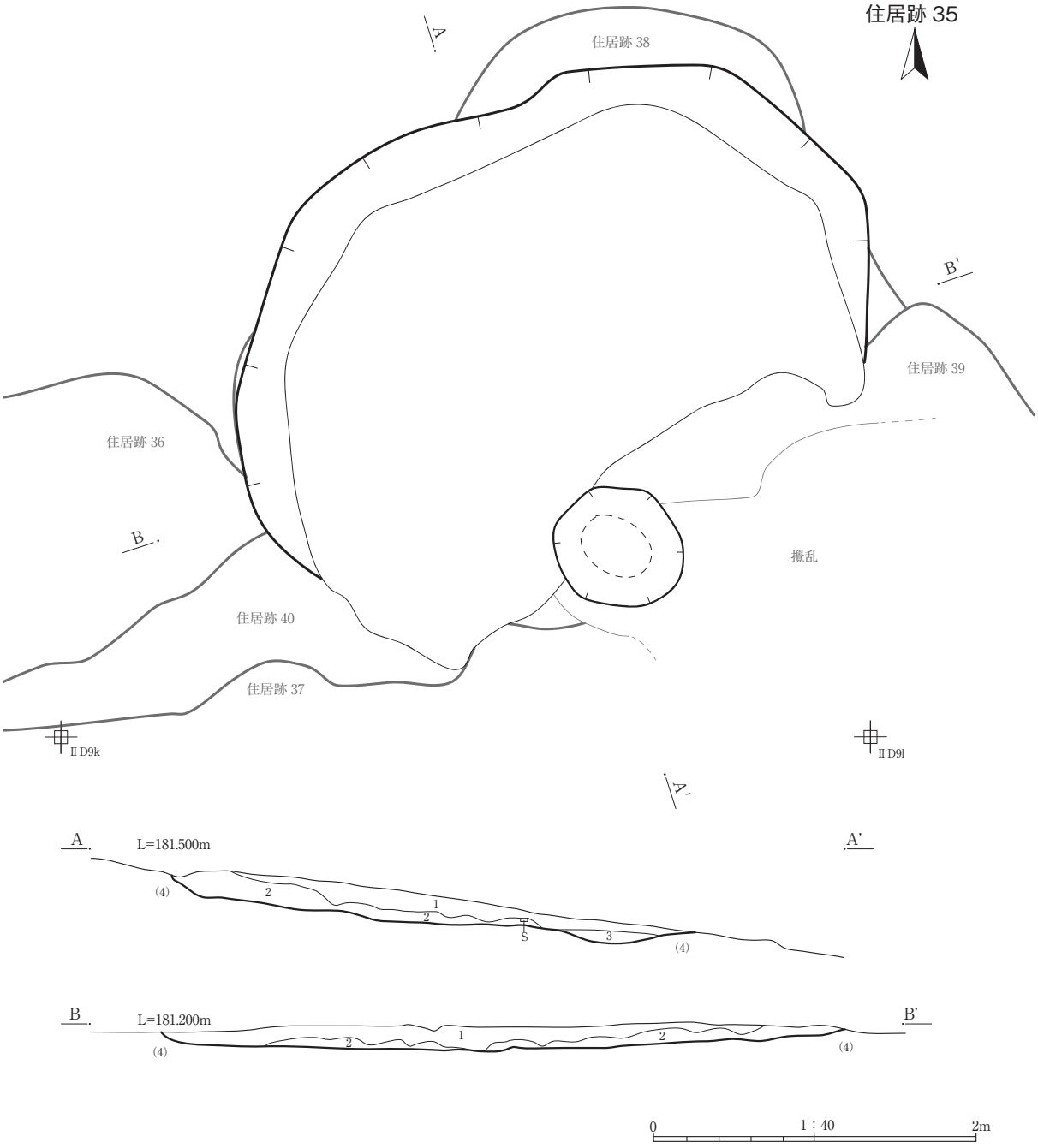
A－A'
0. 根攪乱
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径5㎜　ごく微。草木根やや多く全体にボソボソ。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロックやや多く含み、黄味。
3. 10YR3/4暗褐色～4/6褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや疎　焼土ブロック点在し、全体にわずかに赤味。木根による攪乱著しい。
4. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや疎　1によく似るが、1より明るく炭入らない。全体ボソボソ（草木根による）。
5. 10YR3/4暗褐色～4/4褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　径5～20　黄褐土ブロック少。ゴリゴリと堅い黒褐色土ブロック含む。
6. 10YR4/4～4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや密　地山黄褐土の再堆積層。（壁崩落土層）
7. 10YR3/4暗褐色～4/4褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　地山黄褐土ブロック少。
※1・2：住居跡37、3：住居跡48、4～6：住居跡36、7：住居跡41

B－B'
0. 攪乱
1. 上A－A'の1に良く似る。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　3より黄褐土ブロック少なく暗い。
3. 上A－A'の2に良く似る。
4. 上A－A'の4に同じ。
5. 上A－A'の5に同じ。
6. 上A－A'の7に同じ。
7. 7.5YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや疎　全体赤味、ボソボソ。
8. 10YR3/4　暗褐色粘土質 シルト　粘性やや有　しまり極密　褐色土ブロック多。みっちりとしまった層。
9. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭径2　焼土粒径2　それぞれごく微。全体黒味強。
10. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロック径2～10　少。
11. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロック径10～30　多。
12. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロック径2～10　多。
※1～3：住居跡40、4・5：住居跡36、6：住居跡41、7：住居跡48、8～12：土坑57。

C－C'
0. 根攪乱
1. A-A'の1に良く似る。
2. B-B'の2に良く似る。
3. B-B'の3に良く似る。
4. 10YR3/4暗褐色～4/6褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土ブロックやや多。
5. 4に良く似る。
6. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土ブロックやや多。

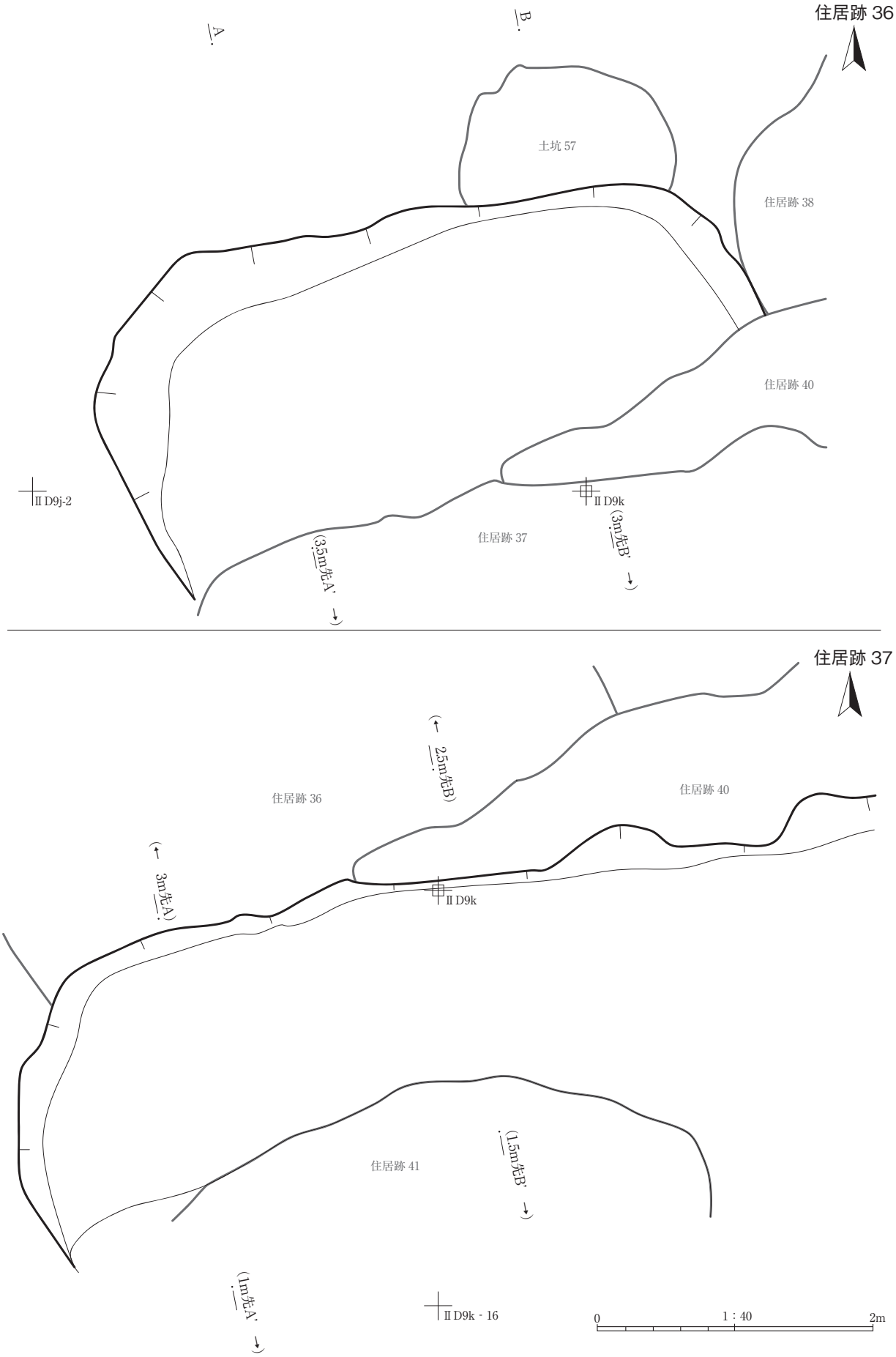
D－D'
0. 根攪乱
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒目立ち黒味強。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密
3. 10YR3/4暗褐色～4/4褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土少含みやや黄味。
4. 10YR3/4暗褐色～4/4褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロックやや多。
5. A-A'の1に似る。
6. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密
7. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロック多。黄味強。土坑状だが下面不明瞭。
8. 10YR4/3にぶい黄褐色～4/4褐色 シルト　粘性やや有　しまり密

第62図　住居跡35～40　住居跡48　土坑57

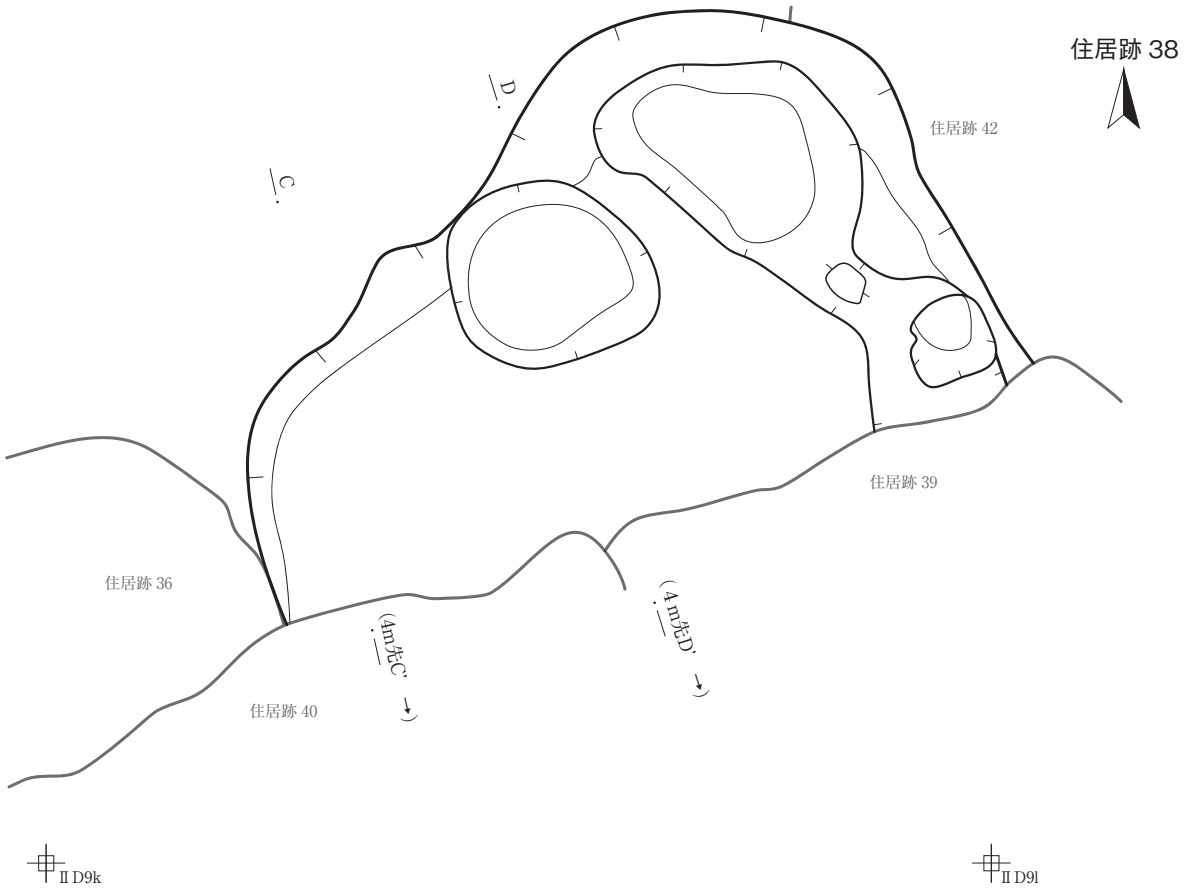


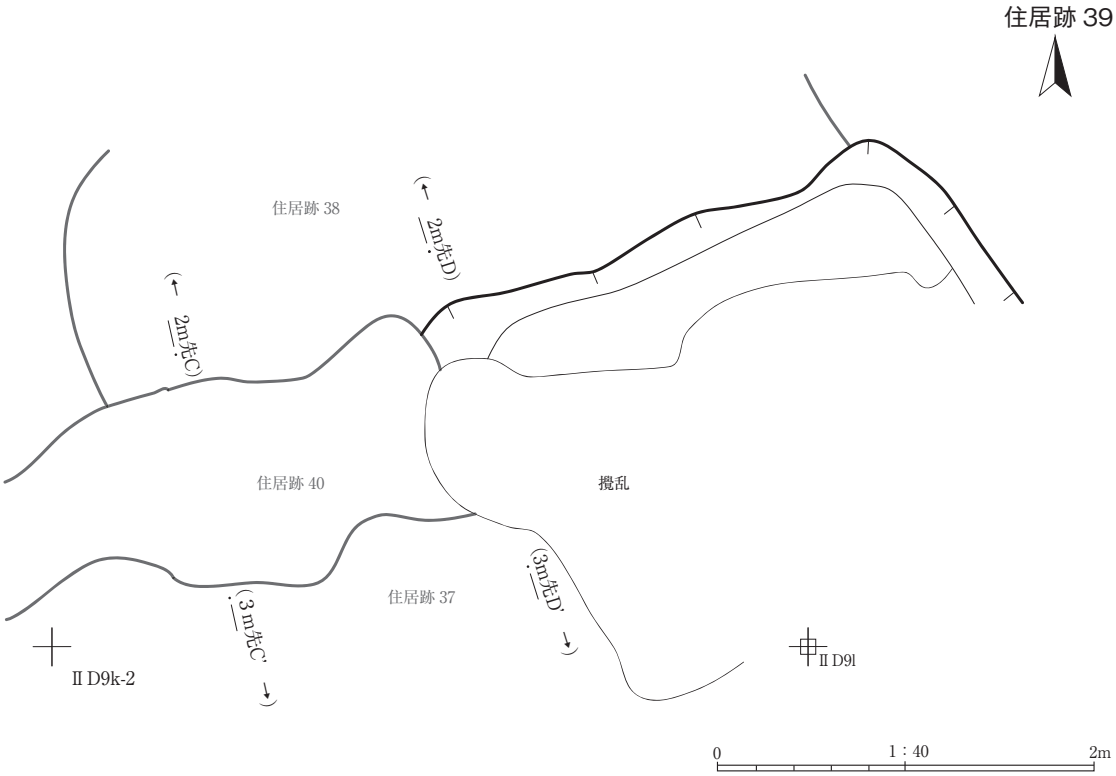
A−A'、B−B'
1. 10YR2/2～2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　まっくろい層。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　地山土含み明るい。
3. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや密　炭粒・焼土粒径 2～5 ㎜　少。下部にピット状の落ちこみあるか…。
(4). 10YR4/4 褐色～3/4 暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまり密　本遺構の検出面　斜面下部では黄褐土層の上位の本層が遺構の壁、床となる。

第 63 図　住居跡 35

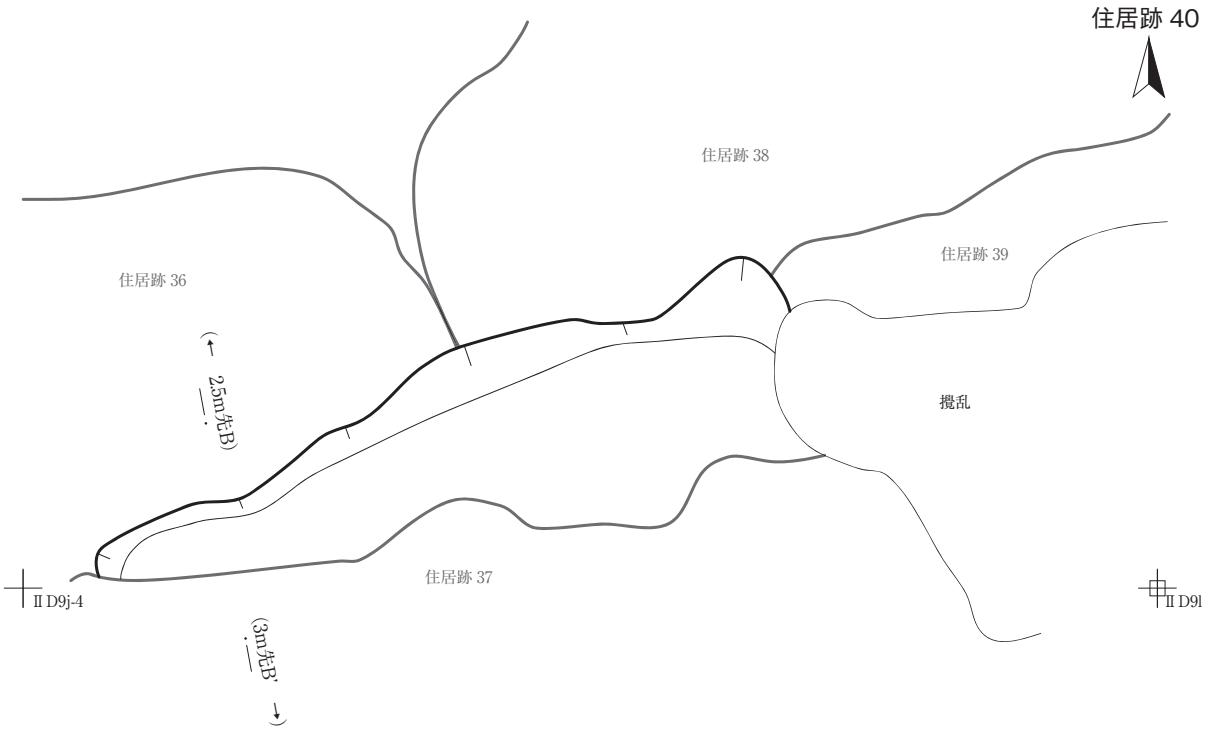


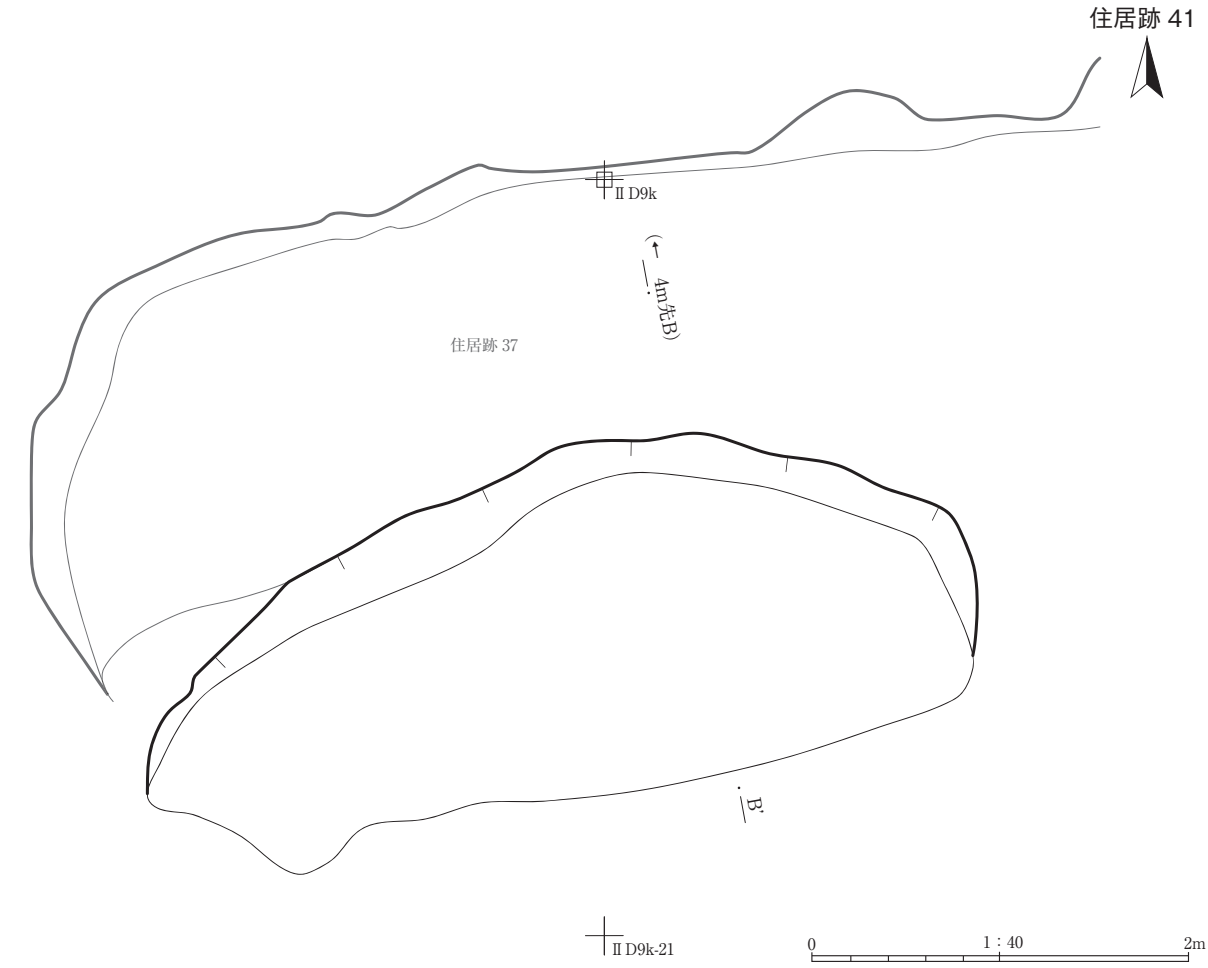
第 64 図　住居跡 36・37



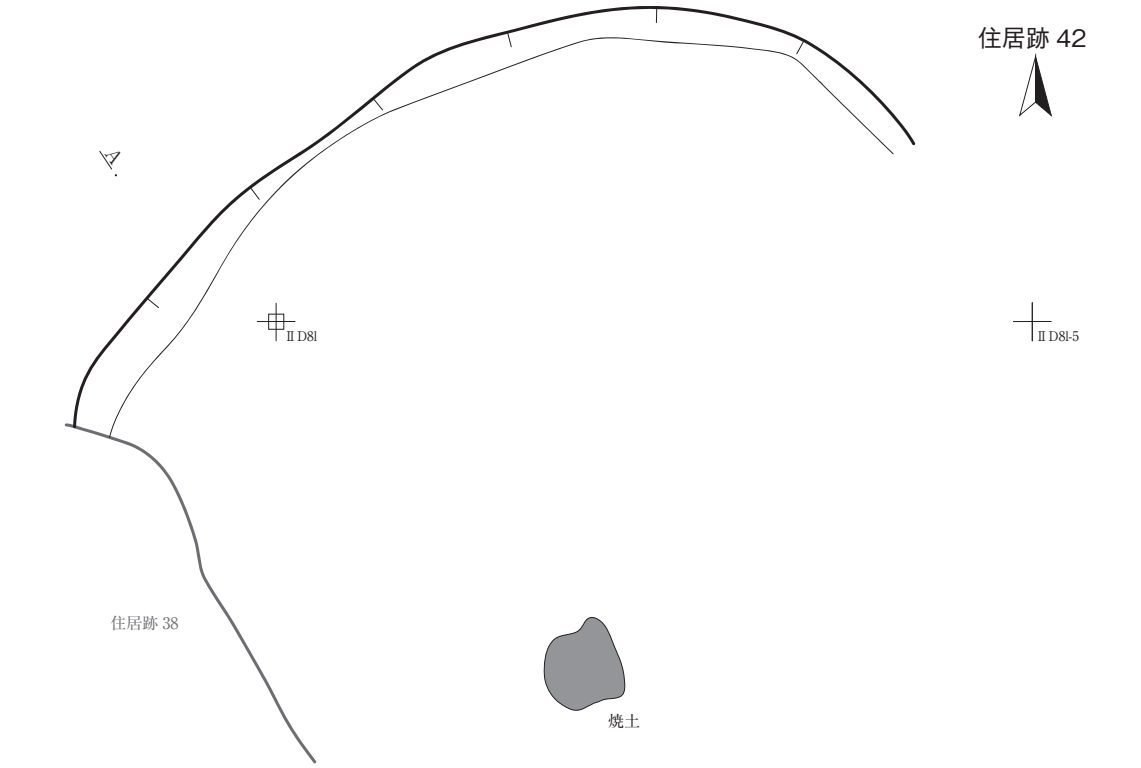


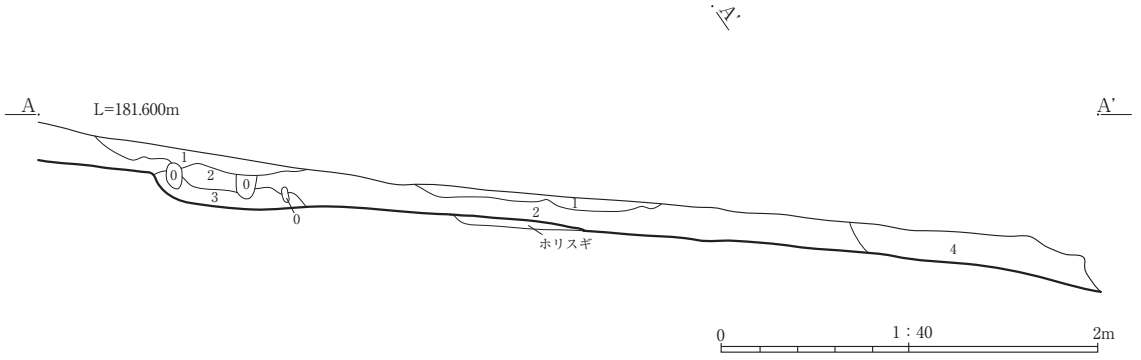
第 65 図　住居跡 38・39





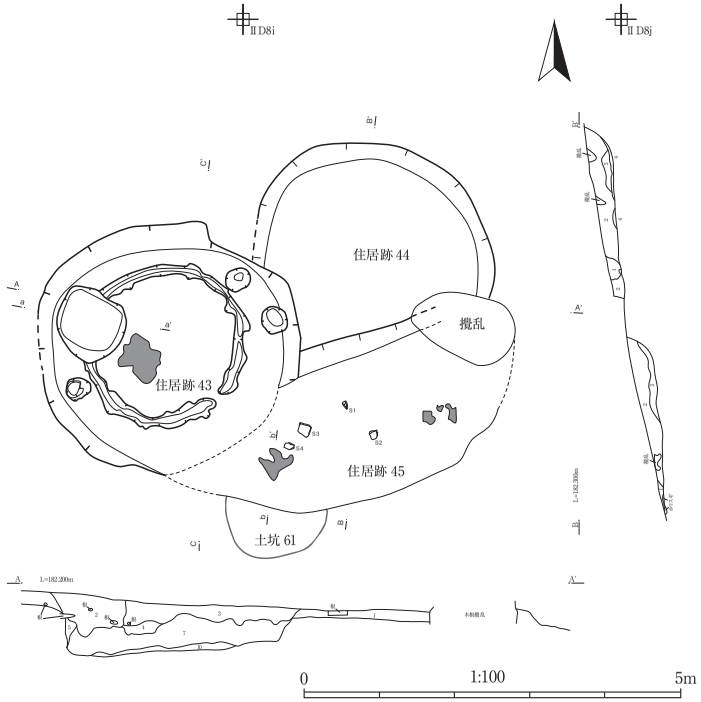
第 66 図　住居跡 40・41

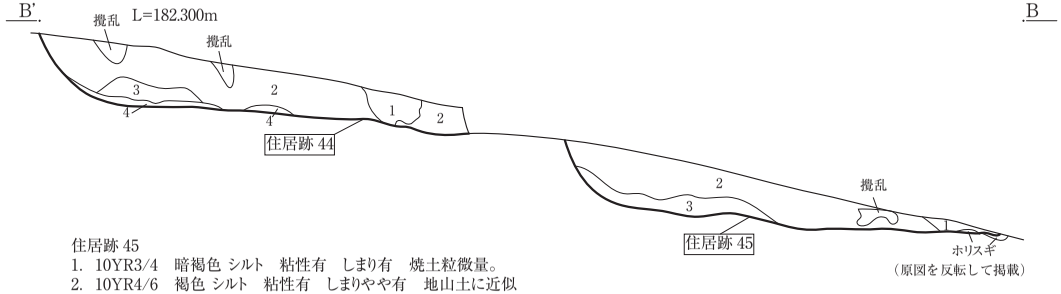




A−A'
1. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性あまり無　しまりやや有　暗褐色土の小ブロック含む。
2. 10YR3/3　暗褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　黄褐色土小ブロックをまばらに含む。
3. 10YR4/4　褐色粘土質 シルト　粘性やや有　しまり有　黄褐色土粒を全体に含む。
4. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり有　黄褐色土小ブロックをまばらに含む。

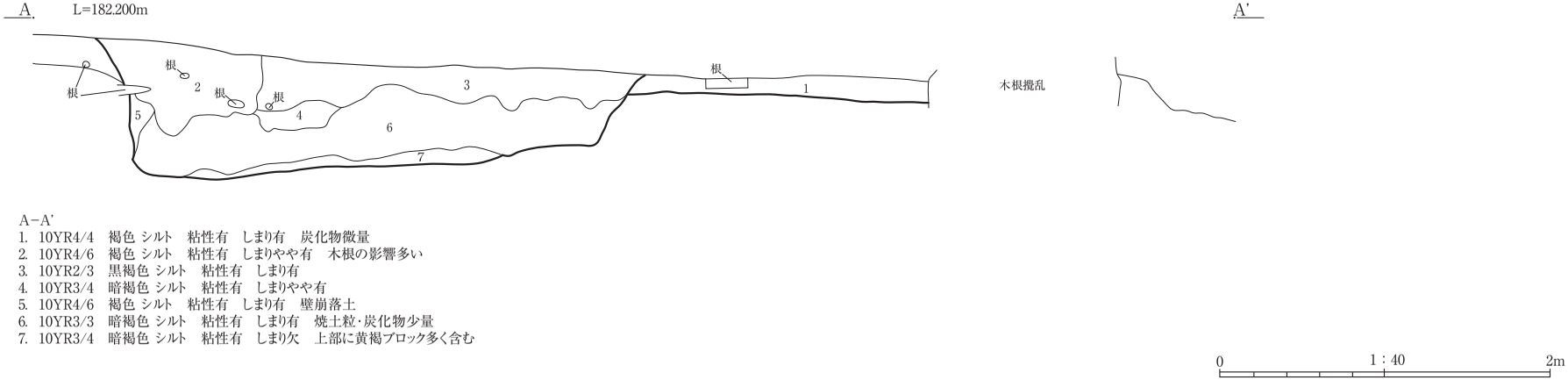
第 67 図　住居跡 42





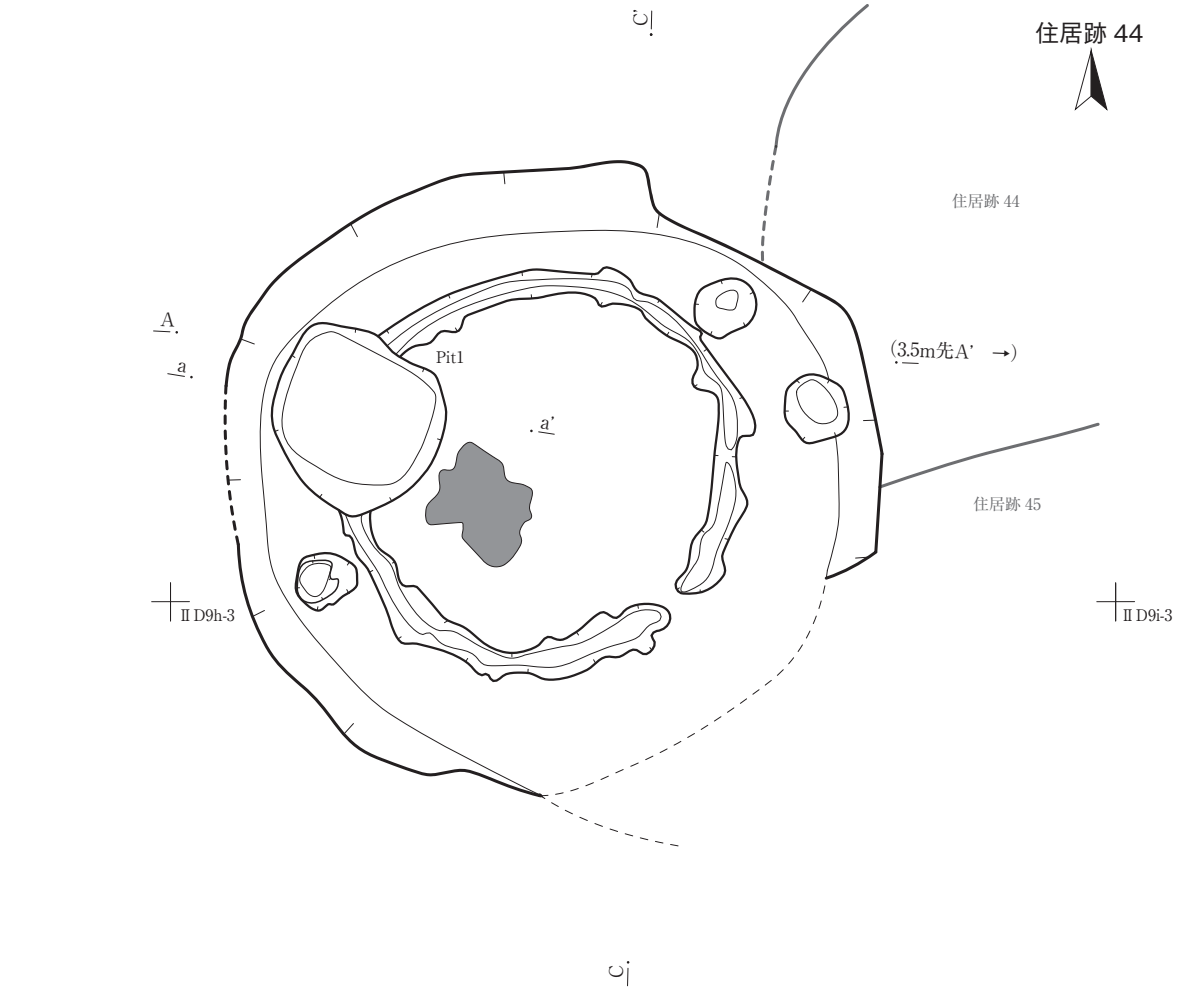
住居跡 45
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土粒微量。
2. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　地山土に近似
3. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山土に近似

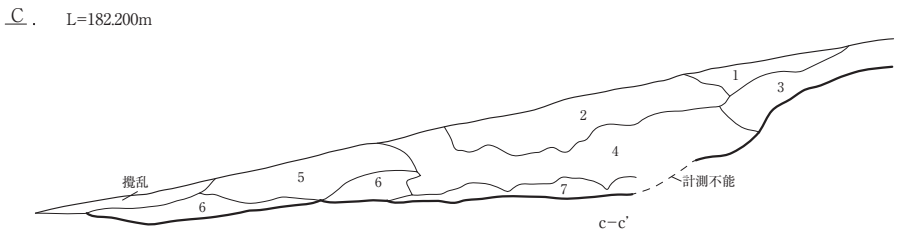
住居跡 44
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物･黄褐土粒微量。
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土ブロック微量。
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山流入土。



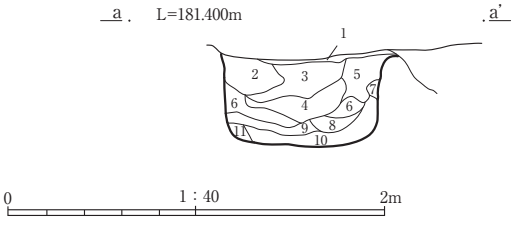
A−A'
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物微量
2. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　木根の影響多い
3. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有
4. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
5. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　壁崩落土
6. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土粒･炭化物少量
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　上部に黄褐ブロック多く含む

第 68 図　住居跡 43〜45



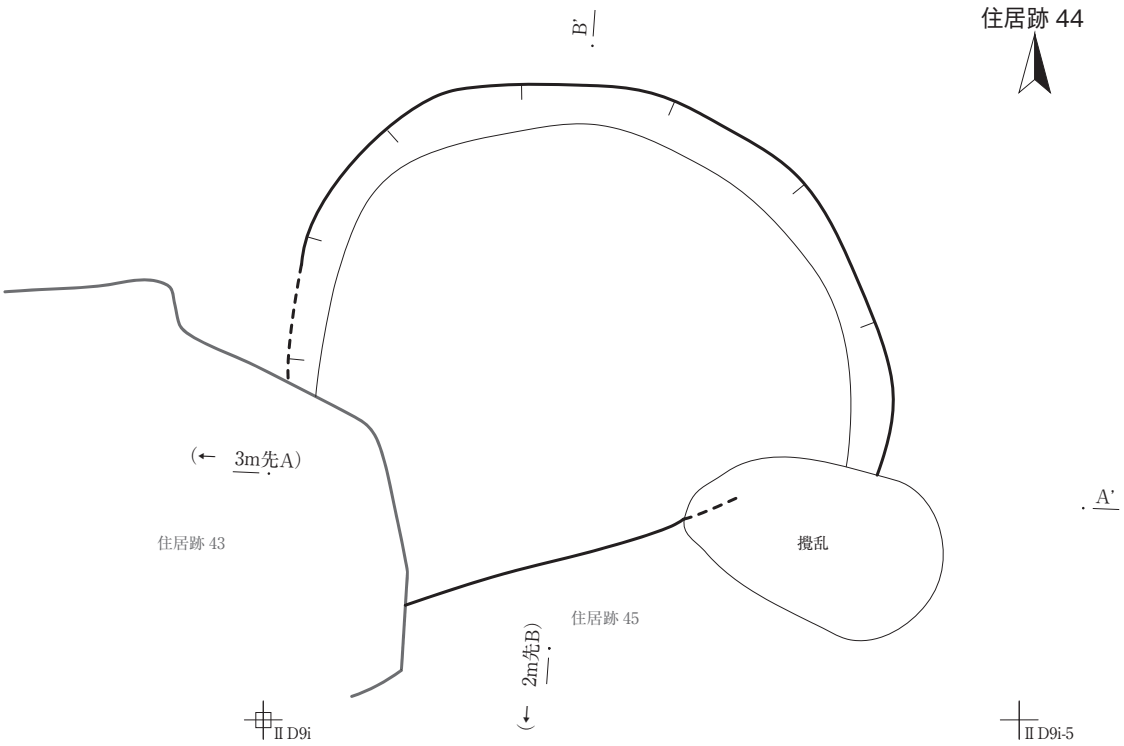


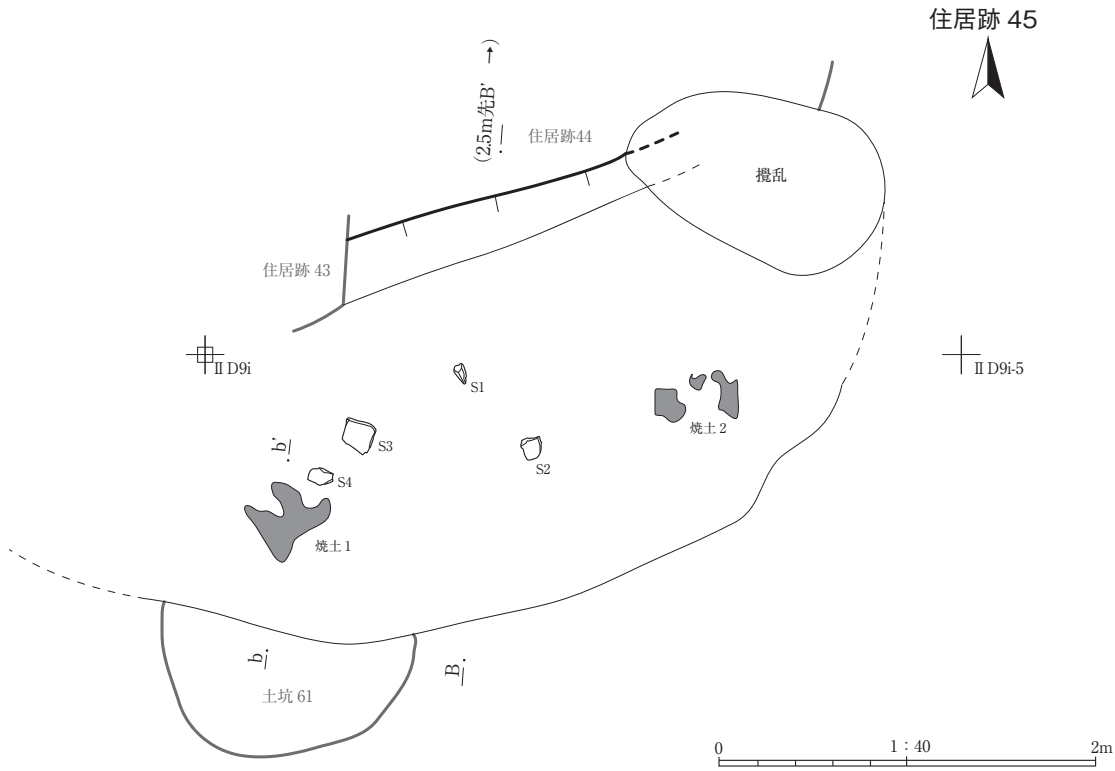
c−c'
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物微量
2. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり有
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　一部黄褐ブロック混入
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土粒･炭化物少量
5. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロック混入
6. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物微量
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　上部に黄褐ブロック多く含む

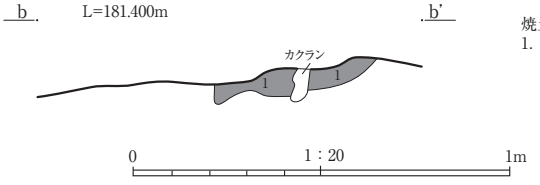


a−a'
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐土粒多く含む。
3. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐ブロックを中央に含む。
4. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　全体に黄褐ブロック含む。
5. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
6. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山土。
7. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山ブロック土。
8. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
9. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠　黄褐土粒全体に含む。
10. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物微量含む。
11. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有

第 69 図　住居跡 43

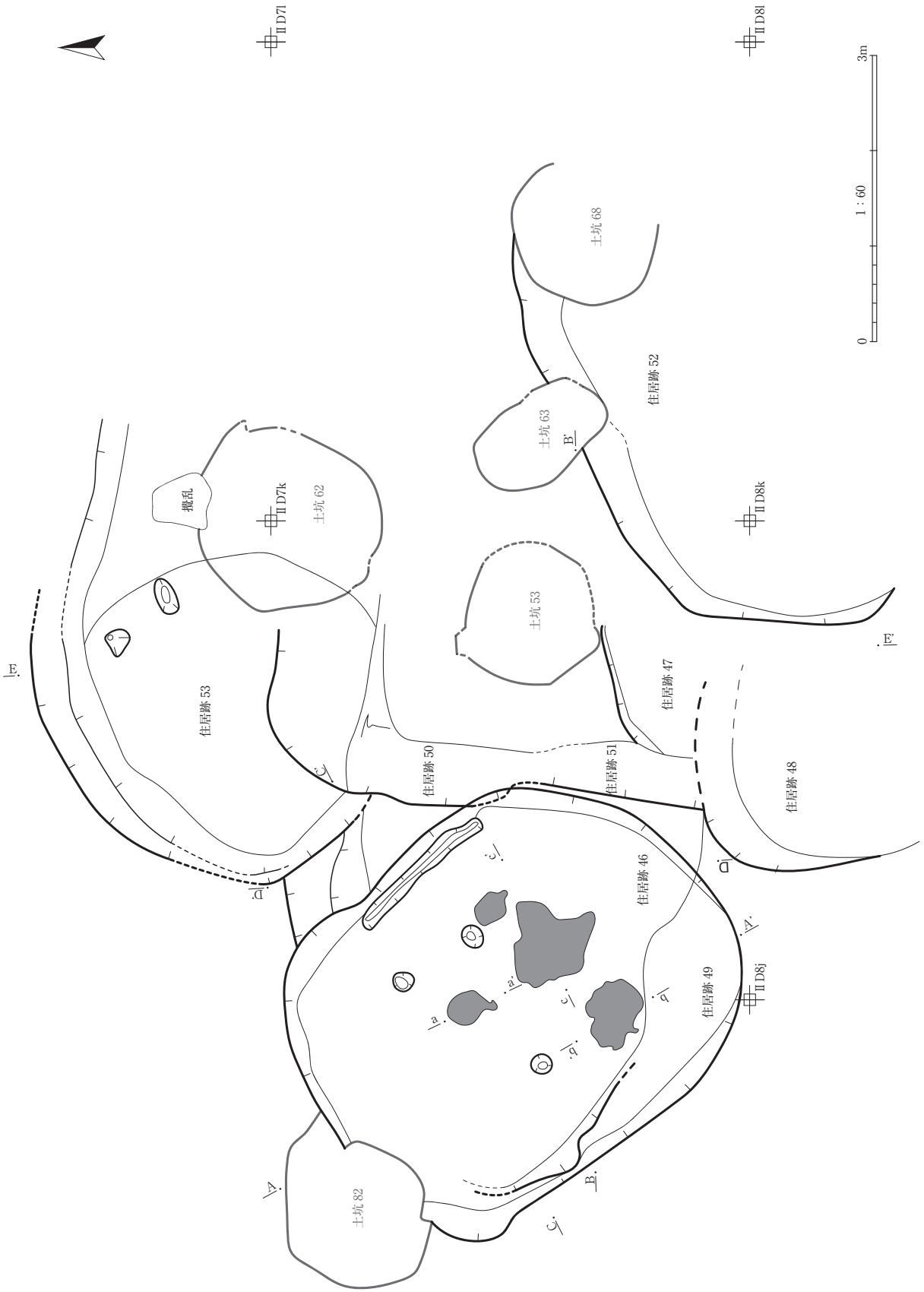




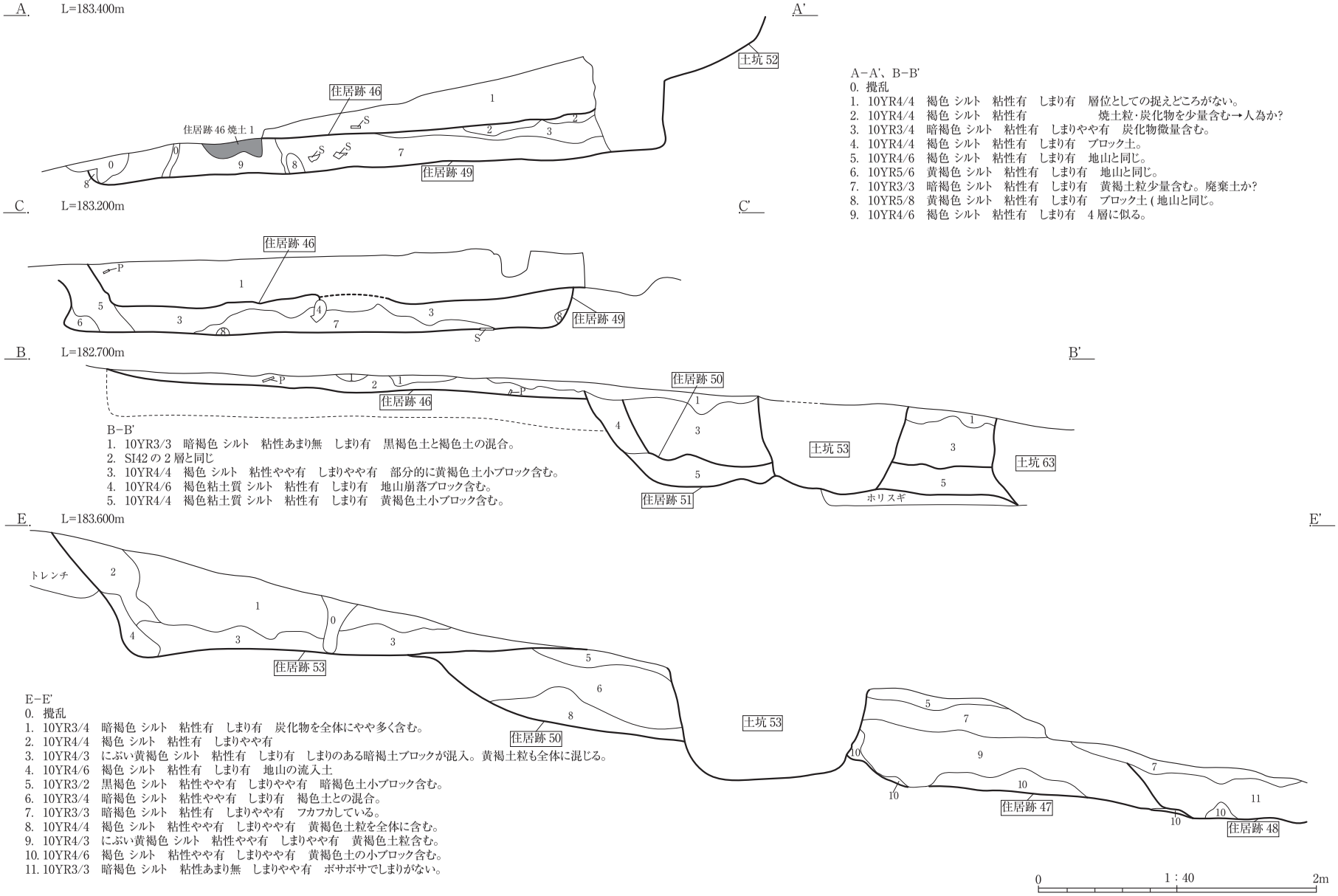


焼土 1
1. 5YR　明赤褐色　焼土　粘性欠　しまり有

第 70 図　住居跡 44・45



第 71 図　住居跡 46～53

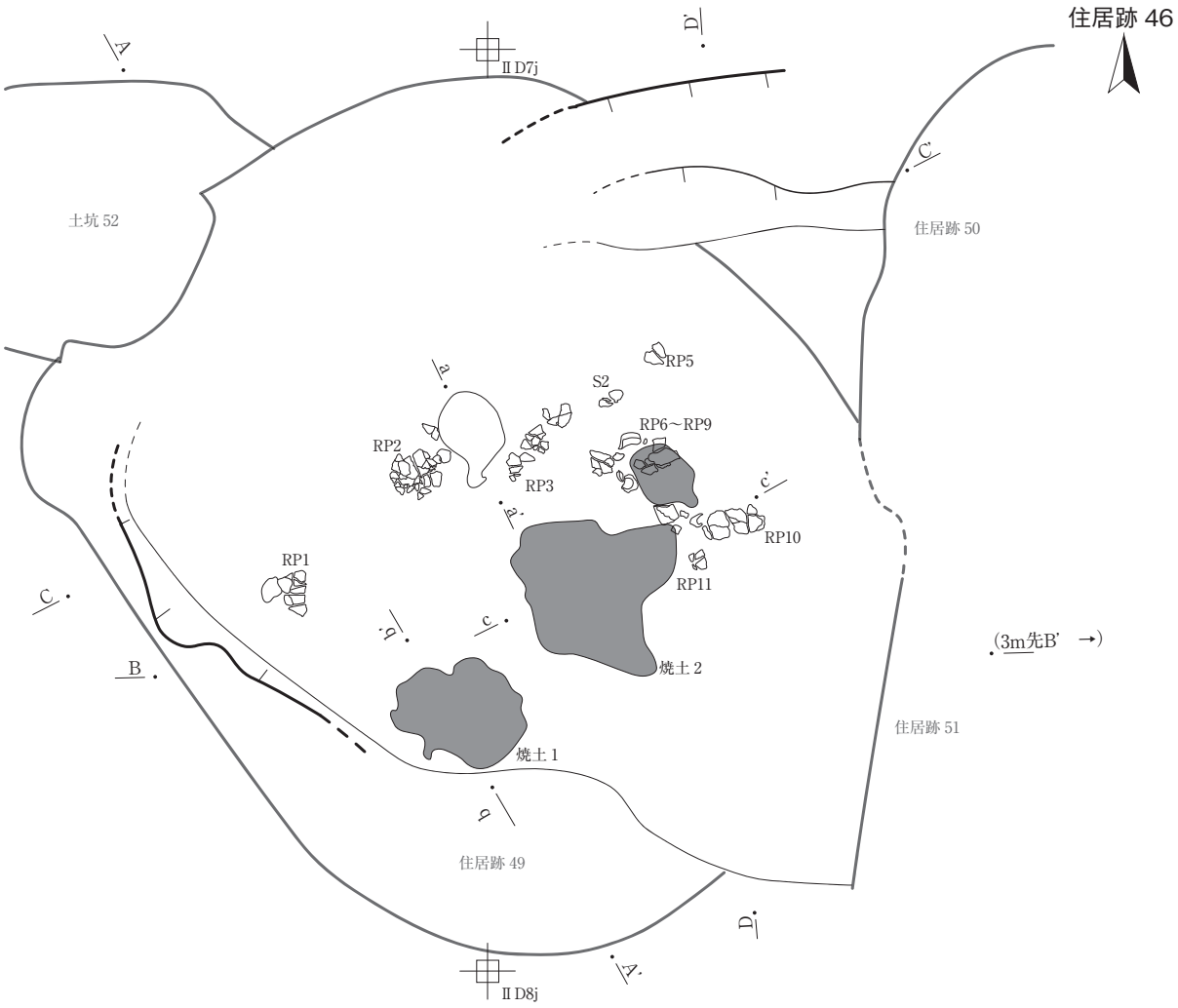


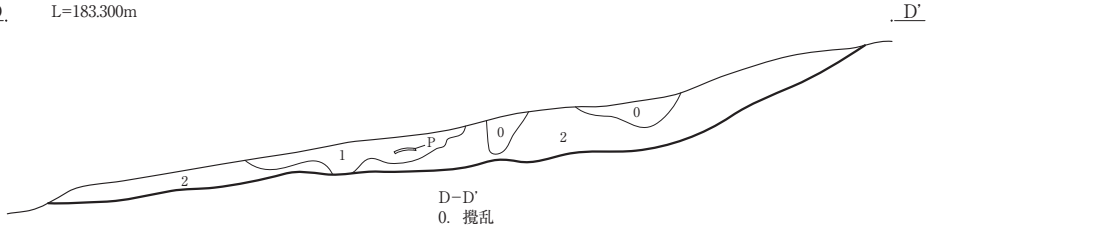
A−A'、B−B'
0. 攪乱
1. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　層位としての捉えどころがない。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　　焼土粒･炭化物を少量含む→人為か?
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物微量含む。
4. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック土。
5. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山と同じ。
6. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山と同じ。
7. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土粒少量含む。廃棄土か?
8. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック土 (地山と同じ。
9. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　4 層に似る。

B−B'
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性あまり無　しまり有　黒褐色土と褐色土の混合。
2. SI42 の 2 層と同じ
3. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有　部分的に黄褐色土小ブロック含む。
4. 10YR4/6　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　地山崩落ブロック含む。
5. 10YR4/4　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　黄褐色土小ブロック含む。

E−E'
0. 攪乱
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物を全体にやや多く含む。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　しまりのある暗褐土ブロックが混入。黄褐土粒も全体に混じる。
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山の流入土
5. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有　暗褐色土小ブロック含む。
6. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり有　褐色土との混合。
7. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　フカフカしている。
8. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有　黄褐色土粒を全体に含む。
9. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有　黄褐色土粒含む。
10. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有　黄褐色土の小ブロック含む。
11. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性あまり無　しまりやや有　ボサボサでしまりがない。

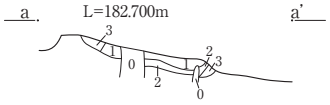
第 72 図　住居跡 46〜51・53　土坑 48・53・63



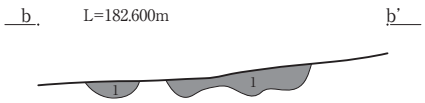


D−D'
0. 撹乱
1. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性有　しまり無　黒ボク。埋土上位に存する自然層。
2. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　層位としての捉えどころがない。

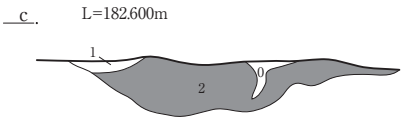
0　1：40　2m



a−a'
0. 撹乱
1. 5YR5/4　にぶい赤褐色砂　粘性無　しまり欠　被熱。
2. 2.5YR4/6　赤褐色砂　粘性無　しまり欠　被熱強。
3. 2.5YR6/4　にぶい橙色砂　粘性無　しまり欠



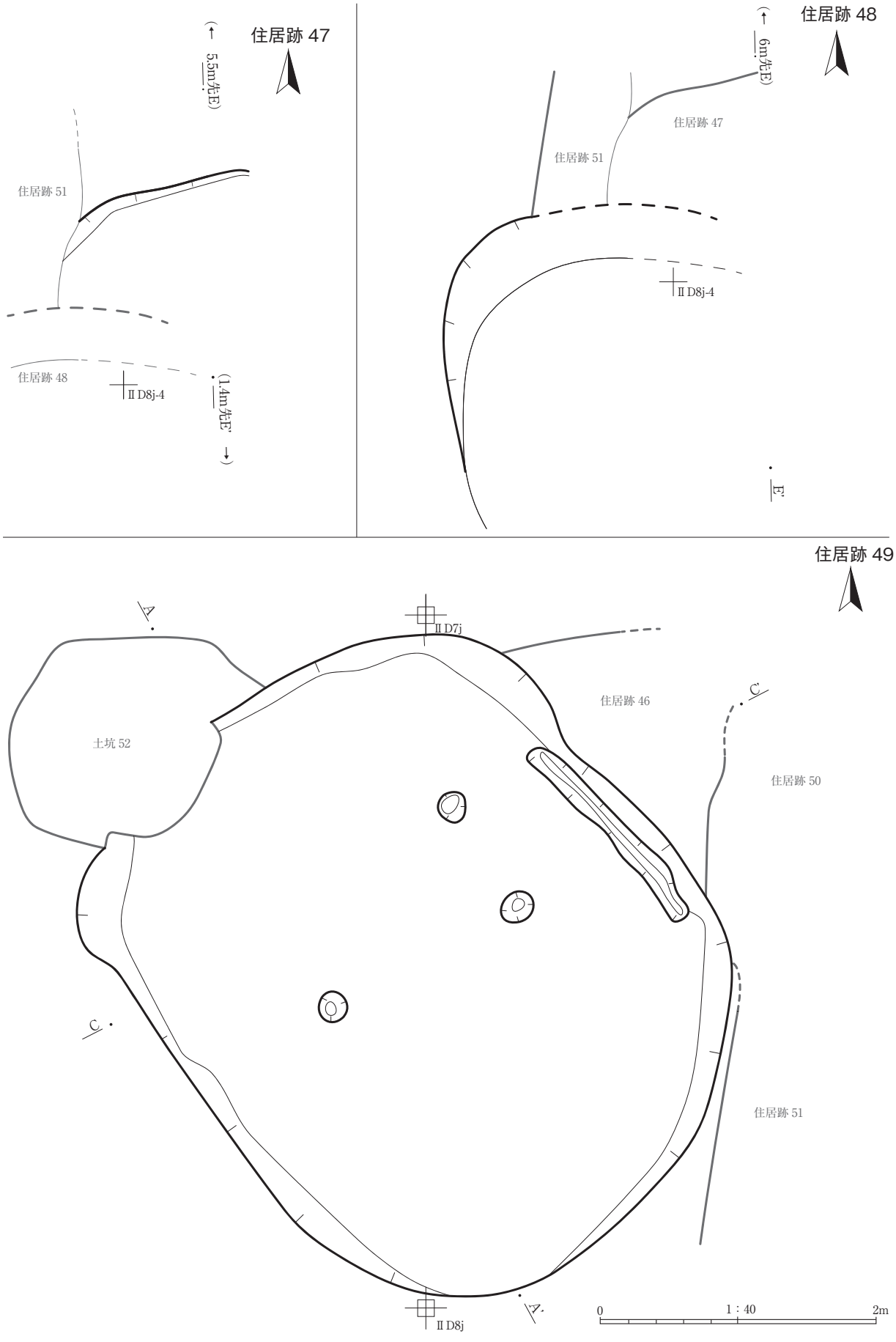
b−b'
0. 撹乱
1. 2.5YR4/6　赤褐色 シルト　粘性有　しまり極有　焼土。



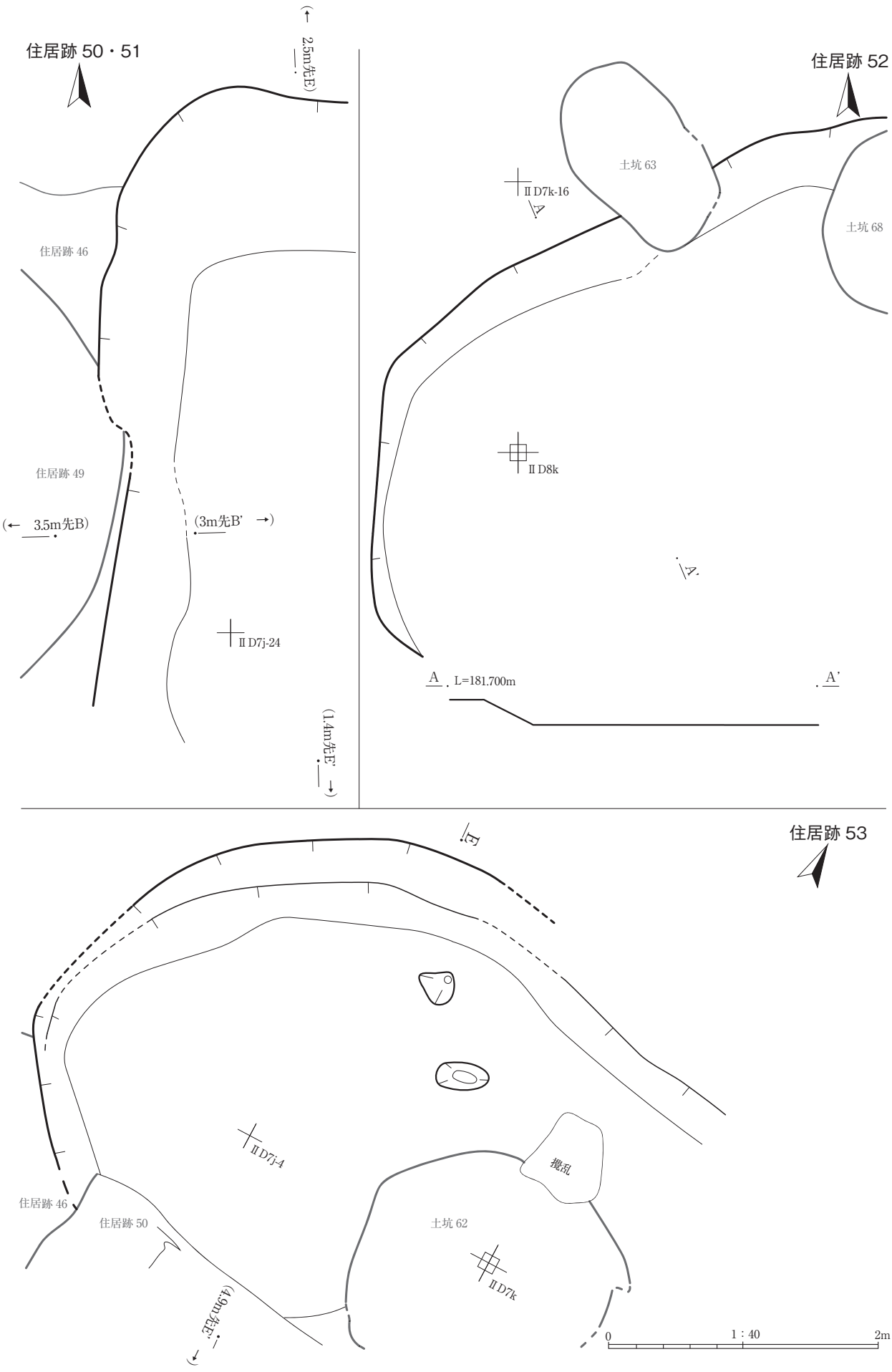
c−c'
0. 撹乱
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　住居埋土分
2. 焼土 A と同じ

0　1：20　1m

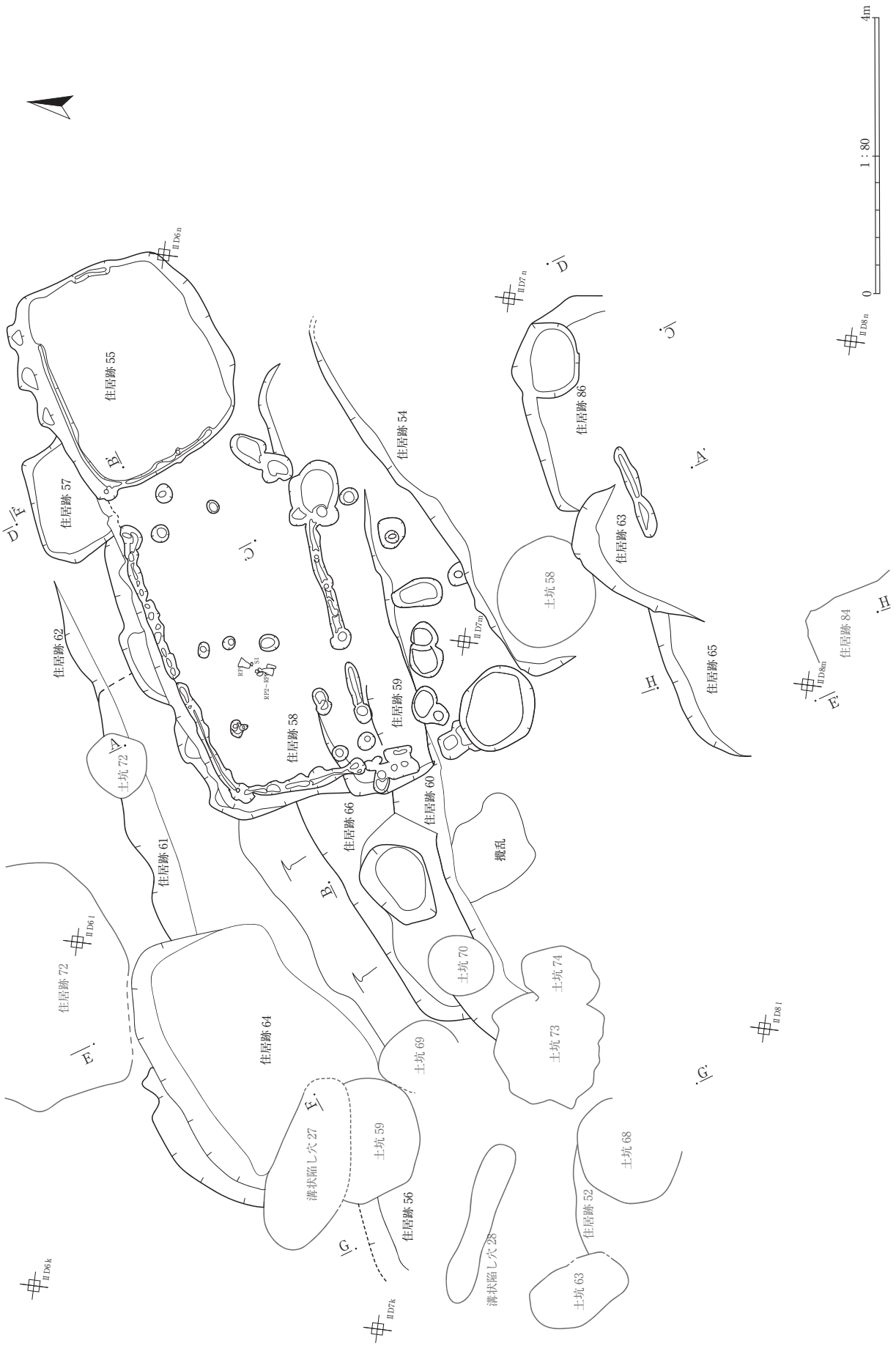
第 73 図　住居跡 46



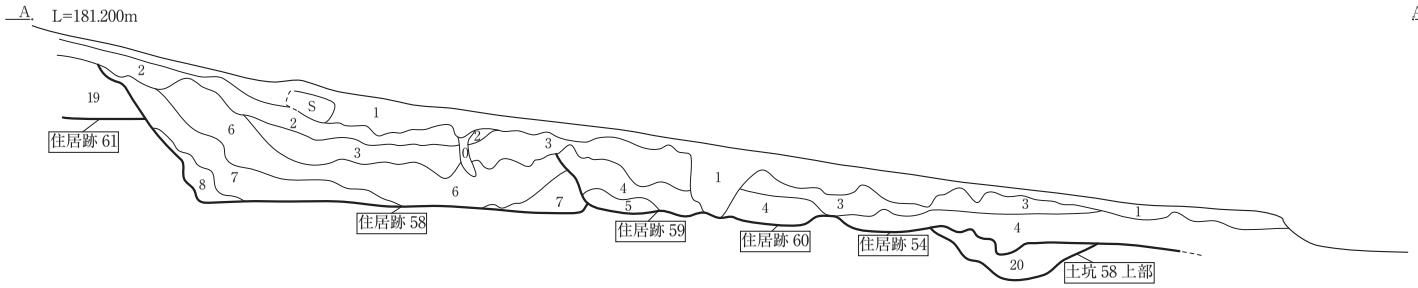
第 74 図　住居跡 47～49

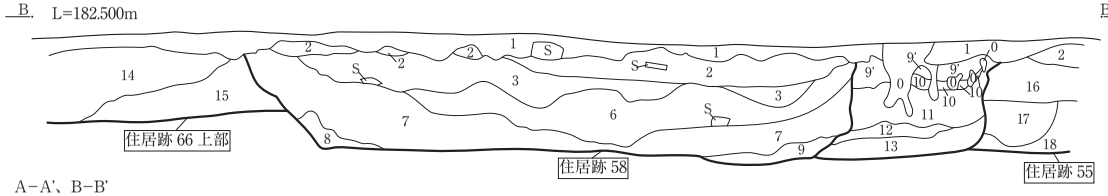


第 75 図　住居跡 50～53



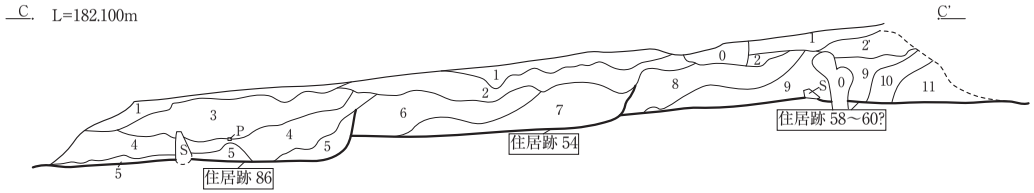
第 76 図　住居跡 54～66





A−A'、B−B'

0. 根攪乱
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径 2～5 ㎜　ごく微　黒味帯びる層。
2. 10YR3/4 暗褐色～4/4 褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　褐色土の明るい土層。3 に比して純粋な土。
3. 10YR3/3～3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　6 層に 2 層のブロック径 20～30 ㎜をやや多く含む。炭粒・焼土粒ごく微。
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　　炭粒径 2～5 ㎜ごく微。
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロック少。
6. 10YR3/3～3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒微。層下部、特に下面付近に集中認められる。
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土粒径 2～5 ㎜　やや多。壁際に厚く堆積。
8. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土ブロックやや多。崩落土層。
9. 10YR3/4～4/4　暗褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり密　炭片径 20 ㎜　ごく微。焼土粒　ごく微。12 が崩れて流れたような土層。
9'. 10YR3/4～ 7.5YR3/4　暗褐色　粘性やや有　しまり密　下面焼土に接し、全体にやや赤み。
10. 5YR4/8　赤褐色 シルト　焼土　粘性やや有　しまり密　上面が粘正面。
11. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径 5 ㎜微。7 に似ており層境界は不明瞭。
12. 10YR4/4～4/6　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや密　上面が凸レンズ状に盛り上がっている。
13. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり密　炭粒径 2～5 ㎜　ごく微。
14. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロック径 10～20　少量含みやや黄味。
15. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密
16. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密
17. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　16 に良く似るが、両者の層界にしまりの差が認められる。（本層がよりしまっている）。
18. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土粒径 2～5 ㎜微。全体に黄味。
19. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　4･6 に良く似る。
20. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　土坑 58 開口部付近の埋土の一部。

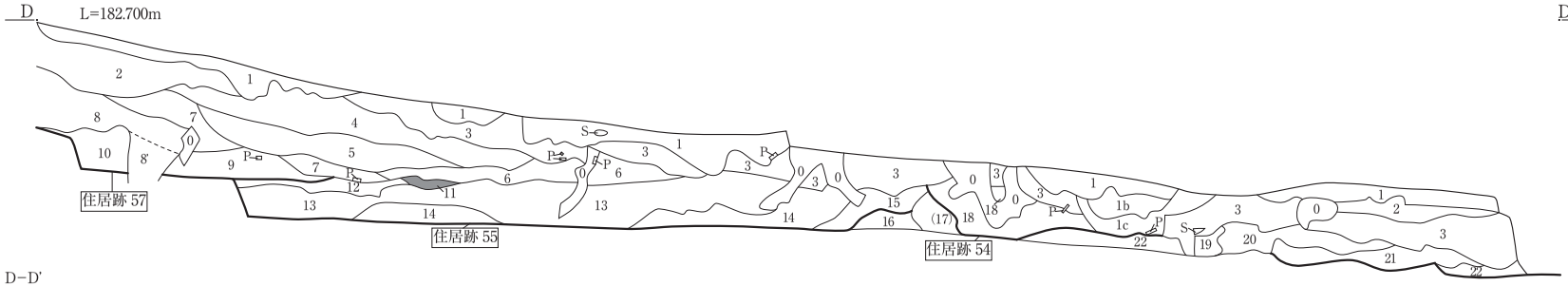


C−C'

0. 根攪乱
1. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径 2～5 ㎜　ごく微。まっくろな層。
2. 10YR3/3～3/4　暗褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり密　炭粒径 5　微。周辺の前期住居埋土上位を広く覆う褐色土層。みっちりとしまっている。
2'. 2 層が床面状にゴリゴリと硬化した部分。同一等高線状に東西に分布。
3. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒径 5　ごく微。2 層類似の褐色ブロックやや多。焼土ブロックごく微。
4. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒径 5　ごく微。
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　地山黄褐土少。やや明るい。
6. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径 5　ごく微。
7. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　地山黄褐土ブロック微。6 に地山ブロック含んだ層。
8. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒ごく微。
9. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒ごく微。8 に地山ブロック含み、やや明るい。
10. 10YR3/4 暗褐色～4/4 褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　地山黄褐土粒ごく微。
11. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　地山土粒　やや多。

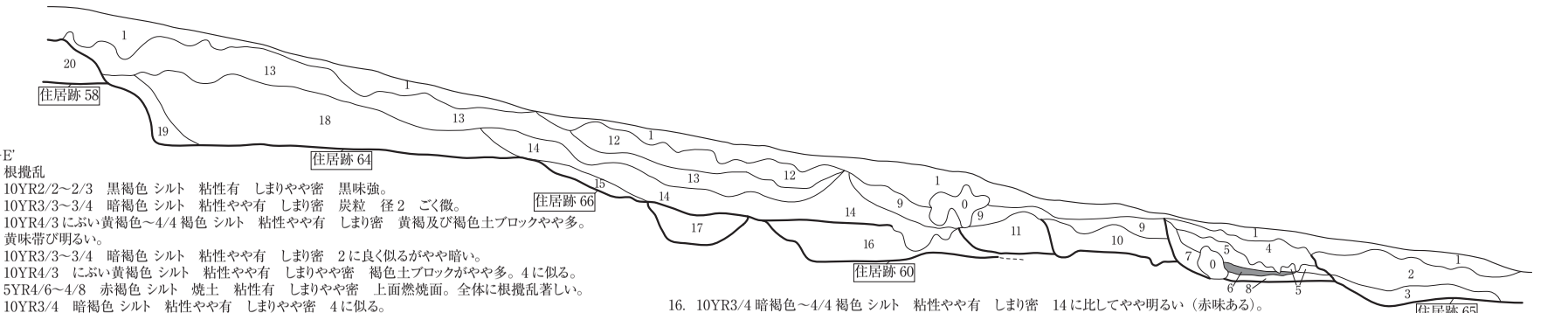
0　1：50　2m

第 77 図　住居跡 54・58～60・63・66　土坑 58



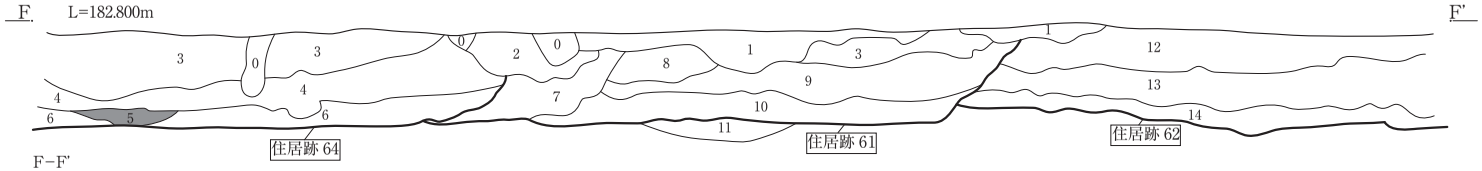
D−D'
0. 根攪乱
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや密　黒っぽい層。
1b. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒径 2〜5　ごく微。1 より黒味強。
1c. 10YR3/3　暗褐色 シルト　1b に黄褐土含み明るい。
2. 10YR4/4〜4/6　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや密　褐色土ブロック層。
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　褐色土ブロックやや多。
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径 2〜5　ごく微。褐色土ブロック微。
5. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒径 2〜5　ごく微。上下層に比して黒味有り暗い。
6. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土粒径 5　微含み、5 に比して明るい。
11 層の上位では焼土含み赤味有。
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土粒径 5　少。5〜6 層より明るい。
8. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒ごく微。
8'. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　8 層に黄褐土小ブロックを少量含む。
9. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土粒微。7 層に似る。
10. 10YR4/4〜4/6　褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロック径 10〜30　やや多。
11. 5YR4/8　赤褐色 シルト　焼土　粘性有　しまり極密　上部ほど明るい。
12. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土ブロック　径 5〜10　多。
上面床面か。
13. 10YR3/4 暗褐色〜4/4 褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　6·7·9 に似る。炭小片ごく微。(目立つ)
14. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　13 に似るが黒っぽい。
15. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロック少。14 に比して明るい。13 層に似る。
16. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロック少。15 よりわずかに明るい（黄褐土多い）が、層界不明瞭。
両者の層界が住居跡 58・59 の立ち上がりの可能性有るが、不確かである。完掘形態から検討のこと。
(17). 10YR5/6　黄褐色粘土質 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土ブロック層。根攪乱の可能性。
18. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径 2〜5　ごく微。22 層との層界不明瞭。
19. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土ブロック少。pit の掘方埋土様。
20. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　上下層より暗い土層。
21. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密
22. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密。21 より黄褐ブロック多。

0　1：40　2m



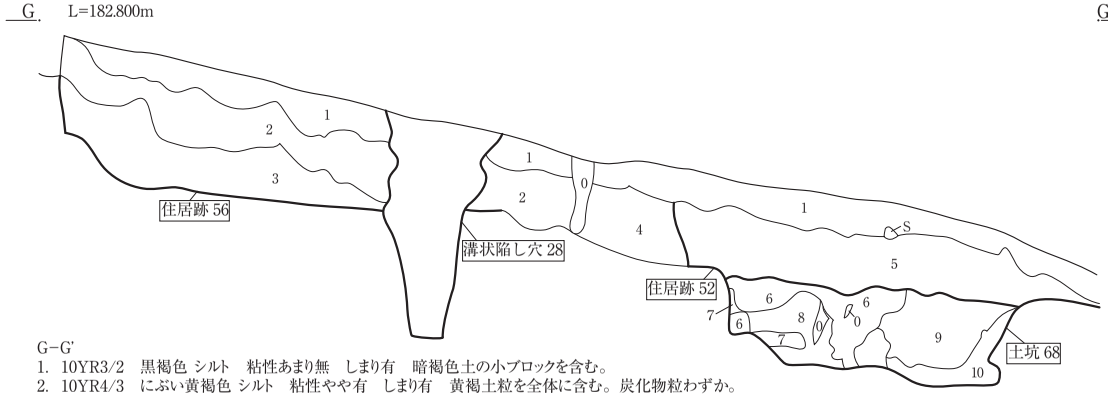
E−E'
0. 根攪乱
1. 10YR2/2〜2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや密　黒味強。
2. 10YR3/3〜3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒　径 2　ごく微。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色〜4/4 褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐及び褐色土ブロックやや多。
黄味帯び明るい。
4. 10YR3/3〜3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　2 に良く似るがやや暗い。
5. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　褐色土ブロックがやや多。4 に似る。
6. 5YR4/6〜4/8　赤褐色 シルト　焼土　粘性有　しまりやや密　上面燃焼面。全体に根攪乱著しい。
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　4 に似る。
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色〜4/4 褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　3 に良く似る。
9. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　褐色土ブロックやや多。5 に似るが、やや暗い。
10. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒ごく微。2 に似る。
11. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒·焼土粒ごく微。10 に比して明るい。14 に似る。
12. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり密　褐色土ブロック層。
13. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　褐色土ブロックやや多。9 に良く似る。
14. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒ごく微。11 に似る。
15. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロックやや多。
16. 10YR3/4 暗褐色〜4/4 褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　14 に比してやや明るい（赤味ある）。
みっちりとしまっている層。
17. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　16 に似るがやや暗くしまり弱。
18. 10YR3/3〜3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒　径 5　微。
19. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土粒少。
20. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　18 に似る。

0　1：50　2m

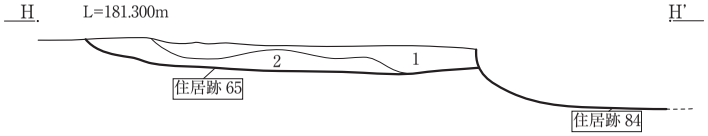


F−F'
0. 根攪乱
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや疎　黒っぽい層。
2. 10YR3/4 暗褐色～ 4/4 褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　褐色土ブロック多。全体に明るい。
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　褐色土ブロックやや多。
　2 に似るがブロックやや少なくわずかに暗い。
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径 5　ごく微（目立つ）。
5. 5YR4/8　赤褐色 シルト　焼土　粘性有　しまり密　赤変良好。全体に根攪乱受けている。
6. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　4 に似るが黄褐土微量含み、やや明るく、4 よりしまっている。
　上面に焼土（5 層）生成することから本層上面が床面の可能性有。
7. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒径 2 ～ 5 ㎜　ごく微。褐色土全体に微量含み、やや明るい。
8. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　褐色土ブロックやや多、3 層に似る。
9. 10YR3/3 ～ 3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密
10. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　黄褐土及び褐色土ブロック少。
11. 10YR4/4 ～ 4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり密　黄褐土及び褐色土ブロック多。
12. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　3･8 層に似る。
13. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径 2 ～ 5 ㎜　ごく微。4 層に似る。
14. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　黄褐土ブロックやや多。13 より明るくしまっている。6 に似る。

0　1：50　2m



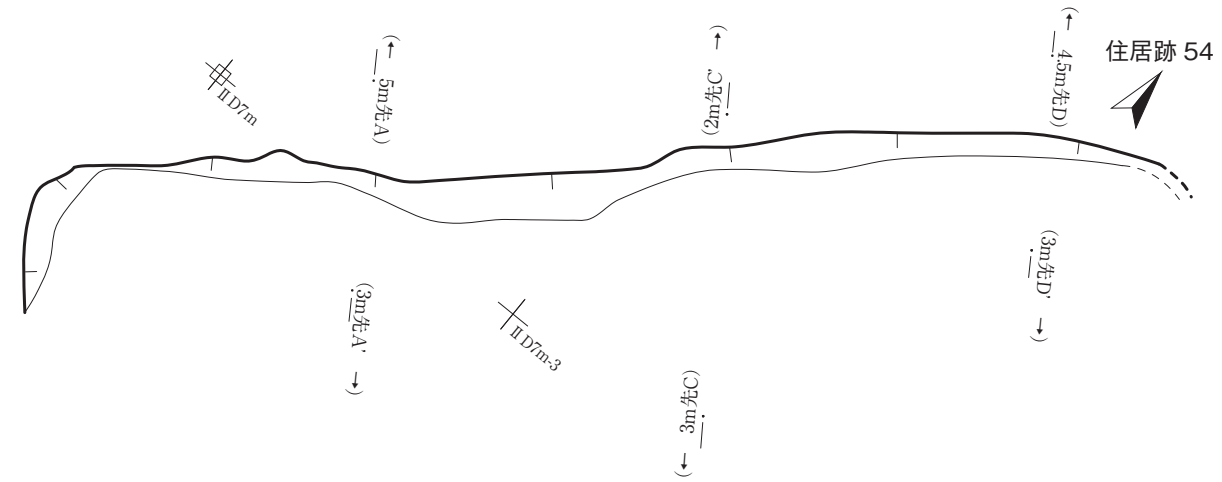
G−G'
1. 10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性あまり無　しまり有　暗褐色土の小ブロックを含む。
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや有　しまり有　黄褐土粒を全体に含む。炭化物粒わずか。
3. 10YR4/4　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　SI74 の埋土。単層。
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや有　しまり有　2 層に似るが、ダラダラ底面が下がるので別扱い。
5. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性やや有　しまり有　別遺構の埋土の可能性あり。現段階では不明。
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや有　しまり有　炭化物粒をまばらに含む。
7. 10YR4/6　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや有　地山崩落ブロック。
8. 10YR4/4　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　黄褐色土粒をまばらに含む。
9. 7.5YR3/4　暗褐色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物粒をごくまばらに含む。
10. 10YR4/4　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや有　地山崩落小ブロック含む。

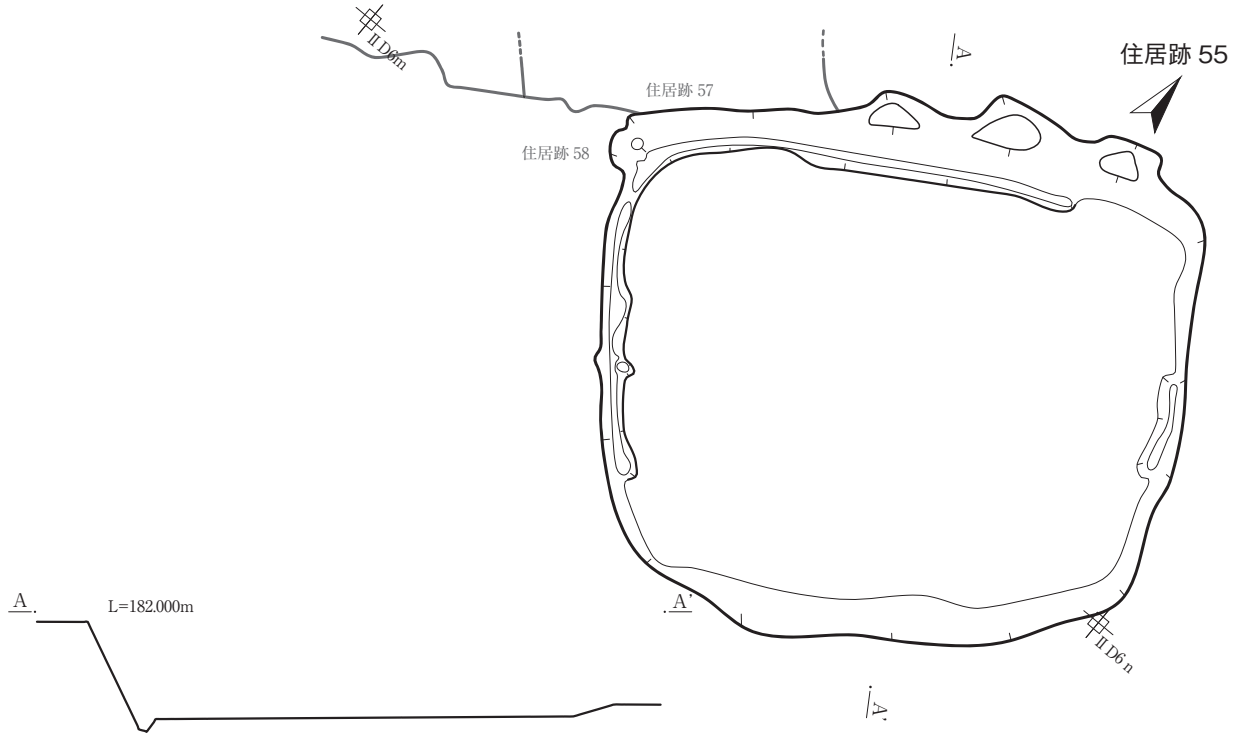


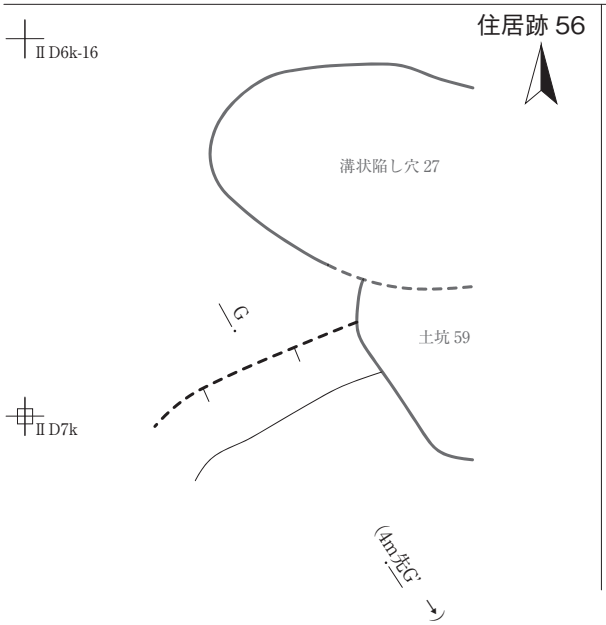
H−H'
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒径 2 ～ 5　ごく微。
2. 10YR3/4 暗褐色～ 4/4 褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　褐色土少含む。

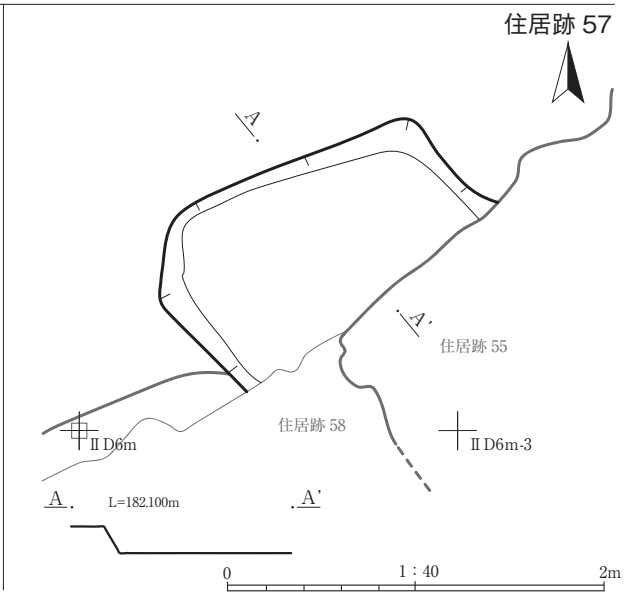
0　1：40　2m

第 79 図　住居跡 56・61・62・64・65　土坑 68　溝状陥し穴 28

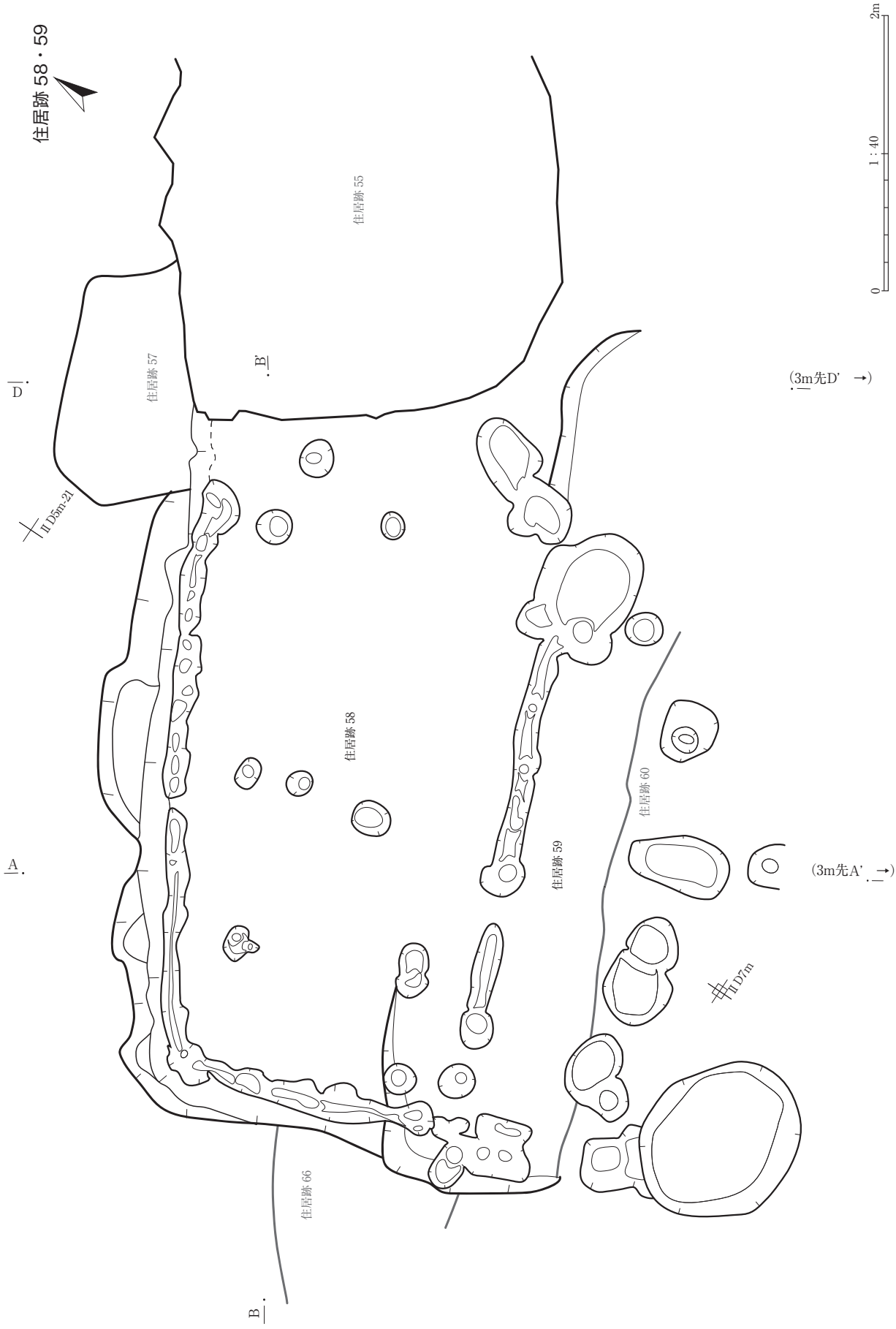




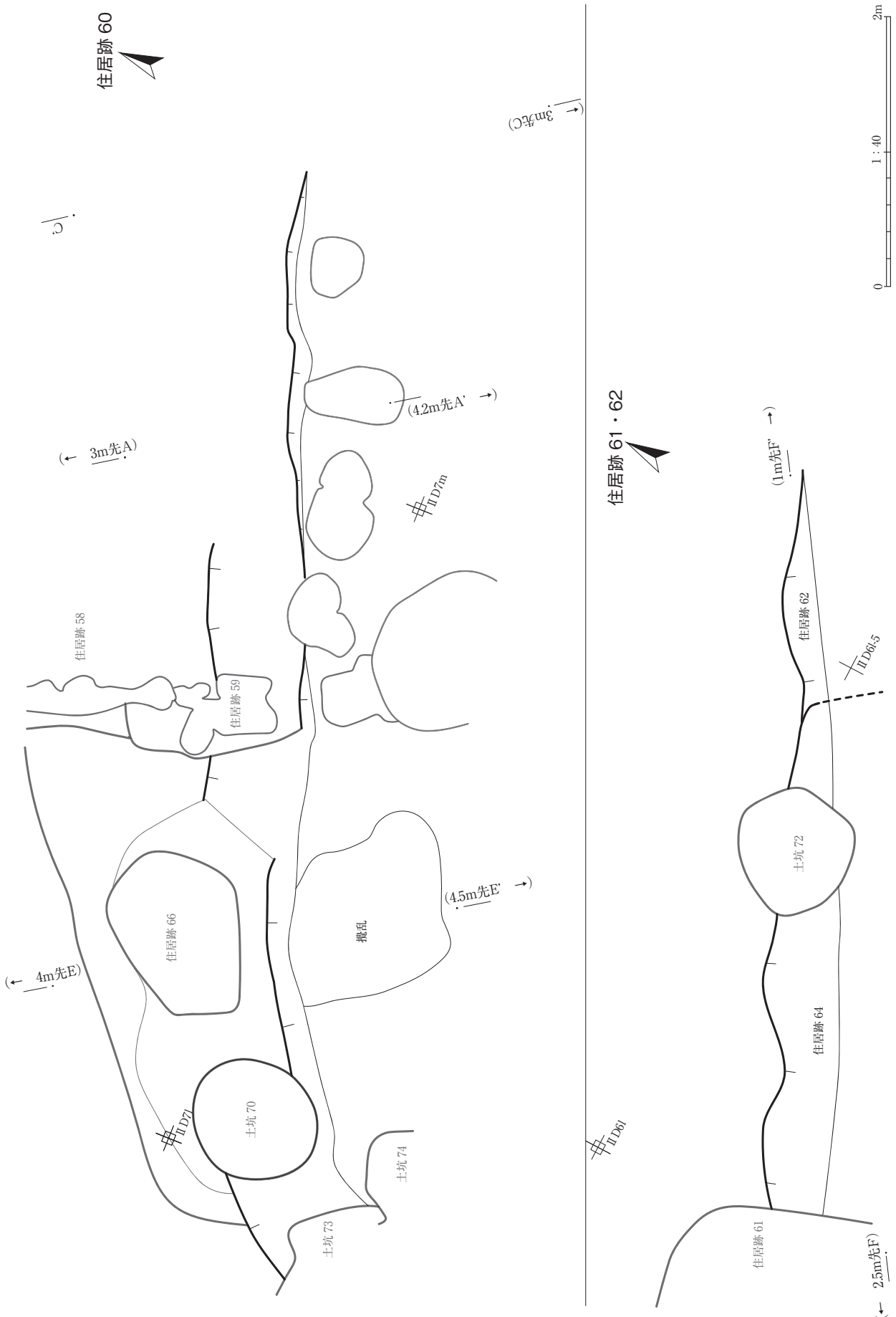




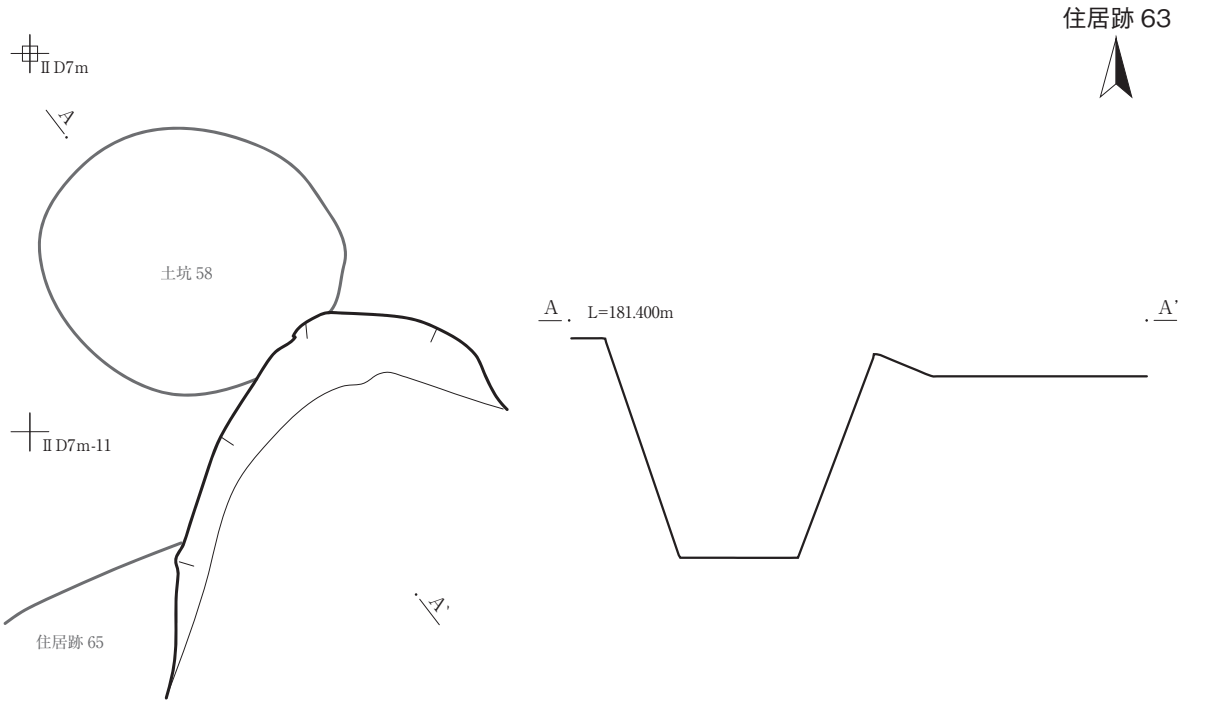
第 80 図　住居跡 54～57

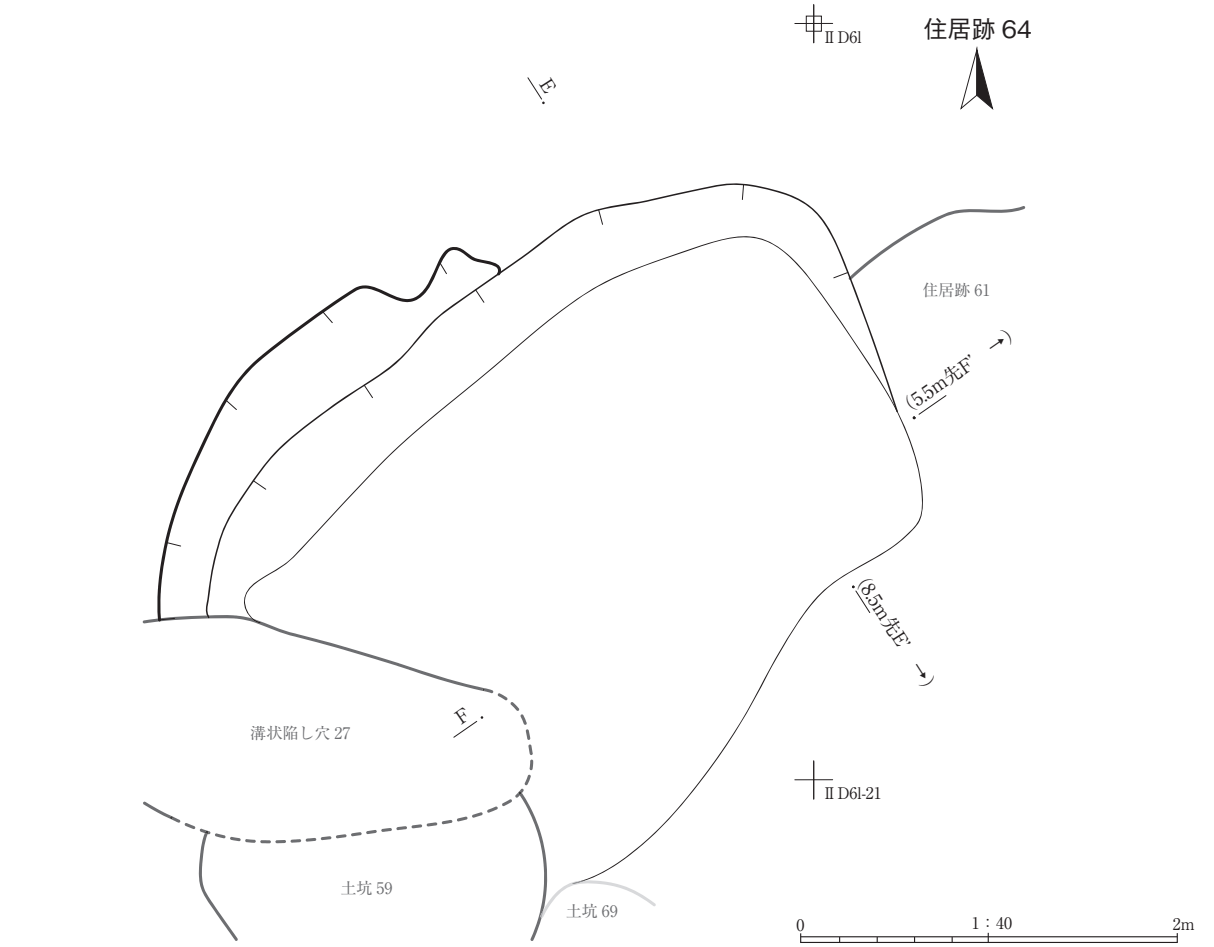


第 81 図　住居跡 58・59

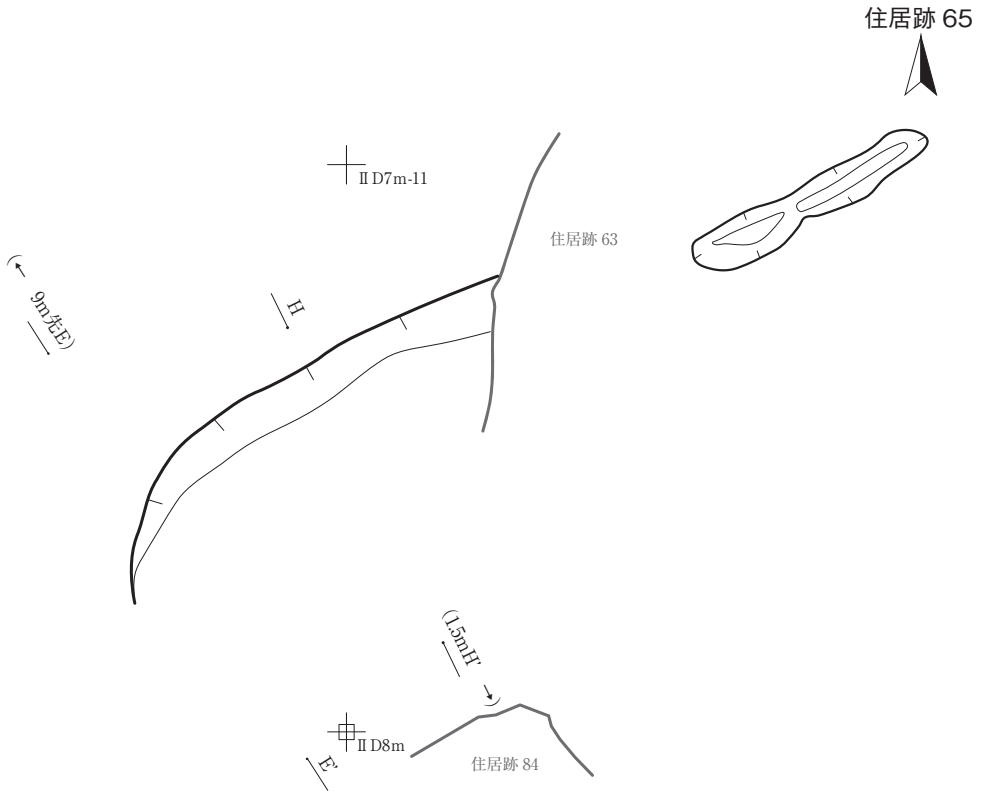


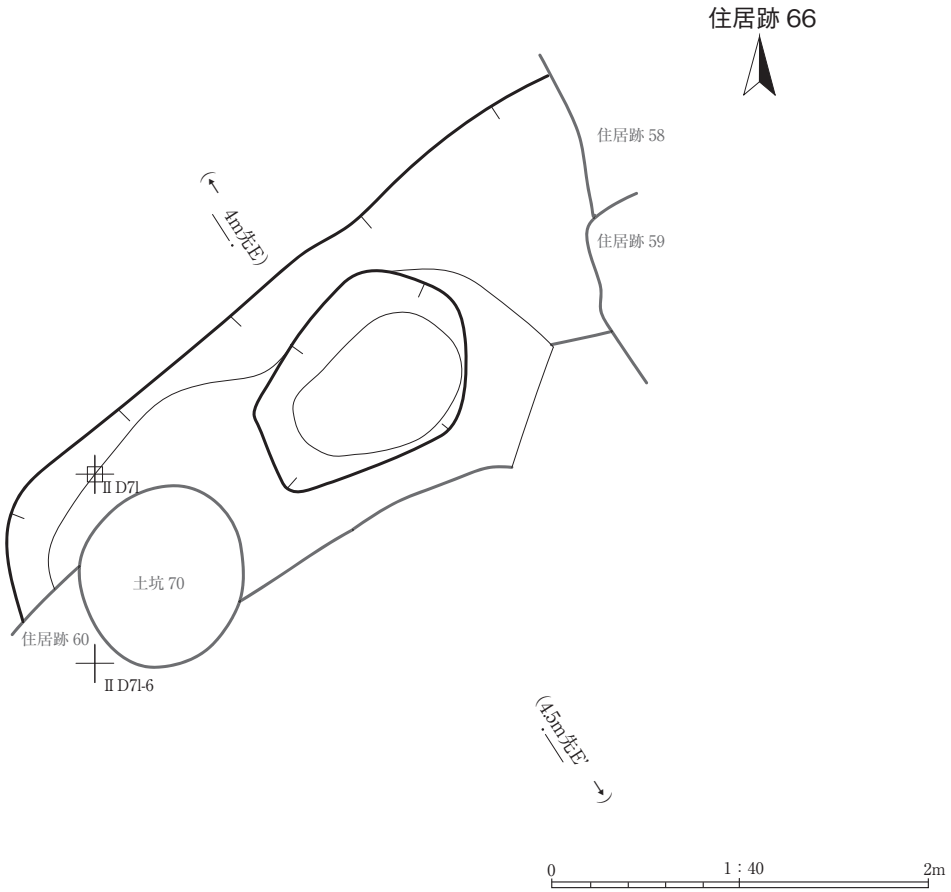
第 82 図　住居跡 60～62



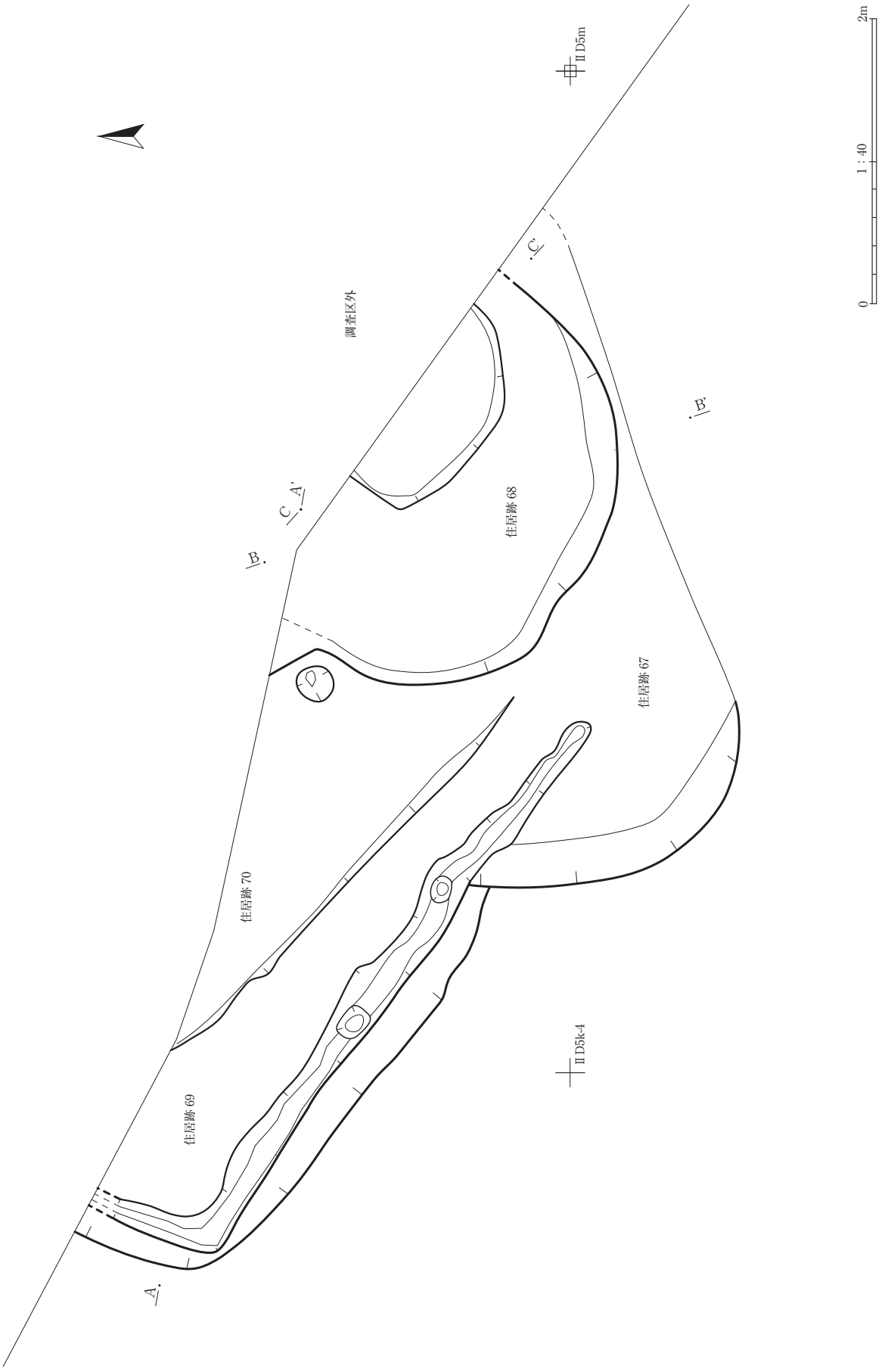


第 83 図　住居跡 63・64

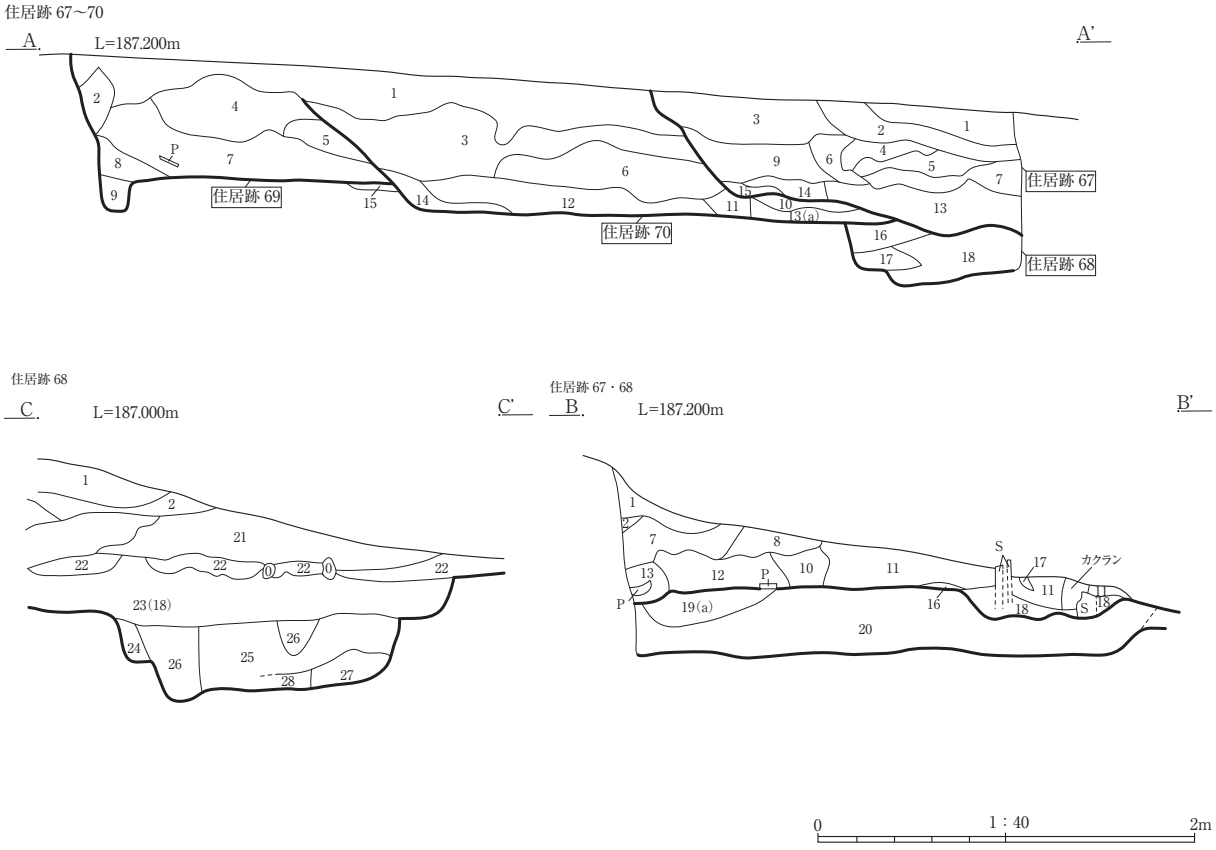




第 84 図　住居跡 65・66



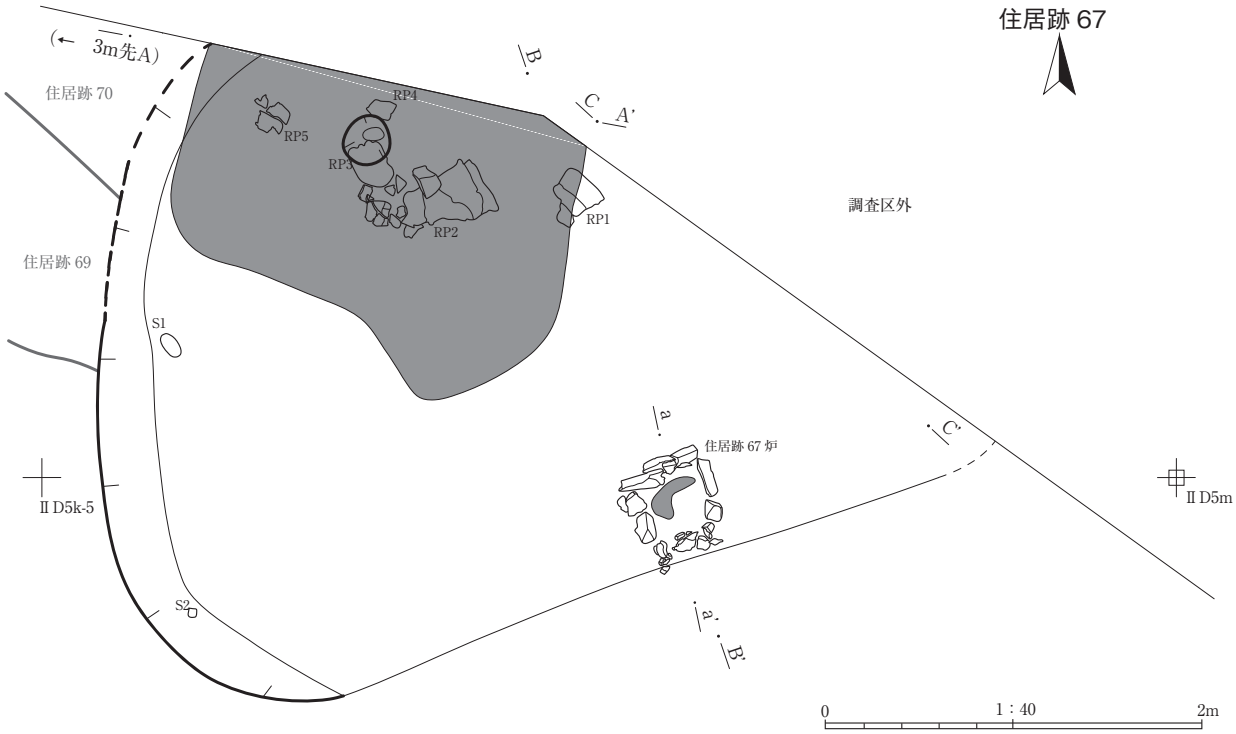
第 85 図　住居跡 67～70（1）

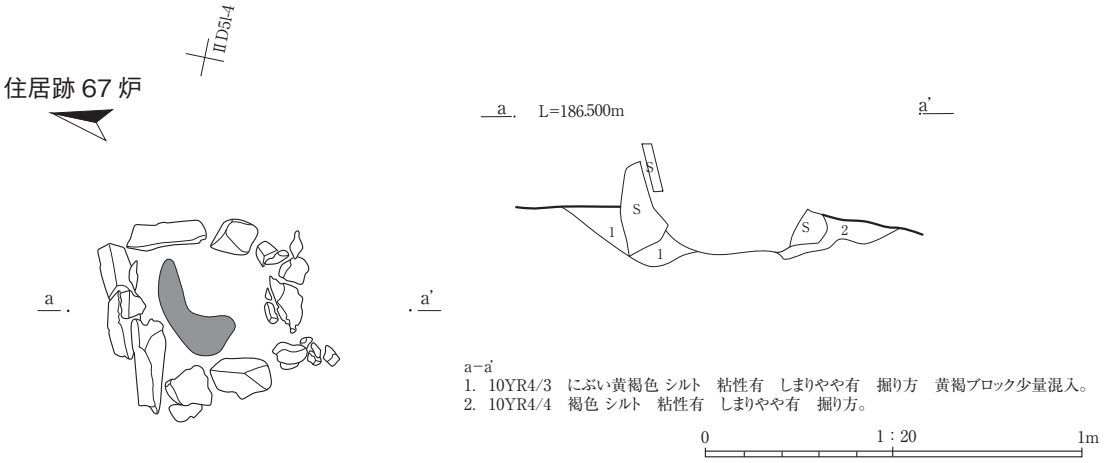


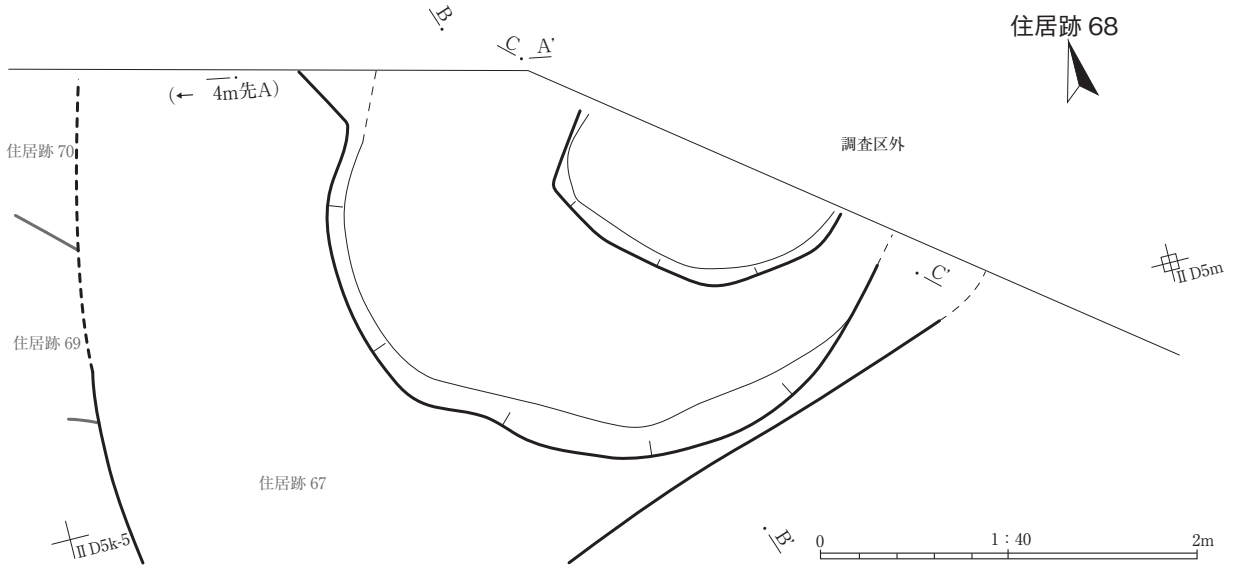
住居跡 67・68
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
2. 10YR4/2　灰黄褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有　炭化物微量含む。
3. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐ブロックを少量含む。
4. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有
5. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　全体に炭化物を含む。
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
7. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　大径の炭化物が散見。
8. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有
9. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　上位に黄褐色土混入。
10. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土ブロック・炭化物少量含む。
11. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　褐～黄褐ブロック混入。
12. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物微量含む。
13. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物・焼土粒を多く含む
14. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物少量含む。
15. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　暗褐色土との混土層。
16. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
17. 7.5YR5/6　明褐色 シルト　粘性有　しまり欠　焼土ブロック。
18. 石囲炉
19. 住居跡 69・7013 層と同じ…（a）
20. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまりやや有　黄褐ブロックを全体に含む。
→住居跡 68 埋土…（b）
21. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有　炭化物粒含む。
22. 7.5YR4/4　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　黒褐色土小ブロック含む。
23. 10YR4/6　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　住居跡 68 の埋土。18 層に同じ。
24. 10YR4/6　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　地山崩落ブロック。
25. 10YR4/4　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまり有　炭化物粒微量含む。
26. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや有　柱穴埋土か?
27. 10YR3/3　暗褐色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物粒含む。
28. 10YR4/4　褐色粘土質 シルト　粘性有　しまりやや有　炭化物粒含む。

住居跡 69・70
1. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物を微量含む。
2. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　地山ブロック土。
3. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土粒・炭化物を微量含む。
4. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
1 層に似るが、全体に黄褐土ブロックを含む。
5. 7.5YR5/6　明褐色 シルト　粘性有　しまり有
炭化物等を含む廃棄焼土層（異地性）。
6. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　黄褐土ブロックを含む。
7. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり有
黄褐土ブロック・炭化物を全体に含む。
8. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　ブロック土。
9. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり有　壁溝（住居跡 69）埋土。
10. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有　焼土ブロック・炭化物少量含む。
11. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性有　しまり欠　焼土粒・炭化物微量含む。
12. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　炭化物多く含む。
13. 5YR4/2　灰黄褐色 シルト　粘性有　しまり有　ハイキ焼土層。…（a）
14. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり有
黄褐ブロック・焼土粒・炭化物多く含む。
15. 2.5YR5/8　明赤褐色 シルト　粘性有　しまり有　住居跡 69 炉焼土。
16. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり欠
17. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり欠
18. 20 層と同じ（住居跡 67・70）…（b）

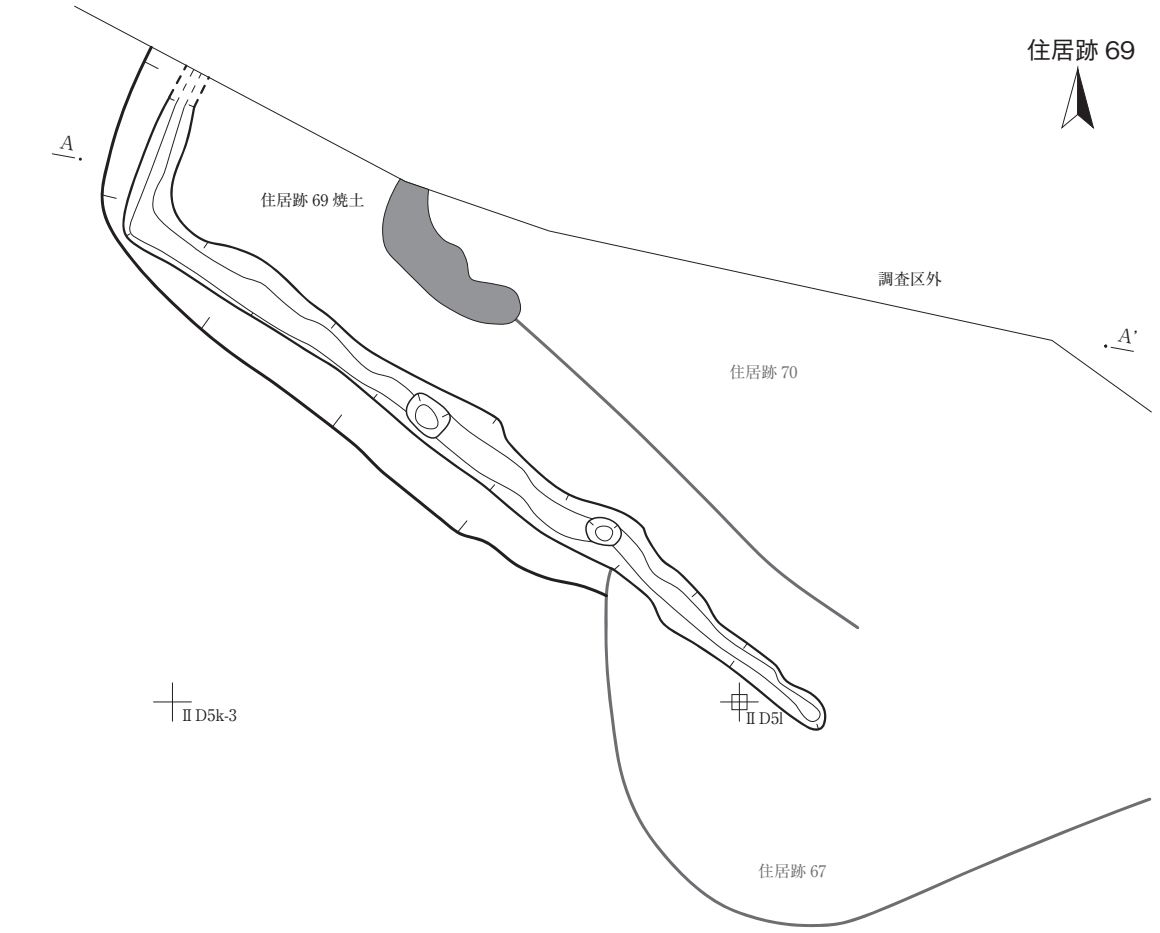
第 86 図　住居跡 67～70（2）

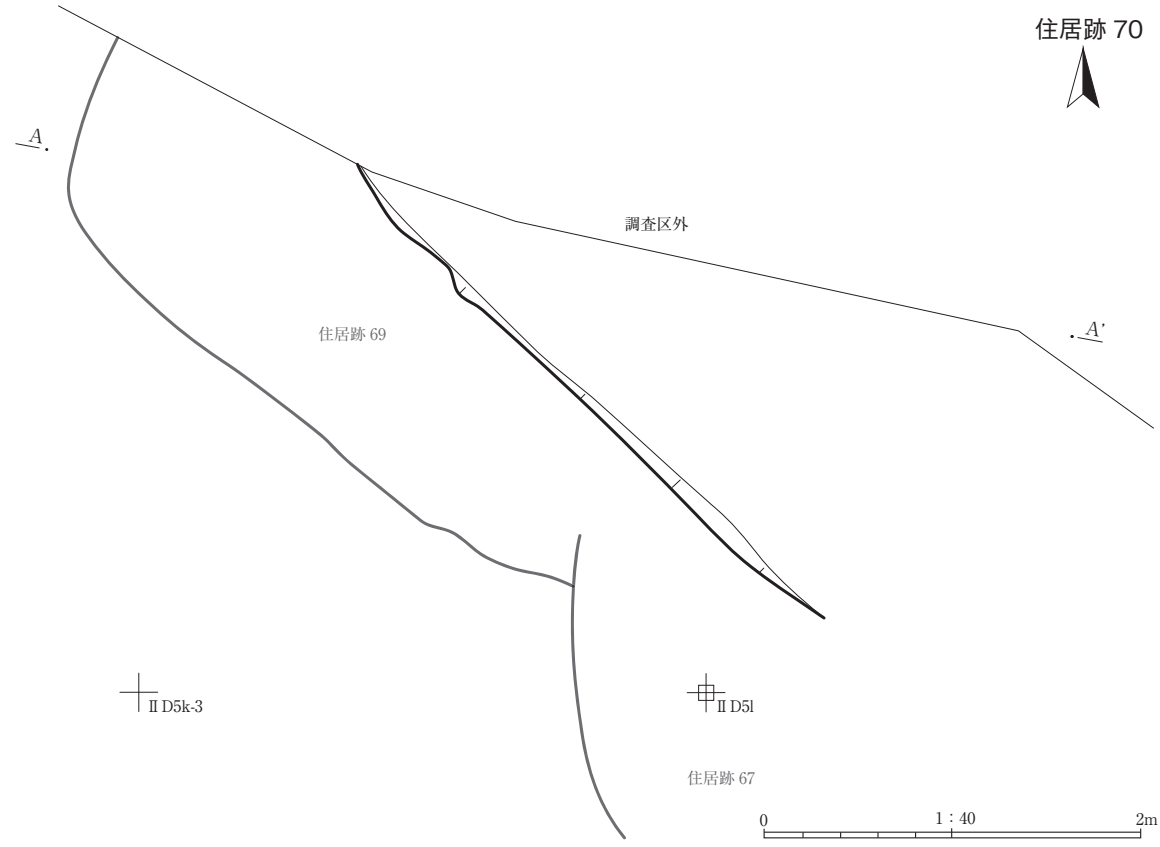




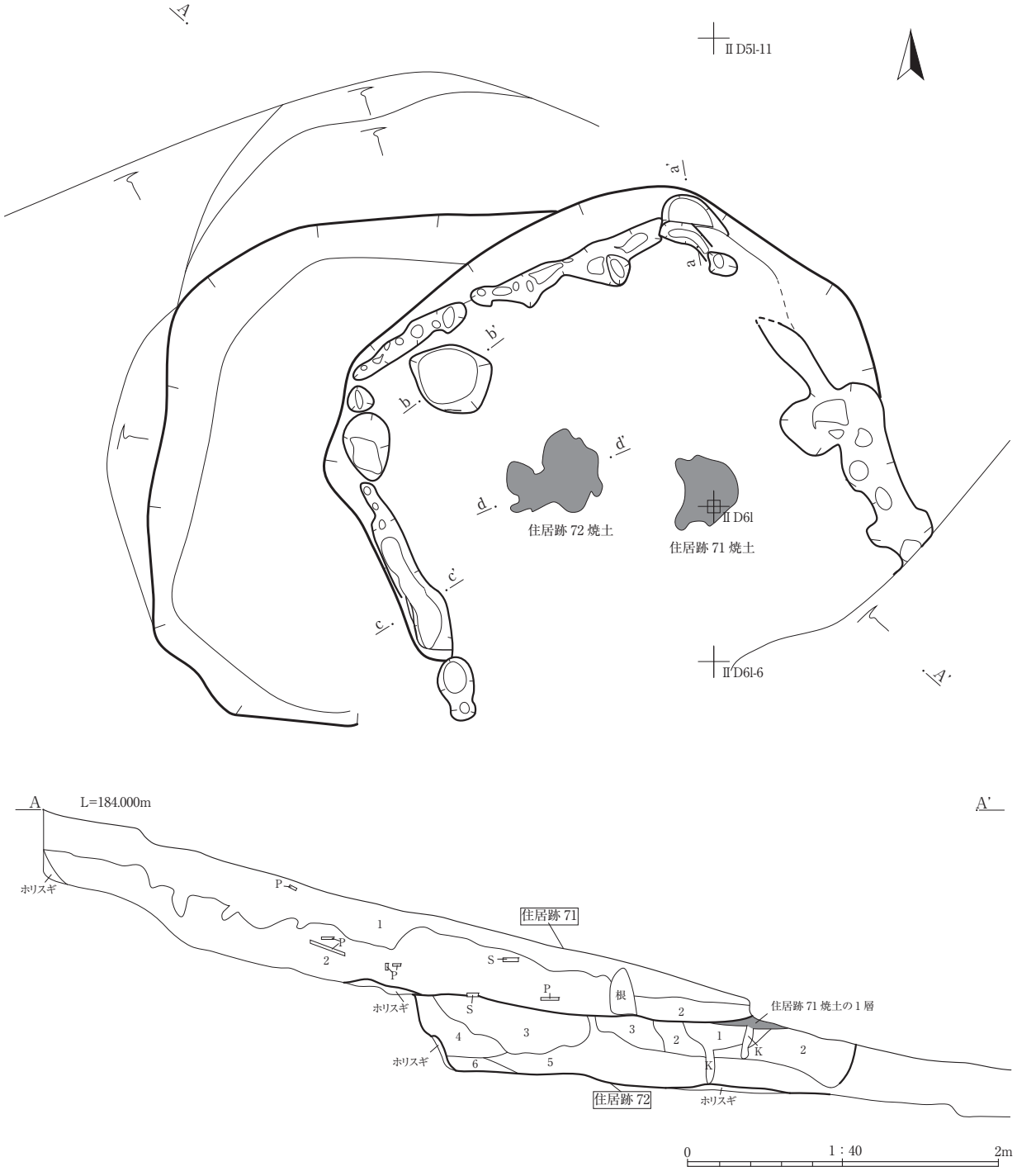


第 87 図　住居跡 67・68





第 88 図　住居跡 69・70

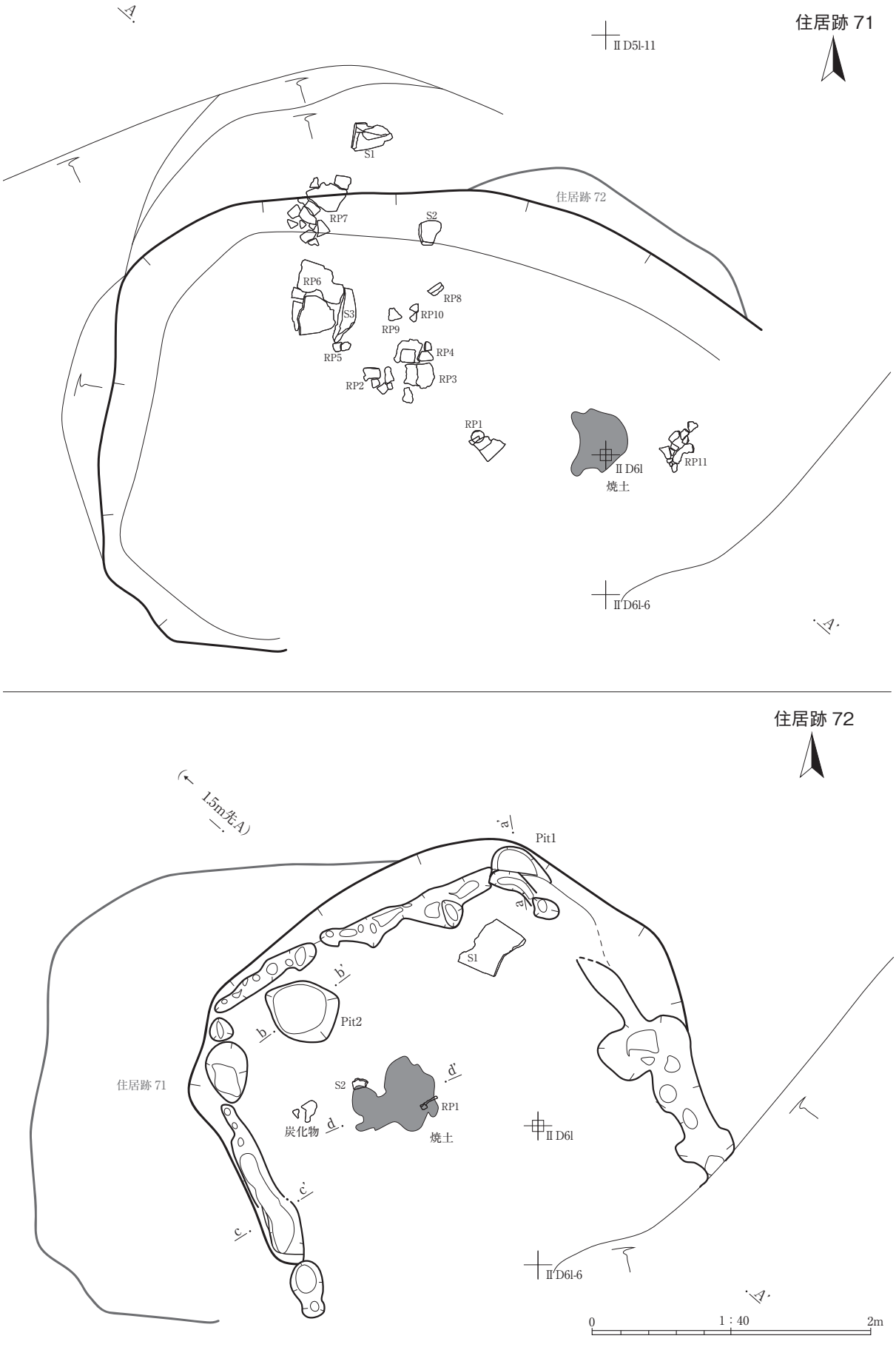


住居跡 71
1. 10YR3/1 黒褐色 シルト　粘性中　しまり中　炭化物　焼土（径～2 ㎜） 2%　地山を少量含む。　※基本層序、自然堆積
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト　粘性中　しまり中　炭化物（径～5 ㎜） 2%　焼土（径～1 ㎜） 1% 10YR6/8 明黄褐色 シルトブロック（径～5 ㎜） 1～2%　地山を少量含む。

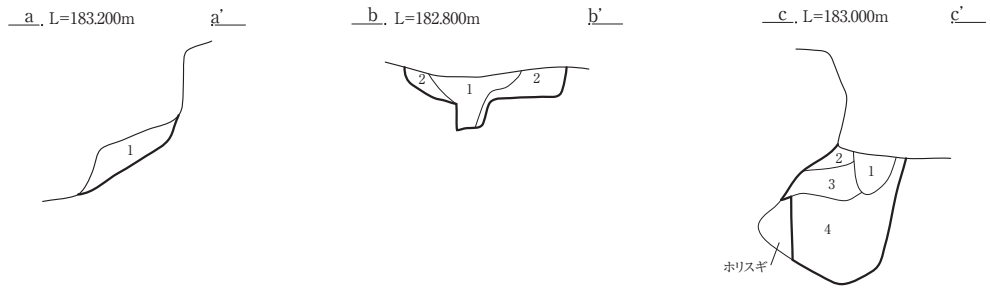
住居跡 71 焼土
1. 5YR5/8　明赤褐色焼土　粘性やや弱　しまりやや弱

住居跡 72
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまり中　SI57 炉の焼土ブロック（径～2 ㎜） 2～3%　炭（径～2 ㎜） 1～2%
　7.5YR4/4　褐色 シルトブロック（径 5～10 ㎜） 2～3%
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまり中　7.5YR4/4　褐色 シルトブロック（径 5 ㎜前後） 2～3%　焼土･炭（径～2 ㎜） 1～2%
3. 10YR3/4　暗褐色　粘性やや強　しまり中　炭（径～5 ㎜） 2～3%　焼土（径～2 ㎜） 1%　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径～2 ㎜） 7～10%
4. 10YR3/4　暗褐色　粘性やや強　しまり中 10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径～5 ㎜） 10～15%　焼土･炭（径～1 ㎜） 1%
5. 10YR3/4　暗褐色　粘性やや強　しまり強　炭（径～2 ㎜） 2～3%　焼土（径～1 ㎜） 1%　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径～2 ㎜） 5～7%
6. 10YR3/2　黒褐色　粘性強　しまり強　10YR6/8　明黄褐色シルトブロック（径～2 ㎜） 3%　炭･焼土（径～1 ㎜） 1%

第 89 図　住居跡 71・72



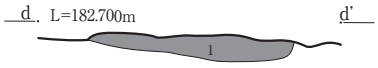
第 90 図　住居跡 71　住居跡 72（1）



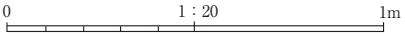
a−a'
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性中　しまり中　炭（径～2㎜）　1%　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径～5㎜）　2～3%

b−b'
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性中　しまり中　炭（径～2㎜）　1%　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径2㎜前後）　3～5%　焼土（径1㎜）　1%
2. 黄褐色に、異色土まじる。粘性やや強　しまりやや強

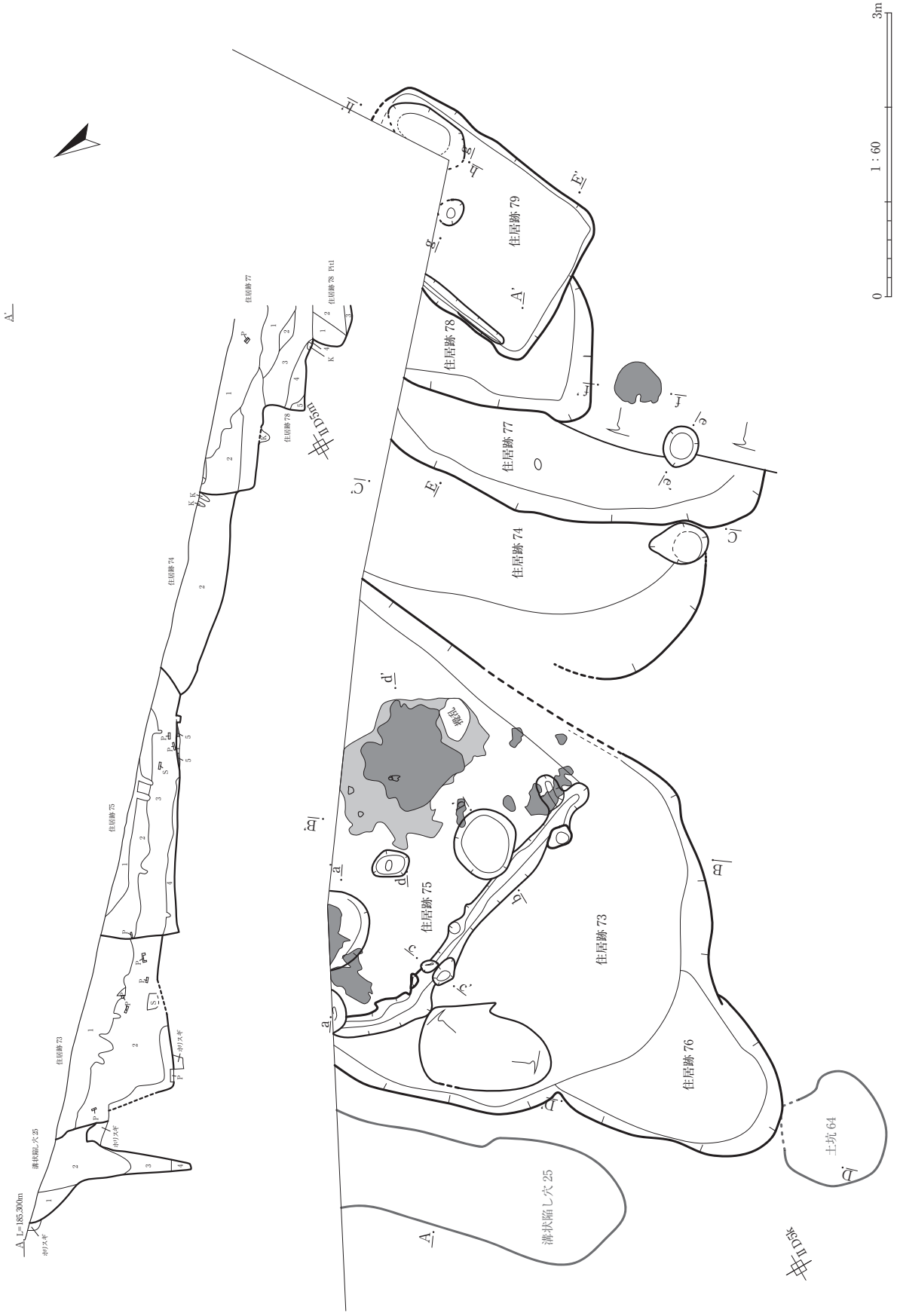
c−c'
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや強　しまり中　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径～2㎜）　2～3%　炭（径～1㎜）　1%　※壁溝埋土
2. 10YR4/6　褐色 シルト　粘性中　しまり中　炭（径～1㎜）　1%　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径～2㎜）　1～2%
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや強　しまり中　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径～5㎜）　2～3%　10YR2/1　黒色 シルトブロック（径～5㎜）　1%
4. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性強　しまり強　炭（径～2㎜）　1%　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径～2㎜）　3～5%
※2～3：ピット埋土



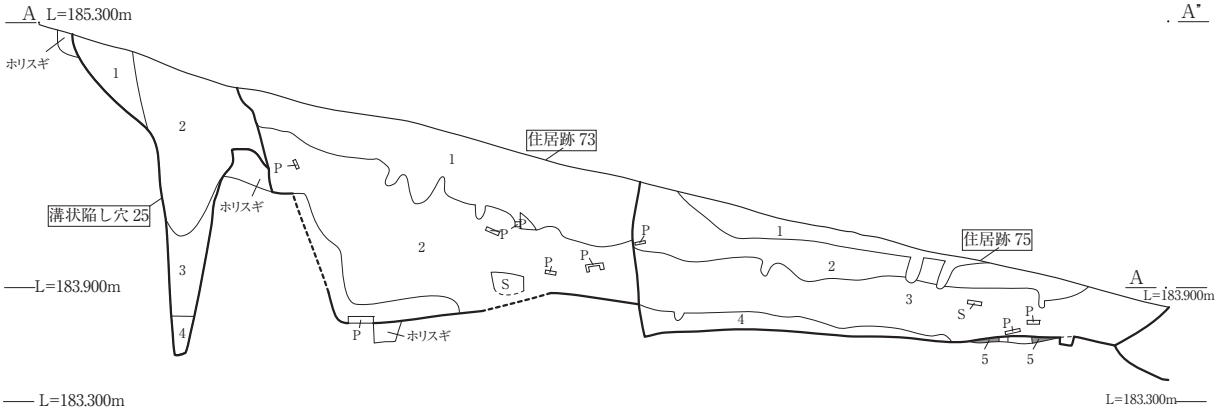
d−d'
1. 5YR4/8　焼土　粘性中　しまりやや弱

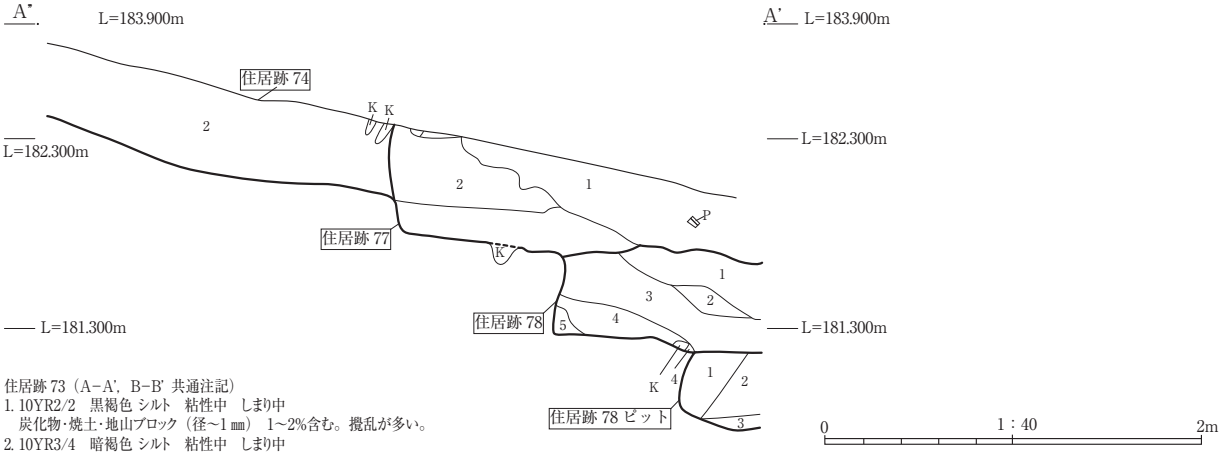


第91図　住居跡72（2）



第 92 図　住居跡 73～79　溝状陥し穴 25





住居跡 73（A−A', B−B' 共通注記）
1. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性中　しまり中
　炭化物·焼土·地山ブロック（径〜1 ㎜）　1〜2%含む。攪乱が多い。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまり中
　炭化物（径〜2 ㎜）を 2〜3%、焼土（径〜1 ㎜）　1%、地山ブロック（径〜5 ㎜）2〜3%含む。
　炭化物が目立つ。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　地山ブロック（径〜5 ㎜）　2〜3%　炭化物（径〜2 ㎜）　1〜2%含む。
　※住居跡 73 の床面施設（図面記録はなく注記のみ記録）

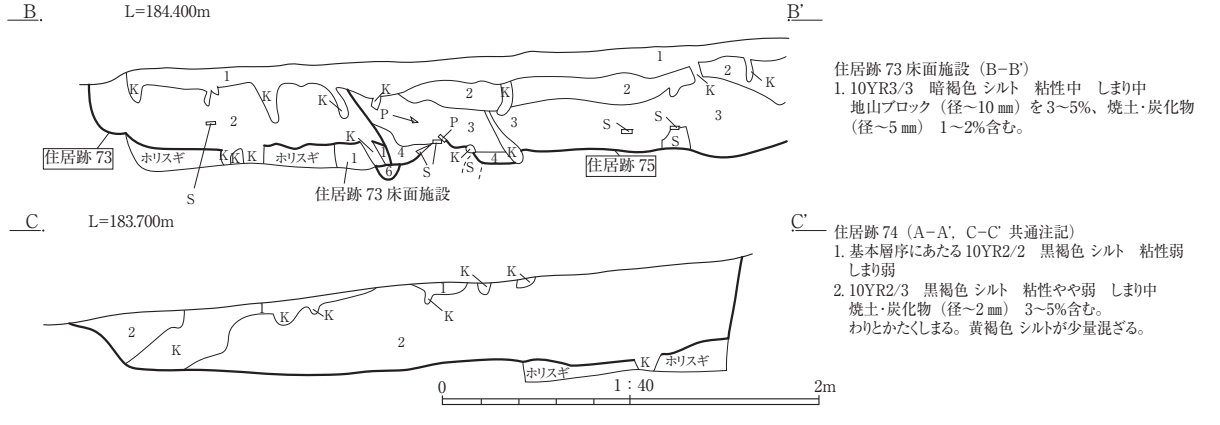
住居跡 75（A−A', B−B' 共通注記）
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　住居埋土ではなく基本層序 1 にあたるが層名が決まっていないので 1 層とした。
　黒褐色土に焼土·炭化物（径〜2 ㎜）を 1〜2%、地山を少量含む。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　炭化物·焼土（径〜2 ㎜）　1〜2%、地山ブロック（径〜10 ㎜）　3〜5%含む。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや強い　しまり中
　炭化物（径〜5 ㎜）　2%含む。地山ブロックとの混合土。
4. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性中　しまり中
　地山ブロック（径〜5 ㎜）　1〜2%、焼土（径〜2 ㎜）　1〜2%、
　炭化物（径〜5 ㎜）　2〜3%　黒色 シルト少量混ざる。
5. 5YR5/6　明赤褐色焼土　粘性やや弱　しまりやや弱　地山がじんわりと焼けている。
6. 10YR3/1　黒褐色 シルト　粘性弱　しまり弱
　10YR5/6　黄褐色 シルトブロック（径〜10 ㎜）　3〜5%含む。
　※B−B' のセクションのみ

住居跡 73 床面施設（B−B'）
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性中　しまり中
　地山ブロック（径〜10 ㎜）を 3〜5%、焼土·炭化物（径〜5 ㎜）　1〜2%含む。

住居跡 78（A−A'）
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　炭化物·焼土（径〜1 ㎜）　1%　ごくわずか。10YR6/8　明黄褐色 シルト粒（径〜1 ㎜）　1%
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性中　しまり中
　10YR6/8　明黄褐色 シルト粒（径〜5 ㎜）　7〜10%
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまりやや強
　炭·焼土（径〜2 ㎜）　3%　10YR6/8　明黄褐色 シルト粒（径 2 ㎜前後）　5%
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　炭（径〜1 ㎜）　1%　ごくわずか　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　7〜10%
5. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや強　しまり中
　10YR6/8　明黄褐色 シルト粒（径〜1 ㎜）　1%

住居跡 78 ピット 1（A−A'）
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　3%
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまりやや弱
　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　5%　炭化物（径 5〜10 ㎜）　1%
3. 10YR2/1　黒色 シルト　粘性やや強　しまり中
　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック·焼土ブロック（径〜5 ㎜）　2〜3%

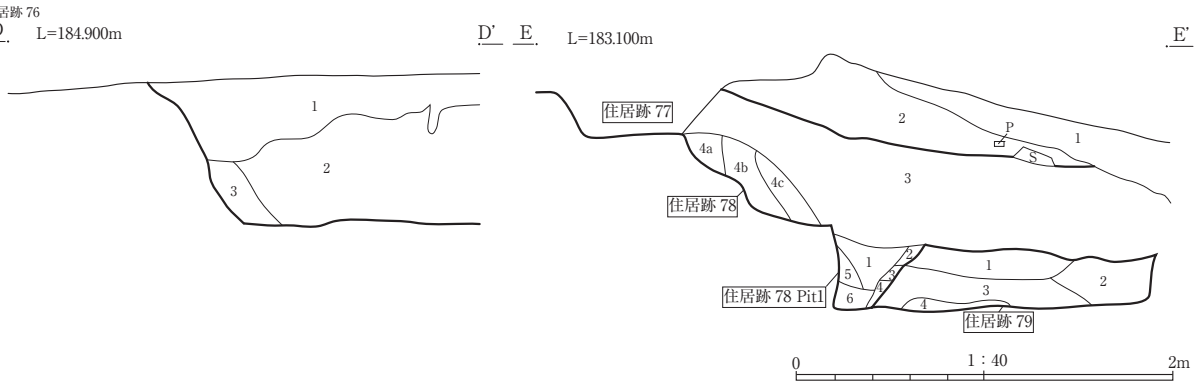
住居跡 77（A−A'）
1. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性弱　しまり弱
　焼土·炭（径〜2 ㎜）　1〜2%
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまりやや弱
　炭化物（径〜1 ㎜）　1〜2%10YR6/8　明黄褐色 シルト粒（径 2 ㎜前後）3〜5%



住居跡 73 床面施設（B−B'）
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性中　しまり中
　地山ブロック（径〜10 ㎜）を 3〜5%、焼土·炭化物
　（径〜5 ㎜）　1〜2%含む。

住居跡 74（A−A', C−C' 共通注記）
1. 基本層序にあたる 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性弱
　しまり弱
2. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや弱　しまり中
　焼土·炭化物（径〜2 ㎜）　3〜5%含む。
　わりとかたくしまる。黄褐色 シルトが少量混ざる。

第 93 図　住居跡 73〜75・77・78　溝状陥し穴 25



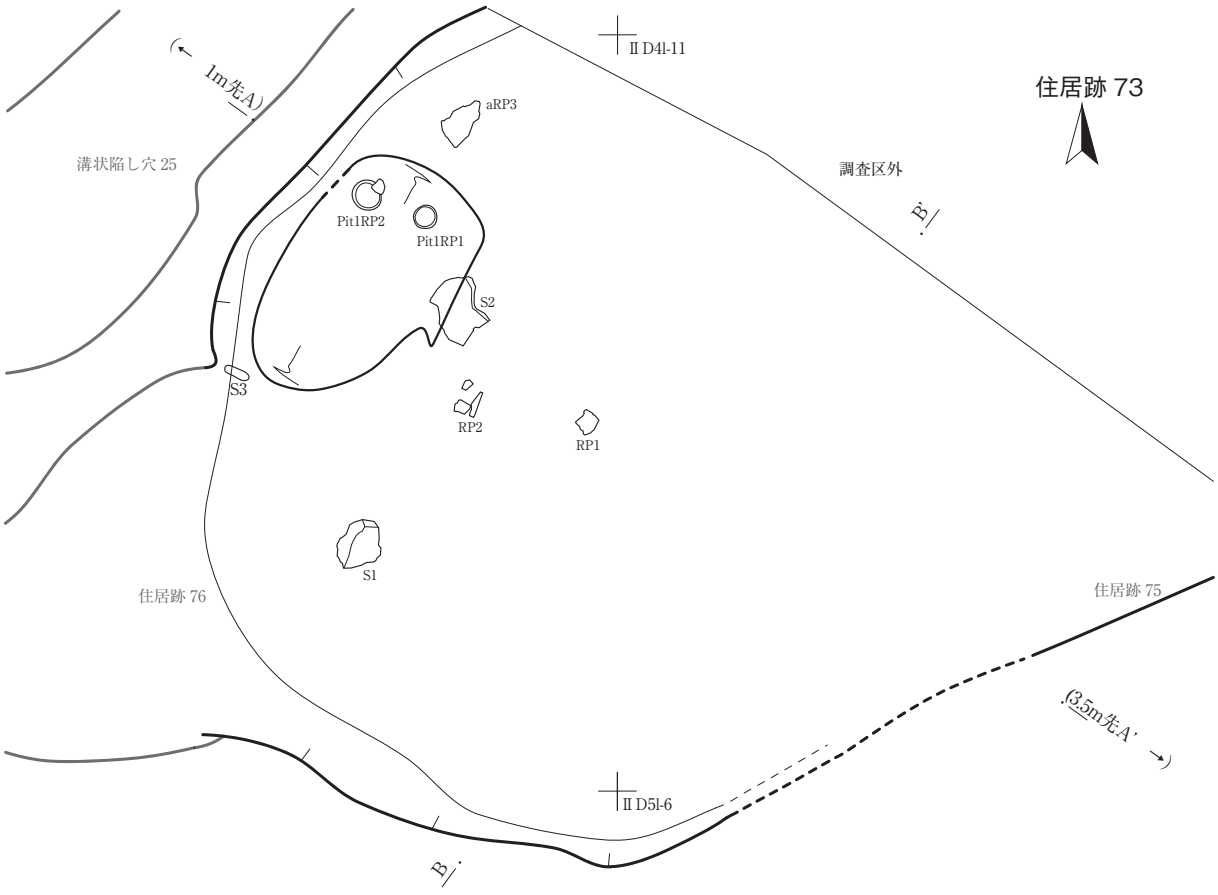
住居跡 76（D−D'）
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまりやや弱
　炭化物・焼土（径〜1 ㎜）　2〜3% 10YR6/8　明黄褐色 シルト　粒（径〜2 ㎜）　2〜3%含む。
　やや黒っぽい。
2. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強　炭化物（径〜5 ㎜）　1〜2%
　10YR4/3　にぶい黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　5%含む。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性中　しまりやや強
　地山との混合土で住居壁の崩落土。

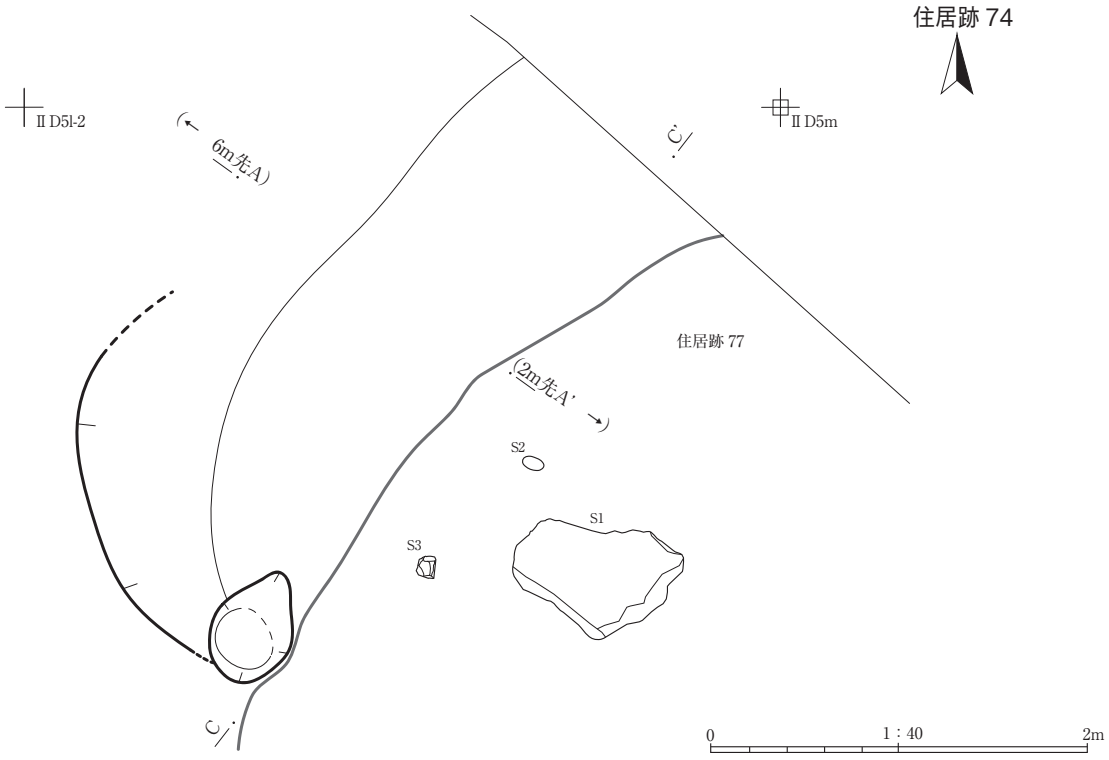
住居跡 77・78（E−E'）
1. 基本層序。住居を切る層。
　10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性中　しまりやや弱
　10YR4/4　褐色 シルトブロック（径 5〜10 ㎜）　3〜5%
　10YR2/1　黒色 シルトブロック（径 5〜10 ㎜）　1〜2%
2. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性弱　しまり弱
　焼土・炭（径〜2 ㎜）　1〜2%　暗褐色 シルト少量まざる。　※SI38e 埋土
3. 10YR3/4　暗褐色　粘性中　しまり強
　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径 5 ㎜）　2〜3%、
　（径〜2 ㎜）3〜5%　炭（径〜5 ㎜）　1〜2%　焼土（径〜1 ㎜）　1%
4a. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまり中
　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　2〜3%
4b. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや強　しまり中
　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　5〜7%
4c. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまり中
　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径〜2 ㎜）　1〜2%　焼土（径〜5 ㎜）　1%
※1・2層は住居跡 77 埋土、3・4 層は住居跡 78 埋土

住居跡 78 Pit1（E−E'）
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　炭・焼土（径〜1 ㎜）　1%　10YR4/3　にぶい黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　1%
2. 1 層と同じで、10YR4/3 にぶい黄褐色 シルトブロックが多い（1〜2%）
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性中　しまり中　10YR6/8　明黄褐色ブロック
　（径〜2 ㎜）　3%　10YR2/1　黒色 シルトブロック（径〜2 ㎜）　1%
4. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや強　しまり強
　10YR6/8 明黄褐色と 10R2/1 黒色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　3%
5. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや強　しまり中
　10YR6/8　明黄褐色ブロック（径 5 ㎜）　2%
6. 10YR2/1　黒色 シルト　粘性強　しまり中
　10YR6/8　明黄褐色ブロック（径 5 ㎜）　1%

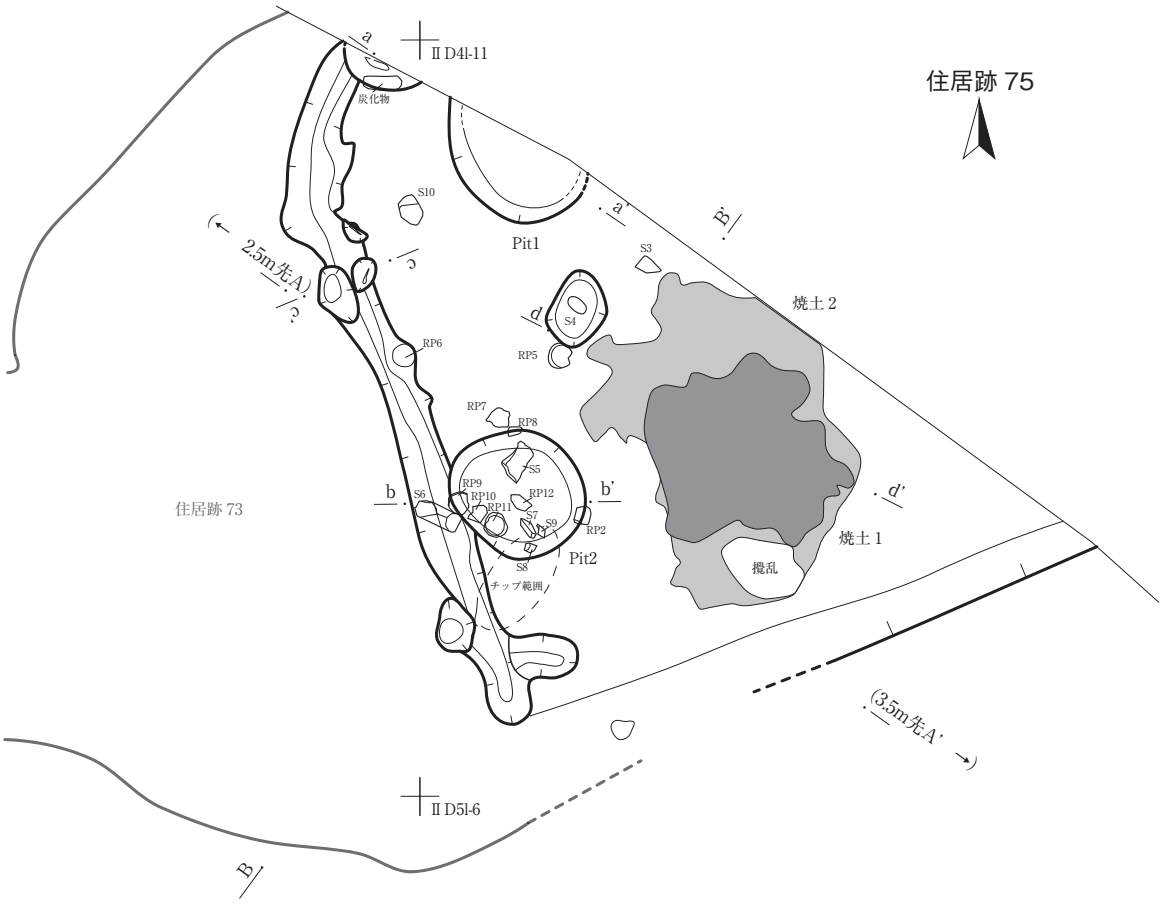
住居跡 79（E−E'）
1. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　炭（径 5〜10 ㎜）　1〜2%10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　2〜3%
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　炭（径 5〜10 ㎜）　1%10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径〜10 ㎜）　3〜5%
　焼土（径〜5 ㎜）　1%10YR2/1　黒色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　1%
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや弱　10YR6/8　明黄褐色 シルト
　ブロック（径〜20 ㎜）　7〜10%　10YR2/1　黒色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　1〜2%
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや弱　炭（径 5〜10 ㎜）　3%
　焼土（径〜2 ㎜）　1%　10YR6/8　明黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　1〜2%

第 94 図　住居跡 76〜79

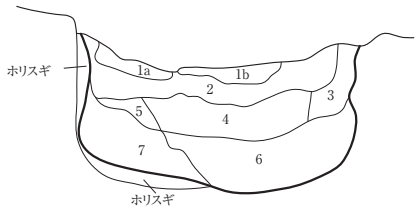




第 95 図　住居跡 73・74

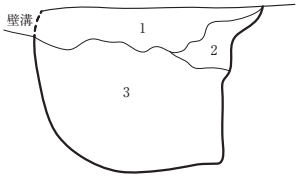


a.　L=183.800m　a'



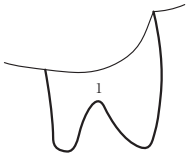
a–a'
1a.　5YR4/8　赤褐色焼土　粘性中　しまり中　10YR3/4　暗褐色 シルト　混ざる（下位に少量）
1b.　10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性中　しまり中
　炭化物（径～2 ㎜）　1%　焼土（1a の）（径～2 ㎜）　5～7%
2.　5YR4/4　にぶい赤褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　焼土（1a 層）（径～2 ㎜）　1～2%　地山ブロック（径～1 ㎜）　1～2%
3.　10YR4/6　褐色 シルト　粘性中　しまり中
　2 層に似るが焼土粒は径～1 ㎜が 1%程でごく少量、うっすら赤い。
4.　5YR5/6　明赤褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強　焼土（径～5 ㎜）　2～3%
5.　10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強　4 層との混合土。
6.　10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性中　しまり中
　地山ブロック（径～5 ㎜）　3～5%　焼土（径～2 ㎜）　1～2%
7.　6 層と同じだが、焼土を多く含む。（焼土径～2 ㎜　5～7%　地山ブロック径～2 ㎜　2～3%）

b.　L=183.700m　b'



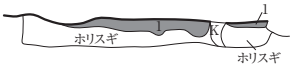
b–b'
1.　10YR3/1　黒褐色　粘性やや強　しまり中　炭化物（径～5 ㎜）　1%、（径～1 ㎜）が 5～7%焼土（径～5 ㎜）
　2～3%　10YR4/3　にぶい黄褐色 シルトブロック（径 10 ㎜）　1%　※壁溝埋土と同じ
2.　5YR4/8　赤褐色焼土　粘性中　しまり中
3.　10YR4/6　褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強　炭化物･焼土（径～2 ㎜）　1～2%　※埋め戻し

c.　L=183.900m　c'

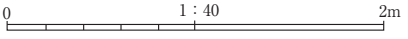


c–c'
1.　10YR3/2　黒褐色 シルト　粘性中　しまり中
　炭化物･焼土（径～2 ㎜）　1～2% 10YR5/6　黄褐色
　シルトブロック（径～5 ㎜）　5～7%含む。

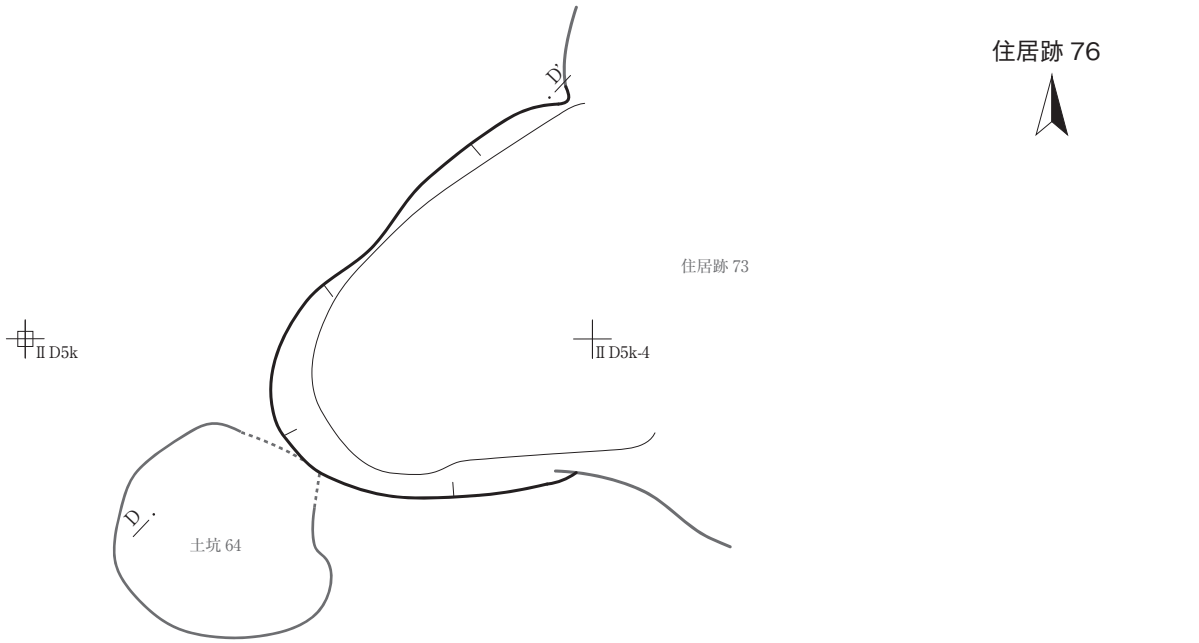
d.　L=183.800m　d'

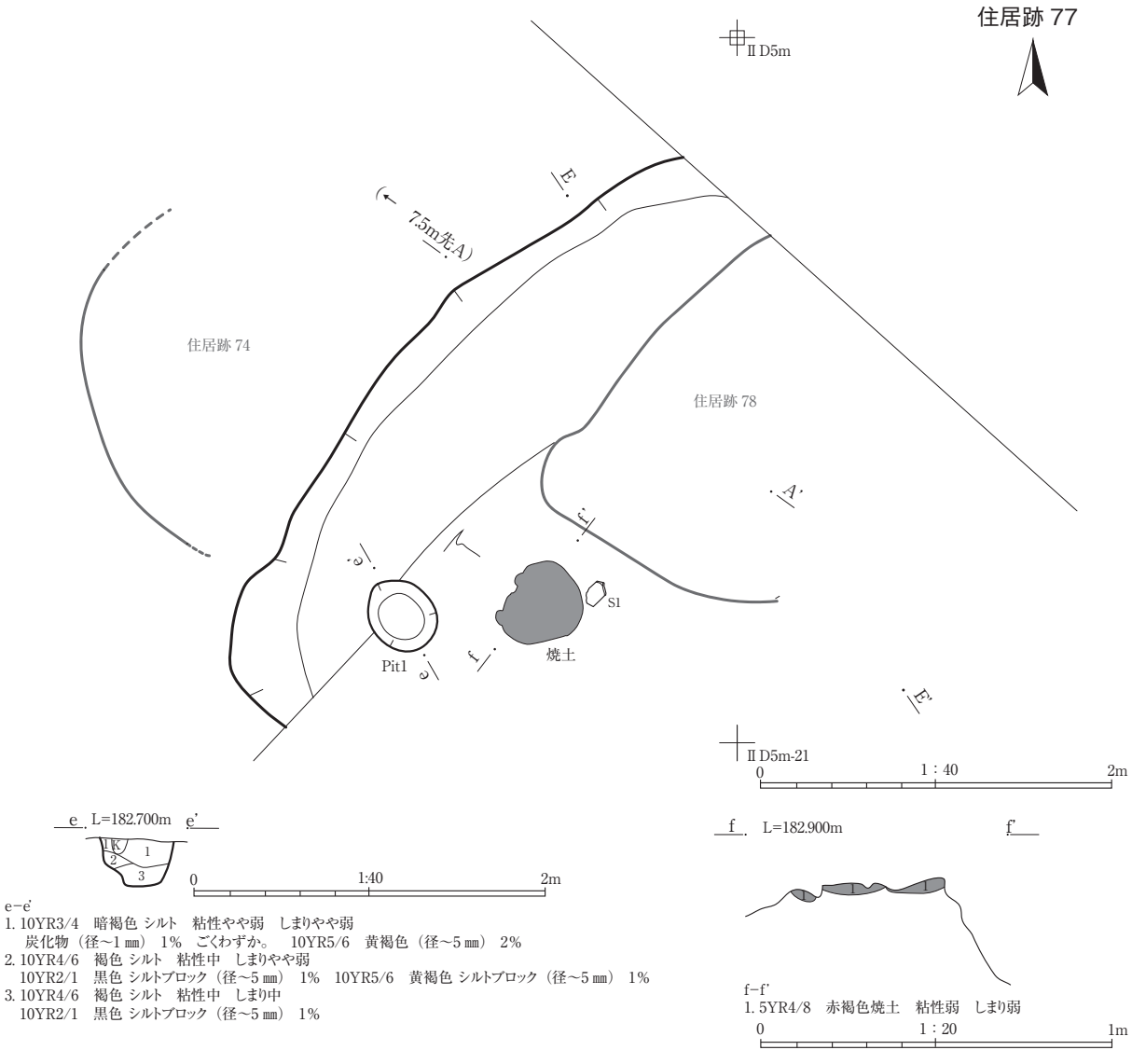


d–d'
1.　5YR4/8　赤褐色焼土　粘性中　しまりやや弱

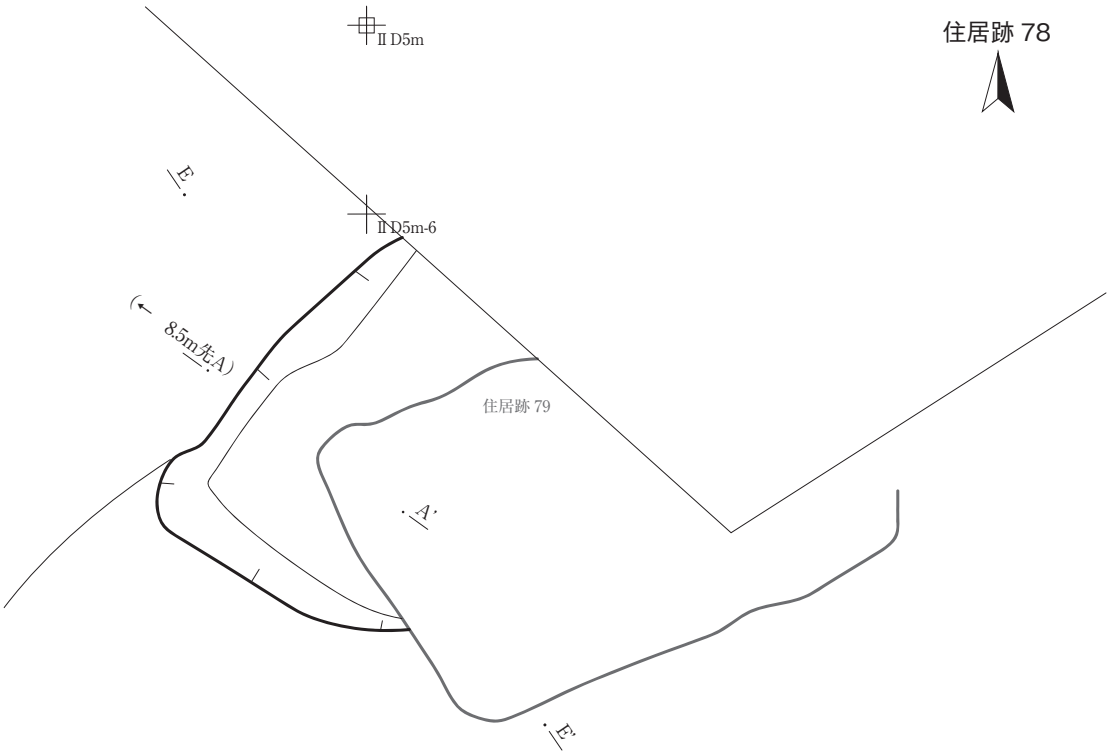


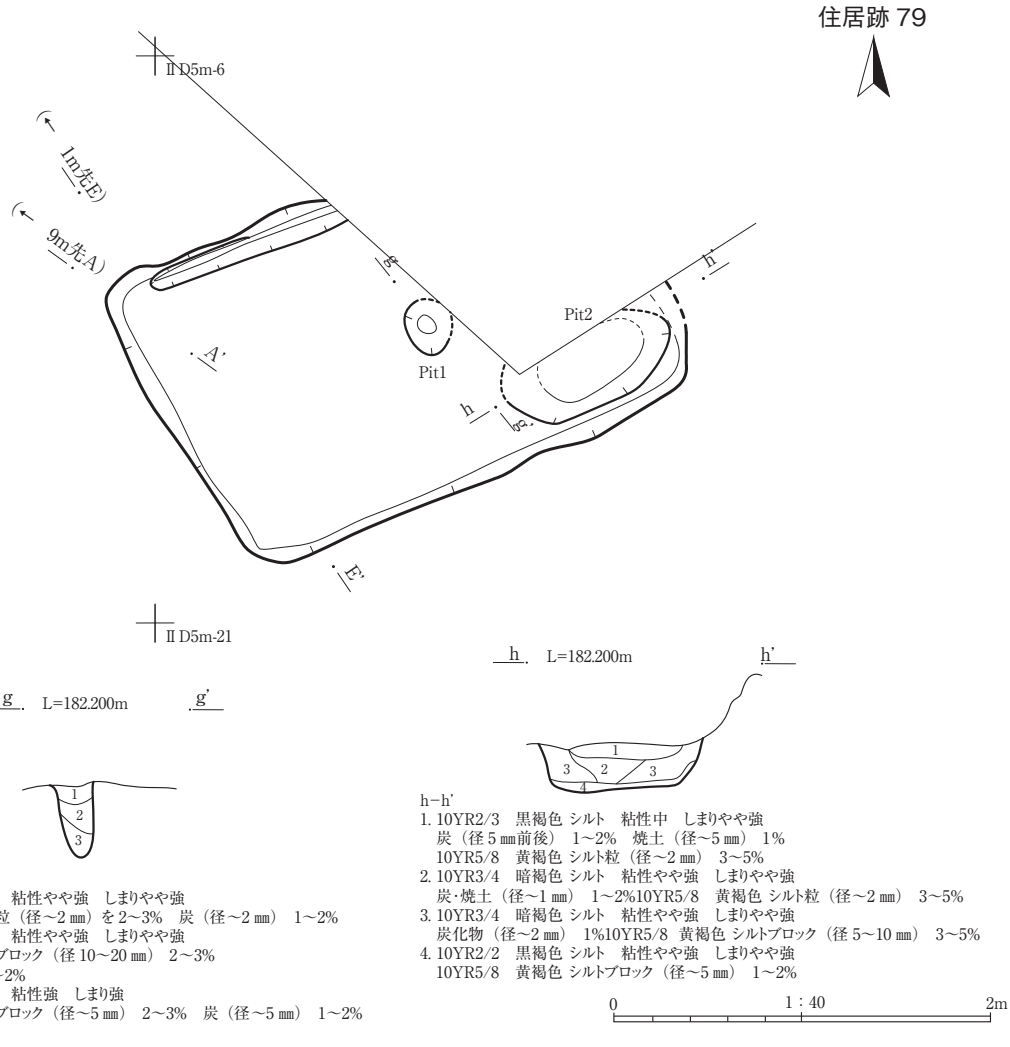
第 96 図　住居跡 75





第 97 図　住居跡 76・77





g　L=182.200m　g'

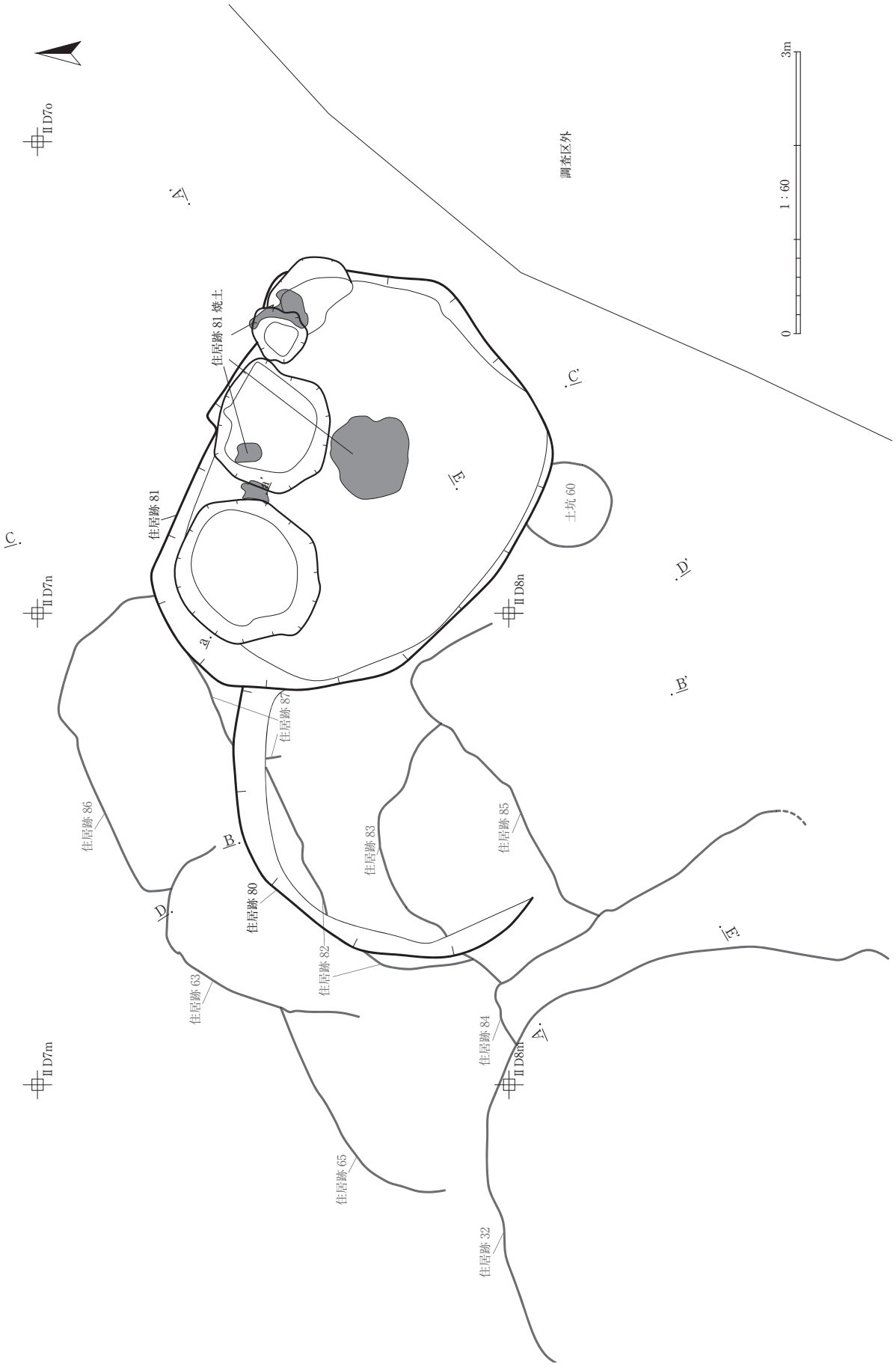
g−g'
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　10YR5/8　黄褐色 シルト粒（径〜2 ㎜）を 2〜3%　炭（径〜2 ㎜）　1〜2%
2. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　10YR5/8　黄褐色 シルトブロック（径 10〜20 ㎜）　2〜3%
　炭・焼土（径〜2 ㎜）　1〜2%
3. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性強　しまり強
　10YR5/8　黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　2〜3%　炭（径〜5 ㎜）　1〜2%

h　L=182.200m　h'

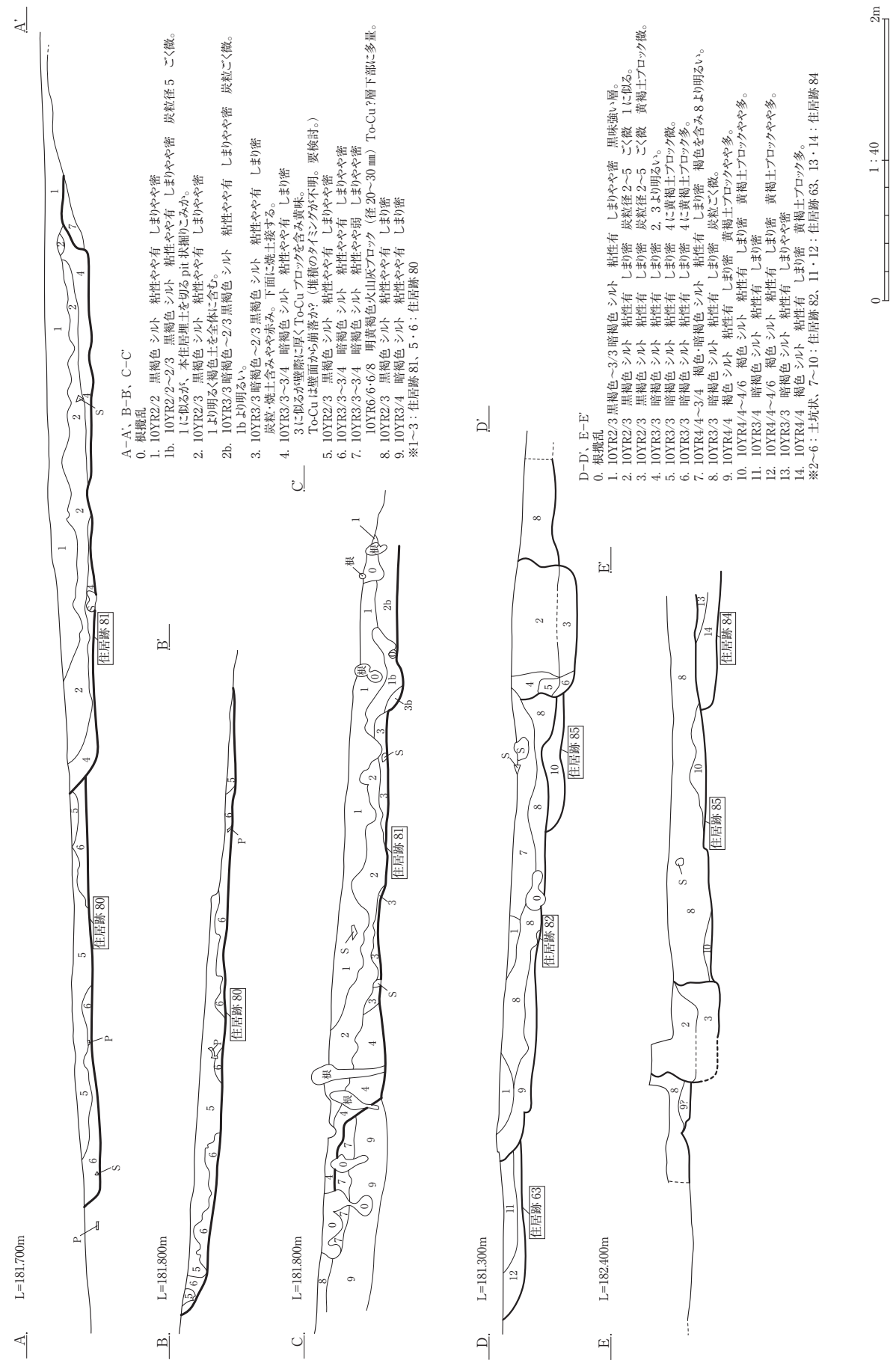
h−h'
1. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性中　しまりやや強
　炭（径 5 ㎜前後）　1〜2%　焼土（径〜5 ㎜）　1%
　10YR5/8　黄褐色 シルト粒（径〜2 ㎜）　3〜5%
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　炭・焼土（径〜1 ㎜）　1〜2%10YR5/8　黄褐色 シルト粒（径〜2 ㎜）　3〜5%
3. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　炭化物（径〜2 ㎜）　1%10YR5/8　黄褐色 シルトブロック（径 5〜10 ㎜）　3〜5%
4. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強
　10YR5/8　黄褐色 シルトブロック（径〜5 ㎜）　1〜2%

0　1：40　2m

第 98 図　住居跡 78・79



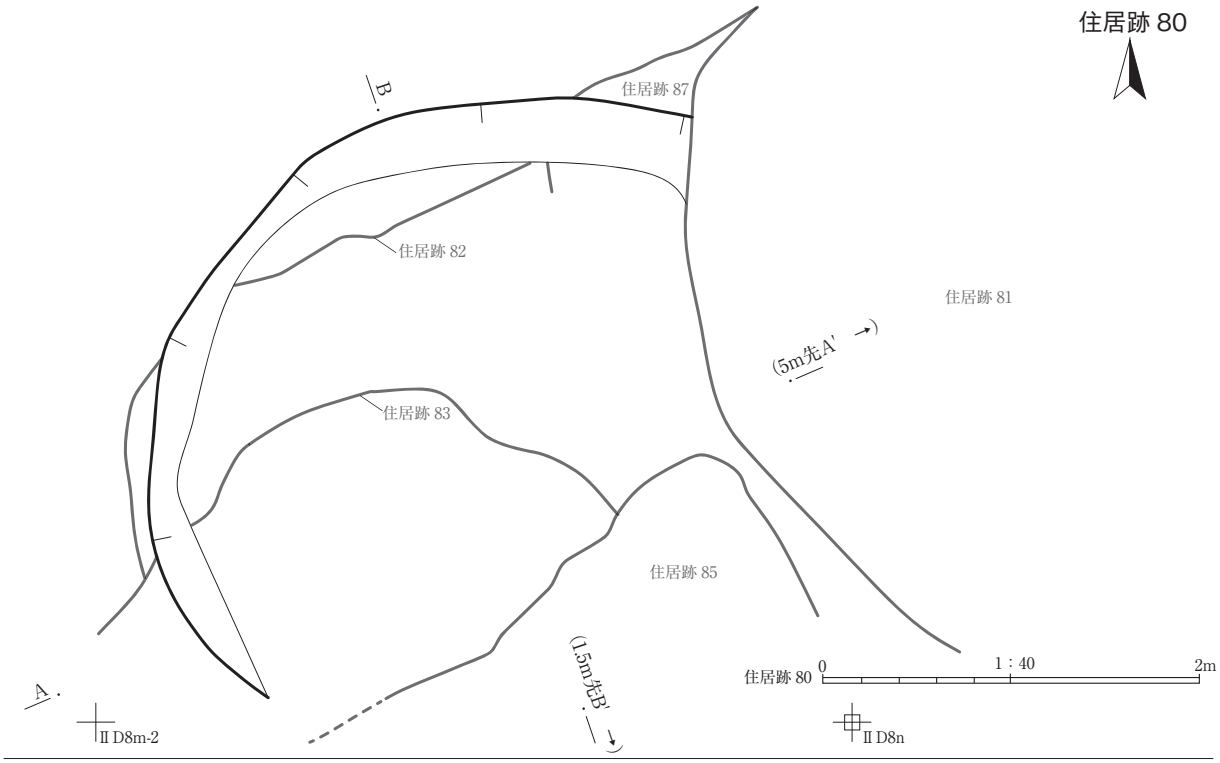
第 99 図　住居跡 80～87

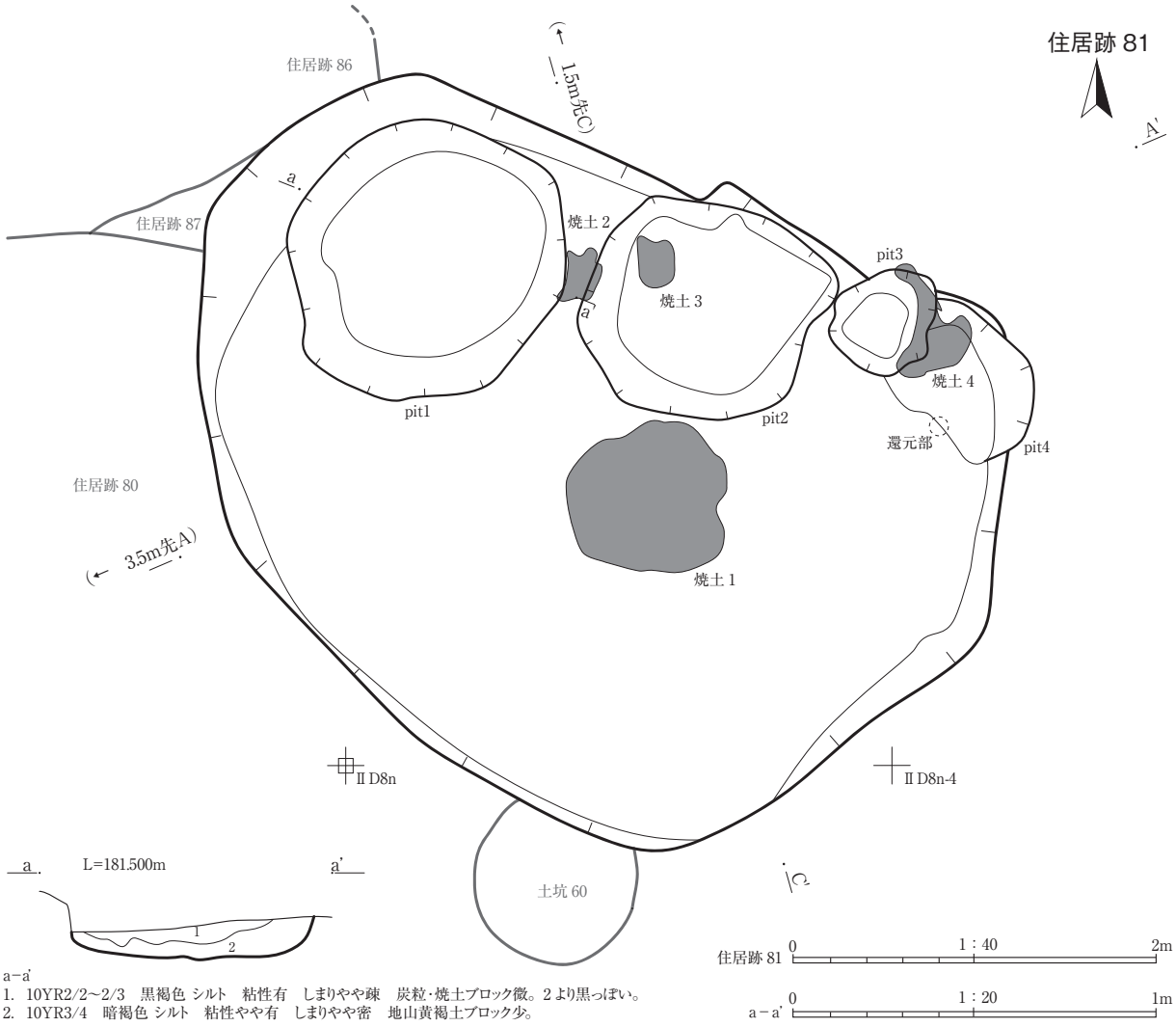


A–A'、B–B'、C–C'
0. 根攪乱
1. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密
1b. 10YR2/2～2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒径 5　ごく微。1に似るが、本住居埋土を切る pit 状掘りこみか。
2. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　1より明るく褐色土を全体に含む。
2b. 10YR3/3 暗褐色～2/3 黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒ごく微。1bより明るい。
3. 10YR3/3 暗褐色～2/3 黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　炭粒・焼土含みやや赤み。下面に焼土接する。
4. 10YR3/3～3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　3に似るが壁際に厚く To-Cu ブロックを含み黄味。To-Cu は壁面から崩落か？（淮積のタイミングが不明。要検討。）
5. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密
6. 10YR3/3～3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密
7. 10YR3/3～3/4　暗褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや密　10YR6/6·6/8 明黄褐色火山灰ブロック（径 20～30 ㎜）To-Cu？層下部に多量。
8. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり密
9. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまり密
※1～3：住居跡 81、5・6：住居跡 80

D–D'、E–E'
0. 根攪乱
1. 10YR2/3 黒褐色～3/3 暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや密　黒味強い層。
2. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり密　炭粒径 2～5　ごく微　1に似る。
3. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまり密　炭粒径 2～5　ごく微　黄褐土ブロック微。
4. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり密　2、3より明るい。
5. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり密　4に黄褐土ブロック微。
6. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり密　4に黄褐土ブロック多。
7. 10YR4/4～3/4　褐色·暗褐色 シルト　粘性有　しまり密　褐色を含み 8 より明るい。
8. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまり密　炭粒ごく微。
9. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり密　黄褐土ブロックやや多。
10. 10YR4/4～4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり密　黄褐土ブロックやや多。
11. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性有　しまり密
12. 10YR4/4～4/6　褐色 シルト　粘性有　しまり密　黄褐土ブロックやや多。
13. 10YR3/3　暗褐色 シルト　粘性有　しまりやや密
14. 10YR4/4　褐色 シルト　粘性有　しまり密　黄褐土ブロック多。
※2～6：土坑状、7～10：住居跡 82、11・12：住居跡 63、13・14：住居跡 84

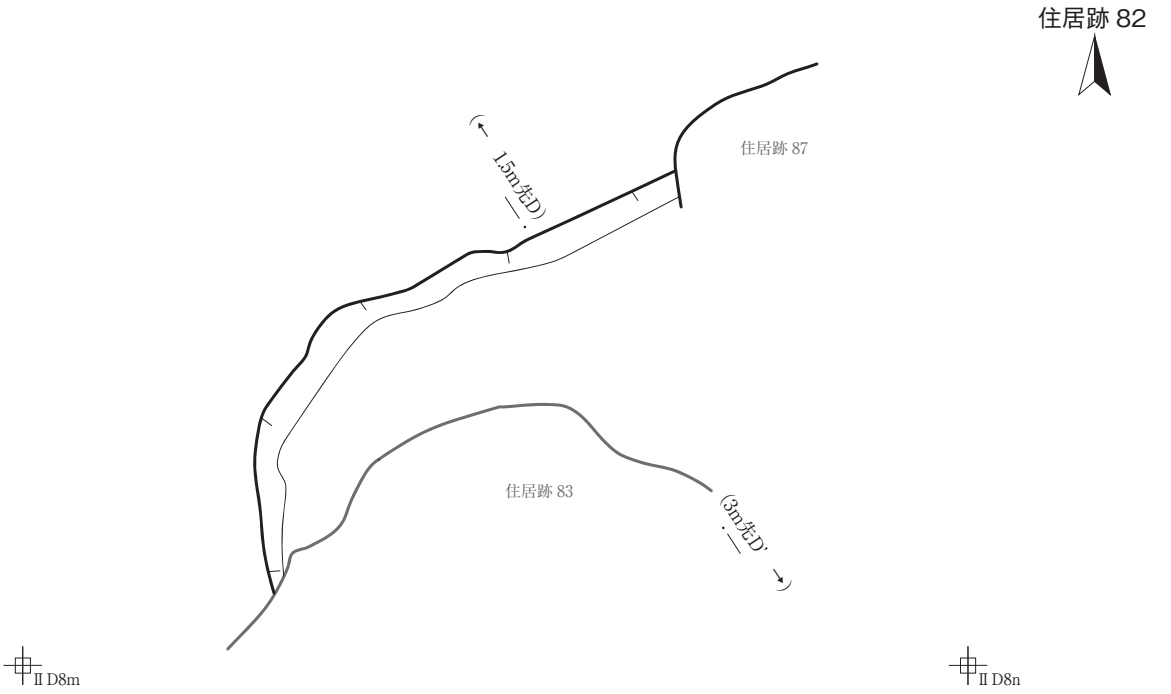
第 100 図　住居跡 63・80～84

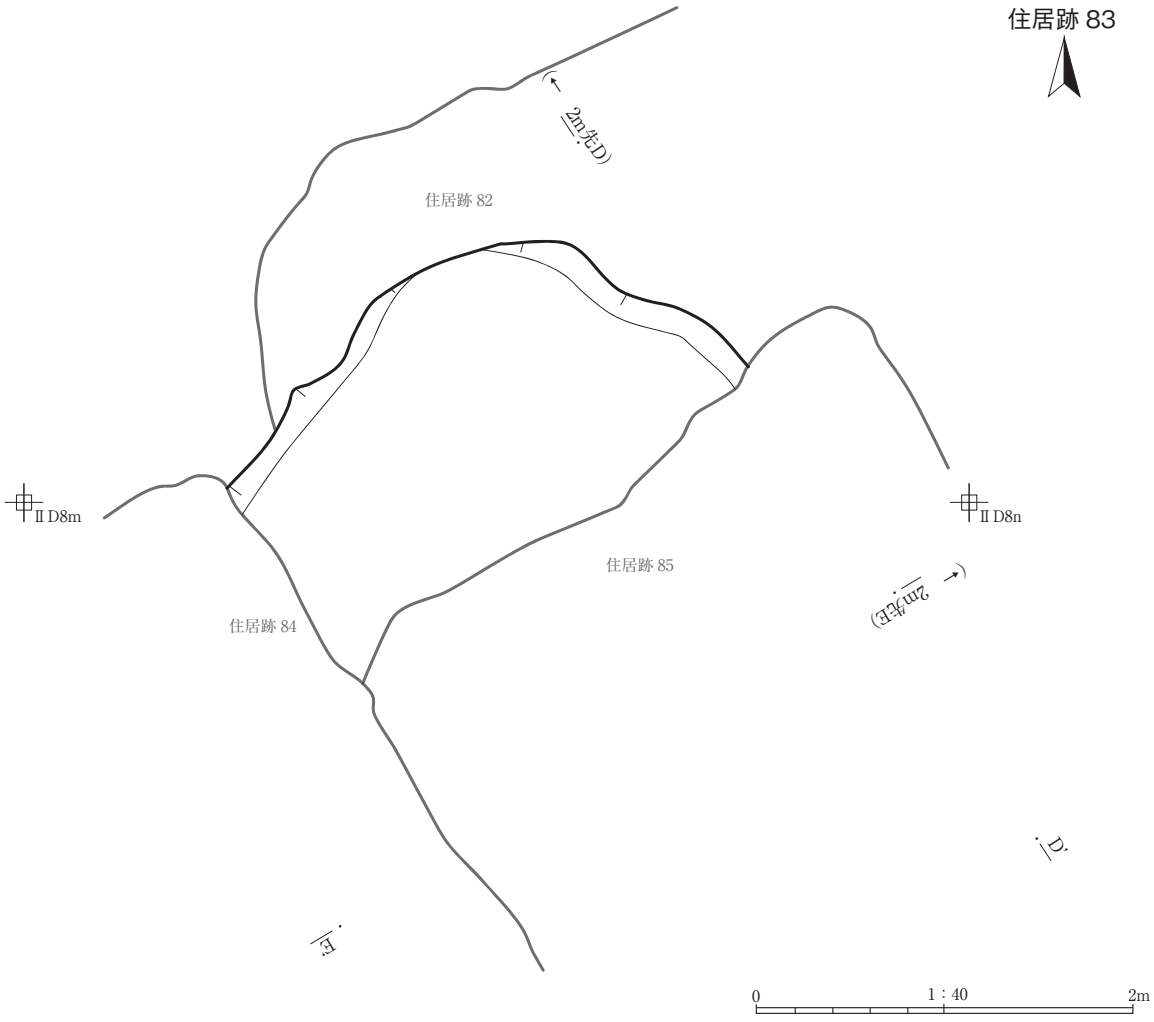




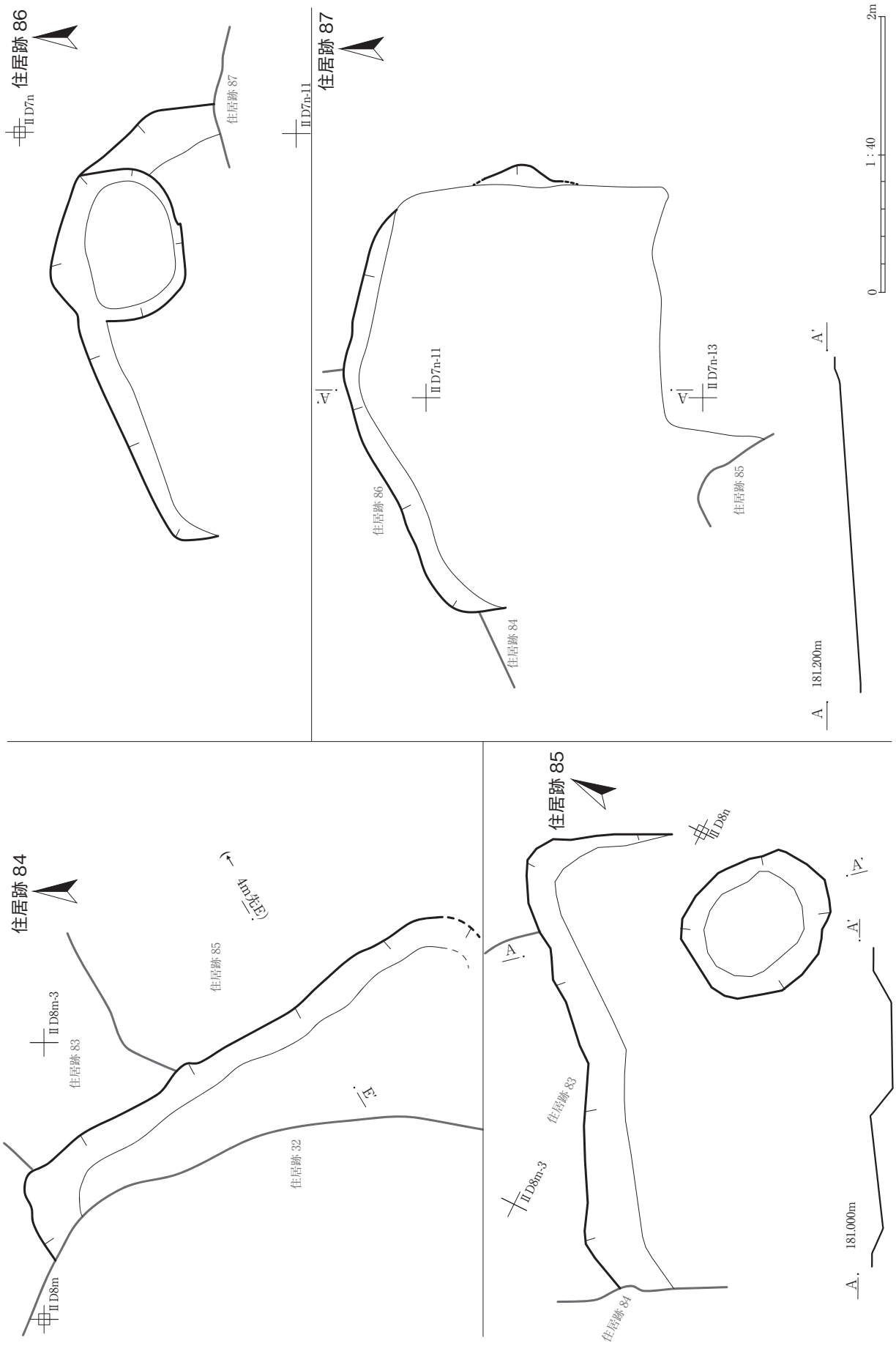
a－a'
1. 10YR2/2～2/3　黒褐色 シルト　粘性有　しまりやや疎　炭粒・焼土ブロック微。2 より黒っぽい。
2. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密　地山黄褐土ブロック少。

第 101 図　住居跡 80・81

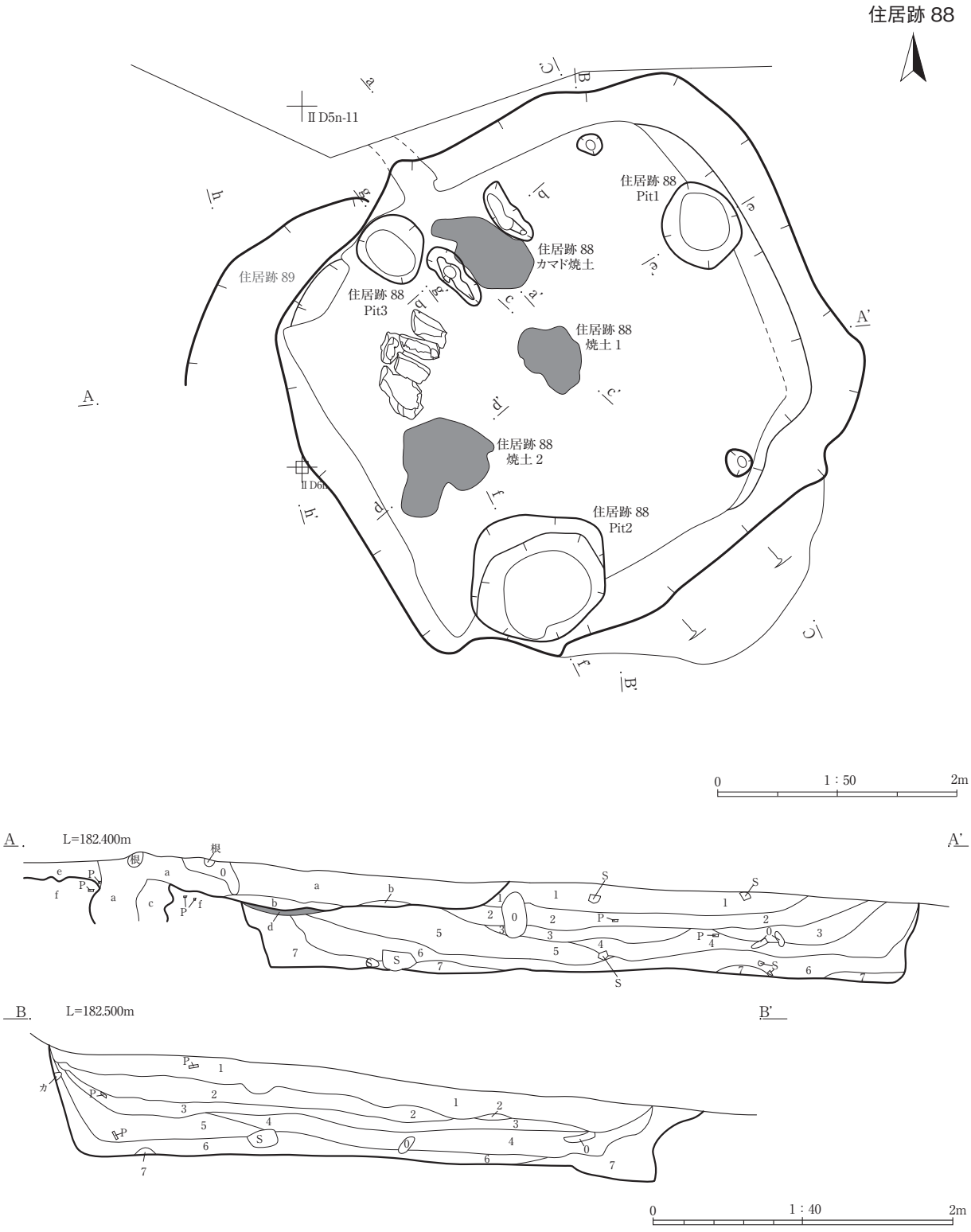




第 102 図　住居跡 82・83



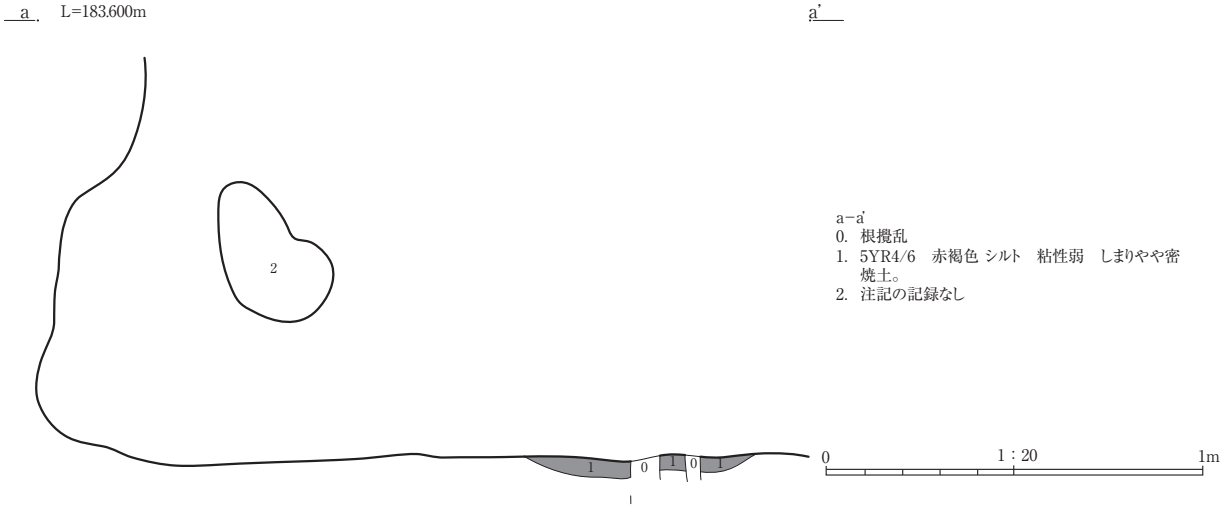
第 103 図　住居跡 84～87



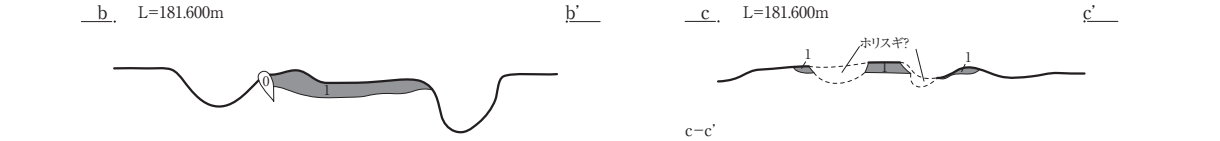
A−A'、B−B'
0. 根攪乱
1. 10YR2/2　黒褐色　粘性無　しまり無　5 ㎜～6 ㎜の炭化物を微量に含む
2. 10YR2/2　黒褐色　粘性無　しまりやや有
　2 ㎜～3 ㎜の炭化物を微量に含み、黄褐色ブロックが入る。
3. 10YR3/1　黒褐色　粘性無　しまり無　2 ㎜～3 ㎜の炭化物を少量含む。
4. 10YR3/1　黒褐色　粘性無　しまり無
　2 ㎜～3 ㎜の炭化物を微量に含み、黄褐色粒が多量に入る。
5. 10YR2/1　黒色　粘性やや有　しまりやや有　2 ㎜～5 ㎜の炭化物を微量に含む。
6. 10YR2/2　黒褐色　粘性有　しまり有
　2 ㎜～3 ㎜の炭化物を少量含み、黄褐色ブロックが入る。
7. 10YR2/3　黒褐色　粘性やや有　しまり有　黄褐色ブロックが入る。

A−A'
a. 10YR2/2～2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密
　下面に炭粒やや多。1 層によく似るがわずかにしまり欠く。
b. 7.5YR2/2　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまり密
　焼土含み全体に赤味。炭粒微。焼土（d 層）の直上層。
c. 10YR2/3　黒褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密
　褐色土ブロックやや多。ピット状の掘りこみの埋土（柱穴掘方埋土の様）。
d. 5YR4/8　赤褐色 シルト　焼土　粘性有　しまり極密
　ガッチリとした明瞭な焼土。断面図には周縁部がわずかにかかっている。
e. 10YR2/3 黒褐色～3/3 暗褐色 シルト　粘性やや有　しまりやや密
　a に似るが明るい。
f. 10YR3/4 暗褐色～4/4 褐色 シルト　粘性やや有　しまり密　炭粒ごく微。
　土器片微。縄文遺構埋土と思われる。

第 104 図　住居跡 88・89

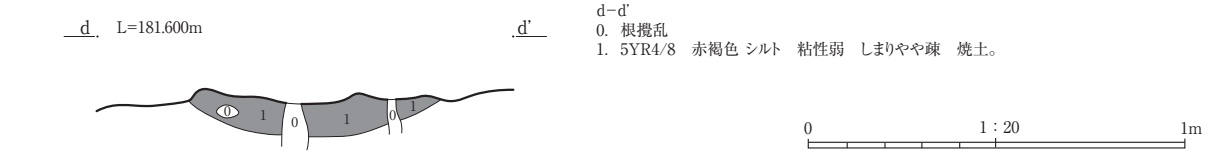


a−a'
0. 根攪乱
1. 5YR4/6　赤褐色 シルト　粘性弱　しまりやや密
　焼土。
2. 注記の記録なし

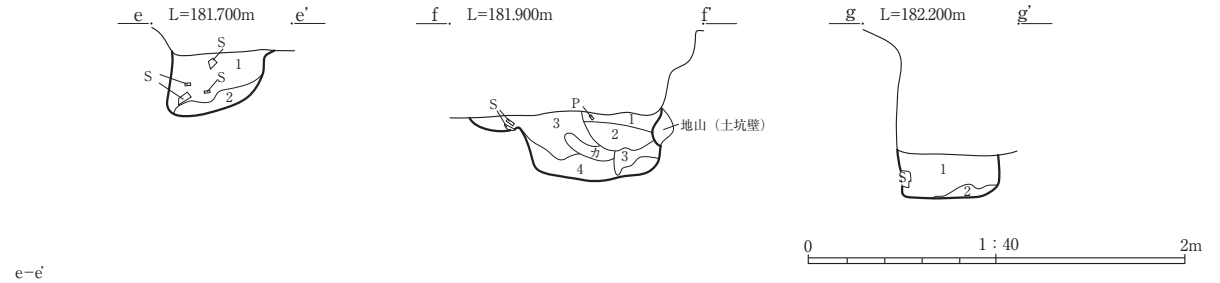


b−b'
0. 根攪乱
1. 5YR4/6　赤褐色 シルト　粘性弱　しまりやや疎

c−c'
1. 5YR3/6　暗赤褐色 シルト　粘性弱　しまり疎　焼土。



d−d'
0. 根攪乱
1. 5YR4/8　赤褐色 シルト　粘性弱　しまりやや疎　焼土。

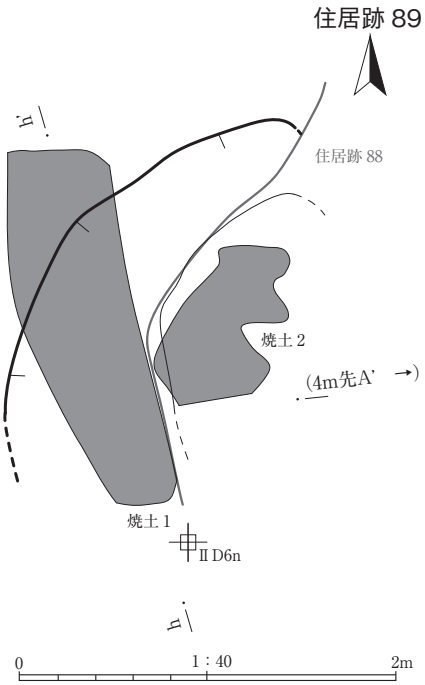


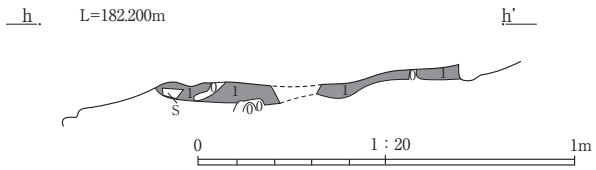
e−e'
1. 7.5YR3/4　暗褐色 シルト　粘性強　しまりやや密　礫多く被熱痕持つもの含む。西側には炭化物（3〜4 ㎜）を少量含む。層中央に焼土ブロックが入りこんでいる。
2. 10YR5/6　黄褐色 シルト　粘性やや強　しまり密　地山（= 掘りすぎ）

f−f'
1. 10YR2/2　黒褐色 シルト　粘性弱　しまり疎　土器片が入り黄褐色粒がまばらに入っている。2 層とともに土坑状に堆積している　3 層とよく似た層である。
2. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性弱　しまりやや強　黄褐色が基本の層であり、北側に黒褐色粒･黄褐色ブロックが多く含まれる。1 層とともに土坑状に堆積している。
3. 7.5YR3/2　黒褐色 シルト　粘性やや弱　しまりやや疎　土器片や礫が多く含まれている層でより黄褐色粒がまばらに入る。
　中央を攪乱で切られているが右側の 1 層も同じもの。
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色 シルト　粘性強　しまり密　地山とは異なる黄褐色層であり主に北側に黒褐色粒の多い箇所あり。

g−g'
1. 10YR3/4　暗褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや疎　礫を少量含む（焼かれたものあり）
　また炭化物（2〜3 ㎜）を含み層中央に黄褐色ブロック（10YR5/8）がまばらに入っている。
2. 10YR5/8　黄褐色 シルト　粘性やや強い　しまりやや密　地山（= 掘りすぎ）

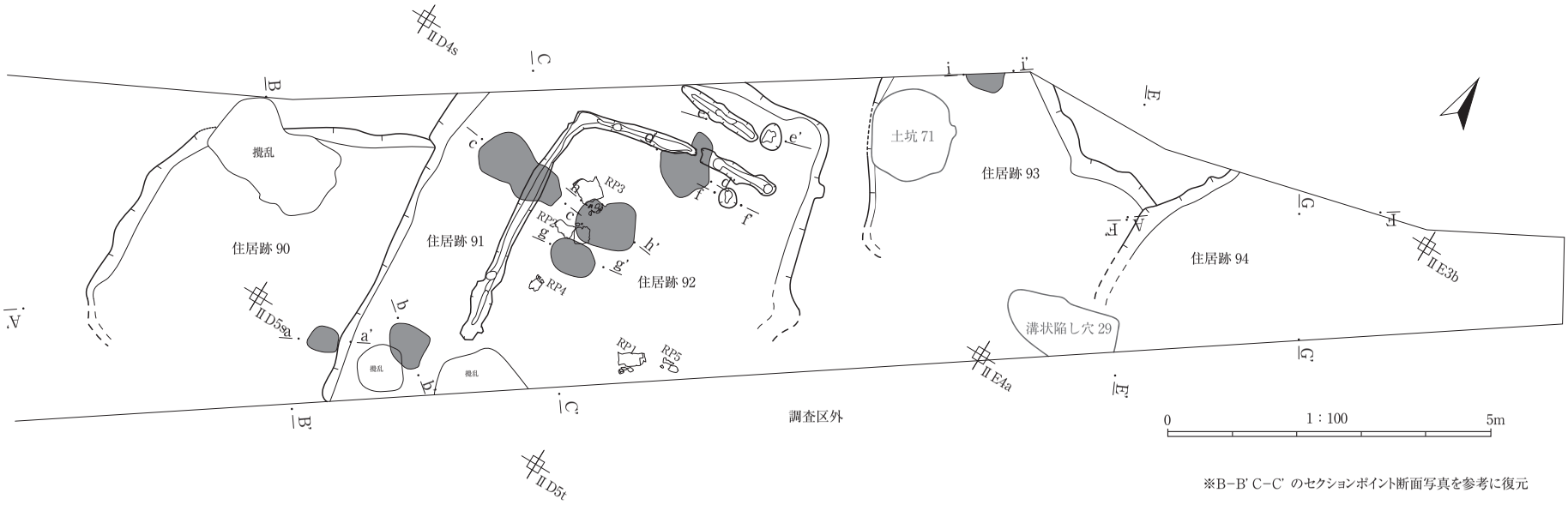
第 105 図　住居跡 88



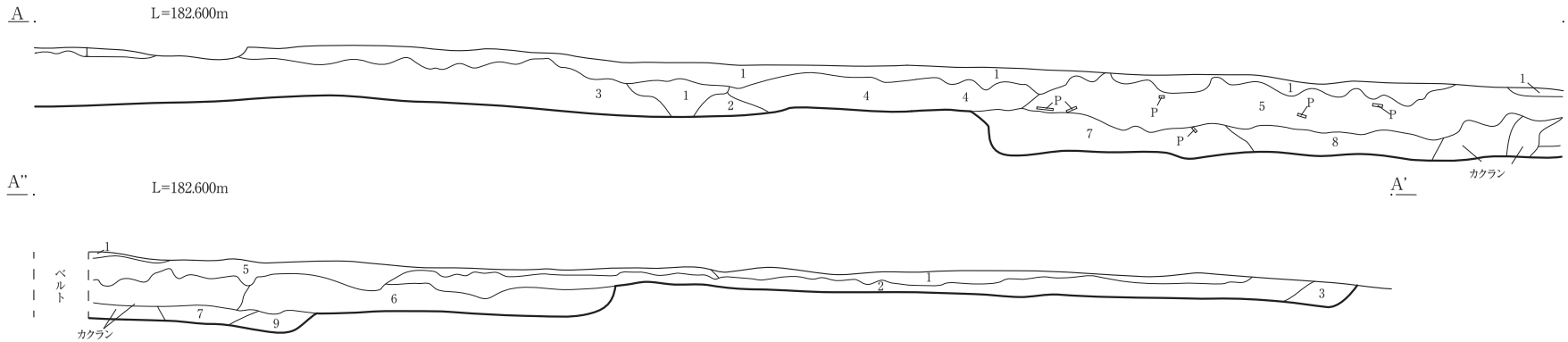


h−h'
0.　根攪乱
1.　5YR5/8　明赤褐色 シルト　粘性弱　しまりやや疎　焼土。

第 106 図　住居跡 89

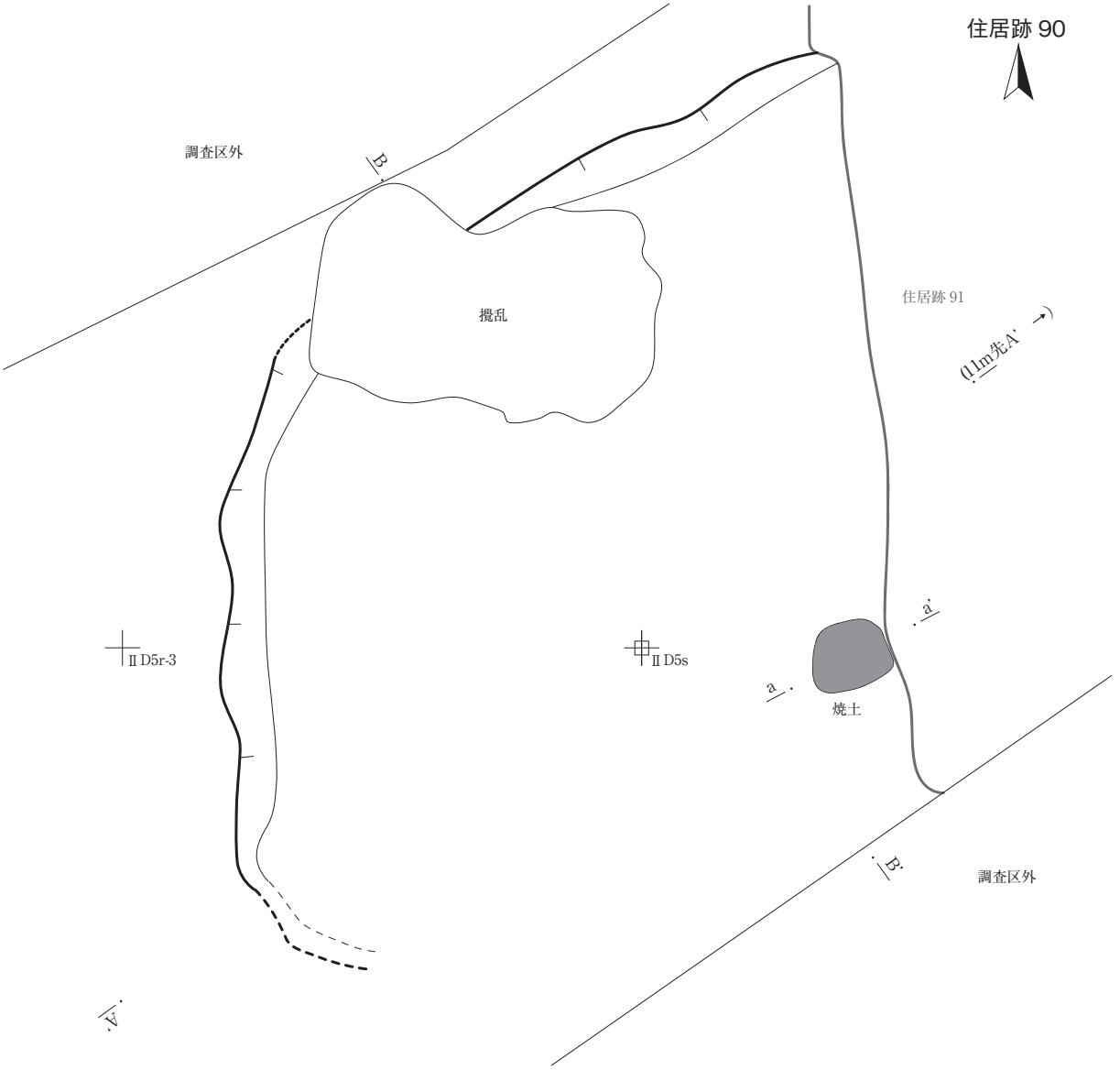


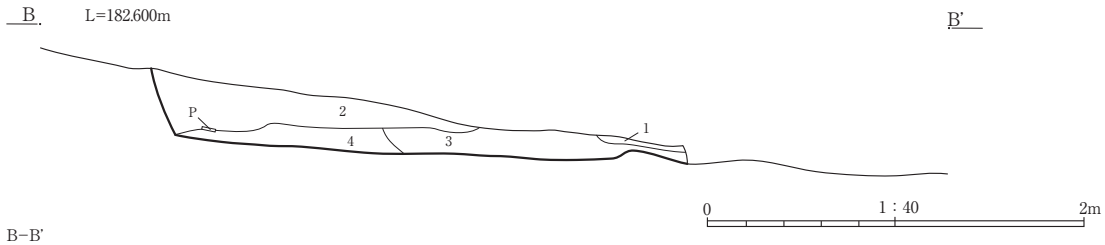
※B−B' C−C' のセクションポイント断面写真を参考に復元



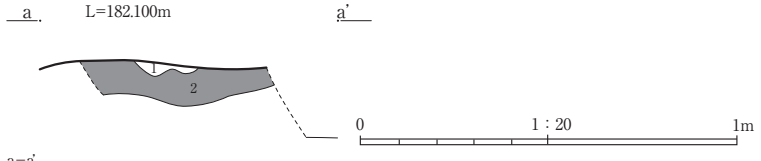
A−A"−A'
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまりあり にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）3%含む。明赤褐色焼土粒（5YR5/6 径3〜5㎜）、径2〜3㎜の炭化物粒1%含む。道路下盛土。
2　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまりあり にぶい褐色粘土質シルト（10YR4/4）20 〜 30%混合。
3　10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 褐色土（10YR4/4）10 〜 15%混合。撹乱かも。
4　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 黒褐色シルト（10YR2/2）10%混合。径2〜3㎜の炭化物粒1%含む。
5　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりややあり 径5㎜の炭化物粒2%、明赤褐色焼土粒（5YR5/6 径2〜3㎜）、黄褐色シルト（10YR5/6 径1〜2㎜）1%含む。
6　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりあり 黄褐色シルト粒（10YR5/6 径 10 ㎜）3〜5%含む。
7　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりあり 赤褐色焼土（5YR4/6 径5〜7㎜）1〜2%含む。
8　10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 径5〜7㎜の炭化物粒1〜2%含む。
9　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 黄褐色シルト粒（10YR5/6 径5〜7㎜）1〜2%、径2〜3㎜の炭化物粒1%含む。

第 107 図　住居跡 90〜94





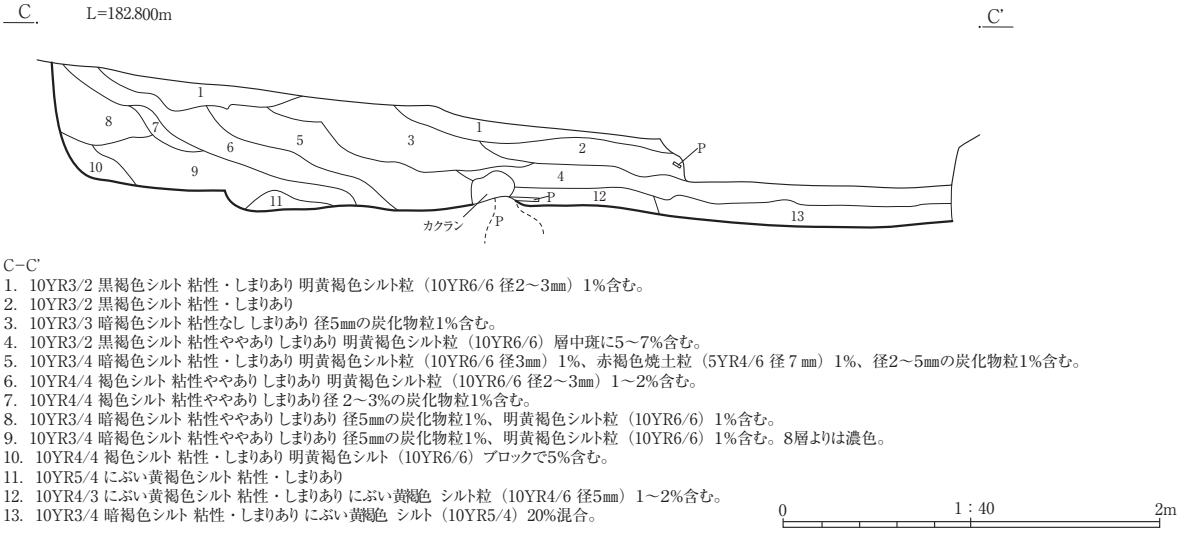
B−B'
1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性なし しまりあり 径1～2㎜の炭化物粒1%含む。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性なし しまりややあり 黄褐色シルト粒（10YR5/6 径2～4㎜）1～2%、径5㎜の炭化物粒1%含む。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト 50%、10YR4/6 褐色シルト（地山土）50%の混合土層。粘性・しまりあり
4. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 黄褐色シルト粒（10YR5/6 径1～2㎜）1～2%、径5㎜の炭化物粒1%含む。



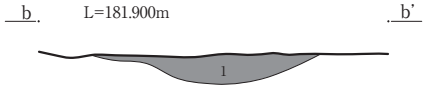
a−a'
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり
2. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・しまりあり 黒褐色シルト（10YR2/2）ブロックで 10%含む。

第 108 図　住居跡 90

第 109 図　住居跡 91（1）

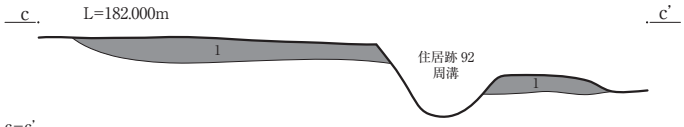


C−C'
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり 明黄褐色シルト粒（10YR6/6 径2～3㎜）1%含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・しまりあり
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性なし しまりあり 径5㎜の炭化物粒1%含む。
4. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 明黄褐色シルト粒（10YR6/6）層中斑に5～7%含む。
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりあり 明黄褐色シルト粒（10YR6/6 径3㎜）1%、赤褐色焼土粒（5YR4/6 径７㎜）1%、径2～5㎜の炭化物粒1%含む。
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 明黄褐色シルト粒（10YR6/6 径2～3㎜）1～2%含む。
7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性ややあり しまりあり径 2～3%の炭化物粒1%含む。
8. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 径5㎜の炭化物粒1%、明黄褐色シルト粒（10YR6/6）1%含む。
9. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 径5㎜の炭化物粒1%、明黄褐色シルト粒（10YR6/6）1%含む。8層よりは濃色。
10. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまりあり 明黄褐色シルト（10YR6/6）ブロックで5%含む。
11. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりあり
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・しまりあり にぶい黄褐色 シルト粒（10YR4/6 径5㎜）1～2%含む。
13. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりあり にぶい黄褐色 シルト（10YR5/4）20%混合。



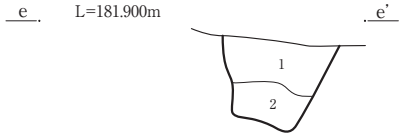
b−b'
1. 2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性・しまりあり

d−d'
1. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし しまりあり

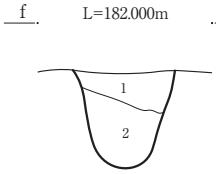


c−c'
1. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性・しまりあり

0　1：20　1m



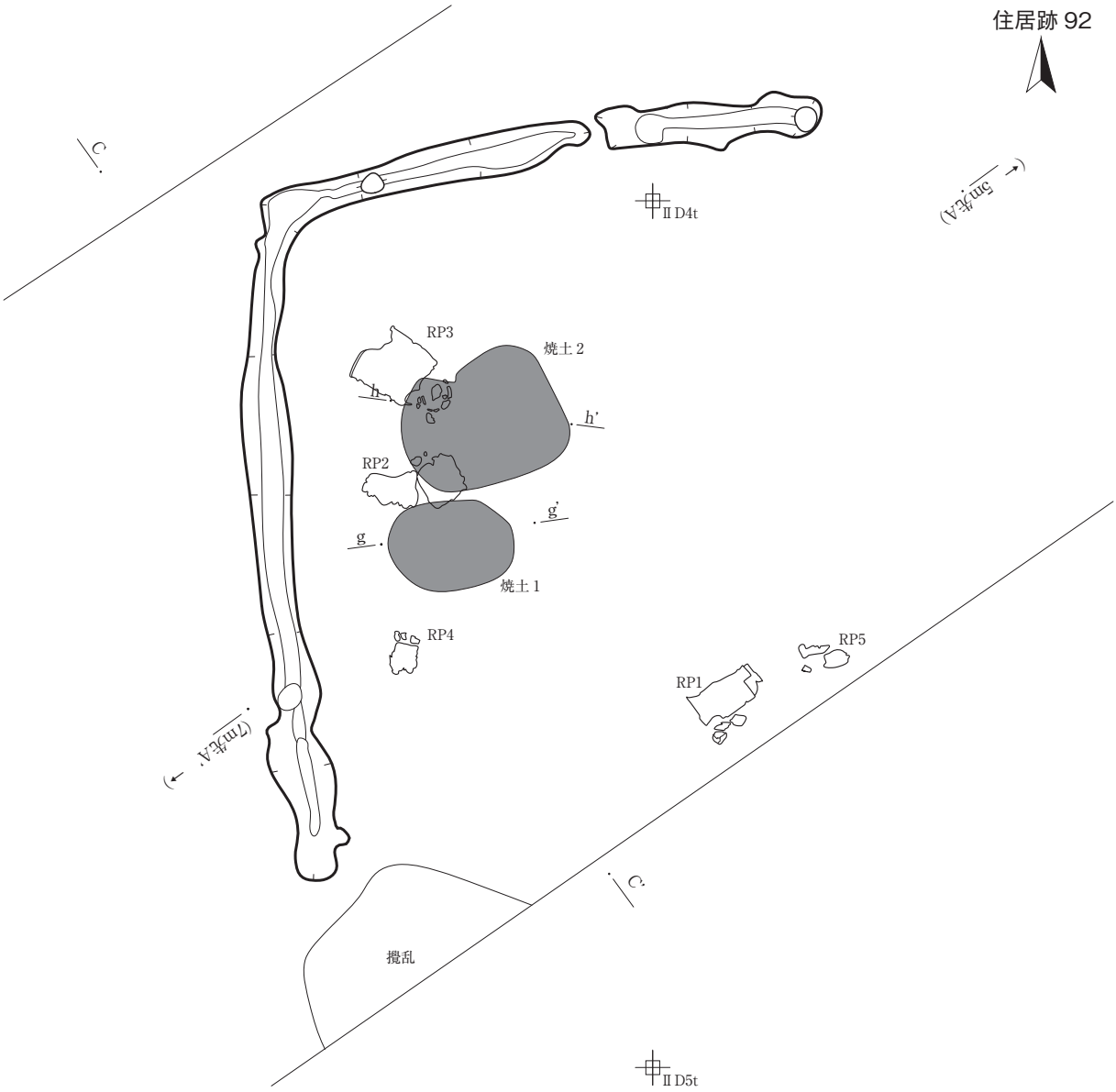
e−e'
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性あり しまりややあり
　褐色シルト（10YR4/4）5～7%含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまりあり
　黄褐色シルト（10YR5/6）10 ～ 15%含む。

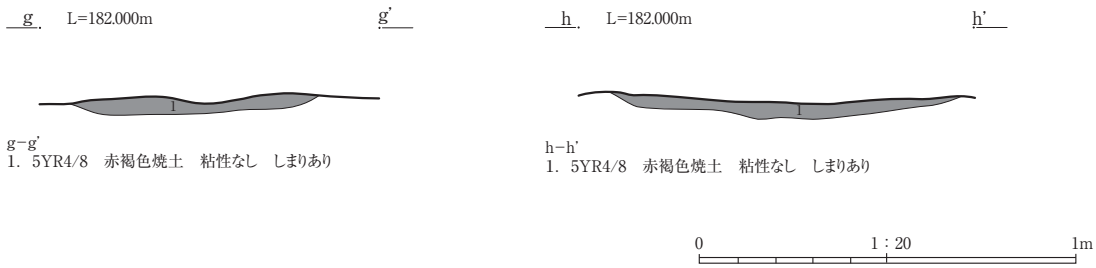


f−f'
1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりあり褐色 シルト（10YR4/4）
　2～3%、径3㎜の炭化物微量（1%未満）含む。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりややあり

0　1：20　1m

第 110 図　住居跡 91（2）

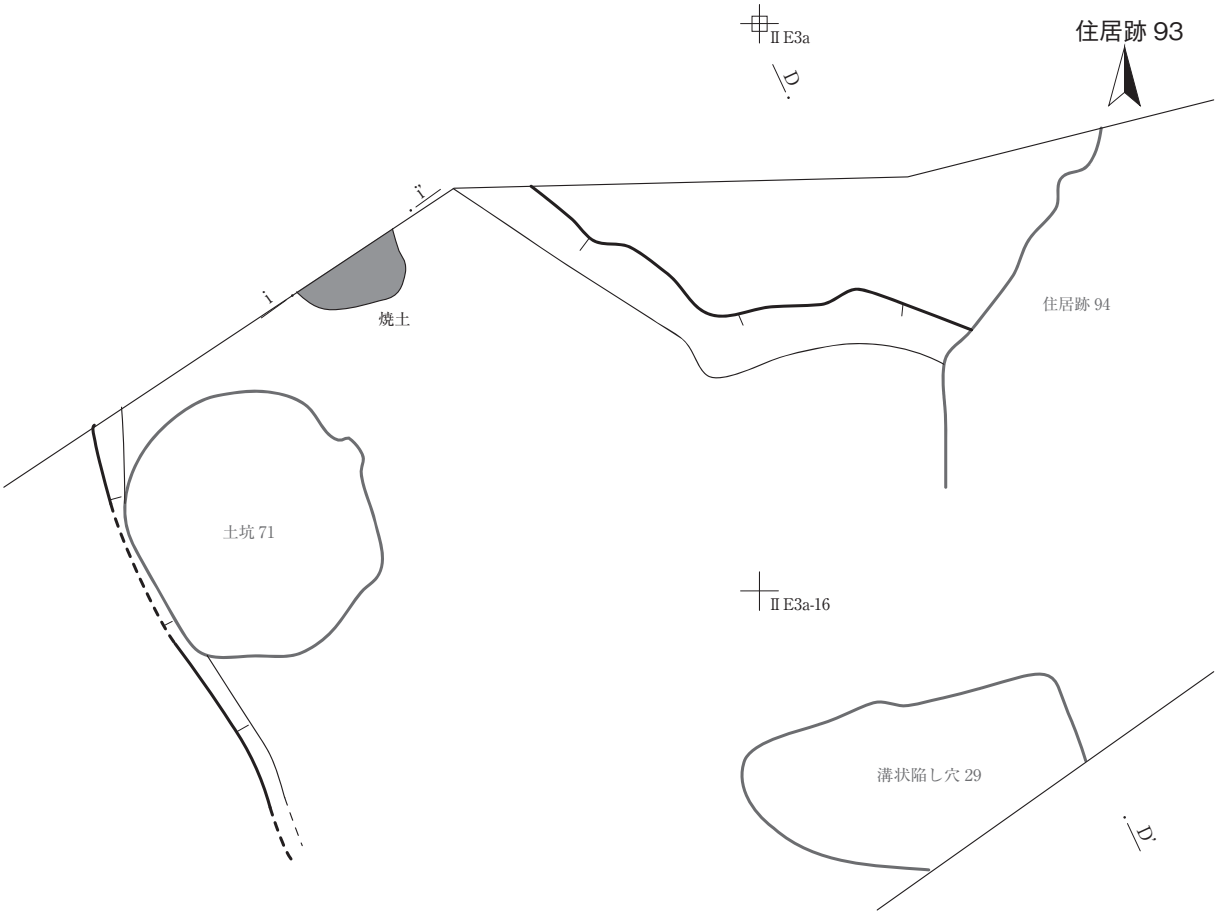


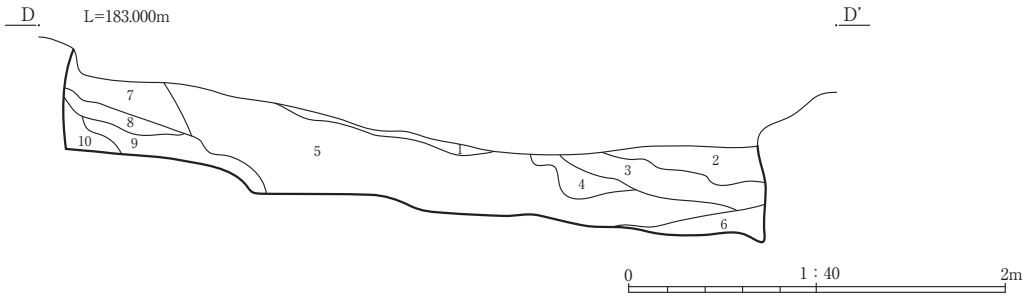


g−g'
1. 5YR4/8　赤褐色焼土　粘性なし　しまりあり

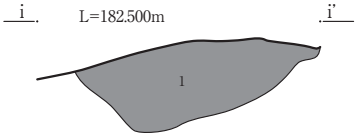
h−h'
1. 5YR4/8　赤褐色焼土　粘性なし　しまりあり

第 111 図　住居跡 92

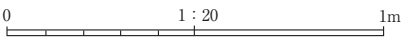




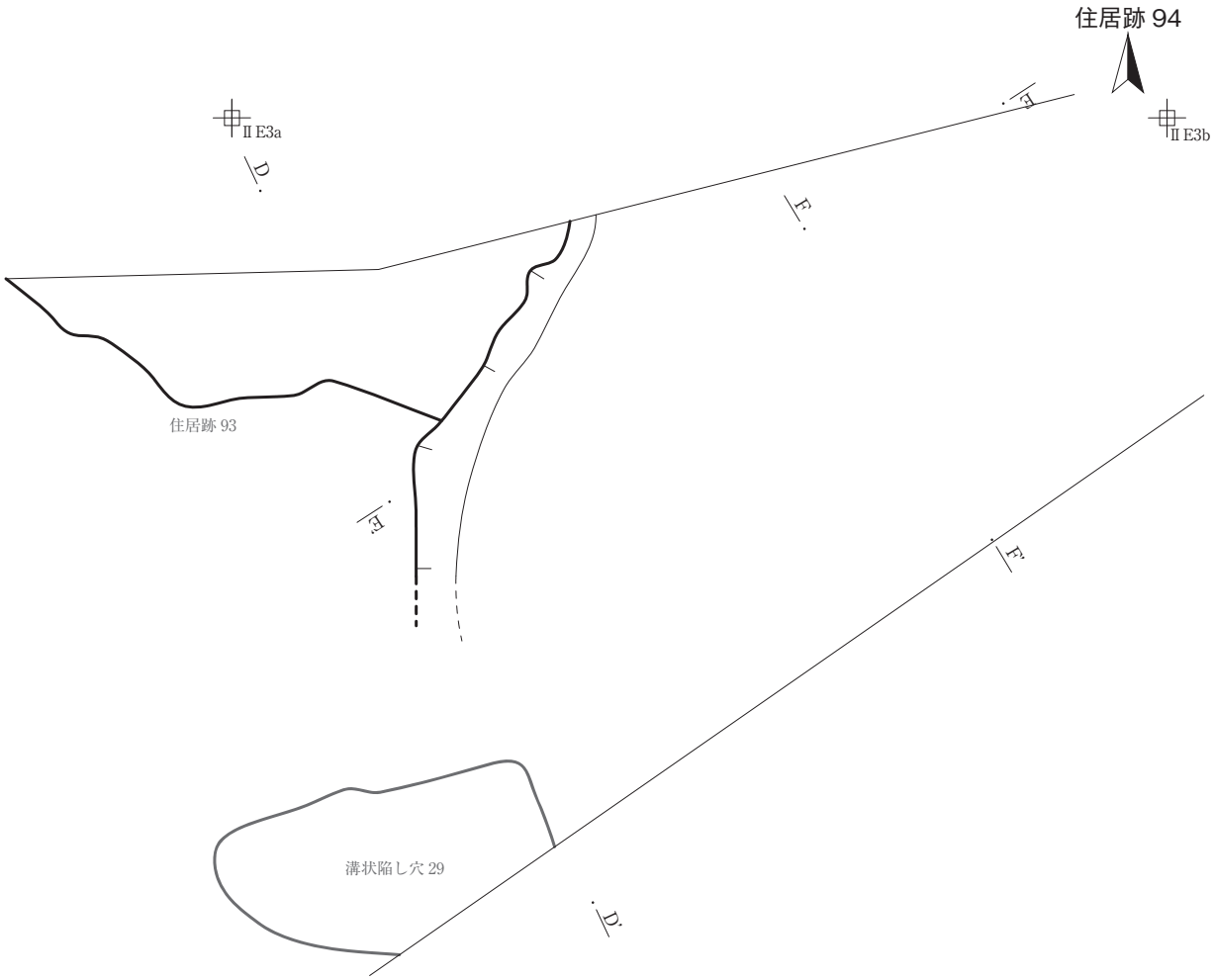
D－D'
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性ややあり しまりあり
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性ややあり しまりあり褐色 シルト（10YR4/4）20～30%混合。
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性あり しまりややあり 径 10 ㎜の炭化物粒1～2%含む。
4. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・しまりあり 褐色土（10YR4/4）3～5%含む。
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまりあり
6. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりあり（溝状陥し穴 29 の埋土）
7. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土（5YR4/8）ブロックで5～7%含む。
8. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり 赤褐色焼土（5YR4/8）2～3%含む。
9. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性ややあり しまりあり褐色 シルト（10YR4/4）3～5%含む。
10. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまりあり褐色 シルト（10YR4/4）10～15%含む。

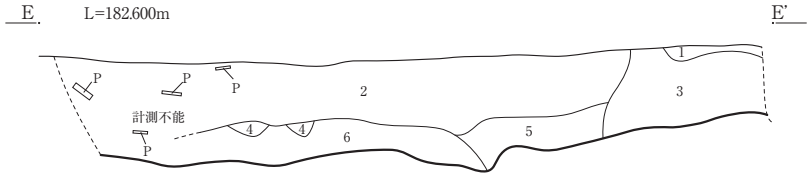


i－i'
1. 5YR4/6 赤褐色焼土 50%、10YR4/4 褐色シルト 50%の混合土層。粘性・しまりあり

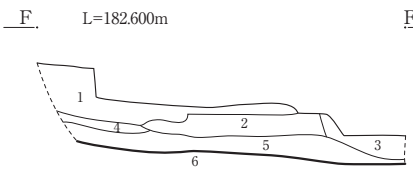


第 112 図　住居跡 93

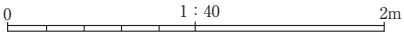




E−E'
1. 10YR3/4 暗褐色シルト　粘性有　締まり有
2. 10YR4/6 褐色シルト　粘性有　締まり有　炭粒径 1〜7 ㎜ 5%
3. 10YR4/4 褐色シルト　粘性有　締まりやや有　炭粒　径 1〜5 ㎜ 10%
4. 10YR5/6 黄褐色シルト　粘性やや有　締まり有　炭粒径 5 ㎜ 10%
5. 10YR4/6 褐色シルト　粘性無　締まりやや有
6. 7.5YR4/6 褐色シルト　粘性有　締まりやや有　焼土（7.5YR 5/8）50% 混じる



F−F'
1. 10YR3/3 暗褐色シルト　粘性有　締まり有　炭粒径 1〜5 ㎜ 5% 未満　礫径 5 ㎜ 5%
2. 10YR4/3 鈍い黄褐色シルト　粘性やや有　締まり有　炭粒　　径 1〜10 ㎜ 5%
3. 10YR3/4 暗褐色シルト　粘性有　締まり有　炭粒径 1 ㎜ 10%
4. 10YR4/3 鈍い黄褐色土　粘性有　締まりやや有　炭粒径 1 ㎜ 10%
5. 7.5YR5/8 明褐色焼土（シルト）　粘性有　締まりやや有
6. 7.5YR4/6 褐色シルト　粘性有　締まり有



第 113 図　住居跡 94

写　真　図　版

遺跡遠景（南上空から）

空中写真（平成 24 年度）

写真図版 1　空から見た遺跡周辺

調査前の状況（平成 24 年度）

復興副大臣視察（平成 24 年度）

毎朝の霜処理（平成 24 年晩秋）

作業風景（平成 25 年度）

東部東端区全景（平成 25 年度）

写真図版 2　調査前状況・調査の様子

住居跡１　全景（東から）

住居跡１　断面（南東から）

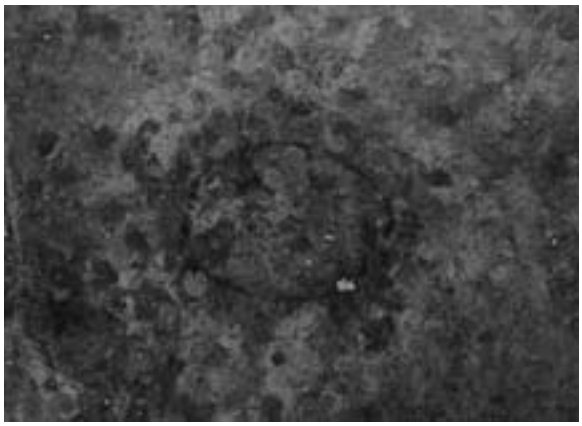
住居跡１　炉全景（西から）

住居跡１　炉断面（北西から）

写真図版３　住居跡１

住居跡２　全景（東から）

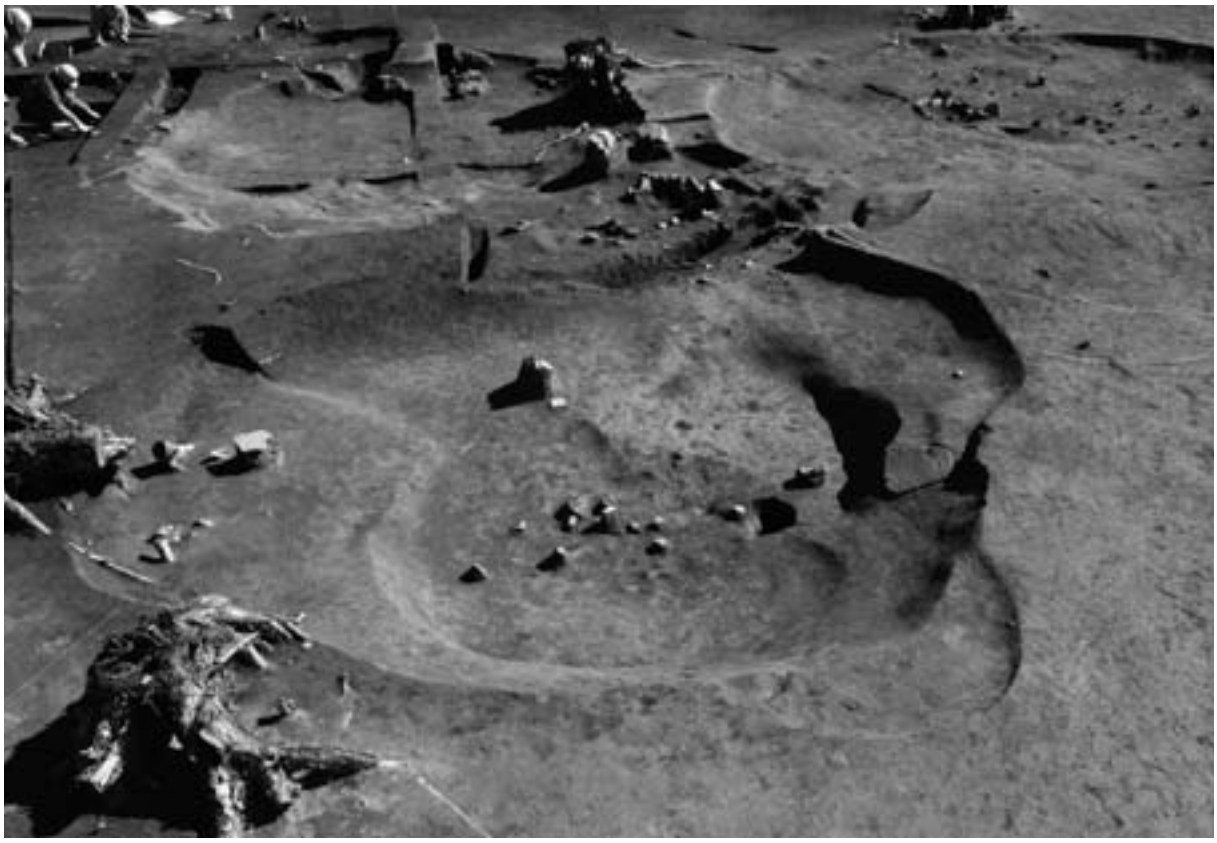
住居跡２　断面（南から）



住居跡２　炉全景（南から）

住居跡２　遺物出土状況（西から）

写真図版４　住居跡２



住居跡３　全景（西から）

住居跡３　断面（南から）

住居跡３　炉断面（東から）

住居跡３　遺物出土状況（北から）

写真図版５　住居跡３

住居跡 4　全景（南から）

住居跡 4　断面（東から）

住居跡 4　炉検出（東から）

住居跡 4　炉断面（東から）

写真図版 6　住居跡 4

住居跡５　全景（西から）

住居跡５　断面（北東から）

住居跡５　炉検出（西から）

住居跡５　炉断面（西から）

写真図版７　住居跡５

住居跡 6　全景（南東から）

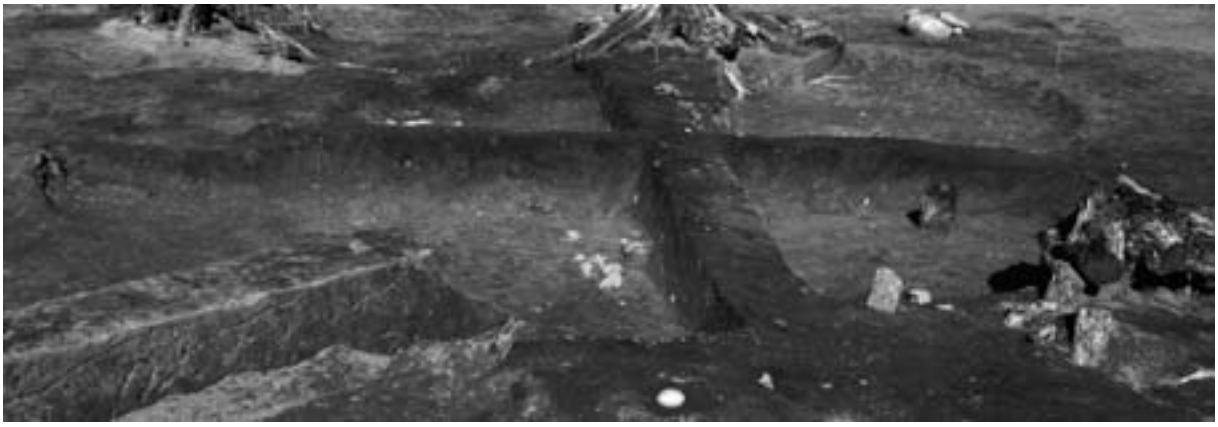
住居跡 6　断面（東から）

住居跡 6　炉断面（西から）

住居跡 6　炉遺物出土状況（北から）

写真図版 8　　住居跡 6

住居跡７　全景（東から）



住居跡７　断面（東から）

住居跡７　断面（南から）

写真図版９　住居跡７

住居跡 8　全景（東から）

住居跡 8　炉全景（北から）

住居跡 8　炉断面（西から）

作業風景（1）

作業風景（2）

写真図版 10　住居跡 8

住居跡９　全景（南東から）

住居跡９　断面（東から）

住居跡９　断面（南から）

写真図版 11　住居跡９

住居跡 10　全景（東から）

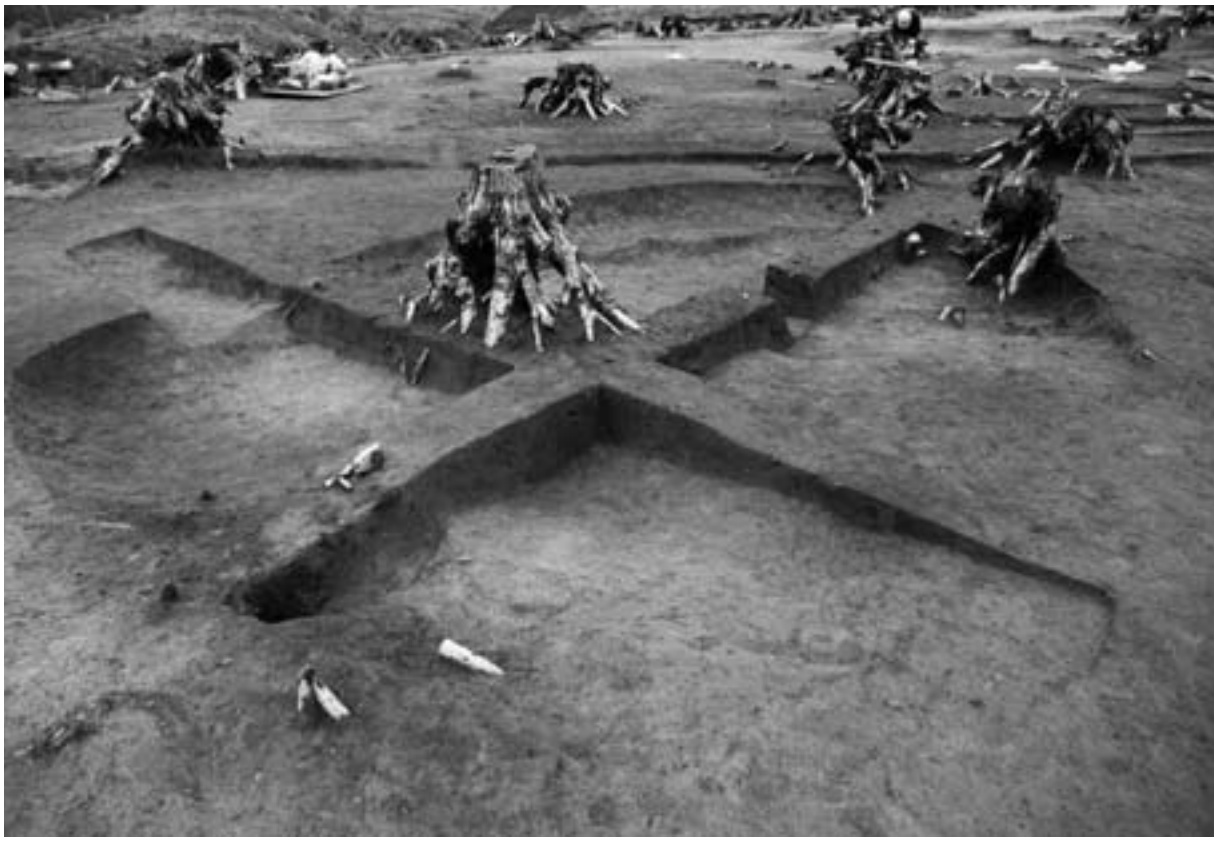
住居跡 10　断面（南西から）

住居跡 10　炉全景（西から）

住居跡 10　断面（南西から）

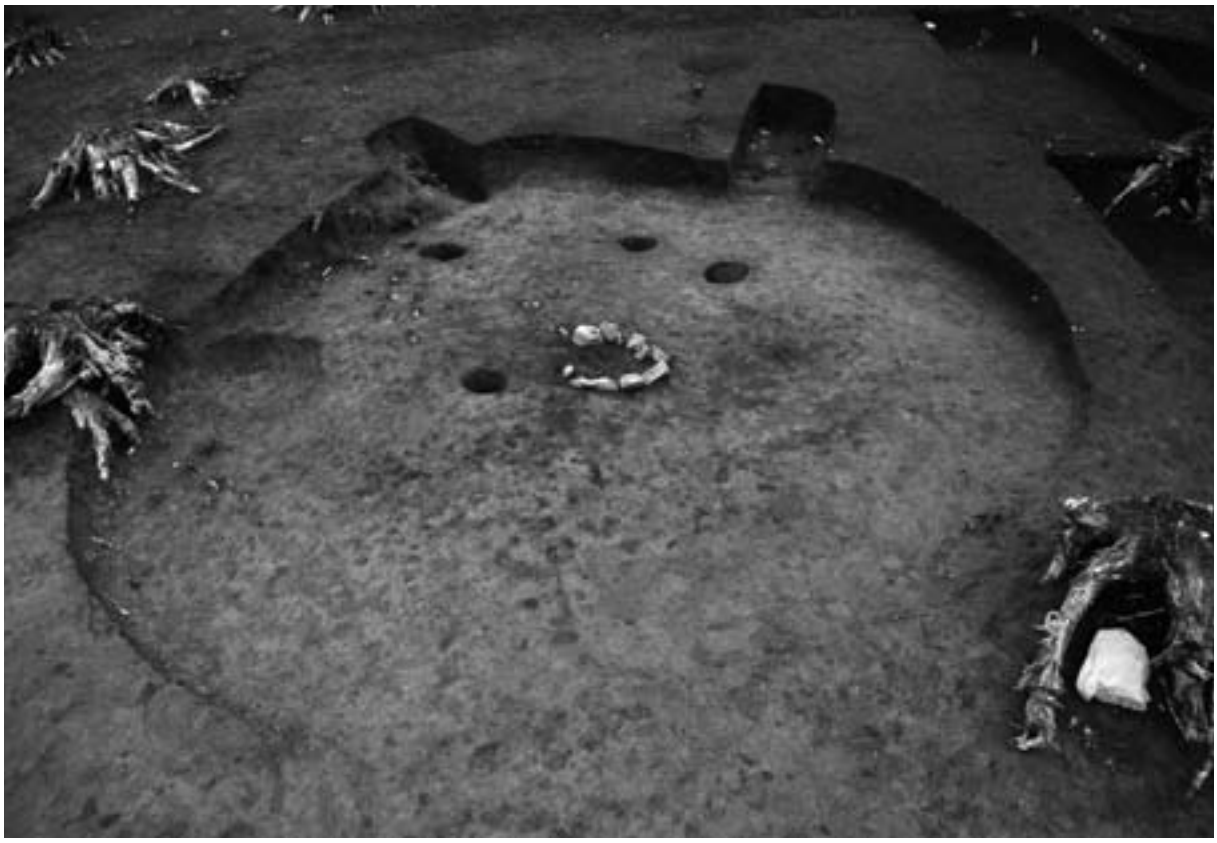
写真図版 12　住居跡 10

住居跡 11　全景（北から）



住居跡 11　断面（南西から）

写真図版 13　住居跡 11



住居跡 12　全景（南から）

住居跡 12　断面（南から）

住居跡 12　炉全景（西から）

住居跡 12　炉断面（東から）

写真図版 14　住居跡 12

住居跡 13　全景（東から）

住居跡 13　断面（西から）

住居跡 13　断面（南西から）

住居跡 13　Pit2 断面（南から）

写真図版 15　住居跡 13

住居跡 14　全景（西から）

住居跡 14　断面（南から）

住居跡 13　Pit2 断面（東から）

住居跡 13　Pit3 断面（南から）

写真図版 16　　住居跡 14

住居跡 15　全景（南から）

住居跡 15　断面（西から）

住居跡 15　断面（南から）

写真図版 17　住居跡 15

住居跡 16　全景（東から）

住居跡 16　断面（南から）

住居跡 16　炉全景（西から）

住居跡 16　炉断面（西から）

写真図版 18　住居跡 16

住居跡 17　全景（東から）

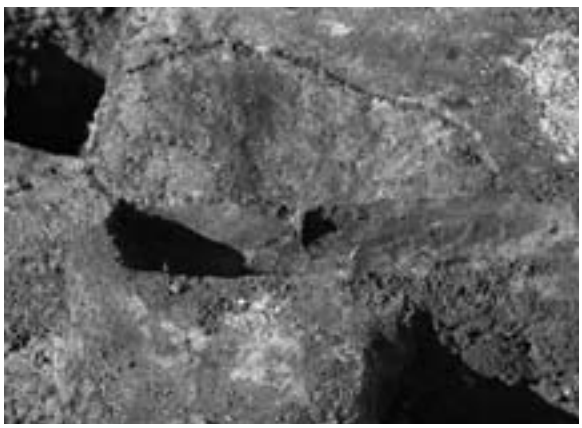
住居跡 17　断面（南から）

写真図版 19　住居跡 17

住居跡 18　全景（東から）

住居跡 18　断面（東から）

住居跡 18　炉検出（東から）



住居跡 18　炉断面（東から）

写真図版 20　住居跡 18

住居跡 19・20　全景（東から）

住居跡 19・20　断面（南西から）

住居跡 20　炉検出（東から）

住居跡 20　炉断面（西から）

写真図版 21　住居跡 19・20

住居跡 21　全景（南から）

住居跡 21　断面（南から）

住居跡 21　断面（南から）

住居跡 21　炉 1 検出（東から）

住居跡 21　炉 1 断面（南から）

住居跡 21　炉 2 検出（東から）

住居跡 21　断面（南西から）

写真図版 22　住居跡 21

住居跡 22　全景（南から）

住居跡 22　断面（南東から）

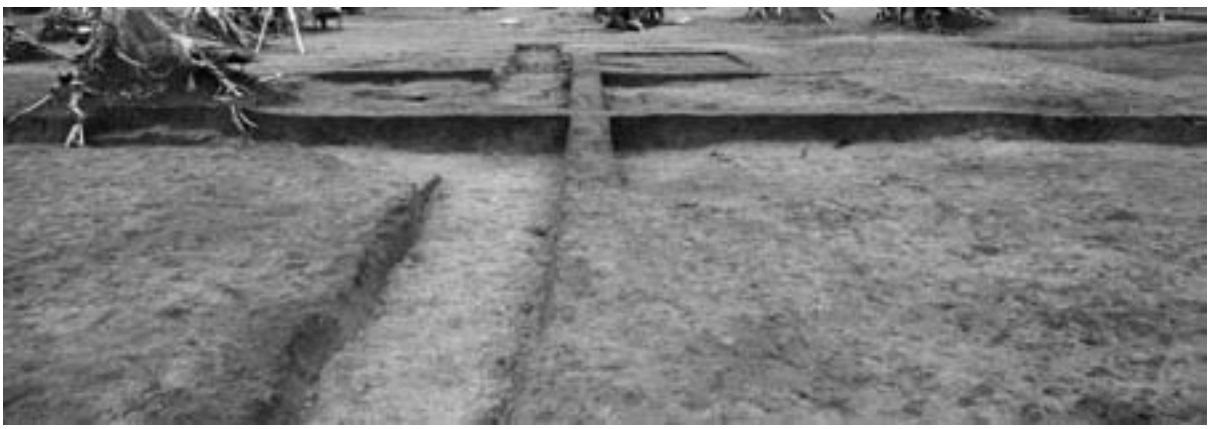
住居跡 22　炉全景（南から）

住居跡 22　炉断面（西から）

写真図版 23　住居跡 22

住居跡 23　全景（南東から）

住居跡 23　断面（東から）



住居跡 23　断面（南から）

写真図版 24　住居跡 23

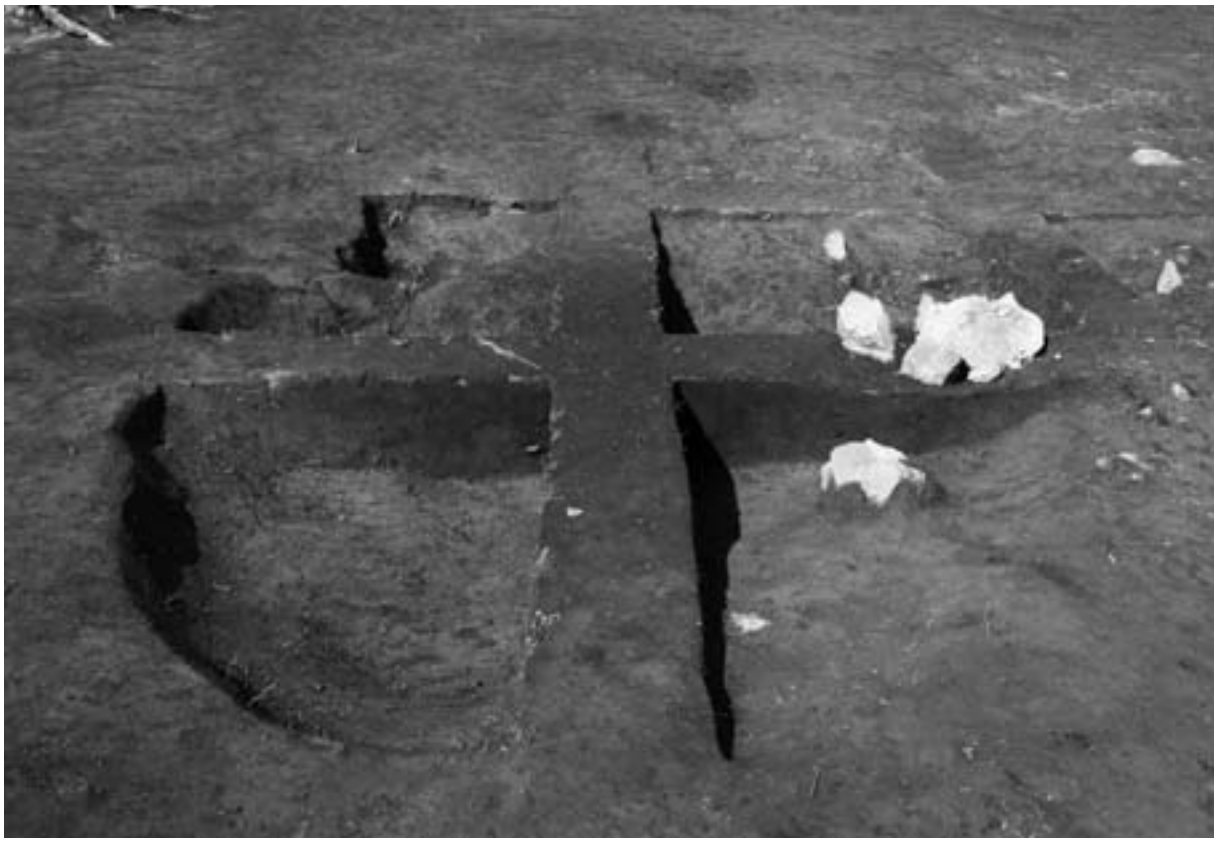
住居跡 24　全景（南西から）

住居跡 24　断面（北西から）

住居跡 24　炉全景（南西から）

住居跡 24　炉断面（北から）

写真図版 25　住居跡 24

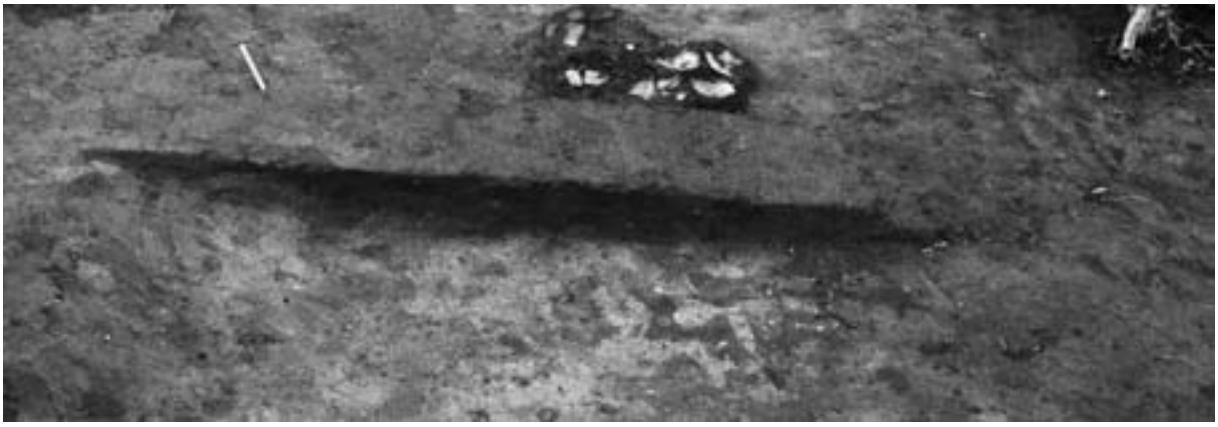


住居跡 25　断面（南西から）

住居跡 25　断面（南東から）

写真図版 26　住居跡 25

住居跡 26　全景（西から）



住居跡 26　断面（西から）

住居跡 26　炉全景（南から）

住居跡 26　炉断面（東から）

写真図版 27　住居跡 26

住居跡 27　全景（南から）

住居跡 27　断面（東から）

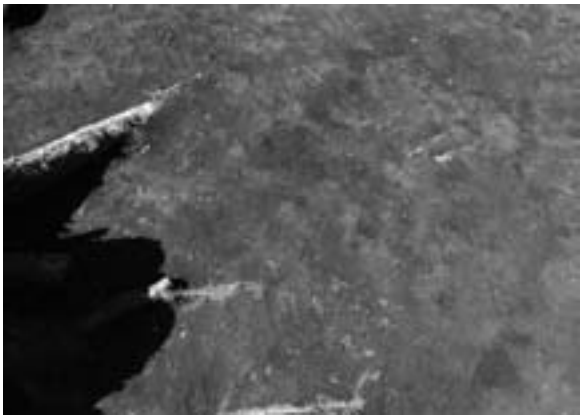
住居跡 27　炉全景（南から）

住居跡 27　炉断面（東から）

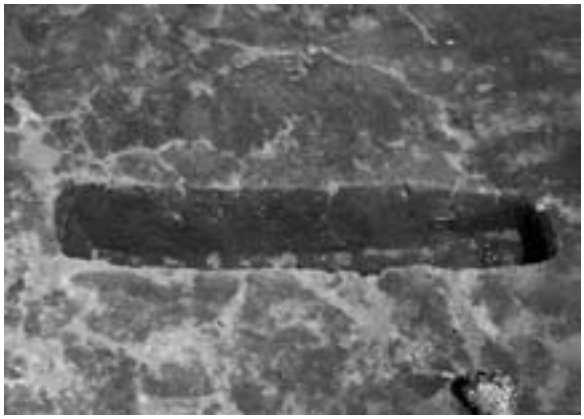
写真図版 28　住居跡 27

住居跡 28　全景（南から）

住居跡 28　全景（東から）



住居跡 28　炉全景（南から）



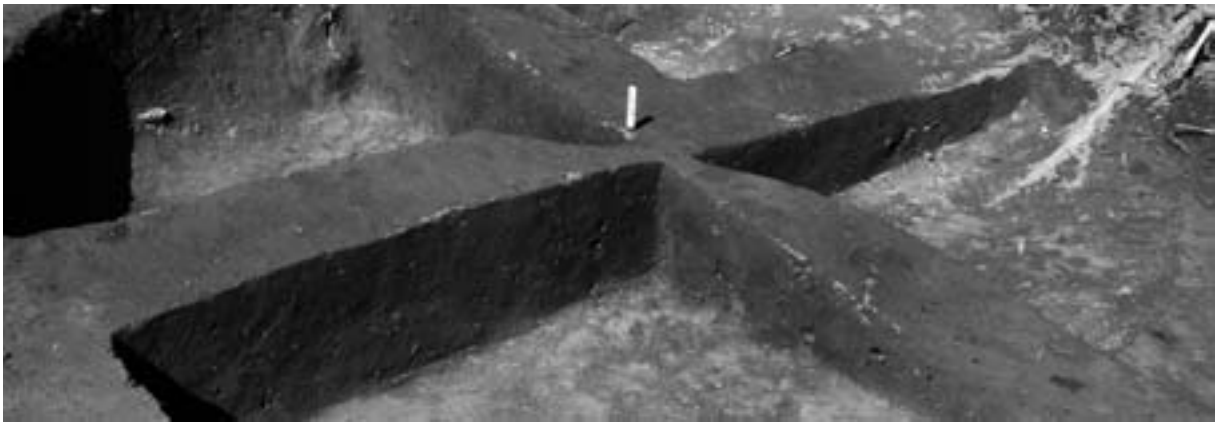
住居跡 28　炉断面（西から）

住居跡 28　遺物出土状況（南から）

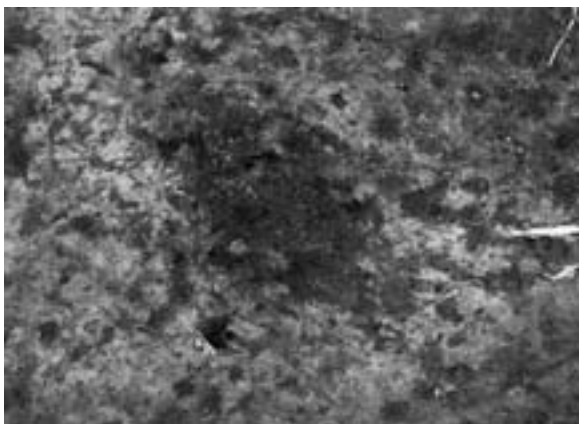
作業風景

写真図版 29　住居跡 28

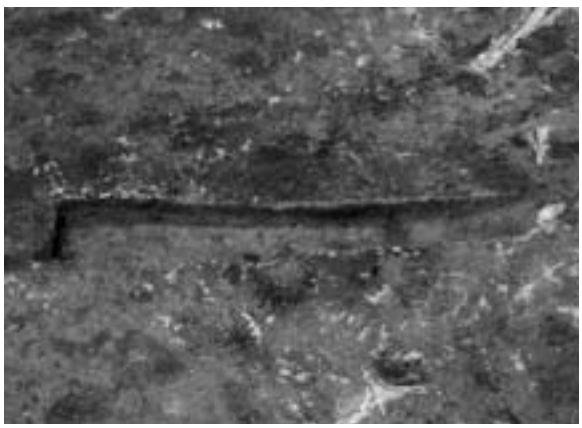
住居跡 29　全景（南から）



住居跡 29　断面（南から）



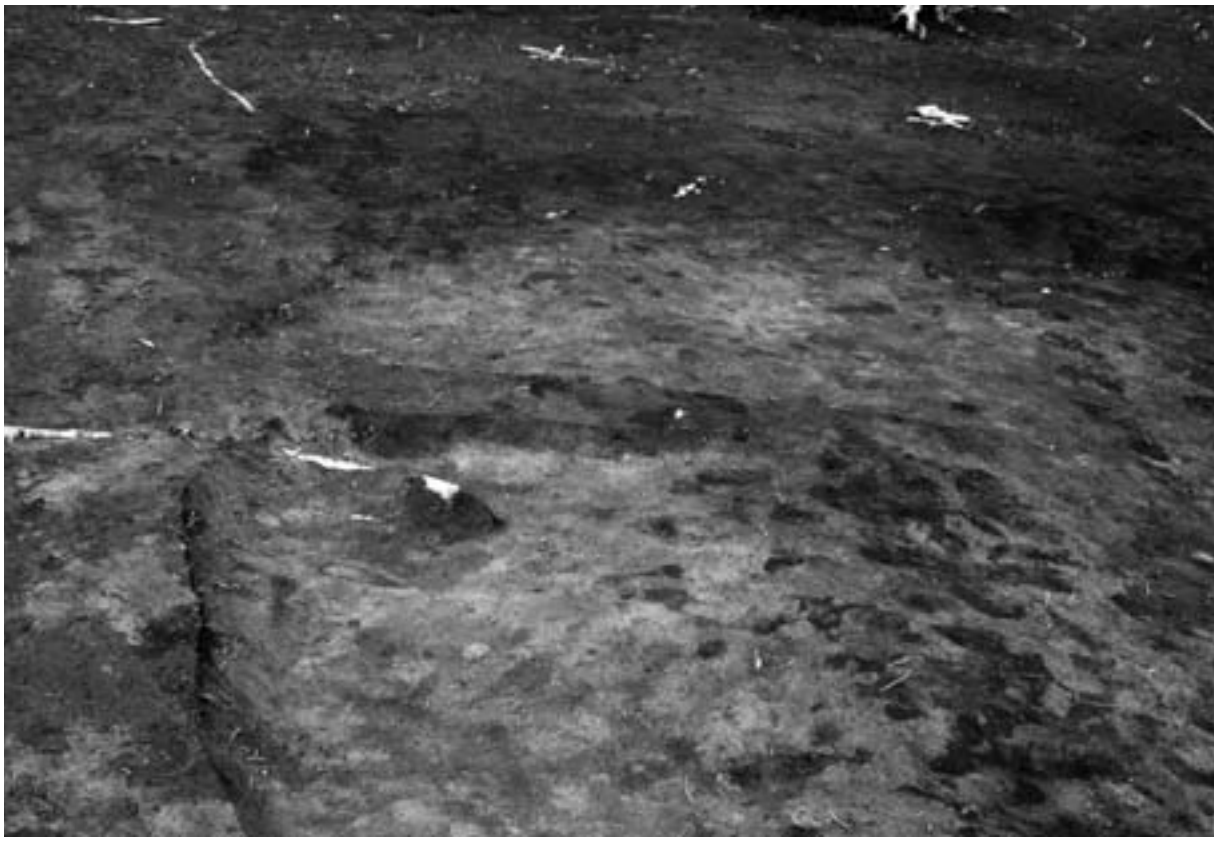
住居跡 29　炉全景（南から）



住居跡 29　炉断面（南西から）

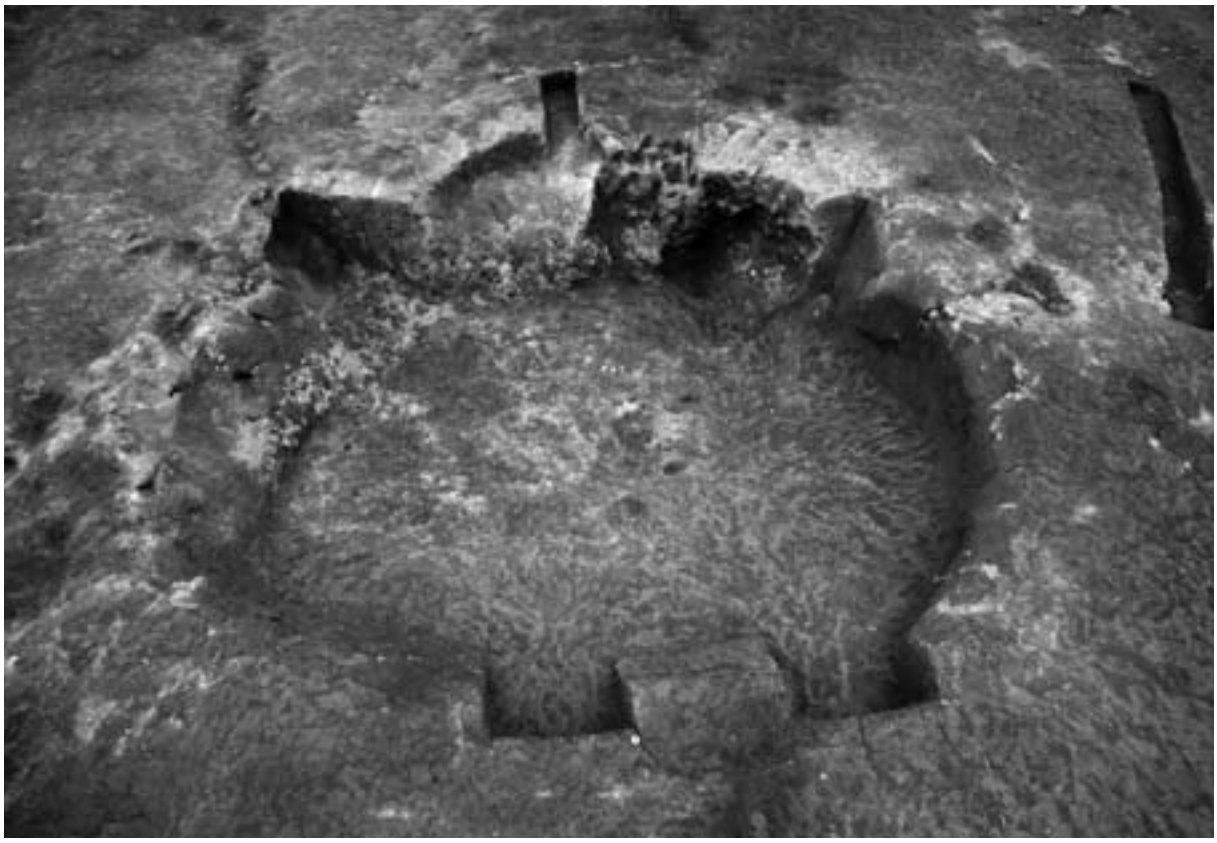
写真図版 30　住居跡 29

住居跡 30　全景（南から）



住居跡 30　断面（西から）

写真図版 31　住居跡 30



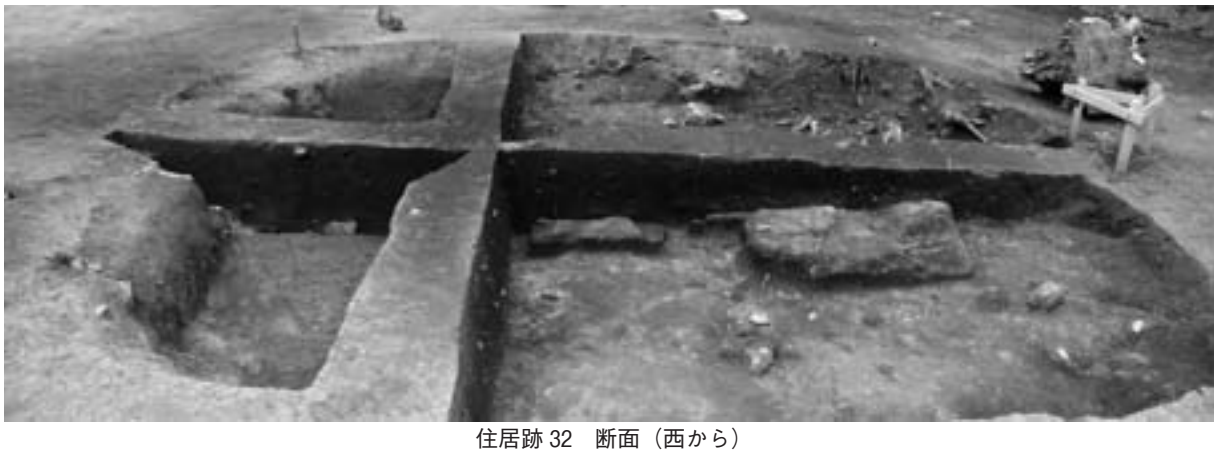
住居跡 31　全景（南から）

住居跡 31　断面（西から）

写真図版 32　住居跡 31

住居跡 32　全景（南から）

住居跡 32　断面（南から）



住居跡 32　断面（西から）

写真図版 33　住居跡 32（1）

住居跡 32　カマド全景（南から）

住居跡 32　カマド断面（南から）

住居跡 32　カマド断面（西から）

住居跡 32　紡錘車出土状況

住居跡 32　鍛冶炉全景（南から）

写真図版 34　住居跡 32（2）

住居跡 33　全景（南東から）

住居跡 33　断面（西から）

住居跡 33　炉全景（南東から）

住居跡 33　炉断面（南西から）

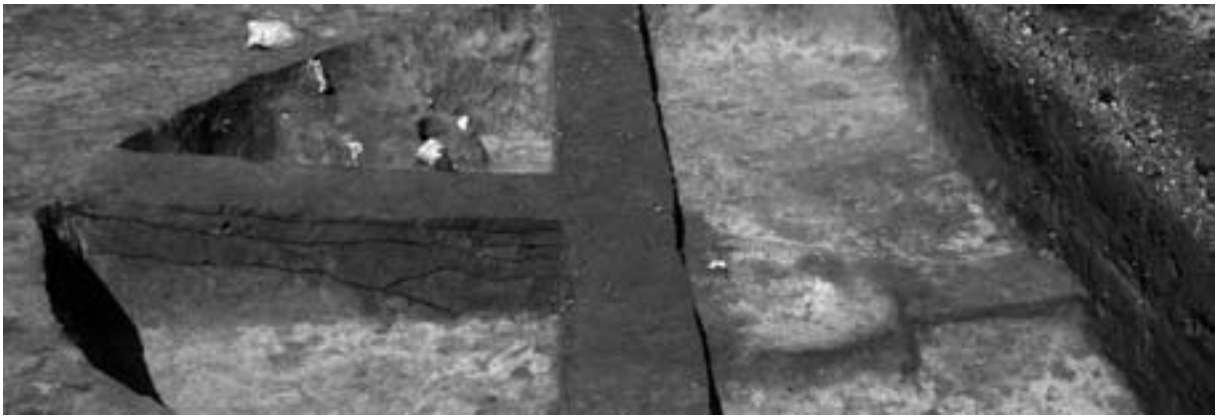
写真図版 35　住居跡 33

住居跡 34　全景（南から）

住居跡 34　全景（南から）

写真図版 36　住居跡 34（1）

住居跡 34　断面（北西から）



住居跡 34　断面（南西から）

住居跡 34　カマド全景（南から）

住居跡 34　カマド断面（西から）

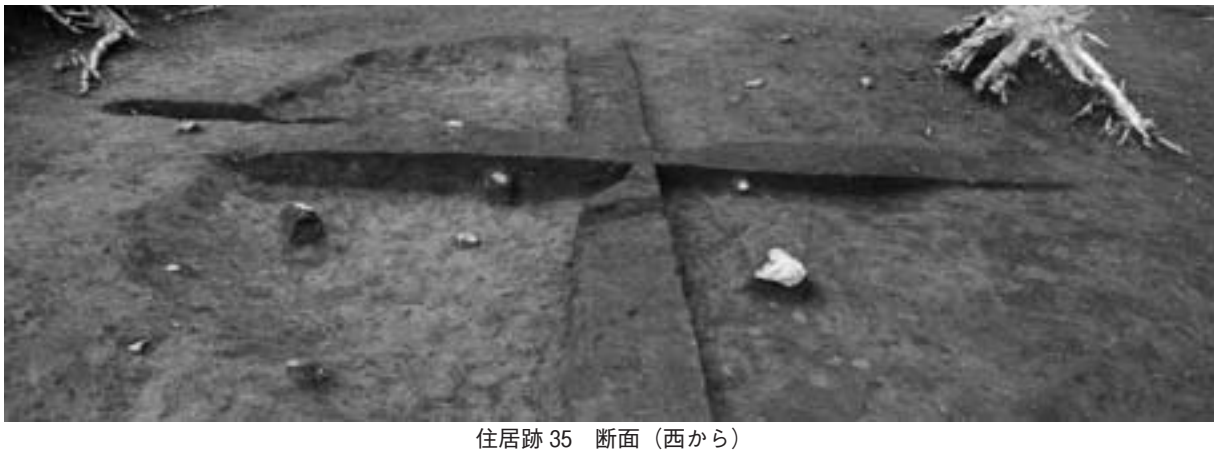
住居跡 34　カマド断面（南から）

住居跡 34　カマド配石（南から）

写真図版 37　住居跡 34（2）

住居跡 35　全景（南から）

住居跡 35　断面（南から）



住居跡 35　断面（西から）

写真図版 38　住居跡 35

住居跡 36・37・40・41　全景（南から）

住居跡 36・37・40・41　断面（西から）

写真図版 39　住居跡 36・37・40・41

住居跡 38・39　全景（南から）

住居跡 38・39　断面（西から）

写真図版 40　住居跡 38・39

住居跡 42　全景（南から）

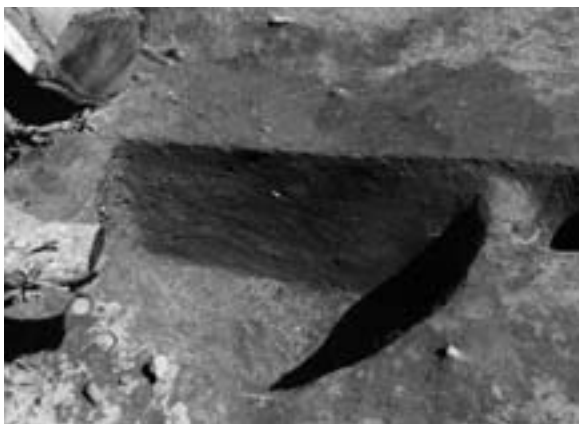
住居跡 42　断面（南西から）

写真図版 41　住居跡 42

住居跡 43　全景（南から）

住居跡 43　断面（南から）

住居跡 43　Pit1 全景（南から）

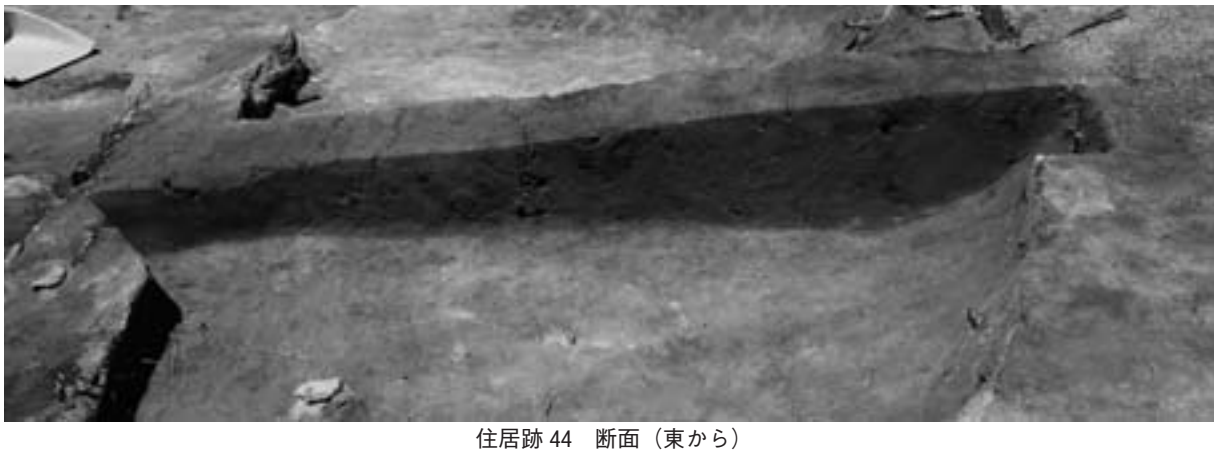


住居跡 43　Pit1 断面（南から）

写真図版 42　住居跡 43

住居跡 44　全景（南から）

住居跡 44　断面（南から）



住居跡 44　断面（東から）

写真図版 43　住居跡 44

住居跡 45　全景（南西から）

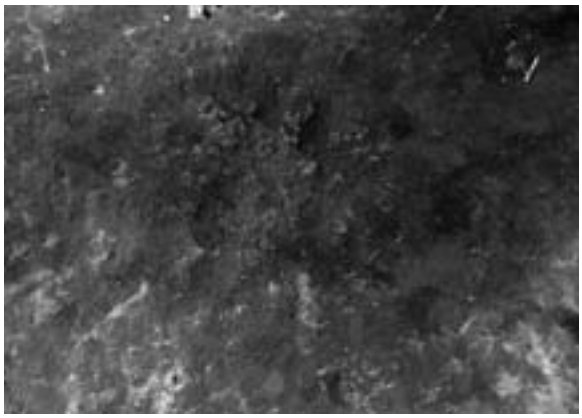
住居跡 45　断面（東から）

住居跡 45　焼土 1 全景（南から）

住居跡 43　焼土 1 断面（東から）

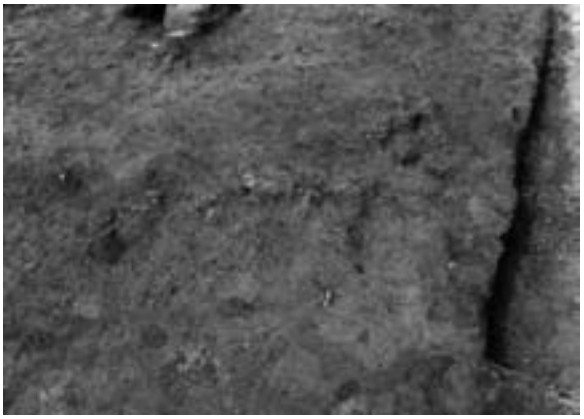
写真図版 44　住居跡 45

住居跡 46　断面（東から）



住居跡 46　焼土 1 検出（南から）

住居跡 46　焼土 1 断面（東から）



住居跡 46　焼土 2 検出（南から）

住居跡 46　焼土 2 断面（南から）

住居跡 46　遺物出土状況（南から）

住居跡 46　砂岩断面（西から）

写真図版 45　住居跡 46

住居跡 46・47　全景（南から）

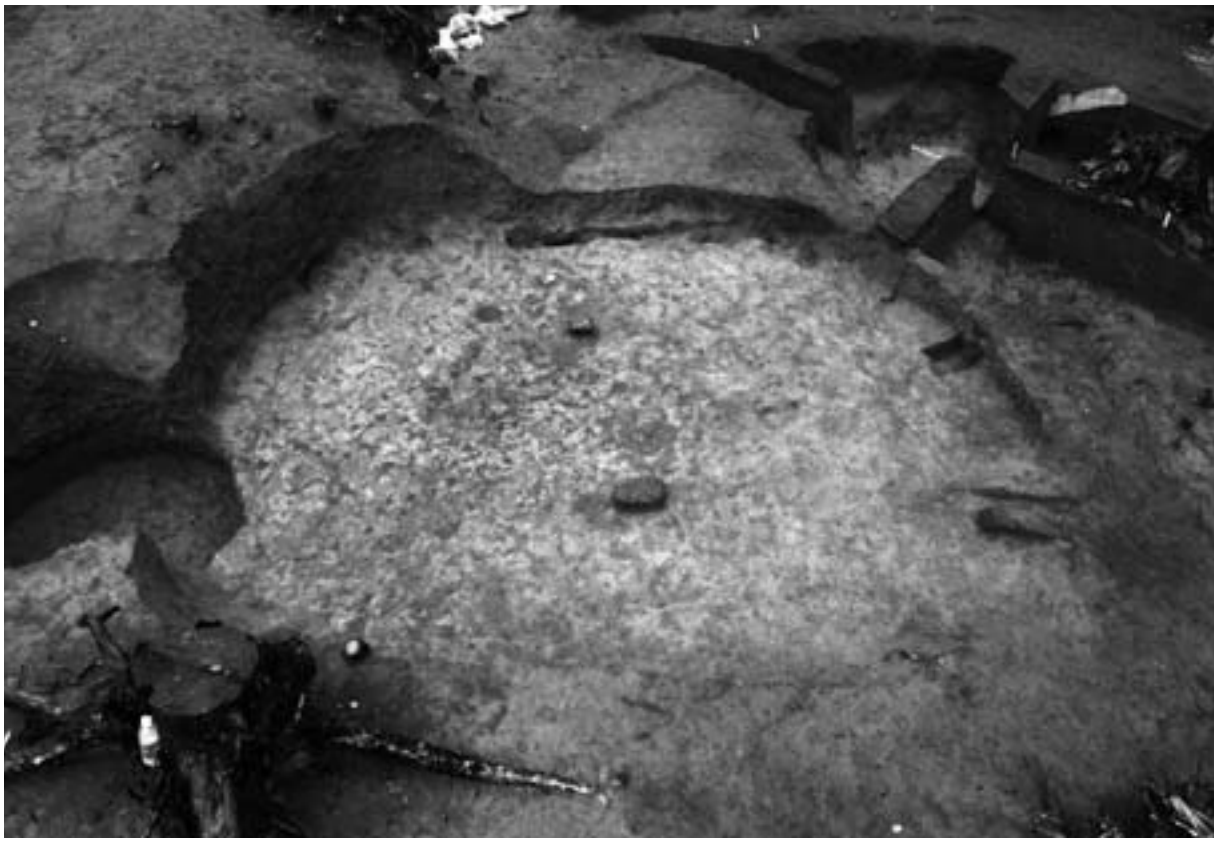
住居跡 46・47　断面（西から）

写真図版 46　住居跡 46・47

住居跡 48・52　断面（西から）

住居跡 48・52　断面（南から）

写真図版 47　住居跡 48・52



住居跡 49　全景（西から）

住居跡 49　断面（南から）

住居跡 49　断面（東から）

写真図版 48　住居跡 49

住居跡 50・51・56　断面（南西から）

住居跡 50・51・56　断面（西から）

作業風景

作業風景

写真図版 49　住居跡 50・51・56

住居跡 53　全景（南東から）

住居跡 53　断面（西から）

住居跡 53　耳飾り出土状況（西から）

作業風景

写真図版 50　住居跡 53

住居跡 54・55・58・59・60　全景（南から）

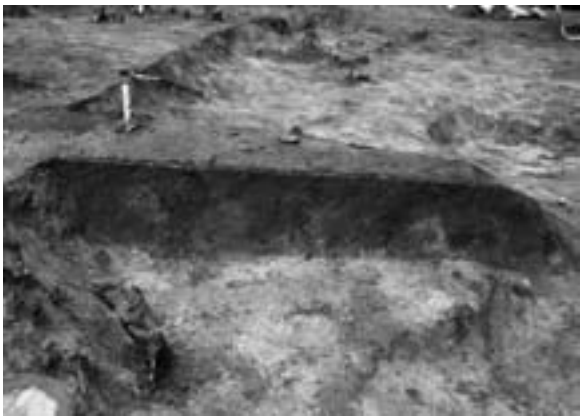
住居跡 54・55・58・59・60　全景（東から）

写真図版 51　住居跡 54・55・58・59・60（1）

住居跡 54・58・59・60　断面（西から）

住居跡 54・58・59・60　断面（西から）

住居跡 54・58・59・60　断面（東から）

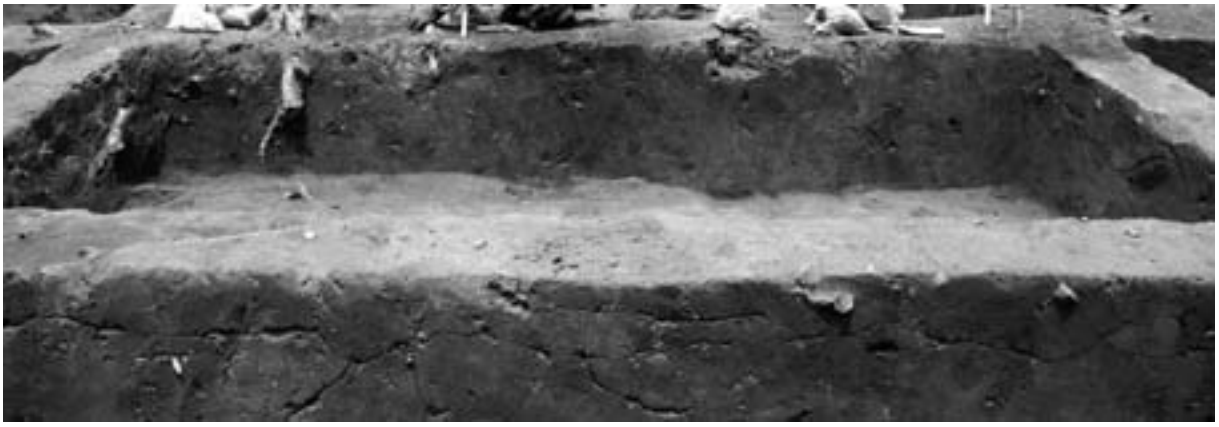


住居跡 54　断面（西から）

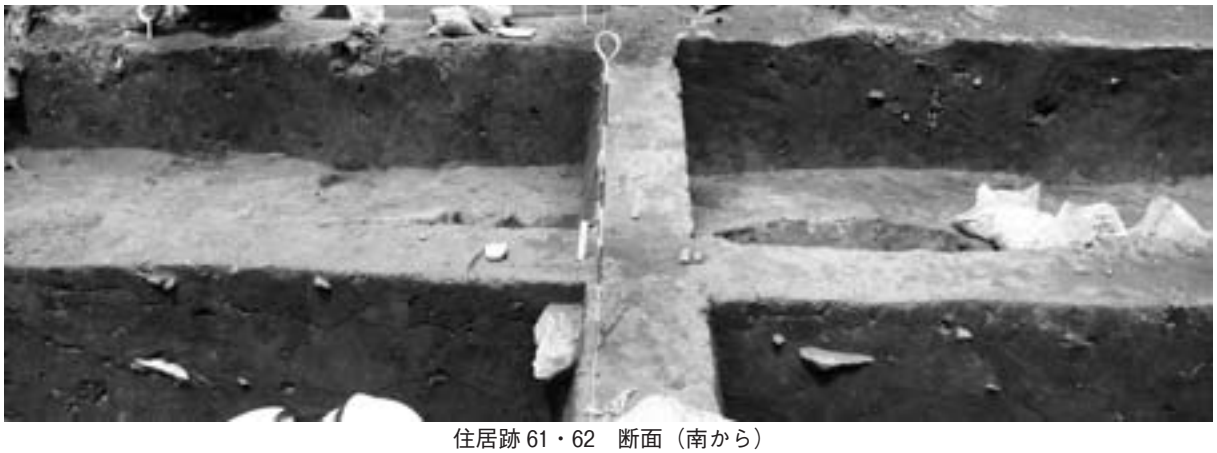
作業風景

写真図版 52　住居跡 54・55・58・59・60（2）

住居跡 61・62　全景（西から）



住居跡 61・62　断面（南から）

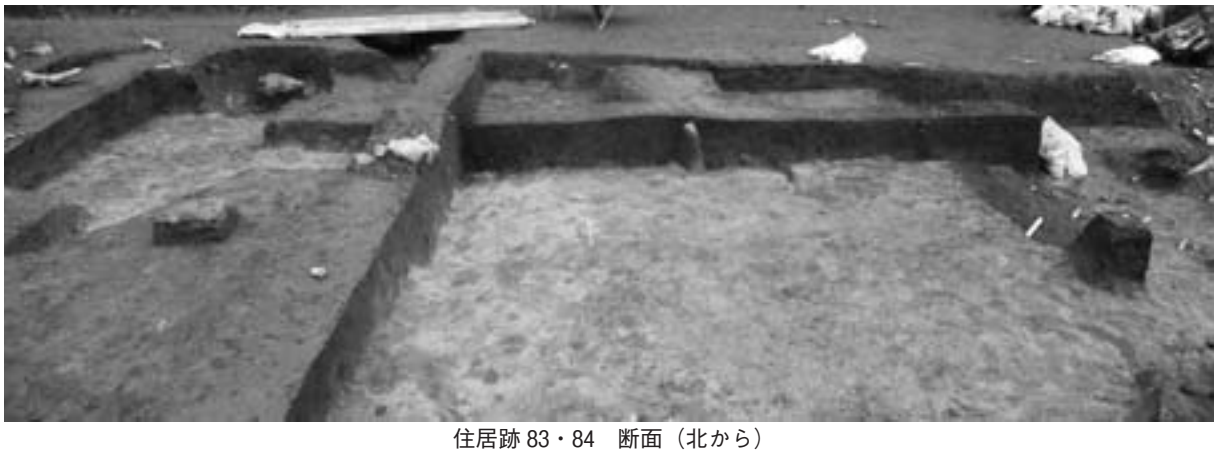


住居跡 61・62　断面（南から）

写真図版 53　住居跡 61・62

住居跡 63・82・83・84　全景（西から）

住居跡 63・82・83　断面（西から）



住居跡 83・84　断面（北から）

写真図版 54　住居跡 63・82・83・84

住居跡 64　全景（南から）

住居跡 64　断面（南から）

住居跡 64　炉断面（北から）

現地説明会風景

写真図版 55　住居跡 64

住居跡 65　全景（西から）

住居跡 66　全景（南から）

写真図版 56　住居跡 65・66

住居跡 67　全景（東から）

住居跡 68　全景（東から）

写真図版 57　住居跡 67～70（1）

住居跡 69　全景（南から）

住居跡 70　全景（南から）

写真図版 58　住居跡 67～70（2）

住居跡 67～70　断面（南から）

住居跡 67～70　断面（南から）

住居跡 67　断面（西から）

住居跡 67　遺物出土状況（南から）

住居跡 67　炉全景（南から）

住居跡 67　炉断面（西から）

住居跡 69　壁溝断面（東から）

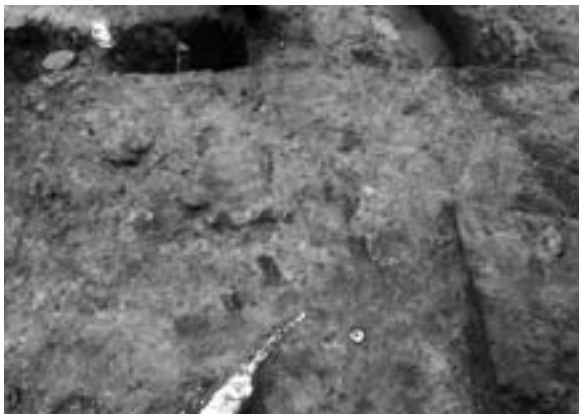
写真図版 59　住居跡 67～70（3）

住居跡 71　全景（東から）

住居跡 72　全景（南から）

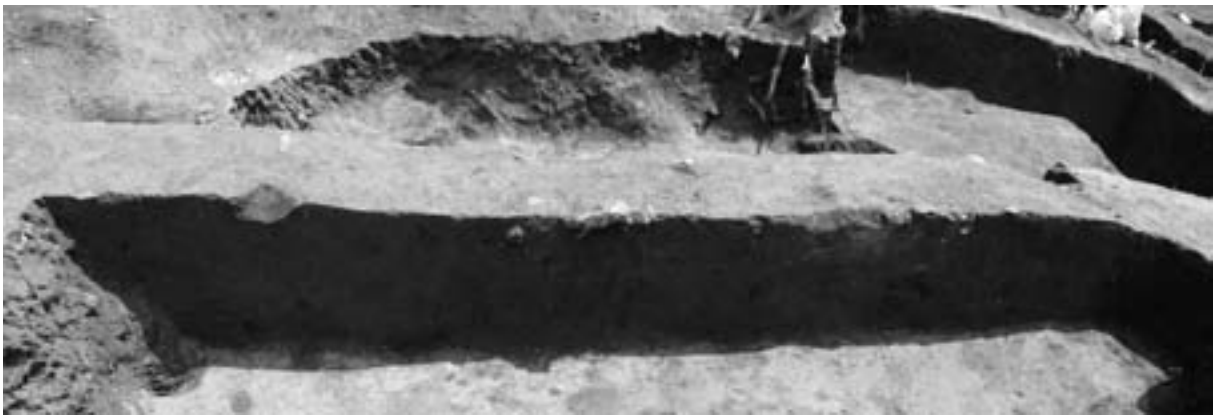
写真図版 60　住居跡 71・72（1）

住居跡 71　断面（西から）



住居跡 71　焼土検出（南から）

住居跡 71　焼土断面（西から）



住居跡 72　断面（西から）

住居跡 72　焼土検出（西から）

住居跡 72　焼土断面（南から）

写真図版 61　住居跡 71・72（2）

住居跡 73～79　全景（南東から）

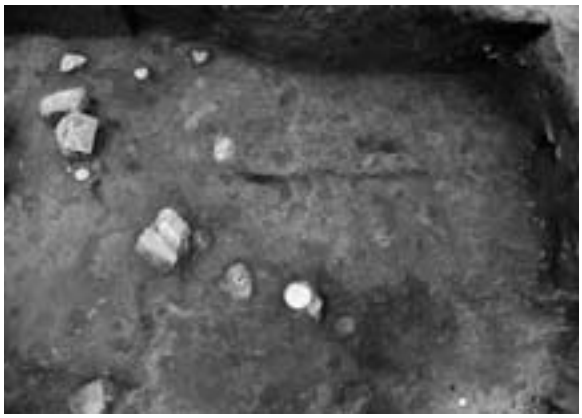
住居跡 73～79　断面（南西から）

住居跡 73～79　断面（南東から）

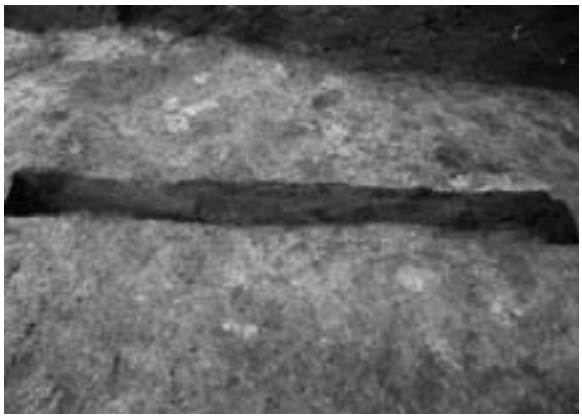
写真図版 62　住居跡 73～79（1）

住居跡 73　Pit1 全景（西から）

住居跡 75　焼土全景（南から）



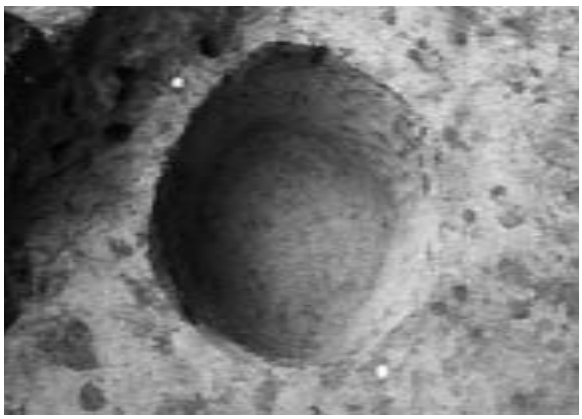
住居跡 75　炉検出（西から）



住居跡 75　炉断面（西から）

住居跡 75　Pit1 断面（西から）

住居跡 75　Pit2 断面（南から）



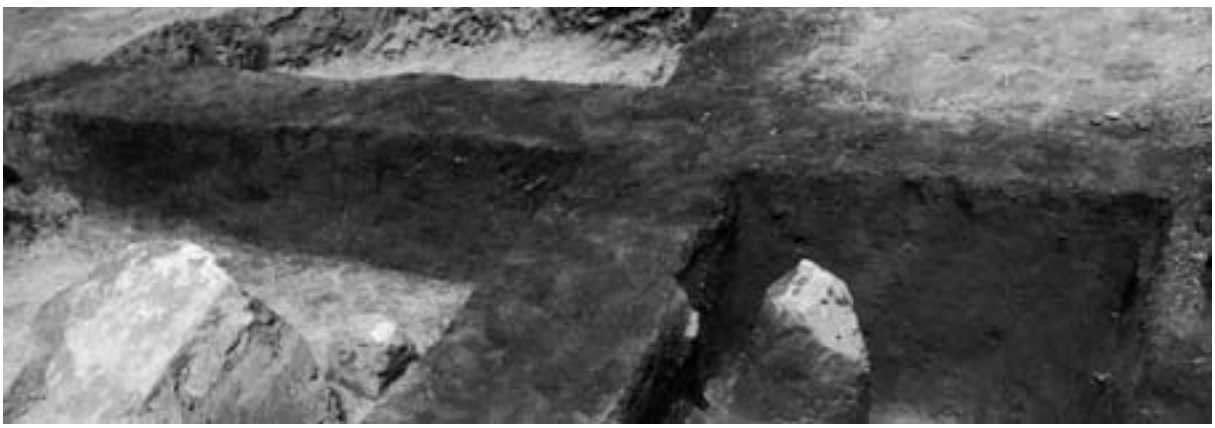
住居跡 75　Pit2 全景（南から）

住居跡 75　遺物出土状況

写真図版 63　住居跡 73～79（2）

住居跡 77・78　全景（南から）

住居跡 74　断面（西から）

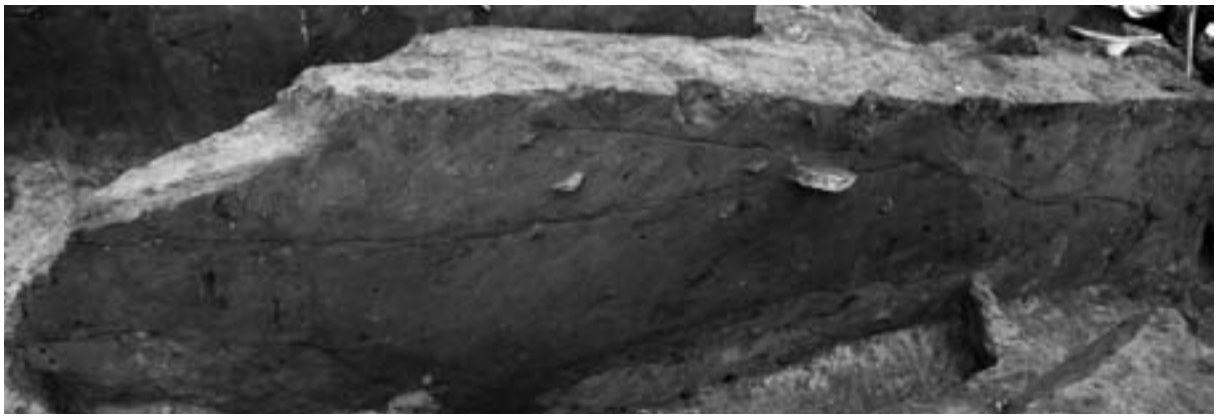


住居跡 74　断面（南から）

写真図版 64　住居跡 73～79（3）

住居跡 76　全景（南東から）

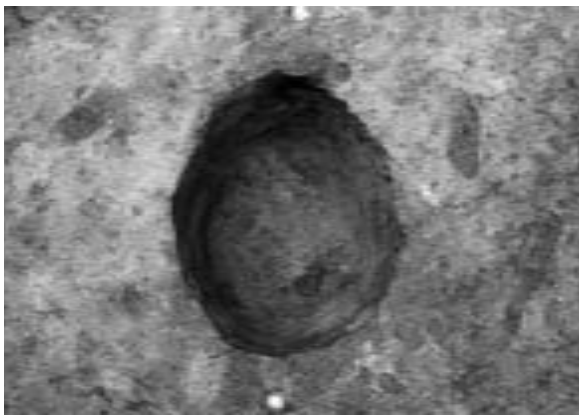
住居跡 76　断面（南から）



住居跡 77・78・79　断面（西から）

住居跡 77　炉検出（北から）

住居跡 77　炉断面（南から）



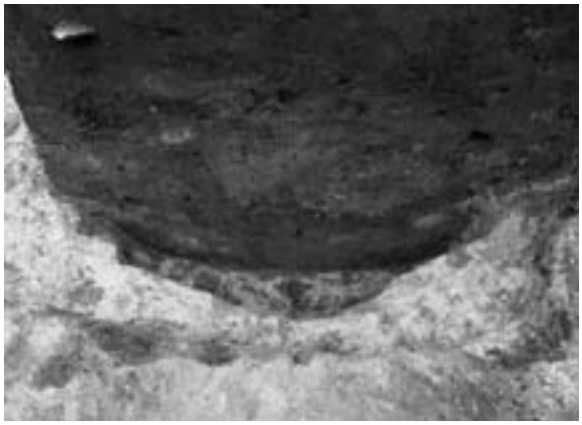
住居跡 77　Pit1 全景（南から）

住居跡 77　Pit1 断面（東から）

写真図版 65　住居跡 73～79（4）

住居跡 78・79　全景（南から）

住居跡 79　Pit1 断面（西から）



住居跡 79　Pit2 断面（南から）

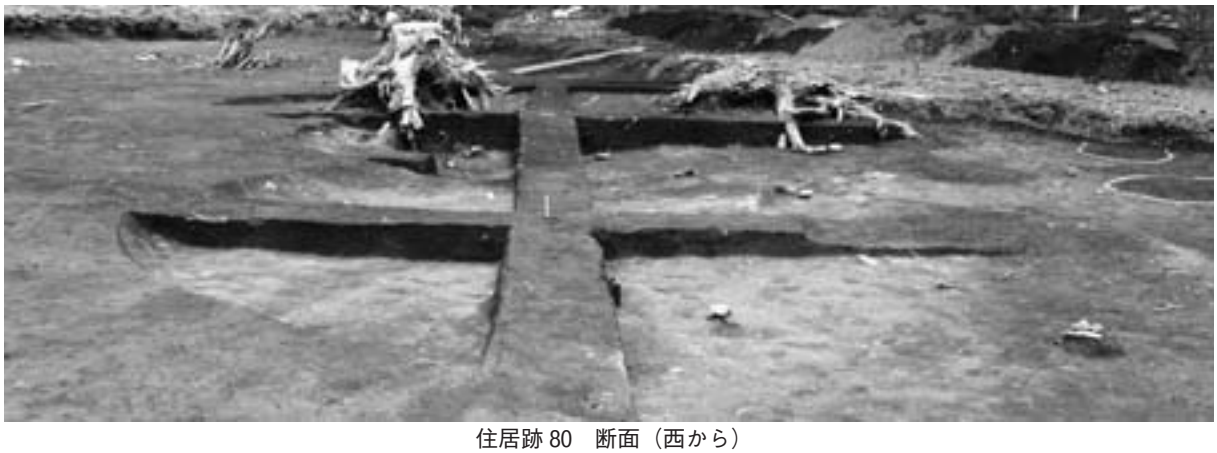
作業風景

作業風景

写真図版 66　住居跡 73～79（5）

住居跡 80　全景（南から）

住居跡 80　断面（南から）

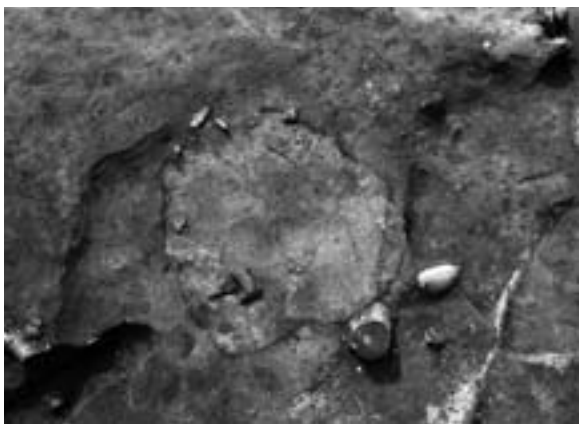


住居跡 80　断面（西から）

写真図版 67　住居跡 80

住居跡 81　全景（南西から）

住居跡 81　断面（西から）



住居跡 81　焼土 1 全景（南から）

住居跡 81　焼土 1 断面（南西から）

写真図版 68　住居跡 81

住居跡 85～87　全景（南から）

住居跡 85～87　断面（南東から）

写真図版 69　住居跡 85～87

住居跡 88　全景（南から）

住居跡 88　断面（南から）

住居跡 88　断面（西から）

写真図版 70　住居跡 88（1）

住居跡 88　カマド全景（南から）

住居跡 88　カマド断面（西から）

住居跡 88　カマド断面（北から）

住居跡 88　Pit2 全景（北から）

住居跡 88　Pit2 断面（西から）

住居跡 88　鉄製品出土状況（西から）

現地説明会風景

写真図版 71　住居跡 88（2）

住居跡 89　全景（南から）

住居跡 89　断面（南から）

住居跡 89　焼土 1 全景（西から）

住居跡 89　焼土 1 断面（東から）

写真図版 72　住居跡 89

住居跡 90　全景（北西から）

住居跡 90　断面（北から）

住居跡 90　断面（南西から）

写真図版 73　住居跡 90

住居跡 91・92　全景（西から）

住居跡 91・92　断面（北から）

住居跡 91　断面（西から）

住居跡 92　遺物出土状況（北から）

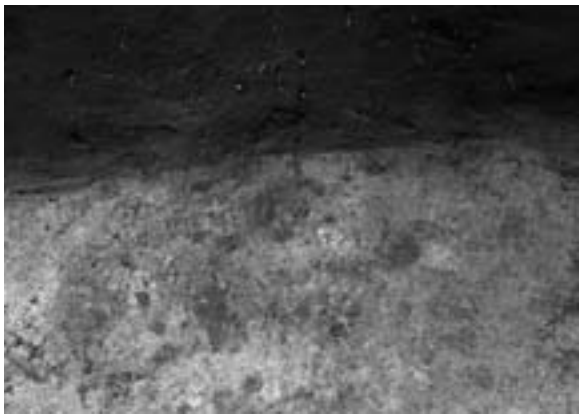
写真図版 74　住居跡 91・92

住居跡 93　全景（南から）

住居跡 94　全景（西から）

写真図版 75　住居跡 93・94（1）

住居跡 93・94　断面（北から）



住居跡 93　焼土検出（南から）

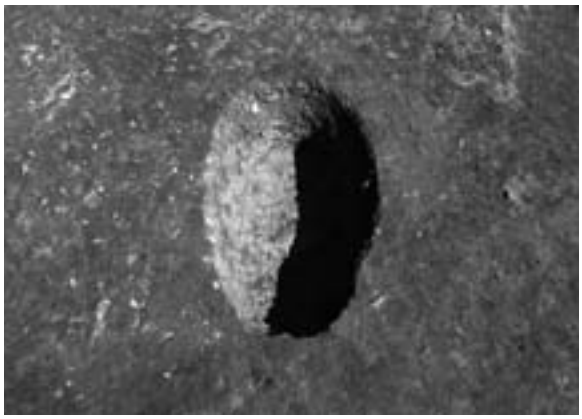
住居跡 93　焼土断面（南から）

作業風景

現地説明会風景

現地説明会風景

写真図版 76　住居跡 93・94（2）

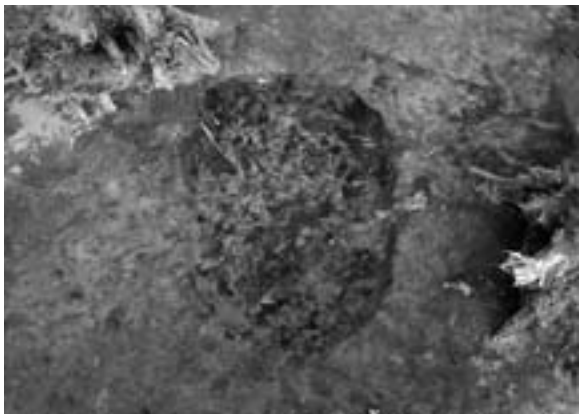


土坑 1　全景（南から）

土坑 1　断面（南から）

土坑 2　全景（北から）

土坑 2　断面（南西から）



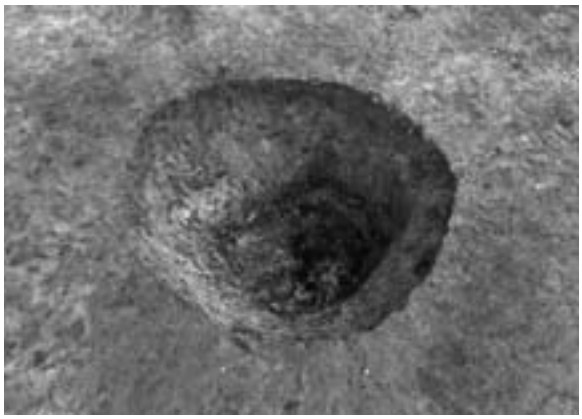
土坑 3　全景（南から）

土坑 3　断面（南から）

土坑 4　全景（東から）

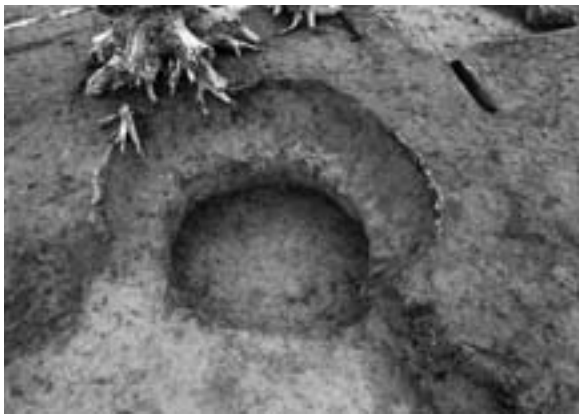
土坑 4　断面（東から）

写真図版 77　土坑 1〜4



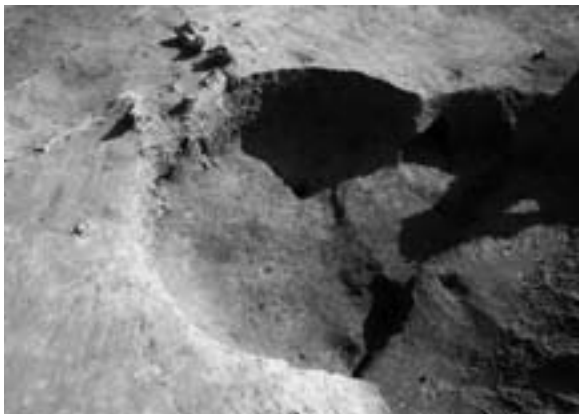
土坑 5　全景（西から）

土坑 5　断面（東から）

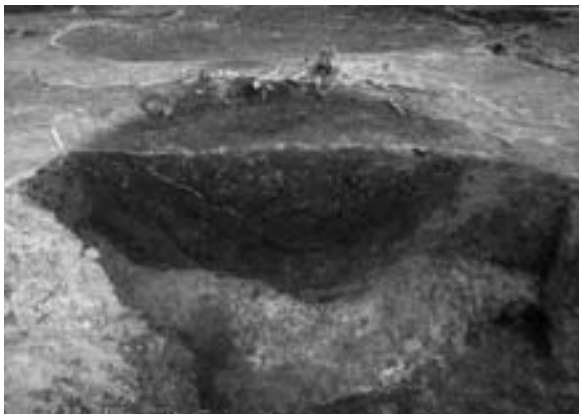


土坑 6　全景（南から）

土坑 6　断面（西から）



土坑 7　全景（西から）



土坑 7　断面（西から）

土坑 8　全景（北から）

土坑 8　断面（東から）

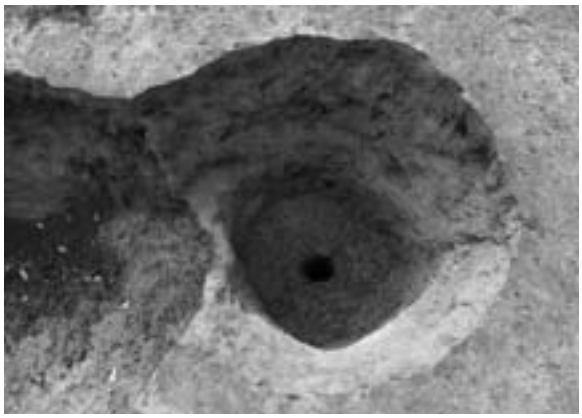
写真図版 78　土坑 5〜8

土坑 9　全景（北から）

土坑 9　断面（東から）

土坑 10　全景（北から）

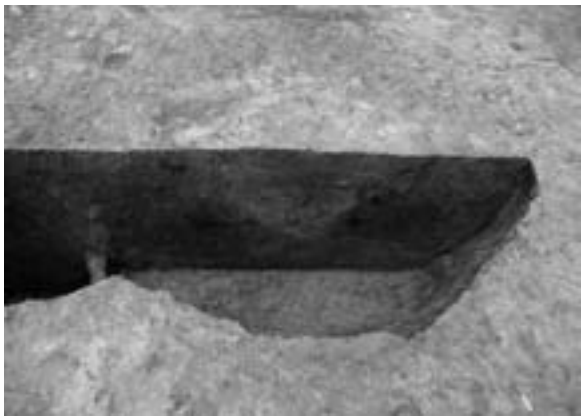
土坑 10　断面（南東から）



土坑 11　全景（東から）

土坑 11　断面（南から）

土坑 12　全景（東から）

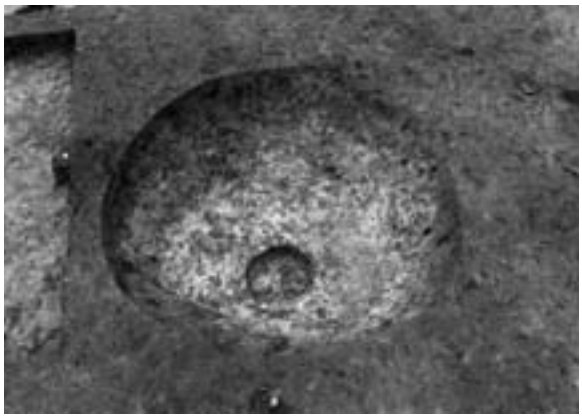


土坑 12　断面（南から）

写真図版 79　土坑 9～12

土坑 13　断面（東から）

現地説明会風景



土坑 17　全景（南から）

土坑 17　断面（南から）

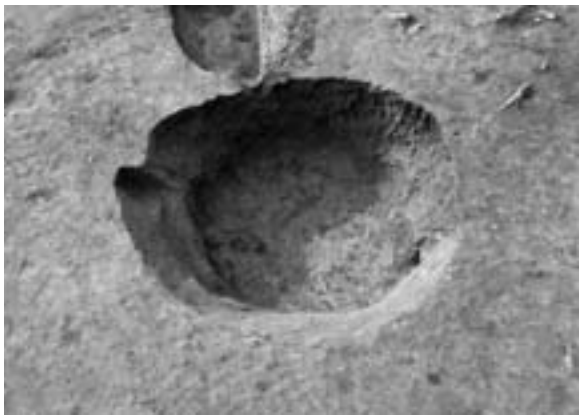
土坑 18　全景（北から）

土坑 18　焼土検出状況（北から）

土坑 19　全景（東から）

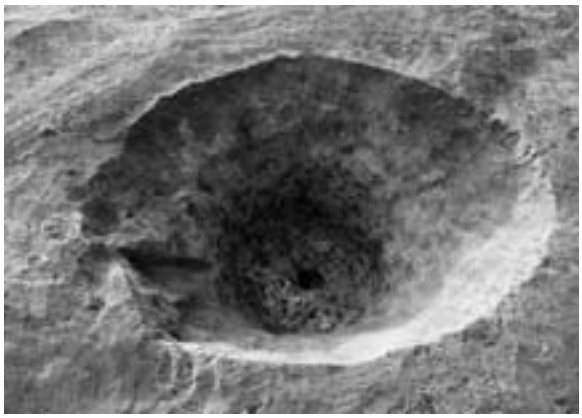
土坑 19　断面（南西から）

写真図版 80　土坑 13・17～19

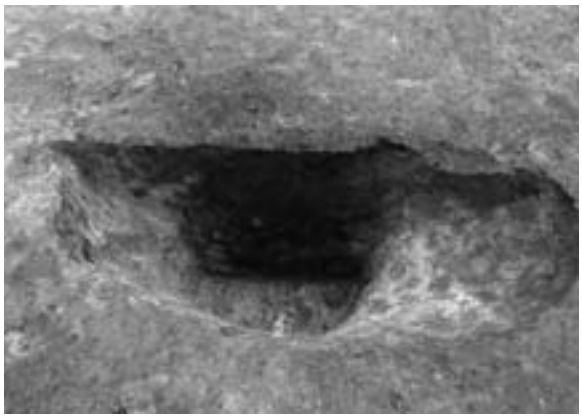


土坑 14　全景（東から）

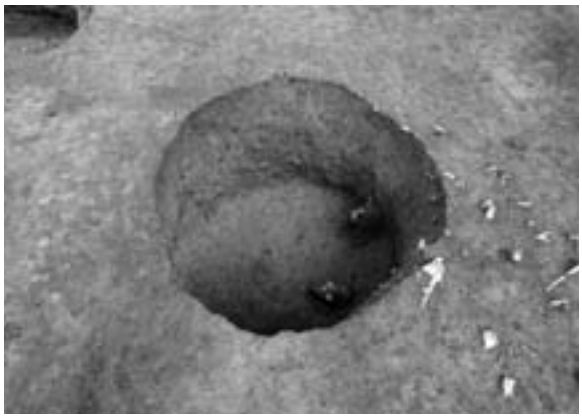
土坑 14　断面（北から）



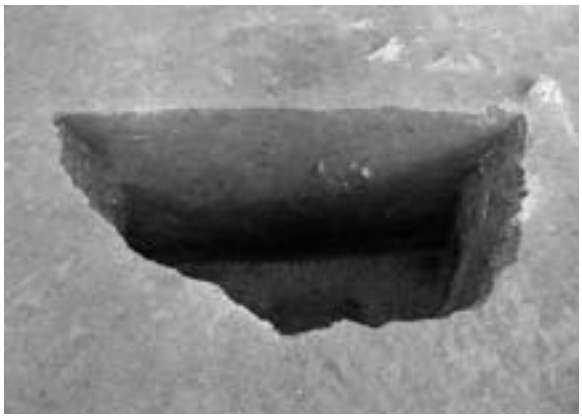
土坑 15　全景（東から）



土坑 15　断面（東から）



土坑 16　全景（南から）



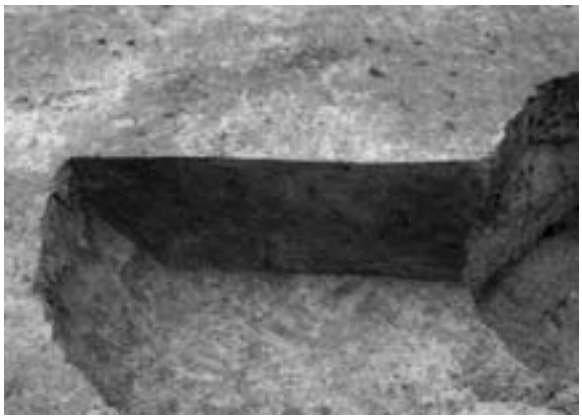
土坑 16　断面（南西から）

土坑 16　遺物出土状況（南から）

作業風景

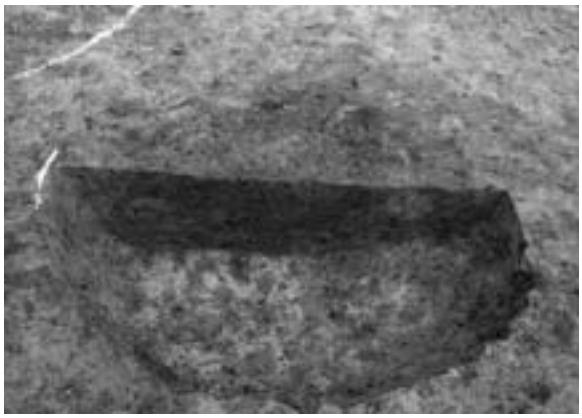
写真図版 81　土坑 14～16

土坑 20　全景（東から）



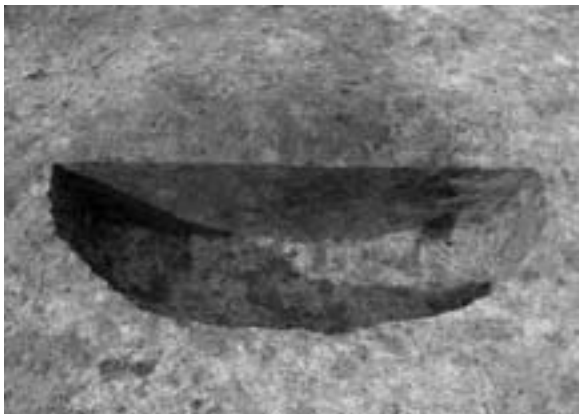
土坑 20　断面（東から）

土坑 21　全景（東から）



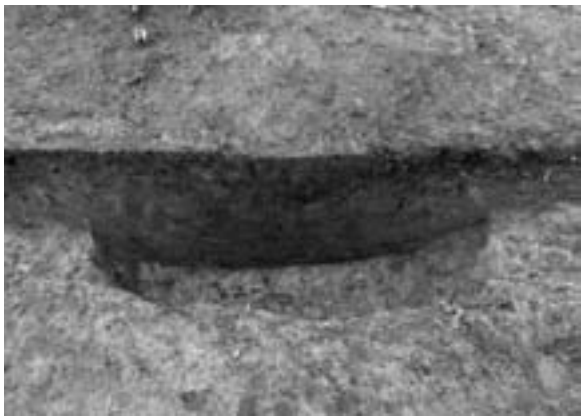
土坑 21　断面（南から）

土坑 22　全景（西から）



土坑 22　断面（東から）

土坑 23　全景（南から）



土坑 23　断面（南から）

写真図版 82　土坑 20～23

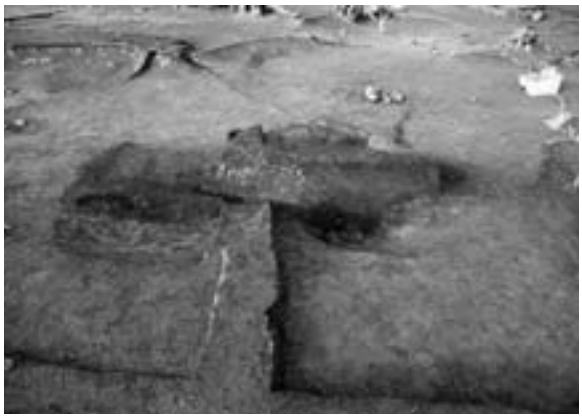
土坑 24　全景（南から）

土坑 24　断面（南西から）

土坑 25　全景（北から）

土坑 25　断面（南西から）

土坑 26　全景（南西から）

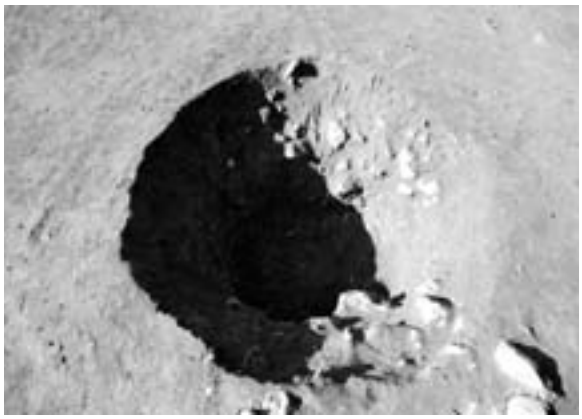


土坑 26　断面（南から）

土坑 27・28　全景（東から）

土坑 27・28　断面（東から）

写真図版 83　土坑 24～28



土坑 29　全景（東から）

土坑 29　断面（南西から）

土坑 30　全景（東から）

土坑 30　断面（南西から）

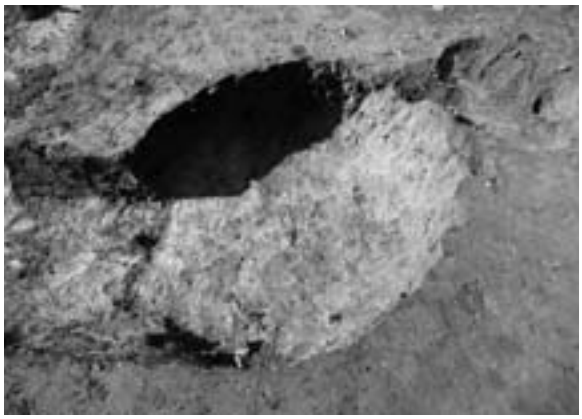
土坑 31　全景（西から）

土坑 31　断面（南西から）

土坑 32　全景（東から）

土坑 32　断面（東から）

写真図版 84　土坑 29～32

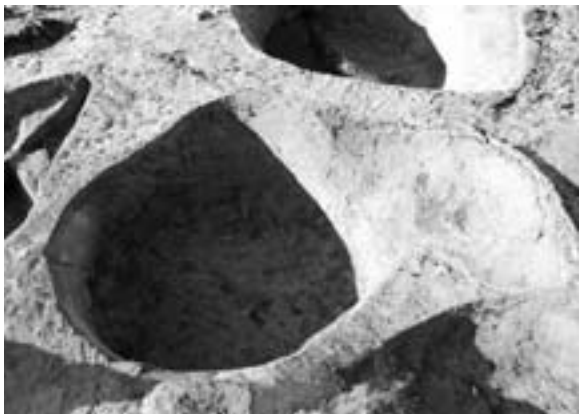


土坑 33　全景（東から）

土坑 33　断面（東から）

土坑 34　全景（東から）

土坑 34　断面（南から）



土坑 35　全景（南から）

土坑 35　断面（北東から）

土坑 36　全景（北から）

土坑 36　断面（北から）

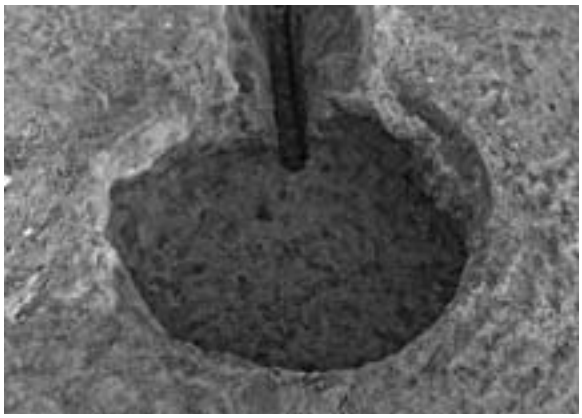
写真図版 85　土坑 33～36

土坑 37　全景（南東から）

土坑 37　断面（南から）

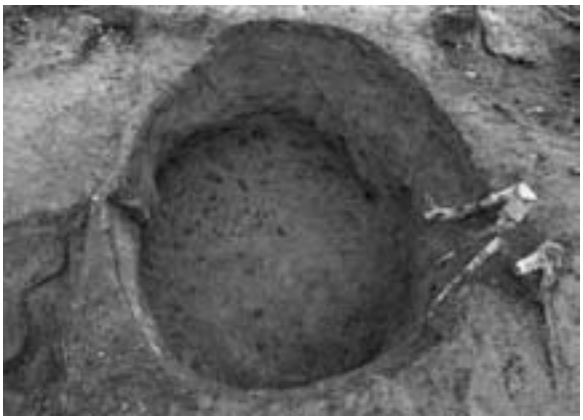
土坑 38　全景（南から）

土坑 38　断面（東から）



土坑 39　全景（西から）

土坑 39　断面（東から）



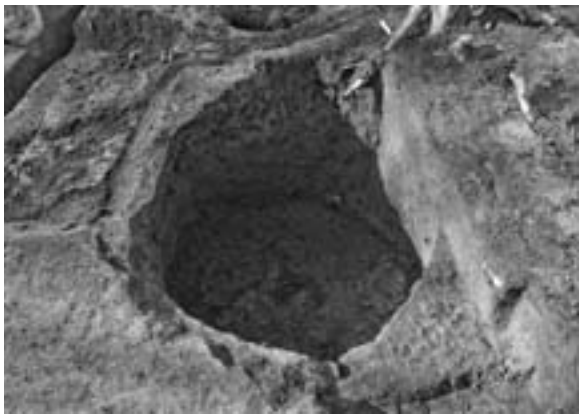
土坑 40　全景（東から）

土坑 40　断面（東から）

写真図版 86　土坑 37～40

土坑 41　全景（東から）

土坑 41　断面（東から）



土坑 42　全景（東から）

土坑 42　断面（北から）

土坑 43・45　全景（西から）

土坑 43　断面（南から）

作業風景

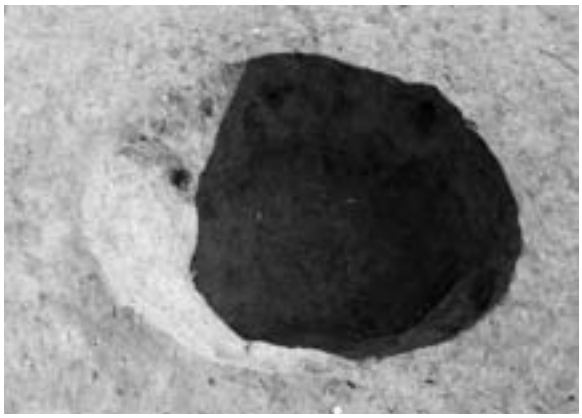
写真図版 87　土坑 41～43・45

土坑 44　全景（東から）

作業風景

土坑 46　全景（南から）

土坑 46　断面（南東から）



土坑 47　全景（北から）

土坑 47　断面（東から）

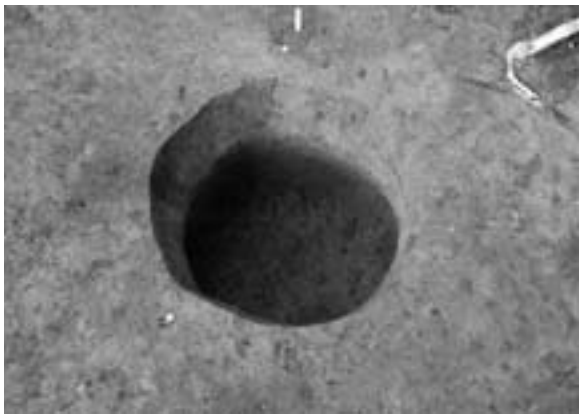
土坑 48　全景（北東から）

土坑 48　断面（南西から）

写真図版 88　土坑 44・46～48

土坑 49　全景（南から）

土坑 49　断面（西から）

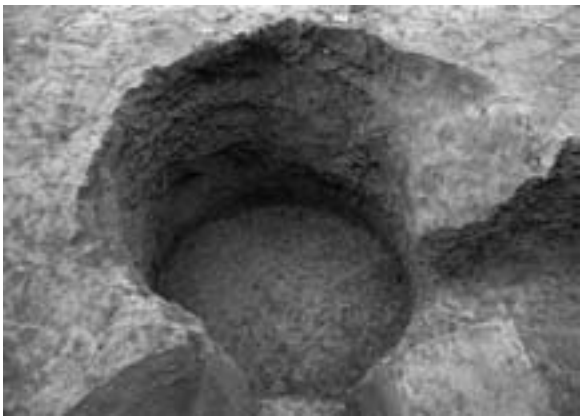


土坑 50　全景（南から）

土坑 50　断面（東から）

土坑 51　全景（南から）

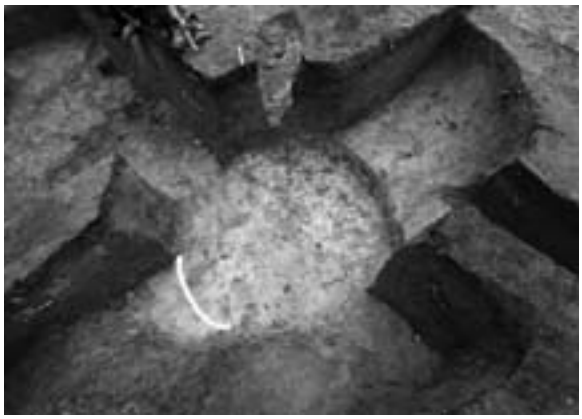
土坑 51　断面（東から）



土坑 52　全景（西から）

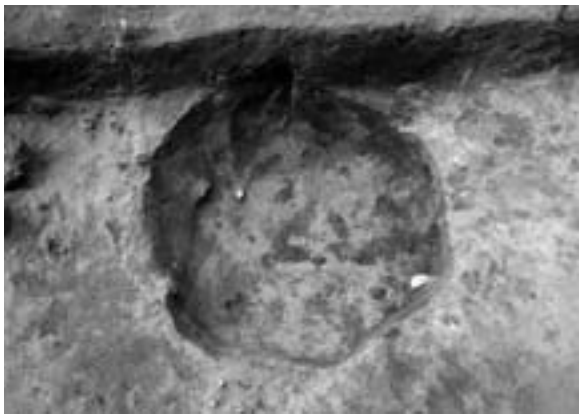
土坑 52　断面（西から）

写真図版 89　土坑 49～52

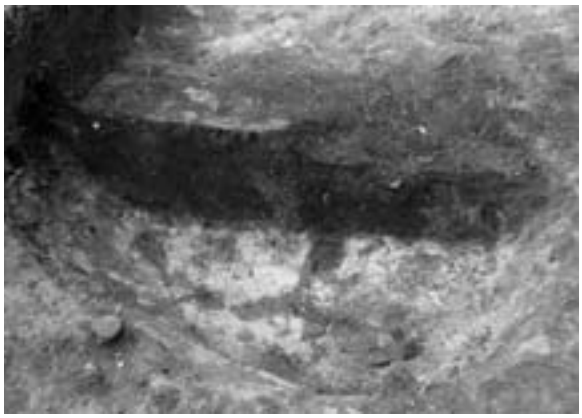


土坑 53　全景（北東から）

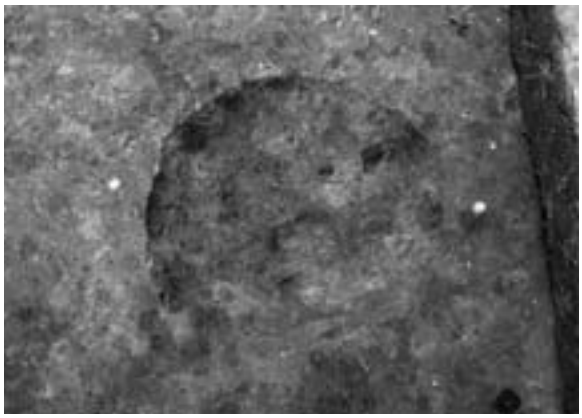
土坑 53　断面（東から）



土坑 54　全景（南から）

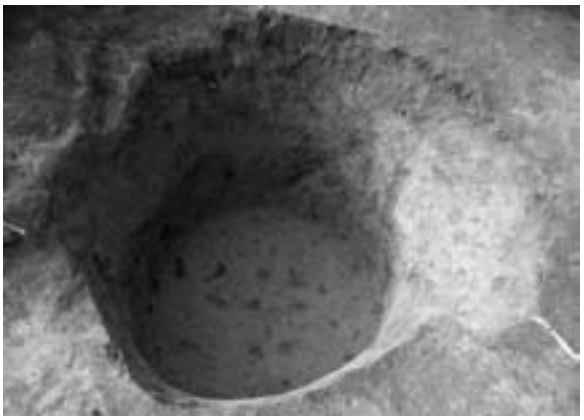


土坑 54　断面（西から）



土坑 55　全景（西から）

土坑 55　断面（西から）



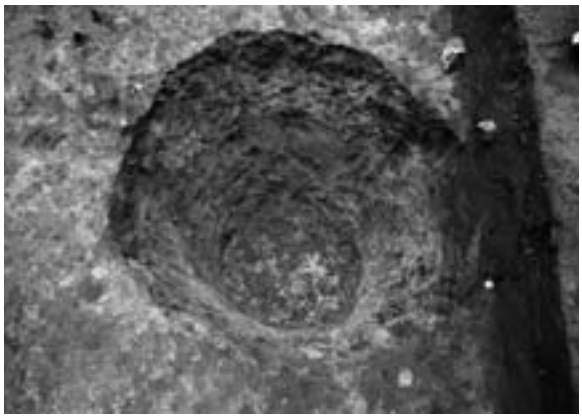
土坑 57　全景（南から）

作業風景

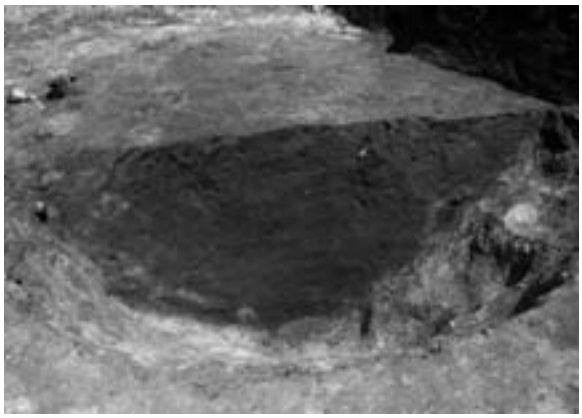
写真図版 90　土坑 53～55・57

土坑 56　全景（西から）

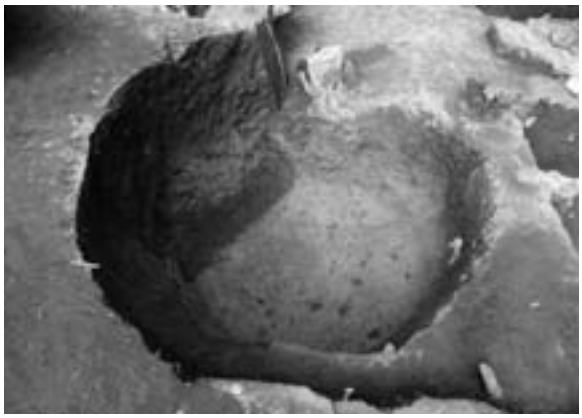
土坑 56　断面（西から）



土坑 58　全景（南東から）



土坑 58　断面（南から）



土坑 59　全景（西から）

土坑 59　断面（東から）

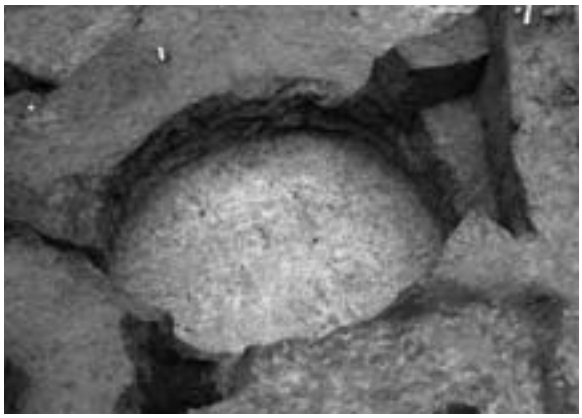
土坑 60　全景（西から）

土坑 60　断面（西から）

写真図版 91　土坑 56・58～60

土坑 61　全景（南から）

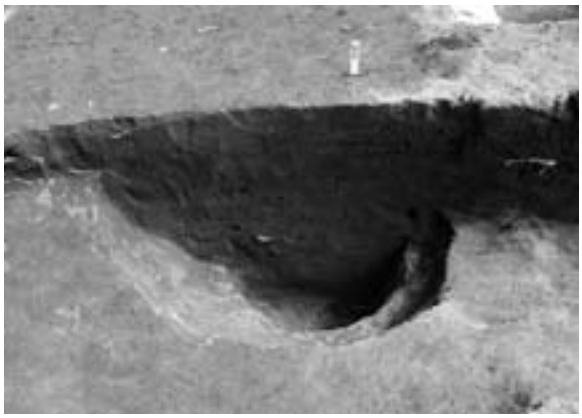
土坑 61　断面（東から）



土坑 62　全景（北から）

土坑 62　断面（北から）

土坑 63　全景（南から）



土坑 63　断面（北から）

土坑 64　全景（南西から）

土坑 64　断面（南から）

写真図版 92　土坑 61～64

土坑 65　全景（東から）

土坑 65　断面（北から）

土坑 66　全景（南東から）

土坑 66　断面（南東から）

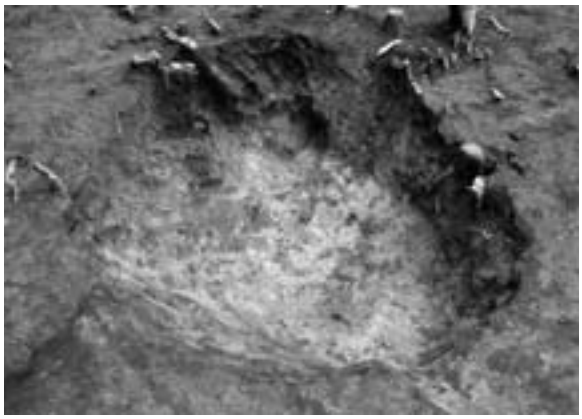
土坑 67　全景（南東から）

土坑 67　断面（西から）

土坑 69　全景（東から）

土坑 69　断面（南西から）

写真図版 93　土坑 65～67・69



土坑 68　全景（西から）

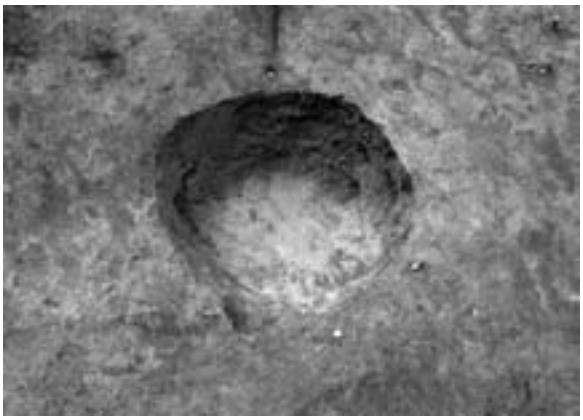
土坑 73・74　断面（南から）

土坑 70　全景（東から）

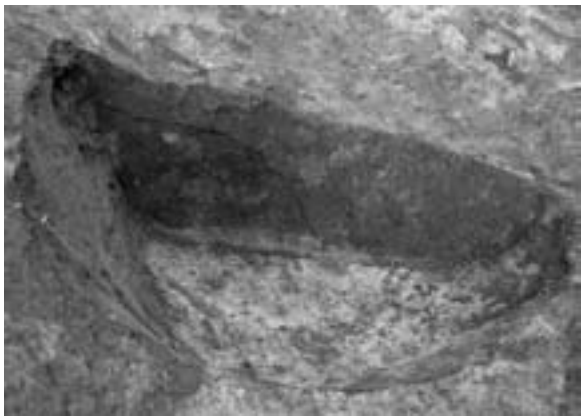
土坑 70　断面（東から）

土坑 71　全景（南東から）

土坑 71　断面（東から）



土坑 72　全景（南から）



土坑 72　断面（西から）

写真図版 94　土坑 68・70～74

溝状陥し穴１　全景（南から）

溝状陥し穴１　断面（南から）

溝状陥し穴２　全景（南から）

溝状陥し穴２　断面（南から）

溝状陥し穴３　全景（南東から）

溝状陥し穴３　断面（南から）

写真図版 95　溝状陥し穴 1～3

溝状陥し穴 4　全景（西から）

溝状陥し穴 4　断面（南西から）

溝状陥し穴 5　全景（南から）

溝状陥し穴 5　断面（南から）

溝状陥し穴 6　全景（西から）

溝状陥し穴 6　断面（東から）

写真図版 96　溝状陥し穴 4〜6

溝状陥し穴７　全景（東から）

溝状陥し穴７　断面（西から）

溝状陥し穴８　全景（南から）

溝状陥し穴８　断面（南から）

溝状陥し穴９　全景（南から）

溝状陥し穴９　断面（東から）

写真図版 97　溝状陥し穴 7～9

溝状陥し穴 10　全景（南から）

溝状陥し穴 10　断面（南から）

溝状陥し穴 11　全景（東から）

溝状陥し穴 11　断面（東から）

溝状陥し穴 12　全景（北から）

溝状陥し穴 12　断面（南から）

写真図版 98　溝状陥し穴 10～12

溝状陥し穴 13　全景（南から）

溝状陥し穴 13　断面（南から）

溝状陥し穴 14　全景（南西から）

溝状陥し穴 14　断面（南西から）

溝状陥し穴 15　全景（北から）

溝状陥し穴 15　断面（西から）

写真図版 99　溝状陥し穴 13〜15

溝状陥し穴 16　全景（南から）

溝状陥し穴 16　断面（南から）

溝状陥し穴 17　全景（南から）

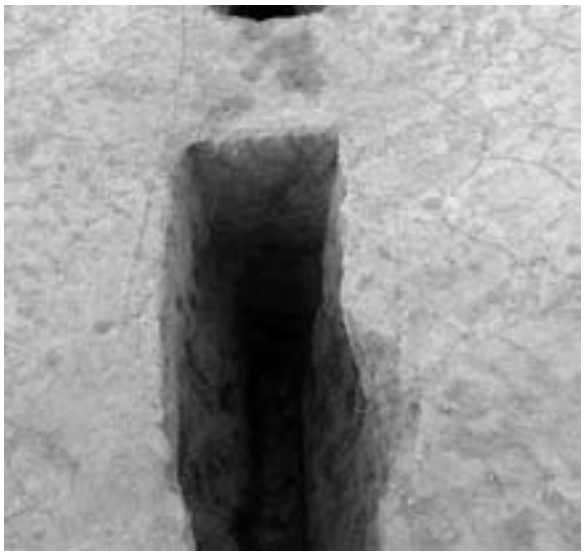
溝状陥し穴 17　断面（南から）

溝状陥し穴 18　全景（南から）

溝状陥し穴 18　断面（南西から）

写真図版 100　溝状陥し穴 16～18

溝状陥し穴 19　全景（北から）



溝状陥し穴 19　断面（南から）

溝状陥し穴 20　全景（西から）

溝状陥し穴 20　断面（西から）

溝状陥し穴 21　全景（南東から）

溝状陥し穴 21　断面（東から）

写真図版 101　溝状陥し穴 19～21

溝状陥し穴 22　全景（北東から）

溝状陥し穴 22　断面（西から）

溝状陥し穴 23　全景（南から）

溝状陥し穴 23　断面（南から）

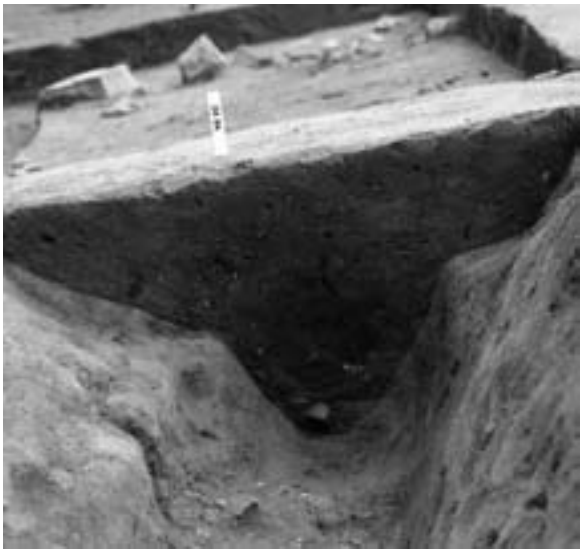
溝状陥し穴 24　全景（西から）

溝状陥し穴 24　断面（東から）

写真図版 102　溝状陥し穴 22～24

溝状陥し穴 25　全景（西から）

溝状陥し穴 25　断面（南西から）



溝状陥し穴 26　全景（東から）

溝状陥し穴 26　断面（東から）

溝状陥し穴 27　全景（東から）

溝状陥し穴 27　断面（東から）

写真図版 103　溝状陥し穴 25～27

溝状陥し穴 28　全景（西から）

溝状陥し穴 28　断面（東から）

溝状陥し穴 29　全景（西から）

現地説明会風景

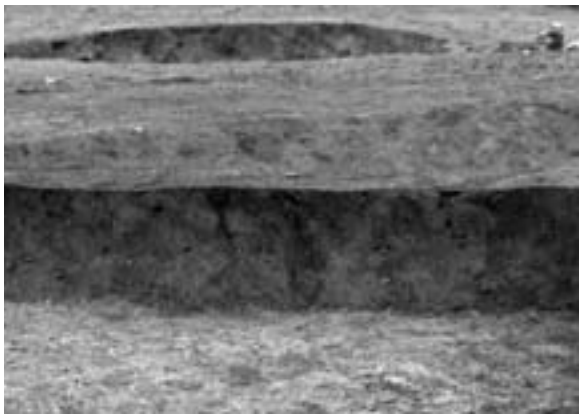
協議の様子

現地説明会風景

写真図版 104　溝状陥し穴 28・29

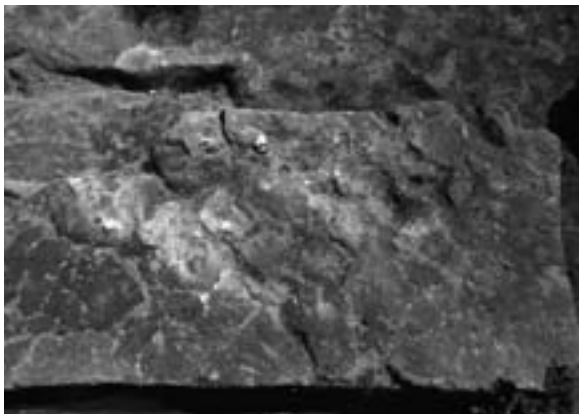
焼土遺構 1　全景（東から）

焼土遺構 1　断面（東から）



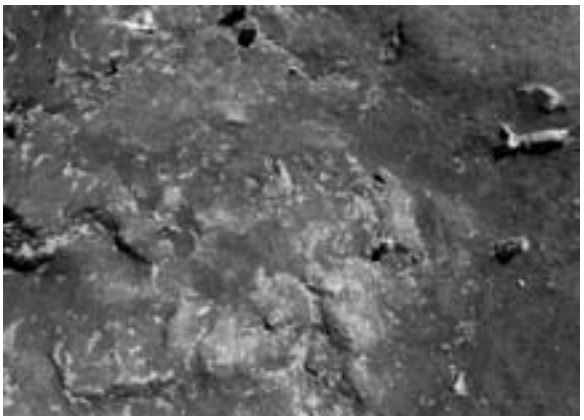
焼土遺構 2　断面（東から）

現地説明会風景

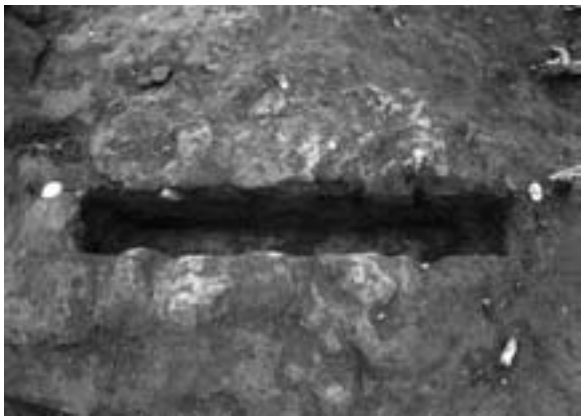


焼土遺構 3　全景（西から）

焼土遺構 3　断面（東から）

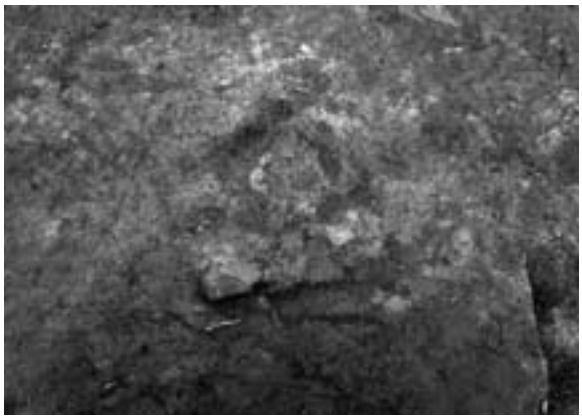


焼土遺構 4　全景（西から）

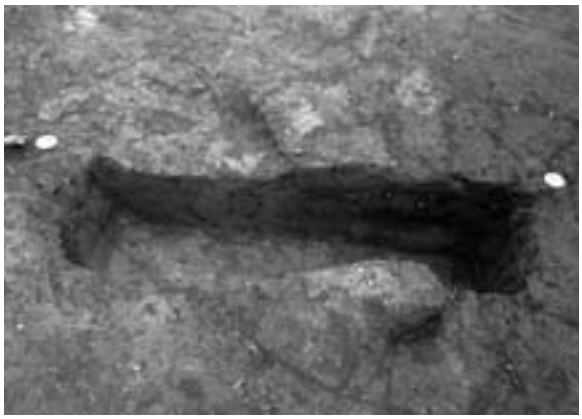


焼土遺構 4　断面（西から）

写真図版 105　焼土遺構 1～4



焼土遺構 5　全景（南から）



焼土遺構 5　断面（西から）

焼土遺構 6　全景（東から）

焼土遺構 6　断面（南から）

焼土遺構 7　断面（南から）

焼土遺構 8　断面（南東から）

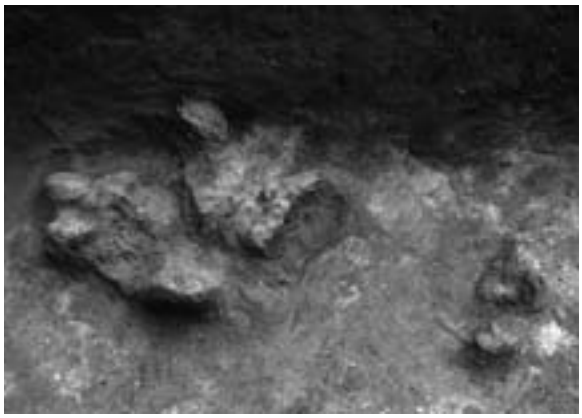
焼土遺構 9　断面（北東から）

作業風景

写真図版 106　焼土遺構 5～9

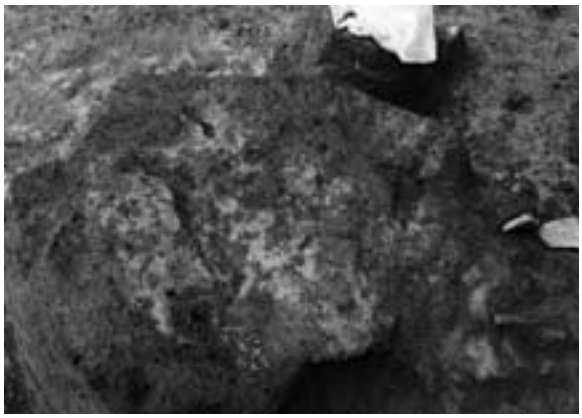
焼土遺構 10　全景（西から）

焼土遺構 10　断面（北から）



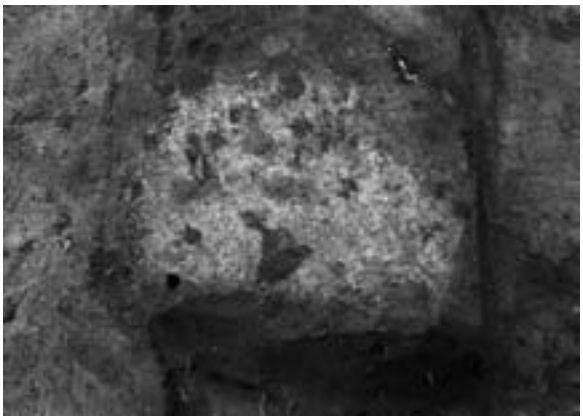
焼土遺構 11　断面（東から）

焼土遺構 11　断面（東から）

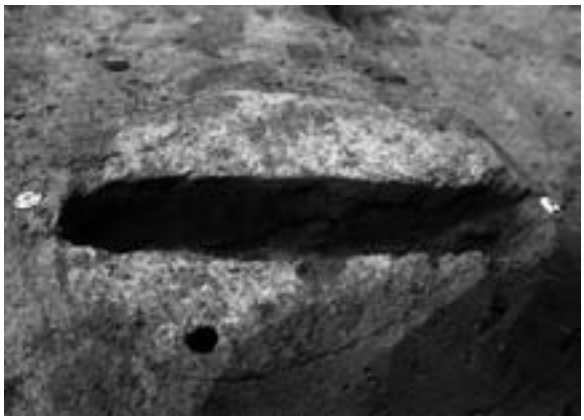


焼土遺構 12　全景（南から）

焼土遺構 12　断面（北から）



焼土遺構 13　全景（南から）



焼土遺構 13　断面（南から）

写真図版 107　焼土遺構 10～13

焼土遺構 14　断面（西から）

焼土遺構 15　断面（北から）

焼土遺構 16　断面（南から）

焼土遺構 17　全景（南から）

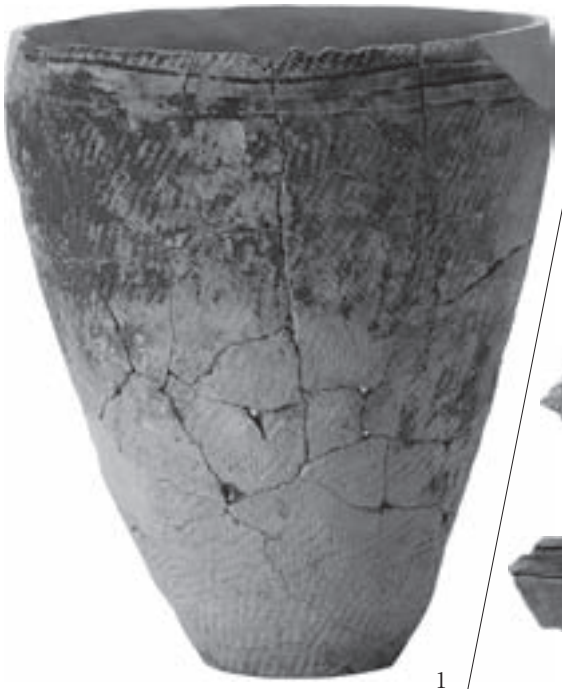
焼土遺構 18　全景

焼土遺構 18　断面（南西から）

作業風景

作業風景

写真図版 108　焼土遺構 14～18


1

2

3

4

住居跡 1

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

22

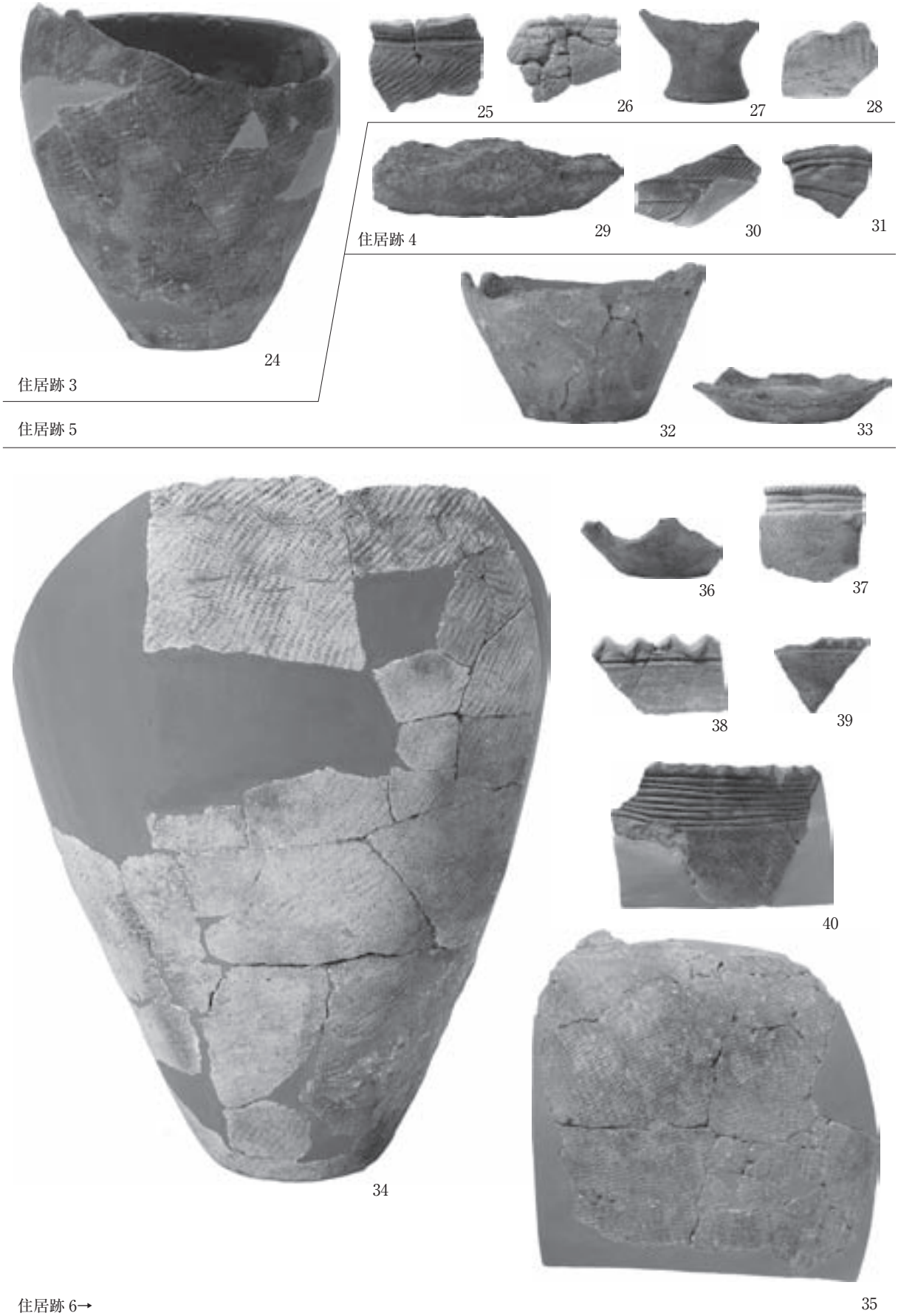
20

21

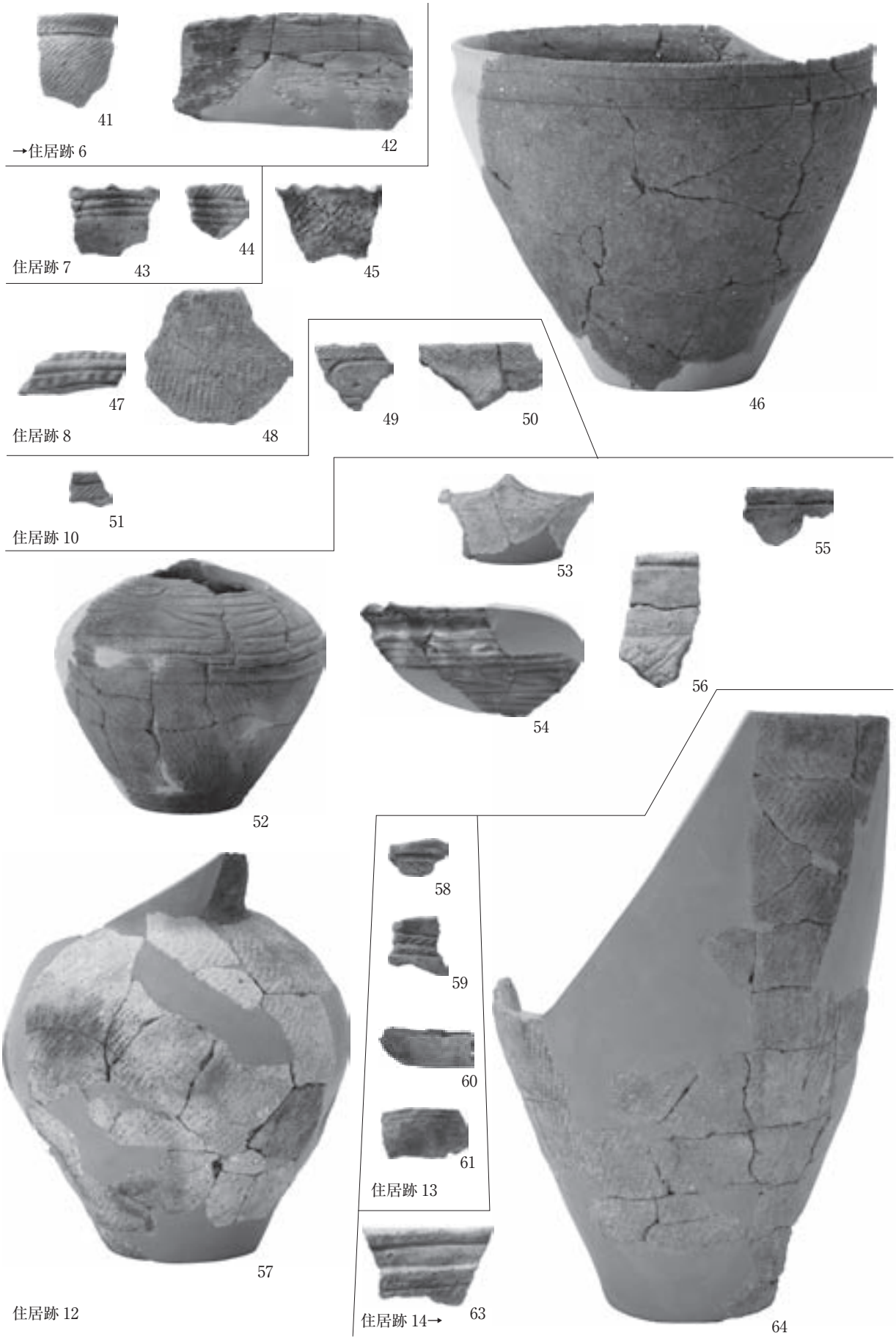
23

住居跡 2→

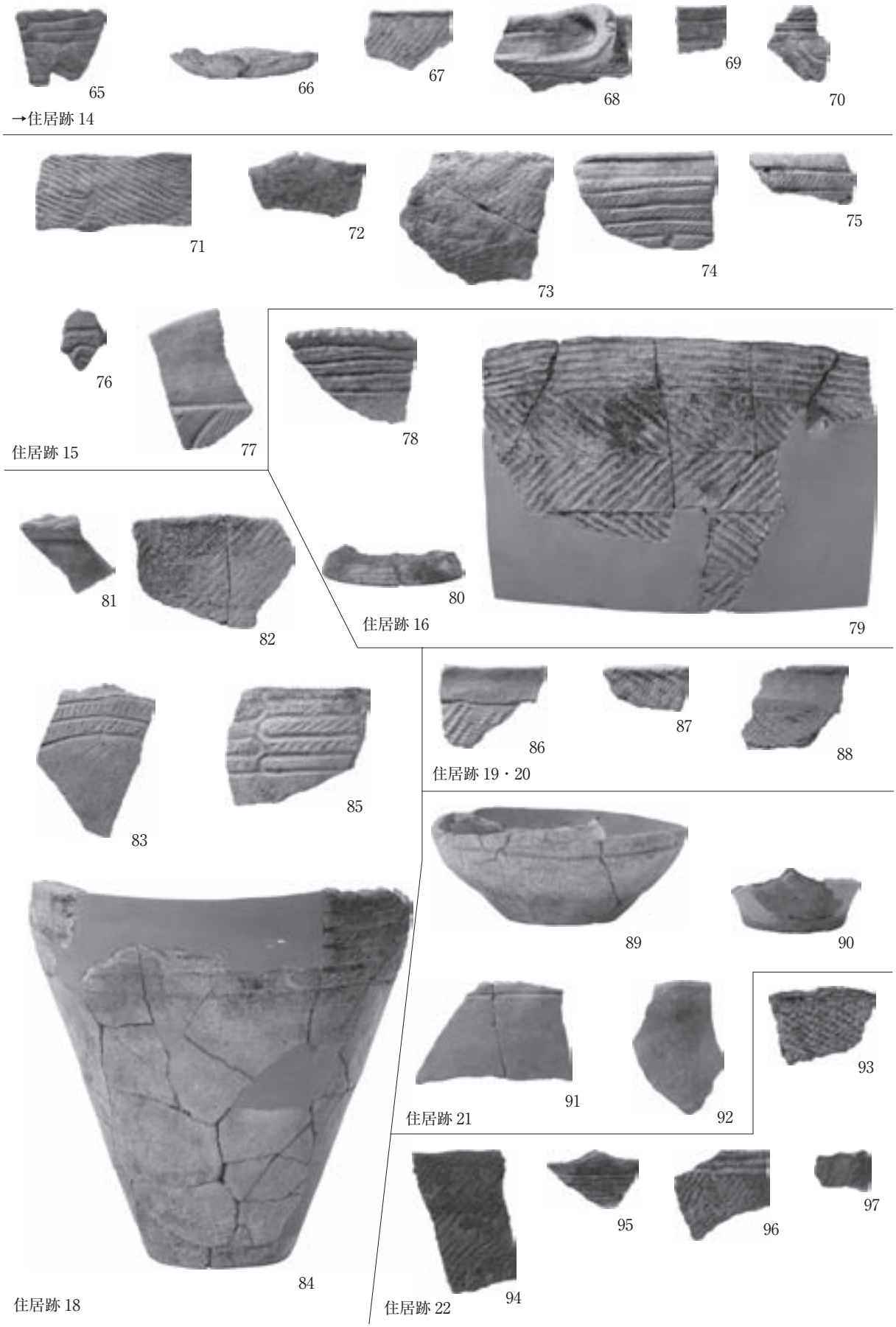
写真図版 109　遺構内出土土器（1）



写真図版 110　遺構内出土土器（2）



写真図版 111　遺構内出土土器（3）



写真図版 112　遺構内出土土器（4）

住居跡 24

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

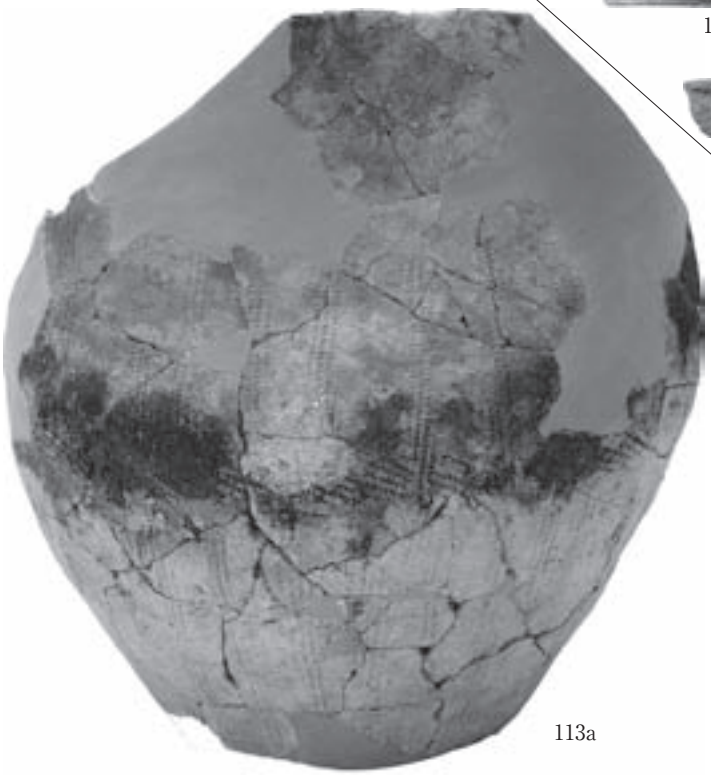
108

109

110

111

112



113a

住居跡 26

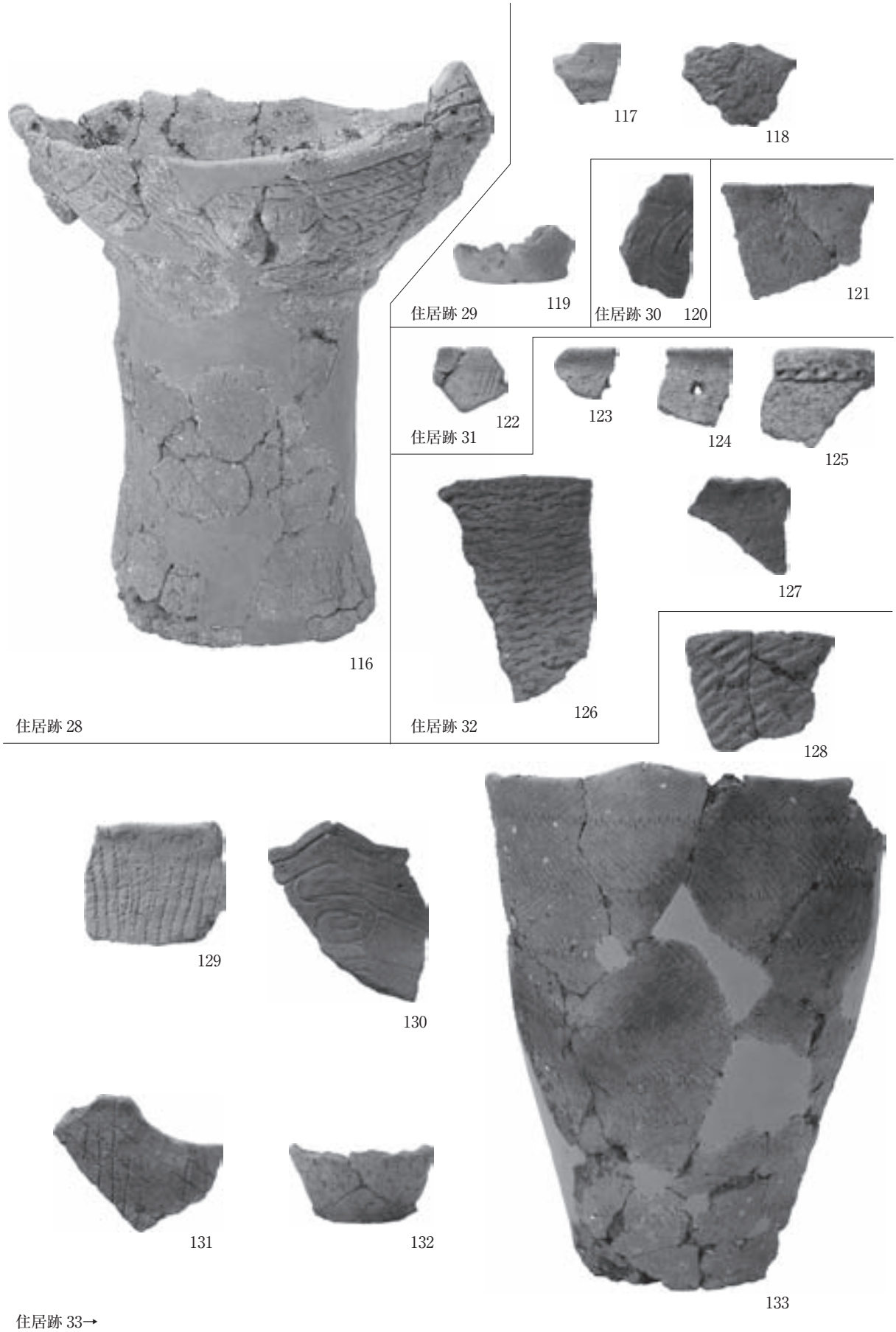
113b

114

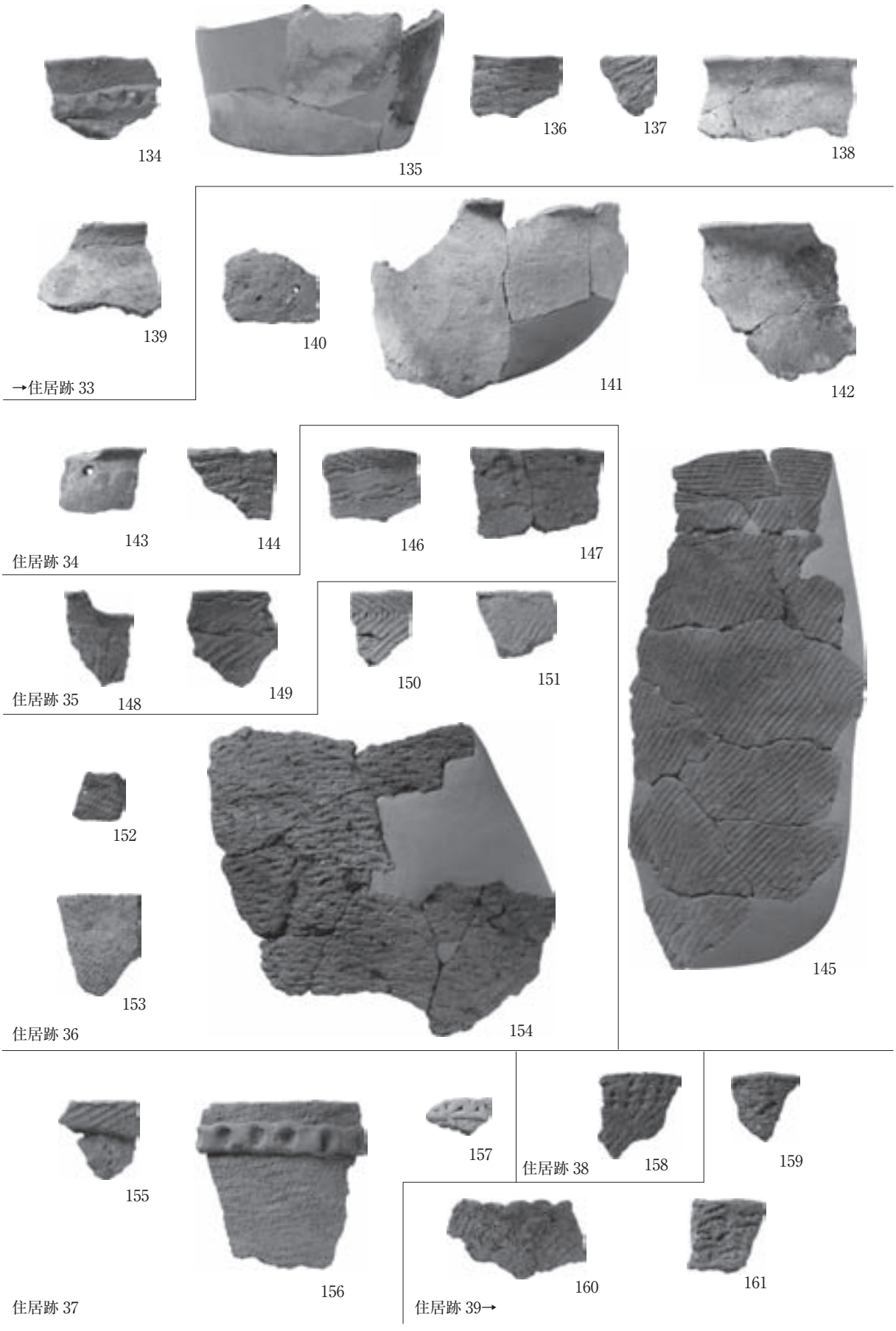
115

住居跡 27

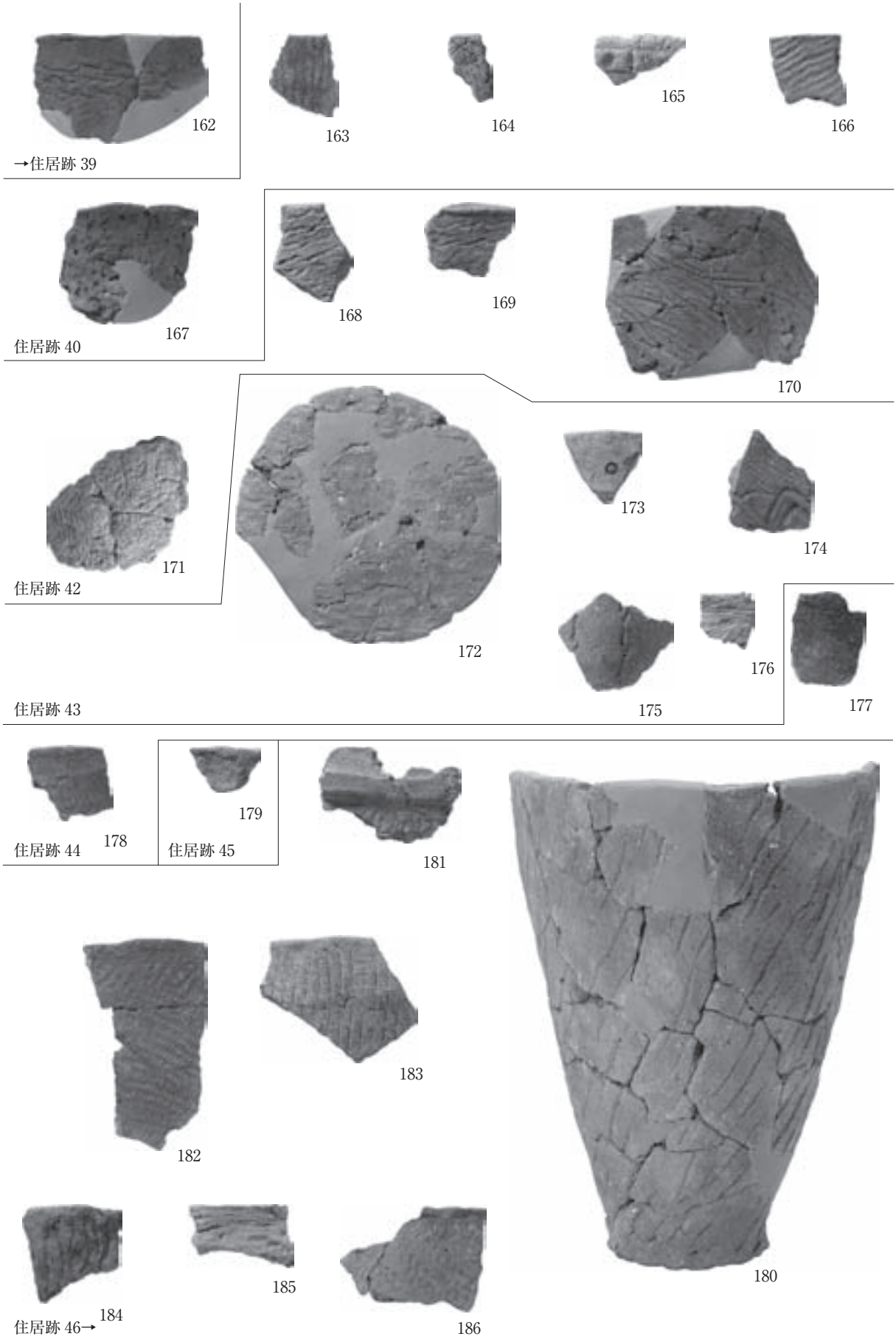
写真図版 113　遺構内出土土器（5）



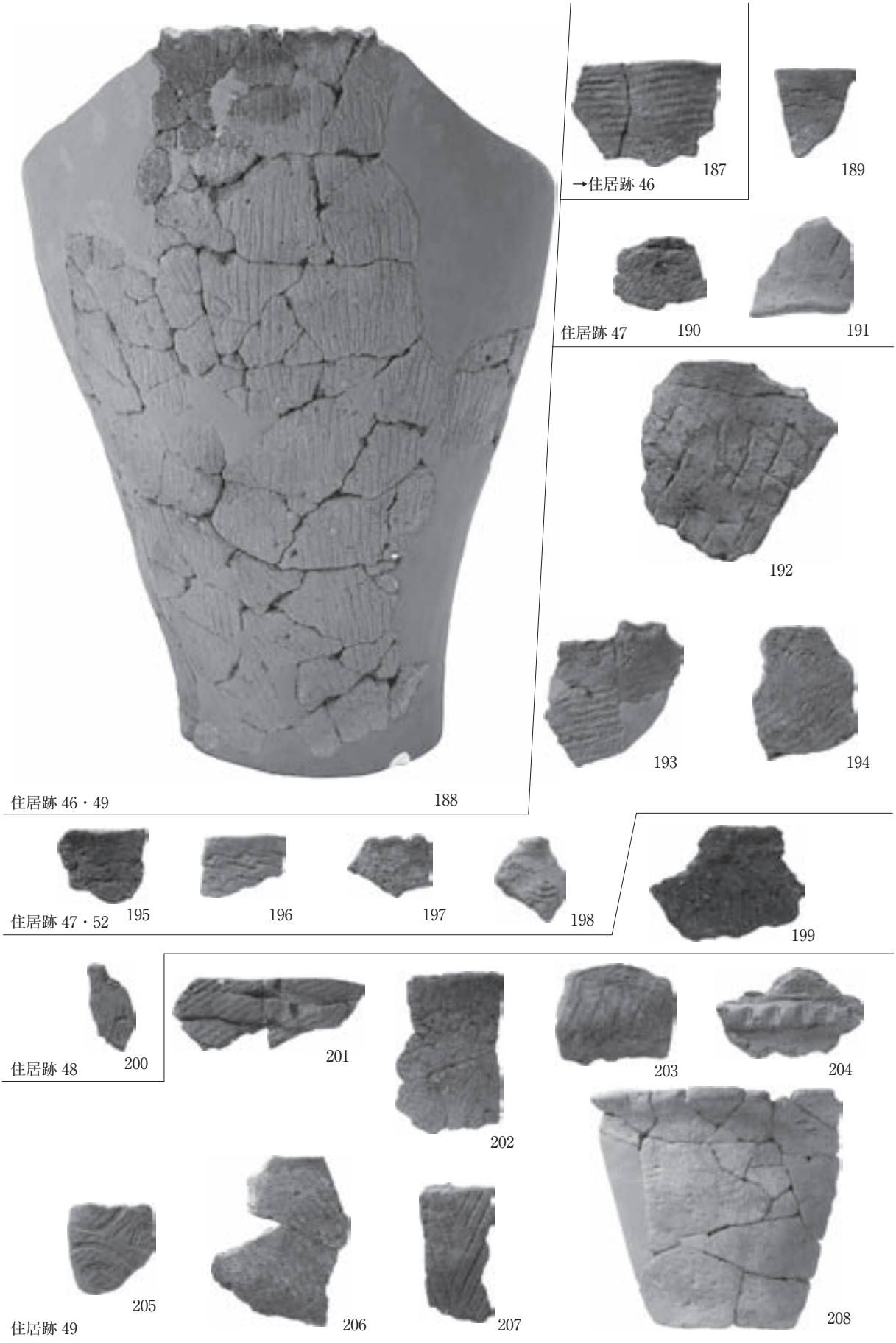
写真図版 114　遺構内出土土器（6）



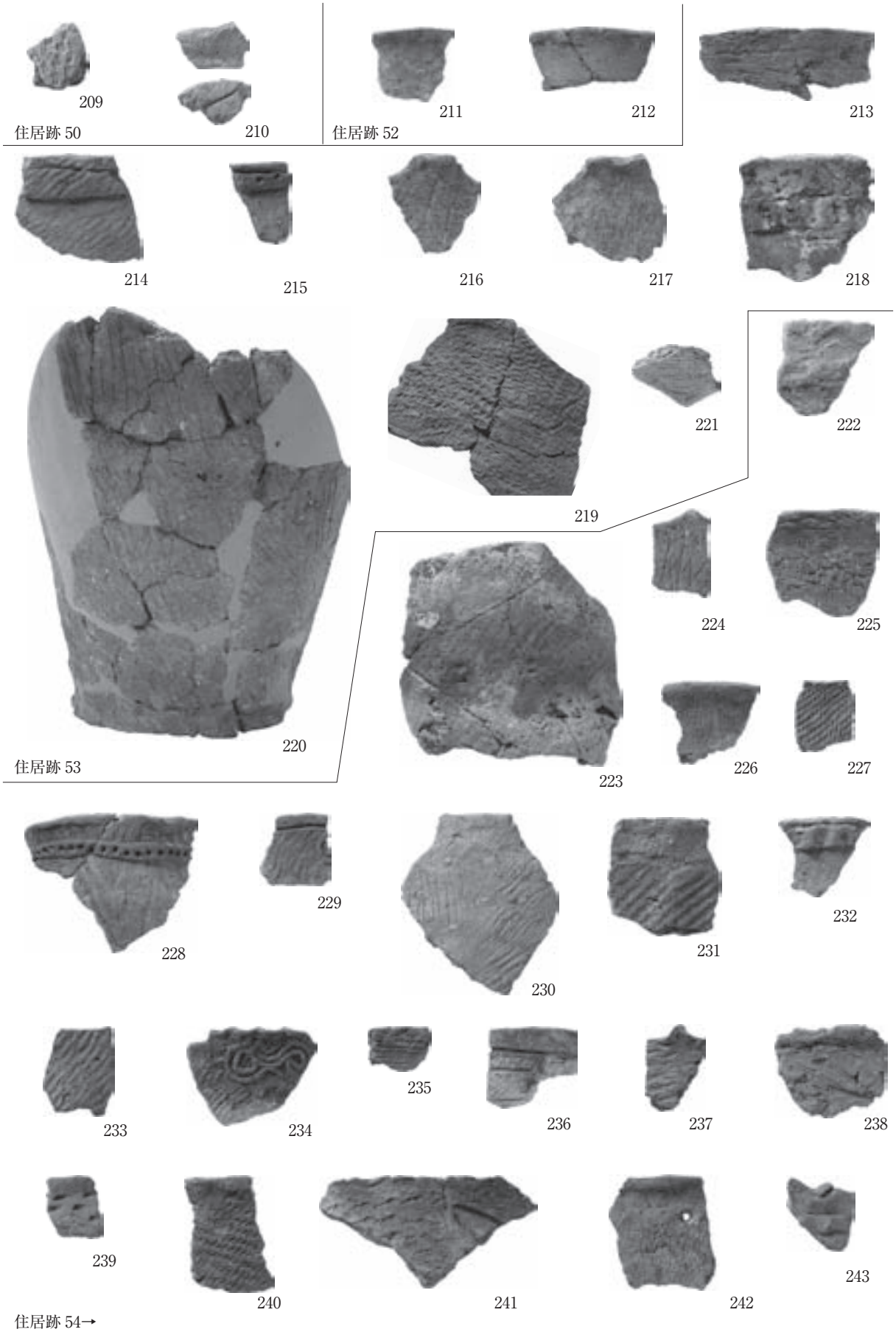
写真図版 115　遺構内出土土器（7）



写真図版 116　遺構内出土土器（8）

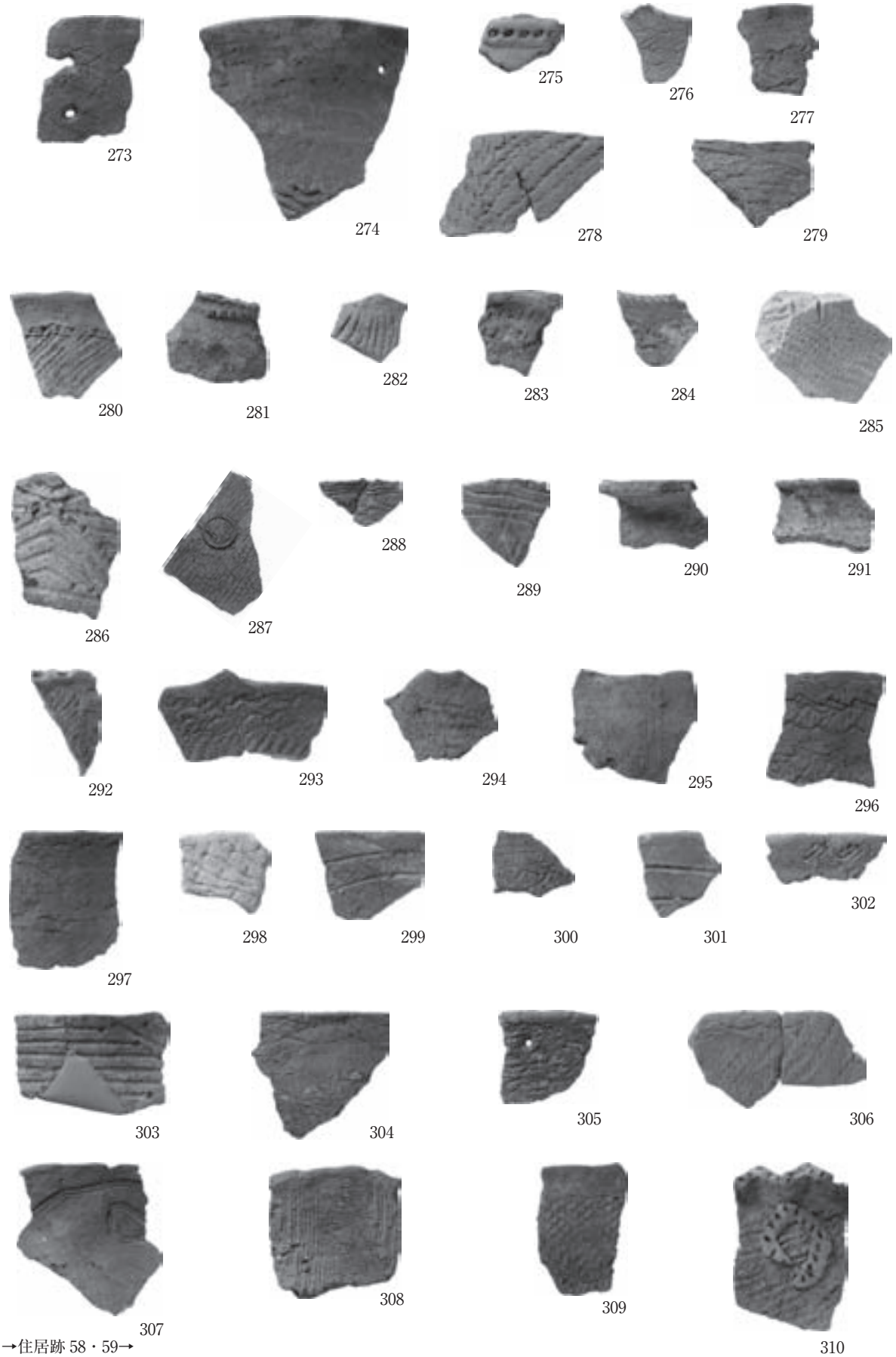


写真図版 117　遺構内出土土器（9）



写真図版 118　遺構内出土土器（10）

写真図版 119　遺構内出土土器（11）



写真図版 120　遺構内出土土器（12）

311

312

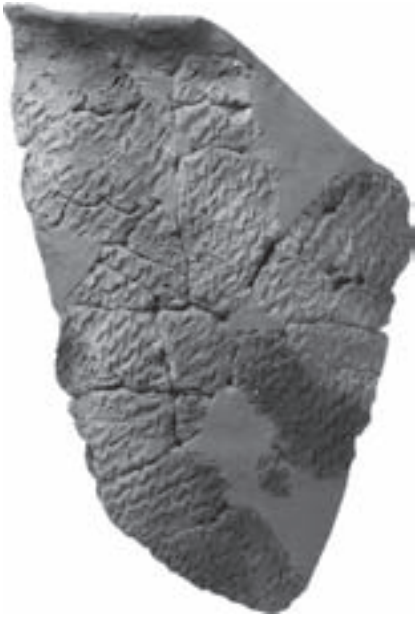
313

316

314

315

317



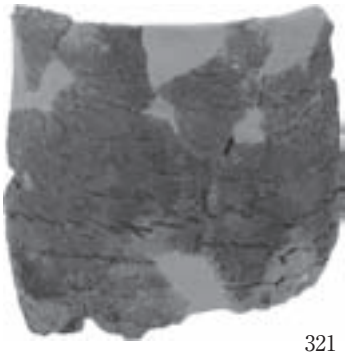
318

319

→住居跡 58・59→

写真図版 121　遺構内出土土器（13）

320



321

322

323

324

325

326

327

328

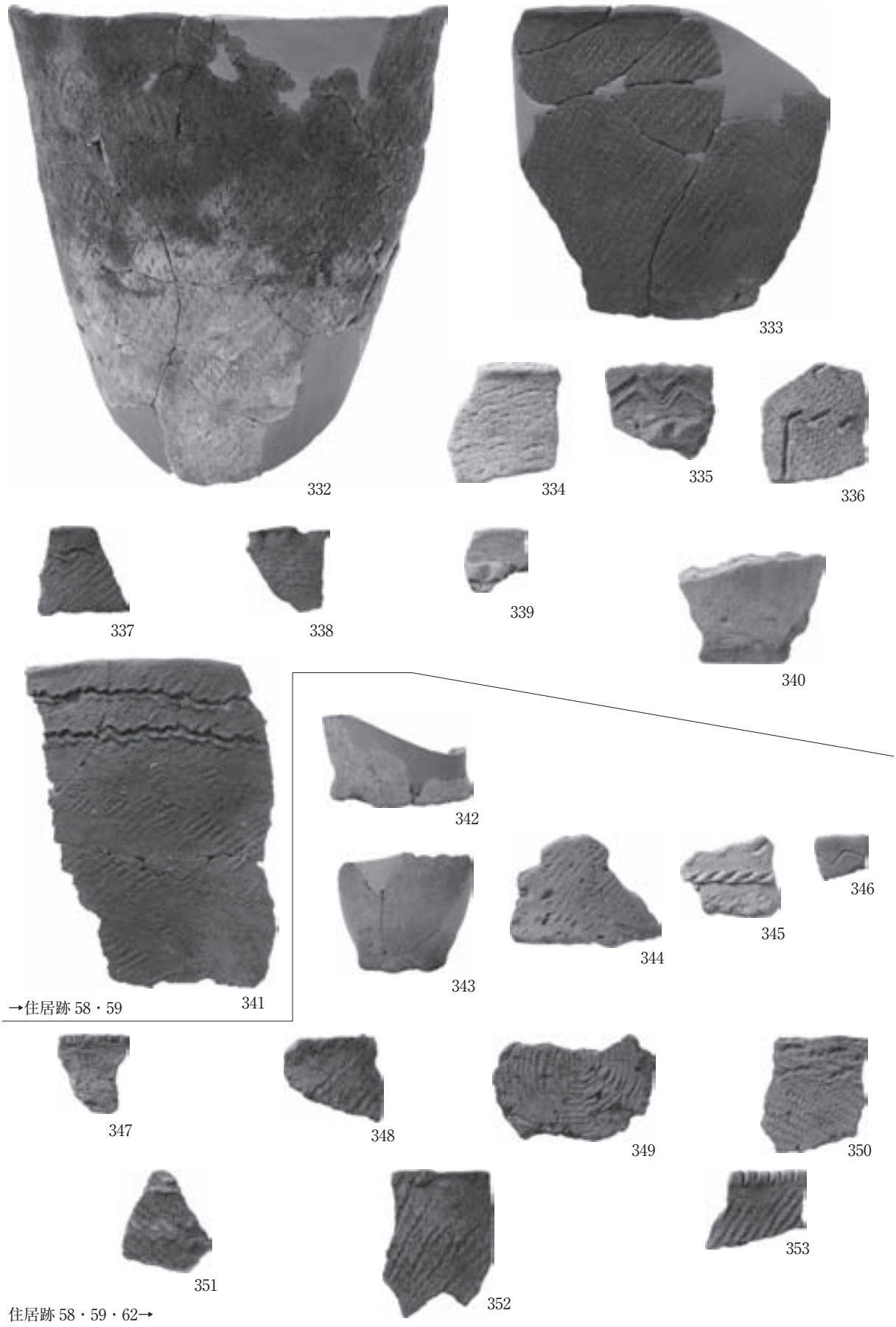
329

330

331

→住居跡 58・59→

写真図版 122　遺構内出土土器（14）



写真図版 123　遺構内出土土器（15）

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

364

365

366

→住居跡 58・59・62

367

368

369

370

371

372

373

374

375

376

377

378

住居跡 60

住居跡 60・66→

写真図版 124　遺構内出土土器（16）

379

380

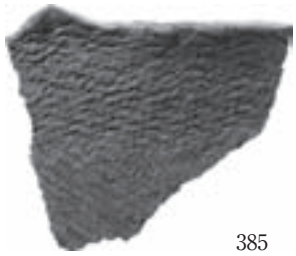
381

382

383

→住居跡 60・66

384

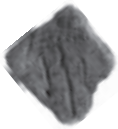

385

386

387

住居跡 62

388

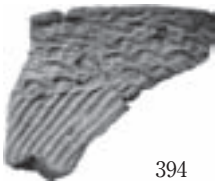

389

390

391

392

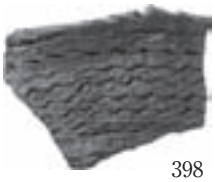
393


394

395

396

397


398

399

400

401

402

403

404

405

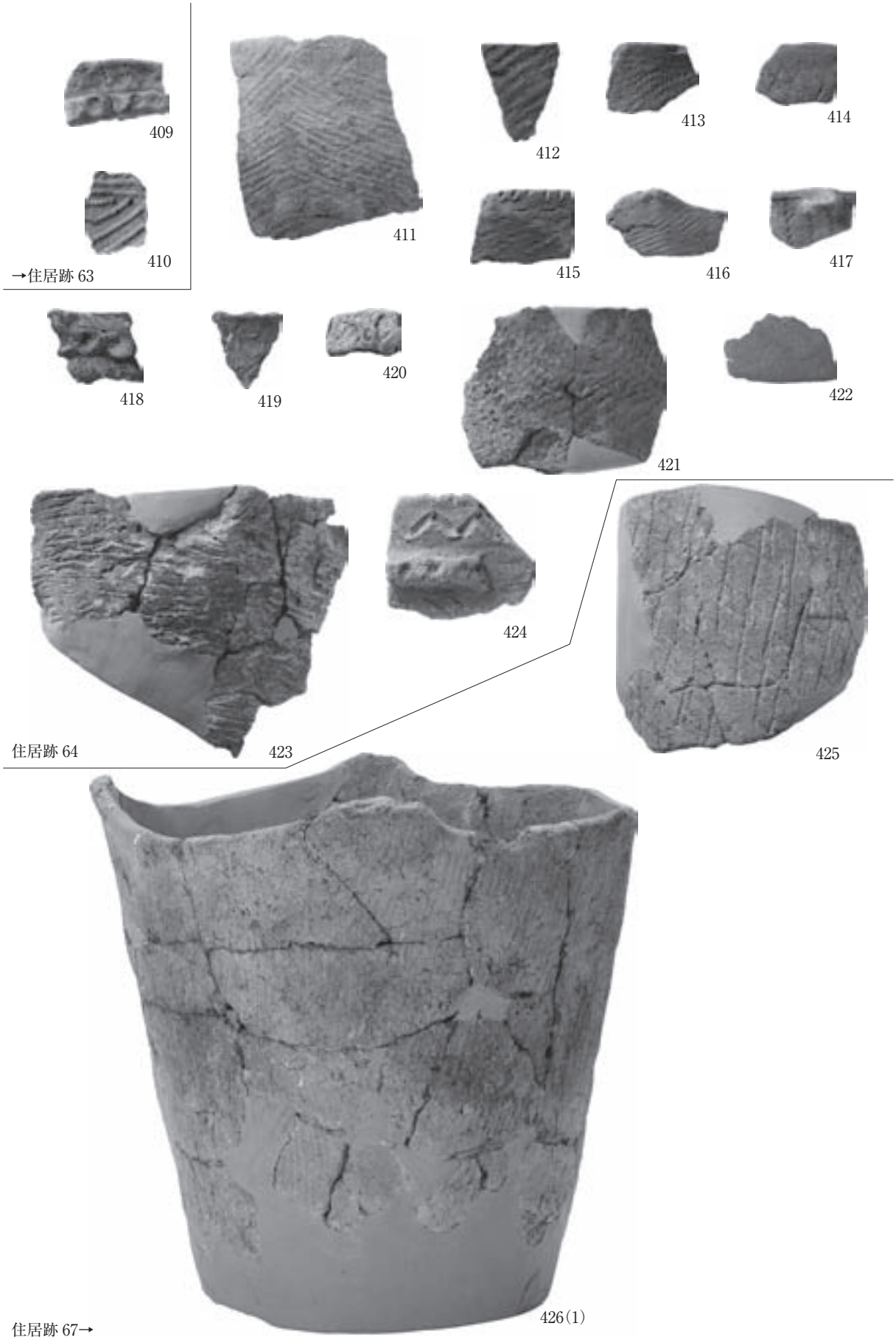
406

407

408

住居跡 63→

写真図版 125　遺構内出土土器（17）



写真図版 126　遺構内出土土器（18）

426(2)

428

427

→住居跡 67

429

430

431

432

433

434

435

436

住居跡 67～70→

写真図版 127　遺構内出土土器（19）

437

→住居跡 67～70

438

439

440

441

住居跡 68→

写真図版 128　遺構内出土土器（20）

442

→住居跡 68

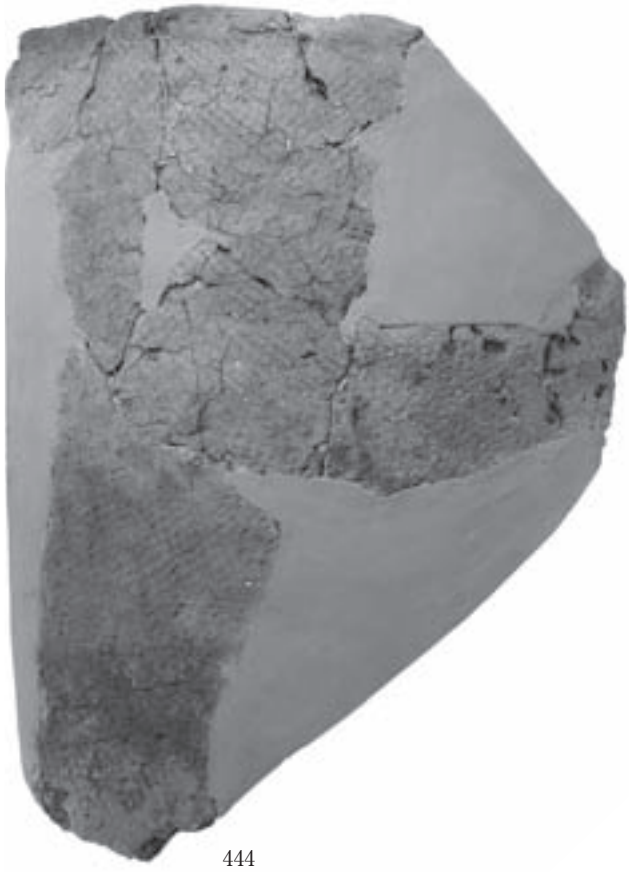
443

445

446

447

住居跡 70



444

住居跡 69

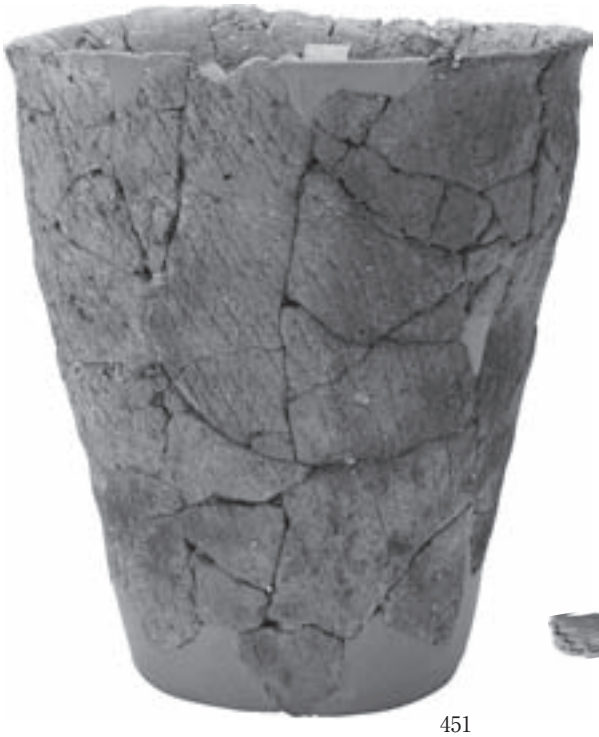
448

住居跡 71→

写真図版 129　遺構内出土土器（21）

449

450



451

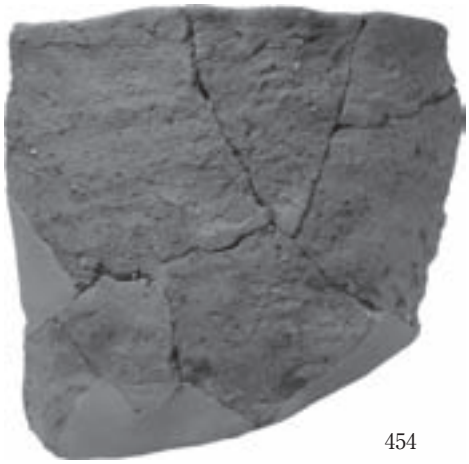
452

453

455

456

457



454

458

459

460

461

→住居跡 71→

写真図版 130　遺構内出土土器（22）

462

463

464

465

466

467

468

469

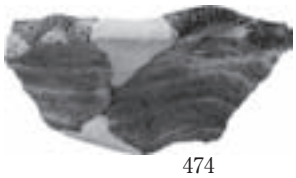
470

→住居跡 71

471

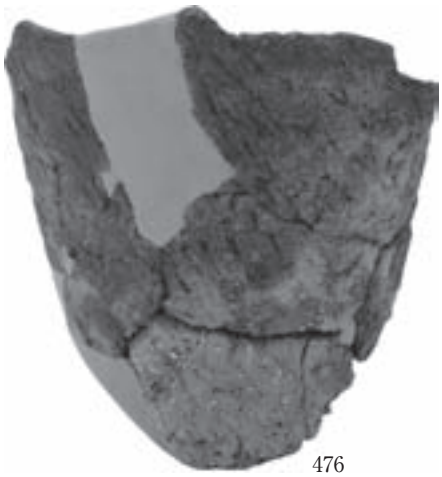
473

472


474

住居跡 71・72

475


476

477

478

479

480

481

482

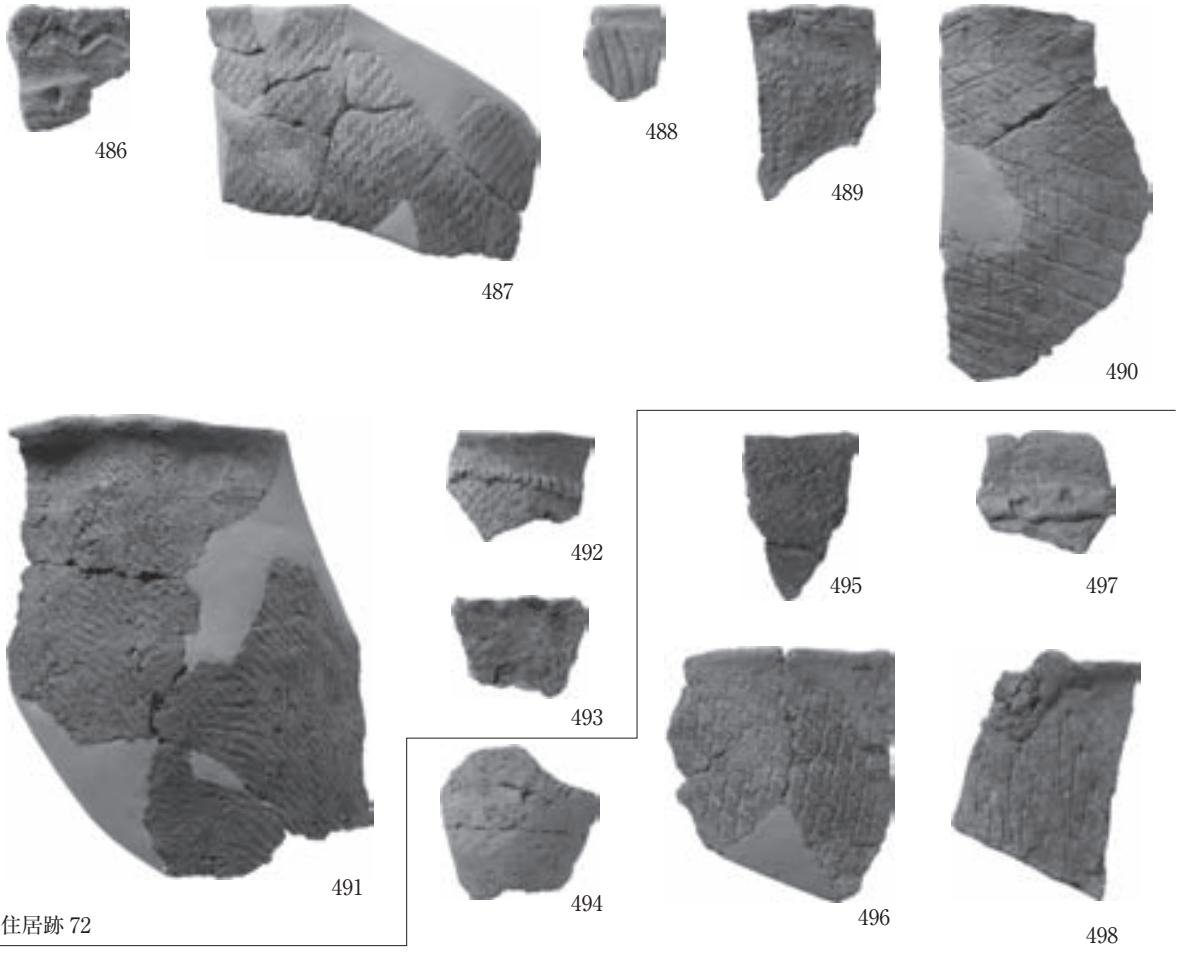
483

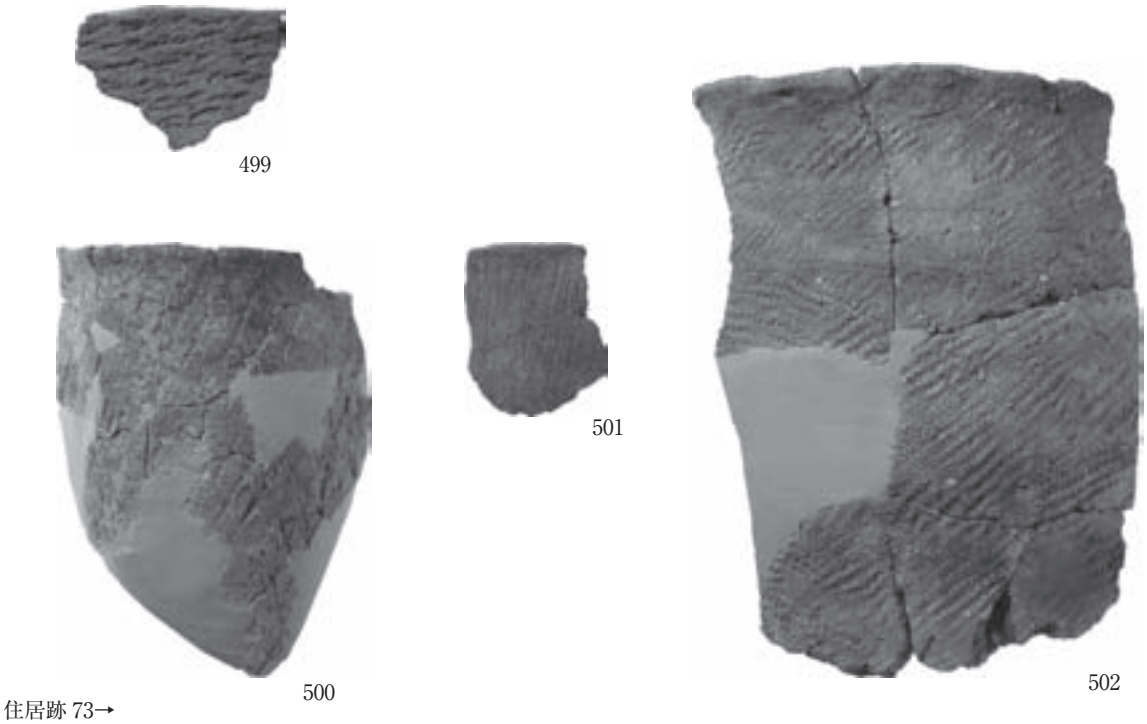
484

485

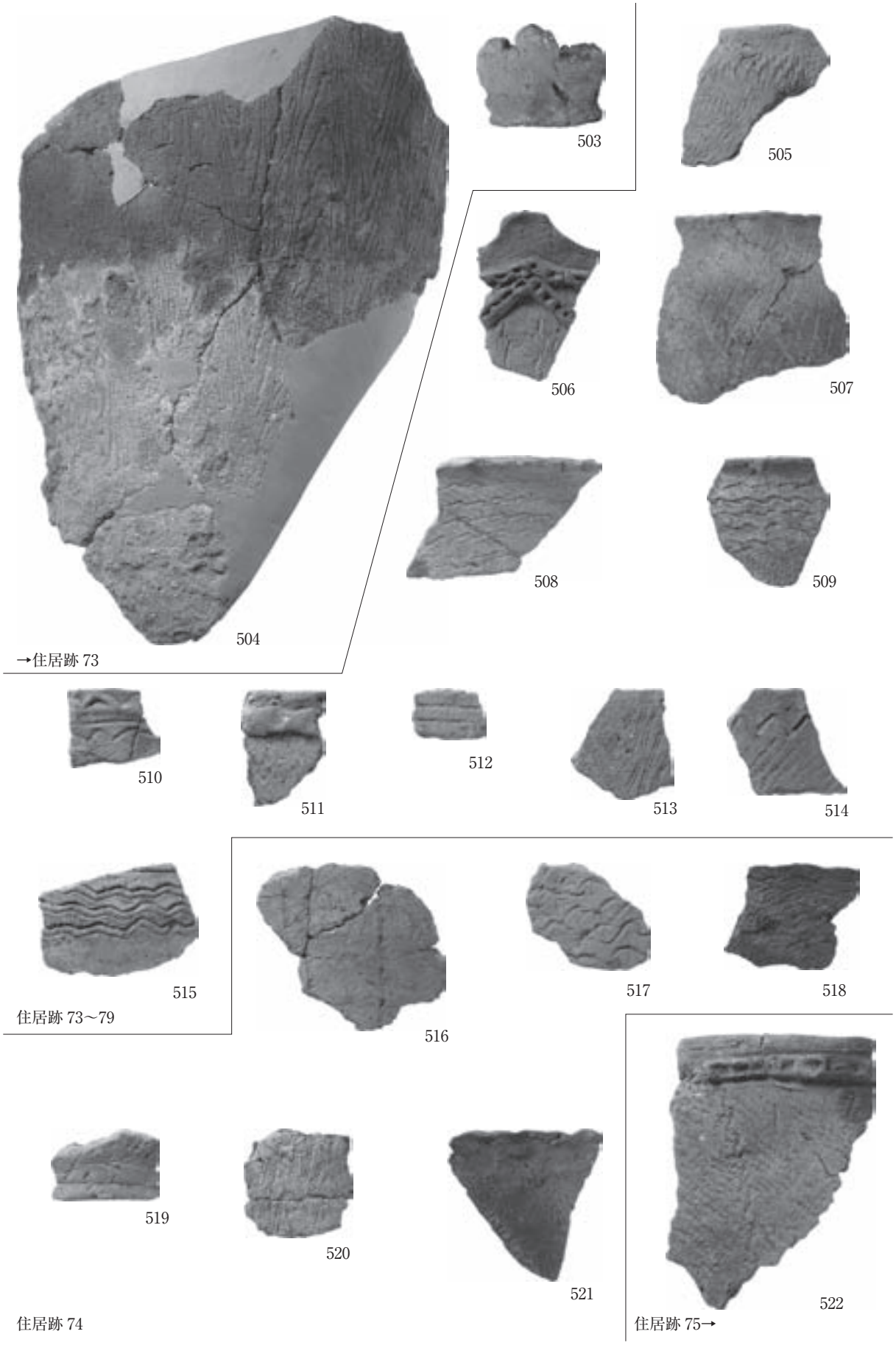
住居跡 72→

写真図版 131　遺構内出土土器（23）

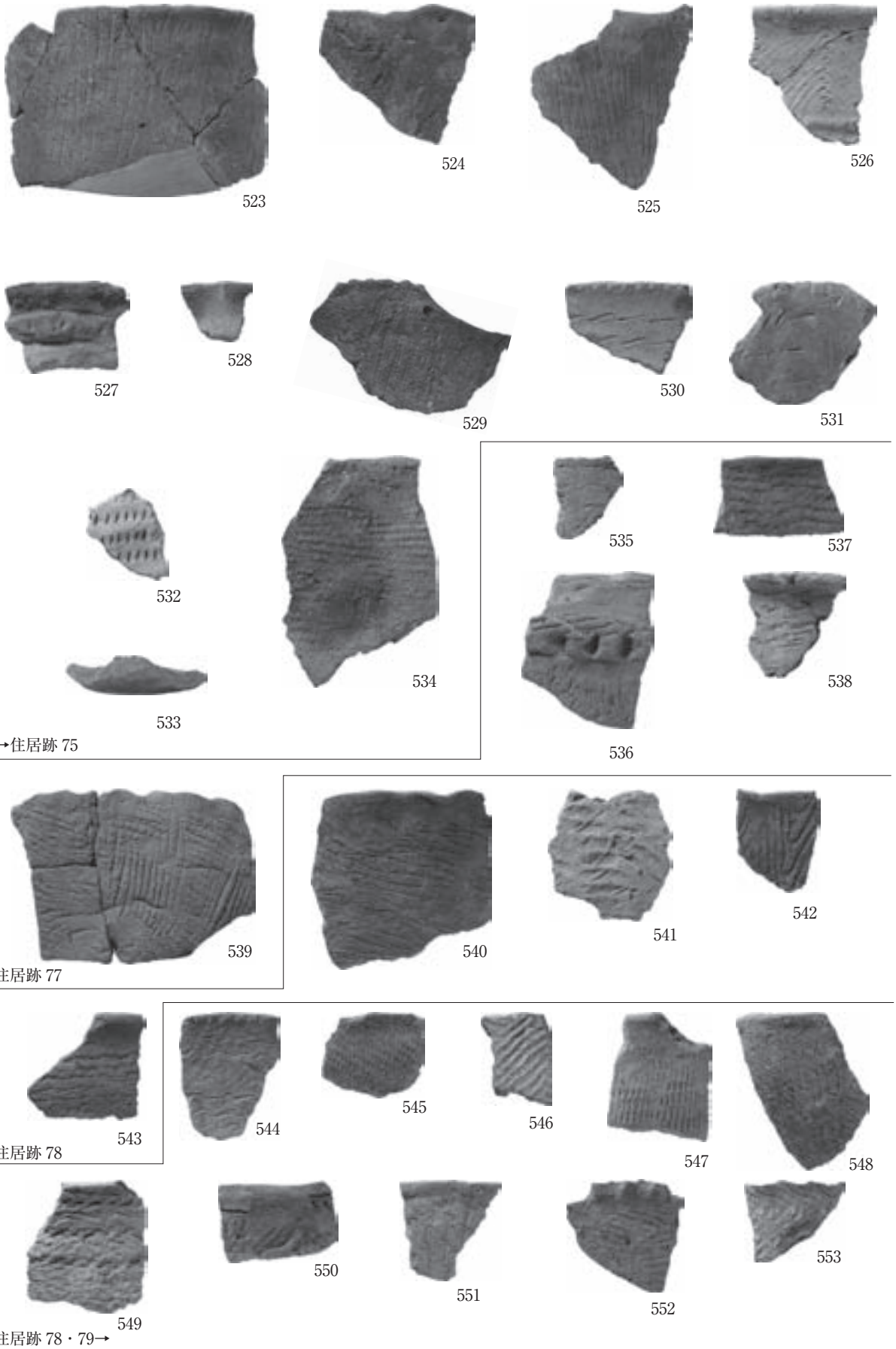




写真図版 132　遺構内出土土器（24）



写真図版 133　遺構内出土土器（25）



写真図版 134　遺構内出土土器（26）

554

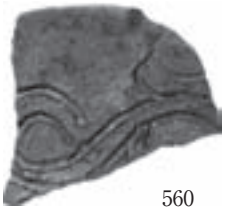
555

556

557

558

559


560

561

562

563

564

565

566

567

→住居跡 78・79

568

569

570

住居跡 79

571

572

573

574

住居跡 80

575

576

577

578

583

579

580

581

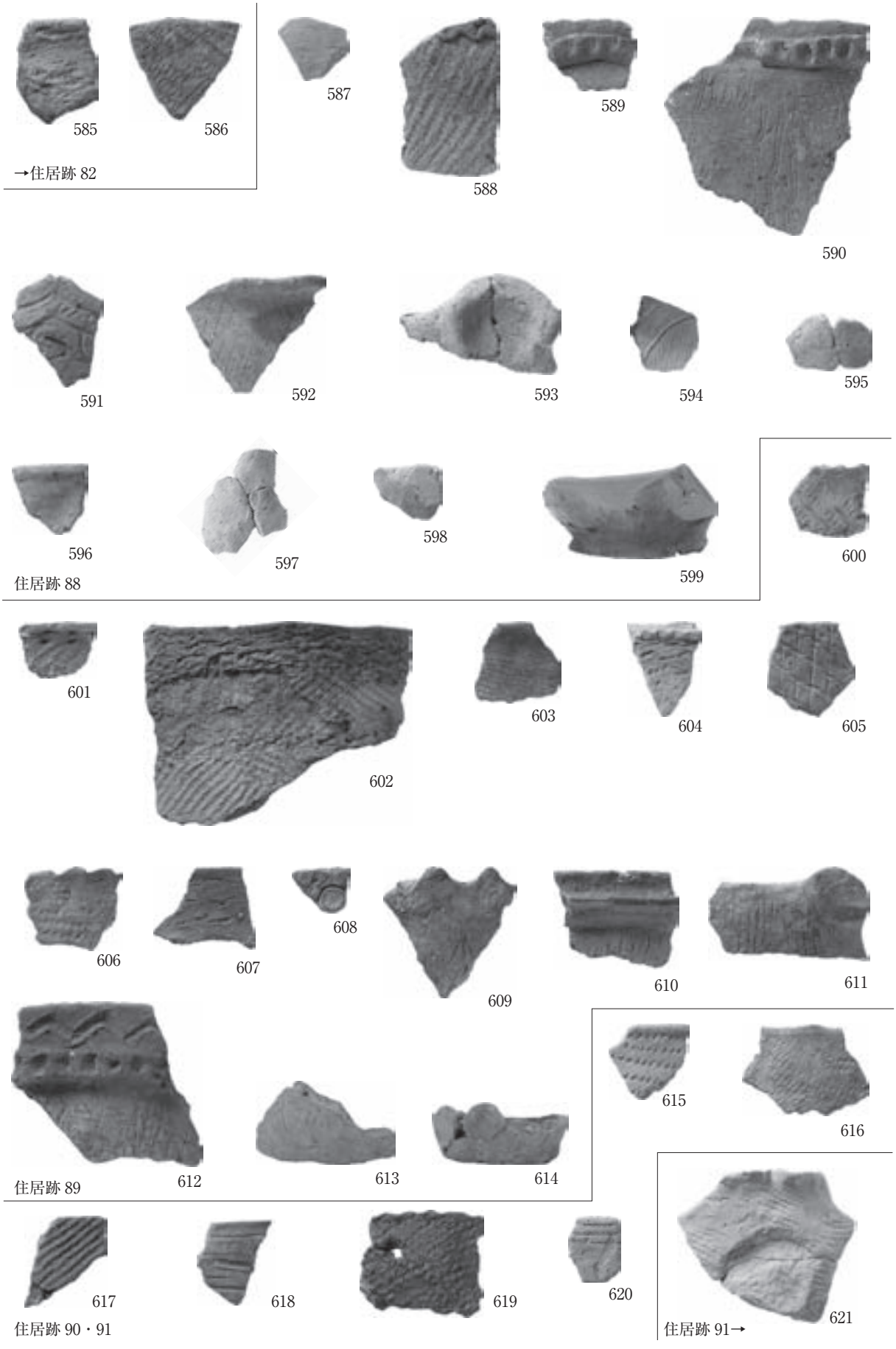
582

住居跡 81

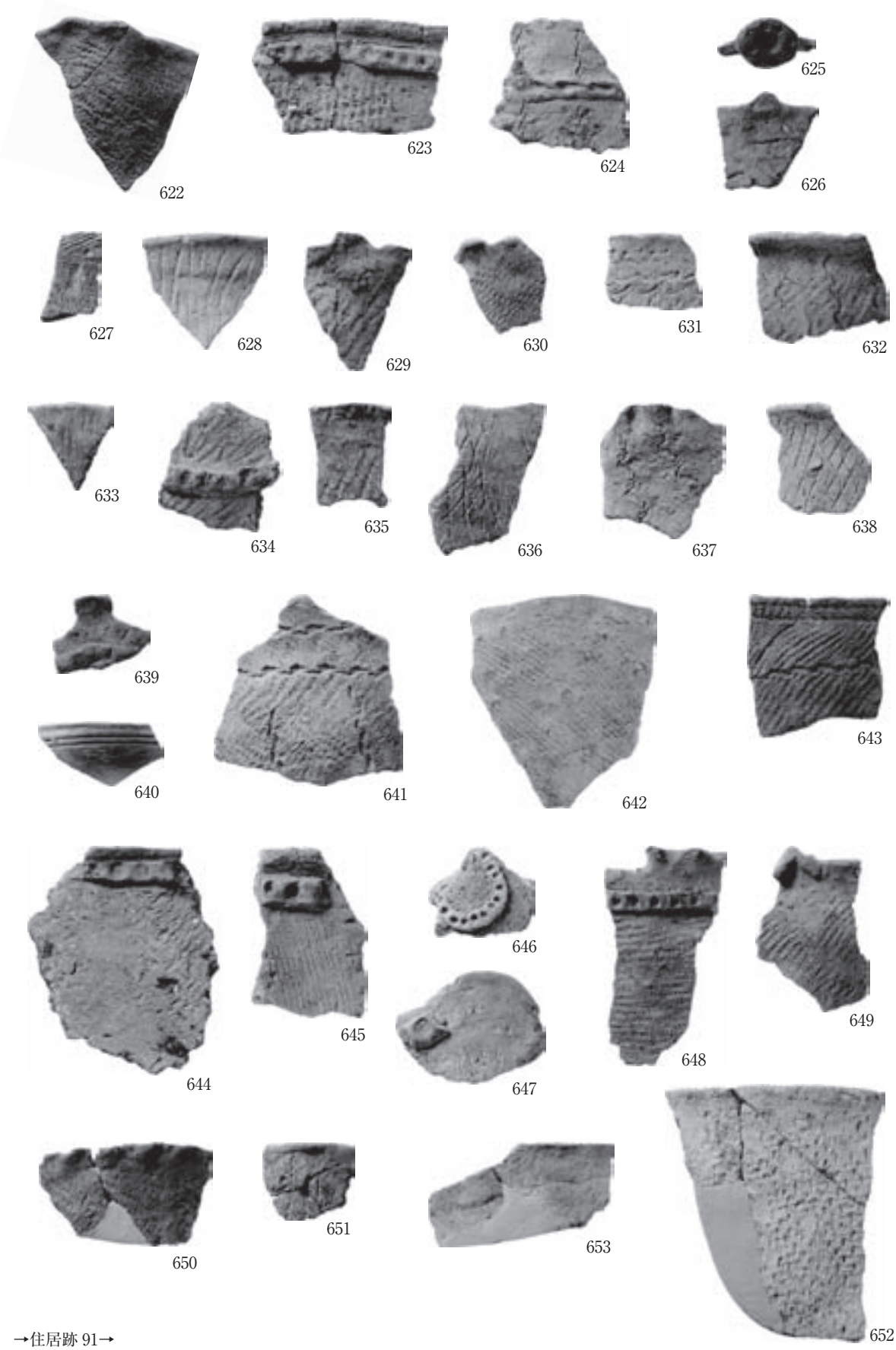
584

住居跡 82→

写真図版 135　遺構内出土土器（27）

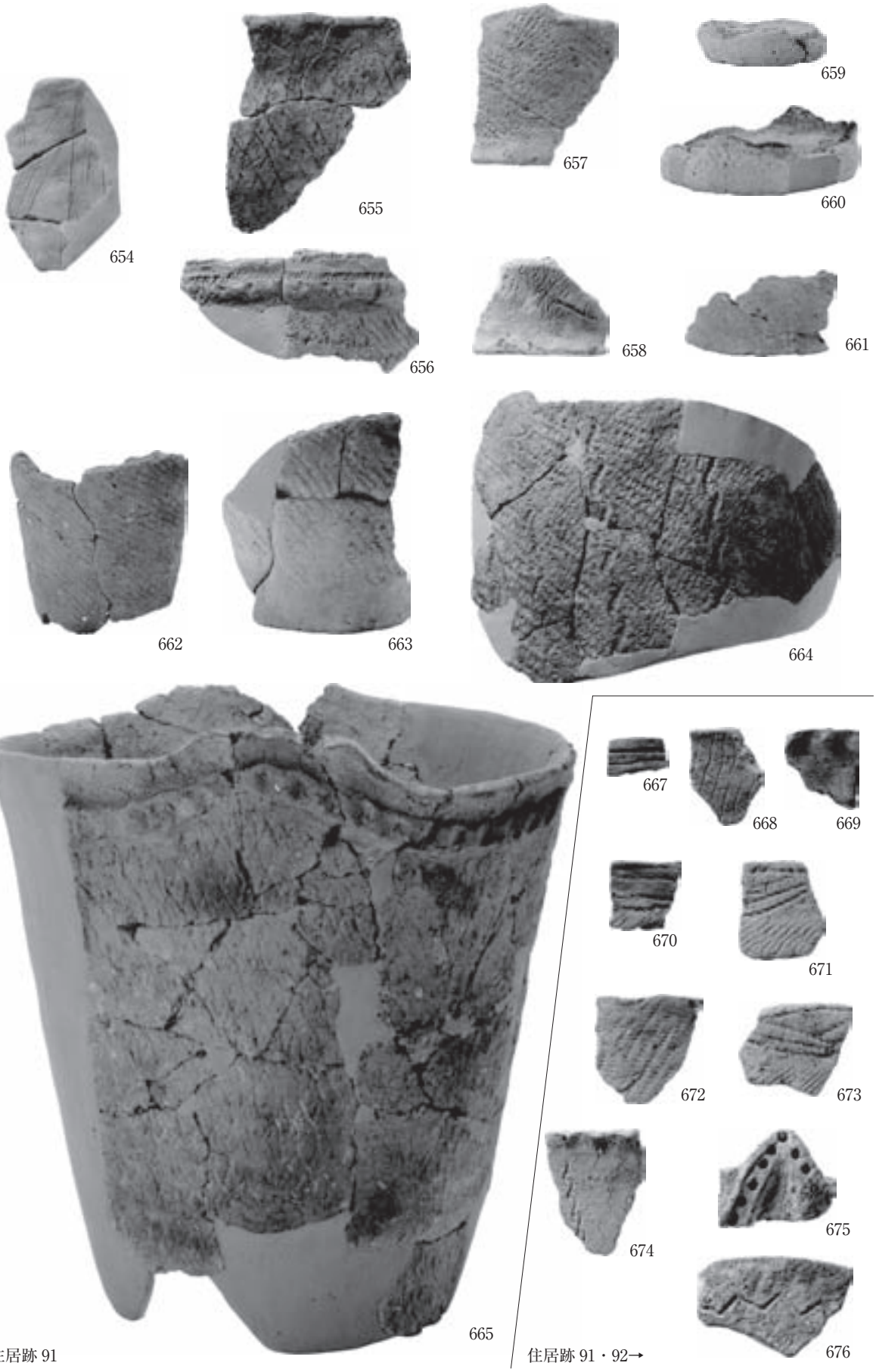


写真図版 136　遺構内出土土器（28）



→住居跡 91→

写真図版 137　遺構内出土土器（29）



写真図版 138　遺構内出土土器（30）

677

678

679

680

681

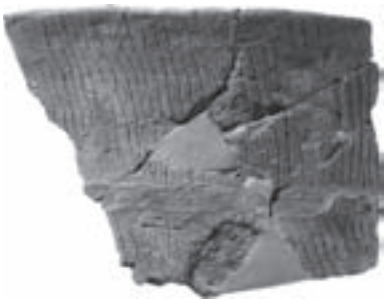
682

682 底

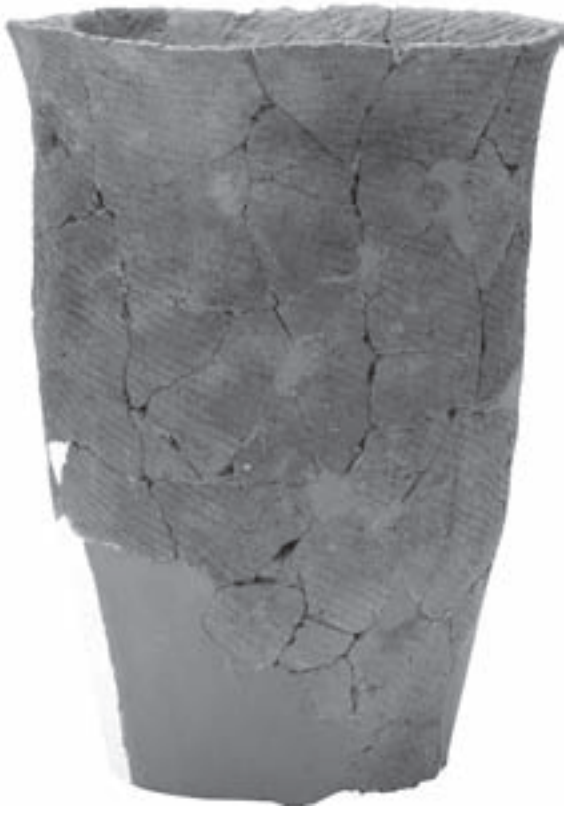
683

684

684 底


685

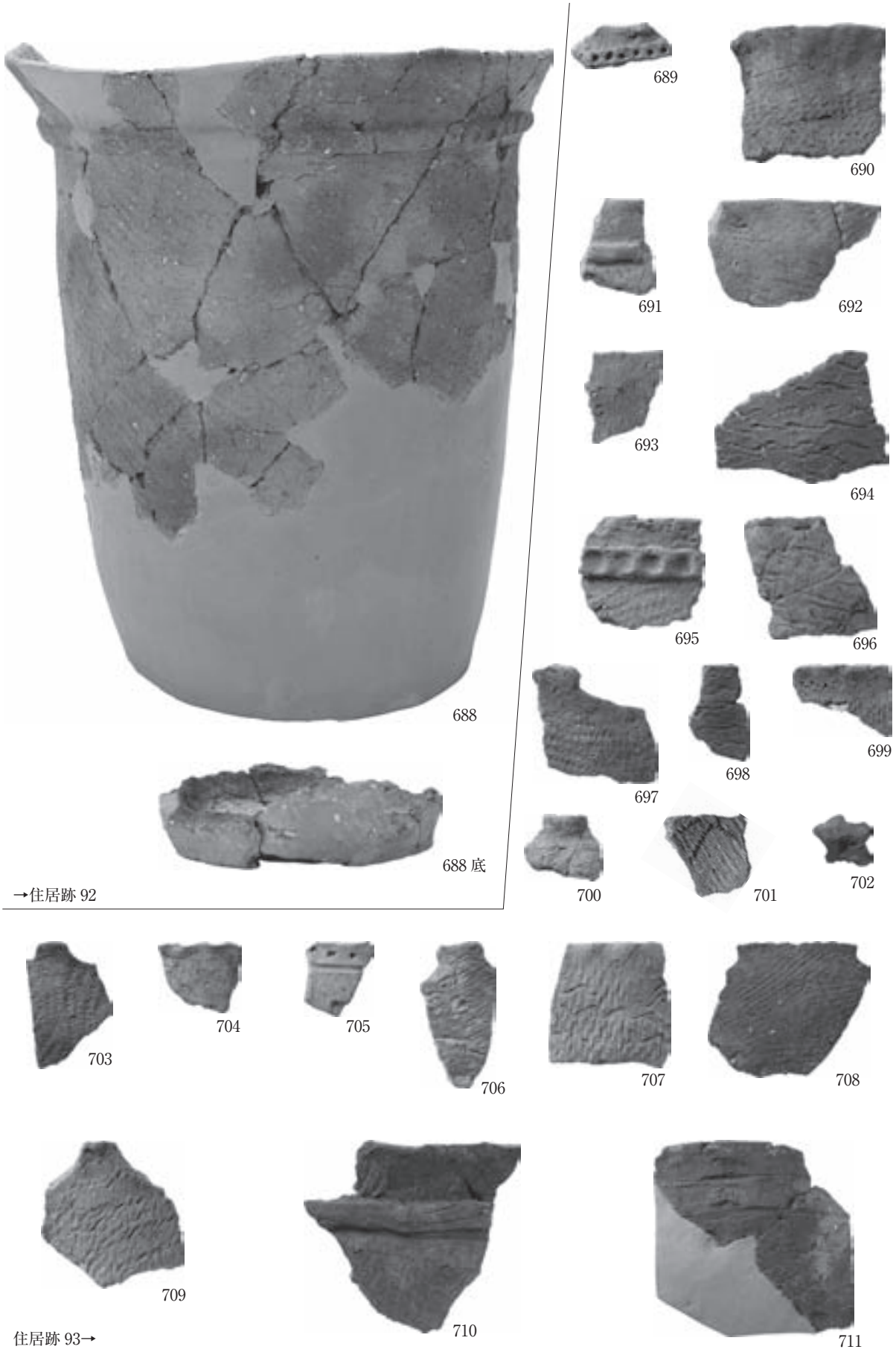
686


687

→住居跡 91・92

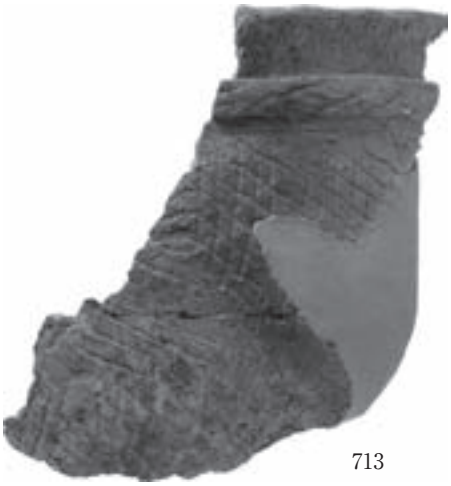
住居跡 92→

写真図版 139　遺構内出土土器（31）



写真図版 140　遺構内出土土器（32）

712



713

714

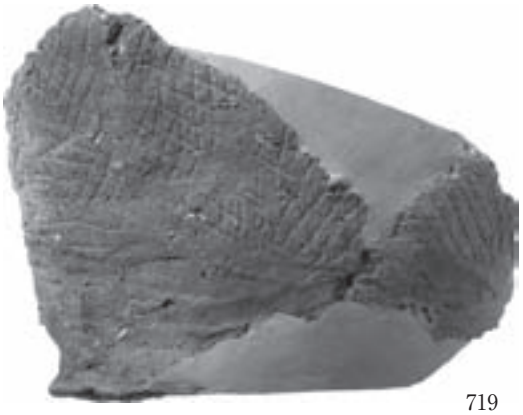
715

→住居跡 93

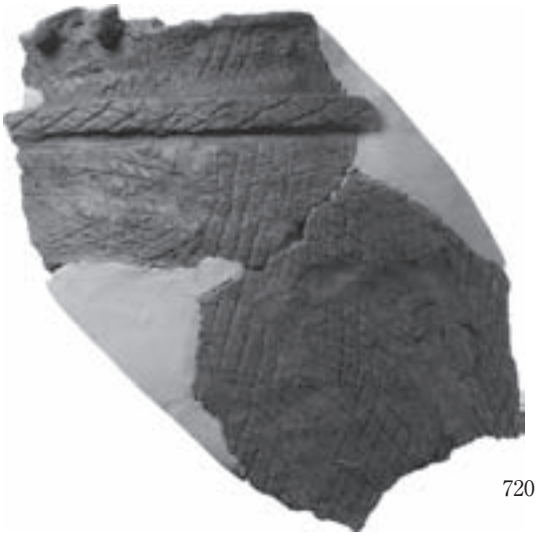
716

717

718



719



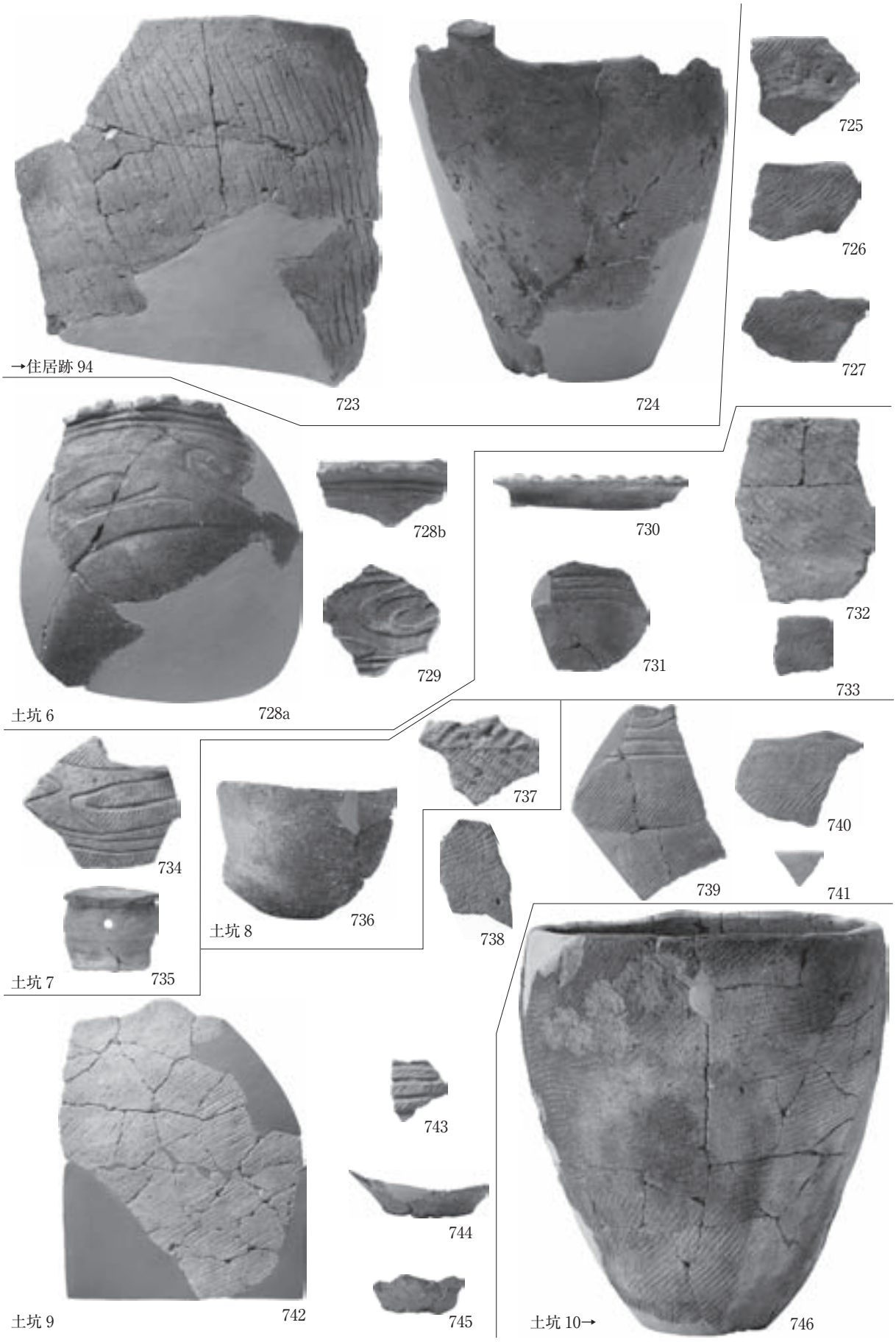
720

721

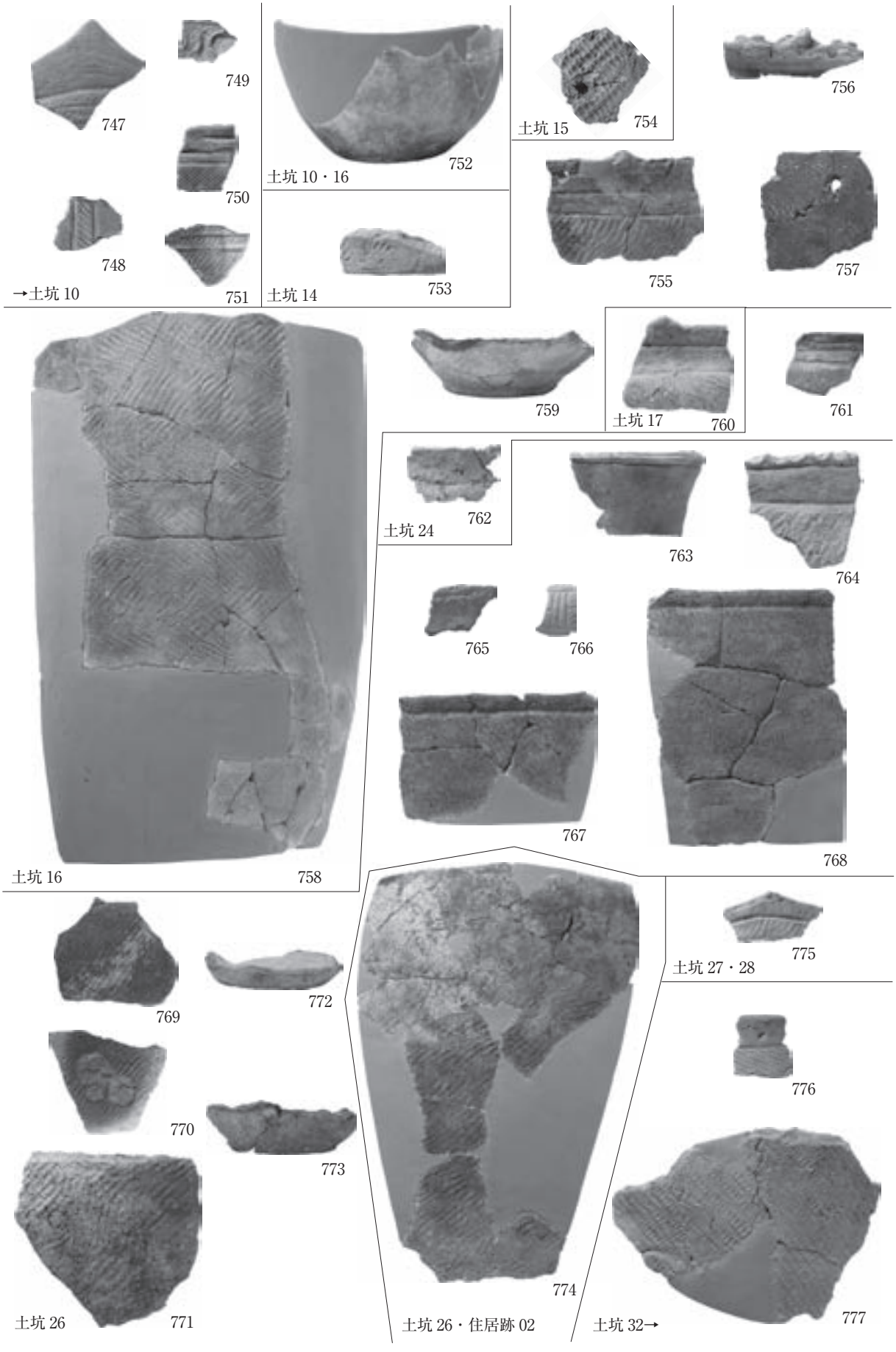
722

住居跡 94→

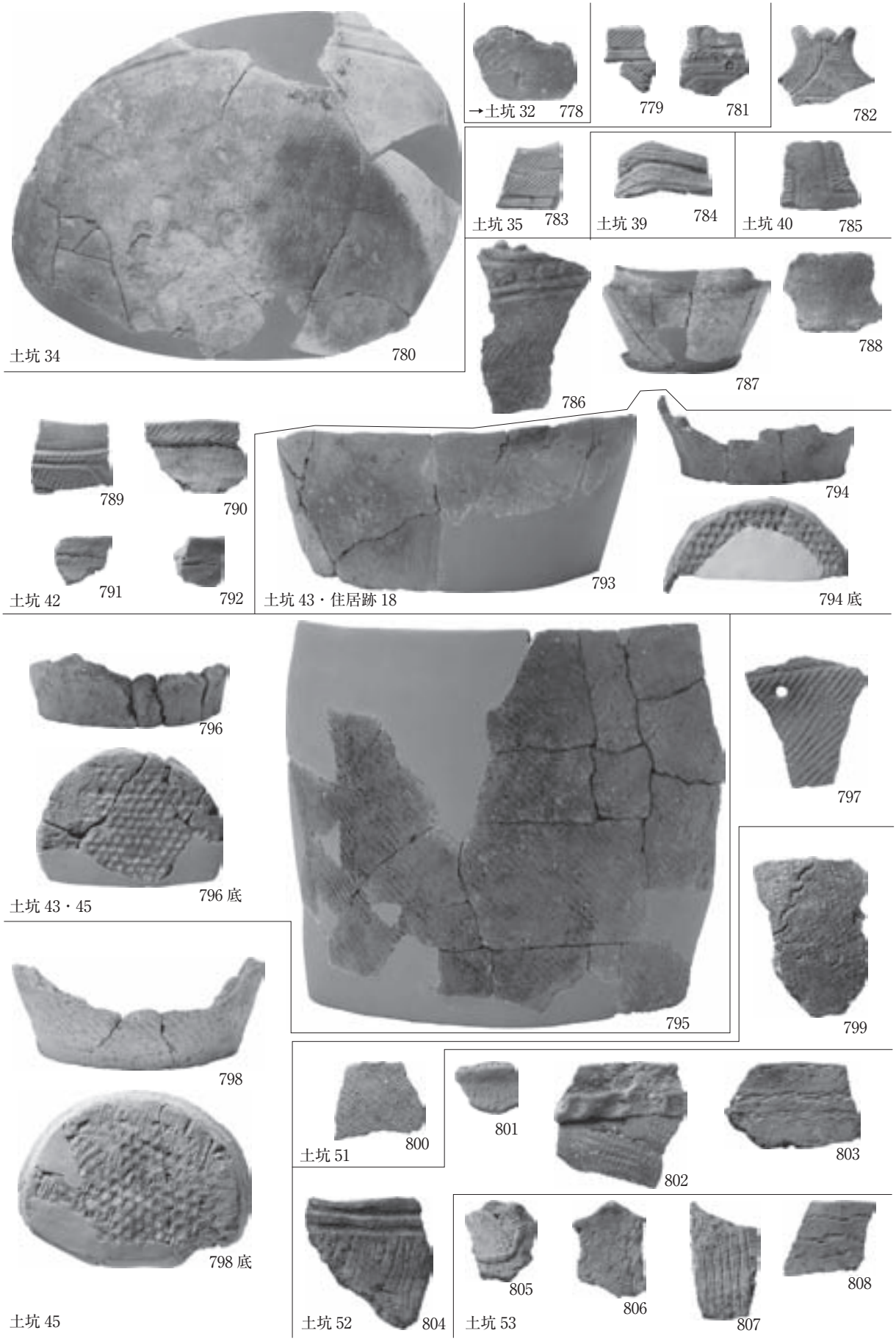
写真図版 141　遺構内出土土器（33）



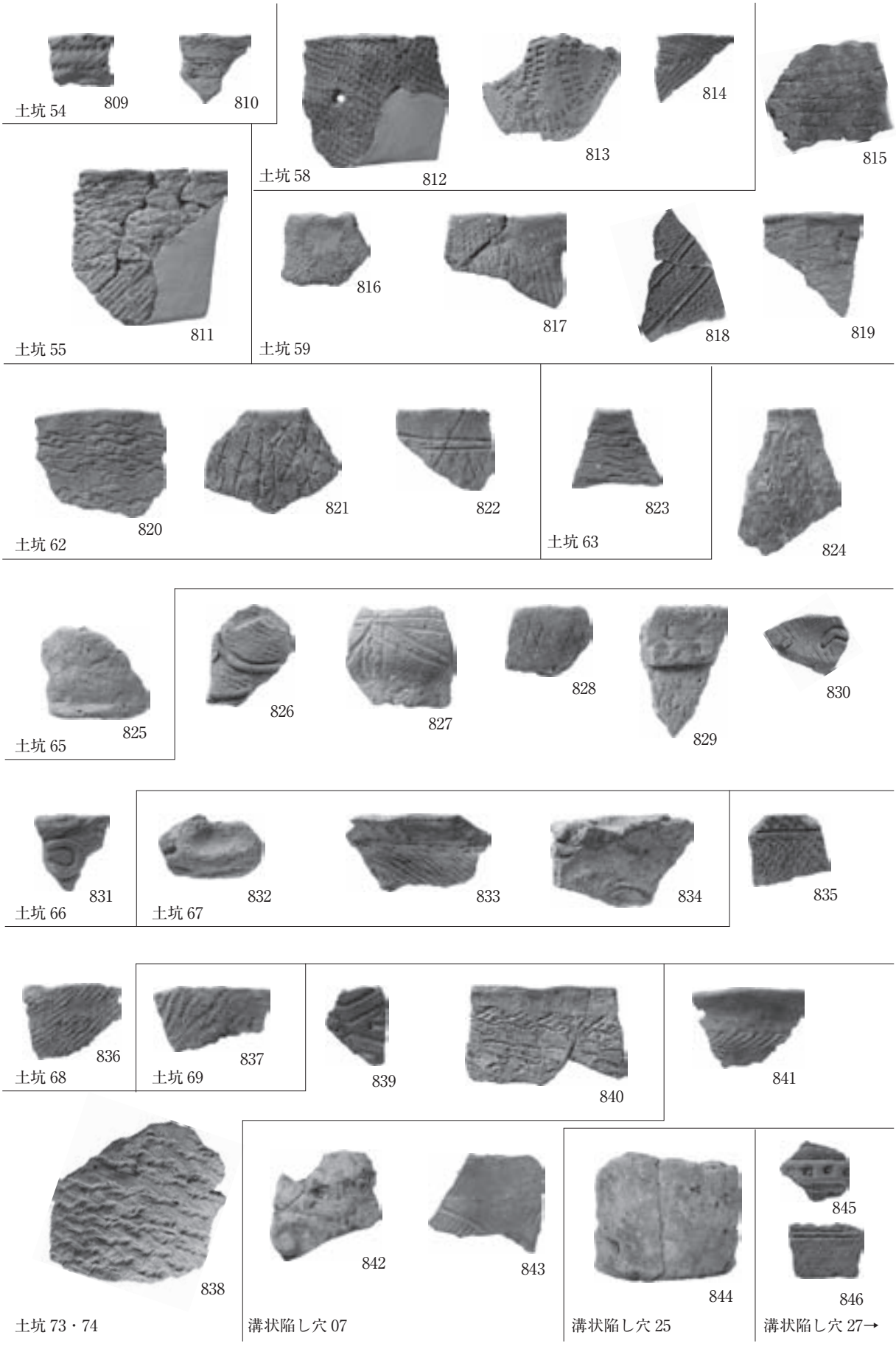
写真図版 142　遺構内出土土器（34）



写真図版 143　遺構内出土土器（35）



写真図版 144　遺構内出土土器（36）



写真図版 145　遺構内出土土器（37）

847

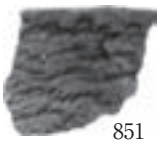
→溝状陥し穴 27

848

溝状陥し穴 28

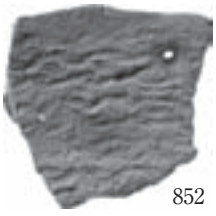
849

850



851

焼土遺構 2



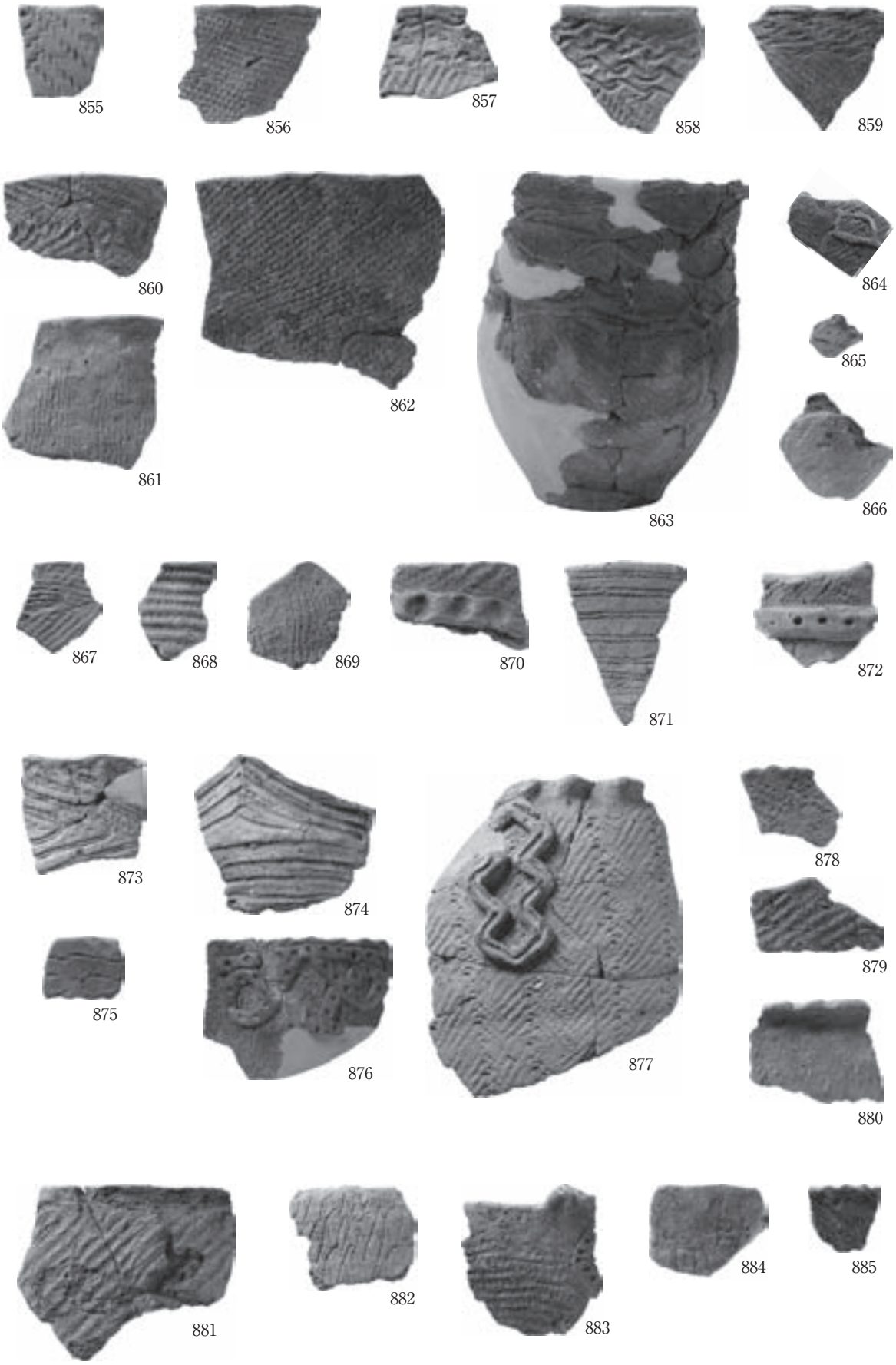
852

853

854

焼土遺構 3

写真図版 146　遺構内出土土器（38）



写真図版 147　遺構外出土土器（1）

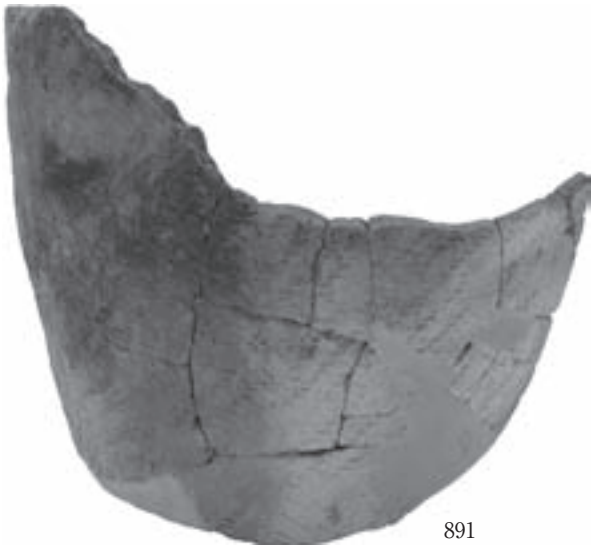
886

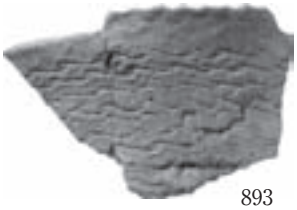
887

888

889

890


891


893

892

894

895

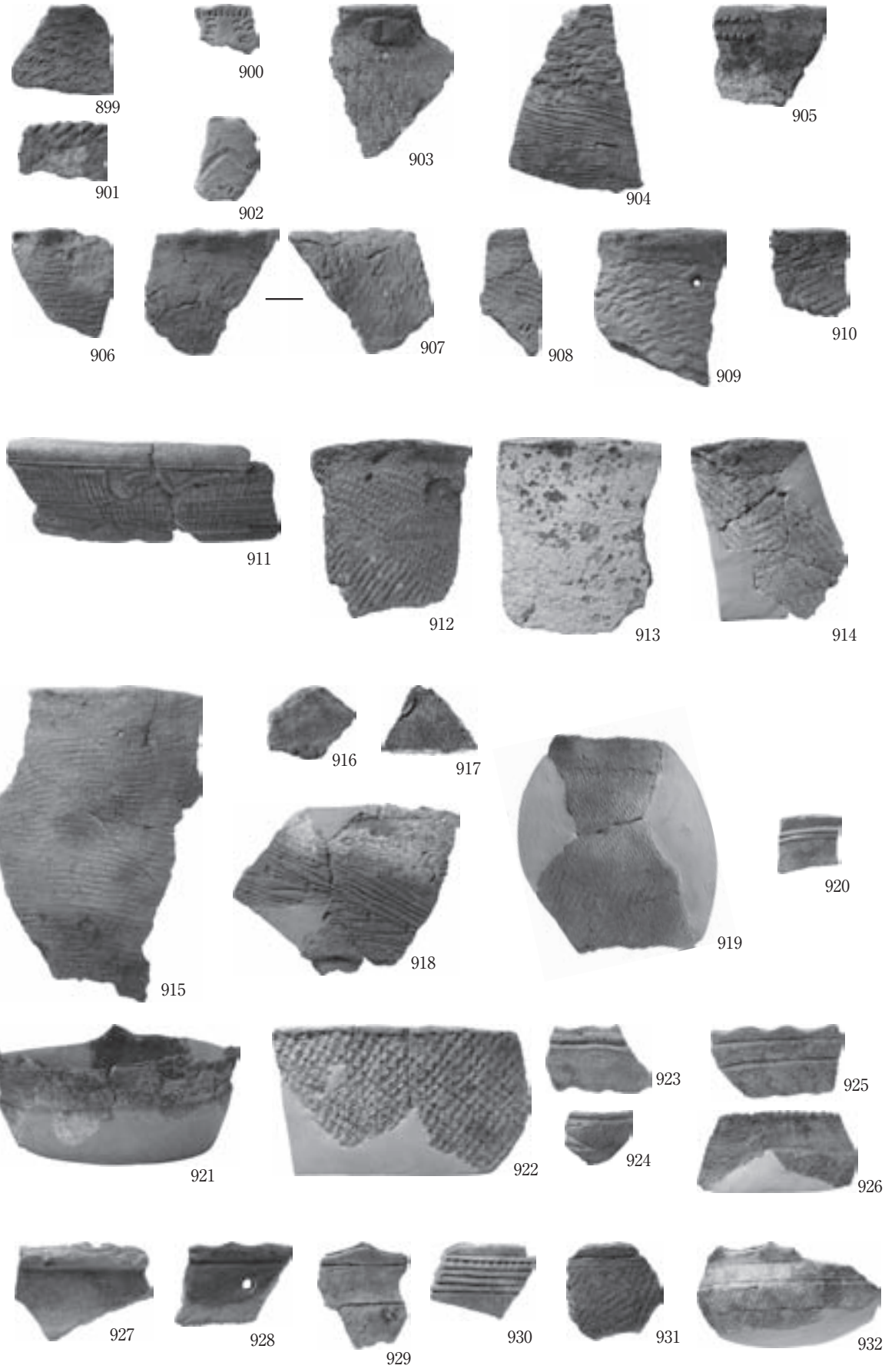
896

897

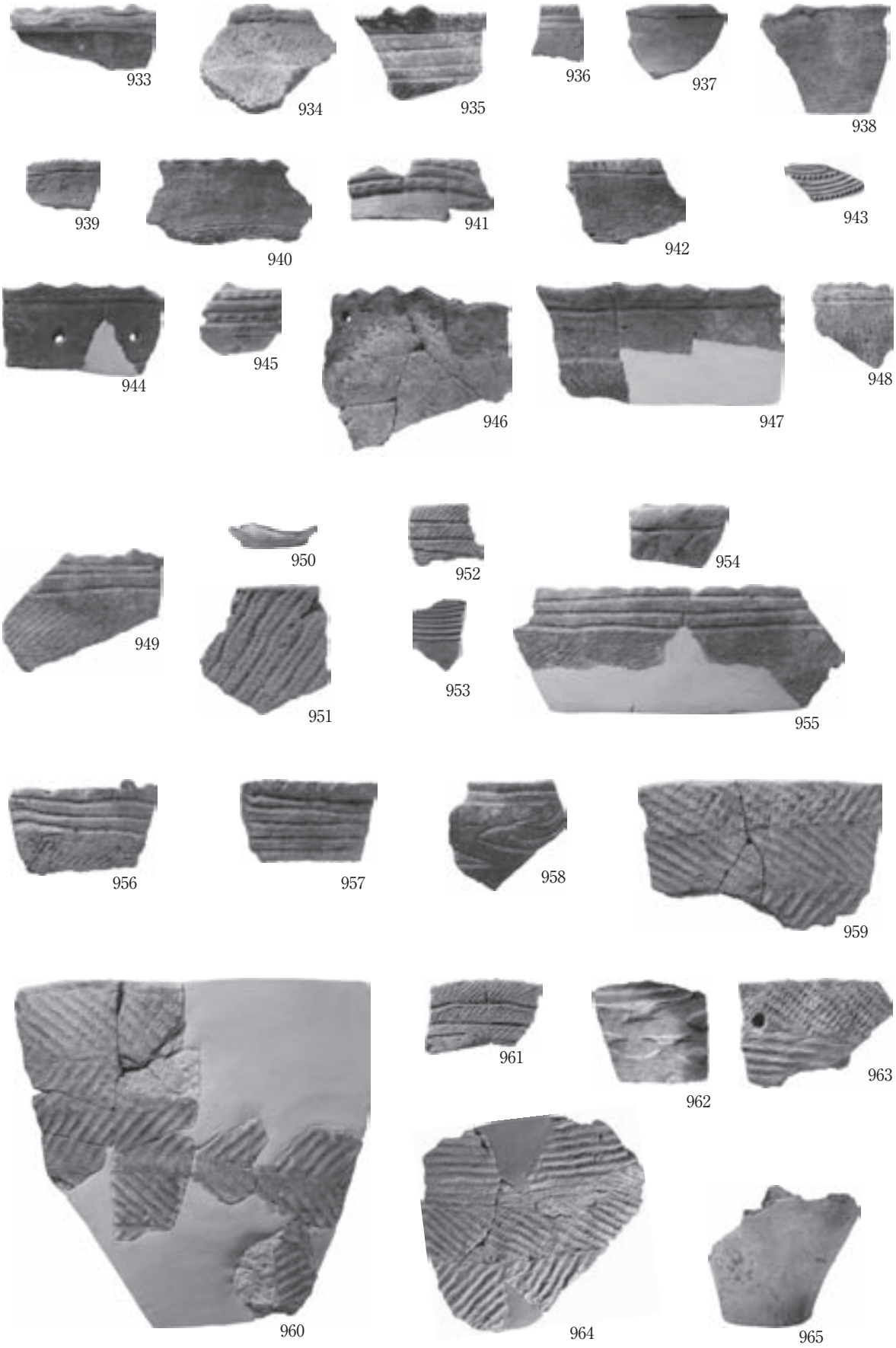
写真図版 148　遺構外出土土器（2）

898

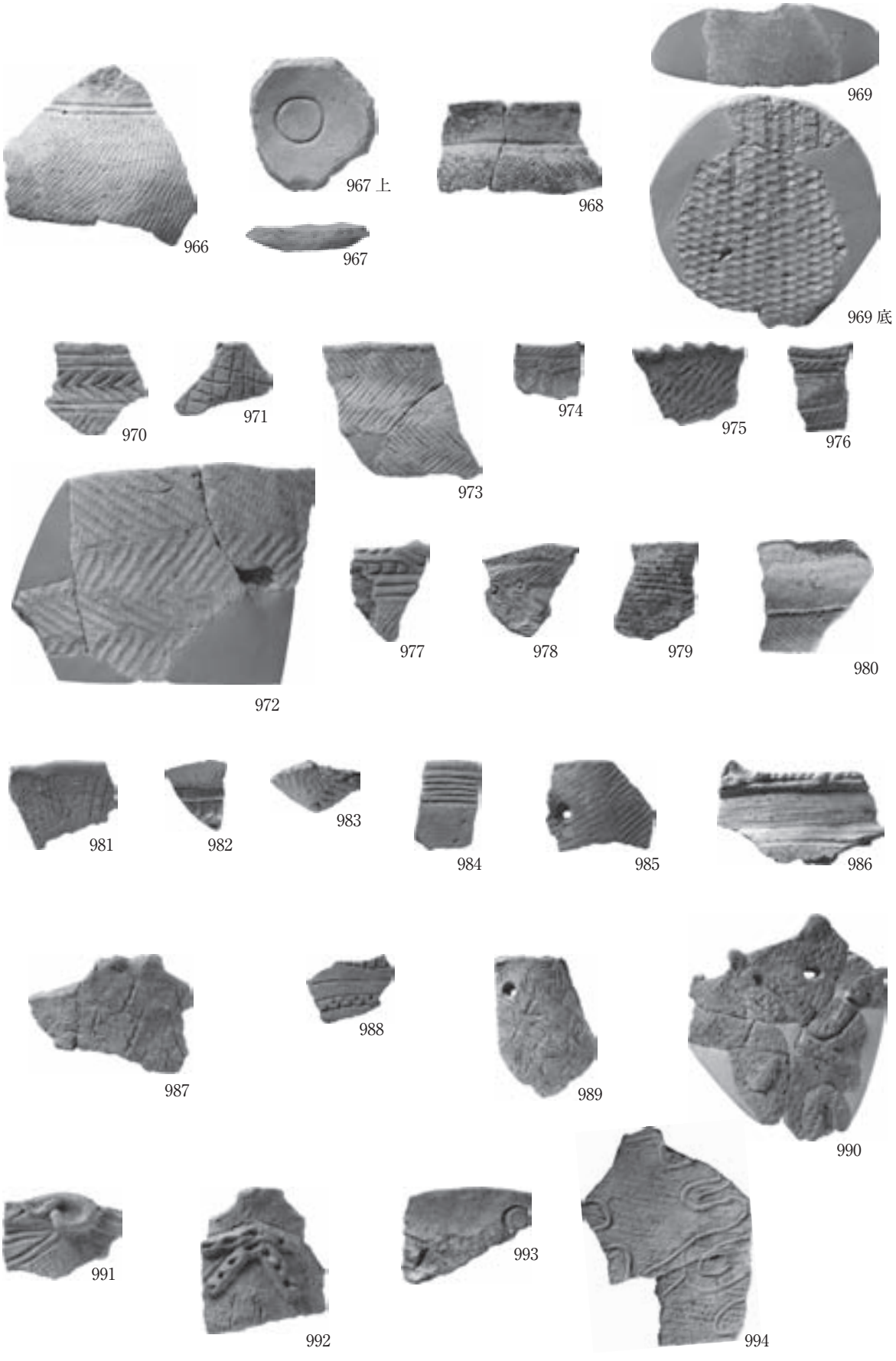
写真図版 149　遺構外出土土器（3）



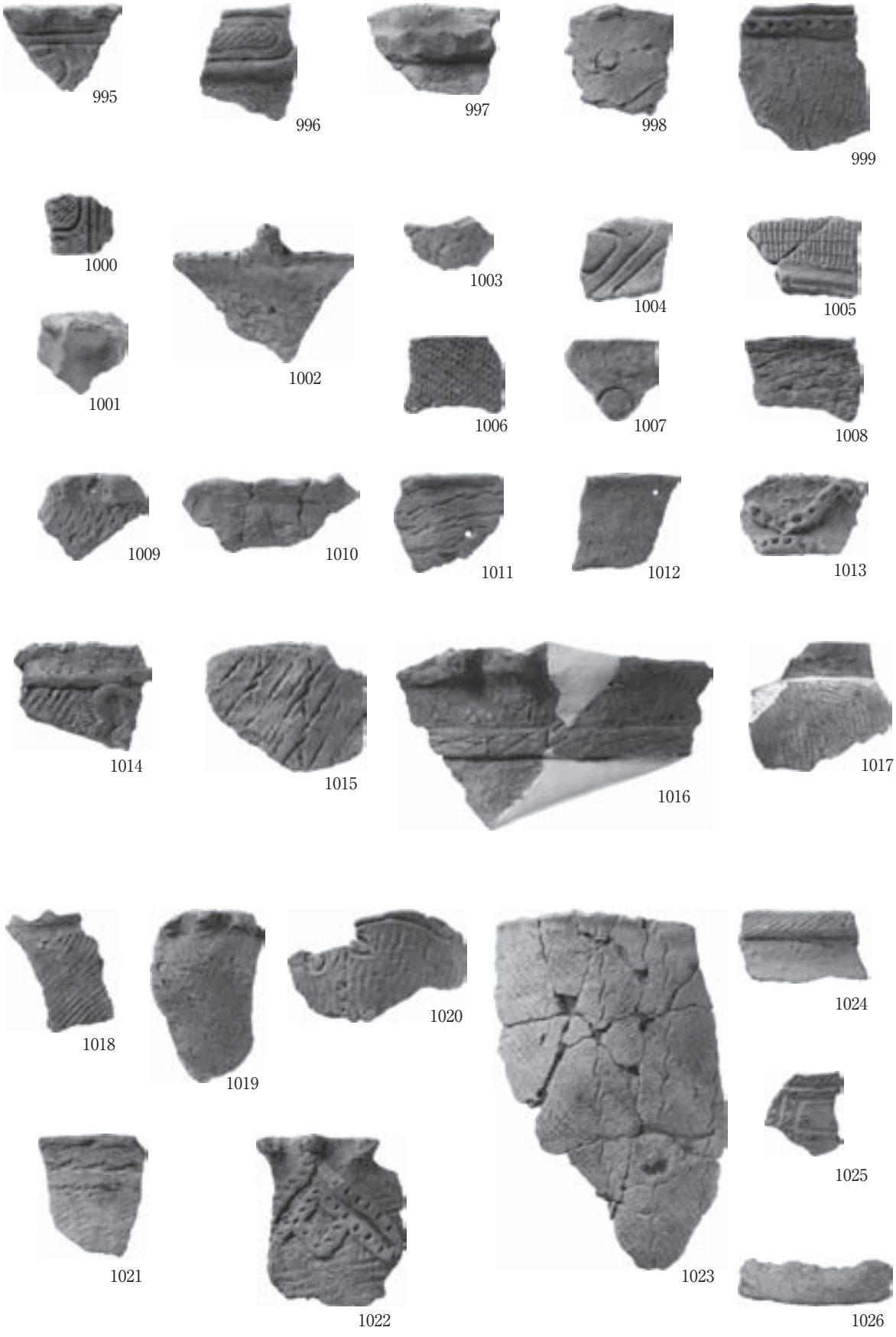
写真図版 150　遺構外出土土器（4）



写真図版 151　遺構外出土土器（5）



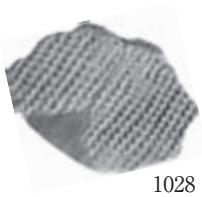
写真図版 152　遺構外出土土器（6）



写真図版 153　遺構外出土土器（7）

1027

1027 底


1028

1029

1030

1031

1032

1033

1034

1035

1036

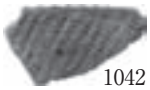
1037

1038

1039

1040

1041

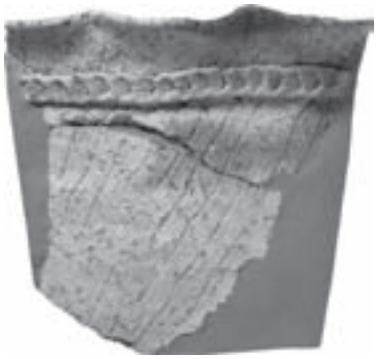

1042

1043

1044

1045

1046


1047

1048

写真図版 154　遺構外出土土器（8）

1049

1050

1051

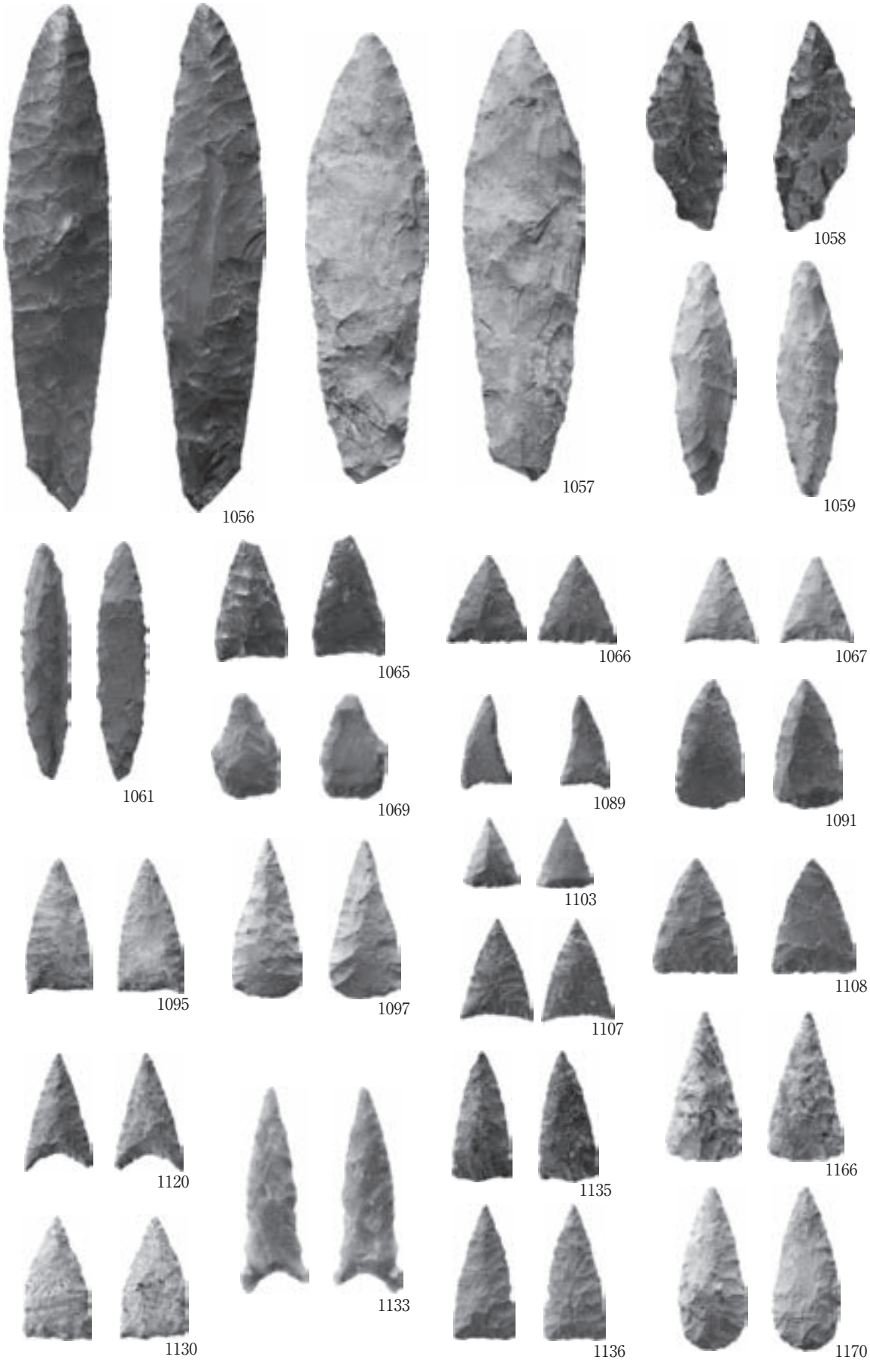
1052

1053

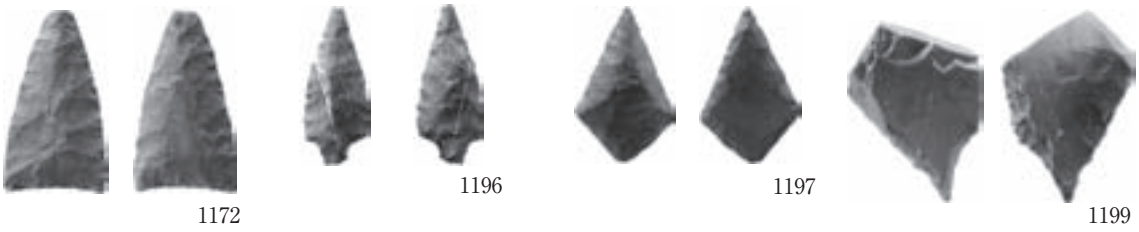
1054

1055

写真図版 155　土製品



写真図版 156　石器・石製品（1）


1172

1196

1197

1199

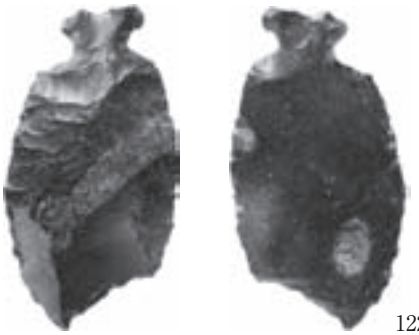
1200

1204

1202

1216

1219


1221

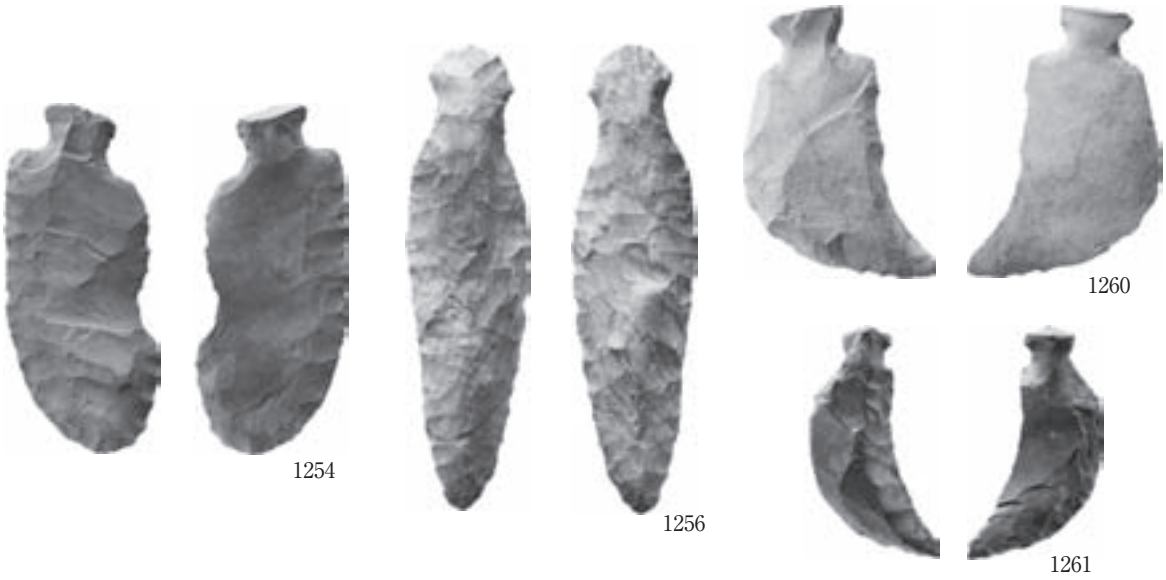
1225

1232

1246

1241

写真図版 157　石器・石製品（2）

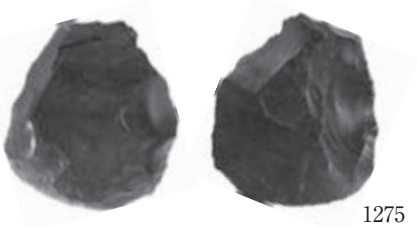

1254

1256

1260

1261

1262

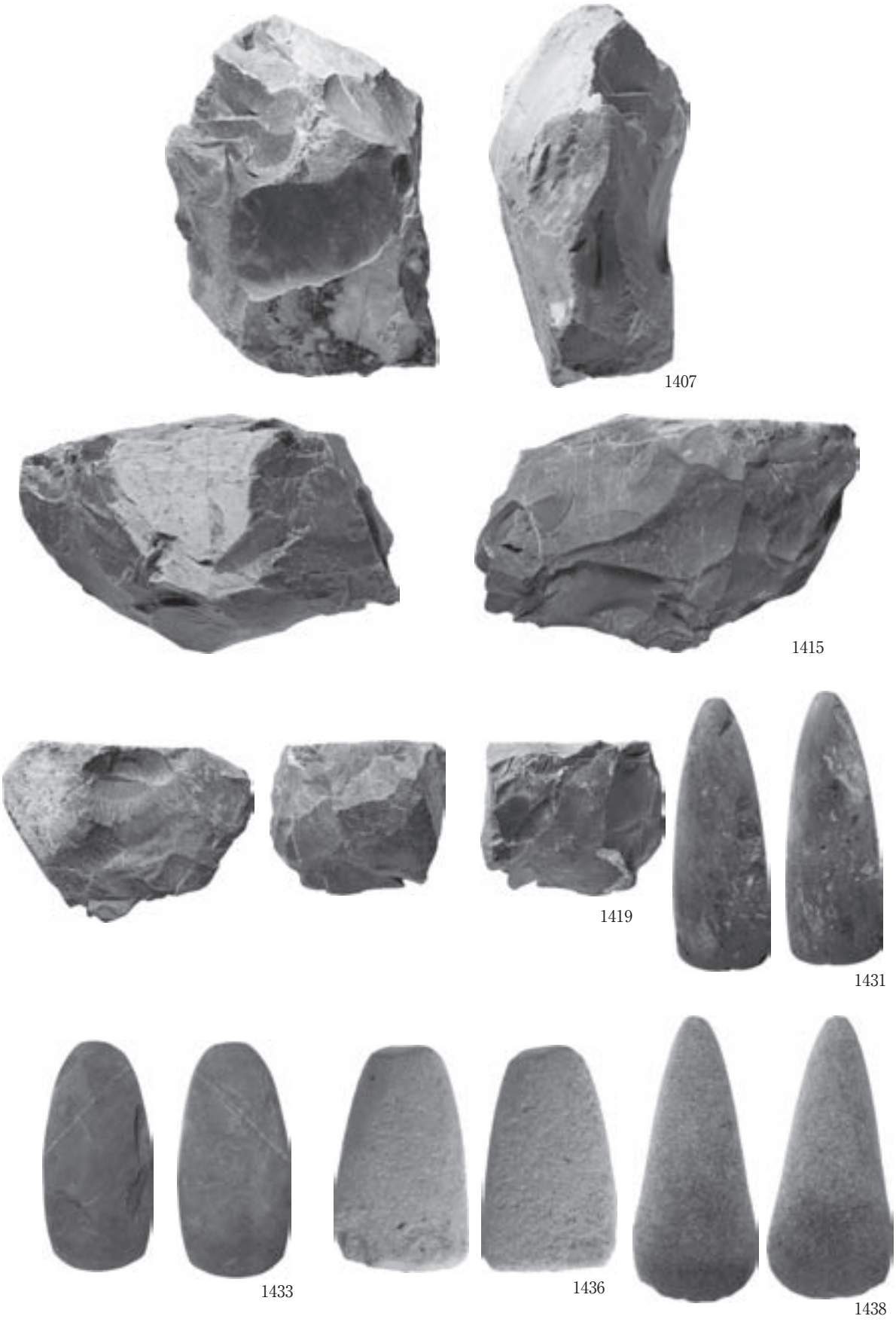

1275

1281

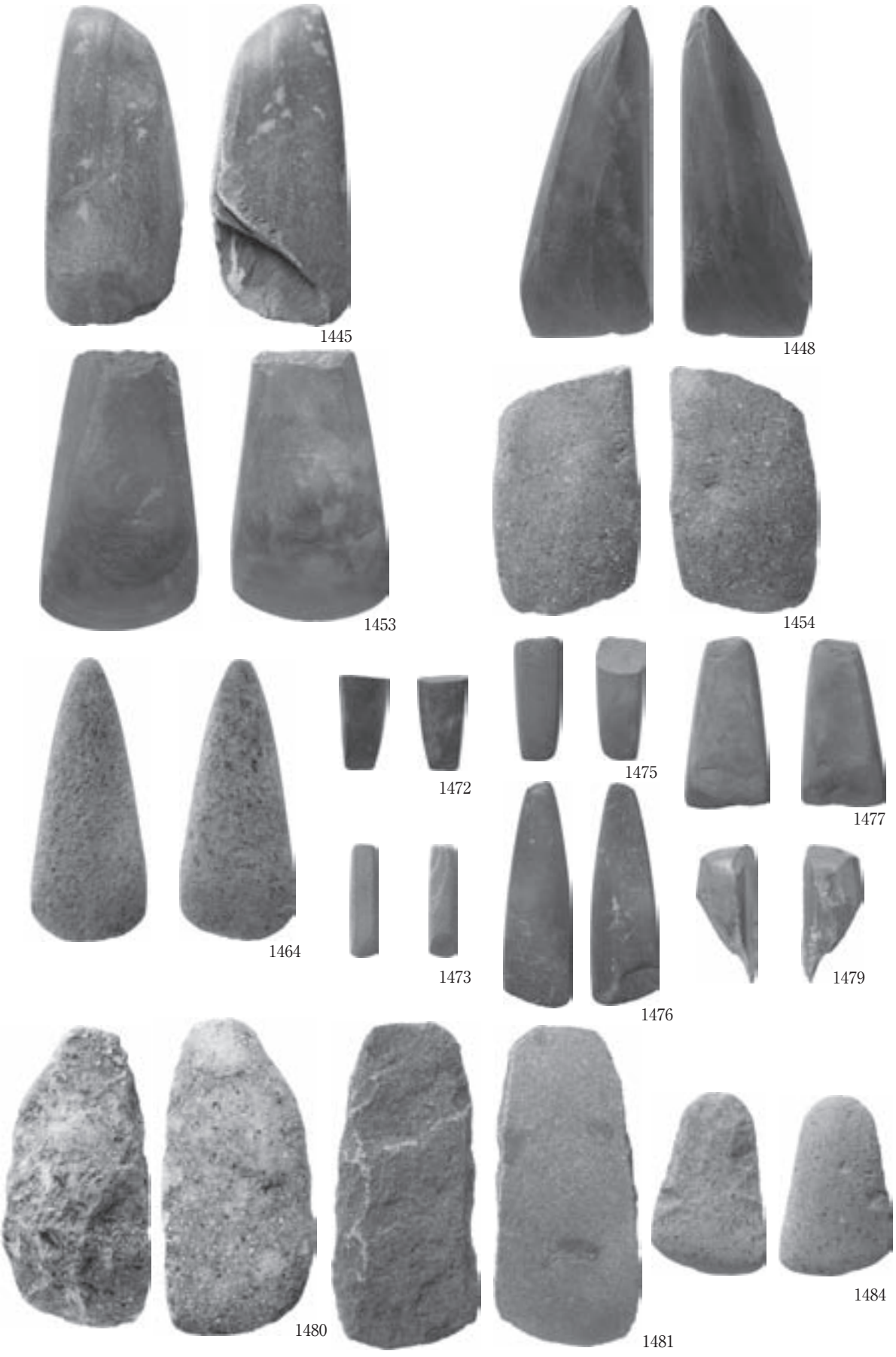
1288

1285

写真図版 158　石器・石製品（3）



写真図版 159　石器・石製品（4）



写真図版 160　石器・石製品（5）

写真図版 161　石器・石製品（6）

1653

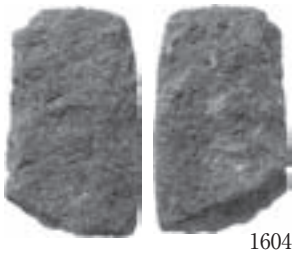
1656

1657

1600

1601

1603



1604

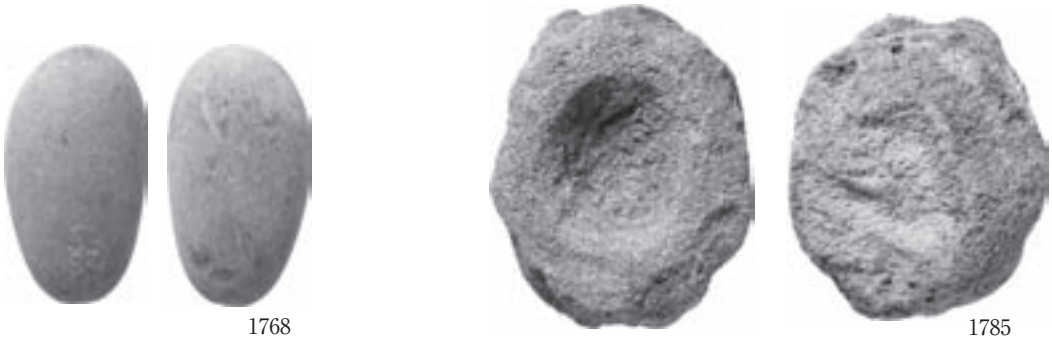
1644

1650

1652

1661

写真図版 162　石器・石製品（7）



写真図版 163　石器・石製品（8）

1787

1789

1792

1793

1794

1796

1819

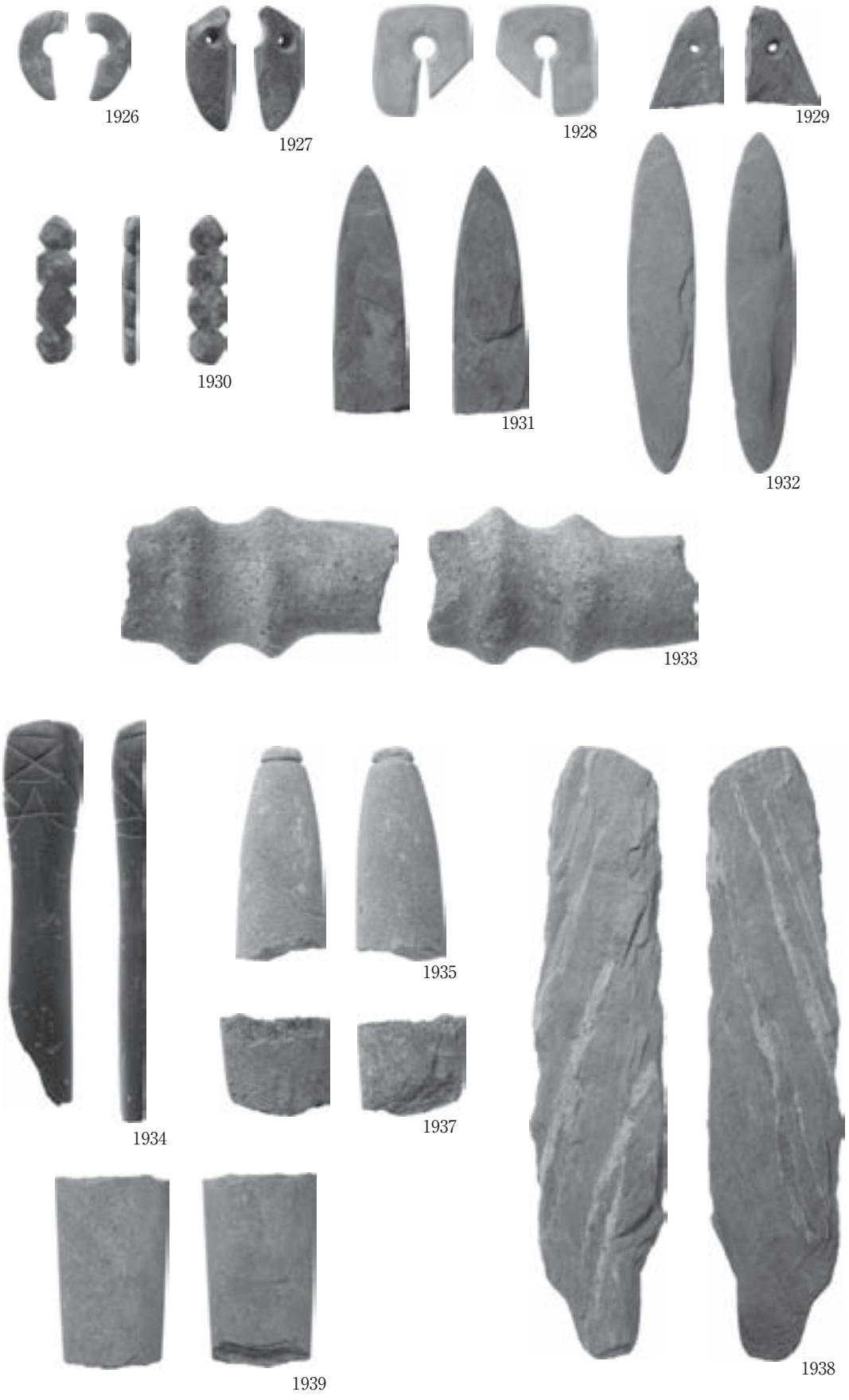
1834

1865

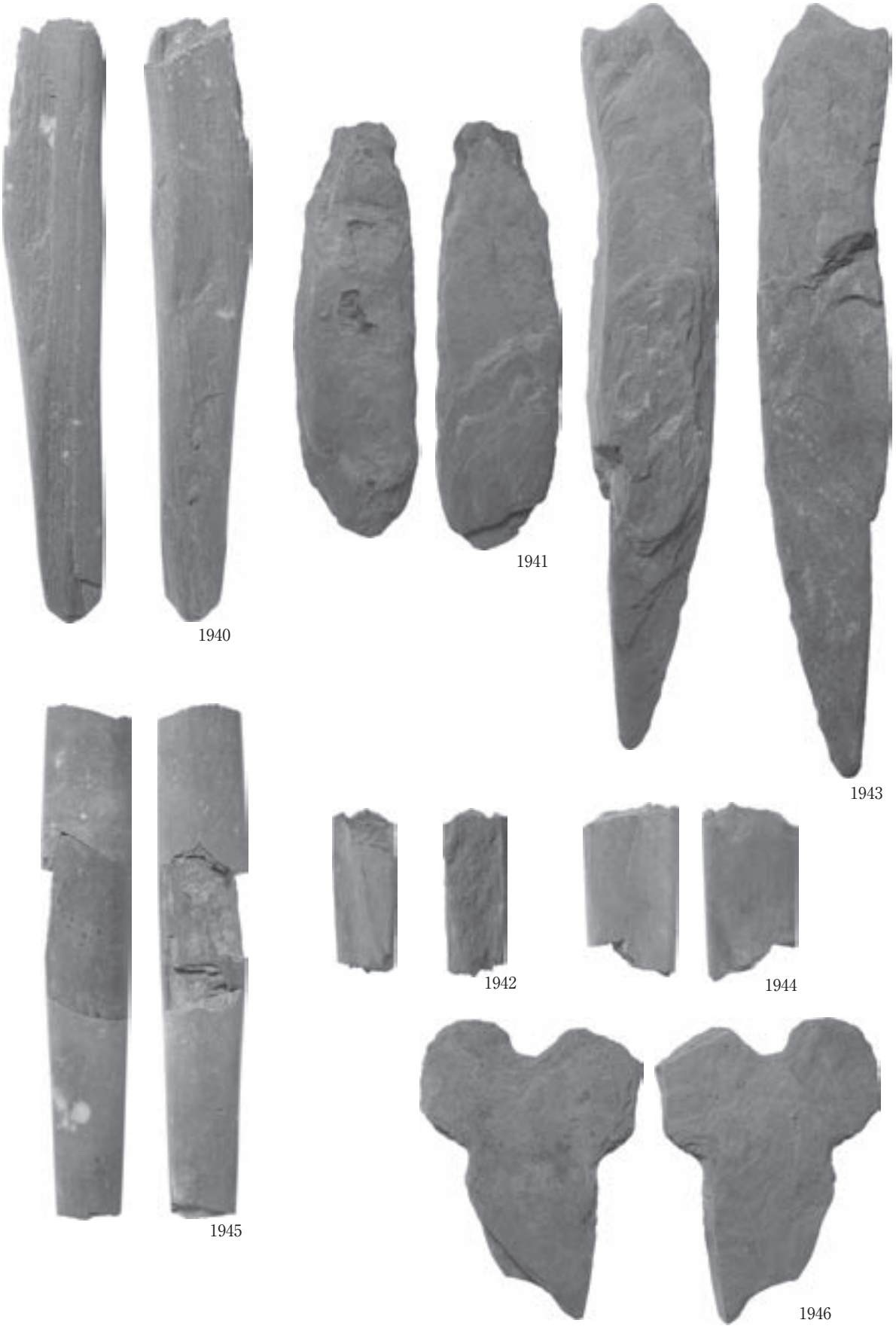
1873

写真図版 164　石器・石製品（9）

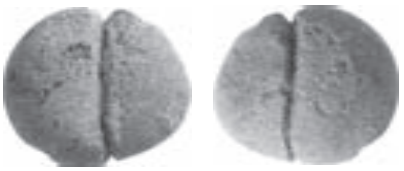
写真図版 165　石器・石製品（10）



写真図版 166　石器・石製品（11）



写真図版 167　石器・石製品（12）



1948

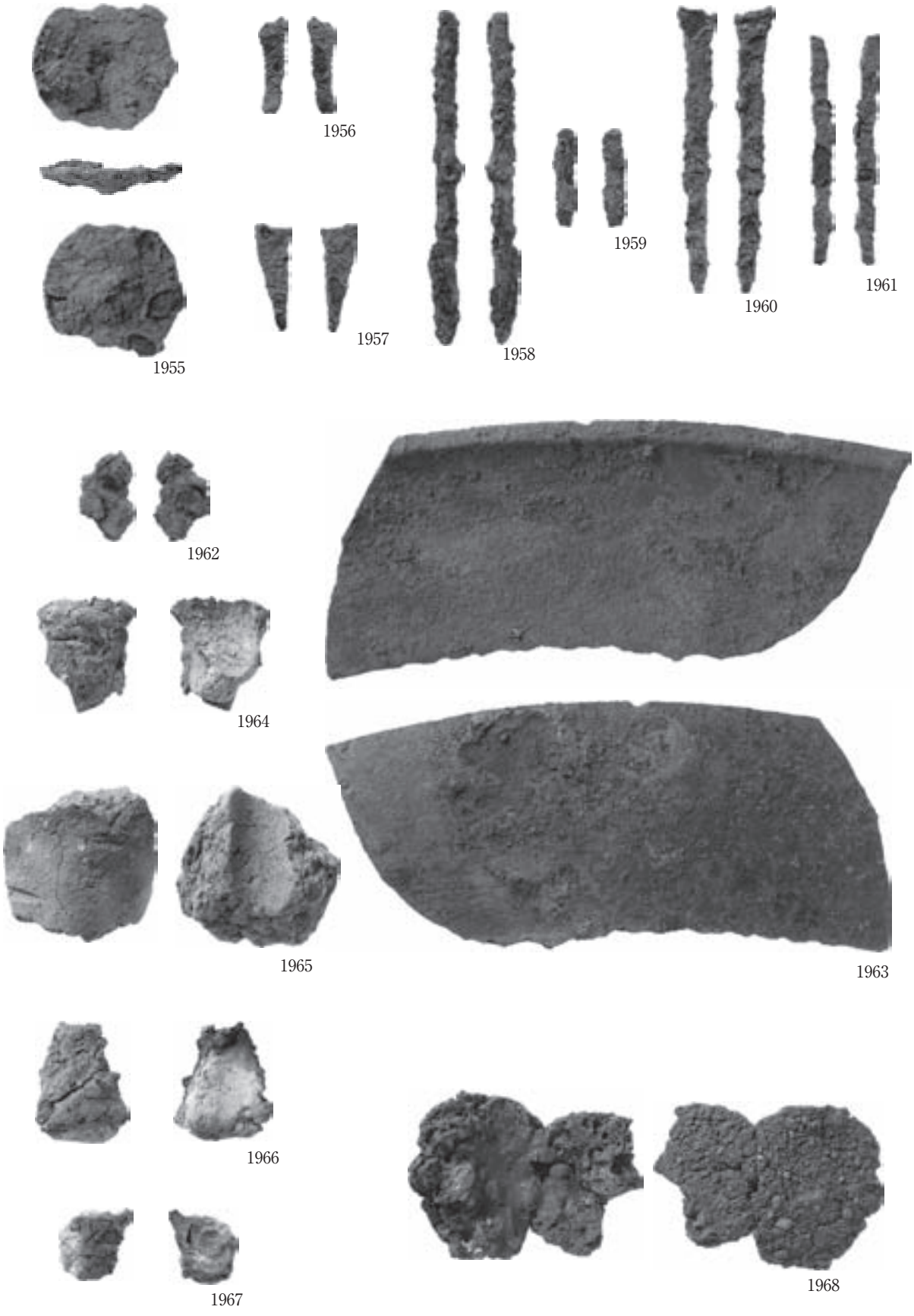
1951

1952

1950

1953

1954



写真図版 169　鉄関連遺物（1）

1969

1970

1971

写真図版 170　鉄関連遺物（2）

報 告 書 抄 録

ふりがな	のばⅠいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	野場Ⅰ遺跡発掘調査報告書
副書名	災害公営住宅整備事業及び漁業集落防災機能強化事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第635集
編著者名	村上　拓・小林弘卓・佐藤あゆみ・森　裕樹・高橋麻依子
編集機関	公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL（019）638-9001
発行年月日	2015年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
野場Ⅰ遺跡	岩手県下閉伊郡 田野畑村羅賀 193-1	03484	KG22-0349	39度 93分 77秒	141度 90分 81秒	2012.08.01 ～ 2012.12.14	18,192㎡	災害公営住宅整備事業 及び 漁業集落防災機能強化事業
						2013.04.04 ～ 2013.07.12	6,351㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野場Ⅰ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　89棟 土坑　74基 炉跡（焼土）　18基 溝状陥し穴　29基	土器（前期～晩期）、土偶、耳飾、尖頭器、石鏃、石匙、石錐、石斧、石皿、敲磨器類、異形石器ほか	東日本大震災からの復興事業に係る発掘調査。被災住民の集団高台移転先「拓洋台団地」の造成事業地が対象。 縄文時代前期及び晩期の集落を確認した。弥生時代後期住居跡は単独で検出。平安時代住居跡はいずれも屋内炉を伴い近接して分布。鍛冶工房の可能性高い。
		弥生時代	竪穴住居跡　1棟	弥生時代後期土器	
		平安時代	竪穴住居跡　5棟	土師器甕・羽口・鉄製紡錘車・刀子・鉄釘・椀形滓ほか	

要約　二カ年に渡る調査で、縄文時代前期には住居群が東端部斜面に、同後期には住居跡が中央部東端～東端部斜面下部に、同晩期には住居群が中央部～北部斜面下部に、後期～晩期の貯蔵穴群が中央部東端に、それぞれ分布することが確認された。弥生時代後期の住居跡は東部斜面に単独で存在し、平安時代（10世紀）には鍛冶工房の可能性をもつ住居が東端部斜面下部に近接して構築されていた。

出土土器の主体は縄文時代前期及び後晩期で、出土区域・出土量ともに各期遺構の分布状況と相関したあり方を示す。弥生時代・平安時代の遺物はそれぞれ該期住居跡内及び付近から出土した。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 635 集

野場Ⅰ遺跡発掘調査報告書

災害公営住宅整備事業及び漁業集落防災機能強化事業関連遺跡発掘調査

印　刷　平成 27 年 3 月 13 日
発　行　平成 27 年 3 月 20 日

編　集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒 020-0853　岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185
電話　019(638)9001

発　行　岩手県田野畑村
〒 028-8407　岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑 143-1
電話　0194(34)2111
（公財）岩手県文化振興事業団
〒 020-0023　岩手県盛岡市内丸 13 番地 1 号
電話　019(654)2235

印　刷　山口北州印刷株式会社
〒 020-0184　岩手県盛岡市青山 4 丁目 10 番 5 号
電話　019(641)0585

©（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2015